

基本計画書（共同学科等）

事項	記入欄																				
計画の区分	学部の設置				学部の学科の設置				/												
構成大学の設置者	国立大学法人 富山大学				国立大学法人 金沢大学																
構成大学の名称	富山大学 (University of Toyama)				金沢大学 (Kanazawa University)																
構成大学の本部の位置	富山県富山市五福3190				石川県金沢市角間町																
共同学科等の名称	教育学部共同教員養成課程 (Joint Institute of Teacher Education, School of Education)				人間社会学域学校教育学類共同教員養成課程 (Joint Institute of Teacher Education, School of Teacher Education, College of Human and Social Sciences)																
共同学科等の目的	教育学部共同教員養成課程では、教員としての豊かな人間性と社会性、幅広い教養と知性に加え、教科等に関する専門知識や技能、それらを教授する基礎的能力、児童生徒理解に関する知識、学校現場における現代的課題に対応した教育活動を構想する能力を重視し、子どもへの教育的愛情と教員としての使命感、責任感、倫理観を身に付けるための教育を行い、多様化・複雑化する教育現場の諸課題の解決に向かって行動する学校教員を組織的及び計画的に養成することを目的とする。																				
共同学科等の概要	入学定員	編入学定員	収容定員	/	入学定員	編入学定員	収容定員	/	修業年限	入学定員 (合計)	編入学定員 (合計)	収容定員 (合計)									
	85	-	340		85	-	340		4	170	-	680									
学位	学士(教育学) 【Bachelor of Education】																				
開設時期及び開設年次	令和4年4月 第1年次																				
教育課程 (各構成大学が開設する授業科目数)	講義	演習	実験・演習	計	講義	演習	実験・演習	計	講義 (合計)	演習 (合計)	実験・演習 (合計)	計									
	349科目	158科目	56科目	563科目	372科目	256科目	108科目	736科目	637科目	359科目	131科目	1127科目									
教員組織の概要	専任教員等				兼任 教員等	専任教員等				兼任 教員等	専任教員等 (合計)				兼任 教員等 (合計)						
	教授	准教授	講師	助教		計	助手	教授	准教授		講師	助教	計	助手		教授	准教授	講師	助教	計	助手
	13人 (19)	18人 (18)	11人 (11)	0人 (0)	42人 (48)	0人 (0)	94人 (94)	26人 (26)	22人 (22)	1人 (1)	0人 (0)	49人 (49)	0人 (0)	108人 (108)	39人 (45)	40人 (40)	12人 (12)	0人 (0)	91人 (97)	0人 (0)	202人 (202)
	研究指導教員等				その 他の 教員	研究指導教員等				その 他の 教員	研究指導教員等 (合計)				その 他の 教員 (合計)						
教授	准教授	講師	助教	計		教授	准教授	講師	助教		計	教授	准教授	講師		助教	計				
-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	-人 (-)	
教員以外の 職員の概要	職	専任	兼任	任	計	専任	兼任	任	計	/											
	事務職員	379人 (379)		63人 (63)	442人 (442)	431人 (431)		469人 (469)	900人 (900)												
	技術職員	955人 (955)		34人 (34)	989人 (989)	1,077人 (1,077)		165人 (165)	1,242人 (1,242)												
	図書館専門職員	18人 (18)		0人 (0)	18人 (18)	10人 (10)		2人 (2)	12人 (12)												
	その他の職員	22人 (22)		15人 (15)	37人 (37)	4人 (4)		543人 (543)	547人 (547)												
	計	1,374人 (1,374)		112人 (112)	1,486人 (1,486)	1,522人 (1,522)		1,179人 (1,179)	2,701人 (2,701)												

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	専用(合計)	共用(合計)	共用する他の学校 等の専用(合計)	計
	校舎敷地	518,141㎡	0㎡	0㎡	518,141㎡	730,408㎡	0㎡	0㎡	730,408㎡	1,248,549㎡	0㎡	0㎡	1,248,549㎡
	運動場用地	105,572㎡	0㎡	0㎡	105,572㎡	115,740㎡	0㎡	0㎡	115,740㎡	221,312㎡	0㎡	0㎡	221,312㎡
	小 計	623,713㎡	0㎡	0㎡	623,713㎡	846,148㎡	0㎡	0㎡	846,148㎡	1,469,861㎡	0㎡	0㎡	1,469,861㎡
	そ の 他	89,909㎡	0㎡	0㎡	89,909㎡	1,717,530㎡	0㎡	0㎡	1,717,530㎡	1,807,439㎡	0㎡	0㎡	1,807,439㎡
合 計	713,622㎡	0㎡	0㎡	713,622㎡	2,563,678㎡	0㎡	0㎡	2,563,678㎡	3,277,300㎡	0㎡	0㎡	3,277,300㎡	
大学全体の収容定員 (うち共同学科に係る収容 定員を除いた数)		8,642人 (8,302)				9,793人 (9,453)							
教 室 等	講義室	演習室			実験実習室	講義室	演習室			実験実習室			
	131室	238室			653室	162室	208室			1,180室			
	情報処理学習施設			語学学習施設			情報処理学習施設			語学学習施設			
	21室 (補助職員 14人)			3室 (補助職員 0人)			11室 (補助職員 0人)			8室 (補助職員 0人)			
専任教員研究室数		42室				49室							
図 書 ・ 設 備	図書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚 資料	機械 器具	標本	図書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚 資料	機械 器具	標本	
	[うち外国書] 冊	[うち外国書] 種	[うち外国書] 種				[うち外国書] 冊	[うち外国書] 種	[うち外国書] 種				
	1,346,198[424,333] (1,346,198[424,333])	23,029 (7,203) (23,029 (7,203))	15,147 (13,627) (15,147 (13,627))	18,448 (18,448)	37 (37)	0 (0)	1,914,343 [678,557] (1,914,343 [678,557])	35,708 [13,079] (35,708 [13,079])	10,744 [9,292] (10,744 [9,292])	8,336 (8,336)	8,986 (8,986)	212 (212)	
図 書 館	積 閲 覧 座 席 数			収 納 可 能 冊 数	積 閲 覧 座 席 数			収 納 可 能 冊 数					
	13,840㎡	1,512		1,056,750	19,794㎡	2,185		1,640,536					
経費の見積り及び 維持方法の概要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次				
		第4年次	第5年次	第6年次		第4年次	第5年次	第6年次					
	経費の見積り	教員1人当り研究費等		-千円	-千円	-千円		-千円	-千円	-千円			
		共同研究費等	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円			
		図書購入費	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円			
		設備購入費	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円			
			-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円			
	学 生 1 人 当 り 納 付 金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次				
		第5年次	第6年次			第5年次	第6年次						
		-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円				
学生納付金以外の 維持方法の概要	-				-								
備 考	国費による				国費による								

既設学部等の状況	大学の名称	富山大学						
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設年度	所在地
	人文学部 [School of Humanities] 人文学科 [Department of Humanities]	4年	170人	3年次 7人	694人	学士 (文学)	昭和52年度	富山県富山市五福3190番地
	人間発達科学部 [School of Human Development] 発達教育学科 [Department of Educational Sciences] 人間環境システム学科 [Department of Environment and Humanity]	4 4	80 90	— —	320 360	学士 (教育学) 学士 (教育学)	平成17年度 平成17年度	富山県富山市五福3190番地
	経済学部 [School of Economics] 経済学科 [Department of Economics] (昼間主コース) (夜間主コース) 経営学科 [Department of Business Administration] (昼間主コース) (夜間主コース) 経営法学科 [Department of Business Law] (昼間主コース) (夜間主コース)	4 4 4 4 4 4	120 10 100 10 85 10	3年次 4 — 3年次 4 — 3年次 2 —	488 40 408 40 344 40	学士 (経済学) 学士 (経済学) 学士 (経営学) 学士 (経営学) 学士 (法学) 学士 (法学)	平成30年度 平成30年度 平成30年度 平成30年度 平成30年度 平成30年度	富山県富山市五福3190番地
	理学部 [School of Science] 数学科 [Department of Mathematics] 物理学科 [Department of Physics] 化学科 [Department of Chemistry] 生物学科 [Department of Biology] 地球科学科 [Department of Earth Sciences] 生物圏環境科学科 [Department of Environmental Biology and Chemistry]	4 4 4 4 4 4	50 40 35 35 — 30	— 3年次 1 3年次 1 3年次 1 — 3年次 1	200 162 142 142 — 122	学士 (理学) 学士 (理学) 学士 (理学) 学士 (理学) 学士 (理学) 学士 (理学)	昭和52年度 昭和52年度 昭和52年度 昭和52年度 昭和52年度 平成5年度	富山県富山市五福3190番地

既設学部等の状況	医学部 [School of Medicine]							富山県富山市杉谷2630番地
	医学科 [Department of Medicine]	6	105	2年次 5	655	学士 (医学)	昭和50年度	
	看護学科 [Department of Nursing]	4	80	3年次 10	340	学士 (看護学)	平成5年度	
	薬学部 [School of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences]							富山県富山市杉谷2630番地
	薬学科 [Department of Pharmacy]	6	55	—	330	学士 (薬学)	平成18年度	
	創薬科学科 [Department of Pharmaceutical Sciences]	4	50	—	200	学士 (薬科学)	平成18年度	
	工学部 [School of Engineering]							富山県富山市五福3190番地
	工学科 [Department of Engineering]	4	365	3年次 17	1,494	学士 (工学)	平成30年度	
	電気電子システム工学科 [Department of Electronic Engineering]	4	—	—	—	学士 (工学)	平成9年度	
	知能情報工学科 [Department of Intellectual Information Engineering]	4	—	—	—	学士 (工学)	平成9年度	
	機械知能システム工学科 [Department of Mechanical and Intellectual Systems Engineering]	4	—	—	—	学士 (工学)	平成9年度	
	生命工学科 [Department of Life Sciences and Bioengineering]	4	—	—	—	学士 (工学)	平成20年度	
	環境応用化学科 [Department of Environmental Applied Chemistry]	4	—	—	—	学士 (工学)	平成20年度	
	材料機能工学科 [Department of Materials Sciences and Engineering]	4	—	—	—	学士 (工学)	平成20年度	
	芸術文化学部 [School of Art and Design]							富山県高岡市二上町180番地
	芸術文化学科 [Department of Art and Design]	4	110	—	440	学士 (芸術文化)	平成17年度	
	都市デザイン学部 [School of Sustainable Design]							富山県富山市五福3190番地
	地球システム科学科 [Department of Earth System Science]	4	40	—	160	学士 (理学)	平成30年度	
	都市・交通デザイン学科 [Department of Civil Design and Engineering]	4	40	3年次 1	162	学士 (工学)	平成30年度	
	材料デザイン工学科 [Department of Materials Design and Engineering]	4	60	3年次 2	244	学士 (工学)	平成30年度	
人文科学研究科 [Graduate School of Humanities]							富山県富山市五福3190番地	
人文科学専攻 [Major of Humanities] (修士課程)	2	8	—	16	修士 (文学)	平成23年度		

既設学部等の状況	人間発達科学研究科 [Graduate School of Human Development]							富山県富山市五福3190番地
	発達教育専攻 [Major of Educational Science]							
	(修士課程)	2	6	—	12	修士 (教育学)	平成23年度	
	発達環境専攻 [Major of Development and Environment]							
	(修士課程)	2	6	—	12	修士 (教育学)	平成23年度	
	経済学研究科 [Graduate School of Economics]							富山県富山市五福3190番地
	地域・経済政策専攻 [Major of Regional and Economic Policy]							
	(修士課程)	2	6	—	12	修士 (経済学)	平成3年度	
	企業経営専攻 [Major of Business Administration]							
	(修士課程)	2	12	—	24	修士 (経営学)	平成3年度	
	芸術文化学研究科 [Graduate School of Art and Design]							富山県高岡市二上町180番地
	芸術文化学専攻 [Major of Art and Design]							
	(修士課程)	2	8	—	16	修士 (芸術文化学)	平成23年度	
	生命融合科学教育部 [Graduate School of Innovative Life Science]							
認知・情動脳科学専攻 [Major of Cognitive and Emotional Neuroscience]								
(博士課程)	4	9	—	36	博士 (医学)	平成18年度	富山県富山市杉谷2630番地	
生体情報システム科学専攻 [Major of Biological Information Systems]								
(博士課程)	3	4	—	12	博士 (薬科学、理学又は工学)	平成18年度	富山県富山市五福3190番地	
先端ナノ・バイオ科学専攻 [Major of Advanced Nanosciences and Biosciences]								
(博士課程)	3	4	—	12	博士 (薬科学、理学又は工学)	平成18年度	同上	
医学薬学教育部 [Graduate School of Medicine and Pharmaceutical Sciences]							富山県富山市杉谷2630番地	
医科学専攻 [Major of Medical Science]								
(修士課程)	2	15	—	30	修士 (医科学)	平成18年度		
看護学専攻 [Major of Nursing]								
(博士前期課程)	2	16	—	32	修士 (看護学)	平成27年度		
(博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (看護学)	平成27年度		
薬科学専攻 [Major of Pharmaceutical Basic Sciences]								
(博士前期課程)	2	35	—	70	修士 (薬科学)	平成22年度		
(博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (薬科学)	平成24年度		

既設学部等の状況	生命・臨床医学専攻 [Major of Medical Life Science] (博士課程)	4	18	—	72	博士 (医学)	平成18年度	富山県富山市五福3190番地
	東西統合医学専攻 [Major of Integrative Oriental and Western Medical Sciences] (博士課程)	4	7	—	28	博士 (医学)	平成18年度	
	薬学専攻 [Major of Pharmacy] (博士課程)	4	4	—	16	博士 (薬学)	平成24年度	
	理工学教育部 [Graduate School of Science and Engineering]							
	数学専攻 [Major of Mathematics] (修士課程)	2	8	—	16	修士 (理学)	平成18年度	
	物理学専攻 [Major of Physics] (修士課程)	2	12	—	24	修士 (理学)	平成18年度	
	化学専攻 [Major of Chemistry] (修士課程)	2	12	—	24	修士 (理学)	平成18年度	
	生物学専攻 [Major of Biology] (修士課程)	2	12	—	24	修士 (理学)	平成18年度	
	地球科学専攻 [Major of Earth Sciences] (修士課程)	2	10	—	20	修士 (理学)	平成18年度	
	生物圏環境科学専攻 [Major of Environmental Biology and Chemistry] (修士課程)	2	10	—	20	修士 (理学)	平成18年度	
	電気電子システム工学専攻 [Major of Electric and Electronic Engineering] (修士課程)	2	33	—	66	修士 (工学)	平成18年度	
	知能情報工学専攻 [Major of Intellectual Information Engineering] (修士課程)	2	27	—	54	修士 (工学)	平成18年度	
	機械知能システム工学専攻 [Major of Mechanical and Intellectual Systems Engineering] (修士課程)	2	33	—	66	修士 (工学)	平成18年度	
	生命工学専攻 [Major of Life Sciences and Bioengineering] (修士課程)	2	18	—	36	修士 (工学)	平成24年度	
環境応用化学専攻 [Major of Environmental Applied Chemistry] (修士課程)	2	22	—	44	修士 (工学)	平成24年度		

既設学部等の状況	材料機能工学専攻 [Major of Material Science and Engineering] (修士課程)	2	20	—	40	修士 (工学)	平成24年度					
	数理・ヒューマンシステム科学専攻 [Major of Advanced Mathematics and Human Mechanisms] (博士課程)	3	5	—	15	博士 (理学又は工学)	平成18年度					
	ナノ新機能物質科学専攻 [Major of Nano and Functional Material Sciences] (博士課程)	3	4	—	12	博士 (理学又は工学)	平成18年度					
	新エネルギー科学専攻 [Major of New Energy Science] (博士課程)	3	3	—	9	博士 (理学又は工学)	平成18年度					
	地球生命環境科学専攻 [Major of Earth, Life and Environmental Sciences] (博士課程)	3	4	—	12	博士 (理学又は工学)	平成18年度					
教職実践開発研究科 [Graduate School of Teacher Training Development] 教職実践開発専攻 [Major of Teacher Training Development] (専門職学位課程)	2	14	—	28	教職修士 (専門職)	平成28	富山県富山市五福3190番地					
校舎	専用	228,130 m ² (228,130 m ²)		共用	0 m ² (0 m ²)		共用する他の学校等の専用	0 m ² (0 m ²)		計	228,130 m ² (228,130 m ²)	

既設学部等の状況	大 学 の 名 称		金沢大学					
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	開設年度	所 在 地
		年	人	年次人	人			
	融合学域 [College of Philosophy in Interdisciplinary Sciences] 先導学類 [School for the Future of Innovation in Society]	4	55	—	55	学士 (学術)	令和3年度	石川県金沢市角間町
	人間社会学域 [College of Human and Social Sciences] 人文学類 [School of Humanities] 法学類 [School of Law] 経済学類 [School of Economics] 学校教育学類 [School of Teacher Education] 地域創造学類 [School of Regional Development Studies] 国際学類 [School of International Studies]	4	141	—	576	学士 (文学)	平成20年度	石川県金沢市角間町
		4	160	3年次 10	690	学士 (法学)	平成20年度	
		4	131	—	536	学士 (経済学)	平成20年度	
		4	85	—	385	学士 (教育学)	平成20年度	
		4	88	—	358	学士 (地域創造学)	平成20年度	
		4	83	—	338	学士 (国際学)	平成20年度	
	理工学域 [College of Science and Engineering] 数物科学類 [School of Mathematics and Physics] 物質化学類 [School of Chemistry] 機械工学類 [School of Mechanical Engineering] フロンティア工学類 [School of Frontier Engineering] 電子情報通信学類 [School of Electrical, Information and Communication Engineering] 地球社会基盤学類 [School of Geosciences and Civil Engineering] 生命理工学類 [School of Biological Science and Technology] 機械工学類 [School of Mechanical Engineering] 電子情報学類 [School of Electrical and Computer Engineering] 環境デザイン学類 [School of Environmental Design] 自然システム学類 [School of Natural System]	4	82	3年次 5	344	学士 (理学)	平成20年度	石川県金沢市角間町
		4	79	3年次 4	330	学士 (理学又は工学)	平成20年度	
		4	97	3年次 10	417	学士 (工学)	平成30年度	
		4	107	3年次 5	447	学士 (工学)	平成30年度	
		4	78	3年次 7	332	学士 (工学)	平成30年度	
		4	98	3年次 7	412	学士 (理学又は工学)	平成30年度	
		4	58	3年次 2	239	学士 (理学又は工学)	平成30年度	
		4	—	—	—	学士 (工学)	平成20年度	
		4	—	—	—	学士 (工学)	平成20年度	
		4	—	—	—	学士 (工学)	平成20年度	
		4	—	—	—	学士 (理学又は工学)	平成20年度	

既設学部等の状況	医薬保健学域 [College of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences]							
	医学類 [School of Medicine]	6	112	2年次 5	697	学士 (医学)	平成20年度	石川県金沢市宝町13-1
	薬学類 [School of Pharmacy]	6	65	—	240	学士 (薬学)	平成20年度	石川県金沢市角間町
	医薬科学類 [School of Medical and Pharmaceutical Sciences]	4	18	—	18	学士 (生命医科学又は創薬科学)	令和3年度	同上
	保健学類 [School of Health Sciences]						平成20年度	石川県金沢市小立野5-11-80
	看護学専攻 [Department of Nursing]	4	79	3年次 10	339	学士 (看護学)		
	放射線技術科学専攻 [Department of Radiological Technology]	4	40	3年次 5	170	学士 (保健学)		
	検査技術科学専攻 [Department of Laboratory Sciences]	4	40	3年次 5	170	学士 (保健学)		
	理学療法学専攻 [Department of Physical Therapy]	4	15	3年次 5	85	学士 (保健学)		
	作業療法学専攻 [Department of Occupational Therapy]	4	15	3年次 5	85	学士 (保健学)		
	創薬科学類 [School of Pharmaceutical Sciences]	4	—	—	—	学士 (創薬科学)	平成20年度	石川県金沢市角間町
	人間社会環境研究科 [Graduate School of Human and Socio-Environmental Studies]							石川県金沢市角間町
	人文学専攻 [Division of Humanities] (博士前期課程)	2	23	—	46	修士 (文学又は学術)	平成24年度	
	経済学専攻 [Division of Economics] (博士前期課程)	2	6	—	12	修士 (経済学、経営学又は学術)	平成24年度	
	地域創造学専攻 [Division of Regional Development Studies] (博士前期課程)	2	14	—	28	修士 (地域創造学又は学術)	平成24年度	
	国際学専攻 [Division of International Studies] (博士前期課程)	2	10	—	20	修士 (国際学又は学術)	平成24年度	
	人間社会環境学専攻 [Division of Human and Socio-Environmental Studies] (博士後期課程)	3	12	—	36	博士 (社会環境学、文学、法学、政治学、経済学又は学術)	平成18年度	
法学・政治学専攻 [Division of Law and Politics] (博士前期課程)	2	—	—	—	修士 (法学又は政治学)	平成24年度		

既設学部等の状況	自然科学研究科 [Graduate School of Natural Science and Technology]							石川県金沢市角間町
	数物科学専攻 [Division of Mathematical and Physical Sciences]							
	(博士前期課程)	2	56	—	112	修士 (理学又は学術)	平成24年度	
	(博士後期課程)	3	15	—	45	博士 (理学又は学術)	平成16年度	
	物質化学専攻 [Division of Material Chemistry]							
	(博士前期課程)	2	57	—	114	修士 (理学、工学又は学術)	平成24年度	
	(博士後期課程)	3	14	—	42	博士 (理学、工学又は学術)	平成26年度	
	機械科学専攻 [Division of Mechanical Science and Engineering]							
	(博士前期課程)	2	90	—	180	修士 (工学又は学術)	平成24年度	
	(博士後期課程)	3	25	—	75	博士 (工学又は学術)	平成26年度	
	電子情報科学専攻 [Division of Electrical Engineering and Computer Science]							
	(博士前期課程)	2	67	—	134	修士 (工学又は学術)	平成24年度	
	(博士後期課程)	3	18	—	54	博士 (工学又は学術)	平成16年度	
	環境デザイン学専攻 [Division of Environmental Design]							
	(博士前期課程)	2	40	—	80	修士 (工学又は学術)	平成24年度	
	(博士後期課程)	3	10	—	30	博士 (工学又は学術)	平成26年度	
	自然システム学専攻 [Division of Natural System]							
(博士前期課程)	2	67	—	134	修士 (理学、工学又は学術)	平成24年度		
(博士後期課程)	3	21	—	63	博士 (理学、工学又は学術)	平成26年度		
システム創成科学専攻 [Division of Innovative Technology and Science]								
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (工学又は学術)	平成16年度		
医薬保健学総合研究科 [Graduate School of Medical Sciences]								
医科学専攻 [Division of Medical Science]								
(修士課程)	2	15	—	30	修士 (医科学)	平成24年度	石川県金沢市宝町13-1	

既設学部等の状況	医学専攻 [Division of Medicine] (博士課程)	4	64	—	256	博士 (医学)	平成28年度	同上
	薬学専攻 [Division of Pharmacy] (博士課程)	4	4	—	16	博士 (薬学又は学術)	平成24年度	石川県金沢市角間町
	創薬科学専攻 [Division of Pharmaceutical Sciences] (博士前期課程)	2	38	—	76	修士 (創薬科学)	平成24年度	同上
	(博士後期課程)	3	11	—	33	博士 (創薬科学又は学術)	平成24年度	同上
	保健学専攻 [Division of Health Sciences] (博士前期課程)	2	70	—	140	修士 (保健学)	平成24年度	石川県金沢市小立野5-11-80
	(博士後期課程)	3	25	—	75	博士 (保健学)	平成24年度	同上
	脳医科学専攻 [Division of Neuroscience] (博士課程)	4	—	—	—	博士 (医学又は学術)	平成24年度	石川県金沢市宝町13-1
	がん医科学専攻 [Division of Cancer Medicine] (博士課程)	4	—	—	—	博士 (医学又は学術)	平成24年度	同上
	循環医科学専攻 [Division of Cardiovascular Medicine] (博士課程)	4	—	—	—	博士 (医学又は学術)	平成24年度	同上
	環境医科学専攻 [Division of Environmental Science] (博士課程)	4	—	—	—	博士 (医学又は学術)	平成24年度	同上
	医学系研究科 [Graduate School of Medical Sciences]							石川県金沢市宝町13-1
	脳医科学専攻 [Division of Neuroscience] (博士課程)	4	—	—	—	博士 (医学又は学術)	平成13年度	
	がん医科学専攻 [Division of Cancer Medicine] (博士課程)	4	—	—	—	博士 (医学又は学術)	平成13年度	
	循環医科学専攻 [Division of Cardiovascular Medicine] (博士課程)	4	—	—	—	博士 (医学, 薬学又は学術)	平成13年度	

既設学部等の状況	環境医科学専攻 [Division of Environmental Science] (博士課程)	4	—	—	—	博士 (医学又は学術)	平成13年度	
	先進予防医学研究科 [Graduate School of Advanced Preventive Medical Sciences] 先進予防医学共同専攻 [Division of Advanced Preventive Medical Sciences] (博士課程)	4	12	—	48	博士 (医学)	平成28年度	石川県金沢市宝町13-1
	新学術創成研究科 [Graduate School of Frontier Science Initiative] 融合科学共同専攻 [Division of Transdisciplinary Sciences] (博士前期課程)	2	14	—	28	修士 (融合科学)	平成30年度	石川県金沢市角間町
	(博士後期課程)	3	14	—	28	博士 (融合科学, 理学又は工学)	令和2年度	
	ナノ生命科学専攻 [Division of Nano Life Science] (博士前期課程)	2	6	—	12	修士 (ナノ科学)	令和2年度	
	(博士後期課程)	3	6	—	12	博士 (ナノ科学)	令和2年度	
	法学研究科 [Graduate School of Law] 法学・政治学専攻 [Division of Law and Politics] (修士課程)	2	8	—	16	修士 (法学又は政治学)	令和2年度	石川県金沢市角間町
	法務専攻 [Division of Legal Affairs] (専門職学位課程)	3	15	—	45	法務博士 (専門職)	平成16年度	
	教職実践研究科 [Graduate School of Professional Development in Teacher Education] 教職実践高度化専攻 [Division of Advanced Professional Development in Teacher Education] (専門職学位課程)	2	15	—	30	教職修士 (専門職)	平成28年度	石川県金沢市角間町
	校舎	専用	共用		共用する他の学校等の専用		計	
283,999 m ² (283,999 m ²)		0 m ² (0 m ²)		0 m ² (0 m ²)		283,999 m ² (283,999 m ²)		

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分									
フリガナ設置者	ヨリツガバクカクジン カザワバク 国立大学法人 金沢大学								
フリガナ大学の名称	カザワバク 金沢大学 (Kanazawa University)								
大学本部の位置	石川県金沢市角間町								
大学の目的	金沢大学は、教育、研究及び社会貢献に対する国民の要請にこたえるため、総合大学として教育研究活動等を行い、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	計	年	人	年次人	人		年 月 第 年次		
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)		<p>【学士課程】</p> <p>融合学域 観光デザイン学類〔新設〕（入学定員55, 3年次編入学定員15）（認可又は届出）</p> <p>人間社会学域 人文学類〔定員減〕（入学定員△3）（令和4年4月） 法学類〔定員減〕（入学定員△10, 3年次編入学定員△5）（令和4年4月） 学校教育学類〔廃止〕（入学定員△85）（令和4年4月学生募集停止） 国際学類〔定員減〕（入学定員△2）（令和4年4月）</p> <p>医薬保健学域 医学類〔取容定員変更〕（臨時定員増（12名）を維持）（令和3年9月意見伺い） 保健学類放射線技術科学専攻〔名称変更〕（放射線技術科学専攻→診療放射線技術学専攻）（令和4年4月）</p> <p>（補足） ・「魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増」に係る令和4年度入学定員増員を申請。 ・融合学域観光デザイン学類の入学定員55名のうち、40名を上記増員の対象とする。 ・R4.4の入学定員増が認められない場合は、配置する専任教員を維持した上で、融合学域観光デザイン学類の入学定員を15名で開設する。</p> <p>【博士前期課程】</p> <p>大学院自然科学研究科 数物科学専攻〔定員増〕（入学定員3）（令和4年4月） 物質化学専攻〔定員増〕（入学定員6）（令和4年4月） 機械科学専攻〔廃止〕（入学定員△90）（令和4年4月学生募集停止） 電子情報科学専攻〔廃止〕（入学定員△67）（令和4年4月学生募集停止） 環境デザイン学専攻〔廃止〕（入学定員△40）（令和4年4月学生募集停止） 自然システム学専攻〔廃止〕（入学定員△67）（令和4年4月学生募集停止） 機械科学専攻〔新設〕（入学定員72）（令和3年9月設置届出） フロンティア工学専攻〔新設〕（入学定員83）（令和3年9月設置届出） 電子情報通信学専攻〔新設〕（入学定員63）（令和3年9月設置届出） 地球社会基盤学専攻〔新設〕（入学定員69）（令和3年9月設置届出） 生命理工学専攻〔新設〕（入学定員41）（令和3年9月設置届出）</p>							
		教育課程		開設する授業科目の総数				修了要件単位数	
		講義	演習	実験・実習	計				
		科目	科目	科目	科目		単位		
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設		教授	准教授	講師	助教	計	助手	人
			人	人	人	人	人	人	人
		計							

教 員 組 織 の 概 要	既 設	融合学域							
		先導学類	13 (13)	6 (6)	1 (1)	3 (3)	23 (23)	0 (0)	82 (82)
		人間社会学域							
		人文学類	25 (25)	17 (17)	2 (2)	3 (3)	47 (47)	0 (0)	82 (82)
		法学類	12 (12)	10 (10)	4 (4)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	73 (73)
		経済学類	10 (10)	7 (7)	4 (4)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	85 (85)
		地域創造学類	8 (8)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	77 (77)
		国際学類	11 (11)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	98 (98)
		理工学域							
		数物科学類	22 (22)	14 (14)	1 (1)	12 (12)	49 (49)	0 (0)	78 (78)
		物質化学類	16 (16)	11 (11)	0 (0)	10 (10)	37 (37)	0 (0)	87 (87)
		機械工学類	17 (17)	14 (14)	1 (1)	9 (9)	41 (41)	1 (1)	97 (97)
		フロンティア工学類	17 (17)	9 (9)	1 (1)	13 (13)	40 (40)	0 (0)	115 (115)
		電子情報通信学類	14 (14)	15 (15)	1 (1)	2 (2)	32 (32)	0 (0)	85 (85)
		地球社会基盤学類	17 (17)	10 (10)	1 (1)	9 (9)	37 (37)	0 (0)	83 (83)
		生命理工学類	8 (8)	11 (11)	1 (1)	6 (6)	26 (26)	0 (0)	88 (88)
		医薬保健学域							
		医学類	49 (49)	50 (50)	9 (9)	47 (47)	155 (155)	0 (0)	151 (151)
		薬学類	12 (12)	13 (13)	0 (0)	16 (16)	41 (41)	0 (0)	82 (82)
		医薬科学類	4 (4)	3 (3)	2 (2)	2 (2)	11 (11)	0 (0)	192 (192)
保健学類	31 (31)	20 (20)	0 (0)	37 (37)	88 (88)	0 (0)	75 (75)		
計	286 (286)	224 (224)	33 (33)	169 (169)	712 (712)	1 (1)	— (—)		
合 計	321 (320)	250 (250)	34 (34)	172 (172)	777 (776)	1 (1)	— (—)		
教員以外の 職員の概要	職 種	専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員	431 (431)	469 (469)	900 (900)					
	技 術 職 員	1,077 (1,077)	165 (165)	1,242 (1,242)					
	図 書 館 専 門 職 員	10 (10)	2 (2)	12 (12)					
	そ の 他 の 職 員	4 (4)	543 (543)	547 (547)					
計	1,522 (1,522)	1,179 (1,179)	2,701 (2,701)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	730,408 m ²	0 m ²	0 m ²	730,408 m ²				
	運 動 場 用 地	115,740 m ²	0 m ²	0 m ²	115,740 m ²				
	小 計	846,148 m ²	0 m ²	0 m ²	846,148 m ²				
	そ の 他	1,717,530 m ²	0 m ²	0 m ²	1,717,530 m ²				
合 計	2,563,678 m ²	0 m ²	0 m ²	2,563,678 m ²					
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	283,999 m ² (283,999 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	283,999 m ² (283,999 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	162室	208室	1,180室	11室 (補助職員0人)	8室 (補助職員0人)				
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数					
	人間社会学域学校教育学類共同教員養成課程			49 室					

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	専攻単位で特定不能のため、大学全体の数量	
	人間社会学域 学校教育学類 共同教員養成課程	1,914,343〔678,557〕 (1,914,343〔678,557〕)	35,708〔13,079〕 (35,708〔13,079〕)	10,744〔9,292〕 (10,744〔9,292〕)	8,336 (8,336)	8,986 (8,986)	212 (212)		
	計	1,914,343〔678,557〕 (1,914,343〔678,557〕)	35,708〔13,079〕 (35,708〔13,079〕)	10,744〔9,292〕 (10,744〔9,292〕)	8,336 (8,336)	8,986 (8,986)	212 (212)		
図書館		面積 19,794 m ²		閲覧座席数 2,185	収納可能冊数 1,640,536			大学全体	
体育館		面積 6,295 m ²		体育館以外のスポーツ施設の概要 可動屋根付プール(1,193m ²) 弓道場(162m ²)					
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による
		教員1人当り研究費等	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	
		共同研究費等	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	
		図書購入費	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	
	設備購入費	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	
学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	—	—	
学生納付金以外の維持方法の概要		—							
既設大学の状況	大学の名称	金沢大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	融合学域	年	人	年次人	人		倍		石川県金沢市角間町
	先導学類	4	55	—	55	学士(学術)	1.10	令和3年度	
	人間社会学域								石川県金沢市角間町
	人文学類	4	141	—	576	学士(文学)	1.02	平成20年度	令和3年度入学定員減(△4)
	法学類	4	160	3年次10	690	学士(法学)	1.02	平成20年度	令和3年度入学定員減(△10)
	経済学類	4	131	—	536	学士(経済学)	1.03	平成20年度	令和3年度入学定員減(△4)
	学校教育学類	4	85	—	385	学士(教育学)	1.02	平成20年度	令和3年度入学定員減(△15)
	地域創造学類	4	88	—	358	学士(地域創造学)	1.03	平成20年度	令和3年度入学定員減(△2)
	国際学類	4	83	—	338	学士(国際学)	1.03	平成20年度	令和3年度入学定員減(△2)
	理工学域								石川県金沢市角間町
	数物科学類	4	82	3年次5	344	学士(理学)	1.03	平成20年度	令和3年度入学定員減(△2)
物質化学類	4	79	3年次4	330	学士(理学又は工学)	1.05	平成20年度	令和3年度入学定員減(△2)	
機械工学類	4	97	3年次10	417	学士(工学)	1.01	平成30年度	令和3年度入学定員減(△3)	
フロンティア工学類	4	107	3年次5	447	学士(工学)	1.01	平成30年度	令和3年度入学定員減(△3)	
電子情報通信学類	4	78	3年次7	332	学士(工学)	1.01	平成30年度	令和3年度入学定員減(△2)	
地球社会基盤学類	4	98	3年次7	412	学士(理学又は工学)	1.02	平成30年度	令和3年度入学定員減(△2)	
生命理工学類	4	58	3年次2	239	学士(理学又は工学)	1.01	平成30年度	令和3年度入学定員減(△1)	
機械工学類	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年度	平成30年度より学生募集停止	
電子情報学類	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年度	平成30年度より学生募集停止	
環境デザイン学類	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年度	平成30年度より学生募集停止	
自然システム学類	4	—	—	—	学士(理学又は工学)	—	平成20年度	平成30年度より学生募集停止	

既設大	医薬保健学域						1.03			
	医学類	6	112	2年次 5	697	学士(医学)	1.00	平成20年度	石川県金沢市宝町13-1	
	薬学類	6	65	—	240	学士(薬学)	1.04	平成20年度	石川県金沢市角間町	令和3年度入学定員増(30)
	医薬科学類	4	18	—	18	学士(生命医科学又は創薬科学)	1.05	令和3年度	同上	
	保健学類						1.02	平成20年度	石川県金沢市小立野5-11-80	
	看護学専攻	4	79	3年次 10	339	学士(看護学)	1.01			令和3年度入学定員減(△1)
	放射線技術科学専攻	4	40	3年次 5	170	学士(保健学)	1.01			
	検査技術科学専攻	4	40	3年次 5	170	学士(保健学)	1.02			
	理学療法学専攻	4	15	3年次 5	85	学士(保健学)	1.07			令和3年度入学定員減(△5)
	作業療法学専攻	4	15	3年次 5	85	学士(保健学)	1.05			令和3年度入学定員減(△5)
創薬科学類	4	—	—	—	学士(創薬科学)	—	平成20年度	石川県金沢市角間町	令和3年度より学生募集停止	
学等	人間社会環境研究科								石川県金沢市角間町	
	人文学専攻 (博士前期課程)	2	23	—	46	修士(文学又は学術)	0.78	平成24年度		
	経済学専攻 (博士前期課程)	2	6	—	12	修士(経済学, 経営学又は学術)	0.75	平成24年度		
	地域創造学専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(地域創造学又は学術)	1.10	平成24年度		
	国際学専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士(国際学又は学術)	0.75	平成24年度		
	人間社会環境学専攻 (博士後期課程)	3	12	—	36	博士(社会環境学, 文学, 法学, 政治学, 経済学又は学術)	1.05	平成18年度		
	法学・政治学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(法学又は政治学)	—	平成24年度		令和2年度より学生募集停止
	自然科学研究科								石川県金沢市角間町	
の状況	数物科学専攻 (博士前期課程)	2	56	—	112	修士(理学又は学術)	1.04	平成24年度		
	(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(理学又は学術)	0.55	平成16年度		
	物質化学専攻 (博士前期課程)	2	57	—	114	修士(理学, 工学又は学術)	1.12	平成24年度		
	(博士後期課程)	3	14	—	42	博士(理学, 工学又は学術)	0.40	平成26年度		
	機械科学専攻 (博士前期課程)	2	90	—	180	修士(工学又は学術)	1.22	平成24年度		
	(博士後期課程)	3	25	—	75	博士(工学又は学術)	0.44	平成26年度		
	電子情報科学専攻 (博士前期課程)	2	67	—	134	修士(工学又は学術)	1.12	平成24年度		
	(博士後期課程)	3	18	—	54	博士(工学又は学術)	0.44	平成16年度		
	環境デザイン学専攻 (博士前期課程)	2	40	—	80	修士(工学又は学術)	0.99	平成24年度		
	(博士後期課程)	3	10	—	30	博士(工学又は学術)	0.93	平成26年度		

既設 大 学 等 の 状 況	法学研究科 法学・政治学専攻 (修士課程)	2	8	—	16	修士(法学又は政治学)	0.37	令和2年度	石川県金沢市角間町
	法務専攻 (専門職学位課程)	3	15	—	45	法務博士(専門職)	0.57	平成16年度	
	教職実践研究科 教職実践高度化専攻 (専門職学位課程)	2	15	—	30	教職修士(専門職)	0.93	平成28年度	石川県金沢市角間町
附属施設の概要	<p>名称：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属幼稚園 目的：教育基本法及び学校教育法に則り、幼稚園教育を施すとともに、これに関する研究及び実証を行い、かつ、学類学生に教育実習を行わせる。 所在地：石川県金沢市平和町1-1-15 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地3,717㎡ 建物925㎡</p> <p>名称：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校 目的：教育基本法及び学校教育法に則り、小学校教育を施すとともに、これに関する研究及び実証を行い、かつ、学類学生に教育実習を行わせる。 所在地：石川県金沢市平和町1-1-15 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地24,757㎡ 建物7,545㎡</p> <p>名称：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属中学校 目的：教育基本法及び学校教育法に則り、中学校教育を施すとともに、これに関する研究及び実証を行い、かつ、学類学生に教育実習を行わせる。 所在地：石川県金沢市平和町1-1-15 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地26,470㎡ 建物7,524㎡</p> <p>名称：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校 目的：教育基本法及び学校教育法に則り、高等普通教育を施すとともに、これに関する研究及び実証を行い、かつ、本学学生で高等学校教員となることを志望するものに教育実習を行わせる。 所在地：石川県金沢市平和町1-1-15 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地24,932㎡ 建物6,273㎡</p> <p>名称：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校 目的：教育基本法及び学校教育法に則り、特別支援学校の教育を施すとともに、これに関する研究及び実証を行い、かつ、学類学生に教育実習を行わせる。 所在地：石川県金沢市東兼六町2-10 設置年月：昭和39年4月 規模等：土地10,517㎡ 建物4,813㎡</p> <p>名称：金沢大学附属病院 目的：医学の教育、研究及び診療を行う。 所在地：石川県金沢市宝町13-1 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地68,957㎡ 建物89,936㎡</p> <p>名称：金沢大学附属図書館 目的：教育、研究及び学習に必要な図書館資料を収集、整理、保存し、主として金沢大学の教職員及び学生の利用に供するとともに、一般利用者にも必要な学術情報を提供する。 所在地：石川県金沢市角間町(中央図書館及び自然科学系図書館) 石川県金沢市宝町13-1(医学図書館) 石川県金沢市小立野5-11-80(保健学類図書館) 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地12,302㎡ 建物19,793㎡</p> <p>名称：金沢大学がん進展制御研究所 目的：全国共同利用・共同研究拠点として唯一のがん研究に特化した拠点としての活動を推進するとともに、大学院医薬保健学総合研究科大学院生の研究指導の協力を行う。 所在地：石川県金沢市角間町 設置年月：昭和42年6月 規模等：土地3,353㎡ 建物5,035㎡</p>								

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称：金沢大学医薬保健学域薬学類附属薬用植物園 目的：薬学生教育の場として、生薬や薬用植物に対する知識を深めるため、薬用植物の観察、栽培、収穫などの実習を行う。 所在地：石川県金沢市角間町 設置年月：昭和44年4月 規模等：土地21,766㎡ 建物150㎡</p> <p>名称：金沢大学ナノ生命科学研究所 目的：革新的ナノ計測技術を発展させるための技術開発と、それらの技術を用いた様々な生命現象の根本的な理解を目指す新学問領域「ナノプローブ生命科学」を創出するとともに、大学院新学術創成研究科大学院生の研究指導の協力を行う。 所在地：石川県金沢市角間町 設置年月：平成29年10月 規模等：土地2,938㎡ 建物6,840㎡</p> <p>名称：金沢大学理工学域能登海洋水産センター 目的：海洋生物資源の基礎及び応用研究を行う学生及び研究者の拠点として、海に隣接した滞在型の教育研究環境を提供するとともに、水産資源確保技術の高度化のための研究を推進する。 所在地：石川県鳳珠郡能都町字越坂11-4-1 設置年月：平成31年4月 規模等：土地6,822㎡ 建物2,300㎡</p>	
----------------	--	--

金沢大学 設置申請に係わる組織の移行表

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
金沢大学				金沢大学				
融合学域				融合学域				
先導学類	55	33	25	270	55	33	25	270
				<u>観光デザイン学類</u>	<u>55</u>	<u>33</u>	<u>25</u>	学類の設置(認可又は届出)
人間社会学域				人間社会学域				
人文学類	141	—	564	人文学類	138	—	552	定員変更(入学定員△3)
法学類	160	33	650	法学類	<u>150</u>	—	<u>600</u>	定員変更(入学定員△10・編入学定員△5)
経済学類	131	—	524	経済学類	131	—	524	
学校教育学類	85	—	340		0	—	0	令和4年4月学生募集停止
				<u>学校教育学類共同教員養成課程</u>	<u>85</u>	—	<u>340</u>	学類の設置(設置届出)
地域創造学類	88	—	352	地域創造学類	88	—	352	
国際学類	83	—	332	国際学類	<u>81</u>	—	<u>324</u>	定員変更(入学定員△2)
理工学域				理工学域				
数物科学類	82	33	338	数物科学類	82	33	338	
物質化学類	79	33	324	物質化学類	79	33	324	
機械工学類	97	33	408	機械工学類	97	33	408	
フロンティア工学類	107	33	438	フロンティア工学類	107	33	438	
電子情報通信学類	78	33	326	電子情報通信学類	78	33	326	
地球社会基盤学類	98	33	406	地球社会基盤学類	98	33	406	
生命理工学類	58	33	236	生命理工学類	58	33	236	
医薬保健学域				医薬保健学域				
医学類	112	24	637	医学類	112	24	637	収容定員変更(意見伺い) (臨時定員増(12名)を維持(令和4年度))
薬学類	65	—	390	薬学類	65	—	390	
医薬科学類	18	—	72	医薬科学類	18	—	72	
保健学類	189	33	796	保健学類	189	33	796	
看護学専攻	79	33	324	看護学専攻	79	33	324	
放射線技術科学専攻	40	33	166	<u>診療放射線技術学専攻</u>	<u>40</u>	<u>33</u>	<u>166</u>	名称変更
検査技術科学専攻	40	33	166	検査技術科学専攻	40	33	166	
理学療法学専攻	15	33	70	理学療法学専攻	15	33	70	
作業療法学専攻	15	33	70	作業療法学専攻	15	33	70	
計	1,726	24	7,403	計	1,768	24	7,583	
		33	90			33	100	
				(補足)				
				・「魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増」に係る令和4年度入学定員増員を申請。				
				・融合学域観光デザイン学類の入学定員55名のうち、40名を上記増員の対象とする。				
				・R4.4の入学定員増が認められない場合は、融合学域観光デザイン学類の入学定員を15名で開設する。				
人間社会環境研究科				人間社会環境研究科				
人文学専攻(M)	23	—	46	人文学専攻(M)	23	—	46	
経済学専攻(M)	6	—	12	経済学専攻(M)	6	—	12	
地域創造学専攻(M)	14	—	28	地域創造学専攻(M)	14	—	28	
国際学専攻(M)	10	—	20	国際学専攻(M)	10	—	20	
人間社会環境学専攻(D)	12	—	36	人間社会環境学専攻(D)	12	—	36	
自然科学研究科				自然科学研究科				
数物科学専攻(M)	56	—	112	数物科学専攻(M)	<u>59</u>	—	<u>118</u>	定員変更(入学定員3)
数物科学専攻(D)	15	—	45	数物科学専攻(D)	15	—	45	
物質化学専攻(M)	57	—	114	物質化学専攻(M)	<u>63</u>	—	<u>126</u>	定員変更(入学定員6)
物質化学専攻(D)	14	—	42	物質化学専攻(D)	14	—	42	
機械科学専攻(M)	90	—	180		0	—	0	令和4年4月学生募集停止
機械科学専攻(D)	25	—	75	機械科学専攻(D)	25	—	75	
電子情報科学専攻(M)	67	—	134		0	—	0	令和4年4月学生募集停止
電子情報科学専攻(D)	18	—	54	電子情報科学専攻(D)	18	—	54	
環境デザイン学専攻(M)	40	—	80		0	—	0	令和4年4月学生募集停止
環境デザイン学専攻(D)	10	—	30	環境デザイン学専攻(D)	10	—	30	
自然システム学専攻(M)	67	—	134		0	—	0	令和4年4月学生募集停止
自然システム学専攻(D)	21	—	63	自然システム学専攻(D)	21	—	63	
				<u>機械科学専攻(M)</u>	<u>72</u>	—	<u>144</u>	専攻の設置(設置届出)
				<u>フロンティア工学専攻(M)</u>	<u>83</u>	—	<u>166</u>	専攻の設置(設置届出)
				<u>電子情報通信学専攻(M)</u>	<u>63</u>	—	<u>126</u>	専攻の設置(設置届出)
				<u>地球社会基盤学専攻(M)</u>	<u>69</u>	—	<u>138</u>	専攻の設置(設置届出)
				<u>生命理工学専攻(M)</u>	<u>41</u>	—	<u>82</u>	専攻の設置(設置届出)
医薬保健学総合研究科				医薬保健学総合研究科				
医科学専攻(M)	15	—	30	医科学専攻(M)	15	—	30	
医学専攻(D)	64	—	256	医学専攻(D)	64	—	256	
薬学専攻(D)	4	—	16	薬学専攻(D)	4	—	16	
創薬科学専攻(M)	38	—	76	創薬科学専攻(M)	38	—	76	
創薬科学専攻(D)	11	—	33	創薬科学専攻(D)	11	—	33	
保健学専攻(M)	70	—	140	保健学専攻(M)	70	—	140	
保健学専攻(D)	25	—	75	保健学専攻(D)	25	—	75	
新学術創成研究科				新学術創成研究科				
融合科学共同専攻(M)	14	—	28	融合科学共同専攻(M)	14	—	28	
融合科学共同専攻(D)	14	—	42	融合科学共同専攻(D)	14	—	42	
ナノ生命科学専攻(M)	6	—	12	ナノ生命科学専攻(M)	6	—	12	
ナノ生命科学専攻(D)	6	—	18	ナノ生命科学専攻(D)	6	—	18	
先進予防医学研究科				先進予防医学研究科				
先進予防医学共同専攻(D)	12	—	48	先進予防医学共同専攻(D)	12	—	48	
法学研究科				法学研究科				
法学・政治学専攻(M)	8	—	16	法学・政治学専攻(M)	8	—	16	
法務専攻(P)	15	—	45	法務専攻(P)	15	—	45	
教職実践研究科				教職実践研究科				
教職実践高度化専攻(P)	15	—	30	教職実践高度化専攻(P)	15	—	30	
計	862	—	2,070	計	935	—	2,216	

教育課程等の概要(共同学科等)

(富山大学教育学部共同教員養成課程, 金沢大学人間社会学域学校教育学類共同教員養成課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
人文科学系	哲学のすすめ	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	人間と倫理	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	こころの科学	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	日本の歴史と社会	1前・後	富山大学		2		○									兼2	
	東洋の歴史と社会	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	西洋の歴史と社会	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	日本文学	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	外国文学	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	言語と文化	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	音楽	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	美術	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	美術表現A	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	美術表現B	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	言語表現	1前・後	富山大学		2			○								兼1	
	治療の文化史	1前・後	富山大学		2			○		○						兼1	
	異文化間コミュニケーション	1前・後	富山大学		2			○								兼1	
異文化理解	1前・後	富山大学		2			○					1			兼1		
小計(17科目)	—	—	—	0	34	0	—	—	—	—	0	1	0	0	0	兼14	—
社会科学系	現代社会論	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	日本国憲法	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	国家と市民	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	経済生活と法	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	市民生活と法	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	はじめての経済学	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	産業と経済を学ぶ	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	経営資源のとらえ方	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	市場と企業の関係	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	地域の経済と社会・文化	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
小計(10科目)	—	—	—	0	20	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼9	—
自然科学系	自然科学への扉-A	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	自然科学への扉-B	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	自然科学への扉-C	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	科学技術への扉-A	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	科学技術への扉-B	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	生命の世界	1前・後	富山大学		2		○									兼2	
	社会と情報の数理	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
デザインと生物	1前・後	富山大学		2		○									兼1		
小計(8科目)	—	—	—	0	16	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼8	—
医療・健康科学系	医療心理学	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	概説医療心理学	1前・後	富山大学		1		○									兼1	
	認知科学	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	脳科学入門	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	生命科学入門	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	免疫学入門	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	身近な医学	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	障害とアクセシビリティ	1前・後	富山大学		2		○					1				兼1	
	医療と地域社会	1前・後	富山大学		2		○									兼2	
小計(9科目)	—	—	—	0	17	0	—	—	—	—	1	0	0	0	0	兼6	—
総合科目系	環境	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	ジェンダー	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	技術と社会	1前・後	富山大学		2		○									兼2	
	現代文化	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	人権と福祉	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	環日本海	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	科学と社会	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	アカデミック・デザイン	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	ビジネス思考	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	データサイエンスの世界	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	データサイエンスの実践	1前・後	富山大学		2		○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
総合科目系	教養としての都市デザイン学	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	SDGs入門	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	平和学入門	1前・後	富山大学		2		○				1						
	東アジア共同体論-政治・経済・文化-	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	富山から考える震災・復興学	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	環境と安全管理	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	万葉学	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	日本海学	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	富山大学学	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	とやま地域学	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	時事的問題	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	災害救援ボランティア論	1前・後	富山大学		2		○				1						
	感性をはぐくむ	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	日本事情／芸術文化	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	日本事情／自然社会	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	学士力・人間力基礎	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	富山学	1前・後	富山大学		2		○									兼1	
	地域ライフプラン	1前・後	富山大学		2		○									兼2	
	産業観光学	1前・後	富山大学		2		○									兼2	
	富山のものづくり概論	1前・後	富山大学		2		○									兼2	
	富山の地域づくり	1前・後	富山大学		2		○									兼2	
薬都とやま学	1前・後	富山大学		2		○									兼1		
小計 (33科目)	—	—	—	0	66	0	—	—	—	—	0	2	0	0	0	兼25	—
外国語系	ESP I (Level-based)	1前	富山大学		1			○								兼1	
	ESP II (Interest-based)	1後	富山大学		1			○								兼1	
	基盤英語 I	1前	富山大学		1			○								兼1	
	基盤英語 II	1後	富山大学		1			○								兼1	
	ドイツ語基礎 I	1前	富山大学		1			○								兼1	
	ドイツ語基礎 II	1後	富山大学		1			○								兼1	
	ドイツ語コミュニケーション I	1前	富山大学		1			○								兼1	
	ドイツ語コミュニケーション II	1後	富山大学		1			○								兼1	
	フランス語基礎 I	1前	富山大学		1			○								兼1	
	フランス語基礎 II	1後	富山大学		1			○								兼1	
	フランス語コミュニケーション I	1前	富山大学		1			○								兼1	
	フランス語コミュニケーション II	1後	富山大学		1			○								兼1	
	中国語基礎 I	1前	富山大学		1			○								兼1	
	中国語基礎 II	1後	富山大学		1			○								兼1	
	中国語コミュニケーション I	1前	富山大学		1			○								兼1	
	中国語コミュニケーション II	1後	富山大学		1			○								兼1	
	朝鮮語基礎 I	1前	富山大学		1			○								兼1	
	朝鮮語基礎 II	1後	富山大学		1			○								兼1	
	朝鮮語コミュニケーション I	1前	富山大学		1			○								兼1	
	朝鮮語コミュニケーション II	1後	富山大学		1			○								兼1	
	ロシア語基礎 I	1前	富山大学		1			○								兼1	
	ロシア語基礎 II	1後	富山大学		1			○								兼1	
	ロシア語コミュニケーション I	1前	富山大学		1			○								兼1	
	ロシア語コミュニケーション II	1後	富山大学		1			○								兼1	
	日本語リテラシー I	1前	富山大学		1			○								兼2	
	日本語リテラシー II	1後	富山大学		1			○								兼2	
	日本語コミュニケーション I	1前	富山大学		1			○								兼2	
日本語コミュニケーション II	1後	富山大学		1			○								兼2		
発展多言語演習ドイツ語	2前	富山大学			1		○								兼1		
発展多言語演習中国語	2前	富山大学			1		○								兼1		
日本語コミュニケーション III	2前	富山大学			1		○								兼1		
日本語／専門研究	2後	富山大学			1		○								兼1		
小計 (32科目)	—	—	—	0	28	4	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼13	—
保健体育系	健康・スポーツ／講義	1前・後	富山大学		1		○									兼1	
	健康・スポーツ／実技	1前	富山大学		1				○							兼1	
小計 (2科目)	—	—	—	0	2	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼1	—
情報処理系	情報処理	1前	富山大学		2		○									兼4	
	応用情報処理	1後	富山大学		2			○								兼1	
小計 (2科目)	—	—	—	0	4	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼4	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
導入科目	大学・社会生活論	1①	金沢大学		1		○			1							
	データサイエンス基礎	1①	金沢大学		1		○			1							
	地域概論	1①	金沢大学		1		○				1						
	小計 (3科目)	—		0	3	0	—			1	1	0	0	0		—	
	GS科目	1 群 位置(自己の立	現代世界への歴史学的アプローチ	1①・②・③・④	金沢大学		1		○								兼1
			グローバル時代の政治経済学	1①・②・③・④	金沢大学		1		○								兼1
			グローバル時代の社会学	1①・②・③・④	金沢大学		1		○								兼1
			ケーススタディによる応用倫理学	1①・②・③・④	金沢大学		1		○								兼1
			地球生物圏と人間	1①・②・③・④	金沢大学		1		○								兼1
		2 群 自己(自己を鍛え	哲学(自我論)	1①・②・③・④	金沢大学		1		○								兼1
			パーソナリティ心理学	1①・②・③・④	金沢大学		1		○								兼1
			グローバル時代の文学	1①・②・③・④	金沢大学		1		○								兼1
健康科学			1①・②・③・④	金沢大学		1		○								兼1	
3 群 価値(親を考		細胞・分子生物学	1①・②・③・④	金沢大学		1		○								兼2	
		エクササイズ&スポーツ 実技	1①・②・③・④	金沢大学		1				○						兼2	
		クリティカル・シンキング	1①・②・③・④	金沢大学		1		○								兼1	
		価値と情動の認知科学	1①・②・③・④	金沢大学		1		○				1				兼1	
4 群 世界(つながる		芸術と自己表現	1①・②・③・④	金沢大学		1		○								兼1	
		スポーツ科学	1①・②・③・④	金沢大学		1		○								兼1	
		金沢・能登と世界の地域文化	1②・③・④	金沢大学		1		○								兼1	
		日本史・日本文化	1②・③・④	金沢大学		1		○								兼3	
		異文化間コミュニケーション	1①・②・③・④	金沢大学		1		○								兼1	
		異文化体験A	1②・④	金沢大学		1					○					兼1	
		異文化体験B	1②・④	金沢大学		2					○					兼1	
		異文化体験C	1②・④	金沢大学		3					○					兼1	
		異文化体験D	1②・④	金沢大学		4					○					兼1	
		異文化体験E	1②・④	金沢大学		5					○					兼1	
		異文化体験F	1②・④	金沢大学		6					○					兼1	
		異文化体験G	1②・④	金沢大学		7					○					兼1	
5 群 未来(未来の課		異文化体験H	1②・④	金沢大学		8					○					兼1	
		グローバル時代の国際協力	1①・②・③・④	金沢大学		1		○								兼1	
		グローバル社会と地域の課題	1①・②・③・④	金沢大学		1		○								兼1	
		科学技術と科学方法論	1①・②・③・④	金沢大学		1		○								兼1	
		統計学から未来を見る	1①・②・③・④	金沢大学		1		○								兼1	
		環境学とESD	1①・②・③・④	金沢大学		1		○								兼1	
		生活と社会保障	1①・②・③・④	金沢大学		1		○								兼1	
		現代社会と人権	1①・②・③・④	金沢大学		1		○								兼1	
		6 群 新しい社	インテグレートド科学	1①・②・③・④	金沢大学		1		○								兼1
			AI入門	1①・②・③・④	金沢大学		1		○								兼1
			情報の科学	1①・②・③・④	金沢大学		1		○								兼1
			デザイン思考入門	1①・②・③・④	金沢大学		1		○								兼2
論理学と数学の基礎			1①・②・③・④	金沢大学		1		○								兼1	
小計 (38科目)	—		0	66	0	—			0	1	0	0	0	兼33	—		
GS言語科目(英語)	TOEIC準備 I	1①	金沢大学		1		○								兼1		
	TOEIC準備 II	1②	金沢大学		1		○								兼1		
	TOEIC準備 III	1③	金沢大学		1		○								兼1		
	TOEIC準備 IV	1④	金沢大学		1		○								兼1		
	TOEIC準備 (演習)	2①・②・③・④	金沢大学		1		○								兼1		
	English for Academic Purposes I	1①	金沢大学		1		○								兼1		
	English for Academic Purposes II	1②	金沢大学		1		○								兼1		
	English for Academic Purposes III	1③	金沢大学		1		○								兼1		
	English for Academic Purposes IV	1④	金沢大学		1		○								兼1		
	English for Academic Purposes (Retake)	2①・②・③・④	金沢大学		1		○								兼1		
GS言語科目(日本語)	アカデミック基礎日本語A	1①	金沢大学		1		○								兼1		
	アカデミック基礎日本語B	1②	金沢大学		1		○								兼1		
	講義の聴解A	1①・③	金沢大学		1		○								兼1		
	講義の聴解B	1②・④	金沢大学		1		○								兼1		
	口頭発表A	1①・③	金沢大学		1		○								兼1		
	口頭発表B	1②・④	金沢大学		1		○								兼1		
	上級読解I A	1①	金沢大学		1		○								兼1		
	上級読解I B	1②	金沢大学		1		○								兼1		
	上級読解II A	1③	金沢大学		1		○								兼1		
	上級読解II B	1④	金沢大学		1		○								兼1		
	日本語で学ぶ論理A	1①・③	金沢大学		1		○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年度	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
G S 言語科目 (日本語)	日本語で学ぶ論理B	1②・④	金沢大学		1		○									兼1	
	日本事情A	1①・③	金沢大学		1		○									兼1	
	日本事情B	1②・④	金沢大学		1		○									兼1	
	アカデミック・ライティングA	1①・③	金沢大学		1		○									兼1	
	アカデミック・ライティングB	1②・④	金沢大学		1		○									兼1	
	小計 (26科目)	—		0	26	0	—			0	0	0	0	0	0	兼8	—
共通教育科目 初習言語科目	ドイツ語A1-1	1①・③	金沢大学		1			○								兼1	
	ドイツ語A1-2	1②・④	金沢大学		1			○								兼1	
	ドイツ語A2-1	1①・③	金沢大学		1			○								兼1	
	ドイツ語A2-2	1②・④	金沢大学		1			○								兼1	
	ドイツ語A3-1	1①・③	金沢大学		1			○								兼1	
	ドイツ語A3-2	1②・④	金沢大学		1			○								兼1	
	ドイツ語A4-1	1①・③	金沢大学		1			○								兼1	
	ドイツ語A4-2	1②・④	金沢大学		1			○								兼1	
	ドイツ語B-1	2①	金沢大学		1			○								兼1	
	ドイツ語B-2	2②	金沢大学		1			○								兼1	
	ドイツ語C-1	2①・③	金沢大学		1			○								兼1	
	ドイツ語C-2	2②・④	金沢大学		1			○								兼1	
	フランス語A1-1	1①	金沢大学		1			○								兼1	
	フランス語A1-2	1②	金沢大学		1			○								兼1	
	フランス語A2-1	1①	金沢大学		1			○								兼1	
	フランス語A2-2	1②	金沢大学		1			○								兼1	
	フランス語A3-1	1③	金沢大学		1			○								兼1	
	フランス語A3-2	1④	金沢大学		1			○								兼1	
	フランス語A4-1	1③	金沢大学		1			○								兼1	
	フランス語A4-2	1④	金沢大学		1			○								兼1	
	フランス語B-1	2①・③	金沢大学		1			○								兼1	
	フランス語B-2	2②・④	金沢大学		1			○								兼1	
	フランス語C-1	2③	金沢大学		1			○								兼1	
	フランス語C-2	2④	金沢大学		1			○								兼1	
	ロシア語A1-1	1①	金沢大学		1			○								兼1	
	ロシア語A1-2	1②	金沢大学		1			○								兼1	
	ロシア語A2-1	1①	金沢大学		1			○								兼1	
	ロシア語A2-2	1②	金沢大学		1			○								兼1	
	ロシア語A3-1	1③	金沢大学		1			○								兼1	
	ロシア語A3-2	1④	金沢大学		1			○								兼1	
	ロシア語A4-1	1③	金沢大学		1			○								兼1	
	ロシア語A4-2	1④	金沢大学		1			○								兼1	
	ロシア語B-1	2①・③	金沢大学		1			○								兼1	
	ロシア語B-2	2②・④	金沢大学		1			○								兼1	
	ロシア語C-1	2①・③	金沢大学		1			○								兼1	
	ロシア語C-2	2②・④	金沢大学		1			○								兼1	
	中国語A1-1	1①	金沢大学		1			○								兼1	
	中国語A1-2	1②	金沢大学		1			○								兼1	
	中国語A2-1	1①	金沢大学		1			○								兼1	
	中国語A2-2	1②	金沢大学		1			○								兼1	
	中国語A3-1	1③	金沢大学		1			○								兼1	
	中国語A3-2	1④	金沢大学		1			○								兼1	
中国語A4-1	1③	金沢大学		1			○								兼1		
中国語A4-2	1④	金沢大学		1			○								兼1		
中国語B-1	2①・③	金沢大学		1			○								兼1		
中国語B-2	2②・④	金沢大学		1			○								兼1		
中国語C-1	2③	金沢大学		1			○								兼1		
中国語C-2	2④	金沢大学		1			○								兼1		
朝鮮語A1-1	1①	金沢大学		1			○								兼1		
朝鮮語A1-2	1②	金沢大学		1			○								兼1		
朝鮮語A2-1	1①	金沢大学		1			○								兼1		
朝鮮語A2-2	1②	金沢大学		1			○								兼1		
朝鮮語A3-1	1③	金沢大学		1			○								兼1		
朝鮮語A3-2	1④	金沢大学		1			○								兼1		
朝鮮語A4-1	1③	金沢大学		1			○								兼1		
朝鮮語A4-2	1④	金沢大学		1			○								兼1		
朝鮮語B-1	2①・③	金沢大学		1			○								兼1		
朝鮮語B-2	2②・④	金沢大学		1			○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年度	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
初習言語科目	朝鮮語C-1	2①・③	金沢大学		1			○								兼1	
	朝鮮語C-2	2②・④	金沢大学		1			○								兼1	
	ギリシア語A1-1	1①	金沢大学		1			○								兼1	
	ギリシア語A1-2	1②	金沢大学		1			○								兼1	
	ギリシア語A2-1	1③	金沢大学		1			○								兼1	
	ギリシア語A2-2	1④	金沢大学		1			○								兼1	
	ギリシア語A3-1	2①	金沢大学		1			○								兼1	
	ギリシア語A3-2	2②	金沢大学		1			○								兼1	
	ギリシア語A4-1	2③	金沢大学		1			○								兼1	
	ギリシア語A4-2	2④	金沢大学		1			○								兼1	
	ギリシア語B-1	3①	金沢大学		1			○								兼1	
	ギリシア語B-2	3②	金沢大学		1			○								兼1	
	ギリシア語C-1	3③	金沢大学		1			○								兼1	
	ギリシア語C-2	3④	金沢大学		1			○								兼1	
	ラテン語A1-1	1①	金沢大学		1			○								兼1	
	ラテン語A1-2	1②	金沢大学		1			○								兼1	
	ラテン語A2-1	1③	金沢大学		1			○								兼1	
	ラテン語A2-2	1④	金沢大学		1			○								兼1	
	ラテン語A3-1	2①	金沢大学		1			○								兼1	
	ラテン語A3-2	2②	金沢大学		1			○								兼1	
	ラテン語A4-1	2③	金沢大学		1			○								兼1	
	ラテン語A4-2	2④	金沢大学		1			○								兼1	
	ラテン語B-1	3①	金沢大学		1			○								兼1	
	ラテン語B-2	3②	金沢大学		1			○								兼1	
	ラテン語C-1	3③	金沢大学		1			○								兼1	
	ラテン語C-2	3④	金沢大学		1			○								兼1	
	スペイン語A1-1	1①	金沢大学		1			○								兼1	
	スペイン語A1-2	1②	金沢大学		1			○								兼1	
	スペイン語A2-1	1①	金沢大学		1			○								兼1	
	スペイン語A2-2	1②	金沢大学		1			○								兼1	
	スペイン語A3-1	1③	金沢大学		1			○								兼1	
	スペイン語A3-2	1④	金沢大学		1			○								兼1	
	スペイン語A4-1	1③	金沢大学		1			○								兼1	
スペイン語A4-2	1④	金沢大学		1			○								兼1		
スペイン語B-1	2①	金沢大学		1			○								兼1		
スペイン語B-2	2②	金沢大学		1			○								兼1		
スペイン語C-1	2③	金沢大学		1			○								兼1		
スペイン語C-2	2④	金沢大学		1			○								兼1		
小計(96科目)		-		0	96	0		-		0	0	0	0	0	0	兼11	-
自由履修科目	アントレプレナーシップI	1③	金沢大学		1			○								兼1	
	石川県の行政	1③~④	金沢大学		2			○								兼1	
	石川県の市町	1①~②	金沢大学		2			○								兼1	
	健康論実践D	1④	金沢大学		1					○						兼1	
	健康論実践E	1④	金沢大学		1					○						兼1	
	現代社会における保険の制度と役割I	1③	金沢大学		1			○								兼1	
	現代社会における保険の制度と役割II	1④	金沢大学		1			○								兼1	
	実践アントレプレナー学	1③	金沢大学		1			○								兼1	
	クラウド時代の「ものグラミング」概論	1③~④	金沢大学		2			○								兼1	
	シェルスクリプト言語論	1③~④	金沢大学		2			○								兼1	
	地元学A(地域資源調査)	1①	金沢大学		1			○								兼1	
	地元学B(聞き書き)	1②	金沢大学		1			○								兼1	
	シェルスクリプトを用いた「ものグラミング」演習	1①	金沢大学		1				○							兼1	
	イノベーションを起こして、起業家になろう1	1①	金沢大学		1			○								兼1	
	イノベーションを起こして、起業家になろう2	1②	金沢大学		1			○								兼1	
	イノベーションを起こして、起業家になろう3	1③	金沢大学		1			○								兼1	
	イノベーションを起こして、起業家になろう4	1④	金沢大学		1			○								兼1	
	香りと日本文化	1③	金沢大学		1			○								兼1	
	心と体の健康A	1③	金沢大学		1			○								兼1	
	心と体の健康B	1④	金沢大学		1			○								兼1	
地域「超」体験プログラム	1①・②・④	金沢大学		1					○						兼1		
道徳教育および宗教教育をグローバルに考える	1④	金沢大学		1			○								兼1		
金沢の歴史と文化	1③~④	金沢大学		2			○								兼1		
日本の伝統芸能	1②	金沢大学		1			○								兼1		
地域創造学特別講義C	1③	金沢大学		1			○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通教育科目	地域創造学特別講義D	1④	金沢大学		1		○									兼1		
	日本国憲法概説	1③	金沢大学		2		○									兼1		
	日本史要説	2①～②	金沢大学		2		○									兼1		
	東洋史要説	2③～④	金沢大学		2		○									兼1		
	異文化理解のためのビデオ会議ディスカッション	1③	金沢大学		1		○									兼1		
	行政学の基礎	1①	金沢大学		2		○									兼1		
	ゼミ/角間の里山づくり 春編	1①	金沢大学		1			○								兼1		
	ゼミ/角間の里山づくり 秋編	1③	金沢大学		1			○								兼1		
	コーヒーと社会	1③	金沢大学		1		○									兼1		
	コーヒーと科学	1④	金沢大学		1		○									兼1		
	地学実験	1②～③	金沢大学		2				○							兼1		
	生物学実験	1①～②	金沢大学		2				○							兼1		
	海洋生化学演習	1①	金沢大学		2			○								兼1		
	英国諸島の地史 I	1②	金沢大学		1		○									兼1		
	英国諸島の地史 II	1③	金沢大学		1		○									兼1		
	環境動態学概説 I	1③	金沢大学		1		○									兼1		
	環境動態学概説 II	1④	金沢大学		1		○									兼1		
	Pythonデータ分析入門	1②	金沢大学		1		○									兼1		
	プレゼンテーション演習A	1③	金沢大学		1		○									兼1		
	プレゼンテーション演習B	1④	金沢大学		1		○									兼1		
	コンピュータグラフィクス演習 I	1③	金沢大学		1				○							兼1		
	コンピュータグラフィクス演習 II	1④	金沢大学		1				○							兼1		
	動画配信サービスを用いた情報発信演習 A	1①	金沢大学		1		○									兼1		
	動画配信サービスを用いた情報発信演習 B	1②	金沢大学		1		○									兼1		
	プログラミング演習 I	1③	金沢大学		1				○							兼1		
	プログラミング演習 II	1④	金沢大学		1				○							兼1		
	Society 5.0 概論	1③～④	金沢大学		2		○									兼1		
	英語セミナー	1①・②・③・④	金沢大学		1		○									兼1		
	ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界 1	1③	金沢大学		1			○								兼1		
	ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界 2	1④	金沢大学		1			○								兼1		
	ドイツ語 A (充実クラス I-1)	1③	金沢大学		1			○								兼1		
	ドイツ語 A (充実クラス I-2)	1④	金沢大学		1			○								兼1		
ドイツ語 A (充実クラス II-1)	1③	金沢大学		1			○								兼1			
ドイツ語 A (充実クラス II-2)	1④	金沢大学		1			○								兼1			
フランス語 A (充実クラス I-1)	1③	金沢大学		1			○								兼1			
フランス語 A (充実クラス I-2)	1④	金沢大学		1			○								兼1			
フランス語 A (充実クラス II-1)	1③	金沢大学		1			○								兼1			
フランス語 A (充実クラス II-2)	1④	金沢大学		1			○								兼1			
中国語 A (充実クラス II-1)	1③	金沢大学		1			○								兼1			
中国語 A (充実クラス II-2)	1④	金沢大学		1			○								兼1			
小計 (65科目)	-	-	-	0	78	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	兼32	-	
専門教育科目	初學者 科目	アカデミックスキル	1①	金沢大学		1			○		6	3					オムニバス	
		プレゼン・ディベート論	1③	金沢大学		1			○			1						
		小計 (2科目)	-	-	0	2	0	-	-	-	6	3						
	学域俯瞰科目	大学・学問論	1④	金沢大学		1		○									兼1	
		ジェンダーと教育	1③・④	金沢大学		1		○			1	2					共同	
		異文化理解 1	1③	金沢大学		1		○									兼1	
		異文化理解 2	1④	金沢大学		1		○									兼1	
		文学概論 1	1③	金沢大学		1		○									兼1	
		文学概論 2	1④	金沢大学		1		○									兼1	
		世界遺産学	1④	金沢大学		1		○									兼1	
		ルールリテラシー	1③	金沢大学		1		○									兼1	
		人文社会科学における法	1④	金沢大学		1		○									兼1	
		イメージの比較文化学	1③	金沢大学		1		○									兼1	
		防災学入門	1	金沢大学		2		○									兼2	集中・共同
		現代日本の文化と社会	2①	金沢大学		1		○									兼1	
地域創造学 1	2①	金沢大学		1		○									兼1			
地域創造学 2	2②	金沢大学		1		○									兼1			
小計 (14科目)	-	-	0	15	0	-	-	-	1	2	0	0	0	0	兼11	-		
ンデ スタ 応用 系 サイ エ ン ス 科 目	データサイエンスの技術	1③	金沢大学		1		○									兼1		
	国際経済の理論とデータ	2①	金沢大学		1		○									兼1		
	国際貿易の理論とデータ	2①	金沢大学		1		○									兼1		
	情報処理	2④	金沢大学		1		○									兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
学域GS科目	計量政治分析実習	3③	金沢大学		2				○								兼1	
	ビジネス・データ分析 (ビジネス・データ・サイ)	1①	金沢大学		1			○									兼1	
	統計データ分析の基本 (多変量解析)	1②	金沢大学		1			○									兼1	
	データで考える日本の未来 (データサイエンス)	1③	金沢大学		1			○									兼1	
	統計ソフトRによるビッグデータ分析	1③	金沢大学		1			○									兼1	
	金融リテラシー	1④	金沢大学		1			○									兼1	
	白書の講読と議論	1④	金沢大学		1			○									兼1	
	地域課題解決と政策立案のための統計データ分析: EBPM (根拠に基づく政策立案)	1④	金沢大学		1			○									兼1	
	統計学技能 I	1~4	金沢大学		2					○	1						集中	
	統計学技能 II	1~4	金沢大学		3					○	1						集中	
	小計 (14科目)	—	—	—	0	18	0			—	0	1	0	0	0		兼5	—
	言語学域	学域GS言語科目 I	2①	金沢大学		1			○		2	2						
		学域GS言語科目 II	2②	金沢大学		1			○		2	2						
	小計 (2科目)	—	—	—	0	2	0			—	2	2	0	0	0		—	—
共通科目	野外体験活動 I	1②	各大学	1					○	1	1							
	野外体験活動 II	1③	金沢大学			1			○		1							
	基礎ゼミナール	1①~③	富山大学		2			○		1								
	地域教材研究 (富山学)	1③・④	富山大学		2			○		1								
	卒業研究	4通	各大学	4					○	39	40	12						
	地域共生 (福祉) 論 I	3①	富山大学			1		○									兼1	
	地域共生 (福祉) 論 II	3②	富山大学			1		○									兼1	
	スクールソーシャルワーク論 I	3③	富山大学			1		○									兼1	
	スクールソーシャルワーク論 II	3④	富山大学			1		○									兼1	
	主権者教育のための批判的思考力・メディアリテラシー	2③	富山大学			1		○									兼1	
	事例で学ぶ減災・防災教育論	3①	富山大学			1		○									兼1	
	プログラミング入門	2①	富山大学			1			○	1	1							
	子どもとのふれあい体験	1①・②・③	富山大学			2			○								兼1	
小計 (13科目)	—	—	—	5	4	10			—	46	39	12	0	0		兼3	—	
専門基礎科目	教育の思想と歴史 (西洋)	1③	富山大学		1			○				1					メディア	
	教育の思想と歴史 (日本)	1④	金沢大学		1			○		1							メディア	
	教職とこれからの教育	1③	富山大学		1			○									兼2	
	教職と学校	1④	金沢大学		1			○		1	6						メディア・オムニバス	
	教育経営概論 (教育改革と学校経営)	2①・②	富山大学		1			○									兼1	
	教育制度概論 (就学保障と学校安全)	2①・②	金沢大学		1			○			1							
	教授・学習心理学 (個別最適化学習の理論と実践)	2②	富山大学		1			○				1					メディア	
	発達と教育 (自己創出としての発達)	2①	金沢大学		1			○			1						メディア	
	特別な支援を要する子どもの理解	1③	富山大学		1			○		1							メディア	
	特別支援教育概論	1④	金沢大学		1			○		1							メディア	
	未来をつくる教育課程	2③・④	富山大学		1			○				1						
	現在をつくる教育課程	2③・④	金沢大学		1			○			1							
小計 (12科目)	—	—	—	12	0	0			—	3	7	3	0	0		兼3	—	
指導、総合的な学習の時間等に関する科目	道徳教育論 (理論)	3①	富山大学		1			○				1					メディア	
	道徳教育論 (指導法)	3②	金沢大学		1			○			1						メディア	
	総合的な学習の時間教育論 I	3①	各大学		1			○		1							兼1	
	総合的な学習の時間教育論 II	3②	各大学		1			○		1							兼1	
	特別活動とカリキュラムマネジメント	2①・②	富山大学		1			○				1						
	特別活動における評価と指導の実践	2①・②	金沢大学		1			○			1							
	教育技術学	3①	富山大学		1			○		1							兼1	
	教育方法探究	3②	金沢大学		1			○			1						メディア	
	生徒指導論	2③	富山大学		1			○			1	1					メディア・オムニバス	
	教育相談の理論	2①	富山大学		1			○			1	1					メディア・オムニバス	
	学校カウンセリング	2②	金沢大学		1			○			1						メディア	
子どもの生活とキャリア教育	2④	金沢大学		1			○			1						メディア		
小計 (12科目)	—	—	—	12	0	0			—	2	5	3	0	0		兼2	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教育実践に関する科目	教育実習A(幼・小)(事前事後指導を含む)	3②・4②	各大学		5				○		1	1			兼1	
	教育実習A(中・高)(事前事後指導を含む)	3②・4②	各大学		5				○		1	1			兼1	
	教育実習B(小)	3②・4②	各大学		2				○		1	1			兼1	
	教育実習B(中・高)	3②・4②	各大学		2				○		1	1			兼1	
	教育実習B(特別支援)	3②・4②	各大学		3				○		1	1			兼1	
	教育実習B(幼)	3②・4②	各大学		2				○		1	1			兼1	
	教職実践演習(幼・小・中・高)	4③・④	各大学	2				○		2	1	1			オムニバス・共同	
	学校インターンシップI(小)	1①～④	富山大学			2			○			1			兼1	
	学校インターンシップII(幼・小)	2①～④	金沢大学			2			○			1				
	学校インターンシップII(中・高)	2①～④	金沢大学			2			○			1				
小計(10科目)	—	—	—	2	19	6	—	—	—	2	3	1	0	0	兼2	—
小学校の教科に関する専門的事項	国語科基礎A(書写を含む)(低・中学年の国語科と現代の教育課題)	1③	富山大学	1				○			1	1	1			メディア・オムニバス
	国語科基礎B(書写を含む)(地域の文学を含む)	1④	金沢大学	1				○			1	3				メディア・オムニバス
	社会科基礎A(中学年の社会科と現代の教育課題)	2①	富山大学	1				○			1	3				メディア・オムニバス
	社会科基礎B(高学年の社会科と現代の教育課題)	2②	金沢大学	1				○			2	2				メディア・オムニバス
	算数科基礎A(低・中学年)	2①	富山大学		1			○			1					メディア
	算数科基礎B(高学年)	2②	金沢大学		1			○				1				メディア
	理科基礎A(理論)	2①	富山大学		1			○			1	2	1			メディア・オムニバス
	理科基礎B(実践)	2②	金沢大学		1			○			3		1			メディア・オムニバス
	生活科基礎A(講義)	2③	富山大学		1			○				1				メディア
	生活科基礎B(実践)	3①	各大学		1			○	○		1	1				
	音楽科基礎A(講義)	2④	富山大学		1			○					1			
	音楽科基礎B(実践)	2②	各大学		1			○	○		2	1	1			共同
	図画工作科基礎A	2③	富山大学		1			○							兼1	メディア
	図画工作科基礎B(実践)	2④	各大学		1			○	○		2	1			兼2	富大単独/ 金大オムニバス・共同
	家庭科基礎A(住居・食物と現代の教育課題)	1③	富山大学	1				○			1	1				メディア・オムニバス
	家庭科基礎B(被服・家庭経営と現代の教育課題)	1④	金沢大学	1				○				2				メディア・オムニバス
	家庭科基礎C(実習)	2①	金沢大学		1				○			1				メディア・オムニバス
	体育科基礎A	1③	金沢大学		1			○			1	1				メディア・オムニバス
	体育科基礎B(実践)	2③	各大学		1			○	○		1	1	1			富大単独/ 金大オムニバス
英語科基礎A(理論)	2③	金沢大学		1			○			2	1				メディア・オムニバス	
英語科基礎B(実践)	2④	金沢大学		1			○			3					メディア・オムニバス	
小計(21科目)	—	—	—	6	15	0	—	—	—	21	21	5	0	0	兼2	—
小学校の教科指導法	初等国語科教育法I	2①	各大学	1				○			1		1			
	初等国語科教育法II	2②	各大学	1				○			1		1			
	初等社会科教育法I	2③	各大学	1				○			1				兼1	
	初等社会科教育法II	2④	各大学	1				○			1				兼1	
	初等算数科教育法I	2③	各大学	1				○			1	1				富大単独/ 金大オムニバス
	初等算数科教育法II	2④	各大学	1				○			2	1				
	初等理科教育法I	2③	各大学	1				○			1	1				
	初等理科教育法II	2④	各大学	1				○			1	1				
	初等生活科教育法I	3①	各大学	1				○			1	1				
	初等生活科教育法II	3②	各大学	1				○			1	1				
	初等音楽科教育法I	2③	各大学	1				○					1		兼1	
	初等音楽科教育法II	2④	各大学	1				○					1		兼1	
	初等図画工作科教育法I	3①	各大学	1				○			1				兼2	富大単独/ 金大オムニバス
	初等図画工作科教育法II	3②	各大学	1				○				1			兼2	富大単独/ 金大オムニバス
	初等家庭科教育法I	2①	各大学	1				○			2					富大単独/ 金大オムニバス
	初等家庭科教育法II	2②	各大学	1				○			2					
	初等体育科教育法I	2①	各大学	1				○			1	1	1			富大単独/ 金大オムニバス
初等体育科教育法II	2②	各大学	1				○			1	1	1			富大単独/ 金大オムニバス	
初等英語科教育法I	3①	各大学	1				○			1		1				
初等英語科教育法II	3②	各大学	1				○			1		1				
小計(20科目)	—	—	—	20	0	0	—	—	—	11	4	4	0	0	兼4	—
先進的 教育科目 (共通領域)	インクルーシブ教育基礎演習I	1③	富山大学	1				○			1					メディア
	インクルーシブ教育基礎演習II	1④	富山大学	1				○			1					メディア
	中学校・高等学校の特別支援教育I	3③	金沢大学	1				○			1					メディア
	中学校・高等学校の特別支援教育II	3④	金沢大学	1				○			1					メディア
	遠隔教育実践論	3③	富山大学	1				○			1					メディア

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目 (共通領域)	遠隔教育実践演習	3④	富山大学	1			○			1						兼1 メディア	
	小学校プログラミング教育の理論と実践Ⅰ	2③	富山大学	1			○			1						兼1 メディア・共同	
	小学校プログラミング教育の理論と実践Ⅱ	2④	富山大学	1			○			1						兼1 メディア・共同	
	石川県の教育実践Ⅰ	2③	金沢大学	1			○			5	1					メディア・オムニバス	
	石川県の教育実践Ⅱ	2④	金沢大学	1			○			3	2					兼1 メディア・オムニバス	
	富山県の教育実践Ⅰ	2③	富山大学	1			○			1						メディア	
	富山県の教育実践Ⅱ	2④	富山大学	1			○			1						メディア	
	国際化と学校教育Ⅰ	2③	金沢大学	1			○			1						メディア	
	国際化と学校教育Ⅱ	2④	金沢大学	1			○			1						メディア	
	SDGs教育実践演習Ⅰ	3①	金沢大学	1			○			1						兼1 メディア	
	SDGs教育実践演習Ⅱ	3②	金沢大学	1			○									兼1 メディア	
	小計(16科目)	—	—	—	16	0	0	—	—	—	12	6	0	0	0	0	兼2 —
	専門教育科目 幼児教育 科目	幼児と健康	2③	各大学		1			○			2	1				富大オムニバス/ 金大単独
		幼児と人間関係(社会性のつまずきと支援の現代的課題)	2②	富山大学		1			○			1					メディア
		幼児と人間関係(社会性の発達と現代的課題)	2①	金沢大学		1			○			1					メディア
		幼児と環境	2②	富山大学		1			○			1	1				メディア・オムニバス
幼児と言葉		2①	各大学		1			○			1	1					
幼児と表現		2③	富山大学		1			○			1	2				兼1 オムニバス	
保育内容総論(保育実践を巡る最新動向を含む)		2①	富山大学		1			○			2					メディア・オムニバス	
保育内容(健康)(健康に関する現代的課題を含む)		2④	金沢大学		1			○			1					メディア	
健康の指導法(現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)		3①	富山大学		1			○				1				メディア・集中	
保育内容(人間関係)		2③	各大学		1			○			1	1					
人間関係の指導法		2④	各大学		1			○			1	1				集中	
保育内容(環境)(環境に関する現代的課題を含む)		2③	金沢大学		1			○								兼1 メディア	
環境の指導法(現代的課題を踏まえた石川などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)		2④	金沢大学		1			○			1					メディア	
保育内容(言葉)(言葉に関する現代的課題を含む)		2②	金沢大学		1			○			1					メディア	
言葉の指導法(現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)		2③	富山大学		1			○				1				メディア	
保育内容(表現)(表現に関する現代的課題を含む)		2④	金沢大学		1			○			1	1				メディア・オムニバス	
表現の指導法(現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)		3①	富山大学		1			○			1	1				兼1 メディア・オムニバス	
幼児教育カリキュラム論Ⅰ		3③	富山大学		1			○				1					
幼児教育カリキュラム論Ⅱ		3④	富山大学		1			○				1					
幼児理解の理論と方法		2②	各大学		1			○			2						
幼児理解と相談支援		2①	各大学		1			○			2						
発達心理学Ⅰ		3③	金沢大学		1			○				1					
発達心理学Ⅱ		3④	金沢大学		1			○				1					
乳幼児心理学特講Ⅰ		3①	金沢大学		1			○				1					
乳幼児心理学特講Ⅱ		3②	金沢大学		1			○				1					
乳幼児心理学演習Ⅰ		3③	金沢大学		1			○				1					
乳幼児心理学演習Ⅱ		3④	金沢大学		1			○				1					
子育てネットワーク論Ⅰ		2②	富山大学		1			○				1					
子育てネットワーク論Ⅱ		2③	富山大学		1			○				1					
子育て支援		2④	富山大学		1			○				1					
保育の心理学		3①	富山大学		1			○			1					集中	
子ども家庭支援の心理学Ⅰ		2①	富山大学		1			○			1						
子ども家庭支援の心理学Ⅱ		2②	富山大学		1			○			1						
子どもの健康と安全		2③	富山大学		1			○			1						
障害児保育		2④	富山大学		1			○				1					
地域子育て支援法Ⅰ		3①	富山大学		1			○			1						
地域子育て支援法Ⅱ		3②	富山大学		1			○			1						
児童福祉論Ⅰ		2①	富山大学		1			○				1					
児童福祉論Ⅱ		2②	富山大学		1			○				1					
社会福祉概論Ⅰ		2③	富山大学		1			○				1					
社会福祉概論Ⅱ		2④	富山大学		1			○				1					
小計(41科目)	—	—	—	0	41	0	—	—	—	4	8	2	0	0	0	兼2 —	
特別支援教育	特別支援教育基礎論Ⅰ(石川県の教育実践を含む)	2①	金沢大学		1			○			1					メディア	
	特別支援教育基礎論Ⅱ(富山県の教育実践を含む)	2②	富山大学		1			○			1					メディア	
	病気・障害・不応の発達支援論Ⅰ	4①	金沢大学		1			○			1						
	病気・障害・不応の発達支援論Ⅱ	4②	金沢大学		1			○			1						
	障害児者支援論	2	富山大学		1			○			1					集中	
知的障害児の心理・生理・病理Ⅰ	2①	金沢大学		1			○			1					メディア		
知的障害児の心理・生理・病理Ⅱ	2②	各大学		1			○			1	1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専 門 教 育 科 目	特別支援教育	肢体不自由児の心理・生理・病理Ⅰ（教育・医療・福祉の機関連携を含む）	3①	富山大学		1		○			1						メディア		
		肢体不自由児の心理・生理・病理Ⅱ（教育・医療・福祉の機関連携を含む）	3②	富山大学		1		○			1						メディア		
		病弱児の心理・生理・病理Ⅰ（教育・医療・福祉の機関連携を含む）	3③	富山大学		1		○			1						メディア		
		病弱児の心理・生理・病理Ⅱ（教育・医療・福祉の機関連携を含む）	3④	富山大学		1		○			1						メディア		
		聴覚障害の心理・生理・病理Ⅰ（教育・医療・福祉の機関連携を含む）	2③	金沢大学		1		○			1						メディア		
		聴覚障害の心理・生理・病理Ⅱ（教育・医療・福祉の機関連携を含む）	2④	金沢大学		1		○			1						メディア		
		知的障害教育課程・指導論Ⅰ	2③	富山大学		1		○				1					メディア		
		知的障害教育課程・指導論Ⅱ	2④	各大学		1		○				2							
		肢体不自由教育論Ⅰ（教育の現代的課題を含む）	3③	金沢大学		1		○				1						メディア	
		肢体不自由教育論Ⅱ（教育の現代的課題を含む）	3④	金沢大学		1		○				1						メディア	
		病弱児の教育	3	富山大学		2		○									兼1	メディア・集中	
		聴覚障害教育課程論Ⅰ	3①	金沢大学		1		○				1						メディア	
		聴覚障害教育課程論Ⅱ	3②	金沢大学		1		○				1						メディア	
		聴覚障害指導法Ⅰ	3③	金沢大学		1		○				1						メディア	
		聴覚障害指導法Ⅱ	3④	金沢大学		1		○				1						メディア	
		手話序論Ⅰ	2①	金沢大学		1		○				1							
		手話序論Ⅱ	2②	金沢大学		1		○				1							
		発声発語支援法Ⅰ	3①	金沢大学		1		○				1						メディア	
		発声発語支援法Ⅱ	3②	金沢大学		1		○				1						メディア	
		知的障害児の教育Ⅰ	3①	富山大学		1		○					1						
		知的障害児の教育Ⅱ	3①	富山大学		1		○					1						
		知的障害教育実地演習Ⅰ	3②	富山大学		1				○			1						
		知的障害教育実地演習Ⅱ	3②	富山大学		1				○			1						
		障害児教育基礎論Ⅰ	2①	金沢大学		1		○				3	2					オムニバス	
		障害児教育基礎論Ⅱ	2②	金沢大学		1		○				3	2					オムニバス	
		特別支援教育実地演習	2	富山大学		2				○		1	2					共同・集中	
		ことばの障害とコミュニケーションⅠ	2③	金沢大学		1		○				1							
		ことばの障害とコミュニケーションⅡ	2④	金沢大学		1		○				1							
		発達障害指導法Ⅰ	3③	金沢大学		1		○					1						
		発達障害指導法Ⅱ	3④	金沢大学		1		○					1						
		発達障害児者支援論Ⅰ	3③	富山大学		1		○					1						
		発達障害児者支援論Ⅱ	3④	富山大学		1		○					1						
		障害児の教育診断臨床Ⅰ	3①	富山大学		1		○				1	1					オムニバス	
		障害児の教育診断臨床Ⅱ	3	富山大学		1		○						1				集中	
		言語障害指導法	4②	金沢大学		1		○				1							
		発達障害総論	4①	金沢大学		1		○					1						
		重複障害児教育Ⅰ	3①	金沢大学		1		○				1						メディア	
		重複障害児教育Ⅱ	3②	金沢大学		1		○				1							
		障害児教育基礎演習Ⅰ	2③	金沢大学		1				○		3	2					共同	
		障害児教育基礎演習Ⅱ	2④	金沢大学		1				○		3	2					共同	
		障害児支援学演習Ⅰ	3①	富山大学			1			○		1	2					共同	
		障害児支援学演習Ⅱ	3②	富山大学			1			○		1	2					共同	
		障害児支援学演習Ⅲ	3③	富山大学			1			○		1	2					共同	
		障害児支援学演習Ⅳ	3④	富山大学			1			○		1	2					共同	
		特別支援教育学演習	3	各大学			2			○		4	4					集中・共同	
		小計（52科目）		—		0	49	6		—		4	4	1	0	0	兼1	—	
		国語教育	日本語学概論Ⅰ	2①	富山大学		1		○				1						
			日本語学概論Ⅱ	2②	富山大学		1		○				1						
			日本語学演習Ⅰ	3③	各大学		1				○		1					兼1	
			日本語学演習Ⅱ	3④	各大学		1				○		1					兼1	
			日本語学演習Ⅲ	4①	富山大学		1				○		1						
			日本語学演習Ⅳ	4②	富山大学		1				○		1						
日本語表現Ⅰ（言語指導におけるデータと理論の融合）	2③		富山大学		1		○				1								
日本語表現Ⅱ（言語指導におけるデータと理論の融合）	2④		富山大学		1		○				1								
日本語史Ⅰ	2③		各大学		1		○				1						兼1		
日本語史Ⅱ	2④		各大学		1		○				1						兼1		
日本語学講読Ⅰ	3①		富山大学		1		○				1								
日本語学講読Ⅱ	3②		富山大学		1		○				1								
日本語学講読Ⅲ	3①		金沢大学		1		○										兼1		
日本語学講読Ⅳ	3②		金沢大学		1		○										兼1		
日本文学概論Ⅰ（教育と文学の関係を含む）	2①		富山大学		1		○				1								

科目区分	授業科目の名称	配当年度	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	日本文学概論Ⅱ (国語教科書と文学理論)	2②	富山大学		1		○			1							
	日本文学演習Ⅰ	3①	各大学		1			○		1	1						
	日本文学演習Ⅱ	3②	各大学		1			○		1	1						
	日本文学演習Ⅲ	3③	各大学		1			○		1	1						
	日本文学演習Ⅳ	3④	各大学		1			○		1	1						
	日本児童文学Ⅰ	2③	富山大学		1		○			1							
	日本児童文学Ⅱ	2④	富山大学		1		○			1							
	日本近現代文学Ⅰ	2①	金沢大学		1		○				1					メディア	
	日本近現代文学Ⅱ	2②	金沢大学		1		○				1					メディア	
	日本古典文学Ⅰ	2③	金沢大学		1		○				1					メディア	
	日本古典文学Ⅱ	2④	金沢大学		1		○				1					メディア	
	日本文学史Ⅰ (教育上の現代的課題を含む)	2①	金沢大学		1		○				1					メディア	
	日本文学史Ⅱ (教育上の現代的課題を含む)	2②	金沢大学		1		○				1					メディア	
	日本文学講読Ⅰ	3①	各大学		1		○			1	1						
	日本文学講読Ⅱ	3②	各大学		1		○			1	1						
	日本文学講読Ⅲ	4①	各大学		1		○			1	1						
	日本文学講読Ⅳ	4②	各大学		1		○			1	1						
	漢文学概論Ⅰ (教育上の現代的課題を含む)	2③	金沢大学		1		○				1					メディア	
	漢文学概論Ⅱ (教育上の現代的課題を含む)	2④	金沢大学		1		○				1					メディア	
	漢文学演習Ⅰ	3③	各大学		1			○			1					兼1	
	漢文学演習Ⅱ	3④	金沢大学		1			○			1						
	漢文学講読Ⅰ	4①	金沢大学		1		○				1						
	漢文学講読Ⅱ	4②	金沢大学		1		○				1						
	書写書道基礎Ⅰ	3③	各大学		1			○			1					兼1	
	書写書道基礎Ⅱ	3④	各大学		1			○			1					兼1	
	国語科教育法Ⅰ (石川県の教育実践を含む)	2①	金沢大学		1		○				1					メディア	
	国語科教育法Ⅱ (石川県の教育実践を含む)	2②	金沢大学		1		○				1					メディア	
	国語科教育法Ⅲ (富山県の教育実践を含む)	2③	富山大学		1		○					1					
	国語科教育法Ⅳ (富山県の教育実践を含む)	2④	富山大学		1		○					1					
	国語科教育法Ⅴ	3①	各大学		1		○				1						
	国語科教育法Ⅵ	3②	各大学		1		○				1						
	国語科教育法Ⅶ	3③	各大学		1		○				1						
	国語科教育法Ⅷ	3④	各大学		1		○				1						
	国語科教育演習Ⅰ	3③	金沢大学		1			○			1						
	国語科教育演習Ⅱ	3④	金沢大学		1			○			1						
	国語科教育演習Ⅲ	4①	金沢大学		1			○			1						
	国語科教育演習Ⅳ	4②	金沢大学		1			○			1						
	国語科実践研究Ⅰ	3①	金沢大学			1		○			1	3				オムニバス	
	国語科実践研究Ⅱ	3②	金沢大学			1		○			1	3				オムニバス	
	国語科実践研究Ⅲ	4①	金沢大学			1		○			1	3				オムニバス	
	国語科実践研究Ⅳ	4②	金沢大学			1		○			1	3				オムニバス	
	「話すこと・聞くこと」指導実践演習	3①	富山大学			1		○				1					
	「書くこと」指導実践演習	3②	富山大学			1		○				1					
	「読むこと」指導実践演習	3③	富山大学			1		○				1					
	メディア・地域教材開発指導演習	3④	富山大学			1		○				1					
	国語科教育演習	4①	富山大学			1		○					1				
	小計 (61科目)		—		0	52	9				2	4	1	0	0	兼5	—
	社会科教育	日本史学概論Ⅰ	2①	各大学		1		○			1	1					
		日本史学概論Ⅱ	2②	各大学		1		○			1	1					
		日本史学各論 (近世・近代)Ⅰ	2③	富山大学		1		○				1					メディア
		日本史学各論 (近世・近代)Ⅱ	2④	富山大学		1		○				1					メディア
		日本史学各論 (古代・中世)Ⅰ	2③	金沢大学		1		○			1						メディア
		日本史学各論 (古代・中世)Ⅱ	2④	金沢大学		1		○			1						メディア
		日本史学演習Ⅰ	3①	各大学		1			○		1	1					
		日本史学演習Ⅱ	3②	各大学		1			○		1	1					
		日本史学演習Ⅲ	3③	各大学		1			○		1	1					
		日本史学演習Ⅳ	3④	各大学		1			○		1	1					
		歴史学野外実習	2通	金沢大学		1				○		1					
		西洋史学概論Ⅰ (現代的課題を踏まえて)	2③	富山大学		1		○				1					メディア
		西洋史学概論Ⅱ (現代的課題を踏まえて)	2④	富山大学		1		○				1					メディア
		東洋史学概論Ⅰ	3③	金沢大学		1		○									兼2
東洋史学概論Ⅱ		3④	金沢大学		1		○									兼2	
西洋史学各論Ⅰ	3①	富山大学		1		○				1							
西洋史学各論Ⅱ	3②	富山大学		1		○				1							

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専 門 教 育 科 目	社 会 科 教 育	西洋史学演習Ⅰ	3①	富山大学		1			○		1							
		西洋史学演習Ⅱ	3②	富山大学		1			○		1							
		西洋史学演習Ⅲ	3③	富山大学		1			○		1							
		西洋史学演習Ⅳ	3④	富山大学		1				○		1						
		人文地理学概論Ⅰ	2①	各大学		1			○			1	1					
		人文地理学概論Ⅱ	2②	各大学		1			○			1	1					
		地誌学Ⅰ	2③	各大学		1			○			1	1					
		地誌学Ⅱ	2④	各大学		1			○			1	1					
		地理学各論Ⅰ	2③	各大学		1			○			1	1					
		地理学各論Ⅱ	2④	各大学		1			○			1	1					
		自然地理学Ⅰ	3①	各大学		1			○									兼1
		自然地理学Ⅱ	3②	各大学		1			○									兼1
		地理学演習Ⅰ	3①	各大学		1				○		1	1					
		地理学演習Ⅱ	3②	各大学		1				○		1	1					
		地理学演習Ⅲ	3③	各大学		1				○		1	1					
		地理学演習Ⅳ	3④	各大学		1				○		1	1					
		地理学巡検	3②	富山大学		1					○	1						集中
		地理学野外実習	2①・②	金沢大学		1					○		1					集中
		法学概論Ⅰ	2③	各大学		1			○			1	1					
		法学概論Ⅱ	2④	各大学		1			○			1	1					
		法学各論Ⅰ	3①	各大学		1			○			1	1					
		法学各論Ⅱ	3②	金沢大学		1			○				1					
		法学演習Ⅰ	3①	富山大学		1				○		1						
		法学演習Ⅱ	3②	富山大学		1				○		1						
		法学演習Ⅲ	3③	金沢大学		1				○			1					
		法学演習Ⅳ	3④	金沢大学		1				○			1					
		政治学概論Ⅰ（現代的課題を含む）	2①	富山大学		1			○				1					メディア
		政治学概論Ⅱ（現代的課題を含む）	2②	富山大学		1			○				1					メディア
		人間安全保障論Ⅰ	3③	富山大学		1			○				1					メディア
		人間安全保障論Ⅱ	3④	富山大学		1			○				1					メディア
		平和学Ⅰ	2①	富山大学		1			○				1					
		平和学Ⅱ	2②	富山大学		1			○				1					
		地球市民社会論Ⅰ	2③	富山大学		1			○				1					
		地球市民社会論Ⅱ	2④	富山大学		1			○				1					
		政治学演習Ⅰ	3①	富山大学		1				○			1					
		政治学演習Ⅱ	3②	富山大学		1				○			1					
		政治学演習Ⅲ	3③	富山大学		1				○			1					
		政治学演習Ⅳ	3④	富山大学		1				○			1					
		経済学概論	3①	各大学		1			○									兼2
		社会学概論Ⅰ（現代的課題を含む）	3①	富山大学		1			○				1					メディア
		社会学概論Ⅱ（現代的課題を含む）	3②	富山大学		1			○				1					メディア
		地域社会論Ⅰ	4①	富山大学		1			○				1					
		地域社会論Ⅱ	4②	富山大学		1			○				1					
		社会学演習Ⅰ	3①	富山大学		1				○			1					
		社会学演習Ⅱ	3②	富山大学		1				○			1					
		社会学演習Ⅲ	3③	富山大学		1				○			1					
		社会学演習Ⅳ	3④	富山大学		1				○			1					
哲学概論Ⅰ（哲学と現代的教育状況）	2①	金沢大学		1			○			1						メディア		
哲学概論Ⅱ（哲学と現代的教育状況）	2②	金沢大学		1			○			1						メディア		
倫理学Ⅰ（現代応用倫理学を含む）	3③	金沢大学		1			○			1						メディア		
倫理学Ⅱ（現代応用倫理学を含む）	3④	金沢大学		1			○			1						メディア		
宗教学Ⅰ	3①	金沢大学		1			○			1						メディア		
宗教学Ⅱ	3②	金沢大学		1			○			1						メディア		
哲学史Ⅰ	3①	金沢大学		1			○			1								
哲学史Ⅱ	3②	金沢大学		1			○			1								
哲学演習Ⅰ	3③	金沢大学		1				○		1								
哲学演習Ⅱ	3④	金沢大学		1				○		1								
青年心理学	3③	金沢大学		1			○				1							
社会科・地歴科教育法Ⅰ（北陸の教育実践を含む）	2①	金沢大学		1			○			1		1				メディア		
社会科・地歴科教育法Ⅱ（北陸の教育実践を含む）	2②	金沢大学		1			○			1						メディア		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
社会科学教育	社会科・地歴科教育法Ⅲ	3①	各大学		1		○			1						兼1
	社会科・地歴科教育法Ⅳ	3②	各大学		1		○			1						兼1
	社会科・公民科教育法Ⅰ（北陸の教育実践を含む）	2③	富山大学		1		○									兼1 メディア
	社会科・公民科教育法Ⅱ（北陸の教育実践を含む）	2④	富山大学		1		○									兼1 メディア
	社会科・公民科教育法Ⅲ	3③	各大学		1		○			1						兼1
	社会科・公民科教育法Ⅳ	3④	各大学		1		○			1						兼1
	小計（83科目）	—		0	83	0	—			6	6	0	0	0		兼7
専 門 教 育 科 目	線形代数学概論Ⅰ（代数と現代の数学教育を含む）	2③	富山大学		1		○			1						メディア
	線形代数学概論Ⅱ（代数と現代の数学教育を含む）	2④	富山大学		1		○			1						メディア
	代数学Ⅰ	3③	富山大学		1		○			1						メディア
	代数学Ⅱ	3④	富山大学		1		○			1						メディア
	数論Ⅰ	3①	富山大学		1		○			1						メディア
	数論Ⅱ	3②	富山大学		1		○			1						メディア
	幾何学概論Ⅰ（幾何学と現代の数学教育を含む）	2①	金沢大学		1		○			1						メディア
	幾何学概論Ⅱ（幾何学と現代の数学教育を含む）	2②	金沢大学		1		○			1						メディア
	線形空間論Ⅰ	3①	金沢大学		1		○			1						メディア
	線形空間論Ⅱ	3②	金沢大学		1		○			1						メディア
	曲線論	3③	金沢大学		1		○			1						メディア
	曲面論	3④	金沢大学		1		○			1						メディア
	位相空間論	4③	金沢大学		1		○			1						メディア
	可微分多様体論	4④	金沢大学		1		○			1						メディア
	解析学概論Ⅰ	2①	各大学		1		○			1	1					
	解析学概論Ⅱ	2②	各大学		1		○			1	1					
	解析学Ⅰ	2③	各大学		1		○			1	1					
	解析学Ⅱ	2④	各大学		1		○			1	1					
	解析学Ⅲ	3③	富山大学		1		○				1					メディア
	解析学Ⅳ	3④	富山大学		1		○				1					メディア
	微分方程式Ⅰ	4①	富山大学		1		○				1					メディア
	微分方程式Ⅱ	4②	富山大学		1		○				1					メディア
	確率論概論（確率論と現代の数学教育を含む）	2③	金沢大学		1		○			1						メディア
	統計学概論（統計学と現代の数学教育を含む）	2④	金沢大学		1		○			1						メディア
	確率論	3③	富山大学		1		○			1						メディア
	統計学	3④	富山大学		1		○			1						メディア
	回帰分析	4③	金沢大学		1		○			1						メディア
	コンピュータ概論Ⅰ（授業への応用を含む）	3①	富山大学		1		○				1					メディア
	コンピュータ概論Ⅱ（授業への応用を含む）	3②	富山大学		1		○				1					メディア
	論理学	3①	金沢大学		1		○			1						メディア
	集合論	3②	金沢大学		1		○			1						メディア
	数学科教育法Ⅰ（富山県の教育実践を含む）	2①	富山大学		1		○			1						メディア
	数学科教育法Ⅱ（富山県の教育実践を含む）	2②	富山大学		1		○			1						メディア
	数学科教育法Ⅲ（石川県の教育実践を含む）	2③	金沢大学		1		○				1					メディア
	数学科教育法Ⅳ（石川県の教育実践を含む）	2④	金沢大学		1		○				1					メディア
	数学科教育法Ⅴ	3①	各大学		1		○			1	1					
	数学科教育法Ⅵ	3②	各大学		1		○			2	1					富大単独/ 金大オムニバス
	数学科教育法Ⅶ	4③	各大学		1		○			2	1					富大単独/ 金大オムニバス
	数学科教育法Ⅷ	4④	各大学		1		○			2						
	算数・数学科教育論	4①	金沢大学		1		○				1					メディア
	算数・数学科授業論	4②	金沢大学		1		○			1						メディア
	算数・数学科教材開発研究	4①	富山大学		1		○			1						メディア
小計（42科目）	—			0	42	0	—			4	2	0	0	0		—
理 科 教 育	理科内容A（力学概論と現代理科教育）	2①	富山大学		1		○			1						メディア
	理科内容A（電磁気学概論と現代理科教育）	2③	金沢大学		1		○			1						メディア
	理科内容A（熱力学）	2②	富山大学		1		○				1					メディア
	理科内容A（一般物理学）	2④	金沢大学		1		○			1						メディア
	理科内容演習AⅠ（物理学）	3③	各大学		1			○		1	1					
	理科内容演習AⅡ（物理学）	3④	各大学		1			○		1	1					
	理科実験AⅠ（物理学）	3①	各大学		0.5				○	1	1					
	理科実験AⅡ（物理学）	3②	各大学		0.5				○	1	1					
	理科内容B（無機化学概論と現代理科教育）	2①	金沢大学		1		○					1				メディア
	理科内容B（物理化学概論と現代理科教育）	2③	富山大学		1		○			1						メディア
	理科内容B（物性化学）	2②	金沢大学		1		○					1				メディア
理科内容B（一般化学）	2④	富山大学		1		○			1						メディア	
理科内容演習BⅠ（化学）	3③	各大学		1			○		1		1					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専 門 教 育 科 目	理科内容演習BⅡ(化学)	3④	各大学		1			○		1		1					
	理科実験BⅠ(化学)	3①	各大学		0.5			○		1		1					
	理科実験BⅡ(化学)	3②	各大学		0.5			○		1		1					
	理科内容C(生物共通性概論と現代理科教育)	2①	富山大学		1		○				1					メディア	
	理科内容C(生物多様性概論と現代理科教育)	2②	金沢大学		1		○				1					メディア	
	理科内容C(ヒトの生物学)	2③	富山大学		1		○				1					メディア	
	理科内容C(一般生物学)	2④	金沢大学		1		○				1					メディア	
	理科内容演習CⅠ(生物学)	3③	各大学		1			○			1	1					
	理科内容演習CⅡ(生物学)	3④	各大学		1			○			1	1					
	理科実験CⅠ(生物学)	3①	各大学		0.5				○		1	1					
	理科実験CⅡ(生物学)	3②	各大学		0.5				○		1	1					
	理科内容D(地球環境科学概論と現代理科教育)	2②	富山大学		1			○					1			メディア	
	理科内容D(地球物質科学概論と現代理科教育)	2①	金沢大学		1			○					1			メディア	
	理科内容D(地球史学)	2④	富山大学		1			○					1			メディア	
	理科内容D(一般地学)	2③	金沢大学		1			○					1			メディア	
	理科内容演習DⅠ(地学)	3③	各大学		1				○			1		1			
	理科内容演習DⅡ(地学)	3④	各大学		1				○			1		1			
	理科実験DⅠ(地学)	3①	各大学		0.5					○		1		1			
	理科実験DⅡ(地学)	3②	各大学		0.5					○		1		1			
	理科教育法Ⅰ(石川県の教育実践を含む)	2①	金沢大学		1			○				1				メディア	
	理科教育法Ⅱ(石川県の教育実践を含む)	2②	金沢大学		1			○				1				メディア	
	理科教育法Ⅲ(富山県の教育実践を含む)	2③	富山大学		1			○				1				メディア	
	理科教育法Ⅳ(富山県の教育実践を含む)	2④	富山大学		1			○				1				メディア	
	理科教育法Ⅴ	3①	各大学		1			○				1	1				
	理科教育法Ⅵ	3②	各大学		1			○				1	1				
	理科教育法Ⅶ	3③	各大学		1			○				1	1				
	理科教育法Ⅷ	3④	各大学		1			○				1	1				
	理科教育演習Ⅰ	4①	各大学		1				○			1	1				
	理科教育演習Ⅱ	4②	各大学		1				○			1	1				
	理科教育実践研究Ⅰ	3①	金沢大学			1			○			4		1		オムニバス	
	理科教育実践研究Ⅱ	3②	金沢大学			1			○			4		1		オムニバス	
	理科教育実践研究Ⅲ	4①	金沢大学			1			○			4		1		オムニバス	
	理科教育実践研究Ⅳ	4②	金沢大学			1			○			4		1		オムニバス	
	小計(46科目)		—		0	38	4		—		5	3	2	0	0	—	
	音 楽 教 育	ソルフェージュⅠ	2①	金沢大学		1				○		1					
		ソルフェージュⅡ	2②	金沢大学		1				○			1				
		歌唱法Ⅰ	2③	金沢大学		1					○	1					
		歌唱法Ⅱ	2④	金沢大学		1					○	1					
		歌唱法Ⅲ	3①	金沢大学		1					○	1					
		歌唱法Ⅳ	3②	金沢大学		1					○	1					
		アンサンブルⅠ(声楽)	2③	金沢大学		1					○	1					
		アンサンブルⅡ(声楽)	3①	金沢大学		1					○	1					
		アンサンブルⅢ(声楽)	3③	金沢大学		1					○	1					
		日本の伝統的歌唱法	3①・②	金沢大学		1					○						兼1
		歌唱法演習Ⅰ	4①	金沢大学		1				○		1					
		歌唱法演習Ⅱ	4②	金沢大学		1				○		1					
歌唱法演習Ⅲ		4③	金沢大学		1				○		1						
歌唱法演習Ⅳ		4④	金沢大学		1				○		1						
和楽器奏法		3①・②	金沢大学		1					○						兼1	
ピアノ奏法Ⅰ		2③	金沢大学		1					○	1						
ピアノ奏法Ⅱ		2④	金沢大学		1					○	1						
ピアノ奏法Ⅲ		3③	金沢大学		1					○	1						
ピアノ奏法Ⅳ		3④	金沢大学		1					○	1						
ピアノ奏法演習Ⅰ		4①	金沢大学		1				○		1						
ピアノ奏法演習Ⅱ		4②	金沢大学		1				○		1						
ピアノ奏法演習Ⅲ		4③	金沢大学		1				○		1						
ピアノ奏法演習Ⅳ		4④	金沢大学		1				○		1						
アンサンブルⅣ(木管)		2④	金沢大学		1					○						兼1	
アンサンブルⅤ(金管)		3②	金沢大学		1					○						兼1	
アンサンブルⅥ(室内楽)		3	富山大学		1					○			1			集中	
アンサンブルⅦ(室内楽)		3	富山大学		1					○			1			集中	
指揮法	4①・②	金沢大学		1					○		1						
音楽理論及び和声学(作曲・編曲を含む)Ⅰ	2①	金沢大学		1			○				1						
音楽理論及び和声学(作曲・編曲を含む)Ⅱ	2②	金沢大学		1			○				1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
音楽教育	音楽理論及び和声学（作曲・編曲を含む）Ⅲ	2③	金沢大学		1		○				1						
	音楽理論及び和声学（作曲・編曲を含む）Ⅳ	2④	金沢大学		1		○				1						
	音楽史Ⅰ（西洋音楽）	3①	富山大学		1		○								兼1	集中	
	音楽史Ⅱ（西洋音楽）	3②	富山大学		1		○								兼1	集中	
	音楽史Ⅲ（日本及び世界の音楽）	3③	金沢大学		1		○								兼1		
	音楽史Ⅳ（日本及び世界の音楽）	3④	金沢大学		1		○								兼1		
	作曲（編曲を含む）演習Ⅰ	4①	金沢大学		1			○			1						
	作曲（編曲を含む）演習Ⅱ	4②	金沢大学		1			○			1						
	作曲（編曲を含む）演習Ⅲ	4③	金沢大学		1			○			1						
	作曲（編曲を含む）演習Ⅳ	4④	金沢大学		1			○			1						
	音楽科教育法Ⅰ（石川県の教育実践を含む）	2①	金沢大学		1		○								兼1	メディア	
	音楽科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）	2②	金沢大学		1		○								兼1	メディア	
	音楽科教育法Ⅲ（富山県の教育実践を含む）	2③	富山大学		1		○					1				メディア	
	音楽科教育法Ⅳ（富山県の教育実践を含む）	2④	富山大学		1		○					1				メディア	
	音楽科教育法Ⅴ	3①	金沢大学		1		○								兼1		
	音楽科教育法Ⅵ	3②	金沢大学		1		○								兼1		
	音楽科教育法Ⅶ	3③	金沢大学		1		○								兼1		
	音楽科教育法Ⅷ	3④	金沢大学		1		○								兼1		
	小計（48科目）	—	—	—	0	48	0	—	—	—	2	1	1	0	0	兼6	—
	専門教育科目	美術教育															
絵画基礎Ⅰ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）		2③	金沢大学		1				○		1						
絵画基礎Ⅱ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）		2④	富山大学		1				○						兼1	集中	
絵画Ⅰ		3①	金沢大学		1				○		1						
絵画Ⅱ		3②	金沢大学		1				○		1						
絵画Ⅲ		3③	金沢大学		1				○		1						
絵画Ⅳ		3④	金沢大学		1				○		1						
彫刻基礎Ⅰ（現代美術表現を含む）		2①	金沢大学		1				○						兼1		
彫刻基礎Ⅱ（現代美術表現を含む）		2②	富山大学		1				○						兼1	集中	
彫刻Ⅰ		3①	金沢大学		1				○						兼1		
彫刻Ⅱ		3②	金沢大学		1				○						兼1		
彫刻Ⅲ		3③	金沢大学		1				○						兼1		
彫刻Ⅳ		3④	金沢大学		1				○						兼1		
デザイン基礎Ⅰ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）		2③	金沢大学		1				○			1					
デザイン基礎Ⅱ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）		2④	富山大学		1				○		1						
デザインⅠ		3①	各大学		1				○		1	1					
デザインⅡ		3②	各大学		1				○		1	1					
デザインⅢ		3③	各大学		1				○		1	1					
デザインⅣ		3④	各大学		1				○		1	1					
工芸基礎Ⅰ		2①	金沢大学		1				○		1						
工芸基礎Ⅱ		2②	富山大学		1				○						兼1	集中	
工芸論Ⅰ		2①	金沢大学		1		○								兼1		
工芸論Ⅱ		2②	金沢大学		1		○								兼1		
比較美術史Ⅰ（美術理論含む）		3①	金沢大学		1		○								兼1		
比較美術史Ⅱ（美術理論含む）		3②	金沢大学		1		○								兼1		
日本美術史（美術理論含む）		2	富山大学		2		○								兼1	集中	
西洋美術史（美術理論含む）		2	富山大学		2		○								兼1	集中	
美術実地研究		3②	各大学		1				○		3	1			兼2	集中	
美術科教育法Ⅰ（石川県の教育実践を含む）		2①	金沢大学		1		○				1					メディア	
美術科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）		2②	金沢大学		1		○				1					メディア	
美術科教育法Ⅲ（富山県の教育実践を含む）		2③	富山大学		1		○								兼1	メディア	
美術科教育法Ⅳ（富山県の教育実践を含む）		2④	富山大学		1		○								兼1	メディア	
美術科教育法Ⅴ		3①	各大学		1		○				3	1			兼2	富大単独/ 金大オムニバス	
美術科教育法Ⅵ	3②	各大学		1		○				3	1			兼2	富大単独/ 金大オムニバス		
美術科教育法Ⅶ	3③	各大学		1		○				3	1			兼2	富大単独/ 金大オムニバス		
美術科教育法Ⅷ	3④	各大学		1		○				3	1			兼2	富大単独/ 金大オムニバス		
造形教育演習Ⅰ	4①	各大学			1			○		1				兼1			
造形教育演習Ⅱ	4②	各大学			1			○		1				兼1			
造形教育演習Ⅲ	4③	各大学			1			○		1				兼1			
造形教育演習Ⅳ	4④	各大学			1			○		1				兼1			
彫刻制作研究Ⅰ	4①	金沢大学		1				○						兼1			
彫刻制作研究Ⅱ	4②	金沢大学		1				○						兼1			
彫刻制作研究Ⅲ	4③	金沢大学		1				○						兼1			
彫刻制作研究Ⅳ	4④	金沢大学		1				○						兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
美術教育	美術史研究Ⅰ	4①	金沢大学			1	○									兼1	
	美術史研究Ⅱ	4②	金沢大学			1	○									兼1	
	美術史研究Ⅲ	4③	金沢大学			1	○									兼1	
	美術史研究Ⅳ	4④	金沢大学			1	○									兼1	
	絵画制作研究Ⅰ	4①	金沢大学			1			○	1							
	絵画制作研究Ⅱ	4②	金沢大学			1			○	1							
	絵画制作研究Ⅲ	4③	金沢大学			1		○		1							
	絵画制作研究Ⅳ	4④	金沢大学			1		○		1							
	デザイン制作研究Ⅰ	4①	金沢大学			1			○		1						
	デザイン制作研究Ⅱ	4②	金沢大学			1			○		1						
	デザイン制作研究Ⅲ	4③	金沢大学			1			○		1						
	デザイン制作研究Ⅳ	4④	金沢大学			1			○		1						
	小計(55科目)	—			0	37	20				3	1	0	0	0	兼9	—
	専門教育科目	体操Ⅰ	2①	各大学		0.5				○		2					
体操Ⅱ		2②	各大学		0.5				○		2						
器械運動Ⅰ		2①	各大学		0.5				○		2						
器械運動Ⅱ		2②	各大学		0.5				○		2						
陸上Ⅰ		2①	各大学		0.5				○		1					兼1	
陸上Ⅱ		2②	各大学		0.5				○		1					兼1	
水泳Ⅰ		3①	各大学		0.5				○							兼1	
水泳Ⅱ		3②	各大学		0.5				○							兼1	
武道AⅠ(剣道)		2③	金沢大学		0.5				○							兼1	
武道AⅡ(柔道)		2④	金沢大学		0.5				○							兼1	
武道BⅠ(柔道)		2③	富山大学		0.5				○							兼1	
武道BⅡ(柔道)		2④	富山大学		0.5				○							兼1	
ダンスⅠ		3①	各大学		0.5				○			1				兼1	
ダンスⅡ		3②	各大学		0.5				○			1				兼1	
球技(ゴール型)AⅠ(サッカー)		3①	金沢大学		0.5				○		1						
球技(ゴール型)AⅡ(サッカー)		3②	金沢大学		0.5				○		1						
球技(ゴール型)BⅠ(バスケットボール)		3①	富山大学		0.5				○							兼1	
球技(ゴール型)BⅡ(バスケットボール)		3②	富山大学		0.5				○		1						
球技(ネット型)AⅠ(バレーボール)		3①	金沢大学		0.5				○			1					
球技(ネット型)AⅡ(バレーボール)		3②	金沢大学		0.5				○			1					
球技(ネット型)BⅠ(バレーボール)		3①	富山大学		0.5				○			1					
球技(ネット型)BⅡ(テニス)		3②	富山大学		0.5				○			1					
球技(ベースボール型)Ⅰ		3①	各大学		0.5				○							兼1	
球技(ベースボール型)Ⅱ		3②	各大学		0.5				○							兼1	
スポーツ文化論Ⅰ		3①	富山大学		1			○								兼1	
スポーツ文化論Ⅱ		3②	富山大学		1			○								兼1	
スポーツ心理学Ⅰ(最新教育課題を含む)		3①	富山大学		1			○			1					メディア	
スポーツ心理学Ⅱ(最新教育課題を含む)		3②	富山大学		1			○			1					メディア	
スポーツマネジメント論Ⅰ		3①	富山大学		1			○			1					メディア	
スポーツマネジメント論Ⅱ		3②	富山大学		1			○			1					メディア	
スポーツ社会学Ⅰ		2③	富山大学		1			○			1					メディア	
スポーツ社会学Ⅱ		2④	富山大学		1			○			1					メディア	
運動学概論(運動方法をを含む)Ⅰ		2③	富山大学		1			○			1					メディア	
運動学概論(運動方法をを含む)Ⅱ		2④	富山大学		1			○			1					メディア	
バイオメカニクスⅠ		2③	各大学		1			○			1					兼1	
バイオメカニクスⅡ		2④	各大学		1			○			1					兼1	
運動生理学Ⅰ(海外の先端事情を含む)		2③	金沢大学		1			○			1					メディア	
運動生理学Ⅱ(海外の先端事情を含む)		2④	金沢大学		1			○			1					メディア	
衛生学及び公衆衛生学Ⅰ		3①	金沢大学		1			○								兼1	
衛生学及び公衆衛生学Ⅱ		3②	金沢大学		1			○								兼1	
学校保健Ⅰ(教科横断で取り組む学校保健)		3①	金沢大学		1			○			1					メディア	
学校保健Ⅱ(教科横断で取り組む学校保健)		3②	金沢大学		1			○			1					メディア	
発育発達Ⅰ	2①	富山大学		1			○				1				メディア		
発育発達Ⅱ	2②	富山大学		1			○				1				メディア		
保健体育科教育法Ⅰ(石川県の教育実践を含む)	2①	金沢大学		1			○			1					メディア		
保健体育科教育法Ⅱ(石川県の教育実践を含む)	2②	金沢大学		1			○			1					メディア		
保健体育科教育法Ⅲ(富山県の教育実践を含む)	2③	富山大学		1			○				1				メディア		
保健体育科教育法Ⅳ(富山県の教育実践を含む)	2④	富山大学		1			○				1				メディア		
保健体育科教育法Ⅴ	3①	金沢大学		1			○				1				メディア		
保健体育科教育法Ⅵ	3②	金沢大学		1			○				1				メディア		
保健体育科教育法Ⅶ	3③	富山大学		1			○					1			メディア		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
保健体育	保健体育科教育法Ⅶ	3④	富山大学		1		○									兼1 メディア オムニバス オムニバス
	コーチング論Ⅰ	3③	富山大学			1	○				2					
	コーチング論Ⅱ	3④	富山大学			1	○				2	1				
	バイオメカニクス演習A	3①	金沢大学			1		○			1					
	バイオメカニクス演習B	3②	金沢大学			1		○			1					
	バイオメカニクス演習C	3③	金沢大学			1		○			1					
	バイオメカニクス演習D	3④	金沢大学			1		○			1					
	運動生理学演習A	3①	金沢大学			1		○			1					
	運動生理学演習B	3②	金沢大学			1		○			1					
	運動生理学演習C	3③	金沢大学			1		○			1					
	運動生理学演習D	3④	金沢大学			1		○			1					
	学校保健演習A	3①	金沢大学			1		○			1					
	学校保健演習B	3②	金沢大学			1		○			1					
	学校保健演習C	3③	金沢大学			1		○			1					
	学校保健演習D	3④	金沢大学			1		○			1					
	保健体育科教育演習A	3①	金沢大学			1		○				1				
	保健体育科教育演習B	3②	金沢大学			1		○				1				
	保健体育科教育演習C	3③	金沢大学			1		○				1				
	保健体育科教育演習D	3④	金沢大学			1		○				1	1			
	小計(70科目)	—	—	—	0	40	18	—	—	—	2	5	2	0	0	
専門教育科目	家政学原論	2①	金沢大学			1		○								メディア
	家庭経営学Ⅰ(家庭経済学と消費者市民社会の形成を含む)	2②	金沢大学			1		○								メディア
	家庭経営学Ⅱ	2③	金沢大学			1		○								メディア
	家族関係学(多様な家族と家庭科教育)	2④	金沢大学			1		○								メディア
	家庭経営学演習Ⅰ	3①	金沢大学			1			○							メディア
	家庭経営学演習Ⅱ	3②	金沢大学			1			○							メディア
	被服学概論Ⅰ(現代の衣生活の諸問題を含む)	2③	金沢大学			1		○								メディア
	被服学概論Ⅱ	2④	金沢大学			1		○								メディア
	被服構成実習	3①	金沢大学			1				○						
	被服科学実験	3③	金沢大学			1				○						
	被服学演習Ⅰ	3③	金沢大学			1			○							メディア
	被服学演習Ⅱ	3④	金沢大学			1			○							メディア
	食物学概論Ⅰ(栄養学、食品学及び現代の栄養課題を含む)	2①	富山大学			1		○								メディア
	食物学概論Ⅱ(栄養学、食品学を含む)	2②	富山大学			1		○								メディア
	食物学	3①	富山大学			1		○								メディア
	調理実習(地域の食文化比較を含む)	3②	富山大学			1				○						
	食物学演習Ⅰ	3③	富山大学			1			○							メディア
	食物学演習Ⅱ	3④	富山大学			1			○							メディア
	住居学概論Ⅰ	2①	富山大学			1		○					1			メディア
	住居学概論Ⅱ	2②	富山大学			1		○					1			メディア
	住居学Ⅰ(現代の住環境問題を含む)	2③	富山大学			1		○					1			メディア
	住居学Ⅱ(製図及び富山石川の住宅比較を含む)	2④	富山大学			1		○					1			メディア
	住居学演習Ⅰ	3③	富山大学			1			○				1			メディア
	住居学演習Ⅱ	3④	富山大学			1			○				1			メディア
	保育学概論Ⅰ(現代の保育学の諸問題を含む)	2①	金沢大学			1		○					1			メディア
	保育学概論Ⅱ(家庭看護含む)	2②	金沢大学			1		○					1			メディア
	保育学Ⅰ	2③	金沢大学			1		○					1			メディア
	保育学Ⅱ(実習含む)	2④	金沢大学			1		○					1			メディア
	保育学演習Ⅰ	3③	金沢大学			1			○				1			メディア
	保育学演習Ⅱ	3④	金沢大学			1			○				1			メディア
	家庭電気・機械・情報	3②	金沢大学			1		○								兼1 メディア
	家庭科教育法Ⅰ(富山県の教育実践を含む)	2①	富山大学			1		○					1			メディア
	家庭科教育法Ⅱ(富山県の教育実践を含む)	2②	富山大学			1		○					1			メディア
	家庭科教育法Ⅲ(石川県の教育実践を含む)	2③	金沢大学			1		○					1			メディア
	家庭科教育法Ⅳ(石川県の教育実践を含む)	2④	金沢大学			1		○					1			メディア
	家庭科教育法Ⅴ	3①	各大学			1		○					2			
	家庭科教育法Ⅵ	3②	各大学			1		○					2			
	家庭科教育法Ⅶ	3③	各大学			1		○					2			
	家庭科教育法Ⅷ	3④	各大学			1		○					2			
	家庭科教育演習Ⅰ	4①	各大学			1			○				2			
家庭科教育演習Ⅱ	4②	各大学			1			○				2				
住居学演習Ⅲ	4①	富山大学			1			○				1				
住居学演習Ⅳ	4②	富山大学			1			○				1				
食物学演習Ⅲ	4①	富山大学			1			○				1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
家政教育	食物学演習Ⅳ	4②	富山大学			1		○			1						
	家庭経営学演習Ⅲ	4①	金沢大学			1		○			1						
	家庭経営学演習Ⅳ	4②	金沢大学			1		○			1						
	被服学演習Ⅲ	4①	金沢大学			1		○			1						
	被服学演習Ⅳ	4②	金沢大学			1		○			1						
	保育学演習Ⅲ	4①	金沢大学			1		○		1							
	保育学演習Ⅳ	4②	金沢大学			1		○		1							
	家庭科教育演習Ⅲ	4①	各大学			1		○		2							
	家庭科教育演習Ⅳ	4②	各大学			1		○		2							
	小計 (53科目)	—	—		0	41	12		—		4	3	0	0	0	兼1	—
	英語教育	英語学概論Ⅰ (文法と現在の英語教育)	2①	富山大学		1		○					1				メディア
		英語学概論Ⅱ (文法と現在の英語教育)	2②	富山大学		1		○					1				メディア
		英語学概論Ⅲ (応用)	3①	各大学		1		○			1		1				
		英語学概論Ⅳ (応用)	3②	各大学		1		○			1		1				
		英語音声学・文法Ⅰ	2③	各大学		1		○			1		1				
		英語音声学・文法Ⅱ	2④	各大学		1		○			1		1				
		英語学演習Ⅰ (個別理論)	3③	各大学		1			○		1		1				
		英語学演習Ⅱ (個別理論)	3④	各大学		1			○		1		1				
		英語文学概論Ⅰ (イギリス文学と現在の英語教育)	2①	金沢大学		1			○		1						メディア
		英語文学概論Ⅱ (アメリカ文学と現在の英語教育)	2③	金沢大学		1			○		1		1				メディア
英語文学概論Ⅲ (イギリス)		2②	金沢大学		1			○		1						メディア	
英語文学概論Ⅳ (アメリカ)		2④	金沢大学		1			○		1		1				メディア	
英語文学演習Ⅰ (イギリス)		3①	金沢大学		1			○		1						メディア	
英語文学演習Ⅱ (アメリカ)		3③	金沢大学		1			○		3		1				メディア	
英語文学演習Ⅲ (イギリス)		3②	金沢大学		1			○		1						メディア	
英語文学演習Ⅳ (アメリカ)		3④	金沢大学		1			○		1		1				メディア	
英作文Ⅰ (基礎)		2①	各大学		1			○				1				兼1	
英会話Ⅰ (基礎)		2③	各大学		1			○		1						兼1	
英作文Ⅱ (応用)		2②	各大学		1			○				1				兼1	
英会話Ⅱ (応用)		2④	各大学		1			○		1						兼1	
英作文Ⅲ (応用)		3①	各大学		1			○				1				兼1	
英会話Ⅲ (応用)		3③	各大学		1			○		1						兼1	
英作文Ⅳ (応用)		3②	各大学		1			○				1				兼1	
英会話Ⅳ (応用)		3④	各大学		1			○		1						兼1	
異文化理解Ⅰ (英語教育の中の異文化理解)		2③	富山大学		1			○				1				メディア	
異文化理解Ⅱ (英語教育の中の異文化理解)		2④	富山大学		1			○				1				メディア	
異文化理解Ⅲ (応用)		3①	富山大学		1			○				1				メディア	
異文化理解Ⅳ (応用)		3②	富山大学		1			○				1				メディア	
異文化理解演習Ⅰ		3③	富山大学		1				○			1				メディア	
異文化理解演習Ⅱ		3④	富山大学		1				○			1				メディア	
英語科教育法Ⅰ (富山県の教育実践を含む)		2①	富山大学		1				○							兼1	メディア
英語科教育法Ⅱ (富山県の教育実践を含む)		2②	富山大学		1				○							兼1	メディア
英語科教育法Ⅲ (石川県の教育実践を含む)		2③	金沢大学		1				○		1					メディア	
英語科教育法Ⅳ (石川県の教育実践を含む)		2④	金沢大学		1				○		1					メディア	
英語科教育法Ⅴ		3①	各大学		1				○		1		1				
英語科教育法Ⅵ	3②	各大学		1				○		1		1					
英語科教育法Ⅶ	3③	各大学		1				○		1		1					
英語科教育法Ⅷ	3④	各大学		1				○		1		1					
英語学特別演習Ⅰ	3③	金沢大学			1			○		1							
英語学特別演習Ⅱ	3④	金沢大学			1			○		1							
英語学特別演習Ⅲ	3①	富山大学			1			○				1					
英語学特別演習Ⅳ	3②	富山大学			1			○				1					
英語文学特別演習Ⅰ	4③	金沢大学			1			○		1	1						
英語文学特別演習Ⅱ	4④	金沢大学			1			○		1	1						
異文化理解特別演習Ⅰ	3③	富山大学			1			○			1				兼1		
異文化理解特別演習Ⅱ	3④	富山大学			1			○			1				兼1		
英語教育学特別演習Ⅰ	4③	金沢大学			1			○		1							
英語教育学特別演習Ⅱ	4④	金沢大学			1			○		1							
英語教育学特別演習Ⅲ	4③	富山大学			1			○							兼1		
英語教育学特別演習Ⅳ	4④	富山大学			1			○							兼1		
英語科教育実践研究Ⅰ	3②	金沢大学			1			○			1						
英語科教育実践研究Ⅱ	4①	金沢大学			1			○		1							
英語科教育実践研究Ⅲ	3③	富山大学			1			○				1					
英語科教育実践研究Ⅳ	3④	富山大学			1			○				1					
小計 (54科目)	—	—		0	38	16		—		3	2	2	0	0	兼4	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門教育科目	教育学・心理学に関する科目	教育心理学データ解析法A	2①	富山大学			1	○						1					
		教育心理学データ解析法B	2②	富山大学			1	○							1				
		教育心理学研究法	2③	富山大学			1			○					1				
		教育心理学実験法	2④	富山大学			1			○					1				
		教育臨床心理学A	2②	富山大学			1	○				1							
		教育臨床心理学B	2③	富山大学			1	○				1							
		教授・学習心理学演習	3③	富山大学			1			○					1				
		臨床心理実習	3通	富山大学			2				○		1	1					
		教育心理学ゼミナール	3通	富山大学			2			○			1	2					
		教育法規A	2・3・4	富山大学			1	○											兼1
		教育法規B	2・3・4	富山大学			1	○											兼1
		教育臨床学A	2・3・4	富山大学			1	○							1				
		教育臨床学B	2・3・4	富山大学			1	○							1				
		教育倫理学A	2・3・4	富山大学			1	○							1				
		教育倫理学B	2・3・4	富山大学			1	○							1				
		教育学ゼミナール	3通	富山大学			2			○					2				兼1
		教育・心理基礎論A	3①	金沢大学			1			○		2	4						オムニバス
		教育・心理基礎論B	3②	金沢大学			1			○		2	4						オムニバス
		教育学・心理学演習A	3③	金沢大学			1			○		2	4						
		教育学・心理学演習B	3④	金沢大学			1			○		2	4						
小計(20科目)		—			0	0	23			—	2	8	4	0	0	兼1	—		
専門教育科目	保育士に関する科目	保育原理I	1③	富山大学			1	○						1					
		保育原理II	1④	富山大学			1	○							1				
		乳児保育I	2③	富山大学			1	○							1				
		乳児保育II	2④	富山大学			1	○							1				
		乳児保育III	3①	富山大学			1			○					1				
		社会的養護I	3①	富山大学			1	○							1				
		社会的養護II	3②	富山大学			1	○							1				
		保育者論	1④	富山大学			1								1				
		子どもの保健I	3③	富山大学			1	○				2							オムニバス
		子どもの保健II	3④	富山大学			1	○				2							オムニバス
		子どもの食と栄養I	3③	富山大学			1	○							1				
		子どもの食と栄養II	3④	富山大学			1	○							1				
		社会的養護III	3③	富山大学			1			○					1				
		保育実習I	2④・3④	富山大学			4				○	1	2						兼1
		保育実習指導I	2・3	富山大学			2			○		1	2						兼1
		臨床発達心理学I	4①	富山大学			1	○				1							
		臨床発達心理学II	4②	富山大学			1	○				1							
		発達福祉統計学I	3③	富山大学			1	○				1							
		発達福祉統計学II	3④	富山大学			1	○				1							
		地域子育て支援論演習I	4③	富山大学			1			○		1							
地域子育て支援論演習II	4④	富山大学			1			○		1									
保育実習II	3④	富山大学			2				○	1	2						兼1		
保育実習III	3④	富山大学			2				○	1	2						兼1		
保育実習指導II	3	富山大学			1			○		1	2						兼1		
保育実習指導III	3	富山大学			1			○		1	2						兼1		
小計(25科目)		—			0	0	31			—	2	4	0	0	0	兼1	—		
合計(1127科目)		—			73	1047	152			—	39	40	12	0	0	兼210	—		
学位又は称号		学士(教育学)		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係												
卒業要件及び履修方法				開設大学	開設単位数(必修)			授業期間等											
1. 教養教育科目又は共通教育科目				富山大学	663(47)			1学年の学期区分		4期									
				金沢大学	789(47)			1学期の授業期間		8週									
				1時限の授業時間		90分													
				※ 富山大学の教養教育科目はセメスター制で授業を実施する。															
富山大学：教養教育科目 22単位以上																			
(1) 人文科学系				10単位以上															
(2) 社会科学系				(ただし、人文科学系から2単位以上、社会科学系から2単位以上、自然科学系か															
(3) 自然科学系				ら															
(4) 総合科目系				2単位(保健以上を含むこと。)															
(5) 外国語系				6単位以上															
(6) 保健体育系				2単位															
(7) 情報処理系				2単位															

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
	<p>金沢大学：共通教育科目 28単位以上</p> <p>(1) 導入科目 3単位</p> <p>(2) G S 科目 15単位以上</p> <p>(3) G S 言語科目 8単位</p> <p>(4) 自由履修科目 2単位以上</p>														
	<p>2. 専門教育科目</p> <p>[専門科目区分：幼児教育，国語教育，社会科教育，数学教育，理科教育，音楽教育，美術教育，保健体育，家政教育，英語教育]</p> <p>富山大学：114単位以上</p> <p>(1) 共通科目 9単位以上</p> <p>(2) 教育の基礎的理解に関する科目 12単位</p> <p>(3) 道徳、総合的な学習の時間等に関する科目 12単位以上</p> <p>(4) 教育実践に関する科目 9単位以上</p> <p>(5) 小学校教科 12単位以上</p> <p>(6) 小学校教科指導法 20単位</p> <p>(7) 先進的教育科目（共通領域） 16単位</p> <p>(8) 専門科目 24単位以上</p> <p>金沢大学：116単位以上</p> <p>(1) 学域G S 科目 4単位</p> <p>(2) 学域G S 言語科目 2単位</p> <p>(3) 共通科目 5単位</p> <p>(4) 教育の基礎的理解に関する科目 12単位</p> <p>(5) 道徳、総合的な学習の時間等に関する科目 12単位以上</p> <p>(6) 教育実践に関する科目 9単位以上</p> <p>(7) 小学校教科 12単位以上</p> <p>(8) 小学校教科指導法 20単位</p> <p>(9) 先進的教育科目（共通領域） 16単位</p> <p>(10) 専門科目 24単位以上</p> <p>[専門科目区分：特別支援教育]</p> <p>富山大学：114単位以上</p> <p>(1) 共通科目 9単位以上</p> <p>(2) 教育の基礎的理解に関する科目 12単位</p> <p>(3) 道徳、総合的な学習の時間等に関する科目 12単位以上</p> <p>(4) 教育実践に関する科目 10単位以上</p> <p>(5) 小学校教科 12単位以上</p> <p>(6) 小学校教科指導法 20単位</p> <p>(7) 先進的教育科目（共通領域） 16単位</p> <p>(8) 専門科目 23単位以上</p> <p>金沢大学：116単位以上</p> <p>(1) 学域G S 科目 4単位</p> <p>(2) 学域G S 言語科目 2単位</p> <p>(3) 共通科目 5単位</p> <p>(4) 教育の基礎的理解に関する科目 12単位</p> <p>(5) 道徳、総合的な学習の時間等に関する科目 12単位以上</p> <p>(6) 教育実践に関する科目 10単位以上</p> <p>(7) 小学校教科 12単位以上</p> <p>(8) 小学校教科指導法 20単位</p> <p>(9) 先進的教育科目（共通領域） 16単位</p> <p>(10) 専門科目 23単位以上</p>														
	<p>3. 相手大学の開講科目の単位取得</p> <p>富山大学：上記1及び2のうち、金沢大学が開講する科目31単位以上</p> <p>金沢大学：上記1及び2のうち、富山大学が開講する科目31単位以上</p>														

教育課程等の概要														
（富山大学教育学部共同教員養成課程）														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
人文科学系	哲学のすすめ	1前・後		2		○								兼1
	人間と倫理	1前・後		2		○								兼1
	こころの科学	1前・後		2		○								兼1
	日本の歴史と社会	1前・後		2		○								兼2
	東洋の歴史と社会	1前・後		2		○								兼1
	西洋の歴史と社会	1前・後		2		○								兼1
	日本文学	1前・後		2		○								兼1
	外国文学	1前・後		2		○								兼1
	言語と文化	1前・後		2		○								兼1
	音楽	1前・後		2		○								兼1
	美術	1前・後		2		○								兼1
	美術表現A	1前・後		2		○								兼1
	美術表現B	1前・後		2		○								兼1
	言語表現	1前・後		2			○							兼1
	治療の文化史	1前・後		2		○		○						兼1
	異文化間コミュニケーション	1前・後		2		○								兼1
	異文化理解	1前・後		2		○					1			兼1
小計（17科目）		—	0	34	0	—	—	—	0	1	0	0	0	兼14
社会科学系	現代社会論	1前・後		2		○								兼1
	日本国憲法	1前・後		2		○								兼1
	国家と市民	1前・後		2		○								兼1
	経済生活と法	1前・後		2		○								兼1
	市民生活と法	1前・後		2		○								兼1
	はじめての経済学	1前・後		2		○								兼1
	産業と経済を学ぶ	1前・後		2		○								兼1
	経営資源のとらえ方	1前・後		2		○								兼1
	市場と企業の関係	1前・後		2		○								兼1
	地域の経済と社会・文化	1前・後		2		○								兼1
小計（10科目）		—	0	20	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼9
自然科学系	自然科学への扉—A	1前・後		2		○								兼1
	自然科学への扉—B	1前・後		2		○								兼1
	自然科学への扉—C	1前・後		2		○								兼1
	科学技術への扉—A	1前・後		2		○								兼1
	科学技術への扉—B	1前・後		2		○								兼1
	生命の世界	1前・後		2		○								兼2
	社会と情報の数理	1前・後		2		○								兼1
	デザインと生物	1前・後		2		○								兼1
小計（8科目）		—	0	16	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼8
医療・健康科学系	医療心理学	1前・後		2		○								兼1
	概説医療心理学	1前・後		1		○								兼1
	認知科学	1前・後		2		○								兼1
	脳科学入門	1前・後		2		○								兼1
	生命科学入門	1前・後		2		○								兼1
	免疫学入門	1前・後		2		○								兼1
	身近な医学	1前・後		2		○								兼1
	障害とアクセシビリティ	1前・後		2		○				1				兼1
	医療と地域社会	1前・後		2		○								兼2
小計（9科目）		—	0	17	0	—	—	—	1	0	0	0	0	兼6
総合科目系	環境	1前・後		2		○								兼1
	ジェンダー	1前・後		2		○								兼1
	技術と社会	1前・後		2		○								兼2
	現代文化	1前・後		2		○								兼1
	人権と福祉	1前・後		2		○								兼1
	環日本海	1前・後		2		○								兼1
	科学と社会	1前・後		2		○								兼1
	アカデミック・デザイン	1前・後		2		○								兼1
	ビジネス思考	1前・後		2		○								兼1
	データサイエンスの世界	1前・後		2		○								兼1
	データサイエンスの実践	1前・後		2		○								兼1
	教養としての都市デザイン学	1前・後		2		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
総合科目系	SDGs入門	1前・後		2		○									兼1	
	平和学入門	1前・後		2		○				1						
	東アジア共同体論-政治・経済・文化-	1前・後		2		○									兼1	
	富山から考える震災・復興学	1前・後		2		○									兼1	
	環境と安全管理	1前・後		2		○									兼1	
	万葉学	1前・後		2		○									兼1	
	日本海学	1前・後		2		○									兼1	
	富山大学学	1前・後		2		○									兼1	
	とやま地域学	1前・後		2		○									兼1	
	時事的問題	1前・後		2		○									兼1	
	災害救援ボランティア論	1前・後		2		○				1						
	感性をはぐくむ	1前・後		2		○									兼1	
	日本事情／芸術文化	1前・後		2		○									兼1	
	日本事情／自然社会	1前・後		2		○									兼1	
	学士力・人間力基礎	1前・後		2		○									兼1	
	富山学	1前・後		2		○									兼1	
	地域ライフプラン	1前・後		2		○									兼2	
	産業観光学	1前・後		2		○									兼2	
	富山のものづくり概論	1前・後		2		○									兼2	
	富山の地域づくり	1前・後		2		○									兼2	
葉都とやま学	1前・後		2		○									兼1		
小計 (33科目)		—	0	66	0	—			0	2	0	0	0	0	兼25	—
教養教育科目	ESP I (Level-based)	1前		1	0		○								兼1	
	ESP II (Interest-based)	1後		1	0		○								兼1	
	基礎英語 I	1前		1	0		○								兼1	
	基礎英語 II	1後		1	0		○								兼1	
	ドイツ語基礎 I	1前		1	0		○								兼1	
	ドイツ語基礎 II	1後		1	0		○								兼1	
	ドイツ語コミュニケーション I	1前		1	0		○								兼1	
	ドイツ語コミュニケーション II	1後		1	0		○								兼1	
	フランス語基礎 I	1前		1	0		○								兼1	
	フランス語基礎 II	1後		1	0		○								兼1	
	フランス語コミュニケーション I	1前		1	0		○								兼1	
	フランス語コミュニケーション II	1後		1	0		○								兼1	
	中国語基礎 I	1前		1	0		○								兼1	
	中国語基礎 II	1後		1	0		○								兼1	
	中国語コミュニケーション I	1前		1	0		○								兼1	
	中国語コミュニケーション II	1後		1	0		○								兼1	
	朝鮮語基礎 I	1前		1	0		○								兼1	
	朝鮮語基礎 II	1後		1	0		○								兼1	
	朝鮮語コミュニケーション I	1前		1	0		○								兼1	
	朝鮮語コミュニケーション II	1後		1	0		○								兼1	
	ロシア語基礎 I	1前		1	0		○								兼1	
	ロシア語基礎 II	1後		1	0		○								兼1	
	ロシア語コミュニケーション I	1前		1	0		○								兼1	
	ロシア語コミュニケーション II	1後		1	0		○								兼1	
	日本語リテラシー I	1前		1	0		○								兼2	
	日本語リテラシー II	1後		1	0		○								兼2	
	日本語コミュニケーション I	1前		1	0		○								兼2	
日本語コミュニケーション II	1後		1	0		○								兼2		
発展多言語演習ドイツ語	2前			1		○								兼1		
発展多言語演習中国語	2前			1		○								兼1		
日本語コミュニケーション III	2前			1		○								兼1		
日本語／専門研究	2後			1		○								兼1		
小計 (32科目)		—	0	28	4	—			0	0	0	0	0	0	兼13	—
保健体育系	健康・スポーツ／講義	1前・後		1		○									兼1	
	健康・スポーツ／実技	1前		1				○							兼1	
小計 (2科目)		—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	0	兼1	—
情報処理系	情報処理	1前		2		○									兼4	
	応用情報処理	1後		2			○								兼1	
小計 (2科目)		—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	0	兼4	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通科目	野外体験活動Ⅰ	1②	1					○									
	基礎ゼミナール	1①・②		2			○										
	地域教材研究(富山学)	1③・④		2			○		1								
	卒業研究	4通	4					○	13	18	11						
	地域共生(福祉)論Ⅰ	3①			1		○									兼1	
	地域共生(福祉)論Ⅱ	3②			1		○									兼1	
	スクールソーシャルワーク論Ⅰ	3③			1		○									兼1	
	スクールソーシャルワーク論Ⅱ	3④			1		○									兼1	
	主権者教育のための批判的思考力・メディアリテラシー	2③			1		○										兼1
	事例で学ぶ減災・防災教育論	3①			1		○										兼1
	プログラミング入門	2①			1			○	1	1							
	子どもとのふれあい体験	1①・②・③			2			○									兼1
小計(12科目)		—	5	4	9		—		13	18	11	0	0	0	0	兼3	—
教育に関する基礎的理解に	教育の思想と歴史(西洋)	1③	1				○										メディア
	教職とこれからの教育	1③	1				○										兼2 オムニバス
	教育経営概論(教育改革と学校経営)	2①・②	1				○										兼1
	教授・学習心理学(個別最適化学習の理論と実践)	2②	1				○				1						メディア
	特別な支援を要する子どもの理解	1③	1				○		1								メディア
未来をつくる教育課程	2③・④	1				○											
小計(6科目)		—	6	0	0		—		1	0	3	0	0	0	0	兼3	—
道徳、総合的な学習の時間、生徒指導、教育等に関する科目	道徳教育論(理論)	3①	1				○										メディア
	総合的な学習の時間教育論Ⅰ	3①	1				○										兼1
	総合的な学習の時間教育論Ⅱ	3②	1				○										兼1
	特別活動とカリキュラムマネジメント	2①・②	1				○				1						兼1
	教育技術学	3①	1				○		1								兼1
生徒指導論	2③	1				○			1	1						メディア・オムニバス	
教育相談の理論	2①	1				○			1	1						メディア・オムニバス	
小計(7科目)		—	7	0	0		—		1	1	3	0	0	0	0	兼2	—
教育実践に関する科目	教育実習A(幼・小)(事前事後指導を含む)	3②・④②		5				○									兼1
	教育実習A(中・高)(事前事後指導を含む)	3②・④②		5				○									兼1
	教育実習B(小)	3②・④②		2				○									兼1
	教育実習B(中・高)	3②・④②		2				○									兼1
	教育実習B(特別支援)	3②・④②		3				○									兼1
	教育実習B(幼)	3②・④②		2				○									兼1
	教職実践演習(幼・小・中・高)	4③・④	2					○	1								オムニバス・共同
	学校インターンシップⅠ(小)	1①～④			2			○									兼1
小計(8科目)		—	2	19	2		—		2	0	1	0	0	0	0	兼2	—
小学校の教科に関する専門的事項	国語科基礎A(書写を含む)(低・中学年の国語科と現代の教育課題)	1③	1				○		1	1	1						メディア・オムニバス
	社会科基礎A(中学年の社会科と現代の教育課題)	2①	1				○		1	3							メディア・オムニバス
	算数科基礎A(低・中学年)	2①		1			○		1								メディア
	理科基礎A(理論)	2①		1			○		1	2	1						メディア・オムニバス
	生活科基礎A(講義)	2③		1			○			1							メディア
	生活科基礎B(実践)	3①		1				○			1						
	音楽科基礎A(講義)	2④		1			○					1					
	音楽科基礎B(実践)	2②		1				○				1					
	図画工作科基礎A	2③		1			○										兼1
	図画工作科基礎B(実践)	2④		1				○									兼1
	家庭科基礎A(住居・食物と現代の教育課題)	1③	1				○		1	1							メディア・オムニバス
	体育科基礎B(実践)	2③		1				○				1					
小計(12科目)		—	3	9	0		—		5	8	4	0	0	0	0	兼1	—
小学校の教科指導法	初等国語科教育法Ⅰ	2①	1				○										
	初等国語科教育法Ⅱ	2②	1				○					1					
	初等社会科教育法Ⅰ	2③	1				○										兼1
	初等社会科教育法Ⅱ	2④	1				○										兼1
	初等算数科教育法Ⅰ	2③	1				○		1								
	初等算数科教育法Ⅱ	2④	1				○		1								
	初等理科教育法Ⅰ	2③	1				○										
	初等理科教育法Ⅱ	2④	1				○										
	初等生活科教育法Ⅰ	3①	1				○										
	初等生活科教育法Ⅱ	3②	1				○										
	初等音楽科教育法Ⅰ	2③	1				○										
	初等音楽科教育法Ⅱ	2④	1				○										
	初等図画工作科教育法Ⅰ	3①	1				○										兼1
	初等図画工作科教育法Ⅱ	3②	1				○										兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目	小学校の教科指導法	初等家庭科教育法Ⅰ	2①	1			○			1						
		初等家庭科教育法Ⅱ	2②	1			○			1						
		初等体育科教育法Ⅰ	2①	1			○					1				
		初等体育科教育法Ⅱ	2②	1			○					1				
		初等英語科教育法Ⅰ	3①	1			○					1				
		初等英語科教育法Ⅱ	3②	1			○					1				
		小計(20科目)	—	20	0	0	—	—	—	2	1	4	0	0	兼2	—
	先進的教育科目 (共通領域)	インクルーシブ教育基礎演習Ⅰ	1③	1			○				1					メディア
		インクルーシブ教育基礎演習Ⅱ	1④	1			○				1					メディア
		遠隔教育実践論	3③	1			○			1						メディア
		遠隔教育実践演習	3④	1			○			1						メディア
		小学校プログラミング教育の理論と実践Ⅰ	2③	1			○			1						兼1 メディア・共同
		小学校プログラミング教育の理論と実践Ⅱ	2④	1			○			1						兼1 メディア・共同
富山県の教育実践Ⅰ		2③	1			○			1						メディア	
富山県の教育実践Ⅱ	2④	1			○			1						メディア		
小計(8科目)	—	8	0	0	—	—	—	3	2	0	0	0	兼1	—		
専門教育科目	幼児教育	幼児と健康	2③		1			○			1	1				オムニバス メディア
		幼児と人間関係(社会性のつまずきと支援の現代的課題)	2②		1			○		1						メディア
		幼児と環境	2②		1			○		1	1					メディア・オムニバス
		幼児と言葉	2①		1			○			1					
		幼児と表現	2③		1			○			1	2				兼1 オムニバス
		保育内容総論(保育実践を巡る最新動向を含む)	2①		1			○			2					メディア・オムニバス
		健康の指導法(現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)	3①		1			○				1				メディア・集中
		保育内容(人間関係)	2③		1			○		1						
		人間関係の指導法	2④		1			○		1						集中
		言葉の指導法(現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)	2③		1			○			1					メディア
		表現の指導法(現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)	3①		1			○			1	1				兼1 メディア・オムニバス
		幼児教育カリキュラム論Ⅰ	3③		1			○			1					
		幼児教育カリキュラム論Ⅱ	3④		1			○			1					
		幼児理解の理論と方法	2②		1			○			1					
		幼児理解と相談支援	2①		1			○			1					
		子育てネットワーク論Ⅰ	2②		1			○				1				
		子育てネットワーク論Ⅱ	2③		1			○				1				
		子育て支援	2④		1				○			1				
		保育の心理学	3①		1			○			1					集中
		子ども家庭支援の心理学Ⅰ	2①		1			○			1					
		子ども家庭支援の心理学Ⅱ	2②		1			○			1					
		子どもの健康と安全	2③		1				○		1					
		障害児保育	2④		1				○			1				
		地域子育て支援法Ⅰ	3①		1				○		1					
		地域子育て支援法Ⅱ	3②		1				○		1					
		児童福祉論Ⅰ	2①		1				○			1				
		児童福祉論Ⅱ	2②		1				○			1				
		社会福祉概論Ⅰ	2③		1				○			1				
		社会福祉概論Ⅱ	2④		1				○			1				
小計(29科目)	—	0	29	0	—	—	—	1	5	2	0	0	兼1	—		
特別支援教育	特別支援教育基礎論Ⅱ(富山県の教育実践を含む)	2②		1			○			1					メディア	
	障害児者支援論	2		1			○			1					集中	
	知的障害児の心理・生理・病理Ⅱ	2②		1			○			1						
	肢体不自由児の心理・生理・病理Ⅰ(教育・医療・福祉の機関連携を含む)	3①		1			○			1					メディア	
	肢体不自由児の心理・生理・病理Ⅱ(教育・医療・福祉の機関連携を含む)	3②		1			○			1					メディア	
	病弱児の心理・生理・病理Ⅰ(教育・医療・福祉の機関連携を含む)	3③		1			○			1					メディア	
	病弱児の心理・生理・病理Ⅱ(教育・医療・福祉の機関連携を含む)	3④		1			○			1					メディア	
	知的障害教育課程・指導論Ⅰ	2③		1			○				1				メディア	
	知的障害教育課程・指導論Ⅱ	2④		1			○				1				メディア	
	病弱児の教育	3		2			○								兼1 メディア・集中	
	知的障害児の教育Ⅰ	3①		1			○				1					
	知的障害児の教育Ⅱ	3①		1			○				1					
	知的障害教育実地演習Ⅰ	3②		1				○			1					
	知的障害教育実地演習Ⅱ	3②		1				○			1					
特別支援教育実地演習	2		2				○		1	2				共同・集中		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
特別支援教育	発達障害児者支援論Ⅰ	3③		1		○				1					オムニバス 集中 共同 共同 共同 集中	
	発達障害児者支援論Ⅱ	3④		1		○				1						
	障害児の教育診断臨床Ⅰ	3①		1		○			1	1						
	障害児の教育診断臨床Ⅱ	3		1		○					1					
	障害児支援学演習Ⅰ	3①			1		○		1	2						
	障害児支援学演習Ⅱ	3②			1		○		1	2						
	障害児支援学演習Ⅲ	3③			1		○		1	2						
	障害児支援学演習Ⅳ	3④			1		○		1	2						
	特別支援教育学演習	3			2		○		1	2						
	小計(24科目)	—	0	21	6	—	—	—	1	2	1	0	0	兼1	—	
	国語教育	日本語学概論Ⅰ	2①		1		○				1					兼1 兼1 兼1
		日本語学概論Ⅱ	2②		1		○				1					
		日本語学演習Ⅰ	3③		1			○			1					
		日本語学演習Ⅱ	3④		1			○			1					
		日本語学演習Ⅲ	4①		1			○			1					
		日本語学演習Ⅳ	4②		1			○			1					
		日本語表現Ⅰ(言語指導におけるデータと理論の融合)	2③		1		○				1					
		日本語表現Ⅱ(言語指導におけるデータと理論の融合)	2④		1		○				1					
		日本語史Ⅰ	2③		1		○				1					
		日本語史Ⅱ	2④		1		○				1					
		日本語学講読Ⅰ	3①		1		○				1					
		日本語学講読Ⅱ	3②		1		○				1					
		日本文学概論Ⅰ(教育と文学の関係を含む)	2①		1		○				1					
		日本文学概論Ⅱ(国語教科書と文学理論)	2②		1		○				1					
日本文学演習Ⅰ		3①		1			○			1						
日本文学演習Ⅱ		3②		1			○			1						
日本文学演習Ⅲ		3③		1			○			1						
日本文学演習Ⅳ		3④		1			○			1						
日本児童文学Ⅰ		2③		1		○				1						
日本児童文学Ⅱ		2④		1		○				1						
日本文学講読Ⅰ		3①		1		○				1						
日本文学講読Ⅱ		3②		1		○				1						
日本文学講読Ⅲ		4①		1		○				1						
日本文学講読Ⅳ		4②		1		○				1						
漢文学演習Ⅰ		3③		1			○									
書写書道基礎Ⅰ		3③		1			○									
書写書道基礎Ⅱ		3④		1			○									
国語科教育法Ⅲ(富山県の教育実践を含む)		2③		1		○					1					
国語科教育法Ⅳ(富山県の教育実践を含む)		2④		1		○					1					
国語科教育法Ⅴ		3①		1		○					1					
国語科教育法Ⅵ		3②		1		○					1					
国語科教育法Ⅶ		3③		1		○					1					
国語科教育法Ⅷ		3④		1		○					1					
「話すこと・聞くこと」指導実践演習		3①			1		○			1						
「書くこと」指導実践演習		3②			1		○			1						
「読むこと」指導実践演習		3③			1		○			1						
メディア・地域教材開発指導演習		3④			1		○			1						
国語科教育演習		4①			1		○				1					
小計(38科目)	—	0	33	5	—	—	—	1	1	1	0	0	兼2	—		
社会科教育	日本史学概論Ⅰ	2①		1		○				1					メディア メディア メディア メディア メディア メディア メディア メディア メディア メディア メディア メディア メディア メディア メディア	
	日本史学概論Ⅱ	2②		1		○				1						
	日本史学各論(近世・近代)Ⅰ	2③		1		○				1						
	日本史学各論(近世・近代)Ⅱ	2④		1		○				1						
	日本史学演習Ⅰ	3①		1			○			1						
	日本史学演習Ⅱ	3②		1			○			1						
	日本史学演習Ⅲ	3③		1			○			1						
	日本史学演習Ⅳ	3④		1			○			1						
	西洋史学概論Ⅰ(現代的課題を踏まえて)	2③		1		○				1						
	西洋史学概論Ⅱ(現代的課題を踏まえて)	2④		1		○				1						
	西洋史学各論Ⅰ	3①		1		○				1						
	西洋史学各論Ⅱ	3②		1		○				1						
	西洋史学演習Ⅰ	3①		1			○			1						
	西洋史学演習Ⅱ	3②		1			○			1						
	西洋史学演習Ⅲ	3③		1			○			1						
	西洋史学演習Ⅳ	3④		1			○			1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目 専門科目	人文地理学概論Ⅰ	2①		1		○			1							
	人文地理学概論Ⅱ	2②		1		○			1							
	地誌学Ⅰ	2③		1		○			1							
	地誌学Ⅱ	2④		1		○			1							
	地理学各論Ⅰ	2③		1		○			1							
	地理学各論Ⅱ	2④		1		○			1							
	自然地理学Ⅰ	3①		1		○									兼1	
	自然地理学Ⅱ	3②		1		○									兼1	
	地理学演習Ⅰ	3①		1			○		1							
	地理学演習Ⅱ	3②		1			○		1							
	地理学演習Ⅲ	3③		1			○		1							
	地理学演習Ⅳ	3④		1			○		1							
	地理学巡検	3②		1				○	1						集中	
	法学概論Ⅰ	2③		1		○			1							
	法学概論Ⅱ	2④		1		○			1							
	法学各論Ⅰ	3①		1		○			1							
	法学演習Ⅰ	3①		1			○		1							
	法学演習Ⅱ	3②		1			○		1							
	政治学概論Ⅰ（現代的課題を含む）	2①		1		○				1					メディア	
	政治学概論Ⅱ（現代的課題を含む）	2②		1		○				1					メディア	
	人間安全保障論Ⅰ	3③		1		○				1					メディア	
	人間安全保障論Ⅱ	3④		1		○				1					メディア	
	平和学Ⅰ	2①		1		○				1						
	平和学Ⅱ	2②		1		○				1						
	地球市民社会論Ⅰ	2③		1		○				1						
	地球市民社会論Ⅱ	2④		1		○				1						
	政治学演習Ⅰ	3①		1			○			1						
	政治学演習Ⅱ	3②		1			○			1						
	政治学演習Ⅲ	3③		1			○			1						
	政治学演習Ⅳ	3④		1			○			1						
	経済学概論	3①		1		○									兼1	
	社会学概論Ⅰ（現代的課題を含む）	3①		1		○				1					メディア	
	社会学概論Ⅱ（現代的課題を含む）	3②		1		○				1					メディア	
	地域社会論Ⅰ	4①		1		○				1						
	地域社会論Ⅱ	4②		1		○				1						
	社会学演習Ⅰ	3①		1			○			1						
	社会学演習Ⅱ	3②		1			○			1						
	社会学演習Ⅲ	3③		1			○			1						
	社会学演習Ⅳ	3④		1			○			1						
	社会科・地歴科教育法Ⅲ	3①		1		○									兼1	
	社会科・地歴科教育法Ⅳ	3②		1		○									兼1	
	社会科・公民科教育法Ⅰ（北陸の教育実践を含む）	2③		1		○									兼1	メディア
	社会科・公民科教育法Ⅱ（北陸の教育実践を含む）	2④		1		○									兼1	メディア
	社会科・公民科教育法Ⅲ	3③		1		○									兼1	
	社会科・公民科教育法Ⅳ	3④		1		○									兼1	
	小計（61科目）		—	0	61	0	—	—	—	3	3	0	0	0	兼4	—
	数学教育	線形代数学概論Ⅰ（代数と現代の数学教育を含む）	2③		1		○			1						メディア
		線形代数学概論Ⅱ（代数と現代の数学教育を含む）	2④		1		○			1						メディア
		代数学Ⅰ	3③		1		○			1						メディア
		代数学Ⅱ	3④		1		○			1						メディア
		数論Ⅰ	3①		1		○			1						メディア
		数論Ⅱ	3②		1		○			1						メディア
		解析学概論Ⅰ	2①		1		○				1					
		解析学概論Ⅱ	2②		1		○				1					
		解析学Ⅰ	2③		1		○				1					
		解析学Ⅱ	2④		1		○				1					
		解析学Ⅲ	3③		1		○				1					メディア
		解析学Ⅳ	3④		1		○				1					メディア
		微分方程式Ⅰ	4①		1		○				1					メディア
		微分方程式Ⅱ	4②		1		○				1					メディア
		確率論	3③		1		○			1						メディア
統計学		3④		1		○			1						メディア	
コンピュータ概論Ⅰ（授業への応用を含む）	3①		1		○				1					メディア		
コンピュータ概論Ⅱ（授業への応用を含む）	3②		1		○				1					メディア		
数学科教育法Ⅰ（富山県の教育実践を含む）	2①		1		○			1						メディア		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	数学教育	数学科教育法Ⅱ（富山県の教育実践を含む）	2②		1		○			1						メディア
		数学科教育法Ⅴ	3①		1		○			1						
		数学科教育法Ⅵ	3②		1		○			1						
		数学科教育法Ⅶ	4③		1		○			1						
		数学科教育法Ⅷ	4④		1		○			1						
		算数・数学科教材開発研究	4①		1		○			1						メディア
	小計（25科目）	—	0	25	0	—	—	—	2	1	0	0	0	—	—	
	理科教育	理科内容A（力学概論と現代理科教育）	2①		1		○				1					メディア
		理科内容A（熱力学）	2②		1		○				1					メディア
		理科内容演習AⅠ（物理学）	3③		1			○			1					
		理科内容演習AⅡ（物理学）	3④		1			○			1					
		理科実験AⅠ（物理学）	3①	0.5					○		1					
		理科実験AⅡ（物理学）	3②	0.5					○		1					
		理科内容B（物理化学概論と現代理科教育）	2③		1		○			1						メディア
		理科内容B（一般化学）	2④		1		○			1						メディア
		理科内容演習BⅠ（化学）	3③		1			○			1					
		理科内容演習BⅡ（化学）	3④		1			○			1					
		理科実験BⅠ（化学）	3①	0.5					○		1					
		理科実験BⅡ（化学）	3②	0.5					○		1					
		理科内容C（生物共通性概論と現代理科教育）	2①		1		○				1					メディア
		理科内容C（ヒトの生物学）	2③		1		○				1					メディア
		理科内容演習CⅠ（生物学）	3③		1			○			1					
		理科内容演習CⅡ（生物学）	3④		1			○			1					
		理科実験CⅠ（生物学）	3①	0.5					○		1					
		理科実験CⅡ（生物学）	3②	0.5					○		1					
理科内容D（地球環境科学概論と現代理科教育）		2②		1		○					1				メディア	
理科内容D（地球史学）		2④		1		○					1				メディア	
理科内容演習DⅠ（地学）		3③		1			○				1					
理科内容演習DⅡ（地学）		3④		1			○				1					
理科実験DⅠ（地学）		3①	0.5					○			1					
理科実験DⅡ（地学）		3②	0.5					○			1					
理科教育法Ⅲ（富山県の教育実践を含む）		2③		1		○				1					メディア	
理科教育法Ⅳ（富山県の教育実践を含む）	2④		1		○				1					メディア		
理科教育法Ⅴ	3①		1		○				1							
理科教育法Ⅵ	3②		1		○				1							
理科教育法Ⅶ	3③		1		○				1							
理科教育法Ⅷ	3④		1		○				1							
理科教育演習Ⅰ	4①		1			○			1							
理科教育演習Ⅱ	4②		1			○			1							
小計（32科目）	—	0	28	0	—	—	—	—	1	3	1	0	0	—		
音楽教育	アンサンブルⅥ（室内楽）	3		1				○			1				集中	
	アンサンブルⅦ（室内楽）	3		1				○			1				集中	
	音楽史Ⅰ（西洋音楽）	3①		1		○								兼1	集中	
	音楽史Ⅱ（西洋音楽）	3②		1		○								兼1	集中	
	音楽科教育法Ⅲ（富山県の教育実践を含む）	2③		1		○				1					メディア	
	音楽科教育法Ⅳ（富山県の教育実践を含む）	2④		1		○				1					メディア	
小計（6科目）	—	0	6	0	—	—	—	—	0	0	1	0	0	兼1	—	
美術教育	絵画基礎Ⅱ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）	2④		1				○							兼1	集中
	彫刻基礎Ⅱ（現代美術表現を含む）	2②		1				○							兼1	集中
	デザイン基礎Ⅱ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）	2④		1				○		1						
	デザインⅠ	3①		1				○		1						
	デザインⅡ	3②		1				○		1						
	デザインⅢ	3③		1				○		1						
	デザインⅣ	3④		1				○		1						
	工芸基礎Ⅱ	2②		1				○							兼1	集中
	日本美術史（美術理論含む）	2		2		○									兼1	集中
	西洋美術史（美術理論含む）	2		2		○									兼1	集中
	美術実地研究	3②		1				○		1					兼1	集中
	美術科教育法Ⅲ（富山県の教育実践を含む）	2③		1		○									兼1	メディア
	美術科教育法Ⅳ（富山県の教育実践を含む）	2④		1		○									兼1	メディア
	美術科教育法Ⅴ	3①		1		○				1					兼1	
	美術科教育法Ⅵ	3②		1		○				1					兼1	
美術科教育法Ⅶ	3③		1		○				1					兼1		
美術科教育法Ⅷ	3④		1		○				1					兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
美術教育	造形教育演習Ⅰ	4①			1		○								兼1	
	造形教育演習Ⅱ	4②			1		○								兼1	
	造形教育演習Ⅲ	4③			1		○								兼1	
	造形教育演習Ⅳ	4④			1		○								兼1	
	小計(21科目)	—	0	19	4		—		1	0	0	0	0	0	兼6	
保健体育	体操Ⅰ	2①		0.5			○			1						
	体操Ⅱ	2②		0.5			○			1						
	器械運動Ⅰ	2①		0.5			○			1						
	器械運動Ⅱ	2②		0.5			○			1						
	陸上Ⅰ	2①		0.5			○			1						
	陸上Ⅱ	2②		0.5			○			1						
	水泳Ⅰ	3①		0.5			○								兼1	
	水泳Ⅱ	3②		0.5			○								兼1	
	武道BⅠ(柔道)	2③		0.5			○								兼1	
	武道BⅡ(柔道)	2④		0.5			○								兼1	
	ダンスⅠ	3①		0.5			○				1					
	ダンスⅡ	3②		0.5			○				1					
	球技(ゴール型)BⅠ(バスケットボール)	3①		0.5			○								兼1	
	球技(ゴール型)BⅡ(バスケットボール)	3②		0.5			○								兼1	
	球技(ネット型)BⅠ(バレーボール)	3①		0.5			○			1						
	球技(ネット型)BⅡ(テニス)	3②		0.5			○			1						
	球技(ベースボール型)Ⅰ	3①		0.5			○								兼1	
	球技(ベースボール型)Ⅱ	3②		0.5			○								兼1	
	スポーツ文化論Ⅰ	3①		1			○								兼1	メディア
	スポーツ文化論Ⅱ	3②		1			○								兼1	メディア
	スポーツ心理学Ⅰ(最新教育課題を含む)	3①		1			○			1						メディア
	スポーツ心理学Ⅱ(最新教育課題を含む)	3②		1			○			1						メディア
	スポーツマネジメント論Ⅰ	3①		1			○			1						メディア
	スポーツマネジメント論Ⅱ	3②		1			○			1						メディア
	スポーツ社会学Ⅰ	2③		1			○			1						メディア
	スポーツ社会学Ⅱ	2④		1			○			1						メディア
	運動学概論(運動方法をを含む)Ⅰ	2③		1			○			1						メディア
	運動学概論(運動方法をを含む)Ⅱ	2④		1			○			1						メディア
	バイオメカニクスⅠ	2③		1			○									兼1
	バイオメカニクスⅡ	2④		1			○									兼1
	発育発達Ⅰ	2①		1			○					1				メディア
	発育発達Ⅱ	2②		1			○					1				メディア
	保健体育科教育法Ⅲ(富山県の教育実践を含む)	2③		1			○			1						メディア
	保健体育科教育法Ⅳ(富山県の教育実践を含む)	2④		1			○			1						メディア
	保健体育科教育法Ⅶ	3③		1			○				1					メディア
	保健体育科教育法Ⅷ	3④		1			○				1					メディア
	コーチング論Ⅰ	3③			1		○				2					兼1
	コーチング論Ⅱ	3④			1		○				2	1				オムニバス オムニバス
	小計(38科目)	—	0	27	2		—		3	2	0	0	0	0	兼6	
家政教育	食物学概論Ⅰ(栄養学、食品学及び現代の栄養課題を含む)	2①		1			○			1					メディア	
	食物学概論Ⅱ(栄養学、食品学を含む)	2②		1			○			1					メディア	
	食物学	3①		1			○			1					メディア	
	調理実習(地域の食文化比較を含む)	3②		1				○		1						
	食物学演習Ⅰ	3③		1				○		1					メディア	
	食物学演習Ⅱ	3④		1				○		1					メディア	
	住居学概論Ⅰ	2①		1			○		1						メディア	
	住居学概論Ⅱ	2②		1			○		1						メディア	
	住居学Ⅰ(現代の住環境問題を含む)	2③		1			○		1						メディア	
	住居学Ⅱ(製図及び富山石川の住宅比較を含む)	2④		1			○		1						メディア	
	住居学演習Ⅰ	3③		1				○		1					メディア	
	住居学演習Ⅱ	3④		1				○		1					メディア	
	家庭科教育法Ⅰ(富山県の教育実践を含む)	2①		1			○		1						メディア	
	家庭科教育法Ⅱ(富山県の教育実践を含む)	2②		1			○		1						メディア	
	家庭科教育法Ⅴ	3①		1			○		1						メディア	
	家庭科教育法Ⅵ	3②		1			○		1						メディア	
	家庭科教育法Ⅶ	3③		1			○		1						メディア	
	家庭科教育法Ⅷ	3④		1			○		1						メディア	
	家庭科教育演習Ⅰ	4①		1				○		1						
	家庭科教育演習Ⅱ	4②		1				○		1						
住居学演習Ⅲ	4①			1			○		1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	家政教育	住居学演習Ⅳ	4②		1		○		1						
	食物学演習Ⅲ	4①		1		○			1						
	食物学演習Ⅳ	4②		1		○			1						
	家庭科教育演習Ⅲ	4①		1		○			1						
	家庭科教育演習Ⅳ	4②		1		○			1						
	小計(26科目)	—	0	20	6	—	—	—	2	1	0	0	0	—	
	英語教育	英語学概論Ⅰ(文法と現在の英語教育)	2①		1		○					1			メディア
	英語学概論Ⅱ(文法と現在の英語教育)	2②		1		○						1			メディア
	英語学概論Ⅲ(応用)	3①		1		○						1			
	英語学概論Ⅳ(応用)	3②		1		○						1			
	英語音声学・文法Ⅰ	2③		1		○						1			
	英語音声学・文法Ⅱ	2④		1		○						1			
	英語学演習Ⅰ(個別理論)	3③		1			○					1			
	英語学演習Ⅱ(個別理論)	3④		1			○					1			
	英作文Ⅰ(基礎)	2①		1			○								兼1
	英会話Ⅰ(基礎)	2③		1			○								兼1
	英作文Ⅱ(応用)	2②		1			○								兼1
	英会話Ⅱ(応用)	2④		1			○								兼1
	英作文Ⅲ(応用)	3①		1			○								兼1
	英会話Ⅲ(応用)	3③		1			○								兼1
	英作文Ⅳ(応用)	3②		1			○								兼1
	英会話Ⅳ(応用)	3④		1			○								兼1
	異文化理解Ⅰ(英語教育の中の異文化理解)	2③		1			○				1				メディア
	異文化理解Ⅱ(英語教育の中の異文化理解)	2④		1			○				1				メディア
	異文化理解Ⅲ(応用)	3①		1			○				1				メディア
	異文化理解Ⅳ(応用)	3②		1			○				1				メディア
	異文化理解演習Ⅰ	3③		1				○			1				メディア
	異文化理解演習Ⅱ	3④		1				○			1				メディア
	英語科教育法Ⅰ(富山県の教育実践を含む)	2①		1			○								兼1
	英語科教育法Ⅱ(富山県の教育実践を含む)	2②		1			○								兼1
	英語科教育法Ⅴ	3①		1			○					1			
	英語科教育法Ⅵ	3②		1			○					1			
	英語科教育法Ⅶ	3③		1			○					1			
	英語科教育法Ⅷ	3④		1			○					1			
	英語学特別演習Ⅲ	3①			1			○				1			
	英語学特別演習Ⅳ	3②			1			○				1			
異文化理解特別演習Ⅰ	3③			1			○				1			兼1	
異文化理解特別演習Ⅱ	3④			1			○				1			兼1	
英語教育学特別演習Ⅲ	4③			1			○							兼1	
英語教育学特別演習Ⅳ	4④			1			○							兼1	
英語科教育実践研究Ⅲ	3③			1			○				1				
英語科教育実践研究Ⅳ	3④			1			○				1				
小計(36科目)	—	0	28	8	—	—	—	0	1	2	0	0	兼4	—	
教育学・心理学に関する科目	教育心理学データ解析法A	2①		1		○					1				
教育心理学データ解析法B	2②			1		○					1				
教育心理学研究法	2③			1			○				1				
教育心理学実験法	2④			1			○				1				
教育臨床心理学A	2②			1		○				1					
教育臨床心理学B	2③			1		○				1					
教授・学習心理学演習	3③			1			○				1				
臨床心理実習	3通		2					○			1	1			
教育心理学ゼミナール	3通		2				○				1	2			
教育法規A	2・3・4		1			○								兼1	
教育法規B	2・3・4		1			○								兼1	
教育臨床学A	2・3・4		1			○					1				
教育臨床学B	2・3・4		1			○					1				
教育倫理学A	2・3・4		1			○					1				
教育倫理学B	2・3・4		1			○					1				
教育学ゼミナール	3通		2				○				2			兼1	
小計(16科目)	—	0	0	19	—	—	—	0	1	4	0	0	兼1	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	保育士に関する科目	保育原理 I	1③			1	○				1					オムニバス オムニバス 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
		保育原理 II	1④			1	○				1					
		乳児保育 I	2③			1	○				1					
		乳児保育 II	2④			1	○				1					
		乳児保育 III	3①			1		○			1					
		社会的養護 I	3①			1	○				1					
		社会的養護 II	3②			1	○				1					
		保育者論	1④			1	○				1					
		子どもの保健 I	3③			1	○				2					
		子どもの保健 II	3④			1	○				2					
		子どもの食と栄養 I	3③			1	○				1					
		子どもの食と栄養 II	3④			1	○				1					
		社会的養護 III	3③			1		○			1					
		保育実習 I	2④・3④			4				○	1	2				
		保育実習指導 I	2・3			2				○	1	2				
		臨床発達心理学 I	4①			1		○			1					
		臨床発達心理学 II	4②			1		○			1					
		発達福祉統計学 I	3③			1		○			1					
		発達福祉統計学 II	3④			1		○			1					
		地域子育て支援論演習 I	4③			1			○		1					
地域子育て支援論演習 II	4④			1			○		1							
保育実習 II	3④			2				○	1	2						
保育実習 III	3④			2				○	1	2						
保育実習指導 II	3			1				○	1	2						
保育実習指導 III	3			1				○	1	2						
小計 (25科目)		—	0	0	31		—		3	4	0	0	0	兼1		
合計 (563科目)		—	51	516	96		—		13	18	11	0	0	兼99		
学位又は称号	学士 (教育学)		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
						1 学年の学期区分			4期							
						1 学期の授業期間			8週							
						1 時限の授業時間			90分							
						※ 富山大学の教養教育科目は Semester 制で授業を実施する。										
1. 教養教育科目又は共通教育科目																
富山大学：教養教育科目 22単位以上																
(1) 人文科学系						10単位以上										
(2) 社会科学系						(ただし、人文科学系から2単位以上、社会科学系から2単位以上、自然科学系から2単位以上を含むこと。)										
(3) 自然科学系																
(4) 総合科目系						2単位以上										
(5) 外国語系						6単位以上										
(6) 保健体育系						2単位										
(7) 情報処理系						2単位										
金沢大学：共通教育科目 28単位以上																
(1) 導入科目						3単位										
(2) G S 科目						15単位以上										
(3) G S 言語科目						8単位										
(4) 自由履修科目						2単位以上										
2. 専門教育科目																
[専門科目区分：幼児教育，国語教育，社会科教育，数学教育，理科教育，音楽教育，美術教育，保健体育，家政教育，英語教育]																
富山大学：114単位以上																
(1) 共通科目						9単位以上										
(2) 教育の基礎的理解に関する科目						12単位										
(3) 道徳、総合的な学習の時間等に関する科目						12単位以上										
(4) 教育実践に関する科目						9単位以上										
(5) 小学校教科						12単位以上										
(6) 小学校教科指導法						20単位										
(7) 先進的教育科目 (共通領域)						16単位										
(8) 専門科目						24単位以上										

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
<p>金沢大学：116単位以上</p> <p>(1) 学域G S 科目 4単位 (2) 学域G S 言語科目 2単位 (3) 共通科目 5単位 (4) 教育の基礎的理解に関する科目 12単位 (5) 道徳、総合的な学習の時間等に関する科目 12単位以上 (6) 教育実践に関する科目 9単位以上 (7) 小学校教科 12単位以上 (8) 小学校教科指導法 20単位 (9) 先進的教育科目（共通領域） 16単位 (10) 専門科目 24単位以上</p> <p>[専門科目区分：特別支援教育]</p> <p>富山大学：114単位以上</p> <p>(1) 共通科目 9単位以上 (2) 教育の基礎的理解に関する科目 12単位 (3) 道徳、総合的な学習の時間等に関する科目 12単位以上 (4) 教育実践に関する科目 10単位以上 (5) 小学校教科 12単位以上 (6) 小学校教科指導法 20単位 (7) 先進的教育科目（共通領域） 16単位 (8) 専門科目 23単位以上</p> <p>金沢大学：116単位以上</p> <p>(1) 学域G S 科目 4単位 (2) 学域G S 言語科目 2単位 (3) 共通科目 5単位 (4) 教育の基礎的理解に関する科目 12単位 (5) 道徳、総合的な学習の時間等に関する科目 12単位以上 (6) 教育実践に関する科目 10単位以上 (7) 小学校教科 12単位以上 (8) 小学校教科指導法 20単位 (9) 先進的教育科目（共通領域） 16単位 (10) 専門科目 23単位以上</p> <p>3. 相手大学の開講科目の単位取得</p> <p>富山大学：上記1及び2のうち、金沢大学が開講する科目31単位以上 金沢大学：上記1及び2のうち、富山大学が開講する科目31単位以上</p>														

教育課程等の概要

(金沢大学人間社会学域学校教育学類共同教員養成課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
導入科目	大学・社会生活論	1①		1		○			1						
	データサイエンス基礎	1①		1		○			1						
	地域概論	1①		1		○									
	小計(3科目)	—	0	3	0	—	—	—	1	1	0	0	0	—	
共通教育科目	1群(自己の立ち位置を知る)	現代世界への歴史的アプローチ	1①・②・③・④		1		○								兼1
		グローバル時代の政治経済学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		グローバル時代の社会学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		ケーススタディによる応用倫理学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		地球生物圏と人間	1①・②・③・④		1		○								兼1
	2群(自己を鍛え知る)	哲学(自我論)	1①・②・③・④		1		○								兼1
		パーソナリティ心理学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		グローバル時代の文学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		健康科学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		細胞・分子生物学	1①・②・③・④		1		○								兼2 共同
	3群(価値観を考へ・表現する)	エクササイズ&スポーツ 実技	1①・②・③・④		1				○						兼2
		クリティカル・シンキング	1①・②・③・④		1		○								兼1
		価値と情動の認知科学	1①・②・③・④		1		○				1				兼1
		芸術と自己表現	1①・②・③・④		1		○								兼1
	4群(世界とつながる)	スポーツ科学	1①・②・③・④		1		○								兼1
金沢・能登と世界の地域文化		1②・③・④		1		○								兼1	
日本史・日本文化		1②・③・④		1		○								兼3	
異文化間コミュニケーション		1①・②・③・④		1		○								兼1	
異文化体験A		1②・④		1				○						兼1 集中	
異文化体験B		1②・④		2				○						兼1 集中	
異文化体験C		1②・④		3				○						兼1 集中	
異文化体験D		1②・④		4				○						兼1 集中	
異文化体験E		1②・④		5				○						兼1 集中	
異文化体験F		1②・④		6				○						兼1 集中	
5群(未来の課題に取り組む)	異文化体験G	1②・④		7				○						兼1 集中	
	異文化体験H	1②・④		8				○						兼1 集中	
	グローバル時代の国際協力	1①・②・③・④		1		○								兼1	
	グローバル社会と地域の課題	1①・②・③・④		1		○								兼1	
	6群(新しい社会を生きる)	科学技術と科学方法論	1①・②・③・④		1		○								兼1
統計学から未来を見る		1①・②・③・④		1		○								兼1	
環境学とESD		1①・②・③・④		1		○								兼1	
生活と社会保障		1①・②・③・④		1		○								兼1	
現代社会と人権		1①・②・③・④		1		○								兼1	
GS言語科目(英語)	インテグレート科学	1①・②・③・④		1		○								兼1	
	AI入門	1①・②・③・④		1		○								兼1	
	情報の科学	1①・②・③・④		1		○								兼1	
	デザイン思考入門	1①・②・③・④		1		○								兼2	
	論理学と数学の基礎	1①・②・③・④		1		○								兼1	
	小計(38科目)	—	0	66	0	—	—	—	0	1	0	0	0	兼33	
GS言語科目(英語)	TOEIC準備 I	1①		1		○								兼1	
	TOEIC準備 II	1②		1		○								兼1	
	TOEIC準備 III	1③		1		○								兼1	
	TOEIC準備 IV	1④		1		○								兼1	
	TOEIC準備(演習)	2①・②・③・④		1		○								兼1	
	English for Academic Purposes I	1①		1		○								兼1	
	English for Academic Purposes II	1②		1		○								兼1	
	English for Academic Purposes III	1③		1		○								兼1	
	English for Academic Purposes IV	1④		1		○								兼1	
	English for Academic Purposes (Retake)	2①・②・③・④		1		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
GS言語科目 (日本語)	アカデミック基礎日本語A	1①		1		○									兼1	
	アカデミック基礎日本語B	1②		1		○									兼1	
	講義の聴解A	1①・③		1		○									兼1	
	講義の聴解B	1②・④		1		○									兼1	
	口頭発表A	1①・③		1		○									兼1	
	口頭発表B	1②・④		1		○									兼1	
	上級読解I A	1①		1		○									兼1	
	上級読解I B	1②		1		○									兼1	
	上級読解II A	1③		1		○									兼1	
	上級読解II B	1④		1		○									兼1	
日本語で学ぶ論理A	1①・③		1		○									兼1		
GS言語科目 (日本語)	日本語で学ぶ論理B	1②・④		1		○									兼1	
	日本事情A	1①・③		1		○									兼1	
	日本事情B	1②・④		1		○									兼1	
	アカデミック・ライティングA	1①・③		1		○									兼1	
	アカデミック・ライティングB	1②・④		1		○									兼1	
	小計(26科目)	—	0	26	0	—			0	0	0	0	0	0	兼8	—
共通教育科目 初習言語科目	ドイツ語A1-1	1①・③		1			○								兼1	
	ドイツ語A1-2	1②・④		1			○								兼1	
	ドイツ語A2-1	1①・③		1			○								兼1	
	ドイツ語A2-2	1②・④		1			○								兼1	
	ドイツ語A3-1	1①・③		1			○								兼1	
	ドイツ語A3-2	1②・④		1			○								兼1	
	ドイツ語A4-1	1①・③		1			○								兼1	
	ドイツ語A4-2	1②・④		1			○								兼1	
	ドイツ語B-1	2①		1			○								兼1	
	ドイツ語B-2	2②		1			○								兼1	
	ドイツ語C-1	2①・③		1			○								兼1	
	ドイツ語C-2	2②・④		1			○								兼1	
	フランス語A1-1	1①		1			○								兼1	
	フランス語A1-2	1②		1			○								兼1	
	フランス語A2-1	1①		1			○								兼1	
	フランス語A2-2	1②		1			○								兼1	
	フランス語A3-1	1③		1			○								兼1	
	フランス語A3-2	1④		1			○								兼1	
	フランス語A4-1	1③		1			○								兼1	
	フランス語A4-2	1④		1			○								兼1	
	フランス語B-1	2①・③		1			○								兼1	
	フランス語B-2	2②・④		1			○								兼1	
	フランス語C-1	2③		1			○								兼1	
	フランス語C-2	2④		1			○								兼1	
	ロシア語A1-1	1①		1			○								兼1	
	ロシア語A1-2	1②		1			○								兼1	
	ロシア語A2-1	1①		1			○								兼1	
	ロシア語A2-2	1②		1			○								兼1	
	ロシア語A3-1	1③		1			○								兼1	
	ロシア語A3-2	1④		1			○								兼1	
	ロシア語A4-1	1③		1			○								兼1	
	ロシア語A4-2	1④		1			○								兼1	
ロシア語B-1	2①・③		1			○								兼1		
ロシア語B-2	2②・④		1			○								兼1		
ロシア語C-1	2①・③		1			○								兼1		
ロシア語C-2	2②・④		1			○								兼1		
中国語A1-1	1①		1			○								兼1		
中国語A1-2	1②		1			○								兼1		
中国語A2-1	1①		1			○								兼1		
中国語A2-2	1②		1			○								兼1		
中国語A3-1	1③		1			○								兼1		
中国語A3-2	1④		1			○								兼1		
中国語A4-1	1③		1			○								兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目 初習言語科目	中国語A4-2	1④		1				○							兼1	
	中国語B-1	2①・③		1				○							兼1	
	中国語B-2	2②・④		1				○							兼1	
	中国語C-1	2③		1				○							兼1	
	中国語C-2	2④		1				○							兼1	
	朝鮮語A1-1	1①		1				○							兼1	
	朝鮮語A1-2	1②		1				○							兼1	
	朝鮮語A2-1	1①		1				○							兼1	
	朝鮮語A2-2	1②		1				○							兼1	
	朝鮮語A3-1	1③		1				○							兼1	
	朝鮮語A3-2	1④		1				○							兼1	
	朝鮮語A4-1	1③		1				○							兼1	
	朝鮮語A4-2	1④		1				○							兼1	
	朝鮮語B-1	2①・③		1				○							兼1	
	朝鮮語B-2	2②・④		1				○							兼1	
	朝鮮語C-1	2①・③		1				○							兼1	
	朝鮮語C-2	2②・④		1				○							兼1	
	ギリシア語A1-1	1①		1				○							兼1	
	ギリシア語A1-2	1②		1				○							兼1	
	ギリシア語A2-1	1③		1				○							兼1	
	ギリシア語A2-2	1④		1				○							兼1	
	ギリシア語A3-1	2①		1				○							兼1	
	ギリシア語A3-2	2②		1				○							兼1	
	ギリシア語A4-1	2③		1				○							兼1	
	ギリシア語A4-2	2④		1				○							兼1	
	ギリシア語B-1	3①		1				○							兼1	
	ギリシア語B-2	3②		1				○							兼1	
	ギリシア語C-1	3③		1				○							兼1	
	ギリシア語C-2	3④		1				○							兼1	
	ラテン語A1-1	1①		1				○							兼1	
	ラテン語A1-2	1②		1				○							兼1	
	ラテン語A2-1	1③		1				○							兼1	
	ラテン語A2-2	1④		1				○							兼1	
	ラテン語A3-1	2①		1				○							兼1	
	ラテン語A3-2	2②		1				○							兼1	
	ラテン語A4-1	2③		1				○							兼1	
	ラテン語A4-2	2④		1				○							兼1	
	ラテン語B-1	3①		1				○							兼1	
	ラテン語B-2	3②		1				○							兼1	
	ラテン語C-1	3③		1				○							兼1	
	ラテン語C-2	3④		1				○							兼1	
	スペイン語A1-1	1①		1				○							兼1	
	スペイン語A1-2	1②		1				○							兼1	
	スペイン語A2-1	1①		1				○							兼1	
	スペイン語A2-2	1②		1				○							兼1	
	スペイン語A3-1	1③		1				○							兼1	
	スペイン語A3-2	1④		1				○							兼1	
	スペイン語A4-1	1③		1				○							兼1	
スペイン語A4-2	1④		1				○							兼1		
スペイン語B-1	2①		1				○							兼1		
スペイン語B-2	2②		1				○							兼1		
スペイン語C-1	2③		1				○							兼1		
スペイン語C-2	2④		1				○							兼1		
小計(96科目)		—	0	96	0		—		0	0	0	0	0	0	兼11	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	アントレプレナーシップ I	1③		1		○									兼1
	石川県の行政	1③～④		2		○									兼1
	石川県の市町	1①～②		2		○									兼1
	健康論実践D	1④		1				○							兼1
	健康論実践E	1④		1				○							兼1
	現代社会における保険の制度と役割 I	1③		1		○									兼1
	現代社会における保険の制度と役割 II	1④		1		○									兼1
	実践アントレプレナー学	1③		1		○									兼1
	クラウド時代の「ものグラミング」概論	1③～④		2		○									兼1
	シェルスクリプト言語論	1③～④		2		○									兼1
	地元学A (地域資源調査)	1①		1		○									兼1
	地元学B (聞き書き)	1②		1		○									兼1
	シェルスクリプトを用いた「ものグラミング」演習	1①		1			○								兼1
	イノベーションを起こして、起業家になろう 1	1①		1		○									兼1
	イノベーションを起こして、起業家になろう 2	1②		1		○									兼1
	イノベーションを起こして、起業家になろう 3	1③		1		○									兼1
	イノベーションを起こして、起業家になろう 4	1④		1		○									兼1
	香りと日本文化	1③		1		○									兼1
	心と体の健康A	1③		1		○									兼1
	心と体の健康B	1④		1		○									兼1
	地域「超」体験プログラム	1⑩・②・④		1				○							兼1
	道德教育および宗教教育をグローバルに考える	1④		1		○									兼1
	金沢の歴史と文化	1③～④		2		○									兼1
	日本の伝統芸能	1②		1		○									兼1
	地域創造学特別講義C	1③		1		○									兼1
	地域創造学特別講義D	1④		1		○									兼1
	日本国憲法概説	1③		2		○									兼1
	日本史要説	2①～②		2		○									兼1
	東洋史要説	2③～④		2		○									兼1
	異文化理解のためのビデオ会議ディスカッション	1③		1		○									兼1
	行政学の基礎	1①		2		○									兼1
	ゼミ/角間の里山づくり 春編	1①		1			○								兼1
	ゼミ/角間の里山づくり 秋編	1③		1			○								兼1
	コーヒーと社会	1③		1		○									兼1
	コーヒーと科学	1④		1		○									兼1
	地学実験	1②～③		2				○							兼1
	生物学実験	1①～②		2				○							兼1
	海洋生化学演習	1①		2			○								兼1
	英国諸島の地史 I	1②		1		○									兼1
	英国諸島の地史 II	1③		1		○									兼1
	環境動態学概説 I	1③		1		○									兼1
	環境動態学概説 II	1④		1		○									兼1
	Pythonデータ分析入門	1②		1		○									兼1
	プレゼンテーション演習A	1③		1		○									兼1
	プレゼンテーション演習B	1④		1		○									兼1
コンピュータグラフィクス演習 I	1③		1				○							兼1	
コンピュータグラフィクス演習 II	1④		1				○							兼1	
動画配信サービスを用いた情報発信演習 A	1①		1		○									兼1	
動画配信サービスを用いた情報発信演習 B	1②		1		○									兼1	
プログラミング演習 I	1③		1				○							兼1	
プログラミング演習 II	1④		1				○							兼1	
Society 5.0 概論	1③～④		2		○									兼1	
英語セミナー	1⑩・②・③・④		1		○									兼1	
ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界 1	1③		1			○								兼1	
ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界 2	1④		1			○								兼1	
ドイツ語A (充実クラス I-1)	1③		1			○								兼1	
ドイツ語A (充実クラス I-2)	1④		1			○								兼1	
ドイツ語A (充実クラス II-1)	1③		1			○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通教育科目	自由履修科目	ドイツ語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1			○								兼1		
		フランス語A(充実クラスⅠ-1)	1③	1			○								兼1		
		フランス語A(充実クラスⅠ-2)	1④	1			○								兼1		
		フランス語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1			○								兼1		
		フランス語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1			○								兼1		
		中国語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1			○								兼1		
		中国語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1			○								兼1		
小計(65科目)	—	0	78	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼32	—		
専門教育科目	初学科目	アカデミックスキル	1①	1			○		6	3					オムニバス		
		プレゼン・ディベート論	1③	1			○			1							
		小計(2科目)	—	0	2	0	—	—	6	3	0	0	0	—	—		
	学域GS科目	学域俯瞰科目	大学・学問論	1④	1		○									兼1	
			ジェンダーと教育	1③・④	1		○			1	2					共同	
			異文化理解1	1③	1		○									兼1	
			異文化理解2	1④	1		○									兼1	
			文学概論1	1③	1		○									兼1	
			文学概論2	1④	1		○									兼1	
			世界遺産学	1④	1		○									兼1	
			ルールリテラシー	1③	1		○									兼1	
			人文社会科学における法	1④	1		○									兼1	
			イメージの比較文化学	1③	1		○									兼1	
			防災学入門	1	2		○									兼2	集中・共同
			現代日本の文化と社会	2①	1		○										兼1
			地域創造学1	2①	1		○										兼1
			地域創造学2	2②	1		○										兼1
	小計(14科目)	—	0	15	0	—	—	—	1	2	0	0	0	兼11	—		
	学域GS科目	データサイエンス応用系科目	データサイエンスの技術	1③	1		○									兼1	
			国際経済の理論とデータ	2①	1		○									兼1	
国際貿易の理論とデータ			2①	1		○									兼1		
情報処理			2④	1		○									兼1		
計量政治分析実習			3③	2				○							兼1		
ビジネス・データ分析(ビジネス・データ・サイエンス)			1①	1		○									兼1		
統計データ分析の基本(多変量解析)			1②	1		○									兼1		
データで考える日本の未来(データサイエンス)			1③	1		○									兼1		
統計ソフトRによるビッグデータ分析			1③	1		○									兼1		
金融リテラシー			1④	1		○									兼1		
白書の講読と議論			1④	1		○									兼1		
地域課題解決と政策立案のための統計データ分析:EBPM(根拠に基づく政策立案)			1④	1		○									兼1		
統計学技能I			1~4	2				○			1				集中		
統計学技能II	1~4	3				○			1				集中				
小計(14科目)	—	0	18	0	—	—	—	0	1	0	0	0	兼5	—			
言語学	学域GS科目	学域GS言語科目I	2①	1			○		2	2							
		学域GS言語科目II	2②	1			○		2	2							
		小計(2科目)	—	0	2	0	—	—	2	2	0	0	0	—	—		
専門基礎科目	共通科目	野外体験活動I	1②	1						1							
		野外体験活動II	1③		1					1							
		卒業研究	4通	4					26	22	1						
	小計(3科目)	—	5	0	1	—	—	26	22	1	0	0	—	—			
	教育に関する基礎的理解に	教育の思想と歴史(日本)	1④	1			○			1					メディア		
		教職と学校	1④	1			○			1	6				メディア・オムニバス		
		教育制度概論(就学保障と学校安全)	2①・②	1			○				1						
発達と教育(自己創出としての発達)		2①	1			○				1				メディア			
特別支援教育概論	1④	1			○			1					メディア				
現在をつくる教育課程	2③・④	1			○				1								
小計(6科目)	—	6	0	0	—	—	2	7	0	0	0	—	—				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	道徳教育論（指導法）	3②	1			○			1	1					メディア	
	総合的な学習の時間教育論Ⅰ	3①	1			○			1							
	総合的な学習の時間教育論Ⅱ	3②	1			○			1							
	特別活動における評価と指導の実際	2①・②	1			○				1						
	教育方法探究	3②	1			○				1					メディア	
	学校カウンセリング	2②	1			○				1					メディア	
	子どもの生活とキャリア教育	2④	1			○				1					メディア	
	小計（7科目）	—	7	0	0	—	—	—	1	4	0	0	0	—	—	
	教育実践に関する科目	教育実習A（幼・小）（事前事後指導を含む）	3②・4②		5				○		1					
	教育実践に関する科目	教育実習A（中・高）（事前事後指導を含む）	3②・4②		5				○		1					
	教育実践に関する科目	教育実習B（小）	3②・4②		2				○		1					
	教育実践に関する科目	教育実習B（中・高）	3②・4②		2				○		1					
	教育実践に関する科目	教育実習B（特別支援）	3②・4②		3				○		1					
	教育実践に関する科目	教育実習B（幼）	3②・4②		2				○		1					
	教育実践に関する科目	教職実践演習（幼・小・中・高）	4③・④	2				○		1	1				オムニバス・共同	
	教育実践に関する科目	学校インターンシップⅡ（幼・小）	2①～④			2			○		1					
	教育実践に関する科目	学校インターンシップⅡ（中・高）	2①～④			2			○		1					
	教育実践に関する科目	小計（9科目）	—	2	19	4	—	—	—	1	2	0	0	0	—	—
	小学校の教科に関する専門的事項	国語科基礎B（書写を含む）（地域の文学を含む）	1④	1			○			1	3					メディア・オムニバス
	小学校の教科に関する専門的事項	社会科基礎B（高学年の社会科と現代の教育課題）	2②	1			○			2	2					メディア・オムニバス
	小学校の教科に関する専門的事項	算数科基礎B（高学年）	2②		1		○				1					メディア
	小学校の教科に関する専門的事項	理科基礎B（実践）	2②		1		○			3		1				メディア・オムニバス
	小学校の教科に関する専門的事項	生活科基礎B（実践）	3①		1			○		1						
	小学校の教科に関する専門的事項	音楽科基礎B（実践）	2②		1			○		2	1					共同
	小学校の教科に関する専門的事項	図画工作科基礎B（実践）	2④		1			○		2	1				兼1	オムニバス・共同
	小学校の教科に関する専門的事項	家庭科基礎B（被服・家庭経営と現代の教育課題）	1④	1			○				2					メディア・オムニバス
	小学校の教科に関する専門的事項	家庭科基礎C（実習）	2①		1				○		1					
	小学校の教科に関する専門的事項	体育科基礎A	1③		1		○			1	1					メディア・オムニバス
	小学校の教科に関する専門的事項	体育科基礎B（実践）	2③		1			○		1	1					オムニバス
	小学校の教科に関する専門的事項	英語科基礎A（理論）	2③		1		○			2	1					メディア・オムニバス
	小学校の教科に関する専門的事項	英語科基礎B（実践）	2④		1		○			3						メディア・オムニバス
	小学校の教科に関する専門的事項	小計（13科目）	—	3	10	0	—	—	—	17	15	1	0	0	兼1	—
	小学校の教科指導法	初等国語科教育法Ⅰ	2①	1			○			1						
小学校の教科指導法	初等国語科教育法Ⅱ	2②	1			○			1							
小学校の教科指導法	初等社会科教育法Ⅰ	2③	1			○			1							
小学校の教科指導法	初等社会科教育法Ⅱ	2④	1			○			1							
小学校の教科指導法	初等算数科教育法Ⅰ	2③	1			○				1						
小学校の教科指導法	初等算数科教育法Ⅱ	2④	1			○			1	1					オムニバス	
小学校の教科指導法	初等理科教育法Ⅰ	2③	1			○			1							
小学校の教科指導法	初等理科教育法Ⅱ	2④	1			○			1							
小学校の教科指導法	初等生活科教育法Ⅰ	3①	1			○			1							
小学校の教科指導法	初等生活科教育法Ⅱ	3②	1			○			1							
小学校の教科指導法	初等音楽科教育法Ⅰ	2③	1			○								兼1		
小学校の教科指導法	初等音楽科教育法Ⅱ	2④	1			○								兼1		
小学校の教科指導法	初等図画工作科教育法Ⅰ	3①	1			○			1					兼1	オムニバス	
小学校の教科指導法	初等図画工作科教育法Ⅱ	3②	1			○				1				兼1	オムニバス	
小学校の教科指導法	初等家庭科教育法Ⅰ	2①	1			○			1							
小学校の教科指導法	初等家庭科教育法Ⅱ	2②	1			○			1							
小学校の教科指導法	初等体育科教育法Ⅰ	2①	1			○			1	1					オムニバス	
小学校の教科指導法	初等体育科教育法Ⅱ	2②	1			○			1	1					オムニバス	
小学校の教科指導法	初等英語科教育法Ⅰ	3①	1			○			1							
小学校の教科指導法	初等英語科教育法Ⅱ	3②	1			○			1							
小学校の教科指導法	小計（20科目）	—	20	0	0	—	—	—	9	3	0	0	0	兼2	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目 (共通領域)	中学校・高等学校の特別支援教育Ⅰ	3③	1			○				1					メディア
	中学校・高等学校の特別支援教育Ⅱ	3④	1			○				1					メディア
	石川県の教育実践Ⅰ	2③	1			○			5						メディア・オムニバス
	石川県の教育実践Ⅱ	2④	1			○			3	2					メディア・オムニバス
	国際化と学校教育Ⅰ	2③	1			○			1						メディア
	国際化と学校教育Ⅱ	2④	1			○			1						メディア
	SDGs教育実践演習Ⅰ	3①	1			○									兼1 メディア
	SDGs教育実践演習Ⅱ	3②	1			○									兼1 メディア
	小計(8科目)	—	8	0	0	—	—	—	10	4	0	0	0	0	兼2
専門教育科目 目	幼児と健康	2③		1				○							
	幼児と人間関係(社会性の発達と現代的課題)	2①		1				○							メディア
	幼児と言葉	2①		1				○		1					
	保育内容(健康)(健康に関する現代的課題を含む)	2④		1				○		1					メディア
	保育内容(人間関係)	2③		1				○		1					
	人間関係の指導法	2④		1				○		1					集中
	保育内容(環境)(環境に関する現代的課題を含む)	2③		1				○							兼1 メディア
	環境の指導法(現代的課題を踏まえた石川などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)	2④		1				○		1					メディア
	保育内容(言葉)(言葉に関する現代的課題を含む)	2②		1				○		1					メディア
	保育内容(表現)(表現に関する現代的課題を含む)	2④		1				○		1	1				メディア・オムニバス
	幼児理解の理論と方法	2②		1			○			1					
	幼児理解と相談支援	2①		1			○			1					
	発達心理学Ⅰ	3③		1			○				1				
	発達心理学Ⅱ	3④		1			○				1				
	乳幼児心理学特講Ⅰ	3①		1			○				1				
	乳幼児心理学特講Ⅱ	3②		1			○				1				
	乳幼児心理学演習Ⅰ	3③		1				○			1				
	乳幼児心理学演習Ⅱ	3④		1				○			1				
	小計(18科目)	—	0	18	0	—	—	—	3	3	0	0	0	0	兼1
特別支援教育	特別支援教育基礎論Ⅰ(石川県の教育実践を含む)	2①		1				○							メディア
	病気・障害・不応の発達支援論Ⅰ	4①		1				○							
	病気・障害・不応の発達支援論Ⅱ	4②		1				○							
	知的障害児の心理・生理・病理Ⅰ	2①		1				○							メディア
	知的障害児の心理・生理・病理Ⅱ	2②		1				○							
	聴覚障害の心理・生理・病理Ⅰ(教育・医療・福祉の機関連携を含む)	2③		1				○			1				メディア
	聴覚障害の心理・生理・病理Ⅱ(教育・医療・福祉の機関連携を含む)	2④		1				○			1				メディア
	知的障害教育課程・指導論Ⅱ	2④		1				○				1			
	肢体不自由教育論Ⅰ(教育の現代的課題を含む)	3③		1				○			1				メディア
	肢体不自由教育論Ⅱ(教育の現代的課題を含む)	3④		1				○			1				メディア
	聴覚障害教育課程論Ⅰ	3①		1				○			1				メディア
	聴覚障害教育課程論Ⅱ	3②		1				○			1				メディア
	聴覚障害指導法Ⅰ	3③		1				○			1				メディア
	聴覚障害指導法Ⅱ	3④		1				○			1				メディア
	手話序論Ⅰ	2①		1				○			1				
	手話序論Ⅱ	2②		1				○			1				
	発声発語支援法Ⅰ	3①		1				○			1				メディア
	発声発語支援法Ⅱ	3②		1				○			1				メディア
	障害児教育基礎論Ⅰ	2①		1				○			3	2			オムニバス
	障害児教育基礎論Ⅱ	2②		1				○			3	2			オムニバス
	ことばの障害とコミュニケーションⅠ	2③		1				○			1				
	ことばの障害とコミュニケーションⅡ	2④		1				○			1				
	発達障害指導法Ⅰ	3③		1				○				1			
	発達障害指導法Ⅱ	3④		1				○				1			
	言語障害指導法	4②		1				○			1				
	発達障害総論	4①		1				○				1			
重複障害児教育Ⅰ	3①		1				○			1				メディア	
重複障害児教育Ⅱ	3②		1				○			1					
障害児教育基礎演習Ⅰ	2③		1					○		3	2			共同	
障害児教育基礎演習Ⅱ	2④		1					○		3	2			共同	
特別支援教育学演習	3			2				○		3	2			集中・共同	
小計(31科目)	—	0	30	2	—	—	—	3	2	0	0	0	0	—	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	日本語学演習Ⅰ	3③		1			○									兼1
	日本語学演習Ⅱ	3④		1			○									兼1
	日本語史Ⅰ	2③		1		○										兼1
	日本語史Ⅱ	2④		1		○										兼1
	日本語学講読Ⅲ	3①		1		○										兼1
	日本語学講読Ⅳ	3②		1		○										兼1
	日本文学演習Ⅰ	3①		1			○			1						
	日本文学演習Ⅱ	3②		1			○			1						
	日本文学演習Ⅲ	3③		1			○			1						
	日本文学演習Ⅳ	3④		1			○			1						
	日本近現代文学Ⅰ	2①		1		○				1						メディア
	日本近現代文学Ⅱ	2②		1		○				1						メディア
	日本古典文学Ⅰ	2③		1		○				1						メディア
	日本古典文学Ⅱ	2④		1		○				1						メディア
	日本文学史Ⅰ（教育上の現代的課題を含む）	2①		1		○				1						メディア
	日本文学史Ⅱ（教育上の現代的課題を含む）	2②		1		○				1						メディア
	日本文学講読Ⅰ	3①		1		○				1						
	日本文学講読Ⅱ	3②		1		○				1						
	日本文学講読Ⅲ	4①		1		○				1						
	日本文学講読Ⅳ	4②		1		○				1						
	漢文学概論Ⅰ（教育上の現代的課題を含む）	2③		1		○				1						メディア
	漢文学概論Ⅱ（教育上の現代的課題を含む）	2④		1		○				1						メディア
	漢文学演習Ⅰ	3③		1			○			1						
	漢文学演習Ⅱ	3④		1			○			1						
	漢文学講読Ⅰ	4①		1		○				1						
	漢文学講読Ⅱ	4②		1		○				1						
	書写書道基礎Ⅰ	3③		1			○			1						
	書写書道基礎Ⅱ	3④		1			○			1						
	国語科教育法Ⅰ（石川県の教育実践を含む）	2①		1		○				1						メディア
	国語科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）	2②		1		○				1						メディア
	国語科教育法Ⅴ	3①		1		○				1						
	国語科教育法Ⅵ	3②		1		○				1						
	国語科教育法Ⅶ	3③		1		○				1						
	国語科教育法Ⅷ	3④		1		○				1						
	国語科教育演習Ⅰ	3③		1			○			1						
	国語科教育演習Ⅱ	3④		1			○			1						
	国語科教育演習Ⅲ	4①		1			○			1						
	国語科教育演習Ⅳ	4②		1			○			1						
	国語科実践研究Ⅰ	3①			1		○			1	3					オムニバス
	国語科実践研究Ⅱ	3②			1		○			1	3					オムニバス
	国語科実践研究Ⅲ	4①			1		○			1	3					オムニバス
	国語科実践研究Ⅳ	4②			1		○			1	3					オムニバス
小計（42科目）		—	0	38	4				1	3	0	0	0	兼3	—	
社会科教育	日本史学概論Ⅰ	2①		1		○			1							
	日本史学概論Ⅱ	2②		1		○			1							
	日本史学各論（古代・中世）Ⅰ	2③		1		○			1						メディア	
	日本史学各論（古代・中世）Ⅱ	2④		1		○			1						メディア	
	日本史学演習Ⅰ	3①		1			○		1							
	日本史学演習Ⅱ	3②		1			○		1							
	日本史学演習Ⅲ	3③		1			○		1							
	日本史学演習Ⅳ	3④		1			○		1							
	歴史学野外実習	2通		1				○		1						
	東洋史学概論Ⅰ	3③		1		○									兼2	
	東洋史学概論Ⅱ	3④		1		○									兼2	
	人文地理学概論Ⅰ	2①		1		○				1						
	人文地理学概論Ⅱ	2②		1		○				1						
	地誌学Ⅰ	2③		1		○				1						
	地誌学Ⅱ	2④		1		○				1						
	地理学各論Ⅰ	2③		1		○				1						
	地理学各論Ⅱ	2④		1		○				1						
自然地理学Ⅰ	3①		1		○									兼1		
自然地理学Ⅱ	3②		1		○									兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	地理学演習Ⅰ	3①		1			○			1					集中	
	地理学演習Ⅱ	3②		1			○			1						
	地理学演習Ⅲ	3③		1			○			1						
	地理学演習Ⅳ	3④		1			○			1						
	地理学野外実習	2①・②		1				○		1						
	法学概論Ⅰ	2③		1		○				1						
	法学概論Ⅱ	2④		1		○				1						
	法学各論Ⅰ	3①		1		○				1						
	法学各論Ⅱ	3②		1		○				1						
	法学演習Ⅲ	3③		1			○			1						
	法学演習Ⅳ	3④		1			○			1						
	経済学概論	3①		1		○								兼1		
	哲学概論Ⅰ（哲学と現代的教育状況）	2①		1		○				1						メディア
	哲学概論Ⅱ（哲学と現代的教育状況）	2②		1		○				1						メディア
	倫理学Ⅰ（現代応用倫理学を含む）	3③		1		○				1						メディア
	倫理学Ⅱ（現代応用倫理学を含む）	3④		1		○				1					メディア	
	宗教学Ⅰ	3①		1		○				1					メディア	
	宗教学Ⅱ	3②		1		○				1					メディア	
	哲学史Ⅰ	3①		1		○				1						
	哲学史Ⅱ	3②		1		○				1						
	哲学演習Ⅰ	3③		1			○			1						
	哲学演習Ⅱ	3④		1			○			1						
	青年心理学	3③		1		○					1					
	社会科・地歴科教育法Ⅰ（北陸の教育実践を含む）	2①		1		○				1					メディア	
	社会科・地歴科教育法Ⅱ（北陸の教育実践を含む）	2②		1		○				1					メディア	
	社会科・地歴科教育法Ⅲ	3①		1		○				1						
	社会科・地歴科教育法Ⅳ	3②		1		○				1						
	社会科・公民科教育法Ⅲ	3③		1		○				1						
	社会科・公民科教育法Ⅳ	3④		1		○				1						
	小計（48科目）		—	0	48	0	—	—	—	4	2	0	0	0	兼4	—
	数学教育	幾何学概論Ⅰ（幾何学と現代の数学教育を含む）	2①		1		○			1						メディア
		幾何学概論Ⅱ（幾何学と現代の数学教育を含む）	2②		1		○			1						メディア
		線形空間論Ⅰ	3①		1		○			1						メディア
		線形空間論Ⅱ	3②		1		○			1						メディア
		曲線論	3③		1		○			1						メディア
		曲面論	3④		1		○			1						メディア
		位相空間論	4③		1		○			1						メディア
		可微分多様体論	4④		1		○			1						メディア
		解析学概論Ⅰ	2①		1		○			1						
		解析学概論Ⅱ	2②		1		○			1						
		解析学Ⅰ	2③		1		○			1						
		解析学Ⅱ	2④		1		○			1						
		確率論概論（確率論と現代の数学教育を含む）	2③		1		○			1						メディア
		統計学概論（統計学と現代の数学教育を含む）	2④		1		○			1						メディア
		回帰分析	4③		1		○			1						メディア
		論理学	3①		1		○			1						メディア
		集合論	3②		1		○			1						メディア
		数学科教育法Ⅲ（石川県の教育実践を含む）	2③		1		○				1					メディア
数学科教育法Ⅳ（石川県の教育実践を含む）		2④		1		○				1					メディア	
数学科教育法Ⅴ		3①		1		○				1						
数学科教育法Ⅵ		3②		1		○				1	1				オムニバス	
数学科教育法Ⅶ		4③		1		○				1	1				オムニバス	
数学科教育法Ⅷ		4④		1		○				1						
算数・数学科教育論		4①		1		○				1	1				メディア	
算数・数学科授業論		4②		1		○				1					メディア	
小計（25科目）		—	0	25	0	—	—	—	2	1	0	0	0	—	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 教育 科目	理科内容A（電磁気学概論と現代理科教育）	2③		1		○			1						メディア
	理科内容A（一般物理学）	2④		1		○			1						メディア
	理科内容演習AⅠ（物理学）	3③		1			○		1						
	理科内容演習AⅡ（物理学）	3④		1			○		1						
	理科実験AⅠ（物理学）	3①		0.5				○	1						
	理科実験AⅡ（物理学）	3②		0.5				○	1						
	理科内容B（無機化学概論と現代理科教育）	2①		1		○					1				メディア
	理科内容B（物性化学）	2②		1		○					1				メディア
	理科内容演習BⅠ（化学）	3③		1			○				1				
	理科内容演習BⅡ（化学）	3④		1			○				1				
	理科実験BⅠ（化学）	3①		0.5				○			1				
	理科実験BⅡ（化学）	3②		0.5				○			1				
	理科内容C（生物多様性概論と現代理科教育）	2②		1		○				1					メディア
	理科内容C（一般生物学）	2④		1		○				1					メディア
	理科内容演習CⅠ（生物学）	3③		1			○			1					
	理科内容演習CⅡ（生物学）	3④		1			○			1					
	理科実験CⅠ（生物学）	3①		0.5				○		1					
	理科実験CⅡ（生物学）	3②		0.5				○		1					
	理科内容D（地球物質科学概論と現代理科教育）	2①		1		○				1					メディア
	理科内容D（一般地学）	2③		1		○				1					メディア
	理科内容演習DⅠ（地学）	3③		1			○			1					
	理科内容演習DⅡ（地学）	3④		1			○			1					
	理科実験DⅠ（地学）	3①		0.5				○		1					
	理科実験DⅡ（地学）	3②		0.5				○		1					
	理科教育法Ⅰ（石川県の教育実践を含む）	2①		1		○				1					メディア
	理科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）	2②		1		○				1					メディア
	理科教育法Ⅴ	3①		1		○				1					
	理科教育法Ⅵ	3②		1		○				1					
	理科教育法Ⅶ	3③		1		○				1					
	理科教育法Ⅷ	3④		1		○				1					
	理科教育演習Ⅰ	4①		1			○			1					
	理科教育演習Ⅱ	4②		1			○			1					
	理科教育実践研究Ⅰ	3①			1		○			4		1			オムニバス
	理科教育実践研究Ⅱ	3②			1		○			4		1			オムニバス
	理科教育実践研究Ⅲ	4①			1		○			4		1			オムニバス
	理科教育実践研究Ⅳ	4②			1		○			4		1			オムニバス
小計（36科目）		—	0	28	4	—	—	—	4	0	1	0	0	—	—
音楽 教育	ソルフェージュⅠ	2①		1				○		1					
	ソルフェージュⅡ	2②		1				○		1					
	歌唱法Ⅰ	2③		1				○		1					
	歌唱法Ⅱ	2④		1				○		1					
	歌唱法Ⅲ	3①		1				○		1					
	歌唱法Ⅳ	3②		1				○		1					
	アンサンブルⅠ（声楽）	2③		1				○		1					
	アンサンブルⅡ（声楽）	3①		1				○		1					
	アンサンブルⅢ（声楽）	3③		1				○		1					
	日本の伝統的歌唱法	3①・②		1				○						兼1	
	歌唱法演習Ⅰ	4①		1				○		1					
	歌唱法演習Ⅱ	4②		1				○		1					
	歌唱法演習Ⅲ	4③		1				○		1					
	歌唱法演習Ⅳ	4④		1				○		1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門 教育 科目	音楽教育	和楽器奏法	3①・②	1				○							兼1		
	ピアノ奏法Ⅰ	2③	1				○		1								
	ピアノ奏法Ⅱ	2④	1				○		1								
	ピアノ奏法Ⅲ	3③	1				○		1								
	ピアノ奏法Ⅳ	3④	1				○		1								
	ピアノ奏法演習Ⅰ	4①	1					○	1								
	ピアノ奏法演習Ⅱ	4②	1					○	1								
	ピアノ奏法演習Ⅲ	4③	1					○	1								
	ピアノ奏法演習Ⅳ	4④	1					○	1								
	アンサンブルⅣ（木管）	2④	1												兼1		
	アンサンブルⅤ（金管）	3②	1												兼1		
	指揮法	4①・②	1						○								
	音楽理論及び和声学（作曲・編曲を含む）Ⅰ	2①	1				○			1							
	音楽理論及び和声学（作曲・編曲を含む）Ⅱ	2②	1				○			1							
	音楽理論及び和声学（作曲・編曲を含む）Ⅲ	2③	1				○			1							
	音楽理論及び和声学（作曲・編曲を含む）Ⅳ	2④	1				○			1							
	音楽史Ⅲ（日本及び世界の音楽）	3③	1				○								兼1		
	音楽史Ⅳ（日本及び世界の音楽）	3④	1				○								兼1		
	作曲（編曲を含む）演習Ⅰ	4①	1					○		1							
	作曲（編曲を含む）演習Ⅱ	4②	1					○		1							
	作曲（編曲を含む）演習Ⅲ	4③	1					○		1							
	作曲（編曲を含む）演習Ⅳ	4④	1					○		1							
	音楽科教育法Ⅰ（石川県の教育実践を含む）	2①	1				○								兼1	メディア	
	音楽科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）	2②	1				○								兼1	メディア	
	音楽科教育法Ⅴ	3①	1				○								兼1		
	音楽科教育法Ⅵ	3②	1				○								兼1		
	音楽科教育法Ⅶ	3③	1				○								兼1		
	音楽科教育法Ⅷ	3④	1				○								兼1		
	小計（42科目）		—	0	42	0		—		2	1	0	0	0	兼4	—	
	美術教育	美術教育	絵画基礎Ⅰ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）	2③	1				○	1							
		絵画Ⅰ	3①	1					○	1							
		絵画Ⅱ	3②	1					○	1							
		絵画Ⅲ	3③	1					○	1							
		絵画Ⅳ	3④	1					○	1							
		彫刻基礎Ⅰ（現代美術表現を含む）	2①	1					○							兼1	
		彫刻Ⅰ	3①	1					○							兼1	
		彫刻Ⅱ	3②	1					○							兼1	
		彫刻Ⅲ	3③	1					○							兼1	
		彫刻Ⅳ	3④	1					○							兼1	
		デザイン基礎Ⅰ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）	2③	1					○								
		デザインⅠ	3①	1					○		1						
		デザインⅡ	3②	1					○		1						
デザインⅢ		3③	1					○		1							
デザインⅣ		3④	1					○		1							
工芸基礎Ⅰ		2①	1					○	1								
工芸論Ⅰ		2①	1				○								兼1		
工芸論Ⅱ		2②	1				○								兼1		
比較美術史Ⅰ（美術理論含む）		3①	1				○								兼1		
比較美術史Ⅱ（美術理論含む）		3②	1				○								兼1		
美術実地研究		3②	1						○	2	1				兼1	集中	
美術科教育法Ⅰ（石川県の教育実践を含む）		2①	1				○			1					兼1	メディア	
美術科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）		2②	1				○			1					兼1	メディア	
美術科教育法Ⅴ		3①	1				○			2	1				兼1	オムニバス	
美術科教育法Ⅵ		3②	1				○			2	1				兼1	オムニバス	
美術科教育法Ⅶ		3③	1				○			2	1				兼1	オムニバス	
美術科教育法Ⅷ	3④	1				○			2	1				兼1	オムニバス		
造形教育演習Ⅰ	4①			1			○		1								
造形教育演習Ⅱ	4②			1			○		1								
造形教育演習Ⅲ	4③			1			○		1								
造形教育演習Ⅳ	4④			1			○		1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	美術教育	彫刻制作研究Ⅰ	4①		1			○								兼1	
		彫刻制作研究Ⅱ	4②		1			○								兼1	
		彫刻制作研究Ⅲ	4③		1				○							兼1	
		彫刻制作研究Ⅳ	4④		1				○							兼1	
		美術史研究Ⅰ	4①		1		○									兼1	
		美術史研究Ⅱ	4②		1		○									兼1	
		美術史研究Ⅲ	4③		1		○									兼1	
		美術史研究Ⅳ	4④		1		○									兼1	
		絵画制作研究Ⅰ	4①		1				○	1							
		絵画制作研究Ⅱ	4②		1				○	1							
		絵画制作研究Ⅲ	4③		1			○		1							
		絵画制作研究Ⅳ	4④		1			○		1							
		デザイン制作研究Ⅰ	4①		1				○		1						
		デザイン制作研究Ⅱ	4②		1				○		1						
		デザイン制作研究Ⅲ	4③		1				○		1						
		デザイン制作研究Ⅳ	4④		1				○		1						
	小計(47科目)		—	0	27	20	—	—	—	2	1	0	0	0	兼3	—	
	保健体育	体操Ⅰ	2①		0.5				○		1						
		体操Ⅱ	2②		0.5				○		1						
		器械運動Ⅰ	2①		0.5				○		1						
		器械運動Ⅱ	2②		0.5				○		1						
		陸上Ⅰ	2①		0.5				○							兼1	
		陸上Ⅱ	2②		0.5				○							兼1	
		水泳Ⅰ	3①		0.5				○							兼1	
		水泳Ⅱ	3②		0.5				○							兼1	
		武道AⅠ(剣道)	2③		0.5				○							兼1	
		武道AⅡ(柔道)	2④		0.5				○							兼1	
		ダンスⅠ	3①		0.5				○							兼1	
		ダンスⅡ	3②		0.5				○							兼1	
		球技(ゴール型)AⅠ(サッカー)	3①		0.5				○	1							
		球技(ゴール型)AⅡ(サッカー)	3②		0.5				○	1							
		球技(ネット型)AⅠ(バレーボール)	3①		0.5				○		1						
		球技(ネット型)AⅡ(バレーボール)	3②		0.5				○		1						
		球技(ベースボール型)Ⅰ	3①		0.5				○							兼1	
		球技(ベースボール型)Ⅱ	3②		0.5				○							兼1	
		バイオメカニクスⅠ	2③		1		○				1						
		バイオメカニクスⅡ	2④		1		○				1						
		運動生理学Ⅰ(海外の先端事情を含む)	2③		1		○				1					メディア	
		運動生理学Ⅱ(海外の先端事情を含む)	2④		1		○				1					メディア	
		衛生学及び公衆衛生学Ⅰ	3①		1		○									兼1	
		衛生学及び公衆衛生学Ⅱ	3②		1		○									兼1	
	学校保健Ⅰ(教科横断で取り組む学校保健)	3①		1		○				1					メディア		
	学校保健Ⅱ(教科横断で取り組む学校保健)	3②		1		○				1					メディア		
	保健体育科教育法Ⅰ(石川県の教育実践を含む)	2①		1		○				1					メディア		
	保健体育科教育法Ⅱ(石川県の教育実践を含む)	2②		1		○				1					メディア		
	保健体育科教育法Ⅴ	3①		1		○					1				メディア		
	保健体育科教育法Ⅵ	3②		1		○					1				メディア		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
保健体育	バイオメカニクス演習A	3①			1		○			1							
	バイオメカニクス演習B	3②			1		○			1							
	バイオメカニクス演習C	3③			1		○			1							
	バイオメカニクス演習D	3④			1		○			1							
	運動生理学演習A	3①			1		○			1							
	運動生理学演習B	3②			1		○			1							
	運動生理学演習C	3③			1		○			1							
	運動生理学演習D	3④			1		○			1							
	学校保健演習A	3①			1		○			1							
	学校保健演習B	3②			1		○			1							
	学校保健演習C	3③			1		○			1							
	学校保健演習D	3④			1		○			1							
	保健体育科教育演習A	3①			1		○				1						
	保健体育科教育演習B	3②			1		○				1						
	保健体育科教育演習C	3③			1		○				1						
	保健体育科教育演習D	3④			1		○				1						
	小計(46科目)		—	0	21	16		—		2	2	0	0	0	兼7	—	
	専門教育科目	家政学原論	2①		1		○				1						メディア
		家庭経営学Ⅰ(家庭経済学と消費者市民社会の形成を含む)	2②		1		○				1						メディア
		家庭経営学Ⅱ	2③		1		○				1						メディア
		家族関係学(多様な家族と家庭科教育)	2④		1		○				1						メディア
		家庭経営学演習Ⅰ	3①		1			○			1						メディア
		家庭経営学演習Ⅱ	3②		1			○			1						メディア
		被服学概論Ⅰ(現代の衣生活の諸問題を含む)	2③		1		○				1						メディア
		被服学概論Ⅱ	2④		1		○				1						メディア
		被服構成実習	3①		1				○			1					
被服科学実験		3②		1				○			1					メディア	
被服学演習Ⅰ		3③		1			○			1						メディア	
被服学演習Ⅱ		3④		1			○			1						メディア	
保育学概論Ⅰ(現代の保育学の諸問題を含む)		2①		1		○				1						メディア	
保育学概論Ⅱ(家庭看護含む)		2②		1		○				1						メディア	
保育学Ⅰ		2③		1		○				1						メディア	
保育学Ⅱ(実習含む)		2④		1		○				1						メディア	
保育学演習Ⅰ		3③		1			○			1						メディア	
保育学演習Ⅱ		3④		1			○			1						メディア	
家庭電気・機械・情報		3②		1		○								兼1		メディア	
家庭科教育法Ⅲ(石川県の教育実践を含む)		2③		1		○				1						メディア	
家庭科教育法Ⅳ(石川県の教育実践を含む)		2④		1		○				1						メディア	
家庭科教育法Ⅴ		3①		1		○				1							
家庭科教育法Ⅵ		3②		1		○				1							
家庭科教育法Ⅶ		3③		1		○				1							
家庭科教育法Ⅷ		3④		1		○				1							
家庭科教育演習Ⅰ		4①		1			○			1							
家庭科教育演習Ⅱ		4②		1			○			1							
家庭経営学演習Ⅲ		4①			1		○				1						
家庭経営学演習Ⅳ		4②			1		○				1						
被服学演習Ⅲ		4①			1		○				1						
被服学演習Ⅳ		4②			1		○				1						
保育学演習Ⅲ		4①			1		○			1							
保育学演習Ⅳ		4②			1		○			1							
家庭科教育演習Ⅲ		4①			1		○			1							
家庭科教育演習Ⅳ		4②			1		○			1							
小計(35科目)		—	0	27	8		—		2	2	0	0	0	兼1	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	英語学概論Ⅲ(応用)	3①		1		○			1							
	英語学概論Ⅳ(応用)	3②		1		○			1							
	英語音声学・文法Ⅰ	2③		1		○			1							
	英語音声学・文法Ⅱ	2④		1		○			1							
	英語学演習Ⅰ(個別理論)	3③		1			○		1							
	英語学演習Ⅱ(個別理論)	3④		1			○		1							
	英語文学概論Ⅰ(イギリス文学と現在の英語教育)	2①		1			○			1						メディア
	英語文学概論Ⅱ(アメリカ文学と現在の英語教育)	2③		1			○			1						メディア
	英語文学概論Ⅲ(イギリス)	2②		1			○			1						メディア
	英語文学概論Ⅳ(アメリカ)	2④		1			○			1						メディア
	英語文学演習Ⅰ(イギリス)	3①		1				○		1						メディア
	英語文学演習Ⅱ(アメリカ)	3③		1				○		1						メディア
	英語文学演習Ⅲ(イギリス)	3②		1				○		1						メディア
	英語文学演習Ⅳ(アメリカ)	3④		1				○		1						メディア
	英作文Ⅰ(基礎)	2①		1				○			1					
	英会話Ⅰ(基礎)	2③		1				○		1						
	英作文Ⅱ(応用)	2②		1				○			1					
	英会話Ⅱ(応用)	2④		1				○		1						
	英作文Ⅲ(応用)	3①		1				○			1					
	英会話Ⅲ(応用)	3③		1				○		1						
	英作文Ⅳ(応用)	3②		1				○			1					
	英会話Ⅳ(応用)	3④		1				○		1						
	英語科教育法Ⅲ(石川県の教育実践を含む)	2③		1			○			1						メディア
	英語科教育法Ⅳ(石川県の教育実践を含む)	2④		1			○			1						メディア
	英語科教育法Ⅴ	3①		1			○			1						
	英語科教育法Ⅵ	3②		1			○			1						
	英語科教育法Ⅶ	3③		1			○			1						
	英語科教育法Ⅷ	3④		1			○			1						
	英語学特別演習Ⅰ	3③			1			○		1						
	英語学特別演習Ⅱ	3④			1			○		1						
	英語文学特別演習Ⅰ	4③			1			○		1	1					
	英語文学特別演習Ⅱ	4④			1			○		1	1					
	英語教育学特別演習Ⅰ	4③			1			○		1						
	英語教育学特別演習Ⅱ	4④			1			○		1						
	英語科教育実践研究Ⅰ	3②			1			○			1					
	英語科教育実践研究Ⅱ	4①			1			○		1						
小計(36科目)		—	0	28	8		—		3	1	0	0	0	兼4	—	
教育学・心理学に関する科目	教育・心理基礎論A	3①			1			○		2	4				オムニバス	
	教育・心理基礎論B	3②			1			○		2	4				オムニバス	
	教育学・心理学演習A	3③			1			○		2	4					
	教育学・心理学演習B	3④			1			○		2	4					
小計(4科目)		—	0	0	4		—		2	4	0	0	0	兼1	—	
合計(736科目)		—	51	667	71		—		26	22	1	0	0	兼108	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	学士（教育学）		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係								
卒業・修了要件及び履修方法						授業期間等								
1. 教養教育科目又は共通教育科目						1 学年の学期区分		4期						
						1 学期の授業期間		8週						
						1 時限の授業時間		90分						
<p>富山大学：教養教育科目 22単位以上</p> <p>(1) 人文科学系 } 10単位以上 (2) 社会科学系 } (ただし、人文科学系から2単位以上、社会科学系から2単位以上、自然科学系から2単位以上を含むこと。) (3) 自然科学系 } (4) 総合科目系 2単位以上 (5) 外国語系 6単位以上 (6) 保健体育系 2単位 (7) 情報処理系 2単位</p> <p>金沢大学：共通教育科目 28単位以上</p> <p>(1) 導入科目 3単位 (2) G S 科目 15単位以上 (3) G S 言語科目 8単位 (4) 自由履修科目 2単位以上</p>														
2. 専門教育科目														
〔専門科目区分：幼児教育，国語教育，社会科教育，数学教育，理科教育，音楽教育，美術教育，保健体育，家政教育，英語教育〕														
<p>富山大学：114単位以上</p> <p>(1) 共通科目 9単位以上 (2) 教育の基礎的理解に関する科目 12単位 (3) 道徳、総合的な学習の時間等に関する科目 12単位以上 (4) 教育実践に関する科目 9単位以上 (5) 小学校教科 12単位以上 (6) 小学校教科指導法 20単位 (7) 先進的教育科目（共通領域） 16単位 (8) 専門科目 24単位以上</p> <p>金沢大学：116単位以上</p> <p>(1) 学域 G S 科目 4単位 (2) 学域 G S 言語科目 2単位 (3) 共通科目 5単位 (4) 教育の基礎的理解に関する科目 12単位 (5) 道徳、総合的な学習の時間等に関する科目 12単位以上 (6) 教育実践に関する科目 9単位以上 (7) 小学校教科 12単位以上 (8) 小学校教科指導法 20単位 (9) 先進的教育科目（共通領域） 16単位 (10) 専門科目 24単位以上</p>														
〔専門科目区分：特別支援教育〕														
<p>富山大学：114単位以上</p> <p>(1) 共通科目 9単位以上 (2) 教育の基礎的理解に関する科目 12単位 (3) 道徳、総合的な学習の時間等に関する科目 12単位以上 (4) 教育実践に関する科目 10単位以上 (5) 小学校教科 12単位以上 (6) 小学校教科指導法 20単位 (7) 先進的教育科目（共通領域） 16単位 (8) 専門科目 23単位以上</p> <p>金沢大学：116単位以上</p> <p>(1) 学域 G S 科目 4単位 (2) 学域 G S 言語科目 2単位 (3) 共通科目 5単位 (4) 教育の基礎的理解に関する科目 12単位 (5) 道徳、総合的な学習の時間等に関する科目 12単位以上 (6) 教育実践に関する科目 10単位以上 (7) 小学校教科 12単位以上 (8) 小学校教科指導法 20単位 (9) 先進的教育科目（共通領域） 16単位 (10) 専門科目 23単位以上</p>														
3. 相手大学の開講科目の単位取得														
富山大学：上記1及び2のうち、金沢大学が開講する科目31単位以上														
金沢大学：上記1及び2のうち、富山大学が開講する科目31単位以上														

教 育 課 程 等 の 概 要														
（金沢大学人間社会学域学校教育学類）【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
導入科目	大学・社会生活論	1①	1			○			1					
	データサイエンス基礎	1①	1			○			1					
	地域概論	1①	1			○				1				
	小計（3科目）	—	3	0	0	—	—	—	1	1	0	0	0	—
共通教育科目	1群（自己の立ち位置を知る）	現代世界への歴史学的アプローチ	1①・②・③・④		1		○							兼1
		グローバル時代の政治経済学	1①・②・③・④		1		○							兼1
		グローバル時代の社会学	1①・②・③・④		1		○							兼1
		ケーススタディによる応用倫理学	1①・②・③・④		1		○							兼1
		地球生物圏と人間	1①・②・③・④		1		○							兼1
	2群（自己を知り、自己を鍛える）	哲学（自我論）	1①・②・③・④		1		○							兼1
		パーソナリティ心理学	1①・②・③・④		1		○							兼1
		グローバル時代の文学	1①・②・③・④		1		○							兼1
		健康科学	1①・②・③・④		1		○							兼1
		細胞・分子生物学	1①・②・③・④		1		○							兼2 共同
	3群（考え・価値を表現する）	エクササイズ&スポーツ 実技	1①・②・③・④		1				○					兼2
		クリティカル・シンキング	1①・②・③・④		1		○							兼1
		価値と情動の認知科学	1①・②・③・④		1		○				1			兼1
		芸術と自己表現	1①・②・③・④		1		○							兼1
	4群（世界とつながる）	スポーツ科学	1①・②・③・④		1		○							兼1
		金沢・能登と世界の地域文化	1②・③・④		1		○							兼1
		日本史・日本文化	1②・③・④		1		○							兼3
		異文化間コミュニケーション	1①・②・③・④		1		○							兼1
		異文化体験A	1②・④		1				○					兼1 集中
		異文化体験B	1②・④		2				○					兼1 集中
		異文化体験C	1②・④		3				○					兼1 集中
		異文化体験D	1②・④		4				○					兼1 集中
		異文化体験E	1②・④		5				○					兼1 集中
		異文化体験F	1②・④		6				○					兼1 集中
		異文化体験G	1②・④		7				○					兼1 集中
	異文化体験H	1②・④		8				○					兼1 集中	
	5群（未来の課題に取り組む）	グローバル時代の国際協力	1①・②・③・④		1		○							兼1
		グローバル社会と地域の課題	1①・②・③・④		1		○							兼1
科学技術と科学方法論		1①・②・③・④		1		○							兼1	
統計学から未来を見る		1①・②・③・④		1		○							兼1	
環境学とESD		1①・②・③・④		1		○							兼1	
6群（新しい社会を生きる）	生活と社会保障	1①・②・③・④		1		○							兼1	
	現代社会と人権	1①・②・③・④		1		○							兼1	
	インテグレート科学	1①・②・③・④		1		○							兼1	
	AI入門	1①・②・③・④		1		○							兼1	
	情報の科学	1①・②・③・④		1		○							兼1	
GS言語科目（英語）	デザイン思考入門	1①・②・③・④		1		○							兼2 共同	
	論理学と数学の基礎	1①・②・③・④		1		○							兼1	
	小計（38科目）	—	0	66	0	—	—	—	0	1	0	0	0	兼33
	GS言語科目（日本語）	TOEIC準備 I	1①		1		○							兼1
		TOEIC準備 II	1②		1		○							兼1
		TOEIC準備 III	1③		1		○							兼1
		TOEIC準備 IV	1④		1		○							兼1
		TOEIC準備（演習）	2①・②・③・④		1		○							兼1
		English for Academic Purposes I	1①		1		○							兼1
		English for Academic Purposes II	1②		1		○							兼1
English for Academic Purposes III		1③		1		○							兼1	
English for Academic Purposes IV		1④		1		○							兼1	
English for Academic Purposes (Retake)		2①・②・③・④		1		○							兼1	
GS言語科目（日本語）	アカデミック基礎日本語A	1①		1		○							兼1	
	アカデミック基礎日本語B	1②		1		○							兼1	
	講義の聴解A	1①・③		1		○							兼1	
	講義の聴解B	1②・④		1		○							兼1	
	口頭発表A	1①・③		1		○							兼1	
	口頭発表B	1②・④		1		○							兼1	
	上級読解I A	1①		1		○							兼1	
	上級読解I B	1②		1		○							兼1	
	上級読解II A	1③		1		○							兼1	
	上級読解II B	1④		1		○							兼1	
日本語で学ぶ論理A	1①・③		1		○							兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
GS言語科目 (日本語)	日本語で学ぶ論理B	1②・④		1		○									兼1		
	日本事情A	1①・③		1		○									兼1		
	日本事情B	1②・④		1		○									兼1		
	アカデミック・ライティングA	1①・③		1		○									兼1		
	アカデミック・ライティングB	1②・④		1		○									兼1		
	小計(26科目)	—	10	16	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼8	—	
	共通教育科目 初習言語科目	ドイツ語A1-1	1①・③		1		○									兼1	
		ドイツ語A1-2	1②・④		1		○									兼1	
		ドイツ語A2-1	1①・③		1		○									兼1	
		ドイツ語A2-2	1②・④		1		○									兼1	
		ドイツ語A3-1	1①・③		1		○									兼1	
		ドイツ語A3-2	1②・④		1		○									兼1	
		ドイツ語A4-1	1①・③		1		○									兼1	
		ドイツ語A4-2	1②・④		1		○									兼1	
		ドイツ語B-1	2①		1		○									兼1	
		ドイツ語B-2	2②		1		○									兼1	
		ドイツ語C-1	2①・③		1		○									兼1	
		ドイツ語C-2	2②・④		1		○									兼1	
		フランス語A1-1	1①		1		○									兼1	
		フランス語A1-2	1②		1		○									兼1	
		フランス語A2-1	1①		1		○									兼1	
		フランス語A2-2	1②		1		○									兼1	
		フランス語A3-1	1③		1		○									兼1	
		フランス語A3-2	1④		1		○									兼1	
		フランス語A4-1	1③		1		○									兼1	
		フランス語A4-2	1④		1		○									兼1	
フランス語B-1		2①・③		1		○									兼1		
フランス語B-2		2②・④		1		○									兼1		
フランス語C-1		2③		1		○									兼1		
フランス語C-2		2④		1		○									兼1		
ロシア語A1-1		1①		1		○									兼1		
ロシア語A1-2		1②		1		○									兼1		
ロシア語A2-1		1①		1		○									兼1		
ロシア語A2-2		1②		1		○									兼1		
ロシア語A3-1		1③		1		○									兼1		
ロシア語A3-2		1④		1		○									兼1		
ロシア語A4-1		1③		1		○									兼1		
ロシア語A4-2		1④		1		○									兼1		
ロシア語B-1		2①・③		1		○									兼1		
ロシア語B-2		2②・④		1		○									兼1		
ロシア語C-1		2①・③		1		○									兼1		
ロシア語C-2		2②・④		1		○									兼1		
中国語A1-1		1①		1		○									兼1		
中国語A1-2		1②		1		○									兼1		
中国語A2-1		1①		1		○									兼1		
中国語A2-2		1②		1		○									兼1		
中国語A3-1		1③		1		○									兼1		
中国語A3-2		1④		1		○									兼1		
中国語A4-1		1③		1		○									兼1		
中国語A4-2		1④		1		○									兼1		
中国語B-1		2①・③		1		○									兼1		
中国語B-2		2②・④		1		○									兼1		
中国語C-1	2③		1		○									兼1			
中国語C-2	2④		1		○									兼1			
朝鮮語A1-1	1①		1		○									兼1			
朝鮮語A1-2	1②		1		○									兼1			
朝鮮語A2-1	1①		1		○									兼1			
朝鮮語A2-2	1②		1		○									兼1			
朝鮮語A3-1	1③		1		○									兼1			
朝鮮語A3-2	1④		1		○									兼1			
朝鮮語A4-1	1③		1		○									兼1			
朝鮮語A4-2	1④		1		○									兼1			
朝鮮語B-1	2①・③		1		○									兼1			
朝鮮語B-2	2②・④		1		○									兼1			
朝鮮語C-1	2①・③		1		○									兼1			
朝鮮語C-2	2②・④		1		○									兼1			
ギリシア語A1-1	1①		1		○									兼1			
ギリシア語A1-2	1②		1		○									兼1			
ギリシア語A2-1	1③		1		○									兼1			
ギリシア語A2-2	1④		1		○									兼1			
ギリシア語A3-1	2①		1		○									兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
初習言語科目	ギリシア語A3-2	2②		1			○								兼1	
	ギリシア語A4-1	2③		1			○								兼1	
	ギリシア語A4-2	2④		1			○								兼1	
	ギリシア語B-1	3①		1			○								兼1	
	ギリシア語B-2	3②		1			○								兼1	
	ギリシア語C-1	3③		1			○								兼1	
	ギリシア語C-2	3④		1			○								兼1	
	ラテン語A1-1	1①		1			○								兼1	
	ラテン語A1-2	1②		1			○								兼1	
	ラテン語A2-1	1③		1			○								兼1	
	ラテン語A2-2	1④		1			○								兼1	
	ラテン語A3-1	2①		1			○								兼1	
	ラテン語A3-2	2②		1			○								兼1	
	ラテン語A4-1	2③		1			○								兼1	
	ラテン語A4-2	2④		1			○								兼1	
	ラテン語B-1	3①		1			○								兼1	
	ラテン語B-2	3②		1			○								兼1	
	ラテン語C-1	3③		1			○								兼1	
	ラテン語C-2	3④		1			○								兼1	
	スペイン語A1-1	1①		1			○								兼1	
	スペイン語A1-2	1②		1			○								兼1	
	スペイン語A2-1	1①		1			○								兼1	
	スペイン語A2-2	1②		1			○								兼1	
	スペイン語A3-1	1③		1			○								兼1	
	スペイン語A3-2	1④		1			○								兼1	
	スペイン語A4-1	1③		1			○								兼1	
	スペイン語A4-2	1④		1			○								兼1	
	スペイン語B-1	2①		1			○								兼1	
	スペイン語B-2	2②		1			○								兼1	
	スペイン語C-1	2③		1			○								兼1	
	スペイン語C-2	2④		1			○								兼1	
	小計(96科目)		—	0	96	0		—		0	0	0	0	0	0	兼11
	共通教育科目	アントレプレナーシップI	1③				○									兼1
石川県の行政		1③～④		2		○									兼1	
石川県の市町		1①～②		2		○									兼1	
健康論実践D		1④		1				○							兼1	
健康論実践E		1④		1				○							兼1	
現代社会における保険の制度と役割I		1③		1		○									兼1	
現代社会における保険の制度と役割II		1④		1		○									兼1	
実践アントレプレナー学		1③		1		○									兼1 集中	
クラウド時代の「ものグラミング」概論		1③～④		2		○									兼1	
シュルスクリプト言語論		1③～④		2		○									兼1	
地元学A(地域資源調査)		1①		1		○									兼1	
地元学B(聞き書き)		1②		1		○									兼1	
シュルスクリプトを用いた「ものグラミング」演習		1①		1			○								兼1 集中	
イノベーションを起こして、起業家になろう1		1①		1		○									兼1	
イノベーションを起こして、起業家になろう2		1②		1		○									兼1	
イノベーションを起こして、起業家になろう3		1③		1		○									兼1	
イノベーションを起こして、起業家になろう4		1④		1		○									兼1	
香りと日本文化		1③		1		○									兼1	
心と体の健康A		1③		1		○									兼1	
心と体の健康B		1④		1		○									兼1	
地域「超」体験プログラム		1①・②・④		1				○							兼1 集中	
道徳教育および宗教教育をグローバルに考える		1④		1		○									兼1	
金沢の歴史と文化		1③～④		2		○									兼1	
日本の伝統芸能		1②		1		○									兼1	
地域創造学特別講義C		1③		1		○									兼1	
地域創造学特別講義D		1④		1		○									兼1	
日本国憲法概説		1③		2		○									兼1	
日本史要説		2①～②		2		○									兼1	
東洋史要説		2③～④		2		○									兼1	
異文化理解のためのビデオ会議ディスカッション		1③		1		○									兼1	
行政学の基礎		1①		2		○									兼1	
ゼミ/角間の里山づくり 春編		1①		1			○								兼1	
ゼミ/角間の里山づくり 秋編		1③		1			○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	自由履修科目	コーヒーと社会	1③	1		○									兼1	集中
		コーヒーと科学	1④	1		○									兼1	
		地学実験	1②～③	2				○							兼1	
		生物学実験	1①～②	2					○						兼1	
		海洋生化学演習	1①	2				○							兼1	
		英国諸島の地史Ⅰ	1②	1			○								兼1	
		英国諸島の地史Ⅱ	1③	1			○								兼1	
		環境動態学概説Ⅰ	1③	1			○								兼1	
		環境動態学概説Ⅱ	1④	1			○								兼1	
		Pythonデータ分析入門	1②	1			○								兼1	
		プレゼンテーション演習A	1③	1			○								兼1	
		プレゼンテーション演習B	1④	1			○								兼1	
		コンピュータグラフィクス演習Ⅰ	1③	1					○						兼1	
		コンピュータグラフィクス演習Ⅱ	1④	1					○						兼1	
		動画配信サービスを用いた情報発信演習A	1①	1			○								兼1	
		動画配信サービスを用いた情報発信演習B	1②	1			○								兼1	
		プログラミング演習Ⅰ	1③	1					○						兼1	
		プログラミング演習Ⅱ	1④	1					○						兼1	
		Society 5.0 概論	1③～④	2			○								兼1	
		英語セミナー	1①・②・③・④	1			○								兼1	
		ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界1	1③	1				○							兼1	
		ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界2	1④	1				○							兼1	
		ドイツ語A(充実クラスⅠ-1)	1③	1				○							兼1	
		ドイツ語A(充実クラスⅠ-2)	1④	1				○							兼1	
		ドイツ語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1				○							兼1	
		ドイツ語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1				○							兼1	
		フランス語A(充実クラスⅠ-1)	1③	1				○							兼1	
		フランス語A(充実クラスⅠ-2)	1④	1				○							兼1	
		フランス語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1				○							兼1	
		フランス語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1				○							兼1	
		中国語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1				○							兼1	
		中国語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1				○							兼1	
		小計(65科目)		—	0	78	0	—	—	—	0	0	0	0	0	
共通教育科目計(228科目)			—	13	256	0	—	—	1	2	0	0	0	兼73	—	
専門教育科目	初學者科目	アカデミックスキル	1①・②・③	1			○		6	3						
		プレゼン・ディベート論	1②・③・④	1			○			1						
		小計(2科目)		—	2	0	0	—	—	6	3				—	—
	学域俯瞰科目	大学・学問論	1④		1		○								兼1	
		ジェンダーと教育	1③・④		1		○		1	2					兼1	
		異文化理解1	1③		1		○								兼1	
		異文化理解2	1④		1		○								兼1	
		文学概論1	1③		1		○								兼1	
		文学概論2	1④		1		○								兼1	
		世界遺産学	1④		1		○								兼1	
		ルールリテラシー	1③		1		○								兼1	
		人文社会科学における法	1④		1		○								兼1	
		イメージの比較文化学	1③		1		○								兼1	
		防災学入門	1①		2		○								兼2	
		現代日本の文化と社会	2①		1		○								兼1	
		地域創造学1	2①		1		○								兼1	
		地域創造学2	2②		1		○								兼1	
	小計(14科目)		—	0	15	0	—	—	1	2	0	0	0	兼11	—	
	データサイエンス応用系科目	データサイエンスの技術	1③		1		○								兼1	
		国際経済の理論とデータ	2①		1		○								兼1	
		国際貿易の理論とデータ	2①		1		○								兼1	
		情報処理	2④		1		○								兼1	
		計量政治分析実習	3③		2				○						兼1	
		ビジネス・データ分析(ビジネス・データ)	1①		1		○								兼1	
		統計データ分析の基本(多変量解析)	1②		1		○								兼1	
		データで考える日本の未来(データサイエンス)	1③		1		○								兼1	
		統計ソフトRによるビッグデータ分析	1③		1		○								兼1	
金融リテラシー		1④		1		○								兼1		
白書の講読と議論	1④		1		○								兼1			
地域課題解決と政策立案のための統計データ分析:EBPM(根拠に基づく政策立案)	1④		1		○								兼1			
統計学技能Ⅰ	1～4		2				○		1				集中			
統計学技能Ⅱ	1～4		3				○		1				集中			
小計(14科目)		—	0	18	0	—	—	0	1	0	0	0	兼5	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
言語科目S	学域GS言語科目Ⅰ	2①		1					2	2					
	学域GS言語科目Ⅱ	2②		1				○	2	2					
	小計(2科目)	—	0	2	0			—	2	2	0	0	0	—	—
専門基礎科目(学類共通科目)	教師論	1④	2			○			2	8				兼2	オムニバス
	教育の理念と歴史A	2③	1			○			1						
	教育の理念と歴史B	2④	1			○			1						
	発達と学習の心理	2①	2			○				1					
	教育の制度と経営	3①・②	2			○				1					
	教育課程論	2③	1			○				1					
	教育方法学	3①・②	2			○				1					
	道徳教育論	3③	2			○				1					
	特別活動論	3①	1			○				1					
	生徒の生活と進路の指導論	3③	2			○				1					
	教育相談論(教育・学校心理学)	3③	2			○				1					
	特別支援教育概論	2③	1			○				1					
	総合的な学習の時間教育論	3②	1			○			1						
	教育実習A(幼・小)	3~4	4					○	27	22	1			兼1	
	教育実習B(中・高)	3~4	4	4				○	27	22	1			兼1	
	教育実習事前事後指導A(幼・小)	3~4	1					○	27	22	1			兼1	
	教育実習事前事後指導B(中・高)	3~4	1		1			○	27	22	1			兼1	
	教職実践演習A(教諭)	4	2					○	6	5	0	0	0		
小計(18科目)	—	27	5	0			—	27	22	1	0	0	兼3	—	
専門基礎科目(学類共通科目)	初等国語科教育法	2①・②	2			○			1						
	初等社会科教育法	2①	2			○			1						
	算数科教育法	2③・④	2			○			1	1					
	初等理科教育法	2②	2			○			1						
	生活科教育法	3①・②	2			○			1						
	初等音楽科教育法	2④	2			○								兼1	
	図画工作科教育法	2①・②	2			○			1	1				兼1	
	初等家庭科教育法	2②	2			○			1						
	体育科教育法Ⅰ	2①	1			○								兼1	
	体育科教育法Ⅱ	2②	1			○								兼1	
	初等英語科教育法A	3②	1			○			1						
	初等英語科教育法B	3③	1			○			1						
小計(12科目)	—	20	0	0			—	8	2	0	0	0	兼3	—	
専門基礎科目(学類共通科目)	国語基礎(書写を含む)	1②		2		○			1	3					オムニバス
	社会科基礎	1④		2		○			2	2					オムニバス
	算数科基礎	1④		2		○			1	1					オムニバス
	理科専門研究	1④		2				○	3		1				オムニバス
	生活科専門研究	3①・②		2		○			1						オムニバス
	ピアノ基礎	3①・②		1				○	2	1				兼1	オムニバス
	ソルフェージュ基礎	2④		1				○		1					
	絵画・彫刻	2④		1				○	1					兼1	オムニバス
	デザイン・工作	2③		1				○	1	1					オムニバス
	家政教育専門研究	1③		2		○			2	1				兼1	オムニバス
	体育専門研究AⅠ	3①		0.5				○						兼2	オムニバス
	体育専門研究AⅡ	3②		0.5				○						兼2	オムニバス
	体育専門研究BⅠ	3③		0.5				○		1					
	体育専門研究BⅡ	3④		0.5				○		1					
	英語科基礎A	3②		1			○		1						
	英語科基礎B	3④		1			○		1						
小計(16科目)	—	0	20	0			—	15	11	1	0	0	兼5	—	
大学が独自に設定する科目	情報と教育	2①		1		○								兼1	
	環境と教育	2③		1		○			1						
	現代子ども学	2②		1		○			1	2					
	学校インターンシップ	2①~④		1				○	4	4				兼1	集中
	宿泊野外活動	1①・②		1				○		1					
	卒業論文	4①~④		4				○	7	4					
小計(6科目)	—	4	5	0			—	13	11	0	0	0	兼2	—	
幼稚園免許に関する科目	幼児の人間関係指導法	4①・②			2	○				1				兼1	
	幼児の表現指導法	4①・②			2	○			1						
	幼児の健康指導法	3③・④			2	○				1					
	幼児の言葉指導法	4④			2	○			1						
	幼児の環境指導法	4②			2	○			1					兼1	
	幼児理解の理論と方法	2③			2	○			1						
小計(6科目)	—	0	0	12			—	3	2	0	0	0	兼2	—	
専修基礎科目(教育科学)	教育哲学	2④		2				○		1					
	教育史	2②		2				○	1						
	発達心理学	2③		2				○		1					
	教育社会学A	2①		1				○						兼1	
	教育社会学B	2②		1				○						兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	(教育基礎専修科目)	教育法制度論	2③		2		○				1					
		教授学	2②		2		○				1					
		生活指導論	2④		2			○			1					
		学習指導論	3②		2		○			1						
		学校心理学(心理学的支援法)	3①		2		○				1					
	小計(10科目)	—	0	18	0	—	—	—	2	6	0	0	0	兼1	—	
	(教育基礎専修科目)	教育原論特殊講義	3④		2			○			1					
		教育史特殊講義	3④		2			○			1					
		教育学演習Ⅰ	4②		1			○			2	6				
		教育学演習Ⅱ	4④		1			○			2	6				
		発達心理学特殊講義	3④		2			○				1				
		教育法制度論特殊講義	3④		2			○				1				
		教授学特殊講義	3④		2			○				1				
		生活指導論特殊講義	3④		2			○				1				
		学習指導論特殊講義	3④		2			○			1					
		学校心理学特殊講義	3④		2			○				1				
	小計(10科目)	—	0	18	0	—	—	—	2	6	0	0	0	—	—	
	(特別支援教育専修科目)	特別支援教育の理念と歴史	2①		2		○				2					
		聴覚障害の心理・生理・病理	2②		2		○				1				兼1	
		聴覚障害教育課程論	3①		2		○				1					
		聴覚障害指導法	3③		2		○				1					
		発声発語支援法	3②		2		○				1					
		知的障害の心理・生理・病理	3③		2		○					1				
		知的障害教育課程論	3④		2		○					2				
		肢体不自由の心理・生理・病理	3①		2		○				1					
		肢体不自由教育論	3③		2		○				1					
		ことばの障害とコミュニケーション	2④		2		○				1					
		障害児教育基礎論	2②		2		○				3	1				
		発達障害指導法	3④		2		○					1				
		教育実習事前事後指導(特支)	4②		1				○		3				兼1	
		障害児教育実習	4①		2				○		3	1			兼1	
	小計(14科目)	—	0	27	0	—	—	—	3	3	0	0	0	兼2	—	
	(特別支援教育専修科目)	障害児福祉教育論	4①		2		○				2				兼1	隔年
		音響聴覚学	3③		2		○									
		人間発達の生理と障害	2①		2		○				1					
		知的障害指導法	3③		2		○			1						
		障害乳幼児発達支援演習	2①		2			○			1					
		手話序論	2④		2		○				1					
		言語障害指導法	3③		2		○				1					
		特別支援コーディネータ序論	4①・②		2		○				3					
		重複障害児教育	3③		2		○				1					
		障害児教育基礎演習	2③・④		2			○			2					
		発達障害総論	4②		2		○					1				
		特別支援教育学演習Ⅰ	4①		1			○			3	2				
		特別支援教育学演習Ⅱ	4③		1			○			3	2				
	小計(13科目)	—	0	24	0	—	—	—	3	2	0	0	0	兼1	—	
	(国語教育専修科目)	国語学概論	2①		2		○								兼1	オムニバス
		音声言語の研究と文章表現	2④		2		○			1	3				兼1	
		国語史	2③・④		2		○								兼1	
		日本文学概論・日本文学史	2①		2		○				2				兼1	
		日本文学講読	2③		2			○			1					
		日本文学基礎演習	2③		2			○			1					
		漢文学基礎	2③・④		2		○				1					
		漢文学演習	3④		2			○			1					
		古典文学基礎	2②		2		○				1					
		書写書道基礎	2④		2				○		1				兼3	
		中等国語科教育法A	2③		2		○				1					
		中等国語科教育法B	3①		2		○				1	1				
		国語科授業研究Ⅰ	3④		2			○			1					
		国語科授業研究Ⅱ	4④		2			○			1					
	小計(14科目)	—	0	28	0	—	—	—	1	3	0	0	0	兼6	—	
	(国語教育専修科目)	国語学演習A1	3①		1			○							兼1	
		国語学演習A2	3②		1			○							兼1	
		国語学演習B1	3③		1			○							兼1	
		国語学演習B2	3④		1			○							兼1	
		古典文学演習	3②		2			○			1					
		近現代文学演習	3③		2			○			1					
		日本文学特殊講義	3②		2			○			1					
		漢文講読	4①		2			○			1					
		国語科教育演習A	3②		2			○			1					
		国語科教育演習B	4①		2			○			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	専修専門科目（家政教育専修）	家庭経営学演習Ⅰ	3④	2			○			1					兼1	
		家庭経営学演習Ⅱ	4②	2			○								兼1	
		被服科学Ⅱ	3②	2			○			1						
		被服科学演習Ⅰ	3③	2				○		1						
		被服科学演習Ⅱ	4①	2				○		1						
		健康栄養学実習	3①・②	1					○							兼1
		栄養生理学	3①	2				○								兼1
		住環境論Ⅰ	3①	1				○								兼2
		住環境論Ⅱ	3②	1				○								兼2
		保育学演習Ⅰ	3④	2					○	1						
		保育学演習Ⅱ	4①	2					○	1						
		家庭科教育演習A	3④	2					○	1						
		家庭科教育演習B	4①	2					○	1						
		家庭科教育実践研究Ⅰ	3①	2					○	2						兼1
		家庭科教育実践研究Ⅱ	4①	2					○	2						兼1
	小計（15科目）	—	0	27	0			—	2	2	0	0	0		兼4	
	専修基礎科目（保健体育専修）	体操・器械運動Ⅰ	2①		0.5			○		1						
		体操・器械運動Ⅱ	2②		0.5			○		1						
		陸上競技Ⅰ	2①		0.5			○							兼1	
		陸上競技Ⅱ	2②		0.5			○							兼1	
		水泳Ⅰ	3①		0.5			○							兼1	
		水泳Ⅱ	3②		0.5			○							兼1	
		球技AⅠ	3①		0.5			○		1					兼1	
		球技AⅡ	3②		0.5			○		1					兼1	
		球技BⅠ	3③		0.5			○							兼1	
		球技BⅡ	3④		0.5			○							兼1	
		武道A	2③		0.5			○							兼1	
		武道B	2④		0.5			○							兼1	
		ダンスⅠ	3①		0.5			○							兼1	
		ダンスⅡ	3②		0.5			○							兼1	
		体育心理学Ⅰ	3①		1			○		1					兼1	
		体育心理学Ⅱ	3②		1			○		1					兼1	
		運動学概論（運動方法学を含む）	2③		1											兼1
		バイオメカニクスⅠ	2③		1			○			1					
		バイオメカニクスⅡ	2④		1			○			1					
		表現運動学Ⅰ	2③		1			○								兼1
		表現運動学Ⅱ	2④		1			○								兼1
		生理学Ⅰ（運動生理学を含む）	2③		1			○		1						
		生理学Ⅱ（運動生理学を含む）	2④		1			○		1						
		衛生学及び公衆衛生学Ⅰ	3①		1			○		1						
		衛生学及び公衆衛生学Ⅱ	3②		1			○		1						
		学校保健Ⅰ（小児保健，精神保健，学校保健）	3①		1			○		1						
		学校保健Ⅱ（小児保健，精神保健，学校保健）	3②		1			○		1						
		保健体育科教育法AⅠ	2③		1			○		1						
		保健体育科教育法AⅡ	2④		1			○		1						
		保健体育科教育法BⅠ	2③		1			○			1					
		保健体育科教育法BⅡ	2④		1			○			1					
保健体育科授業研究Ⅰ		3③		1			○		2	2					兼1	
保健体育科授業研究Ⅱ		3④		1			○		2	2					兼1	
保健体育科授業研究Ⅲ	4③		1			○			1							
保健体育科授業研究Ⅳ	4④		1			○		2								
小計（35科目）	—	0	28	0			—	2	2	0	0	0		兼10		
専修専門科目（保健体育専修）	バイオメカニクス演習Ⅰ	3①		1			○		1							
	バイオメカニクス演習Ⅱ	3②		1			○		1							
	バイオメカニクス演習Ⅲ	3③		1			○		1							
	バイオメカニクス演習Ⅳ	3④		1			○		1							
	バイオメカニクス演習Ⅴ	4①		0.5			○		1							
	バイオメカニクス演習Ⅵ	4②		0.5			○		1							
	バイオメカニクス演習Ⅶ	4③		0.5			○		1							
	バイオメカニクス演習Ⅷ	4④		0.5			○		1							
	生理学演習Ⅰ	3①		1			○		1							
	生理学演習Ⅱ	3②		1			○		1							
	生理学演習Ⅲ	3③		1			○		1							
	生理学演習Ⅳ	3④		1			○		1							
	生理学演習Ⅴ	4①		0.5			○		1							
	生理学演習Ⅵ	4②		0.5			○		1							
	生理学演習Ⅶ	4③		0.5			○		1							
	生理学演習Ⅷ	4④		0.5			○		1							
	学校保健演習Ⅰ	3①		1			○		1							
	学校保健演習Ⅱ	3②		1			○		1							
	学校保健演習Ⅲ	3③		1			○		1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専修専門科目 (保健体育専修)	学校保健演習Ⅳ	3④		1			○		1								
	学校保健演習Ⅴ	4①		0.5			○		1								
	学校保健演習Ⅵ	4②		0.5			○		1								
	学校保健演習Ⅶ	4③		0.5			○		1								
	学校保健演習Ⅷ	4④		0.5			○		1								
	体育科教育演習Ⅰ	3①		1			○			1							
	体育科教育演習Ⅱ	3②		1			○			1							
	保健体育科教育演習Ⅰ	3③		1			○			1							
	保健体育科教育演習Ⅱ	3④		1			○			1							
	保健体育科教育演習Ⅲ	4①		0.5			○			1							
	保健体育科教育演習Ⅳ	4②		0.5			○			1							
	保健体育科教育演習Ⅴ	4③		0.5			○			1							
	保健体育科教育演習Ⅵ	4④		0.5			○			1							
	体育科教育実践研究Ⅰ	3①		1		○			2	2							
	体育科教育実践研究Ⅱ	3②		1		○			2	2							
	保健体育特殊講義Ⅰ	2③		1		○				1							
	保健体育特殊講義Ⅱ	2④		1		○			2								
	保健体育科教育実践研究Ⅰ	4①		1		○			2	2							
	保健体育科教育実践研究Ⅱ	4②		1		○			2	2							
	小計(38科目)		—	0	30	0		—	2	2	0	0	0	—	—		
	専修基礎科目 (英教育専修)	英語学概論A	2①		2		○			1							
		英語学概論B	2③		2		○			1							
		英語音声学	2①		1		○			1							
		英文法	2②		1		○			1							
		英語文学概説A(イギリス)	2①		1		○			1							
		英語文学概説B(イギリス)	2②		1		○			1							
		英語文学概説C(アメリカ)	2③		1		○				1						
		英語文学概説D(アメリカ)	2④		1		○				1						
		英語文学演習A	3①		1			○			1						
		英語文学演習B	3③		1			○		1							
		英作文A	2①		1			○								兼1	
		英作文B	2②		1			○								兼1	
		英会話A	2③		1			○								兼1	
		英会話B	2④		1			○								兼1	
		異文化理解A	2③		1		○			1							
		異文化理解B	2④		1		○			1							
		異文化理解C	3①		1		○									兼1	
		異文化理解D	3②		1		○									兼1	
英語科教育法A		2③		2		○			1								
英語科教育法B		3①		2		○			1								
英語科授業研究Ⅰ		3③		2		○			1								
英語科授業研究Ⅱ		4④		2		○			1								
小計(22科目)		—	0	28	0		—	3	1	0	0	0	兼3	—			
専修専門科目 (英語教育専修)	英語学演習A	3③		1		○			1								
	英語学演習B	3④		1			○		1								
	英語学特殊講義	4③		2		○			1								
	英語文学演習C	3②		1			○			1							
	英語文学演習D	3④		1			○		1								
	英語文学特殊講義	4③		2		○				1							
	英作文C	2③		1			○								兼1		
	英作文D	2④		1			○								兼1		
	英会話C	3①		1			○								兼1		
	英会話D	3②		1			○								兼1		
	英語科教育演習Ⅰ	4①		2			○		1								
	英語科教育演習Ⅱ	4③		2			○		1								
	英語科教育実践研究Ⅰ	3②		2		○			3	1							
	英語科教育実践研究Ⅱ	4①		2		○			3	1							
小計(14科目)		—	0	20	0		—	3	1	0	0	0	兼2	—			
合計(486科目)			—	63	918	12	—	27	22	1	0	0	兼13	—			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号		学士（教育学）		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
4年以上在学し、以下の合計142単位以上を修得した者。						1学年の学期区分						4学期		
(1) 共通教育科目28単位以上（導入科目：3単位，GS科目：各群から2～3科目計15単位，GS言語科目：8単位，自由履修科目2単位） (2) 専門教育科目114単位以上 ※専門教育科目における各コース（専修）の単位数は次のとおり。						1学期の授業期間						8週		
【教育科学コース，教科教育学コース共通】 ・学域GS科目8単位以上（初学者科目：2単位，学域俯瞰科目及びデータサイエンス応用系：6単位以上（うちデータサイエンス応用系から2単位以上）） ・学域GS言語科目（2単位）						1時限の授業時間						90分		
【教育科学コース】 ・教育基礎専修（専門基礎科目（学類共通科目）及び専門科目から104単位以上） ・特別支援教育専修（専門基礎科目（学類共通科目）及び専門科目から104単位以上）														
【教科教育学コース】 ・国語教育専修（専門基礎科目（学類共通科目）及び専門科目から104単位以上） ・社会科教育専修（専門基礎科目（学類共通科目）及び専門科目から104単位以上） ・数学教育専修（専門基礎科目（学類共通科目）及び専門科目から104単位以上） ・理科教育専修（専門基礎科目（学類共通科目）及び専門科目から104単位以上） ・音楽教育専修（専門基礎科目（学類共通科目）及び専門科目から104単位以上） ・美術教育専修（専門基礎科目（学類共通科目）及び専門科目から104単位以上） ・家政教育専修（専門基礎科目（学類共通科目）及び専門科目から104単位以上） ・保健体育専修（専門基礎科目（学類共通科目）及び専門科目から104単位以上） ・英語教育専修（専門基礎科目（学類共通科目）及び専門科目から104単位以上）														

授業科目の概要（共同学科等）				
（富山大学教育学部共同教員養成課程，金沢大学人間社会学域学校教育学類共同教員養成課程）				
科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 人文科学系	富山大学	哲学のすすめ	哲学入門として，哲学の主要3分野である(1)形而上学(存在論，人格の同一性，死)，(2)心の哲学(あるいは認識や知覚・概念の哲学)，(3)科学哲学(科学方法論，個別科学の哲学，科学と倫理)のうちから，それぞれ入門的な話題を取り上げる。各セッションの後に，クリティカル・シンキングの時間を設け，哲学的議論を通じて，より内容を深く理解していく。授業やディスカッションを通じて，哲学的思考を養い，自分にとっての哲学的課題が何であるのかを見出すことがねらいである。	
	富山大学	人間と倫理	西洋の古代から近現代までの倫理思想、及び日本・東洋の倫理思想を素材とし、善悪、正義、幸福、人間関係の規範など、古来、人間が取り組んできた「倫理」をめぐる問題について考える。過去を踏まえながら、現代に生きる我々直面する問題にどのように取り組んでいくか、他者とともによりよく生きるためにはどうすればよいかについても、考える。本授業を通して、主体的に倫理について考える姿勢を身に付けることを目的としている。	
	富山大学	こころの科学	心理学の基礎的な5つの領域(認知・学習・社会・感情・人格)を中心に概観し、心の複雑さや不思議さについて理解する。また、心理学に関するさまざまなトピックスを理解することを通して、自らを取り巻く世界や「ものの見方・考え方」を再認識することで、心だけでなく物事を実証的に検討するための姿勢を学び、自分の興味関心のある分野に対して学際的に生かせることを目的とする。	
	富山大学	日本の歴史と社会	日本の歴史の基本的な知識の修得を目的とし、歴史学の研究法や考え方、研究材料の説明を行った後、日本史全般について近年話題となっている事項の解説を随時加える。さらに、富山県の歴史の個別研究を取り上げ、富山県の遺跡・史跡や立山についての説明を加えることで、学生が地域に寄与することを促すとともに、歴史研究のおもしろさを伝える。	
	富山大学	東洋の歴史と社会	東アジアの核をなす中国の歴史を『史記』や『漢書』あるいは『資治通鑑』などの具体的な文献史料を読み解きながらとるとともに、いわゆる中国文化圏ではギリシア・ローマにはじまるヨーロッパのhistoryとは異なる歴史の語りなが長く行われてきたことを講義する。このことは日中韓の三国でしばしば軋轢を生む歴史問題とも無縁ではないが、高校まで学んできず世界史とは違う視点から歴史を考える姿勢を養う。	
	富山大学	西洋の歴史と社会	ヨーロッパを中心に、ローマ帝国、中世ヨーロッパ、ヨーロッパにおけるキリスト教、ルネサンスと科学革命、18世紀における植民地の拡大、産業革命、近代市民社会の形成など、西洋史に関する基礎的な講義を行う。高校までに学んだ世界史の知識を再確認しつつ、一般教養として知っておくべき歴史上の人物についても、適宜説明する。様々な時代の社会の特質を理解することで時代と社会の変化を学び、現代を相対化できる豊かな視点を養う。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 人文科学系	富山大学	日本文学	日本文学の中で、上代から近世に至る古典の諸作品を取り上げ、その世界の内容と魅力を、その作品が作られた経緯と絡ませて解説する。その作品成立のドラマや作品の見所や古典作品の現代における再生の姿などについても言及する。日本古典文学作品について理解を深めつつ読解の力を養うとともに、それぞれの作品世界に応じて読み味わう方法を身に付け、古典作品の世界に興味・関心を持つことをねらいとする。	
	富山大学	外国文学	西洋古典古代の文学作品を通して、多様な世界の見方と教養を身に付ける。時代も文化も異なる外国の文学作品を理解するためには、文字を読めたところで十分ではない。その作品の背景にある文化、伝統、教養についての知識を持って初めて理解することができる。作品世界に近づくことにより初めて見える世界を知る喜び、作品と対話するおもしろさを体験することで、他者を理解する感性や本を通して読み取ったことを言葉によって表現する力を身に付けることを目的とする。	
	富山大学	言語と文化	本授業科目では、私たちに身近な日本語や富山県の民俗文化などの事例を含む日本語の諸方言や諸現象の多角的な観察と分析を出発点に、英語や時には世界のあまり馴染みのない言語などの諸現象と関連づけ、言語の多様性と普遍性についての理解を深めることをねらいとする。また、富山県の事例を取り上げ、民俗語彙との関わりを重視しながら一瞥し、日本全体における富山県の位置付け、富山県の東西差や地域差を理解する。	
	富山大学	音楽	本講義により一般的に馴染みのない総合芸術と言われる舞台作品に焦点を当てて、作品の背景や作曲家の特徴等を理解するとともに、音楽を楽しむ心、作品を尊重する心を養う。達成目標は次のとおりである。1. 舞台作品の歴史的流れを理解する。2. 作品を鑑賞し、作品の背景や作曲家の特徴、人間関係等を理解する。3. 原作がある場合は相違点を探る。4. 課題となった合唱曲を楽しんで演奏する。	
	富山大学	美術	本授業科目は、人文科学の一領域である美術史学の視点から、美術とは一体、どのような視覚造型表現なのか、美術という芸術分野を主に構成する絵画の基本的な性格とは何なのか、そして、個々の作品を観るためには、どの程度の知識と心構えが必要となるのかを理解してもらうことを目的としている。いわば、現代の教養人が最低限持ち合わせていなくてはならない美術鑑賞作法の入門講義である。その内容は、歴史・理論系の勉学を志す学生のみならず、創作者たらんとする学生にとっても有益となる。	
	富山大学	美術表現A	本授業科目は、モチーフを描く、イメージを描く、正確に描く、といった課題を通して、多様なものの捉え方と伝え方を学ぶことをねらいとする。学生は、各課題における「描く」ことの基本理解についての説明を受けたうえで、各課題の演習に取り組み、最後にその課題を通して見えてくる「ものの捉え方と伝え方」について考える。多様な視点で事象を捉え、さらにそれを多様な手法を用いて表現するという、どのような専門分野の学生にとっても必要となる能力の素養を身につけることを目指す。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養教育科目	人文科学系	富山大学	美術表現B	本授業科目は、立体的な造形表現を行う上で基本となる基礎的な手法を学ぶことをねらいとする。具体的には、身近な「紙」という素材を用いて様々な形（連続性のある形、強度のある形、積み上げる形等）を表現することに対する理解を深めたうえで、それらの形を表現する演習（紙立体の制作）に取り組む。達成目標は次のとおりである。1. 基本的な彫刻・立体感覚を養い想像力を身に付ける。2. 紙素材の扱い方の技術や、表現の幅を獲得する。3. 審美性や美しい表現について自らの手を動かしながら探れるようになる。	
		富山大学	言語表現	本授業科目では、大学における図書館活用の仕方を体得し、レポート、論文等の作成に関する基礎的な考え方や具体的な技術を学ぶ。達成目標は、1. 大学における図書館活用の方法について基礎的な知識を理解すること。2. 実際にレポート作成の演習を通じて、レポート・論文等の作成技術を身に付けることである。具体的には、レポート・論文が備えるべき要素や「語句」「文」「段落」レベルでの書き方を学び、研究テーマの発想法や取材・選材活動の方法を知ること、推敲・校正の在り方や論文タイトルと論旨規定文の関係や作成レポートに関する批評に関する知識を身に付ける。	
		富山大学	治療の文化史	現代を生きる私たちにとって、伝統的身心観に基づいた治療行為とは、どのように活用されるべきものなのか。食養生、呼吸法、睡眠や夢への向き合い方など、先人たちの取り組みを辿ることを通して、これからの治療のあり方、その可能性について考察していく。治療行為の選択にみる歴史性や、文化的特性を学ぶことを通して、自らの身心に主体的にはたらきかける姿勢を涵養することが、本授業の目的である。	
		富山大学	異文化間コミュニケーション	本授業科目のねらいは、次のとおりである。1. 言語、文化、コミュニケーション学の基礎理論について概観し、自身のコミュニケーション・ストラテジーを自覚する。2. 外国人研究者や留学生をクラスに招き、インタビューや意見交換から異文化交流を体験し、異文化の視点を意識する。3. 異文化に関する各自のテーマを発見し、資料収集や調査等を通じて、問題解決を図る。4. 異文化に関する様々なテーマについて意見交換し、他者の視点から多角的に考え、自身の意見を確立する。	
		富山大学	異文化理解	単に諸外国の文化を理解するだけでなく、異文化を理解することで自国の文化の深い理解に至ることをねらいとしている。異文化コミュニケーションを通して多文化世界と文化の多様性について考える。グローバル化されつつある社会の文化について学び、異文化を理解し、その対応方法を異文化間コミュニケーションとして身に付け、さらに「異文化」を通して「自文化」への理解を深める。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 社会科学系	富山大学	現代社会論	現代社会は様々な事象であふれている。それを読み解く学問である社会学や文化人類学、国際関係論などでは、それぞれの視座・角度から分析がなされている。本講義では、現代社会の見方を知り、自己の関心を知る中で、社会にある事象をそれぞれの興味関心に引き寄せたり、新たな興味関心を掘り起こしたりしつつ、履修者各自の学問的な追究につなげることをねらいとする。	
	富山大学	日本国憲法	憲法の内容と歴史、日本国憲法の特質、人権論、統治機構の基礎事項を理解し、論点を考察する。 自立した市民として、地域で、国際社会で社会生活を送るうえで、最高規範として位置づけられる憲法の価値を活かす能力を身につけられることが長期的なねらいである。そのために、個別のテーマごとに憲法の目指す理念と複数の考え方が対立する現状を理解したうえで、自分なりの意見を持てるようになることを、授業各回のねらいとする。	
	富山大学	国家と市民	本科目は、近代以降における国家と市民のあるべき関係性について、公法学（刑法学・刑事訴訟法学など）または政治学の観点から洞察を深めるものである。たとえば、刑罰適用、先進医科学技術規制または刑事司法制度などの問題点を掘り下げることによって、また「政治的なもの」に体系的かつ分析的にアプローチすることによってである。こうした洞察を深めることにより、市民として国家をどう構成し規律するのかを理論的かつ主体的に考察できるようになることを達成目標とする。	
	富山大学	経済生活と法	経済活動に密接に関連する法分野としては、商法、経済法、国際取引法など様々なものがあり、自由な経済活動の促進を目的とするものも、社会福祉等のためにその抑制を目的とするものもある。本科目は、それらの全体を俯瞰しまたはその一部分を掘り下げることによって、社会・経済の仕組みを法を通して理解するための手がかりを提供するものである。達成目標は次のとおりとする。 ・経済活動と関わりの深い法領域についての基礎知識を修得する。 ・経済活動に関する法制度の課題について、正確な理解に基づいて議論することができる。	
	富山大学	市民生活と法	法の理念と共に、私法を中心とする現代日本法の概要と体系について説明する。どのような職業についても、必ずそれぞれの業界を規制する法律や規則があり、仕事を上する上で、知っておくべき知識を学ぶとともに、細かい法令を作り出す、法の理念や市民法体系と考え方をしっかり理解する。達成目標は次のとおりとする。 ・市民生活からビジネスと関わりの深い法領域についての基礎知識を修得する。 ・現代日本法の理念とその体系について理解する。 ・法の理念が法律の解釈を指導していることを理解する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 社会科学系	富山大学	はじめての経済学	<p>経済学の方法論及び基礎概念と現在の日本経済が抱える諸問題を理解することをねらいとし、経済学の特徴、特にミクロ経済学とマクロ経済学の方法論の違いと後者の成り立ちの歴史的背景や経済活動を測る様々な規則、それに基づくGDPなどの基礎概念を学んだ上で、関連した新聞記事や映像を参考にしながら現在の日本経済が抱える諸問題を理解する。最終的には、基本的な経済用語など、経済に関する基礎的知識を理解して、新聞記事に登場する経済時事を説明できるようになることを目標とする。</p>	
	富山大学	産業と経済を学ぶ	<p>21世紀の基本的特徴の一つは、経済が「人間と自然との共生」に向けて変容・転換していくことである。産業構造、消費構造、そして地域構造の高度化に起因して形成してきた悪循環再生産構造を脱却し、その行方は調和型循環社会の実現であろうと考えられることから、本講義では、人間・経済・自然を含む循環社会の視座に立って、産業連関表などのデータ分析を通じて、循環社会の構造的仕組みをその悪循環側面と調和的循環の側面把握することを目指す。</p>	
	富山大学	経営資源のとらえ方	<p>本授業科目のねらいは現代社会における個人の仕事と企業の目的をより正確に理解し、自分のキャリアを考える力を養うところにある。</p> <p>本講義では、企業と其中で働いている従業員の両方の視点から、現代社会を最も象徴する組織である企業はどのような特徴を持っているか、そして企業のビジョンや経営目標を達成するため、企業組織の中で人々はどのように分業し、協調して仕事を進めているか、更に組織内で個々人の仕事がどのように評価されているかというような問題について、具体的な事例を取り上げて解説する。</p>	
	富山大学	市場と企業の関係	<p>本授業科目の目標は、マーケティングの基本的な知識を体系的に修得し、現実問題に対する応用力を養成することにある。本講義においては、環境条件の分析、標的市場の設定、マーケティング・ミックス（製品やサービスなどの提供物）の創造を主軸とするマーケティング・マネジメントの基本を学習することに主眼を置くこととする。マーケティングの基礎理論を体系的に指導することで、マーケティングの実際を伝える新聞や業界誌を読み解く能力やあらゆる組織のマーケティングを分析する視点や洞察力を養成する。</p>	
	富山大学	地域の経済と社会・文化	<p>この授業では、主に日本の様々な地域を題材とし、地理学的な観点から地域の見方や考え方を検討する。</p> <p>担当教員の専門である地理学のごく初歩的な理論や分析手法を紹介するとともに、市街地再開発やまちなか居住促進、観光開発、文化の伝播、景観紛争など、地域に生起する具体的な課題を取り上げ、地域分析により検討する。それらを通して、地域の様々な現象を空間的に捉え、地域の成り立ちや課題について多角的に理解する力を養うことを授業のねらいとする。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 自然科学系	富山大学	自然科学への扉-A	「自然科学への扉」の3つの科目はいずれも、主に文系学生を対象とし、社会生活に必要となる自然科学に対する基礎的知識とそれへの興味・関心、科学リテラシーの獲得を目的とする。特にこの科目では、初等的な物理知識（力学・熱学・波動現象・電磁気学・現代物理）の学修を通じ、自然界に起こる物理現象や身の回りにある電気機器などの機能を理解することを目標とする。	
	富山大学	自然科学への扉-B	「自然科学への扉」の3つの科目はいずれも、主に文系学生を対象とし、社会生活に必要となる自然科学に対する基礎的知識とそれへの興味・関心、科学リテラシーの獲得を目的とする。特にこの科目では、初等的な化学知識の学修を通じ、現代社会と化学のつながりについて学ぶ。世界を形作っている物質の基本的な性質について理解し、化学物質がもたらす地球上の環境問題を考えることができるようになることを目標とする。	
	富山大学	自然科学への扉-C	「自然科学への扉」の3つの科目はいずれも、主に文系学生を対象とし、社会生活に必要となる自然科学に対する基礎的知識とそれへの興味・関心、科学リテラシーの獲得を目的とする。特にこの科目では、自然科学の基盤となっている数学について、高校までの数学との接続も考慮しながら、「集合と写像」「論理の基礎」など、数学の考え方の基礎、微分積分学と線形代数学の初歩、確率統計の基本事項などを、現代数学の視点に立って解説する。これにより、高校までで学ぶ基本的な数学に関する事項を現代数学の視点でとらえ直して理解できることを目指す。	
	富山大学	科学技術への扉-A	「科学技術への扉」の2つの科目はいずれも、主に文系学生を対象とし、技術立国の市民としての科学技術の基礎知識と最先端の科学技術への興味・関心の獲得を目的とする。特にこの科目では、エネルギー技術やマテリアル工学についての基礎知識と先端研究を学習する。これにより、エネルギーや材料技術に関する諸現象や社会における役割を理解することを目指す。	
	富山大学	科学技術への扉-B	「科学技術への扉」の2つの科目はいずれも、主に文系学生を対象とし、技術立国の市民としての科学技術の基礎知識と最先端の科学技術への興味・関心の獲得を目的とする。特にこの科目では、コンピュータや通信技術、情報処理システム、情報化社会での衣食住について、その先端研究を含めて学習する。これにより、情報化社会で必要となる基礎知識とリテラシーの獲得を目指す。	
	富山大学	生命の世界	アストロバイオロジーの視点で、まず真の生物学とは何かを考える。更に宇宙における生物を構成する物質の形成、地球型生命の誕生から入り、水の性質と生命における水の重要性を理解することを目指す。生物生体膜の性質から細胞の形成を捉え、原核・真核生物を中心に生物大分類の枠組みを理解した後、植物の世界に入り、植物の機能から細胞を理解し、分類の基礎を学び、植物組織を理解した上で裸子植物・被子植物へと植物の進化を学ぶ。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
自然科学系	富山大学	社会と情報の数理	本講義では、投票を集計する制度を数理的に考察する社会選択理論の入門的な議論を行う。我々が安易に実施する多数決の問題点をはじめとし、様々な投票の集計制度の長所と短所を紹介する。投票は我々の意思を表明する場であるが、そこで得られる結論は一般的に集計制度に依存することになることを解説する。本講義を通して、1. 基本的な推論を厳密に行う能力、2. 投票制度を抽象的に考える能力、3. そのメリットや問題点を論理的に議論できる土台を身に付けることを目標とする。	
	富山大学	デザインと生物	様々な生物は、そのかたちを合理的にデザインすることで、生存能力を高め、環境に適応してきた。本講義では、生物学的視点から生物の形態や構造を説明すると同時に、芸術学的視点から、生物のかたちの表現法や美について説明する。これらを通し、生物への理解を深めるとともに、機能美や生物デザインについての知識を得ることを目的とする。	
教養教育科目 医療・健康科学系	富山大学	医療心理学	心の機能について科学的に扱う心理学分野について、基本的な考え方や理論、法則などについて基本的な部分の修得を目指す。具体的には、心理学の基本的な考え方、研究方法、歴史だけではなく、神経生物学的観点から心理学や本能行動と学習行動、生理的動機、内発的動機及び社会的動機、社会的学習、欲求とフラストレーション・葛藤との関連などを解説し、概説できる能力を身に付けることを目標とする。	
	富山大学	概説医療心理学	心の機能について科学的に扱う心理学分野について、基本的な考え方や理論、法則などについて基本的な部分の修得を目指す。具体的には、心理学への導入、歴史や考え方、心理学の分類、研究方法、感覚と知覚、学習、記憶、動機付、適応、欲求とフラストレーション、矯正医療、情動などの基礎的な知識を身に付けることで、各項目の概説ができる知識を身に付けることを目標とする。	
	富山大学	認知科学	人間の知的活動（外界の認識、記憶、推論や意思決定、意識の働き）について、心理学を基礎に、脳科学や計算機科学からの知見と併せて理解する。達成目標は次のとおりとする。1. 人間の認知機能について、その特性を理解する。2. 人間の認知機能について、その研究手法を理解する。3. 人間の認知特性の現実場面への応用について考察できる。認知科学とは何か、また、感覚・知覚の過程、注意、記憶と知識の構造、言語と文章の理解、推論と意思決定、社会的認知、意識と無意識の科学を学ぶとともに、認知科学の応用についても触れる。	
	富山大学	脳科学入門	神経科学の発達に伴い、脳機能に関する研究報告が増加している。これらの研究成果は、新薬開発や臨床への応用が試みられている。しかし、世の中には“脳科学神話”が氾濫し、マスコミをにぎわしている「脳科学」には証明されていないことも多く含まれている。本講義では、脳機能に関する最新の研究成果に触れつつ、感情、注意、記憶などの脳科学研究の実際について知り、その基礎を学ぶ。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 医療・健康科学系	富山大学	生命科学入門	現代社会における生命科学を理解するうえで必要なエッセンスを学ぶ。生命の起源、生物の多様性と生態系での物質の循環、ライフサイクルと死の概念、遺伝の法則、生物の増殖と生活環、生体内部環境の恒常性と生体防御の機構などを学ぶ。前半は、生命科学の大まかな概念を理解することに重きをおき、後半は、私たちの生活に関わるテーマや発展的なテーマを紹介する。	
	富山大学	免疫学入門	近代免疫学は、マウスとヒトを中心とする医学の一分野として急速に進歩したが、生物の持つ生体防御の機構は、細胞が誕生した時点で既に生じていた。本講義では、細胞が自己と非自己を識別する機構に始まり、植物界・動物界といった広い視点から、生物が持つ生体防御の機構と進化について考察する。また、初期の講義で担当教員が生体防御機構の概説を行った後は、講義受講者が各個にこの分野の関するテーマを定め、チュートリアル形式の講義とする。	
	富山大学	身近な医学	医学を学ぶ必要があるのは医学部の学生だけではない。なぜなら、誰でも医学の恩恵にあずかり、健康で文化的な生活を送る権利があるからである。しかし、医学を学ぼうとしても、専門的な知識を有していないと難解に感じてしまう。本授業科目では、主に医学部の教員により、我々の身近にある疾患等を対象として医学を解説する。本授業科目により、医学についての正しい知識を得て、自分の生活を見直し、正しい予防態度を身に付け、健康維持の大切さを認識することを目的とする。	
	富山大学	障害とアクセシビリティ	今日的な課題を踏まえ、近年の新たな障害観について学ぶことによって、ダイバーシティや異文化に対する理解を深めることを目的とする。大学における障害のある学生への支援についても触れ、共に学ぶ上で必要な理解と配慮についても考える。障害者権利条約や障害者差別解消法などの障害に関する社会的動向や、障害の概念と様々な障害の特性について理解し、実際に必要な支援や配慮について検討するとともに、グループディスカッション等を通じて、社会的な課題への探求心と解決力を養う。	
	富山大学	医療と地域社会	本授業科目ではグローバル（グローバル＋ローカル）な観点から「医療と地域社会」の現在・過去・未来を考察する。この考察は「医療と環境を包括するQOL(生活の質)」理念を導きとし、地域社会の「幸福度」に関する議論およびユネスコの「生命倫理15原則」を参照にする。講義の全体構成は、第I部で「風土と健康」の世界医療史、第II部で富山の医療事情に関する人文社会科学の考察、第III部で医療事情の文化多元論的考察を展開し、最後に「SDGs推進と地域共生社会の模索」に即して「医療と地域社会」の未来像を描く。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 総合科目系	富山大学	環境	環境問題には、大気汚染、騒音、振動、ゴミ問題などの日常生活に関わる問題から、地球温暖化、酸性雨、オゾン層の破壊、更に環境ホルモンなど地球規模の問題まで、非常に広範囲の内容が含まれている。本講義では、いろいろな専門分野の先生による輪講形式で、「環境」に対する多面的、学際的なアプローチを通して、我々の現代生活と環境との関わりを学び、現在及び将来に向けて我々がどのように行動すべきかを考える起点となることを目指す。	
	富山大学	ジェンダー	現代社会のジェンダーに関わる問題について考える視点を確立するとともに、様々な領域におけるジェンダー問題を考える。安易に結論を出すのではなく、問題を多角的にとらえて深く考察する姿勢を育む。ジェンダーに関する通俗的な考え方（例えば「女らしさ」や「男らしさ」に関するステレオタイプなど）を相対化することが最低限の目標とする。また、ジェンダーという問題が現代社会に深く関わっていることを理解する。	
	富山大学	技術と社会	近年の世界は一見、原始時代と異なるように見られるが、基本的には全く変わっていない。火はエネルギーと言葉を換え、道具のものは材料と総称されている。しかし、時代とともに科学は進歩し、火=暖かい=エネルギーという単純な構図から、人間の生死、宇宙の構成そのものをエネルギーで解釈するようになってきている。ここでは深淵で広大なエネルギー理論の解説ではなく、より生活に密着し、日頃の生活の中をふと見回すと、エネルギーがあちこちで生きている事を講義を通して実感することを目的とする。	
	富山大学	現代文化	本講義では、地方における政治参加とまちづくりについて扱う。社会に積極的に関わるためには、その地域が抱える問題を的確につかみ、解決の方向を考え、その実現に向けて動く、という3つの力が欠かせない。「現状把握」「将来構想」「将来実践」と呼べるこれら3つを養うに当たり、授業では、講義とグループワークを通して、good citizenとなるための力を追求する。	
	富山大学	人権と福祉	人権と福祉に関わる様々な問題に対して、多様な視点から問題提起を行うことで、それらへの認識を深める。具体的には、介護の現場に関する知識、日本における先住民問題、歴史からみた在日朝鮮人問題、被差別部落問題、障害者問題などにおける事例を紹介することで、社会でその認識を活かすことができる能力を養うことを目的とする。	
	富山大学	環日本海	本講義では、自然・社会・経済・医療などの様々な視点から、環日本海地域及び日本海沿岸地域について学ぶ。さらに、日本海や対岸諸国、日本海沿岸地域のことについて学び、専門教育での学修に活かす能力を養う。環日本海地域について、自然・社会・経済・経営・医療などの様々な視点から分析する。まずは、北陸3県の産業構造の特徴とその成り立ちを分析し、主要企業を紹介する。次に北陸企業のグローバル化の現状を、アジアを中心にいくつかの企業の事例で紹介する。最後に、狭い分野で日本あるいは世界でのトップシェアを誇る、北陸のニッチトップ企業を紹介する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 総合科目系	富山大学	科学と社会	本講義は2つの講義内容から構成する。一つは、科学の発展や進歩を歴史的に捉えながら、科学の理論や技術の現時点における到達点を、科学を身近に体験してもらいながら多くの実例で解説することである。もう一つは、地球規模のレベルでの環境破壊や環境汚染問題について触れながら、科学の発展そのものに対する理解と評価の目を積極的に養うべく、さまざまな課題を投げかける。科学と社会生活との関わり合いという観点から、現状を再認識及び再確認するとともに未来社会のあるべき姿を展望してもらうことが、本講義の目的である。	
	富山大学	アカデミック・デザイン	本講義では、最後まで真剣に付き合う過程を通して、自己や他者や社会と向き合い、自分が成長できたと実感できることを目指す。①自分を振り返る②アカデミックな学び③虚偽と欺瞞に満ちた世界と向き合う④大学精神の堅持を学ぶ。具体的には、富山県と五福キャンパス(学問体系)、大学で何を誰に学ぶのか(真の学問)、なぜ"Education first"なのか(偏見と差別)、自由研究って何だったんだろう(学問の創造性)、学問の中立性とは何か(学問と政治)などの事例を紹介する。	
	富山大学	ビジネス思考	自らの職業(進路)を考える際には、実際の社会やビジネスの仕組み、そしてそこで働く人々の情報が不可欠です。しかしながら、情報が不足している中で、卒業が近づくと学生は自らの職業を選択することが求められる。本講義では、将来の職業選択に備え、次の講義内容を設定する。1. ビジネス思考とは何かを考える。2. ビジネスの仕組みを学ぶ。3. ソーシャルビジネスを考える。4. ビジネス現場の実際を学ぶ。5. 私にとって職業とは何か。人生や社会との関わりの中で、「職業とは何か」について知る。自らの人生体験を振り返りながら職業が持つ意義を考える。	
	富山大学	データサイエンスの世界	様々な分野において資料やデータがどのように利活用されているかを学ぶことを通じて、今後の社会で活躍するにはデータサイエンスの素養を持つことが重要であることを理解することを目標とする。大学の各部局または外部機関から講師を招き、その専門分野でのデータ利活用の実際とデータを適切に扱うことの重要性及びそこで用いられるデータサイエンスの技術につき学ぶ。	
	富山大学	データサイエンスの 実践	データを利活用するにあたっては、統計、コンピュータを用いたデータ処理、プログラミング基礎等の知識と技術が重要になる。本授業では必修科目である「情報処理」で学んだIT技術をベースとして、それをさらに発展させたデータサイエンスの基礎技術を身につけることを目標とする。LMSを用いたオンデマンド型の授業で理論を学び、それを端末室での対面授業で実践する形式で授業を行う。	
	富山大学	教養としての都市デザイン学	21世紀は都市の時代と言われ、2050年には世界の人口の7割が都市に居住すると予測されています。また、世界は少子・高齢化、地球温暖化という問題に直面しています。したがって、人口問題、環境問題に対応する、「持続可能な都市の実現」は、人類共通の課題となっています。この授業では、はじめに、現在世界が直面している共通の課題について学びます。そのあとで「持続可能な都市の実現」とはどのようなことなのか、そのためにはどのように都市をデザインすべきなのか、実践例を通して学びます。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 総合科目系	富山大学	SDGs入門	この科目では、SDGs (sustainable development goals) という、2015年9月25日、第70回国連総会において採択された「持続可能な開発のためのアジェンダ2030」の内容を学びます。「持続可能な開発目標」(SDGs)とされているのは、17の目標に当たります。この全体像を把握し、また一部についてそれぞれの専門分野の教員から解説を受け、これからの日本や世界を生きて行くみなさんにSDGsを意識した「ものの見方」を身につけてもらいたいと意図しています。学内の教員が持ち回りで専門分野とSDGとの関連に触れながら講義形式で紹介します。	
	富山大学	平和学入門	平和は、平和でないときに初めて実感できるものである。しかし、平和が損なわれているとき、それが何かを考える暇はない。力の前に脆く、その歴史は短く、求める人の声がかき消されがちである。平和を考えることは、平和な社会に生きている者が得られる特権であり、また責任でもあることから、本講義では、平和を真剣に考え、実現するために、現代世界が抱えている問題を的確につかみ、あるべき世界の姿を描き、その実現に向けて動く力を身に付ける。	
	富山大学	東アジア共同体論－政治・経済・文化－	本授業科目は、富山大学の学部の枠を超えた多様な学問領域である国際経済学、国際経営論、国際政治、歴史、観光、環境、国際政治から見た地域統合、金融危機の影響、アジアの社会福祉、国際分業の方向性、観光政策、歴史認識、文化政策などの多様な内容を取り挙げる。アジア共同体論の背景と関連した政治、経済、文化の現状を知るとともに、東アジアの地域統合に向けた現状の動きに関する基礎的な知識を理解する。	
	富山大学	富山から考える震災・復興学	本授業科目においては、被災地の災害や復興の現状や今後の計画について、富山という地点・視点から主体的、積極的に学び、今一度大震災を認識し、多角的な観点から考察する。そして、被災地との連帯感を高め、自分たちのありようを主体的に考えることが目標である。また、今後の人生の中で、東日本大震災のような未曾有な災害が発生した時の心構えについて学び、東日本大震災について、文系および理系から多角的に考える。様々なアクティブラーニング（主体的学習）により、発言力・傾聴力・論理的思考力を高める。	
	富山大学	環境と安全管理	本授業科目では、環境マネジメントシステムについての理解を深め、環境に関連した法律についての知識や、国内外の環境問題について概要を解説するとともに、公害や労働災害の事例紹介や環境に関連した法律・国際条約、リスクマネジメントや安全衛生についても取り扱う。身の回りの環境に配慮した生活を行うために必要な知識や考え方を身に付ける。特に、環境問題や省エネルギー、リサイクルなどについて具体的な提案や取り組みができるようになることを目指す。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 総合科目目	富山大学	万葉学	<p>現存する日本最古の和歌集である「万葉集」は世界に誇るべき文化遺産である。それは日本文学の原点であり、日本人の心のふるさとである。本授業科目では、「万葉集」の時代区分に従って、それぞれの時代の代表的な歌人を取りあげて、有名な歌を中心に代表作を深く読み込んでいく。日本文学の原点である「万葉集」を代表的な歌人とその代表作を中心に読み進め、その時代区分ごとの特徴等を学ぶことによって、古代文学の豊かさやおもしろさを知り、日本文学史の主流であった和歌の世界の原点を知ることができる。</p>	
	富山大学	日本海学	<p>富山県は、環日本海地域全体を、日本海を共有する一つのまとまりのある圏域として捉え、過去、現在、将来にわたる本地域の人間と自然との関わりや地域間の人間との関わりを、総合学として学際的に研究しようと「日本海学」を推進している。本講義では、この日本海学と連携を保ちながら、自然科学と経済学の視点から様々な角度で北東アジアの環境を取り上げる。本地域の自然の価値を再認識し、環境問題のメカニズムや原因を知り、そして問題解決に関わる手法について理解を深め、北東アジア地域における人と自然との在り方について、自分なりの考え方ができるようになることを目標とする。</p>	
	富山大学	富山大学学	<p>明治期以降の全国及び富山県における高等、中等教育機関設置に向けての動きを踏まえながら、旧富山大学の各前身校、戦後の新制富山大、富山医科薬科大学、高岡短期大学、そして三大学の統合による新富山大学設置から現在に至るまでの富山大学の歩み（歴史、教育、研究、社会貢献等）の理解を深める。これを受け、各学部の歩み（歴史、教育、研究、社会貢献等）を学び、社会的使命感を持つことを目指す。さらに、富山大学のこれまでの歩みを知り、その概要を説明できるようになる。</p>	
	富山大学	とやま地域学	<p>本授業科目は、大学コンソーシアム実施科目として、富山国際大学が主催となり富山県内高等教育機関の全ての学生を履修対象者として開講する。本講義では、3つの分野から富山について学ぶ。一つは富山の歴史・文化、産業を歴史的な視点から学ぶ。次に富山の特徴でもある自然環境に着目し、水、災害、くらしなどから富山の特徴を学ぶ。これらを踏まえ、富山の将来を展望するため、富山県のデータ分析や富山県知事の政策をお聞きしながら、年配の方から若者まで活力ある富山の地域づくりについて各自が考える。</p>	
	富山大学	時事的問題	<p>本授業科目では、社会がデジタルネットワークの発達により大きく変革しようとしている21世紀に、どのような視点と考え方そして行動が求められているか、いかに学修することが重要であるかを今後の大学生活に新しい視点を与える講義である。各界で研鑽と活躍をしている方の経験を事例として、その方の人生観も含めて解説することで、学生生活の価値を上げるための考え方を伝達する。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 総合科目目	富山大学	災害救援ボランティア論	本授業科目では、災害救援ボランティア育成のカリキュラムをコアに、富山県の災害と防災対策、富山大学の研究者による独自の研究内容などを加えて、地域防災においてリーダーシップを発揮できる人材となるための学修を提供する。講義においては、危機管理医学や災害ボランティア活動の基本、地形と災害の予測、都市における減災対策、災害時の医療救援活動などを学ぶ。実習においては、普通救命(心肺蘇生法、AEDの使用法、止血法)や倒れている人をどう救うかというトレーニングを実施する。	
	富山大学	感性をはぐくむ	「感性をはぐくむ」と言うキーワードを基に、芸術やデザイン、人の脳や生理、哲学など各教員の専門分野からの切り口で「感性」について考察する。豊かな感性をはぐくむために自然や社会の中に存在するいろいろな要素について考察を深める。各分野の教員から言及される感性に対しての考え方を理解し、感覚や精神が果たす役割を生活の中で意識して考えられるようになること、人の持つ感性の多様性や豊かな感性から生まれるものの可能性を知り、充実した人生を切り開くための糧に出来ることを目標とする。	
	富山大学	日本事情／芸術文化	本授業科目では、日本の文化や芸術について、伝統的なものから現代のものまで幅広く扱う。様々な日本の文化に触れ、日本文化への理解を深めるとともに、母国の文化を客観的に見る目を養うことを目指す。最初の4回は、インターネットを使って、伝統芸能、美術、音楽などの芸術や文化をテーマに情報を収集し、各自レポートを作成し、グループごとにポスター発表する。これらを通じて芸術や文化に関わる基礎知識を得る。視聴覚教材の利用、書道や華道については実技、民謡や落語では実演を通して、日本文化への理解を深める。	
	富山大学	日本事情／自然社会	本授業科目では、統計資料や視聴覚教材を利用しながら、日本の自然、産業、社会、文化等についての理解を深め、世界と照らし合わせて、北陸地方や富山の事情についても学ぶ。具体的なテーマとしては、日本の化学と工業、環日本海地域における環境協力、日本に分布する昆虫の多様性、小泉八雲と日本の自然、木育と食育、漆ジャパンと各国の漆事情、日本の素粒子物理学への貢献、日本のパワーエレクトロニクス技術、北陸の産業と企業、日本の地殻変動と海底資源、日本のパワーエレクトロニクス技術などについて解説する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 総合科目系	富山大学	学士力・人間力基礎	本学学生が入学後の早い段階で、在学中の学修や学生生活に関する基礎や展望を学び、高い使命感と創造力のある人材となる必要性を意識することは、今後、大学生を送る上で非常に有益である。本授業では、多様な個性や経験を有した履修者全員が、自ら学修上や学生生活上の計画を立てて、正課内外及び学内外において主体的に学びや取組みを実践できるよう指導・支援する観点から、多種多様な事象や知見等に対して学生が能動的に向き合い、理解し、責任を持って自己を管理する重要性を学ぶ機会を提供する。	
	富山大学	富山学	「富山県」という地域が、どのような自然的・文化社会的基盤の上に成り立ってきたのか、その過去・現在・未来について理解を深める。さらに、富山県が世界や日本の中でどのような独自性・固有性を打ち立てているのかを理解し、地域の課題解決や活性化に向けて学生自らが考え、行動する意識を持つようになることを狙いとする。また、フィールドワークや地域の人々との対話を通して富山の歴史的・文化的な成り立ちと現状について理解し、住環境や生活にみられる富山の価値に対する理解を深める。	
	富山大学	地域ライフプラン	本授業科目は、富山県内の各地方公共団体と連携し、地域の人々と対話する機会を提供することにより、地元富山への意識・愛情・愛着を醸成し、地域における自らのライフプランを想定・作成することを目的としている。地域の魅力や課題などを地方公共団体における施策を事例として取り上げることで、富山に住むというライフプランを具体的に想定したり、単に「住む」を超えて地域に求められる人材として地域課題にコミットするために必要な意欲や見識とはどのようなものかを考えることを促す。	
	富山大学	産業観光学	産業観光とは、産業活動に触れることを通じて製品の製造工程などを見学・体験し、知的好奇心を満足させる観光活動のことであり、企業にとっても信頼感を増し、新たな顧客の開拓や将来の人材育成、地域貢献につながる活動である。本授業科目では、産業観光や富山の産業構造を理解すると同時に、産業観光を実際に体験することで、現在の富山県内企業を知り、富山県の既存産業の再生や新たな産業を創生することで発展してきた富山の地域イノベーションを理解することで、県内企業が共通して求める「進取の気性」「富山県を愛する心」を涵養する。	
	富山大学	富山のものづくり概論	本授業科目は、富山の重要産業の一つである素材産業を題材にして、その歴史や現状を工学的視点で理解し、富山のものづくりの魅力を学ぶ。到達目標は次のとおりとする。1. 身の回りにある製品に使われている素材の種類と機能を説明できること、2. 富山の素材産業の特徴を説明できること、ならびに3. アルミニウム製品の特徴が説明できることを到達目標とする。さらに、現場技術者との対話の場を設けて富山のものづくりの底力と魅力そして発展性を理解し、富山でのものづくりに強い興味を持たせる構成とする。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目系	富山大学	富山の地域づくり	富山県や市町村などの地方公共団体や国は、我々が暮らすまちを住みよいものにするために、様々なサービスを提供している。かつて、まちづくりは御上が行うもので、市民がそれに対して意見を出したり、自分たちでまちづくりに取り組んだりすることはなかった。しかし、現在では行政は市民の声を取り上げたり、まちづくりへの市民の参画を呼びかけたりしている。そのような流れの中、国土交通省、富山県、富山市、高岡市、魚津市はどのようなまちづくりに取り組んでいるのかを事例として取り上げる。	
	富山大学	薬都とやま学	300年以上の歴史を有する「くすりの富山」の始まりは配置薬業である。配置薬業が基盤となり、現在の富山県は「薬都とやま」として、製薬産業に加えて多様な製薬関連産業が発達している。本授業では、全国的に例をみない「薬都」について、医薬理工学のおよび人文社会的見地から多角的に紹介・考察し、富山県の特長を学ぶ機会を提供する。	
教養教育科目 外国語系	富山大学	ESP I (Level-based)	本授業では、高校までに習得した英語力の基盤の上に、習熟度別に編成したクラスにおいて、「読むこと」「書くこと」「聞くこと」「話すこと（遣り取り）」「話すこと（発表）」の四技能・五領域についてバランスよく能力を伸ばすことを目標とし、後期開講のESP IIへの授業選択のための礎を構築し、さらにはその先にある、将来の専門教育に向けての基礎力を養うことを目指す。	
	富山大学	ESP II (Interest-based)	前期ESP I および基盤英語 I で鍛えた英語の四技能五領域におけるスキルについて、以下の方法でさらにそれらを伸ばし、2年次以降の専門課程に必要な英語力にかなげることを目標とする。 1) 担当教員の得意・専門分野ごとに「テーマ」を設定する。 2) 受講生は各自興味のある「テーマ」の授業を選択する。 3) 教員はテーマごとに受講生の興味を喚起させ、そのテーマに関する英語表現の習得を中心に英語力を向上させる。	
	富山大学	基盤英語 I	本授業では以下の2つの目標を設定し授業を展開する。 1) e-ラーニングを活用したTOEIC得点アップ [受講生]4月受験時の得点に対し、各受講生が5%から10%の得点アップを目標値として設定し、その目標達成にむけて大学が整備したeラーニングを活用する。 [教員] 各受講生のeラーニングの学習ログを点検しつつ、各担当者の方で受講生のeラーニングを支援する。eラーニングの学修状況を一定の割合で成績に加味する。 2) 英語の「読み」の方略の習得と「ライティング力」向上 習熟度別に緩やかに選定したテキスト群から教員はレベルに合致したものを選定し、各自のアプローチによって上記の目標を達成する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 外国語系	富山大学	基盤英語Ⅱ	<p>本授業では以下の2つの目標を設定し授業を展開する。</p> <p>1) e-ラーニングを活用したTOEIC得点アップ [受講生]4月受験時の得点に対し、各受講生が5%から10%の得点アップを目標値として設定し、その目標達成にむけて大学が整備したe-ラーニングを活用する。 [教員] 各受講生のe-ラーニングの学習ログを点検しつつ、各担当者の方で受講生のe-ラーニングを支援する。1月受験TOEIC得点と4月得点の伸びを一定の割合で成績に加味する。</p> <p>2) 英語の「発信力」向上 習熟度別に緩やかに選定したテキスト群から教員はレベルに合致したものを選定し、各自のアプローチによって上記の目標を達成する。</p>	
	富山大学	ドイツ語基礎Ⅰ	<p>基本的なドイツ語の文法の規則を理解して応用できるようになることがねらいである。本講義では、教科書で学んだドイツ語の文法事項を基に、簡単なドイツ語の文を現在形で作ることができるようになること、辞書を使いながらドイツ語が理解できるようになることを目標とする。動詞の現在人称変化、名詞と冠詞、不規則変化動詞、命令形、冠詞類、疑問代名詞、人称代名詞、前置詞、形容詞、分離動詞、不定詞句、従属接続詞の知識を修得し、整理しながら授業をすすめる。</p>	
	富山大学	ドイツ語基礎Ⅱ	<p>ドイツ語基礎Ⅰで身に付けた能力を前提に、更に高度なドイツ語の文法の規則を理解して応用することがねらいである。教科書で学んだドイツ語の文法事項を基に、複合動詞や再帰動詞を使った文、受動形、副文など、より複雑なドイツ語の文を作ることができるようになることを目標とする。比較変化、話法の助動詞、話法の助動詞・未来形、従属接続詞、分離動詞、非分離動詞、zu不定詞句、再帰動詞、分詞、関係代名詞、不定関係代名詞、受動形の知識を修得し、整理しながら授業を進める。</p>	
	富山大学	ドイツ語コミュニケーションⅠ	<p>ドイツ語の基礎を学ぶ。単語の発音練習や簡単な会話的表現の口頭練習と、辞書を引ながら文章を読解する練習を2つの柱として授業を進める。ドイツ語のアルファベットや単語を発音できる。基本語彙を習得して、簡単なドイツ語文を読んだり聞いたりして理解し、また簡単な内容を口頭または筆記で表現できる。さらに、ドイツ語およびドイツ語圏、ヨーロッパ文化について、ある程度の知識を獲得する。</p>	
	富山大学	ドイツ語コミュニケーションⅡ	<p>ドイツ語基礎Ⅰ（入門修了程度）で身に付ける能力を前提に、単語の発音練習や簡単な会話表現の口頭練習と、辞書を引ながら文章を読解する練習を2つの柱として授業を進める。基本語彙をさらに修得して、前期よりは少し難しいドイツ語文でも読んだり聞いたりして理解し、また簡単な内容を口頭又は筆記で表現できるようになることを目標とする。また、ドイツ語及びドイツ語圏、ヨーロッパ文化についての知識を更に増やす。</p>	
	富山大学	フランス語基礎Ⅰ	<p>フランス語を初めて学ぶ方を対象に、アルファベットの読み方から文の組み立て方まで、フランス語の決まりを解説する。本授業科目の履修により、実用フランス語技能検定試験5級合格程度の実力が身に付けられることを目標とする。フランス語の基礎を更に固めると同時に、日常生活に必要な会話表現を理解し、運用できるようになる。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 外国語系	富山大学	フランス語基礎Ⅱ	フランス語基礎Ⅰで身に付けた能力（入門修了程度）を前提に、日常生活に必要な会話表現を、さらに深く学ぶ。本授業科目の履修により実用フランス語技能検定試験4級合格程度の実力が身に付けられることを目標とする。フランス語の基礎を固めると同時に、日常生活に必要な基本的な会話表現を理解できるようにする。	
	富山大学	フランス語コミュニケーションⅠ	フランス語を初めて学ぶ方を対象に、アルファベットの読み方から始め、発音の基礎を解説すると同時に、日常生活に必要な基本的なフランス語表現を学ぶ。本授業科目の履修により、実用フランス語技能検定試験5級合格程度の実力が身に付けられることを目標とし、併せてフランス人やフランスの文化についての知識も深める。毎回の授業では、場面に応じた会話を聴き、フランス語の会話表現、新しい単語の発音・意味・用法などについて解説する。最後に、ペアを組んで会話を復唱しながら練習することで、会話する力を身に付ける。	
	富山大学	フランス語コミュニケーションⅡ	フランス語基礎Ⅰで身に付けた能力（入門修了程度）を前提に、日常生活に必要な会話表現を、さらに深く学ぶ。本授業科目の履修により、実用フランス語技能検定試験4級合格程度の実力が身に付けられることを目標とする。フランス語の基礎を更に固めると同時に、日常生活に必要な会話表現を理解し運用できる。後期修了の時点で、実用フランス語技能検定試験4級合格程度の実力を身に付ける。前期同様、毎回の授業では、場面に応じた会話を聴き、フランス語の会話表現、新しい単語の発音・意味・用法などについて解説する。最後に、ペアを組んで会話を復唱しながら練習することで、会話する力を身に付ける。	
	富山大学	中国語基礎Ⅰ	現代中国語の基本的な発音ができ、聴解及び読解できることを目指す。ピンインと呼ばれる発音記号に基づき、声調を含めて正確な発音の方法を学修する。次に、基本文型に習熟するとともに、語法・文法の基本事項を学修し、平易な会話文や筆記文を理解する能力を身に付ける。テキストに沿って肯定文、否定文、疑問文や動詞述語文、形容詞述語文、名詞述語文といった文の基本構造や時間表現などの初歩的な文法を学んで理解し活用できるようにすることを旨とする。	
	富山大学	中国語基礎Ⅱ	現代中国語の基本的な発音ができ、聴解及び読解できることを目指す。ピンインと呼ばれる発音記号に基づき、声調を含めて正確な発音の方法を学修する。次に、基本文型に習熟するとともに、語法・文法の基本事項を学修し、平易な会話文や筆記文を理解する能力を身に付ける。テキストに沿って前置詞・助詞・助動詞・補語などの基本構造や比較・使役・受身などの文法を学んで理解し活用できるようにすることを旨とする。	
	富山大学	中国語コミュニケーションⅠ	現代中国語の基本的な発音ができ、聴解及び読解できることを目指す。本授業科目では、基本的な会話文の理解と発音練習、例文を中心とした言い回しの解説、ヒアリング・スピーキングなど表現の練習のサイクルを繰り返し行う。これらを通し、発音をマスターすることを目指す。また、言葉の文化的背景である中国社会の諸相を幅広く視野に納め、中国文化をより身近なものにするよう工夫し、必要に応じて中国の映画などの映像教材も利用する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 外国語系	富山大学	中国語コミュニケーションⅡ	本授業科目では、テキストの本文や例文の朗読を通して、ピンインの読み方を繰り返し復習し、中国語がより正確に発音できるようになることを目指す。併せて、自己紹介や簡単な旅行会話や手紙文などの中国語表現を修得する。基本的な会話文の理解と発音練習、例文を中心とした言い回しの解説、ヒアリング・スピーキングの練習のサイクルを繰り返すことにより、発音をマスターすることを目指す。また、言葉の文化的背景である中国社会の諸相を幅広く視野に納め、中国文化をより身近なものにするよう工夫し、必要に応じて中国の映画などの映像教材も利用する。	
	富山大学	朝鮮語基礎Ⅰ	本授業科目では、文法の理解と修得に比重を置き、文字の読み書き、発音のルール、現在終止形、否定表現、疑問表現を解説する。これらを学ぶことで、朝鮮語の文字、発音、短い文章を理解し、作文できるようにすること、また、朝鮮語を表す文字であるハングルを修得し、作文できるようにすることを目指す。また、朝鮮語の基礎を学ぶと同時に、言葉の学修を通じてその背景にある文化についても取り上げる。	
	富山大学	朝鮮語基礎Ⅱ	本授業科目では、朝鮮語基礎Ⅰで身に付けた能力を前提に、文法の理解と修得に比重を置く。連体形、接続形、補助用言、待遇法[上称・略待上称・下称・略待]、尊待表現、未来終止形、間接話法を解説する。これらを学ぶことで、複雑な文法を理解し、表現の幅を広げるとともに、音の連続である朝鮮語を聞いて、意味のまとまりに区切る力を養うことを目標とする。また、朝鮮語の基礎を学ぶと同時に、言葉の学修を通じてその背景にある文化についても取り上げる。	
	富山大学	朝鮮語コミュニケーションⅠ	本授業科目では、言語知識の基礎を学びながら、韓国語、韓国の社会・文化に触れるとともに、4技能(話すこと、書くこと、読むこと)を総合的に学修することで、韓国語能力試験(TOPIK 1)の合格を目指す。具体的には、韓国語の概説、文字、助詞、指定詞、存在詞、位置名詞、否定形、不可能形、数詞についてを学んだ後、挨拶や感謝の言葉、有声音化を学んだ後、定型的な謝罪や電話のかけ方、日付を尋ねる、地図を見ながらの簡単な会話を身に付ける。	
	富山大学	朝鮮語コミュニケーションⅡ	本授業科目では、朝鮮語コミュニケーションⅠで身に付けた能力を前提に、韓国語、韓国の社会・文化に触れるとともに、4技能(話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと)を総合的に学修することで、韓国語能力試験(TOPIK 1)の合格を目指す。具体的には、日常生活における会話を学んだ後、日記の書き方や朗読を通して、作文や発音を学ぶ。また、韓国の映画やドラマ、歌を用いて、台詞の社会的・文化的背景を考察する。	
	富山大学	ロシア語基礎Ⅰ	現代ロシア語の初級文法を学修する。ロシア語のアルファベットの読み方・書き方からはじめ、名詞の性・数と格変化、人称、所有代名詞、動詞の活用、形容詞・副詞の使い方など初歩的な事項を修得する。ロシア語のアルファベットの読み方・書き方を学ぶことや基本的な文法を理解し、短文が書けるようになることを目指すとともに、ロシア語の語彙力をつけ、簡単な文の意味が理解できる能力を養う。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 外国語系	富山大学	ロシア語基礎Ⅱ	現代ロシア語の初級文法を学修する。「ロシア語基礎Ⅰ」で身に付けた能力を前提に、定動詞と不定動詞、動詞の未来形、完了体と不完了体、数詞を使った表現など、より高度な文法事項を修得する。本的な文法を理解し、短文が書けるようになることを目指すとともに、ロシア語の語彙力をつけ、簡単な文の意味が理解できる能力を養う。また、辞書で単語を調べることができるようになる。	
	富山大学	ロシア語コミュニケーションⅠ	本授業科目では、ロシア語の文字、音声、アクセント、イントネーションなどの基礎知識を学び、その上で、挨拶・自己紹介・家族紹介などの慣用表現を学修する。日常会話でよく使われる初級ロシア語の表現や言い回しを理解し、活用できる能力を身に付ける。毎回、発音練習、ヒアリングから始め、テキストに沿ってペアワーク、ロールプレイ、口頭練習を繰り返す。教科書を使って単語からフレーズへ、フレーズからミニテキストへと徐々に難度を高めていき、毎回の小テストや課題を通し、理解度をチェックする。	
	富山大学	ロシア語コミュニケーションⅡ	本授業科目では、「ロシア語コミュニケーションⅠ」で身に付けた能力を前提に、ロシア語の音声、アクセント、イントネーションなどを反復学修する。また、語彙力・文法能力の向上に合わせて、ロシアへ旅行すると想定し、どのように場所を尋ねるか、どのようにお店や市場で買い物するかなどをシミュレーションしながら、高度なロシア語会話ができるようになることを目指す。毎回、発音練習、ヒアリングから始め、テキストに沿って、ペアワーク、ロールプレイ、口頭練習を繰り返す。教科書を使って単語からフレーズへ、フレーズからミニテキストへと徐々に難度を高めていき、毎回の小テストや課題を通し、理解度をチェックする。	
	富山大学	日本語リテラシーⅠ	本授業科目は、外国人留学生を対象にした授業科目であり、大学での学修に必要な日本語力、特に「読む」「書く」力と日本語でレポートや小論文を書くために基礎的能力を養う。論理的な思考及び論理的な文章の展開方法などを学び、テーマに沿ってレポートや小論文を書くための適切な文や文章を書くことができることを達成目標とする。具体的には、説明的・論述的な文章を読んで、その内容を正しく理解するとともに、文章の構成や論理の組み立て方などを学ぶ。	
	富山大学	日本語リテラシーⅡ	本授業科目は、外国人留学生を対象にした授業科目であり、日本語で理工系の専門科目の授業を受講する際に必要となる科学技術用語の修得を目標とする。本授業科目の履修により、専門教育の授業科目を履修する際に必要な専門的な教科書に対する読解力、レポートを作成する能力、基礎的な科学技術用語の語彙（専門用語）を身に付ける。また、日本語特有の言い回しや、適切な言葉の選び方を学ぶとともに、専門用語を使うに当たりニュアンスの違いや日常会話で使われる言葉との使い分けを身に付ける。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 外国語系	富山大学	日本語コミュニケーションⅠ	本授業科目では、アカデミック・ジャパニーズを軸に学ぶことで、大学生活に必要な大学での勉学や研究に寄与する日本語を修得する。論文の読解を中心に授業を進めることで、必要に応じて自分で情報収集や考察する。その上で、適宜「読む」「聞く」「話す」「書く」あるいは文化的なことがらを含めた総合的な「日本語」の修得を目指す。特に、「話す」では、自分の調べたことや考えたことを人の前で話すというパブリック・スピーキングのトレーニングをする。なお、本授業科目は外国人留学生を対象とした授業科目である。	
	富山大学	日本語コミュニケーションⅡ	「日本語コミュニケーションⅠ」で身に付けた能力を前提に、本授業科目では、更にアカデミック・ジャパニーズを軸に発展的実践的に学ぶ。それにより、今後の大学生活における大学生としての勉学と研究に寄与するような日本語を修得する。読解を中心に授業を進めているが、必要に応じて自分で情報収集や考察する。また、「読む」以外の「聞く」・「話す」・「書く」あるいは文化的なことがらを含めた総合的な「日本語」の修得も目指す。自分で調べたことや考えたことを、人前で口頭発表ができるようになることもねらいである。なお、本授業科目は外国人留学生を対象とした授業科目である。	
	富山大学	発展多言語演習ドイツ語	本授業科目は、1年次にドイツ語に関する科目を2単位修得することを基礎履修要件とする。ドイツ語を続けたい、オペラ、ドイツ文化に関心ある者に対し、オペラを題材にドイツ語のより複雑な言い回しを学ぶ。一年次に学んだドイツ語の力をさらに発展させ、ドイツ語圏の文化や実用的教養の一つとしてオペラ鑑賞に親しむことをねらいとする。オペラを通してドイツ語の発音やリズムに慣れ、歌詞に現れた語彙・構文を学修し、ドイツ語の語彙・表現力を増やすことで、ドイツ文化・歴史及び芸術と社会の関係について理解を深める。	
	富山大学	発展多言語演習中国語	本授業科目は、1年次に中国語に関する科目を2単位修得することを基礎履修要件とする。会話力、表現力、読解力のさらなる向上を目指す。ネイティブスピーカーの会話を聞きながら読む、聞く、話すの総合的な中国語運用能力のレベルを向上させる。中級程度の読む、聞く、話すの中国語の運用能力を身に付け使いこなせるようにするとともに、文章が正しく理解できること、日常会話力が身に付くこと、中国語の文法を体系的に理解し応用できることを目指す。	
	富山大学	日本語コミュニケーションⅢ	大学での研究活動に必要な日本語力の育成を目指す。自分の興味ある分野や専門分野に関連のあるテーマを選定し、そのテーマについて書かれた文章を読み、語彙や表現を増やす。テーマに基づいたアンケート調査を行い、口頭発表する。調査結果について口頭発表することで、協同的活動が効果的にできるとともに、自己評価や他者の評価を通して建設的な意見を述べる能力を身に付ける。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養教育科目	外国語系	富山大学	日本語／専門研究	外国人留学生を対象として、本授業科目では、大学で学修・研究活動する上で必要な科学技術文章に対する、読む・書く・聞く・話す能力を向上することを目的とする。ここでは、それぞれの専攻する専門分野だけでなく、一般的な科学技術文章も教材として用い、内容を正しく理解する力及び同じ専門分野の人以外にもわかりやすく伝えるための力を養う。様々な分野の教材から科学技術文章を学び、読解力をつけるとともに、科学技術文章をレポート形式でまとめることやスピーチのために構成する能力を身に付ける。	
		富山大学	健康・スポーツ／講義	現代社会におけるスポーツの現状と課題について学び、そこから現代社会におけるスポーツの意義について、スポーツ原理、スポーツ史、スポーツ社会学の視点から考察する。また、運動や種々の環境に対する身体適応、各ライフステージでの健康・体力の維持や向上のために必要な運動処方に関する最新の知識と、その実践方法について学修する。また、発育発達や加齢によるヒトの身体の生理学的変化や運動に対する身体適応の差異を学ぶことで人間理解、他者を理解する能力を養う。	
	保健・体育系	富山大学	健康・スポーツ／実技	若い時からの運動は将来の生活習慣発症予防に効果的であることが明らかとなっているが、全ての種類の身体活動やスポーツにその効果が認められているわけではない。過激なスポーツや運動は、時として健康に対し悪影響を及ぼすし、低レベルの運動負荷では効果が認められないこともある。本授業科目では、健康・体力づくりに効果的な運動に関する基礎的な知識を修得するとともに、各自で運動プログラムを作成し、トレーニングを行う。	
		富山大学	情報処理	本授業科目は、大学生に必要とされる情報リテラシーとして、情報とネットワーク・システム環境の習熟・活用、インターネット通信に関するITスキルの修得と、学習・研究に活用できる文書処理・データ処理・表現技術などのアカデミック・スキルを身に付けることを目標とする。大学のIT設備やネットワークを活用し、表計算ソフト等を用いてデータの集計やグラフを作成するなどの能力を養うとともに、情報セキュリティやルール、マナー等の基礎知識を有し、情報倫理を遵守し、情報の管理・安全を確保することができることを目指す。	
	情報処理系	富山大学	応用情報処理	近年の急速にビッグデータ化する情報化社会において、より専門的な情報通信技術(ICT)のスキルを有する人材が求められている。本授業科目では、情報処理において身に付けた技術を応用し、Cプログラミング、HTML&CSS、UNIXなどの入門を学ぶ。具体的にUNIXを例を挙げると、UNIX系OSの基本的な概念の解説とコマンドライン操作を通して、教養教育科目としてのUNIX、Linuxの初歩を学ぶことができる内容とする。	
		富山大学	健康・スポーツ／実技	若い時からの運動は将来の生活習慣発症予防に効果的であることが明らかとなっているが、全ての種類の身体活動やスポーツにその効果が認められているわけではない。過激なスポーツや運動は、時として健康に対し悪影響を及ぼすし、低レベルの運動負荷では効果が認められないこともある。本授業科目では、健康・体力づくりに効果的な運動に関する基礎的な知識を修得するとともに、各自で運動プログラムを作成し、トレーニングを行う。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
共通教育科目	導入科目	金沢大学	大学・社会生活論	<p>本授業では、学生諸君が大学における学習方法・目的や社会的責任を果たす上で必要な常識・知識などを学んで早期に大学生活のありようを体得すること、さらに大学のなかに自己発見・自己開発の契機が多々存在することに気づき、それらを利用しながら将来イメージをより明確にできるようにすることを目標とする。</p> <p>具体的には、以下を学生の学修目標とする。</p> <p>①できるだけ早く大学に慣れ、大学生らしい学修態度・学習技術・生活態度及び自己管理能力を身につける</p> <p>②これからの人権・共生の時代に必要とされる知識・教養に触れ、その基本を理解する</p> <p>③留学・就職・進学・ボランティア活動などについての知識を身につけ、大学4年間の過ごし方やその後の将来のあり方を自ら設計できるようになる</p>		
		金沢大学	データサイエンス基礎	<p>データサイエンスの産業利用が活発な状況で、データサイエンスに関わる基本的知識の習得は重要である。本授業では、これに加え、データサイエンスの学習に必要な学内ネットワークの適切利用、セキュリティ、コンプライアンス・モラル、および基礎的情報リテラシー等を学修する。</p>		
		金沢大学	地域概論	<p>本授業の目標は、所属する学類（一括入試入学者にとっては該当する学域）の専門分野を社会との繋がり、地域への貢献という視点から理解し、学生としての決意を持って、大学4年間の学修をデザインできるようになること。</p> <p>この授業科目を通じて次の学修成果を獲得する。</p> <p>① 学類の専門分野を、地域との繋がりや社会への貢献の視点から理解し、地域の感性を育むこと。</p> <p>② 自分の将来の目標を明確化し、専門分野と地域社会への関わり方を見つけること。</p> <p>③ 将来の働く姿を描きつつ、大学4年間の学修を主体的にデザインできるようになること。</p> <p>④ 石川県を一例として、地域の自然、文化、歴史、産業等を理解すること。</p>		
	GS科目	1群（自己の立ち位置を知る）	金沢大学	現代世界への歴史学的アプローチ	<p>現代世界で発生しているさまざまな問題の多くは、そこに至る歴史的な経緯が大きく関係しており、それを正しく把握できなければ、問題も正しく理解できない。したがって、現代世界の理解のためには、世界史の基本的な知識と歴史学的な発想法・分析視角の獲得が必須である。本授業では前提となる知識を再確認しつつ、歴史学的発想法・分析視角を学ぶ。</p> <p>獲得した知識と発想法・分析視角を使って、自己の置かれた歴史的状況を正しく認識し、現代世界の問題を読み解くことができるようになることを学修目標とする。</p>	
			金沢大学	グローバル時代の政治経済学	<p>グローバル化が進行する現代社会において、政治や経済の仕組みも大きく変容しつつある。そうしたなかにあつて、学生はグローバルな政治経済に関する具体的な事例に則しながら、いかにして国際社会に平和を構築していけばいいのかという、人類共通の課題解決に向けた科学的思考を習得する。</p> <p>秩序ある国際社会の構築という、人類共通の課題解決に資する問題発見と問題解決のための科学的思考基盤の習得を学修目標とする。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	GS科目	1群（自己の立ち位置を知る）	金沢大学 グローバル時代の社会学	身の回りとその背後にある社会に批判的思考を働かせてみる、社会学という学問の世界に触れる。この講義においては、各回に具体的事例に即しながら、グローバル化する社会や社会学の知識を生かして、社会の中で協働しつつ生きていくあり方を学ぶ。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・社会学の重要な語句や視点について説明できる。 ・社会学の基本的な見方、考え方を理解している。 ・日常生活の中での経験を、社会学的な視点から分析できる。 ・新しい社会のできごとについて、自ら探求し様々な可能性を考えることができる。	
			金沢大学 ケーススタディによる応用倫理学	個人と社会の実践的な倫理的問題を、客観的に分析し道徳的に判断する、という応用倫理学の基本的な考え方を学ぶ。授業では、医療倫理、工学倫理、企業倫理、環境倫理などの領域において、いくつかの事例を手がかりにして、倫理的問題に対するこのような取り組み方を学ぶ。 応用倫理学を事例を通して学ぶことによって、自ら直面する倫理的問題に対して、事実認識と価値判断を区別し、自らの道徳的感覚に自覚的になることが期待される。	
			金沢大学 地球生物圏と人間	地球はその内部、表層から気圏に至るまで常に動的であり、私たちを含む生物は、その変動する地球の上に暮らしている。本授業では、地球の一員としてのヒトの立ち位置を理解するのに必要な、地球・生物の成り立ちや生物と地球環境との関わりについての知識を学ぶ。 具体的には、以下について学ぶ。 ・地球システムにおける人類の位置づけ ・地球での様々な出来事とプレートテクトニクスの関連 ・地球のダイナミクスと人間社会への影響（特に災害） ・水と大気の動きをと人間社会への影響 ・地球生命史の概略と生命と地球の相互作用 ・種の共存と生物群集の成立のしくみ ・生物集団の進化の仕組み及び種の形成 ・遺伝情報学、分子系統学	
			金沢大学 哲学（自我論）	〈私〉とは何かといった自己をめぐる問いは、日常生活の中で改めて問われることはあまりないが、いざ答えようとしても容易には答えられない難問であり、しかも実は人にとってきわめて切実な問いである。 本授業では自己をめぐる形而上学的、存在論的、認識論的な問題を、代表的な哲学者たちの見解を批判的に検討しながら考察し、自己の本質を探究することで、哲学がどのような学問であるかを知ること、自己の存在と様態、自己同一性、独我論、心身問題など自己をめぐるさまざまな哲学的問題の所在を理解すること、哲学文献の批判的な分析と解釈の方法を学ぶことを目的とする。	
2群（自己を知り、自己を鍛える）		金沢大学 パーソナリティ心理学	パーソナリティ心理学は、人間の性格に関するさまざまな問題を科学的に研究することを目的とする分野で、現代心理学のもっとも重要な研究領域の一つである。本授業ではパーソナリティとは何か、パーソナリティと性格、気質など他の類似概念との違いや、パーソナリティを客観的に測定するために開発されてきた心理学的査定の方法、パーソナリティの機能（はたらき）と構造（しくみ）に関する主要なパーソナリティ理論等について解説するとともに、パーソナリティを記述するために提唱されてきた類型論と特性論の特色について考察する等、パーソナリティ心理学の主要な理論とパーソナリティの研究方法について概観する。 本授業では、パーソナリティに対する知識・理解を深め、科学的に考える能力を養うとともに、得た知見を基に、自己理解、他者理解を深め、人間関係の発展を目指す。		

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	GS科目	2群（自己を知り、自己を鍛える）	金沢大学 グローバル時代の文学	<p>グローバル時代においては、様々な文学体験をすることで、自己を知り、自己を鍛えることが可能となる。世界各地の文学作品を直に読む文学体験を実践して、批判的な思考を可能にし、豊かな想像力を養うとともに、世界各地の文学作品を読解するための方法や物事を他者の視点で見ること＝自己を相対化することを学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は以下のとおり。</p> <p>①作られた小説を読み、フィクション世界を自らの「心」の内部に構築できる、豊かな想像力を身に着ける。</p> <p>②世界各地の文学作品を読み、それら作品の背後（深層）にある意味（社会・文化・思想）を理解するために必要な知識と能力を獲得する。</p> <p>③文学解釈という行為を通して、物理的な対象ではない人間の「心」についての思索を深め、自己を知り、他者を知るための経験的な基盤を構築する。</p>	
			金沢大学 健康科学	<p>我々を取り巻く環境・生活習慣は、健康にとって危険な要素を含んでいる。健康に生活するためには、これらの危険な要素と対処法を知らねばならない。WHOは、健康は「肉体的、精神的及び社会に完全に良好な状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない」と示し、「計画的な努力によって得られる状態であり、よりバランスの取れた健康的な生活を得ようとする行動そのもの」と定義している。</p> <p>本授業では、健康を守る身体のメカニズムと社会の仕組みを学ぶと共に、健康的な生活を送るために必要な知識を身に着け、日常生活の中に取り入れて、実践していくことを目指す。健康を守りさらに積極的に増進するために必要な社会全体としての目標・取組から、個人として実践可能な正しい食事、運動や休養の知識、日常生活、メンタルヘルスに関する知識について学ぶ。</p>	
			金沢大学 細胞・分子生物学	<p>私たち人間は細胞からできている。その細胞内に存在するタンパク質や核酸などの分子レベルの振る舞いや、細胞の構造と機能、その多様性を解説することにより、細胞の構造と機能制御のメカニズムを分子レベルで学習するとともに、生命科学の基礎知識を理解することを目的とする。</p>	共同
			金沢大学 エクササイズ&スポーツ 実技	<p>心身の鍛錬は自律の基本である。本授業では、運動を通して、身体形成の必要性を知り、体力づくりや運動技能習得のための原理・原則を理解し実践することによって、自己を知り自己を鍛えるための能力を高めることを目的とする。</p>	
			金沢大学 クリティカル・シンキング	<p>日本語は、他の言語と同様に、もちろん十分に論理的である。しかし、その論理性は日本語という文法構造によって具体化されているため、＜日本語を用いて＞論理的な表現を行うためには、英語やスワヒリ語とは別の規則を知らなければならない。</p> <p>本授業では、受講者間の文化的背景と価値観の多様性についての相互理解を深めた上で、批判的思考の方法や、関係する新しい概念や理論、方法を身につけ、実践的課題に取り組むことにより各人の問題解決能力の向上をめざし、クリティカル・シンキングの概念だけでなく、それを実践すること、つまり批判的に考えるとはどういうことかを学び、論理的な＜思考・表現＞の能力を高めることを目的とする。</p>	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	3群 (考え・価値観を表現する)	金沢大学	価値と情動の認知科学	<p>行動や表現を引き起こすのは、最終的には理性というより、行為者の価値観や態度や情動である。しかもそれらは、往々にして非合理的な要素を多く含み、しかも行為者本人からは隠されている。自己の行動や表現を適切にコントロールし、他者の行動や表現を適切に理解するためには、価値や情動に関する〈認知・行動〉の仕組みに関する理解が必要となる。</p> <p>本授業では、人間の認知能力の様々な観点から、ヒトの認知能力には、私たちが常識的にとらえているのとは異なる意外な側面があるのだということについて、自分で考えながら、整理し、ヒトという動物である自分の認知能力についての、より深い理解を確立すること、さらに、以上のことを自分自身の言葉で説明し、表現できるようになることを目的とする。</p>	
		金沢大学	芸術と自己表現	<p>人間の最も根源的で洗練された自己表現は、絵画、音楽、演劇、舞踏などの芸術であろう。それらは人間の諸能力のシンプルな表出であると同時に、人間存在の繊細で奥深い次元に根ざすものである。芸術においては、鑑賞するにせよ創作するにせよ、自己と表現との愚直な関係が求められる。</p> <p>本授業においては、様々な芸術の実際を体験することによって、自己表現の真摯なあり方を知ることを目的とする。</p>	
		金沢大学	スポーツ科学	<p>本授業では、保健体育の意義や、身体の理（ことわり）と自然・生活様式などとの関係についての理解を深めるとともに、これらの活動を通してコミュニケーション能力を高めることを目的とする。</p>	
	4群 (世界とつながる)	金沢大学	金沢・能登と世界の地域文化	<p>グローバル化は国家の枠組を超えてローカルな枠組と結びやすく、また現実の国際化は国家総体よりも個々の地域の枠組のなかで進行する。グローバル化に対応するためには、地域とその文化に対する正確な理解は欠かせない。</p> <p>本授業では、私たちの住む金沢・能登および世界の文化を事例に地域文化の豊かさと変容を学ぶとともに、それらの地域について自ら調査する。</p> <p>自らの暮らす地域の文化とその世界との結びつきに対する理解を深め、その内容を情報発信するとともに、それらを相対化する視点を得ることを目的とする。</p>	
		金沢大学	日本史・日本文化	<p>現代社会では、人は必ず国家に帰属することが求められ、海外に出ればその帰属した国家を代表する存在として見られがちである。一方、国家の歴史や文化についての一般的言説には誤りが含まれているものもあり、時としてそれは誤解・トラブルの原因となる。</p> <p>本授業では、日本の古代から近現代に至る歴史と文化について、各時代ごとの重要トピックを取り上げ、それを「世界の中の日本」という視角で考察することを通じて概観することにより、日本の歴史・文化の特色を理解するのみならず、世界の他地域との差異と共通性を理解する。加えて日本の古代から近現代に至る政治・社会・文化の、変化の特徴と普遍性をどのように捉えたらよいかといった課題に対する理解を深めることを目的とする。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	GS科目	4群 (世界とつながる)	金沢大学 異文化間コミュニケーション	<p>グローバル化した社会では、自らの育った文化を知り、その特徴を自覚した上で、自らの特殊性を認め、さらに、自らと異なる文化、人種、民族への理解を深めることが重要である。</p> <p>本授業では、「①異文化と自文化に関する知識」「②異文化に対する態度」「③コミュニケーション・スキル」の異文化間コミュニケーションで特に重要視される3つの概念についての理解を深める。①の知識については、文化的価値観と非言語行動における異文化と日本文化との類似点と相違点を理解する。②の態度については、偏見や自民族中心主義に陥らないで、異文化に対する寛容で柔軟な姿勢を持つことの重要性について学ぶ。③のスキルについては、傾聴力の必要性について学習する。</p> <p>偏見・差別をなくし文化的差異を認めることの必要性を認識することによって、他者への深い共感に基づいて異文化を受け入れ、異質な他者と共生する能力を身につけることを目的とする。</p>	
			金沢大学 異文化体験A	<p>異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。</p> <p>本授業では、海外における短期のボランティア等を通し、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。45時間相当の留学を対象とする。</p>	
			金沢大学 異文化体験B	<p>異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。</p> <p>本授業では、海外の語学学校等での短期留学を通し、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。90時間相当の留学を対象とする。</p>	
			金沢大学 異文化体験C	<p>異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。</p> <p>本授業では、海外の研究機関等での短期留学を通し、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。135時間相当の留学対象とする。</p>	
			金沢大学 異文化体験D	<p>異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。</p> <p>本授業では、海外の大学等での短期留学を通し、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。180時間相当の留学対象とする。</p>	
			金沢大学 異文化体験E	<p>異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。</p> <p>本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。225時間相当の留学対象とする。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	GS科目	4群 (世界とつながる)	金沢大学 異文化体験F	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 270時間相当の留学対象とする。	
			金沢大学 異文化体験G	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 315時間相当の留学対象とする。	
			金沢大学 異文化体験H	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 360時間相当の留学対象とする。	
			金沢大学 グローバル時代の国際協力	ボーダーレス化が進む国際社会では、ボランティアのネットワークも国境を越えて広がる。 本授業では、貧困や紛争、災害など、国際社会が直面する様々なグローバル・ 이슈の解決に向けて活動を展開する様々な「ボランティア」の形を知り、その独自性や課題に対する理解を深めることにより、日本を含む世界の各地でどのようなボランティアのニーズがあるのか、国際社会・地域社会における共生のためにボランティアに何ができるのか等を、実践例に基づきながら理解することを目的とする。	
			金沢大学 グローバル社会と地域の課題	学生はいま学生として、あるいは将来地域社会を担っていく者として、グローバルな視野に立ちつつ、地域の様々な課題に取り組んでいかなければならない。そこで求められるのは地域の課題を的確に見抜く力であり、他者と協力しながらそれに取り組む力である。 本授業では、グローバル化が進行する現代社会において、どのような地域課題が発生しているのか、どのように解決をしていくべきか、そして自らどのように関わっていくのかを考え、地域社会の現状と課題を総合的に学びながら、地域の課題解決と活性化の理論と実践について理解を深めることを目的とする。	
		5群 (未来の課題に取り組む)	金沢大学 科学技術と科学方法論	人類の未来は、希望も絶望も、科学技術がそのカギを握っている。したがって、科学という「世界の捉え方」、技術という「ものの作り方・使い方」を知らずしては、人類の課題も解決も見えてこない。また、科学は、私達の住む世界を記述・説明する世界共通語のひとつである。この言語を操る能力、すなわち「科学的思考力・科学的表現力」は、私達の自然や社会に対する深い理解をもたらす。 本授業では、科学の方法を構成するコアとなる考え方について、議論や実験など実践的な活動を通して理解し、活用できるスキルを修得することを目的とする。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	GS科目	5群 (未来の課題に取り組む)	金沢大学 統計学から未来を見る	世界の人口問題とそれに伴う食料や資源、エネルギーの問題、また国内における少子高齢化とそれに伴う医療福祉・教育・労働・経済・産業に関する問題など、私たちを取り巻く現状を数値化して分析し、それに基づいて未来を予測するために、統計学はすべての学問分野において必要とされている。 本授業では、統計データに基づいて現状・将来を分析し、その分析から浮かび上がる諸課題の解決に向けてアイデアを提案できるようになることを目的とする。	
			金沢大学 環境学とESD	気候変動等、現代社会が直面する地球環境問題の現状を把握するとともに、その解決方法と「持続可能な社会」のあり方及び実現方法を多角的に学ぶ。 本授業では、わが国における公害問題の発生と克服、環境政策の展開について学ぶとともに、近年の地球環境の危機とグローバル・コミュニティの対応、今後取り組むべき対策などを理解することによって、地球環境問題の解決と「持続可能な社会」の実現を達成するために必要な肯定的な未来志向性および環境リテラシー（環境知識、論理的・多面的・総合的思考力、創造的・実践的問題解決能力等）の向上を図ることを目的とする。	
			金沢大学 生活と社会保障	日本を含む世界の少なからぬ国々は今、人口減少、人口分布の地域的偏在、及び高齢化という局面を迎えながら、社会保障の一層の拡充という困難な課題に直面している。 本授業では、少子・高齢化など人口変動やグローバル化に伴う社会経済の変動のなかで、社会保障が果たす役割と課題について、国民生活の視点から検討することで、世界・日本・地方という複眼的な視点からこの課題を捉えるとともに、社会保障のあゆみ、制度の概要、直面する問題、少子・高齢化のもとでの社会保障の課題について考えるための基礎知識を身につけることで、有効な解決策に向けた議論を展開することを目的とする。	
			金沢大学 現代社会と人権	未来を平和で豊かな持続可能な社会にしていくうえで、人権の思想とジェンダー学の視点は不可欠とされるが、現実の国際社会・日本社会は未だその理想からは遠い状況にある。 本授業では、人権・ジェンダーについての基本的な知識を踏まえつつ、これらの視点から現代社会の問題を分析・考察する。学生は、その理解を通して、未来を構築するうえで必要な視点と問題意識を得ることを目的とする。	
	6群 (新しい社会を生きる)	金沢大学 インテグレートド科学	物質の構成要素となる元素を対象とした科学の世界は、その構造、性質及び反応を究明することで目覚ましい進歩を遂げてきた。では、人類の物質に関する理解はどの様に進歩して、現代化学における物質観につながってきたのか。 本授業では、科学的に考えるための基礎として、物質の成り立ちや基本事項について概観し、巨視的な現象と原子・分子・イオンなどの微視的な粒子の挙動との関係や、暮らしの中の色、味、匂いを題材とし、感覚発生のメカニズムや分子構造との関係について学ぶ。化学の世界に関するこうした理解を通して、多種多様な世界観が存在する現代において、客観的かつ科学的な視点で物事を捉えることを目的とする。		
		金沢大学 AI入門	Artificial Intelligence (AI, 人工知能) とは何かをその歴史と実例を調査して学ぶ。AIを支える技術（コンピュータの性能、機械学習・ディープラーニング、パターン認識、自然言語処理）の進歩について理解する。AIを利用することの利点や問題点を理解し、AIの普及により変化する未来社会、AIの限界とシンギュラリティについて考察する。		

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 GS科目 6群（新しい社会を生きる） GS言語科目（英語）	金沢大学	情報の科学	<p>世の中には多くの情報が溢れている。現状を理解し、今後の展望を見極めるためには、情報に踊らされることなく、正しい情報を見極めて、それを収集し発信していくことが必要である。</p> <p>本授業では、情報とは何か、情報収集・発信の有効性と危険性、情報のモラル、セキュリティなどを学ぶことによって、情報を制御するために不可欠の知識と能力を習得し、研究や生活・仕事において問題発見・問題解決に役立てる情報の科学の幅広い知識を身につけることを目的とする。</p>	
	金沢大学	デザイン思考入門	<p>高度化・複雑化する現代社会では、狭い分野の専門知識や技術では解決できない課題に対する有効なアプローチ法が、デザイン思考 (Design Thinking) である。ここでいう「デザイン」とは、絵を描くという意味ではなく、課題解決のプロセスとその設計を意味している。デザイン思考の基本的なプロセス（共感、問題定義、アイデア創造、試作、テスト）について、その概念を理解し、実例を検証しながら修得する。</p>	
	金沢大学	論理学と数学の基礎	<p>数学は多くの学問分野において、その法則を適切に表現するための言葉として用いられ、文系、理系を問わず必要なリテラシーとされている。</p> <p>本授業では、数学を活用する事例を通して、数学の基礎概念のいくつかを学ぶ。具体的には、統計を活用する例として、平均や分散と数ベクトルと内積の関連の基礎を学び、また整数を活用する例として、情報化社会に欠かせない暗号理論の基礎を学ぶ。</p> <p>学生は、数学の基本的技法に加えて応用的方法を学ぶことによって、数学の思考方法を習得し、根拠の確かな判断能力や生活の中で数学を活用する能力を身に付けることを目的とする。</p>	
	金沢大学	TOEIC準備 I	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>TOEICでリスニングセクションで高得点を得るための基本的な聞き取りのテクニックを学び、リスニング能力の向上を図る。</p> <p>TOEICリスニングパート セクション1, 2, 3及び4対応。</p> <p>様々なタイプのTOEICリスニングパートの問題を授業の中で大量に解いていくトレーニングを通じて、対策と解答テクニックを学び、聞き取り能力だけでなく、語彙力、慣用句の理解力等、文法力等の英語力をつけることを、学習目標とする。</p>	
	金沢大学	TOEIC準備 II	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>TOEICでリスニングセクションで高得点を得るための基本的な英文読解のテクニックを学び、読解能力の向上を図る。</p> <p>TOEICリーディングパート セクション5, 6, 及び7対応。</p> <p>読解力を磨くためのトレーニングを通じて、リーディングパートの対策を学び解答テクニックを身につけるだけでなく、語彙や慣用句を増やすし、英文読解力をつけることを、学習目標とする。</p>	
	金沢大学	TOEIC準備 III	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>TOEIC準備 I, IIで伸ばした「リスニング力」「読解力」「解答テクニック」を生かし、TOEIC L&Rテストに実際に取り組む。</p> <p>TOEIC準備 I, IIで学んだことをさらにブラッシュアップさせ、リスニングとリーディングの力をさらに伸ばし、TOEICハイスコアにつながる対策を学ぶ。特に、集中的なリスニング、穴埋め問題の練習、文法的正確さを獲得し、文章の黙読と音読を実施する。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 G S 言語科目（英語）	金沢大学	TOEIC準備 IV	授業は英語で行われる。 TOEIC準備 I～IIIを通して伸ばした「リスニング力」「読解力」「解答テクニック」の更なる開発と、それら能力を生かし、TOEIC L&Rテストに実際に取り組む。 TOEIC準備 I～IIIで学んだことをさらにブラッシュアップさせ、リスニングとリーディングの力をさらに伸ばし、TOEICハイスコアにつながる対策を学ぶ。特に、集中的なリスニング、穴埋め問題の練習、文法的正確さを獲得し、文章の黙読と音読を実施。	
	金沢大学	TOEIC準備（演習）	TOEIC L&Rテストにおけるハイスコア獲得のために必要なリスニング能力、リーディング能力、解答テクニック向上を目指し、実際のテストで実践できる力を育てる。基本的な試験対策と、TOEICハイスコアを獲得するために必要な言語能力を開発する。 様々なタイプのTOEICリスニングパートの問題を授業の中で大量に解いていくトレーニングを通じて、対策と解答テクニックを学び、聞き取り能力だけでなく、語彙力、慣用句の理解力等、文法力等の英語力を身につけることを、学習目標とする。	
	金沢大学	English for Academic Purposes I	このアクティブラーニングコースでは、自分のアイデアを論理的に書いて表現する方法を学ぶ。具体的には、英語で文章を書き、的確な文章構造と構成を学ぶ。 文章の構成要素に焦点を当てることで、文章の形式を考察し、書くための構想を練る。コースの後半では、理由とたとえを用いることに焦点を当て、洗練された文章を作ることを、学習目標とする。	
	金沢大学	English for Academic Purposes II	授業は英語で行われる。 このアクティブラーニングコースでは、プレゼンテーションの計画、実施、評価を学習することで、人前で話す際に必要な自信を育てる。 学生に英語で全クラスメイトの前で発表する機会を十分に与え、口頭でのコミュニケーション及び非言語コミュニケーションの両方を学ぶことにより、英語での発表能力を向上させる。 有益なプレゼンテーションを計画し発表する能力の開発やプレゼンテーションのカギとなる技術に気付き、評価することができるようになるほか、批判的思考を獲得する。	
	金沢大学	English for Academic Purposes III	授業は英語で行われる。 このアクティブラーニングコースでは、EAP IとEAP IIで学んだスキルを統合し、その統合したスキルを用いて学術的課題や現代の社会問題の分析する。 このコースは主にサマリーライティング（要約文章の作成）と、授業内で読んだ教材に対して分析的な反応に焦点を当てる。 学術論文の正確な要約ができる能力、評価分析、対照分析または相対分析等の分析手法を学ぶことで、分析的な視点を培う。 ディスカッションの質問に対し口頭で答えることで、コミュニケーションにおける相互作用的な能力を伸ばす。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
GS 言語科目 (英語)	金沢大学	English for Academic Purposes IV	授業は英語で行われる。 このアクティブラーニングコースでは、先のEAPの授業で学んだ能力・技術用いながらさらに発展させ、学術的テーマか現代社会の課題について小論文を書く。 与えられたトピック、要約された様々な意見について、批判的立場で議論を交わし、系統立てて自分の意見を表現する。 与えられたトピックについて、論文や要約及び口頭で、詳しい見解を述べるができるようになる。 書かれている文章の内容のみならず、根底にある関心や視点に目を向けるようにする。 アカデミックな環境で英語を使えるようにすることが期待される。	
	金沢大学	English for Academic Purposes (Retake)	授業は英語で行われる。 このアクティブラーニングコースでは、学術的な文章を読む練習と、グループディスカッションや発表という形で、学術文書への対処の仕方を学ぶ。 学術論文を読むことに重点を置き、より難しい論文に取り組んでもらう。グループワークで論文の内容を把握し、ディスカッションをする。題材を探求するための基礎として論文を使い、発表をする。その中で、リスニング・スピーキング能力を伸ばし、自信を得ることが期待され、リサーチ能力を伸ばし、学術的語彙の知識を増やすことを求める。	
共通教育科目 GS 言語科目 (日本語)	金沢大学	アカデミック基礎日本語A	外国人留学生が、日本の大学での学習や研究に必要な日本語力(アカデミック日本語)を獲得するため、ノートを取り方や情報検索等、複合的な能力を養成することを目的とする。	
	金沢大学	アカデミック基礎日本語B	外国人留学生が、日本の大学での学習や研究に必要な日本語力(アカデミック日本語)を獲得するため、論理的な内容の読解を中心に、レジュメの作成やプレゼンテーションなど、さらに高度で複合的な能力を養成することを目的とする。	
	金沢大学	講義の聴解A	大学の講義を日本語で聞き取り可能な聴解ストラテジーを習得するとともに、今まで身につけてきた知識を活性化させて大学での研究・学習生活に支障のない聴解能力を養うことを目的とする。	
	金沢大学	講義の聴解B	「講義の聴解A」に引き続き行うことで、大学の講義を日本語で聞き取り可能な聴解ストラテジーをさらに高いレベルで習得するとともに、今まで身につけてきた知識を活性化させて大学での研究・学習生活に支障のない聴解能力を養うことを目的とする。	
	金沢大学	口頭発表A	本授業では、留学生に向け、日常で使用する可能性のある内容について、実際に自分でスピーチを用意し、発表した後、その内容について共に討議することにより、様々な日本語でのスピーチについてその特徴や作成上のポイントの理解を深めることを目的とする。	
	金沢大学	口頭発表B	本授業では、留学生に向け、大学での発表に関する内容等について、実際に自分でスピーチを用意し、発表した後、その内容について共に討議する。「口頭発表A」からさらにアカデミックなスピーチ内容を検討することで、様々な日本語でのスピーチについてその特徴や作成上のポイントを共に討議しさらに理解を深めることを目的とする。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 GS言語科目（日本語）	金沢大学	上級読解 I A	本授業では、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、専門性の高い文章を精読し、考察を深めるとともに、読んだ内容について、わかりやすく説明できるようになることを目的とする。	
	金沢大学	上級読解 I B	本授業では、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、専門性の高い文章を精読し、考察を深めるとともに、読んだ内容について、説明できるのみならず、自分の考えや意見を述べたり、他の人の考えや意見を理解する等、アカデミックな場面に必要な能力を高めることを目的とする。	
	金沢大学	上級読解 II A	本授業では、日本語テストFクラスの学生に向け、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、読んだ内容について、自分の考えや意見を述べたり、他の人の考えや意見を理解することを目的とする。	
	金沢大学	上級読解 II B	本授業では、日本語テストFクラスの学生に向け、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、専門性の高い文章を精読し、考察を深め、読んだ内容について、自分の考えや意見を述べたり、他の人の考えや意見を理解したする等、アカデミックな場面に必要な能力を高めることを目的とする。	
	金沢大学	日本語で学ぶ論理A	本授業では、留学生を対象に、論理的な文章の組み立て方である、論証と演繹の練習を日本語の文章を通じて行う。そして、実際に日本語で書かれた文章の読解を行いながら、論理の展開と構成について学ぶことにより、論理トレーニング（論証と演繹）を通じて、日本の大学での学習や研究に必要となる論理的思考力を日本語で修得することを目的とする。	
	金沢大学	日本語で学ぶ論理B	本授業では、留学生を対象に、論理的な文章の組み立て方である、論証と演繹の練習を日本語の文章を通じて行う。「日本語で学ぶ論理A」の内容を発展させ、否定、条件構造、推論の技術（存在文の扱い方、消去法、背理法）について学び、最後に形式論理学の基礎についても学ぶことにより、日本の大学での学習や研究に必要となる論理的思考力をさらに高度なレベルで日本語で修得することを目的とする。	
	金沢大学	日本事情A	本授業では、留学生を対象に、日本人が常識として持っている様々な日本に関する基礎知識を歴史や地理等を通して学び、それによって日本語読解能力の向上を図ることで、日本の様々な面についての知識を増やし、さらに主体的に、かつ積極的に知識を求めようとする姿勢を養うことを目的とする。	
金沢大学	日本事情B	本授業では、留学生を対象に、日本人が常識として持っている様々な日本に関する基礎知識を宗教や文化、季節感等特に日本人の内面を形成している部分を通して学び、それによって日本語読解能力の向上を図ることで、日本の様々な面についての知識をより深め、さらに主体的に、かつ積極的に知識を求めようとする姿勢を養うことを目的とする。		

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
GS 言語科目 (日本語)	金沢大学	アカデミック・ライティングA	日本の大学や大学院で専門教育を受ける留学生は、レポートや論文など、書く能力、いわゆる「アカデミック・ライティング」に関する能力が求められる。 本授業では、留学生を対象に、レポート作成にかかる適切な資料の引用方法や、図表の説明の仕方を学び、自分の興味関心に従ってレポートを作成することで、資料探索や、図表の適切な説明方法とともに、レポートの基本的な表現と構成を身に着けることを目的とする。	
	金沢大学	アカデミック・ライティングB	日本の大学や大学院で専門教育を受ける留学生は、レポートや論文など、書く能力、いわゆる「アカデミック・ライティング」に関する能力が求められる。 本授業では、留学生を対象に、資料等に対し考察や分析を述べたり、要約を書くことにより、文章の主となる部分を見つけ出す力を身に着けるとともに、文章を適切に引用し、考えと理由をレポートとして論理的に書けることを目的とする。	
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	ドイツ語A1-1	文法を中心としてドイツ語の基礎を学ぶ。 文法に対応した練習問題のほかに、会話文のリスニング、少し長い文章のリーディングをペアワークやグループワークのなかで取り入れ、色々な練習を通じてドイツ語の文や表現に触れることで、ドイツ語初級文法の基本的な枠組みを理解し、平易な文を読んだり書いたりできることを学習目標とする。	
	金沢大学	ドイツ語A1-2	本授業では、ドイツ語の初歩的な文法を学んでいく。 ドイツ語の文法は、英文法に多くの点で類似しているため、英語の知識が活用できるような方式で授業を進めていく。 最終的には、ドイツ語の基礎単語の発音ができ、辞書があれば、ドイツ語で書かれた簡単な新聞や雑誌の文章が読める程度のミニマルな文法知識を習得することを目指す。	
	金沢大学	ドイツ語A2-1	初級文法の授業で学んでいる知識を応用して、現実的な場面で使えるドイツ語会話の基本的な表現を身につける。日常でよく使われる表現を中心に構成されたテキストを用いながら、比較的少数の語彙・文法的知識を駆使して簡単な会話をこなしていくテクニックを身につけていく。あまり細かい規則に拘らずに、取り敢えずドイツ語で“何が”言えるための実用的な表現法を紹介する。 基本的な語彙の範囲内であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができ、ドイツ語圏に出かけた時に、駅、銀行、食堂、百貨店などで最低限の会話ができるようになることを目指す。 授業で取り上げる内容は下記の通り。 ドイツ語のアルファベットと発音、基本構文、自己紹介	
	金沢大学	ドイツ語A2-2	初級文法の授業で学んでいる知識を応用して、現実的な場面で使えるドイツ語会話の基本的な表現を身につける。日常でよく使われる表現を中心に構成されたテキストを用いながら、比較的少数の語彙・文法的知識を駆使して簡単な会話をこなしていくテクニックを身につけていく。あまり細かい規則に拘らずに、取り敢えずドイツ語で“何が”言えるための実用的な表現法を紹介する。 基本的な語彙の範囲内であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができ、ドイツ語圏に出かけた時に、駅、銀行、食堂、百貨店などで最低限の会話ができるようになることを目指す。 本授業で取り上げる内容は下記の通り。 趣味関する表現、将来の目標に関する表現(人称変化、前置詞等)	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	ドイツ語A3-1	<p>ドイツ語初級文法の最初舗段階の修得を目指す。 ドイツ語の発音規則を理解し、単語を正しく発音でき、かつドイツ語初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文を読んだり書いたりできることを学習目標とする。 本授業では、主に以下の内容を学習する。 自己紹介、趣味について（動詞の現在人称変化と語順）／生ツの描写・持ち物について（名詞の性と格変化等）／動詞の活用・格変化／曜日・時間・年齢の表現（前置詞、再帰代名詞、再帰動詞等）／用事・希望・過去のことを話す（過去形、現在完了形、zu不定詞等）</p>	
	金沢大学	ドイツ語A3-2	<p>ドイツ語の発音規則を理解し、単語を正しく発音でき、かつドイツ語初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文を読んだり書いたりできることを学習目標とする。 本授業では、主に以下の内容を学習する。 好みについて話す（形容詞の格変化、比較級、最上級）／部屋にある物について話す（関係代名詞、命令形）／仮定の話をする（接続法）等</p>	
	金沢大学	ドイツ語A4-1	<p>本授業では、発音にはじまり、日常生活の場面で用いる会話表現を学ぶ。ドイツ語の決まり文句、日常表現や旅行で使える会話表現を習得しながら、映像や音声教材を通して、英語圏とは異なるドイツ文化圏の違いを知り、視野を広げる。 主に、趣味、家族、職業、自分にできる事できない事等、自分の身の回りのことを表現することについて学習する。 ペア、グループ、クラスなどさまざまな作業形態で、ドイツ語の話す、聞く、読む、書く能力をバランスよく養成し、ドイツ語の基本語彙や表現を用いて口頭で表現できるようになり、基本語彙の範囲内であれば聞き取れるようになることを学習目標とする。</p>	
	金沢大学	ドイツ語A4-2	<p>本授業では、発音にはじまり、日常生活の場面で用いる会話表現を学ぶ。ドイツ語の決まり文句、日常表現や旅行で使える会話表現を習得しながら、映像や音声教材を通して、英語圏とは異なるドイツ文化圏の違いを知り、視野を広げる。 主に、買い物での場面、欲しいものの表現、気持ちの表現、指示・依頼の表現等、自分の考えを伝える表現について学習する。 ペア、グループ、クラスなどさまざまな作業形態で、ドイツ語の話す、聞く、読む、書く能力をバランスよく養成し、ドイツ語の基本語彙や表現を用いて口頭で表現できるようになり、基本語彙の範囲内であれば聞き取れるようになることを学習目標とする。</p>	
	金沢大学	ドイツ語B-1	<p>ドイツ語の短いテキストを精読しながら、初級文法をしっかりと身につけ、日常生活で使えるドイツ語運用能力を身につける。 主に、挨拶について、バス・駅・鉄道、地図、レストラン、買い物、ホテルなど日常生活や旅行に役立つ表現を学習する。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・会話で自己紹介をしたり、質問に答えたりすることができる。 ・辞書を用いて平易なドイツ語の文章を読むことができる。 ・日常生活の場面での簡単な質問や指示、話、アナウンスや短い会話を理解できる。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	ドイツ語B-2	ドイツ語の短いテキストを精読しながら、初級文法をしっかりと身につけ、日常生活で使えるドイツ語運用能力を身につける。 主に、ドイツ語圏に関する文章を読み、旅行計画を立て、プレゼンとディスカッションを実施する。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・短い広告などから、自分にとって大切な情報を取り出せる。 ・簡単なものであれば、所定の用紙に記入することができる。 ・短い個人的な文章を書くことができる。	
	金沢大学	ドイツ語C-1	既に持っているドイツ語の知識を、さらに発展させていく。 授業は主にオーラルコミュニケーションと、語彙の学習、リーディングとリスニングをします。併せて、日本とドイツの文化について説明する。 ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ、個人ワーク、プレゼンテーションなどを通して、日常的なコミュニケーションを簡単なドイツ語でできることを目標とする。	
	金沢大学	ドイツ語C-2	既に持っているドイツ語の知識を、さらに発展させていく。 授業は主にオーラルコミュニケーションと、語彙の学習、リーディングとリスニングをします。併せて、日本とドイツの文化について説明する。 街での案内や過去の出来事等について、ドイツ語を使用したコミュニケーションを学ぶことで、ドイツ語圏の文化に関心を持ち、ドイツ語のコミュニケーション能力を養成することを目的とする。	
	金沢大学	フランス語A1-1	フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。 このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。 国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELF/DALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。 主に、発音、綴り字と音声の対応、er動詞、etre, avoir、数字、名詞のジェンダー等基本的な文法事項を学ぶ。	
	金沢大学	フランス語A1-2	フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。ヨーロッパ文化の一番面白いところを正確に理解し、楽しむためにもフランス語は有益なツールとなるだろう。 このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。 国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELF/DALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。 主に、ir動詞、動詞の活用、過去分詞、指示代名詞、単純未来等の文法事項を学ぶ。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	フランス語A 2-1	<p>初歩的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に学習する。</p> <p>主に、名前を言う・尋ねる・綴りを言う、職業・身分・国籍について、家族について、年齢の言い方、好みについて等、自分の事を話し、相手について尋ねる方法を学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フランス語の発音ルールを身につけ、文字を見て発音できる。 ・基本語彙、基本表現及び文法を学習し応用することで、フランス語で身近な話題について会話ができる力を養う。 	
	金沢大学	フランス語A 2-2	<p>初歩的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に学習する。</p> <p>主に、用紙や服装について、交通手段について、時刻や値段の尋ね方、食習慣について等、コミュニケーションをとるために必要な表現を学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだ初歩的な語彙の範囲であれば、ゆっくり、はっきりと話された内容を聞き取ることができる。 ・フランスとフランス語圏について紹介する。 	
	金沢大学	フランス語A 3-1	<p>フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。</p> <p>このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。</p> <p>国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELF/DALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。</p> <p>主に、代名動詞、動詞の活用、強調構文、非人称構文、疑問形容詞、半過去、大過去等の文法事項を習得する。</p>	
	金沢大学	フランス語A 3-2	<p>フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。</p> <p>このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。</p> <p>国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELF/DALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。</p> <p>主に、指示代名詞、関係代名詞、現在分詞、比較級・最上級、条件法、接続法等の文法事項を習得する。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	初習言語科目	金沢大学	フランス語A 4-1	<p>基本的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に進める。</p> <p>本授業では主に、習慣、日常の活動について、過去のこと・過去の習慣についてトピックを立て、学習する。</p>	
		金沢大学	フランス語A 4-2	<p>基本的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に進める。</p> <p>本授業では主に、許可や禁止について、未来について、願望、比較、条件・仮定についてトピックを立て、学習する。</p>	
		金沢大学	フランス語B-1	<p>フランス語による国際コミュニケーションの実践への導入。フランス語による少し高度な日常的表現に挑戦する。</p> <p>本授業では、満潮時のみ島になるモン・サン・ミッシェルに関する論説文や、「よつば」などの日本の漫画のフランス語訳をとりあげ、初級文法を復習しながら、相手の言いたいことを的確に理解し、自分の言いたいことを的確に表現する自然なフランス語が基本的にどういうものか体得することを目指す。</p>	
		金沢大学	フランス語B-2	<p>フランス語による国際コミュニケーションの実践への導入。フランス語による少し高度な日常的表現に挑戦する。</p> <p>本授業では、エッフェル塔やルーブル美術館について書かれた平易な論説文などをとりあげ、フランス語話者の書いていることの真意が実感をもって分かること、こちらからフランス語話者へ効果的に意思を通じさせられるような書き方（話し方）を身につける。</p>	
		金沢大学	フランス語C-1	<p>フランス語による国際コミュニケーションの実践への導入。フランス語による少し高度な日常的表現に挑戦する。</p> <p>本授業では、ラグビーにおける国籍や観光地におけるフランス等の論説文などをとりあげ、ネットを使わなくても、ある程度の難易度を持ったフランス語の文章を読み聞きし、理解できるようにすること。フランス語話者とコミュニケーションし、ガイドできることを目指す。また、フランス語と英語の知識を結び付け、両言語でのレベルアップを目指す。</p> <p>将来のフランス語検定試験（仏検）やフランス語圏（フランス、カナダ等）留学時に必要なDELFD/DALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	フランス語C-2	<p>総合的なフランス語力の一応の完成を目指す。フランス語でEメールを書き、ホットなラジオ・ニュースを聞き、論説文を読み、必要な文法知識の完成を目標とする。</p> <p>フランス語による国際的コミュニケーション力を磨くため、また大学卒業後も少しずつフランス語力を自力で高めるようにするための体制を整えていく。フランス語と英語の知識が有機的に結びき、両方のレベルが向上することを目指す。フランス語圏での勉学、仕事に必要なDELTA/DALFの上の級に合格する態勢についても考える。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読む、書く、聞く能力を伸ばし、話された言葉、書かれたテキストからできるだけ情報がとれるノウハウを体得する。 ・フランス語の基礎知識をしっかりと固め、生涯的スパンでのフランス語学習の展望を得る ・国際的コミュニケーションの言葉としてのフランス語の広がりを知る。 ・フランス語の知識と英語の知識を有機的に結びつけて、両方のレベルを向上させる。 	
	金沢大学	ロシア語A1-1	<p>ロシア語ネイティブの先生が担当するA2-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考える。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリル文字を見て発音することができる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。 <p>本授業では、ロシア語のアルファベットと発音、文法性、ロシア人の名前、簡単な現在形の肯定・否定・疑問文、形容詞、副詞、人称代名詞等、基礎的な知識や文法事項を学ぶ。</p>	
	金沢大学	ロシア語A1-2	<p>ロシア語ネイティブの先生が担当するA2-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考える。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリル文字を見て発音することができる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。 <p>本授業では、名詞の複数形、現在形の動詞の人称変化、重要な不規則動詞、方向の表現、数字等、基礎的な文法事項を学ぶ。</p>	
	金沢大学	ロシア語A2-1	<p>ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア語を発音することができる。 ・日常会話でよく使われる初級ロシア語の表現や言い回しを理解し、使えるようにする。 <p>本授業では、ロシア語の発音とアルファベット、挨拶、自己紹介、「これは何/誰ですか」「誰のものですか」等基本的な知識と表現を学ぶ。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	ロシア語A2-2	<p>ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下のようなテーマに関し、教師やクラスメートと基本的なロシア語会話ができる。「あいさつと自己紹介」「物や人の場所を聞く／言う」「私の家族」 ・英語以外の外国語に触れることによって、視野を広げる。 <p>本授業では、位置・場所の表現、時間についての表現、好みや能力の表現等基本的な会話表現を学ぶ。</p>	
	金沢大学	ロシア語A3-1	<p>ロシア語ネイティブの先生が担当するA4-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考えている。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリル文字を見て発音することができる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。 <p>本授業では、下記の文法事項を学ぶ。</p> <p>名詞、人称代名詞の単数・複数、命令形、重要な不規則動詞、形容詞・名詞・代名詞の格変化、順序数詞等</p>	
	金沢大学	ロシア語A3-2	<p>ロシア語ネイティブの先生が担当するA4-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考えている。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリル文字を見て発音することができる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。 <p>本授業では、下記の文法事項を学ぶ。</p> <p>重要な不規則動詞、再帰動詞、移動の動詞、時間表現、比較級・最上級、無人称文等</p>	
	金沢大学	ロシア語A4-1	<p>ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学んでいく。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア語を発音することができる。 ・日常会話でよく使われる初級ロシア語の表現や言い回しを理解し、使えるようにする。 ・以下のようなテーマに関し、教師やクラスメートと基本的なロシア語会話ができる。「あいさつと自己紹介」「物や人の場所を聞く／言う」「私の家族」 ・英語以外の外国語に触れることによって、視野を広げる。 <p>本授業では、以下のような表現を学ぶ。</p> <p>金額を尋ねる、数字、好き嫌いについて、色の表現、所有物について等</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	ロシア語A 4-2	<p>ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学んでいく。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア語を発音することができる。 ・日常会話でよく使われる初級ロシア語の表現や言い回しを理解し、使えるようにする。 ・以下のようなテーマに関し、教師やクラスメートと基本的なロシア語会話ができる。「あいさつと自己紹介」「物や人の場所を聞く／言う」「私の家族」 ・英語以外の外国語に触れることによって、視野を広げる。 <p>本授業では、以下のような表現を学ぶ。</p> <p>好き嫌いについて、方向・道案内、交通手段、天気や行動について過去形、未来形を用いた表現等</p>	
	金沢大学	ロシア語B-1	<p>ロシア語Aで学んだ文法の復習から、中級文法の習得を目指し、より高度な文法・表現の解説、その応用練習を行う。平易な会話の聞き取り能力の向上を目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文法の合間に、短く比較的簡単なテキストを読み、ロシア語の読解にも慣れる。 ・やや複雑な構文を使ったロシア語の文が読解できる。 ・基本語彙と平易な表現を用いてゆっくり話されるロシア語会話を、聞き取ることができる。 <p>本授業では、以下のような表現を学ぶ。</p> <p>時間の表現、数詞の格変化、仮定法、一般二人称、不定形の用法等</p>	
	金沢大学	ロシア語B-2	<p>実際にロシアに行ったら遭遇するであろうシチュエーションにおいて、ロシア語でどう表現すればよいか、実践的なロシア語の修得を目指す。</p> <p>シチュエーションごとの簡単な会話の聞き取り、ネイティブのナチュラルスピードに耳を慣らす練習をし、会話内容の理解を通して、ロシア語Aの文法の復習・発展的学習を行う。</p> <p>実際にロシアに行った場合に最低限必要なフレーズや語彙を学び、自分の言いたいことを表現するにはどのような言葉を使ったらよいかを学ぶ。またこれを応用して、日本の状況についても説明できるようになる。</p> <p>日本と異なるロシアの生活・文化様式についても解説する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア旅行で最低限必要となる語彙・表現を用いて話すことができる。（空港・ホテル・両替所・ファストフード店等での場面で） ・ごく基本的な語彙・表現の範囲であれば、ナチュラル・スピードで話される内容を把握できる。 ・ロシア語でロシアに関する情報収集を自分でできる。 	
	金沢大学	ロシア語C-1	<p>本授業では、ロシアの社会や文化に関する理解を深め、ロシア語AやBで学んだ内容を復習・応用しながら、読解力・聴解力を高めることを目標とする。</p> <p>短めのロシア語テキストを数回ずつかけて読む。テキストは新聞・雑誌記事、インターネット上の書き込み等を例にジャンル、テーマ等問わずに幅広い種類の文章を読むことで読解力を鍛える等、語学的な訓練を重ね、毎回少しずつ、ロシア語検定試験（ロシア連邦の国家試験TRKIなど）の聞き取り問題にも取り組むことにより、辞書を使えば新聞レベルのロシア語テキストが読解できることを目指す。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	初習言語科目	金沢大学	ロシア語C-2	<p>本授業では、ロシアの社会や文化に関する理解を深め、ロシア語AやBで学んだ内容を復習・応用しながら、読解力・聴解力を高めることを目標とする。</p> <p>授業では短めのロシア語テキストを数回ずつつけて読む。テキストは学術論文、文学などから、ジャンル、テーマ、書かれた時期を問わず、幅広く扱う予定である。</p> <p>複雑な構文を把握できるよう、語学的な訓練を重ね、毎回少しずつ、ロシア語検定試験（ロシア連邦の国家試験TRKIなど）の聞き取り問題に取り組む。ナチュラル・スピードのロシア語の聞き取り能力を高め、また聞き取った文を自分で言えるようになることを目指す。</p>	
		金沢大学	中国語A1-1	<p>中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得し、中国語の構文を理解した上で、正確な読解や表現ができる力を養うことを目標とする。</p> <p>まずピンインと呼ばれる発音記号にもとづき、声調を含めて正確な発音の方法を学習する。ついで基本文型に習熟するとともに、語法・文法の基本事項を学習し、平易な会話文や筆記文を理解する能力を身につける。読解力の向上を主眼とするものの、発音ができなければ外国語の勉強はつまらないし、中国語の場合、ピンインがわからないと辞書を引くこともおぼつかない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。 ・基本文型を理解し、500語レベルの基本語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、500語レベルの基本語彙を使って文を作ることができる。 ・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。 <p>本授業の内容は下記の通り。</p> <p>発音練習、常用表現、”是”構文、動詞述語文、完了表現他</p>	
		金沢大学	中国語A1-2	<p>中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得し、中国語の構文を理解した上で、正確な読解や表現ができる力を養うことを目標とする。</p> <p>まずピンインと呼ばれる発音記号にもとづき、声調を含めて正確な発音の方法を学習する。ついで基本文型に習熟するとともに、語法・文法の基本事項を学習し、平易な会話文や筆記文を理解する能力を身につける。読解力の向上を主眼とするものの、発音ができなければ外国語の勉強はつまらないし、中国語の場合、ピンインがわからないと辞書を引くこともおぼつかない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。 ・基本文型を理解し、500語レベルの基本語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、500語レベルの基本語彙を使って文を作ることができる。 ・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。 <p>本授業の内容は下記の通り。</p> <p>疑問視疑問文、形容詞述語文、近未来表現、方位詞、名詞述語文、動量補語等。ディクテーションや作文も行う。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	中国語A 2-1	<p>正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。</p> <p>自分の発音に自信を持てるように発音練習に力を入れる。ついでさまざまな場面におけるコミュニケーションの方法を学習し、とくに会話能力の養成を図る。語法・文法事項の説明はできるだけ少なくし、スピーキング、リスニングの練習に多くの時間を割きたい。中国語にかぎらず、自分の使う外国語がネイティブ・スピーカーに通じた喜びは学習意欲を増す。習いたての片言の中国語でよいから、発音や文法の誤りを気にせず、積極的に担当教員に話しかけて欲しい。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。 ・身近な話題について、500語レベルの基本語彙を使って話をするができる。 ・500語レベルの基本語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 ・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。 <p>本授業で学習する内容は以下の通り。</p> <p>発音練習，常用表現，国籍を尋ねる</p> <p>トピック：「町にはホテルもお店も銀行もあます」「どこで食事をしますか」</p>	
	金沢大学	中国語A 2-2	<p>正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。</p> <p>自分の発音に自信を持てるように発音練習に力を入れる。ついでさまざまな場面におけるコミュニケーションの方法を学習し、とくに会話能力の養成を図る。語法・文法事項の説明はできるだけ少なくし、スピーキング、リスニングの練習に多くの時間を割きたい。中国語にかぎらず、自分の使う外国語がネイティブ・スピーカーに通じた喜びは学習意欲を増す。習いたての片言の中国語でよいから、発音や文法の誤りを気にせず、積極的に担当教員に話しかけて欲しい。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。 ・身近な話題について、500語レベルの基本語彙を使って話をするができる。 ・500語レベルの基本語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 ・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。 <p>本学で学習する内容は以下の通り。</p> <p>交通手段を尋ねる，距離を表現する，日にち・月の表現</p> <p>「お箸どうぞ」，「疲れたら休もう」，「北京は人も車も多い」</p>	
	金沢大学	中国語A 3-1	<p>中国語の構文を理解した上で、正確な読解と表現ができる力を養い、中国語検定試験4級合格程度の力を養成する。A1-1/A1-2で学んだ語法・文法事項をふまえ、さまざまな補語など、やや複雑な語法・文法事項を学習する。中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。 ・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。 <p>本授業で学習する内容は下記のとおり。</p> <p>結果補語，助動詞，疑問視の応用表現，方向補語，進行表現など。</p> <p>ディクテーション，作文練習も行う。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	中国語A3-2	<p>中国語の構文を理解した上で、正確な読解と表現ができる力を養い、中国語検定試験4級合格程度の力を養成する。A1-1/A1-2で学んだ語法・文法事項をふまえ、さまざまな補語など、やや複雑な語法・文法事項を学習する。中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。 ・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。 <p>授業で学習する内容は下記のとおり。 可能補語，比較表現，受身表現，使役表現など。 ディクテーション，作文練習も行う。</p>	
	金沢大学	中国語A4-1	<p>正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。</p> <p>A2で学んだ中国語の発音に磨きをかけ、より自然な発音による会話練習を中心に授業を進める。一語一語の発音の正確さはもとより、一文としての発音の仕方にも留意すること。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。 ・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。 <p>本授業で学習するトピックス・内容は以下の通り 「車で来たので飲みません」 「午後に病院へ行くつもりです」 「いつから腹痛が始まりましたか」 「彼女は何をしていますか」</p>	
	金沢大学	中国語A4-2	<p>正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。</p> <p>A2で学んだ中国語の発音に磨きをかけ、より自然な発音による会話練習を中心に授業を進める。一語一語の発音の正確さはもとより、一文としての発音の仕方にも留意すること。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。 ・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。 <p>本授業で学習するトピックス・内容は以下の通り 「財布が見つかりました」 「壁に古い写真が貼ってある」 「このパソコンはあれより重い」 「1月1日を元旦と呼びます」 「私に切符を買わせて」 スピーチ，暗唱などの練習を行う。</p>	

科目 区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	初習 言語 科目	金沢大学 中国語B-1	<p>中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。身近なトピックについて会話練習及びスピーチ発表を行い、中国語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1500語レベルの日常語彙の範囲で、明瞭な発音であれば、話題の主要な内容を聴き取ることができる。 ・具体的な話題について、1500語レベルの日常語彙を使用し、的確に情報を伝え、自分の考えを説明することができる。 ・中国語検定試験3級合格程度の聴解力を身につける。 <p>本授業で取り上げる内容・トピックは下記の通り。 レストランでの会話、買い物時の会話、大学の授業について、 個人発表、グループ発表の機会を設ける。</p>	
		金沢大学 中国語B-2	<p>中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。身近なトピックについて会話練習及びスピーチ発表を行い、中国語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1500語レベルの日常語彙の範囲で、明瞭な発音であれば、話題の主要な内容を聴き取ることができる。 ・具体的な話題について、1500語レベルの日常語彙を使用し、的確に情報を伝え、自分の考えを説明することができる。 ・中国語検定試験3級合格程度の聴解力を身につける。 <p>本授業で取り上げる内容・トピックは下記の通り。 インターネットについて、恋人に関して、転職について、日本と中国の文化・習慣比較等 作文、個人発表、グループ発表の機会を設ける。</p>	
		金沢大学 中国語C-1	<p>より高度な中国語コミュニケーション能力を養成する授業です。</p> <p>中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。</p> <p>授業で使用するプリントは中国社会のそれぞれの側面に触れながら、会話力を向上させる内容で、日本にいないが、中国における外国人と同じ題材で学べます。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2000語以上の語彙で、いろいろな話題について高度な内容を理解することができる。 ・2000語以上の語彙を使用し、流暢に、また自然に自己表現ができる。 ・中国語検定試験2級合格程度の聴解力を身につける。 ・日中力国の国際交流がどのように行われるべきかについて、自分の意見を持つことができる。 <p>本授業で取り上げる内容。トピックは以下の通り。 中国国内でのニュース報道に関するHPや、動画を講読・視聴し、ディスカッションを行う。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	中国語C-2	より高度な中国語コミュニケーション能力を養成する授業です。 中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。 授業で使用するプリントは中国社会のそれぞれの側面に触れながら、会話力を向上させる内容で、日本にいながら、中国における外国人と同じ題材で学べます。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・2000語以上の語彙で、いろいろな話題について高度な内容を理解することができる。 ・2000語以上の語彙を使用し、流暢に、また自然に自己表現ができる。 ・中国語検定試験2級合格程度の聴解力を身につける。 本授業で取り上げる内容・トピックは以下の通り。 生活と健康について、男女平等、環境保護と資源節約、ビジネス中国語（財務・国際入札・待遇） 中国社会のそれぞれの側面に触れながら、会話力を向上させる内容。一つのトピックについて二週間にわたってトレーニングを行う。	
	金沢大学	朝鮮語A1-1	基礎的な朝鮮語の文法事項を習得し、簡単な文章を理解できる力を養い、簡単な会話ができることを目指す。 韓国（朝鮮）の社会、文化、歴史などについて理解する。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・ハングル文字を見て発音することができる。 ・母音と子音の組み合わせ方を理解する。 ・韓国文化について理解することができる。	
	金沢大学	朝鮮語A1-2	基礎的な朝鮮語の文法事項を習得し、簡単な文章を理解できる力を養い、簡単な会話ができることを目指す。 韓国（朝鮮）の社会、文化、歴史などについて理解する。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・基本文型を理解し、400語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、400語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、400語ほどの語彙を使って話することができる。 ・400語ほどの語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。	
	金沢大学	朝鮮語A2-1	韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて理解する。 基礎的な文法事項を習得し、簡単な文章を理解できる力を養う同時に、自己紹介等身近な事柄について日常生活の簡単な会話ができることを目指す。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・基本的な文法事項を理解し、800語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、800語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、800語ほどの語彙を使って話することができる。 ・800語ほどの語彙の範囲であれば、はっきり話される内容を聞き取ることができる。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	朝鮮語A2-2	<p>韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて理解する。</p> <p>基礎的な文法事項を習得し、簡単な文章を理解できる力を養う同時に、道を尋ねる、電話をかける、日付を尋ねる、値段を尋ねるなど日常生活の簡単な会話ができるようになることを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハングル文字を見て発音することができる。 ・基本文型を理解し、400語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、400語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、400語ほどの語彙を使って話することができる。 ・400語ほどの語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 	
	金沢大学	朝鮮語A3-1	<p>韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて理解する。</p> <p>基礎的な文法事項を習得し、簡単な文章を理解できる力を養う同時に自己紹介など日常生活の簡単な会話から、動詞の活用までを学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本文型を理解し、700語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、700語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、700語ほどの語彙を使って話することができる。 ・700語ほどの語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 	
	金沢大学	朝鮮語A3-2	<p>韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて理解する。</p> <p>文章を理解できる力を養うと同時に、K-POPや韓国の食べ物などの題材を使用し、形容詞の活用や短文の作成ができるようになることを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本文型を理解し、700語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、700語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、700語ほどの語彙を使って話することができる。 ・700語ほどの語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 	
	金沢大学	朝鮮語A4-1	<p>韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて学び、</p> <p>基礎的な朝鮮語の文法事項を習得し、簡単な文章を理解でき、挨拶、好き嫌いを尋ねる、電話をかける等様々な日常にある様々トピックの中で簡単な会話ができる力を養う。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハングル文字を見て発音することができる。 ・基本文型を理解し、400語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、400語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、400語ほどの語彙を使って話することができる。 ・400語ほどの語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	初習言語科目	金沢大学	朝鮮語A4-2	<p>韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて学び、基礎的な朝鮮語の文法事項を習得し、簡単な文章を理解でき、家族の紹介、食文化比較等様々なトピックの中で簡単な日常会話ができる力を養う。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な文法事項を理解し、800語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、800語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、800語ほどの語彙を使って話することができる。 ・800語ほどの語彙の範囲であれば、はっきり話される内容を聞き取ることができる。 	
		金沢大学	朝鮮語B-1	<p>朝鮮語で趣味や友人など身の回りの物事についてスピーチやディスカッションをすることにより、朝鮮語のコミュニケーション能力を高め、韓国文化の理解を深める。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮語のコミュニケーション能力を高める。 ・韓国文化の理解を深める。 ・与えられた主題について会話ができる。 ・読解ができる。 ・「ハングル能力検定試験」3級を目指す。 	
		金沢大学	朝鮮語B-2	<p>朝鮮語で、訪問客に対して観光案内や日本の紹介についてスピーチとディスカッションをすることにより、朝鮮語のコミュニケーション能力を高め、韓国文化の理解を深める。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮語のコミュニケーション能力を高める。 ・韓国文化の理解を深める。 ・与えられた主題について会話ができる。 ・読解ができる。 ・「ハングル能力検定試験」3級を目指す。 	
		金沢大学	朝鮮語C-1	<p>朝鮮語を学び、コミュニケーション能力や文法理解能力の向上を図り、また、韓国の社会、文化、歴史等について理解を深める</p> <p>韓国における日本の大衆文化解禁の歴史的背景、日本や中国における還流ブームの背景や経緯及びその意義について学び、東アジアの文化交流に焦点を当てて、その意義について検討する。</p>	
		金沢大学	朝鮮語C-2	<p>朝鮮語を学び、コミュニケーション能力や文法理解能力の向上を図り、また、韓国の社会、文化、歴史等について理解を深める</p> <p>韓国における日本の大衆文化解禁の歴史的背景、日本や中国における還流ブームの背景及びその意義について学び、還流の国家的戦略、将来像を考える。また、日本が世界に広めようとしている「クールジャパン」とは何か、中国の「華流」の可能性等も考える。</p> <p>東アジアの文化交流に焦点を当て、その意義を検討し、東アジアにおけるソフトパワー競争時代について考える。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	ギリシア語A 1-1	<p>ギリシア語Aは、古典ギリシア語の初級文法を学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・アルファベットを見て発音することができる。 ・主に文字の読み方、名詞の変化、動詞の変化等の初級文法。 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作ることができる。</p>	
	金沢大学	ギリシア語A 1-2	<p>ギリシア語Aは、古典ギリシア語の初級文法を学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・アルファベットを見て発音することができる。 ・形容詞、前置詞の用法、動詞の変化等の初級文法 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作ることができる。</p>	
	金沢大学	ギリシア語A 2-1	<p>ギリシア語Aは、古典ギリシア語の初級文法を学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・アルファベットを見て発音することができる。 ・疑問代名詞、不定名詞等の初級文法 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作ることができる。</p>	

科目 区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	金沢大学	ギリシア語A 2-2	<p>ギリシア語Aは、古典ギリシア語の初級文法を学ぶ。</p> <p>古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットを見て発音することができる。 ・第三変化名詞、流音幹動詞、接続法能動相、母音交換等の初級文法 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作ることができる。 	
	金沢大学	ギリシア語A 3-1	<p>古典ギリシア語の初等文法の修得を目的とする。</p> <p>古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文単位のまとまりで音読することができる。 ・接続法能動相、予想未来を示す条件文、不定法等初級文法の修得 ・基本的な文法事項を理解し、やさしい文章の解釈をすることができる。 ・辞書の使い方の基本を理解し、目標とする単語を調べることができる。 	
	金沢大学	ギリシア語A 3-2	<p>古典ギリシア語の初等文法の修得を目的とする。</p> <p>古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文単位のまとまりで音読することができる。 ・希求法能動相等、分子の用法等、初級文法の修得 ・基本的な文法事項を理解し、やさしい文章の解釈をすることができる。 ・辞書の使い方の基本を理解し、目標とする単語を調べることができる。 	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	ギリシア語A 4-1	<p>古典ギリシア語の初等文法の修得を目的とする。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・まとまった文章を正確に音読することができる。 ・命令法、間接話法等、初級文法の修得 ・基本的な文法事項に習熟し、教科書用に編まれた原典を読解することができる。 ・辞書を使って語形変化や語の用法を確認することができる。</p>	
	金沢大学	ギリシア語A 4-2	<p>古典ギリシア語の初等文法の修得を目的とする。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・まとまった文章を正確に音読することができる。 ・否定法、動詞の変化、間接話法等、初級文法の修得 ・基本的な文法事項に習熟し、教科書用に編まれた原典を読解することができる。 ・辞書を使って語形変化や語の用法を確認することができる。</p>	
	金沢大学	ギリシア語B-1	<p>プラトンの対話篇『イオン』を原典で読み、古典ギリシア語の読解力を養うとともに、内容に関する議論をし、そこに描かれているプラトンの芸術論を考察する。</p> <p>学習目標は以下の通り。 ・古典ギリシア語の読解能力の向上 ・古典ギリシア語の文法力を高めること ・プラトンの対話篇に現れている芸術思想を理解すること</p>	
	金沢大学	ギリシア語B-2	<p>プラトンの対話篇『イオン』を原典で読み、古典ギリシア語の読解力を養うとともに、内容に関する議論をし、そこに描かれているプラトンの芸術論を考察し、芸術思想を理解する。</p> <p>学習目標は以下の通り。 ・古典ギリシア語の読解能力の向上 ・古典ギリシア語の文法力を高めること ・プラトンの対話篇に現れている芸術思想を理解すること</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	ギリシア語C-1	<p>プラトンの対話篇『クリトン』を原典で読み、古典ギリシア語の読解力を養うとともに、内容に関する議論をし、そこに描かれているソクラテスの行動原理を考察する。</p> <p>主にテキストの読解と内容に関するディスカッションを行う。</p> <p>学習目標は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典ギリシア語の読解能力の向上 ・古典ギリシア語の文法力を高めること ・プラトンの対話篇に現れているソクラテスの思想を理解すること 	
	金沢大学	ギリシア語C-2	<p>プラトンの対話篇『クリトン』を原典で読み、古典ギリシア語の読解力を養うとともに、内容に関する議論をし、そこに描かれているソクラテスの行動原理を考察する。</p> <p>主にテキストの読解と内容に関するディスカッションの後、ソクラテスの思想についてディスカッションを行う。</p> <p>学習目標は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典ギリシア語の読解能力の向上 ・古典ギリシア語の文法力を高めること ・プラトンの対話篇に現れているソクラテスの思想を理解すること 	
	金沢大学	ラテン語A1-1	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学ぶ。</p> <p>古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットを見て発音することができる。 ・動詞変化、形容詞変化、名詞変化等、初級文法の修得 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作ることができる。 	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	ラテン語A 1-2	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・アルファベットを見て発音することができる。 ・指示代名詞、疑問代名詞、動詞変化等、初級文法の修得 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作ることができる。</p>	
	金沢大学	ラテン語A 2-1	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・アルファベットを見て発音することができる。 ・不定法、数詞、説速報等、初級文法の修得 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作ることができる。</p>	
	金沢大学	ラテン語A 2-2	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・アルファベットを見て発音することができる。 ・間接疑問文、条件文、比較文等、初級文法の修得 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作ることができる。</p>	

科目 区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目		金沢大学 ラテン語A 3-1	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・アルファベットを見て発音することができる。 ・数詞・ギリシア系名詞の変化、非人称代名詞等、初級文法の修得 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作ることができる。</p>	
		金沢大学 ラテン語A 3-2	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・文単位のまとまりで音読することができる。 ・同形容詞、接続法・完了・過去完了、間接疑問文等、初級文法の修得 ・基本的な文法事項を理解し、やさしい文章の解釈をすることができる ・辞書の使い方の基本を理解し、目標とする単語を調べることができる。</p>	
		金沢大学 ラテン語A 4-1	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学び終える。辞書を用いて自学自習を続けるための基礎となる 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・まとまった文章を正確に音読することができる。 ・比較文、理由文、条件文、譲歩文等、初級文法の修得 ・基本的な文法事項に習熟し、教科書用に編まれた原典を読解することができる。 ・辞書を使って語形変化や語の用法を確認することができる。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	ラテン語A 4-2	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学び終える。辞書を用いて自学自習を続けるための基礎となる</p> <p>古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとまった文章を正確に音読することができる。 ・関係文、間接話法等、初級文法の修得 ・基本的な文法事項に習熟し、教科書用に編まれた原典を読解することができる。 ・辞書を使って語形変化や語の用法を確認することができる。 	
	金沢大学	ラテン語B-1	<p>比較的易しい、ローマの歴史に関わる文章を読む。ラテン語文法の理解を確実なものにするとともに、ローマノア歴史や文化についても関心をもつことが目標である。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <p>第1回から第7回まで、簡単な散文テキストを読み進めることによりラテン語の文法事項をしっかりと修得する。まとまった長さの簡単な原文が読めるようになる。</p> <p>テキストは以下を使用する。 M. Hammond and A. Amory, Aeneas to Augustus. (Harvard University Press)</p>	
	金沢大学	ラテン語B-2	<p>比較的易しい、ローマの歴史に関わる文章を読む。ラテン語文法の理解を確実なものにするとともに、ローマノア歴史や文化についても関心をもつことが目標である。ラテン詩及び中世ラテン語作品数編を選び学修する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <p>簡単な散文テキストを読み進めることにより、ラテン語の文法事項をしっかりと修得する。まとまった長さの簡単な原文が読めるようになる。</p> <p>使用するテキストは以下のとおり。 第1回～第2回 M. Hammond and A. Amory, Aeneas to Augustus. (Harvard University Press) 第3回～第7回 ラテン詩および中世ラテン語作品数編</p>	
	金沢大学	ラテン語C-1	<p>ラテン語のまとまった原文の読解ができるようになることを目指す。</p> <p>カエサルの『ガリア戦記』を最初から読み進めながら、これまでの文法学習、易しいラテン語文の読解訓練基礎に、ラテン語散文の原文をきちんと読めるようにすることを目指す。</p> <p>自分の力でラテン語散文の原文に取り組むことが出来るようになり、同時に辞書も使えるようになることを目標とする。</p> <p>本授業では、ガリア戦記 (Gallic War) 第1巻のチャプター1～15までを読み、解説をする。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	ラテン語C-2	ラテン語のまとまった原文の読解ができるようになることを目指す。 カエサル『ガリア戦記』を最初から読み進めながら、これまでの文法学習、易しいラテン語文の読解訓練基礎に、ラテン語散文の原文をきちんと読めるようにすることを旨とする。 自分の力でラテン語散文の原文に取り組むことが出来るようになり、同時に辞書も使えるようになることを目標とする。 本授業では、ガリア戦記 (Gallic War) 第1巻のチャプター16～30までを読み、解説をする。	
	金沢大学	スペイン語A1-1	スペイン語の大事な最初のステップは動詞の活用にあるため、活用練習を繰り返し行い、ペア練習や小テストで単語や表現を定着させる。 基本単語の習得、動詞の活用の原則を理解し基本的な文法事項を身につけ、単語から文章への組み立てを習得することを旨とする。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・発音、数字、名詞の性、冠詞、規則動詞、 tenen/haverの用法等初級文法の修得 ・日常的表現、基本的な言い回しが理解できる。 ・基本的文型を理解し、出身、家族構成、日常生活などについての文章を理解することができる。 ・簡単な語句や構文を使って短い文を作ることができる。	
	金沢大学	スペイン語A1-2	スペイン語の大事な最初のステップは動詞の活用にあるため、活用練習を繰り返し行い、ペア練習や小テストで単語や表現を定着させる。 基本単語の習得、動詞の活用の原則を理解し基本的な文法事項を身につけ、単語から文章への組み立てを習得することを旨とする。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・不規則動詞、前置詞、動詞の変化等初級文法の修得 ・日常的表現、基本的な言い回しが理解できる。 ・基本的文型を理解し、出身、家族構成、日常生活などについての文章を理解することができる。 ・簡単な語句や構文を使って短い文を作ることができる。	
	金沢大学	スペイン語A2-1	スペイン語の運用能力を養うため、ペアワークやグループワークで練習をし、スペイン語の初級文法と基本語彙の習得を目指す。 スペイン語の基礎単語の発音、初級文法の基本的な枠組みを理解し、人物描写、家族についての表現を学び平易な文で話すことができるようになることを目標とする。 本授業では下記の文法事項・表現を学習する。 スペイン語の発音・数字・スペル、国籍の言い方、程度を表す表現、人の描写、家族・親族、定冠詞・不定冠詞、estar、規則動詞等	
	金沢大学	スペイン語A2-2	スペイン語の運用能力を養うため、ペアワークやグループワークで練習をし、スペイン語の初級文法と基本語彙の習得を目指す。 スペイン語の基礎単語の発音、初級文法の基本的な枠組みを理解し、街中の描写や、位置関係、日常生活を表す描写を学び、平易な文で話すことができるようになることを目標とする。 本授業では下記の文法事項・表現を学習する。 位置関係、Haverの用法、mucho/poco、大学内や周辺の建物・場所を表す動詞、交通機関、街中の描写、月と季節、現在進行形等	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	金沢大学	スペイン語A3-1	<p>前期スペイン語A1から継続する科目である。引き続き初級文法の基本事項を学習します。動詞の活用の原則を理解し、文法事項を修得し、聞く、話す、書く、読むの四技能をバランスよく習得することを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な個人情報の他に買い物、好み、体調などを表す文章を理解できる。 ・学歴、経験、居住条件を簡単な文を使って説明できる。 ・学習した構文を使い、個人的な手紙を書くことができる。 	
	金沢大学	スペイン語A3-2	<p>前期スペイン語A1から継続する科目である。引き続き初級文法の基本事項を学習します。動詞の活用の原則を理解し、文法事項を修得し、聞く、話す、書く、読むの四技能をバランスよく習得することを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接的／間接的人称代名詞、比較表現等初級文法の修得。 ・基本的な個人情報の他に買い物、好み、体調などを表す文章を理解できる。 ・学歴、経験、居住条件を簡単な文を使って説明できる。 ・学習した構文を使い、個人的な手紙を書くことができる。 	
	金沢大学	スペイン語A4-1	<p>スペイン語を学ぶなかで、異文化に触れる。</p> <p>スペイン語の正しい発音及び初歩的な会話の修得を目標とし、ペアワークやグループワークを通じて会話の練習をしながら、単語や表現力を定着させる。</p> <p>スペイン語の文章を正しく発音することを目標とする。</p> <p>天気や住居のこと、料理のレシピ、レストランでの会話などについて学び、ゆっくり話される身近な話題についての簡単なことを尋ねたり、答えたりできるようになることを目指す。</p>	
	金沢大学	スペイン語A4-2	<p>A3での文法の授業の内容とも関連した実践的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>グループによるゲーム、オーラル練習を通して単語を増やし、DVD教材などでスペイン語の表現を学び会話をステップアップしていくことを目標とする。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットを見て正しく発音することができる。 ・自分の背景や身の回りの状況を簡単な言葉で話すことができる。 ・短いはっきりとしたメッセージ、アナウンスの要点を聞き取ることができる。 	
	金沢大学	スペイン語B-1	<p>新しい文法事項を導入し一年時の基本的な文法事項をもっと深く学習し、文法の定着をはかることを目標とする。</p> <p>DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。</p> <p>聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得できることを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再帰動詞、関係詞、直接法現在完了等新しい文法事項の修得。 ・学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。 ・身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。 ・経験や印象を書くことができる。 	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
初習言語科目	金沢大学	スペイン語B-2	<p>新しい文法事項を導入し一年時の基本的な文法事項をもっと深く学習し、文法の定着をはかることを目標とする。</p> <p>DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。</p> <p>聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得できることを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接法過去完了、命令形、無人称表現等新しい文法事項の修得。 ・学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。 ・身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。 ・経験や印象を書くことができる。 	
	金沢大学	スペイン語C-1	<p>DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。</p> <p>聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得できることを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接続法現在、命令形、接続法現在完了等の文法事項の修得。 ・学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。 ・身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。 ・経験や印象を書くことができる。 	
	金沢大学	スペイン語C-2	<p>DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。</p> <p>聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得できることを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接続法過去、条件文、接続法過去完了等の文法事項の修得。 ・学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。 ・身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。 ・経験や印象を書くことができる。 	
自由履修科目	金沢大学	アントレプレナーシップ I	<p>アントレプレナーシップは、事業を新しく創造するため、高い創造意欲を持ち、リスクや困難に挑戦していく姿勢、発想、レジリエンス等を総合的に示す能力（起業家精神）を意味する。学生が入学当初に起業家精神の重要性と必要性を理解し、学生自らがモチベーションを持ちながら、大学時代に様々な機会を利用して、アントレプレナーシップを涵養する必要がある。</p> <p>本授業では、学生がアントレプレナーシップを学ぶ最初のステップとして、様々な観点から、21世紀の社会で生き抜くために、アントレプレナーシップを学ぶ機会を提供することにより、アントレプレナーの社会的意義とそのために必要な素養となるアントレプレナーシップを体得するを目的とする。</p>	

共通教育科目

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	金沢大学	石川県の行政	<p>本授業では、石川県の行政の現場で活躍する関係者の生の声を聞くことにより、地方自治体が取り組む政策課題と、課題に対処するために政策が形成されて実施・評価されるプロセス（政策過程）についての理解を深めることや、地方自治・行政に関連する基礎的および実務的な知識を習得し、自ら地方自治や政策課題について深く考えることができるようになることを目的とする。</p> <p>また公務員志望の学生については、行政の現場で活躍する関係者の生の声を聞くことで、将来のキャリア形成の参考になることを期待する。</p>	
	金沢大学	石川県の市町	<p>本授業では、石川県の市町からのゲストスピーカーの話を聞くことで、石川県の市や町が抱える課題を理解し、その課題解決の方策や、今後の大学や学生と地域との連携のあり方を考え、各市町に提言を出せるようになることを目的とする。</p>	
	金沢大学	健康論実践D	<p>本授業では、調理実習等気づきをもたらすような様々な講義、実習を通して、健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができること、社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神を習得させることを目的とする。</p>	
	金沢大学	健康論実践E	<p>本授業では、角間の里において多彩なゲストスピーカーとの共同作業やグループワークを通して、教育実習や就職活動、日常の人間関係に役立つ内容を学ぶ。健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができることや社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神等を修得することを目的とする。</p>	
	金沢大学	現代社会における保険の制度と役割Ⅰ	<p>さまざまなリスクに対処する保険の役割は、現代社会において不可欠なものとなっている。</p> <p>本授業では、損害保険の仕組みを学び、「保険」というシステムの役割と課題について理解することを目的としている。具体的には、損害保険の種類（火災保険・地震保険・自賠責保険・自動車保険等）とその概要について学ぶ。</p>	
	金沢大学	現代社会における保険の制度と役割Ⅱ	<p>さまざまなリスクに対処する保険の役割は、現代社会において不可欠なものとなっている。</p> <p>本授業では、生命保険や社会保険の仕組みを学び、「保険」というシステムの役割と課題について理解することを目的としている。具体的には、社会保険の種類（医療保険・年金保険・介護保険・雇用保険・労災保険等）とその概要と、生命保険におけるライフプランニング設計について学ぶ。</p>	
	金沢大学	実践アントレプレナー学	<p>アントレプレナーとは、ベンチャー企業を開業する者、また、産業構造の変革を担うベンチャー企業の実践者とも言われ、その育成および起業家精神の醸成は、国の再生と経済活性化に重要な役割をもつものとして位置づけられている。過去のベンチャーブームは、オイルショック、円高不況そしてバブル崩壊などの社会・経済の転換期と大きく関わっている。</p> <p>本授業では、大学生と就職して起業家精神の育成の一つの方向性示すとともに、大学の勉学と研究への取り組みのあり方を解説することで、「イノベーションとは」から始めて、「産学官連携とは」「知的財産と特許とは」、さらに「ベンチャー育成と企業化とは」までを理解し、大学におけるアントレプレナー精神の育成を目的とする。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	金沢大学	クラウド時代の「ものグラミング」概論	<p>Society5.0時代を迎えるにあたって、これまで個人が余暇に楽しんでいた「ものづくり」と、仕事や趣味などで行ってきた「パソコン上でのさまざまな操作」、インターネット上で誰かが開発して提供している「さまざまな情報サービス」は別々のものではなくなる。それらは渾然一体となって、相互に連携し、利活用可能となる。このような社会で必要となる技法を、「ものづくり」と「プログラミング」を掛けあわせた「ものグラミング」という言葉で表現している。</p> <p>この「ものグラミング」こそが、Society5.0に向けた人材に必要な技法であると考え、この技法を、講義と実習を通じて学ぶことを本授業の主題に据える。</p> <p>本授業では、手元で動く小さな「モノ」が徐々に発展しクラウドと連携するまでと、クラウド上の大量の情報やサービスが手元の小さな「モノ」に影響を与えるまでを講義と体験を通じて述べ、「ものグラミング」全体の理解を受講者に促すことを目的とする。</p>	
	金沢大学	シェルスクリプト言語論	<p>本授業では、古くから存在し、今もほとんど変わること無く使用できる「POSIX環境におけるシェルスクリプト」を使ったプログラミング手法について学習をしていく。シェルスクリプトは、UNIXやLinuxと呼ばれるOSにおいて、システム操作などにも使用されるもので、多くのコマンドから形成されるものであり、古くから変わらず存在するため、これから先も長く使用可能である。また、シェルスクリプトは、プログラミングに限らず、LinuxやWindows10、macOSなどをコマンドから操作するときに使用可能であり、シェルスクリプトを十全に使用できるようになると、研究活動を始めとする、さまざまな業務処理に、これまでとは違う視点からの作業環境を与えることができる。</p> <p>POSIX環境におけるシェルスクリプトについて新しい視点で学ぶとともに、「Win/Mac/UNIXすべてで25年後も動く普遍的なプログラム」を書く方法について会得し日頃の問題解決に適用できるようになることを目的とする。</p>	
	金沢大学	地元学A（地域資源調査）	<p>この授業では、フィールドワークによる体験的学習を通じて、フィールドワークの基礎的な知識や技術について学ぶ。金沢大学門前町をフィールドとした地域の宝探し調査によって、ヨソ者の視点からこの地域の魅力を発見し、地域住民に報告する。</p> <p>地元学調査手法について体験的に学習し、その知識と技術の習得及び地元学調査を通して、金沢大学門前町の地域資源を発見することを目的とする。</p>	
	金沢大学	地元学B（聞き書き）	<p>この授業では、フィールドワークによる体験的学習を通じて、フィールドワークに最も重要である、聞き込みの知識と技術について学ぶ。金沢大学門前町をフィールドとした地域の宝探し調査によって、ヨソ者の視点からこの地域の魅力を発見し、地域住民に報告する。</p> <p>地元学調査手法について体験的に学習し、その知識と技術の習得及び地元学調査を通して、金沢大学門前町の地域資源を発見することを目的とする。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	金沢大学	シェルスクリプトを用いた「ものグラミング」演習	近年では、インターネット上に大量の情報が集積され、これらを活用するサービスも用意されている。一方、小型のコンピュータ等が安価に普及し、これまでは手軽には手の届かなかった機器が当たり前のように利用できる。このような時代にあっては、従来なら個人が余暇に趣味で楽しんでいた「ものづくり」と、日常の仕事で行ってきた「パソコン上でのさまざまな操作」と、インターネット上で誰かが開発して提供している「さまざまな情報サービス」は別々のものではない。このような世界で必要となる技法を「ものづくり」と「プログラミング」を掛け合わせた「ものグラミング」という言葉で表現する。 本授業では、「ものグラミング」のもとで、手元で動く小さな「モノ」が徐々に発展しクラウドと連携するまでと、クラウド上の大量の情報やサービスが手元の小さな「モノ」に影響を与えるまでを理解し、併せて、POSIX環境におけるシェルスクリプトを用いてプログラミングなどについて学ぶ。	
	金沢大学	イノベーションを起こして、起業家になろう1	「イノベーション」を生み出すメソッドとして世界的に注目を浴びている「デザイン・シンキング」（前例の無い問題や未知の課題に対し、最適な解決を図るための思考法）を中心に、「イノベーション」の核となる「クリエイティビティ」について理解する。 本授業では、「デザイン・シンキング」の基本的なプロセスを理解し、複数のワークショップを実施することで、クリエイティブな考えを生み出すということ等を体感的に理解し、習得することを目的とする。	
	金沢大学	イノベーションを起こして、起業家になろう2	本授業では、大学の内外で行われている起業に関連したイベント・研修紹介や起業家との対話を行い、イノベーションや起業、海外経験の重要性について学ぶ。また、身に付けるべきスキルや研修機会について理解した上で、キャリアアップを図ることを目的とする海外留学計画を実際に自身で立案することにより、長期的なキャリアの形成についても学ぶ。	
	金沢大学	イノベーションを起こして、起業家になろう3	情報産業（IT/ICT）は、近年は電子機器（ハードウェア）と密接に関連することで、IoT（モノのインターネット）やAIという形で、新たな産業の核となりつつある。これらの分野では、テクノロジーという理系的な視点だけでなく、価値あるサービスを見出し創造するという文系的な視点も重要になる。 本授業では、ハードウェアの試作（プロトタイプング）の習得と、それを生み出したアイデア出しと試作による具体化のサイクルを通じたデザイン・シンキングを実践し、その知見を積むことを目的とする。	
	金沢大学	イノベーションを起こして、起業家になろう4	少子高齢社会となった先進諸国において、高齢者の生活を効果的に且つ低コストで支える仕組みづくりが多方面から求められている。中でも高齢者の健康問題は重要課題であり、健康寿命を延ばす医療の制度、技術、サービスの革新が期待されている。 本授業では、現代日本における超高齢社会やそれを支える医療の現状と課題を理解し、課題解決方法の1つである医療機器・サービスの技術革新について学ぶことにより、高齢者医療を取り巻く社会的環境や多様な課題を理解し、グループワークを通して、課題解決に向けた新しい手法を主体的且つ具体的に導き出すことを目的とする。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	金沢大学	香りと日本文化	日本三大芸道の一つである香道。香道は日本独自の香りを楽しむ芸術で、約1500年前にその歴史は始まり、約500年前には現存する形となった。 本授業では、この香道を切り口に、日本文化への理解を深めていくことを目的とする。	
	金沢大学	心と体の健康A	社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神とはそもそも何であるのか。心と体、脳と身体の間わり合いはどうなっているのか、外界を認識している「私」とは何であるのか。 本授業では、一元論と二元論の考え方や認知等をテーマに、体験的に科学的に理解を深めていく。 人の意識と心の捉え方を科学的に再認識し、自分を見つめる力を養うとともに、これからの人間的成長の基盤を形成し、健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができること、社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神を習得させることを目的とする。	
	金沢大学	心と体の健康B	社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神とはそもそも何であるのか。心と体、脳と身体の間わり合いはどうなっているのか、外界を認識している「私」とは何であるのか。 本授業では、音楽や神経経済学等をテーマに、体験的に科学的に理解を深めていく。 人の意識と心の捉え方を科学的に再認識し、自分を見つめる力を養うとともに、これからの人間的成長の基盤を形成し、健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができること、社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神を習得させることを目的とする。	
	金沢大学	地域「超」体験プログラム	本授業では、学長と一緒に「合宿」することで、金沢大学に学ぶ意義を理解する。「プログラム」では、地域の歴史や文化を学び、地域住民との交流や社会活動を通して地域理解や人間力の涵養を図るとともに、地域社会の中に身を置いて考えることを通じて各人の就業観を養うことを目的とする。	
	金沢大学	道徳教育および宗教教育をグローバルに考える	本授業では、日本の「特別の教科 道徳」、イングランドおよびデンマークでの「宗教」科目を対象として、各国の教育過程での位置づけ、教育内容、評価方法を紹介し、類似点、相違点を中心に討論を行うことで、学生の道徳教育、宗教教育の世界におけるあり方についての知識・理解を深め、そのことについて考えるきっかけを与えることを目標とする。	
	金沢大学	金沢の歴史と文化	金沢市内にはその歴史と文化を伝えるさまざまな石川県や金沢市の施設が存在し、観光施設としてだけではないさまざまな役割を担っている。 本授業では、そうした施設を訪ねてその担当者から直接に施設の概要・役割や職員の仕事内容等を聞き、また各施設やその所蔵品などを見たり、触れたり、体験したりすることで、金沢の歴史と文化を多面的に理解するとともに、こうした文化施設の有効性や今後の文化行政のあるべき姿等を考えることを目的とする。	
	金沢大学	日本の伝統芸能	本授業では、日本の伝統芸能の一つである能楽（能と狂言）を通して、日本の伝統文化について学ぶ。具体的には、三味線や篠笛等、伝統楽器の体験や、能や狂言の歴史的背景の学修により、日本文化への理解を深めることを目的とする。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	金沢大学	地域創造学特別講義C	<p>労働とは何か、労働者はどのような条件の下で働き、どのような権利を有するのか、また働いていくなかで直面する様々な現実的かつ具体的諸問題は何か、そうした諸問題を解決するのに資する労働者の連帯組織としての労働組合とは何であり、現在においてどのような意義と役割を有するのか、そして、こうした人々の労働と労働者の連帯組織である労働組合が、地域社会の創造においていかなる意味を持ちうるのか、などについて講義を通して、理解を深めることを目的とする。</p> <p>本授業では、適正な労働時間や、行政から見た労働、ブラック企業等について講義する。</p>	
	金沢大学	地域創造学特別講義D	<p>本授業では、労働とは何か、労働者はどのような条件の下で働き、どのような権利を有するのか、また働いていくなかで直面する様々な現実的かつ具体的諸問題は何か、そうした諸問題を解決するのに資する労働者の連帯組織としての労働組合とは何であり、現在においてどのような意義と役割を有するのか、そして、こうした人々の労働と労働者の連帯組織である労働組合が、地域社会の創造においていかなる意味を持ちうるのか、などについて講義を通して、理解を深めることを目的とする。</p> <p>本授業では、男女共同参画や労働組合の基礎知識等について講義する。</p>	
	金沢大学	日本国憲法概説	<p>本授業では、人としての基本的な権利や民主政治の講義を通して、日本国憲法の基本的な解釈・考え方を学ぶことにより、憲法の目的や人権、統治機構の基礎を理解することを目的とする。</p>	
	金沢大学	日本史要説	<p>本授業では、日本の歴史を古代から近現代に至るまで、政治・経済・社会・文化・宗教のみならず、民衆史、女性史などを含めて、相互の関連性に基づいて通観し、その過程において、周辺民族の歴史および関連性、東アジアおよび世界各地との関係性についても講義することで、日本の古代から近現代に至る、政治・社会・文化の変化の特徴と普遍性をどのように捉えたらよいか。また、世界史、特に東アジアとの関係における歴史的意義をどのように捉えればよいであろうかといった課題に対する理解を深めることを目的とする。</p>	
	金沢大学	東洋史要説	<p>本授業では、中国を中心にして東アジア文化圏の歴史を古代から現代までを通観し、東アジア文化圏の歴史的特質を明らかにすることにより、「東アジア、とりわけ中国や朝鮮半島における政治・社会・文化の特徴は何処に見いだせるであろうか」や「世界史のなかでの東アジアの歴史的特質と歴史的意義をどのように捉えればよいであろうか」といった課題に対し、本授業を通して理解を深めることを目的とする。</p>	
	金沢大学	異文化理解のためのビデオ会議ディスカッション	<p>本授業では、Skypeによるビデオ会議を通して、海外の大学で日本語を学ぶ大学生と、両国の社会、文化などのテーマについて日本語で深く話し合うことで、互いの国や文化を理解し、自己と自国と世界に関する見識を深めることを目的とする。</p>	
	金沢大学	行政学の基礎	<p>本授業では、行政とは何かや行政の範囲、国や地方の行政の違い等の講義を通じ、行政のしくみやはたらきについて学び、行政現象に関する基本的な事柄を、受講者に認識させ考えさせることを目的とする。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	金沢大学	ゼミ／角間の里山づくり 春編	本授業は、創立五十周年記念館「角間の里」において行う講義と角間キャンパス内の里山で行う里山づくり体験から構成する。本授業における里山づくり活動は、春の里山を対象とし、里山自然学校が取り組む里山活動のほか、受講学生のアイデアを生かした独自の里山づくり活動を行う。角間の里山自然学校の取り組みについて理解するとともに、里山保全活動や里山づくり活動を体験することによって、我が国における里山の独自性と持続可能な発展における里山の重要性について学習することを目的とする。	
	金沢大学	ゼミ／角間の里山づくり 秋編	本授業は、創立五十周年記念館「角間の里」において行う講義と角間キャンパス内の里山で行う里山づくり体験から構成する。本授業における里山づくり活動は、秋の里山を対象とし、里山自然学校が取り組む里山活動のほか、受講学生のアイデアを生かした独自の里山づくり活動を行う。角間の里山自然学校の取り組みについて理解するとともに、里山保全活動や里山づくり活動を体験することによって、我が国における里山の独自性と持続可能な発展における里山の重要性について学習することを目的とする。	
	金沢大学	コーヒーと社会	嗜好飲料として世界中で消費されているコーヒーを通じた世界の歴史と文化、さらに生産、流通やもとなるコーヒー豆の栽培など、コーヒーに関連する社会的状況を多様な角度で考える。 本授業では、SDGsや社会・文化とのかかわり等について講義する、	
	金沢大学	コーヒーと科学	嗜好飲料として世界中で消費されているコーヒーを通じた世界の歴史と文化、さらに生産、流通やもとなるコーヒー豆の栽培など、コーヒーに関連する社会的状況を多様な角度で考える。 本授業では、コーヒーにかかる抽出や焙煎、化学や健康等について講義する。	
	金沢大学	地学実験	わが国日本海側のほぼ中央に位置する金沢には、約2000万年前に始まる日本海の形成から現在にいたるまでの自然環境のうつりかわりが地層の中に記録として閉じこめられている。 本授業では、金沢の恵まれた地質資産を存分に活かし、これらの地層が分布する場所を実際に野外実習で訪れたり、自分で採集してきた岩石や化石を、実験室の中で顕微鏡を用いてさらに細かく観察したり、分析用試料を作成したりすることで、金沢の自然環境の地質学的なうつりかわりを理解するとともにいまの自然環境について考えることを目的とする。	
	金沢大学	生物学実験	本授業では、現在、生物がどのように分類されているか、それはどのような基準に基づいて行われているか等、細胞や動物・植物などの個体や組織・器官の観察、細胞が行う化学反応の観察、生態系や共生・寄生といった生物間の相互作用などを通して、生物の構造と機能の関係、生物集団の特性等を理解するとともに、さまざまな進化段階にいる生物を材料にすることで、授業で観察している材料が全生物界の中で、どのような進化的位置にいるのかを理解することを目的とする。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	金沢大学	海洋生化学演習	<p>生化学実験では、既存の操作方法を重視し、原理をあまり理解しないで実験を行う学生が多い。しかし卒業論文実験では、既存の方法だけでは成功しない例が多い。</p> <p>本授業では、海藻、海産魚及び海産無脊椎動物を用いて、タンパク質及び遺伝子レベルの両面から実験を行うとともに、特に原理を重視した教育・指導を行い、実験の原理を理解し、実験を進めるといった姿勢を習得させることを目的とする。</p>	
	金沢大学	英国諸島の地史 I	<p>英国諸島は近代地質学の発祥の地として知られる。初期の地質学では英国諸島を舞台に数多くの地質学的な基本概念や用語が提唱され確立されてきた。そのため英国諸島は地史学の基礎を学ぶには絶好の材料を提供してくれる。</p> <p>本授業では、約25億年前から現在にいたるまでの英国諸島の地史を、それぞれの時代の自然環境や生物などを中心に論じるとともに、地球の歴史を包括的に理解し、その延長上に人類の誕生とその進化について考える機会を提供し、英国諸島の地史の学習とおし、地球の歴史を総合的に理解するとともに、人類の誕生や進化についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>「英国諸島の地史 I」では地球の誕生から古生代までをおもに取り扱う。</p>	
	金沢大学	英国諸島の地史 II	<p>英国諸島は近代地質学の発祥の地として知られる。初期の地質学では英国諸島を舞台に数多くの地質学的な基本概念や用語が提唱され確立されてきた。そのため英国諸島は地史学の基礎を学ぶには絶好の材料を提供してくれる。</p> <p>本授業では、約25億年前から現在にいたるまでの英国諸島の地史を、それぞれの時代の自然環境や生物などを中心に論じるとともに、地球の歴史を包括的に理解し、その延長上に人類の誕生とその進化について考える機会を提供し、英国諸島の地史の学習とおし、地球の歴史を総合的に理解するとともに、人類の誕生や進化についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>「英国諸島の地史 II」では、中生代から現代にかけてを取り扱う。</p>	
	金沢大学	環境動態学概説 I	<p>本授業では、地球環境とその動態、すなわち時間と空間のさまざまなスケールにおける地球環境の変動を理解するため、グローバルテクトニクス基礎とそれに関連する地震、津波、火山噴火などの自然災害についてまず解説する。ひきつづいて地下資源や気候変動といった地球環境にとって喫緊となっている話題に触れる。さらに、人類を現在の地球生物圏を支配する一動物としてとらえ、その誕生から進化の過程を説明することで、プレート・テクトニクス理論とそれともなうさまざまな地学現象や自然災害、地下資源、海洋環境変動、ヒトの進化と本質、などをこの講義をおしてまず理解し、そのうえで、その理解にもとづき、地球上に存在するさまざまな環境の時間と空間の中での動的変化の実態を考えることを目的とする。</p> <p>「環境動態学 I」ではプレートテクトニクスとそれともなう自然災害問題を主に取り扱う。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	金沢大学	環境動態学概説Ⅱ	<p>本授業では、地球環境とその動態、すなわち時間と空間のさまざまなスケールにおける地球環境の変動を理解するため、グローバルテクトニクスの基礎とそれに関連する地震、津波、火山噴火などの自然災害についてまず解説する。ひきつづいて地下資源や気候変動といった地球環境にとって喫緊となっている話題に触れる。さらに、人類を現在の地球生物圏を支配する一動物としてとらえ、その誕生から進化の過程を説明することで、プレート・テクトニクス理論とそれともなうさまざまな地学現象や自然災害、地下資源、海洋環境変動、ヒトの進化と本質、などをこの講義をとおしてまず理解し、そのうえで、その理解にもとづき、地球上に存在するさまざまな環境の時間と空間の中での動的変化の実態を考えることを目的とする。</p> <p>「環境動態学Ⅱ」では地下資源とヒトの問題を主に取り扱う。</p>	
	金沢大学	Pythonデータ分析入門	<p>近年の情報化社会において、人工頭脳の発展もあり、一般社会においてもデータを分析する機会が増えている。日常生活にも、様々なシステムが利用されており、様々な多くのデータが蓄積されている。データ分析を行うことで、集まったデータをもとに推測したり予測を行い、物事の因果関係を分析したり、シミュレーションを行うことが可能になる。</p> <p>解析した内容から、アイデアを生み出したり、ある仮説を立てたり、マーケティング等に利用することで、企業のビジネスに活かせることも多い。それに伴い、多くのデータから何かを導こうとするデータサイエンスの存在感が増してきている。</p> <p>本授業では、プログラム言語としてPython言語を利用して、サンプルデータを用いて、データ分析の実習を行い、データサイエンティストの基礎的な知識を身につけることで、Python言語の基礎的な知識を理解し、データ分析を行うことが可能となり、ビッグデータの扱い方、データ分析手法、データサイエンティストの基礎的な知識を身につけることを目的とする。</p>	
	金沢大学	プレゼンテーション演習A	<p>現代社会では、自分の主張を分かりやすく表明し、人に伝えるプレゼンテーション技術は、必要不可欠なものである、社会全般の普遍的スキルといえる。</p> <p>本授業では、プレゼンテーションを必要とされる様々なシチュエーションを課題として準備し、プレゼンテーションの準備と発表を学ぶことで、プレゼンテーションを行うための基礎的な理論・知識を獲得し、プレゼンテーションの準備・実践が可能となることを目的とする。</p>	
	金沢大学	プレゼンテーション演習B	<p>現代社会では、自分の主張を分かりやすく表明し、人に伝えるプレゼンテーション技術は、必要不可欠なものである、社会全般の普遍的スキルといえる。</p> <p>本授業では、プレゼンテーションを必要とされる様々なシチュエーションを課題として準備し、プレゼンテーションの準備と発表を学ぶことで、プレゼンテーションを行うための基礎的な理論・知識を獲得し、プレゼンテーションの準備・実践が可能となるとともに、PowerPoint等を使用したプレゼンテーション用資料の作成スキルの獲得や様々なシチュエーションに合わせたプレゼンテーションを準備・実践ができることを目的とする。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	金沢大学	コンピュータグラフィックス演習Ⅰ	<p>コンピュータで扱える所謂「画像ファイル」は、図表の形態としてポピュラーなものとなっている。</p> <p>本講義では、コンピュータで扱う画像「コンピュータグラフィックス」についての基礎知識を学習し、その作成・活用について学ぶ。</p> <p>コンピュータグラフィックスの作成実習は、Adobe Illustrator を使用し、テキストに掲載された作例を実際に製作してみることで操作の基本を習得し、その応用により独自の作品を制作する。</p> <p>プレゼンテーション等、図画を使用して他人との意思疎通を図る場面において、見やすく分かりやすく、かつ印象的な資料作成が行えるレベルを目指す。</p> <p>コンピュータグラフィックスの基礎やアピアランス、文字とフォント等について講義する。</p>	
	金沢大学	コンピュータグラフィックス演習Ⅱ	<p>コンピュータで扱える所謂「画像ファイル」は、図表の形態としてポピュラーなものとなっている。</p> <p>本講義では、コンピュータで扱う画像「コンピュータグラフィックス」についての基礎知識を学習し、その作成・活用について学ぶ。</p> <p>コンピュータグラフィックスの作成実習は、Adobe Illustrator を使用し、テキストに掲載された作例を実際に製作してみることで操作の基本を習得し、その応用により独自の作品を制作する。</p> <p>プレゼンテーション等、図画を使用して他人との意思疎通を図る場面において、見やすく分かりやすく、かつ印象的な資料作成が行えるレベルを目指す。</p> <p>演習Ⅰで学んだ基礎を基に練習課題を行うほか、3DCADによる作画等を学ぶ。</p>	
	金沢大学	動画配信サービスを用いた情報発信演習A	<p>近年、動画配信サービスを使った様々な番組が作られている。これが情報発信の新しい形として、定着しつつある。</p> <p>動画配信サービスを運営している事業者、情報メディア以外の各種企業、フリーランスの記者、芸能人、個人にいたるまで、このサービスを用いて、様々な情報を配信するようになった。</p> <p>本授業では、この動画配信サービスの仕組みを学び、多くの人に見てもらえる動画を作成、放送する。動画作成では、予め用意された企画書をもとに、コンテンツ作成、実際の撮影・配信をグループ活動で行う。</p> <p>なお、企画段階に視聴者数や評価に数値目標が設けられているので、それを越えることを目指す。</p> <p>この作業を通じて、新しい情報発信の方法とそれによって得られる影響について学ぶ。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	金沢大学	動画配信サービスを用いた情報発信演習B	<p>近年、動画配信サービスを使った様々な番組が作られている。これが情報発信の新しい形として、定着しつつある。</p> <p>動画配信サービスを運営している事業者、情報メディア以外の各種企業、フリーランスの記者、芸能人、個人にいたるまで、このサービスを用いて、様々な情報を配信するようになった。</p> <p>本授業では、この動画配信サービスの仕組みを学び、多くの人に見てもらえる動画を作成、放送する。動画作成では、予め用意された企画書をもとに、コンテンツ作成、実際の撮影・配信をグループ活動で行う。</p> <p>なお、企画段階に視聴者数や評価に数値目標が設けられているので、それを越えることを目指す。</p> <p>この作業を通じて、新しい情報発信の方法とそれによって得られる影響について学ぶ。さらに、「単に動画を作れば良い」と言うのではなく、作業毎のアウトカム作成に重点をおき、社会・企業の中で求められている（であろう）、プロジェクト立案・推進の方法も学びます。</p>	
	金沢大学	プログラミング演習I	<p>本授業では、Perlを使ったWebプログラミングを中心に、スクリプト言語のプログラミングを実習する。JavaScript等の言語も多少取り扱う。これらにより、スクリプト言語を使ったテキスト処理、ファイル処理などができるようになることやWebプログラミングだけでなく、実験や研究に活用できるレベルを目指す。</p> <p>HTMLやCSS、PerlによるCGIの基本、インタラクティブ処理等について学ぶ。</p>	
	金沢大学	プログラミング演習II	<p>本授業では、Perlを使ったWebプログラミングを中心に、スクリプト言語のプログラミングを実習する。JavaScript等の言語も多少取り扱う。これらにより、スクリプト言語を使ったテキスト処理、ファイル処理などができるようになることやWebプログラミングだけでなく、実験や研究に活用できるレベルを目指す。</p> <p>サブルーチンや正規表現、JavaScript等について学ぶ。</p>	
	金沢大学	Society5.0 概論	<p>日本政府が謳っているSociety5.0がどのようなものかを理解し、Society5.0に向けた人材になるために必要な知識や技能にどのようなものがあり、どのように身につけていくべきかを考える。</p> <p>授業はSociety5.0に向けた人材に必要とされる、さまざまな知識や技能について、紹介していく。</p>	
	金沢大学	英語セミナー	<p>この授業は、英語の文法や語彙をよく理解し、実生活の中で英語を学ぶことに興味のある学生を対象とし、一般的なトピックについて英語で意見を交換できるようになることと目標とする。</p> <p>授業では、意見を伝えるためだけでなく、他者と同意したり反対したりするためのフレーズや表現を学び、学んだ表現等のテクニックを用いて、導入したトピックについて、ディスカッションする。</p> <p>題材には、配布物、記事、TEDプレゼンテーションを使用し、様々なトピック、例えば、幸せについて、環境、本、映画、健康とフィットネス、社会問題を取り上げる。</p> <p>ディスカッションは少人数のグループで行い、全て英語で進行する。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	自由履修科目	金沢大学	ゼミ／アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界1	<p>音楽を聞いて楽しみながら、世界のアフリカ系人のありのままの姿に触れ、21世紀の日本の若者に必要な、アフリカについての知識を得、アフリカを総体的に理解する。</p> <p>たとえばアルジェリア西部に起源をもつポップ音楽「ライ」は民俗音楽という枠を遥かに越えて大変モダンな音楽となり、フランスをはじめとするヨーロッパ諸国でも人気を得、アラブの枠を越えた支持を得ている。日本ではフランス語情報を活用できる人が極端に少ないためにほとんど知られていないため、アラブ理解にもヨーロッパ理解にも支障がでている。</p> <p>本授業では音楽学的研究・分析は行わず、世界各地のアフリカ系の音楽を主に、特にワールドミュージックとは何かから始め、カリブ海の歴史・現状とその音楽等の視点から、現時点の世界の実情を多様な角度から観察していくことを目的とする。</p>	
		金沢大学	ゼミ／アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界2	<p>音楽を聞いて楽しみながら、世界のアフリカ系人のありのままの姿に触れ、21世紀の日本の若者に必要な、アフリカについての知識を得、アフリカを総体的に理解する。</p> <p>たとえばアルジェリア西部に起源をもつポップ音楽「ライ」は民俗音楽という枠を遥かに越えて大変モダンな音楽となり、フランスをはじめとするヨーロッパ諸国でも人気を得、アラブの枠を越えた支持を得ている。日本ではフランス語情報を活用できる人が極端に少ないためにほとんど知られていないため、アラブ理解にもヨーロッパ理解にも支障がでている。</p> <p>本授業では音楽学的研究・分析は行わず、世界各地のアフリカ系の音楽を、特にコンゴとリンガラ・ポップやアフリカと日本の世界音楽について、世界音楽の問題等に主点を置き、現時点の世界の実情を多様な角度から観察していくことを目的とする。</p>	
		金沢大学	ドイツ語A（充実クラスⅠ－1）	<p>ドイツ語の初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文章を読み書きできるようになる。また、ドイツ語圏の文化の基礎知識を習得する。</p> <p>本授業では、以下のような文法事項等を学習する。</p> <p>初級文法の確認、再帰代名詞、zu不定詞、形容詞の格変化、受動態、関係代名詞等</p>	
		金沢大学	ドイツ語A（充実クラスⅠ－2）	<p>ドイツ語の初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文章を読み書きできるようになる。また、ドイツ語圏の文化の基礎知識を習得する。</p> <p>本授業では、主に以下の内容を学習する。</p> <p>文法事項の確認・練習、ドイツ語テキストの講読・読解</p>	
		金沢大学	ドイツ語A（充実クラスⅡ－1）	<p>話す・聞く練習以外にドイツの生活に関するトピック（趣味、家族、職業、買い物等）を読み進めながら、その内容について（ドイツ語で）話し合い、ドイツ語を話すし、自然なスピードで文章を聞き取る能力の向上を目指す。</p>	
		金沢大学	ドイツ語A（充実クラスⅡ－2）	<p>話す・聞く練習以外にドイツの生活に関するトピック（ほしい物、自分の部屋、家事、好きな食べ物等）を読み進めながら、その内容について（ドイツ語で）話し合い、ドイツ語を話すし、自然なスピードで文章を聞き取る能力の向上を目指す。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	金沢大学	フランス語A（充実クラスⅠ－1）	フランス語の運用能力を養うための、基礎知識の徹底理解と確実な定着を目指す。 フランス語を習得するために、初級での学習項目のうち最も重要な点に集中して、フランス語知識の基礎固めのための練習を行う。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。 ・基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話ができる。 ・基本的な構文を理解し、それにのっとったフランス語文を作ることができる。 本授業では、以下の文法事項等について学習する。 フランス語の文字と発音、基本語彙、冠詞、etreとavoir、第一群規則助動詞とfaire、文型SVAとSVO、形容詞、prendre等	
	金沢大学	フランス語A（充実クラスⅠ－2）	フランス語の運用能力を養うための、基礎知識の徹底理解と確実な定着を目指す。 フランス語を習得するために、初級での学習項目のうち最も重要な点に集中して、フランス語知識の基礎固めのための練習を行う。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。 ・基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話ができる。 ・基本的な構文を理解し、それにのっとったフランス語文を作ることができる。 本授業では、以下の文法事項等について学習する。 第二群規則動詞、direと文型SVOO、代名詞、rendreと文型SVOA、直接他動詞と間接他動詞、複合過去等	
	金沢大学	フランス語A（充実クラスⅡ－1）	フランス語による初歩的なコミュニケーションの練習を行う。 フランス語A1/A2の学習内容を復習し定着させることで、初歩的な口頭のコミュニケーション能力をしっかりと身につけることを目指す。授業では、各項目のコミュニケーションパターンや語彙を確認した後に、聞き取りやペアワークによる口頭練習を行う。また、フランスのコミュニケーション文化についても適宜説明する。 本授業では、職業・身分・国籍について、住んでいる所、アルバイト、交通手段、ペット、科目や教科等についてトピックとして取り上げる。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。 ・基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話ができる。 ・授業で学んだ基礎的な語彙の範囲であれば、ゆっくり、はっきりと話された内容を聞き取ることができる。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	金沢大学	フランス語A（充実クラスⅡ－2）	<p>フランス語による初歩的なコミュニケーションの練習を行う。</p> <p>フランス語A1/A2の学習内容を復習し定着させることで、初歩的な口頭のコミュニケーション能力をしっかりと身につけることを目指す。授業では、各項目のコミュニケーションパターンや語彙を確認した後に、聞き取りやペアワークによる口頭練習を行う。また、フランスのコミュニケーション文化についても適宜説明する。</p> <p>本授業では、家事・余暇・習慣・週末/休暇の予定、地理について、過去について等をトピックとして取り上げる。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。 ・基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話することができる。 ・授業で学んだ基礎的な語彙の範囲であれば、ゆっくり、はっきりと話された内容を聞き取ることができる。 	
	金沢大学	中国語A（充実クラスⅡ－1）	<p>A1/A2で学習した文法事項と語彙と文法を再確認し、確実にその内容を身につける。また、中国語によるコミュニケーションの基礎能力の向上を目指し、中国語の学習を通して、言語運用の知識を身につけると共に、背景にある中国文化についての理解を深める</p> <p>身近なトピックについて会話練習を行い、それぞれのトピックに必要な単語と常用語句の予習を課する。一つのトピックについて二週間にわたってトレーニングを行う。テキスト及び配布資料を学習し、教員及び他の受講生からの質問を受けながら、会話練習を行う。話した内容を文章にまとめ、スピーチにて発表する。</p> <p>具体的な学習目標は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A1/A2で学習した語彙と文法を再確認し、確実にその内容を身につける。 ・1000語レベルの日常語彙の範囲で標準的な話し方であれば、話題の要点を理解できる。 ・身近な話題について、1000語レベルの日常語彙を使用し、情報や考えなど伝えたいことを話すことができる。 ・中国語検定試験4級合格程度の聴解力を身につける。 <p>本授業で取り上げるトピックは以下の通り。</p> <p>中国語の発音、キャンパス・学食での会話、コンビニや喫茶店での会話等</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	自由履修科目	金沢大学	中国語A（充実クラスⅡ-2） A1/A2で学習した文法事項と語彙を定着させ、中国語によるコミュニケーションの基礎能力の向上を目指し、中国語の学習を通して、言語運用の知識を身につけると共に、背景にある中国文化についての理解を深める身近なトピックについて会話練習を行い、それぞれのトピックに必要な単語と常用語句の予習を課する。一つのトピックについて二週間にわたってトレーニングを行う。テキスト及び配布資料を学習し、教員及び他の受講生からの質問を受けながら、会話練習を行う。話した内容を文章にまとめ、スピーチにて発表する。 具体的な学習目標は以下の通り ・A1/A2で学習した語彙と文法を再確認し、確実にその内容を身につける。 ・1000語レベルの日常語彙の範囲で標準的な話し方であれば、話題の要点を理解できる。 ・身近な話題について、1000語レベルの日常語彙を使用し、情報や考えなど伝えたいことを話すことができる。 ・中国語検定試験4級合格程度の聴解力を身につける。 本授業で取り上げるトピックは以下の通り。 居酒屋・中華料理屋での会話、タクシー乗り場、電車の中での会話、電話をかける、温泉旅行について等	
		金沢大学	アカデミックスキル 大学で学ぶ上で欠かすことのできない主体的・自主的学習を動機づけ、初年時のみならず専門分野においても学習をデザインでき能動的に学習できる能力を育むことを目標とする。 本授業では、学校教育が直面する問題をはじめ教員に求められる基礎的知識について講義し、その後、学生と教員および学生同士のディスカッション等を通して、大学生としての自己表現能力や日本語力、論理的な思考方法を育成する。 (オムニバス方式/全8回) ※複数クラスで実施 (34 鳥居和代, 25 川幡佳一, 71 大野順子 / 1回) ガイダンス (34 鳥居和代, 66 飯島洋, 37 松原道男 / 2回, 3回) 学校教育が直面する問題や教員に求められる基礎的知識について講義する。(テーマ:「学校に行けなかった子どもたち―戦後初期の記録映画に学ぼう」等) (34 鳥居和代, 25 川幡佳一, 71 大野順子 / 4回) 「教師になるためのノート」の活用方法を学ぶ。 (35 長谷川和志, 73 田部絢子, 71 大野順子 / 5回, 6回) 学校教育が直面する問題や教員に求められる基礎的知識について講義する。(テーマ:「発達障害と合理的配慮」等) (26 黒田智, 25 川幡佳一, 33 土井妙子 / 7回, 8回) 学校教育が直面する問題や教員に求められる基礎的知識について講義する。(テーマ:「教育勅語と教育基本法―教育は誰のためのもの?―」等)	オムニバス方式
専門教育科目	学域GS科目 初学者科目	金沢大学	プレゼン・ディベート論 大学で学ぶ上でかかすことのできない主体的・自主的学習への動機づけを行い、専門教育を含む大学教育全般に対する能動的学習に導くことを目標とする。さらに、学生と教員及び学生相互のディスカッションおよびプレゼンを通して、大学生としての自己表現能力、学習デザイン能力、及び論理的な思考方法を育成する。 本授業では、学校教育が直面する問題、学校教育の今日的課題、教員に求められる基礎的知識などのテーマに基づいたグループに分かれて研究活動を行い、発表を行う。	
		金沢大学	プレゼン・ディベート論 大学で学ぶ上でかかすことのできない主体的・自主的学習への動機づけを行い、専門教育を含む大学教育全般に対する能動的学習に導くことを目標とする。さらに、学生と教員及び学生相互のディスカッションおよびプレゼンを通して、大学生としての自己表現能力、学習デザイン能力、及び論理的な思考方法を育成する。 本授業では、学校教育が直面する問題、学校教育の今日的課題、教員に求められる基礎的知識などのテーマに基づいたグループに分かれて研究活動を行い、発表を行う。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	学域GS科目	学域俯瞰科目	金沢大学	大学・学問論	本授業では、大学における学問の淵源をたどりつつ、大学における学問は全体としてどのように構想されているかという問題について、カリキュラムの面から考え、世界各地における大学が直面している諸問題についてアクティブ・ラーニングの手法を活用しながら、さらに人文社会学域の学問について学生一人一人が主体的に考察していく。	
			金沢大学	ジェンダーと教育	ジェンダー研究の成果を紹介すると同時に、ジェンダーの視点をともにこれまでの教育のあり方を問い直すことを目的としている。学校や家族では日常的にどのような「男らしさ」「女らしさ」が生成されており、そのもとでどのような人々（子どもたち）の存在が脅かされ、どのような人々の存在が忘れ去られているのかを検討する。また、性的な抑圧を少しでも少なくしていくために、どのような社会をつくっていけばいいのか、またそのために、学校教育に何ができるのか、について考える。	共同
			金沢大学	異文化理解1	単一事象的に物事を捉えるのではなく、「異文化」という関係性に視座をおいて、文化・社会を再考する。日本、中国等の各エリアにおける文化事象を「異文化理解」というコンテキストに置いて相対的な視点からとらえ直す。学生は、そのような視点から、具体的な事象をとりあげ多様な観点から観察および考察をする力が求められる。	
			金沢大学	異文化理解2	単一事象的に物事を捉えるのではなく、「異文化」という関係性に視座をおいて、文化・社会を再考する。アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、ラテンアメリカ等の各エリアにおける文化事象を「異文化理解」というコンテキストに置いて相対的な視点からとらえ直す。学生は、そのような視点から、具体的な事象をとりあげ多様な観点から観察および考察をする力が求められる。	
			金沢大学	文学概論1	古今の世界文学の重要な作家、作品の概要に触れながら20世紀のフランスで活躍し世界に影響を及ぼした思想家＝文学研究家たちの生涯や考え方にも接し、21世紀の文学の方向性を考えていきます。20世紀までの文学者の試みを知り、文学の歩みをフランス、イギリス、アメリカ、ドイツ、ロシア、日本などいくつかの文学伝統にまとめておさらいし、グローバル化した現代の世界文学のあり方について考察します。文学周辺のジャンル（映画、マンガ、歌詞など）についても適宜考察を行います。	
			金沢大学	文学概論2	現代世界で広く知られる文学、文学研究のあり方、楽しみ方について理解を深めるために、文学や文学研究の方法について基礎知識を得ます。それは今日世界中のさまざまな文学を研究する際に用いられる方法論の多くが、現代フランスで活躍した人たちがフランスおよび世界の未来について真剣に考えて作り上げた思想から生まれたものだからです。そこから世界全体の未来の文学のあり方について考察します。	
			金沢大学	世界遺産学	日本、中国、南アジア、西アジア、ヨーロッパ、アメリカ大陸と、世界各地の世界遺産を取り上げる。ひとつの文化遺産の背景には、幾重にも折り重なった歴史があり、そのひとつひとつを読み解くことで、文化遺産が生み出され、受け継がれてきた背景を知る。人類が作り出した文化がいかなるものか、そして、人々はそれとどのように関わってきたかを示す文化遺産は、決して「過去の遺物」ではない。現代社会が積極的に文化を活用しようとするときに、はじめて文化遺産としての評価が与えられる。文化遺産を通して人間や社会のあり方を学ぶ。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	学域GS科目	学域俯瞰科目	金沢大学	ルールリテラシー	<p>法令（条文）と判例（判決文）を素材として、ルール作り、ルールの改正、ルールの運用、ルールと言語の関係等を明らかにし、ルールの背後にある価値・条文の趣旨に遡ってルールの意味を考える習慣を身につける。</p> <p>なお、この科目は、「学域俯瞰（ふかん）科目」に区分されているので、文系の諸学問と法学・政治学（政策学）との接点についても言及する。例えば、法令や判例は「文字」によって作られており、よく言われるように、法学は「ことば」による説得の学問である点で、日本語（国語）学に関連するほか、中学校の社会科（公民的分野）や高等学校の現代社会、政治・経済といった科目における法関連学習（法教育）との接続とその発展という点で、教育学（社会科教育）にも関連する。</p>	
			金沢大学	人文社会科学における法	<p>基礎法学の概観を提供することを目的とする。基礎法学とは、法学の諸分野のうち、自国の現行法を研究対象とする実定法学（憲法学、民法学、刑法学など）を除く全ての分野を包括する総称であり、法制史学、外国法学、法理学、法社会学などが含まれる。法制史学は過去の自国または他国の法を、外国法学は外国の法を、法理学（法哲学）は国や時代が異なっても変わらない法の本質を、法社会学は社会現象としての法を対象として学ぶ。</p>	
			金沢大学	イメージの比較文化学	<p>世界各地の視覚イメージ、とくに宗教的な美術を中心に、人間が生み出したさまざまな文化を読み解く。イメージの背景にある思想、信仰、社会、美意識などを明らかにし、人間の文化の持つ多様性と普遍性を探る。美術史、文化史、宗教学、哲学、文学、歴史学、神話学など、人文学の複数の領域を学際的に横断しながら学んでいく。</p>	
			金沢大学	防災学入門	<p>地震・津波・台風等の大規模災害が相次ぐ中、災害や防災・減災に関する知識と意識をもつ人材の養成が求められる。当科目は、防災士取得に向けての入り口として、防災活動や災害ボランティアに参加する上で最低限必要な知見・技術を獲得させることを目的とし、集中講義で行う。</p> <p>また、講義だけではなく、災害ボランティア入門講習、救命救急講習、避難所運営机上訓練HUG等も行う。</p>	共同
			金沢大学	現代日本の文化と社会	<p>政治や経済、家族・社会関係、信仰など生活のさまざまな側面における戦後日本の変化を概観的に把握することで、現在の日本で生起しているさまざまな文化社会現象を認識し分析する上での基礎的知識を習得し、説明できるようにする。公式統計や社会調査の集計結果などの図表を読み取り、そこから社会の変化について把握するスキルを身につける。国際比較の着眼点を理解する。</p>	
			金沢大学	地域創造学 1	<p>地域の課題や可能性を、事例を通じて、多面的具体的に紹介し、地域への関心を高める。その際、社会学、経済学、政治学、地理学などの社会科学等にもとづく解説を行い、地域をさまざまな科学にもとづいて理解するための手がかりを提供する。</p> <p>本授業では、①コミュニティをめぐる問題（社会）では、つながりの喪失、排除と包摂、コミュニティの維持困難、共生の課題、②地域経済をめぐる問題（経済）では、グローバル化・東京一極集中と地域、観光業・創造都市の光と影、③働く人をめぐる問題（経済・労働）では、格差と絶望、労働者の人権、④行政運営にかかわる問題（政治・行政）では、広域合併のもたらしたものの、民営化の功罪、自治体と住民参画、⑤地域を襲う環境の危機（環境）では、資源争奪、異常気象の進行、漁業資源の保全、⑥地域を運営すること（政治・自治、社会）では、行政・企業・NPOの協働の意義を学ぶ。</p>	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	学域俯瞰科目	金沢大学	地域創造学 2	<p>地域とは何か、地域創造とはいかなる意味・意義を持つのかといった問いを考える視点を概観し、地域の構造を生活、行政、経済などとの関連で取り上げ、そのような地域を分析する手法・方法論を紹介する。具体的な目標としては、①地域とは何か、地域創造とは何かを考える視点を学ぶ、②地域の基本構造として、地域の生活構造と自治の範囲を中心に取り上げ、経済や行政等の社会制度を概観する、③地域構造形成に影響を及ぼす諸要因である自然環境、社会的インフラストラクチャー、社会資源などに言及する、④地域分析のための諸統計の活用方法と調査手法に関する基本を紹介する。</p> <p>本授業では、生活構造・生活圏、地域の構造と情報、システムとしての地域、地域コミュニティと自治、地域分析手法（質的調査）、地域解析手法（統計）を学ぶ。</p>	
		金沢大学	データサイエンスの技術	<p>データサイエンスは機械学習・統計学だけではなく、非常に広い範囲のコンピュータサイエンス諸分野に関連する、取扱範囲が大きな分野である。本授業では初学者がデータサイエンスを理解するうえで必要となる基礎知識全般について考察する。ソフトウェア技術、アルゴリズム、統計学の知識といった基礎的なコンピュータリテラシーのみならず、機械学習やディープラーニング、さらには最近話題となることが多いビッグデータといった話題についても考察する。</p>	
	金沢大学	国際経済の理論とデータ	<p>国際経済学に関するマクロ的な問題についての理論を学び、国際収支、為替レート、財政、金融政策などについての理論を理解する。</p> <p>本授業では、世界貿易概観、国民所得勘定、国際収支、外国為替市場（アセットアプローチ）、外国為替市場における均衡（アセットアプローチ）、貨幣、利子率、為替レートなどについて学修する。</p>		
	金沢大学	国際貿易の理論とデータ	<p>国際貿易の理論を学ぶ。本授業では、主体的な学びを重視し、テキストの割り当て箇所について担当者による口頭発表およびディスカッションを行う。内容については、①データを用いた計量経済学的な実証分析の方法について学ぶ、②データの収集、加工、ソフトウェアを用いた分析について講義を行う、③国際機関が公表している実際のデータを用いて実践的なトレーニングを行う。</p>		
	金沢大学	情報処理	<p>さまざまな不確定現象（経済、経営、工学、自然科学等）を確率現象として捉え、その確率現象の構造を解明し、データ解析、評価、予測の理論とモデルの構築を学修する。その理論をファイナンス、経済学、経営学で用いた応用も行う。基礎からじっくりと学び、統計解析とデータ分析に精通した専門家となる素養を身につけることを目標とする。</p>		
	金沢大学	計量政治分析実習	<p>計量分析とは、例えば世論調査のように、数字で表現された数量データを多くの事例や人について集めて分析することによって、社会現象を明らかにしたり、そのメカニズムを解明しようとする分析方法であり、最近では、民間企業や行政機関においても、社会現象を数量データに基づいて客観的に把握して問題解決に役立てるため、計量分析を用いた報告書の読解や、調査・分析の能力が求められるようになってきている。</p> <p>本授業では、政治関係の数量データをパソコンの表計算ソフトの「Microsoft - Excel」や統計解析ソフトの「SPSS」や「R」を使って分析する実習を通じて、社会現象の計量分析の技法の基礎を修得することを目指す。</p>		
	学域 G S 科目	データサイエンス応用系科目			

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 学域GS科目 データサイエンス応用系科目	金沢大学	ビジネス・データ分析（ビジネス・データサイエンス）	この授業では、ビジネスに用いられる統計データであるビジネス・データ分析について学習し、ビジネス・データを正しく読み取り、活用できることを目的とする。焦点をあてるテーマは、①ビジネスと設備投資、②ビジネスと販売予測、③ビジネスと市場分析、とする。さらに、この授業では、統計ソフトRについて実習を通して学ぶ。	
	金沢大学	統計データ分析の基本（多変量解析）	統計学は、大学における文系・理系の双方の専門科目の基礎となる不可欠の素養である。本授業では、調査・観察・実験の際に必要な統計スキル（多変量解析編）を学習し、得られたデータを統計的に正しく推論を行う力を身に付ける。焦点をあてるテーマは、①回帰分析、②主成分分析、③因子分析、④分散分析、⑤クラスター分析、とする。さらに、この授業では統計ソフトRについて実習を通して学びます。	
	金沢大学	データで考える日本の未来（データサイエンス）	本授業では、地域の人口・観光・産業・農業等について地方創生の様々な取り組みを情報面から支援するために、経済産業省と内閣官房（まち・ひと・しごと創生本部事務局）が提供しているRESASからデータを収集し、地域の現状を分析するとともに、地域の課題解決に向けた政策アイデアを提案できるようになることを目標とする。	
	金沢大学	統計ソフトRによるビッグデータ分析	日米の経済や金融に関する統計データ及びビッグデータの活用方法および分析手法を学習し、国内外のデータを収集、比較、分析を通して、グローバルな経済や金融の動きをデータに基づいて俯瞰することができるようになることを目的とする。 日本の統計データベースについては、RESAS、e-Statを活用し、米国はUSCensus、BEA、IPMUSを活用する。	
	金沢大学	金融リテラシー	個人の金融行動を通じてライフプランニング能力やキャリア開発能力を身に着けることのできるための、基礎的な金融に関する知識や実践力を習得し、自立した個人として行動ができるための資質を養うことを目標とする。 本授業では、次の内容について学ぶ。 1. ガイダンスと基本事項Ⅰ（金融リテラシーの基本要素） 2. 基本事項Ⅱ（基本となる生活経済知識） 3. 人生の選択 4. 収入と税・社会保険 5. 購買行動と信用履歴 6. 車の購入とペイメントオプション 7. 為替と海外旅行 8. 住宅購入とローン価値 9. リスクマネジメント（健康と病気） 10. リスクマネジメント（交通事故と損害賠償） 11. 資産管理と運用 12. 失業とセーフティネット 13. リタイアメントプログラム 14. 不確実性の理論 15. 持続可能性とパーソナルファイナンス	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	学域GS科目	データサイエンス応用系科目	金沢大学 白書の講読と議論	本授業では、地域の少子化問題について少子化社会対策白書を中心に現状と課題の理解を深めるとともに、統計データを収集して地域の現状を把握する。さらに、少子化対策に関する定量的な政策評価の事例を通して、EBPM (Evidence-Based Policy Making: 証拠に基づく政策立案) について学ぶ。焦点をあてるテーマは、①総人口と人口構造の推移、②出生数、出生率の推移、③婚姻・出産の状況、④結婚をめぐる意識等、⑤出産・子育てをめぐる意識等、⑥結婚や子育てに関する意識、⑦地域比較、とする。	
			金沢大学 地域課題解決と政策立案のための統計データ分析: EBPM (根拠に基づく政策立案)	本授業では、我が国の経済社会構造が急速に変化する中、限られた資源を有効に活用し、国民により信頼される行政を展開することを目指すための取組であるEBPM (エビデンスに基づく政策立案) について学習する。①EBPMとは何かについて説明できること、②政策評価手法について説明することができること、③データを活用して政策評価を行うことができることを目的とする。	
			金沢大学 統計学技能 I	一般社団法人 統計質保証推進協会が実施している統計に関する知識や活用力を評価する全国統一試験である「統計検定」の3級に合格すること。例えば統計検定3級では、大学基礎統計学の知識として求められる統計活用力を評価するものです。「統計検定」に関する基本的な概要および対策方法については、ガイダンスを行って、主体的に各自で準備が進められるように配慮を行う。	
			金沢大学 統計学技能 II	一般社団法人 統計質保証推進協会が実施している統計に関する知識や活用力を評価する全国統一試験である「統計検定」の2級以上に合格すること。例えば統計検定2級では、大学基礎統計学の知識と問題解決力について大学基礎課程(1・2年次学部共通)で習得すべきことを検定するものです。「統計検定」に関する基本的な概要および対策方法については、ガイダンスを行って、主体的に各自で準備が進められるように配慮を行う	
	学域GS言語科目	金沢大学 学域GS言語科目 I	学域GS言語科目 I では1年次のGS言語科目で培った英語運用能力をさらに伸ばすことを目的としている。さらに、専門とする教育分野で必要となる基本的知識や概念を英語で学び、理解・表現ができるようになることを目的とする。この授業は学域GS言語科目 II と連携しており、特に学問分野の英語による基本的理解に重点を置いている。それに付随して英語の運用練習も行う。		
		金沢大学 学域GS言語科目 II	学域GS言語科目 II では1年次のGS言語科目で培った英語運用能力をさらに伸ばすことを目的としている。さらに、専門とする教育分野で必要となる基本的知識や概念を英語で学び、理解・表現ができるようになることを目的とする。この授業は学域GS言語科目 I と連携しており、特に学問分野に関わる内容を英語によって表現することに重点を。それに付随して分野に関する基本的概念についての英語表現も学ぶ。		

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	共通科目	各大学	野外体験活動Ⅰ	小学校や中学校で実施されることの多い野外体験活動についてその活動の目的や学習効果につて、実際に自然体験や合宿を通して実践的に学ぶ。また、野外体験活動の指導に必要な知識や技術を、実際に児童・生徒が宿泊に利用する施設において直接活動内容についての指導を受け、子どもの発達段階に対応した活動のあり方を、学生同士のディスカッションも取り入れながら学んでいく。	
			金沢大学	野外体験活動Ⅱ	野外体験活動Ⅰで学んだ知識や技術、活動の在り方を実際の小学校や中学校が実施する宿泊体験活動にアシスタントとして参加することによって活かすことを目的とする。合わせて、集団行動の管理、安全確保の方策、アクシデント発生時の対応といった実際の宿泊体験活動で起こりうる事態に対処する方法論および教室外での児童・生徒たちとの接し方なども実地に学んでいく。	
			富山大学	基礎ゼミナール	1年生を対象とした講義で、大学や学部の概要を理解して教員免許取得や指導教員の選択に役立てるとともに、大学での学びの技法を習得する。具体的には、図書館の利用方法や、ネットワークリテラシー、情報の整理法、レポートの書き方、プレゼンテーションのスキルなどを身につけ、大学での学びを発展させていく基盤を整えることを目的とする。	
			富山大学	地域教材研究（富山学）	本講義は、富山県に関する歴史・自然・産業・文化など富山県に特色ある内容を取り上げ、地域に対する理解を深めることを通して、(i)教員としての情熱・希望・使命感を高めるとともに、(ii)教材開発などの実践的指導力の向上を図ることである。実施にあたっては、富山県教育委員会と連携を取りながら、第3回から14回までの内容で、小・中・高のいずれかの校種の実務経験教員である指導主事が、学校教育の実情を踏まえた上で、富山県内の地域教材研究のあり方について講義を行う内容となっている。なお、第1回「『富山学』とは何か」2回「地域教材研究とは何か」および第15回「富山学」まとめは富山大学の教員が担当する。	
			各大学	卒業研究	履修者が自ら課題を設定し、研究目的や研究方法を明らかにするために研究計画を立てる。この計画に基づき、先行研究等を踏まえた上で、指導教員のもとで研究を進めるが、その際に倫理的な配慮の重要性についても学ぶ。また、このような研究過程を通して、研究の科学的アプローチを理解するとともに、主体的に研究に取り組む態度や問題解決能力を習得することを目的とする。	
			富山大学	地域共生（福祉）論Ⅰ	近年、社会構造・生活構造の変化に伴い、人々の生活が急激な変化を迎えている。今後考えられる変化として、外国人労働者が持ち込む考え方や文化も踏まえた共生社会をどのように構築できるかを考えていくことは急務である。高齢者、児童、障害者という従来の福祉分野にのみならず、教育や司法の分野、性別や国籍といったありとあらゆる差異を乗り越えて地域を基盤とした共生社会構築をしていくための理論と方法を学ぶ。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 共通科目	富山大学	地域共生（福祉）論Ⅱ	様々な分野は地域を基盤として成立しているとも考えられる。多様化・複雑化する地域の課題に対応しつつ、地域社会の一員としての学校が、『地域共生社会』をどのように構築できるか、地域住民とはなにか、地域生活とは何かを基礎に、ゲマインシャフト・ゲゼルシャフトを超える概念を考えつつ、地域住民の意識の変化や意識改革を通して共生社会構築にどのように学校、教職員が取り組むべきかを学ぶ。	
	富山大学	スクールソーシャルワーク論Ⅰ	近年、急速な少子化の進行、児童虐待問題の深刻化、少年事件に関する問題など児童福祉領域の問題は、非常にクローズアップされている。学校、教職員として問題にどのように対処しうるのか、学校をめぐる課程なども含めた複雑な問題を分析し、教育の枠だけではなく、関連領域の枠組みの諸制度を利用できる実践力を身につける必要がある。教員がスクールソーシャルワーカーと連携し、問題を解決に導くための方法を理解する。	
	富山大学	スクールソーシャルワーク論Ⅱ	文部科学省「スクールソーシャルワーク活用事業」では『いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待など生徒指導上の課題に対応するため、教育分野に関する知識に加えて、社会福祉等の専門的な知識・技術を用いて、児童生徒の置かれた様々な環境に働き掛けて支援を行う、スクールソーシャルワーカーを教育委員会・学校等に配置し、教育相談体制を整備する。』としている。チーム学校を構築し、システムとして問題に対応する方法を学ぶ。	
	富山大学	主権者教育のための批判的思考力・メディアリテラシー	教科書や資料の内容を直接的に理解する機能的リテラシーだけでは、市民社会（市民を主権者とする民主社会）の構成員、すなわち主権者に必須な高次リテラシーは発揮できない。多様な思考、経験を持った市民が集まる社会で、批判的思考力、読解力を発揮し、物事を表からも裏からも多面的に吟味する能力の育成が、各国で市民性教育の柱として重要視されている。メディア報道や具体事例を教材に、討論型授業を実施する。	
	富山大学	事例で学ぶ減災・防災教育論	緊急時には、学校の教員組織の一体となった協力関係が求められる。一方、情報不足が決断を遅らせる事態も発生する。東日本大震災・原発震災では、巨大津波や原発事故の影響で学校現場でも被害や影響が広がった。学校現場で何が起こったのか、多発する自然災害の減災・防災のために、事前の備えを含む、必要な知見を具体事例を通して検討、習得していく。	
	富山大学	プログラミング入門	この講義では、コンピュータは清書やインターネットを閲覧する為の道具ではなく、煩雑な作業を合理化し、効率化する為のツールであるという視点に立ち、プログラミングの考え方をマスターしながら、実際に煩雑な作業に対して自ら解決策を考え、それを簡潔に処理するプログラムを作成出来るようになることを目指す。	
	富山大学	子どもとのふれあい体験	本演習は、社会教育や生涯教育の分野で子どもとふれあい体験を通して、教育の本質を体験的に学ぶ機会を提供することを目的とする。ここでは、単に大学内にとどまらず、地域社会に出て、関係団体・施設等におけるさまざまなボランティア活動を通して、人を育てる人を育成する科目とする役割を果たしている。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 教育の基礎的理解に関する科目	富山大学	教育の思想と歴史(西洋)	西洋社会における古代から現代にいたるまでの学校や子育ての歴史、教育や学校を支える思想・理念の展開、子ども・家族・教師・学校の関係やその変化などを取り上げながら、教育に関する原理の歴史の変遷を辿る。それらを背景となる政治や社会とのかかわりから考察する。これによって、「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に関する基礎知識・技能を身につけ、教育の原理的問題にかかわる基礎教養を習得することが目標である。	メディア
	金沢大学	教育の思想と歴史(日本)	教育の思想と実践の変化を、日本の教育の歴史の中に位置づけて考える。日本社会における古代から現代にいたるまでの教育の理念や思想・実践を包括的に取り上げながら、教育に関する原理の歴史の変遷を辿る。各時代の教育を日本社会のあり方と関連づけながら考察することによって、「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に関する基礎知識・技能を身につけ、教育の原理的問題にかかわる基礎教養を習得することが目標である。	メディア
	富山大学	教職とこれからの教育	教育委員会事務局及び学校管理職経験を活かし、教員をめざす学生が、学校教育や教職について基礎的な事柄を広範な視野で学び、全体像をつかむ。また、学校教育を巡る近年の状況を理解するとともに、これから求められる教員の資質・能力について考え、展望と課題意識をもってその後の教職科目が学べるようにする。 (オムニバス方式/全8回) (131 西島健史/1回, 2回, 3回, 4回) 教員を目指す学生が、教員の仕事や教職の意義について、基礎的な事項を学び、その後の教職課程での学びの全体像をつかむとともに、教師はやりがいと満ちたすばらしい仕事であると、志高く進んでいけるようにする。 (133 林 誠一/5回, 6回, 7回, 8回) 中央教育審議会等から多くの教育改革提言・改革案が提出され、教育の在り方、学校・教員の仕事に大きな変化が求められている。教育改革の動向を踏まえ、教師に求められる資質・能力、学校における働き方改革、チームとしての学校づくりなど、これからの教育について考える。	オムニバス方式
	金沢大学	教職と学校	教育学、および、心理学を代表とする隣接諸学の知見を領域横断的に参照しながら教師という存在を対象化して学的にとらえることを第一の目標とする。受講者は、本講義を通じて、これまでの被教育経験からの教師像からいったん自由になり、あらためて「教師とはどういう存在か」という根本的な問いと向き合うことが求められる。 【オムニバス形式/全8回】 (78平石晃樹/1回, 2回) 公教育の目的と教師の存在意義 (34鳥居和代/1回, 3回) 教職の職業的特徴と教職観の変遷 (70上森さくら/5回) 学校における主権者教育 (74土屋明広/7回) 教員の一、日、服務上・身分上の義務、身分保障 (77原田克巳/6回) チーム学校の一員としての校外資源 (79本所恵/4回) 国際比較から見る教職 (80森慶恵/8回) 学校保健と学校安全	メディア オムニバス方式
	富山大学	教育経営概論(教育改革と学校経営)	近年の教育改革の動向を検証しながら、教育行政の仕組みを理解し、教育経営や学校経営に関する諸問題について関心を持ち、問題解決への展望について考察する。また、学校と地域の協働についての意義や方法について理解し、開かれた学校づくりの成果や課題についての認識を深める。さらに、学校管理下で起こる事故や災害について、具体的事例を踏まえながら、危機管理や事故への対処方法についての理解を深める。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 教育の基礎的理解に関する科目	金沢大学	教育制度概論（就学保障と学校安全）	公教育制度の基本理念と基本的な制度を、就学保障と学校安全を基軸に据えて講義していく。公教育は子どもの就学を保障するために教育行政、教育課程、教科書、就学支援など様々な制度を、その基盤として子どもの安全を保障するための法制度を整備している。本講義は就学支援と学校安全に関する法制度を中心に講義することで、教職に就く者が必要とされる視点や知識を修得することを目標とする。	
	富山大学	教授・学習心理学（個別最適化学習の理論と実践）	近年、一人ひとりの能力や適性に合わせた「公正に個別最適化された学び」の重要性が指摘されている。この授業では、個別最適化学習の重要性を押えた上で、幼児・児童及び生徒の学習や、個別最適化学習に関する基礎的な知識や理論を身につけることを目的とする。また、学習者の発達の状態や能力・適性をふまえた効果的な指導方法についても概説する。	メディア
	金沢大学	発達と教育（自己創出としての発達）	乳幼児期から青年期までの自己創出された発達の特徴を理解するとともに、発達の状態をふまえた指導方法について概説する。前半部分では、教育を行ううえでの発達について学ぶ意義、自己創出としての発達とはどのようなものか、進化の過程でどのような能力や特性を獲得してきたのか見ていく。後半部分では、乳幼児期、児童期、青年期の発達時期に分けて、それぞれの時期に見られる認知、社会性、人格の特徴について理解を深めていく。	メディア
	富山大学	特別な支援を要する子どもの理解	特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達、障害のある子どもを支える制度を理解するため、本授業では特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒（障害のある子ども）の学習上または生活上の困難を理解するために必要な、発達障害や知的障害をはじめとする障害の特性及び心身の発達、そして障害のある子どもを支える制度を概説する。	メディア
	金沢大学	特別支援教育概論	特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育の制度と指導・支援について理解するため、本授業では、特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒（障害のある子ども及び、障害はないが、特別の教育ニーズのある子ども）に対する教育の理念や特別支援教育の制度（特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、特別支援教育コーディネーター、「チーム学校」による支援等）及び、指導・支援について概説する。	メディア
	富山大学	未来をつくる教育課程	本授業は、教育課程編成の基本原則や方法についての基本的な考え方を学び、教育課程の具体的実践例について検討することを通して、教育現場における現在と未来の教育課程について、制度レベルだけではなく実践レベルにおいても考察できるようになることを目的とする。子どもの豊かな学びを実現するために、教師はどのように教育課程に向き合い、実践しているのか、また、子どもたちの未来の社会のために、教師はどのように教育課程を編成する必要があるのかについて、日常的な教師の授業感覚を捉えながら、ともに理解を深める。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	教育の基礎的理解に関する科目	金沢大学	現在をつくる教育課程	本授業は、現在の教育課程がどのような歴史と理念の上に成立しているのか、その教育課程がどのように現在の教育や社会と関わっているのかを学ぶ。そのために、学習指導要領の変遷を、教育実践の具体例および各時代の社会との関わりに触れながら辿り、現在の教育や社会の成り立ちを理解する。また、国内外にある実際の教育課程の具体例を多く取り上げ、その中にある理論を学ぶ。そして実際に教育課程を実施・改善する上での重要事項や留意点など、カリキュラム・マネジメントに関わる基礎知識を具体例から学ぶ。		
		富山大学	道徳教育論（理論）	道徳の教科化は、読み物資料に登場する人物の心情読解に傾斜しがちだった従来の指導法の一面性に対して根本的な反省を促すものであった。このような認識に立つならば、道徳の多様な指導法を学習するのみならず、道徳教育に関する理論的な理解を深めることで、「心の教育」といった一面的理解から脱さねばならない。以上の問題意識に沿いつつ本講義では、道徳の本質に関する哲学、道徳性の発達に関する心理学、道徳教育の歴史、現代社会における道徳教育の課題、道徳教育および道徳科の目標、道徳科の主な内容について解説する。また、模擬授業を導入的に実践しつつ、「道徳の指導法」の学習に向けた基礎的能力を涵養する。	メディア	
		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	金沢大学	道徳教育論（指導法）	道徳の教科化は、読み物資料の人物の心情読解に傾斜しがちだった従来の指導法の一面性に反省を促すものであった。これを受け、本講義では道徳の多様な指導法を紹介・検討することをベースに、いわゆる定番教材を多く取り上げながら、教材研究の意義と手法、創造的な発問の必要性、指導案作成による授業の構造化の重要性等について解説する。最終的には模擬授業の実施を通じて道徳教育の実践力と授業改善の視点を涵養する。	メディア
	各大学		総合的な学習の時間教育論Ⅰ	「総合的な学習（探究）の時間」設置の意義、ねらい、内容構成について理解する。さらに、この総合的な学習（探究）の時間で最も重視すべき点の一つである探究的な学習の在り方について把握した上で、その学習の進め方に関わり、課題設定の方法、追究の方法、整理・分析・課題解決の方法、まとめ・表現の方法等について、それぞれの校種の具体例を取り上げながら、理解を深めていく。また、その際に必要となる教師の指導や支援の方法も検討することにより、実際にこの授業を実施するための基本的な力を身に付ける。		
	各大学		総合的な学習の時間教育論Ⅱ	新しい時代にふさわしい総合的な学習（探究）の時間の授業の在り方について、追究にふさわしい新しい時代に向けた課題の設定方法、追究の具体的な方法、課題解決に向けた取り組み等から検討を行い、理解を深める。さらに地域の小中高等学校における授業実践例を知るとともに、年間指導計画・学習指導案の作成方法や、学習活動における評価の考え方や方法について理解することを通して、実際にこの授業を実施するために必要な力を身に付ける。		
	富山大学		特別活動とカリキュラムマネジメント	本授業は、学校教育における特別活動の意義や目標を理解するとともに、具体的な内容と特質、各教科等との関連（カリキュラム・マネジメント）について学ぶことを目的とする。それぞれの子どもたちの成長や子どもたちの人間関係形成に寄与する特別活動の在り方について、また、特別活動に求められる教師の役割や力量について、さらには、特別活動における生活指導と各教科の授業での学びとのつながりについて、実践事例をもとに教師の視点から理解を深めることを目指す。		

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	金沢大学	特別活動における評価と指導の実際	学校教育における特別活動の指導の在り様を考察していくために、社会的背景や教育政策との関連をふまえて、その位置と役割を理解しつつ、子どもたちの生きる現実を切り拓いていくための特別活動としての今日的課題を明らかにしていく。さらに、学級活動や学校行事など各活動における具体的な評価と指導の在り様や、学校外の資源の活用について、実践記録を共同で分析し合うことを通して、特別活動の指導原理の理論的・実践的な見識を深める。	
	富山大学	教育技術学	主体的・対話的で深い学びや探究的な学習活動、プログラミング的思考の育成等大きく変わろうとしている学校とそこで行われている授業について、教育の方法、指導技術、授業を支援するメディアの役割、情報機器の活用等について理解する。本科目では実習的な活動も取り入れ、授業を受けるだけでなく教える立場として授業を考えることにより、これからの教師に求められる資質、能力について理解し、教材作成、単元開発等、授業実施の準備を自ら行えるよう支援する。	メディア
	金沢大学	教育方法探究	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力とは何かを、さまざまな教育論議や教育実践を通して考え、それらの能力を育成するために必要な、教育の方法に関する知識・技能を学ぶ。創造的な教育実践の思想や取り組みを学び、自分の教育実践を評価し改善する視点を持ちながら、実際の教育を計画・実施できるようになることを目指す。	メディア
	富山大学	生徒指導論	生徒指導の理論的側面と実践的側面について解説する。前者では教育課程上の位置づけ、目指すべき方向、他の教育実践との異同、関連する法律などを講義する。後者では個別指導と集団指導の視点、いじめや虐待といった現代的課題への対応などを講義する。 (オムニバス方式/全8回) (91 近藤龍彰/第1回, 2回, 3回, 7回担当) 生徒指導の定義と位置づけ、体罰と懲戒に関する法令、多動に着目した個別指導と集団指導、虐待への対応について解説する。 (47 石津憲一郎/第4回, 5回, 6回, 8回担当) 対人関係面への生徒指導、個別指導と集団指導の視点、いじめへの対応、外部機関との連携協力の在り方について解説する。	メディア オムニバス方式
	富山大学	教育相談の理論	教育現場で教師が使える教育相談の考え方(哲学)と技法の習得および、外部機関との連携について学校心理学の視点から学ぶ。また、児童期から青年期までの発達について触れることで、子どもたちが成長していくことについて心理学的な側面から理解を深めていく。 (47 石津憲一郎/第4回, 5回, 6回, 8回担当) 学校における心理教育的援助サービスの理論について概観した後、チームとしての支援の実際を解説する。 (91 近藤龍彰/第1回, 2回, 3回, 5回担当) 教育相談の理念と定義、子供の発達に即した支援の実際について開設する。	メディア オムニバス方式

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	金沢大学	学校カウンセリング	学校教育現場において、教職員（スクールカウンセラーを含む）が向き合うこととなる主要な教育的課題の中から、いじめ、不登校、虐待、貧困をテーマとして取り上げる。統計資料から実態を把握し、関係する法令等から国が示す施策の方針と対応の指針を理解する。その上で、諸問題に関わっての児童生徒の心理的苦痛や背景要因について紹介し、教職員として児童生徒および保護者に対する指導と支援を、協働・連携の視点を含めてどのように行えばよいかを考察する。また、指導・支援を考察し、自らの技能とするために、学校カウンセリングの基本的な理論と技法を紹介する。	メディア
		金沢大学	子どもの生活とキャリア教育	学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むキャリア教育のために、若年労働市場の変容、格差・貧困の拡大、消費社会化、家族・地域の変容といった現代社会における諸課題と共にあるキャリア教育の課題を明らかにした上で、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付け、指導の在り方を具体的に構想する。	メディア
	教育実践に関する科目	各大学	教育実習A(幼・小) (事前事後指導を含む)	事前指導は、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とし、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、遵守すべき義務等について理解する。教育実習では、実習校で教職員の指導を受けながら、大学で学んだ専門知識に加えて、指導や支援の方法や技術を「教師」の立場で検証するとともに、園児・児童の実態や、学校・学級経営及び幼稚園・小学校における教育活動の特色について理解を進める。事後指導では、教育実習の体験を総括し、学生間で共有することで、今後教師として成長していくためのさらなる課題を自覚することを目的とする。	
		各大学	教育実習A(中・高) (事前事後指導を含む)	事前指導は、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とし、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、遵守すべき義務等について理解する。教育実習では、実習校で教職員の指導を受けながら、大学で学んだ専門知識に加えて、指導や支援の方法や技術を「教師」の立場で検証するとともに、生徒の実態や、学校・学級経営及び中学校・高等学校における教育活動の特色について理解を進める。事後指導では、教育実習の体験を総括し、学生間で共有することで、今後教師として成長していくためのさらなる課題を自覚することを目的とする。	
		各大学	教育実習B(小)	小学校における教師の多様な教育実践や教師としての仕事(実務)を体験することを通して、教育の重要性・多様性・困難性を学び取るとともに、大学で学習した理論や技術を実習校での実践を通して具体的、統合的に確認する。また、児童と接することでコミュニケーションの取り方や、学習者を多面的な視点で観察する姿勢を身につけ、さらに、教師としての基礎的力量を育成するとともに、その使命感と責任感を培い、教職の本質を理解するよう努めることを目的とする。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	教育実践に関する科目	各大学	教育実習B(中・高)	中学校・高等学校における教師の多様な教育実践や教師としての仕事(実務)を体験することを通して、教育の重要性・多様性・困難性を学び取るとともに、大学で学習した理論や技術を実習校での実践を通して具体的、統合的に確認する。また、生徒と接することでコミュニケーションの取り方や、学習者を多面的な視点で観察する姿勢を身につけ、さらに、教師としての基礎的力量を育成するとともに、その使命感と責任感を培い、教職の本質を理解するよう努めることを目的とする。	
			各大学	教育実習B(特別支援)	特別支援学校における教師の多様な教育実践や教師としての仕事(実務)を体験することを通して、教育の重要性・多様性・困難性を学び取るとともに、大学で学習した理論や技術を実習校での実践を通して具体的、統合的に確認する。また、児童・生徒と接することでコミュニケーションの取り方や、学習者を多面的な視点で観察する姿勢を身につけ、さらに、教師としての基礎的力量を育成するとともに、その使命感と責任感を培い、教職の本質を理解するよう努めることを目的とする。	
			各大学	教育実習B(幼)	幼稚園における教師の多様な教育実践や教師としての仕事(実務)を体験することを通して、教育の重要性・多様性・困難性を学び取るとともに、大学で学習した理論や技術を実習校での実践を通して具体的、統合的に確認する。また、園児と接することでコミュニケーションの取り方や、学習者を多面的な視点で観察する姿勢を身につけ、さらに、教師としての基礎的力量を育成するとともに、その使命感と責任感を培い、教職の本質を理解するよう努めることを目的とする。	
			各大学	教職実践演習(幼・小・中・高)	「履修カルテ」等を用いてこれまでの学修を振り返り、自己の到達点を確認するとともに、教職についての考えを深めるためのグループワークや模擬授業等を通して、教員として必要な資質・能力を確認し、それらの向上を図る。学生は、この科目を通して以下ができるようになる。①教職に関する様々な課題についてグループで議論しつつ取り組む。②教育実習等の振り返りを行い、自分自身の資質・能力を評価して、教師になるために適切な目標を設定する。③特定の学年・教科のための指導案を書く。④授業参与観察や現職・退職教員の講義をもとに、学校での教育に関して理解を深める。とりわけ、教員として重要な(1)使命感や責任感、教育的愛情等、(2)社会性や対人関係能力、(3)児童生徒理解や学級経営等、(4)教科等の指導力の4項目に関して自己評価を行い、これらの資質・能力を身につける。 (共同・オムニバス方式/全15回) (70 上森さくら:金大クラス/1回~10回, 12回~15回, 96 増田(田中)美奈:富大クラス/1回~10回, 12回~15回) 教員の役割や教職に必要とされる社会性、児童生徒理解や学級経営等について講義とグループワークを行い、授業参与観察の指導をする。 (39 守屋哲治:金大クラス/1回, 11回~13回, 15 徳橋曜:富大クラス/1回, 11回~13回) 教育実習等を振り返らせた上で、指導案の作成や検討について講義とグループワークを行い、模擬授業の助言指導を行う。 ※1回, 12回, 13回は共同で実施 1回/当該授業のオリエンテーションを共同で行う。 12回, 13回/指導案の発表に係るグループワーク及び模擬授業の指導助言等を共同で行う。	オムニバス方式・共同(一部)

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	教育実践に関する科目	富山大学	学校インターンシップⅠ（小）	<p>本授業は、教員志望学生が実際の学級担任教師の日常的職務活動の具体的場面に直接参加し、学級担任としての学級経営や、学習・行動上気になる子どもの支援についてのリアリティを獲得することを通して、自身の教師としての資質・能力などの向上を図るものである。また、担当者に小学校、中学校、特別支援学校の実務経験教員を含んでおり、前半の講義部分の一部を担当しながら、中間発表会、配置校でのフィールドワーク報告において現場の経験に基づいてアドバイスを行う。</p> <p>なお、本授業は富山県教育委員会との連携事業であり、県内教育事務所及び地方教育委員会の協力を得て実施されている。</p>	
		金沢大学	学校インターンシップⅡ（幼・小）	<p>授業補助、放課後学習、その他校務の手伝いを通して、子ども理解や教師としての指導技術、校務について学び、教師としての実践的な能力を身につける。この授業では幼稚園・小学校においてインターンとして活動し、教師の日常的職務活動を補助することを通して学級経営や子どもの支援について学び、自身の教師としての資質・能力などの向上を図る。</p>	
		金沢大学	学校インターンシップⅡ（中・高）	<p>授業補助、放課後学習、その他校務の手伝いを通して、子ども理解や教師としての指導技術、校務について学び、教師としての実践的な能力を身につける。この授業では中学校・高等学校においてインターンとして活動し、教師の日常的職務活動を補助することを通して学級経営や生徒の学習支援等のあり方を学び、自身の教師としての資質・能力などの向上を図る。</p>	
	小学校の教科に関する科目	富山大学	国語科基礎A（書写を含む）（低・中学年の国語科と現代の教育課題）	<p>（概要）知識及び技能、「読むこと」「書くこと」領域の内容理解を目標とした授業を実践するための国語科の各分野の基礎知識を概説する。先行研究で基礎を固めた上で、エビデンスに基づく計量的な研究成果も踏まえて、現代的な国語科の授業・研究のあり方を提案する。知識だけではなく、十分な実践力を育成するために、必要に応じて簡単な課題の作成、発表など行う場合もある。受講者と一緒に、地域・現代の文学作品、方言、伝統芸能を題材に地域に根差した国語科の学習を創造する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（59 宮城信／1回，2回，3回，4回） 初回に、学習指導要領における各講義の位置づけを確認する。2回～4回は、日本語の小さな単位（文字）から、大きな単位（文章の種類）まで概観しながら、言葉のシステムとしての日本語を捉え、国語教育でどのような知識を扱う必要があるかを検討する。</p> <p>（94 武田裕司／5回） 5回は、国語科における書写指導の目標を確認するとともに、その指導のあり方について検討する。</p> <p>（17 西田谷洋／6回，7回，8回） 6～8回は物語・詩歌・評論・随筆など様々なジャンルの文学教材を概観しながら、地域教材あるいは文字教材以外のメディア教材をとりあげ、論理と創作を接続するなど先進的なテーマにとりあげることで、どのように国語教育で文学に取り組むかを検討する。</p>	メディア オムニバス方式

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	金沢大学	国語科基礎B（書写を含む）（地域の文学を含む）	<p>小学校国語科を担当するのに必要な国文学・国語学の基礎知識の習得と書写指導の基礎を修得する。日本近代文学・日本古典文学・漢文学についての基礎的な教養を習得し、作品はいかに読むべきなのかという問題を検討する。小学校国語科を担当するのに必要な国文学・国語学の基礎知識の習得と書写指導の基礎を修得する。日本近代文学・日本古典文学・漢文学についての基礎的な教養を習得し、作品はいかに読むべきなのかという問題を検討する。また国語科高学年の書写に関する基礎知識を習得する。北陸出身、あるいはゆかりの文学者の作品についても取り上げ、地域の文学への理解と関心を深めるようにする。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（66 飯島洋／1回、2回、3回、4回） 小説と詩歌を取り上げ、論理的・構造的な読解のありかたについて検討する。北陸にかかわる文学作品についても取り上げ、地域への理解を深めるようにする。</p> <p>（71 大野順子／5回） 古典文学の基礎的な読解について修得する。</p> <p>（76 原田愛／6回） 漢字文化および、日本文化における漢語の影響について修得する。</p> <p>（24 折川司／7回、8回） 国語科書写の位置と役割および国語科書写において指導する内容について理解の深化を図る。また国語科高学年の書写に関する基礎知識を習得する。北陸出身、あるいはゆかりの文学者の作品についても取り上げ、地域の文学への理解と関心を深めるようにする。</p>	メディア オムニバス方式
				小学校の教科に関する科目	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	小学校の教科に関する科目	富山大学	<p>社会科学基礎A（中学年の社会科と現代の教育課題）</p> <p>（概要）富山・石川両県に関する地域研究の成果も踏まえ、地域学習が重視される小学校中学年の社会科授業を行う上で必要な知見を教授する。各担当教員が、地理学・歴史学・社会科学3分野の知見を小学校社会科教育の目標・内容に反映させた授業構成の方法について、必要な視点や考え方を提供する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（19 山根 拓／1回, 2回, 3回） まず、学習指導要領から小学校中学年社会科教育の狙いと現代的課題を探る。次に、地理的見方・考え方に基づく身近な地域や都道府県の教え方・学び方について教授する。最後に、初等中等教育における地理教育の意義を、地誌教育・地図教育・野外学習等をキーワードに講義する。</p> <p>（53 中村只吾／4回, 5回） 歴史の見方・学び方・伝え方について説明し、その上で小学校歴史教育で重視される内容・方法・素材について講義する。</p> <p>（51 志賀文哉・46 池田丈佑／6回） 小学校中学年社会科における社会科学的アプローチの意義を、特に主権者教育の観点から講義する。</p> <p>（51 志賀文哉／7回） 社会的な見方・考え方の連続性に注目して、小学校学習指導要領を解説する。</p> <p>（46 池田丈佑／8回） 小学校教員が、地域社会の諸事象を政治・経済学的にどのように捉え、どのように教えればよいのかについて講義する。</p>	メディア オムニバス方式
			金沢大学	<p>社会科学基礎B（高学年の社会科と現代の教育課題）</p> <p>（概要）法学、地理学、哲学、日本史からそれぞれ小学校の社会科を教える上で基礎となるテーマを選び出し、解説する。授業においてはグループによる発表や討論を取り入れ、問題を参加者と協働で探究する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（68 石川多加子／1回, 2回） 日本国憲法の制定過程、その基本原理、および各条文について、戦後どのような裁判が争われてきたかの事例を紹介する。</p> <p>（84 吉田国光／3回, 4回） 「地理学」の方法から初等教育における社会科地理を学ぶ方法を問い直す。「知らない地域」をどのように学のか、なぜ学ぶ必要があるのかを、教えられる教師となるための方法を習得する。</p> <p>（40 山本英輔／5回, 6回） 現代の環境思想を学び、環境教育を問い直す。また環境問題と食の連関を理解し、食を哲学的に考察する。</p> <p>（26 黒田智／7回, 8回） 私たちが生きる現在の歴史的位置を相対化しながら、歴史を学ぶ愉しさと意義、多様な史料から構築される歴史研究の基本的な方法を理解する。</p>	メディア オムニバス方式

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	小学校の教科に関する科目	富山大学	算数科基礎A（低・中学年）	この授業では、小学校で算数を教える際に必要となる数学の基礎を学ぶ。数の分類を理解し、特に素数と約数の問題を深く学ぶ。連分数展開を通して分数の計算方法を再確認し、計算力を養う。論理については、必要十分条件などの仕組みを理解し、背理法を用いた命題の証明を学ぶ。また、関数と方程式の基礎を学び、身の回りの現象を数学的に説明できるようになる。	メディア
		金沢大学	算数科基礎B（高学年）	算数科の高学年の内容と、それに関連する事象に関する知識及び技能や考え方を身につけるために、算数科の主に高学年の各領域・内容に関する教育的な分析に取り組む。具体的には、数学的な概念や構造、アイデアと、それらによって説明される、日常生活や社会の事象や数学の事象との関係について、児童の学習過程を踏まえて検討する。	メディア
		富山大学	理科基礎A（理論）	（概要）小学校理科の授業を担当できる力を養うために、理科の4分野（物理・化学・生物・地学）について基礎的な知識・技能を習得する。 （オムニバス方式／全8回） （54 成行泰裕／1回、2回） 物理分野の基礎理論として、力と運動・物質の性質・音と光の性質・電気と磁石について講義する。 （6 片岡弘／3回、4回） 化学分野の基礎理論として、物質の構成と変化について講義する。 （60 安本(和田)史恵／5回、6回） 生物分野の基礎理論として、生物の構造と機能・生命の連続性および生物と環境の関わりについて講義する。 （88 河村愛／7回、8回） 地学分野の基礎理論として、固体地球表層・気象・天文について講義する。	メディア オムニバス方式
		金沢大学	理科基礎B（実践）	（概要）小学校の理科授業において必要な知識・技能と実験・観察の方法を、物理・化学・生物・地学の各分野において習得する。 （オムニバス方式／全8回） （32 辻井宏之／1回、2回） 物理分野の実践について学ぶ。 （97 小松田(佐藤)沙也加／3回、4回） 化学分野の実践について学ぶ。 （25 川幡佳一／5回、6回） 生物分野の実践について学ぶ。 （28 酒寄淳史／7回、8回） 地学分野の実践について学ぶ。	メディア オムニバス方式

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目 小学校の教科に関する科目	富山大学	生活科基礎A（講義）	小学校生活科において必要な基礎的知識・技能を取得することを目的に、生活科の各内容のまとめり毎の学習対象、内容構成の具体的視点についての知識と技能の習得を図る。その際、生活科全体の指導計画を理解し、見直しをもって学習を進められるようにするために、各領域に関する内容の授業特性について学び、授業実践力の育成を目指す。生活科と他教科との関連や学問領域との関係にも触れ、小学校における生活科の意義についても学んでいく。	メディア
		各大学	生活科基礎B（実践）	自然体験や栽培などの様々な体験は豊かな学力形成の基盤となるが、近年の子どもたちの体験不足は指摘されて久しい。これも背景となって、とりわけ小学校生活科は体験活動が重視されている。教員になった際に授業で実施する体験活動の実践力を高めることを目的に、生活科で特に重視されている花や野菜等の栽培に関する実践を掘り下げて研究したり、地域学習等としてフィールドワークに出かけたりして、小学校教員としての具体的な授業構想が可能になる力を育成することを目標とする。	
		富山大学	音楽科基礎A（講義）	教科書に掲載されている教材の演習、講義または鑑賞を通して、小学校音楽科の指導に必要な基本的知識を習得する。講義では、楽曲を演奏する技能や歴史的・文化的背景といった知識の習得にとどまらず、取り上げる楽曲について教科内容の視点から検討し、授業実践において教材化するための知識・技能を習得することを目指す。また、鑑賞教材の学修にあたっては必ず音を通して、音楽づくりについては実際の創作を通してそれぞれ理解する。	
		各大学	音楽科基礎B（実践）	（概要）初級者と中級者以上にグループ分けをし、初級者ではバイエル教則本と弾き歌いの個人レッスンをし、中級者以上には、修得しているピアノの演奏技術を前提に、鍵盤和声による小学校歌唱教材のピアノ伴奏編曲法の集団指導をする。 （93 多賀秀紀／23 小野隆太、20 安藤常光） 初級者を担当し、バイエル教則本から14番、15番、25番、29番、40番、48番、49番、52番、56番、60番と弾き歌い（茶つみ）の個人レッスンをし。 （64 浅井（橋場）暁子） 中級者を担当し、修得しているピアノの演奏技術を前提に、楽典基礎、基本的なカデンツの基礎と応用、借用和音の理解と利用、コードネームの基礎と習得、曲調に合わせた伴奏形のアレンジ基礎と応用、メロディー譜を用いた伴奏づけ実践、オリジナル伴奏による発表などの鍵盤和声による小学校歌唱教材のピアノ伴奏編曲法の集団指導をする。	共同
		富山大学	図画工作科基礎A	本講義は、できるだけ小学校教育の現場における取り組みを想定した内容の紹介を目指して構成している。そのために、小学校の図画工作科を担当するために現在の図画工作科指導における課題を踏まえて、学習指導要領に示された領域および内容項目に指導するために必要な専門的で基礎的な知識および技能を獲得することを目的とする。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	小学校の教科に関する科目	各大学	図画工作科基礎B (実践) 小学校図画工作科における表現技能の要点理解を目標とし、中学校美術科との連結をねらいに造形遊び的・絵画的・彫刻的・デザインの・工芸工作的な図画工作科題材とその作品制作をおこなうとともに受講者自身の造形表現技能のスキルアップを図る。 (オムニバス方式/全8回) (22 大村雅章と151 江藤望/1回, 2回, 3回, 4回) 図画工作科教科書より絵画・彫刻的な題材とその主題・材料・用具・技法を分析する。また、短時間の造形遊び題材を楽しみ、絵画・彫刻的表現に用いる材料・用具の経験の必要性について分析する。その後、絵画・彫刻的な主題の発想・構想とその表現をおこなう。第4回では絵画・彫刻的な作品とその鑑賞・評価をおこない、受講者自身が自分の感覚や行為を通して、形や色、質感、機能などの造形的な特徴を理解することを図る。 (大村雅章) 絵画 (江藤望) 彫刻 (67 池上貴之と44 鷺山靖/5回, 6回, 7回, 8回) 図画工作科教科書よりデザイン・工作工芸的な題材とその主題・材料・用具・技法を分析する。また、短時間の造形遊び題材を楽しみ、デザイン・工作工芸的表現に用いる材料・用具の経験の必要性について分析する。その後、デザイン・工作工芸的な主題の発想・構想とその表現をおこなう。第8回ではデザイン・工作工芸的な作品とその鑑賞・評価をおこない、受講者自身が自分の感覚や行為を通して、形や色、質感、機能などの造形的な特徴を理解することを図る。 (池上貴之) デザイン (鷺山靖) 工作	オムニバス方式・共同 (金沢クラスのみ)
			富山大学	家庭科基礎A (住居・食物と現代の教育課題) (概要) 小学校家庭科の食生活および住生活分野の内容を理解し、その背景となる基礎知識や考え方を深め、家庭科における現代の教育課題を踏まえ実践につなげて考えることができることを到達目標とする。授業では食生活および住生活分野を中心に、小学校家庭科に関連する基礎的・基本的な知識について講義する。また両分野の各内容において、現代の教育課題についても取り上げる。 (オムニバス方式/全8回) (57 藤本孝子/1回, 2回, 3回, 4回) 食生活、調理、栄養素、栄養バランスについて、現代の教育課題を踏まえながら講義する。 (1 秋月有紀/5回, 6回, 7回, 8回) 住まいの歴史、計画、環境・設備、安全・管理について、現代の教育課題を踏まえながら講義する。	メディア オムニバス方式

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	小学校の教科に関する科目	金沢大学	家庭科基礎B（被服・家庭経営と現代の教育課題）	<p>（概要）小学校家庭科において、「家族・家庭生活」、「消費生活・環境」および「衣食住の生活」について扱われている。家族・家庭生活、消費生活および衣生活に関する基礎的な知識を習得し、学校教育において地域・環境へ配慮した生活の送り方を念頭においた授業展開ができるようになることを授業目標とする。本授業では、小学校家庭科における家族・家庭生活、消費生活および衣生活に関する指導目標および指導内容に応じた基礎的な内容を学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（75 花輪由樹／1回, 2回, 3回, 4回） 消費生活に関する講義において、家族・家庭と暮らし、ものやお金の使い方などを解説し、これからの消費生活や地域での工夫の仕方を検討していく。</p> <p>（81 森島美佳／5回, 6回, 7回, 8回） 衣生活に関する講義において、衣服の種類、役割、素材や取扱い方などを解説し、環境に配慮した衣生活における工夫の仕方を検討していく。</p>	メディア オムニバス方式
			金沢大学	家庭科基礎C（実習）	<p>学校教育で被服製作実習を展開していくために必要な基礎知識と技能を習得し、ICTを活用した適切な実習計画、材料や用具の準備および安全性に配慮した授業展開ができるようになることを授業目標とする。本授業の前半では手縫いによる製作と教示用の動画を作成し、後半では不要な布を用いたミシン縫いによる小物製作を行う。</p>	
			金沢大学	体育科基礎A	<p>（概要）体育科教育および学校保健の各研究領域の理論を踏まえ、それを活かした授業実践について検討し、学習指導方法に関する理解を深めていく。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（83 横山剛士／1回, 2回, 3回, 4回） 体育科の指導方法論の「よい体育授業の条件」「運動が苦手な児童への学習指導」等に関して理解を深める。</p> <p>（21 岩田英樹／5回, 6回, 7回, 8回） 体育科保健領域の「健康な生活」、「体の発育・発達」、「心の健康・けがの防止」、「病気の予防」で取り扱う教材等を取り上げ、保健領域における学習方法に関する理解を深める。</p>	メディア オムニバス方式
			各大学	体育科基礎B（実践）	<p>（概要）本科目では体育科教育においてみんながわかり、うまくなることをめざして開発されてきた教材群を体験しながら、多様な教材群を指導する上で必要となる基礎的な戦術・技術の方法や、教材づくりの方法を理解することを目標とする。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（82 山田哲／1回, 2回, 3回, 4回, 5回, 6回） 「体づくりの運動」、「器械運動」、「水泳」の学習指導方法について演習を行う。</p> <p>（36 増田和実／7回, 8回） 「ボール運動（ゴール型）」や「ボール運動（ネット型）」の学習指導方法について演習を行う。</p>	オムニバス方式 （金沢クラスのみ）

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	小学校の教科に関する科目	金沢大学	英語科基礎A（理論）	<p>（概要）小学校での授業実践に必要なコミュニケーション力を涵養するとともに、英語の音声・正書法や第二言語習得、児童文学などの事項を学習する。授業においてはグループによる討論などアクティブラーニングを積極的に取り入れる一方で、英語コミュニケーション能力の向上を図るため、適宜英語による発表やディスカッションを行う。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（30 滝沢雄一／1回，2回） コミュニケーションの構成要素、及びコミュニケーション能力、第二言語習得について学習し、それを踏まえた授業実践における言語活動のあり方について議論、考察する。</p> <p>（39 守屋哲治／3回，4回） 英語の指導の基盤となる英語の音声及び文字について、基礎となる知識、技能について解説や実技を通して学ぶ。</p> <p>（72 久保拓也／5回，6回，7回，8回） 英語の正書法、絵本や歌・詩などについて学習し、授業での活用について議論、検討する。</p>	メディア オムニバス方式
		金沢大学	英語科基礎B（実践）	<p>小学校での授業実践に必要なコミュニケーション力を涵養するとともに、英語の語彙・文法や第二言語習得、異文化理解などの事項を学習する。授業においてはグループによる討論などアクティブラーニングを積極的に取り入れる一方で、英語コミュニケーション能力の向上を図るため、適宜英語による発表やディスカッションを行う。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（30 滝沢雄一／1回，2回） クラスルーム・イングリッシュや授業で英語を話して聞かせるために必要な知識を学び、演習等を通して活用できる技能を身に付ける。</p> <p>（39 守屋哲治／3回，4回） 英語の指導の基盤となる英語の語彙や文法について、基礎となる知識、技能について解説や実技を通して学ぶ。</p> <p>（41 山本卓／5回，6回，7回，8回） 世界及び日本における英語の役割や位置づけ、異文化理解などについての知識を学び、それらを踏まえた授業について議論、検討する。</p>	メディア オムニバス方式
	各大学	初等国語科教育法Ⅰ	<p>現行の小学校学習指導要領〔国語〕の内容をベースとして新指導要領の内容にも目配りをしながら国語科の目標、指導内容、指導法等について概説する。領域としては「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」を扱う。それにより、小学校教員として国語科の学習指導を担当する際に必要となる基礎的な知識を得、心構えを身につけることができる。また、毎時間の終盤において、国語科指導の構想や教材開発、個別支援の方法、情報機器及び教材の活用などについて「教師の視点から考え、グループで検討する」という小課題や模擬授業に取り組み、小学校教員としての授業実践力をつける。</p>		

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	小学校の教科指導法	各大学	初等国語科教育法Ⅱ	<p>現行の小学校学習指導要領〔国語〕の内容をベースとして新指導要領の内容にも目配りをしながら国語科の目標、指導内容、指導法等について概説する。領域としては「読むこと」を扱い、加えて「知識及び技能」の内容や学習評価についても整理する。それにより、小学校教員として国語科の学習指導を担当する際に必要となる基礎的な知識を得、心構えを身につけることができる。また、毎時間の終盤において、国語科指導の構想や教材開発、個別支援の方法、情報機器及び教材の活用などについて「教師の視点から考え、グループで検討する」という小課題や模擬授業に取り組み、小学校教員としての授業実践力をつける。</p>	
			各大学	初等社会科教育法Ⅰ	<p>小学校の学習指導要領の「社会科」を解説する。とりわけ小学校3～4年は地域学習、5年生は産業学習、6年生は日本史と憲法学習であることを説明する。日本史は42人の具体的な名前を挙げて「例えばこの人物を教えること」と例示されており、それぞれの人物がどのような業績を上げた人物なのか、具体的な模範授業を通じて示す（例として杉田玄白、ペリー、野口英世）。</p>	
			各大学	初等社会科教育法Ⅱ	<p>子どもの心を揺さぶるような社会科の授業はどのようにして設計されるのか、その基本的なノウハウを教授する。社会科の授業の面白さの本質は、アクティブラーニングなどの学習方法以前に、教育内容の「意外性」と「ストーリー性」であることを講義し、意外性を盛り込むためにはどのようなリサーチが必要なのかを説明する。そのうえで、実際に学生にリサーチを行わせ、模擬授業プランをレポートとして提出させる。</p>	
			各大学	初等算数科教育法Ⅰ	<p>算数科の目標と内容、指導法についての知識及び技能や考え方を身につけるために、算数科の目標とその特質、内容とその構造についての知見を基に、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域における授業の視聴とその検討を通して、個別の学習内容における児童の認識・思考や、指導上の留意点等、算数科の指導法についての知見を得る。</p>	
			各大学	初等算数科教育法Ⅱ	<p>算数科の指導法についての実践的な知識及び技能や考え方を身につけ、算数科の授業を設計することができるようになるために、算数科における教材研究、授業の設計、情報機器及び教材の活用、学習評価についての知見を得て、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を実現する授業を設計し、模擬授業とその振り返りを行い、さらに算数科の実践研究とその課題について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(69 伊藤伸也／1回、2回、3回、4回、7回、8回) 算数科における教材研究とその方法、授業の設計、情報機器及び教材の活用、学習評価、算数科の実践研究とその課題について講義し、本科目を総括し展望を示す。</p> <p>(43 米田力生／5回、6回) 算数科授業の構想と学習指導案の作成、模擬授業とその振り返りを行う。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	小学校の教科指導法	各大学	初等理科教育法Ⅰ	本授業は、小学校理科の学習指導要領に基づいた解説や具体的な授業実践例を通して、理科の目標、子どもに育成する能力、指導技術、教材内容について理解し、小学校における理科教育の基本的事項を習得することを目的としている。とくに、小学校理科の目標については、理科を学ぶ意義について、内容については、具体的な教材を例に教材の工夫や内容区分の意義について理解する。また、理科における見方・考え方に基づく思考と問題解決の能力、さらに、主体的な学習のための工夫について授業実践事例を通して理解する。	
			各大学	初等理科教育法Ⅱ	本授業は、小学校理科の学習指導要領に基づいた解説や授業実践例を通して、理科の指導計画、指導技術、教材内容、評価方法について理解し、小学校における理科教育の基本的事項を習得することを目的としている。小学校の教材を例に具体的な単元構成と指導案の作成を行い、作成した指導案にもとづく模擬授業と模擬授業の評価を行う。その際、理科における学習評価、学習形態の工夫や学級経営のありかたについて検討する。また、理科における情報機器の活用や、理科における事故防止と理科室の管理運営についても考慮するようにする。	
			各大学	初等生活科教育法Ⅰ	小学校の家庭科の授業を担当するために、必要な知識、技能、態度を獲得し育成することを目的とする。小学校の家庭科の授業実践を想定し、そのために必要とされる家庭科教育の基礎的な教育原理、教育方法などについて理解し、知識や技能を習得する。小学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容の学問的背景や社会的状況、教材研究、指導法、情報機器及び教材の活用法、カリキュラムや授業の構想、模擬授業等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。内容論では、主として食生活、衣生活、住生活について講義する。課題等により予習・復習を促す。	
			各大学	初等生活科教育法Ⅱ	小学校の家庭科の授業を担当するために、必要な知識、技能、態度を獲得し育成することを目的とする。小学校の家庭科の授業実践を想定し、そのために必要とされる家庭科教育の基礎的な教育原理、教育方法などについて理解し、知識や技能を習得する。小学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容の学問的背景や社会的状況、教材研究、教材開発、指導法、情報機器及び教材の活用法、カリキュラムや授業の構想、模擬授業等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。内容論では、主として家族・家庭生活、消費生活・環境について講義する。課題等により予習・復習を促す。	
			各大学	初等音楽科教育法Ⅰ	学習指導要領における小学校音楽科の目標および内容等を総合的に理解し、学習指導案の作成につなげることができる。講義では、音楽科教育に関する理論的内容を中心に扱い、授業を組織するための基礎的な内容を学修する。特に、目標論と評価論、音楽科の授業構成についての歴史の変遷を踏まえ、学習指導要領を相対化し、今後の授業のあり方を展望できるための素地を身につける。講義の期間中にはレポート課題によって、学修内容の定着をはかる。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	小学校の教科指導法	各大学	初等音楽科教育法Ⅱ	学習指導要領における小学校音楽科の目標および内容等を総合的に理解し、学習指導案を作成し模擬授業として実践する。講義では、音楽科基礎AB及び初等音楽科教育法Ⅰでの学修をもとに、学習指導要領における教科内容やそれらを踏まえた学習指導計画を、授業構成に関する理論を援用しつつ作成できるようにする。また、模擬授業の実践を通して、授業を省察するための視点を獲得し、自律的な授業改善を実現するための素地も身につける。	
			各大学	初等図画工作科教育法Ⅰ	(概要) 小学校図画工作科の教育課程及指導法の基礎知識・技能を身につけるとともに、同教科の意義、目標、内容、方法について理解を深める。 (オムニバス方式/全8回) (44 鷲山靖/1回、2回、3回、4回) 算小学校図画工作科の意義、目的を学ぶ。 (151 江藤望/5回、6回、7回、8回) 学習指導要領を踏まえた教科の内容を習得する	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
			各大学	初等図画工作科教育法Ⅱ	(概要) 初等図画工作科教育法Ⅰの学習に基づき、引き続き図画工作科の教育課程及指導法の基礎知識・技能を身につけるとともに、同教科の意義、目標、内容、方法について理解を深める。 (オムニバス方式/全8回) (151 江藤望/1回、2回、3回、4回) 学習指導要領を踏まえた教科の内容を習得する (67 池上貴之/5回、6回、7回、8回) 情報機器及び教材の活用を含む基礎的な授業方法を理解するとともに模擬授業等の演習を通して授業技能を身につける。	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
			各大学	初等家庭科教育法Ⅰ	小学校の家庭科の授業を担当するために、必要な知識、技能、態度を獲得し育成することを目的とする。小学校の家庭科の授業実践を想定し、そのために必要とされる家庭科教育の基礎的な教育原理、教育方法などについて理解し、知識や技能を習得する。小学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容の学問的背景や社会的状況、教材研究、指導法、情報機器及び教材の活用法、カリキュラムや授業の構想、模擬授業等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。内容論では、主として食生活、衣生活、住生活について講義する。課題等により予習・復習を促す。	
			各大学	初等家庭科教育法Ⅱ	小学校の家庭科の授業を担当するために、必要な知識、技能、態度を獲得し育成することを目的とする。この講義では、小学校の家庭科の授業実践を想定し、そのために必要とされる家庭科教育の基礎的な教育原理、教育方法などについて理解し、知識や技能を習得する。小学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容の学問的背景や社会的状況、教材研究、教材開発、指導法、情報機器及び教材の活用法、カリキュラムや授業の構想、模擬授業等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。内容論では、主として家族・家庭生活、消費生活・環境について講義する。課題等により予習・復習を促す。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目 専門基礎科目	小学校の教科指導法	各大学	初等体育科教育法Ⅰ (概要) 本科目では体育科教育における教科目標論、教科内容論、学習指導論、教育課程論の基礎理論を理解し、体育科教育の全体構造を理解する。 (オムニバス方式/全8回) (83 横山剛士/1回, 2回, 3回, 4回, 5回, 6回) 体育科教育に関する基本的事項である目標・内容論、学習指導要領の変遷・特徴、学習指導論等について理解する。 (21 岩田英樹/7回, 8回) 体育科保健領域における授業づくりと、模擬授業と省察を演習形式で行う。	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)	
		各大学	初等体育科教育法Ⅱ (概要) 体育科教育の各領域における目標・内容・方法・評価について検討することで、各領域における具体的な指導上の留意点について理解する。 (オムニバス方式/全8回) (83 横山剛士/1回, 2回, 3回, 4回, 5回, 6回) 体育科における指導実践に関わる授業計画、学習評価を演習形式、模擬授業・省察で学習する。 (21 岩田英樹/7回, 8回) 中学年、および高学年を対象とした体育科保健領域における具体的な指導上の留意点について取り上げる。	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)	
		各大学	初等英語科教育法Ⅰ 英語科教育における教授・学習の理論や学習指導要領の理念に基づいた効果的な教育実践のあり方について考察する。主にコミュニケーション、第二言語習得理論、学習指導要領、インプットとアウトプット等を中心に取り上げ、理論的・実践的に学ぶ。教員による解説に加え、受講生が各自指導の原理・原則など土台となる考え方を確立していくために、各自の経験や知識を踏まえて議論できる機会を設ける。		
		各大学	初等英語科教育法Ⅱ 英語科教育における教授・学習の理論や学習指導要領の理念に基づいた効果的な教育実践のあり方について、主に5領域の言語活動及び評価等を中心に取り上げ、実践的に学ぶ。教員による解説に加え、受講生が各自指導の原理・原則を踏まえながら、模擬授業やリフレクションを通して、指導法・指導技術を確立することを目指す。		
	先進的教育科目 (共通領域)	富山大学	インクルーシブ教育 基礎演習Ⅰ	インクルーシブ教育では、すべての子どもが授業内容を理解し、学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に着けることのできる教育が求められている。本授業では通常の学級及び特別支援学級におけるインクルーシブ教育のあり方、アクセシビリティの理解とICT活用、それに基づく児童生徒の学習や生活上の支援の工夫についての基礎的な知識・技能を身に着けることを目的とする。	メディア
		富山大学	インクルーシブ教育 基礎演習Ⅱ	インクルーシブ教育では、すべての子どもが授業内容を理解し、学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に着けることのできる教育が求められている。本授業では通常の学級及び特別支援学級において、その実践に必要な個別の教育的ニーズの把握、困難に応じた指導内容や指導方法の工夫に関する基礎的な知識・技能を身に着けることを目的とする。	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 先進的教育科目（共通領域）	金沢大学	中学校・高等学校の特別支援教育Ⅰ	インクルーシブ教育の理念を含めた特別支援教育に関する制度及び教育課程を踏まえ、中学校・高等学校段階における特別な支援を必要とする生徒の障害等の特性と心身の発達、ならびに支援の方法を理解することを目的として、本講義では中学校・高等学校段階における個別の教育的ニーズを理解するために必要な知識及び支援方法に焦点をあてて講義を行う。	メディア
	金沢大学	中学校・高等学校の特別支援教育Ⅱ	インクルーシブ教育の理念を含めた特別支援教育に関する制度及び教育課程を踏まえ、中学校・高等学校段階における特別な支援を必要とする生徒の障害等の特性と心身の発達、ならびに支援の方法を理解することを目的として、本講義では中学校・高等学校段階における個別の教育的ニーズに対して、他の教員及び家庭や関係者と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識及び支援方法に焦点をあてて講義を行う。	メディア
	富山大学	遠隔教育実践論	本授業では、新しい生活様式や小規模学校の増加に伴い、初等中等教育においても導入が進められている遠隔教育について、その実践に必要となる、教育の方法、教育の技術、遠隔教育システムの活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを目的としている。遠隔教育により変わる学校と、そこで行われている授業について、教育の方法、指導技術や評価方法、著作物の取り扱い等について理解する。	メディア
	富山大学	遠隔教育実践演習	本授業では、新しい生活様式や小規模学校の増加に伴い、初等中等教育においても導入が進められている遠隔教育について、その実践に必要となる、教育の方法、教育の技術、遠隔教育システムの活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを目的としている。本授業では模擬授業、教材作成等実習的な活動も取り入れ、教える立場として授業を考えることにより、これからの教師に求められる資質、能力について理解し、その準備を自ら行えるよう支援する。	メディア
	富山大学	小学校プログラミング教育の理論と実践Ⅰ	小学校プログラミング教育導入の背景や、学習指導要領等における位置づけとねらいについて、講義やグループ活動により理解する。その上で、児童が実際に使用すると考えられるブロック型プログラミング言語について、基本的な操作方法、基本的なプログラムの作成方法、マイコンボード等と接続する際のプログラムの作成方法、発展的なプログラムの作成方法等について、学生自身がプログラミングを体験しながら理解する。さらに、自由課題のプログラム作成にも取り組み、理解を深める。	メディア 共同
	富山大学	小学校プログラミング教育の理論と実践Ⅱ	小学校プログラミング教育の発展的な内容として、テキスト型プログラミング言語によるプログラミングを体験する。その上で、学習指導要領に例示された内容に加えて、それ以外の内容例について理解する。そして、これらの教材研究や指導計画の作成を通して、実際の授業の在り方を考える。さらに、具体的な授業の進め方を検討しながら、学習指導案を作成することを通して、小学校においてプログラミング教育の授業を行う力を身に付ける。	メディア 共同

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目 先進的教育科目（共通領域）	金沢大学	石川県の教育実践Ⅰ	<p>石川県の魅力ある教育実践を主に各教科の指導法の教員が講義する。石川県は全国的にみて非常に学力の高い県である。一方で、江戸時代・加賀藩による手厚い文化政策の歴史は進取の気性をもって現在まで息づき、能登半島の里山里海は世界農業遺産に指定された豊かな生物資源や農林漁法、歴史ある農耕に関連する文化・祭礼、美しい景観をもつ。「美しい金沢・石川」の教育実践は、こういった稀な地域性を基盤としてあり、地元ならではの特徴ある実践と普遍的な学力形成への取り組みについて講義する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(24 折川司／1回) 国語の指導法における石川県の実践的な取り組み (69 伊藤伸也／2回) 算数・数学の指導法における石川県の実践的な取り組み (37 松原道男／3回) 理科の指導法における石川県の実践的な取り組み (38 村井淳志／4回) 社会科の指導法における石川県の実践的な取り組み (45 綿引伴子／5回) 家庭科の指導法における石川県の実践的な取り組み (29 滝口圭子／6回) 幼児教育の指導法における石川県の実践的な取り組み (24 折川司／7回) 県内市町教育委員会取り組みや学校現場の最新の実践 (全員／8回 ※まとめ) 各教科の取り組みを比較し、教科を超えた多様な視点から取り組みを理解する。</p>	メディア オムニバス方式
		金沢大学	石川県の教育実践Ⅱ	<p>「石川県の教育実践Ⅰ」に引き続き、石川県の魅力ある教育実践を主に各教科の指導法の教員が講義する。石川県は全国的にみて非常に学力の高い県である。一方で、江戸時代・加賀藩による手厚い文化政策の歴史は進取の気性をもって現在まで息づき、能登半島の里山里海は世界農業遺産に指定された豊かな生物資源や農林漁法、歴史ある農耕に関連する文化・祭礼、美しい景観をもつ。「美しい金沢・石川」の教育実践は、こういった稀な地域性を基盤としてあり、地元ならではの特徴ある実践と普遍的な学力形成への取り組みについて講義する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(44 鷺山靖／1回) 石川県教育委員会の取組や学校現場の最新の実践 (287 篠原秀夫／2回) 音楽教育の指導法における石川県の実践的な取り組み (44 鷺山靖／3回) 図画工作・美術の指導法における石川県の実践的な取り組み (83 横山剛士／4回) 体育の指導法における石川県の実践的な取り組み (33 土井妙子／5回) 生活科の指導法における石川県の実践的な取り組み (30 滝沢雄一／6回) 英語の指導法における石川県の実践的な取り組み (80 森慶恵／7回) 保健指導や保健学習における石川県の実践的な取り組み (全員／8回 ※まとめ) 各教科等の取り組みを比較し、教科を超えた多様な視点から取組を理解する。</p>	メディア オムニバス方式

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 先進的教育科目（共通領域）	富山大学	富山県の教育実践Ⅰ	<p>小学校指導法の観点から、富山県の特徴的な教育実践や地域的特性、たとえば富山で実践されている小規模校や僻地教育への対応、イタイタイ病をはじめとする環境教育などを受講者に紹介し、理解させると共に、地域によって異なる教育課題が存在すること、また類似の教育課題であっても地域によってアプローチの方法が異なりうることを認識させ、教育実践の「比較」の視点を養う。第1回ではこの授業の狙いと「比較」の視点の重要性を論じ、第2回～第7回で、富山大学大学院教職実践開発研究科の実務家教員や院生（小学校の現職教員）、退職校長等の特任教授や客員教授、連携している富山県総合教育センターの연구원などをゲストスピーカーとして、最新の教育事情や実践例を紹介してもらう。第8回のディスカッションでこれらの実践の比較の視点を論じ、まとめる。これにより受講者は富山県の教育の多様な実践や視点を認識できる。</p>	メディア
	富山大学	富山県の教育実践Ⅱ	<p>小中連携や校種を跨いだ教育の連続の重要性を理解させると同時に、校種間に存在する教育事情や教員の認識等の差異をも認識させるために、富山県の小学校のみならず、中学校、高等学校の教育現場に関わっているゲストスピーカーから、小学校・中学校・高等学校の特徴的な教育実践や教育事情、課題などを紹介してもらう。これにより、富山県の特徴的な実践を知って、他地域と「比較」する視点を持たせると共に、校種によって異なる教育の視点や認識を理解して、それらを「比較」する視点を養う。第1回で授業の狙いを説明し、第2回～第7回の授業では富山大学大学院教職実践開発研究科の実務家教員、特任教授や客員教授、富山県総合教育センターの연구원などをゲストスピーカーとして、最新の教育事情や実践例を紹介してもらう。そして第8回のディスカッションを通じて、校種による教育の認識や状況の異同や、それらの校種をつなぐ連携の視点の重要性を理解させる。</p>	メディア
	金沢大学	国際化と学校教育Ⅰ	<p>学校において外国語を教えることの意味を考えるために、国際化との関連から学校教育を概観する。この授業では、海外（アメリカ・台湾・スウェーデン）の小学校における外国語教育と、日本における外国語教育の現状の比較を軸にして、日本における外国人児童に対する日本語教育の現状などとも比較しながら考察する。受講生は地域における非日本語母語話者の就学状況を調査し、学校現場の対応方策についてレポートを作成していく。</p>	メディア
	金沢大学	国際化と学校教育Ⅱ	<p>この授業では、国際化と学校教育の関連という視点から、二言語併用（バイリンガリズム）を軸として日本語母語話者に対する外国語教育、および非日本語母語話者に対する日本語教育について考察する。また、海外では移民の子どもに対してどのような外国語教育が行われているかを受講生はおのおの調査し、日本の現状との比較・分析等を行う。</p>	メディア
	金沢大学	SDGs教育実践演習Ⅰ	<p>2015年に国連サミットで制定された持続可能な開発目標であるSDGsは、学校教育においても実施すべき必須の課題である。本授業ではまず、金沢市におけるSDGsの実践を学ぶことでSDGsへの理解を深める。次に、専攻する教科のメンバーでプロジェクトチームを編成し、その教科の視点から身近なSDGsの課題設定と課題解決に向けた具体的なプランを作成する。最後に提案したSDGsのプランが学校教育の実践にいかん展開できるかを考察する。</p>	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目 (共通領域)	金沢大学	SDGs教育実践演習Ⅱ	教科を横断したメンバーでグループ(計24グループ)を編成し、さまざまな専門の立場から協働してSDGsの実践に取り組む。まず、各グループで地方自治体が抱えるSDGsの課題を調査する。その課題に対して関係者にインタビュー調査を実施し、課題となっている具体的な問題を浮彫にする。さらに、課題解決に向けた具体的なプロジェクトを計画し、最後に自治体の担当者にその計画を提案する。	メディア	
	専門科目	幼児教育	各大学	幼児と健康 (概要) 領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動の発達などの専門的事項についての知識・理解の獲得と指導法を身につけることを目標としている。幼児期の健康に関する現代的課題についての基本的な考え方を講義形式で学んだ後、実際に運動を体験し、幼児の多様な動きを理解し、これらの動きを引き出す環境構成について学ぶ。 (オムニバス方式/全8回) (92 澤聡美/1回, 2回, 3回, 6回, 7回, 8回) 幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、運動の発達について解説・実演する。 (55 西館有沙/4回, 5回) 乳幼児の怪我や病気の特徴やそのリスクについて、ヒヤリハット事例や事故事例、症例等を用いた演習を行う。また、子どもへの安全教育や安全および健康の管理について解説し、環境構成や実際の援助について演習を行う。	オムニバス方式 (富山クラスのみ)	
			富山大学	幼児と人間関係(社会性のつまずきと支援の現代的課題)	まず、領域「人間関係」に基づいた保育を行うための基礎となる乳幼児期の人間関係の発達過程を学ぶ。さらに、社会性のつまずきの原因(愛着の問題・発達障害等)や、不適切な養育が脳機能の発達に及ぼす最新の研究成果を学ぶ。また、個性が強い子ども(不安が高い子どもや感情の制御が苦手な子どもなど)を理解するための心理学の理論と、集団の中での位置づけの評価方法を学ぶ。これらの知識を踏まえて、保育における幼児理解と発達支援の基本的な考え方を習得する。	メディア
			金沢大学	幼児と人間関係(社会性の発達と現代的課題)	領域「人間関係」の指導の前提となる乳幼児期に発達する社会性に関する専門的事項についての知識を身に付けるために、乳幼児期に発達する社会性の能力および特性を取り上げる。特に幼児期に発達が著しい自己と他者の理解、他者への援助といった向社会的行動、自己主張や自己抑制を含むセルフコントロール、対人関係の葛藤場面における社会的問題解決能力の発達について概説する。上記の内容に併せて、仲間や保育者とのどのような関係を築くのか概説する。	メディア
			富山大学	幼児と環境	(概要) 幼児と環境の関わりを理解するために、環境の持つ意義、環境を生かした科学的思考・概念の発達について学ぶ。また領域「環境」の内容である、生命の尊重、数量や図形との関わり、文字や標識との関わりについても実践事例を通して学ぶ。 (オムニバス方式/全8回) (10 小林真/1回, 4回~8回) 幼児を取り巻く環境と幼児の発達、幼児と生物・自然、数量・図形、文字・標識とのかかわり、幼児を取り巻く環境の現代的課題 (49 月僧秀弥/2回, 3回) 幼児の身近な環境と科学体験、思考・科学的概念の発達	メディア オムニバス方式
各大学	幼児と言葉	幼児期の言葉の発達に関する基礎的専門的事項について、次に、幼稚園における言語環境や言葉に関する教材について、さらに、小学校との接続を視野に入れた言葉の指導について講義する。そして、幼児期の言葉の発達を促し支える保育内容、保育における周囲の幼児とのかかわり、保育者とのかかわりに関する基礎的な知識や態度を伝え、具体的な保育場面を想定しながら検討する。				

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	幼児教育	富山大学	幼児と表現	<p>(概要) 幼児の表現(身体・音楽・造形)における次のトピックについて学ぶ。幼児の表現の実際の姿、その発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊び、幼児の感性や創造性を豊かにする環境の構成である。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(92 澤聡美/1回, 2回) 幼児の感性や創造性を豊かにする様々な身体表現遊びの実践を通して、幼児の身体表現の実際の姿、発達を促す要因や環境構成について学ぶ。</p> <p>(62 若山育代/3回・4回) 幼児の造形表現の実際の姿とその発達の状態、及びそれを促す要因と幼児の造形表現における感性や創造性を豊かにする表現遊びと環境構成について学ぶ。</p> <p>(13 千田恭子, 93 多賀秀紀/5回, 6回, 7回) 幼児が感じたことや考えたことを、音楽を楽しみながら自由に表現する為の援助を行うには、指導者が幼児の発達や感性・感覚を理解し共感するとともに、音楽の特性を知り、自分自身の諸感覚を磨くことが必要であることを学ぶ。</p> <p>(92 澤聡美・62 若山育代・13 千田恭子・93 多賀秀紀/8回) 幼児の表現に関する基礎的専門的な事項についての総合的なまとめ</p>	オムニバス方式
			富山大学	保育内容総論(保育実践を巡る最新動向を含む)	<p>幼稚園教育は、園生活全体を通して総合的に指導するという指導の考え方を理解し、具体的な幼児の姿と関連付けながら、環境を構成し実践するために必要な知識・技能を身に付ける。具体的には、次の3つについて学修する。まず、幼稚園教育の基本を踏まえた幼稚園の指導の考え方を理解する。次に、幼稚園教育における指導計画の考え方を理解し、幼児の発達の過程を見通した指導計画作成を理解する。そして、幼児の興味・関心や発達の実情などに応じた具体的な指導の在り方を理解する。</p> <p>(55 西館有沙/1回～4回)</p> <p>最新動向をふまえた幼小接続の現状や課題、乳幼児期の子どもの遊びとその意義、総合的な指導と教師の役割について扱う。</p> <p>(62 若山育代/5回～8回)</p> <p>幼児教育における計画とその作成、記録や評価のあり方、物や人との関わりを深める教材作りについて扱う。</p>	メディア オムニバス方式
			金沢大学	保育内容(健康)(健康に関する現代的課題を含む)	<p>幼児の身体発育や精神発達、幼児期の疾病や起こりやすい事故を理解し、健康観察、保健管理・安全管理、保護者への指導について説明することができるようになることを目的とする。幼児の心身の健康から「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を具体的に考えることを目指して、乳幼児期の身体発育と生理機能や運動機能、心身の健康状態とその把握、安全に対する配慮と応急処置、乳幼児の疾病の予防と対応などについて学ぶ。</p>	メディア
			富山大学	健康の指導法(現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)	<p>幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容について基本的知識・理解の獲得を目標とする。現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例や、他の領域や小学校との接続と関連させた事例を紹介し、主体的・対話的で深い学びを通して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を身につける。</p>	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門教育科目	専門科目	幼児教育	各大学	保育内容(人間関係)	幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解すること、領域「人間関係」が、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことを目指すものであることを理解する。くわえて、遊びの中の人とのかかわり、保育の中の協同的活動、園外での人との関わり、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と領域「人間関係」の関係について概説する。	
			各大学	人間関係の指導法	初めに領域「人間関係」のねらいと内容を習得する。次に、設定保育における人間関係の指導法(ソーシャルスキル教育・ルールのあるゲーム遊び等)の指導事例を通して、保育の指導法を学ぶ。さらに、人間関係の形成に配慮を要する幼児の特徴や、情報機器を活用した指導法を学ぶ。これらの知識を踏まえて設定保育の指導案を立案し、模擬保育を通して指導上の配慮点・留意点などを体験的に習得する。さらにいくつかの指導事例を通して、自由遊び場面における保育者の言葉かけや指導の方法を習得する。	
			金沢大学	保育内容(環境)(環境に関する現代的課題を含む)	幼稚園教育要領の領域「環境」のねらいと内容を踏まえ、現代的課題も考慮しながら、子どもの環境と乳幼児期の発達との関連性を理解し、保育環境のあり方を考察することを授業目標とする。本授業では、領域「環境」のねらいと内容を踏まえた上で、事例検討や体験学習を通して、保育環境を構成する要素を知り、身近な環境を活かした保育の方法や室内外の環境構成について検討する。	メディア
			金沢大学	環境の指導法(現代的課題を踏まえた石川などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)	幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい、内容、指導上の留意点を理解し、保育を具体的に構想する方法を身に付けることを授業目標とする。本授業では、領域「環境」のねらい、内容、指導上の留意点等を踏まえた上で、石川などの地域の幼稚園教育実習の録画を、保育指導案と照合しながら視聴し、領域「環境」の視点から協議する。その後、保育指導案を作成し、模擬保育に基づいて討論する。	メディア
			金沢大学	保育内容(言葉)(言葉に関する現代的課題を含む)	幼稚園教育要領に示されている幼稚園教育の基本及び、領域「言葉」のねらい・内容・全体構造・指導上の留意点・評価の考え方、小学校教科等との繋がり、言葉に関する現代的課題として、障害や外国籍等により言葉に遅れや困難がある幼児の配慮や援助について解説する。また、ラーニングマップ作りを通して、領域「言葉」を中心とした幼児教育のねらいや内容、全体構造等について、言葉に関する現代的課題を含め、具体的に検討する。	メディア
			富山大学	言葉の指導法(現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)	幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を身につける。扱うトピックとしては、領域「言葉」のねらい及び内容、幼児の発達の側面としての他領域と領域「言葉」の関連、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた具体的な指導場面の想定、領域「言葉」のねらい及び内容に基づく保育の構想である。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	幼児教育	金沢大学	保育内容(表現) (表現に関する現代的課題を含む)	(概要) 幼児期の表現の発達を学び、「表現」の自由さや楽しさを体験的に理解し、互いの「表現」を鑑賞することの喜びを味わう。「表現」の支援、現代的課題、情報機器及び教材の活用を図る保育を考え、指導法の基礎知識・技能を身につけることを授業目標とする。 (オムニバス方式/全8回) (44 鷲山靖/1回, 2回, 3回, 6回, 7回, 8回) 領域「表現」の「ねらい、内容、内容の取扱い」を解説し、合奏指導の実際を説明した後、楽器の指導における情報機器の活用を検討する。また、造形表現の素材・用具、教材の特性と現代的課題を解説し、指導における情報機器及び教材の活用を検討する。 (82 山田哲/4回, 5回) 身体表現と幼児期の発達を解説し、幼児期の身体表現と表現に関する現代的課題とその指導における情報機器及び教材の活用を検討する。	メディア オムニバス方式
			富山大学	表現の指導法(現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)	(概要) 幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を身につける。扱うトピックとしては、領域「表現」のねらい及び内容、幼児の発達の側面としての他領域と領域「表現」の関連、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた具体的な指導場面の想定、領域「表現」のねらい及び内容に基づく保育の構想である。 (オムニバス方式/全8回) (92 澤聡美/1回, 2回) 身体表現の指導法及び保育の構想(身体の観点から具体化したねらいと内容)、身体表現の指導法及び保育の構想(最新指導事例の身体表現についての主体的・対話的で深い学び)について学ぶ。 (62 若山育代/3回, 4回, 5回) 造形表現の指導法及び保育の構想(造形の観点から具体化したねらいと内容)、造形表現の指導法及び保育の構想(他領域のねらいと内容との総合性)、造形表現の指導法及び保育の構想(現代的課題としての主体的・対話的で深い学び)について学ぶ。 (13 千田恭子/6回, 7回) 音楽表現の指導法及び保育の構想(領域「表現」のねらいと音楽)、音楽表現の指導法及び保育の構想(幼児の表現と諸感覚の重要性)について学ぶ。 (92 澤聡美・62 若山育代・13 千田恭子/8回) 幼児の表現に関するまとめと地域の保育実践の事例について学ぶ。	メディア オムニバス方式
			富山大学	幼児教育カリキュラム論Ⅰ	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基準として各幼稚園等において編成される教育課程や全体的な計画の意義や編成の方法を理解する。具体的には、幼稚園教育等において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する、教育課程や全体的な計画が社会において果たす役割や機能を理解する。	
			富山大学	幼児教育カリキュラム論Ⅱ	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基準として各学校等において編成される教育課程や全体的な計画について、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。具体的には、領域や学年をまたいでカリキュラムを把握し、幼稚園教育等の課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 幼児教育	各大学	幼児理解の理論と方法	<p>幼児理解の意義、基本的な理論や態度を習得し、具体的な場面で適切な方法を選択するよう努める態度を獲得することを授業目標とする。本授業では、幼児理解の意義、理論及び方法、遊びを通しての総合的な指導、環境を通して行う教育を踏まえて適切な方法を選択することを学ぶ。そして、個と集団の関係や発達につまずきのある幼児の理解、保護者支援についての基礎知識、幼小接続期の実態と課題等について学ぶ。</p>	
	各大学	幼児理解と相談支援	<p>初めに幼稚園教育要領等に基づき、幼児理解の意義・必要性を学ぶ。次に、幼児理解に必要な心理学理論を学ぶ。具体的には、気質の理論・愛着の理論・学習理論（行動理論）、集団の中での幼児の関係性の発達のとらえ方を学ぶ。さらに幼児理解の方法（行動観察・チェックリスト等）について学び、こうした情報に基づいた保育カンファレンスの意義についても学ぶ。これらを踏まえて、幼児理解に基づいた保育における支援方針を立案できるようになる。さらにカウンセリングに関する基礎知識と保護者支援に関する基礎知識を習得する。</p>	
	金沢大学	発達心理学Ⅰ	<p>最新の乳幼児期の発達に関する理論や知見を体系的に理解するとともに、学生自身が調べて発表することを通じて、プレゼンテーションの技術の向上も目指す。乳幼児期の発達として取り上げる内容としては、発育の基盤となる感覚と運動の発達、養育者との安定した関係を意味するアタッチメントの発達、知的な能力を含む認知の発達、人間関係などの社会性の発達、感情と自己の発達、幼児期の活動として最も重要なものとして考えられている遊びの発達をとりあげる。</p>	
	金沢大学	発達心理学Ⅱ	<p>最新の児童期以降の発達に関する理論や知見を体系的に理解するとともに、学生自身が調べて発表することを通じて、プレゼンテーションの技術の向上も目指す。児童期の発達として取り上げる内容としては、読み書き算数を含む言語と思考をめぐる発達、アイデンティティの確率に代表される青年期の心身の発達、キャリア形成と中年に聞きを含む成人期の心身の発達、死を迎えるにあたって老年期の発達、発達障が等を含む非定形の発達、発達の生物学的基礎についてとりあげる。</p>	
	金沢大学	乳幼児心理学特講Ⅰ	<p>乳幼児の心身の発達を理解する上で不可欠となる基礎知識ならびに技術を身につけるために、乳幼児の発達をとらえるための具体的な方法を概観する。特に発達には量的側面と質的側面の変化があることや、子どもの発達を理解する上での注意点について理解を深めるとともに、具体的な方法として、子どもを第3者の視点から捉える観察法、および子どもを取り巻く社会的環境や家庭環境を理解するための調査法を取り上げ、その概要と実際について学ぶ。</p>	
	金沢大学	乳幼児心理学特講Ⅱ	<p>乳幼児の心身の発達を理解する上で不可欠となる基礎知識ならびに技術を身につけるために、乳幼児の発達をとらえるための具体的な方法を概観する。具体的な方法として、直接対面して子どもの言葉を引き出す面接法、および知能検査などの検査道具を用いて子どもの状況や得意不得意をするための診断法を取り上げ、その概要と実際について学ぶ。また、近年では、担任保育士一人で子どもを理解するのではなく、園としてチームで子どもを理解することが推奨されていることから、チームで発達を捉えるための方法についても学ぶ。</p>	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 幼児教育	金沢大学	乳幼児心理学演習Ⅰ	乳幼児の心身の発達を理解したり、子育てや教育・保育を考えたりする上でエビデンスとなる教育・保育の統計データを読み解くことは不可欠であり、そのために必要な統計的基礎知識・技術をみにつけ、自身で子どもを取り巻く生活環境と人間関係に関するデータが示す意味を読み取れるようになることを目指す。特に、エビデンスが一体何を指すのか、記述統計や推測統計の意味、教育・保育の量的データの読み解き方について、実際の教育・保育の統計データを参照しながら学んでいく。	
	金沢大学	乳幼児心理学演習Ⅱ	乳幼児の心身の発達を理解したり、子育てや教育・保育を考えたりする上でエビデンスとなる教育・保育の統計データを読み解くことは不可欠であり、そのために必要な統計的基礎知識・技術をみにつけ、自身で子どもを取り巻く生活環境と人間関係に関するデータが示す意味を読み取れるようになることを目指す。特に、教育・保育における多変量の量的データの読み解き方や、記述されたデータ等の質的データの読み解き方について、実際の教育・保育の統計データを参照しながら学んでいく。	
	富山大学	子育てネットワーク論Ⅰ	子育て支援が幼稚園教諭や保育教諭、学校教員、保育士等に求められている現状をふまえ、現代の子育て家庭を取り巻く現状や課題についてデータや資料を示して説明する。また、子育て家庭に対する支援の意義や目的、子育ての支援体制として公私のネットワークを形成することの意義、インフォーマルな子育てネットワークが果たす機能と課題、フォーマルな子育てネットワークとそれぞれの機関・施設の概要について解説し、これらに関する知識の習得を目指す。	
	富山大学	子育てネットワーク論Ⅱ	教育や保育の専門職として子育て家庭にどのようにかわり、いかなる支援を提供すればよいのかを学ぶ。授業では、幼児教育・保育の専門性を生かした子育て支援の意義と、日々の関係を構築するために求められる基本的なかわりや支援について扱う。また、子育て家庭のさまざまなニーズについて扱うとともに、貧困、虐待、障害児やその傾向のある子どもや疾患のある子どもの子育て、外国籍の家庭における子育てなど、それぞれの家庭のニーズに応じた支援の展開について扱う。これにより、子育て支援の実施や展開についての知識化を促す。加えて、関係機関との連携や協力についても学ぶ。	
	富山大学	子育て支援	子育て家庭を支援するための実践力を身につけることを目標とする。授業では、保育所等を利用する子育て家庭や、地域の子育て家庭のそれぞれに提供される支援を取り上げる。その中で、さまざまなニーズをもつ子育て家庭に対する支援や、支援の展開における関係諸機関との連携・協力について、具体的な事例を用いたディスカッションやロールプレイ、調べ学習を行う。また、支援計画の立案や記録についてワーク、カンファレンスのシミュレーションを行う。これらを通して子育て支援への理解を深めるとともに、技術を習得する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門教育科目	専門科目	幼児教育	富山大学	保育の心理学	「教授・学習心理学」と「発達と教育」で学んだ子どもの発達と学習の過程を踏まえて、まず、幼児教育・保育における子どもの学びをどのように保障すべきかについて学ぶ。具体的には、子どもの権利条約に基づく子ども観・発達観の変遷が学習指導要領や幼稚園教育要領等にどのように反映されているか、遊びを通じた主体的な学びの意義を知る。次に乳幼児期の諸領域（身体・運動、認知、自我・自己意識、社会性-情動、言語）の発達の経過を学ぶ。さらに発達支援の事例を通して遊びを通じた保育の重要性を学ぶ。	
			富山大学	子ども家庭支援の心理学Ⅰ	まず発達心理学の立場から、生涯発達の道筋と発達段階の概要を学ぶ。具体的には、乳幼児期の初期経験の大切さ、学童期前期・学童期後期・青年期・成人期の発達の危機にはどのようなものがあるかを学ぶ。こうした発達に関する知識を踏まえて、子どもの精神保健についての基礎知識を習得する。具体的には、新生児期から乳児期に生じやすい心身の健康上の問題、幼児期に生じやすい行動上の問題などについて医学的知見も参考にしながら学ぶ。最後に、子どもの心の健康を支えるネットワークづくりの大切さについて学ぶ。	
			富山大学	子ども家庭支援の心理学Ⅱ	子ども家庭支援の必要性の根拠となる、現代社会が抱える様々な問題について学ぶ。具体的には、日本が抱える少子化・地域社会の関係性の希薄化といった社会現象を正しく理解する。次に、若者が親になる際に習得すべき準備性（親レディネス）を高める要因と、低める要因について学ぶ。さらに成人が親になることによってどのような発達を遂げるかを学ぶ。その知識を踏まえて、子育てに困難を抱える家庭（若年者の過程、高齢者の家庭、精神的な問題を抱える保護者）に対する支援のあり方を学ぶ。	
			富山大学	子どもの健康と安全	保育現場において子どもの心身の健康と安全を守るために必要な基礎知識を習得し、演習によって学びを深める。具体的には、安全な保育環境づくり、安全管理と事故防止、アレルギー疾患の理解と保育における対応、感染症の理解と保育における対応、母子保険制度について学ぶ。これらを踏まえて、幼児教育施設における組織的対応の必要性について学ぶ。様々な資料の講読や保育所（幼保連携型認定こども園を含む）における聞き取り調査などを通して、年間保健計画を立案できるようになる。	
			富山大学	障害児保育	幼児教育や保育においても特別な配慮を必要とする子どもへの適切な対応が求められていることを受けて、障害児保育の理念や現状、課題、援助の実施や展開について扱う。その中で、障害児保育への理解を深めること、さまざまな特性や状態、心身の発達等に応じた援助や配慮を理解すること、個別計画の作成、援助の具体的な方法を理解することを目指す。また、家庭への支援や関係機関との連携・協働についても学ぶ。	
			富山大学	地域子育て支援法Ⅰ	まず、子育て支援の様々な制度・機関について学ぶ。次に地域子育て支援センターや児童館等の子育てサロンを利用する保護者の心情について学ぶ。特に子育てサークルを利用しながら途中でやめてしまった保護者の心情についても理解する。さらに、子育てサロンを利用する保護者への聞き取り調査などを通して保護者のニーズを把握し、これらのニーズに対応する方法を演習を通して学ぶ。最後に、地域の子育てサロンにおいて短時間の保育体験を行うことで、実践力の基礎を身に付ける。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	幼児教育	富山大学	地域子育て支援法Ⅱ	地域子育て支援法Ⅰで学んだ様々な知識と体験を元に、児童館等が実施する子育てサロンにおける子育て支援サービスの企画・運営の仕方を習得する。また実際に子育てサロンの運営に参加することで、親子が安心感を感じたり楽しく遊んだりするための環境の構成について体験的に学ぶ。まず子どもが楽しく遊べる保育活動、次に子どもと保護者が交流できるような保育活動の実践を行う。さらにその振り返り活動を通して、子育て支援サービスを提供する職員が配慮すべき点を学ぶ。	
		富山大学	児童福祉論Ⅰ	教育者が知っておくべき福祉に関する知識を身につけることを目的とする。授業では、子どもや家庭の福祉を取り巻く現状や課題、子ども家庭福祉に関する法律や制度、実施体系について理解する。また、少子化や地域の子育て支援、保育サービスの現状、課題、動向、展望について理解する。加えて、母子保健や子どもの健全育成のための施策やサービスについても理解する。	
		富山大学	児童福祉論Ⅱ	子どもの人権や権利擁護について、その歴史的変遷や現状、課題の学習を通して理解する。児童福祉施設や子ども家庭福祉に携わる専門職に関する知識を身につけるとともに、貧困や虐待・DVのある家庭にいる子ども、非行等を行う子ども、障害のある子どもの福祉について理解する。	
		富山大学	社会福祉概論Ⅰ	第二次世界大戦後のわが国の社会福祉の形成・発展の概要を中心に理解し、その中に示される福祉的ニーズをとらえることが目的である。幼児教育・保育に関連する内容にとどまらず、わが国の社会福祉の法・制度の概要を基礎学習し、その中で日本の社会福祉の発展を、特に高齢者・障がい者・児童の対象と地域福祉・国際福祉の現況を中心に理解し基礎事項を習得したうえで、それぞれの対象や領域のなかで個別具体的なニーズを捉え理解する。	
		富山大学	社会福祉概論Ⅱ	わが国の社会保障全般を理解し、今後の日本社会における社会福祉のあり方を考えることが目的である。社会保障の全体像をもとに、共生社会をキーワードとした日本における社会福祉の将来のあり方を学習する。幼児教育・保育に関連する内容にとどまらず、日本社会の変化に対応することが求められる社会保障について、その法制度とそれを実行する福祉サービス、またそれを支える行財政・計画について理解し、今後の日本の社会福祉を共生社会と関連づけて捉える。	
	特別支援教育	金沢大学	特別支援教育基礎論Ⅰ（石川県の教育実践を含む）	障害・疾病・発達困難等の特別な教育的ニーズを有する子どもの教育と発達支援について探求していくための基本的知識・理解や原理的視座の獲得を目標として、本講義では特別支援教育・特別ニーズ教育の歴史的経緯および国内外の動向を視野に入れながら、特別支援教育・特別ニーズ教育に関わる基本的理念・原理・歴史について講義を行う。	メディア
		富山大学	特別支援教育基礎論Ⅱ（富山県の教育実践を含む）	本講義は、障害・疾病・発達困難等の特別な教育的ニーズを有する子どもの教育と発達支援について探求していくための基本的知識・理解や原理的視座の獲得を目標として、「特別支援教育」を中心に、全国だけでなく富山県における障害児・者のライフステージにおける諸課題や社会の側が抱える諸問題とその解決策について講義を行う。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	特別 支援 教育	金沢大学	病気・障害・不適応の発達支援論Ⅰ	病気・障害・不適応等の特別な教育的ニーズのある子ども・若者の発達の理解を深め、発達支援の必要性に関する理論・知識の習得と理解の深化を目的として、本講義では 病気・障害・不適応の当事者の手記や当事者への調査研究、国内外の動向を視野に入れながら、病気・障害・不適応の子ども・若者が有する発達上の困難と教育的ニーズを理解することに焦点をあてて講義を行う。	
		金沢大学	病気・障害・不適応の発達支援論Ⅱ	病気・障害・不適応等の特別な教育的ニーズのある子ども・若者の発達の理解を深め、発達支援の必要性に関する理論・知識の習得と理解の深化を目的として、本講義では 病気・障害・不適応の当事者の手記や当事者への調査研究、国内外の動向を視野に入れながら、個別の教育的ニーズに対して、他の教員及び関係者と連携しながら組織的に対応していくために必要な理論・知識及び支援方法に焦点をあてて講義を行う。	
		富山大学	障害児者支援論	「働く」「暮らす」「遊ぶ」「学ぶ」という生活領域において、障害のある当事者とその家族がこうありたいと思いたいもの社会との相互作用の中で困難としている事情を具体的に取り上げながら、障害児・者ならびにその家族をめぐる諸問題とその解決の方策について障害児の教育に限らず広く関連するさまざまな事象を支援者の視点から考える演習を行う。	
		金沢大学	知的障害児の心理・生理・病理Ⅰ	すべての子どもたちが自立し、社会参加するために必要な力を培うためには、子ども一人一人の能力や特性を把握し、適切な指導および支援を行うことが必要である。本講義では知的障害・発達障害のある子どもの心理及び生理・病理面について、発達の観点から理解する。また、知的障害・発達障害のある子どもの心理学的特性及び生理・病理面の特徴に関する評価法を概説し、特性を踏まえた支援や配慮について検討する。	メディア
		各大学	知的障害児の心理・生理・病理Ⅱ	すべての子どもたちが自立し、社会参加するために必要な力を培うためには、子ども一人一人の能力や特性を把握し、適切な指導および支援を行うことが必要である。本講義では知的障害・発達障害の原因の背景にある脳の発生、構造、機能について理解するとともに、その障害によって生じる疾患、やその原因・病態および評価法を概説する。	
		富山大学	肢体不自由児の心理・生理・病理Ⅰ (教育・医療・福祉の機関連携を含む)	すべての子どもたちが自立し、社会参加するために必要な力を培うためには、子ども一人一人の能力や特性を把握し、適切な指導および支援を行うことが必要である。本講義では肢体不自由児の原因の背景を理解するために必要な運動機能の基礎、肢体不自由の原因となる脳性まひを解説する。そして、肢体不自由児の自立を支援するための教育・医療・福祉の連携について概説する。	メディア
		富山大学	肢体不自由児の心理・生理・病理Ⅱ (教育・医療・福祉の機関連携を含む)	すべての子どもたちが自立し、社会参加するために必要な力を培うためには、子ども一人一人の能力や特性を把握し、適切な指導および支援を行うことが必要である。本講義では肢体不自由児の原因となる主な疾患と重度重複障害の病態および生活・学習上の問題を解説する。そして、重度重複障害児の医療的ケアに関わる教育・医療・福祉の連携について概説する。	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 特別支援教育	富山大学	病弱児の心理・生理・病理Ⅰ（教育・医療・福祉の機関連携を含む）	すべての子どもたちが自立し、社会参加するために必要な力を培うためには、子ども一人一人の能力や特性を把握し、適切な指導および支援を行うことが必要である。本講義では病弱児の背景を理解するために必要な体の解剖生理の基礎、障害の原因となる疾患、教育の意義・配慮について解説する。そして、病弱児の自立を支援するための教育・医療・福祉の制度について概説する。	メディア
	富山大学	病弱児の心理・生理・病理Ⅱ（教育・医療・福祉の機関連携を含む）	すべての子どもたちが自立し、社会参加するために必要な力を培うためには、子ども一人一人の能力や特性を把握し、適切な指導および支援を行うことが必要である。本講義では通常学級においても対応が必要となる病弱児、および教育の意義・配慮について解説する。そして、病弱児の自立を支援するための教育・医療・福祉の連携について概説する。	メディア
	金沢大学	聴覚障害の心理・生理・病理Ⅰ（教育・医療・福祉の機関連携を含む）	特別支援教育の聴覚障害者領域の専門知識・技能を深め、聴覚障害の医療的な側面と心理的な側面について理解を深めることを目標として、本講義では音声信号の伝達経路をたどり、聞こえの仕組みと聴覚障害の発生機序およびリハビリテーションについての基本的な知識について講義を行う。また純音聴力検査の実習や簡単な手話についての学習を行う。	メディア
	金沢大学	聴覚障害の心理・生理・病理Ⅱ（教育・医療・福祉の機関連携を含む）	特別支援教育の聴覚障害者領域の専門知識・技能を深め、聴覚障害の医療的な側面と心理的な側面について理解を深めることを目標として、本講義では聴覚障害の心理・生理・病理Ⅰの学習内容をふまえ、語音聴力検査の方法や実習、聴覚障害児の言語や認知の特性やその評価法、手話の獲得とその評価、ろう重複障害の心理的特性について講義を行う。	メディア
	富山大学	知的障害教育課程・指導論Ⅰ	知的障害教育に関する歴史的経緯と現状、知的障害教育の教育課程の編成、個別の教育支援計画、個別の指導計画の様式や内容について理解するため、本講義では特別支援学校に関する学習指導要領について概要を説明し、特に知的障害を教育する特別支援学校の教育課程の編成及び実施における留意事項について実際の授業の様子に基づいて概説する。	メディア
	各大学	知的障害教育課程・指導論Ⅱ	知的障害のある子どもの発達特性や知的障害に伴う困難性をふまえた教育内容・方法や学校教育として必要な教育実践について理解することを目標として、本講義では国内外の動向を視野に入れながら、知的障害を有する子どもの発達の理解を深め、知的障害を有する子どもが能動的に学べるような教育目標設定や教育課程編成の理論と方法について講義を行う。	
	金沢大学	肢体不自由教育論Ⅰ（教育の現代的課題を含む）	この授業では「生活」と発達に焦点をあて、障害者と自己決定権の育成について考える。肢体不自由のある子どもの発達環境としての生活実態と課題、運動機能に障害がある子どもの認知発達を理解し、自己に対する適正な認識と自己理解に基づく社会的認知発達の視点から、自己決定能力を育成する「生活」のあり方と支援について講義を行う。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	特別支援教育	金沢大学	肢体不自由教育論Ⅱ (教育の現代的課題を含む)	この授業では「学校教育」と発達に焦点をあてる。まず、障害者と自己決定権について確認する。自己決定には自己認識と生活世界の知識が必要である。その上で、肢体不自由のある子どもの学習・発達環境としての教育の課題を整理する。これらを踏まえ、幼児期・小学部から高等部に至るライフステージに即した教育活動を教育課程と指導法の視点から吟味し、自己決定する力を育成する学校教育について講義を行う。	メディア
		富山大学	病弱児の教育	病弱児の心身の状態に即応した教育を行うための基本的知識・理解の獲得を目標とし、本講義では病弱児の教育に関する基本的事項から現代的課題までを説明し、その中で生じやすい教育的課題および、その支援方法について、具体的事例を用いながら説明する。そのことで、多様な場で学んでいる病弱児への教育に関する高度な専門性の獲得をめざす。	メディア
		金沢大学	聴覚障害教育課程論Ⅰ	特別支援教育の聴覚障害者領域の教育課程及び指導法の基礎知識・技能を身につけ、知識の獲得だけでなく、背後にある理念や制度と教育実践との関連を具体的にイメージし、自ら洞察を深めていく態度を養うことを目標とし、本講義では聴覚障害児教育における教育課程の歴史の変遷、理念、目的を概説し、聴覚障害児教育のあり方について理解を深める。	メディア
		金沢大学	聴覚障害教育課程論Ⅱ	特別支援教育の聴覚障害者領域の教育課程及び指導法の基礎知識・技能を身につけ、知識の獲得だけでなく、背後にある理念や制度と教育実践との関連を具体的にイメージし、自ら洞察を深めていく態度を養うことを目標とし、本講義では聴覚障害児教育における教育課程及び指導法を概説し、聴覚障害児教育のあり方について講義を行う。	メディア
		金沢大学	聴覚障害指導法Ⅰ	特別支援教育の聴覚障害者領域の教育課程及び指導法の基礎知識・技能を身につけるため、この授業では教育学的、心理学的な側面から、ろう児の指導方法や心理的側面について扱う。ろう教育の歴史の変遷やろう児の言語獲得について講義を行い、聴覚障害児教育について自ら考えるために必要な基本的な知識を得る。	メディア
		金沢大学	聴覚障害指導法Ⅱ	特別支援教育の聴覚障害者領域の教育課程及び指導法の基礎知識・技能を身につけるため、この授業では教育学的、心理学的な側面から、ろう児の指導方法や心理的側面について扱う。ろう教育の指導方法の実際、補聴器の役割、人工内耳など聴覚障害児の教育と指導法について講義を行い、聴覚障害児教育について自ら考えるために必要な基本的な知識を得る。	メディア
		金沢大学	手話序論Ⅰ	近年、ろう教育の中にも手話が導入され、聴覚障害児を指導する上で教員の手話力が求められている。本講義は手話に関する基本的な知識を習得すると同時に、簡単な手話表現を学習し、以後の手話習得の意欲を高めるための講義である。手話の言語的特徴、手話と手話に関わる諸問題についての理解、自己紹介程度の簡単な手話表現の学習を主な目標とする。	
		金沢大学	手話序論Ⅱ	近年、ろう教育の中にも手話が導入され、聴覚障害児を指導する上で教員の手話力が求められている。本講義では手話序論Ⅰで学んだ内容をふまえ、手話の言語的特徴、手話と手話に関わる諸問題についての理解、自己紹介程度の簡単な手話表現の学習を手話スキットの練習を通して、手話文法の理解を深め、またろう者にかかわる文化や社会についてもあわせて学ぶ。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	特別支援教育	金沢大学	発声発語支援法Ⅰ	発声発語(speech)の特徴や発声発語産出のメカニズム及び、聴覚障害のある児童生徒の発声発語の特徴や、評価、指導・支援方法の概要を理解するため、本授業では聴覚障害がある児童生徒の多くが困難を示す発声発語(speech)について、生理学、言語学、心理学等の様々な側面から、その特徴やメカニズムを解説する。さらに、聴覚障害のある児童生徒の発声発語の特徴やその指導・支援の概要を解説する。	メディア
		金沢大学	発声発語支援法Ⅱ	聴覚障害のある児童生徒の評価、指導・支援方法及び、知的障害、言語障害等がある児童生徒の発声発語の特徴や評価、指導・支援方法を理解するため、本授業では聴覚障害のある児童生徒の発声発語(speech)の評価、指導・支援方法について、具体例を示しながら解説する。さらに、知的障害や言語障害(構音障害、吃音等)がある児童生徒の発声発語の特徴や評価、指導・支援方法について解説する。	メディア
		富山大学	知的障害児の教育Ⅰ	知的障害児の発達支援理論及び知的障害児の教育方法の概要と、支援の考え方について理解するため、本講義では知的障害児の教育を支える理論と支援に関する考え方を解説する。学級編成の実態やティームティーチングによる授業の実際などの参観機会を確保するため、講義の一部は特別支援学校にて実施し、特別支援学校における具体的な実践をとおして理解を促す。	
		富山大学	知的障害児の教育Ⅱ	知的障害教育における学習形態や集団に応じた支援の考え方及び、知的障害教育における保護者や関係機関との連携のあり方について理解するため、本講義では特別支援学校での見学や学校教師との具体的な質疑応答を通して、知的障害児の教育を支える理論を実践に生かす具体的な考え方を獲得し、将来、その教育に携わる者としての資質を高める。	
		富山大学	知的障害教育実地演習Ⅰ	特別支援学校において授業見学や授業補助等の授業参加を行い、知的障害のある児童生徒の実態把握から指導計画を作成し、特別支援学校において実際に実行・評価することで、知的障害児童生徒の実態把握や評価のあり方、指導計画立案、授業計画作成と教材研究、および知的障害児に対する支援方法について特別支援学校において授業見学や授業補助等の授業参加を行い実践的に学ぶ。	
		富山大学	知的障害教育実地演習Ⅱ	特別支援学校において授業見学や授業補助等の授業参加、知的障害のある児童生徒の実態把握に関わる情報収集や指導計画の作成、計画に基づく実地演習と振り返りまでの一連の流れをチームで行い、特別支援学校において実際に実行・評価することで、知的障害教育における実践の進め方を知り、具体的な評価と分析について実践的に学ぶ。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	特別支援教育	金沢大学	障害児教育基礎論Ⅰ	<p>(概要) 障害のある子どもたちの教育について学ぶにあたって、各障害の基礎的な知識やそれぞれの障害児の応じた教育の現状について理解するために、本講義では、聴覚障害、視覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱の各障害について、生理、心理、教育の側面からその特性を講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>5人の特別支援教育関係教員が各障害の生理・心理・教育的側面から概説する。</p> <p>(42 吉川一義/1回, 2回, 8回)</p> <p>肢体不自由、病弱についての概説的な講義を行うとともに、講義の全体的なコーディネートを担当する。</p> <p>(27 小林宏明/6回)</p> <p>言語障害についての概説的な講義を行う。</p> <p>(31 武居渡/3回, 4回)</p> <p>視覚障害、聴覚障害についての概説的な講義を行う。</p> <p>(85 吉村優子/7回)</p> <p>発達障害に関する概説的な講義を行う。</p> <p>(73 田部絢子/5回)</p> <p>知的障害に関する概説的な講義を行う。</p>	オムニバス方式
		金沢大学	障害児教育基礎論Ⅱ	<p>(概要) 障害のある子どもたちの教育について学ぶにあたって、子どもたちが学ぶ特別支援学校や特別支援学級の具体的な実践について現場教員から学ぶため、本講義では聴覚障害、視覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱の各障害について、特別支援学校や特別支援学級の具体的な子どもたちの姿と実践を取り上げ、講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>各障害について、学校現場等で実際に指導にあたっている教員や支援者から、各障害に応じた具体的な実践や指導について解説をする。</p> <p>(42 吉川一義/4回, 5回, 8回)</p> <p>病弱児及び肢体不自由児を指導する現場教員とともに、学校現場における実践を取り上げ、解説する。</p> <p>(27 小林宏明/6回)</p> <p>言語障害児を指導する現場教員とともに、学校現場における実践を取り上げ、解説する。</p> <p>(31 武居渡/1回, 2回)</p> <p>視覚障害児、聴覚障害児を指導する現場教員とともに、学校現場における実践を取り上げ、解説する。</p> <p>(85 吉村優子/第7回)</p> <p>発達障害児を指導する現場教員とともに、学校現場における実践を取り上げ、解説する。</p> <p>(73 田部絢子/3回)</p> <p>知的障害児を指導する現場教員とともに、学校現場における実践を取り上げ、解説する。</p>	オムニバス方式

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	特別支援教育	富山大学	特別支援教育実地演習	<p>(概要) 本授業では視覚障害教育、聴覚障害教育、知的障害教育、肢体不自由教育、病虚弱児教育を行っている特別支援学校の施設及び授業見学を行ない、特別支援教育の概要や障害種に応じた教育施設・教育内容、支援者のあるべき姿について理解する。</p> <p>(18 宮一志) 視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱の特性についての助言指導。特別支援学校への引率。</p> <p>(58 水内豊和) 知的障害、発達障害など障害児の支援方法、就労・生活についての助言指導。特別支援学校への引率。</p> <p>(63 和田充紀) 知的障害、発達障害など障害児の教育課程、指導内容についての助言指導。特別支援学校への見学の実施計画策定、引率。</p>	共同
			金沢大学	ことばの障害とコミュニケーションⅠ	本授業では言語やコミュニケーションに困難のある児童生徒の特徴や困難、その背景にある障害（言語障害、発達障害、知的障害、聴覚障害等）について解説する。さらに、これらの児童生徒との関わりや指導・支援における留意点について、事例を示しながら解説したり、グループディスカッションを通して具体的に検討したりする。	
			金沢大学	ことばの障害とコミュニケーションⅡ	本授業では、言語やコミュニケーションに困難のある児童生徒に対する特別支援教育の制度（通級指導、特別支援学級の弾力的運用、「チーム学校」による指導・支援等）について解説する。さらに、通級指導等で行われる個別の指導・支援の目的や内容、方法について、事例を示しながら解説したり、グループディスカッションを通して具体的に検討したりする。	
			金沢大学	発達障害指導法Ⅰ	発達障害のある子どもへの指導・支援を推進していくためには、個々の特性を理解し、特性から生じる生活上及び学習上の困難さ、支援ニーズをもとに支援を行っていく必要がある。本講義では発達障害のうち、特に自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動性障害の定義や実態（困難さと背景要因）について概説し、発達障害のある子どもの支援の在り方、実践指導法について理解を深める。	
			金沢大学	発達障害指導法Ⅱ	発達障害のある子どもへの指導・支援を推進していくためには、個々の特性を理解し、特性から生じる生活上及び学習上の困難さ、支援ニーズをもとに支援を行っていく必要がある。本講義では、発達障害のうち、主に学習障害、協調運動の障害等の定義や実態（困難さと背景要因）を理解し、発達障害のある子どもの支援の在り方、実践指導法について理解を深める。	
			富山大学	発達障害児者支援論Ⅰ	生涯を通じた発達障害児者とその家族の心理や生活上の困難の理解とその支援のあり方について理解するために、本講義では発達障害（自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動性障害等）児・者とその家族が、家庭生活や学校生活、地域生活などで直面する諸課題について、合理的配慮、基礎的環境整備、個別の支援について講義を行う。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	特別 支援 教育	富山大学	発達障害児者支援論 II	生涯を通じた発達障害児・者とその家族の心理や生活上の困難の理解とその支援のあり方について理解するために、講義では、発達障害（自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動性障害等）児・者とその家族が、家庭生活や学校生活、地域生活などで直面する諸課題について、合理的配慮、基礎的環境整備、個別の支援の観点から、どのように対応するのか、演習を通して具体的に考え、理解を深めることを目的とする。	
		富山大学	障害児の教育診断臨床 I	（概要）特別な支援を要する児童・生徒の特性を評価する方法、および発達検査、心理検査の概要と利用法を理解するために、本授業では特別な支援を要する児童・生徒の教育支援・心理診断に欠かすことのできない諸検査について理解を深めるとともに、実際に体験することによりその実施法および利用法について学ぶ。 （オムニバス方式／全8回） （18 宮一志／1回, 2回, 3回, 4回, 5回） 特別な支援を要する児童・生徒の教育支援・心理診断に使用される心理検査とその意義・適用について解説し、乳幼児の発達評価法、発達障害の評価法を説明、実演する。 （58 水内豊和／6回, 7回, 8回） 幼児・児童・生徒の能力評価法（KIDS、PVT-Rなど）、生活能力評価（Vineland-II適応行動尺度）を説明、実演する。	オムニバス方式
		富山大学	障害児の教育診断臨床 II	特別な支援を要する児童・生徒の特性を評価する方法として知能検査の基礎と利用法を理解するために、本授業では特別な支援を要する児童・生徒の教育支援・心理診断に欠かすことのできない知能検査（WISC-IV）について解説を行い、実際に体験することによりその実施法および教育現場における実践的な利用法について学ぶ。	
		金沢大学	言語障害指導法	本授業では、吃音、言語発達の遅れを中心とした言語・コミュニケーション障害のある児童生徒に対する指導・支援（在籍学級での支援及び、通級指導や自立活動などの個別の支援）評価、指導・支援の目的や内容、方法について解説する。さらに、個別の指導の実際について、教育相談等の個別の指導場面の参観・参加、言語・コミュニケーション障害のある児童生徒の指導・支援に関する文献購読を通して体験的に学修する。	
		金沢大学	発達障害総論	特別な支援を必要とする子どもへの教育実践には、障害の特性、心身の発達を理解する必要がある。本講義では、発達障害について、その背景となる生物学的要因、発達段階や特性に関するアセスメント法、支援法について、近年の動向を踏まえて概説する。さらに、事例を通して支援の方略を検討するとともに、各発達段階における教育的対応について学ぶ。	
		金沢大学	重複障害児教育 I	今日、障害者の自己決定権の尊重と生活の質が叫ばれている。自分の意思を表明することが極めて困難な障害の重い子の場合、生活の質の向上とは、どのような内容なのか。誰が何に基づいて決めるのか。この授業では、障害の重い子どもを対象に外的環境の認知を促し、対人関係の成立を援助する取り組みについての基礎を学ぶ。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	特別支援教育	金沢大学	重複障害児教育Ⅱ	今日、障害者の自己決定権の尊重と生活の質が叫ばれている。自分の意思を表明することが極めて困難な重症児の場合、生活の質の向上とは、どのような内容なのか。誰が何に基づいて決めるのか。この授業では、重症児を理解すること（重複障害児教育Ⅰ）に基づき、重症児の外的環境の認知を促し、対人関係の成立を援助する取り組みについて考察する。	
		金沢大学	障害児教育基礎演習Ⅰ	<p>（概要）聴覚特別支援学校、知的障害特別支援学校、肢体不自由特別支援学校での教育実践活動に参加し、上記の障害のある子どもへの教育の各シーンを通して、</p> <p>（1）子どもの障害と心理について学ぶ、（2）教師から関わり方を学ぶ、（3）教育の問題と課題を見つけ、今後の専門課程での学修への問題意識を得る。</p> <p>（42 吉川一義） 肢体不自由特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。</p> <p>（27 小林宏明） 知的障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。</p> <p>（31 武居渡） 聴覚障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。</p> <p>（85 吉村優子） 知的障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。</p> <p>（73 田部絢子） 知的障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。</p>	共同
		金沢大学	障害児教育基礎演習Ⅱ	<p>（概要）聴覚障害特別支援学校、肢体不自由特別支援学校、知的障害特別支援学校での教育実践活動に参加し、上記の障害のある子どもへの教育の各シーンを通して、</p> <p>（1）子どもの障害と心理について学ぶ、（2）教師から関わり方を学ぶ、（3）教育の問題と課題を見つけ、今後の専門課程での学修への問題意識を得る。</p> <p>（42 吉川一義） 肢体不自由特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。</p> <p>（27 小林宏明） 知的障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。</p> <p>（31 武居渡） 聴覚障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。</p> <p>（85 吉村優子） 知的障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。</p> <p>（73 田部絢子） 知的障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。</p>	共同

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	特別支援教育	富山大学	障害児支援学演習Ⅰ (概要) 本授業では障害児の教育、福祉にかかる概念的制度的な諸問題、教育課程や指導法、心理・生理・病理的側面などのさまざまな観点から障害児に関わる課題の発見・解決力を養うために、障害児の教育、生活支援に関わる文献輪読、プレゼンテーションを实践しながら、研究方法、研究倫理についての基礎を学ぶ。 (18 宮一志) 量的研究法、研究倫理、障害児の心理・生理・病理についての助言指導。 (58 水内豊和) 質的研究法、知的障害、発達障害など障害児の支援方法、就労・生活についての助言指導。 (63 和田充紀) 実践研究法、知的障害、発達障害など障害児の教育課程、指導内容についての助言指導。	共同
			富山大学	障害児支援学演習Ⅱ (概要) 本授業では障害児の教育、福祉にかかる概念的制度的な諸問題、教育課程や指導法、心理・生理・病理的側面などのさまざまな観点から障害児に関わる課題の発見・解決力を養うために、障害児の教育、生活支援に関わる文献輪読、プレゼンテーションを实践しながら、研究方法、研究倫理についての実践力を身に付ける。 (18 宮一志) 量的研究法、研究倫理、障害児の心理・生理・病理についての助言指導。 (58 水内豊和) 質的研究法、知的障害、発達障害など障害児の支援方法、就労・生活についての助言指導。 (63 和田充紀) 実践研究法、知的障害、発達障害など障害児の教育課程、指導内容についての助言指導。	共同
			富山大学	障害児支援学演習Ⅲ (概要) 本授業では障害児の教育、福祉にかかる概念的制度的な諸問題、教育課程や指導法、心理・生理・病理的側面などのさまざまな観点から障害児に関わる課題の発見・解決力を養うために、障害児の教育、生活支援に関わる文献輪読、プレゼンテーションを实践しながら、研究方法、研究倫理を踏まえた課題解決法の基礎を学ぶ。 (18 宮一志) 量的研究法、研究倫理、障害児の心理・生理・病理についての助言指導。 (58 水内豊和) 質的研究法、知的障害、発達障害など障害児の支援方法、就労・生活についての助言指導。 (63 和田充紀) 実践研究法、知的障害、発達障害など障害児の教育課程、指導内容についての助言指導。	共同

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	特別支援教育	富山大学	障害児支援学演習Ⅳ	<p>(概要) 本授業では障害児の教育、福祉にかかる概念的制度的な諸問題、教育課程や指導法、心理・生理・病理的側面などのさまざまな観点から障害児に関わる課題の発見・解決力を養うために、障害児の教育、生活支援に関わるフィールドワーク、プレゼンテーションを実践しながら、研究方法、研究倫理を踏まえた課題解決法の実践力を身に付ける。</p> <p>(18 宮一志) 量的研究法、研究倫理、障害児の心理・生理・病理についての助言指導。医療・福祉施設でのフィールドワーク。</p> <p>(58 水内豊和) 質的研究法、知的障害、発達障害など障害児の支援方法、就労・生活についての助言指導。保育・福祉施設でのフィールドワーク。</p> <p>(63 和田充紀) 実践研究法、知的障害、発達障害など障害児の教育課程、指導内容についての助言指導。学校・福祉施設でのフィールドワーク。</p>	共同
		各大学	特別支援教育学演習	<p>(概要) 本授業では、一人一人の障害の種類・程度等の困難性をふまえた教育内容・方法を理解したうえで、障害を有する子どもが能動的に学べるような教育方法を模擬的に実践し、協働省察することで特別支援教育に関わるうえでの専門的な力量を身に付ける。</p> <p>(42 吉川一義) 肢体不自由、重複障害の特性及び指導法に関する助言指導。</p> <p>(27 小林宏明) 言語障害の特性及び指導法に関する助言指導。</p> <p>(31 武居渡) 聴覚障害の特性及び指導法に関する助言指導。</p> <p>(85 吉村優子) 発達障害の特性及び指導法に関する助言指導。</p> <p>(73 田部絢子) 知的障害の特性及び指導法に関する助言指導。</p> <p>(18 宮一志) 病弱児の特性及び他機関との連携に関する助言指導。</p> <p>(58 水内豊和) 発達障害の特性及び生活支援に関する助言指導。</p> <p>(63 和田充紀) 知的障害の特性および指導法に関する助言指導。</p>	共同
	国語教育	富山大学	日本語学概論Ⅰ	日本語学の基礎知識を体系的に学ぶ。講義を通じて、新しい現象を発見する方法、日本語を分析的に見る方法、学術的に捉える観点、など日本語に関する諸問題を取り扱う。併せて、日本語に関する資料や調査結果を活用して、日本語の生態を観察する。現代語はもとより、一部古典語まで範囲を広げて、日本語学の知見について体系的に学習する。本講義では、日本語の文字・単語レベルでの分析を中心としている。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 国語教育	富山大学	日本語学概論Ⅱ	日本語学の基礎知識を体系的に学ぶ。講義を通じて、新しい現象を発見する方法、日本語を分析的に見る方法、学術的に捉える観点、など日本語に関する諸問題を取り扱う。併せて、日本語に関する資料や調査結果を活用して、日本語の生態を観察する。現代語はもとより、一部古典語まで範囲を広げて、日本語学の知見について体系的に学習する。本講義では、日本語の文の構造や文末表現、文章の構成の分析を中心としている。	
	各大学	日本語学演習Ⅰ	優れた文章を書くためには名文を読むことも大切であるが、児童・生徒をはじめ一般の人にとっては名文を書くことよりも、悪文を書かないことの方が大切である。そして、自身が悪文を書かないようにするためには、身の回りの悪文に気づける能力の養成が重要である。この演習では、参考書『悪文 伝わる文章の作法』によって悪文の原因を概観し、その後は受講生が身の回りで見つけた悪文と思われるものを持ち寄って、悪文たる理由を発表し、受講生全員でそれが適切な指摘かを検討し、どのように直せば良いかについてディスカッションする。	
	各大学	日本語学演習Ⅱ	類義語の意味分析の方法を参考文献等から学び、受講生各自が選択した類義語の意味の違いを明らかにするために、従来の国語辞典の意味記述を批判的に検討するとともに、多くの用例を採集して分析し、レジュメにまとめて発表する。そして発表内容についての他の受講生とのディスカッションを通して、ことばの意味を記述することの面白さ、難しさを知るとともに、児童・生徒にもそのような体験をさせるための基礎知識を習得する。	
	富山大学	日本語学演習Ⅲ	社会言語学は、既存の文法や語彙の知識とは異なり、社会の中でことばがどのように運用されているのかを探る学問分野である。個人の自省に頼る言語分析ではなく、社会における言語生活の実態から自分なりのテーマを発見して適切な方法で調査を行う。調査・発表の過程を一通り学ぶことで、卒業研究に向けて調査研究の基本スキルを身に付けることができる。また、全員に発表を科しているため、適切な形でまとめ、説明する技術を身につけることができる。	
	富山大学	日本語学演習Ⅳ	日常の様々な会話の場面におけるコミュニケーションスキル、会話の方略について議論・考察する。テーマに即したロールプレイ（会話実演）を行い、実践力を養う演習である。会話の方略や理論を実際の場でためしてみ、有効性を検証し独自の修正を行う。授業で学んだコミュニケーションスキルを実生活で実践して有効性を確かめられる。話し下手・交渉下手（と思っている人）、会話の駆け引きを理論的に学びたい人に受講してほしい。	
	富山大学	日本語表現Ⅰ（言語指導におけるデータと理論の融合）	国語教師は授業を効果的な授業展開を行うにあたって資料や知識を活用するが、思い込みや経験則に偏りがちなのが作文指導・評価である。優れた文章を書くためには名文を読む（読ませる）ことも大切であるが、実際に児童が（教師自身も）書いてみる経験が重要である。さらに本講義では、児童や生徒が書いた実際の作文の大規模データを活用して、児童・生徒の文章作成能力を解明する。客観的なデータも併用することで、経験の不足を補うだけでなく、これまれば気づかれにくかった児童・生徒の特性を抽出した新しい作文指導のあり方に言及する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門教育科目	専門科目	国語教育	富山大学	日本語表現Ⅱ（言語指導におけるデータと理論の融合）	国語教師は授業を効果的な授業展開を行うにあたって様々な資料や知識を活用する必要がある。特に思い込みや経験則に偏りがちなのが作文指導・評価である。実際どれだけの教員が文種の書き分けや指導を的確にすることが可能だろうか。本講義では、文種別に実際に作文を書くための準備から作文完成までの過程を実践しながら、注意点を指摘して、有効な支援のあり方を検討する。その際、実際の大規模作文データを活用する探索的な分析法を習得する。併せて、現役教師に対する調査結果を資料として文章評価の実情に言及する。	
			各大学	日本語史Ⅰ	古代から現代に至るまでの日本語の歴史に関する基本的知識と、言語史に関する基本的な考え方について学ぶ。本授業では、日本語史に関する客観的な見方、音韻変化の年代および前後の変化との関係に関する知識、文字に関する諸問題を取り扱う。併せて、日本語史の資料となる代表的な文献とその特色を見ていく。日本語史に関する知識は、古典文（文語文）を読解・理解するうえで有益でもあるので、講義ではその点にも留意する。	
			各大学	日本語史Ⅱ	古代から現代に至るまでの日本語の歴史に関する基本的知識と、言語史に関する基本的な考え方について学ぶ。この授業では、文法・語法に関する変化、および各事項の相互関係に関する知識、書き言葉と話し言葉に関する諸問題を取り扱う。併せて、日本語史の資料となる代表的な文献とその特色を見ていく。日本語史に関する知識は、古典文（文語文）を読解・理解するうえで有益であることに留意する。	
			富山大学	日本語学講読Ⅰ	学校文法と周辺の文法論を比較しながらその特性について理解を深める。現場での学習状況に鑑みるに、これまでしっかりと学習がなされていないことが予想されるため、学校文法の基本事項から体系的に学習を進める。さらに学校文法学習時の問題点、現場における指導の状況について確認し、問題点と指導法改善のについて詳述する。	
			富山大学	日本語学講読Ⅱ	前半は語用論的分析手法の基礎を学習する。後半は実際の会話例からコミュニケーションの分析を行う。具体的には、相手に対する「配慮」がどのように言語活動（または非言語的なものとして）として表現されるのかを学ぶ。本講読全体を通して、日本語のコミュニケーションのルールについての理解を深め、国語表現の授業時に活用できるよう理解を深める。	
			金沢大学	日本語学講読Ⅲ	国語科の教員をめざす者には、日本語という言語そのものに対する深い興味と理解が求められる。そこで、本授業では世界の中の一言語としての日本語の言語的特徴について、主として現代日本語の音声・音韻に関する諸問題を概観しながら、日本語の相対的な位置づけを確認した上で、日本語学の知見の応用可能性についても検討する。それによって、国語教育に必要な日本語の基礎知識を身につけることを目的とする。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	国語教育	金沢大学	日本語学講読Ⅳ	国語科の教員をめざす者には、日本語という言語そのものに対する深い興味と理解が求められる。そこで、本授業では世界の中の一言語としての日本語の言語的特徴について、主として現代の日本語の文字・表記、そして、語彙・意味に関する諸問題を概観しながら、適宜国語教育に関わるトピックを取り上げ、日本語学の知見の応用可能性についても検討する。それによって、国語教育に必要な日本語の基礎知識を身につけることを目的とする。	
			富山大学	日本文学概論Ⅰ（教育と文学の関係を含む）	中学校・高等学校国語科を担当するに必須の、日本文学研究の基礎的な知識を習得するために、文学研究に必要な姿勢、文献収集・本文異同等の調査、読解のポイント、評価の枠組み等を学ぶと共に、作品分析の実例を確認し、実際のテキストを方法論に基づいて読み、独創的な見解をレポート等で表現する。文学がいかに書き手や社会の価値観を反映・創出しているのかを検討し、文学と教育の相関について学ぶ。	
			富山大学	日本文学概論Ⅱ（国語教科書と文学理論）	中学校・高等学校国語科の国文学分野における知識と技能を身につける。特に国語においてPISA型読解力の育成において論理が重視され、その手立てとして文学作品の分析を行うことが必須であるため、詩・物語の論理性と論説文・日常言説の修辞性を確認し、それが何を意味しているかを、国語教科書教材として採録される作品に即して文学理論を学びながら検討し、自らの見解を作品分析レポートとして豊かに表現する。	
			各大学	日本文学演習Ⅰ	中学校・高等学校国語科の国文学分野における知識と技能を身につける。おもに詩歌に関連する作品を対象とし、自分の言葉で作品の読み方をまとめていく。その過程を発表資料やレポートに書くことによって、考えを深めることを目指す。演習形式で授業を行う。それぞれ担当を定め、教員があらかじめ指定したテキストについての発表と討議をすすめていく。	
			各大学	日本文学演習Ⅱ	「日本文学演習Ⅰ」に引き続き、中学校・高等学校国語科の国文学分野における知識と技能を身につけることを目指す。教員が指定したテキスト（詩歌に関連するものを対象とする。）についての発表と討議を行う。担当者の発表を叩き台とし、教室全体で議論を交わし分析を深める。文献の入手・整理法や、立論・分析の方法などについて、模範発表や実際の発表過程で指導する。	
			各大学	日本文学演習Ⅲ	明治期から戦前昭和までの文学作品、特に小説をとりあげ、同時代の文化や社会との関係をふまえながら、作品世界の構造を論理的に分析して読解する能力を修得する。作品中の言葉が担う意味を、読み手が各自恣意的に理解するのではなく、作品が書かれた時代において、また作品の文脈においていかに理解するべきかを、客観的・論理的に理解する。各界で担当が一作品についてレジュメを作成して発表し、教員・履修者と議論をおこなう。	
			各大学	日本文学演習Ⅳ	アジア・太平洋戦争終結後の文学作品、特に小説をとりあげ、同時代の文化や社会との関係をふまえながら、作品世界の構造を論理的に分析して読解する能力を修得する。戦後文学はそれ以前の文学と比較して内容の多様性が増し、方法やメタファーも多岐に亘っている。作品の言葉が持つ意味を詳細に検討し、その世界を理解する分析力を修得する。各界で担当が一作品についてレジュメを作成して発表し、教員・履修者と議論をおこなう。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	国語教育	富山大学	日本児童文学Ⅰ	中学校・高等学校国語科の国文学分野における知識と技能の基礎を身につける。児童を主人公／読者とする児童文学・ファンタジーの諸相について専門的な視点から考える能力を育てるために、児童文学の定義、児童文学の様々なジャンルについて学ぶと共に、児童文学作品、特にあまんきみこ・安房直子をはじめとする女性児童文学の教材や非教材の代表作を、方法論に基づいて分析・検討することで、受講生自らが独創的な見解をレポート等で表現することができるようになる。	
			富山大学	日本児童文学Ⅱ	中学校・高等学校国語科の国文学分野における知識と技能を身につける。児童を主人公／読者とする児童文学・ファンタジーの諸相について専門的な視点から考える能力を育てるために、児童文学作品、特に新美南吉などの戦前の男性作家の児童文学から村上春樹・江國香織をはじめとする戦後児童文学・現代児童文学の教材や非教材の代表作を、方法論に基づいて分析・検討することで、受講生自らが独創的な見解をレポート等で表現することができるようになる。	
			金沢大学	日本近現代文学Ⅰ	日本近現代文学が捉えた人間の生を、精緻な実証的分析と理論的枠組みの双方に目配りしながら分析する能力を修得する。日本近現代文学のテキストを、その根差す時代、社会、文化、場所をめぐる様々な問題に目を向けながら分析し、テキストの持つ世界構造を明らかにし、それが照らし出す問題について考察する。これによって小説や詩歌を精確に読解する能力を修得する。	メディア
			金沢大学	日本近現代文学Ⅱ	日本近現代文学の諸作品を構造や語り、細部の描写に注意しながら解釈し、文学作品が捉えた諸問題を理解し考察する能力を修得する。戦争、大災害、虐待その他個人的体験など、危機的体験の後を生きる人間の生を描いた文学テキストを取り上げ、文学を通じてこそ語られる諸問題について分析する。これによって小説や詩歌を精確に読解する能力を修得する。	
			金沢大学	日本古典文学Ⅰ	和歌を読み解く能力を養うことは、古典文学に対する理解を深める上でも重要なことである。なかでも勅撰集は当代の政治的・文化的潮流と強く関わっている。そこで本授業では、勅撰集成の成立事情や歌風等を起点として中古・中世和歌および各時代の著名な古典文学について学び、中学校・高等学校国語科の国文学分野で役立つ知識を身につける。	メディア
			金沢大学	日本古典文学Ⅱ	本授業では、「日本古典文学Ⅰ」で学んだ古典文学に関する基礎知識を活用しつつ、和歌作品の調査と分析を行う。発表担当者は事前に発表資料を示し、他の受講者はその資料を十分予習した上で発表と討議に取り組む演習形式の授業を行っていく。これらの活動を通じて、問題を自ら発見し、掘り下げ、解決していく力の獲得を目指す。	
			金沢大学	日本文学史Ⅰ（教育上の現代的課題を含む）	中学校、高等学校の国語科を担当するに必須の、日本文学に関する基本的な知識と読解力を得られるよう、日本文学史と日本文学をめぐる諸問題（昨今、話題となっている古典不要論などの現代的な問題を含む）を概観する。本授業では、中学校、高校の古典教材に取りあげられる作品を中心に学び、伝統的言語文化と文学の特質についての理解を深めていく。	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門教育科目	専門科目	国語教育	金沢大学	日本文学史Ⅱ（教育上の現代的課題を含む）	日本近現代文学分野の基礎知識・分析能力を修得し、日本文学をめぐる諸問題について認識を深め、教育上の現代的課題に対応する力を身につける。中学校、高等学校の国語科を担当するに必須の、日本近現代文学に関する基本的な知識と読解力を修得し、日本文学史と日本文学をめぐる諸問題を概観する。その上で、文学史の視点から教育の現代的課題を分析する。	メディア
			各大学	日本文学講読Ⅰ	明治から戦前昭和にいたる小説群を、本文の詳細な解析とともに同時代の思潮・言説をおさえて注釈的に理解し、登場人物の性格、作品の構造、その世界観を分析することをとおして、日本近代文学に関する基礎的な理解・読解能力を修得する。一言一句の解釈をゆるがせにせず、テキストを丹念に辿り、同時代の文脈に作品を置いてそれのもつ意味を捉え、理解する。講義形式で作品を読解していくが、出席者との議論、意見交換を積極的におこない、主体的な読みの作業を進める。	
			各大学	日本文学講読Ⅱ	アジア・太平洋戦争終結後の小説群を、本文の詳細な解析とともに同時代の思潮・言説をおさえて注釈的に理解し、登場人物の性格、作品の構造、その世界観を分析することをとおして、日本近代文学に関する基礎的な理解・読解能力を修得する。一言一句の解釈をゆるがせにせず、テキストを丹念に辿り、同時代の文脈に作品を置いてそれのもつ意味を捉え、理解する。講義形式で作品を読解していくが、出席者との議論、意見交換を積極的におこない、主体的な読みの作業を進める。	
			各大学	日本文学講読Ⅲ	中学校・高等学校国語科の国文学分野の知識と技能を身につけることを目的としている。本授業では、時代を問わず韻文やそれに関連する作品について適切に把握し、基礎的な知識を得る。また、それらを得ることによって平易な言葉で生徒に説明できること、作品の背景や韻文特有の言い回しなどについて、必要に応じて生徒に解説できることも目指す。	
			各大学	日本文学講読Ⅳ	「日本文学講読Ⅲ」に引き続き、中学校・高等学校国語科の国文学分野の知識と技能を身につけることを目的としている。韻文はひとつひとつが短いゆえに、複数を「集」としてまとめたり、他の作品に組み込まれたりすると、解釈が変化することがある。本授業では、そうしたテキストの構造や享受等に注意をはらいつつ読み解き、韻文やそれに関連する作品への理解を深めていく。	
			金沢大学	漢文学概論Ⅰ（教育上の現代的課題を含む）	漢文の基礎知識である経書全体を概説しつつ、特に『論語』『孟子』『荀子』を取り上げて講読する。訓読・読解を通して各時代の文化・歴史の様相とそこに表れる普遍性を考え、かつ、そこから教育上の現代的課題を見つめ直す。それによって、理論的かつ実践的に漢文を教授する力を養う。また、毎回内容に基づく小テストを実施する。基本的に講義形式だが、事前にはっきりと準備をする必要がある。	メディア
			金沢大学	漢文学概論Ⅱ（教育上の現代的課題を含む）	経書を学んだことを踏まえ、その対比として老荘思想について講読する。また、『春秋左氏伝』や『史記』などの史書を取り上げる。それぞれの訓読・読解を通して各時代の文化・歴史の様相とそこに表れる普遍性を考え、かつ、そこから教育上の現代的課題を見つめ直す。それによって、理論的かつ実践的に漢文を教授する力を養う。毎回、講義した内容に基づく小テストを実施する。基本的に講義形式だが、事前にはっきりと準備をする必要がある。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	国語教育	各大学	漢文学演習Ⅰ	中国最古の文学である『詩経』から六朝、そして、唐代の作品のうち、しばしば教科書に教材として取り上げられている作品を演習形式で精読する。それによって、漢詩の修辞法を学び、かつ、影響を受けた後世の詩文にも触れつつ、中学校・高等学校国語科の漢文分野の基礎的な知識・技能を習得する。また、発表後は討論を通じて、漢文を教授する力、その知識の基礎を形成させる。	
		金沢大学	漢文学演習Ⅱ	唐代から宋代にかけて、日本に流伝した詩人の詩文集は多く、大きな影響を及ぼした。そこで、演習形式でそれらの詩を精読し、漢詩の修辞法を学ぶ。また、漢詩に影響を受けて創作を行った日本の詩についても取り上げ、中学校・高等学校国語科の漢文分野の総合的な知識・技能を習得する。発表後は討論を通じて、漢文を教授する力、その知識を深める。	
		金沢大学	漢文学講読Ⅰ	漢王朝のために匈奴に嫁いで両国の架け橋となった王昭君について扱った、漢から宋代までの歴代の作品を取り上げて講義する。基本的な中国古典の修辞法と辞書の使い方などを指導するほか、各作品の鑑賞を通して、それぞれの時代の政治の理想像や、そこに表れる志操や悲哀、普遍性を理解する。基本的に講義形式だが、事前しっかりと準備をする必要がある。	
		金沢大学	漢文学講読Ⅱ	三国時代の蜀の宰相である諸葛亮について扱った、三国時代から宋代までの歴代の作品を取り上げて講義する。基本的な中国古典の修辞法と辞書の使い方などを指導するほか、各作品の鑑賞を通して、それぞれの時代の政治の理想像や、そこに表れる志操や悲哀、普遍性を理解する。基本的に講義形式だが、事前しっかりと準備をする必要がある。	
		各大学	書写書道基礎Ⅰ	中学校学習指導要領（平成29年告示）を踏まえて、中学校国語科書写に関する基礎知識を得るとともに、硬筆及び毛筆の書字技能と書写指導法を身につけることを目標とする。学校教育における書写の必要性や現在の国語科書写が直面している課題等についても整理・検討する。 教育現場におけるカリキュラムの連続性を考えて、小学校国語科書写についての知識とその指導上必要となる技能の習得も重視していく。講義は、実際に小中の各教育現場で教壇に立っている書写指導担当教員を複数迎えて実施する。	
		各大学	書写書道基礎Ⅱ	中学校学習指導要領（平成29年告示）を踏まえて、中学校国語科書写に関する基礎知識を得るとともに、硬筆及び毛筆の書字技能と書写指導法を身につけることを目標とする。学校教育における書写の必要性や現在の国語科書写が直面している課題等についても整理・検討する。 教育現場におけるカリキュラムの連続性を考え、高等学校芸術科書道についての知識、指導上必要となる技能の習得も重視していく。講義は、実際に高等学校の教育現場で教壇に立っている芸術科書道を担当する教員を迎えて実施する。	
		金沢大学	国語科教育法Ⅰ（石川県の教育実践を含む）	中等教育における学習指導要領〔国語〕の目標及び内容を整理するとともに、小学校から高等学校に至る国語科の内容的繋がりや高等学校の科目編成等について把握する。また、中学校及び高等学校における石川県の国語科指導の実践事例を聞き、内容の解説を通して、中等教育における国語科の実際を理解する。それにより、中学校及び高等学校の教員として国語科学習指導を担当する際に必要となる基礎的な知識を得、心構えを身につける。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	国語教育	金沢大学	国語科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）	中等教育における国語科学習指導の動画を視聴し、その分析を通して、授業の展開やそれを推進する教師の言動、用いられた教材教具などの意味や価値を理解し、自らが実践する際に活かせる知識を得る。また、石川県の教育実践を踏まえて国語科の単元を構想し、学習指導案として表現することを通して、国語科教員としての授業実践の基礎力をつける。	メディア
			富山大学	国語科教育法Ⅲ（富山県の教育実践を含む）	中学校・高等学校における国語科教育の概要を知り、教材研究法を習得する。また、実際の教科書教材について「教材研究」を体験するとともに、中学校・高等学校での国語科教員として実務経験を生かして、理論的側面を踏まえた中学校・高等学校国語科学習指導案を作成する力量を身に付ける。また富山県の郷土教材や富山県内の教育実践も取り上げる。	
			富山大学	国語科教育法Ⅳ（富山県の教育実践を含む）	中学校・高等学校における国語科教育の概要を知り、教材研究法を習得する。また、実際の教科書教材について「教材研究」を体験し、中学校・高等学校国語科学習指導案を作成する力量を身に付ける。中学校・高等学校における国語科授業の実務経験を活かし、模擬授業を実施するとともに振り返りを行う。これらの講義を通して、国語科授業を行うにあたって必要な実践的知識の獲得を目指す。さらに富山県の郷土教材や富山県内の教育実践も取り上げる。	
			各大学	国語科教育法Ⅴ	中等教育における音声言語指導の問題点を掴み、その改善に向けて学習指導・学習評価の在り方を検討する。中学校と高等学校における音声言語教材を俯瞰するとともに、その中のいくつかを取り上げて教材研究を行い、単元を構想する。その後、模擬授業の実施と授業後の整理会を通して単元の改善点や工夫点を整理していく中で、国語科教師としての実践力を高める。	
			各大学	国語科教育法Ⅵ	中等教育における文字言語指導の問題点を掴み、その改善に向けて学習指導・学習評価の在り方を検討する。中学校と高等学校における文字言語教材を俯瞰するとともに、その中のいくつかを取り上げて教材研究を行い、単元を構想する。その後、模擬授業の実施と授業後の整理会を通して単元の改善点や工夫点を整理していく中で、国語科教師としての実践力を高める。	
			各大学	国語科教育法Ⅶ	パソコンやタブレット端末といった新しい教具やデジタル教材などを取り入れた国語科学習指導の現状や可能性を知り、指導事項を効率よく効果的に実現するためにどのような場でどのように活用できるかを協議する。また、アナログ教具の進化についても目を向け、特に思考ツールの活用方法について検討する。そして、情報機器や新しいアナログ教具を導入した指導構想を提案し、有効性を協議することを通して国語科教師としての実践力を高める。	
			各大学	国語科教育法Ⅷ	中等教育、特に高等学校の国語科学習指導において誤解されやすく、苦手意識をもたれやすい「知識及び技能」の扱い方、古文の学習指導、学習評価について焦点化し、それらを行う際の留意点を理解する。そして、実際に教壇に立ったときに適切に対応できるように指導方法を考えたり、模擬評価を行ったりして国語教師としての実践力をつける。	
			各大学	国語科教育法Ⅷ	中等教育、特に高等学校の国語科学習指導において誤解されやすく、苦手意識をもたれやすい「知識及び技能」の扱い方、古文の学習指導、学習評価について焦点化し、それらを行う際の留意点を理解する。そして、実際に教壇に立ったときに適切に対応できるように指導方法を考えたり、模擬評価を行ったりして国語教師としての実践力をつける。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 国語教育	金沢大学	国語科教育演習Ⅰ	『国語教育基本論文集成』等の指定した論文集の中から、小学校国語科の〔思考力、判断力、表現力等〕、特に「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の学習指導・学習評価に関する論文を各自で1編選び、その要約と解説、論文評価、関連情報の提示を行う。その後、発表内容の妥当性、論文に提示されている主張の是非や可能性などについてグループや全体で議論するとともに、各回の発表内容に沿って国語科学習指導・学習評価の在り方を検討する。	
	金沢大学	国語科教育演習Ⅱ	『国語教育基本論文集成』等の指定した論文集の中から、小学校国語科の〔思考力、判断力、表現力等〕、特に「読むこと」と「知識及び技能」の学習指導・学習評価に関する論文を各自で1編選び、その要約と解説、論文評価、関連情報の提示を行う。その後、発表内容の妥当性、論文に提示されている主張の是非や可能性などについてグループや全体で議論するとともに、各回の発表内容に沿って国語科学習指導・学習評価の在り方を検討する。	
	金沢大学	国語科教育演習Ⅲ	『国語教育基本論文集成』等の指定した論文集の中から、中学校国語科の〔思考力、判断力、表現力等〕の3領域、及び〔知識及び技能〕における特に「(3)我が国の言語文化に関する事項」の「読書」に関する論文を各自で1編選び、その要約と解説、論文評価、関連情報の提示を行う。その後、発表内容の妥当性、論文に提示されている主張の是非や可能性などについて検討するとともに、各回の発表内容に沿って国語科学習指導・学習評価の在り方等を検討する。	
	金沢大学	国語科教育演習Ⅳ	『日本語学』（明治書院）や『月刊国語教育研究』（日本国語教育学会）等に掲載された国語科教育学の実践論文の中から、高等学校国語科の〔思考力、判断力、表現力等〕の学習指導・学習評価に関するものを各自で1編選択し、その要約と解説、論文評価、関連情報の提示を行う。その後、発表内容の妥当性、論者の主張の是非や可能性などについて議論するとともに、各回の発表内容に沿って国語科学習指導や学習評価の在り方等を検討する。	
	金沢大学	国語科実践研究Ⅰ	<p>国語科各領域（日本文学・漢文学）専門の教員と国語科教育学の教員が連携し、国語教材を理論的・専門的観点から分析することによって、考える力、読む力、表現する力を育む授業構築を学生が主体的に考察し、授業に生かす基本的能力を修得する。教育実習に向け、小学校国語科の教育課程を理解し、編成するための基礎となる教材研究をおこない、授業実践に生かす能力を修得する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（24 折川司／1回、4回、5回、8回） 教育実践研究の課題について理解を深め、現代文及び国語と伝統文化に関する授業実践・授業研究について検討する。</p> <p>（66 飯島洋／2回、3回） 現代文分野の教材研究について検討する。</p> <p>（76 原田愛／6回） 漢字文化に関する教材研究と授業実践について検討する。</p> <p>（71 大野順子／7回） 国語と伝統文化に関する教材研究について検討する。</p>	オムニバス方式

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	国語教育	金沢大学	国語科実践研究Ⅱ	<p>国語科各領域（日本文学・漢文学）の教員と国語科教育学の教員が連携し、国語教材を理論的・専門的観点から分析することによって、考える力、読む力、表現する力を育む授業構築を学生が主体的に考察し、授業に生かすとともにあるべき授業について研究する能力を修得する。教育実習に向け、中学校・高等学校の国語科の教育課程を理解し、編成するための基礎となる教材研究をおこない、授業実践に生かす能力を修得する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（24 折川司／1回、4回、6回、8回） 教育実践研究の課題について理解を深め、授業実践・授業研究について検討する。</p> <p>（66 飯島洋／2回、3回） 現代文分野の教材研究について検討する。</p> <p>（71 大野順子／5回） 古文分野の教材研究について検討する。</p> <p>（76 原田愛／7回） 漢文分野の教材研究について検討する。</p>	オムニバス方式
			金沢大学	国語科実践研究Ⅲ	<p>国語科各領域（日本文学・漢文学）専門の教員と国語科教育学の教員が連携し、国語教材を理論的・専門的観点から分析することによって、考える力、読む力、表現する力を育む授業構築を学生が主体的に考察し、授業に生かす基本的能力を修得する。教育実習を受け、小学校国語科の教育課程を理解し、編成するための基礎となる教材研究をおこない、授業実践に生かす能力を修得する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（24 折川司／1回、4回、5回、8回） 教育実践研究の課題について理解を深め、現代文及び国語と伝統文化に関する授業実践・授業研究について検討する。</p> <p>（66 飯島洋／2回、3回） 現代文分野の教材研究について検討する。</p> <p>（76 原田愛／6回） 漢字文化に関する教材研究と授業実践について検討する。</p> <p>（71 大野順子／7回） 国語と伝統文化に関する教材研究について検討する。</p>	オムニバス方式

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	国語教育	金沢大学	国語科実践研究Ⅳ	<p>国語科各領域（日本文学・漢文学）の教員と国語科教育学の教員が連携し、国語教材を理論的・専門的観点から分析することによって、考える力、読む力、表現する力を育む授業構築を学生が主体的に考察し、授業に生かすとともにあるべき授業について研究する能力を修得する。教育実習を受け、中学校・高等学校の国語科の教育課程を理解し、編成するための基礎となる教材研究をおこない、授業実践に生かす能力を修得する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（24 折川司／1回、4回、6回、8回） 教育実践研究の課題について理解を深め、授業実践・授業研究について検討する。</p> <p>（66 飯島洋／2回、3回） 現代文分野の教材研究について検討する。</p> <p>（71 大野順子／5回） 古文分野の教材研究について検討する。</p> <p>（76 原田愛／7回） 漢文分野の教材研究について検討する。</p>	オムニバス方式
			富山大学	「話すこと・聞くこと」指導実践演習	<p>県内の義務教育学校化の動きに合わせて小中連携が求められる状況で、国語科学習指導要領の3領域について、小学校から高等学校に至る発展的な授業のための高度で広い知識を学ぶ必要がある。</p> <p>「話すこと・聞くこと」領域においては、表現力とともに、論理的に伝える、情報を選択的に収集する技術も求められる。本領域の内容は教科書では不十分で、新任教師では対応できない。そこで、アナウンサーや報道記者などプロの話し手・聞き手の協力も得て、人に伝わる話し方の実際と実践的な演習を行い、中学校での学習への接続を意識した、より高度な内容・指導法を学ぶ。さらに手話や読み聞かせなど現場で活用できる会話の技術についても学ぶ。</p>	
			富山大学	「書くこと」指導実践演習	<p>県内の義務教育学校化の動きに合わせて小中連携が求められる状況で、国語科学習指導要領の3領域について、小学校から高等学校に至る発展的な授業のための高度で広い知識を学ぶ必要がある。</p> <p>「書くこと」領域においては、教師自身も知識だけではなく、取材から交流まで実際に体験してみることが肝要である。そこで、Webライターや新聞記者などプロの書き手の協力も得て、人に伝える文章の実際と実践的な演習を行い、中学校での学習への接続を意識した、より高度な内容・指導法を学ぶ。さらにNIE（新聞教育活用）など現場で活用できる教材の活用についても学ぶ。</p>	
富山大学	「読むこと」指導実践演習	<p>県内の義務教育学校化の動きに合わせて小中連携が求められる状況で、国語科学習指導要領の3領域について、小学校から高等学校に至る発展的な授業のための高度で広い知識を学ぶ必要がある。</p> <p>「読むこと」領域において本科目では、オーソドックスな文学的文章・説明的文章について扱う。PISA型読解力を高めるために高等学校学習指導要領では文学的文章と説明的文章とを区別し後者を重視しているが、しかしPISAの原文では小説などの論理構造を把握することで読解力を高めることが求められ、また論理的文章もレトリックなどの文学性を持つ点で、指導要領を補完・発展させ、評論・小説に対するレトリックと論理の把握が国語科教員には今後必要であり、そのための演習を評論文を中心に小説・詩まで展開する。</p>				

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	国語教育	富山大学	メディア・地域教材開発指導演習	県内の義務教育学校化の動きに合わせて小中連携が求められる状況で、国語科学習指導要領の3領域について、小学校から高等学校に至る発展的な授業のための高度で広い知識を学ぶ必要がある。 「読むこと」領域において、本科目では、映像・音声・画像・絵画などのマルチメディア・地域テキストを検討・分析することで、今日的課題に対応した先進的教材を開発したり、物語創作等の「読むこと」領域と「書くこと」領域の架橋を行いうる領域について実践することで、より発展・複合した内容を学ぶ。	
		富山大学	国語科教育演習	文部科学省は、これからの教員に求められる資質能力として、教科指導の充実と専門性の向上を指摘している。そのため、教材分析や授業実践、またリフレクションのあり方について教科指導の専門性をより向上させる必要があるため。単元の構想・実践といった授業力の育成を目標とし、文献講読・教材分析・模擬授業を通して国語科授業のあり方についての見識を深める。 先行研究の講読を通し、国語科の教育課程や指導法の理解を深めるとともに、そこで得られた知識を基に主体的な教材分析や模擬授業の構想・実践を行う。模擬授業においては、指導上の工夫や教材研究のあり方に対して受講生同士で評価し合うことを通して、国語科教師としての授業力向上を目指す。	
	社会科教育	各大学	日本史学概論Ⅰ	中学校の社会科、高等学校地理歴史科の日本史分野の基礎知識・技能を身につけることを目標にしている。特に初等・中等教育における日本史のテーマの広がりの魅力、それを授業として実践するための基本的な考え方や方法を習得する。原始から現代まで、日本史上で起こった政治・経済・社会・文化的諸相を切りとり、授業実践の事例を紹介しながら講義をする。あわせて、さまざまな史料を読み解くための基本的な技術や方法を概説する。日本史学概論Ⅱに接続するものであり、両者をもって、日本の通史を扱う。	
		各大学	日本史学概論Ⅱ	中学校の社会科、高等学校地理歴史科の日本史分野の基礎知識・技能を身につけることを目標にしている。特に初等・中等教育における日本史のテーマの広がりの魅力、それを授業として実践するための基本的な考え方や方法を習得する。原始から現代まで、日本史上で起こった政治・経済・社会・文化的諸相を切りとり、授業実践の事例を紹介しながら講義をする。あわせて、さまざまな史料を読み解くための基本的な技術や方法を概説する。日本史学概論Ⅰを前提としたものであり、両者をもって、日本の通史を扱う。	
		富山大学	日本史学各論（近世・近代）Ⅰ	特定の地域を焦点にした歴史（地域史）の見方・捉え方を学ぶ。それに加えて、地域史と現代社会との関係についても考えていく。時代としては近世・近代を中心に、本学の所在する越中・富山を含めたさまざまな地域の事例を扱う。たとえば、木造和船と地域の関係、マグロ漁やカツオ一本釣り漁に特徴づけられた地域などの事例を取り上げることを考えている。日本史学各論（近世・近代）Ⅱへとつながるものである。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	社会科学教育	富山大学	日本史学各論（近世・近代）Ⅱ	日本史学各論（近世・近代）Ⅰに引き続いて、特定の地域を焦点にした歴史（地域史）の見方・捉え方や、地域史と現代社会との関係についても考えていく。時代としては近世・近代を中心に、本学の所在する越中・富山を含めたさまざまな地域の事例を扱う。たとえば、近世庶民の移動・旅行と地域の関係、酒田沖の島、廻船と定置網で賑わう湾などの事例を取り上げる。	メディア
			金沢大学	日本史学各論（古代・中世）Ⅰ	日本古代・中世史について、特に近年の研究で大きな進展がある諸問題をピックアップして学ぶ。学校教育で取り上げられることの多い史料を紹介しながら、それらのテーマを授業として実践するための工夫や方法について習得する。	メディア
			金沢大学	日本史学各論（古代・中世）Ⅱ	近年の日本史研究は、史科学の時代を迎えている。古文書・古記録や、石造物、木簡・木札・埋蔵文化財・絵画・地名・景観といった古代・中世史を考えるための多様な史料と、それを読み解くための基本的な技術とさまざまな方法について概説する。	メディア
			各大学	日本史学演習Ⅰ	中学校社会科・高等学校地理歴史科の日本史分野の専門知識・技能を深めることを目標としている。日本史研究を進める上で、初段階にある資料活用に必要な基礎的技術を学ぶことが目的である。合わせて、「歴史」「日本史」で使用される教材研究で必要とされる日本史的技能を習得する。具体的には、日本史の文献（著書・論文）の収集と読解、研究史の整理と批判的検討を行い、日本史的思考と叙述の方法を学ぶ。	
			各大学	日本史学演習Ⅱ	中学校社会科・高等学校地理歴史科の日本史分野の専門知識・技能を深めることを目標としている。日本史研究を進める上で、初段階にある史料読解に必要な基礎的技術を学ぶことが目的である。合わせて、「歴史」「日本史」で使用される教材研究で必要とされる日本史的技能を習得する。具体的には、古文書・古記録を中心にくずし字（変体仮名）の判読を行い、日本史史料を読解するための基礎的技術を習得する。	
			各大学	日本史学演習Ⅲ	中学校社会科・高等学校地理歴史科の日本史分野の専門知識・技能を深め、必要な基礎的技術を学ぶことを目標としている。「歴史」「日本史」の基礎となる日本史研究の方法を実践し習得することで、日本史についての理解を深める。史料や先行研究の読解を通して、日本史研究の基本的な知識と技術を身につける。史料・文献を読解し、自ら研究テーマを設定して、史料目録やデータベース作成による分析をした上で、新しい歴史的事実を発見し、それを論理立てて証明し、学術論文の形式で執筆するための準備を行う。日本史学演習Ⅳに接続するものである。	
各大学	日本史学演習Ⅳ	中学校社会科・高等学校地理歴史科の日本史分野の専門知識・技能を深め、必要な基礎的技術を学ぶことを目的としている。「歴史」「日本史」の基礎となる日本史研究の方法を実践し習得することで、日本史についての理解を深める。日本史学演習Ⅲを前提としている。史料の輪読を通して、日本史研究の基本的な知識と技術を身につける。史料・文献を読解し、自ら研究テーマを設定して、史料目録やデータベース作成による分析をした上で、新しい歴史的事実を発見し、それを論理立てて証明し、学術論文の形式で執筆する。				

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 社会科教育	金沢大学	歴史学野外実習	地域史研究と授業実践のために、富山県、石川県、福井県を中心とする任意の地域を選定してフィールドワークを実施する。古文書・古記録や絵画・彫刻といった文化財の調査・収集、現地調査と景観復原の方法を学ぶ。合わせて、フィールドワークに関する能力を養い、授業実践に応用できるような能力を涵養する。	
	富山大学	西洋史学概論Ⅰ（現代的課題を踏まえて）	日本の歴史の背景にある世界の歴史、という中学校社会の歴史的分野の視点、及び高等学校の課程で必修化される「歴史総合」の観点を意識して、近代世界システム論やアプー＝ルゴドの議論を援用して、随時ディスカッションをしながら、アジアとのつながりに目を向けて古代から中世までの西洋史を概観する。このように西洋史に比重を置きつつ、現代のグローバルな視野・課題意識をもって世界各地の経済的・文化的交流を古代から中世まで概観することで、現在の西洋史学における研究動向や歴史教育の課題を踏まえて、西洋史に関する一般的包括的な認識・知識を修得すると共に、西洋史の視点を利用しながら、地域史に拘泥せずに世界の歴史を広く捉える歴史観を持てる。	メディア
	富山大学	西洋史学概論Ⅱ（現代的課題を踏まえて）	日本の歴史の背景にある世界の歴史、という中学校社会の歴史的分野の視点、及び高等学校の課程で必修化される「歴史総合」の観点を意識して、ウォーラステインの近代世界システム論を思考のツールとして援用し、随時ディスカッションをしながら、西洋史という視点から16世紀以降の世界の連関と一体化を概観する。このように現代的な国際課題を踏まえて、西洋史に比重を置きながら近世以降の世界各地の経済的・文化的な相互連関、世界の一体化を包括的に学修・理解することで、現在の研究動向や歴史教育の課題を踏まえつつ近世以降の西洋史に関する一般的包括的な知識と歴史認識を修得すると共に、西洋史の視点を利用しながら、地域史に拘泥せずに世界の歴史を広く捉える歴史観を持てるようになる。	メディア
	金沢大学	東洋史学概論Ⅰ	主に政治と社会の歴史を採りあげ、中国史・東アジア史の展開と特質を理解させる。「東洋史」の範囲について講義し、中核は中国であるが、朝鮮半島、東南アジア、南アジアとの関係にも留意すべき点を強調する。その後、中国の政治の展開、歴史の特質、中国社会の特徴などを講義する。中国史は漢民族と周辺民族との攻防が歴史の大きな部分を占め、王朝の交代が続くが、その中にも一貫した文化的技術的特質を維持している。この点を豊富な映像・文書資料を紹介しつつ詳説する。	
	金沢大学	東洋史学概論Ⅱ	主に経済と国際関係の歴史を採りあげ、中国史・東アジア史の展開と特質を理解させる。中国は、世界において最も早く文明を生み出した地域の一つであり、それは乾燥地帯であると同時に大河が流れているという独特の地形において、鉄器を持たない技術が濃厚を開始するうえで適した地域であった。鉄器が開発されるとより温暖な南部の開発が始まり、その後も、紙や火薬、印刷といった重要な技術開発が中国でなされた経緯や必然性について講義する。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	社会科学教育	富山大学	西洋史学各論Ⅰ	西洋史の専門研究の成果を通して、中学校・高等学校の歴史教育の基盤となる歴史的事実を認識するとともに、歴史学の方法論や認識を理解するために、西洋史学の専門的な営みの一つとして過去の人々の日常生活を検証し、過去の「日常」を再構築することで、歴史的に社会や文化を考え、認識を深めることを目標とする。そのために、中世のヨーロッパなかんづくイタリアを主たる対象として、随時ディスカッションをしながら中世社会の「日常」を多面的に検証し、歴史的考察を学ぶと共に、我々が一般に持つ「中世ヨーロッパ」のイメージの妥当性を検討する。これにより、西洋史学が特定の視角から明らかにしてきた歴史的事象に関する知識を修得すると共に、西洋史研究の知見・解釈から我々自身や我々の社会を捉え直すという歴史学的営みを理解できる。	
		富山大学	西洋史学各論Ⅱ	西洋史の専門研究の成果を通して、中学校・高等学校の歴史教育の基盤となる歴史的事実を認識するとともに、歴史学の方法論や認識を理解するために、西洋史学の専門的な営みの一つとして過去の人々の日常生活を検証し、過去の「日常」を再構築することで、歴史的に社会や文化を考え、認識を深めることを目標とする。そのために西洋史学各論Ⅰで学修した内容を踏まえて、中世のイタリアを主たる対象として、随時ディスカッションをしながら中世社会の「日常」を多面的に検証し、歴史的考察を学ぶと共に、我々が一般に持つ「中世ヨーロッパ」のイメージの妥当性を検討する。これにより、西洋史学が特定の視角から明らかにしてきた歴史的事象に関する知識を修得すると共に、西洋史研究の知見・解釈から我々自身や我々の社会を捉え直すという歴史学的営みを理解できる。	
		富山大学	西洋史学演習Ⅰ	外国史の理解に関する基礎的な能力として、西洋史学研究のための基本的技術、特に英語をはじめとする欧語文献や史料を読解するための語学力を文献講読を通して修得すると共に、西洋史学の研究動向や方法論について学ぶ。まず歴史学の方法論を理解するために、指定された日本語の文献を読んで受講者が発表し、ディスカッションを行う。次に欧米の歴史研究の欧語（基本的は英語）文献について、受講者に毎回の発表を割り当てながら講読する。これによって、文献検索や欧語文献・史料の一定の理解能力を修得すると共に、西洋史学の研究動向や方法論を理解し、活用できるようになる。	
		富山大学	西洋史学演習Ⅱ	原則的に西洋史学演習Ⅰでの学修を踏まえて、外国史の理解に関する基礎的な能力として、西洋史学研究のための基本的技術、特に欧語の文献や史料を読解するための語学力を文献講読を通して修得すると共に、西洋史学の研究動向や方法論について学ぶ。そのために、受講者に毎回の発表を割り当てながら欧米の歴史研究に関する欧語（基本的に英語）文献を講読し、ディスカッションをして、当該文献の成果や意義、方法論への理解を深めていく。また欧語文献とは別に、西洋史学研究に対する問題関心を喚起するために、受講者は割り当てられた西洋史の論点に関して調べて発表したり、各自の関心に応じた西洋史学関連の日本語文献を読んで、その内容や視点について発表する。これによって、文献検索や欧語文献・史料の一定の理解能力を修得すると共に、西洋史学の研究動向や方法論を理解し、活用できるようになる。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	社会科学教育	富山大学	西洋史学演習Ⅲ	外国史の理解に関する基礎的な能力として、西洋史学を学ぶために必要な日本語及び外国語の文献を理解する力を身に着けるために、受講者に毎回の発表を割り当てながら欧米の歴史研究に関する欧語（基本的に英語）の文献を講読し、歴史学の専門的文献を読みこなせる理解力を修得すると共に、その研究成果の意義や方法論を理解する。また受講者が割り当てられた日本語論文の内容や方法論について発表して議論したり、各自が選んだ西洋史学に関する日本語論文・文献の内容や喚起された問題意識を報告し、それについて議論したりする機会を設けることで、西洋史学の近年の動向や方法論を主体的・対話的に学ぶ。これによって、日本語や欧語（基本的に英語）で書かれた一定の分量の専門的文献を比較的短時間で読み、内容を把握し、要点を理解できる力を修得すると共に、日本語や外国語の文献を通じて、西洋史学の研究動向や方法論を理解できるようになる。	
			富山大学	西洋史学演習Ⅳ	原則的に西洋史学演習Ⅲでの学修を踏まえ、外国史の理解に関する基礎的な能力として、西洋史学を学ぶ上で必要な日本語および外国語の文献を理解する力を身に着けるために、受講者に毎回の発表を割り当てながら欧米の歴史研究に関する欧語（基本的に英語）の文献を講読し、歴史学の専門的文献を読みこなせる理解力を修得すると共に、その研究成果の意義や方法論を理解する。また受講者各自が、割り当てられた西洋史学上の論点や、自分で選んだ西洋史学に関する日本語論文・文献について報告し、全員で議論する機会を設けることで、西洋史学の近年の動向や方法論を主体的・対話的に学ぶ。これによって、日本語や外国語（基本的に英語）で書かれた一定の分量の専門的文献を比較的短時間で読み、内容の概要を把握し、要点を理解できる力を修得すると共に、日本語や外国語の文献を通じて、西洋史学の研究動向や方法論を理解でき、また問題意識を深める。	
			各大学	人文地理学概論Ⅰ	本講義では、まず地理学が社会の中でどのように捉えられているのかを示し、その世俗的地理(学)観が育まれてきた背景を考える。続いて現代地理学の学問的体系を示し、初等・中等学校教育における地理学の位置付けを考える。地理学は人文社会科学と自然科学に跨る文理融合的分野であるが、それが人間社会と自然環境の相互作用をどのように捉えてきたのかを学ぶ。そして、人間社会の様々な領域・素材に対して地理学的なパースペクティブを適用する人文地理学研究の見方・考え方・成果について、実際の研究事例を参照しながら示したい。受講者が、本講義を通じ「地理学とは何か？」という問題への一定の解答を得ることができるようになりたい。	
			各大学	人文地理学概論Ⅱ	人文地理学概論Ⅰの履修を前提に、人間社会を構成する様々な領域・素材に対して地理学的なパースペクティブをどのように適用し、地理学的な研究を構築してゆくのかについて、具体的な研究を取り上げながら説明する。それによって、「地理学に何ができるのか？」という問題への何らかの解答を得たいと思う。最後に人文地理学と自然地理学を比較対照しながら、地理学の特性について再び考えたい。また、授業の中では講義のみならず、学外のフィールドワークも実施する。地域の実地観察によって、地理学的「知」を得る方法の習得を目指す。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	社会科学教育	各大学	地誌学Ⅰ	本講義ではまず、中学校・高等学校の社会科／地理歴史科地理で学ぶ「地誌」と学問としての「地誌学」の違いについて学ぶ。国内地域の研究事例を中心に上げながら「地域」を記述することの意味や「地域」の特殊性（＝地域性）を描く方法を学ぶことで、初等・中等教育で学習してきた社会科「地誌」が、どのような学問的理解のもとに成立しているのかを理解する。	
			各大学	地誌学Ⅱ	本講義では、社会科（地理歴史科）地理の「地誌」と「地誌学」の違いについて、世界地誌を事例に考え学ぶ。「地域」を記述することの意味や「地域」の特殊性（＝地域性）を描く方法を世界各地の地誌を通じて学ぶことで、暗記科目である物産地理とは異なる科学的な地誌について理解を深める。本講義を通じて、受講生が、地誌の説明の意味と方法を理解し、「ある地域の地誌を描く場合、どのような記述が的確なのか」についての的確に考え判断する能力を向上させることが、本科目の目標である。	
			各大学	地理学各論Ⅰ	人文地理学・自然地理学・地誌学など地理学の諸分野の研究で、位置を含む空間情報は「地図」によって表現される。地図の無い地理学研究は考えられない。本講義では、地図の歴史・機能・役割を理解し、地図の利用・様々な地図応用の方法を習得する。さらに、地理学の学術研究のみならず行政や企業など社会全般に近年急速に普及し、今や初等・中等教育の学校現場でも地理教育の必須アイテムとなったGIS（地理情報システム）について、その原理や利用方法について学ぶ。	
			各大学	地理学各論Ⅱ	景観論、環境論、災害論、歴史地理学の各研究領域を取り上げ、それらの内容と意義を学ぶ。とくに（１）「地域」や「空間」と並ぶ地理学の基本的概念である「景観」や「環境」についてより明確な理解を得る。（２）今日の世界で頻発する多様な自然災害の把握や対応策に地理学がどのように関わっているのかを理解する。（３）歴史地理学という歴史的観点をもつ地理学の手法と意義を理解する。	
			各大学	自然地理学Ⅰ	本講義では、自然地理学の基礎的な内容について、気候分野を中心に解説を行う。その上で、自然環境と人間生活との関わりについても着目しながら、自然地理学的な見方・考え方を身に付けることを目指す。また、高等学校「地理総合」必修化にあわせて、高校地理総合・地理探究における気候学習の取り扱いについても、実際に使用されている教科書を用いながらグループワークで整理し、高校教員として自然地理学の内容をどのように教えるべきかについて考える。	
			各大学	自然地理学Ⅱ	本講義では、自然地理学の基礎的な内容について、地形分野を中心に解説を行う。その上で、自然地理学Ⅰの学修内容も含めて、防災・減災や人間生活との関わりについても着目しながら理解を深めていく。また、高等学校「地理総合」必修化に伴い、高校地理総合・地理探究における地形・防災学習の取り扱いについても、実際に使用されている教科書を使いながらグループワークで整理し、教員として自然地理学の内容や視点・考え方をどのように教えるかを考える。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	社会科学教育	各大学	地理学演習Ⅰ	初学者が地理学研究に取り組むうえで、研究テーマの設定を行うために必要な基礎的技術を学修することが、本科目の目的である。とくに、学校科目「地理」の学習内容の基礎を成す学術的な地理学的研究に取り組む際に真先に必要となる地理学固有の初歩的ないくつかの視点と技法が、本演習において習得される。具体的には、文献探索手法と文献読解による地理学的知見の取得の方法などの基礎的な見方・技法を受講者が身につけることが、期待される。	
			各大学	地理学演習Ⅱ	地理学研究では地域的・空間的事実を明らかにするために、実地調査や文献資料調査などの様々なやり方で定性的・定量的なデータ等を収集する。「データ」は様々な形で存在するが、それを扱うためにはデータ収集の方法、データ分析の方法、データ分析の結果を空間的に表現する方法、そこから地理学的事実を読み解く方法を理解しておく必要がある。本演習では、研究の初段階においてデータを収集・活用するために必要な基礎的な見方・技法を学ぶことをその目的とする。こうした地理学の見方・技法に習熟しておくことは、中学校・高等学校で「地理」を教授する教師が授業前に行う教材研究でも有用である。本演習で習得すべき基礎的な見方・技法は、具体的には、地域統計や統計分析結果を表現するために用いるベースマップ、文書資料等の収集方法とデータを用いた主題図作成法等である。本演習を修了した際には、これらがある程度習得されていることが期待される。	
			各大学	地理学演習Ⅲ	地理学演習Ⅰ・Ⅱから引き続き、地理学的研究を遂行していくうえで必須の見方・技能を習得する。本演習では、各回の授業において、自らの研究を構築する上でさまざまな示唆を得る参考文献を批判的に検討することを学ぶ。さらにフィールド調査やインドア調査等の地理学的な調査方法、地域データを分析して作成する主題図の作成方法等について、一層深く学ぶ。さらに受講者は既往研究を参照して野外調査の実践例を学ぶ。具体的には土地利用調査や聞き取り調査等の定性的調査の実践例を参考に、文献を通じてその見方や手法について理解を深めたい。さらにその内容を各人が学んだうえで、個々の見解を発表し、ディスカッションを経て、受講者間で共有する。こうした中で、受講者は相互に地理学研究の遂行能力を涵養する。	
			各大学	地理学演習Ⅳ	地理学演習Ⅰ～Ⅲの学修内容を引き継ぎ、地理学的研究を遂行していくうえで必須の見方・技能を習得する。各回の授業では、自らの研究を構築する上でさまざまな示唆を得る研究論文等の参考文献を批判的に検討すること、地理学的野外調査（フィールドワーク）の方法、既存の地域データや自ら実地収集したデータを分析して作成する主題図作成法等について、一層深く学ぶ。地理学演習Ⅲで学んだ野外調査（フィールドワーク）に関する知識・手法を活かして、本科目では、受講生は、一定の研究課題を定め、野外調査を実践する。野外調査によって得られたデータや事実を基に、受講者はデータ分析・主題図作成等の作業に取り組む。さらに、各受講者が自らの分析結果やそれに関する考察内容を相互に発表・報告し、受講者間でディスカッションを通じて共有する。それにより地理学研究における課題の発見や設定の方法、研究遂行のプロセスや技法に関する理解が涵養される。地理学演習Ⅰ～Ⅳを通じて、地理学研究の出来る・解る学校地理教師の素養を育成したい。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 社会科教育	富山大学	地理学巡検	地理学において、フィールドワークは研究過程で欠かせない要素である。巡検とは、研究のために現地でフィールドワークを行うことであり、現地での調査実践やその前後の一連の過程を指す。この授業では、巡検を計画・実践する過程を各受講者が経験し、地理学的な目で地域を観察し、地域で考え、地域を理解し、それを説明し伝えることの意義を体感し、自ら地理学の調査研究に従事することの出来る力を養うことを目指す。	
	金沢大学	地理学野外実習	地理学で不可欠な技能となる野外での観測、観察、調査を実施する。「地域」を地理学的に探求する能力のうち、とくにフィールドワークに関する能力を養う。さらに受講者が教師となった将来、フィールドワークを授業実践に応用できるような能力を涵養する。任意の地域を選定してフィールドワークを実施する。対象地域は富山県、石川県、福井県を中心とする。具体的には景観観察や聞き取り調査、土地利用調査を実施し、初学者に対するフィールドワーク入門実習である。将来、教師として科目横断的に野外観察の授業を立案できるように、現地調査は歴史学野外実習と連続・協働して1泊2日で行う。	
	各大学	法律学概論Ⅰ	法律学入門。法とは何か、法の解釈や、刑法を初めとする主要な法律の概要等、大卒の社会人として最低限必要な法学の基礎知識を修得し、中学校社会・高等学校公民の教員免許状取得に必要な科目でもあり、中学、高校で扱われる法学領域の基礎を学ぶ。法とは何か、法と道徳の違い、法の分類（公法・私法）、国家と憲法、行政と法、裁判制度、法と犯罪という側面から授業を進める。	
	各大学	法律学概論Ⅱ	法律学入門。民法の原則、労働法、国際法の原則など、大卒の社会人として最低限必要な法学の基礎知識を修得し、中学校社会・高等学校公民の教員免許状取得に必要な科目でもあり、中学、高校で扱われる法学領域の基礎を学ぶ。契約と法（民法・契約）、財産と法（民法・物権、債権）、損害賠償（民法・不法行為）、家族と法（民法・親族）、経済と法（会社法、知財法、競争法）、仕事と法（労働法）、国際社会と法（国際法）という側面から授業を進める。	
	各大学	法律学各論Ⅰ	現代社会が直面する環境問題に関して、法と行政がどのように対応しているか、市民の権利はどのように守られるかを知り、その課題を探り、環境法の基本的概念と骨子を講義する。「環境問題」とは何か、公害・環境保全史概観、環境法の基本的考え方（環境権、持続可能性、予防原則、汚染者負担原則など）、環境汚染を規制する法（大気、水質など）、自然環境の保全のための法（自然公園、生物多様性、野生動物など）、循環型社会形成のための法（廃棄物管理）、環境保護の担い手（行政、市民、NPOの役割（環境アセスメントを例に））、環境問題と訴訟という内容を取り上げる。	
	金沢大学	法律学各論Ⅱ	国の行政組織、国会制度などを行政法の観点から解説していく。「行政」とはどういう行為なのか、それをつかさどる「行政法」とは法体系の中でどのような位置づけなのかを講義する。次に、行政法には、行政組織法、行政作用法、行政救済法などの区別があることを詳説する。さらに、それぞれの方について、具体的に戦後日本でどのような裁判が争われたか、その判例資料に基づき、ディスカッションを行う。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 社会科教育	富山大学	法律学演習Ⅰ	環境法及び環境法政策に関する講義を行う。自然環境を中心とした現代の環境問題を研究することとし、必要な法的思考や地域社会への理解について教授する。具体的には、現代社会の直面する環境問題概観、自然保護法1（国立公園等）、自然保護法2（鳥獣保護管理等）、自然保護法3（希少種保全、外来生物問題）、河川・海岸の保全の法と行政、農業・農村と法、入会権とコモンズを題材として取り上げる。	
	富山大学	法律学演習Ⅱ	環境法及び環境法政策に関する講義を行う。公害、リサイクル、景観など現代の環境問題を研究することとし、必要な法的思考や環境行政への理解について教授する。具体的には、公害の歴史、公害の規制（水質、大気）、循環型社会形成への取組（廃棄物処理）、循環型社会形成への取組（リサイクル）、景観問題と都市計画、アメニティ、環境アセスメント、市民参加、環境訴訟、環境正義を題材として取り上げる。	
	金沢大学	法律学演習Ⅲ	過去の行政法に関する訴訟の具体的事例を取り上げ、判例を検討し、研究者の批判を踏まえ、どのような問題点が残っているかを究明する。行政が国民の権利、学問の自由、基本的人権などの憲法諸原理と衝突した具体例を取り上げ、その判例を精査し、判例に対して研究者がどのような批判を寄せているかも併せて検討する。憲法と行政法がどのような関係にあるかを討論する。	
	金沢大学	法律学演習Ⅳ	地方自治の本旨、条例制定権、首長制等について検討する。憲法が地方自治についてどのように規定しているか。地方財政の悪化が地方自治の内実をどのように空洞化させているのか。その中でも主張の工夫によって注目すべき成果を上げている事例があるのか。こうした点を具体的な事例に即して討論することで、地方自治についてより発展的な理解を促す。	
	富山大学	政治学概論Ⅰ（現代的課題を含む）	この授業では、政治の基本原則である「民主主義」を扱う。具体的には、アリストテレスによって「逸脱した政治」とみなされた古代ギリシアの政治観からスタートし、近代以降、自由主義との結合をへて民主主義が「逆転勝利」を収めてゆくまでの過程を思想的・歴史的に概観する。あわせて、20世紀以降、「勝利」したはずの民主主義が立たされた「試練」についても触れ、最終的に現代日本で進行中の課題へとつなげて考えてゆく。	メディア
	富山大学	政治学概論Ⅱ（現代的課題を含む）	「政治学概論Ⅱ」では民主主義の現在と将来について考える。授業では、代議制民主主義の成立と展開、それに対する大衆政治（ポピュリズム）の勃興を、授業全体を貫く軸として設定する。その上で代議制民主主義の動揺、政党の意義、政治改革の意味、政治的無関心等、政治の現代的課題と目される項目を扱い、代議制民主主義の限界と可能性を明らかにする。	メディア
	富山大学	人間安全保障論Ⅰ	この授業では「国家による、国家のための安全保障」の基本的考え方と、それを支える制度を概観する。まず理論として、国家・国際安全保障の土台となる主権国家の思想をふり返る。その上で、国際安全保障体制の変遷を①同盟と勢力均衡、②集団安全保障、③国連平和維持活動の順で扱い、それぞれの仕組みが持つ基本的特徴を理解する。最後に、こうした国家・国際安全保障の限界が何かを提起して、「人間安全保障論Ⅱ」へとつなげる。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	社会科学教育	富山大学	人間安全保障論Ⅱ	「人間安全保障論Ⅰ」で提起した内容を受けて、「Ⅱ」では、「人間による、人間のための安全保障」に関する基本的考え方と、その具体的事例を検討する。はじめに人間安全保障の歴史的発展として、1970年代以降の安全保障論の変遷を概括する。その上で①水・食料、②居住環境、③感染症、④ジェンダー、⑤教育という5つを具体例としてあげ、新しい脅威が何か、それから人びとを救う「保障」の仕組みがどうなっているかを考える。	メディア
		富山大学	平和学Ⅰ	この授業では、戦争と平和をめぐる歴史的発展と思想について扱う。はじめに、「戦争と平和の歴史」として人類史のなかで重要な転回点となったものを3つ（正戦論、総力戦、新しい戦争）とりあげ、それぞれの時代状況を把握する。つづく「理論」においては、戦争と平和を考える上で大きな影響をもった①グロティウス、②クインシー・ライト、③E. H. カークの3名を取り上げ、それぞれの思想がどのような内容であったのか、戦争と平和の問題を考える上でいかなる影響を及ぼしたのかについて概説する。	
		富山大学	平和学Ⅱ	「平和学Ⅰ」の内容を受けて、この「Ⅱ」では実際の事例に則して平和の問題を掘り下げて考える。具体的には①核兵器・通常兵器、②貧困の拡大、③ジェンダー暴力、④地球環境問題、の4つである。その上で、より日本の文脈にひきつけた事例として（ア）広島・長崎と原爆投下、（イ）沖縄戦と米軍基地問題、（ウ）日本国憲法と平和主義、の3つを加え、日本の立場から平和学をどう発展できるかについて考え、授業を総括する。	
		富山大学	地球市民社会論Ⅰ	授業では「市民社会とは何か」を考える。具体的には社会形成の歴史を古代、中世から近代、近代以降という3つのフェーズで理解する。その上で、社会を形成する基本的な考え方として①ゲマインシャフトとゲゼルシャフト、②社会契約、③社会契約のグローバル化を紹介し、歴史的思想（理論）的観点から、市民社会の大枠が理解できる内容に設計する。	
		富山大学	地球市民社会論Ⅱ	「歴史と理論」を踏まえた「Ⅰ」の内容を受けて、「Ⅱ」では地球市民社会の現代的展開を、事例と実践の観点から考える。授業の前半では資本主義の加速に伴う諸問題、新自由主義対福祉国家の相克、経済成長と持続可能性、という3つに注目し、市民社会が直面する課題が何か、それにどう立ち向かうかを考える。後半は具体的な参画・問題解決の方法として近年注目されている①ソーシャル・キャピタル、②キュレーションとソーシャル・デザイン、③シティズンシップ、の3つを取り上げ、「どう参加するか」という疑問に答えられる内容とし、授業をしめくくる。	
		富山大学	政治学演習Ⅰ	授業では、古典の精読を通して法と政治に関するより深い考え方を身につける。具体的には法の理念、自然法、政治権力の本質などがここに含まれる。これらに関連して日本で刊行された本のなかから、古典的価値を持つと判断できる書籍を取り上げ、精読する。教材としては尾高朝雄の著作『法の窮極に在るもの』を予定し、毎週1章を講読する形で、法と政治の関係、法のあるべき姿と理想的な政治の有り様について考える。	
		富山大学			

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	社会科学教育	富山大学 政治学演習Ⅱ	授業で行う内容は「演習Ⅰ」と同じであるが、「Ⅰ」の内容を受けた続編という位置づけとなる。教材として上述した『法の窮極に在るもの』をテキストに設定し、法・政治と経済の関係や、法・政治と国際関係とのつながりについて考える。セッションは、書籍の精読に加え、現代的問題と連携した討議を毎回盛り込み、今日の分脈から法と政治をめぐる関係を掘り下げる。	
			富山大学 政治学演習Ⅲ	「演習Ⅰ,Ⅱ」同様、法と政治をめぐる古典を精読し、両者の有り様についてより深く考えることを目指す。教材として清宮四郎による『権力分立制の研究』をテキストとする。別に開講する政治学演習「Ⅰ」「Ⅱ」の流れに沿って、権力分立という仕組みの思想的制度的基盤を理解し、併せて英米における権力分立について概観する。	
			富山大学 政治学演習Ⅳ	「演習Ⅰ～Ⅲ」同様の内容である。「Ⅳ」では『権力分立制の研究』の後半を精読し、フランス公法の文脈を新たに加味した上で、法と政治の接点として権力分立を捉え、その歴史的・今日的状況を把握する。終盤では、伊藤正己『法の支配』についても部分的に講読し、法の支配という考えに関する専門的知識を習得・理解する。以上の内容に、現代日本における状況を加味し、これらをどう社会科教育のなかに反映させてゆけば良いかを考える。	
			各大学 経済学概論	経済学とは、家計や企業が合理的に行動するという仮定のもとに、経済活動によってどのような社会的帰結が実現するかを理論的に分析する学問である、ということをもとに、ミクロ経済学の分野の内容を中心に入門的な経済学を学ぶ。具体的には経済学の基本的な考え方、市場と政府の役割、需要と供給の理論、市場の効率性の理論的説明について学び、また授業内容に関する例題を受講者自身が計算して解くことで、授業内容の理解を深める。こうした学修によって、基本的な経済学の知識を修得し、身の回りの経済現象を経済学の知識を用いて理解できるようになる。	
		富山大学 社会学概論Ⅰ（現代的課題を含む）	現代社会を、社会学を通して理解することを目的とする。地域社会の変容や人間関係の変化に注目し、その特徴を捉え、生起する社会問題に対するアプローチの方法を探る。社会学の入門的な内容を学びつつ、主に地域社会学・社会福祉学でのとらえ方を用いて地域社会における地域資源の変化や社会的な孤立に現れる人間関係の希薄化とそれに関連する諸問題（セルフネグレクトや8050問題など）について、現代的課題を含めて学習する。	メディア	
		富山大学 社会学概論Ⅱ（現代的課題を含む）	現代社会にある種々の問題を主に「社会問題の社会学」の視点から捉え、その実情に即した解決や軽減を考察することを目的とする。地域共生社会づくりが進められるなかで、さまざまな社会問題が指摘されるようになってきている。その背景や原因としてどのような問題があるかを考え、実態を明らかにする。その過程では、問題の解決や軽減のための方策を探ることになるが、国や地方自治体が行き届く政策的な対応のみならず、NPOなど民間で取り組まれている独自の取り組みにも目を向け、より実践的な問題解決に役立つ方法を学ぶ。	メディア	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 社会科学教育	富山大学	地域社会論Ⅰ	日本の地域社会の変化を捉え、種々の問題をもとに、今後のあり方を考えることが目的である。ひきこもりの課題や8050問題への対応、障がい者の社会参加の促進、地域包括ケアシステムの構築への対応など、変容する地域社会の様相を捉え、その中で明らかになる諸問題を地域共生政策における「我が事」としての把握に近づけ、また地域単位で「丸ごと」解決に向けていくためには、どのように対応しうるかに注目しつつ学習する。	
	富山大学	地域社会論Ⅱ	さまざまにある問題の中で、「貧困」「生きづらさ」にかかわる地域社会における生活の実情を踏まえ、その解決や改善についてアプローチを明確にできることが目的である。地域社会での生活の具体的な困難状況を取り上げ、その具体例を手掛かりにしながら現行の法制度やそれを補う新たな社会資源の必要を考え、問題の解決や改善のためにどのような方策があるかを学習する。内容により、海外での事例も取り上げつつ学習の効果を高める。	
	富山大学	社会学演習Ⅰ	社会学(社会福祉学を含む)の理論にかかわる文献について、検討を加えながら読解する。受講者が持っている関心も考慮しながら文献を選定し、受講者が分担して読み、その内容をまとめ、授業内で共有し検討することを基本として読解する。受講者はそれぞれの担当部分だけでなく、文献の全体を理解したうえで、それに基づいて社会を観察できることが到達目標である。社会学理論を理解し、それに基づいて社会を観察する基礎力を養う。	
	富山大学	社会学演習Ⅱ	社会学演習Ⅰと関連させつつ、社会学関連の理論に基づく調査にかかわる論文等を読解する。受講者同士で読解した内容を授業内で発表共有し、検討を加えたうえで整理しまとめることが目的である。論文の選定については、あらかじめ提示するものに加え、受講者が関心に基づいて自ら探し出したものや最新の論文(海外での研究も適宜含める)も取り入れて対象とする。社会学の研究論文の読解により得た知識等に基づいて、社会を観察する基礎力を養う。	
	富山大学	社会学演習Ⅲ	地域社会の中にある問題について、当事者の語り(ナラティブ)をもとにして実態を捉える。当事者は困窮高齢者・災害被害者を主な対象とする。受講者が当事者の生活の変化や現状にかかわる具体的な語りについて整理し、授業内で発表共有できることが目的である。語りを得る過程では、可能な範囲で、受講者が当事者に直接にインタビューする。地域社会の問題について、文献や論文から概要を把握しつつ、当事者の語りを中心に実態を捉えることを通して社会を観察する応用力・実践力を養う。	
富山大学	社会学演習Ⅳ	地域社会の中にある問題に目を向けてその解決や改善の方策を検討し、授業内で熟議する中で最も望ましいと考えられる方策を見出すことが目的である。その際には、可能な範囲で、当事者の議論への参加を得る。方策の学習にあたり、具体的な方法には、社会福祉的アプローチや実践的ソーシャルワークを含める。社会学演習Ⅲから引き続き、社会を観察し改善・変革する応用力・実践力を養うものとし、演習Ⅲとの連続的な学習による効果を得るものとする。		

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	社会科学教育	金沢大学	哲学概論Ⅰ（哲学と現代的教育状況）	古代ギリシアの哲学思想に触れながら、哲学という学問についての基本的な理解をすすめる。哲学という学問について、科学や芸術とは異なる本質について学習しながら、哲学の特性について基本的な理解を身につける。またソクラテス以前から始まる古代ギリシアの壮大な思想史を概観することによって哲学の起源・元型を学び、かつ現代的教育状況について、古代ギリシア哲学の視点から批判的に把握する。	メディア
		金沢大学	哲学概論Ⅱ（哲学と現代的教育状況）	古代ギリシアの哲学思想に触れながら、哲学という学問についての基本的な理解をすすめる。特にプラトンとアリストテレスの思想に触れながら、哲学という学問についての基本的な理解をすすめる。また、Philosophy for Childrenの実践を知るとともに、哲学的な討論を経験し、現代的教育状況における哲学的問いの可能性を探究する。現代的教育問題をより根本的に分析・思考するための基礎を培う。	メディア
		金沢大学	倫理学Ⅰ（現代応用倫理学を含む）	倫理学という学問についての基本的理解を習得する。とりわけカント倫理学や功利主義などの学説、倫理学の根本諸概念について学ぶ。さらには「人格」「他者」「責任」という概念が今日問いなおされるべきものになっていることに触れ、現代応用倫理学の諸問題を把握する。具体的に、個々人の倫理判断が鋭く問われるようなケーススタディを豊富に取り上げる。	メディア
		金沢大学	倫理学Ⅱ（現代応用倫理学を含む）	生命倫理の諸問題について理解し、その理解をもとに自ら考察し討論する力を養う。現代応用倫理学における生命倫理の諸問題（インフォームド・コンセント、安楽死、脳死と臓器移植、人工妊娠中絶、パーソン論、優生思想）について理解し、自ら考察することができるようにする。またこれらの諸問題に関連するかたちで、研究倫理や企業倫理、工学倫理の問題についても学ぶ。	メディア
		金沢大学	宗教学Ⅰ	宗教現象および三大宗教についての基礎理解を固める。グローバル化した現代社会において宗教を理解することをきわめて重要である。この講義では、呪術と宗教との異同、宗教現象の本質性格について学んだ上で、キリスト教（原始キリスト教と宗教改革）、仏教（原始仏教と大乘仏教）、イスラム教についての基礎理解を固める。なぜ宗教対立は激化する一途なのか。それは宗教に内在することなのか、それとも本質的理解が不足しているからなのか。そうしたセンシティブな論点も積極的に取り上げる。	メディア
		金沢大学	宗教学Ⅱ	宗教現象のなかからテーマを選び出し、それについて自ら調べ、発表を行う。グローバル化した現代社会において宗教を理解することをきわめて重要である。宗教学Ⅰでの学習を踏まえて、各自が伝統的な三大宗教に限らず広く宗教現象のなかから関心のあるテーマを選び出し、それについて自ら調べ、発表を行う。そして他の学生の発表と討論を通して、宗教についてのさらなる理解を深める。	メディア
		金沢大学	哲学史Ⅰ	デカルトから19世紀までの哲学の流れを概観する。17世紀から19世紀までの西洋近代哲学の流れを概観する。具体的には、デカルト、大陸合理論、イギリス経験論、カント、ドイツ観念論、ヘーゲル、19世紀の思想潮流を取り扱う。それぞれの哲学が登場する背景及びその必然性、相互の関係などを丁寧に学ぶ。こうした学習を通して、公民の「倫理」の基礎を固めるとともに、私たちの世界観を批判的に吟味することを学ぶ。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 社会科教育	金沢大学	哲学史Ⅱ	20世紀以降の現代哲学の流れと状況を概観する。具体的には、ニーチェ、生の哲学、分析哲学、マルクス主義、実存主義、フッサールと現象学、ハイデガー、フランス現代思想を取り扱う。それぞれの哲学の搭乗にはどのような必然性があったのか。それぞれの哲学はどのように批判しあい、相互に受容しあって言ったのか。これらの学習を通して、公民の「倫理」の基礎を固めるとともに、私たちの世界観を批判的に吟味することを学ぶ。	
	金沢大学	哲学演習Ⅰ	『存在と時間』の概要をふまえて、2ページから27ページまで精読する。20世紀ドイツのマルティン・ハイデガーの思索を通して、世界や人間の本質について考察することを狙いとする。ハイデガーの主著『存在と時間』とはどのような著作なのか。どのような意味で20世紀哲学の頂点と言えるのか。なぜこれほど多岐にわたって影響を与え続けているのか。こうした学習によって、難解な哲学書を読解する方法を身につけ、自らの思考の幅を広げる。	
	金沢大学	哲学演習Ⅱ	『存在と時間』の概要をふまえて、27ページから59ページまで精読する。20世紀ドイツのマルティン・ハイデガーの思索を通して、世界や人間の本質について考察することを狙いとする。哲学演習Ⅰでの学習内容を踏まえて、ハイデガーの主著『存在と時間』とはどのような著作なのか。どのような意味で20世紀哲学の頂点と言えるのか。なぜこれほど多岐にわたって影響を与え続けているのか。こうした問いをさらに深め、難解な哲学書を読解する方法を身につけ、自らの思考の幅を広げる。	
	金沢大学	青年心理学	不登校の事例を紹介しながら、児童生徒がなぜ「学校に居場所がない」と感じるのか、その心理的メカニズムと対処実践例を豊富に紹介しながら、青年のアイデンティティ形成に関する一般的な展望を開示する。「青年」が歴史的概念であり、近代であること、青年期がどのような不安定さを抱えているか、その現象例として不登校を取り上げる。不登校は、児童・生徒が「学校に居場所がない」と感じることに起因している馬、どのようなケースでそのような事例が発生するのか、小学校の場合、中学校の場合、高等学校の場合のケーススタディを検討する。事例とアイデンティティをめぐる学説史と突き合わせることで、その意味を明らかにする。	
	金沢大学	社会科・地歴科教育法Ⅰ（北陸の教育実践を含む）	日本と世界の歴史について、模範授業を行い、学生による模擬授業の準備を行う。歴史過程を説得的なストーリーとして説明するためには、「技術」「人口」「国際関係」の諸要素であることに留意すると、因果関係が明瞭になることを講義する。律令制の支配が北陸地域ではどのように展開したか（初期荘園の開墾）、北陸地域での近世領国制、幕末維新期の北陸地域などについてはとりわけ詳しく概説する。	メディア
	金沢大学	社会科・地歴科教育法Ⅱ（北陸の教育実践を含む）	日本と世界の地理について、模範授業を行い、学生による模擬授業の準備を行う。単に現状を説明するのではなく、それぞれの地域の営みがなぜ存在するのか、説得的なストーリーとして説明するためには、「技術」「人口」「国際関係」の諸要素であることに留意すると、因果関係が明瞭になることを講義する。日本の諸地域と世界の諸地域について全般的に概説するが、北陸地域の気候や産業動態については豊富な事例とともに詳説する。	メディア
	金沢大学	社会科・地歴科教育法Ⅲ（北陸の教育実践を含む）	日本と世界の歴史について、模範授業を行い、学生による模擬授業の準備を行う。歴史過程を説得的なストーリーとして説明するためには、「技術」「人口」「国際関係」の諸要素であることに留意すると、因果関係が明瞭になることを講義する。日本の諸地域と世界の諸地域について全般的に概説するが、北陸地域の気候や産業動態については豊富な事例とともに詳説する。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	社会科教育	各大学	社会科・地歴科教育法Ⅲ	各受講生に、日本と世界の歴史について単元ごとに分担し、模擬授業の発表とその検討を中心に授業を進める。縄文時代については、石川県の代表的な縄文遺跡である真脇遺跡、律令制については県内の荘園跡、近世については加賀藩の資料など、生の資料を十分に消化したうえで、全国的な動向と北陸地域の動向を有機的に説明できるような授業プランの作成を求める。	
			各大学	社会科・地歴科教育法Ⅳ	各受講生に、日本と世界の地理について単元ごとに分担し、模擬授業の発表とその検討を中心に授業を進める。とりわけ北陸地域については、日本海側の特徴的な気候、一次産業から第三次産業までを、例えば県の農業試験場やJA、代表的な製造業などへの実地取材や調査に基づき、全国的な動向と北陸地域の動向を有機的に説明できるような授業プランの作成を求める。	
			富山大学	社会科・公民科教育法Ⅰ（北陸の教育実践を含む）	中学校社会科及び高等学校公民科の教科としての独自性と目標・内容・方法の特質を理解させ、学習指導案の作成や教材づくり・模擬授業の実施を通して、授業づくりの技能を習得させる。具体的には、「問題解決」型社会科授業・「理解」型社会科授業・「説明」型社会科授業・「意思決定」型社会科授業それぞれの特色と作り方を理解させ、事例単元をもとに発問や板書計画などアイデアを考えさせる。その際、富山県の授業実践例や作成した学習指導細案をもとに受講生相互の意見交換を図る。なお、公立・附属学校教員としての実務経験を活かし、具体的実践例を挙げて講義する。	メディア
			富山大学	社会科・公民科教育法Ⅱ（北陸の教育実践を含む）	中学校社会科及び高等学校公民科の教科としての独自性と目標・内容・方法の特質を理解させ、学習指導案の作成や教材づくり・模擬授業の実施を通して、授業づくりの技能を習得させる。中学校学習指導要領社会及び高等学校学習指導要領公民に示された目標・内容・方法、「改訂の趣旨及び要点」を理解させた上で、「公民とは何か」「取り入れるべき学習内容とは何か」について主体的に考えさせたい。その際、富山県の授業実践例や作成した学習指導細案をもとに受講生相互の意見交換を図る。なお、公立・附属学校教員としての実務経験を活かし、具体的実践例を挙げて講義する。	メディア
			各大学	社会科・公民科教育法Ⅲ	中学校社会科及び高等学校公民科の教科としての独自性と目標・内容・方法の特質を理解させ、学習指導案の作成や教材づくり・模擬授業の実施を通して、授業づくりの技能を習得させる。「公民科とは何か」について歴史から学んだり、目標設定の異なる公民科授業類型について考えたり、また教育実習生の授業記録を視聴することによって必要とされる資質・能力を考えたりすることを通して、主体的に学ばせる。その際、授業実践例や学習指導細案をもとに受講生相互の意見交換を図る。	
			各大学	社会科・公民科教育法Ⅳ	中学校社会科及び高等学校公民科の教科としての独自性と目標・内容・方法の特質を理解させ、学習指導案の作成や教材づくり・模擬授業の実施を通して、授業づくりの技能を習得させる。高等学校公民科「公共」「倫理」「政治経済」それぞれの目標と内容の特性を理解させた上で、ロールプレイング教材やディベート教材の効果的な活用法を考えさせながら模擬授業を行わせ、主体的な学びを保障する。その際、授業実践例や学習指導細案をもとに受講生相互の意見交換を図る。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門教育科目	専門科目	数学教育	富山大学	線形代数学概論Ⅰ (代数と現代の数学教育を含む)	本授業では、行列の基本的性質とその応用を学ぶ。行列が正則であるための必要十分条件を証明する(二次の行列に限定)。行列の基本変形を利用した連立一次方程式の解法を理解する。行列の基本変形を利用し逆行列を求める。また、行列の階数とその応用を学ぶ。代数学の考え方がどのように応用されているかを理解し、現代の数学教育についての重要性を学ぶ。	メディア
			富山大学	線形代数学概論Ⅱ (代数と現代の数学教育を含む)	本授業では、行列式の基本的性質とその応用を学ぶ。行列が正則であるための必要十分条件を証明する(n次の行列で)。行列式を利用した連立一次方程式の解法を理解する(クラメールの公式)。ある方程式が自明解以外の解をもつための必要十分条件も学ぶ。代数学の考え方がどのように応用されているかを理解し、現代の数学教育についての重要性を学ぶ。	メディア
			富山大学	代数学Ⅰ	この授業では、群の基礎と周辺事情を学ぶ。整数における不思議な現象は、群の観点から眺めるとごく自然に説明がつくことがある。最初に群の定義を理解し、具体例を述べるができるようにする。同値関係と類別の考えを学び、商群を理解する。既約剰余類群などの様々な群を学んだ後にラグランジュの定理の証明を行う。群論の観点からフェルマーの小定理を証明する。	メディア
			富山大学	代数学Ⅱ	この授業では、環、体の基礎と周辺事情を学ぶ。整数の集合、有理数の集合、実数の集合など、これまで扱ってきた対象を、環や体という観点から眺め、その構造を理解することを目指す。そのために、環の定義と諸性質を理解し、具体例を述べるができるようにする。イデアルの諸性質を理解し、その関連する問題の証明を学ぶ。体の定義を理解し、具体例として二次体の性質を学ぶ。	メディア
			富山大学	数論Ⅰ	この授業では、数の基礎と周辺事情を学び、理解を深めることを目的とする。素数と約数についての諸性質を理解し、関連した問題の証明を学ぶ。具体的には、素数は無限に存在する事を証明し、素数の出現する頻度も検討する。特殊な素数や約数の諸問題も学ぶ。ユークリッド互除法と不定方程式の関係を理解する。合同式の性質を学び、フェルマーの小定理の初等的な証明をする。	メディア
			富山大学	数論Ⅱ	この授業では、数の基礎と周辺事情を学び、理解を深めることを目的とする。整数に関する問題は一見易しく解けるように思える。しかし、実際に解こうとすると難しい問題が多いことに気づく。連分数展開を通して様々な数を分類し、特殊な数とその性質を学ぶ。様々な数論的関数とその挙動評価を行う。数論的関数の平均を考察し、主要項の大きさとその係数に現れる量を学ぶ。	メディア
			金沢大学	幾何学概論Ⅰ(幾何学と現代の数学教育を含む)	高等学校で学んだベクトルの概念を一般化した行列の考え方について深く理解するとともに、幾何学的に捉えることができることを目標とする。具体的には、行列の演算や基本的性質を理解するとともに、小学校の算数科における幾何学の位置づけを講義する。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	数学教育	金沢大学	幾何学概論Ⅱ（幾何学と現代の数学教育を含む）	幾何学概論Ⅰで学んだ行列の考え方についてさらに理解するとともに、行列式の基本的性質を理解することを目標とする。具体的には、行列式の定義および基本的な計算方法を理解する。また、基本的な性質を学習し、外積代数的側面の理解進めるとともにその幾何学的意味についても講義する。さらには、中学・高校数学における幾何学の位置づけについて講義する。	メディア
			金沢大学	線形空間論Ⅰ	内積空間の基礎的な性質を理解し、線形空間や線形写像をより視覚的、幾何学的に捉えることを目標とする。具体的には、線形写像の核や像を定義しその次元に関する性質を学ぶことで、連立一次方程式に関する理解を一段進める。内積空間については、ベクトルの長さや2つのベクトルがなす角度が初めから備わっているものではなく、内積に依存する概念であることに留意させる。また、グラム・シュミット直交化法をはじめとして諸概念を幾何学的視点に重点をおき講義する。	メディア
			金沢大学	線形空間論Ⅱ	これまで、幾何学概論Ⅰ、Ⅱ、線形代数学Ⅰ、Ⅱおよび線形空間論Ⅰで学習してきたことを踏まえ、行列の固有値と固有ベクトルの計算を自在に行うとともに、線型写像の表現行列に応用することで、線型写像をより視覚的、幾何学的に捉えることができることを目標とする。具体的には、固有値、固有ベクトルの扱いになれ行列の対角化やケーリー・ハミルトン定理を理解できるように講義する。	メディア
			金沢大学	曲線論	平面曲線および空間曲線の基本的な幾何学量である曲率を定義し、それらの幾何学的意味を理解することを目標とする。具体的には、円などの身近な例について曲がり具合を表すための基本的な考え方を学ぶ。それを踏まえ、曲率を定義し様々な曲線の曲率を計算できるようにする。さらに、フレネ・セレの公式を使いこなすとともに、曲線の存在と一意性定理を通して実社会への応用例も含めて講義をする。	メディア
			金沢大学	曲面論	三次元ユークリッド空間内の曲面の基本的な幾何学量であるガウス曲率や平均曲率が計算でき、それらの幾何学的意味を理解することを目標とする。具体的には、平面や球面などの例を通して、曲面の曲がり具合を表すための基本的な考え方を学習する。それを踏まえ、曲面のガウス曲率や平均曲率を定義し、様々な曲面のガウス曲率と平均曲率を計算できるようにする。その際、曲面の視覚的理解を重視し講義をする。	メディア
			金沢大学	位相空間論	位相空間の基礎を学ぶとともに、このような抽象化された概念を論理的に精密に取り扱えるようになることを目標とする。具体的には、位相空間を定義し具体例を数多く紹介する。その中で、距離空間についてはより詳しく講義する。また、このような一般化や抽象化の必要性についても理解できるようにする。また、コンパクト性やハウスドルフ性および連続写像について講義する。	メディア
			金沢大学	可微分多様体論	現代幾何学的重要概念である可微分多様体の基礎を学び、抽象化された概念を論理的に精密に取り扱えるようになることを目標とする。具体的には、可微分多様体を定義し例を数多く与える。これにより、位相空間上で微積分学を展開するための考え方を理解する。また、はめ込み等の多様体間の種々の写像を講義する。また、Lie群も紹介し数学の各分野が独立に存在するものではなく互いに密接に関連していることを学習する。	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	数学教育	各大学	解析学概論Ⅰ 微分積分法は現代数学、特に解析学の基礎をなすものである。この講義では、微分積分法のうち一変数関数に対する微分法の基本を学習する。 最初に、関数の極限という考え方を導入し、それに基づき関数の連続性や微分可能性を定義する。次に、微分法に関するいくつかの公式や初等関数に関する導関数の公式を導く。これらの公式の導出方法を理解すること、および得られる公式を自在に利用し、様々な計算を行えるようになることが目標である。	
			各大学	解析学概論Ⅱ 微分積分法は現代数学、特に解析学の基礎をなすものである。この講義では、微分積分法のうち一変数関数に対する微分法の応用を扱う。 微分法の応用は、言い換えれば平均値の定理やそこから派生する定理、あるいは平均値の定理を拡張した定理を応用することである。この講義ではロルの定理を出発点とし、各種の定理を証明し、それらを具体的な問題へ応用する方法を学習する。	
			各大学	解析学Ⅰ 微分積分法は現代数学、特に解析学の基礎をなすものである。この講義では、微分積分法のうち一変数関数に対する積分法の基礎を扱う。 最初に解析学概論Ⅰの復習として、いくつかの初等関数に対する不定積分の公式を確認する。次に、部分積分法や置換積分法といった不定積分を計算するための道具を用意する。以上の準備の下で、有理関数の不定積分をシステムティックに求める方法を用意し、得られた方法を三角関数、指数関数、無理関数に適用する。	
			各大学	解析学Ⅱ 微分積分法は現代数学、特に解析学の基礎をなすものである。この講義では、微分積分法のうち一変数関数に対する積分法の基礎と応用を扱う。 解析学Ⅰの学習内容を踏まえて、定積分を定義する。定積分を利用することで、図形も面積や曲線の長さを求めることが可能となる。その仕組みを確認し、応用としていくつかの不等式を導く。また、定積分の概念を拡張した広義積分とその応用についても学習する。	
			富山大学	解析学Ⅲ 数列の収束や関数の連続性を厳密に扱うには「実数の連続性」を理解する必要がある。「実数の連続性」は、有理数全体の集合と実数全体の集合の間に明確な違いを与える実数全体の集合に固有の性質である。 この講義では「デデキントの切断」を公理に採用し、それを出発点として「実数の連続性」を表現する様々な定理を証明する。更に、数列の極限をイプシロン・デルタ論法によって精密に表現し、これまで事実として認めてきた数列の極限に関する基本定理に対する証明を与える。	メディア
			富山大学	解析学Ⅳ 解析学Ⅲに引き続き、「実数の連続性」に基づいて関数の連続性や連続関数の性質を精密に議論する方法を扱う。 最初に、関数の連続性をイプシロン・デルタ論法を用いて特徴づけ、次に閉区間上の連続関数の有するいくつかの著しい性質を明らかにする。さらに、関数の一様連続性という概念を導入し、閉区間上の連続関数が一様連続であることやその応用を扱う。	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	数学教育	富山大学 微分方程式 I	我々の身の回りにおける様々な現象は「微分方程式」を用いることで数学的に定式化(数理モデル化)される。現象のモデル方程式である微分方程式の解を調べることで、現象のメカニズムを数学的な立場から議論することが可能となる。 この講義では、微分方程式論の入門的な話題として、解の表現を具体的に求めることが可能なタイプの常微分方程式だけを扱い、具体的な計算を通して現象の数学解析について学ぶ。	メディア
			富山大学 微分方程式 II	微分方程式 I では解の具体的な表現を求めることが可能な微分方程式ばかりを扱ったが、応用上重要な微分方程式の多くは非線形であり、解の具体的な表示が得られることは稀である。そこで解の具体的な表示を求めることなく微分方程式の解の性質を解明する方法が必要となる。 この講義では、非線形問題を扱う基本として、(1) 一階正規形微分方程式系に対する解の存在と一意性に関する定理を証明し、(2) 自律系微分方程式の平衡点に対する漸近安定性を線形化解析によって解明する方法を学ぶ。	メディア
			金沢大学 確率論概論(確率論と現代の数学教育を含む)	高等学校で学んだ確率をより厳密により深く理解することを到達目標とする。具体的には、確率の定義を厳密に行い、条件付き確率、独立事象、確率変数、分布関数について基本的な性質を講義する。また、データサイエンスの考え方を念頭におき、行列をはじめとする線形代数的な視点も加え中学・高校数学における確率論の位置づけについても講義する。	メディア
			金沢大学 統計学概論(統計学と現代の数学教育を含む)	推定について深く理解することを到達目標とする。特に、近年はビッグデータの利用については必須であるので、それも踏まえ標本調査、各種統計量、正規分布等について基本的性質を講義をする。また、確率論との関係も学習し、データサイエンスの考え方も念頭におき講義する。さらに、中学・高校数学における統計学の位置づけについても講義する。	メディア
			富山大学 確率論	本授業では確率論の基本を学び、確率論の観点から様々な現象を説明できるようになることが狙いである。場合の数の数え方を再確認し、確率の考え方を理解する。確率の諸性質を理解し、平均や分散などの問題を解くことができるようにする。確率変数と確率分布の考え方を学び、関連した問題を解く。二項分布の基礎と具体例を学び、関連した問題を解く。	メディア
			富山大学 統計学	本授業では統計の基本を学ぶ。様々なデータを整理、分析し、背後にある数学的原理をみぬく力を身につけることがねらいである。統計の考え方を理解し、資料の平均と分散を学ぶ。二変量の解析では、共分散、相関係数、回帰直線の考えを理解し問題を解けるようにする。正規分布とその諸性質を学び、身の回りの現象で正規分布とみなせるものを実際に分析できるようにする。	メディア
			金沢大学 回帰分析	授業のテーマ及び到達目標は、回帰分析、統計学の考え方を理解し、推定と検定の定義を理解し、説明できるようになることである。そして相関係数と回帰直線の定義を理解し、それが説明でき、決定係数の定義を理解し、説明できるようになれば、回帰係数の区間推定と検定の問題を解くことができる。そして本授業では統計学、中でも特に回帰分析の基本を学ぶ。様々なデータを整理、分析し、背後に存在する数学的原理を見抜くことが狙いである。	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 数学教育	富山大学	コンピュータ概論Ⅰ (授業への応用を含む)	この講義では、汎用的なプログラミング言語の一つである Python 3 を用いたコンピュータ・プログラミングを学習する。コンピュータ概論Ⅱにおいて数学の諸問題へプログラミングを応用することを意識し、Python プログラミングやその周辺の基礎固めを行うことが第一の目標である。また、実際のプログラミングを通して、コンピュータに的確に指示を与える方法を獲得し、複雑な処理を自動化するためのプログラマ的な思考を獲得することが第二の目標である。学習内容を数学の教材作成へ応用することについても扱う。	メディア
	富山大学	コンピュータ概論Ⅱ (授業への応用を含む)	この講義では、数値計算法の初歩的な話題を学習し、コンピュータを数学の諸問題へ応用することを目指す。微分積分学や線形代数学を利用し、いくつかのトピックに対する数値解法(アルゴリズム)を作り、更にそれらの特徴を明らかにする。また、得られたアルゴリズムを元にして実際にプログラムを作成し、数理の諸問題へコンピュータを応用することを体験する。学習内容を数学の教材作成へ応用することについても扱う。	メディア
	金沢大学	論理学	数学の基礎となる論理について厳密に学びコンピュータ分野の考え方の基礎を捉えることを目標とする。具体的には、命題論理と述語論理についてそれらの基本的な事項を学ぶ。特に、これらの扱いになれることで、対偶法や背理法等の構造を理解することで、実際の学校での授業における留意点も理解できるようにする。また、コンピュータの扱いも念頭におきブール代数や回路図についても説明する。	メディア
	金沢大学	集合論	現代数学の基礎となる集合や写像について厳密に扱えることを目標とする。具体的には、集合の和集合、共通集合、差集合等の基本的な扱いをベン図も使いながら講義し、写像についても単射性や全射性についても詳しく説明する。さらに、同値関係についても講義し、例えば小学校の分数の扱いについての理解が深まるようにする。	メディア
	富山大学	数学科教育法Ⅰ(富山県の教育実践を含む)	中学校数学科・高校数学科において情報機器の活用の観点から、諸数学教育用ソフトの実習を通して操作方法を学習するとともに、数学教育用ソフトを用いた授業づくりを行うことができるように指導案の作成上の留意点や模擬授業を通して、数学教育用ソフトの活用法について学習する。具体的には、インターネットにある数学教育コンテンツの活用法、作図作成ソフトCabri-Geometry、数式処理ソフトMathemticaなどのソフトを取り上げる。本講義では主に数学教育用ソフトの取り扱いを学習する。	メディア
	富山大学	数学科教育法Ⅱ(富山県の教育実践を含む)	中学校数学科・高校数学科において情報機器の活用の観点から、諸数学教育用ソフトの実習を通して操作方法を学習するとともに、数学教育用ソフトを用いた授業づくりを行うことができるように指導案の作成上の留意点や模擬授業を通して、数学教育用ソフトの活用法について学習する。具体的には、インターネットにある数学教育コンテンツの活用法、作図作成ソフトCabri-Geometry、数式処理ソフトMathemticaなどのソフトを取り上げる。本講義では主に数学教育用ソフトを活用した指導案の作成及び模擬授業を行う。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	数学教育	金沢大学	数学科教育法Ⅲ（石川県の教育実践を含む）	中学校及び高等学校数学科の目標と内容、指導法についての知識及び技能や考え方を身につけるために、中学校及び高等学校数学科の目標とその特質、内容とその構造についての知見を基に、各領域・内容における石川県の教育実践を含む学習指導の検討を通して、個別の学習内容における生徒の認識・思考や、指導上の留意点等、数学科の指導法についての知見を得る。	メディア
			金沢大学	数学科教育法Ⅳ（石川県の教育実践を含む）	中学校及び高等学校数学科の指導法についての実践的な知識及び技能や考え方を身につけ、数学科の授業を設計することができるようになるために、中学校及び高等学校数学科における教材研究、授業の設計、情報機器及び教材の活用、学習評価について、石川県の教育実践を含む知見を得て、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を実現する授業を設計し、模擬授業とその振り返りを行い、数学科の実践研究とその課題について学ぶ。	メディア
			各大学	数学科教育法Ⅴ	数学科の授業を分析するための知識及び技能や考え方を身につけるために、数学科授業の分析のための枠組みを基に、各領域における授業の視聴とその分析を通して、個別の学習内容における生徒の認識・思考や、指導上の留意点についての理解を深め、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の原理と構成要素等の知見を得る。	
			各大学	数学科教育法Ⅵ	小学校算数科、中学校高等学校数学科の教材と学習指導を分析するための知識及び技能や考え方を身につけるために、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の原理と構成要素等の知見を基に、教育実習に向けて、受講者が協力して、各領域・内容の教材や学習指導案を検討し、模擬授業を行い、相互評価し振り返る。 (オムニバス方式／全8回) (69 伊藤伸也／1回、2回、3回、4回) 「数と式」及び「図形」関連領域・内容の教材と学習指導案の検討、模擬授業とその振り返りを行う。 (43 米田力生／5回、6回、7回、8回) 「関数」及び「データの活用」関連領域・内容の教材と学習指導案の検討、模擬授業とその振り返りを行う。	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	数学教育	各大学	数学科教育法Ⅶ	<p>小学校算数科、中学校高等学校数学科の授業を設計し教材を開発するための知識及び技能や考え方を身につけるために、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の原理と構成要素等の知見を基に教育実習における授業の経験を振り返り、各領域・内容の学習指導の過程について検討し、そのような授業の設計の枠組みへと洗練させ、各領域・内容における教材開発に取り組む。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(69 伊藤伸也／1回、2回、3回、4回) 「数と式」、「図形」、「関数」及び「データの活用」関連領域・内容の学習指導の過程を検討するとともに、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の設計の枠組みを洗練させる。</p> <p>(43 米田力生／5回、6回、7回、8回) 「数と式」、「図形」、「関数」及び「データの活用」関連領域・内容の学習指導の過程の検討と教材開発に取り組む、数学的活動全般を通して、学生自身が主体的・対話的で深い学びを実現する授業の設計の枠組みを洗練し構築していく。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
			各大学	数学科教育法Ⅷ	<p>小学校算数科、中学校高等学校数学科の授業を設計するための実践的な知識及び技能や考え方を身につけるために、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の設計の枠組みと教材開発による知見を基に、教育実習における授業の経験を振り返り、受講者が協力して、授業を構想し学習指導案として再構成し、その模擬授業を行い、相互評価し振り返る。</p>	
			金沢大学	算数・数学科教育論	<p>小学校算数科、中学校高等学校数学科の教育実践とその研究の基盤となる、数学教育に関する知識及び技能や考え方を体系的に身につけ、算数・数学科教育の今日的課題の解決のための展望を得ることを目指す。そのために、小学校算数科、中学校高等学校数学科の教育実践とその研究の基盤となる数学教育論から、算数・数学科教育への視座を得て、その視座から、算数・数学科教育の今日的課題を見出し、その解決のための展望を得る。</p>	メディア
			金沢大学	算数・数学科授業論	<p>算数・数学科の指導法に関する知識や技能を身につけ、活用できる算数科、数学科の目標とその特質、内容とその構造についての知見を基にして、各領域における授業の視聴およびその検討を通して、個別の学習内容における児童、生徒の認識・思考や、指導上の留意点等、算数科・数学科の指導法についての知見を得て、それを実際の授業で活用できるようになることを目指す。</p>	メディア
			富山大学	算数・数学科教材開発研究	<p>中学校数学科・高校数学科において指導案の作成とその指導案に基づいた模擬授業を通して各領域における教材開発の視点や技能を身につけることを目的とする。具体的には、各領域ごとの目標の特徴、一斉授業・グループ学習・個別学習などの授業形態、コンピュータなどの情報機器の活用の仕方などの視点や技能を身につける。小学校算数科では、数と計算・図形・測定・データの活用の領域を取り上げ中学校数学科では、数と式・図形・関数・データの活用の領域を取り上げ、高校数学科では、主に数学A、数学Iの内容の中から取り上げる。</p>	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	理科教育	富山大学	理科内容A (力学概論と現代理科教育)	中学校・高等学校の理科教員として必要な力学の基礎を理解することを目標とし、中学校・高等学校の理科を教える上で必要となる力や運動の捉え方や力学の考え方・計算方法の基礎について学ぶ講義科目である。具体的には、力の概念、運動と座標、質点の運動(自由落下、放物運動等)、力学的エネルギー保存則、運動量保存則、角運動量保存則、剛体のつり合いなどについて学ぶ。また、現代理科教育の様々な課題について知識を深める。	メディア
		金沢大学	理科内容A (電磁気学概論と現代理科教育)	中学校・高等学校の理科教員として必要な電磁気学の基礎を理解することを目標とし、中学校・高等学校の理科を教える上で必要となる電磁気学の基礎的な概念や、基本的な問題を解く方法について学ぶ。具体的には、電磁気学の基礎的内容として、電荷に働く力、静電場の性質、ガウスの法則、電場と電位の関係、静電エネルギー、電気容量、電流と電気抵抗、電気回路などについて学ぶ。また、現代理科教育の様々な課題について知識を深める。	メディア
		富山大学	理科内容A (熱力学)	中学校・高等学校の理科教員にとって重要な熱力学の考え方を理解することを目標とし、中学校・高等学校の理科をエネルギーの視点から理解するために重要な熱力学の体系について学ぶ講義科目である。具体的には、質点系のエネルギー、熱運動、物質の熱力学的性質、理想気体の状態方程式、熱力学第一法則、断熱曲線、アルキメデスの原理、ステファン・ボルツマンの法則、ケルビンの原理、カルノーの定理、熱力学第二法則、エントロピーと熱、熱力学関係式などについて学ぶ。	メディア
		金沢大学	理科内容A (一般物理学)	中学校・高等学校の理科教員として必要な電磁気学の発展的内容、初等量子力学の基礎、及び波動の性質について理解することを目標とし、中学校・高等学校の理科を教える上で必要となる電磁気学、初等量子力学の概念や、波動の性質を理解し、基本的な問題を解く方法について学ぶ。具体的には、電磁気学の発展的内容として、磁場の発生、磁場によって生じる力、電磁誘導、交流回路について学び、音と光、波動と電磁波の関係などについて学ぶ。	メディア
		各大学	理科内容演習A I (物理学)	中学校・高等学校理科の物理分野の専門知識・技能を深めることを目標とし、中学校・高等学校の物理分野に含まれる内容(力、物体の運動、熱、エネルギー)に関する演習問題に取り組み、その解法をお互いに説明することで、物理的な考え方や見方を養う。具体的には、まず物理数学の基礎を修得した上で、力と運動の関係、力のつり合い、圧力と浮力、力学的エネルギーの保存、熱伝導や熱とエネルギーの関係などについて理解を深める。	
		各大学	理科内容演習A II (物理学)	中学校・高等学校理科の物理分野の専門知識・技能を深め、教員としての能力を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の物理分野に含まれる内容(電気回路、電流と磁界、光と音)に関する演習問題に取り組み、その解法をお互いに説明することで、物理的な考え方や見方を養う。具体的には、電磁気学においては、静電現象、電流と磁界、電気容量、電磁誘導、電磁波について学び、また、光の性質や音と波の関係について理解を深める。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	理科教育	各大学	理科実験A I (物理学)	中学校・高等学校の理科教員として必要な基礎的な物理学実験の知識・技能を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の物理分野に含まれる内容(力、物体の運動、熱、エネルギー)に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。まず、測定と誤差についての基礎的な知識を学び、重力加速度、力の合成、摩擦係数などの力学的実験や、気体と液体の圧力、固体の比熱、熱の仕事当量などの熱力学的測定を行うとともに、コンピューターによるデータ処理に関する技術も修得する。	
		各大学	理科実験A II (物理学)	中学校・高等学校の理科教員として必要な物理学実験の知識・技能を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の物理分野に含まれる内容(電気回路、電流と磁界、光と音)に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。まず、電気回路製作の基本的技術を学び、電気抵抗、等電位線と電気力線、静電容量、電磁湯堂などの電磁気学の実験や、音波の共鳴や光に関する波動の測定を行うとともに、コンピューターによる機器の制御に関する技術も修得する。	
		金沢大学	理科内容B(無機化学概論と現代理科教育)	理科教育の1専門分野である化学を指導するうえで、中学校および高等学校における化学分野の基本的で重要な事項を習得すること、また、現代理科教育の様々な課題について知識を深めることが必須となる。この講義では、原子の構造、化学結合、気体の性質の基礎について取り上げ、物質を構成する粒子またはその集合体について化学的性質・現象を学ぶとともに、現代理科教育の様々な課題を理解する視点を養う。	メディア
		富山大学	理科内容B(物理化学概論と現代理科教育)	理科教育の1専門分野である化学を指導するうえで、中学校および高等学校における化学分野の基本的で重要な事項を習得すること、また、現代理科教育の様々な課題について知識を深めることが必須となる。この講義では、溶液の性質、熱化学、化学平衡の基礎について取り上げ、物質を構成する微視的な粒子の性質と巨視的な現象とのつながりを学ぶとともに、現代理科教育の様々な課題を理解する視点を養う。	メディア
		金沢大学	理科内容B(物性化学)	理科教育の1専門分野である化学を指導するうえで、中学校および高等学校における化学分野の基本的で重要な事項を習得すること、また、現代の生活と化学とのかかわりを理解する視点を養うことが必須となる。この講義では、無機物質の構造と性質、バンド理論、有機化合物の構造とその反応について取り上げ、具体的な物質の性質や反応を電子状態から捉え、身近な物質・現象と結びつけて理解する視点を養う。	メディア
		富山大学	理科内容B(一般化学)	理科教育の1専門分野である化学を指導するうえで、中学校および高等学校における化学分野の基本的で重要な事項を習得すること、また、現代の生活と化学とのかかわりを理解する視点を養うことが必須となる。この講義では、酸と塩基、酸化と還元、反応速度論について取り上げ、巨視的な現象を微視的な粒子の性質と変化の視点から捉え、身近な物質・現象と結びつけて理解する視点を養う。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	理科教育	各大学	理科内容演習B I (化学)	化学分野を指導する教員に必要な資質の一つとして、基礎的な知識を応用し、課題を解決する化学的思考力が必要不可欠となる。この演習では、中学校・高等学校の化学分野に含まれる内容(無機化学、物理化学等)に関して、具体的な現象の観察や課題に取り組みながら化学的思考力を養い、教員になるために必要な基礎知識とそれを応用する能力を身につける。	
			各大学	理科内容演習B II (化学)	学分野を指導する教員に必要な資質の一つとして、専門知識を深めることとその知識や情報を自ら獲得できる力を養うことが必要不可欠となる。この演習では、中学校・高等学校の化学分野に関する専門知識や教材について、文献調査を行い、その内容を自ら理解、要約、説明する過程を通して、教員になるために必要な能力を身につける。	
			各大学	理科実験B I (化学)	化学分野を指導する教員において、実験を通して物質の性質や反応に関する知識を習得し、技術的・論理的な能力を習得することが必要不可欠となる。この実験では、中学校および高校における化学分野の基本となる実験の指導および安全教育を行うために必要な基礎的能力を習得することを目的として、気体の発生とその性質の確認、滴定実験を行うとともに、実験に関連して、器具操作方法、データの取り扱い、試薬の調製と廃液処理の方法を学ぶ。	
			各大学	理科実験B II (化学)	化学分野を指導する教員において、実験を通して物質の性質や反応に関する知識を習得し、技術的・論理的な能力を習得することが必要不可欠となる。この実験では、中学校および高校における無機化学、物理化学、有機化学分野の実験指導および安全教育を行うために必要な基礎的能力を習得することを目的として、金属イオンの分析、分子量の測定、反応エンタルピーの測定、有機化合物の合成実験を行うとともに、実験に関連して、器具操作方法、データの取り扱い、試薬の調製と廃液処理の方法を学ぶ。	
			富山大学	理科内容C (生物共通性概論と現代理科教育)	生物分野の理科先進的教育科目として、中学校・高等学校の理科教員に必要とされる生物共通性の基礎を身に付ける。具体的には、生命の化学、生物と細胞、細胞分裂と生物の成長、生物の殖え方、遺伝の規則性と遺伝子、遺伝子発現、基礎的な生理学などについての科学的知見に関する理解を深め、現代理科教育の課題となる生命科学の基礎を身に付ける。	メディア
			金沢大学	理科内容C (生物多様性概論と現代理科教育)	生物分野の理科先進的教育科目として、中学校・高等学校の理科教員に必要とされる生物多様性の基礎を身に付ける。現代理科教育の課題となる生物進化についての基礎的な内容を理解したうえで、生物の構造と機能について学ぶ。具体的には、真核生物の多様性、植物の構造と機能、後生動物の多様性、脊椎動物の構造と機能、生物の生態、生物と環境などについての科学的知見に関する理解を深める。	メディア
			富山大学	理科内容C (ヒトの生物学)	中学校・高等学校の理科生物分野を教える上で必要となるヒトの生物学の各論について学ぶ。具体的には、特にヒトの体の調節機能(神経系による調節、内分泌系による調節、免疫系による調節)や、生物の体内環境の役割、生物と環境・環境応答の関係、生命に関する科学技術の諸問題などについての科学的知見に関する理解を深める。	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	理科教育	金沢大学 理科内容C（一般生物学）	中学校・高等学校の理科生物分野を教える上で必要となる一般生物学の各論について学ぶ。具体的には、ダーウィンを中心とした進化学説、バクテリア・アーキア・真核生物の3ドメイン説、独立栄養生物の生理生態、陸上植物の系統と生理生態、従属栄養生物の生理生態、旧口動物の系統と生理生態、群集生態学、気候変動と生態系などについての科学的知見に関する理解を深める。	メディア
			各大学 理科内容演習C I（生物学）	中学校・高等学校の理科教員として必要となる多様な生物の構造と機能に関する文献を講読し、理解した内容を発表することにより、生物学分野の専門知識・技能を深める。具体的には、ウイルスとバクテリアの生理学、単細胞生物の生理生態学、陸上植物の形態学と生態学、後生動物の形態学と生態学に関する文献から発表を行い討論する。	
			各大学 理科内容演習C II（生物学）	中学校・高等学校の理科教員として必要な生命の連続性および生物と環境の関わりに関する文献を講読し、理解した内容を発表することにより、生物学分野の専門知識・技能を深める。具体的には、生物の成長と殖え方、遺伝の規則性と遺伝子、生物の種類の多様性と進化、生物と環境、および自然環境の保全と科学技術の利用に関する文献から発表を行い討論する。	
			各大学 理科実験C I（生物学）	中学校・高等学校の生物学分野に含まれる内容（主に植物）に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。具体的には、植物野外調査と採集、植物実験・観察の方法、植物標本・データ分析（コンピュータの活用を含む）、植物細胞・植物組織・植物器官を用いた実験・観察など、基礎的な生物学実験の知識・技能を身につける。	
			各大学 理科実験C II（生物学）	中学校・高等学校の生物学分野に含まれる内容（主に動物）に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。具体的には、動物野外調査と採集、動物実験・観察の方法、動物標本・データ分析（コンピュータの活用を含む）、動物細胞・動物組織・動物器官を用いた実験・観察など、基礎的な生物学実験の知識・技能を身につける。	
			富山大学 理科内容D（地球環境科学概論と現代理科教育）	本講義では地学の基礎的な学習をとおして、将来学生が中学校・高等学校の教員になったときに、その授業のバックボーンとなる知識を習得することを目指す。具体的な内容として、大気構造、海洋運動、地表の変化、堆積岩や地層、地質構造、自然災害について、その成り立ちやメカニズム、そこで起った諸現象について理解を深める。	メディア
			金沢大学 理科内容D（地球物質科学概論と現代理科教育）	中学校・高等学校の理科教員として必要な固体地球における物質科学の基礎を理解することを目指し、中学校・高等学校の理科を教える上で必要となる地球の内部構造や岩石・鉱物、および固体地球の変動メカニズムについての基礎的な内容を理解し、地殻の成因について学ぶ。また、現代理科教育の様々な課題について知識を深める。	メディア
			富山大学 理科内容D（地球史学）	本講義では将来学生が中学校・高等学校の理科教員になったときに、それらの地学分野の内容のバックボーンとなる知識の習得を目指す。具体的な内容として、地球の歴史が何を証拠としてどのように科学的に復元されてきたかを詳しく解説することによって、歴史が興味深い科学の対象であることを理解するとともに、46億年にもおよぶ地球史の概要を知り、その中で人類に至る脊椎動物の進化史を学ぶ。	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 理科教育	金沢大学	理科内容D（一般地学）	本講義では中学校・高等学校の理科教員として必要な天文学の基礎について理解することを目標とし、中学校・高等学校の理科を教える上で必要となる現代の宇宙像の概要（太陽系の構造と天体、恒星の特徴と進化、銀河系の構造、さまざまな銀河の存在と分布、宇宙の誕生と進化）や天文学の歴史（天動説と地動説、観測技術の変遷）について学ぶ。	メディア
	各大学	理科内容演習D I（地学）	地形や地質の野外観察や地学に関する演習問題等を解くことにより、中学校・高等学校理科の地学分野の専門知識・技能を深めることを目標とし、中学校・高等学校の地学分野に含まれる内容（地形、地質、プレートテクトニクス等）に関する観察や課題に取り組み、地学的な考え方や見方を養う。具体的には、地形および地質の野外観察、ITCを活用した古地理の推定、ボーリングデータによる地質断面図の作成、地質図からの地球史の推定、プレートの運動速度の推定、練習問題地を使った地球史の復元などを行う。	
	各大学	理科内容演習D II（地学）	地学に関する課題に取り組むことにより、中学校・高等学校理科の地学分野の専門知識・技能を深め、教員としての能力を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の地学分野に関する単元の内容や教材について研究をする。その上で学生が地学分野に関するテーマを決めて課題設定をし、それらに取り組むことで、地学的な考え方や見方とともに教員としての資質を養う。	
	各大学	理科実験D I（地学）	中学校・高等学校の理科教員として必要な基礎的な地学実験の知識・技能を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の地学分野に含まれる内容（地形、地層）に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。具体的には、地形図の基礎と読図（コンピュータの活用を含む）、測定の基礎、地質図の基礎と読図などについて学ぶ。	
	各大学	理科実験D II（地学）	中学校・高等学校の理科教員として必要な地学実験の知識・技能を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の地学分野に含まれる内容（気象、化石、岩石）に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。具体的には、身近な気象の観察（作業、データの整理と考察）、コンピュータを活用した自然災害学習、岩石の分類と標本の観察、岩石薄片の観察、化石の分類法、化石の抽出や観察などを行う。	
	金沢大学	理科教育法 I（石川県の教育実践を含む）	本授業では、中学校・高等学校の理科の学習指導要領に基づいた生徒の自然理解、指導技術、教材内容について理解し、中学校・高等学校における理科教育の基本的事項を習得することを目的としている。その際、石川県の具体的な授業実践例を通して、その特徴や教育理念も理解するようにする。とくに、中学校・高等学校における理科の目標をもとに、基本的な知識・技能と生徒の自然認識の実態、主体的な学習のための課題設定、理科学習展開の工夫について、石川県の理科の教育実践も通しながら理解する。また、中学校・高等学校の理科のカリキュラムの構成や教材、情報機器の活用について具体的な授業実践例をもとに理解する。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	理科教育	金沢大学	理科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）	本授業では、中学校・高等学校の理科の学習指導要領に基づいた授業計画と授業評価について理解するとともに、理科におけるマネジメントを理解し、中学校・高等学校における理科教育の基本的事項を習得することを目的としている。その際、石川県の具体的な授業実践例を通して、理科の教材研究の工夫やSTEAM教育とSDGsに関わる教材の工夫についても理解するようにする。そして、具体的な単元構成と指導案の作成を行い、作成した指導案にもとづく模擬授業と模擬授業の評価を行う。授業計画や模擬授業にあたっては、理科における学習評価、学習形態の工夫や学級経営のあり方、さらに、理科における情報機器の活用や、理科における事故防止と理科室の管理運営についても考慮するようにする。	メディア
		富山大学	理科教育法Ⅲ（富山県の教育実践を含む）	本授業では、中学校・高等学校の理科の学習指導要領における目標と内容構成、指導計画、指導方法について理解し、中学校・高等学校における理科教育の基本的事項を習得することを目的としている。その際、富山県の具体的な授業実践例を学び、その特徴や教育理念を理解するようにする。とくに、中学校・高等学校における理科の目標をもとに、理科において育成を目指す資質能力と生徒の実態、主体的な学習のための課題設定、授業展開についても理解を深める。また、中学校・高等学校のカリキュラムの構成や教材、情報機器の活用について、具体的な授業実践例をもとに理解する。	メディア
		富山大学	理科教育法Ⅳ（富山県の教育実践を含む）	本授業では、中学校・高等学校の理科の学習指導要領に基づいた授業計画と授業評価について理解するとともに、理科におけるマネジメントを理解し、中学校・高等学校における理科教育の基本的事項を習得することを目的としている。その際、富山県の具体的な授業実践例を学び、理科の教材研究の工夫やSTEAM教育、SDGsと関連付けた学習内容や授業展開の工夫についても学び、単元計画や学習指導案の作成する。作成した学習指導案に基づき模擬授業を実施し、学習の振り返りを行い授業改善にも取り組む。さらに、理科における情報機器の活用や事故防止、理科室の管理運営についても理解を深める。	メディア
		各大学	理科教育法Ⅴ	本授業では、中学校・高等学校の理科の内容を対象に、具体的な理科の授業設計を行い、指導技術について習得することを目的としている。とくに、中学校・高等学校の理科の目標と指導のポイント、優れた理科授業の分析と指導技術、理科の教材研究例と授業実践について具体的な実践例をもとに理解する。また、主体的な理科学習のための課題設定や、情報機器の活用を含めた理科における対話的な学び、教科横断的な理科の授業について具体的な授業実践例から理解する。	
		各大学	理科教育法Ⅵ	本授業では、中学校・高等学校の理科の内容を対象に、授業設計と模擬授業の実施を通して理科の指導技術について習得することを目的とする。指導計画については、単元計画、本時の指導案、評価基準、授業において用いるワークシートの作成など、具体的な教材を対象に行う。その際、物理分野、化学分野、生物分野、地学分野の内容を取り上げ、その内容の特徴を生かした模擬授業の実施と模擬授業の評価を行い、模擬授業を振り返ることによって、指導計画の改善案を作成する。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	理科教育	各大学	理科教育法Ⅶ	本授業では、教育実習をふりかえりながら理科の授業改善を行い、それにもとづく模擬授業を実施することにより理科の教材開発や指導技術を習得することを目的とする。とくに、教育実習の授業と指導案について再検討し、同じ授業について指導案を再度作成し議論する。その議論の結果を踏まえ、教材について検討し授業計画を立てて模擬授業を実施する。その際、単元計画と本時の指導案の作成と教材の検討、ワークシートの作成、情報機器活用を含む教具の準備と板書計画などを考慮するようにする。	
			各大学	理科教育法Ⅷ	本授業では、日本の理科カリキュラムの変遷や世界の理科カリキュラムを概観し、カリキュラムが時代的背景によって変化し指導法も変化してきたことを理解し、これからの理科の指導のあり方について検討することを目的とする。とくに、理科カリキュラムの構成要素にもとづき、昭和20年代の生活単元学習、昭和40年代の系統的学習、昭和50年代からのゆとりのカリキュラム、平成中期から令和にかけての現代のカリキュラムを取り上げ、その背景と特徴を理解する。その際、世界の理科カリキュラムとの比較、理科のカリキュラムマネジメントの考慮などについても取り上げる。	
			各大学	理科教育演習Ⅰ	本授業では、理科教育に関する研究資料やデータの分析をもとに、理科教育の研究方法について習得することを目的とする。とくに、理科の教材開発の方法について、教材開発の論文をもとに理解する。また、自然認識の調査分析の方法について、定性的分析や統計的手法を用いた定量的分析について研究論文をもとに理解する。さらに、理科授業の質的分析、量的分析の方法について理解するとともに、理科カリキュラムの分析方法について、歴史的分析や国際比較の分析について理解する。	
			各大学	理科教育演習Ⅱ	本授業では、理科教育に関する研究資料の分析とともに、教材開発の課題研究を通して理科教材の開発方法について習得することを目的としている。まず、教材開発の目的と意義の理解のもとに、任意の理科教材に着目し、その教材開発の先行研究について調べ、教材の意義や教材開発の方法について理解する。それをもとに、教材の設計、教材の作成を行い、教材の発表を通して改善し、改善した教材を用いた授業設計と模擬授業を行う。模擬授業を通して教材および教材を用いた授業展開の改善点を明らかにする。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	理科教育	金沢大学	理科教育実践研究Ⅰ (概要) 理科各領域カリキュラムの概要を知り教材研究を行うことにより、授業実践のための基本的能力を修得する。 (オムニバス方式/全8回) (37 松原道男/1回, 2回) 理科カリキュラムの変遷について解説する。 (32 辻井宏之/3回, 4回) 理科物理領域カリキュラムの概要を学び、教材研究を行う。 (97 小松田(佐藤)沙也加/5回, 6回) 理科化学領域カリキュラムの概要を学び、教材研究を行う。 (25 川幡佳一/7回) 理科生物領域カリキュラムの概要を学び、教材研究を行う。 (28 酒寄淳史/8回) 理科地学領域カリキュラムの概要を学び、教材研究を行う。	オムニバス方式
			金沢大学	理科教育実践研究Ⅱ (概要) 理科各領域カリキュラムの概要を知り教材研究を行うことにより、実際にカリキュラム(年間指導計画・単元の指導計画)を作成するときの視点や技術を修得する。 (オムニバス方式/全8回) (37 松原道男/1回, 2回) 理科指導計画の作成と実践について解説する。 (32 辻井宏之/3回) 理科物理領域カリキュラムの実践を学ぶ。 (97 小松田(佐藤)沙也加/4回) 理科化学領域カリキュラムの実践を学ぶ。 (25 川幡佳一/5回, 6回) 理科生物領域カリキュラムの実践を学ぶ。 (28 酒寄淳史/7回, 8回) 理科地学領域カリキュラムの実践を学ぶ。	オムニバス方式

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	理科教育	金沢大学	理科教育実践研究Ⅲ	<p>(概要) 理科各領域カリキュラムの概要を知り教材研究を行うことにより、授業実践のための応用的能力を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(37 松原道男／1回, 2回) 理科カリキュラムの構成要素について解説する。</p> <p>(32 辻井宏之／3回, 4回) 理科物理領域カリキュラムの教材研究を行う。</p> <p>(97 小松田(佐藤)沙也加／5回, 6回) 理科化学領域カリキュラムの教材研究を行う。</p> <p>(25 川幡佳一／7回) 理科生物領域カリキュラムの教材研究を行う。</p> <p>(28 酒寄淳史／8回) 理科地学領域カリキュラムの教材研究を行う。</p>	オムニバス方式
		金沢大学	理科教育実践研究Ⅳ	<p>(概要) 理科各領域カリキュラムの概要を知り教材研究を行うことにより、様々な単元における実践的なカリキュラムを作成するときの視点や技術を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(37 松原道男／1回, 2回) 理科カリキュラムマネジメントについて解説する。</p> <p>(32 辻井宏之／3回) 理科物理領域カリキュラム作成における実践的技術を学ぶ。</p> <p>(97 小松田(佐藤)沙也加／4回) 理科化学領域カリキュラム作成における実践的技術を学ぶ。</p> <p>(25 川幡佳一／5回, 6回) 理科生物領域カリキュラム作成における実践的技術を学ぶ。</p> <p>(28 酒寄淳史／7回, 8回) 理科地学領域カリキュラム作成における実践的技術を学ぶ。</p>	オムニバス方式
	音楽教育	金沢大学	ソルフェージュⅠ	<p>課題、宿題を通して初歩的なリズム感、聴音等の実践から始め、和声法学習へ結びつく音感を養う。また指揮法習得への初学段階をも担う。テキストには、Noel-Gallon "Vingt-cinq Lecons de Solfege" (初見視唱・視奏)、Noel-Gallon "Solfege Progressif" (聴音)をはじめ、海外のソルフェージュ教材を中心に扱い、リズムトレーニングやクレフの異なる楽譜を読む練習などを繰り返し行っていく。</p>	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	音楽教育	金沢大学	ソルフェージュⅡ	ソルフェージュⅠで向上させたソルフェージュ能力を実践的に生かしていく練習をする。読譜能力および演奏能力を支える音感、また、自身の不得意なソルフェージュ分野における能力の更なる向上をはかることを目指す。加えて、身につけた能力をコーディネートし、演奏実技に生かしていくことを目標とし、様々な編成（声を使った作品、ボディーパーカッションを用いた作品、打楽器を用いた作品など）のアンサンブル作品の演奏に取り組む。	
			金沢大学	歌唱法Ⅰ	声楽的な歌唱技術を身に付ける上での基礎的な知識と技能を習得することを目標とする。具体的にはコンコーネ50番の第1番から順番に取り組み、階名読みによる歌唱を基本として、正しい音程とリズムを保ちながらフレーズ感やアーティキュレーションに留意しながら歌うことができるようにする。歌詞を持たない練習曲をいかに音楽的に且つソルフェージュ的にも正しく歌唱できるように心掛ける。最終回には授業で学んだコンコーネの練習曲の中から任意の曲を課題曲に設定して試験を行い、評価を行う。	
			金沢大学	歌唱法Ⅱ	声楽的な歌唱技術を身に付ける上での基礎的な知識と技能を習得することを目標とする。具体的にはコンコーネ50番の第10番以降の楽曲に取り組み、階名読みによる歌唱を基本として、正しい音程とリズムを保ちながらフレーズ感やアーティキュレーションに留意しながら歌うことができるようにする。歌詞を持たない練習曲をいかに音楽的に且つソルフェージュ的にも正しく歌唱できるように心掛ける。最終回には授業で学んだコンコーネの練習曲の中から任意の曲を課題曲に設定して試験を行い、評価を行う。	
			金沢大学	歌唱法Ⅲ	声楽的な歌唱技術を生かして、古典イタリア歌曲の歌唱に取り組む。イタリア語が持つ言語的な特徴を活かしながら、より遠くに、より多くの人に届く発声技術と、積極的な表現力を身に付けることを目標とする。古典イタリア歌曲は声楽を志す者にとっての初歩的、基礎的な練習曲として日本の音楽教育及び芸術音楽の分野で取り上げられているが、これを声楽的また音楽的に歌うことは実は非常に難しい。上辺だけの習得に留まらず、正確な発音を伴いながら声楽的且つ音楽的に、またソルフェージュ的にも正確に歌えるようにすることを心掛ける。最終回には授業で取り組んだ楽曲の中から任意の曲を課題曲として試験を行い評価する。	
			金沢大学	歌唱法Ⅳ	声楽的な歌唱技術を生かして、古典イタリア歌曲と日本歌曲の歌唱に取り組む。日本語と外国語の発音や表現の違いを考察しながら、あらゆる言語を歌詞に持つ楽曲の歌唱と指導を行うことができるようになることを目標とする。特にイタリア語と日本語の母音の違いに留意しながら指導を行う。殊に「ウ」の母音は日本語と西洋の原語では決定的な深さの違いがあり、これを習得することが、声楽的技術を身に付ける上において最重要課題であることから、この点についてはより留意しながら日本歌曲もイタリア語の母音に近い深さを保ちながら歌えるようにすることを心掛ける。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	専門 科目	音楽 教育	金沢大学	アンサンブルⅠ（声楽）	教科書で取り上げられている合唱教材やその他の邦人作品に加え、バロックからロマン派までの宗教曲を中心とした合唱曲に取り組み、日本語のみならずあらゆる言語に対応できる歌唱力、アンサンブル力、指導法を身に付けることを目標とする。始めに、音楽の教科書で取り上げられている教材を如何に指導するのかという点から出発して、やや難易度の高い邦人作品について、和声的なアンサンブルの構造に着目しながら、音楽的な側面と歌詞の持つ内容との調和を目指す。その上で、ラテン語やドイツ語を歌詞に持つミサ曲やモテットの歌唱にも取り組み、外国語の歌詞による合唱曲の歌い方と指導法も身に付けられるようにする。	
			金沢大学	アンサンブルⅡ（声楽）	教科書で取り上げられている合唱教材やその他の邦人作品に加え、バロックからロマン派までの宗教曲を中心とした合唱曲に取り組み、日本語のみならずあらゆる言語に対応できる歌唱力、アンサンブル力、指導法を身に付けることを目標とする。始めに、音楽の教科書で取り上げられている教材を如何に指導するのかという点から出発して、やや難易度の高い邦人作品について、和声的なアンサンブルの構造に着目しながら、音楽的な側面と歌詞の持つ内容との調和を目指す。その上で、ラテン語やドイツ語を歌詞に持つミサ曲やモテットの歌唱にも取り組み、外国語の歌詞による合唱曲の歌い方と指導法も身に付けられるようにする。	
			金沢大学	アンサンブルⅢ（声楽）	教科書で取り上げられている合唱教材やその他の邦人作品に加え、バロックからロマン派までの宗教曲を中心とした合唱曲に取り組み、日本語のみならずあらゆる言語に対応できる歌唱力、アンサンブル力、指導法を身に付けることを目標とする。始めに、音楽の教科書で取り上げられている教材を如何に指導するのかという点から出発して、やや難易度の高い邦人作品について、和声的なアンサンブルの構造に着目しながら、音楽的な側面と歌詞の持つ内容との調和を目指す。その上で、ラテン語やドイツ語を歌詞に持つミサ曲やモテットの歌唱にも取り組み、外国語の歌詞による合唱曲の歌い方と指導法も身に付けられるようにする。	
			金沢大学	日本の伝統的歌唱法	長唄の歌唱を通じて、日本の伝統的な歌唱技術を身に付けるとともに、それに不随する様々な作法を学び、日本古来の形や様式美を知ることによって、西洋音楽との違いや伝統文化の大切さを学ぶことを目標とする。長唄を歌唱する上での立ち居振る舞いや所作を身に付け、伝統的な歌唱を行う上での「形」を知ることによって、所作と歌唱技術の関係性に着眼しながら、日本古来の伝統的な歌唱の歴史的意義と存在意義を学び、それを音楽教育に如何に活かしていくべきかを考察する。	
			金沢大学	歌唱法演習Ⅰ	頭声発声を基調とした歌唱技術を身に付けるために、呼吸法と発声法を重点を置きながら、古典イタリア歌曲やトスティの歌曲を歌うことによって、技術力と表現力が融合された歌唱力を身に付ける。声楽的な発声技術と音楽表現の融合を目指し、声と表現を多くの人に伝えるための技術的・精神的な方向性を導き出し、発展的な歌唱力と、またそれを活かした歌唱指導が可能になることを目標とする。また授業で習得した楽曲を演奏会で発表し、その修学の成果と人前で演奏することの難しさを知ることによって、声楽的歌唱の奥深さを認識する。	

科目 区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	音楽 教育	金沢大学	歌唱法演習Ⅱ	頭声発声を基調とした歌唱技術を身に付けるために、呼吸法と発声法を重点を置きながら、トスティの歌曲やモーツァルトのオペラ・アリアを歌うことによって、技術力と表現力が融合された歌唱力を身に付ける。声楽的な発声技術と音楽表現の融合を目指し、声と表現を多くの人に伝えるための技術的・精神的な方向性を導き出し、発展的な歌唱力と、またそれを活かした歌唱指導が可能になることを目標とする。また授業で習得した楽曲を演奏会で発表し、その修学の成果と人前で演奏することの難しさを知ることによって、声楽的歌唱の奥深さを認識する。	
		金沢大学	歌唱法演習Ⅲ	頭声発声を基調とした歌唱技術をさらに発展させながら、ドイツ語やフランス語の歌曲にも取り組み、あらゆる言語に対応できるディクシオンを身に付ける。声楽的な発声技術と音楽表現の融合を目指し、声と表現を多くの人に伝えるための技術的・精神的な方向性を導き出し、発展的な歌唱力と、またそれを活かした歌唱指導が可能になることを目標とする。また授業で習得した楽曲を演奏会で発表し、その修学の成果と人前で演奏することの難しさを知ることによって、声楽的歌唱の奥深さを認識する。	
		金沢大学	歌唱法演習Ⅳ	オペラアリアの歌唱に取り組みながら、舞台表現を念頭に置いた歌唱表現、発音、演技が出来るようになることを目指す。声楽的な発声技術と音楽表現の融合を目指し、声と表現を多くの人に伝えるための技術的・精神的な方向性を導き出し、発展的な歌唱力と、またそれを活かした歌唱指導が可能になることを目標とする。また授業で習得した楽曲を演奏会で発表し、その修学の成果と人前で演奏することの難しさを知ることによって、声楽的歌唱の奥深さを認識する。	
		金沢大学	和楽器奏法	三味線の演奏を通じて、日本の伝統的な演奏技術を身に付けるとともに、それに不随する様々な作法を学び、日本古来の形や様式美を知ることによって、西洋音楽との違いや伝統文化の大切さを学ぶことを目標とする。三味線を演奏する上での立ち居振る舞いや所作を身に付け、楽器としての取り扱いや手入れの仕方など、伝統的な演奏を行う上での「形」を知ることによって、所作と演奏技術の関係性に着眼しながら、日本古来の伝統的な奏法の歴史的意義と存在意義を学び、それを音楽教育に如何に活かしていくべきかを考察する。	
		金沢大学	ピアノ奏法Ⅰ	中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の基礎知識・技能の習得。スケール等の基礎的な演奏技術の習得。特に音階特有の運指を身につけ、それぞれのカデンツをスムーズに取れるよう、反復練習する。また、個々の実力に応じた楽曲をテーマに、それぞれの演奏表現に必要な基本的な技術を身につける。特にペダルの機能の知識を学び、その上での効果的なペダリングの使い方や、運指によってどのように弾きやすくなるか、といった効果的な選択方法、また表現技術の基礎を身につける。最終的には、楽曲を暗譜で仕上げ、演奏発表する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 音楽教育	金沢大学	ピアノ奏法Ⅱ	<p>ピアノ奏法Ⅰに引き続きピアノ演奏表現の基礎を実践的に学ぶ。中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の基礎知識・技能の応用と発展。ピッシー、ツェルニー、クラーマービューロー、と言った指の訓練の練習曲、すでにある程度基礎を身につけている受講生にはブラームス、ショパン、リストなどのエチュードを実力に応じて与え、反復練習させる。さらに個々の実力に応じた楽曲をテーマに、それぞれの演奏表現に必要な応用的な技術を身につける。最終的には、楽曲を暗譜で仕上げ、演奏発表する。</p>	
	金沢大学	ピアノ奏法Ⅲ	<p>ピアノ奏法Ⅱに引き続き、中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の専門知識・技能を深める。ピアノ演奏表現の応用を実践的に学ぶ。バッハの平均律などを活用し、フーガの多声体の楽曲に取り組む。運指やペダリングが複雑となる多声体の楽曲の演奏技術を身につけ、表現技術の幅を広げる。基本的には受講生の実力によって、平均律曲集から3声～4声のフーガを選択させ、プレリュードとともに仕上げる。さらに個々の実力に応じた楽曲をテーマに、それぞれの演奏表現に必要な発展的な技術を身につける。最終的には、楽曲を暗譜で仕上げ、演奏発表する。</p>	
	金沢大学	ピアノ奏法Ⅳ	<p>ピアノ奏法Ⅲに引き続き中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の専門知識・技能を深める。これまで積み上げてきた演奏技術、表現技術を元に、ピアノ演奏表現の応用を発展的に学ぶ。受講生の実力によって、ハイドン、モーツァルト、ベートーベン、と言った古典派の作品、またはショパンやシューマン、ブラームス、リストと言ったロマン派の作品から選択し、多彩な音色を奏でるために、どのような運指やペダリングが必要になるかを考察し、最終的には、楽曲を暗譜で仕上げ、演奏発表する。</p>	
	金沢大学	ピアノ奏法演習Ⅰ	<p>ピアノ演奏を卒業研究として学ぶ。中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の専門知識・技能をさらに深める。ハイドン、モーツァルト、ベートーベン、と言った古典派の作品、ショパンやシューマン、ブラームス、リストと言ったロマン派の作品、ドビュッシーやラベル、ラフマニノフ、スクリャービン、プロコフィエフと言った近現代の作品まで、受講者の実力に応じて卒業研究で学ぶために、その準備段階として学ぶ作品を選ぶ。譜読み、運指、ペダリング、と言った演奏技術を段階的に行うのではなく、譜読みの段階から、今後の練習法や表現法といった課題を見据えられるように研究する。特に運指はなるべく初期段階での考察が必須となるため、重点的に行う。</p>	
	金沢大学	ピアノ奏法演習Ⅱ	<p>ピアノ演奏を卒業研究として学ぶ。中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の専門知識・技能を習得する。ピアノ奏法演習Ⅰで選択した作品を、発展的に考察する。運指やペダリングは効果的な練習を積み上げるためにも初期段階にある程度決定する必要があるが、演奏技術の習熟度や、音色の多彩さを感じられるようになると、練習しているうちに変化することは必然である。複数考えられる運指やペダリングからどれを選択するかを見極めるなど、自発的に考えられるように考察する。最終的には、楽曲を暗譜で仕上げ、演奏発表する。</p>	

科目 区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 音楽教育	金沢大学	ピアノ奏法演習Ⅲ	ピアノ演奏を卒業研究として学ぶ。中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の専門知識・技能を発展的に習得する。ピアノ奏法演習Ⅱで学んだ楽曲の演奏技術、表現技術を踏まえ、受講者の実力に応じて、バロック作品から近現代作品の中から学び、ピアノ作品に対する深い理解と演奏者のより高度な演奏表現を探究する。楽曲を音楽的に仕上げるためには、個々の音楽性だけでは実現できない。その作品に対する想いを表現するために、どのような演奏技術が必要となるかを、初期段階からしかも短時間で考えられるような能力を研く。	
	金沢大学	ピアノ奏法演習Ⅳ	ピアノ演奏を卒業研究として学ぶ。中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の専門知識・技能を発展的に習得する。卒業研究に選んだ作品を中心に、時代の様式、作曲家固有の音楽様式を実践的に学び、演奏者固有の表現様式を研く。演奏家が存在する意義は、同じ作品でもそれぞれが、全く違う解釈を与えることにある。個々がそれぞれ異なる表現者であることを自覚し、選択した作品の歴史的な背景を調べ、過去のピアニストの演奏にはどのような特徴や個性的解釈がなされているかを研究し、個性のある演奏を表出することを目指す。最終的には、楽曲を暗譜で仕上げ、演奏発表する。	
	金沢大学	アンサンブルⅣ(木管)	クラリネットを基礎から学ぶだけではなく、ソロ曲やアンサンブル曲を演奏し、クラリネットの演奏技術や、音楽表現などを学ぶ。そのために、吹奏楽の中心楽器となるクラリネットの楽器について、基本的な奏法から表現方法を段階的に取得していく。最終的にはピアノ伴奏に合わせたソロ演奏と、クラリネット重奏によるアンサンブル演奏を仕上げ、クラス内で発表する。テキストには、アメリカで好評を得ている「ラーン・トゥ・プレイ最新クラリネット教本Book 1 & 2」の日本語版を使用して進めていく。	
	金沢大学	アンサンブルⅤ(金管)	ハ長調を基準とする鍵盤楽器、弦楽器、声楽等と、変ロ長調、ヘ長調を基準とする金管楽器とを比較し金管楽器の特性と奏法を学ぶ。合わせて金管楽器の発達過程、歴史も学ぶ。大学の保有するトランペット、ホルン、トロンボーン、チューバを用い、それぞれの楽器の特徴や手入れの仕方などを知ることから始め、それぞれの楽器で基本音階を吹けるよう練習する。最後には、金管楽器による合奏にも取り組み、合奏を通してアンサンブルの基礎を学ぶ。	
	富山大学	アンサンブルⅥ(室内楽)	受講者同士でアンサンブルを組み、西洋古典から近現代による作品の演習を通して、各楽器の特性や楽曲の特徴などを捉え、音楽を多面的に理解する。演習では、他の科目で学習した個人の技能を基盤とし、アンサンブルを通して学校教育において必要とされる「協働」を体験的に学ぶ。同時に、発音等の仕組みが異なる楽器とのアンサンブルに取り組むことで、他の楽器の特性を捉え学校における音楽科授業等の指導につなげることを目指す。	
	富山大学	アンサンブルⅦ(室内楽)	受講者同士でアンサンブルを組み、室内楽曲の演習を通して音楽を多面的に理解し、合奏体における指導法の習得を目指す。他の合奏科目における学修を基盤とし、さらに高度なアンサンブルの実現を目指す。また、指揮法における基本的な動作を、アンサンブルを指揮することでよりリアルに学び、同時に児童生徒を対象としたより適切な指導言を獲得できるようにする。講義の最後には成果発表を行い、学修成果の対外的な発信につとめる。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 音楽教育	金沢大学	指揮法	読譜能力を高め、アンサンブルをまとめていく基礎能力を身につける。「指揮台に立つ前の仕事」と「指揮台の上での仕事」の2つに分類される指揮者の仕事について、初めて出会う作品を楽譜から理解する能力を養うこと、また基本的なバトンテクニックを習得し、演奏家に意図を伝えられる実践力を磨く。授業は、簡単なスコアリーディング訓練、バトンテクニックの基礎練習、そして、ロールプレイングによる指揮実践によって構成される。	
	金沢大学	音楽理論及び和声学(作曲・編曲を含む) I	音楽理論を学ぶ上で最低限必要となる音楽能力(楽典、ソルフェージュ)についてはそれらを完成させ、「和声学」の基礎を学ぶ。音楽指導者として必要不可欠な読譜能力を習得するため、和声法の基礎を学び楽曲におけるそれらの機能を理解することを目標とする。授業の内容としては、基本位置3和音の配置、連結から、和音設定の原理、各種の調、3和音の第一・第二転回位置の使い方などを学習していく。テキストには、音楽大学の副科和声の授業などに使われている「総合和声 実技・分析・原理」(音楽之友社)を用いる。	
	金沢大学	音楽理論及び和声学(作曲・編曲を含む) II	音楽理論を学ぶ上で最低限必要となる音楽能力(楽典、ソルフェージュ)についてはそれらを完成させ、「和声学」の基礎を学ぶ。音楽指導者として必要不可欠な読譜能力を習得するため、和声法の基礎を学び楽曲におけるそれらの機能を理解することを目標とする。授業の内容としては、V7, V9の和音、D諸和音の総括を学習し、実際の楽曲の和声分析についても学んでいく。テキストには、音楽大学の副科和声の授業などに使われている「総合和声 実技・分析・原理」(音楽之友社)を用いる。	
	金沢大学	音楽理論及び和声学(作曲・編曲を含む) III	I, IIに引き続き、和声法の基礎を学習する。実際の作品を分析し、学習した理論の実用例について学ぶ。授業の目標としては、理論の基礎を完成させること、楽曲分析などを通して、学んだ理論が実際の作品の中でどのような機能をもつのか理解できる力を養うこととしている。授業内容としては、属九の和音、D諸和音の総括、第2ドミナントの和音の学習をはじめ、ソプラノ課題を通して、借用和音や近親転調の使い方などを学んでいく。	
	金沢大学	音楽理論及び和声学(作曲・編曲を含む) IV	和声法の基礎を踏まえ、簡単な編曲や創作を行うこと、また実際の作品を分析し、学習した理論の実用例について学ぶことをテーマとする。授業の目標は、理論の基礎を完成させること、楽曲分析などを通して、学んだ理論が実際の作品の中でどのような機能をもつのか理解できる力を養うこととしている。授業内容としては、和声法の総括と二声対位法の基礎学習をはじめ、イタリア歌曲やピアノ・ソナタ、室内楽作品の楽曲分析に取り組む。	
	富山大学	音楽史 I (西洋音楽)	西洋の社会の中ではぐくまれてきた音楽文化を地中海世界、中世、近代に向けて概観しつつ、視聴覚資料を利用しながら西洋音楽についての基本的な知識を身につける。資料を通じての分析力・理解力とともに感性・感情といったコミュニケーションや自己理解や他者理解のスキルを発見し解決していくことを目標とする	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	音楽教育	富山大学 音楽史Ⅱ（西洋音楽）	近代以降のグローバル社会における音楽文化を作品や様式だけにとどまらず社会と歴史観を交えて概観する。視聴覚資料を利用しながら西洋音楽についての基本的な知識を身につけるとともに、資料を通じての分析力・理解力や感性・感情に左右されるコミュニケーションや自己理解や他者理解のスキルを発見し解決していくことを目標とする。	
			金沢大学 音楽史Ⅲ（日本及び世界の音楽）	この講義は、日本の音楽についての理解を深め、その歩みを辿ることにより、西洋の音楽とは違う体系を知ることが目標である。雅楽、仏教音楽、能楽、琵琶楽などを主に取り上げながら、講義だけでなく、三味線の実技を取り入れながら進めていく。日本の様々な音楽ジャンルに関する基本的な知識を身に付け、広い視野で「音楽」を捉えることができるようにする。	
			金沢大学 音楽史Ⅳ（日本及び世界の音楽）	この講義は、音楽史Ⅲに引き続き、日本の音楽についての理解を深め、その歩みを辿ることにより、西洋の音楽とは違う体系を知ることが目標である。歌舞伎、文楽、尺八楽を主に取り上げながら、講義だけでなく、三味線や長唄の実技を取り入れながら進めていく。日本の様々な音楽ジャンルに関する基本的な知識を身に付け、広い視野で「音楽」を捉えることができるようにする。	
			金沢大学 作曲（編曲を含む）演習Ⅰ	それまでに学習してきた理論を踏まえ、器楽独奏曲の作曲を試みる。既存の楽曲から学習した表現を模倣または引用しながら、自ら表現することの難しさと魅力を実体験することを目標とする。初めは、学生自身に最も馴染みのある楽器を選択し、独奏曲を作曲する。既成曲より、書法を学び取り、自作品の中での応用を試みる。楽器法の学習には、『管弦楽法 ウォルター・ピストン／戸田邦雄訳』など、比較的分かりやすい管弦楽法の教本を用いる。	
			金沢大学 作曲（編曲を含む）演習Ⅱ	それまでに学習してきた理論を踏まえ、歌曲の創作を試みる。既存の楽曲から学習した表現を模倣、引用しながら、自ら表現することの難しさと魅力を実体験することを目標とする。歌曲を作曲するにあたり、詩を深く読み解き、その詩の描く世界を音のイメージに置き換えていく作業を行う。完成した楽曲は、学内の発表会において自演により発表する。金田一春彦監修『新明解日本語アクセント辞典』などを用い、日本語の特徴も踏まえた上で日本歌曲の作曲に取り組む。	
			金沢大学 作曲（編曲を含む）演習Ⅲ	より高度な作曲（編曲）技法を習得する。作曲（編曲を含む）演習Ⅰと同様、既成作品の分析より実際の表現法を学び取り、それを自作の表現の中で生かすことを目標にする。作曲（編曲を含む）演習Ⅰ～Ⅱをふまえ、二重奏以上の室内楽作品の分析を行い、自身の表現を見つけていく。完成作品は、学内外の発表会において、自演することにより発表する。楽器の特徴については、Samuel Adlerの『THE STUDY OF ORCHESTRATION』を用いて学習する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 音楽教育	金沢大学	作曲（編曲を含む）演習Ⅳ	より高度な作曲（編曲）技法を習得すること、作曲（編曲を含む）演習Ⅰ～Ⅲと同様に、既成作品の分析から実際の表現法を学び取り、それを自作の表現の中で生かしていくことを目標にする。作曲（編曲を含む）演習Ⅰ～Ⅲにおいて行ってきた作曲をふまえ、室内楽作品（ピアノと旋律楽器等の組み合わせ）を作曲する。完成作品は、学内外の発表会において発表することを目的とし、作曲意図を演奏で表現するという側面についても考え、学んでいく。	
	金沢大学	音楽科教育法Ⅰ（石川県の教育実践を含む）	中学校・高等学校の学習指導要領を基に、中学校・高等学校音楽科における教科の目標、指導計画、指導内容、及び評価の方法について基礎的な知識について説明を行う。次に、「歌唱」「器楽」の分野の具体的な指導法を学ぶと共に、学習指導案の書き方について作業手順と評価基準の設定を含めて学ぶ。さらに金沢市内の中学校の授業参観も行い、指導力の基礎を培うことをめざす。	メディア
	金沢大学	音楽科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）	音楽科教育法Ⅰの続きで、「創作」「鑑賞」の領域・分野の具体的な指導法を学ぶと共に、学習指導案を実際に書いてみる。次に、ICTを活用した授業づくり、日本の伝統音楽を扱う授業づくり、「総合的な学習の時間」と関連付けた授業づくりについて学ぶ。さらに金沢市内の県立高等学校の授業参観を行い、指導力の基礎を培うことをめざす。最後に、模擬授業に向けた準備を行う。	メディア
	富山大学	音楽科教育法Ⅲ（富山県の教育実践を含む）	音楽科教育法Ⅰ・Ⅱの学修をもとにしたより実践的な指導計画について学習評価の面から考察し、模擬授業の実施につなげる。講義では、音楽科教育における基本的な用語や概念を把握したうえで、実際の授業場면을映像で視聴し、学習評価に関する理論を体験的に把握する。また、実際の学習計画に対応した評価計画を作成し、簡単な模擬授業とその後の省察を通して、評価計画等の妥当性を検証できる素地を身につけることを目指す。	メディア
	富山大学	音楽科教育法Ⅳ（富山県の教育実践を含む）	音楽科教育法Ⅰ・Ⅱの学修をもとにしたより実践的な指導計画について学習評価の面から考察し、模擬授業の実施につなげる。講義では、学習指導案を実践する上で必要となる教材や教具の開発を行い、模擬授業の実施とその後の省察によってそれらの有効性を検証と改善を行う。また、授業分析の理論と方法を学び、これからの教師に必要とされる省察のための基礎的な知識と技能を身につける。同時に、今後必要とされる授業改善の視点について、実際の授業を映像で視聴しながら検討する。	メディア
	金沢大学	音楽科教育法Ⅴ	音楽科教育法Ⅰ～Ⅳの内容を踏まえ、経験豊富な教師の授業実践を分析することにより、カリキュラムや授業の構想をしたり、学習指導案を作成する基礎力の養成をめざす。また、歌唱・合唱、器楽、創作、鑑賞、すべての領域・分野をまんべんなく取り上げ、教材研究や指導法の研究のやり方についても学ぶ。	
	金沢大学	音楽科教育法Ⅵ	音楽科教育法Ⅰ～Ⅳの内容を踏まえ、中学校・高等学校の音楽科の内容を対象に模擬授業を計画する。歌唱、合唱、器楽、創作、鑑賞、すべての領域・分野を対象に具体的な学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。学習指導案の作成では、具体的な教授行為まで計画する。その後、分析を行い、音楽科の授業設計や指導技術について考えることにする。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	音楽教育	金沢大学	音楽科教育法Ⅶ	音楽科教育研究の基本的な研究方法について理解し、その上で各自の研究課題に取り組むことにする。哲学的研究、心理学的研究、歴史学的研究、社会学的研究、民族学的研究、授業研究など、さまざまな研究の論文を講読し、研究討議を行う。それと並行して、各自の研究課題に取り組む準備と資料の収集を行う。	
		金沢大学	音楽科教育法Ⅷ	音楽科教育法Ⅶに引き続き、音楽科教育研究の基本的な研究方法について理解し、その上で各自の研究課題に取り組むようにする。さまざまな研究の論文を講読し、研究討議を行う。それと並行して、各自の研究課題に関する資料の収集を行い、研究論文をまとめる。	
	美術教育	金沢大学	絵画基礎Ⅰ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）	中学校、高校美術科の絵画分野の専門知識・技能を深める上で、「絵画基礎Ⅰ（映像メディア表現含む）」における美術科題材を選定し、絵画制作の課題コンセプトを立案する。映像メディアを用いた課題制作と、現代美術表現における課題制作の実施を行う。映像作品やインスタレーションなどの幅広い学習内容をもとに、絵画表現の可能性を追求する。課題講評会、作品制作のまとめをおこない、美術科にむけた教材に関する課題を明らかにする。	
		富山大学	絵画基礎Ⅱ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）	様々な描画材料を用いた実技課題に取り組みながら、絵画実技に関する基礎的な表現力・造形力を習得することを目的とする。絵画組成（支持体、各種絵具）の特性についても理解を深め、様々な画材を用い9つの提出課題作品の制作に取り組む。各課題提出と併せ、ミニ講評会の機会を持ち、作品分析・作品評論・作品評価についても検討する。	
		金沢大学	絵画Ⅰ	中学校、高校美術科の絵画分野の専門知識・技能を深める上で、絵画実習の目的、方法について理解し、基礎的学習、技法や材料についての理解を深める。絵画実習の課題では、鉛筆や木炭を用いたデッサン、近世の絵画技法である水彩画、中世ヨーロッパに始まる油彩画を行う。デッサンや油彩画作品などの幅広い学習内容をもとに、絵画表現の普遍性を追求する。課題講評会、作品制作のまとめをおこない、美術科にむけた教材に関する課題を明らかにする。	
		金沢大学	絵画Ⅱ	絵画実習の目的、方法について理解し、基礎的学習、技法や材料についての理解を深める。絵画実習の課題では、中世絵画技法である、テンペラ画を学ぶ。また、版画表現では、中世ヨーロッパの銅版画を制作する。テンペラ画や版画などの幅広い学習内容をもとに、絵画表現の多様性を追求する。課題講評会、作品制作のまとめをおこない、美術科にむけた教材に関する課題を明らかにする。	
		金沢大学	絵画Ⅲ	絵画実習の目的、方法について理解し、基礎的学習、技法や材料についての理解を深める。絵画実習の課題では、中世絵画技法である、フレスコ画を学ぶ。また、デッサン・油彩画表現では、人体研究としてヌードモデルとした絵画を制作する。課題講評会、作品制作のまとめをおこない、美術科にむけた教材に関する課題を明らかにする。	

科目 区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	専門 科目	美術 教育	金沢大学 絵画Ⅳ	絵画実習の目的、方法について理解し、基礎的学習、技法や材料についての理解を深める。絵画実習の課題では、人体研究の応用として、ヌードモデルとした大作絵画を制作する。また、中世の版画技法である西洋木版画を学ぶことで、版画表現における多様性について考察する。課題講演会、作品制作のまとめをおこない、美術科にむけた教材に関する課題を明らかにする。	
			金沢大学 彫刻基礎Ⅰ（現代美術表現を含む）	彫刻領域における最も基本的である塑造は、美術教師が必ず習得すべき技法と言っても過言ではない。本授業では、彫刻概説として彫刻の種類や技法の観点から、現代の彫刻表現から著名な作品を取り上げ概観する。次に、古代ローマ時代の石膏像の模刻を通して、彫刻の基本的な造形技術と人体の骨格や構造的な成り立ちを学習する。また、各授業の冒頭でテーマ別発表を行い彫刻に関する基本的な知識を習得する。	
			富山大学 彫刻基礎Ⅱ（現代美術表現を含む）	彫刻分野での基本である塑造を蠟によって経験し、その成果物である塑像を恒久的形態として残すことの、歴史的・技法的意義を学習する。金属鑄造技法は多岐にわたり、知識を習得すると共に自身の経験するところからの造形意識の再確認を促す。見落とされがちな彫刻作品の鑄造過程を理解し、原形制作、鑄型制作と鑄造、仕上げまでの工程を実体験することでモノのあり方を再確認、再発見する。	
			金沢大学 彫刻Ⅰ	テラコッタの技法には数種あるが、それらの技法を紹介した上で実際の学校現場で頻繁に実施されている割り抜き法により作品制作を行う。対象は、彫刻基礎から引き続きモデルを使った頭像の制作を行うが、今回はポーズにわずかな動きを持たせることで、特に頭部と首の動き（ムーブマン）の表現に取り組む。粘土での造形後には、学校現場で生徒達の作品を焼成できるよう焼成窯の使用法と温度管理を学ぶ。焼成後には、テラコッタ特有の彩色法を学習し、作品として完成させる。	
			金沢大学 彫刻Ⅱ	彫刻Ⅰまでの授業では塑造を中心に学習してきたが、本授業では彫塑のもう1つの技法であるカービングの制作を行う。特に我が国では木彫が盛んに制作されてきた。抵抗する物質を克服しその行為を通して表現技術を発見していく制作過程の中に、大きな教育的意義があると考えられる。すぐにリセットできないカービングの技法を現代の生徒達に経験させる必要がある。本授業では、木彫制作を通して同教材に対する理解を深め、具体的な指導・評価の方法を検討する。また、この授業では制作テーマとしてリアリズムを掲げる。学校現場でも本物そっくりにつくる立体教材は頻繁に実施されている。そのためにも、本制作を通して彫刻におけるリアリズムについて知識・理解を深めるとともに、カービングによる表現技能の向上を図る。	

科目 区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	専門 科目	美術 教育	金沢大学 彫刻Ⅲ	本授業では、裸婦のモデルを通して塑造による全身像（二分の一等身）の制作を行う。その中で西洋彫刻における人体造形の基本的な構造について知識・理解を深めるとともに、これまで培った塑造技能をさらに高める。モデルのポーズはコントラポストを採用する。片足に重心をかけたこの立像のポーズは、身体全体にS字状の動きを生じさせる。これによって、ほぼ左右対称の人体の構造に、動きや筋肉の緊張、弛緩等の変化が生じるので、同ポーズは全身像を制作する上では最も基本的かつ一般的なものである。この制作を通して、彫刻の造形要素である、動き（ムーブマン）、空間、バランス、量感、テクスチャー等に注目して制作を進める。	
			金沢大学 彫刻Ⅳ	彫刻制作研究Ⅰの授業から引き続き、等身大の裸婦像の制作に取り組む。本授業では、造形要素の中の動き（ムーブマン）、空間、バランス、量感等に注目して制作を進めてきたが、まず第1回と2回の授業で、これらの表現ができてきているか確認する。次に、ポリウムと粘土のテクスチャーを意識する。そして、最終的に全体のバランスを考慮したディテールの表現にもこだわり、作品を完成させる。	
			金沢大学 デザイン基礎Ⅰ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）	本授業では、目的や機能を踏まえて事象や対象を捉える造形的な視点に基づき、デザインの基礎的表現について理解する。特に、文献研究や制作課題を通して、色彩の基礎的な知識や表現技能を身につけ、演習課題を通して基礎的な造形表現能力を養う。授業では、現代美術表現としてのデザイン領域の作品などの資料収集と発表を通して、デザイン分野の専門知識を深めるために必要な知識の獲得を求める。	
			富山大学 デザイン基礎Ⅱ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）	目的や機能を踏まえて事象や対象を捉える造形的な視点に基づき、デザインの基礎的表現について理解する。加えて、中学校、高校美術科のデザイン分野の専門知識・技能を深める上で、幅広い学習内容をもとにデザイン表現の可能性を追求する。文献研究や制作課題を通して、デザインの基礎的表現の知識や表現技能を身につけ、演習課題を通して基礎的な造形表現能力を養う。	
			各大学 デザインⅠ	「デザイン基礎Ⅱ」までの授業をふまえ、演習課題を通してより実践的にデザインの表現について理解する。また、中学校、高校美術科のデザイン分野の専門知識・技能を深める上で、「デザイン基礎Ⅱ」までの学習内容をもとに学校教育におけるデザイン表現の可能性を追求する。 演習課題のテーマに即して、調査・分析・製作・プレゼンテーションを行い、平面デザインを学習する。	
			各大学 デザインⅡ	「デザインⅠ」までの授業をふまえ、演習課題を通してより実践的にデザインの表現について理解する。また、中学校、高校美術科のデザイン分野の専門知識・技能を深める上で、「デザインⅠ」までの学習内容をもとにデザイン表現の可能性を追求する。 演習課題のテーマに即して、調査・分析・製作・プレゼンテーションを行い、立体デザインを学習する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 美術教育	各大学	デザインⅢ	「デザインⅡ」までの授業をふまえ、演習課題を通してより実践的にデザインの表現について理解する。また、中学校、高校美術科のデザイン分野の専門知識・技能を深める上で、「デザインⅡ」までの学習内容をもとに学校教育におけるデザイン表現の可能性を追求する。演習課題のテーマに即して、調査・分析・製作・プレゼンテーションを行い、映像メディアデザインを学習する。	
	各大学	デザインⅣ	デザインと社会のかかわりを考え、演習課題を通して実践的にデザインの社会的責任や役割を理解する。また、中学校、高校美術科のデザイン分野の専門知識・技能を深める上で、「デザインⅢ」までの学習内容をもとに学校教育におけるデザイン表現の可能性を追求する。演習課題のテーマに即して、調査・分析・プレゼンテーションを行い、ソーシャルデザインの可能性を研究する。	
	金沢大学	工芸基礎Ⅰ	美術科の工芸分野に関する基礎知識・技能を理解し、金工（鍛金技法）の体験・作品制作により理解を深める。第1回～第2回において美術科教育における工芸の取扱いとその歴史を知り、美術科学習指導要領と美術科教科書より美術科の工芸分野のスコープとシークエンスを理解する。また、石川県における工芸を概論した後、一枚の鉄板を打出により形成する技法を生み出した山田宗美とその作品を知る。第3回～第13回において工芸技法の理解・習得として金工（鍛金）を取り上げ、銅板打出井鍋を製作し、第14回には制作した銅板打出井鍋を使用して親子丼を調理・試食し、作品評価をおこなう。	
	富山大学	工芸基礎Ⅱ	美術科の工芸分野に関する基礎知識・技能を理解し、木工作品制作を通して材料や技法の理解を深める。伝統的な工芸品から現代の工業製品まで、生活の中にある工芸品について、素材や機能、技法、地域の違いによるそれぞれの価値について考える。陶芸作品や木工作品制作を通じて、素材特性や工芸技法の理解・習得する。	
	金沢大学	工芸論Ⅰ	日本の工芸の成り立ちと素材・技法を理解することを到達目標とし、日本の工芸が世界からどのように評価されているのかを知ると共に多種多様な素材と技法の分析と合わせて、作品を鑑賞することの楽しさを通じて、工芸の歴史や素材・技法などの基本的な知識を理解する。また、講義外における美術館や博物館での作品鑑賞やワークショップ参加を通じた手の感触や使い勝手の理解も図る。	
	金沢大学	工芸論Ⅱ	日本の工芸の現況を知り、作品の鑑賞を通して魅力を味わい、教育者としてこれらを伝えることができるようになることを到達目標とし、工芸論Ⅰでの工芸の歴史や素材・技法などの基本的な情報を踏まえて、日本の風土や文化的土壌の中で発展した工芸技術を、貴重な文化財として継承する意義を問うことで、日本の工芸が置かれている現状が、身近な社会的な問題とも、密接に関わっていることを理解する。	
	金沢大学	比較美術史Ⅰ（美術理論含む）	西洋中世のキリスト教美術を軸に、イメージとその典拠となるテキスト、中世美術と近代美術、西洋美術と東洋美術の比較を通じて、美術作品中の人物や場面を描く際の約束事を理解し、図像学の基礎を身につける。また図像の典拠となる聖書の記述と作品そのものを照応し、また同一主題の作品を比較することで、個々の作品の作者が観者に伝えようとしたメッセージを読み解くことができるようになる。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 美術教育	金沢大学	比較美術史Ⅱ（美術理論含む）	西洋中世美術を軸に、中世と近代、西洋と東洋の比較を通じて、美術における時間と視覚性の問題を論じる。作品の典拠となる「物語」には時間の経過が含まれることが常であるが、二次元画面において、物語の時間がいかに処理されるのかを学ぶ。後半では、西洋中世美術と、西洋近世美術、日本・東洋美術、写真などとの比較を通じて、描かれるモチーフが各時代・地域でどのように把握されて来たのかを理解する。	
	富山大学	日本美術史（美術理論含む）	日本美術史の通史として、先史・古代から中世、すなわち縄文・弥生・古墳・飛鳥・奈良・平安・鎌倉・室町・安土桃山・江戸時代、また近代美術の流れを学ぶ。話しの流れの中で適宜、同時代に影響を受けた中国、朝鮮半島など東アジア、またヨーロッパの美術作品も取り上げていく。	
	富山大学	西洋美術史（美術理論含む）	古代から現代までの西洋美術史の展開を学び、作品鑑賞に必要な知識や見方を身につける。西洋美術の見方の基礎をおさえた上で、日本を含む東洋の美術史や美術作品との比較も取り入れながら、様式や作品のつながりと展開を多角的・有機的に構築していく。同時代の社会状況や政治状況、背景となる思想をふまえながら、社会の中での美術の役割について考える。	
	各大学	美術実地研究	<p>実際の美術作品を中心とした文化資源の現地調査を通して、美術科の授業における美術資源を活用した教材について考察する。国内の著名な美術作品を直に鑑賞するとともに事前調査の内容を発表することによって、文化史や美術史の理解と認識を深め、鑑賞領域の授業力の向上を目的とする。</p> <p>調査する美術館及び作品を学生自らが選択し、現地調査の計画を立てる。2泊3日で実際に調査に出向き、事前調査に基づく作品説明を行う。お互いの説明内容・方法を相互評価するとともに鑑賞した作品について意見交換をおこなう。最終的に事前調査及び現地調査に基づく作品解説の教材を作成する。</p>	
	金沢大学	美術科教育法Ⅰ（石川県の教育実践を含む）	美術教育理論とその歴史、学習指導要領、生徒の造形表現における発達の理解、石川県の教育実践にもとづき、学習指導モデルと題材タイプを検討し、学習指導における指導言や基本的な情報機器などの教具のポイントを模擬授業（マイクロティーチング）により理解・習得する。第1回～第3回において美術科教育の理念と歴史を学び、美術科を教える信念を持つ。第4回～第6回において学習指導要領に示された美術科教育の基礎知識を学ぶ。そして、第7回～第8回において美術科における主体的・対話的で深い学びの実現にむけた指導言（説明・発問・指示・評価）の在り方や基本的な情報機器の使用方法を模擬授業（マイクロティーチング）も通じて学ぶ。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	美術教育	金沢大学	美術科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）	美術科における学習評価の基礎理論・方法を理解した上で、「学習指導モデルと題材タイプ」における「指導と評価の一体化」を図る学習評価の在り方とその方法を石川県の教育実践事例研究と模擬授業（マイクロティーチング）により理解・習得する。第1～第3回において美術科教育における学習評価の理論とその方法、学習評価の改善ポイントを石川県の教育実践事例などの検討により理解する。第4回～第5回ではテキストの事例研究により評価規準の設定とその方法や学習評価・成績評価への基本的な情報機器の活用方法を理解し、第6回～第8回においてはグループワークによって題材の学習目標・評価規準の設定など「指導と評価の計画」に基づく模擬授業（マイクロティーチング）により学びを深める。	メディア
			富山大学	美術科教育法Ⅲ（富山県の教育実践を含む）	学習指導要領における「表現」において富山県の材料の使用を含む中学校の美術科の授業実践を想定し、必要とされる美術科教育の基礎的な教育原理、教育方法論などについて理解し、知識や技能を習得する。美術科教科書の題材を実際に体験しながら、学習指導要領の内容に沿った「表現」の授業について、学習指導案を立案しミニ模擬授業（ウェアラブルカメラ及びタブレット端末等のICT機器を活用した）を行うことで授業方法の専門知識・技術を深める。	メディア
			富山大学	美術科教育法Ⅳ（富山県の教育実践を含む）	学習指導要領における「鑑賞」において県内の美術館所蔵作品の活用を含む中学校の美術科の授業実践を想定し、必要とされる美術科教育の基礎的な教育原理、教育方法論などについて理解し、知識や技能を習得する。美術科教科書の題材を実際に体験しながら、学習指導要領の内容に沿った「鑑賞」の授業及び「共通事項」を意識したミニ模擬授業（ウェアラブルカメラ及びタブレット端末等のICT機器を活用した）を行い、「表現」のデータと共に発話を中心に表計算ソフトで分析することで授業方法の専門知識・技術を深める。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	各大学	美術科教育法Ⅴ	<p>3年次教育実習の研究授業を主に取り上げ、その成果と課題を明らかにし、授業方法の専門知識・技術を深める。第1回において授業研究の目的、方法について理解し、第2回～第6回において受講者の附属学校園での研究授業や教壇実習の記録ビデオ再生による授業研究を実施し、第7回において情報機器の効果的な活用を検討し、第8回において受講者に共通・個別の課題を検討し、4年次教育実習にむけた課題を明らかにする。</p> <p>(金沢クラスはオムニバス方式/全8回)</p> <p>(金沢クラス 44 鷺山靖/1回, 8回) 第1回オリエンテーションでは授業研究の目的、方法について解説し、第8回の授業分析まとめにおいて、授業評価をもとに課題整理をおこなう。</p> <p>(金沢クラス 22 大村雅章/2回, 5回, 8回) 第2,5回授業分析では、受講者の附属学校園での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討する。第8回は同上。</p> <p>(金沢クラス 151 江藤望/3回, 6回, 8回) 第3,6回授業分析では、受講者の附属学校園での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討する。第8回は同上。</p> <p>(金沢クラス 67 池上貴之/4回, 7回, 8回) 第4回授業分析では、受講者の附属学校園での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討し、第7回では、第2回～第6回までの授業分析にもとづき情報機器の効果的な活用を検討する。第8回は同上。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
			美術科教育法Ⅵ	<p>「中等美術科教育法Ⅴ」で明らかにした成果と課題を意識した基本的教材の模擬授業を実施することにより、授業方法の専門知識・技能を深める。第1回において模擬授業の目的、方法について理解し、第2回～第3回において模擬授業の学習指導案立案、情報機器の効果的な活用を検討をおこない、第4回～第7回において模擬授業を実施し、第8回において模擬授業のまとめをおこない4年次教育実習にむけた課題を明らかにする。</p> <p>(金沢クラスはオムニバス方式/全8回)</p> <p>(金沢クラス 22 大村雅章, 151 江藤望, 67 池上貴之/1回, 2回, 3回) 「中等美術科教育法Ⅴ」における授業分析の成果と課題を反映させる図画工作科・美術科題材を選定し、模擬授業の学習指導案を立案する。その後、模擬授業に用いる教具作成、作品試作をおこない、情報機器の効果的な活用を検討するなど学習指導案の修正をおこなう。</p> <p>(金沢クラス 44 鷺山靖/4回, 5回, 6回, 7回, 8回) 模擬授業の相互評価、講評をおこない、第8回には模擬授業の評価をもとに4年次教育実習にむけた課題整理をおこなう。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	美術教育	各大学	美術科教育法Ⅶ	<p>4年次教育実習の研究授業を主に取り上げ、その成果と課題を明らかにすることにより、授業方法の専門知識・技術を深める。第1回において授業研究の目的、方法について理解し、第2回～第6回において受講者の実習協力校での研究授業や教壇実習を模擬授業形式で再現する授業研究を実施し、第7回において情報機器の効果的な活用を検討し、第8回において受講者に共通・個別の課題を検討し、教職にむけた課題を明らかにする。</p> <p>(金沢クラスはオムニバス方式/全8回)</p> <p>(金沢クラス 44 鷲山靖/1回, 8回) 第1回オリエンテーションでは授業研究の目的、方法について解説し、第8回の授業分析まとめにおいて、授業評価をもとに課題整理をおこなう。</p> <p>(金沢クラス 22 大村雅章/2回, 5回, 8回) 第2,5回授業分析では、受講者の実習協力校での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討する。第8回は同上。</p> <p>(金沢クラス 151 江藤望/3回, 6回, 8回) 第3,6回授業分析では、受講者の実習協力校での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討する。第8回は同上。</p> <p>(金沢クラス 67 池上貴之/4回, 7回, 8回) 第4回授業分析では、受講者の実習協力校での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討し、第7回では、第2回～第6回までの授業分析にもとづき情報機器の効果的な活用を検討する。第8回は同上。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
			各大学	美術科教育法Ⅷ	<p>「中等美術科教育法Ⅶ」で明らかにした成果と課題を意識した基本的教材の模擬授業を実施することにより、授業方法の専門知識・技能を深める。第1回において模擬授業の目的、方法について理解し、第2回～第3回において模擬授業の学習指導案立案、情報機器の効果的な活用の検討をおこない、第4回～第7回において模擬授業を実施し、第8回において模擬授業のまとめをおこない教職にむけた課題を明らかにする。</p> <p>(金沢クラスはオムニバス方式/全8回)</p> <p>(金沢クラス 22 大村雅章, 151 江藤望, 67 池上貴之/1回, 2回, 3回) 「中等美術科教育法Ⅶ」における授業分析の成果と課題を反映させる図画工作科・美術科題材を選定し、模擬授業の学習指導案を立案する。その後、模擬授業に用いる教具作成、作品試作をおこない、情報機器の効果的な活用を検討するなど学習指導案の修正をおこなう。</p> <p>(金沢クラス 44 鷲山靖/4回, 5回, 6回, 7回, 8回) 模擬授業の相互評価、講評をおこない、第8回には模擬授業の評価をもとに4年次教育実習にむけた課題整理をおこなう。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	美術教育	各大学	造形教育演習Ⅰ	本演習は、特に教科としての美術科または図画工作科の位置を見直し、児童生徒に資質・能力をつけることが求められることを踏まえた上で、最終的には学校教育の現場に資する研究論文の作成を目指して構成している。そのために、まず研究テーマを設定し、章立てを構想し、先行研究を調べた上で、研究テーマの認再確をし、研究仮説の設定を行う。	
			各大学	造形教育演習Ⅱ	本演習は、特に教科としての美術科または図画工作科の位置を見直し、児童生徒に資質・能力をつけることが求められることを踏まえた上で、最終的には学校教育の現場に資する研究論文の作成を目指して構成している。そのために造形教育演習Ⅰで設定した研究テーマに基づいた研究仮説にしたがって、研究に必要な調査計画を立案して実際に予備調査を行い、結果をまとめる。	
			各大学	造形教育演習Ⅲ	本演習は、特に教科としての美術科または図画工作科の位置を見直し、児童生徒に資質・能力をつけることが求められることを踏まえた上で、最終的には学校教育の現場に資する研究論文の作成を目指して構成している。そのために造形教育演習Ⅱで行った予備調査のとりまとめの結果を踏まえて分析方法を確定し、本調査を行った上で分析結果を集約して結果をまとめ考察を行う。	
			各大学	造形教育演習Ⅳ	本演習は、特に教科としての美術科または図画工作科の位置を見直し、児童生徒に資質・能力をつけることが求められることを踏まえた上で、最終的には学校教育の現場に資する研究論文の作成を目指して構成している。そのために造形教育演習Ⅲで行った調査結果を分析して導き出した結果に対する考察を踏まえた上で、論文の作成を行い、発表用レジュメやプレゼンテーションの作成を行う。	
		金沢大学	彫刻制作研究Ⅰ	本授業での制作は、彫刻基礎から学習してきた人体彫刻の集大成となるものである。モデルをじっくり観察して、これまで学んできた彫刻の造形要素を意識した人体表現に、自らの内面的な表現を込めて等身大の全身像に取り組む。本授業では特に造形要素の中の動き（ムーブマン）、空間、バランス、量感等に注視して制作を進める。		
		金沢大学	彫刻制作研究Ⅱ	彫刻制作研究Ⅰの授業から引き続き、等身大の裸婦像の制作に取り組む。本授業では、造形要素の中の動き（ムーブマン）、空間、バランス、量感等に注目して制作を進めてきたが、まず第1回と2回の授業で、これらの表現ができてきているか確認する。次に、ボリュームと粘土のテクスチャーを意識する。そして、最終的に全体のバランスを考慮したディテールの表現にもこだわり、作品を完成させる。		
		金沢大学	彫刻制作研究Ⅲ	第1回目にブロンズ鑄造の真土型、ガス型、蠟型等の技法について概略を学ぶ。第2回では蠟型の原型を制作する上で、蠟素材の加工法について実際に蠟素材を扱いながらその加工法を理解する。第三回目以降蠟原型の制作をし、鑄造工場でその蠟原型をブロンズに鑄こんでもらう。その後、鑄造工業の見学を兼ねて自作ブロンズ作品の着色を学ぶ。最後に作品に台座を設置し完成させる。		

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	美術教育	金沢大学	彫刻制作研究Ⅳ	この授業では、これまで学んできた彫刻に関する知識・技能、そして幅広い表現力を最大限に発揮し、卒業制作として作品を完成させることを目標とする。さらに、作品を制作するだけでなく、その作品を公に発表することでアートマネジメントについても理解を深める。さらに、中間発表や展覧会場でのギャラリートークを通して、自身の造形表現を自らの言葉でプレゼンテーションできることを目標とする。また、中学校、高校美術科の彫刻分野の専門知識・技能を深める上で、彫刻制作研究Ⅲまでの幅広い学習内容をもとに彫刻表現のさらなる可能性を追求する。	
		金沢大学	美術史研究Ⅰ	古典古代の美術を通じて、人間と美術との関係を考察するとともに、西洋の美術と文化に対する理解を深めることを目標とする。特に作品記述や様式についての理解を含め、美術作品を鑑賞する基礎的な力を養い、人体表現の変遷について理解する。	
		金沢大学	美術史研究Ⅱ	西欧初期中世とビザンティンの美術を通じて、人間と美術との関係を考察するとともに、西洋の美術と文化に対する理解を深めることを目標とする。キリスト教美術の成立と普及、ビザンティン聖堂装飾プログラムについて理解する。	
		金沢大学	美術史研究Ⅲ	西洋後期中世（ロマネスク・ゴシック）と初期ルネサンスの美術を通じて、人間と美術との関係を考察するとともに、西洋の美術と文化に対する理解を深めることを目標とする。中世とルネサンスの作品を比較して中世から近世にかけて人々の思考様式が変化したことを理解する。	
		金沢大学	美術史研究Ⅳ	盛期・後期ルネサンスと北方ルネサンスの美術を通じて、人間と美術との関係を考察するとともに、西洋の美術と文化に対する理解を深めることを目標とする。三代巨匠の作品を軸に、ルネサンス美術が広大な美術に与えた影響を理解する。	
		金沢大学	絵画制作研究Ⅰ	本授業での制作は、絵画基礎で学習した絵画領域におけるさまざまな造形要素を深化させる、重要な取り組みである。制作研究において、これまで学んできた絵画の造形要素を意識した構図や構成について、ドローイングによるアプローチを行う。本授業では造形における基本的な要素として、特に空間表現に関するコンポジションに重点を置き制作を進める。	
		金沢大学	絵画制作研究Ⅱ	絵画制作研究Ⅰで取り組んだ、構図や構成に基づいたドローイングによるコンポジションに色彩を重ね合わせることで、より具体的な表現における色彩効果について試行する。本制作では、造形要素の色彩表現に取り組むことで、より絵画空間としての表現展開を行う。彩色方法もカラードローイングを用いることで、試行錯誤の中、作品としての表現方法を捉える。	
		金沢大学	絵画制作研究Ⅲ	絵画制作研究Ⅱに基づき、大作における本制作を行う。制作自体、支持体や色材媒体の特性に考慮しながら、画面全体や細部のバランスについて、描画によるレイヤーを重ねて進行させる。また、色材媒体のマチエールについても、単調にならないよう配慮し、空間や色彩表現に適合させる重要性についても、学びながら追求する。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	美術教育	金沢大学	絵画制作研究Ⅳ	絵画制作研究Ⅳでは、絵画制作研究Ⅲで行った本制作を卒業制作作品として完成させる。完成後、自身による分析を行うことで、展覧会などの制作発表の場において、作品等のアピールに活かすことを目標とする。絵画領域での知識・技能・表現力を深め、学校教育での絵画分野の専門性を視野に入れた、幅広い学習内容を取得する。	
		金沢大学	デザイン制作研究Ⅰ	本授業では、デザイン基礎から学習してきたデザイン領域における制作を深化させる、重要な取り組みである。制作研究において、これまで学んできたデザインの制作で学んだ思考方法や表現を用いて、個々の課題解決に最適なアプローチを行う。本授業では特に発想や構想に重点を置き授業を進める。	
		金沢大学	デザイン制作研究Ⅱ	本授業では、デザイン制作研究Ⅰで取り組んで得られた発想や構想を精査し、個々の課題解決に最適なアプローチを探索。特に表現方法の研究・実験に重点を置き、資料研究やさまざまな材料を用いて個々の表現のあり方を探る。	
		金沢大学	デザイン制作研究Ⅲ	本授業では、デザイン制作研究Ⅰ・Ⅱで取り組んで得られた発想や構想、個々の課題解決に最適な表現方法を用いて実際に作品の制作を行う。特に展覧会場での最適な発表方法のあり方を探り、見る人に与える印象とそのねらいについて明確にした制作に取り組む。	
		金沢大学	デザイン制作研究Ⅳ	本授業では、デザイン制作研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで取り組んで得られた諸要素を統合し作品を完成させる。完成後、プレゼンテーション、講評会、自己分析を通して、教員として必要となるデザイン領域のさらなる知識・技術・表現力を深める。	
	保健体育	各大学	体操Ⅰ	さまざまな運動の実践を通して各自が体を動かすことの楽しさや面白さを知り、教員として、体づくり運動に必要な基本的運動技能を獲得するとともに、その教材開発や指導法を学ぶことをねらいとする。 体づくり運動（「からだほぐしの運動」と「体力を高める運動」）についての基本的な考え方を学んだあと、体ほぐし運動を中心に実技形式で授業を行う。	
		各大学	体操Ⅱ	さまざまな運動の実践を通して各自が体を動かすことの楽しさや面白さを知り、教員として、体づくり運動に必要な基本的運動技能を獲得するとともに、その教材開発や指導法を学ぶことをねらいとする。 体づくり運動（「からだほぐしの運動」と「体力を高める運動」）についての基本的な考え方を学んだあと、用具を用いた運動を中心に実技形式で授業を行う。また、運動プログラムの発表も行う。	
		各大学	器械運動Ⅰ	器械運動の基本技能を身につけること、およびマット運動や平均台運動などの指導方法及び補助方法を習得することをねらいとする。 器械運動の基本的な技の習得を目的とし、マット運動（接転技群：前方、接転技群：後方、ほん転技群）、平均台運動（歩行、バランス、下り）などを実施する。器械運動の指導に必要な技能の習得と指導方法や補助方法の学習を行う。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保健体育	各大学	器械運動Ⅱ	器械運動の基本技能を身につけること。跳び箱運動や鉄棒運動などの指導方法及び補助方法を習得することをねらいとする。 器械運動の基本的な技の習得を目的とし、跳び箱運動（切り返し系、回転系）、鉄棒運動（上がり技群、前方支持回転群、後方支持回転群、下り技群）などを実施する。器械運動の指導に必要なとなる技能の習得と指導方法や補助方法の学習を行う。	
		各大学	陸上Ⅰ	走・跳躍・投てき種目の記録向上を目的とした運動技能を学習し、技能向上のための指導法、トレーニング方法、ルール、安全性への配慮など、陸上競技に関する基礎理論を実践する。競技現場と研究知見との融合の成果を体系化し、学校体育の現場にフィードバックすることを目指す。そのことで、多くの子どもたちが余すことなく自分の潜在力を発揮できるような指導力を身につける。	
		各大学	陸上Ⅱ	走・跳躍・投てき種目の記録向上を目的とした運動技能を学習し、技能向上のための指導法、トレーニング方法、ルール、安全性への配慮など、陸上競技の応用的実践力を高める。競技現場と研究知見との融合の成果を体系化し、学校体育の現場にフィードバックすることを目指す。そのことで、多くの子どもたちが余すことなく自分の潜在力を発揮できるような指導力を身につける。	
		各大学	水泳Ⅰ	学習指導要領の体育分野「水泳」の領域におけるクロール、平泳ぎの各泳法に関する手と足の動き及び水中運動の特性について学習するとともに、呼吸と連動した技術の修得を目指す。併せて、水泳によって鍛えられる筋肉や高められる体力について理解する。クロール及び平泳ぎの技能向上を通じて、水泳指導における留意点や安全管理に関する知識も学ぶ。	
		各大学	水泳Ⅱ	学習指導要領の体育分野「水泳」の領域におけるクロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの各泳法に関する手と足の動き及び水中運動の特性について学習するとともに、呼吸と連動した技術の修得を目指す。併せて、水泳によって鍛えられる筋肉や高められる体力について理解する。クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの技能向上を通じて、水泳指導における留意点や安全管理に関する知識も学ぶ。	
		金沢大学	武道AⅠ（剣道）	剣道の特性を理解し、剣道の基本技能の習得及び指導方法を習得することをねらいとする。 剣道の基本技能習得を目的として、竹刀、防具の特性や構造を理解し、使用や着用方法を学び、剣道の指導に必要なとなる基本的な動作や技（構えと足捌き、素振り、基本動作、基本打突、しかけ技、応じ技、互角稽古）の習得と指導方法について学習する。	
		金沢大学	武道AⅡ（柔道）	柔道の特性を理解し、柔道の基本技能の習得及び指導方法を習得することをねらいとする。 柔道の基本技能習得を目的として、柔道の文化（礼法や柔道着の取り扱い方法）や柔道の指導に必要なとなる基本的な動作や技（受け身、基本動作、体捌き、投げ技（膝車、支釣込足、大腰、背負投）、固め技）の習得と指導方法について学習する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 保健体育	富山大学	武道B I (柔道)	本科目では柔道の基本技能を身につけるとともに、柔道の指導法を学ぶことを目的とする。武道BI (柔道) では、柔道の教育的価値や柔道に附随する傷害・事故発生時の対処法を理解することを導入とし、柔道の基本動作や基本的な投げ技、技を用いた攻防をかかり練習、約束練習、自由練習などによって学習する。また、それらの指導法を学ぶことで、安全で楽しい柔道授業の運営能力を身につける。	
	富山大学	武道B II (柔道)	本科目では柔道の基本技能を身につけるとともに、柔道の指導法を学ぶことを目的とする。武道BII (柔道) では、武道BI (柔道) で学習した基本的な投げ技の連絡技や基本的な抑え技、技を用いた攻防をかかり練習、約束練習、自由練習などによって学習する。また、それらの指導法や試合運営法、審判法についても学び、安全で楽しい柔道授業の運営能力を身につける。	
	各大学	ダンス I	ダンス授業に必要な基本的運動技能を獲得するとともに、ダンスの教材開発や指導法を学ぶことをねらいとする。ダンス I では主に、創作ダンスとフォークダンスを中心に学習を行う。現代的課題や指導場面で生じやすい教育的課題など、具体的事例を用いながら説明し、ダンスの教材や指導法について、主体的・対話的で深い学びを通じた学習を行う。	
	各大学	ダンス II	ダンス授業に必要な基本的運動技能を獲得するとともに、ダンスの教材開発や指導法を学ぶことをねらいとする。ダンス II では、主に現代的なリズムのダンスと創作ダンスを中心に学習を行う。現代的課題や指導場面で生じやすい教育的課題など、具体的事例を用いながら説明し、ダンスの教材や指導法について、主体的・対話的で深い学びを通じた学習を行う。	
	金沢大学	球技 (ゴール型) A I (サッカー)	ゴール型球技としてサッカーを取り上げる。サッカーは11人 (フットサルは5人) が協調的に関わり合うことが要求されるスポーツである。その一方で、試合の各局面では個人技術・戦術が全体の展開に影響を及ぼす競技でもある。本講では、サッカーの基本的な技術力の向上を目指しながら、サッカー競技の本質を理解し、楽しむことができることを目標とする。将来、教職 (中学校・高等学校保健体育教員) に就いた際、サッカーという教材を教育現場で活用できる技術や視点の獲得も目指す。	
	金沢大学	球技 (ゴール型) A II (サッカー)	ゴール型球技としてサッカーを取り上げる。サッカーは11人 (フットサルは5人) が協調的に関わり合うことが要求されるスポーツである。その一方で、試合の各局面では個人技術・戦術が全体の展開に影響を及ぼす競技でもある。本講では、サッカーの基本的な技術力を使いながら、自他の様々な特徴を活かし、コミュニケーションを図りながらゲームを進めていけるような戦術力の理解と向上を目指す。	
	富山大学	球技 (ゴール型) B I (バスケットボール)	基礎的な個人技術と3対3までの集団的戦術を習得し、その指導法を理解する。グループ学習を通じて、チーム内で助け合いながら協調性を高め、仲間とともに技術を高めていく姿勢、バスケットボールの指導の目的、生徒の発達段階に応じた指導法を理解し、実践できるようにする。また、ゲームの実践を通じて、バスケットボールのルールを理解し、基礎的な審判技術を習得する。さらに3対3のリーグ戦等の実践において、生徒たちが自主的に試合運営ができるようになるための留意事項を理解する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 保健体育	富山大学	球技（ゴール型）B II（バスケットボール）	応用的な個人技術と5対5までの集団的戦術を習得し、その指導法を理解する。グループ学習を通じて、チーム内で助け合いながら協調性を高め、仲間とともに技術を高めていく姿勢、バスケットボールの指導の目的、生徒の発達段階に応じた指導法を理解し、実践できるようになる。また、ゲームの実践を通じて、バスケットボールのルールを理解し、基礎的な審判技術を習得する。さらに5対5のリーグ戦等の実践において、生徒たちが自主的に試合運営ができるようになるための留意事項を理解する。	
	金沢大学	球技（ネット型）A I（バレーボール）	バレーボールを教える側としての力量向上のため、受講者の技能の向上およびルール、戦術の理解を深めること目的とする。技能面では、パス・サーブ・レシーブ・スパイクの基本的技術を身につける。技術習得に際して多様な練習方法を体験し、技能向上と技能向上のための方法論について学習する。後半は、バレーボールのルール、戦術を理解し、指導に必要な知識を身につける。ルールの理解については、ルールの工夫によるバレーボールの多様な楽しみ方を体験する	
	金沢大学	球技（ネット型）A II（バレーボール）	バレーボールのゲームに必要なパス・サーブ・レシーブ・トス・スパイク・フォーメーションの基本的技術を身につける。バレーボールのゲームを進めるためには、ポジションごとの役割の理解、メンバー間のコミュニケーションが必要なので受講者間の相互作用を重視する。また、バレーボールは攻守の切り替えが早いスポーツで、主体的な判断が求められる。受講者の主体的判断、思考をいかに授業を進める。後半は、バレーボールのトレーニング方法を理解し、指導に必要な知識を身につける。	
	富山大学	球技（ネット型）B I（バレーボール）	バレーボールのゲーム特性の理解を通して、基礎技術の習得やゲームの楽しさを体験することをテーマとする。チームとして戦術を創出し、それを実現しようとする中で、意思の表示、伝達、協力、共感といったコミュニケーションや協働作業の必要性を理解し、バレーボールの楽しみ方を検討する。また、基礎技術は、個別の技術練習とゲーム練習を併せながら学習し、基本技術を連携させた応用技術では、守備からの攻撃や攻撃からの守備への切替えを学習する。バレーボールは、ポジション別にチームにおける役割が異なるため、役割を理解し、守備及び攻撃時におけるそれぞれの動きを学習することを目標とする。	
	富山大学	球技（ネット型）B II（テニス）	テニスは数多く存在するスポーツ種目の中でも特に、子どもから高齢者まで幅広い年齢層が親しむことができる特性をもち、その基礎技術を習得し実践することは、個人の生涯スポーツ参加の一助となり得る。よって、本授業では、学習者個々のレベルに応じて、テニス技術を高めることを大きな目的とする。また、テニスの指導・普及という指導者の観点から、テニスの特性にふれ、練習・試合を工夫していく能力を養う。	
	各大学	球技（ベースボール型）I	「ベースボール型球技」の特性と基礎的知識（ルール・戦術）および技能（個人・集団的技術）について実技を中心に演習形式で学修する。安全かつ効果的なボール運動の実践能力を学修するとともに、基本的なゲーム構造・展開の指導に必要なデモンストレーション能力を修得する。また、体育授業や指導現場で活用できる教授法や指導法の理論と実践を学修する。さらに、チームスポーツに必要な他者とのコミュニケーションを通じた協同学修の価値・認識を深める。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保健体育	各大学	球技（ベースボール型）Ⅱ	「ベースボール型球技」の特性と基礎的知識（ルール・戦術）および技能（個人・集団的技術）について実技を中心に演習形式で学修する。安全かつ効果的なボール運動の実践能力を学修するとともに、基本的なゲーム構造・展開の指導に必要な審判法や大会等の企画・運営方法を修得する。また、ベースボール型球技の具体的な教材事例を実践するとともに、指導計画案の作成から模擬授業・指導演習までを実施し、互いの成果と課題について省察を深める。	
		富山大学	スポーツ文化論Ⅰ	本講義は、スポーツに対して文化論的視点から講義を行う。特に、スポーツ文化論Ⅰでは歴史学的視点から近代に誕生したスポーツについて、その文化的背景を中心に講義したい。近代という時代は、それ以前の世界から大きな変容がなされたとされており、スポーツもまたそのような時代的背景のもとで形成された。そして、現代を生きる我々もまた、そのような近代という時代を経たうえで実践されているスポーツに慣れ親しんでいる。本講義では、スポーツが誕生したイギリスを含むヨーロッパと、我々が住む日本の、近代におけるスポーツについて理解を深めることを目指す。	メディア
		富山大学	スポーツ文化論Ⅱ	本講義は、スポーツに対して文化論的視点から講義を行う。特に、スポーツ文化論Ⅱでは文化人類学的視点からスポーツやわざ等の身体にまつわる文化を対象に、その文化的背景を中心に講義したい。スポーツとは、近代にイギリスを起点にヨーロッパやアメリカを中心に形成されたものとされる。しかし、当然のことながら世界は西洋社会のみによって形成されるものでなく、様々な文化において、スポーツに類似するような身体文化が存在している。本講義では、そのような身体文化を中心に文化人類学的視点を援用しながら、今日スポーツと呼ばれている実践を相対化するような視点を身につけることを目指す。	メディア
		富山大学	スポーツ心理学Ⅰ (最新教育課題を含む)	学校教育における体育、競技やレクリエーションとしてのスポーツ、健康・医療領域での運動習慣など、広義の身体活動への動機づけについて心理学の理論的背景から説明し、創造的で質の高い指導ができる運動指導者の育成を目指す。「身体的健康」、「精神的健康」、「社会的健康」の維持・促進に向けてスポーツ心理学がどのように役立つのかを学ぶ。	メディア
		富山大学	スポーツ心理学Ⅱ (最新教育課題を含む)	運動指導者は、学習者の運動行動を継続させるために、運動技能を効率よく習得させ、運動への有能感を高めさせることが求められる。学習者の「身体で覚える」営みを促進させるためには、運動技能を習得する過程の情報処理について理解を深めなければならない。この「運動学習」について、心理学の理論的背景を学びながら、創造的で質の高い指導ができる運動指導者の育成を目指す。	メディア
		富山大学	スポーツマネジメント論Ⅰ	スポーツ産業は成長を続け、スポーツから生まれる権益を販売する権利ビジネスも定着する傾向にある。これらの成長は、用品、施設、スポーツクラブ、プロスポーツ、メディア産業など多岐にわたっており、他の産業（健康、福祉、医療、建設業など）と密接に関連している。本授業ではスポーツの種類別経済活動（市場）、官民が進めるスポーツクラブの現状、スポーツと健康・医療、ツーリズムなど、具体例を挙げながら実践的スポーツマネジメントについて学び、地域社会との結び付きについて理解を深める。特に、スポーツ産業の全体構造の把握と接続領域（メディア、IT）など中心に学修する。	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 保健体育	富山大学	スポーツマネジメント論Ⅱ	スポーツ産業は成長を続け、スポーツから生まれる権益を販売する権利ビジネスも定着する傾向にある。これらの成長は、用品、施設、スポーツクラブ、プロスポーツ、メディア産業など多岐にわたっており、他の産業（健康、福祉、医療、建設業など）と密接に関連している。本授業ではスポーツの種類別経済活動（市場）、官民が進めるスポーツクラブの現状、スポーツと健康・医療、ツーリズムなど、具体例を挙げながら実践的スポーツマネジメントについて学び、地域社会との結び付きについて理解を深める。特に、消費者行動論や組織経営論を背景にスポーツ事業の立案と展開を学修することを目標とする。	メディア
	富山大学	スポーツ社会学Ⅰ	現代社会におけるスポーツの役割は多様化している。政治や経済との関係性が強まるほど、スポーツの社会的意義を読み解く力が必要とされ、地域の実情を理解し、課題の構造を見極めることが求められている。本講義においては、現代社会におけるスポーツのさまざまな現象を社会学的視点からとらえ、これらの特徴や問題点を探りながら、スポーツの社会学的見方と考え方を習得する。また、スポーツプロモーションの観点から自身とスポーツの関わり方、スポーツ集団と社会の望ましい在り方について検討する。	メディア
	富山大学	スポーツ社会学Ⅱ	現代社会におけるスポーツの役割は多様化している。政治や経済との関係性が強まるほど、スポーツの社会的意義を読み解く力が必要とされ、地域の実情を理解し、課題の構造を見極めることが求められている。本講義においては、現代社会におけるスポーツのさまざまな現象を社会学的視点からとらえ、これらの特徴や問題点を探りながら、スポーツの社会学的見方と考え方を習得する。特に、国や地方公共団体等の政策及び社会的課題を理解し、社会・経済学的視点からスポーツとまちづくりの関係性などを検討する。	メディア
	富山大学	運動学概論（運動方法学を含む）Ⅰ	運動指導を効果的に行う際には、その前提として運動学習理論を理解しなければならない。運動指導の基本となる運動学習理論である「スポーツ運動学」について学ぶ。本授業では特に、「運動技術」「運動技能」「運動構造」「達成力」「運動モルフォロジー」「運動ゲシュタルト」「運動の学習転移」などについての論理的に理解することを目的とする。	メディア
	富山大学	運動学概論（運動方法学を含む）Ⅱ	運動指導を効果的に行う際には、その前提として運動学習理論を理解しなければならない。運動指導の基本となる運動学習理論である「スポーツ運動学」について学ぶ。本授業では特に、「学習位相論」「運動習熟」「運動の観察」「運動分析」「運動修正」などについての論理的に理解し、実践につながる知識として獲得することを目的とする。	メディア
	各大学	バイオメカニクスⅠ	バイオメカニクスの概要を理解し、基本運動を力学的観点から解釈する能力を身に付けることを目的とする。バイオメカニクスの基本的概念を概説し、骨、筋のバイオメカニクス、バイオメカニクスの原則や分析方法についてキネマティクス・キネティクスの観点から学習する。また、バイオメカニクスの観点から各種運動を理解するための基礎を習得する。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育科目	専門 科目	保健 体育	各大学	バイオメカニクスⅡ	バイオメカニクスの観点から各種基礎運動について理解し、解釈する能力を身に着けることを目的とする。各種基礎運動（立位姿勢、歩行動作、走行動作、跳躍動作、投動作、打動作、落下運動、滑る運動、泳動作、回転運動）について概説し、各種運動のバイオメカニクスの観点（キネマティクスの観点、キネティクスの観点、エネジェティクスの観点等）から運動を解釈する。	
			金沢大学	運動生理学Ⅰ（海外の先端事情を含む）	中学校や高等学校の指導要領を考慮しながら、生理学的な基礎知識の学習を通して、日頃のスポーツ活動やトレーニングの場面における身体の反応現象や適応現象について考察できるようになる。さらに、保健体育・スポーツの指導者として身体的安全面に配慮できるような基礎的知識を獲得する。主な内容として、骨や筋の構造、筋の収縮特性、運動と筋ATP代謝、運動時のホルモン分泌の他、海外の先端的研究動向等について講述する。	メディア
			金沢大学	運動生理学Ⅱ（海外の先端事情を含む）	中学校や高等学校の指導要領を考慮しながら、生理学的な基礎知識の学習を通して、日頃のスポーツ活動やトレーニングの場面における身体の反応現象や適応現象について考察できるようになる。さらに、保健体育・スポーツの指導者として身体的安全面に配慮できるような基礎的知識を獲得する。主な内容として、運動と呼吸・心循環、運動時のホルモン分泌、運動と骨代謝、運動による酸化ストレス応答の他、海外の先端的研究動向等について講述する。	メディア
			金沢大学	衛生学及び公衆衛生学Ⅰ	公衆衛生における集団に対する健康の考え方、健康問題に対する疫学的な考え方と公衆衛生学的アプローチ、集団の健康問題を抽出するための資料としての衛生統計（人口生体統計、人口動態統計など）の活用の仕方、生活習慣と病気の関係やその予防について学習する。そのために、悪性新西武とその予防、循環器系疾患とその予防、公衆衛生的な立場から見た感染症とその予防などについて取り上げる。	メディア
			金沢大学	衛生学及び公衆衛生学Ⅱ	衛生・公衆衛生学的な観点から、健康を支える社会制度、ライフステージ特有の健康課題（高齢期、小児期、壮年期など）、障害の考え方、食環境や生活環境など様々な環境や環境問題と健康の関係、地球規模での健康問題に対する世界的な取り組み（社会保障制度、医療保障制度、障がい者福祉、および環境保健と国際保健など）など、日常生活や社会と健康の関係について学習する。	メディア
			金沢大学	学校保健Ⅰ（教科横断で取り組む学校保健）	学校における保健活動（すなわち保健教育、保健管理、環境衛生の諸問題）について、教科横断で取り組む視点を踏まえ、児童生徒の健全な発育・発達という観点から総合的に考察する。また、各論として食育の推進（学校給食を含む）、健康観察と健康相談、健康診断、学校で予防すべき感染症、精神の健康、学校環境衛生などを取り上げる。	メディア
			金沢大学	学校保健Ⅱ（教科横断で取り組む学校保健）	学校保健では、学校における保健教育についての基礎的な理解を持つとともに、子どもや教職員の健康を「守り」、「育て」、そして「教える」ための目標設定や内容の検討、実施計画・評価について一定の見通しが持てるようになること、そして学校保健を教科横断的に進めるための基礎的理解を行う。その際、喫煙飲酒、薬物乱用の防止、がん教育、性に関する指導、安全教育などを取り上げ、模擬授業形式も行いながら進める。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保健体育	富山大学	発育発達Ⅰ	幼少期から思春期を経て成人に至るまでの発育発達の過程について、形態や機能、生活習慣や体力、子供を取り巻く環境から検討し、基本的知識・理解の獲得を目標としている。現代的課題や指導場面で生じやすい教育的課題など、具体的事例を用いながら説明し、運動・スポーツによる健康づくりに必要な発育発達の指導・支援方法の専門性の獲得をめざす。	メディア
		富山大学	発育発達Ⅱ	①発育発達期に多いケガや病気について、②成人以降の加齢に伴う体力の低下をはじめとする人体の老化と運動・スポーツとの関連、③女性の運動・スポーツについて、基本的知識・理解の獲得を目標としている。現代的課題や指導場面で生じやすい教育的課題など、具体的事例を用いながら説明し、運動・スポーツによる健康づくりに必要な発育発達の指導・支援方法の専門性の獲得をめざす。	メディア
		金沢大学	保健体育科教育法Ⅰ (石川県の教育実践を含む)	保健科教育における目標、内容、方法及び評価について理解すると共に、授業計画のプロセス、授業・教材づくりのポイントと教師の指導性について、石川県の保健体育科の実践も踏まえて学習する。また、学習指導要領で取り扱われる内容について「心身機能の発達と心の健康」「障害の防止」「環境と健康」「疾病の予防」などを取り上げ、それらの指導法について解説する。	メディア
		金沢大学	保健体育科教育法Ⅱ (石川県の教育実践を含む)	保健科教育の目標、内容、方法を中学校・高等学校学習指導要領、解説編をもとに解説する。また、学習指導要領で取り扱われる内容について、生に関する指導の内容をはじめ、性感染症とその予防、喫煙、飲酒、薬物乱用の防止、などを具体例として、実際の授業づくりでの課題、石川県での実践の現状と課題について理解を深める。	メディア
		富山大学	保健体育科教育法Ⅲ (富山県の教育実践を含む)	保健体育科の体育分野のひとつである器械運動の領域を対象として、背景となる学習理論の理解や学問領域との関係の理解、個別の学習内容について指導上の留意点の理解、学習評価の考え方の理解をとおして授業に活用することができるようになる。本授業では、マット運動・鉄棒運動について取り扱う。さらに、発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができるようになる。また、富山県の教育事情を鑑みながら、保健体育科教員となるためにアクティブ・ラーニングの視点に立った授業づくりについて学習する。	メディア
		富山大学	保健体育科教育法Ⅳ (富山県の教育実践を含む)	保健体育科の体育分野のひとつである器械運動の領域を対象として、背景となる学習理論の理解や学問領域との関係の理解、個別の学習内容について指導上の留意点の理解、学習評価の考え方の理解をとおして授業に活用することができるようになる。本授業では、平均台運動、とび箱運動を取り扱う。さらに、発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができるようになる。また、富山県の教育事情を鑑みながら、保健体育科教員となるためにアクティブ・ラーニングの視点に立った授業づくりについて学習する。	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	保健体育	金沢大学 保健体育科教育法Ⅴ	保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示されたの学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。中等教育学校の保健体育科教員として学習指導を担当する際に必要となる基礎的な知識を身につける。また、生徒の実態に合わせた効果的な指導の在り方について、グループワークに取り組みながら理解を深める。	メディア
			金沢大学 保健体育科教育法Ⅵ	中等教育学校の保健体育科教員として学習指導を担当する際に必要となる実践的な知識を身につける。保健体育科の計画、学習評価などに関する実践的知識を身につける。具体的には、生徒同士の相互作用の形態（学習形態）と生徒の学びに焦点をあて、体育における対話的な学びについて検討する。異質な他者との相互作用による運動・スポーツの楽しみの享受はいかにして可能になるのか。生徒の実態に合わせた効果的な指導について、グループワークに取り組みながら理解を深めていく。	メディア
			富山大学 保健体育科教育法Ⅶ	本科目は、保健体育科教育法を学習する最終年度の科目である。本科目では、教育課程の観点から、保健体育科教育における重点教材、運動部活動の学習指導、健康教育の授業づくりについて探究することを通して、発展的な学習内容や方法を理解する。上述の観点についての講義をふまえ、各自で授業計画を作成し、相互交流・発表を実施することで、授業づくりの力量形成をめざす。	メディア
			富山大学 保健体育科教育法Ⅷ	本科目は、保健体育科教育法を学習する最終年度の科目である。本科目では、スポーツ文化を学ぶ体育授業づくりや共生社会にむけた体育授業づくりを探究することを通して、保健体育科教育における教材研究（教科内容研究）の方法や発展的な学習内容や方法を理解する。上述の観点についての講義をふまえ、各自で授業計画を作成し、相互交流・発表を実施することで、授業づくりの力量形成をめざす。	メディア
			富山大学 コーチング論Ⅰ	（概要） スポーツの価値を高めるための時代をリードするコーチング（プレーヤーの目標達成に向け、プレーヤーの有能さと人間性を高めていく支援を行っていくプロセス）について正しく理解する。特に、コーチの役割やスポーツのインテグリティ、組織運営について学ぶ。 （オムニバス方式／全8回） （4 大川信行／1回，2回） スポーツの意義や価値、スポーツ権について概説する。 （50 佐伯聡史／3回，4回，5回） コーチングに必要な知識やスキルなどを体系的に説明し、コーチに求められる役割について学ぶ。 （48 神野賢治／6回，7回，8回） コーチングにおけるインテグリティやスポーツ組織のマネジメントについて説明し、公平性のあるスポーツ環境の構築について学ぶ。	オムニバス方式

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	専門 科目	保健 体育	富山大学	コーチング論Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>スポーツの価値を高めるための時代をリードするコーチング（プレーヤーの目標達成に向け、プレーヤーの有能さと人間性を高めていく支援を行っていくプロセス）について正しく理解する。特に、コーチに求められる医学的知識について心理学や栄養学、トレーニング論から理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(50 佐伯聡史／1回, 2回)</p> <p>スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系について説明し、理解を深める。</p> <p>(56 福島洋樹／3回, 4回, 5回)</p> <p>体力・スキル・心のトレーニングについて基本的な考え方と方法論を説明し、理解を深める。</p> <p>(92 澤聡美／6回, 7回, 8回)</p> <p>スポーツと栄養、アンチドーピングやスポーツに関する医学的知識について説明し、理解を深める。</p>	オムニバス方式
			金沢大学	バイオメカニクス演習A	<p>バイオメカニクスの基本概念を理解し、運動を力学的に解釈すること、バイオメカニクスの研究で用いられる力学や数学の基礎を理解し、利用できる能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>バイオメカニクスの基本概念を理解することを目的として、基本的な知識の確認と各種運動のバイオメカニクスの解釈を行う。</p> <p>力学や数学の基礎を理解することを目的として、基本的な幾何学や力学を学習し、バイオメカニクスの分析で用いる方法を習得する。</p>	
			金沢大学	バイオメカニクス演習B	<p>バイオメカニクスの研究で用いられる研究方法の基礎を理解し、利用できる能力を身に付けること、バイオメカニクスの研究で用いられる研究方法の基礎を理解し、実際に測定及びデータ処理を実施する能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>研究方法の基礎を理解することを目的として、基本的な分析方法やデータ算出方法を学習し、バイオメカニクスの研究での利用方法を習得する。</p> <p>研究方法の基礎を理解することを目的として、基本的な分析やデータ算出を演習を通して実施することで、バイオメカニクスの研究での利用方法を習得する。</p>	
			金沢大学	バイオメカニクス演習C	<p>バイオメカニクスの研究で用いられる三次元動作分析方法の基礎を理解し、利用できる能力を身に付けること、バイオメカニクスに関わる研究論文の作成方法について学習することを目的とする。</p> <p>三次元動作の基礎を理解することを目的として、基本的な分析方法やデータ算出方法を学習し、バイオメカニクスの研究での利用方法を習得する。</p> <p>研究論文作成のために先行研究の収集、整理、解釈、検討し、研究課題を設定する。また、予備実験について準備し、測定方法の妥当性について検討する。</p>	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保健体育	金沢大学	バイオメカニクス演習D	各種データ処理、分析、算出を行い、算出データの妥当性の確認し、データを解釈できる能力を身に付けること、論文の構成及びそれぞれの内容、記述方法について理解し、実際に記述する能力を身に付けることを目的とする。 データの処理や解釈する能力を身に付けることを目的として、データ処理、分析、算出を行い、それぞれの段階でのデータを確認し、その後、算出したデータを基に運動を理解する。 論文の構成や記述について理解することを目的として、バイオメカニクス領域での研究論文の構成、記述方法について学習する。各構成要素の内容、記述方法について説明し、記述できる能力を身に付ける。	
		金沢大学	運動生理学演習A	動生理学の基礎知識を基にしながら、子どもから成人、高齢者に関わる健康問題やスポーツ活動に関わる国内外の先進的研究報告を読み解き、運動・スポーツや発育・加齢などが身体の生理機能の変化や適応変化に及ぼす影響などについて理解を深め、専門的知識を高めることを目的とする。国内外の先進的研究報告から未解決な課題を探るとともに、そこで用いられている運動生理学や生化学的手法やそれによる結果の解釈についての議論を通じて、スポーツ科学や健康科学で示される知見を正しく理解できるよう学修する。	
		金沢大学	運動生理学演習B	運動生理学の基礎知識を基にしながら、子どもから成人、高齢者に関わる健康問題やスポーツ活動に関わる国内外の先進的研究報告を読み解き、運動・スポーツや発育・加齢などが身体の生理機能の変化や適応変化に及ぼす影響などについて理解を深め、専門的知識を高めることを目的とする。国内外の先進的研究報告から未解決な課題を探るとともに、そこで用いられている運動生理学や生化学的手法の具体的な方法について詳細に学習・実習する。それらの学習・実習を通じて、スポーツ科学や健康科学に関する様々なデータの取得方法を学修する。	
		金沢大学	運動生理学演習C	運動生理学の基礎知識を基にしながら、子どもから成人、高齢者に関わる健康問題やスポーツ活動に関わる国内外の先進的研究報告を読み解き、運動・スポーツや発育・加齢などが身体の生理機能の変化や適応変化に及ぼす影響などについて理解を深め、専門的知識を高めることを目的とする。国内外の先進的研究報告から未解決な課題を探り、その課題に対する解決の糸口となるデータの取得を試み、その結果の是非について議論する。こうした演習を通じて、仮説検証の実際について学修する。	
		金沢大学	運動生理学演習D	運動生理学の基礎知識を基にしながら、子どもから成人、高齢者に関わる健康問題やスポーツ活動に関わる国内外の先進的研究報告を読み解き、運動・スポーツや発育・加齢などが身体の生理機能の変化や適応変化に及ぼす影響などについて理解を深め、専門的知識を高めることを目的とする。国内外の先進的研究報告から未解決な課題を探り、その課題の解決の糸口となるデータの取得を試みる。仮説検証した結果と解釈（結果の是非）に関して、レポートでのまとめ方やプレゼンテーションによって効果的に伝える技術や方法について学修する。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	保健体育	金沢大学	学校保健演習 A	学校保健に関する基本概念を理解することを目的として、基本的な知識の確認と学校保健活動の実際について考察を行う。その際、国内外の学校保健分野の研究を取り上げて、その問題設定の方法、研究方法、調査手続き、調査法、分析視点、分析方法、報告の仕方などをレビューする。それと共に、各受講者の興味の高いテーマに沿った内容の文献を講読し、全員で討論を行う。	
			金沢大学	学校保健演習 B	学校保健に関する基礎を理解することを目的として、保健管理や保健教育で用いる指導方法等を考察する。その際、国内外の学校保健分野の研究を取り上げて、その問題設定の方法、研究方法、調査手続き、調査法、分析視点、分析方法、報告の仕方などをレビューする。それと共に、各受講者の興味の高いテーマに沿った内容の文献を講読し、全員で討論を行う。	
			金沢大学	学校保健演習 C	研究方法の基礎を理解することを目的として、基本的な分析方法やデータ算出方法を学習し、学校保健分野での研究での利用方法を習得する。その際、国内外の学校保健分野の研究を取り上げて、その問題設定の方法、研究方法、調査手続き、調査法、分析視点、分析方法、報告の仕方などをレビューする。それと共に、各受講者の興味の高いテーマに沿った内容の文献を講読し、全員で討論を行う。	
			金沢大学	学校保健演習 D	研究方法の基礎を理解することを目的として、基本的な分析やデータ算出を演習を通して実施することで、学校保健分野の研究での利用方法を習得する。その際、国内外の学校保健分野の研究を取り上げて、その問題設定の方法、研究方法、調査手続き、調査法、分析視点、分析方法、報告の仕方などをレビューする。それと共に、各受講者の興味の高いテーマに沿った内容の文献を講読し、全員で討論を行う。	
			金沢大学	保健体育科教育演習 A	保健体育科教育において生徒の豊かなスポーツライフを保証するための資質・能力の育成が喫緊の課題となっている。本科目では、先進的な体育授業実践に関する書籍・論文を講読し、体育科教育学の観点から成果と課題を整理する。具体的には、先進的な体育実践の探索、体育科教育学の文献検索方法、先進実践の成果と課題の整理の仕方について学習する。	
			金沢大学	保健体育科教育演習 B	生徒の豊かなスポーツライフを保証するための資質・能力の育成の場として体育授業がある。体育授業をよりよいものにしていくためには、体育授業を観察し、成果や課題を評価する力量が求められる。本科目は、体育授業の観察・評価法を学習し、体育授業を観察・評価する方法を習得する。これを通じて、体育授業の観察・評価する能力を育成する。	
			金沢大学	保健体育科教育演習 C	体育科教育学の研究領域は、目標論、内容論、指導論、子ども理解、学習集団論、教材づくり論等、多岐にわたる。本科目は、保健体育科教育演習A, Bを基礎に、現代の体育授業を体育科教育学の観点から検討し、受講者自身が体育科教育に関する研究テーマを設定する。これを通じて、体育授業を研究的課題として立論する力量を育成する。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保健体育	金沢大学	保健体育科教育演習D	保健体育科教育に関する研究課題を解決する研究手法は、観察やインタビュー、質問紙調査法等、多岐にわたる。研究課題の解明には、適切な研究方法が採用されなければならない。本科目は、体育科教育学に関する先行研究および研究方法論に関する先行研究を講読し、体育科教育研究に関する研究方法を学習する。それを通じて、設定したテーマに即した研究方法について検討する。	
		金沢大学	家政学原論	家庭科教育の学問的基盤である「家政学」について理解し、中学校・高等学校で学ぶ家庭科の位置づけを明確にすることを授業目標とする。本授業では、実際に過去の家政学書を目にしなが、日本やアメリカの家政学について知見を得た上で家政学の学問体系を系統的に理解する。さらに、ディスカッションなども取り入れながら、家庭生活の変化、家政学における「生活」、家政学の独自性、および家政学の社会的役割の理解を深める。	メディア
	金沢大学	家庭経営学Ⅰ（家庭経済学と消費者市民社会の形成を含む）	家庭経営（家庭経済学を含む）の基礎理論の習得とともに現代の消費者市民社会の形成を目指し、実践に生かす力を身につけることを授業目標とする。中学校・高等学校の家庭科の教科書で取り上げられている内容を中心に、現代の家庭経営、社会経済情勢や地球環境に関わる諸課題を、具体的・日常的な問題として取り上げ、課題解決型の視点で検討する。	メディア	
	金沢大学	家庭経営学Ⅱ	家庭経営分野の基礎理論を実践に生かす力も身につけることが望まれる。中学校・高等学校家庭科の家庭経営学分野の基礎知識・技能を身につけることを授業目標とする。授業では、中学校・高等学校家庭科の家庭経営学領域での学習内容に関する理解を深めるため、家庭経営学の基礎理論を学ぶとともに、現代社会における家庭経営の諸課題を取り上げ検討する。	メディア	
	金沢大学	家族関係学（多様な家族と家庭科教育）	中学校・高等学校の家庭科教育で求められる家族関係領域の基礎知識を身につけ、多角的に家族や家庭を捉えながら、地域社会および世界の中での現代家族の多様性についての理解することを授業目標とする。授業では、現代社会の中で課題となっている多様な家族についての問題を取り上げながら、生涯を見通して「家族の在り方」について考え、中学校・高等学校家庭科教育で扱う家族関係領域の学習内容を検討する。	メディア	
	金沢大学	家庭経営学演習Ⅰ	中学校・高等学校家庭科における家庭経営学領域を中心とした学習内容・指導方法を検討するために、家庭経営学の研究方法の基礎を習得することを授業目標とする。本授業では、家庭科・家庭経営学領域の知識の習得および指導に関して研究を進めるため、研究課題の設定や、調査の方法など、研究方法の基礎を学ぶ。また、予備調査の実習なども行う。	メディア	
	金沢大学	家庭経営学演習Ⅱ	中学校および高等学校家庭科の家庭経営学分野の専門知識・技能を深めることを授業目標とする。本授業では、家庭経営学演習Ⅰの知識・技術を踏まえて家庭科・家庭経営学領域のさらなる知識の習得および指導に関して研究を進める。はじめに、家庭経営学に関する文献を講読し、内容の理解を深めるためのグループディスカッション、プレゼンテーションを行う。その上で検討結果を省察し、家庭科教育における家庭経営学領域への展開について検討する。	メディア	
	金沢大学	家庭経営学演習Ⅱ	中学校および高等学校家庭科の家庭経営学分野の専門知識・技能を深めることを授業目標とする。本授業では、家庭経営学演習Ⅰの知識・技術を踏まえて家庭科・家庭経営学領域のさらなる知識の習得および指導に関して研究を進める。はじめに、家庭経営学に関する文献を講読し、内容の理解を深めるためのグループディスカッション、プレゼンテーションを行う。その上で検討結果を省察し、家庭科教育における家庭経営学領域への展開について検討する。	メディア	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 家政教育	金沢大学	被服学概論Ⅰ(現代の衣生活の諸問題を含む)	全受講者が衣服の分類およびデザインに関する知識を習得し、衣服の選択方法について多角的に教育現場で展開できるようになることを授業目標とする。本授業では、衣服の分類、形状およびサイズについて映像や様々な型紙を提示して解説する。さらに、衣服の安全性および快適性について説明し、着用目的、健康、安全、環境および現代の衣生活における諸問題に配慮した適切な衣服の選択方法を検討する。	メディア
	金沢大学	被服学概論Ⅱ	衣服素材の特性および汚れの付着と除去に関する基礎知識を修得し、管理の仕方を検討できるようになることを授業目標とする。本授業では、衣服素材の種類、構造、一般物性および製造工程について紹介する。そして、汚れの付着と除去のメカニズム、衣服の劣化に対する修繕法を、映像を用いて解説する。これらの基礎知識を活用し、環境へ配慮した衣生活の送り方を衣服の管理の観点から検討する。	メディア
	金沢大学	被服構成実習	衣服の素材、構成、製作方法と着装方法を理解し、学校教育で被服製作実習に関する授業が展開できるようになることを授業目標とする。被服製作に必要な材料、用具、採寸、製作および評価を系統的に行い、衣服製作に必要とされる知識と技術を獲得する。また、洋服(立体構成)と和服(平面構成)の違いについて、素材、用具、構成、製作方法、着装方法、管理方法を比較しながら理解を深める。	
	金沢大学	被服科学実験	実験を通して衣服とその素材の製造工程および物性評価を行うことにより系統的に理解し、実験結果のまとめ方、見せ方および議論の方法の修得を授業目標とする。衣生活について考える上で、衣服の性能とそれを構成する布、糸、繊維の物性について実験を通して理解することは重要である。本授業では、衣服素材の試作および評価試験を行う。さらに、得られた結果については表計算ソフトを用いてまとめ、グラフ化した上で議論する。	
	金沢大学	被服学演習Ⅰ	衣生活の実態と課題を調査によって明らかにし、衣生活に関する文献、デジタルコンテンツおよびアンケートの調査方法、読解方法および解析方法を修得することを授業目標とする。本授業では、学校教育における衣生活の実態と解決すべき課題について、文献やデジタルコンテンツの調査およびアンケート調査の実施により探求する。そして、調査結果を集計・解析することにより実態と課題を明らかにし、検討課題の解決法を模索する。	メディア
	金沢大学	被服学演習Ⅱ	被服に関する簡易的な実験を展開できるよう、そのための文献調査方法、実験計画、実験装置の試作方法および実験結果のまとめ方を修得することを授業目標とする。本授業では、衣生活に関連する解決すべき課題を調査し、その解決に向けた実験計画や簡易実験装置を工夫しながら作成する。さらに、試作装置を用いて測定を行い、その結果をレポート文書とプレゼンテーション資料としてまとめ、議論する。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	家政教育	富山大学	食物学概論Ⅰ(栄養学、食品学及び現代の栄養課題を含む)	<p>本授業では、栄養の概念、各栄養素の種類、体内での働き、消化吸収といった栄養学の基本的な事項について講義し、家庭科教員として必要となる栄養に関する基礎知識を習得する。また、このような基礎知識を踏まえたうえ、現代の栄養課題についても解説する。到達目標は、以下の通りである。</p> <p>(1) 各栄養素の栄養学的役割について説明できる。 (2) 食べ物の消化吸収の概要について説明できる。 (3) 現代の栄養課題を知り、栄養に関する基礎知識の理解を深める。</p>	メディア
		富山大学	食物学概論Ⅱ(栄養学、食品学を含む)	<p>本授業では、食品の分類や成分の特徴、食品群と栄養学的特徴、調理の際に起こる食品成分変化などについて、身近な植物性・動物性食品を取り上げながら解説し、家庭科教員として必要となる食品に関する基礎知識を習得する。到達目標は、以下の通りである。</p> <p>(1) 食品の機能性と分類について説明できる。 (2) 身近な食品の成分とその特徴について説明できる。 (3) 調理による成分変化について科学的な視点から捉えることができる。</p>	メディア
		富山大学	食物学	<p>本授業では、中学校・高等学校家庭科の食物領域に関連する内容を、安全面(食に起因する健康被害、食品の安全性確保、食品の表示と選択)、環境面(食生活と環境負荷、社会・家庭環境と食生活)、栄養面(食事計画、主菜・主菜・副菜の揃った食事)といった視点から食生活の営みに関連する事項について解説する。このような視点を踏まえ、自身の食生活を振り返り、望ましい食生活のあり方を主体的に考える態度を養うことを目的とする。</p>	メディア
		富山大学	調理実習(地域の食文化比較を含む)	<p>本授業では、基本的な調理操作と食品の扱い方について、身近な食材を用いた実験や日常食の調理実習を通して実践的に学び、家庭科教員として必要となる調理と加工に関する基礎的な知識と技術を習得する。また、地域の食文化についても触れる。到達目標は、以下の通りである。</p> <p>(1) 基本的な調理法を理解し、調理による成分変化をふまえた調理操作ができる。 (2) 衛生面、安全面、環境面に配慮して食品を扱い、調理することができる。 (3) 栄養バランスの良い食事についての理解を深める。</p>	
		富山大学	食物学演習Ⅰ	<p>本授業では、健康と栄養の歴史を概観した後、日本人の栄養摂取の状況、疾病との関わり、糖質や食物繊維等食品成分の役割など食物栄養領域に関連する事項を取り上げ、それらについての情報(統計資料や文献など)を収集し、収集したデータを客観的に観察し、的確に捉えて発表する能力を養うことを目的とする。発表者は、収集した情報(統計資料や文献など)をもとに内容を整理し、データの意味を考え、発表資料を作成して授業に参加する。</p>	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 家政教育	富山大学	食物学演習Ⅱ	本授業は、食物学演習Ⅰを履修していることを踏まえて進める。食物栄養領域の学術論文の講読、発表、討論を通して、この分野の知見を広め、健全な食生活のあり方について多角的な視点から捉え、評価する能力を養うことを目的とする。授業は近年の食物栄養領域の学術論文を題材とし、輪講形式で行う。発表者は事前に学術論文を読み、内容を理解した上で、発表の準備を十分に行い、作成した資料を用いて発表を行う。発表後は受講生全員が積極的に討論に参加する。	メディア
	富山大学	住居学概論Ⅰ	住居に関する基本的知識や技能を習得することを目標とする。特に、季節の変化に合わせた住環境の制御方法に関する解説を通して、快適な住まいを創造する意義や方法をより具体的に理解することを到達目標とする。授業では気候の変動や都市環境の課題について紹介した上で、熱・空気・音・光の住環境要素と人間の反応を踏まえた環境制御方法について講義する。	メディア
	富山大学	住居学概論Ⅱ	住居に関する基本的知識や技能を習得することを目標とする。特に、人間工学の知見に基づいた住まいの構成要素と人間との関係や、健康維持のための住まいの維持管理などに関する解説を通して、快適な住まいを創造する意義や方法をより具体的に理解することを到達目標とする。授業では人間の身体的および心理的特徴について紹介した上で、人体寸法と家具の関係、住空間と住生活の関わり、健康で安全な住まいなどについて講義する。	メディア
	富山大学	住居学Ⅰ（現代の住環境問題を含む）	住生活文化の継承および安全な住まいなどに関する解説を通して、安全で文化的な住環境を創造する意義や方法および現代の住環境問題をより具体的に理解し、住生活の課題を解決し創造するための実践力を育成することを到達目標とする。授業では住居史や間取りの変遷およびインテリアの歴史などを踏まえた住生活の文化の継承、家庭内事故や火災・自然災害に対して安全な住まいの在り方、景観への配慮も含めた地域との関わり、現代の住環境問題について考察する。	メディア
	富山大学	住居学Ⅱ（製図及び富山石川の住宅比較を含む）	具体的な住空間の平面計画などに関する解説を通して、豊かな住生活を実現する意義や方法をより具体的に理解し、住生活の課題を解決し創造するための実践力を育成することを到達目標とする。授業では気候や風土と住居との関わりや住空間の構成と計画、インテリアデザインなどについて体系的に講義した上で、平面図をはじめとする表現技術について演習する。また富山と石川の気候・風土・文化の違いを含めた住宅比較を行う。	メディア
	富山大学	住居学演習Ⅰ	住環境領域の研究論文の読解方法や環境計測・評価・解析方法を習得し、住環境における実態把握と課題解決力を育成することを到達目標とする。授業では住環境における実態や課題について、各種統計データや関連する研究論文の調査を実施し、検討課題の解決方法について議論する。また特に光環境の計測・評価・解析方法について演習を実施し、適切な住空間計画のための物理環境要素の制御の重要性について理解を深める。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	専門 科目	家政 教育	富山大学	住居学演習Ⅱ	住環境領域の国内の研究論文の講読を通して、住環境における課題を整理し、多角的に考察する能力を育成することを到達目標とする。授業では住環境領域における国内の研究論文について、担当学生が資料を準備して報告する。このとき、全ての参加者も報告予定論文について事前に読解してくることにする。なお調査対象とする研究論文については、参加学生の研究内容に合わせて選定する。	メディア
			金沢大学	保育学概論Ⅰ（現代の保育学の諸問題を含む）	保育を含む福祉に関する基本的な理念や背景を学び、種々の現場における心理社会的課題を考察することを通じて、保育の意義、目的、制度、内容、方法等を理解することを授業目標とする。本授業では、社会福祉及び保育に関する基礎的な理念や背景を学んだ後に、保育学の観点を踏まえつつ、家庭福祉及び児童福祉の現場において生じる現代的課題を知り、それらの課題に対する具体的な対応や支援を検討する。	メディア
			金沢大学	保育学概論Ⅱ（家庭看護含む）	家庭や種々の福祉施設を含む多様な保育の現場における心理社会的課題を考察し、家庭における看護の現状と課題を検討することを通じて、保育の意義、目的、制度、内容、方法等を、より具体的に理解することを授業目標とする。本授業では、障害者福祉、児童虐待及び高齢者福祉のそれぞれの現場において生じる現状と課題を知り、家庭における看護の視点も踏まえながら、それらの課題に対する具体的な対応や支援を検討する。	メディア
			金沢大学	保育学Ⅰ	海外の保育・幼児教育との相対化を踏まえながら日本の保育を理解し、現代の子ども及び子育て家庭を取り巻く現状と課題を知り、具体的な支援につながる知識と態度を身につけることを授業目標とする。本授業では、海外の保育・幼児教育を紹介し、日本の保育を相対化しながら理解する機会を提供する。特に、幼小接続、障害のある子どもの支援に焦点を当て、それぞれの支援について具体的に協議する。	メディア
			金沢大学	保育学Ⅱ（実習を含む）	保育現場で活用される保育技術について、現場におけるそれらの機能も踏まえながら理解し、技術の活用の際に必要とされる知識と態度を身につけることを授業目標とする。本授業では、まず、保育技術を具体的に紹介し、次に、幼稚園参観あるいは保育実践の録画鑑賞を踏まえ、それらの技術が現場において果たす機能を協議しながら考察する。最後に、学生による保育技術の発表の機会を設け、発表内容に基づいて協議する。	メディア
			金沢大学	保育学演習Ⅰ	保育学周辺領域の専門的文献の講読を通して、自身の課題意識と照合しながら、現在の保育学周辺領域の課題を考察する態度を身につけることを授業目標とする。本授業では、保育学周辺領域の専門的文献について、演習担当者が資料を用意して発表する。専門的文献は、全ての参加者が事前に読解してくることにする。各回のテーマについて、授業担当者が簡潔な説明及び講義をした後で、参加者全員で討論する。	メディア
			金沢大学	保育学演習Ⅱ	保育学周辺領域の研究論文の講読を通して、現在の保育学周辺領域の課題を相対的かつ多角的に考察する態度を身につけるとともに、研究の構造を理解することを授業目標とする。本授業では、検討論文について、演習担当者が資料を用意して発表する。検討論文については、全ての参加者が事前に読解してくることにする。各回のテーマについて、授業担当者が簡潔な説明及び講義をした後で、参加者全員で討論する。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	家政教育	金沢大学	家庭電気・機械・情報	家庭生活で役立つ情報・電気・機械の工学的な基礎知識を身につけることを授業到達目標とする。本授業では、家庭電気・家庭機械・情報処理に関する基礎知識を習得する。さらに、コンピュータプログラミングの概念をC言語の学習する。授業では、実際にプログラムを作成し、実行結果を確認しながら理解を深める。また、プログラミングの学習とともに、照明、電気コンセントの増設、水栓交換、排水管置換、トイレ便座の交換、エアコン除去と設置について学ぶ。	メディア
		富山大学	家庭科教育法Ⅰ（富山県の教育実践を含む）	本授業では、アクティブ・ラーニングを取り入れ、反省的実践家である中学校あるいは高等学校の家庭科教師として、理解しておくことが必要な家庭科教育の基本的・応用的原理についての理解を深めることを主眼としている。 中学校家庭科、高等学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容とその学問的背景や社会的状況、教材研究、指導法（情報機器及び教材の活用を含む）、カリキュラムや授業の構想等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。教育内容論では、主として、食生活、衣生活、住生活について講義する。課題等により予習・復習を促す。その際、富山県に関わる授業実践についても行う。	メディア
		富山大学	家庭科教育法Ⅱ（富山県の教育実践を含む）	本授業では、アクティブ・ラーニングを取り入れ、反省的実践家である中学校あるいは高等学校の家庭科教師として、理解しておくことが必要な家庭科教育の基本的・応用的原理についての理解を深めることを主眼としている。 中学校家庭科、高等学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容とその学問的背景や社会的状況、教材研究、指導法（情報機器及び教材の活用を含む）、カリキュラムや授業の構想等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。教育内容論では、主として、家族・家庭生活、消費生活・環境について講義する。課題等により予習・復習を促す。その際、富山県に関わる授業実践についても行う。	メディア
		金沢大学	家庭科教育法Ⅲ（石川県の教育実践を含む）	本授業のテーマは反省的実践家として活動できる中学校あるいは高等学校の家庭科教師の在り方について理解することである。本授業の到達目標は、反省的実践家としての家庭科教師として、家庭科教育の応用原理を知り、石川県での教育実践を踏まえつつ家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得することである。家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教材研究、指導法、カリキュラムや授業の構想、指導案の作成などについての学習をふまえ、実際に教材研究を行い授業を計画し模擬授業（情報機器及び教材の活用を含む）を行う。その際、石川県に関わる授業実践についても行う。講義とともにアクティブ・ラーニングを取り入れ、実験、実習、リサーチといった学習者が主体となった活動も行う。課題等により予習・復習を促す。	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 家政教育	金沢大学	家庭科教育法Ⅳ (石川県の教育実践を含む)	<p>本授業のテーマは反省的実践家として活動できる中学校あるいは高等学校の家庭科教師の在り方について理解することである。本授業の到達目標は、反省的実践家としての家庭科教師として、家庭科教育の応用原理を知り、石川県の教育実践を踏まえつつ家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得することである。家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教材研究、指導法（情報機器及び教材の活用を含む）、カリキュラムや授業の構想、指導案の作成などについての学習をふまえ、実際に教材研究を行い授業を計画し模擬授業を行う。その際、石川県に関わる教育実践についても行う。相互に批評・評価し、それらをもとに指導案や教材を修正する。講義とともにアクティブ・ラーニングを取り入れ、実験、実習、リサーチといった学習者が主体となった活動も行う。課題等により予習・復習を促す。</p>	メディア
	各大学	家庭科教育法Ⅴ	<p>中学校・高等学校家庭科の教育課程及び指導法の知識・技能を身につけ、家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得する。</p> <p>家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教材研究、指導法（情報機器及び教材の活用を含む）、カリキュラムや授業の構想、指導案の作成などについての学習をふまえ、実際に教材研究を行い授業を計画し模擬授業を行う。食生活、衣生活、住生活分野の教材開発を中心に行う。アクティブ・ラーニングを取り入れ、実験、実習、リサーチ・討論といった学習者が主体となった活動を行う。課題等により予習・復習を促す。</p>	
	各大学	家庭科教育法Ⅵ	<p>中学校・高等学校家庭科の教育課程及び指導法の知識・技能を身につけ、家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得する。</p> <p>家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教材研究、指導法（情報機器及び教材の活用を含む）、カリキュラムや授業の構想、指導案の作成などについての学習をふまえ、実際に教材研究を行い授業を計画し模擬授業を行う。家族・保育分野、消費生活・環境分野、福祉分野の教材開発を中心に行う。アクティブ・ラーニングを取り入れ、実験、実習、リサーチ・討論といった学習者が主体となった活動を行う。課題等により予習・復習を促す。</p>	
	各大学	家庭科教育法Ⅶ	<p>授業のテーマおよび到達目標は中学校・高等学校家庭科の教育課程及び指導法の知識・技能を身につけ、家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得する。授業では、3年次の教育実習をふりかえりながら、授業と指導案について再検討し、議論を踏まえて同じ授業について指導案を再度作成して議論する。実験、実習、リサーチ・討論、小・中学校家庭科授業の参与観察、情報機器及び教材の活用、といった学生が主体となった活動を行う。課題等により予習・復習を促す。</p>	
	各大学	家庭科教育法Ⅷ	<p>授業のテーマ及び到達目標は中学校・高等学校家庭科の教育課程及び指導法の知識・技能を身につけ、家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得する。授業では、主として今日的教育課題と家庭科について学ぶ。より必要性が高まっている学習内容や学習方法を取り入れた先駆的ですぐれた授業実践を分析し、それを活かしながらカリキュラムや学習指導を構想・実践する。実験、実習、リサーチ・討論、情報機器及び教材の活用、小・中学校家庭科授業の参与観察、模擬授業といった学習者が主体となった活動を行う。課題等により予習・復習を促す。</p>	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	家政教育	各大学	家庭科教育演習Ⅰ	家庭科教育についてより深く学びたい学生を対象とし、家庭科を探究的に学ぶ視点や研究方法に関する基礎的な知識やスキルを習得する。また、家庭科教育の理論と実践に関する専門的な理解を獲得する。 カリキュラムに関わる文献研究、質問紙や面接などの調査研究、諸外国の家庭科に関する研究、授業の実践的研究などについて、具体的な研究例をもとに検討する。また、授業づくりにかかわる教材研究の一環として実習や実験なども行う。	
		各大学	家庭科教育演習Ⅱ	家庭科教育演習Ⅰを履修していることをふまえて授業を行う。家庭科教育に関する研究を行う場合のテーマ設定の仕方や課題へのアプローチの方法について理解し、探究的なアプローチを受講生各自が実際に行うことで研究力を養う。 様々なテーマの研究論文を講読し、テーマに応じた研究手法の特徴について理解を深める。また、受講生自身が探究したいテーマについて、資料収集の方法や探究方法を考え、アドバイスを受けながら実践する。	
		富山大学	住居学演習Ⅲ	住環境領域の海外の統計データや研究論文の講読を通して、住環境における課題を整理し、多角的に考察する能力を育成することを到達目標とする。授業では住環境領域における海外の統計データや既往研究論文を元に、調査や研究の背景および目的、母集団の特性、調査・解析方法、得られた知見や今後の課題などに関して、担当学生が資料を準備して報告する。このとき、全ての参加者も報告予定論文について事前に読解してくることにする。なお調査対象とする研究論文については、参加学生の研究内容に合わせて選定する。	
		富山大学	住居学演習Ⅳ	住環境領域における現代の教育課題や研究課題について、環境計測・評価・解析方法を用いながら、実態把握や課題解決を行うことを到達目標とする。授業では住環境における現代の教育課題や研究課題について、既往研究との位置づけを明確にしながらい研究計画を立案し、実験やアンケート調査など課題解決のためのデータ収集方法を決定した上で、環境計測やデータ分析・解析を実施しながら、適切な住空間計画のための実態把握や課題解決について論文執筆指導を行う。	
		富山大学	食物学演習Ⅲ	食物学演習Ⅰ、Ⅱを履修していることを踏まえて授業を進める。現代社会において食をめぐる課題が散見されている。年代によっても課題が異なることについても認識し、栄養や食をめぐる問題に気づき、その問題の所在を既存の調査結果から客観的に把握するとともに、それが食教育においてどのような意味を持つのか考える能力を養うことを目的とする。最新の学術論文の講読と発表から、近年の課題の動向を知り、現状を把握するための調査方法や分析方法について着目した議論を行い、理解を深める。	
富山大学	食物学演習Ⅳ	現代社会において食をめぐる問題が散見されている。食物学演習Ⅲでの学習を展開させ、食をめぐる諸問題を客観的に捉えたり解決するための方法をさらに追及する態度を養うことを目的とする。近年の食をめぐるさまざまな課題の中から、受講生各自がテーマを持ち、その問題を的確に捉えるために、またはその問題を解決するために有用と思われる調査・分析方法や食教育について考え、提案する。その提案に対して、参加者全員で討論し、理解を深める。			

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	家政教育	金沢大学	家庭経営学演習Ⅲ	中学校・高等学校家庭科における家庭経営学領域を中心とした学習内容および指導方法を検討するために、3年次で習得した基礎的な研究方法を展開させ、実践に結び付く考察をすすめることを授業到達目標とする。本授業では、3年次で実施した予備調査や文献講読の結果を踏まえて、研究課題の設定や、調査の方法など研究方法の再検討を行う。さらに、それをもとに家庭科・家庭経営学領域の知識の習得および指導に関する研究を展開する。	
		金沢大学	家庭経営学演習Ⅳ	これまでに学んだ中学校・高等学校家庭科の家庭経営学分野の専門知識・技能を踏まえて、学校現場で実践可能な学習内容・指導方法を提案することを授業目標とする。本授業では、家庭経営学演習Ⅰ～Ⅲの知識・技能を踏まえてさらに研究を展開する。グループディスカッションにより多角的な視点・他者の視点も取り入れながら、より精度の高く実践可能な研究としてまとめていく。	
		金沢大学	被服学演習Ⅲ	多様性社会におけるユニバーサルファッションやエシカルファッション等の検討課題に対して、時代に応じた様々な教材を提案できるようになることを授業目標とする。本授業では、衣生活に関連する解決すべき課題を調査し、その解決に向けた被服デザインの検討、設計、試作および評価を系統的に行う。これらの結果をレポート文書とプレゼンテーション資料としてまとめ、議論する。	
		金沢大学	被服学演習Ⅳ	衣服に関する環境問題の理解と取り組みを検討する授業展開ができるよう、現状に応じた様々な提示教材を提案できるようになることを授業目標とする。本授業では、衣生活に関連する解決すべき課題を調査し、その解決に向けた実験計画や簡易実験装置を工夫しながら作成する。さらに、試作装置を用いて測定を行い、その結果をレポート文書とプレゼンテーション資料としてまとめ、議論する。	
		金沢大学	保育学演習Ⅲ	保育学周辺領域の種々の研究課題について、その課題を追究する方法を具体的且つ批判的に検討し、より適切な方法を見出すことを授業到達目標とする。本授業では、データを収集する研究方法として、観察調査、質問紙調査、インタビュー調査、実験調査、文献調査などをとりあげ、研究課題と照合しながら具体化する過程も含めて協議する。更に、保育の現場においてデータを収集する上での倫理的課題についても講義を踏まえて討論する。	
		金沢大学	保育学演習Ⅳ	保育学周辺領域の種々の研究課題について、適切な方法により収集されたデータを分析し、考察するための知識と態度を身につけることを授業目標とする。本授業では、それぞれの研究方法により収集されたデータの分析と考察について、演習担当者の発表に基づきながら協議する。更に、データを収集した各種現場に対して、何をどのように還元していくことが望ましいのかについても討論を踏まえて検討する。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	家政教育	各大学	家庭科教育演習Ⅲ	家庭科教育についてより深く学びたい学生を対象とする。家庭科教育の理論と実践に関する専門的な理解を獲得するとともに、家庭科教育研究の基本的プロセスや調査方法を理解し、教育や研究に探究的に取り組む資質を養う。家庭科教育演習Ⅰ・Ⅱを履修していることをふまえて授業を行う。家庭科教育に関する研究を行う場合の先行研究の分析、研究課題の設定の仕方や課題へのアプローチの方法について理解し、探究的なアプローチを受講生各自が実際に行うことで研究力を養う。受講生自身が探究したい課題について、資料を収集し、アドバイスを受けながら研究枠組・研究計画をたてる。予備調査も行う。	
		各大学	家庭科教育演習Ⅳ	家庭科教育についてより深く学びたい学生を対象とする。家庭科教育の理論と実践に関する専門的な理解を獲得するとともに、家庭科教育研究の基本的プロセスや調査方法を理解し、教育や研究に探究的に取り組む資質を養う。家庭科教育演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修していることをふまえて授業を行う。家庭科教育に関する研究を行う場合の先行研究の分析、研究課題の設定の仕方や課題へのアプローチの方法について理解し、探究的なアプローチを受講生各自が実際に行うことで研究力を養う。受講生自身が探究したい課題について、資料を収集したり調査をしたりし、アドバイスを受けながら研究を進める。定期的に報告会を行い、受講生相互に検討し合う。	
		富山大学	英語学概論Ⅰ(文法と現在の英語教育)	英語学の基本的な概念を学び、英語をより深く客観的に理解するための基礎を作る。具体的には英語史、形態論、意味論の各分野における基本的な概念を学んでいく。あわせて、授業において英語史・形態論・意味論のそれぞれの概念が具体的にどのような場面で活用し、深い理解につなげていくかについても学ぶ。学生も活用の仕方について提案する。	メディア
		富山大学	英語学概論Ⅱ(文法と現在の英語教育)	英語学の基本的な概念を学び、英語をより深く客観的に理解するための基礎を作る。具体的には統語論、語用論の基礎について、平易な英文で書かれたテキストを用いて解説していく。あわせて、授業において統語論・語用論のそれぞれの概念が具体的にどのような場面で活用し、深い理解につなげていくかについても学ぶ。学生も活用の仕方について提案する。	メディア
	各大学	英語学概論Ⅲ(応用)	音韻論・社会言語学の各分野における基本的な概念を学び、英語をより深く応用的に理解するための基礎を作る。平易な英文で書かれたテキストを用いて基本的概念を解説していく。適宜最新の学術文献などの資料を配付し、最新の研究動向にも必要に応じて言及し、かつ専門的な英文を読解する訓練も行う。また、音韻論・社会言語学の概念が授業の中でどのように関わるかについても考察する。		
	各大学	英語学概論Ⅳ(応用)	心理言語学・応用言語学の各分野における基本的な概念を学び、英語をより深く応用的に理解するための基礎を作る。平易な英文で書かれたテキストを用いて基本的概念を解説していく。適宜最新の学術文献などの資料を配付し、最新の研究動向にも必要に応じて言及し、かつ専門的な英文を読解する訓練も行う。また、心理言語学・応用言語学の概念が授業の中でどのように関わるかについても考察する。		
	専門科目	英語教育			

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	英語教育	各大学	英語音声学・文法Ⅰ	英語教員として必要となる学校英文法の体系を身につけると同時にコミュニケーション活動等を行ううえで必要な、英語音声に関する基礎知識を学び、指導力向上につなげる。具体的には完了形・進行形・能動態・受動態など、コミュニケーション活動で用いられることの多い構文および、英語音声の基礎的部分を解説・練習していく。	
			各大学	英語音声学・文法Ⅱ	英語教員として必要となる学校英文法の体系を身につけると同時にコミュニケーション活動等を行ううえで必要な、英語音声に関する基礎知識を学び、指導力向上につなげる。動詞・倒置・省略など、コミュニケーション英語で重要となる文法事項および、英語音声の単音レベルの基礎を解説・練習し、授業の中での活用についても考察する。	
			各大学	英語学演習Ⅰ（個別理論）	構造言語学および生成文法の基本的な考え方を理解し、英語や日本語の言語現象を観察する手段として用いることができる能力を養っていく。これらの理論の基本的な考え方を、英語や日本語の具体的な言語現象を取り上げながら説明し、受講者自身もこれらの理論の観点から英語や日本語の言語現象を観察し整理するレポートを作成する。	
			各大学	英語学演習Ⅱ（個別理論）	認知言語学および言語類型論の基本的な考え方を理解し、英語や日本語の言語現象を観察する手段として用いることができる能力を養っていく。これらの理論の基本的な考え方を、英語や日本語の具体的な言語現象を取り上げながら説明し、受講者自身もこれらの理論の観点から英語や日本語の言語現象を観察し整理する課題を行う。	
			金沢大学	英語文学概論Ⅰ（イギリス文学と現在の英語教育）	イギリス文学の歴史と変遷を扱い、その背後の文化と思想を理解する一方で、文学作品と英語教育との影響関係を論じる。授業ではテキストの他に実際の作品から抜粋したプリントを配布し、英語についての広範な知識の獲得を求める。授業においてはグループによる討論などアクティブラーニングを積極的に取り入れる一方で、英語コミュニケーション能力の向上を図るため、授業の主要言語は英語とする。	メディア
			金沢大学	英語文学概論Ⅱ（アメリカ文学と現在の英語教育）	アメリカの建国から19世紀までをその文学の歴史を中心に概観する。各時代の代表的な作家の功績や作品（の抜粋）に触れることで、アメリカの文学とそれを産出した文化について深く考察する能力を養成する。毎回一人ないし二人の作家を中心に扱い、その周辺の歴史背景や文化思潮とともに講義する。受講生はグループに分かれて作品の解釈や英語教育における利用法について議論を行うことが求められる。	メディア
			金沢大学	英語文学概論Ⅲ（イギリス）	英語文学概説Aの内容を踏まえたイギリス文学の歴史と変遷を扱い、その背後の文化と思想を理解する。授業ではテキストの他に実際の作品から抜粋したプリントを配布し、英語についての広範な知識の獲得を求める。授業においてはグループによる討論などアクティブラーニングを積極的に取り入れる一方で、英語コミュニケーション能力の向上を図るため、授業の主要言語は英語とする。	メディア

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 英語教育	金沢大学	英語文学概論Ⅳ(アメリカ)	アメリカの19世紀後半から20世紀後半までを、その文学の歴史を中心に概観する。各時代の代表的な作家の功績や作品(の抜粋)に触れることで、アメリカの文学とそれを産出した文化について深く考察する能力を養成する。毎回一人ないし二人の作家を中心に扱い、その周辺の歴史背景や文化思潮とともに講義する。受講生はグループに分かれて作品の解釈や英語教育における利用法について議論を行うことが求められる。	メディア
	金沢大学	英語文学演習Ⅰ(イギリス)	イギリス文学の代表的な作品を扱い、物語自体の構成要素、背後にある文化と思想、作品成立の歴史背景などを理解する。併せて、作品の文体も文法的に考察し、英語についての知識を広げる。授業においてはグループによる討論などアクティブラーニングを積極的に取り入れる一方で、英語コミュニケーション能力の向上を図るため、授業の主要言語は英語とする。	メディア
	金沢大学	英語文学演習Ⅱ(アメリカ)	英語文学(アメリカ)作品の読解を通じて様々な英語の表現に触れると共に、アメリカの文学やそれが背景とする歴史と文化について理解を深めることをテーマとする。作品読解から現れる様々な疑問について議論を重ね、作品を題材とする教材を作成するなどして将来的に受講生が行う授業に文学作品を活用するための方法を習得することを目標とする。受講者は作品を深く読解し、作品自体や作品を生み出した文化についての独自の意見を持って積極的に議論に参加することが期待される。また授業中の意見を深め、LMSへのショートペーパーで表すことが毎時間求められる。	メディア
	金沢大学	英語文学演習Ⅲ(イギリス)	イギリス文学の代表的な作品を扱い、その背後の文化と思想を理解する。併せて、作品の作風も考察し、英語の使い方についての知識を広げる。テキストは他の英語文学演習で扱われるものよりも難易度の高いものとする。授業においてはグループによる討論などアクティブラーニングを積極的に取り入れる一方で、英語コミュニケーション能力の向上を図るため、授業の主要言語は英語とする。	メディア
	金沢大学	英語文学演習Ⅳ(アメリカ)	英語文学演習Ⅱ(アメリカ)が19世紀から20世紀の短編小説の読解を行うのに対して、この授業はいわゆる“Great American Novel”と呼ばれる作品の読解を中心に行う。様々な観点からの疑問を巡るディスカッションを充実したものでできるよう、受講者は作品を深く読解し、作品自体や作品を生み出した文化についての独自の意見を持って積極的に議論に参加することが期待される。また授業中の意見を深め、LMSへのショートペーパーで表すことが毎時間求められる。	メディア
	各大学	英作文Ⅰ(基礎)	英語で文章を書くための基本的な事項を学ぶ。英語のコミュニケーションに習熟し、受講生は将来自身が英語で授業を行うための英語運用力を積極的に身につける。特にこの授業では簡潔な英語で文章を構成する方法を重点的に学ぶ。パラグラフの書き方を練習することを通じ、英語という言葉とそれによる文章の論理的構造に習熟する。教室内のコミュニケーションには必ず英語を使用することで、受講生の英語運用力を多角的に向上させる。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 英語教育	各大学	英会話Ⅰ(基礎)	日常よく使われる英会話の定型表現を学習する。受講生はいくつかのグループに分かれ、授業計画に示されたトピックに従って、ロールプレイ型の会話練習を行い、実際の場面のなかで活用する。教室では日本語での会話は禁止するので、教員の指示、教員への質問、受講生同士の会話もすべて英語で行う。また、毎回、前回の学習の確認クイズを行う。	
	各大学	英作文Ⅱ(応用)	英作文Ⅰ(基礎)で修得した、英語で文章を書くための基本的な事項を活用し英語運用の運用能力のさらなる発展を目指す。様々なジャンルの英語に触れることで、目的や場面、状況に応じた適切な英文を書くことができるようになる。明快な英文を用いた複数のパラグラフによる種々の課題の執筆を通じ、英文を構成する時の注意点を実践的に学んでゆく。また教室内のコミュニケーションに英語を使用することで、受講生の英語運用力を多角的に向上させることを同時に行う。	
	各大学	英会話Ⅱ(応用)	英語を使った中学校の英語授業の模擬演習を行う。受講生はいくつかのグループに分かれ、授業計画に示されたトピックに従って、指導案を組み立てる。作成した指導案を元に、15分程度の模擬授業を実践する。なお、教室では日本語での会話は禁止するので、教員の指示、教員への質問、受講生同士の会話もすべて英語で行っていく。	
	各大学	英作文Ⅲ(応用)	英作文Ⅰ、Ⅱで学んだ事項を踏まえ、より高度な文章を英語で書くための発展的な事項を学ぶ。このクラスは特に、論理的な文章を構成する方法の修得を重視する。教室内のコミュニケーションには必ず英語を使用することで、受講生の英語運用力を多角的に向上させる。	
	各大学	英会話Ⅲ(応用)	アカデミックスピーチとディスカッションを行う。受講生は、授業計画の内容に沿ったプレゼンテーションを行い、その後全員で質疑応答をする。教室では日本語での会話は禁止するので、教員の指示、教員への質問、受講生同士の会話もすべて英語で行う。なお、語彙力向上のための確認テストを毎回実施し、ディスカッションで用いる語彙の増強もはかる。	
	各大学	英作文Ⅳ(応用)	英作文ⅠからⅢにおける習得技術を基礎に、「アカデミック・ライティング」の技法を駆使しての論理的な英文エッセイを学んでいく。各自が設定したテーマに関するリサーチ方法の授業も含め、卒業論文の作成などにも援用できる実践的な授業となる。教室内のコミュニケーションには必ず英語を使用することで、受講生の英語運用力を多角的に向上させる。	
	各大学	英会話Ⅳ(応用)	リスニング教材を使用し、留学可能なレベルのコミュニケーション力を養う。上級レベルのリスニング教材を聴き、コミュニケーション力の向上を目指す。授業はディクテーションが中心となる。自分が聞き取った内容がどれだけ書き取れるかを複数回に分けて確認し、語彙・音連結・内容などの観点から課題を分析する。なお、語彙力向上のための確認テストを毎回実施する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	富山大学	異文化理解 I (英語教育の中の異文化理解)	異文化理解や異文化コミュニケーションに関する英語文献を読んだり、留学生との交流やディスカッションを通して、文化の概念や文化の多様性や関連する諸問題、異文化交流の意義を理解するとともに、様々な英語圏の国の歴史・社会・文化・信念・信条について学ぶ。そして英語教育における異文化理解や異文化コミュニケーションの重要性や役割を理解した上で、関連する知見を身に付けることを目指す。	メディア	
			異文化理解 II (英語教育の中の異文化理解)	異文化理解や異文化コミュニケーションに関する英語文献を読んだり、関連する映像を視聴したり、留学生との交流を通して、現代社会における異文化コミュニケーションに関連する諸問題や課題、(非)言語コミュニケーションと文化との関係性、そして異文化交流の意義を理解するとともに、様々な英語圏の国の歴史・社会・文化について学ぶ。そして英語教育において活かすことができる知見を身に付けることを目指す。	メディア
			異文化理解 III (応用)	異文化理解 I、II で学んだことを踏まえ、専門的知識を高めることを目指す。具体的には、特に様々な国々の「(非)言語コミュニケーション」に関わる領域と文化の関係性、そして様々なコミュニケーション・スタイルについて、特に英語圏の国々と日本のコミュニケーション・スタイルとの比較に関する英語の専門書の購読を通じて専門的知識を高める。また留学生とのディスカッションなどを通じてコミュニケーション・スタイルの違いや共通点を体験することで、異文化理解や異文化コミュニケーションへの関心を高め、その重要性を認識する。	メディア
			異文化理解 IV (応用)	異文化理解や異文化コミュニケーションに関連する文献を読んだり、映像視聴を通じて、それに関連する様々な問題に気づき、解決法について考える。また英語圏の文化の多様性についての理解を深め、留学生との交流を通してグローバル社会において効果的で適切なコミュニケーションを行うために必要な事柄について考えるとともに必要な知識を身につけることを目指す。	メディア
			異文化理解演習 I	植民地時代からアメリカ建国期の知識人(ベンジャミン・フランクリン、トマス・ジェファソン)、当時の思想や文化事象に関する英語文献や文学作品を読んだり、映像を視聴したりすることを通して、アメリカの歴史や社会、そしてアメリカ文化、思想、多様性がこれまでどのように生まれ形成されたのか、そのプロセスについて学ぶとともに現状とそれに関連する課題について考える。	メディア
			異文化理解演習 II	多様な人種が共存する現代のアメリカ社会が抱える問題について、これまで学んできた異文化理解、異文化コミュニケーションの視点および枠組みから考察する。具体的には、人種(問題)やマイノリティに関連する映像を視聴し、異文化やマイノリティの扱われ方、描かれ方についての分析をしたり、グループ・ディスカッションや留学生を交えたディスカッションをしたり、専門英語文献の講読を通じて、さらなる専門的知識を深める。	メディア

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	英語教育	富山大学	英語科教育法Ⅰ（富山県の教育実践を含む）	本授業では、中学校及び高等学校の英語教育の基軸となる学習指導要領及び教科用図書（教科書）について理解するとともに、学習到達目標及び年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画についての理解を深める。また、富山県での実践を踏まえつつ、小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領並びに教材、教科書について知るとともに、小・中・高等学校の連携の在り方についても学ぶ。	メディア
		富山大学	英語科教育法Ⅱ（富山県の教育実践を含む）	本授業では、中学校及び高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「話すこと〔発表〕」及び「書くこと」の指導及び複数の領域を統合した言語活動の指導方法について理解し身に付ける。富山県の実践を踏まえ、生徒の特性や習熟度に応じた指導方法の基礎について理解を深める。学んだことに基づき模擬授業を行い、学生同士で授業研究を経験し省察方法を学ぶ。	メディア
		金沢大学	英語科教育法Ⅲ（石川県の教育実践を含む）	英語科教育における教授・学習の理論や学習指導要領に基づいた効果的な教育実践のあり方について考察する。主に第二言語習得、学習指導要領、外国語教授法、学習者要因等を中心に取り上げ、理論的・実践的に学ぶ。教員による解説に加え、受講生が各自指導の原理・原則など土台となる考え方を確立していくために、各自の経験や知識、石川県での実践の現状や課題を踏まえて議論できる機会を設ける。	メディア
		金沢大学	英語科教育法Ⅳ（石川県の教育実践を含む）	英語科教育における教授・学習の理論や学習指導要領に基づいた効果的な教育実践のあり方について考察する。主に学習指導要領、言語形式、5領域の指導等を中心に取り上げ、理論的・実践的に学ぶ。教員による解説に加え、受講生が各自指導の原理・原則など土台となる考え方を確立していくために、模擬授業や各自の経験や知識、石川県での実践の現状や課題を踏まえて議論できる機会を設ける。	メディア
		各大学	英語科教育法Ⅴ	英語科教育における実践的な授業力の向上を目指し、教授・学習の理論に基づいた効果的な教育実践のあり方について学ぶ。まず、教師の資質や授業運営などの基本的な知識を取り上げ考察する。続いて、聞くこと・読むことの領域について指導の方法・技術の基本を学んだ後、受講生による模擬授業を行い、活動等の考案、実施、省察を行う。	
		各大学	英語科教育法Ⅵ	英語科教育における実践的な授業力の向上を目指し、教授・学習の理論に基づいた効果的な教育実践のあり方について学ぶ。話すこと・書くことの領域について指導の方法・技術の基本を学んだ後、受講生による模擬授業を行い、活動等の考案、実施、省察を行う。さらに、学んだ知識・技術を踏まえて、実践の観察・分析、指導計画の立案を行う。	
		各大学	英語科教育法Ⅶ	英語科教育における実践的な授業力の向上を目指し、受講者各自が教育実習で行った英語科授業の実践を振り返り、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの領域の指導と評価に焦点を当て、それぞれの実践上課題を見だし、それらを改善するために必要な教授・学習の理論や指導技術を学びつつ、指導案の作成、模擬授業の実施、評価方法の考案、省察等の演習を行う。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	英語教育	各大学	英語科教育法Ⅷ	英語科教員として必要とされる実践的な指導力の向上を目指す。特に目標を踏まえた、指導と評価に関する知識を身につけるとともに、その知識を授業という場で活用できるための実践力を身につける。各領域の指導と評価に焦点を当て、必要な理論や指導技術を学びつつ、指導案の作成、模擬授業の実施、評価方法の考案、単元計画の作成等の演習を行う。	
			金沢大学	英語学特別演習Ⅰ	対照言語学的観点から日本語と英語を対比することにより、日本語、英語の両言語をより客観的にとらえる視点を持つ。日本語と英語の言語類型論的特徴を音声・形態論・統語論・意味論の観点から対照していき、このような面の違いが実際の言語使用にどのような影響をもたらすかについて解説していく。それと並行して各自日英語対照に関するテーマを決めてレポートする。	
			金沢大学	英語学特別演習Ⅱ	日本語と英語の表現構造の違いに焦点を当て、客観的に同じ状況を表すのにどうして日本語と英語では異なった事態の切り取り方をするのかについて、いままで提示されてきた諸説を紹介し、具体的になぜ同じ状況を表現するときの構造が異なるのかについて、参加者同士の意見交換も交えながら掘り下げていく。また、各自表現構造の違いに関する具体的な現象をとりあげてレポートする。	
			富山大学	英語学特別演習Ⅲ	英語学の視点から文法現象をつぶさに見つめ、新しい経験的発見を引き出すための観察力を養うことを目的とする。この目的のために、(1) 代表的な先行研究による事実観察を十分に理解する、(2) その事実観察の経験的な妥当性を検討する。(1) に関しては、伝統的な先行研究のなかから受講者の興味に合わせた論文を取り上げる。(2) に関しては、洋画・電子コーパス・ネイティブチェックなど身の回りにある言語資料と照らし合わせながら検証活動を行う。	
			富山大学	英語学特別演習Ⅳ	英語学の知識を使って文法現象を正しく予測し、新しい理論的分析を提案するための説明力を養うことを目的とする。この目的のために、(1) 比較的最近の英語学における理論的な動向を理解する、(2) 受講者が自分なりの新しい理論的な提案を試みる。(1) に関しては、テーマにもよるができるだけ2000年以降の研究論文を中心に取り上げる。(2) に関しては、受講者が各自の提案内容を発表し、担当教員および他の受講者との意見交換を通じて理解を深める。	
			金沢大学	英語文学特別演習Ⅰ	英語文学作品を学術的に読むための、伝統的な文学批評理論を学ぶ。文体論や伝記批評、物語の形態論といった伝統的な批評分野の考え方を扱い、英語文学作品の読解に援用する演習を行う。受講学生は各人の興味に合わせて、対象作品と批評方法を選び、自分で作品批評ができることを目指す。難解な英語と高度な内容を扱った、発展的内容となる。	
			金沢大学	英語文学特別演習Ⅱ	英語文学作品を学術的に読むための、ポスト構造主義以降の文学批評理論を学ぶ。ジェンダー論、ポスト植民地主義批評、エコロジー批評といった近年の批評理論を用いて、英語文学作品の読解演習をする。受講学生は各人の興味に合わせて、対象作品と批評方法を選び、自分で作品批評ができることを目指す。難解な英語と高度な内容を扱った、発展的内容となる。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	英語教育	富山大学	異文化理解特別演習 I	この授業では、異文化理解、異文化コミュニケーション、アメリカ及びイギリス文化をキーワードとして、卒業論文執筆のための研究テーマ探しに繋がるよう、先にあげたキーワードに関連する様々な英語の専門書や論文を購読する。また最近の関連する英語論文を精読したり、読んだ論文をまとめたり、ディスカッションをしたりして専門的知識をさらに深めるとともに論文作成に必要な知識と技術を養うことを目指す。	
			富山大学	異文化理解特別演習 II	この授業では、「異文化理解特別演習 I」を踏まえ、各自が異文化理解、異文化コミュニケーション、アメリカ及びイギリス文化などのキーワードにつながる研究テーマを設定し、卒業論文執筆のために各自が選んだ研究テーマにそった先行論文や関連する論文および専門書の精読、そしてそれらの論文をまとめたり、読んだ論文に関する発表およびほかの学生たちとのディスカッションを通じて、専門的知識を深めるとともに論文作成に必要なスキルをさらに高めることを目指す。	
			金沢大学	英語教育学特別演習 I	英語科教員として様々な課題について理解したり、解決したりするためにテーマを設定し、追究しながら、研究を行うために必要な知識や技能を学ぶ。具体的には、先行研究や実践などの概観を通して、自分が追究したい研究課題の設定を行う。そして、研究課題を踏まえて、研究を進めるための研究方法やデータ収集方法、分析方法などを学ぶ。	
			金沢大学	英語教育学特別演習 II	英語科教員として様々な課題について理解したり、解決したりするためにテーマを設定し、追究しながら、必要な知識や技能を学ぶ。具体的には、英語科教育特別演習 I で学んだことを踏まえ、実際にその課題を追究することを通じて技能を身につけていく。最終的には報告書の作成や発表を行い、そのために必要な知識や技能の習得も目指す。	
			富山大学	英語教育学特別演習 III	本授業では、英語教育の研究とその方法についての基本を学ぶ。前半に英語教育の研究目的、意義、日本の英語教育の現状と課題、研究方法、データ収集方法、考察方法を学ぶ。後半では実際の研究論文や書籍の輪読を通じて英語教育に関連したテーマの概観を理解する。購読した論文に関する要約発表および他の学生とのディスカッションを通じて専門的知識の理解を深め、自己の追求テーマを設定する。	
			富山大学	英語教育学特別演習 IV	本授業前半では、英語教育学特別演習 III で設定した自己の追求テーマについてその意義や目的を他の学生に紹介発表する。後半では海外及び日本における先行研究を調査する。先行研究の知見を踏まえ、自己のテーマに沿った文献調査や実験、アンケートなどを実施する。実験などから得たデータの分析を行い考察を加え、発表や報告書の作成につなげる。	
			金沢大学	英語科教育実践研究 I	英語教材を理論的・専門的観点から分析することによって、考える力、読む力、表現する力を育む授業構築を学生が主体的に考察し、授業に生かすとともにあるべき授業について研究する能力を修得する。特にこの授業は、これからの英語教育に必要な教材を自ら研究すること、また優れた教育実践に学ぶことを通じて授業案を設計・立案して、発展的な実践力を養うことを目的とする。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 教育学・心理学に関する科目	金沢大学	英語科教育実践研究Ⅱ	本授業では、英語教育についての歴史的に交わされてきた論争を検証し、現在の英語教育の在り方についての批判的な視点を養う。英語という言語そのものの独自性、それらを取りまく文化やイデオロギー的背景、第二言語獲得といった抽象的なテーマから、教室でいかに英語を教えるべきかという実際的な問題まで様々な話題を扱う。	
	富山大学	英語科教育実践研究Ⅲ	英語教授法（特にリーディング・語彙指導）や第二言語習得に関する論文・書籍の輪読を通して、英語の指導および習得について、理論と実践の両面から考察する力を養うことを目的とする。授業では、(a) 先行研究を読み、(b) 内容について討論し、(c) 研究の発展可能性を提案するプレゼン・ディスカッションを行う。主体的・積極的に文献研究を行い、各自が問題意識を持って理論・実践上の研究課題を見つけることを目指す。	
	富山大学	英語科教育実践研究Ⅳ	英語科教育実践研究Ⅲの文献研究を踏まえ、課題解決のために実証的なリサーチを行う。具体的には、英語教育・言語習得の先行研究を基にした仮説（例。〇〇は効果的な読解指導法である）を検証するために、量的・質的データを収集し、客観的に分析・考察する。実験計画の立案、データ収集、分析方法、考察と、一連の研究手法を学ぶことで、卒業研究や教員として行うアクションリサーチに汎用できる実践的な教育・研究力を養う。	
	富山大学	教育心理学データ解析法A	教育実践研究においては、それぞれの教育現場で得られた実践的な知見を他の教員と共有し蓄積することが重要視される。この授業では、得られたデータを客観的に評価し、記述するための解析方法について、可能な限り体験的に習得することをねらいとする。教育実践研究から得られたデータをどのように分析すれば良いか、その考え方や適用方法、結果の解釈の仕方について、データを実際に分析しながら学んでいく。	
	富山大学	教育心理学データ解析法B	教育実践研究においては、それぞれの教育現場で得られた実践的な知見を他の教員と共有し蓄積することが重要視される。この授業では、教育心理学的データ解析法Aの内容をさらに深め、得られたデータを客観的に評価し、記述するための解析方法について、可能な限り体験的に習得する。教育実践研究から得られたデータをどのように分析すれば良いか、その考え方や適用方法、結果の解釈の仕方について、データを実際に分析しながら学んでいく。	
	富山大学	教育心理学研究法	教育実践においては、ある教育的働きかけが「効果」があるのかどうかを常に検討する必要がある。この講義では、そのような効果を捉えるためにはどのようなことに留意する必要があるのかについて、研究法の観点から解説する。具体的には、実験法、調査法、観察法、面接法の4つを取り上げ、それぞれに必要な思考法を修得する。	
	富山大学	教育心理学実験法	教育実践研究においては、客観的な知見の蓄積が重要である。この授業では、教育心理学の研究手法の一種である実験法について、演習を通して学んでいくことを目的とする。複数の心理実験を体験し、レポートにまとめることで、客観的なデータの収集方法、結果のまとめ方、報告の仕方について実践的に学習する。この授業を通して、科学的な知見を蓄積することの重要性を理解し、教員のリテラシーを身に着ける。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 心理学に関する科目	富山大学	教育臨床心理学A	学校場面では教員が心理や福祉の専門家と多様な協働を通じて子供たちの支援に当たる必要がある。教育臨床心理学Aでは、特に子供たちの心理面のケアについて、教師として支援する方法と、他の専門家や外部機関との連携をより構築していく方法を学ぶための基盤として、教育場面で遭遇する子供に生じうる心理的問題や課題について触れ、どのような対応が考えられるかを事例をもとに理解を深める。	
	富山大学	教育臨床心理学B	学校場面では教員が、心理や福祉の専門家と多様な協働を通じて子供たちの支援に当たる必要がある。教育臨床心理学Bでは、教育相談で扱った内容のより実践的な子供たちへの関わり方についてカウンセリングの理論を参考に解説し、実践的に子供たちの悩みを適切な成長につなげていく方法について実践的に学ぶことを目的とする。	
	富山大学	教授・学習心理学演習	個別最適化学習に関する教授・学習心理学の理論を踏まえ、どのように個別最適化学習を実践するのかについて演習形式で学習する。学習者一人一人の能力や特性をアセスメントするための理論と方法や、アセスメント内容を踏まえた学習支援計画の立て方、学習支援の実施方法や展開、省察の仕方について学ぶ。学習内容を踏まえ、実際に個別学習支援の演習を実施し、ケース報告とケース検討を通して、実践的に学びを深める。	
	富山大学	臨床心理実習	富山県教育委員会との連携事業である「心のサポーター」の活動を行う。具体的には、富山県内の小・中学校に学生を派遣し、その中で児童生徒の悩み相談等を行う。本講義では、富山県教育委員会での事前説明会や、ロールプレイなどの実践形式の演習を含めた事前指導、ケースカンファレンスや振り返りを含めた事後指導を含む。なお、本講義は2名の教員が事前説明会や事前事後指導を複数体制で行う。	
	富山大学	教育心理学ゼミナール	教育心理学的観点から教育現象を捉え、学生自身で問題を発見し、それを解決する手法を学ぶ。具体的には、先行研究の文献購読、先行研究および教育現場での経験から導かれた問題の発見と設定、問題を解決するための方法論の立案、適切なデータ収集の方法と解析の演習、得られた結果についての適切な解釈の修得等を行う。本講義では複数名の教員がそれぞれのゼミナールを担当し、希望する学生がそれぞれのゼミナールを受講する形式で行われる。	
	富山大学	教育法規A	教職を目指す者として、教育法規に関する必要最低限の知識を習得することを目指す。教育法規の基本原則を学ぶとともに、特に憲法と教育基本法の関係性について理解を深め、学習権や教育の機会均等について検討することで、教育法規を国民の教育を受ける権利を保障する拠り所としてとらえ、教育現場でこれらの法規を活用する方法について考察する。	
	富山大学	教育法規B	教職を目指す者として、教育法規に関する必要最低限の知識を習得することを目指す。特に、憲法・教育基本法と教育関連法規の関係性について理解を深めた上で、教育裁判と判例の形成について検討し、現代社会の急速な変化の中でおこる様々な教育上の現象と教育法規との関わりについて認識し、教育現場でこれらの法規を活用する方法について考察する。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 教育学・心理学に関する科目	富山大学	教育臨床学A	現代社会の変容がもたらす学校教育の諸現象を、教師としていかに捉え、熟考し、子どもの豊かな学びを実現するための授業づくりを行うことが重要なのかについて、教育の臨床哲学(教育臨床学)の視点から考察する。主に、デューイの教育論やノディングズのケアリング論、「聴くこと」の哲学やナラティブ・アプローチ等、教育の臨床哲学に関する基本的な考え方を理解する。	
	富山大学	教育臨床学B	現代社会の変容がもたらす学校教育の諸現象を、教師としていかに捉え、熟考し、子どもの豊かな学びを実現するための授業づくりを行うことが重要なのかについて、教育の臨床哲学(教育臨床学)の視点から考察する。主に、子どもの貧困問題や外国籍児童生徒の教育、授業における対話の在り方や子ども主体の活動の教師役割等について、具体的事例を通して考察を深める。	
	富山大学	教育倫理学A	教師としての倫理規範の確立や倫理的判断力の育成が目的である。ハラスメントや体罰をしてはいけないと誰もが「わかっている」にもかかわらず、そうした事例は後を絶たない。本科目では、善悪について知ることと行うことをめぐる古典的議論と接続・往復し、なぜこのようなことが起こってしまうのか考察・議論することで、教師としての倫理規範の確立を目指す。	
	富山大学	教育倫理学B	教師としての倫理規範の確立や倫理的判断力の育成が目的である。学校の道徳教育と政治的・宗教的信念の不適切な教え込みは何が違うのだろうか。本科目では、こうした教育的行為の適切さ／不適切さの境界線やその根拠を考察・議論し、また教育をめぐる倫理的論点を取り上げることで、教師としての倫理的判断力の育成を目指す。	
	富山大学	教育学ゼミナール	教育学的視点から教育現象を捉え、学生自身で問題を発見し、それを解決する研究手法を学ぶ。先行研究の文献収集の仕方、文献の読み方、研究ノートの作り方等を学び、一次文献の読解・検討、事例の収集・分析・解釈等を行い、自らの研究内容を根拠をもって論理的に書き上げることを目的とする。担当教員の専門分野ごとにクラス分けし、各クラスにおいて、教員や他の履修者との討論を中心に演習を行う。	
	金沢大学	教育・心理基礎論A	<p>(概要) 本授業は人間の成長と発達、人間社会の形成と維持、発展に不可欠な「教育」の営みについて教育学と心理学それぞれの専門的な知見から総合的に考察することを通して、教職に就く履修者が幅広い視野と深い洞察力をもって現代の教育課題に応答するための基礎的な力を修得することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全8回) (34 鳥居和代／1回) 教育を多角的に考察する意義 (78 平石晃樹／2回) 道徳教育から見た現代の教育課題 (34 鳥居和代／3回) 教育史から見た現代の教育課題 (74 土屋明広／4回) 教育制度論から見た現代の教育課題 (33 土井妙子／5回) 教育方法学から見た現代の教育課題 (70 上森さくら／6回、7回) 教育実践教論から見た現代の教育課題 (77 原田克巳／8回) 教育臨床心理から見た現代の教育課題</p>	オムニバス方式

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	教育学・心理学に関する科目	金沢大学	教育・心理基礎論B	<p>(概要) 本授業は人間社会と不可分な教育的営みについて、哲学、歴史学、法律学、方法学、臨床心理学など多様な専門家がそれぞれ専門的な視点から具体的な課題をまじえて議論することで、教職に就く履修者が幅広い視野と深い洞察力をもって現代の教育課題に応答する実践的な力を修得することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(34 鳥居和代／1回) 教育をめぐる現代的課題をどのように論じるか</p> <p>(78 平石晃樹／2回) 教育哲学から見た現代の教育課題に関する議論</p> <p>(34 鳥居和代／3回) 教育史から見た現代の教育課題に関する議論</p> <p>(74 土屋明広／4回) 教育法制度論の見た現代の教育課題に関する議論</p> <p>(33 土井妙子／5回, 6回) 教育方法学(学習指導を含む)から見た現代の教育課題に関する議論</p> <p>(70 上森さくら／7回) 生活指導論のから見た現代の教育課題に関する議論</p> <p>(77 原田克巳／8回) 教育臨床学・学校心理学のから見た現代の教育課題に関する議論</p>	オムニバス方式
			金沢大学	教育学・心理学演習A	<p>本授業は「教育・心理基礎論A」、「教育・心理基礎論B」における学習項目について履修者が、各自の問題関心に基づく深い学習と教員・他の履修者との討論を通して、教育学・心理学諸分野の高度な知識と研究手法を修得することを目的とする。担当教員の専門分野ごとにクラス分けし、各クラスにおいてそれぞれ全8回の演習を行う。</p>	
			金沢大学	教育学・心理学演習B	<p>本授業は「教育・心理基礎論A」、「教育・心理基礎論B」、「教育学・心理学演習A」における学習内容を前提に、履修者が理論的、実践的、臨床的に高い専門性を修得することを目的として、履修者自ら設定した課題の研究発表、教員・他の履修者と討論を中心に進めていく。担当教員の専門分野ごとにクラス分けし、各クラスにおいてそれぞれ全8回の演習を行う。</p>	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保育士に関する科目	富山大学	保育原理Ⅰ	本科目では、保育の意義及び目的、わが国における保育に関する法令及び制度、保育所保育指針における保育の基本について扱う。保育の意義及び目的として扱うトピックは、保育の意義と目的、保育の理念と概念、子どもの最善の利益と保育、子ども家庭福祉と保育、保育の社会的役割と責任がある。次に、保育に関する法令及び制度としては、子ども家庭福祉の法体系における保育の位置付けと関係法令、子ども・子育て支援新制度、保育の実施体系がある。最後に、保育所保育指針における保育の基本としては、保育所保育指針、保育所保育に関する基本原則、保育における養護、保育の目標、保育の内容、保育の環境・方法、子どもの理解に基づく計画・実践・記録・評価・改善の過程とその循環がある。	
		富山大学	保育原理Ⅱ	本科目では、保育原理Ⅰで扱う、保育の意義及び目的、わが国における保育に関する法令及び制度、保育所保育指針における保育の基本の内容の理解をもとに、それらがどのような歴史の変遷を経て現代に至っているかを理解する。具体的には、国内外の保育の思想と歴史の変遷及び国内外の保育の現状と課題について扱う。まず保育の思想と歴史の変遷において扱うトピックとしては、近代の諸外国の保育の思想と歴史、日本の保育の思想と歴史がある。次に保育の現状と課題としては、最新の諸外国の保育の現状、日本の保育の現状がある。それぞれについて、現状を取り扱いつつ、課題も明確にしたうえで、これからの保育について考察する。	
		富山大学	乳児保育Ⅰ	認定こども園や保育所においては3歳未満児の保育が必要である。また、発達の連続性をふまえた教育や保育を実践するにおいても3歳未満児の発達や保育について学ぶ必要がある。授業では、3歳未満児の保育の意義や目的、役割について扱うとともに、データや資料を用いてディスカッションや調べ学習を行いながら、3歳未満児の保育の現状や課題、保育の内容や運営体制についての基本的な知識を習得する。	
		富山大学	乳児保育Ⅱ	乳児保育Ⅱの授業では、3歳未満児の発達は個人差が大きいことをふまえつつ、月齢や年齢ごとの身体的な成長や運動発達、言語発達、社会的発達についてDVD等の映像を視聴するなどの方法を取りながら扱う。また、子どもの発育や発達をふまえた保育とその展開について、事例や絵本・玩具等の材料を用いながらの調べ学習、グループディスカッション、乳児模型を用いた実習を行うことで、乳児保育の具体についての理解を促すことを目的とする。	
		富山大学	乳児保育Ⅲ	3歳未満児の保育に関する実践的態度や技術の習得を目指す。3歳未満児の保育の環境（子どもの生活リズムや動線を考慮したコーナーの設置や配置、玩具や遊具、絵本、安全への配慮など）を、調べ学習を通して理解する活動を行う。また、3歳未満児の保育に関する計画を立案したり、計画に基づいたシミュレーションやロールプレイ、保育実践等の結果を基にして計画の評価を行ったりする活動を通して、3歳未満児の保育への理解を深める。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門教育科目	専門科目	保育士に関する科目	富山大学	社会的養護Ⅰ	教育者や保育者として社会的養護の過程に携わったり、養護を受ける子どもの教育や援助を行ったりすることができるための知識の習得を目指す。授業では、社会的養護の意義、理念や概念、歴史の変遷、社会的養護を必要とする子どもの現状や課題、現在の施策や制度、実施体系等について扱う。また、虐待その他の環境上の理由や非行、障害などにより社会的養護を必要とする子どもを発見し、その子どもと家庭の現状や課題を把握し、子どもについて福祉的措置を行うの流れとその根拠となる法律についても扱う。	
			富山大学	社会的養護Ⅱ	社会的養護を受ける子どもたちへの理解が深まることを目指す。授業では、養護の形態には施設養護と家庭養護があること、施設養護の現状と課題、家庭養護の現状と課題、子どもの人権擁護をふまえた近年の養護形態の動向について扱う。また、社会的養護に携わる専門職と彼らに求められる役割についても学ぶ。さらに、福祉的措置として社会的養護を受けることになった子どもの生活やその後の進路について事例や統計資料等を用いながら学ぶとともに、子どもの健全な成長・発達や自立の支援についても学ぶ。	
			富山大学	保育者論	本科目では、保育者の役割と倫理について、役割・職務内容と倫理について学ぶ。次に保育士の制度的位置付けについて、児童福祉法における保育士の定義と資格・要件、欠格事由、信用失墜行為及び秘密保持義務等について学ぶ。次に、保育士の専門性について、保育士の資質・能力、養護及び教育の一体的展開、家庭との連携と保護者に対する支援、計画に基づく実践と省察・評価、保育の質の向上について学ぶ。次に、保育者の協働について、保育における職員間の協働、専門職間及び専門機関との連携・協働、地域における連携・協働について学び、保育者の資質向上とキャリア形成については、資質向上に関する組織的取組、保育者の専門性の発達とキャリア形成、組織とリーダーシップについて学ぶ。	
			富山大学	子どもの保健Ⅰ	(概要) 保育において子どもの健康及び安全の確保は、子どもの生命の保持と健やかな生活の基本である。本講義では、子どもの健康状態を把握し、増進するための基礎を理解することを目標とし、乳幼児の発達と成長、子どもの生理機能と子どもたちの健康状態を把握する方法を講義する。 (オムニバス方式／全8回) (18 宮一志／1回～4回, 6回～8回) 子どもの健康に関する現状、乳幼児の発達と生理機能、健康状態の把握について担当する。 (10 小林真／5回) 保育所における発育測定の実際について担当する。	オムニバス方式

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 保育士に関する科目	富山大学	子どもの保健Ⅱ	(概要) 保育において子どもの健康及び安全の確保は、子どもの生命の保持と健やかな生活の基本である。本講義では、子どもの健康状態を把握し、増進するための基礎を理解することを目標とし、子どもの免疫発達や感染症、頻度の高い疾患を概説し、安全を確保する方法を講義する。 (オムニバス方式/全8回) (18 宮一志/1回～2回, 4回～8回) 子どもの免疫発達や感染症、頻度の高い疾患、緊急時対応について担当する。 (10 小林真/3回) 保育所における感染症対策について担当する。	オムニバス方式
	富山大学	子どもの食と栄養Ⅰ	子どもの健やかな発育・発達のために食事の摂り方は重要である。本授業では、子どもの食生活を考える上で基盤となる栄養の基礎知識を習得すること、妊娠期(胎児期)と授乳期における栄養と食生活の特徴を理解することを到達目標とする。演習を通して、妊娠期(胎児期)から生涯を通じた健康における適切な栄養摂取の重要性についての理解を深め、保育者として実践につなげていくための能力を高める。	
	富山大学	子どもの食と栄養Ⅱ	本授業は、子どもの食と栄養Ⅰを履修していることを踏まえて進める。乳児期、幼児期、学童期、思春期の子どもの身体の発育ならびに心の発達における食生活の特徴について学び、その役割を主体的に考え、保育者として実践につなげていくための能力を高めることを到達目標とする。発達段階別に子どもの栄養や食生活の問題点と対策についてさまざまな資料を活用しながら演習を行い、その支援のあり方について主体的に考える態度を養う。	
	富山大学	社会的養護Ⅲ	児童福祉施設で生活している子どもたちの施設養護の現状と課題を理解し、支援者による基本的な支援と連携の在り方を理解するために、施設養護の種類、施設養護のプロセス、基本的な養護援助・支援、子どもの心の援助、親子関係への援助、児童福祉施設の運営管理、児童福祉施設における支援者の資質と倫理について概説する。基本的な支援の理解につながるように、具体的な事例や模擬ケース会議を想定した演習や討論を含めながら概説する。	
	富山大学	保育実習Ⅰ	この授業は保育所実習と施設実習の2つの内容からなっている。まず、保育所または幼保連携型認定こども園の0歳児クラス、1歳児クラス、2歳児クラスにおける乳幼児の発達の様相を体験的に理解する。次に保育の視点及び保育内容の指導や、養護のあり方を、実習体験を通して学ぶ。さらに実習の振り返りや保育士等からの助言指導を踏まえて部分自習・責任実習を行い、乳幼児の理解や保育の指導法への理解を深める。次に、児童福祉施設を中心とした社会福祉施設における児童や障害者に関わることを通して、社会的養護が必要な児童や障害のある児童・青年・成人の個性の理解を深める。さらに実習の振り返りや児童指導員等からの助言指導を踏まえて、福祉施設における専門的な視点のあり方を学ぶ。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保育士に関する科目	富山大学	保育実習指導Ⅰ	保育実習Ⅰに対する事前・事後指導である。事前指導においては、まず保育実習の制度や心構えについて全般的な知識を習得したあとで、各自の実習に向けた研究課題を設定する。複数の教員による指導を受けながら、保育所実習における研究課題を決定し、それを実現するための学び方を設置する。施設実習においては、各自が配属される様々な福祉施設（乳児院・養護施設、児童発達支援センター、多機能型障害者支援施設など）の特徴を主体的に学び、各自の実習に向けた研究課題を設定する。事後指導においては、各自の実習体験を振り返り、保育所や福祉施設からの実習評価に基づいて、今後の自らの学びと課題を明確にする。	
		富山大学	臨床発達心理学Ⅰ	子どもの発達のおとまずきのうち、家族関係を中心とした人間関係に起因する心の傷や、不適切な養育によって生じる脳機能の発育不全について学ぶ。また児童虐待を生じやすい4つの危険因子（親の要因・子どもの要因・家族関係の不和・社会的な孤立）について事例を通して学ぶ。これらの知識や、児童福祉論Ⅰ・Ⅱや社会的養護Ⅰ～Ⅲで学んだ知識や技能を合わせて、それぞれの危険因子に対してどのように対応すべきかを立案できるようにする。	
		富山大学	臨床発達心理学Ⅱ	発達のおとまずきのうち、家族関係を中心とした人間関係による心の傷や脳機能の発育不全が早期に解消されなかった場合に、その後の人格形成にどのような悪影響を及ぼすかを学ぶ。具体的にはB群パーソナリティ障害（反社会性パーソナリティ障害、自己愛性パーソナリティ障害、境界性パーソナリティ障害、演技性パーソナリティ障害）の基準と行動特徴、対応の仕方を学ぶ。またいくつかの事例を通して、パーソナリティ障害を抱える人（例えばモンスター・ペアレント）に対する関わり方の基礎的な知識・技能を習得する。	
		富山大学	発達福祉統計学Ⅰ	社会科学の研究に必要な統計学の基礎知識と、統計解析ソフトウェア（SPSS）の使用法を習得する。この授業ではまず、社会科学で扱う尺度の4つの水準（名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比率尺度）の特徴と可能なデータ変換について学ぶ。次に記述統計としての代表値・散布度の種類とその利用方法、探索的データ解析（箱ひげ図の活用）によるデータの概略を読み取る方法を学ぶ。また、名義尺度の関連性を検討する方法として χ^2 乗検定の原理と分析方法を学ぶ。	
		富山大学	発達福祉統計学Ⅱ	この授業ではまず、推測統計である平均値に関する検定を学ぶ。具体的には2種類の平均値を検定するt検定、3種類以上の平均値を検定する分散分析の基本的な原理と、分析結果の読み取り方を学ぶ。さらに相関係数の基本的な考え方・読み取る際の留意点について学び、相関（共分散）関係に基づいた多変量解析の基礎（重回帰分析、因子分析）の基本的な考え方と分析方法を学ぶ。これらの分析について、統計ソフトウェア（SPSS）の使用法についても学び、課題学習を通して実際に分析を行ったり結果を読み取ったりする。	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 保育士に関する科目	富山大学	地域子育て支援論演習Ⅰ	まず、富山市内の児童館が主宰する子育てサロンの活動に参加し、2歳児とその保護者に実際に関わる体験を積む。こうした体験学習を通して子育て支援に必要な基礎的技術を習得する。また児童館指導員からの助言指導を踏まえて、子育て支援サービスを提供する際の心構えや留意点についても学ぶ。さらに利用者へのインタビューなどを通して、利用者のニーズの把握・サービスの提供・評価のプロセスといった支援の立案と効果測定の基本的な考え方についても学ぶ。	
	富山大学	地域子育て支援論演習Ⅱ	地域子育て支援論演習Ⅰで学んだ知識や技能を踏まえ、利用者のニーズを把握した上で児童館指導員の助言を受けながら子育てサロンの活動を実際に企画・運営する体験を積む。子育てサロンにおける2歳児とその保護者を対象とした部分保育の立案・実施・振り返りを繰り返しながら、福祉サービスを提供する際にPDCAサイクルを円滑に進めていくことの重要性を学ぶ。これらを総括して、幼稚園教諭や保育教諭に求められる保護者支援の基本的な姿勢を主体的に考え続ける力を修得する。	
	富山大学	保育実習Ⅱ	まず保育実習Ⅰ・保育実習指導Ⅰで明らかになった自らの課題を克服するためにはどうすればよいかを実習前に十分に考える。それを踏まえて、保育士・保育教諭としての専門性を高めるために、保育所または幼保連携型認定こども園の0～5歳児クラスにおける保育体験を行う。専門性を向上させるために、どの年齢の乳幼児と関わるかについても主体的に検討する。さらに実習中の体験の振り返りと保育者からの助言指導を踏まえて、各自が課題として設定した乳幼児の理解、保育内容の理解、養護についての理解をよりいっそう深める。	
	富山大学	保育実習Ⅲ	まず保育実習Ⅰ・保育実習指導Ⅰで明らかになった自らの課題を克服するためにはどうすればよいかを実習前に十分に考える。それを踏まえて、保育士・保育教諭としての専門性を高めるために、自分が実習を行う児童福祉施設（乳児院・養護施設、児童発達支援事業所、放課後等デイサービス、障害児入所施設等）の利用者に対する専門的な支援のあり方を体験的に学ぶ。また、実習中の体験と保育士や児童指導員等からの助言指導を踏まえて、社会的に養護が必要な児童や障害のある児童についての理解を深める。	
	富山大学	保育実習指導Ⅱ	保育実習Ⅱに対する事前・事後指導である。事前指導においては、まず保育実習の制度や心構えについて全般的な知識を習得したあとで、保育実習Ⅰ・保育実習指導Ⅰで明らかになった各自の課題を改めて検討する。複数の教員による指導を受けながら、各自の課題を解決するための保育の方法を主体的に考え、実習体験に臨む。事後指導においては、各自の実習体験を振り返るだけでなく、実習施設からの評価を反省的に受け止め、将来に向けた自らの学びの課題を明確にする。	
	富山大学	保育実習指導Ⅲ	保育実習Ⅲに対する事前・事後指導である。事前指導においては、まず保育実習の制度や心構えについて全般的な知識を習得したあとで、保育実習Ⅰ・保育実習指導Ⅰで明らかになった各自の課題を改めて検討する。複数の教員による指導を受けながら、各自の課題を解決するための保育の方法を主体的に考え、実習体験に臨む。事後指導においては、各自の実習体験を振り返るだけでなく、実習施設からの評価を反省的に受け止め、将来に向けた自らの学びの課題を明確にする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（富山大学教育学部共同教員養成課程）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養教育科目	人文科学系	哲学のすすめ	哲学入門として、哲学の主要3分野である(1)形而上学(存在論、人格の同一性、死)、(2)心の哲学(あるいは認識や知覚・概念の哲学)、(3)科学哲学(科学方法論、個別科学の哲学、科学と倫理)のうちから、それぞれ入門的な話題を取り上げる。各セッションの後に、クリティカル・シンキングの時間を設け、哲学的議論を通じて、より内容を深く理解していく。授業やディスカッションを通じて、哲学的思考を養い、自分にとっての哲学的課題が何であるのかを見い出すことがねらいである。	
		人間と倫理	西洋の古代から近現代までの倫理思想、及び日本・東洋の倫理思想を素材とし、善悪、正義、幸福、人間関係の規範など、古来、人間が取り組んできた「倫理」をめぐる問題について考える。過去の思想を踏まえながら、現代に生きる我々直面する問題にどのように取り組んでいくか、他者とともによりよく生きるためにはどうすればよいかについても、考える。本授業を通して、主体的に倫理について考える姿勢を身に付けることを目的としている。	
		こころの科学	心理学の基礎的な5つの領域(認知・学習・社会・感情・人格)を中心に概観し、心の複雑さや不思議さについて理解する。また、心理学に関するさまざまなトピックスを理解することを通して、自らを取り巻く世界や「ものの見方・考え方」を再認識することで、心だけでなく物事を実証的に検討するための姿勢を学び、自分の興味関心のある分野に対して学際的に生かせることを目的とする。	
		日本の歴史と社会	日本の歴史の基本的な知識の修得を目的とし、歴史学の研究方法や考え方、研究材料の説明を行った後、日本史全般について近年話題となっている事項の解説を随時加える。さらに、富山県の歴史の個別研究を取り上げ、富山県の遺跡・史跡や立山についての説明を加えることで、学生が地域に寄与することを促すとともに、歴史研究のおもしろさを伝える。	
		東洋の歴史と社会	東アジアの核をなす中国の歴史を『史記』や『漢書』あるいは『資治通鑑』などの具体的な文献史料を読み解きながらたどるとともに、いわゆる中国文化圏ではギリシア・ローマにはじまるヨーロッパのhistoryとは異なる歴史の語りが長く行われてきたことを講義する。このことは日中韓の三国でしばしば軋轢を生む歴史問題とも無縁ではないが、高校まで学んできた世界史とは違う視点から歴史を考える姿勢を養う。	
		西洋の歴史と社会	ヨーロッパを中心に、ローマ帝国、中世ヨーロッパ、ヨーロッパにおけるキリスト教、ルネサンスと科学革命、18世紀における植民地の拡大、産業革命、近代市民社会の形成など、西洋史に関する基礎的な講義を行う。高校までに学んだ世界史の知識を再確認しつつ、一般教養として知っておくべき歴史上の人物についても、適宜説明する。様々な時代の社会の特質を理解することで時代と社会の変化を学び、現代を相対化できる豊かな視点を養う。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 人文科学系	日本文学	<p>日本文学の中で、上代から近世に至る古典の諸作品を取り上げ、その世界の内容と魅力を、その作品が作られた経緯と絡ませて解説する。その作品成立のドラマや作品の見所や古典作品の現代における再生の姿などについても言及する。日本古典文学作品について理解を深めつつ読解の力を養うとともに、それぞれの作品世界に応じて読み味わう方法を身に付け、古典作品の世界に興味・関心を持つことをねらいとする。</p>	
	外国文学	<p>西洋古典古代の文学作品を通して、多様な世界の見方と教養を身に付ける。時代も文化も異なる外国の文学作品を理解するためには、文字を読めたところで十分ではない。その作品の背景にある文化、伝統、教養についての知識を持って初めて理解することができる。作品世界に近づくことにより初めて見える世界を知る喜び、作品と対話するおもしろさを体験することで、他者を理解する感性や本を通して読み取ったことを言葉によって表現する力を身に付けることを目的とする。</p>	
	言語と文化	<p>本授業科目では、私たちに身近な日本語や富山県の民俗文化などの事例を含む日本語の諸方言や諸現象の多角的な観察と分析を出発点に、英語や時には世界のあまり馴染みのない言語などの諸現象と関連づけ、言語の多様性と普遍性についての理解を深めることをねらいとする。また、富山県の事例を取り上げ、民俗語彙との関わりを重視しながら一瞥し、日本全体における富山県の位置付け、富山県の東西差や地域差を理解する。</p>	
	音楽	<p>本講義により一般的に馴染みのない総合芸術と言われる舞台作品に焦点を当て、作品の背景や作曲家の特徴等を理解するとともに、音楽を楽しむ心、作品を尊重する心を養う。達成目標は次のとおりである。1. 舞台作品の歴史的流れを理解する。2. 作品を鑑賞し、作品の背景や作曲家の特徴、人間関係等を理解する。3. 原作がある場合は相違点を探る。4. 課題となった合唱曲を楽しんで演奏する。</p>	
	美術	<p>本授業科目は、人文科学の一領域である美術史学の視点から、美術とは一体、どのような視覚造型表現なのか、美術という芸術分野を主に構成する絵画の基本的な性格とは何なのか、そして、個々の作品を観るためには、どの程度の知識と心構えが必要となるのかを理解してもらうことを目的としている。いわば、現代の教養人が最低限持ち合わせていなくてはならない美術鑑賞作法の入門講義である。その内容は、歴史・理論系の勉学を志す学生のみならず、創作者たらんとする学生にとっても有益となる。</p>	
美術表現A	<p>本授業科目は、モチーフを描く、イメージを描く、正確に描く、といった課題を通して、多様なものの捉え方と伝え方を学ぶことをねらいとする。学生は、各課題における「描く」ことの基本理解についての説明を受けたうえで、各課題の演習に取り組み、最後にその課題を通して見えてくる「ものの捉え方と伝え方」について考える。多様な視点で事象を捉え、さらにそれを多様な手法を用いて表現するという、どのような専門分野の学生にとっても必要となる能力の素養を身につけることを目指す。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 人文科学系	美術表現B	<p>本授業科目は、立体的な造形表現を行う上で基本となる基礎的な手法を学ぶことをねらいとする。具体的には、身近な「紙」という素材を用いて様々な形（連続性のある形、強度のある形、積み上げる形等）を表現することに対する理解を深めたいうで、それらの形を表現する演習（紙立体の制作）に取り組む。達成目標は次のとおりである。1. 基本的な彫刻・立体感覚を養い想像力を身に付ける。2. 紙素材の扱い方の技術や、表現の幅を獲得する。3. 審美性や美しい表現について自らの手を動かしながら探れるようになる。</p>	
	言語表現	<p>本授業科目では、大学における図書館活用の仕方を体得し、レポート、論文等の作成に関する基礎的な考え方や具体的な技術を学ぶ。達成目標は、1. 大学における図書館活用の方法について基礎的な知識を理解すること。2. 実際にレポート作成の演習を通じて、レポート・論文等の作成技術を身に付けることである。具体的には、レポート・論文が備えるべき要素や「語句」「文」「段落」レベルでの書き方を学び、研究テーマの発想法や取材・選材活動の方法を知ること、推敲・校正の在り方や論文タイトルと論旨規定文の関係や作成レポートに関する批評に関する知識を身に付ける。</p>	
	治療の文化史	<p>現代を生きる私たちにとって、伝統的身心観に基づいた治療行為とは、どのように活用されるべきものなのか。食養生、呼吸法、睡眠や夢への向き合い方など、先人たちの取り組みを辿ることを通して、これからの治療のあり方、その可能性について考察していく。治療行為の選択にみる歴史性や、文化的特性を学ぶことを通して、自らの身心に主体的にはたらきかける姿勢を涵養することが、本授業の目的である。</p>	
	異文化間コミュニケーション	<p>本授業科目のねらいは、次のとおりである。1. 言語、文化、コミュニケーション学の基礎理論について概観し、自身のコミュニケーション・ストラテジーを自覚する。2. 外国人研究者や留学生をクラスに招き、インタビューや意見交換から異文化交流を体験し、異文化の視点を意識する。3. 異文化に関する各自のテーマを発見し、資料収集や調査等を通じて、問題解決を図る。4. 異文化に関する様々なテーマについて意見交換し、他者の視点から多角的に考え、自身の意見を確立する。</p>	
	異文化理解	<p>単に諸外国の文化を理解するだけでなく、異文化を理解することで自国の文化の深い理解に至ることをねらいとしている。異文化コミュニケーションを通して多文化世界と文化の多様性について考える。グローバル化されつつある社会の文化について学び、異文化を理解し、その対応方法を異文化間コミュニケーションとして身に付け、さらに「異文化」を通して「自文化」への理解を深める。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 社会科学系	現代社会論	<p>現代社会は様々な事象であふれている。それを読み解く学問である社会学や文化人類学、国際関係論などでは、それぞれの視座・角度から分析がなされている。本講義では、現代社会の見方を知り、自己の関心を知る中で、社会にある事象をそれぞれの興味関心に引き寄せたり、新たな興味関心を掘り起こしたりしつつ、履修者各自の学問的な追究につなげることをねらいとする。</p>	
	日本国憲法	<p>憲法の内容と歴史、日本国憲法の特質、人権論、統治機構の基礎事項を理解し、論点を考察する。</p> <p>自立した市民として、地域で、国際社会で社会生活を送るうえで、最高規範として位置づけられる憲法の価値を活かす能力を身につけられることが長期的なねらいである。そのために、個別のテーマごとに憲法の目指す理念と複数の考え方が対立する現状を理解したうえで、自分なりの意見を持てるようになることを、授業各回のねらいとする。</p>	
	国家と市民	<p>本科目は、近代以降における国家と市民のあるべき関係性について、公法学（刑法学・刑事訴訟法学など）または政治学の観点から洞察を深めるものである。たとえば、刑罰適用、先進医科学技術規制または刑事司法制度などの問題点を掘り下げることによって、また「政治的なもの」に体系的かつ分析的にアプローチすることによってである。こうした洞察を深めることにより、市民として国家をどう構成し規律するのかを理論的かつ主体的に考察できるようになることを達成目標とする。</p>	
	経済生活と法	<p>経済活動に密接に関連する法分野としては、商法、経済法、国際取引法など様々なものがあり、自由な経済活動の促進を目的とするものも、社会福祉等のためにその抑制を目的とするものもある。本科目は、それらの全体を俯瞰しまたはその一部分を掘り下げることによって、社会・経済の仕組みを法を通して理解するための手がかりを提供するものである。達成目標は次のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済活動と関わりの深い法領域についての基礎知識を修得する。 ・経済活動に関する法制度の課題について、正確な理解に基づいて議論することができる。 	
	市民生活と法	<p>法の理念と共に、私法を中心とする現代日本法の概要と体系について説明する。どのような職業についても、必ずそれぞれの業界を規制する法律や規則があり、仕事をやる上で、知っておくべき知識を学ぶとともに、細かい法令を作り出す、法の理念や市民法体系と考え方をしっかり理解する。達成目標は次のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民生活からビジネスと関わりの深い法領域についての基礎知識を修得する。 ・現代日本法の理念とその体系について理解する。 ・法の理念が法律の解釈を指導していることを理解する。 	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 社会科学系	はじめての経済学	<p>経済学の方法論及び基礎概念と現在の日本経済が抱える諸問題を理解することをねらいとし、経済学の特徴、特にミクロ経済学とマクロ経済学の方法論の違いと後者の成り立ちの歴史的背景や経済活動を測る様々な規則、それに基づくGDPなどの基礎概念を学んだ上で、関連した新聞記事や映像を参考にしながら現在の日本経済が抱える諸問題を理解する。最終的には、基本的な経済用語など、経済に関する基礎的知識を理解して、新聞記事に登場する経済時事を説明できるようになることを目標とする。</p>	
	産業と経済を学ぶ	<p>21世紀の基本的特徴の一つは、経済が「人間と自然との共生」に向けて変容・転換していくことである。産業構造、消費構造、そして地域構造の高度化に起因して形成してきた悪循環再生産構造を脱却し、その行方は調和型循環社会の実現であろうと考えられることから、本講義では、人間・経済・自然を含む循環社会の視座に立って、産業連関表などのデータ分析を通じて、循環社会の構造的仕組みをその悪循環側面と調和的循環の側面把握することを目指す。</p>	
	経営資源のとらえ方	<p>本授業科目のねらいは現代社会における個人の仕事と企業の目的をより正確に理解し、自分のキャリアを考える力を養うところにある。</p> <p>本講義では、企業と其中で働いている従業員の両方の視点から、現代社会を最も象徴する組織である企業はどのような特徴を持っているか、そして企業のビジョンや経営目標を達成するため、企業組織の中で人々はどのように分業し、協調して仕事を進めているか、更に組織内で個々人の仕事がどのように評価されているかというような問題について、具体的な事例を取り上げて解説する。</p>	
	市場と企業の関係	<p>本授業科目の目標は、マーケティングの基本的な知識を体系的に修得し、現実問題に対する応用力を養成することにある。本講義においては、環境条件の分析、標的市場の設定、マーケティング・ミックス（製品やサービスなどの提供物）の創造を主軸とするマーケティング・マネジメントの基本を学習することに主眼を置くことにする。マーケティングの基礎理論を体系的に指導することで、マーケティングの実際を伝える新聞や業界誌を読み解く能力やあらゆる組織のマーケティングを分析する視点や洞察力を養成する。</p>	
	地域の経済と社会・文化	<p>この授業では、主に日本の様々な地域を題材とし、地理学的な観点から地域の見方や考え方を検討する。</p> <p>担当教員の専門である地理学のごく初歩的な理論や分析手法を紹介するとともに、市街地再開発やまちなか居住促進、観光開発、文化の伝播、景観紛争など、地域に生起する具体的な課題を取り上げ、地域分析により検討する。それらを通して、地域の様々な現象を空間的に捉え、地域の成り立ちや課題について多角的に理解する力を養うことを授業のねらいとする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 自然科学系	自然科学への扉-A	<p>「自然科学への扉」の3つの科目はいずれも、主に文系学生を対象とし、社会生活に必要となる自然科学に対する基礎的知識とそれへの興味・関心、科学リテラシーの獲得を目的とする。特にこの科目では、初等的な物理知識（力学・熱学・波動現象・電磁気学・現代物理）の学修を通じ、自然界に起こる物理現象や身の回りにある電気機器などの機能を理解することを目標とする。</p>	
	自然科学への扉-B	<p>「自然科学への扉」の3つの科目はいずれも、主に文系学生を対象とし、社会生活に必要となる自然科学に対する基礎的知識とそれへの興味・関心、科学リテラシーの獲得を目的とする。特にこの科目では、初等的な化学知識の学修を通じ、現代社会と化学のつながりについて学ぶ。、世界を形作っている物質の基本的な性質について理解し、化学物質がもたらす地球上の環境問題を考えることができるようになることを目標とする。</p>	
	自然科学への扉-C	<p>「自然科学への扉」の3つの科目はいずれも、主に文系学生を対象とし、社会生活に必要となる自然科学に対する基礎的知識とそれへの興味・関心、科学リテラシーの獲得を目的とする。特にこの科目では、自然科学の基盤となっている数学について、高校までの数学との接続も考慮しながら、「集合と写像」「論理の基礎」など、数学の考え方の基礎、微分積分学と線形代数学の初歩、確率統計の基本事項などを、現代数学の視点に立って解説する。これにより、高校までで学ぶ基本的な数学に関する事項を現代数学の視点でとらえ直して理解できることを目指す。</p>	
	科学技術への扉-A	<p>「科学技術への扉」の2つの科目はいずれも、主に文系学生を対象とし、技術立国の市民としての科学技術の基礎知識と最先端の科学技術への興味・関心の獲得を目的とする。特にこの科目では、エネルギー技術やマテリアル工学についての基礎知識と先端研究を学習する。これにより、エネルギーや材料技術に関する諸現象や社会における役割を理解することを目指す。</p>	
	科学技術への扉-B	<p>「科学技術への扉」の2つの科目はいずれも、主に文系学生を対象とし、技術立国の市民としての科学技術の基礎知識と最先端の科学技術への興味・関心の獲得を目的とする。特にこの科目では、コンピュータや通信技術、情報処理システム、情報化社会での衣食住について、その先端研究を含めて学習する。これにより、情報化社会で必要となる基礎知識とリテラシーの獲得を目指す。</p>	
	生命の世界	<p>アストロバイオロジーの視点で、まず真の生物学とは何かを考える。更に宇宙における生物を構成する物質の形成、地球型生命の誕生から入り、水の性質と生命における水の重要性を理解することを目指す。生物生体膜の性質から細胞の形成を捉え、原核・真核生物を中心に生物大分類の枠組みを理解した後、植物の世界に入り、植物の機能から細胞を理解し、分類の基礎を学び、植物組織を理解した上で裸子植物・被子植物へと植物の進化を学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
自然科学系	社会と情報の数理	本講義では、投票を集計する制度を数理的に考察する社会選択理論の入門的な議論を行う。我々が安易に実施する多数決の問題点をはじめとし、様々な投票の集計制度の長所と短所を紹介する。投票は我々の意思を表明する場であるが、そこで得られる結論は一般的に集計制度に依存することになることを解説する。本講義を通して、1. 基本的な推論を厳密に行う能力、2. 投票制度を抽象的に考える能力、3. そのメリットや問題点を論理的に議論できる土台を身に付けることを目標とする。	
	デザインと生物	様々な生物は、そのかたちを合理的にデザインすることで、生存能力を高め、環境に適応してきた。本講義では、生物学的視点から生物の形態や構造を説明すると同時に、芸術学的視点から、生物のかたちの表現法や美について説明する。これらを通し、生物への理解を深めるとともに、機能美や生物デザインについての知識を得ることを目的とする。	
教養教育科目 医療・健康科学系	医療心理学	心の機能について科学的に扱う心理学分野について、基本的な考え方や理論、法則などについて基本的な部分の修得を目指す。具体的には、心理学の基本的な考え方や研究方法、歴史だけでなく、神経生物学的観点から心理学や本能行動と学習行動、生理的動機、内発的動機及び社会的動機、社会的学習、欲求とフラストレーション・葛藤との関連などを解説し、概説できる能力を身に付けることを目標とする。	
	概説医療心理学	心の機能について科学的に扱う心理学分野について、基本的な考え方や理論、法則などについて基本的な部分の修得を目指す。具体的には、心理学への導入、歴史や考え方、心理学の分類、研究方法、感覚と知覚、学習、記憶、動機付、適応、欲求とフラストレーション、矯正医療、情動などの基礎的な知識を身に付けることで、各項目の概説ができる知識を身に付けることを目標とする。	
	認知科学	人間の知的活動（外界の認識、記憶、推論や意思決定、意識の働き）について、心理学を基礎に、脳科学や計算機科学からの知見と併せて理解する。達成目標は次のとおりとする。1. 人間の認知機能について、その特性を理解する。2. 人間の認知機能について、その研究手法を理解する。3. 人間の認知特性の現実場面への応用について考察できる。認知科学とは何か、また、感覚・知覚の過程、注意、記憶と知識の構造、言語と文章の理解、推論と意思決定、社会的認知、意識と無意識の科学を学ぶとともに、認知科学の応用についても触れる。	
	脳科学入門	神経科学の発達に伴い、脳機能に関する研究報告が増加している。これらの研究成果は、新薬開発や臨床への応用が試みられている。しかし、世の中には“脳科学神話”が氾濫し、マスコミをにぎわしている「脳科学」には証明されていないことも多く含まれている。本講義では、脳機能に関する最新の研究成果に触れつつ、感情、注意、記憶などの脳科学研究の実際について知り、その基礎を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 医療・健康科学系	生命科学入門	<p>現代社会における生命科学を理解するうえで必要なエッセンスを学ぶ。生命の起源、生物の多様性と生態系での物質の循環、ライフサイクルと死の概念、遺伝の法則、生物の増殖と生活環、生体内部環境の恒常性と生体防御の機構などを学ぶ。前半は、生命科学の大まかな概念を理解することに重きをおき、後半は、私たちの生活に関わるテーマや発展的なテーマを紹介する。</p>	
	免疫学入門	<p>近代免疫学は、マウスとヒトを中心とする医学の一分野として急速に進歩したが、生物の持つ生体防御の機構は、細胞が誕生した時点で既に生じていた。本講義では、細胞が自己と非自己を識別する機構に始まり、植物界・動物界といった広い視点から、生物が持つ生体防御の機構と進化について考察する。また、初期の講義で担当教員が生体防御機構の概説を行った後は、講義受講者が各個にこの分野の関するテーマを定め、チュートリアル形式の講義とする。</p>	
	身近な医学	<p>医学を学ぶ必要があるのは医学部の学生だけではない。なぜなら、誰でも医学の恩恵にあずかり、健康で文化的な生活を送る権利があるからである。しかし、医学を学ぼうとしても、専門的な知識を有していないと難解に感じてしまう。本授業科目では、主に医学部の教員により、我々の身近にある疾患等を対象として医学を解説する。本授業科目により、医学についての正しい知識を得て、自分の生活を見直し、正しい予防態度を身に付け、健康維持の大切さを認識することを目的とする。</p>	
	障害とアクセシビリティ	<p>今日的な課題を踏まえ、近年の新たな障害観について学ぶことによって、ダイバーシティや異文化に対する理解を深めることを目的とする。大学における障害のある学生への支援についても触れ、共に学ぶ上で必要な理解と配慮についても考える。障害者権利条約や障害者差別解消法などの障害に関する社会的動向や、障害の概念と様々な障害の特性について理解し、実際に必要な支援や配慮について検討するとともに、グループディスカッション等を通じて、社会的な課題への探求心と解決力を養う。</p>	
	医療と地域社会	<p>本授業科目ではグローバル（グローバル＋ローカル）な観点から「医療と地域社会」の現在・過去・未来を考察する。この考察は「医療と環境を包括するQOL(生活の質)」理念を導きとし、地域社会の「幸福度」に関する議論およびユネスコの「生命倫理15原則」を参照にする。講義の全体構成は、第Ⅰ部で「風土と健康」の世界医療史、第Ⅱ部で富山の医療事情に関する人文社会科学的考察、第Ⅲ部で医療事情の文化多元論的考察を展開し、最後に「SDGs推進と地域共生社会の模索」に即して「医療と地域社会」の未来像を描く。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 総合科目系	環境	<p>環境問題には、大気汚染、騒音、振動、ゴミ問題などの日常生活に関わる問題から、地球温暖化、酸性雨、オゾン層の破壊、更に環境ホルモンなど地球規模の問題まで、非常に広範囲の内容が含まれている。本講義では、いろいろな専門分野の先生による輪講形式で、「環境」に対する多面的、学際的なアプローチを通して、我々の現代生活と環境との関わりを学び、現在及び将来に向けて我々がどのように行動すべきかを考える起点となることを目指す。</p>	
	ジェンダー	<p>現代社会のジェンダーに関わる問題について考える視点を確立するとともに、様々な領域におけるジェンダー問題を考える。安易に結論を出すのではなく、問題を多角的にとらえて深く考察する姿勢を育む。ジェンダーに関する通俗的な考え（例えば「女らしさ」や「男らしさ」に関するステレオタイプなど）を相対化することが最低限の目標とする。また、ジェンダーという問題が現代社会に深く関わっていることを理解する。</p>	
	技術と社会	<p>近年の世界は一見、原始時代と異なるように見られるが、基本的には全く変わっていない。火はエネルギーと言葉を換え、道具のもとは材料と総称されている。しかし、時代とともに科学は進歩し、火=暖かい=エネルギーという単純な構図から、人間の生死、宇宙の構成そのものをエネルギーで解釈するようになっていく。ここでは深淵で広大なエネルギー理論の解説ではなく、より生活に密着し、日頃の生活の中をふと見回すと、エネルギーがあちこちで生きている事を講義を通して実感することを目的とする。</p>	
	現代文化	<p>本講義では、地方における政治参加とまちづくりについて扱う。社会に積極的に関わるためには、その地域が抱える問題を的確につかみ、解決の方向を考え、その実現に向けて動く、という3つの力が欠かせない。「現状把握」「将来構想」「将来実践」と呼べるこれら3つを養うに当たり、授業では、講義とグループワークを通して、good citizenとなるための力を追求する。</p>	
	人権と福祉	<p>人権と福祉に関わる様々な問題に対して、多様な視点から問題提起を行うことで、それらへの認識を深める。具体的には、介護の現場に関する知識、日本における先住民問題、歴史からみた在日朝鮮人問題、被差別部落問題、障害者問題などにおける事例を紹介することで、社会でその認識を活かすことができる能力を養うことを目的とする。</p>	
	環日本海	<p>本講義では、自然・社会・経済・医療などの様々な視点から、環日本海地域及び日本海沿岸地域について学ぶ。さらに、日本海や対岸諸国、日本海沿岸地域のことについて学び、専門教育での学修に活かす能力を養う。環日本海地域について、自然・社会・経済・経営・医療などの様々な視点から分析する。まずは、北陸3県の産業構造の特徴とその成り立ちを分析し、主要企業を紹介する。次に北陸企業のグローバル化の現状を、アジアを中心にいくつかの企業の事例で紹介する。最後に、狭い分野で日本あるいは世界でのトップシェアを誇る、北陸のニッチトップ企業を紹介する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養教育科目	総合科目系	科学と社会	本講義は2つの講義内容から構成する。一つは、科学の発展や進歩を歴史的に捉えながら、科学の理論や技術の現時点における到達点を、科学を身近に体験してもらいながら多くの事例で解説することである。もう一つは、地球規模のレベルでの環境破壊や環境汚染問題について触れながら、科学の発展そのものに対する理解と評価の目を積極的に養うべく、さまざまな課題を投げかける。科学と社会生活との関わり合いという観点から、現状を再認識及び再確認するとともに未来社会のあるべき姿を展望してもらうことが、本講義の目的である。	
		アカデミック・デザイン	本講義では、最後まで真剣に付き合う過程を通して、自己や他者や社会と向き合い、自分が成長できたと実感できることを目指す。①自分を振り返る②アカデミックな学び③虚偽と欺瞞に満ちた世界と向き合う④大学精神の堅持を学ぶ。具体的には、富山県と五福キャンパス（学問体系）、大学で何を誰に学ぶのか（真の学問）、なぜ“Education first”なのか（偏見と差別）、自由研究って何だったんだらう（学問の創造性）、学問の中立性とは何か（学問と政治）などの事例を紹介する。	
		ビジネス思考	自らの職業（進路）を考える際には、実際の社会やビジネスの仕組み、そしてそこで働く人々の情報が不可欠です。しかしながら、情報が不足している中で、卒業が近づくと学生は自らの職業を選択することが求められる。本講義では、将来の職業選択に備え、次の講義内容を設定する。1. ビジネス思考とは何かを考える。2. ビジネスの仕組みを学ぶ。3. ソーシャルビジネスを考える。4. ビジネス現場の実際を学ぶ。5. 私にとって職業とは何か。人生や社会との関わりの中で、「職業とは何か」について知る。自らの人生体験を振り返りながら職業が持つ意義を考える。	
		データサイエンスの世界	様々な分野において資料やデータがどのように活用されているかを学ぶことを通じて、今後の社会で活躍するにはデータサイエンスの素養を持つことが重要であることを理解することを目標とする。大学の各部局または外部機関から講師を招き、その専門分野でのデータ活用の実際とデータを適切に扱うことの重要性及びそこで用いられるデータサイエンスの技術につき学ぶ。	
		データサイエンスの実践	データを利活用するにあたっては、統計、コンピュータを用いたデータ処理、プログラミング基礎等の知識と技術が重要になる。本授業では必修科目である「情報処理」で学んだIT技術をベースとして、それをさらに発展させたデータサイエンスの基礎技術を身につけることを目標とする。LMSを用いたオンデマンド型の授業で理論を学び、それを端末室での対面授業で実践する形式で授業を行う。	
		教養としての都市デザイン学	21世紀は都市の時代と言われ、2050年には世界の人口の7割が都市に居住すると予測されています。また、世界は少子・高齢化、地球温暖化という問題に直面しています。したがって、人口問題、環境問題に対応する、「持続可能な都市の実現」は、人類共通の課題となっています。この授業では、はじめに、現在世界が直面している共通の課題について学びます。そのあとで「持続可能な都市の実現」とはどのようなことなのか、そのためにはどのように都市をデザインすべきなのか、実践例を通して学びます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 総合科目系	SDGs入門	<p>この科目では、SDGs (sustainable development goals) という、2015年9月25日、第70回国連総会において採択された「持続可能な開発のためのアジェンダ2030」の内容を学びます。「持続可能な開発目標」(SDGs)とされているのは、17の目標に当たります。この全体像を把握し、また一部についてそれぞれの専門分野の教員から解説を受け、これからの日本や世界を生きて行くみなさんにSDGsを意識した「ものの見方」を身につけてもらいたいと意図しています。学内の教員が持ち回りで専門分野とSDGとの関連に触れながら講義形式で紹介します。</p>	
	平和学入門	<p>平和は、平和でないときに初めて実感できるものである。しかし、平和が損なわれているとき、それが何かを考える暇はない。力の前に脆く、その歴史は短く、求める人の声がかき消されがちである。平和を考えることは、平和な社会に生きている者が得られる特権であり、また責任でもあることから、本講義では、平和を真剣に考え、実現するために、現代世界が抱えている問題を的確につかみ、あるべき世界の姿を描き、その実現に向けて動く力を身に付ける。</p>	
	東アジア共同体論－政治・経済・文化－	<p>本授業科目は、富山大学の学部の枠を超えた多様な学問領域である国際経済学、国際経営論、国際政治、歴史、観光、環境、国際政治から見た地域統合、金融危機の影響、アジアの社会福祉、国際分業の方向性、観光政策、歴史認識、文化政策などの多様な内容を取り挙げる。アジア共同体論の背景と関連した政治、経済、文化の現状を知るとともに、東アジアの地域統合に向けた現状の動きに関する基礎的な知識を理解する。</p>	
	富山から考える震災・復興学	<p>本授業科目においては、被災地の災害や復興の現状や今後の計画について、富山という地点・視点から主体的、積極的に学び、今一度大震災を認識し、多角的な観点から考察する。そして、被災地との連帯感を高め、自分たちのありようを主体的に考えることが目標である。また、今後の人生の中で、東日本大震災のような未曾有な災害が発生した時の心構えについて学び、東日本大震災について、文系および理系から多角的に考える。様々なアクティブラーニング(主体的学習)により、発言力・傾聴力・論理的思考力を高める。</p>	
	環境と安全管理	<p>本授業科目では、環境マネジメントシステムについての理解を深め、環境に関連した法律についての知識や、国内外の環境問題について概要を解説するとともに、公害や労働災害の事例紹介や環境に関連した法律・国際条約、リスクマネジメントや安全衛生についても取り扱う。身の回りの環境に配慮した生活を行うために必要な知識や考え方を身に付ける。特に、環境問題や省エネルギー、リサイクルなどについて具体的な提案や取り組みができるようになることを目指す。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 総合科目系	万葉学	<p>現存する日本最古の和歌集である「万葉集」は世界に誇るべき文化遺産である。それは日本文学の原点であり、日本人の心のふるさとである。本授業科目では、「万葉集」の時代区分に従って、それぞれの時代の代表的な歌人を取りあげて、有名な歌を中心に代表作を深く読み込んでいく。日本文学の原点である「万葉集」を代表的な歌人とその代表作を中心に読み進め、その時代区分ごとの特徴等を学ぶことによって、古代文学の豊かさやおもしろさを知り、日本文学史の主流であった和歌の世界の原点を知ることができる。</p>	
	日本海学	<p>富山県は、環日本海地域全体を、日本海を共有する一つのまとまりのある圏域として捉え、過去、現在、将来にわたる本地域の人間と自然との関わりや地域間の人間との関わりを、総合学として学際的に研究しようと「日本海学」を推進している。本講義では、この日本海学と連携を保ちながら、自然科学と経済学の視点から様々な角度で北東アジアの環境を取り上げる。本地域の自然の価値を再認識し、環境問題のメカニズムや原因を知り、そして問題解決に関わる手法について理解を深め、北東アジア地域における人と自然との在り方について、自分なりの考え方ができるようになることを目標とする。</p>	
	富山大学学	<p>明治期以降の全国及び富山県における高等、中等教育機関設置に向けての動きを踏まえながら、旧富山大学の各前身校、戦後の新制富山大、富山医科薬科大学、高岡短期大学、そして三大学の統合による新富山大学設置から現在に至るまでの富山大学の歩み（歴史、教育、研究、社会貢献等）の理解を深める。これを受け、各学部の歩み（歴史、教育、研究、社会貢献等）を学び、社会的使命感を持つことを目指す。さらに、富山大学のこれまでの歩みを知り、その概要を説明できるようになる。</p>	
	とやま地域学	<p>本授業科目は、大学コンソーシアム実施科目として、富山国際大学が主催となり富山県内高等教育機関の全ての学生を履修対象者として開講する。本講義では、3つの分野から富山について学ぶ。一つは富山の歴史・文化、産業を歴史的な視点から学ぶ。次に富山の特徴でもある自然環境に着目し、水、災害、くらしなどから富山の特徴を学ぶ。これらを踏まえ、富山の将来を展望するため、富山県のデータ分析や富山県知事の政策をお聞きしながら、年配の方から若者まで活力ある富山の地域づくりについて各自が考える。</p>	
	時事的問題	<p>本授業科目では、社会がデジタルネットワークの発達により大きく変革しようとしている21世紀に、どのような視点と考え方そして行動が求められているか、いかに学修することが重要であるかを今後の大学生活に新しい視点を与える講義である。各界で研鑽と活躍をしている方の経験を事例として、その方の人生観も含めて解説することで、学生生活の価値を上げるための考え方を伝達する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 総合科目系	災害救援ボランティア論	<p>本授業科目では、災害救援ボランティア育成のカリキュラムをコアに、富山県の災害と防災対策、富山大学の研究者による独自の研究内容などを加えて、地域防災においてリーダーシップを発揮できる人材となるための学修を提供する。講義においては、危機管理医学や災害ボランティア活動の基本、地形と災害の予測、都市における減災対策、災害時の医療救援活動などを学ぶ。実習においては、普通救命(心肺蘇生法、AEDの使用法、止血法)や倒れている人をどう救うかというトレーニングを実施する。</p>	
	感性をはぐくむ	<p>「感性をはぐくむ」というキーワードを基に、芸術やデザイン、人の脳や生理、哲学など各教員の専門分野からの切り口で「感性」について考察する。豊かな感性をはぐくむために自然や社会の中に存在するいろいろな要素について考察を深める。各分野の教員から言及される感性に対する考え方を理解し、感覚や精神が果たす役割を生活の中で意識して考えられるようになること、人の持つ感性の多様性や豊かな感性から生まれるものの可能性を知り、充実した人生を切り開くための糧に出来ることを目標とする。</p>	
	日本事情／芸術文化	<p>本授業科目では、日本の文化や芸術について、伝統的なものから現代のものまで幅広く扱う。様々な日本の文化に触れ、日本文化への理解を深めるとともに、母国の文化を客観的に見る目を養うことを目指す。最初の4回は、インターネットを使って、伝統芸能、美術、音楽などの芸術や文化をテーマに情報を収集し、各自レポートを作成し、グループごとにポスター発表する。これらを通じて芸術や文化に関わる基礎知識を得る。視聴覚教材の利用、書道や華道については実技、民謡や落語では実演を通して、日本文化への理解を深める。</p>	
	日本事情／自然社会	<p>本授業科目では、統計資料や視聴覚教材を利用しながら、日本の自然、産業、社会、文化等についての理解を深め、世界と照らし合わせて、北陸地方や富山の事情についても学ぶ。具体的なテーマとしては、日本の化学と工業、環日本海地域における環境協力、日本に分布する昆虫の多様性、小泉八雲と日本の自然、木育と食育、漆ジャパンと各国の漆事情、日本の素粒子物理学への貢献、日本のパワーエレクトロニクス技術、北陸の産業と企業、日本の地殻変動と海底資源、日本のパワーエレクトロニクス技術などについて解説する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 総合科目系	学士力・人間力基礎	<p>本学学生が入学後の早い段階で、在学中の学修や学生生活に関する基礎や展望を学び、高い使命感と創造力のある人材となる必要性を意識することは、今後、大学生活を送る上で非常に有益である。本授業では、多様な個性や経験を有した履修者全員が、自ら学修上や学生生活上の計画を立てて、正課内外及び学内外において主体的に学びや取組みを実践できるよう指導・支援する観点から、多種多様な事象や知見等に対して学生が能動的に向き合い、理解し、責任を持って自己を管理する重要性を学ぶ機会を提供する。</p>	
	富山学	<p>「富山県」という地域が、どのような自然的・文化社会的基盤の上に成り立ってきたのか、その過去・現在・未来について理解を深める。さらに、富山県が世界や日本の中でどのような独自性・固有性を打ち立てているのかを理解し、地域の課題解決や活性化に向けて学生自らが考え、行動する意識を持つようになることを狙いとする。また、フィールドワークや地域の人々との対話を通して富山の歴史的・文化的な成り立ちと現状について理解し、住環境や生活にみられる富山の価値に対する理解を深める。</p>	
	地域ライフプラン	<p>本授業科目は、富山県内の各地方公共団体と連携し、地域の人々と対話する機会を提供することにより、地元富山への意識・愛情・愛着を醸成し、地域における自らのライフプランを想定・作成することを目的としている。地域の魅力や課題などを地方公共団体における施策を事例として取り上げることで、富山に住むというライフプランを具体的に想定したり、単に「住む」を超えて地域に求められる人材として地域課題にコミットするために必要な意欲や見識とはどのようなものかを考えることを促す。</p>	
	産業観光学	<p>産業観光とは、産業活動に触れることを通じて製品の製造工程などを見学・体験し、知的好奇心を満足させる観光活動のことであり、企業にとっても信頼感を増し、新たな顧客の開拓や将来の人材育成、地域貢献につながる活動である。本授業科目では、産業観光や富山の産業構造を理解すると同時に、産業観光を実際に体験することで、現在の富山県内企業を知り、富山県の既存産業の再生や新たな産業を創生することで発展してきた富山の地域イノベーションを理解することで、県内企業が共通して求める「進取の気性」「富山県を愛する心」を涵養する。</p>	
	富山のものづくり概論	<p>本授業科目は、富山の重要産業の一つである素材産業を題材にして、その歴史や現状を工学的視点で理解し、富山のものづくりの魅力学ぶ。到達目標は次のとおりとする。1. 身の回りにある製品に使われている素材の種類と機能を説明できること、2. 富山の素材産業の特徴を説明できること、ならびに3. アルミニウム製品の特徴が説明できることを到達目標とする。さらに、現場技術者との対話の場を設けて富山のものづくりの底力と魅力そして発展性を理解し、富山でのものづくりに強い興味を持たせる構成とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目系	富山の地域づくり	富山県や市町村などの地方公共団体や国は、我々が暮らすまちを住みよいものにするために、様々なサービスを提供している。かつて、まちづくりは御上が行うもので、市民がそれに対して意見を出したり、自分たちでまちづくりに取り組んだりすることはなかった。しかし、現在では行政は市民の声を上げたり、まちづくりへの市民の参画を呼びかけたりしている。そのような流れの中、国土交通省、富山県、富山市、高岡市、魚津市はどのようなまちづくりに取り組んでいるのかを事例として取り上げる。	
	薬都とやま学	300年以上の歴史を有する「くすりの富山」の始まりは配置薬業である。配置薬業が基盤となり、現在の富山県は「薬都とやま」として、製薬産業に加えて多様な製薬関連産業が発達している。本授業では、全国的に例をみない「薬都」について、医薬理工学および人文社会学的見地から多角的に紹介・考察し、富山県の特長を学ぶ機会を提供する。	
教養教育科目 外国語系	ESP I (Level-based)	本授業では、高校までに習得した英語力の基盤の上に、習熟度別に編成したクラスにおいて、「読むこと」「書くこと」「聞くこと」「話すこと（遣り取り）」「話すこと（発表）」の四技能・五領域についてバランスよく能力を伸ばすことを目標とし、後期開講のESP IIへの授業選択のための礎を構築し、さらにはその先にある、将来の専門教育に向けての基礎力を養うことを目指す。	
	ESP II (Interest-based)	前期ESP I および基盤英語 I で鍛えた英語の四技能五領域におけるスキルについて、以下の方法でさらにそれらを伸ばし、2年次以降の専門課程に必要な英語力につなげることを目標とする。 1) 担当教員の得意・専門分野ごとに「テーマ」を設定する。 2) 受講生は各自興味のある「テーマ」の授業を選択する。 3) 教員はテーマごとに受講生の興味を喚起させ、そのテーマに関する英語表現の習得を中心に英語力を向上させる。	
	基盤英語 I	本授業では以下の2つの目標を設定し授業を展開する。 1) e-ラーニングを利活用したTOEIC得点アップ [受講生]4月受験時の得点に対し、各受講生が5%から10%の得点アップを目標値として設定し、その目標達成にむけて大学が整備したe-ラーニングを活用する。 [教員] 各受講生のe-ラーニングの学習ログを点検しつつ、各担当者の方で受講生のe-ラーニングを支援する。e-ラーニングの学修状況を一定の割合で成績に加味する。 2) 英語の「読み」の方略の習得と「ライティング力」向上 習熟度別に緩やかに選定したテキスト群から教員はレベルに合致したものを選定し、各自のアプローチによって上記の目標を達成する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 外国語系	基盤英語Ⅱ	本授業では以下の2つの目標を設定し授業を展開する。 1) e-ラーニングを利活用したTOEIC得点アップ [受講生]4月受験時の得点に対し、各受講生が5%から10%の得点アップを目標値として設定し、その目標達成にむけて大学が整備したeラーニングを活用する。 [教員] 各受講生のeラーニングの学習ログを点検しつつ、各担当者の方で受講生のeラーニングを支援する。1月受験TOEIC得点と4月得点の伸びを一定の割合で成績に加味する。 2) 英語の「発信力」向上 習熟度別に緩やかに選定したテキスト群から教員はレベルに合致したものを選定し、各自のアプローチによって上記の目標を達成する。	
	ドイツ語基礎Ⅰ	基本的なドイツ語の文法の規則を理解して応用できるようになることがねらいである。本講義では、教科書で学んだドイツ語の文法事項を基に、簡単なドイツ語の文を現在形で作ることができるようになること、辞書を使いながらドイツ語が理解できるようになることを目標とする。動詞の現在人称変化、名詞と冠詞、不規則変化動詞、命令形、冠詞類、疑問代名詞、人称代名詞、前置詞、形容詞、分離動詞、不定詞句、従属接続詞の知識を修得し、整理しながら授業をすすめる。	
	ドイツ語基礎Ⅱ	ドイツ語基礎Ⅰで身に付けた能力を前提に、更に高度なドイツ語の文法の規則を理解して応用することがねらいである。教科書で学んだドイツ語の文法事項を基に、複合動詞や再帰動詞を使った文、受動形、副文など、より複雑なドイツ語の文を作ることができるようになることを目標とする。比較変化、語法の助動詞、語法の助動詞・未来形、従属接続詞、分離動詞、非分離動詞、zu不定詞句、再帰動詞、分詞、関係代名詞、不定関係代名詞、受動形の知識を修得し、整理しながら授業を進める。	
	ドイツ語コミュニケーションⅠ	ドイツ語の基礎を学ぶ。単語の発音練習や簡単な会話的表現の口頭練習と、辞書を引きながら文章を読解する練習を2つの柱として授業を進める。ドイツ語のアルファベットや単語を発音できる。基本語彙を習得して、簡単なドイツ語文を読んだり聞いたりして理解し、また簡単な内容を口頭または筆記で表現できる。さらに、ドイツ語およびドイツ語圏、ヨーロッパ文化について、ある程度の知識を獲得する。	
	ドイツ語コミュニケーションⅡ	ドイツ語基礎Ⅰ（入門修了程度）で身に付ける能力を前提に、単語の発音練習や簡単な会話表現の口頭練習と、辞書を引きながら文章を読解する練習を2つの柱として授業を進める。基本語彙をさらに修得して、前期よりは少し難しいドイツ語文でも読んだり聞いたりして理解し、また簡単な内容を口頭又は筆記で表現できるようになることを目標とする。また、ドイツ語及びドイツ語圏、ヨーロッパ文化についての知識を更に増やす。	
	フランス語基礎Ⅰ	フランス語を初めて学ぶ方を対象に、アルファベットの読み方から文の組み立て方まで、フランス語の決まりを解説する。本授業科目の履修により、実用フランス語技能検定試験5級合格程度の実力が身に付けられることを目標とする。フランス語の基礎を更に固めると同時に、日常生活に必要な会話表現を理解し、運用できるようになる。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 教育 科目	フランス語基礎Ⅱ	フランス語基礎Ⅰで身に付けた能力（入門修了程度）を前提に、日常生活に必要な会話表現を、さらに深く学ぶ。本授業科目の履修により実用フランス語技能検定試験4級合格程度の実力が身に付けられることを目標とする。フランス語の基礎を固めると同時に、日常生活に必要な基本的な会話表現を理解できるようにする。	
	フランス語コミュニケーションⅠ	フランス語を初めて学ぶ方を対象に、アルファベットの読み方から始め、発音の基礎を解説すると同時に、日常生活に必要な基本的なフランス語表現を学ぶ。本授業科目の履修により、実用フランス語技能検定試験5級合格程度の実力が身に付けられることを目標とし、併せてフランス人やフランスの文化についての知識も深める。毎回の授業では、場面に応じた会話を聴き、フランス語の会話表現、新しい単語の発音・意味・用法などについて解説する。最後に、ペアを組んで会話を復唱しながら練習することで、会話する力を身に付ける。	
	フランス語コミュニケーションⅡ	フランス語基礎Ⅰで身に付けた能力（入門修了程度）を前提に、日常生活に必要な会話表現を、さらに深く学ぶ。本授業科目の履修により、実用フランス語技能検定試験4級合格程度の実力が身に付けられることを目標とする。フランス語の基礎を更に固めると同時に、日常生活に必要な会話表現を理解し運用できる。後期修了の時点で、実用フランス語技能検定試験4級合格程度の実力を身に付ける。前期同様、毎回の授業では、場面に応じた会話を聴き、フランス語の会話表現、新しい単語の発音・意味・用法などについて解説する。最後に、ペアを組んで会話を復唱しながら練習することで、会話する力を身に付ける。	
	中国語基礎Ⅰ	現代中国語の基本的な発音ができ、聴解及び読解できることを目指す。ピンインと呼ばれる発音記号に基づき、声調を含めて正確な発音の方法を学修する。次に、基本文型に習熟するとともに、語法・文法の基本事項を学修し、平易な会話文や筆記文を理解する能力を身に付ける。テキストに沿って肯定文、否定文、疑問文や動詞述語文、形容詞述語文、名詞述語文といった文の基本構造や時間表現などの初歩的な文法を学んで理解し活用できるようになることを目指す。	
	中国語基礎Ⅱ	現代中国語の基本的な発音ができ、聴解及び読解できることを目指す。ピンインと呼ばれる発音記号に基づき、声調を含めて正確な発音の方法を学修する。次に、基本文型に習熟するとともに、語法・文法の基本事項を学修し、平易な会話文や筆記文を理解する能力を身に付ける。テキストに沿って前置詞・助詞・助動詞・補語などの基本構造や比較・使役・受身などの文法を学んで理解し活用できるようになることを目指す。	
	中国語コミュニケーションⅠ	現代中国語の基本的な発音ができ、聴解及び読解できることを目指す。本授業科目では、基本的な会話文の理解と発音練習、例文を中心とした言い回しの解説、ヒアリング・スピーキングなど表現の練習のサイクルを繰り返し行う。これらを通し、発音をマスターすることを目指す。また、言葉の文化的背景である中国社会の諸相を幅広く視野に納め、中国文化をより身近なものにするよう工夫し、必要に応じて中国の映画などの映像教材も利用する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 外国語系	中国語コミュニケーションⅡ	<p>本授業科目では、テキストの本文や例文の朗読を通して、ピンインの読み方を繰り返し復習し、中国語がより正確に発音できるようになることを目指す。併せて、自己紹介や簡単な旅行会話や手紙文などの中国語表現を修得する。基本的な会話文の理解と発音練習、例文を中心とした言い回しの解説、ヒアリング・スピーキングの練習のサイクルを繰り返すことにより、発音をマスターすることを目指す。また、言葉の文化的背景である中国社会の諸相を幅広く視野に納め、中国文化をより身近なものにするよう工夫し、必要に応じて中国の映画などの映像教材も利用する。</p>	
	朝鮮語基礎Ⅰ	<p>本授業科目では、文法の理解と修得に比重を置き、文字の読み書き、発音のルール、現在終止形、否定表現、疑問表現を解説する。これらを学ぶことで、朝鮮語の文字、発音、短い文章を理解し、作文できるようにすること、また、朝鮮語を表す文字であるハングルを修得し、作文できるようにすることを目指す。また、朝鮮語の基礎を学ぶと同時に、言葉の学修を通じてその背景にある文化についても取り上げる。</p>	
	朝鮮語基礎Ⅱ	<p>本授業科目では、朝鮮語基礎Ⅰで身に付けた能力を前提に、文法の理解と修得に比重を置く。連体形、接続形、補助用言、待遇法[上称・略待上称・下称・略待]、尊待表現、未来終止形、間接話法を解説する。これらを学ぶことで、複雑な文法を理解し、表現の幅を広げるとともに、音の連続である朝鮮語を聞いて、意味のまとまりに区切る力を養うことを目標とする。また、朝鮮語の基礎を学ぶと同時に、言葉の学修を通じてその背景にある文化についても取り上げる。</p>	
	朝鮮語コミュニケーションⅠ	<p>本授業科目では、言語知識の基礎を学びながら、韓国語、韓国の社会・文化に触れるとともに、4技能（話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと）を総合的に学修することで、韓国語能力試験（TOPIK 1）の合格を目指す。具体的には、韓国語の概説、文字、助詞、指定詞、存在詞、位置名詞、否定形、不可能形、数詞についてを学んだ後、挨拶や感謝の言葉、有声音化を学んだ後、定型的な謝罪や電話のかけ方、日付を尋ねる、地図を見ながらの簡単な会話を身に付ける。</p>	
	朝鮮語コミュニケーションⅡ	<p>本授業科目では、朝鮮語コミュニケーションⅠで身に付けた能力を前提に、韓国語、韓国の社会・文化に触れるとともに、4技能（話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと）を総合的に学修することで、韓国語能力試験（TOPIK 1）の合格を目指す。具体的には、日常生活における会話を学んだ後、日記の書き方や朗読を通して、作文や発音を学ぶ。また、韓国の映画やドラマ、歌を用いて、台詞の社会的・文化的背景を考察する。</p>	
	ロシア語基礎Ⅰ	<p>現代ロシア語の初級文法を学修する。ロシア語のアルファベットの読み方・書き方からはじめ、名詞の性・数と格変化、人称、所有代名詞、動詞の活用、形容詞・副詞の使い方など初歩的な事項を修得する。ロシア語のアルファベットの読み方・書き方を学ぶことや基本的な文法を理解し、短文が書けるようになることを目指すと同時に、ロシア語の語彙力をつけ、簡単な文の意味が理解できる能力を養う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 外国語系	ロシア語基礎Ⅱ	現代ロシア語の初級文法を学修する。「ロシア語基礎Ⅰ」で身に付けた能力を前提に、定動詞と不定動詞、動詞の未来形、完了体と不完了体、数詞を使った表現など、より高度な文法事項を修得する。本的な文法を理解し、短文が書けるようになることを目指すと同時に、ロシア語の語彙力をつけ、簡単な文の意味が理解できる能力を養う。また、辞書で単語を調べることができるようになる。	
	ロシア語コミュニケーションⅠ	本授業科目では、ロシア語の文字、音声、アクセント、イントネーションなどの基礎知識を学び、その上で、挨拶・自己紹介・家族紹介などの慣用表現を学修する。日常会話でよく使われる初級ロシア語の表現や言い回しを理解し、活用できる能力を身に付ける。毎回、発音練習、ヒアリングから始め、テキストに沿ってペアワーク、ロールプレイ、口頭練習を繰り返し行う。教科書を使って単語からフレーズへ、フレーズからミニテキストへと徐々に難度を高めていき、毎回の小テストや課題を通し、理解度をチェックする。	
	ロシア語コミュニケーションⅡ	本授業科目では、「ロシア語コミュニケーションⅠ」で身に付けた能力を前提に、ロシア語の音声、アクセント、イントネーションなどを反復学修する。また、語彙力・文法能力の向上に合わせて、ロシアへ旅行すると想定し、どのように場所を尋ねるか、どのようにお店や市場で買い物するかなどをシミュレーションしながら、高度なロシア語会話ができるようになることを目指す。毎回、発音練習、ヒアリングから始め、テキストに沿って、ペアワーク、ロールプレイ、口頭練習を繰り返し行う。教科書を使って単語からフレーズへ、フレーズからミニテキストへと徐々に難度を高めていき、毎回の小テストや課題を通し、理解度をチェックする。	
	日本語リテラシーⅠ	本授業科目は、外国人留学生を対象にした授業科目であり、大学での学修に必要な日本語力、特に「読む」「書く」力と日本語でレポートや小論文を書くために基礎的能力を養う。論理的な思考及び論理的な文章の展開方法などを学び、テーマに沿ってレポートや小論文を書くための適切な文や文章を書くことができることを達成目標とする。具体的には、説明的・論述的な文章を読んで、その内容を正しく理解するとともに、文章の構成や論理の組み立て方などを学ぶ。	
	日本語リテラシーⅡ	本授業科目は、外国人留学生を対象にした授業科目であり、日本語で理工系の専門科目の授業を受講する際に必要となる科学技術用語の修得を目標とする。本授業科目の履修により、専門教育の授業科目を履修する際に必要な専門的な教科書に対する読解力、レポートを作成する能力、基礎的な科学技術用語の語彙（専門用語）を身に付ける。また、日本語特有の言い回しや、適切な言葉の選び方を学ぶとともに、専門用語を使うに当たりニュアンスの違いや日常会話で使われる言葉との使い分けを身に付ける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 外国語系	日本語コミュニケーションⅠ	<p>本授業科目では、アカデミック・ジャパニーズを軸に学ぶことで、学生生活に必要な大学での勉学や研究に寄与する日本語を修得する。論文の読解を中心に授業を進めることで、必要に応じて自分で情報収集や考察する。その上で、適宜「読む」「聞く」「話す」「書く」あるいは文化的なことがらを含めた総合的な「日本語」の修得を目指す。特に、「話す」では、自分の調べたことや考えたことを人の前で話すというパブリック・スピーキングのトレーニングをする。なお、本授業科目は外国人留学生を対象とした授業科目である。</p>	
	日本語コミュニケーションⅡ	<p>「日本語コミュニケーションⅠ」で身に付けた能力を前提に、本授業科目では、更にアカデミック・ジャパニーズを軸に発展的実践的に学ぶ。それにより、今後の大学生活における大学生としての勉学と研究に寄与するような日本語を修得する。読解を中心に授業を進めているが、必要に応じて自分で情報収集や考察する。また、「読む」以外の「聞く」・「話す」・「書く」あるいは文化的なことがらを含めた総合的な「日本語」の修得も目指す。自分で調べたことや考えたことを、人前で口頭発表ができるようになることもねらいである。なお、本授業科目は外国人留学生を対象とした授業科目である。</p>	
	発展多言語演習ドイツ語	<p>本授業科目は、1年次にドイツ語に関する科目を2単位修得することを基礎履修要件とする。ドイツ語を続けたい、オペラ、ドイツ文化に関心ある者に対し、オペラを題材にドイツ語のより複雑な言い回しを学ぶ。一年次に学んだドイツ語の力をさらに発展させ、ドイツ語圏の文化や実用的教養の一つとしてオペラ鑑賞に親しむことをねらいとする。オペラを通してドイツ語の発音やリズムに慣れ、歌詞に現れた語彙・構文を学修し、ドイツ語の語彙・表現力を増やすことで、ドイツ文化・歴史及び芸術と社会の関係について理解を深める。</p>	
	発展多言語演習中国語	<p>本授業科目は、1年次に中国語に関する科目を2単位修得することを基礎履修要件とする。会話力、表現力、読解力のさらなる向上を目指す。ネイティブスピーカーの会話を聞きながら読む、聞く、話すの総合的な中国語運用能力のレベルを向上させる。中級程度の読む、聞く、話すの中国語の運用能力を身に付け使いこなせるようにするとともに、文章が正しく理解できること、日常会話力が身に付くこと、中国語の文法を体系的に理解し応用できることを目指す。</p>	
	日本語コミュニケーションⅢ	<p>大学での研究活動に必要な日本語力の育成を目指す。自分の興味ある分野や専門分野に関連のあるテーマを選定し、そのテーマについて書かれた文章を読み、語彙や表現を増やす。テーマに基づいたアンケート調査を行い、口頭発表する。調査結果について口頭発表することで、協同的活動が効果的にできるとともに、自己評価や他者の評価を通して建設的な意見を述べる能力を身に付ける。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養教育科目	外国語系	日本語／専門研究	外国人留学生を対象として、本授業科目では、大学で学修・研究活動する上で必要な科学技術文章に対する、読む・書く・聞く・話す能力を向上することを目的とする。ここでは、それぞれの専攻する専門分野だけでなく、一般的な科学技術文章も教材として用い、内容を正しく理解する力及び同じ専門分野の人以外にもわかりやすく伝えるための力を養う。様々な分野の教材から科学技術文章を学び、読解力をつけるとともに、科学技術文章をレポート形式でまとめることやスピーチのために構成する能力を身に付ける。	
	保健・体育系	健康・スポーツ／講義	現代社会におけるスポーツの現状と課題について学び、そこから現代社会におけるスポーツの意義について、スポーツ原理、スポーツ史、スポーツ社会学の視点から考察する。また、運動や種々の環境に対する身体適応、各ライフステージでの健康・体力の維持や向上のために必要な運動処方に関する最新の知識と、その実践方法について学修する。また、発育発達や加齢によるヒトの身体の生理学的変化や運動に対する身体適応の差異を学ぶことで人間理解、他者を理解する能力を養う。	
		健康・スポーツ／実技	若い時からの運動は将来の生活習慣発症予防に効果的であることが明らかとなっているが、全ての種類の身体活動やスポーツにその効果が認められているわけではない。過激なスポーツや運動は、時として健康に対し悪影響を及ぼすし、低レベルの運動負荷では効果が認められないこともある。本授業科目では、健康・体力づくりに効果的な運動に関する基礎的な知識を修得するとともに、各自で運動プログラムを作成し、トレーニングを行う。	
	情報処理系	情報処理	本授業科目は、大学生に必要とされる情報リテラシーとして、情報とネットワーク・システム環境の習熟・活用、インターネット通信に関するITスキルの修得と、学習・研究に活用できる文書処理・データ処理・表現技術などのアカデミック・スキルを身に付けることを目標とする。大学のIT設備やネットワークを活用し、表計算ソフト等を用いてデータの集計やグラフを作成するなどの能力を養うとともに、情報セキュリティやルール、マナー等の基礎知識を有し、情報倫理を遵守し、情報の管理・安全を確保することができることを目指す。	
		応用情報処理	近年の急速にビッグデータ化する情報化社会において、より専門的な情報通信技術(ICT)のスキルを有する人材が求められている。本授業科目では、情報処理において身に付けた技術を応用し、Cプログラミング、HTML&CSS、UNIXなどの入門を学ぶ。具体的にUNIXを例を挙げると、UNIX系OSの基本的な概念の解説とコマンドライン操作を通して、教養教育科目としてのUNIX, Linuxの初歩を学ぶことができる内容とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	共通科目	野外体験活動Ⅰ	小学校や中学校で実施されることの多い野外体験活動についてその活動の目的や学習効果について、実際に自然体験や合宿を通して実践的に学ぶ。また、野外体験活動の指導に必要な知識や技術を、実際に児童・生徒が宿泊に利用する施設において直接活動内容についての指導を受け、子どもの発達段階に対応した活動のあり方を、学生同士のディスカッションも取り入れながら学んでいく。	
			基礎ゼミナール	1年生を対象とした講義で、大学や学部の概要を理解して教員免許取得や指導教員の選択に役立てるとともに、大学での学びの技法を習得する。具体的には、図書館の利用方法や、ネットワークリテラシー、情報の整理法、レポートの書き方、プレゼンテーションのスキルなどを身につけ、大学での学びを進展させていく基盤を整えることを目的とする。	
			地域教材研究（富山学）	本講義は、富山県に関する歴史・自然・産業・文化など富山県に特色ある内容を取り上げ、地域に対する理解を深めることを通して、(i)教員としての情熱・希望・使命感を高めるとともに、(ii)教材開発などの実践的指導力の向上を図ることである。実施にあたっては、富山県教育委員会と連携を取りながら、第3回から14回までの内容で、小・中・高のいずれかの校種の実務経験教員である指導主事が、学校教育の実情を踏まえた上で、富山県内の地域教材研究のあり方について講義を行う内容となっている。なお、第1回「『富山学』とは何か」2回「地域教材研究とは何か」および第15回「富山学」まどめは富山大学の教員が担当する。	
			卒業研究	履修者が自ら課題を設定し、研究目的や研究方法を明らかにするために研究計画を立てる。この計画に基づき、先行研究等を踏まえた上で、指導教員のもとで研究を進めるが、その際に倫理的な配慮の重要性についても学ぶ。また、このような研究過程を通して、研究の科学的アプローチを理解するとともに、主体的に研究に取り組む態度や問題解決能力を習得することを目的とする。	
			地域共生（福祉）論Ⅰ	近年、社会構造・生活構造の変化に伴い、人々の生活が急激な変化を迎えている。今後考えられる変化として、外国人労働者が持ち込む考え方や文化も踏まえた共生社会をどのように構築できるかを考えていくことは急務である。高齢者、児童、障害者という従来の福祉分野にのみならず、教育や司法の分野、性別や国籍といったありとあらゆる差異を乗り越えて地域を基盤とした共生社会構築をしていくための理論と方法を学ぶ。	
地域共生（福祉）論Ⅱ	様々な分野は地域を基盤として成立しているとも考えられる。多様化・複雑化する地域の課題に対応しつつ、地域社会の一員としての学校が、『地域共生社会』をどのように構築できるか、地域住民とはなにか、地域生活とは何かを基礎に、ゲマインシャフト・ゲゼルシャフトを超える概念を考えつつ、地域住民の意識の変化や意識改革を通して共生社会構築にどのように学校、教職員が取り組むべきかを学ぶ。				

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	共通科目	スクールソーシャルワーク論Ⅰ	近年、急速な少子化の進行、児童虐待問題の深刻化、少年事件に関する問題など児童福祉領域の問題は、非常にクローズアップされている。学校、教職員として問題にどのように対処しうるのか、学校をめぐる課程なども含めた複雑な問題を分析し、教育の枠だけではなく、関連領域の枠組みの諸制度を利用できる実践力を身につける必要がある。教員がスクールソーシャルワーカーと連携し、問題を解決に導くための方法を理解する。	
			スクールソーシャルワーク論Ⅱ	文部科学省「スクールソーシャルワーク活用事業」では『いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待など生徒指導上の課題に対応するため、教育分野に関する知識に加えて、社会福祉等の専門的な知識・技術を用いて、児童生徒の置かれた様々な環境に働き掛けて支援を行う、スクールソーシャルワーカーを教育委員会・学校等に配置し、教育相談体制を整備する。』としている。チーム学校を構築し、システムとして問題に対応する方法を学ぶ。	
			主権者教育のための批判的思考力・メディアリテラシー	教科書や資料の内容を直接的に理解する機能的リテラシーだけでは、市民社会（市民を主権者とする民主社会）の構成員、すなわち主権者に必須な高次リテラシーは発揮できない。多様な思考、経験を持った市民が集まる社会で、批判的思考力、読解力を発揮し、物事を表からも裏からも多面的に吟味する能力の育成が、各国で市民性教育の柱として重要視されている。メディア報道や具体事例を教材に、討論型授業を実施する。	
			事例で学ぶ減災・防災教育論	緊急時には、学校の教員組織の一体となった協力関係が求められる。一方、情報不足が決断を遅らせる事態も発生する。東日本大震災・原発震災では、巨大津波や原発事故の影響で学校現場でも被害や影響が広がった。学校現場で何が起こったのか、多発する自然災害の減災・防災のために、事前の備えを含む、必要な知見を具体事例を通して検討、習得していく。	
			プログラミング入門	この講義では、コンピュータは清書やインターネットを閲覧する為の道具ではなく、煩雑な作業を合理化し、効率化する為のツールであるという視点に立ち、プログラミングの考え方をマスターしながら、実際に煩雑な作業に対して自ら解決策を考え、それを簡潔に処理するプログラムを作成出来るようになることを目指す。	
			子どもとのふれあい体験	本演習は、社会教育や生涯教育の分野で子どもとふれあう体験を通して、教育の本質を体験的に学ぶ機会を提供することを目的とする。ここでは、単に大学内にとどまらず、地域社会に出て、関係団体・施設等におけるさまざまなボランティア活動を通して、人を育てる人を育成する科目とする役割を果たしている。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の思想と歴史（西洋）	西洋社会における古代から現代にいたるまでの学校や子育ての歴史、教育や学校を支える思想・理念の展開、子ども・家族・教師・学校の関係やその変化などを取り上げながら、教育に関する原理の歴史の変遷を辿る。それらを背景となる政治や社会とのかかわりから考察する。これによって、「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に関する基礎知識・技能を身につけ、教育の原理的問題にかかわる基礎教養を習得することが目標である。	メディア
			教職とこれからの教育	教育委員会事務局及び学校管理職経験を活かし、教員をめざす学生が、学校教育や教職について基礎的な事柄を広範な視野で学び、全体像をつかむ。また、学校教育を巡る近年の状況を理解するとともに、これから求められる教員の資質・能力について考え、展望と課題意識をもってその後の教職科目が学べるようにする。 (オムニバス方式／全8回) (131 西島健史／1回, 2回, 3回, 4回) 教員を目指す学生が、教員の仕事や教職の意義について、基礎的な事項を学び、その後の教職課程での学びの全体像をつかむとともに、教師はやりがいに満ちたすばらしい仕事であると、志高く進んでいけるようにする。 (133 林 誠一／5回, 6回, 7回, 8回) 中央教育審議会等から多くの教育改革提言・改革案が提出され、教育の在り方、学校・教員の仕事に大きな変化が求められている。教育改革の動向を踏まえ、教師に求められる資質・能力、学校における働き方改革、チームとしての学校づくりなど、これからの教育について考える。	オムニバス方式
			教育経営概論（教育改革と学校経営）	近年の教育改革の動向を検証しながら、教育行政の仕組みを理解し、教育経営や学校経営に関する諸問題について関心を持ち、問題解決への展望について考察する。また、学校と地域の協働についての意義や方法について理解し、開かれた学校づくりの成果や課題についての認識を深める。さらに、学校管理下で起こる事故や災害について、具体的事例を踏まえながら、危機管理や事故への対処方法についての理解を深める。	
			教授・学習心理学（個別最適化学習の理論と実践）	近年、一人ひとりの能力や適性に合わせた「公正に個別最適化された学び」の重要性が指摘されている。この授業では、個別最適化学習の重要性を押えた上で、幼児・児童及び生徒の学習や、個別最適化学習に関する基礎的な知識や理論を身につけることを目的とする。また、学習者の発達の状態や能力・適性をふまえた効果的な指導方法についても概説する。	メディア
			特別な支援を要する子どもの理解	特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達、障害のある子どもを支える制度を理解するため、本授業では特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒（障害のある子ども）の学習上または生活上の困難を理解するために必要な、発達障害や知的障害をはじめとする障害の特性及び心身の発達、そして障害のある子どもを支える制度を概説する。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	教育の基礎的理解に関する科 未来をつくる教育課程	本授業は、教育課程編成の基本原理や方法についての基本的な考え方を学び、教育課程の具体的実践例について検討することを通して、教育現場における現在と未来の教育課程について、制度レベルだけではなく実践レベルにおいても考察できるようにすることを目的とする。子どもの豊かな学びを実現するために、教師はどのように教育課程に向き合い、実践しているのか、また、子どもたちの未来の社会のために、教師はどのように教育課程を編成する必要があるのかについて、日常的な教師の授業感覚を捉えながら、ともに理解を深める。	
		道徳教育論（理論）	道徳の教科化は、読み物資料に登場する人物の心情読解に傾斜しがちだった従来の指導法の一面性に対して根本的な反省を促すものであった。このような認識に立つならば、道徳の多様な指導法を学習するのみならず、道徳教育に関する理論的な理解を深めることで、「心の教育」といった一面的理解から脱さねばならない。以上の問題意識に沿いつつ本講義では、道徳の本質に関わる哲学、道徳性の発達に関する心理学、道徳教育の歴史、現代社会における道徳教育の課題、道徳教育および道徳科の目標、道徳科の主な内容について解説する。また、模擬授業を導入的に実践しつつ、「道徳の指導法」の学習に向けた基礎的能力を涵養する。	メディア
		総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 総合的な学習の時間教育論Ⅰ	「総合的な学習（探究）の時間」設置の意義、ねらい、内容構成について理解する。さらに、この総合的な学習（探究）の時間で最も重視すべき点の一つである探究的な学習の在り方について把握した上で、その学習の進め方に関わり、課題設定の方法、追究の方法、整理・分析・課題解決の方法、まとめ・表現の方法等について、それぞれの校種の具体例を取り上げながら、理解を深めていく。また、その際に必要となる教師の指導や支援の方法も検討することにより、実際にこの授業を実施するための基本的な力を身に付ける。	
		総合的な学習の時間教育論Ⅱ	新しい時代にふさわしい総合的な学習（探究）の時間の授業の在り方について、追究にふさわしい新しい時代に向けた課題の設定方法、追究の具体的な方法、課題解決に向けた取り組み等から検討を行い、理解を深める。さらに地域の小中高等学校における授業実践例を知るとともに、年間指導計画・学習指導案の作成方法や、学習活動における評価の考え方や方法について理解することを通して、実際にこの授業を実施するために必要な力を身に付ける。	
		特別活動とカリキュラムマネジメント	本授業は、学校教育における特別活動の意義や目標を理解するとともに、具体的な内容と特質、各教科等との関連（カリキュラム・マネジメント）について学ぶことを目的とする。それぞれの子どもの成長や子どもたちの人間関係形成に寄与する特別活動の在り方について、また、特別活動に求められる教師の役割や力量について、さらには、特別活動における生活指導と各教科の授業での学びとのつながりについて、実践事例をもとに教師の視点から理解を深めることを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	教育技術学	主体的・対話的で深い学びや探究的な学習活動、プログラミング的思考の育成等大きく変わろうとしている学校とそこで行われている授業について、教育の方法、指導技術、授業を支援するメディアの役割、情報機器の活用等について理解する。本科目では実習的な活動も取り入れ、授業を受けるだけでなく教える立場として授業を考えることにより、これからの教師に求められる資質、能力について理解し、教材作成、単元開発等、授業実施の準備を自ら行えるよう支援する。	メディア
		生徒指導論	生徒指導の理論的側面と実践的側面について解説する。前者では教育課程上の位置づけ、目指すべき方向、他の教育実践との異同、関連する法律などを講義する。後者では個別指導と集団指導の視点、いじめや虐待といった現代的課題への対応などを講義する。 (オムニバス方式/全8回) (91 近藤龍彰/第1回, 2回, 3回, 7回担当) 生徒指導の定義と位置づけ、体罰と懲戒に関する法令、多動に着目した個別指導と集団指導、虐待への対応について解説する。 (47 石津憲一郎/第4回, 5回, 6回, 8回担当) 対人関係面への生徒指導、個別指導と集団指導の視点、いじめへの対応、外部機関との連携協力の在り方について解説する。	メディア オムニバス方式
		教育相談の理論	教育現場で教師が使える教育相談の考え方(哲学)と技法の習得および、外部機関との連携について学校心理学の視点から学ぶ。また、児童期から青年期までの発達について触れることで、子どもたちが成長していくことについて心理学的な側面から理解を深めていく。 (47 石津憲一郎/第4回, 5回, 6回, 8回担当) 学校における心理教育的援助サービスの理論について概観した後、チームとしての支援の実際を解説する。 (91 近藤龍彰/第1回, 2回, 3回, 5回担当) 教育相談の理念と定義、子供の発達に即した支援の実際について開設する。	メディア オムニバス方式
		教育実習A(幼・小) (事前事後指導を含む)	事前指導は、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とし、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、遵守すべき義務等について理解する。教育実習では、実習校で教職員の指導を受けながら、大学で学んだ専門知識に加えて、指導や支援の方法や技術を「教師」の立場で検証するとともに、園児・児童の実態や、学校・学級経営及び幼稚園・小学校における教育活動の特色について理解を進める。 事後指導では、教育実習の体験を総括し、学生間で共有することで、今後教師として成長していくためのさらなる課題を自覚することを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	教育実践に関する科目	教育実習A(中・高) (事前事後指導を含む)	事前指導は、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とし、教育実習生として学校の教育活動に参加する意識を高め、遵守すべき義務等について理解する。教育実習では、実習校で教職員の指導を受けながら、大学で学んだ専門知識に加えて、指導や支援の方法や技術を「教師」の立場で検証するとともに、生徒の実態や、学校・学級経営及び中学校・高等学校における教育活動の特色について理解を進める。事後指導では、教育実習の体験を総括し、学生間で共有することで、今後教師として成長していくためのさらなる課題を自覚することを目的とする。	
			教育実習B(小)	小学校における教師の多様な教育実践や教師としての仕事(実務)を体験することを通して、教育の重要性・多様性・困難性を学び取るとともに、大学で学習した理論や技術を実習校での実践を通して具体的、統合的に確認する。また、児童と接することでコミュニケーションの取り方や、学習者を多面的な視点で観察する姿勢を身につけ、さらに、教師としての基礎的力量を育成するとともに、その使命感と責任感を培い、教職の本質を理解するよう努めることを目的とする。	
			教育実習B(中・高)	中学校・高等学校における教師の多様な教育実践や教師としての仕事(実務)を体験することを通して、教育の重要性・多様性・困難性を学び取るとともに、大学で学習した理論や技術を実習校での実践を通して具体的、統合的に確認する。また、生徒と接することでコミュニケーションの取り方や、学習者を多面的な視点で観察する姿勢を身につけ、さらに、教師としての基礎的力量を育成するとともに、その使命感と責任感を培い、教職の本質を理解するよう努めることを目的とする。	
			教育実習B(特別支援)	特別支援学校における教師の多様な教育実践や教師としての仕事(実務)を体験することを通して、教育の重要性・多様性・困難性を学び取るとともに、大学で学習した理論や技術を実習校での実践を通して具体的、統合的に確認する。また、児童・生徒と接することでコミュニケーションの取り方や、学習者を多面的な視点で観察する姿勢を身につけ、さらに、教師としての基礎的力量を育成するとともに、その使命感と責任感を培い、教職の本質を理解するよう努めることを目的とする。	
			教育実習B(幼)	幼稚園における教師の多様な教育実践や教師としての仕事(実務)を体験することを通して、教育の重要性・多様性・困難性を学び取るとともに、大学で学習した理論や技術を実習校での実践を通して具体的、統合的に確認する。また、園児と接することでコミュニケーションの取り方や、学習者を多面的な視点で観察する姿勢を身につけ、さらに、教師としての基礎的力量を育成するとともに、その使命感と責任感を培い、教職の本質を理解するよう努めることを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	教育実践に関する科目	<p>教職実践演習（幼・小・中・高）</p> <p>「履修カルテ」等を用いてこれまでの学修を振り返り、自己の到達点を確認するとともに、教職についての考えを深めるためのグループワークや模擬授業等を通して、教員として必要な資質・能力を確認し、それらの向上を図る。学生は、この科目を通して以下のことができるようになる。①教職に関する様々な課題についてグループで議論しつつ取り組む。②教育実習等の振り返りを行い、自分自身の資質・能力を評価して、教師になるために適切な目標を設定する。③特定の学年・教科のための指導案を書く。④授業参与観察や現職・退職教員の講義をもとに、学校での教育に関して理解を深める。とりわけ、教員として重要な(1)使命感や責任感、教育的愛情等、(2)社会性や対人関係能力、(3)児童生徒理解や学級経営等、(4)教科等の指導力の4項目に関して自己評価を行い、これらの資質・能力を身につける。</p> <p>(共同・オムニバス方式/全15回) (70 上森さくら：金大クラス/1回～10回, 12回～15回, 96 増田(田中)美奈：富大クラス/1回～10回, 12回～15回) 教員の役割や教職に必要とされる社会性、児童生徒理解や学級経営等について講義とグループワークを行い、授業参与観察の指導をする。 (39 守屋哲治：金大クラス/1回, 11回～13回, 15 徳橋曜：富大クラス/1回, 11回～13回) 教育実習等を振り返らせた上で、指導案の作成や検討について講義とグループワークを行い、模擬授業の助言指導を行う。</p> <p>※1回, 12回, 13回は共同で実施 1回/当該授業のオリエンテーションを共同で行う。 12回, 13回/指導案の発表に係るグループワーク及び模擬授業の指導助言等を共同で行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
			<p>学校インターンシップ I（小）</p> <p>本授業は、教員志望学生が実際の学級担任教師の日常的職務活動の具体的場面に直接参加し、学級担任としての学級経営や、学習・行動上気になる子どもの支援についてのリアリティを獲得することを通して、自身の教師としての資質・能力などの向上を図るものである。また、担当者に小学校、中学校、特別支援学校の実務経験教員を含んでおり、前半の講義部分の一部を担当しながら、中間発表会、配置校でのフィールドワーク報告において現場の経験に基づいてアドバイスを行う。</p> <p>なお、本授業は富山県教育委員会との連携事業であり、県内教育事務所及び地方教育委員会の協力を得て実施されている。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 小学校の教科に関する科目	国語科基礎A（書写を含む）（低・中学年の国語科と現代の教育課題）	<p>（概要）知識及び技能、「読むこと」「書くこと」領域の内容理解を目標とした授業を実践するための国語科の各分野の基礎知識を概説する。先行研究で基礎を固めた上で、エビデンスに基づく計量的な研究成果も踏まえて、現代的な国語科の授業・研究のあり方を提案する。知識だけではなく、十分な実践力を育成するために、必要に応じて簡単な課題の作成、発表など行う場合もある。受講者と一緒に、地域・現代の文学作品、方言、伝統芸能を題材に地域に根差した国語科の学習を創造する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（59 宮城信／1回, 2回, 3回, 4回） 初回に、学習指導要領における各講義の位置づけを確認する。2回～4回は、日本語の小さな単位（文字）から、大きな単位（文章の種類）まで概観しながら、言葉のシステムとしての日本語を捉え、国語教育でどのような知識を扱う必要があるかを検討する。</p> <p>（94 武田裕司／5回） 5回は、国語科における書写指導の目標を確認するとともに、その指導のあり方について検討する。</p> <p>（17 西田谷洋／6回, 7回, 8回） 6～8回は物語・詩歌・評論・随筆など様々なジャンルの文学教材を概観しながら、地域教材あるいは文字教材以外のメディア教材をとりあげ、論理と創作を接続するなど先進的なテーマにとりあげることで、どのように国語教育で文学に取り組むかを検討する。</p>	メディア オムニバス方式
	社会科基礎A（中学年の社会科と現代の教育課題）	<p>（概要）富山・石川両県に関する地域研究の成果も踏まえ、地域学習が重視される小学校中学年の社会科授業を行う上で必要な知見を教授する。各担当教員が、地理学・歴史学・社会科学3分野の知見を小学校社会科教育の目標・内容に反映させた授業構成の方法について、必要な視点や考え方を提供する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（19 山根 拓／1回, 2回, 3回） まず、学習指導要領から小学校中学年社会科教育の狙いと現代的課題を探る。次に、地理的見方・考え方に基づく身近な地域や都道府県の教え方・学び方について教授する。最後に、初等中等教育における地理教育の意義を、地誌教育・地図教育・野外学習等をキーワードに講義する。</p> <p>（53 中村只吾／4回, 5回） 歴史の見方・学び方・伝え方について説明し、その上で小学校歴史教育で重視される内容・方法・素材について講義する。</p> <p>（51 志賀文哉・46 池田文佑／6回） 小学校中学年社会科における社会科学的アプローチの意義を、特に主権者教育の観点から講義する。</p> <p>（51 志賀文哉／7回） 社会的な見方・考え方の連続性に注目して、小学校学習指導要領を解説する。</p> <p>（46 池田文佑／8回） 小学校教員が、地域社会の諸事象を政治・経済学的にどのように捉え、どのように教えればよいのかについて講義する。</p>	メディア オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	小学校の教科に関する科目	算数科基礎A（低・中学年）	この授業では、小学校で算数を教える際に必要となる数学の基礎を学ぶ。数の分類を理解し、特に素数と約数の問題を深く学ぶ。連分数展開を通して分数の計算方法を再確認し、計算力を養う。論理については、必要十分条件などの仕組みを理解し、背理法を用いた命題の証明を学ぶ。また、関数と方程式の基礎を学び、身の回りの現象を数学的に説明できるようになる。	メディア
			理科基礎A（理論）	<p>（概要）小学校理科の授業を担当できる力を養うために、理科の4分野（物理・化学・生物・地学）について基礎的な知識・技能を習得する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（54 成行泰裕／1回, 2回） 物理分野の基礎理論として、力と運動・物質の性質・音と光の性質・電気と磁石について講義する。</p> <p>（6 片岡弘／3回, 4回） 化学分野の基礎理論として、物質の構成と変化について講義する。</p> <p>（60 安本(和田)史恵／5回, 6回） 生物分野の基礎理論として、生物の構造と機能・生命の連続性および生物と環境の関わりについて講義する。</p> <p>（88 河村愛／7回, 8回） 地学分野の基礎理論として、固体地球表層・気象・天文について講義する。</p>	メディア オムニバス方式
			生活科基礎A（講義）	小学校生活科において必要な基礎的な知識・技能を取得することを目的に、生活科の各内容のまとまり毎の学習対象、内容構成の具体的な視点についての知識と技能の習得を図る。その際、生活科全体の指導計画を理解し、見通しをもって学習を進められるようにするために、各領域に関する内容の授業特性について学び、授業実践力の育成を目指す。生活科と他教科との関連や学問領域との関係にも触れ、小学校における生活科の意義についても学んでいく。	メディア
			生活科基礎B（実践）	自然体験や栽培などの様々な体験は豊かな学力形成の基盤となるが、近年の子どもたちの体験不足は指摘されて久しい。これも背景となって、とりわけ小学校生活科は体験活動が重視されている。教員になった際に授業で実施する体験活動の実践力を高めることを目的に、生活科で特に重視されている花や野菜等の栽培に関する実践を掘り下げて研究したり、地域学習等としてフィールドワークに出かけたりして、小学校教員としての具体的な授業構想が可能になる力を育成することを目標とする。	
		音楽科基礎A（講義）	教科書に掲載されている教材の演習、講義または鑑賞を通して、小学校音楽科の指導に必要な基本的知識を習得する。講義では、楽曲を演奏する技能や歴史的・文化的背景といった知識の習得にとどまらず、取り上げる楽曲について教科内容の視点から検討し、授業実践において教材化するための知識・技能を習得することを目的とする。また、鑑賞教材の学修にあたっては必ず音を通して、音楽づくりについては実際の創作を通してそれぞれ理解する。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	小学校の教科に関する科目	音楽科基礎B（実践）	<p>（概要）初級者と中級者以上にグループ分けをし、初級者ではバイエル教則本と弾き歌いの個人レッスンをし、中級者以上には、修得しているピアノの演奏技術を前提に、鍵盤和声による小学校歌唱教材のピアノ伴奏編曲法の集団指導をする。</p> <p>（93 多賀秀紀／23 小野隆太、20 安藤常光） 初級者を担当し、バイエル教則本から14番、15番、25番、29番、40番、48番、49番、52番、56番、60番と弾き歌い（茶つみ）の個人レッスンをし。</p> <p>（64 浅井（橋場）暁子） 中級者を担当し、修得しているピアノの演奏技術を前提に、楽典基礎、基本的なカデンツの基礎と応用、借用和音の理解と利用、コードネームの基礎と習得、曲調に合わせた伴奏形のアレンジ基礎と応用、メロディー譜を用いた伴奏づけ実践、オリジナル伴奏による発表などの鍵盤和声による小学校歌唱教材のピアノ伴奏編曲法の集団指導をする。</p>	オムニバス方式（金沢クラスのみ）
			図画工作科基礎A	<p>本講義は、できるだけ小学校教育の現場における取り組みを想定した内容の紹介を目指して構成している。そのために、小学校の図画工作科を担当するために現在の図画工作科指導における課題を踏まえて、学習指導要領に示された領域および内容項目に指導するために必要な専門的で基礎的な知識および技能を獲得することを目的とする。</p>	メディア
			図画工作科基礎B（実践）	<p>小学校図画工作科における表現技能の要点理解を目標とし、中学校美術科との連結をねらいに造形遊び的・絵画的・彫刻的・デザイン的・工芸工作的な図画工作科題材とその作品制作をおこなうとともに受講者自身の造形表現技能のスキルアップを図る。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（22 大村雅章と151 江藤望／1回、2回、3回、4回） 図画工作科教科書より絵画・彫刻的な題材とその主題・材料・用具・技法を分析する。また、短時間の造形遊び題材を楽しみ、絵画・彫刻的表現に用いる材料・用具の経験の必要性について分析する。その後、絵画・彫刻的な主題の発想・構想とその表現をおこなう。第4回では絵画・彫刻的な作品とその鑑賞・評価をおこない、受講者自身が自分の感覚や行為を通して、形や色、質感、機能などの造形的な特徴を理解することを図る。 （大村雅章）絵画 （江藤望）彫刻</p> <p>（67 池上貴之と44 鷺山靖／5回、6回、7回、8回） 図画工作科教科書よりデザイン・工作工芸的な題材とその主題・材料・用具・技法を分析する。また、短時間の造形遊び題材を楽しみ、デザイン・工作工芸的表現に用いる材料・用具の経験の必要性について分析する。その後、デザイン・工作工芸的な主題の発想・構想とその表現をおこなう。第8回ではデザイン・工作工芸的な作品とその鑑賞・評価をおこない、受講者自身が自分の感覚や行為を通して、形や色、質感、機能などの造形的な特徴を理解することを図る。 （池上貴之）デザイン （鷺山靖）工作</p>	オムニバス方式・共同（金沢クラスのみ）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	小学校の教科に関する科目	家庭科基礎A（住居・食物と現代の教育課題）	<p>（概要）小学校家庭科の食生活および住生活分野の内容を理解し、その背景となる基礎知識や考え方を深め、家庭科における現代の教育課題を踏まえ実践につなげて考えることができることを到達目標とする。授業では食生活および住生活分野を中心に、小学校家庭科に関連する基礎的・基本的な知識について講義する。また両分野の各内容において、現代の教育課題についても取り上げる。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（57 藤本孝子／1回，2回，3回，4回） 食生活、調理、栄養素、栄養バランスについて、現代の教育課題を踏まえながら講義する。</p> <p>（1 秋月有紀／5回，6回，7回，8回） 住まいの歴史、計画、環境・設備、安全・管理について、現代の教育課題を踏まえながら講義する。</p>	メディア オムニバス方式
		体育科基礎B（実践）	<p>（概要）本科目では体育科教育においてみんながわかり、うまくなることをめざして開発されてきた教材群を体験しながら、多様な教材群を指導する上で必要となる基礎的な戦術・技術の方法や、教材づくりの方法を理解することを目標とする。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（82 山田哲／1回，2回，3回，4回，5回，6回） 「体づくりの運動」，「器械運動」，「水泳」の学習指導方法について演習を行う。</p> <p>（36 増田和実／7回，8回） 「ボール運動（ゴール型）」や「ボール運動（ネット型）」の学習指導方法について演習を行う。</p>	オムニバス方式 （金沢クラスのみ）
	小学校の教科指導法	初等国語科教育法Ⅰ	<p>現行の小学校学習指導要領〔国語〕の内容をベースとして新指導要領の内容にも目配りをしながら国語科の目標、指導内容、指導法等について概説する。領域としては「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」を扱う。それにより、小学校教員として国語科の学習指導を担当する際に必要となる基礎的な知識を得、心構えを身につけることができる。また、毎時間の終盤において、国語科指導の構想や教材開発、個別支援の方法、情報機器及び教材の活用などについて「教師の視点から考え、グループで検討する」という小課題や模擬授業に取り組み、小学校教員としての授業実践力をつける。</p>	
		初等国語科教育法Ⅱ	<p>現行の小学校学習指導要領〔国語〕の内容をベースとして新指導要領の内容にも目配りをしながら国語科の目標、指導内容、指導法等について概説する。領域としては「読むこと」を扱い、加えて「知識及び技能」の内容や学習評価についても整理する。それにより、小学校教員として国語科の学習指導を担当する際に必要となる基礎的な知識を得、心構えを身につけることができる。また、毎時間の終盤において、国語科指導の構想や教材開発、個別支援の方法、情報機器及び教材の活用などについて「教師の視点から考え、グループで検討する」という小課題や模擬授業に取り組み、小学校教員としての授業実践力をつける。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育科目	専門 基礎科目	小学校の 教科指導法	初等社会科教育法Ⅰ	小学校の学習指導要領の「社会科」を解説する。とりわけ小学校3～4年は地域学習、5年生は産業学習、6年生は日本史と憲法学習であることを説明する。日本史は42人の具体的な名前を挙げて「例えばこの人物を教えること」と例示されており、それぞれの人物がどのような業績を上げた人物なのか、具体的な模範授業を通じて示す（例として杉田玄白、ペリー、野口英世）。	
			初等社会科教育法Ⅱ	子どもの心を揺さぶるような社会科の授業はどのようにして設計されるのか、その基本的なノウハウを教授する。社会科の授業の面白さの本質は、アクティブラーニングなどの学習方法以前に、教育内容の「意外性」と「ストーリー性」であることを講義し、意外性を盛り込むためにはどのようなリサーチが必要なのかを説明する。そのうえで、実際に学生にリサーチを行わせ、模擬授業プランをレポートとして提出させる。	
			初等算数科教育法Ⅰ	算数科の目標と内容、指導法についての知識及び技能や考え方を身につけるために、算数科の目標とその特質、内容とその構造についての知見を基に、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域における授業の視聴とその検討を通して、個別の学習内容における児童の認識・思考や、指導上の留意点等、算数科の指導法についての知見を得る。	
			初等算数科教育法Ⅱ	算数科の指導法についての実践的な知識及び技能や考え方を身につけ、算数科の授業を設計することができるようになるために、算数科における教材研究、授業の設計、情報機器及び教材の活用、学習評価についての知見を得て、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を実現する授業を設計し、模擬授業とその振り返りを行い、さらに算数科の実践研究とその課題について学ぶ。 (オムニバス方式／全8回) (69 伊藤伸也／1回、2回、3回、4回、7回、8回) 算数科における教材研究とその方法、授業の設計、情報機器及び教材の活用、学習評価、算数科の実践研究とその課題について講義し、本科目を総括し展望を示す。 (43 米田力生／5回、6回) 算数科授業の構想と学習指導案の作成、模擬授業とその振り返りを行う。	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
			初等理科教育法Ⅰ	本授業は、小学校理科の学習指導要領に基づいた解説や具体的な授業実践例を通して、理科の目標、子どもに育成する能力、指導技術、教材内容について理解し、小学校における理科教育の基本的事項を習得することを目的としている。とくに、小学校理科の目標については、理科を学ぶ意義について、内容については、具体的な教材を例に教材の工夫や内容区分の意義について理解する。また、理科における見方・考え方に基づく思考と問題解決の能力、さらに、主体的な学習のための工夫について授業実践事例を通して理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	小学校の教科指導法	初等理科教育法Ⅱ	本授業は、小学校理科の学習指導要領に基づいた解説や授業実践例を通して、理科の指導計画、指導技術、教材内容、評価方法について理解し、小学校における理科教育の基本的事項を習得することを目的としている。小学校の教材を例に具体的な単元構成と指導案の作成を行い、作成した指導案にもとづく模擬授業と模擬授業の評価を行う。その際、理科における学習評価、学習形態の工夫や学級経営のありかたについて検討する。また、理科における情報機器の活用や、理科における事故防止と理科室の管理運営についても考慮するようにする。	
			初等生活科教育法Ⅰ	小学校の家庭科の授業を担当するために、必要な知識、技能、態度を獲得し育成することを目的とする。小学校の家庭科の授業実践を想定し、そのために必要とされる家庭科教育の基礎的な教育原理、教育方法などについて理解し、知識や技能を習得する。小学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容の学問的背景や社会的状況、教材研究、指導法、情報機器及び教材の活用法、カリキュラムや授業の構想、模擬授業等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。内容論では、主として食生活、衣生活、住生活について講義する。課題等により予習・復習を促す。	
			初等生活科教育法Ⅱ	小学校の家庭科の授業を担当するために、必要な知識、技能、態度を獲得し育成することを目的とする。小学校の家庭科の授業実践を想定し、そのために必要とされる家庭科教育の基礎的な教育原理、教育方法などについて理解し、知識や技能を習得する。小学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容の学問的背景や社会的状況、教材研究、教材開発、指導法、情報機器及び教材の活用法、カリキュラムや授業の構想、模擬授業等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。内容論では、主として家族・家庭生活、消費生活・環境について講義する。課題等により予習・復習を促す。	
			初等音楽科教育法Ⅰ	学習指導要領における小学校音楽科の目標および内容等を総合的に理解し、学習指導案の作成につなげることができる。講義では、音楽科教育に関する理論的内容を中心に扱い、授業を組織するための基礎的な内容を学修する。特に、目標論と評価論、音楽科の授業構成についての歴史的変遷を踏まえ、学習指導要領を相対化し、今後の授業のあり方を展望できるための素地を身につける。講義の期間中にはレポート課題によって、学修内容の定着をはかる。	
			初等音楽科教育法Ⅱ	学習指導要領における小学校音楽科の目標および内容等を総合的に理解し、学習指導案を作成し模擬授業として実践する。講義では、音楽科基礎AB及び初等音楽科教育法Ⅰでの学修をもとに、学習指導要領における教科内容やそれらを踏まえた学習指導計画を、授業構成に関する理論を援用しつつ作成できるようにする。また、模擬授業の実践を通して、授業を省察するための視点を獲得し、自律的な授業改善を実現するための素地も身につける。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	小学校の教科指導法	初等図画工作科教育法 I	<p>(概要) 小学校図画工作科の教育課程及指導法の基礎知識・技能を身につけるとともに、同教科の意義、目標、内容、方法について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(44 鷲山靖/1回、2回、3回、4回)</p> <p>算小学校図画工作科の意義、目的を学ぶ。</p> <p>(151 江藤望/5回、6回、7回、8回)</p> <p>学習指導要領を踏まえた教科の内容を習得する</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
			初等図画工作科教育法 II	<p>(概要) 初等図画工作科教育法 I の学習に基づき、引き続き図画工作科の教育課程及指導法の基礎知識・技能を身につけるとともに、同教科の意義、目標、内容、方法について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(151 江藤望/1回、2回、3回、4回)</p> <p>学習指導要領を踏まえた教科の内容を習得する</p> <p>(67 池上貴之/5回、6回、7回、8回)</p> <p>情報機器及び教材の活用を含む基礎的な授業方法を理解するとともに模擬授業等の演習を通して授業技能を身につける。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
			初等家庭科教育法 I	<p>小学校の家庭科の授業を担当するために、必要な知識、技能、態度を獲得し育成することを目的とする。小学校の家庭科の授業実践を想定し、そのために必要とされる家庭科教育の基礎的な教育原理、教育方法などについて理解し、知識や技能を習得する。小学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容の学問的背景や社会的状況、教材研究、指導法、情報機器及び教材の活用法、カリキュラムや授業の構想、模擬授業等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。内容論では、主として食生活、衣生活、住生活について講義する。課題等により予習・復習を促す。</p>	
			初等家庭科教育法 II	<p>小学校の家庭科の授業を担当するために、必要な知識、技能、態度を獲得し育成することを目的とする。この講義では、小学校の家庭科の授業実践を想定し、そのために必要とされる家庭科教育の基礎的な教育原理、教育方法などについて理解し、知識や技能を習得する。小学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容の学問的背景や社会的状況、教材研究、教材開発、指導法、情報機器及び教材の活用法、カリキュラムや授業の構想、模擬授業等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。内容論では、主として家族・家庭生活、消費生活・環境について講義する。課題等により予習・復習を促す。</p>	
			初等体育科教育法 I	<p>(概要) 本科目では体育科教育における教科目標論、教科内容論、学習指導論、教育課程論の基礎理論を理解し、体育科教育の全体構造を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(83 横山剛士/1回、2回、3回、4回、5回、6回)</p> <p>体育科教育に関する基本的事項である目標・内容論、学習指導要領の変遷・特徴、学習指導論等について理解する。</p> <p>(21 岩田英樹/7回、8回)</p> <p>体育科保健領域における授業づくりと、模擬授業と省察を演習形式で行う。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	小学校の教科指導法	初等体育科教育法Ⅱ	(概要) 体育科教育の各領域における目標・内容・方法・評価について検討することで、各領域における具体的な指導上の留意点について理解する。 (オムニバス方式/全8回) (83 横山剛士/1回, 2回, 3回, 4回, 5回, 6回) 体育科における指導実践に関わる授業計画、学習評価を演習形式、模擬授業・省察で学習する。 (21 岩田英樹/7回, 8回) 中学年, および高学年を対象とした体育科保健領域における具体的な指導上の留意点について取り上げる。	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
		初等英語科教育法Ⅰ	英語科教育における教授・学習の理論や学習指導要領の理念に基づいた効果的な教育実践のあり方について考察する。主にコミュニケーション、第二言語習得理論、学習指導要領、インプットとアウトプット等を中心に取り上げ、理論的・実践的に学ぶ。教員による解説に加え、受講生が各自指導の原理・原則など土台となる考え方を確立していくために、各自の経験や知識を踏まえて議論できる機会を設ける。	
		初等英語科教育法Ⅱ	英語科教育における教授・学習の理論や学習指導要領の理念に基づいた効果的な教育実践のあり方について、主に5領域の言語活動及び評価等を中心に取り上げ、実践的に学ぶ。教員による解説に加え、受講生が各自指導の原理・原則を踏まえながら、模擬授業やリフレクションを通して、指導法・指導技術を確立することを目指す。	
	先進的教育科目(共通領域)	インクルーシブ教育基礎演習Ⅰ	インクルーシブ教育では、すべての子どもが授業内容を理解し、学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に着けることのできる教育が求められている。本授業では通常の学級及び特別支援学級におけるインクルーシブ教育のあり方、アクセシビリティの理解とICT活用、それに基づく児童生徒の学習や生活上の支援の工夫についての基礎的な知識・技能を身に着けることを目的とする。	メディア
		インクルーシブ教育基礎演習Ⅱ	インクルーシブ教育では、すべての子どもが授業内容を理解し、学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に着けることのできる教育が求められている。本授業では通常の学級及び特別支援学級において、その実践に必要な個別の教育的ニーズの把握、困難に応じた指導内容や指導方法の工夫に関する基礎的な知識・技能を身に着けることを目的とする。	メディア
		遠隔教育実践論	本授業では、新しい生活様式や小規模学校の増加に伴い、初等中等教育においても導入が進められている遠隔教育について、その実践に必要な、教育の方法、教育の技術、遠隔教育システムの活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを目的としている。遠隔教育により変わる学校と、そこで行われている授業について、教育の方法、指導技術や評価方法、著作物の取り扱い等について理解する。	メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 先進的教育科目（共通領域）	遠隔教育実践演習	<p>本授業では、新しい生活様式や小規模学校の増加に伴い、初等中等教育においても導入が進められている遠隔教育について、その実践に必要となる、教育の方法、教育の技術、遠隔教育システムの活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを目的としている。本授業では模擬授業、教材作成等実習的な活動も取り入れ、教える立場として授業を考えることにより、これからの教師に求められる資質、能力について理解し、その準備を自ら行えるよう支援する。</p>	メディア
	小学校プログラミング教育の理論と実践Ⅰ	<p>小学校プログラミング教育導入の背景や、学習指導要領等における位置づけとねらいについて、講義やグループ活動により理解する。その上で、児童が実際に使用すると考えられるブロック型プログラミング言語について、基本的な操作方法、基本的なプログラムの作成方法、マイコンボード等と接続する際のプログラムの作成方法、発展的なプログラムの作成方法等について、学生自身がプログラミングを体験しながら理解する。さらに、自由課題のプログラム作成にも取り組み、理解を深める。</p>	メディア 共同
	小学校プログラミング教育の理論と実践Ⅱ	<p>小学校プログラミング教育の発展的な内容として、テキスト型プログラミング言語によるプログラミングを体験する。その上で、学習指導要領に例示された内容に加えて、それ以外の内容例について理解する。そして、それらの教材研究や指導計画の作成を通して、実際の授業の在り方を考える。さらに、具体的な授業の進め方を検討しながら、学習指導案を作成することを通して、小学校においてプログラミング教育の授業を行う力を身に付ける。</p>	メディア 共同
	富山県の教育実践Ⅰ	<p>小学校指導法の観点から、富山県の特徴的な教育実践や地域的特性、たとえば富山で実践されている小規模校や僻地教育への対応、イタイタイ病をはじめとする環境教育などを受講者に紹介し、理解させると共に、地域によって異なる教育課題が存在すること、また類似の教育課題であっても地域によってアプローチの方法が異なりうることを認識させ、教育実践の「比較」の視点を養う。第1回ではこの授業の狙いと「比較」の視点の重要性を論じ、第2回～第7回で、富山大学大学院教職実践開発研究科の実務家教員や院生（小学校の現職教員）、退職校長等の特任教授や客員教授、連携している富山県総合教育センターの研究者などをゲストスピーカーとして、最新の教育事情や実践例を紹介してもらう。第8回のディスカッションでこれらの実践の比較の視点を論じ、まとめる。これにより受講者は富山県の教育の多様な実践や視点を認識できる。</p>	メディア
	富山県の教育実践Ⅱ	<p>小中連携や校種を跨いだ教育の連続の重要性を理解させると同時に、校種間に存在する教育事情や教員の認識等の差異をも認識させるために、富山県の小学校のみならず、中学校、高等学校の教育現場に関わっているゲストスピーカーから、小学校・中学校・高等学校の特徴的な教育実践や教育事情、課題などを紹介してもらう。これにより、富山県の特徴的な実践を知って、他地域と「比較」する視点を持たせると共に、校種によって異なる教育の視点や認識を理解して、それらを「比較」する視点を養う。第1回で授業の狙いを説明し、第2回～第7回の授業では富山大学大学院教職実践開発研究科の実務家教員、特任教授や客員教授、富山県総合教育センターの研究者などをゲストスピーカーとして、最新の教育事情や実践例を紹介してもらう。そして第8回のディスカッションを通じて、校種による教育の認識や状況の異同や、それらの校種をつなぐ連携の視点の重要性を理解させる。</p>	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	幼児教育	幼児と健康	<p>(概要) 領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動の発達などの専門的事項についての知識・理解の獲得と指導法を身につけることを目標としている。幼児期の健康に関する現代的課題についての基本的な考え方を講義形式で学んだ後、実際に運動を体験し、幼児の多様な動きを理解し、これらの動きを引き出す環境構成について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (92 澤聡美/1回, 2回, 3回, 6回, 7回, 8回) 幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、運動の発達について解説・実演する。 (55 西館有沙/4回, 5回) 乳幼児の怪我や病気の特徴やそのリスクについて、ヒヤリハット事例や事故事例、症例等を用いた演習を行う。また、子どもへの安全教育や安全および健康の管理について解説し、環境構成や実際の援助について演習を行う。</p>	オムニバス方式
			幼児と人間関係(社会性のつまずきと支援の現代的課題)	<p>まず、領域「人間関係」に基づいた保育を行うための基礎となる乳幼児期の人間関係の発達過程を学ぶ。さらに、社会性のつまずきの原因(愛着の問題・発達障害等)や、不適切な養育が脳機能の発達に及ぼす最新の研究成果を学ぶ。また、個性が強い子ども(不安が高い子どもや感情の制御が苦手な子どもなど)を理解するための心理学の理論と、集団の中での位置づけの評価方法を学ぶ。これらの知識を踏まえて、保育における幼児理解と発達支援の基本的な考え方を習得する。</p>	メディア
			幼児と環境	<p>(概要) 幼児と環境の関わりを理解するために、環境の持つ意義、環境を生かした科学的思考・概念の発達について学ぶ。また領域「環境」の内容である、生命の尊重、数量や図形との関わり、文字や標識との関わりについても実践事例を通して学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (10 小林真/1回, 4回~8回) 幼児を取り巻く環境と幼児の発達、幼児と生物・自然、数量・図形、文字・標識とのかかわり、幼児を取り巻く環境の現代的課題 (49 月僧秀弥/2回, 3回) 幼児の身近な環境と科学体験、思考・科学的概念の発達</p>	メディア オムニバス方式
			幼児と言葉	<p>幼児期の言葉の発達に関する基礎的専門的事項について、次に、幼稚園における言語環境や言葉に関する教材について、さらに、小学校との接続を視野に入れた言葉の指導について講義する。そして、幼児期の言葉の発達を促し支える保育内容、保育における周囲の幼児とのかかわり、保育者とのかかわりに関する基礎的な知識や態度を伝え、具体的な保育場面を想定しながら検討する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	幼児教育	幼児と表現	<p>(概要) 幼児の表現(身体・音楽・造形)における次のトピックについて学ぶ。幼児の表現の実際の姿、その発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊び、幼児の感性や創造性を豊かにする環境の構成である。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(92 澤聡美/1回, 2回) 幼児の感性や創造性を豊かにする様々な身体表現遊びの実践を通して、幼児の身体表現の実際の姿、発達を促す要因や環境構成について学ぶ。</p> <p>(62 若山育代/3回・4回) 幼児の造形表現の実際の姿とその発達の状態、及びそれを促す要因と幼児の造形表現における感性や創造性を豊かにする表現遊びと環境構成について学ぶ。</p> <p>(13 千田恭子, 93 多賀秀紀/5回, 6回, 7回) 幼児が感じたことや考えたことを、音楽を楽しみながら自由に表現する為の援助を行うには、指導者が幼児の発達や感性・感覚を理解し共感するとともに、音楽の特性を知り、自分自身の諸感覚を磨くことが必要であることを学ぶ。</p> <p>(92 澤聡美・62 若山育代・13 千田恭子・93 多賀秀紀/8回) 幼児の表現に関する基礎的専門的な事項についての総合的なまとめ</p>	オムニバス方式
			保育内容総論(保育実践を巡る最新動向を含む)	<p>幼稚園教育は、園生活全体を通して総合的に指導するという指導の考え方を理解し、具体的な幼児の姿と関連付けながら、環境を構成し実践するために必要な知識・技能を身に付ける。具体的には、次の3つについて学修する。まず、幼稚園教育の基本を踏まえた幼稚園の指導の考え方を理解する。次に、幼稚園教育における指導計画の考え方を理解し、幼児の発達の過程を見通した指導計画作成を理解する。そして、幼児の興味・関心や発達の実情などに応じた具体的な指導の在り方を理解する。</p> <p>(55 西館有沙/1回～4回)</p> <p>最新動向をふまえた幼小接続の現状や課題、乳幼児期の子どもの遊びとその意義、総合的な指導と教師の役割について扱う。</p> <p>(62 若山育代/5回～8回)</p> <p>幼児教育における計画とその作成、記録や評価のあり方、物や人との関わりを深める教材作りについて扱う。</p>	メディア オムニバス方式
			健康の指導法(現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)	<p>幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容について基本的知識・理解の獲得を目標とする。現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例や、他の領域や小学校との接続と関連させた事例を紹介し、主体的・対話的で深い学びを通して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を身につける。</p>	メディア
			保育内容(人間関係)	<p>幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解することと、領域「人間関係」が、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことを目指すものであることを理解する。くわえて、遊びの中の人とのかかわり、保育の中の協同的活動、園外での人との関わり、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と領域「人間関係」の関係について概説する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	幼児教育	人間関係の指導法	初めに領域「人間関係」のねらいと内容を習得する。次に、設定保育における人間関係の指導法(ソーシャルスキル教育・ルールのあるゲーム遊び等)の指導事例を通して、保育の指導法を学ぶ。さらに、人間関係の形成に配慮を要する幼児の特徴や、情報機器を活用した指導法を学ぶ。これらの知識を踏まえて設定保育の指導案を立案し、模擬保育を通して指導上の配慮点・留意点などを体験的に習得する。さらにいくつかの指導事例を通して、自由遊び場面における保育者の言葉かけや指導の方法を習得する。	
			言葉の指導法(現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)	幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を身につける。扱うトピックとしては、領域「言葉」のねらい及び内容、幼児の発達の側面としての他領域と領域「言葉」の関連、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた具体的な指導場面の想定、領域「言葉」のねらい及び内容に基づく保育の構想である。	メディア
			表現の指導法(現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)	(概要)幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を身につける。扱うトピックとしては、領域「表現」のねらい及び内容、幼児の発達の側面としての他領域と領域「表現」の関連、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた具体的な指導場面の想定、領域「表現」のねらい及び内容に基づく保育の構想である。 (オムニバス方式/全8回) (92 澤聡美/1回, 2回)身体表現の指導法及び保育の構想(身体の観点から具体化したねらいと内容)、身体表現の指導法及び保育の構想(最新指導事例の身体表現についての主体的・対話的で深い学び)について学ぶ。 (62 若山育代/3回, 4回, 5回)造形表現の指導法及び保育の構想(造形の観点から具体化したねらいと内容)、造形表現の指導法及び保育の構想(他領域のねらいと内容との総合性)、造形表現の指導法及び保育の構想(現代的課題としての主体的・対話的で深い学び)について学ぶ。 (13 千田恭子/6回, 7回)音楽表現の指導法及び保育の構想(領域「表現」のねらいと音楽)、音楽表現の指導法及び保育の構想(幼児の表現と諸感覚の重要性)について学ぶ。 (92 澤聡美・62 若山育代・13 千田恭子/8回)幼児の表現に関するまとめと地域の保育実践の事例について学ぶ。	メディア オムニバス方式
			幼児教育カリキュラム論 I	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基準として各幼稚園等において編成される教育課程や全体的な計画の意義や編成の方法を理解する。具体的には、幼稚園教育等において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する、教育課程や全体的な計画が社会において果たす役割や機能を理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	幼児教育	幼児教育カリキュラム論Ⅱ	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基準として各学校等において編成される教育課程や全体的な計画について、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。具体的には、領域や学年をまたいでカリキュラムを把握し、幼稚園教育等の課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。	
			幼児理解の理論と方法	幼児理解の意義、基本的な理論や態度を習得し、具体的な場面で適切な方法を選択するよう努める態度を獲得することを授業目標とする。本授業では、幼児理解の意義、理論及び方法、遊びを通しての総合的な指導、環境を通して行う教育を踏まえて適切な方法を選択することを学ぶ。そして、個と集団の関係や発達につまずきのある幼児の理解、保護者支援についての基礎知識、幼小接続期の実態と課題等について学ぶ。	
			幼児理解と相談支援	初めに幼稚園教育要領等に基づき、幼児理解の意義・必要性を学ぶ。次に、幼児理解に必要な心理学理論を学ぶ。具体的には、気質の理論・愛着の理論・学習理論（行動理論）、集団の中での幼児の関係性の発達のとらえ方を学ぶ。さらに幼児理解の方法（行動観察・チェックリスト等）について学び、こうした情報に基づいた保育カンファレンスの意義についても学ぶ。これらを踏まえて、幼児理解に基づいた保育における支援方針を立案できるようになる。さらにカウンセリングに関する基礎知識と保護者支援に関する基礎知識を習得する。	
			子育てネットワーク論Ⅰ	子育て支援が幼稚園教諭や保育教諭、学校教員、保育士等に求められている現状をふまえ、現代の子育て家庭を取り巻く現状や課題についてデータや資料を示して説明する。また、子育て家庭に対する支援の意義や目的、子育ての支援体制として公私のネットワークを形成することの意義、インフォーマルな子育てネットワークが果たす機能と課題、フォーマルな子育てネットワークとそれぞれの機関・施設の概要について解説し、これらに関する知識の習得を目指す。	
			子育てネットワーク論Ⅱ	教育や保育の専門職として子育て家庭にどのようにかわり、いかなる支援を提供すればよいのかを学ぶ。授業では、幼児教育・保育の専門性を生かした子育て支援の意義と、日々の関係を構築するために求められる基本的なかわりや支援について扱う。また、子育て家庭のさまざまなニーズについて扱うとともに、貧困、虐待、障害児やその傾向のある子どもや疾患のある子どもの子育て、外国籍の家庭における子育てなど、それぞれの家庭のニーズに応じた支援の展開について扱う。これにより、子育て支援の実施や展開についての知識化を促す。加えて、関係機関との連携や協力についても学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	幼児教育	子育て支援	子育て家庭を支援するための実践力を身につけることを目標とする。授業では、保育所等を利用する子育て家庭や、地域の子育て家庭のそれぞれに提供される支援を取り上げる。その中で、さまざまなニーズをもつ子育て家庭に対する支援や、支援の展開における関係諸機関との連携・協力について、具体的な事例を用いたディスカッションやロールプレイ、調べ学習を行う。また、支援計画の立案や記録についてワーク、カンファレンスのシミュレーションを行う。これらを通して子育て支援への理解を深めるとともに、技術を習得する。	
			保育の心理学	「教授・学習心理学」と「発達と教育」で学んだ子どもの発達と学習の過程を踏まえて、まず、幼児教育・保育における子どもの学びをどのように保障すべきかについて学ぶ。具体的には、子どもの権利条約に基づく子ども観・発達観の変遷が学習指導要領や幼稚園教育要領等にどのように反映されているか、遊びを通じた主体的な学びの意義を知る。次に乳幼児期の諸領域（身体・運動、認知、自我・自己意識、社会性・情動、言語）の発達の経過を学ぶ。さらに発達支援の事例を通して遊びを通じた保育の重要性を学ぶ。	
			子ども家庭支援の心理学Ⅰ	まず発達心理学の立場から、生涯発達の道筋と発達段階の概要を学ぶ。具体的には、乳幼児期の初期経験の大切さ、学童期前期・学童期後期・青年期・成人期の発達の危機にはどのようなものがあるかを学ぶ。こうした発達に関する知識を踏まえて、子どもの精神保健についての基礎知識を習得する。具体的には、新生児期から乳児期に生じやすい心身の健康上の問題、幼児期に生じやすい行動上の問題などについて医学的知見も参考にしながら学ぶ。最後に、子どもの心の健康を支えるネットワークづくりの大切さについて学ぶ。	
			子ども家庭支援の心理学Ⅱ	子ども家庭支援の必要性の根拠となる、現代社会が抱える様々な問題について学ぶ。具体的には、日本が抱える少子化・地域社会の関係性の希薄化といった社会現象を正しく理解する。次に、若者が親になる際に習得すべき準備性（親レディネス）を高める要因と、低める要因について学ぶ。さらに成人が親になることによってどのような発達を遂げるかを学ぶ。その知識を踏まえて、子育てに困難を抱える家庭（若年者の過程、高齢者の家庭、精神的な問題を抱える保護者）に対する支援のあり方を学ぶ。	
			子どもの健康と安全	保育現場において子どもの心身の健康と安全を守るために必要な基礎知識を習得し、演習によって学びを深める。具体的には、安全な保育環境づくり、安全管理と事故防止、アレルギー疾患の理解と保育における対応、感染症の理解と保育における対応、母子保険制度について学ぶ。これらを踏まえて、幼児教育施設における組織的対応の必要性について学ぶ。様々な資料の講読や保育所（幼保連携型認定こども園を含む）における聞き取り調査などを通して、年間保健計画を立案できるようになる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	幼児教育	障害児保育	幼児教育や保育においても特別な配慮を必要とする子どもへの適切な対応が求められていることを受けて、障害児保育の理念や現状、課題、援助の実施や展開について扱う。その中で、障害児保育への理解を深めること、さまざまな特性や状態、心身の発達等に応じた援助や配慮を理解すること、個別計画の作成、援助の具体的な方法を理解することを目指す。また、家庭への支援や関係機関との連携・協働についても学ぶ。	
			地域子育て支援法Ⅰ	まず、子育て支援の様々な制度・機関について学ぶ。次に地域子育て支援センターや児童館等の子育てサロンを利用する保護者の心情について学ぶ。特に子育てサークルを利用しながら途中でやめてしまった保護者の心情についても理解する。さらに、子育てサロンを利用する保護者への聞き取り調査などを通して保護者のニーズを把握し、これらのニーズに対応する方法を演習を通して学ぶ。最後に、地域の子育てサロンにおいて短時間の保育体験を行うことで、実践力の基礎を身に付ける。	
			地域子育て支援法Ⅱ	地域子育て支援法Ⅰで学んだ様々な知識と体験を元に、児童館等が実施する子育てサロンにおける子育て支援サービスの企画・運営の仕方を習得する。また実際に子育てサロンの運営に参加することで、親子が安心感を感じたり楽しく遊んだりするための環境の構成について体験的に学ぶ。まず子どもが楽しく遊べる保育活動、次に子どもと保護者が交流できるような保育活動の実践を行う。さらにその振り返り活動を通して、子育て支援サービスを提供する職員が配慮すべき点を学ぶ。	
			児童福祉論Ⅰ	教育者が知っておくべき福祉に関する知識を身につけることを目的とする。授業では、子どもや家庭の福祉を取り巻く現状や課題、子ども家庭福祉に関する法律や制度、実施体系について理解する。また、少子化や地域の子育て支援、保育サービスの現状、課題、動向、展望について理解する。加えて、母子保健や子どもの健全育成のための施策やサービスについても理解する。	
			児童福祉論Ⅱ	子どもの人権や権利擁護について、その歴史的変遷や現状、課題の学習を通して理解する。児童福祉施設や子ども家庭福祉に携わる専門職に関する知識を身につけるとともに、貧困や虐待・DVのある家庭にいる子ども、非行等を行う子ども、障害のある子どもの福祉について理解する。	
			社会福祉概論Ⅰ	第二次世界大戦後のわが国の社会福祉の形成・発展の概要を中心に理解し、その中に示される福祉的ニーズをとらえることが目的である。幼児教育・保育に関連する内容にとどまらず、わが国の社会福祉の法・制度の概要を基礎学習し、その中で日本の社会福祉の発展を、特に高齢者・障がい者・児童の対象と地域福祉・国際福祉の現況を中心に理解し基礎事項を習得したうえで、それぞれの対象や領域のなかで個別具体的なニーズを捉え理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	幼児 教育	社会福祉概論Ⅱ	わが国の社会保障全般を理解し、今後の日本社会における社会福祉のあり方を考えることが目的である。社会保障の全体像をもとに、共生社会をキーワードとした日本における社会福祉の将来のあり方を学習する。幼児教育・保育に関連する内容にとどまらず、日本社会の変化に対応することが求められる社会保障について、その法制度とそれを実行する福祉サービス、またそれを支える行財政・計画について理解し、今後の日本の社会福祉を共生社会と関連づけて捉える。	
		特別支援教育基礎論Ⅱ (富山県の教育実践を含む)	本講義は、障害・疾病・発達困難等の特別な教育的ニーズを有する子どもの教育と発達支援について探求していくための基本的知識・理解や原理的視座の獲得を目標として、「特別支援教育」を中心に、全国だけでなく富山県における障害児・者のライフステージにおける諸課題や社会の側が抱える諸問題とその解決策について講義を行う。	メディア
	特別 支 援 教 育	障害児者支援論	「働く」「暮らす」「遊ぶ」「学ぶ」という生活領域において、障害のある当事者とその家族がこうありたいと思いつくものの社会との相互作用の中で困難としている事情を具体的に取り上げながら、障害児・者ならびにその家族をめぐる諸問題とその解決の方策について障害児の教育に限らず広く関連するさまざまな事象を支援者の視点から考える演習を行う。	
		知的障害児の心理・生理・病理Ⅱ	すべての子どもたちが自立し、社会参加するために必要な力を培うためには、子ども一人一人の能力や特性を把握し、適切な指導および支援を行うことが必要である。本講義では知的障害・発達障害の原因の背景にある脳の発生、構造、機能について理解するとともに、その障害によって生じる疾患、やその原因・病態および評価法を概説する。	
		肢体不自由児の心理・生理・病理Ⅰ(教育・医療・福祉の機関連携を含む)	すべての子どもたちが自立し、社会参加するために必要な力を培うためには、子ども一人一人の能力や特性を把握し、適切な指導および支援を行うことが必要である。本講義では肢体不自由児の原因の背景を理解するために必要な運動機能の基礎、肢体不自由の原因となる脳性まひを解説する。そして、肢体不自由児の自立を支援するための教育・医療・福祉の連携について概説する。	メディア
		肢体不自由児の心理・生理・病理Ⅱ(教育・医療・福祉の機関連携を含む)	すべての子どもたちが自立し、社会参加するために必要な力を培うためには、子ども一人一人の能力や特性を把握し、適切な指導および支援を行うことが必要である。本講義では肢体不自由児の原因となる主な疾患と重度重複障害の病態および生活・学習上の問題を解説する。そして、重度重複障害児の医療的ケアに関わる教育・医療・福祉の連携について概説する。	メディア
		病弱児の心理・生理・病理Ⅰ(教育・医療・福祉の機関連携を含む)	すべての子どもたちが自立し、社会参加するために必要な力を培うためには、子ども一人一人の能力や特性を把握し、適切な指導および支援を行うことが必要である。本講義では病弱児の背景を理解するために必要な体の解剖生理の基礎、障害の原因となる疾患、教育の意義・配慮について解説する。そして、病弱児の自立を支援するための教育・医療・福祉の制度について概説する。	メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別支援教育		すべての子どもたちが自立し、社会参加するために必要な力を培うためには、子ども一人一人の能力や特性を把握し、適切な指導および支援を行うことが必要である。本講義では通常学級においても対応が必要となる病弱児、および教育の意義・配慮について解説する。そして、病弱児の自立を支援するための教育・医療・福祉の連携について概説する。	メディア
	知的障害教育課程・指導論Ⅰ	知的障害教育に関する歴史的経緯と現状、知的障害教育の教育課程の編成、個別の教育支援計画、個別の指導計画の様式や内容について理解するため、本講義では特別支援学校に関する学習指導要領について概要を説明し、特に知的障害を教育する特別支援学校の教育課程の編成及び実施における留意事項について実際の授業の様子に基づいて概説する。	メディア
	知的障害教育課程・指導論Ⅱ	知的障害のある子どもの発達特性や知的障害に伴う困難性をふまえた教育内容・方法や学校教育として必要な教育実践について理解することを目標として、本講義では国内外の動向を視野に入れながら、知的障害を有する子どもの発達の理解を深め、知的障害を有する子どもが能動的に学べるような教育目標設定や教育課程編成の理論と方法について講義を行う。	
	病弱児の教育	病弱児の心身の状態に即応した教育を行うための基本的知識・理解の獲得を目標とし、本講義では病弱児の教育に関する基本的事項から現代的課題までを説明し、その中で生じやすい教育的課題および、その支援方法について、具体的事例を用いながら説明する。そのことで、多様な場で学んでいる病弱児への教育に関する高度な専門性の獲得をめざす。	メディア
	知的障害児の教育Ⅰ	知的障害児の発達支援理論及び知的障害児の教育方法の概要と、支援の考え方について理解するため、本講義では知的障害児の教育を支える理論と支援に関する考え方を解説する。学級編成の実態やティームティーチングによる授業の実態などの参観機会を確保するため、講義の一部は特別支援学校にて実施し、特別支援学校における具体的な実践をとおして理解を促す。	
	知的障害児の教育Ⅱ	知的障害教育における学習形態や集団に応じた支援の考え方及び、知的障害教育における保護者や関係機関との連携のあり方について理解するため、本講義では特別支援学校での見学や学校教師との具体的な質疑応答を通して、知的障害児の教育を支える理論を実践に生かす具体的な考え方を獲得し、将来、その教育に携わる者としての資質を高める。	
	知的障害教育実地演習Ⅰ	特別支援学校において授業見学や授業補助等の授業参加を行い、知的障害のある児童生徒の実態把握から指導計画を作成し、特別支援学校において実際に実行・評価することで、知的障害児童生徒の実態把握や評価のあり方、指導計画立案、授業計画作成と教材研究、および知的障害児に対する支援方法について特別支援学校において授業見学や授業補助等の授業参加を行い実践的に学ぶ。	
	知的障害教育実地演習Ⅱ	特別支援学校において授業見学や授業補助等の授業参加、知的障害のある児童生徒の実態把握に関わる情報収集や指導計画の作成、計画に基づく実地演習と振り返りまでの一連の流れをチームで行い、特別支援学校において実際に実行・評価することで、知的障害教育における実践の進め方を知り、具体的な評価と分析について実践的に学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別支援教育	特別支援教育実地演習	<p>(概要) 本授業では視覚障害教育、聴覚障害教育、知的障害教育、肢体不自由教育、病虚弱児教育を行っている特別支援学校の施設及び授業見学を行ない、特別支援教育の概要や障害種に応じた教育施設・教育内容、支援者のあるべき姿について理解する。</p> <p>(18 宮一志) 視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱の特性についての助言指導。特別支援学校への引率。</p> <p>(58 水内豊和) 知的障害、発達障害など障害児の支援方法、就労・生活についての助言指導。特別支援学校への引率。</p> <p>(63 和田充紀) 知的障害、発達障害など障害児の教育課程、指導内容についての助言指導。特別支援学校への見学の実施計画策定、引率。</p>	共同
	発達障害児者支援論Ⅰ	生涯を通じた発達障害児者とその家族の心理や生活上の困難の理解とその支援のあり方について理解するために、本講義では発達障害（自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動性障害等）児・者とその家族が、家庭生活や学校生活、地域生活などで直面する諸課題について、合理的配慮、基礎的環境整備、個別の支援について講義を行う。	
	発達障害児者支援論Ⅱ	生涯を通じた発達障害児・者とその家族の心理や生活上の困難の理解とその支援のあり方について理解するために、講義では、発達障害（自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動性障害等）児・者とその家族が、家庭生活や学校生活、地域生活などで直面する諸課題について、合理的配慮、基礎的環境整備、個別の支援の観点から、どのように対応するのか、演習を通して具体的に考え、理解を深めることを目的とする。	
	障害児の教育診断臨床Ⅰ	<p>(概要) 特別な支援を要する児童・生徒の特性を評価する方法、および発達検査、心理検査の概要と利用法を理解するために、本授業では特別な支援を要する児童・生徒の教育支援・心理診断に欠かすことのできない諸検査について理解を深めるとともに、実際に体験することによりその実施法および利用法について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(18 宮一志／1回, 2回, 3回, 4回, 5回) 特別な支援を要する児童・生徒の教育支援・心理診断に使用される心理検査とその意義・適用について解説し、乳幼児の発達評価法、発達障害の評価法を説明、実演する。</p> <p>(58 水内豊和／6回, 7回, 8回) 幼児・児童・生徒の能力評価法（KIDS、PVT-Rなど）、生活能力評価（Vineland-II適応行動尺度）を説明、実演する。</p>	オムニバス方式
障害児の教育診断臨床Ⅱ	特別な支援を要する児童・生徒の特性を評価する方法として知能検査の基礎と利用法を理解するために、本授業では特別な支援を要する児童・生徒の教育支援・心理診断に欠かすことのできない知能検査（WISC-IV）について解説を行い、実際に体験することによりその実施法および教育現場における実践的な利用法について学ぶ。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別支援教育	専門科目	特別支援教育	障害児支援学演習Ⅰ (概要) 本授業では障害児の教育、福祉にかかる概念的制度的な諸問題、教育課程や指導法、心理・生理・病理的側面などのさまざまな観点から障害児に関わる課題の発見・解決力を養うために、障害児の教育、生活支援に関わる文献輪読、プレゼンテーションを実践しながら、研究方法、研究倫理についての基礎を学ぶ。 (18 宮一志) 量的研究法、研究倫理、障害児の心理・生理・病理についての助言指導。 (58 水内豊和) 質的研究法、知的障害、発達障害など障害児の支援方法、就労・生活についての助言指導。 (63 和田充紀) 実践研究法、知的障害、発達障害など障害児の教育課程、指導内容についての助言指導。	共同
			障害児支援学演習Ⅱ (概要) 本授業では障害児の教育、福祉にかかる概念的制度的な諸問題、教育課程や指導法、心理・生理・病理的側面などのさまざまな観点から障害児に関わる課題の発見・解決力を養うために、障害児の教育、生活支援に関わる文献輪読、プレゼンテーションを実践しながら、研究方法、研究倫理についての実践力を身に付ける。 (18 宮一志) 量的研究法、研究倫理、障害児の心理・生理・病理についての助言指導。 (58 水内豊和) 質的研究法、知的障害、発達障害など障害児の支援方法、就労・生活についての助言指導。 (63 和田充紀) 実践研究法、知的障害、発達障害など障害児の教育課程、指導内容についての助言指導。	共同
			障害児支援学演習Ⅲ (概要) 本授業では障害児の教育、福祉にかかる概念的制度的な諸問題、教育課程や指導法、心理・生理・病理的側面などのさまざまな観点から障害児に関わる課題の発見・解決力を養うために、障害児の教育、生活支援に関わる文献輪読、プレゼンテーションを実践しながら、研究方法、研究倫理を踏まえた課題解決法の基礎を学ぶ。 (18 宮一志) 量的研究法、研究倫理、障害児の心理・生理・病理についての助言指導。 (58 水内豊和) 質的研究法、知的障害、発達障害など障害児の支援方法、就労・生活についての助言指導。 (63 和田充紀) 実践研究法、知的障害、発達障害など障害児の教育課程、指導内容についての助言指導。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別支援教育		<p>（概要）本授業では障害児の教育、福祉にかかる概念的制度的な諸問題、教育課程や指導法、心理・生理・病理的側面などのさまざまな観点から障害児に関わる課題の発見・解決力を養うために、障害児の教育、生活支援に関わるフィールドワーク、プレゼンテーションを実践しながら、研究方法、研究倫理を踏まえた課題解決法の実践力を身に付ける。</p> <p>（18 宮一志） 量的研究法、研究倫理、障害児の心理・生理・病理についての助言指導。医療・福祉施設でのフィールドワーク。</p> <p>（58 水内豊和） 質的研究法、知的障害、発達障害など障害児の支援方法、就労・生活についての助言指導。保育・福祉施設でのフィールドワーク。</p> <p>（63 和田充紀） 実践研究法、知的障害、発達障害など障害児の教育課程、指導内容についての助言指導。学校・福祉施設でのフィールドワーク。</p>	共同
	特別支援教育学演習	<p>（概要） 本授業では、一人一人の障害の種類・程度等の困難性をふまえた教育内容・方法を理解したうえで、障害を有する子どもが能動的に学べるような教育方法を模擬的に実践し、協働省察することで特別支援教育に関わるうえでの専門的な力量を身に付ける。</p> <p>（42 吉川一義） 肢体不自由、重複障害の特性及び指導法に関する助言指導。</p> <p>（27 小林宏明） 言語障害の特性及び指導法に関する助言指導。</p> <p>（31 武居渡） 聴覚障害の特性及び指導法に関する助言指導。</p> <p>（85 吉村優子） 発達障害の特性及び指導法に関する助言指導。</p> <p>（73 田部絢子） 知的障害の特性及び指導法に関する助言指導。</p> <p>（18 宮一志） 病弱児の特性及び他機関との連携に関する助言指導。</p> <p>（58 水内豊和） 発達障害の特性及び生活支援に関する助言指導。</p> <p>（63 和田充紀） 知的障害の特性および指導法に関する助言指導。</p>	共同
	日本語学概論 I	日本語学の基礎知識を体系的に学ぶ。講義を通じて、新しい現象を発見する方法、日本語を分析的に見る方法、学術的に捉える観点、など日本語に関する諸問題を取り扱う。併せて、日本語に関する資料や調査結果を活用して、日本語の生態を観察する。現代語はもとより、一部古典語まで範囲を広げて、日本語学の知見について体系的に学習する。本講義では、日本語の文字・単語レベルでの分析を中心としている。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 国語教育	日本語学概論Ⅱ	日本語学の基礎知識を体系的に学ぶ。講義を通じて、新しい現象を発見する方法、日本語を分析的に見る方法、学術的に捉える観点、など日本語に関する諸問題を取り扱う。併せて、日本語に関する資料や調査結果を活用して、日本語の生態を観察する。現代語はもとより、一部古典語まで範囲を広げて、日本語学の知見について体系的に学習する。本講義では、日本語の文の構造や文末表現、文章の構成の分析を中心としている。	
	日本語学演習Ⅰ	優れた文章を書くためには名文を読むことも大切であるが、児童・生徒をはじめ一般の人にとっては名文を書くことよりも、悪文を書かないことの方が大切である。そして、自身が悪文を書かないようにするためには、身の回りの悪文に気づける能力の養成が重要である。この演習では、参考書『悪文 伝わる文章の作法』によって悪文の原因を概観し、その後は受講生が身の回りで見つけた悪文と思われるものを持ち寄って、悪文たる理由を発表し、受講生全員でそれが適切な指摘かを検討し、どのように直せば良いかについてディスカッションする。	
	日本語学演習Ⅱ	類義語の意味分析の方法を参考文献等から学び、受講生各自が選択した類義語の意味の違いを明らかにするために、従来の国語辞典の意味記述を批判的に検討するとともに、多くの用例を採集して分析し、レジュメにまとめて発表する。そして発表内容についての他の受講生とのディスカッションを通して、ことばの意味を記述することの面白さ、難しさを知るとともに、児童・生徒にもそのような体験をさせるための基礎知識を習得する。	
	日本語学演習Ⅲ	社会言語学は、既存の文法や語彙の知識とは異なり、社会の中でことばがどのように運用されているのかを探る学問分野である。個人の自省に頼る言語分析ではなく、社会における言語生活の実態から自分なりのテーマを発見して適切な方法で調査を行う。調査・発表の過程を一通り学ぶことで、卒業研究に向けて調査研究の基本スキルを身に付けることができる。また、全員に発表を科しているため、適切な形でまとめ、説明する技術を身につけることができる。	
	日本語学演習Ⅳ	日常の様々な会話の場面におけるコミュニケーションスキル、会話の方略について議論・考察する。テーマに即したロールプレイ（会話実演）を行い、実践力を養う演習である。会話の方略や理論を実際の場でためして、有効性を検証し独自の修正を行う。授業で学んだコミュニケーションスキルを実生活で実践して有効性を確かめられる。話し下手・交渉下手（と思っている人）、会話の駆け引きを理論的に学びたい人に受講してほしい。	
	日本語表現Ⅰ（言語指導におけるデータと理論の融合）	国語教師は授業を効果的な授業展開を行うにあたって資料や知識を活用するが、思い込みや経験則に偏りがちなのが作文指導・評価である。優れた文章を書くためには名文を読む（読ませる）ことも大切であるが、実際に児童が（教師自身も）書いてみる経験が重要である。さらに本講義では、児童や生徒が書いた実際の作文の大規模データを活用して、児童・生徒の文章作成能力を解明する。客観的なデータも併用することで、経験の不足を補うだけでなく、これまれ気づかれにくかった児童・生徒の特性を抽出した新しい作文指導のあり方に言及する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 国語教育	日本語表現Ⅱ（言語指導におけるデータと理論の融合）	<p>国語教師は授業を効果的な授業展開を行うにあたって様々な資料や知識を活用する必要がある。特に思い込みや経験則に偏りがちなのが作文指導・評価である。実際どれだけの教員が文種の書き分けや指導を的確にすることが可能だろうか。本講義では、文種別に実際に作文を書くための準備から作文完成までの過程を実践しながら、注意点を指摘して、有効な支援のあり方を検討する。その際、実際の大規模作文データを活用する探索的な分析法を習得する。併せて、現役教師に対する調査結果を資料として文章評価の実情に言及する。</p>	
	日本語史Ⅰ	<p>古代から現代に至るまでの日本語の歴史に関する基本的知識と、言語史に関する基本的な考え方について学ぶ。本授業では、日本語史に関する客観的な見方、音韻変化の年代および前後の変化との関係に関する知識、文字に関する諸問題を取り扱う。併せて、日本語史の資料となる代表的な文献とその特色を見ていく。日本語史に関する知識は、古典文（文語文）を読解・理解するうえで有益でもあるので、講義ではその点にも留意する。</p>	
	日本語史Ⅱ	<p>古代から現代に至るまでの日本語の歴史に関する基本的知識と、言語史に関する基本的な考え方について学ぶ。この授業では、文法・語法に関する変化、および各事項の相互関係に関する知識、書き言葉と話し言葉に関する諸問題を取り扱う。併せて、日本語史の資料となる代表的な文献とその特色を見ていく。日本語史に関する知識は、古典文（文語文）を読解・理解するうえで有益であることに留意する。</p>	
	日本語学講読Ⅰ	<p>学校文法と周辺の文法論を比較しながらその特性について理解を深める。現場での学習状況に鑑みるに、これまでしっかりとした学習がなされていないことが予想されるため、学校文法の基本事項から体系的に学習を進める。さらに学校文法学習時の問題点、現場における指導の状況について確認し、問題点と指導法改善のについて詳述する。</p>	
	日本語学講読Ⅱ	<p>前半は語用論的分析手法の基礎を学習する。後半は実際の会話例からコミュニケーションの分析を行う。具体的には、相手に対する「配慮」がどのように言語活動（または非言語的なものとして）として表現されるのかを学ぶ。本講読全体を通して、日本語のコミュニケーションのルールについての理解を深め、国語表現の授業時に活用できるよう理解を深める。</p>	
	日本文学概論Ⅰ（教育と文学の関係を含む）	<p>中学校・高等学校国語科を担当するに必須の、日本文学研究の基礎的な知識を習得するために、文学研究に必要な姿勢、文献収集・本文異同等の調査、読解のポイント、評価の枠組み等を学ぶと共に、作品分析の実例を確認し、実際のテキストを方法論に基づいて読み、独創的な見解をレポート等で表現する。文学がいかに書き手や社会の価値観を反映・創出しているのかを検討し、文学と教育の相関について学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 国語教育	日本文学概論Ⅱ（国語教科書と文学理論）	中学校・高等学校国語科の国文学分野における知識と技能を身につける。特に国語においてPISA型読解力の育成において論理が重視され、その手立てとして文学作品の分析を行うことが必須であるため、詩・物語の論理性と論説文・日常言説の修辞性を確認し、それが何を意味しているかを、国語教科書教材として採録される作品に即して文学理論を学びながら検討し、自らの見解を作品分析レポートとして豊かに表現する。	
	日本文学演習Ⅰ	中学校・高等学校国語科の国文学分野における知識と技能を身につける。おもに詩歌に関連する作品を対象とし、自分の言葉で作品の読み方をまとめていく。その過程を発表資料やレポートに書くことによって、考えを深めることを目指す。演習形式で授業を行う。それぞれ担当を定め、教員があらかじめ指定したテキストについての発表と討議をすすめていく。	
	日本文学演習Ⅱ	「日本文学演習Ⅰ」に引き続き、中学校・高等学校国語科の国文学分野における知識と技能を身につけることを目指す。教員が指定したテキスト（詩歌に関連するものを対象とする。）についての発表と討議を行う。担当者の発表を叩き台とし、教室全体で議論を交わし分析を深める。文献の入手・整理法や、立論・分析の方法などについて、模範発表や実際の発表過程で指導する。	
	日本文学演習Ⅲ	明治期から戦前昭和までの文学作品、特に小説をとりあげ、同時代の文化や社会との関係をふまえながら、作品世界の構造を論理的に分析して読解する能力を修得する。作品中の言葉が担う意味を、読み手が各自恣意的に理解するのではなく、作品が書かれた時代において、また作品の文脈においていかに理解すべきかを、客観的・論理的に理解する。各界で担当者が一作品についてレジュメを作成して発表し、教員・履修者と議論をおこなう。	
	日本文学演習Ⅳ	アジア・太平洋戦争終結後の文学作品、特に小説をとりあげ、同時代の文化や社会との関係をふまえながら、作品世界の構造を論理的に分析して読解する能力を修得する。戦後文学はそれ以前の文学と比較して内容の多様性が増し、方法やメタファーも多岐に亘っている。作品の言葉が持つ意味を詳細に検討し、その世界を理解する分析力を修得する。各界で担当者が一作品についてレジュメを作成して発表し、教員・履修者と議論をおこなう。	
	日本児童文学Ⅰ	中学校・高等学校国語科の国文学分野における知識と技能の基礎を身につける。児童を主人公／読者とする児童文学・ファンタジーの諸相について専門的な視点から考える能力を育てるために、児童文学の定義、児童文学の様々なジャンルについて学ぶと共に、児童文学作品、特にあまきみこ・安房直子をはじめとする女性児童文学の教材や非教材の代表作を、方法論に基づいて分析・検討することで、受講生自らが独創的な見解をレポート等で表現することができるようになる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	国語教育	日本児童文学Ⅱ	中学校・高等学校国語科の国文学分野における知識と技能を身につける。児童を主人公／読者とする児童文学・ファンタジーの諸相について専門的な視点から考える能力を育てるために、児童文学作品、特に新美南吉などの戦前の男性作家の児童文学から村上春樹・江國香織をはじめとする戦後児童文学・現代児童文学の教材や非教材の代表作を、方法論に基づいて分析・検討することで、受講生自らが独創的な見解をレポート等で表現することができるようになる。	
			日本文学講読Ⅰ	明治から戦前昭和にいたる小説群を、本文の詳細な解析とともに同時代の思潮・言説をおさえて注釈的に理解し、登場人物の性格、作品の構造、その世界観を分析することをおして、日本近代文学に関する基礎的な理解・読解能力を修得する。一言一句の解釈をゆるがせにせず、テキストを丹念に辿り、同時代の文脈に作品を置いてそれのもつ意味を捉え、理解する。講義形式で作品を読解していくが、出席者との議論、意見交換を積極的におこない、主体的な読みの作業を進める。	
			日本文学講読Ⅱ	アジア・太平洋戦争終結後の小説群を、本文の詳細な解析とともに同時代の思潮・言説をおさえて注釈的に理解し、登場人物の性格、作品の構造、その世界観を分析することをおして、日本近代文学に関する基礎的な理解・読解能力を修得する。一言一句の解釈をゆるがせにせず、テキストを丹念に辿り、同時代の文脈に作品を置いてそれのもつ意味を捉え、理解する。講義形式で作品を読解していくが、出席者との議論、意見交換を積極的におこない、主体的な読みの作業を進める。	
			日本文学講読Ⅲ	中学校・高等学校国語科の国文学分野の知識と技能を身につけることを目的としている。本授業では、時代を問わず韻文やそれに関連する作品について適切に把握し、基礎的な知識を得る。また、それらを得ることによって平易な言葉で生徒に説明できること、作品の背景や韻文特有の言い回しなどについて、必要に応じて生徒に解説できることも目指す。	
			日本文学講読Ⅳ	「日本文学講読Ⅲ」に引き続き、中学校・高等学校国語科の国文学分野の知識と技能を身につけることを目的としている。韻文はひとつひとつが短いゆえに、複数を「集」としてまとめたり、他の作品に組み込まれたりすると、解釈が変化することがある。本授業では、そうしたテキストの構造や享受等に注意をはらいつつ読み解き、韻文やそれに関連する作品への理解を深めていく。	
			漢文学演習Ⅰ	中国最古の文学である『詩経』から六朝、そして、唐代の作品のうち、しばしば教科書に教材として取り上げられている作品を演習形式で精読する。それによって、漢詩の修辞法を学び、かつ、影響を受けた後世の詩文にも触れつつ、中学校・高等学校国語科の漢文分野の基礎的な知識・技能を習得する。また、発表後は討論を通じて、漢文を教授する力、その知識の基礎を形成させる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	国語教育	書写書道基礎Ⅰ	中学校学習指導要領（平成29年告示）を踏まえて、中学校国語科書写に関する基礎知識を得るとともに、硬筆及び毛筆の書字技能と書写指導法を身につけることを目標とする。学校教育における書写の必要性や現在の国語科書写が直面している課題等についても整理・検討する。 教育現場におけるカリキュラムの連続性を考えて、小学校国語科書写についての知識とその指導上必要となる技能の習得も重視していく。講義は、実際に小中の各教育現場で教壇に立っている書写指導担当教員を複数迎えて実施する。	
			書写書道基礎Ⅱ	中学校学習指導要領（平成29年告示）を踏まえて、中学校国語科書写に関する基礎知識を得るとともに、硬筆及び毛筆の書字技能と書写指導法を身につけることを目標とする。学校教育における書写の必要性や現在の国語科書写が直面している課題等についても整理・検討する。 教育現場におけるカリキュラムの連続性を考え、高等学校芸術科書道についての知識、指導上必要となる技能の習得も重視していく。講義は、実際に高等学校の教育現場で教壇に立っている芸術科書道を担当する教員を迎えて実施する。	
			国語科教育法Ⅲ（富山県の教育実践を含む）	中学校・高等学校における国語科教育の概要を知り、教材研究法を習得する。また、実際の教科書教材について「教材研究」を体験するとともに、中学校・高等学校での国語科教員として実務経験を生かして、理論的側面を踏まえた中学校・高等学校国語科学習指導案を作成する力量を身に付ける。また富山県の郷土教材や富山県内の教育実践も取り上げる。	
			国語科教育法Ⅳ（富山県の教育実践を含む）	中学校・高等学校における国語科教育の概要を知り、教材研究法を習得する。また、実際の教科書教材について「教材研究」を体験し、中学校・高等学校国語科学習指導案を作成する力量を身に付ける。中学校・高等学校における国語科授業の実務経験を活かし、模擬授業を実施するとともに振り返りを行う。これらの講義を通して、国語科授業を行うにあたって必要な実践的知識の獲得を目指す。さらに富山県の郷土教材や富山県内の教育実践も取り上げる。	
			国語科教育法Ⅴ	中等教育における音声言語指導の問題点を掴み、その改善に向けて学習指導・学習評価の在り方を検討する。中学校と高等学校における音声言語教材を俯瞰するとともに、その中のいくつかを取り上げて教材研究を行い、単元を構想する。その後、模擬授業の実施と授業後の整理会を通して単元の改善点や工夫点を整理していく中で、国語科教員としての実践力を高める。	
			国語科教育法Ⅵ	中等教育における文字言語指導の問題点を掴み、その改善に向けて学習指導・学習評価の在り方を検討する。中学校と高等学校における文字言語教材を俯瞰するとともに、その中のいくつかを取り上げて教材研究を行い、単元を構想する。その後、模擬授業の実施と授業後の整理会を通して単元の改善点や工夫点を整理していく中で、国語科教員としての実践力を高める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	国語教育	国語科教育法Ⅶ	パソコンやタブレット端末といった新しい教具やデジタル教材などを取り入れた国語科学習指導の現状や可能性を知り、指導事項を効率よく効果的に実現するためにどのような場でどのように活用できるかを協議する。また、アナログ教具の進化についても目を向け、特に思考ツールの活用方法について検討する。そして、情報機器や新しいアナログ教具を導入した指導構想を提案し、有効性を協議することを通して国語科教師としての実践力を高める。	
			国語科教育法Ⅷ	中等教育、特に高等学校の国語科学習指導において誤解されやすく、苦手意識をもたれやすい「知識及び技能」の扱い方、古文の学習指導、学習評価について焦点化し、それらを行う際の留意点を理解する。そして、実際に教壇に立ったときに適切に対応できるように指導方法を考えたり、模擬評価を行ったりして国語教師としての実践力をつける。	
			「話すこと・聞くこと」指導実践演習	県内の義務教育学校化の動きに合わせて小中連携が求められる状況で、国語科学習指導要領の3領域について、小学校から高等学校に至る発展的な授業のための高度で広い知識を学ぶ必要がある。 「話すこと・聞くこと」領域においては、表現力とともに、論理的に伝える、情報を選択的に収集する技術も求められる。本領域の内容は教科書では不十分で、新任教師では対応できない。そこで、アナウンサーや報道記者などプロの話し手・聞き手の協力も得て、人に伝わる話し方の実際と実践的な演習を行い、中学校での学習への接続を意識した、より高度な内容・指導法を学ぶ。さらに手話や読み聞かせなど現場で活用できる会話の技術についても学ぶ。	
			「書くこと」指導実践演習	県内の義務教育学校化の動きに合わせて小中連携が求められる状況で、国語科学習指導要領の3領域について、小学校から高等学校に至る発展的な授業のための高度で広い知識を学ぶ必要がある。 「書くこと」領域においては、教師自身も知識だけではなく、取材から交流まで実際に体験してみることが肝要である。そこで、Webライターや新聞記者などプロの書き手の協力も得て、人に伝える文章の実際と実践的な演習を行い、中学校での学習への接続を意識した、より高度な内容・指導法を学ぶ。さらにNIE（新聞教育活用）など現場で活用できる教材の活用についても学ぶ。	
			「読むこと」指導実践演習	県内の義務教育学校化の動きに合わせて小中連携が求められる状況で、国語科学習指導要領の3領域について、小学校から高等学校に至る発展的な授業のための高度で広い知識を学ぶ必要がある。 「読むこと」領域において本科目では、オーソドックスな文学的文章・説明的文章について扱う。PISA型読解力を高めるために高等学校学習指導要領では文学的文章と説明的文章とを区別し後者を重視しているが、しかしPISAの原文では小説などの論理構造を把握することで読解力を高めることが求められ、また論理的文章もレトリックなどの文学性を持つ点で、指導要領を補完・発展させ、評論・小説に対するレトリックと論理の把握が国語科教員には今後必要であり、そのための演習を評論文を中心に小説・詩まで展開する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	国語教育	メディア・地域教材開発指導演習	<p>県内の義務教育学校化の動きに合わせて小中連携が求められる状況で、国語科学習指導要領の3領域について、小学校から高等学校に至る発展的な授業のための高度で広い知識を学ぶ必要がある。</p> <p>「読むこと」領域において、本科目では、映像・音声・画像・絵画などのマルチメディア・地域テキストを検討・分析することで、今日的課題に対応した先進的教材を開発したり、物語創作等の「読むこと」領域と「書くこと」領域の架橋を行う領域について実践することで、より発展・複合した内容を学ぶ。</p>	
		国語科教育演習	<p>文部科学省は、これからの教員に求められる資質能力として、教科指導の充実と専門性の向上を指摘している。そのため、教材分析や授業実践、またリフレクションのあり方について教科指導の専門性をより向上させる必要があるため。単元の構想・実践といった授業力の育成を目標とし、文献講読・教材分析・模擬授業を通して国語科授業のあり方についての見識を深める。</p> <p>先行研究の講読を通し、国語科の教育課程や指導法の理解を深めるとともに、そこで得られた知識を基に主体的な教材分析や模擬授業の構想・実践を行う。模擬授業においては、指導上の工夫や教材研究のあり方に対して受講生同士で評価し合うことを通して、国語科教師としての授業力向上を目指す。</p>	
		日本史学概論Ⅰ	<p>中学校の社会科、高等学校地理歴史科の日本史分野の基礎知識・技能を身につけることを目標にしている。特に初等・中等教育における日本史のテーマの広がりや魅力、それを授業として実践するための基本的な考え方や方法を習得する。原始から現代まで、日本史上で起こった政治・経済・社会・文化的諸相を切りとり、授業実践の事例を紹介しながら講義をする。あわせて、さまざまな史料を読み解くための基本的な技術や方法を概説する。日本史学概論Ⅱに接続するものであり、両者をもって、日本の通史を扱う。</p>	
	社会科教育	日本史学概論Ⅱ	<p>中学校の社会科、高等学校地理歴史科の日本史分野の基礎知識・技能を身につけることを目標にしている。特に初等・中等教育における日本史のテーマの広がりや魅力、それを授業として実践するための基本的な考え方や方法を習得する。原始から現代まで、日本史上で起こった政治・経済・社会・文化的諸相を切りとり、授業実践の事例を紹介しながら講義をする。あわせて、さまざまな史料を読み解くための基本的な技術や方法を概説する。日本史学概論Ⅰを前提としたものであり、両者をもって、日本の通史を扱う。</p>	
		日本史学各論（近世・近代）Ⅰ	<p>特定の地域を焦点にした歴史（地域史）の見方・捉え方を学ぶ。それに加えて、地域史と現代社会との関係についても考えていく。時代としては近世・近代を中心に、本学の所在する越中・富山を含めたさまざまな地域の事例を扱う。たとえば、木造和船と地域の関係、マグロ漁やカツオ一本釣り漁に特徴づけられた地域などの事例を取り上げることを考えている。日本史学各論（近世・近代）Ⅱへとつながるものである。</p>	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	社会科教育	日本史学各論（近世・近代）Ⅱ	日本史学各論（近世・近代）Ⅰに引き続いて、特定の地域を焦点にした歴史（地域史）の見方・捉え方や、地域史と現代社会との関係についても考えていく。時代としては近世・近代を中心に、本学の所在する越中・富山を含めたさまざまな地域の事例を扱う。たとえば、近世庶民の移動・旅行と地域の関係、酒田沖の島、廻船と定置網で賑わう湾などの事例を取り上げる。	メディア
			日本史学演習Ⅰ	中学校社会科・高等学校地理歴史科の日本史分野の専門知識・技能を深めることを目標としている。日本史研究を進める上で、初段階にある資料活用に必要な基礎的技術を学ぶことが目的である。合わせて、「歴史」「日本史」で使用する教材研究で必要とされる日本史的技能を習得する。具体的には、日本史の文献（著書・論文）の収集と読解、研究史の整理と批判的検討を行い、日本史学的思考と叙述の方法を学ぶ。	
			日本史学演習Ⅱ	中学校社会科・高等学校地理歴史科の日本史分野の専門知識・技能を深めることを目標としている。日本史研究を進める上で、初段階にある史料読解に必要な基礎的技術を学ぶことが目的である。合わせて、「歴史」「日本史」で使用する教材研究で必要とされる日本史的技能を習得する。具体的には、古文書・古記録を中心にくずし字（変体仮名）の判読を行い、日本史史料を読解するための基礎的技術を習得する。	
			日本史学演習Ⅲ	中学校社会科・高等学校地理歴史科の日本史分野の専門知識・技能を深め、必要な基礎的技術を学ぶことを目標としている。「歴史」「日本史」の基礎となる日本史研究の方法を実践し習得することで、日本史についての理解を深める。史料や先行研究の読解を通して、日本史研究の基本的な知識と技術を身につける。史料・文献を読解し、自ら研究テーマを設定して、史料目録やデータベース作成による分析をした上で、新しい歴史的事実を発見し、それを論理立てて証明し、学術論文の形式で執筆するための準備を行う。日本史学演習Ⅳに接続するものである。	
			日本史学演習Ⅳ	中学校社会科・高等学校地理歴史科の日本史分野の専門知識・技能を深め、必要な基礎的技術を学ぶことを目的としている。「歴史」「日本史」の基礎となる日本史研究の方法を実践し習得することで、日本史についての理解を深める。日本史学演習Ⅲを前提としている。史料の輪読を通して、日本史研究の基本的な知識と技術を身につける。史料・文献を読解し、自ら研究テーマを設定して、史料目録やデータベース作成による分析をした上で、新しい歴史的事実を発見し、それを論理立てて証明し、学術論文の形式で執筆する。	
			西洋史学概論Ⅰ（現代的課題を踏まえて）	日本の歴史の背景にある世界の歴史、という中学校社会の歴史的分野の視点、及び高等学校の課程で必修化される「歴史総合」の観点を意識して、近代世界システム論やアブー＝ルゴドの議論を援用して、随時ディスカッションをしながら、アジアとのつながりに目を向けて古代から中世までの西洋史を概観する。このように西洋史に比重を置きつつ、現代のグローバルな視野・課題意識をもって世界各地の経済的・文化的交流を古代から中世まで概観することで、現在の西洋史学における研究動向や歴史教育の課題を踏まえて、西洋史に関する一般的包括的な認識・知識を修得すると共に、西洋史の視点を利用しながら、地域史に拘泥せず世界の歴史を広く捉える歴史観を持つ。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	社会科教育	西洋史学概論Ⅱ（現代的課題を踏まえて）	日本の歴史の背景にある世界の歴史、という中学校社会の歴史的分野の視点、及び高等学校の課程で必修化される「歴史総合」の観点を意識して、ウォーラーステインの近代世界システム論を思考のツールとして援用し、随時ディスカッションをしながら、西洋史という視点から16世紀以降の世界の連関と一体化を概観する。このように現代的な国際課題を踏まえて、西洋史に比重を置きながら近世以降の世界各地の経済的・文化的な相互連関、世界の一体化を包括的に学修・理解することで、現在の研究動向や歴史教育の課題を踏まえつつ近世以降の西洋史に関する一般的包括的な知識と歴史認識を修得すると共に、西洋史の視点を利用しながら、地域史に拘泥せずに世界の歴史を広く捉える歴史観を持てるようになる。	メディア
			西洋史学各論Ⅰ	西洋史の専門研究の成果を通して、中学校・高等学校の歴史教育の基盤となる歴史的事実を認識するとともに、歴史学の方法論や認識を理解するために、西洋史学の専門的な営みの一つとして過去の人々の日常生活を検証し、過去の「日常」を再構築することで、歴史的に社会や文化を考え、認識を深めることを目標とする。そのために、中世のヨーロッパなかんずくイタリアを主たる対象として、随時ディスカッションをしながら中世社会の「日常」を多面的に検証し、歴史的考察を学ぶと共に、我々が一般に持つ「中世ヨーロッパ」のイメージの妥当性を検討する。これにより、西洋史学が特定の視角から明らかにしてきた歴史的事象に関する知識を修得すると共に、西洋史研究の知見・解釈から我々自身や我々の社会を捉え直すという歴史学的営みを理解できる。	
			西洋史学各論Ⅱ	西洋史の専門研究の成果を通して、中学校・高等学校の歴史教育の基盤となる歴史的事実を認識するとともに、歴史学の方法論や認識を理解するために、西洋史学の専門的な営みの一つとして過去の人々の日常生活を検証し、過去の「日常」を再構築することで、歴史的に社会や文化を考え、認識を深めることを目標とする。そのために西洋史学各論Ⅰで学修した内容を踏まえて、中世のイタリアを主たる対象として、随時ディスカッションをしながら中世社会の「日常」を多面的に検証し、歴史的考察を学ぶと共に、我々が一般に持つ「中世ヨーロッパ」のイメージの妥当性を検討する。これにより、西洋史学が特定の視角から明らかにしてきた歴史的事象に関する知識を修得すると共に、西洋史研究の知見・解釈から我々自身や我々の社会を捉え直すという歴史学的営みを理解できる。	
			西洋史学演習Ⅰ	外国史の理解に関する基礎的な能力として、西洋史学研究のための基本的技術、特に英語をはじめとする欧語文献や史料を読解するための語学力を文献講読を通して修得すると共に、西洋史学の研究動向や方法論について学ぶ。まず歴史学の方法論を理解するために、指定された日本語の文献を読んで受講者が発表し、ディスカッションを行う。次に欧米の歴史研究の欧語（基本的は英語）文献について、受講者に毎回の発表を割り当てながら講読する。これによって、文献検索や欧語文献・史料の一定の理解能力を修得すると共に、西洋史学の研究動向や方法論を理解し、活用できるようになる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 社会科教育	西洋史学演習Ⅱ	<p>原則的に西洋史学演習Ⅰでの学修を踏まえて、外国史の理解に関する基礎的な能力として、西洋史学研究のための基本的技術、特に欧語の文献や史料を読解するための語学力を文献講読を通して修得すると共に、西洋史学の研究動向や方法論について学ぶ。そのために、受講者に毎回の発表を割り当てながら欧米の歴史研究に関する欧語（基本的に英語）文献を講読し、ディスカッションをして、当該文献の成果や意義、方法論への理解を深めていく。また欧語文献とは別に、西洋史学研究に対する問題関心を喚起するために、受講者は割り当てられた西洋史の論点に関して調べて発表したり、各自の関心に応じた西洋史学関連の日本語文献を読んで、その内容や視点について発表する。これによって、文献検索や欧語文献・史料の一定の理解能力を修得すると共に、西洋史学の研究動向や方法論を理解し、活用できるようになる。</p>	
	西洋史学演習Ⅲ	<p>外国史の理解に関する基礎的な能力として、西洋史学を学ぶために必要な日本語及び外国語の文献を理解する力を身に着けるために、受講者に毎回の発表を割り当てながら欧米の歴史研究に関する欧語（基本的に英語）の文献を講読し、歴史学の専門的文献を読みこなせる理解力を修得すると共に、その研究成果の意義や方法論を理解する。また受講者が割り当てられた日本語論文の内容や方法論について発表して議論したり、各自が選んだ西洋史学に関する日本語論文・文献の内容や喚起された問題意識を報告し、それについて議論したりする機会を設けることで、西洋史学の近年の動向や方法論を主体的・対話的に学ぶ。これによって、日本語や欧語（基本的に英語）で書かれた一定の分量の専門的文献を比較的短時間で読み、内容を把握し、要点を理解できる力を修得すると共に、日本語や外国語の文献を通じて、西洋史学の研究動向や方法論を理解できるようになる。</p>	
	西洋史学演習Ⅳ	<p>原則的に西洋史学演習Ⅲでの学修を踏まえ、外国史の理解に関する基礎的な能力として、西洋史学を学ぶ上で必要な日本語および外国語の文献を理解する力を身に着けるために、受講者に毎回の発表を割り当てながら欧米の歴史研究に関する欧語（基本的に英語）の文献を講読し、歴史学の専門的文献を読みこなせる理解力を修得すると共に、その研究成果の意義や方法論を理解する。また受講者各自が、割り当てられた西洋史学上の論点や、自分で選んだ西洋史学に関する日本語論文・文献について報告し、全員で議論する機会を設けることで、西洋史学の近年の動向や方法論を主体的・対話的に学ぶ。これによって、日本語や外国語（基本的に英語）で書かれた一定の分量の専門的文献を比較的短時間で読み、内容の概要を把握し、要点を理解できる力を修得すると共に、日本語や外国語の文献を通じて、西洋史学の研究動向や方法論を理解でき、また問題意識を深める。</p>	
	人文地理学概論Ⅰ	<p>本講義では、まず地理学が社会の中でどのように捉えられているのかを示し、その世俗的地理(学)観が育まれてきた背景を考える。続いて現代地理学の学問的体系を示し、初等・中等学校教育における地理学の位置付けを考える。地理学は人文社会科学と自然科学に跨る文理融合的分野であるが、それが人間社会と自然環境の相互作用をどのように捉えてきたのかを学ぶ。そして、人間社会の様々な領域・素材に対して地理学的なパースペクティブを適用する人文地理学研究の見方・考え方・成果について、実際の研究事例を参照しながら示したい。受講者が、本講義を通じ「地理学とは何か？」という問題への一定の解答を得ることができるようにしたい。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 社会科学教育	人文地理学概論Ⅱ	人文地理学概論Ⅰの履修を前提に、人間社会を構成する様々な領域・素材に対して地理学的なパースペクティブをどのように適用し、地理学的な研究を構築してゆくのかについて、具体的な研究を取り上げながら説明する。それによって、「地理学に何ができるのか？」という問題への何らかの解答を得たいと思う。最後に人文地理学と自然地理学を比較対照しながら、地理学の特性について再び考えたい。また、授業の中では講義のみならず、学外のフィールドワークも実施する。地域の実地観察によって、地理学的「知」を得る方法の習得を目指す。	
	地誌学Ⅰ	本講義ではまず、中学校・高等学校の社会科／地理歴史科地理で学ぶ「地誌」と学問としての「地誌学」の違いについて学ぶ。国内地域の研究事例を中心に取り上げながら「地域」を記述することの意味や「地域」の特殊性（＝地域性）を描く方法を学ぶことで、初等・中等教育で学習してきた社会科「地誌」が、どのような学問的理解のもとに成立しているのかを理解する。	
	地誌学Ⅱ	本講義では、社会科（地理歴史科）地理の「地誌」と「地誌学」の違いについて、世界地誌を事例に考え学ぶ。「地域」を記述することの意味や「地域」の特殊性（＝地域性）を描く方法を世界各地の地誌を通じて学ぶことで、暗記科目である物産地理とは異なる科学的な地誌について理解を深める。本講義を通じて、受講生が、地誌的説明の意味と方法を理解し、「ある地域の地誌を描く場合、どのような記述が的確なのか」についての確に考え判断する能力を向上させることが、本科目の目標である。	
	地理学各論Ⅰ	人文地理学・自然地理学・地誌学など地理学の諸分野の研究で、位置を含む空間情報は「地図」によって表現される。地図の無い地理学研究は考えられない。本講義では、地図の歴史・機能・役割を理解し、地図の利用・様々な地図応用の方法を習得する。さらに、地理学の学術研究のみならず行政や企業など社会全般に近年急速に普及し、今や初等・中等教育の学校現場でも地理教育の必須アイテムとなったGIS（地理情報システム）について、その原理や利用方法について学ぶ。	
	地理学各論Ⅱ	景観論、環境論、災害論、歴史地理学の各研究領域を取り上げ、それらの内容と意義を学ぶ。 とくに(1)「地域」や「空間」と並ぶ地理学の基本的概念である「景観」や「環境」についてより明確な理解を得る。 (2) 今日の世界で頻発する多様な自然災害の把握や対応対策に地理学がどのように関わるのかを理解する。(3) 歴史地理学という歴史的観点をもつ地理学の手法と意義を理解する。	
自然地理学Ⅰ	本講義では、自然地理学の基礎的な内容について、気候分野を中心に解説を行う。その上で、自然環境と人間生活との関わりについても着目しながら、自然地理学的な見方・考え方を身に着けることを目指す。また、高等学校「地理総合」必修化にあわせて、高校地理総合・地理探究における気候学習の取り扱いについても、実際に使用されている教科書を用いながらグループワークで整理し、高校教員として自然地理学の内容をどのように教えるべきかについて考える。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	社会科学教育	自然地理学Ⅱ	本講義では、自然地理学の基礎的な内容について、地形分野を中心に解説を行う。その上で、自然地理学Ⅰの学修内容も含めて、防災・減災や人間生活との関わりについても着目しながら理解を深めていく。また、高等学校「地理総合」必修化に伴い、高校地理総合・地理探究における地形・防災学習の取り扱いについても、実際に使用されている教科書を使いながらグループワークで整理し、教員として自然地理学の内容や視点・考え方をどのように教えるかを考える。	
			地理学演習Ⅰ	初学者が地理学研究に取り組むうえで、研究テーマの設定を行うために必要な基礎的技術を学修することが、本科目の目的である。とくに、学校科目「地理」の学習内容の基礎を成す学術的な地理学的研究に取り組む際に真先に必要となる地理学固有の初歩的ないくつかの視点と技法が、本演習において習得される。具体的には、文献探索手法と文献読解による地理学的知見の取得の方法などの基礎的な見方・技法を受講者が身につけることが、期待される。	
			地理学演習Ⅱ	地理学研究では地域的・空間的事実を明らかにするために、実地調査や文献資料調査などの様々なやり方で定性的・定量的なデータを収集する。「データ」は様々な形で存在するが、それを扱うためにはデータ収集の方法、データ分析の方法、データ分析の結果を空間的に表現する方法、そこから地理学的事実を読み解く方法を理解しておく必要がある。本演習では、研究の初段階においてデータを収集・活用するために必要な基礎的な見方・技法を学ぶことをその目的とする。こうした地理学の見方・技法に習熟しておくことは、中学校・高等学校で「地理」を教授する教師が授業前に行う教材研究でも有用である。本演習で習得すべき基礎的な見方・技法は、具体的には、地域統計や統計分析結果を表現するために用いるベースマップ、文書資料等の収集方法とデータを用いた主題図作成法等である。本演習を修了した際には、これらがある程度習得されていることが期待される。	
			地理学演習Ⅲ	地理学演習Ⅰ・Ⅱから引き続き、地理学的研究を遂行していくうえで必須の見方・技能を習得する。本演習では、各回の授業において、自らの研究を構築する上でさまざまな示唆を得る参考文献を批判的に検討することを学ぶ。さらにフィールド調査やインドア調査等の地理学的な調査方法、地域データを分析して作成する主題図の作成方法等について、一層深く学ぶ。さらに受講者は既往研究を参照して野外調査の実践例を学ぶ。具体的には土地利用調査や聞き取り調査等の定性的調査の実践例を参考に、文献を通じてその見方や手法について理解を深めたい。さらにその内容を各人が学んだうえで、個々の見解を発表し、ディスカッションを経て、受講者間で共有する。こうした中で、受講者は相互に地理学研究の遂行能力を涵養する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	社会科学教育	地理学演習Ⅳ	地理学演習Ⅰ～Ⅲの学修内容を引き継ぎ、地理学的研究を遂行していくうえで必須の見方・技能を習得する。各回の授業では、自らの研究を構築する上でさまざまな示唆を得る研究論文等の参考文献を批判的に検討すること、地理学的野外調査（フィールドワーク）の方法、既存の地域データや自ら実地収集したデータを分析して作成する主題図作成法等について、一層深く学ぶ。地理学演習Ⅲで学んだ野外調査（フィールドワーク）に関する知識・手法を活かして、本科目では、受講生は、一定の研究課題を定め、野外調査を実践する。野外調査によって得られたデータや事実を基に、受講者はデータ分析・主題図作成等の作業に取り組む。さらに、各受講者が自らの分析結果やそれに関する考察内容を相互に発表・報告し、受講者間でディスカッションを通じて共有する。それにより地理学研究における課題の発見や設定の方法、研究遂行のプロセスや技法に関する理解が涵養される。地理学演習Ⅰ～Ⅳを通じて、地理学研究の出来る・解る学校地理教師の素養を育成したい。	
			地理学巡検	地理学において、フィールドワークは研究過程で欠かせない要素である。巡検とは、研究のために現地でフィールドワークを行うことであり、現地での調査実践やその前後の一連の過程を指す。この授業では、巡検を計画・実践する過程を各受講者が経験し、地理学的な目で地域を観察し、地域で考え、地域を理解し、それを説明し伝えることの意義を体感し、自ら地理学の調査研究に従事することの出来る力を養うことを目指す。	
			法律学概論Ⅰ	法律学入門。法とは何か、法の解釈や、刑法を初めとする主要な法律の概要等、大卒の社会人として最低限必要な法学の基礎知識を修得し、中学校社会・高等学校公民の教員免許状取得に必要な科目でもあり、中学、高校で扱われる法学領域の基礎を学ぶ。法とは何か、法と道徳の違い、法の分類（公法・私法）、国家と憲法、行政と法、裁判制度、法と犯罪という側面から授業を進める。	
			法律学概論Ⅱ	法律学入門。民事法の原則、労働法、国際法の原則など、大卒の社会人として最低限必要な法学の基礎知識を修得し、中学校社会・高等学校公民の教員免許状取得に必要な科目でもあり、中学、高校で扱われる法学領域の基礎を学ぶ。契約と法（民法・契約）、財産と法（民法・物権、債権）、損害賠償（民法・不法行為）、家族と法（民法・親族）、経済と法（会社法、知財法、競争法）、仕事と法（労働法）、国際社会と法（国際法）という側面から授業を進める。	
			法律学各論Ⅰ	現代社会が直面する環境問題に関して、法と行政がどのように対応しているか、市民の権利はどのように守られるかを知り、その課題を探り、環境法の基本的概念と骨子を講義する。「環境問題」とは何か、公害・環境保全史概観、環境法の基本的考え方（環境権、持続可能性、予防原則、汚染者負担原則など）、環境汚染を規制する法（大気、水質など）、自然環境の保全のための法（自然公園、生物多様性、野生動物など）、循環型社会形成のための法（廃棄物管理）、環境保護の担い手（行政、市民、NPOの役割（環境アセスメントを例に））、環境問題と訴訟という内容を取り上げる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 社会科学教育	法律学演習Ⅰ	環境法及び環境法政策に関する講義を行う。自然環境を中心とした現代の環境問題を研究することとし、必要な法的思考や地域社会への理解について教授する。具体的には、現代社会の直面する環境問題概観、自然保護法1（国立公園等）、自然保護法2（鳥獣保護管理等）、自然保護法3（希少種保全、外来生物問題）、河川・海岸の保全の法と行政、農業・農村と法、入会権とコモンズを題材として取り上げる。	
	法律学演習Ⅱ	環境法及び環境法政策に関する講義を行う。公害、リサイクル、景観など現代の環境問題を研究することとし、必要な法的思考や環境行政への理解について教授する。具体的には、公害の歴史、公害の規制（水質、大気）、循環型社会形成への取組（廃棄物処理）、循環型社会形成への取組（リサイクル）、景観問題と都市計画、アメニティ、環境アセスメント、市民参加、環境訴訟、環境正義を題材として取り上げる。	
	政治学概論Ⅰ（現代的課題を含む）	この授業では、政治の基本原則である「民主主義」を扱う。具体的には、アリストテレスによって「逸脱した政治」とみなされた古代ギリシアの政治観からスタートし、近代以降、自由主義との結合をへて民主主義が「逆転勝利」を収めてゆくまでの過程を思想的・歴史的に概観する。あわせて、20世紀以降、「勝利」したはずの民主主義が立たされた「試練」についても触れ、最終的に現代日本で進行中の課題へとつなげて考えてゆく。	メディア
	政治学概論Ⅱ（現代的課題を含む）	「政治学概論Ⅱ」では民主主義の現在と将来について考える。授業では、代議制民主主義の成立と展開、それに対する大衆政治（ポピュリズム）の勃興を、授業全体を貫く軸として設定する。その上で代議制民主主義の動揺、政党の意義、政治改革の意味、政治的無関心等、政治の現代的課題と目される項目を扱い、代議制民主主義の限界と可能性を明らかにする。	メディア
	人間安全保障論Ⅰ	この授業では「国家による、国家のための安全保障」の基本的考え方と、それを支える制度を概観する。まず理論として、国家・国際安全保障の土台となる主権国家の思想をふり返る。その上で、国際安全保障体制の変遷を①同盟と勢力均衡、②集団安全保障、③国連平和維持活動の順で扱い、それぞれの仕組みが持つ基本的特徴を理解する。最後に、こうした国家・国際安全保障の限界が何かを提起して、「人間安全保障論Ⅱ」へとつなげる。	メディア
	人間安全保障論Ⅱ	「人間安全保障論Ⅰ」で提起した内容を受けて、「Ⅱ」では、「人間による、人間のための安全保障」に関する基本的考え方と、その具体的事例を検討する。はじめに人間安全保障の歴史的発展として、1970年代以降の安全保障論の変遷を概括する。その上で①水・食料、②居住環境、③感染症、④ジェンダー、⑤教育という5つを具体例としてあげ、新しい脅威が何か、それから人びとを救う「保障」の仕組みがどうなっているかを考える。	メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 社会科学教育	平和学Ⅰ	<p>この授業では、戦争と平和をめぐる歴史的発展と思想について扱う。はじめに、「戦争と平和の歴史」として人類史のなかで重要な転回点となったものを3つ（正戦論、総力戦、新しい戦争）とりあげ、それぞれの時代状況を把握する。つづく「理論」においては、戦争と平和を考える上で大きな影響をもった①グロティウス、②クインシー・ライト、③E. H. カーの3名を取り上げ、それぞれの思想がどのような内容であったのか、戦争と平和の問題を考える上でいかなる影響を及ぼしたのかについて概説する。</p>	
	平和学Ⅱ	<p>「平和学Ⅰ」の内容を受けて、この「Ⅱ」では実際の事例に則して平和の問題を掘り下げて考える。具体的には①核兵器・通常兵器、②貧困の拡大、③ジェンダー暴力、④地球環境問題、の4つである。その上で、より日本の文脈にひきつけた事例として（ア）広島・長崎と原爆投下、（イ）沖縄戦と米軍基地問題、（ウ）日本国憲法と平和主義、の3つを加え、日本の立場から平和学をどう発展できるかについて考え、授業を総括する。</p>	
	地球市民社会論Ⅰ	<p>授業では「市民社会とは何か」を考える。具体的には社会形成の歴史を古代、中世から近代、近代以降という3つのフェーズで理解する。その上で、社会を形成する基本的な考え方として①ゲマインシャフトとゲゼルシャフト、②社会契約、③社会契約のグローバル化を紹介し、歴史的思想（理論）的観点から、市民社会の大枠が理解できる内容に設計する。</p>	
	地球市民社会論Ⅱ	<p>「歴史と理論」を踏まえた「Ⅰ」の内容を受けて、「Ⅱ」では地球市民社会の現代的展開を、実例と実践の観点から考える。授業の前半では資本主義の加速に伴う諸問題、新自由主義対福祉国家の相克、経済成長と持続可能性、という3つに注目し、市民社会が直面する課題が何か、それにどう立ち向かうかを考える。後半は具体的な参画・問題解決の方法として近年注目されている①ソーシャル・キャピタル、②キュレーションとソーシャル・デザイン、③シティズンシップ、の3つを取り上げ、「どう参加するか」という疑問に答えられる内容とし、授業をしめくくる。</p>	
	政治学演習Ⅰ	<p>授業では、古典の精読を通して法と政治に関するより深い考え方を身につける。具体的には法の理念、自然法、政治権力の本質などがここに含まれる。これらに関連して日本で刊行された本のなかから、古典的価値を持つと判断できる書籍を取り上げ、精読する。教材としては尾高朝雄の著作『法の窮極に在るもの』を予定し、毎週1章を講読する形で、法と政治の関係、法のあるべき姿と理想的な政治の有り様について考える。</p>	
	政治学演習Ⅱ	<p>授業で行う内容は「演習Ⅰ」と同じであるが、「Ⅰ」の内容を受けた続編という位置づけとなる。教材として上述した『法の窮極に在るもの』をテキストに設定し、法・政治と経済の関係や、法・政治と国際関係とのつながりについて考える。セッションは、書籍の精読に加え、現代的問題と連携した討議を毎回盛り込み、今日の分脈から法と政治をめぐる関係を掘り下げる。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	社会科学教育	政治学演習Ⅲ	「演習I, II」同様、法と政治をめぐる古典を精読し、両者の有り様についてより深く考えることを目指す。教材として清宮四郎による『権力分立制の研究』をテキストとする。別に開講する政治学演習「I」「II」の流れに沿って、権力分立という仕組みの思想的制度的基盤を理解し、併せて英米における権力分立について概観する。	
			政治学演習Ⅳ	「演習I～III」同様の内容である。「IV」では『権力分立制の研究』の後半を精読し、フランス公法の文脈を新たに加味した上で、法と政治の接点として権力分立を捉え、その歴史的・今日的状況を把握する。終盤では、伊藤正己『法の支配』についても部分的に講読し、法の支配という考えに関する専門的知識を習得・理解する。以上の内容に、現代日本における状況を加味し、これらをどう社会科教育のなかに反映させてゆけば良いかを考える。	
			経済学概論	経済学とは、家計や企業が合理的に行動するという仮定のもとに、経済活動によってどのような社会的帰結が実現するかを理論的に分析する学問である、ということをも前提として、ミクロ経済学の分野の内容を中心に入門的な経済学を学ぶ。具体的には経済学の基本的な考え方、市場と政府の役割、需要と供給の理論、市場の効率性の理論的説明について学び、また授業内容に関する例題を受講者自身が計算して解くことで、授業内容の理解を深める。こうした学修によって、基本的な経済学の知識を修得し、身の回りの経済現象を経済学の知識を用いて理解できるようになる。	
			社会学概論Ⅰ（現代的課題を含む）	現代社会を、社会学を通して理解することを目的とする。地域社会の変容や人間関係の変化に注目し、その特徴を捉え、生起する社会問題に対するアプローチの方法を探る。社会学の入門的な内容を学びつつ、主に地域社会学・社会福祉学でのとらえ方を用いて地域社会における地域資源の変化や社会的な孤立に現れる人間関係の希薄化とそれに関連する諸問題（セルフネグレクトや8050問題など）について、現代的課題を含めて学習する。	メディア
			社会学概論Ⅱ（現代的課題を含む）	現代社会にある種々の問題を主に「社会問題の社会学」の視点から捉え、その実情に即した解決や軽減を考察することを目的とする。地域共生社会づくりが進められるなかで、さまざまな社会問題が指摘されるようになってきている。その背景や原因としてどのような問題があるかを考え、実態を明らかにする。その過程では、問題の解決や軽減のための方策を探ることになるが、国や地方自治体が行き届く政策的な対応のみならず、NPOなど民間で取り組まれている独自の取り組みにも目を向け、より実践的な問題解決に役立つ方法を学ぶ。	メディア
地域社会論Ⅰ	日本の地域社会の変化を捉え、種々の問題をもとに、今後のあり方を考えることが目的である。ひきこもりの課題や8050問題への対応、障がい者の社会参加の促進、地域包括ケアシステムの構築への対応など、変容する地域社会の様相を捉えたいうえで、その中で明らかになる諸問題を地域共生政策における「我が事」としての把握に近づけ、また地域単位で「丸ごと」解決に向けていくためには、どのように対応しうるかに注目しつつ学習する。				

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 社会科教育	地域社会論Ⅱ	<p>さまざまにある問題の中で、「貧困」「生きづらさ」にかかわる地域社会における生活の実情を踏まえ、その解決や改善についてアプローチを明確にできることが目的である。地域社会での生活の具体的な困難状況を取り上げ、その具体例を手掛かりにしながら現行の法制度やそれを補う新たな社会資源の必要を考え、問題の解決や改善のためにどのような方策があるかを学習する。内容により、海外での事例も取り上げつつ学習の効果を高める。</p>	
	社会学演習Ⅰ	<p>社会学(社会福祉学を含む)の理論にかかわる文献について、検討を加えながら読解する。受講者が持っている関心も考慮しながら文献を選定し、受講者が分担して読み、その内容をまとめ、授業内で共有し検討することを基本として読解する。受講者はそれぞれの担当部分だけでなく、文献の全体を理解したうえで、それに基づいて社会を観察できることが到達目標である。社会学理論を理解し、それに基づいて社会を観察する基礎力を養う。</p>	
	社会学演習Ⅱ	<p>社会学演習Ⅰと関連させつつ、社会学関連の理論に基づく調査にかかわる論文等を読解する。受講者同士で読解した内容を授業内で発表共有し、検討を加えたうえで整理しまとめることが目的である。論文の選定については、あらかじめ提示するものに加え、受講者が関心に基づいて自ら探し出したものや最新の論文(海外での研究も適宜含める)も取り入れて対象とする。社会学の研究論文の読解により得た知識等に基づいて、社会を観察する基礎力を養う。</p>	
	社会学演習Ⅲ	<p>地域社会の中にある問題について、当事者の語り(ナラティブ)をもとにして実態を捉える。当事者は困窮高齢者・災害被害者を主な対象とする。受講者が当事者の生活の変化や現状にかかわる具体的な語りについて整理し、授業内で発表共有できることが目的である。語りを得る過程では、可能な範囲で、受講者が当事者に直接にインタビューする。地域社会の問題について、文献や論文から概要を把握しつつ、当事者の語りを中心に実態を捉えることを通して社会を観察する応用力・実践力を養う。</p>	
	社会学演習Ⅳ	<p>地域社会の中にある問題に目を向けてその解決や改善の方策を検討し、授業内で熟議する中で最も望ましいと考えられる方策を見出すことが目的である。その際には、可能な範囲で、当事者の議論への参加を得る。方策の学習にあたり、具体的な方法には、社会福祉的アプローチや実践的ソーシャルワークを含める。社会学演習Ⅲから引き続き、社会を観察し改善・変革する応用力・実践力を養うものとし、演習Ⅲとの連続的な学習による効果を得るものとする。</p>	
社会科・地歴科教育法Ⅲ	<p>各受講生に、日本と世界の歴史について单元ごとに分担し、模擬授業の発表とその検討を中心に授業を進める。縄文時代については、石川県の代表的な縄文遺跡である真脇遺跡、律令制については県内の荘園跡、近世については加賀藩の資料など、生の資料を十分に消化したうえで、全国的な動向と北陸地域の動向を有機的に説明できるような授業プランの作成を求める。</p>		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	社会科学教育	社会科・地歴科教育法Ⅳ	各受講生に、日本と世界の地理について単元ごとに分担し、模擬授業の発表とその検討を中心に授業を進める。とりわけ北陸地域については、日本海側の特徴的な気候、一次産業から第三次産業までを、例えば県の農業試験場やJA、代表的な製造業などへの実地取材や調査に基づき、全国的な動向と北陸地域の動向を有機的に説明できるような授業プランの作成を求める。	
		社会科・公民科教育法Ⅰ（北陸の教育実践を含む）	中学校社会科及び高等学校公民科の教科としての独自性と目標・内容・方法の特質を理解させ、学習指導案の作成や教材づくり・模擬授業の実施を通して、授業づくりの技能を習得させる。具体的には、「問題解決」型社会科授業・「理解」型社会科授業・「説明」型社会科授業・「意思決定」型社会科授業それぞれの特色と作り方を理解させ、事例単元をもとに発問や板書計画などアイデアを考えさせる。その際、富山県の授業実践例や作成した学習指導細案をもとに受講生相互の意見交換を図る。なお、公立・附属学校教員としての実務経験を活かし、具体的実践例を挙げて講義する。	メディア
		社会科・公民科教育法Ⅱ（北陸の教育実践を含む）	中学校社会科及び高等学校公民科の教科としての独自性と目標・内容・方法の特質を理解させ、学習指導案の作成や教材づくり・模擬授業の実施を通して、授業づくりの技能を習得させる。中学校学習指導要領社会及び高等学校学習指導要領公民に示された目標・内容・方法、「改訂の趣旨及び要点」を理解させた上で、「公民とは何か」「取り入れるべき学習内容とは何か」について主体的に考えさせたい。その際、富山県の授業実践例や作成した学習指導細案をもとに受講生相互の意見交換を図る。なお、公立・附属学校教員としての実務経験を活かし、具体的実践例を挙げて講義する。	メディア
		社会科・公民科教育法Ⅲ	中学校社会科及び高等学校公民科の教科としての独自性と目標・内容・方法の特質を理解させ、学習指導案の作成や教材づくり・模擬授業の実施を通して、授業づくりの技能を習得させる。「公民科とは何か」について歴史から学んだり、目標設定の異なる公民科授業類型について考えたり、また教育実習生の授業記録を視聴することによって必要とされる資質・能力を考えたりすることを通して、主体的に学ばせる。その際、授業実践例や学習指導細案をもとに受講生相互の意見交換を図る。	
		社会科・公民科教育法Ⅳ	中学校社会科及び高等学校公民科の教科としての独自性と目標・内容・方法の特質を理解させ、学習指導案の作成や教材づくり・模擬授業の実施を通して、授業づくりの技能を習得させる。高等学校公民科「公共」「倫理」「政治経済」それぞれの目標と内容の特性を理解させた上で、ロールプレイング教材やディベート教材の効果的な活用法を考えさせながら模擬授業を行わせ、主体的な学びを保障する。その際、授業実践例や学習指導細案をもとに受講生相互の意見交換を図る。	
	数学教育	線形代数学概論Ⅰ（代数と現代の数学教育を含む）	本授業では、行列の基本的性質とその応用を学ぶ。行列が正則であるための必要十分条件を証明する（二次の行列に限定）。行列の基本変形を利用した連立一次方程式の解法を理解する。行列の基本変形を利用し逆行列を求める。また、行列の階数とその応用を学ぶ。代数学の考え方がどのように応用されているかを理解し、現代の数学教育についての重要性を学ぶ。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	専門 科目	数学 教育	線形代数学概論Ⅱ（代数と現代の数学教育を含む）	本授業では、行列式の基本的性質とその応用を学ぶ。行列が正則であるための必要十分条件を証明する（ n 次の行列で）。行列式を利用した連立一次方程式の解法を理解する（クラメールの公式）。ある方程式が自明解以外の解をもつための必要十分条件も学ぶ。代数学の考え方がどのように応用されているかを理解し、現代の数学教育についての重要性を学ぶ。	メディア
			代数学Ⅰ	この授業では、群の基礎と周辺事情を学ぶ。整数における不思議な現象は、群の観点から眺めるとごく自然に説明がつくことがある。最初に群の定義を理解し、具体例を述べるができるようにする。同値関係と類別の考えを学び、商群を理解する。既約剰余類群などの様々な群を学んだ後にラグランジュの定理の証明を行う。群論の観点からフェルマーの小定理を証明する。	メディア
			代数学Ⅱ	この授業では、環、体の基礎と周辺事情を学ぶ。整数の集合、有理数の集合、実数の集合など、これまで扱ってきた対象を、環や体という観点から眺め、その構造を理解することを目指す。そのために、環の定義と諸性質を理解し、具体例を述べるができるようにする。イデアルの諸性質を理解し、その関連する問題の証明を学ぶ。体の定義を理解し、具体例として二次体の性質を学ぶ。	メディア
			数論Ⅰ	この授業では、数の基礎と周辺事情を学び、理解を深めることを目的とする。素数と約数についての諸性質を理解し、関連した問題の証明を学ぶ。具体的には、素数は無限に存在する事を証明し、素数の出現する頻度も検討する。特殊な素数や約数の諸問題も学ぶ。ユークリッド互除法と不定方程式の関係を理解する。合同式の性質を学び、フェルマーの小定理の初等的な証明をする。	メディア
			数論Ⅱ	この授業では、数の基礎と周辺事情を学び、理解を深めることを目的とする。整数に関する問題は一見易しく解けるように思える。しかし、実際に解こうとすると難しい問題が多いことに気づく。連分数展開を通して様々な数を分類し、特殊な数とその性質を学ぶ。様々な数論的関数とその挙動評価を行う。数論的関数の平均を考察し、主要項の大きさとその係数に現れる量を学ぶ。	メディア
			解析学概論Ⅰ	微分積分法は現代数学、特に解析学の基礎をなすものである。この講義では、微分積分法のうち一変数関数に対する微分法の基本を学習する。 最初に、関数の極限という考え方を導入し、それに基づき関数の連続性や微分可能性を定義する。次に、微分法に関するいくつかの公式や初等関数に関する導関数の公式を導く。これらの公式の導出方法を理解すること、および得られる公式を自在に利用し、様々な計算を行えるようになることが目標である。	
			解析学概論Ⅱ	微分積分法は現代数学、特に解析学の基礎をなすものである。この講義では、微分積分法のうち一変数関数に対する微分法の応用を扱う。 微分法の応用は、言い換えれば平均値の定理やそこから派生する定理、あるいは平均値の定理を拡張した定理を応用することである。この講義ではロルの定理を出発点とし、各種の定理を証明し、それらを具体的な問題へ応用する方法を学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	数学教育	解析学Ⅰ	<p>微分積分法は現代数学，特に解析学の基礎をなすものである。この講義では，微分積分法のうち一変数関数に対する積分法の基礎を扱う。</p> <p>最初に解析学概論Ⅰの復習として，いくつかの初等関数に対する不定積分の公式を確認する。次に，部分積分法や置換積分法といった不定積分を計算するための道具を用意する。以上の準備の下で，有理関数の不定積分をシステムティックに求める方法を用意し，得られた方法を三角関数，指数関数，無理関数に応用する。</p>	
			解析学Ⅱ	<p>微分積分法は現代数学，特に解析学の基礎をなすものである。この講義では，微分積分法のうち一変数関数に対する積分法の基礎と応用を扱う。</p> <p>解析学Ⅰの学習内容を踏まえて，定積分を定義する。定積分を利用することで，図形も面積や曲線の長さを求めることが可能となる。その仕組みを確認し，応用としていくつかの不等式を導く。また，定積分の概念を拡張した広義積分とその応用についても学習する。</p>	
			解析学Ⅲ	<p>数列の収束や関数の連続性を厳密に扱うには「実数の連続性」を理解する必要がある。「実数の連続性」は，有理数全体の集合と実数全体の集合の間に明確な違いを与える実数全体の集合に固有の性質である。</p> <p>この講義では「デデキントの切断」を公理に採用し，それを出発点として「実数の連続性」を表現する様々な定理を証明する。更に，数列の極限をイプシロン・デルタ論法によって精密に表現し，これまで事実として認めてきた数列の極限に関する基本定理に対する証明を与える。</p>	メディア
			解析学Ⅳ	<p>解析学Ⅲに引き続き，「実数の連続性」に基づいて関数の連続性や連続関数の性質を精密に議論する方法を扱う。</p> <p>最初に，関数の連続性をイプシロン・デルタ論法を用いて特徴づけ，次に閉区間上の連続関数の有するいくつかの著しい性質を明らかにする。さらに，関数の一様連続性という概念を導入し，閉区間上の連続関数が一様連続であることやその応用を扱う。</p>	メディア
			微分方程式Ⅰ	<p>我々の身の回りにある様々な現象は「微分方程式」を用いることで数学的に定式化（数理モデル化）される。現象のモデル方程式である微分方程式の解を調べることで，現象のメカニズムを数学的な立場から議論することが可能となる。</p> <p>この講義では，微分方程式論の入門的な話題として，解の表現を具体的に求めることが可能なタイプの常微分方程式だけを扱い，具体的な計算を通して現象の数学解析について学ぶ。</p>	メディア
			微分方程式Ⅱ	<p>微分方程式Ⅰでは解の具体的な表現を求めることが可能な微分方程式ばかりを扱ったが，応用上重要な微分方程式の多くは非線形であり，解の具体的な表示が得られることは稀である。そこで解の具体的な表示を求めることなく微分方程式の解の性質を解明する方法が必要となる。</p> <p>この講義では，非線形問題を扱う基本として，(1) 一階正規形微分方程式系に対する解の存在と一意性に関する定理を証明し，(2) 自律系微分方程式の平衡点に対する漸近安定性を線形化解析によって解明する方法を学ぶ。</p>	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育科目	専門 科目	数学 教育	確率論	本授業では確率論の基本を学び、確率論の観点から様々な現象を説明できるようになることが狙いである。場合の数の数え方を再確認し、確率の考え方を理解する。確率の諸性質を理解し、平均や分散などの問題を解くことができるようにする。確率変数と確率分布の考えを学び、関連した問題を解く。二項分布の基礎と具体例を学び、関連した問題を解く。	メディア
			統計学	本授業では統計の基本を学ぶ。様々なデータを整理、分析し、背後にある数学的原理をみぬく力を身に付けることがねらいである。統計の考え方を理解し、資料の平均と分散を学ぶ。二変量の解析では、共分散、相関係数、回帰直線の考えを理解し問題を解けるようにする。正規分布とその諸性質を学び、身の回りの現象で正規分布とみなせるものを実際に分析できるようにする。	メディア
			コンピュータ概論Ⅰ (授業への応用を含む)	この講義では、汎用的なプログラミング言語の一つであるPython 3を用いたコンピュータ・プログラミングを学習する。コンピュータ概論Ⅱにおいて数学の諸問題へプログラミングを応用することを意識し、Pythonプログラミングやその周辺の基礎固めを行うことが第一の目標である。また、実際のプログラミングを通して、コンピュータに的確に指示を与える方法を獲得し、複雑な処理を自動化するためのプログラマ的思考を獲得することが第二の目標である。学習内容を数学の教材作成へ応用することについても扱う。	メディア
			コンピュータ概論Ⅱ (授業への応用を含む)	この講義では、数値計算法の初歩的な話題を学習し、コンピュータを数学の諸問題へ応用することを目指す。 微分積分学や線形代数学を利用し、いくつかのトピックに対する数値解法(アルゴリズム)を作り、更にそれらの特徴を明らかにする。また、得られたアルゴリズムを元にして実際にプログラムを作成し、数理の諸問題へコンピュータを応用することを体験する。学習内容を数学の教材作成へ応用することについても扱う。	メディア
			数学科教育法Ⅰ(富山 県の教育実践を含む)	中学校数学科・高校数学科において情報機器の活用の観点から、諸数学教育用ソフトの実習を通して操作方法を学習するとともに、数学教育用ソフトを用いた授業づくりを行うことができるように指導案の作成上の留意点や模擬授業を通して、数学教育用ソフトの活用法について学習する。具体的には、インターネットにある数学教育コンテンツの活用法、作図作成ソフトCabri-Geometry、数式処理ソフトMathematicaなどのソフトを取り上げる。本講義では主に数学教育用ソフトの取り扱いを学習する。	メディア
			数学科教育法Ⅱ(富山 県の教育実践を含む)	中学校数学科・高校数学科において情報機器の活用の観点から、諸数学教育用ソフトの実習を通して操作方法を学習するとともに、数学教育用ソフトを用いた授業づくりを行うことができるように指導案の作成上の留意点や模擬授業を通して、数学教育用ソフトの活用法について学習する。具体的には、インターネットにある数学教育コンテンツの活用法、作図作成ソフトCabri-Geometry、数式処理ソフトMathematicaなどのソフトを取り上げる。本講義では主に数学教育用ソフトを活用した指導案の作成及び模擬授業を行う。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	数学教育	数学科教育法Ⅴ	数学科の授業を分析するための知識及び技能や考え方を身につけるために、数学科授業の分析のための枠組みを基に、各領域における授業の視聴とその分析を通して、個別の学習内容における生徒の認識・思考や、指導上の留意点についての理解を深め、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の原理と構成要素等の知見を得る。	
			数学科教育法Ⅵ	小学校算数科、中学校高等学校数学科の教材と学習指導を分析するための知識及び技能や考え方を身につけるために、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の原理と構成要素等の知見を基に、教育実習に向けて、受講者が協力して、各領域・内容の教材や学習指導案を検討し、模擬授業を行い、相互評価し振り返る。 (オムニバス方式／全8回) (69 伊藤伸也／1回、2回、3回、4回) 「数と式」及び「図形」関連領域・内容の教材と学習指導案の検討、模擬授業とその振り返りを行う。 (43 米田力生／5回、6回、7回、8回) 「関数」及び「データの活用」関連領域・内容の教材と学習指導案の検討、模擬授業とその振り返りを行う。	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
			数学科教育法Ⅶ	小学校算数科、中学校高等学校数学科の授業を設計し教材を開発するための知識及び技能や考え方を身につけるために、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の原理と構成要素等の知見を基に教育実習における授業の経験を振り返り、各領域・内容の学習指導の過程について検討し、そのような授業の設計の枠組みへと洗練させ、各領域・内容における教材開発に取り組む。 (オムニバス方式／全8回) (69 伊藤伸也／1回、2回、3回、4回) 「数と式」、「図形」、「関数」及び「データの活用」関連領域・内容の学習指導の過程を検討するとともに、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の設計の枠組みを洗練させる。 (43 米田力生／5回、6回、7回、8回) 「数と式」、「図形」、「関数」及び「データの活用」関連領域・内容の学習指導の過程の検討と教材開発に取り組み、数学的活動全般を通して、学生自身が主体的・対話的で深い学びを実現する授業の設計の枠組みを洗練し構築していく。	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
			数学科教育法Ⅷ	小学校算数科、中学校高等学校数学科の授業を設計するための実践的な知識及び技能や考え方を身につけるために、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の設計の枠組みと教材開発による知見を基に、教育実習における授業の経験を振り返り、受講者が協力して、授業を構想し学習指導案として再構成し、その模擬授業を行い、相互評価し振り返る。	
			算数・数学科教材開発研究	中学校数学科・高校数学科において指導案の作成とその指導案に基づいた模擬授業を通して各領域における教材開発の視点や技能を身につけることを目的とする。具体的には、各領域ごとの目標の特徴、一斉授業・グループ学習・個別学習などの授業形態、コンピュータなどの情報機器の活用の仕方などの視点や技能を身につける。小学校算数科では、数と計算・図形・測定・データの活用の領域を取り上げ中学校数学科では、数と式・図形・関数・データの活用の領域を取り上げ、高校数学科では、主に数学A、数学Iの内容の中から取り上げる。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	理科教育	理科内容A（力学概論と現代理科教育）	中学校・高等学校の理科教員として必要な力学の基礎を理解することを目標とし、中学校・高等学校の理科を教える上で必要となる力や運動の捉え方や力学の考え方・計算方法の基礎について学ぶ講義科目である。具体的には、力の概念、運動と座標、質点の運動（自由落下、放物運動等）、力学的エネルギー保存則、運動量保存則、角運動量保存則、剛体のつり合いなどについて学ぶ。また、現代理科教育の様々な課題について知識を深める。	メディア
			理科内容A（熱力学）	中学校・高等学校の理科教員にとって重要な熱力学の考え方を理解することを目標とし、中学校・高等学校の理科をエネルギーの視点から理解するために重要な熱力学の体系について学ぶ講義科目である。具体的には、質点系のエネルギー、熱運動、物質の熱力学的性質、理想気体の状態方程式、熱力学第一法則、断熱曲線、アルキメデスの原理、ステファン・ボルツマンの法則、ケルビンの原理、カルノーの定理、熱力学第二法則、エントロピーと熱、熱力学関係式などについて学ぶ。	メディア
			理科内容演習A I（物理学）	中学校・高等学校理科の物理分野の専門知識・技能を深めることを目標とし、中学校・高等学校の物理分野に含まれる内容（力、物体の運動、熱、エネルギー）に関する演習問題に取り組み、その解法をお互いに説明することで、物理的な考え方や見方を養う。具体的には、まず物理数学の基礎を修得した上で、力と運動の関係、力のつり合い、圧力と浮力、力学的エネルギーの保存、熱伝導や熱とエネルギーの関係などについて理解を深める。	
			理科内容演習A II（物理学）	中学校・高等学校理科の物理分野の専門知識・技能を深め、教員としての能力を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の物理分野に含まれる内容（電気回路、電流と磁界、光と音）に関する演習問題に取り組み、その解法をお互いに説明することで、物理的な考え方や見方を養う。具体的には、電磁気学においては、静電現象、電流と磁界、電気容量、電磁誘導、電磁波について学び、また、光の性質や音と波の関係について理解を深める。	
			理科実験A I（物理学）	中学校・高等学校の理科教員として必要な基礎的な物理学実験の知識・技能を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の物理分野に含まれる内容（力、物体の運動、熱、エネルギー）に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。まず、測定と誤差についての基礎的な知識を学び、重力加速度、力の合成、摩擦係数などの力学的実験や、気体と液体の圧力、固体の比熱、熱の仕事当量などの熱力学的測定を行うとともに、コンピューターによるデータ処理に関する技術も修得する。	
			理科実験A II（物理学）	中学校・高等学校の理科教員として必要な物理学実験の知識・技能を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の物理分野に含まれる内容（電気回路、電流と磁界、光と音）に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。まず、電気回路製作の基本的技術を学び、電気抵抗、等電位線と電気力線、静電容量、電磁湯堂などの電磁気学の実験や、音波の共鳴や光に関する波動の測定を行うとともに、コンピューターによる機器の制御に関する技術も修得する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	理科教育	理科内容B（物理化学概論と現代理科教育）	理科教育の1専門分野である化学を指導するうえで、中学校および高等学校における化学分野の基本的で重要な事項を習得すること、また、現代理科教育の様々な課題について知識を深めることが必須となる。この講義では、溶液の性質、熱化学、化学平衡の基礎について取り上げ、物質を構成する微視的な粒子の性質と巨視的な現象とのつながりを学ぶとともに、現代理科教育の様々な課題を理解する視点を養う。	メディア
			理科内容B（一般化学）	理科教育の1専門分野である化学を指導するうえで、中学校および高等学校における化学分野の基本的で重要な事項を習得すること、また、現代の生活と化学とのかかわりを理解する視点を養うことが必須となる。この講義では、酸と塩基、酸化と還元、反応速度論について取り上げ、巨視的な現象を微視的な粒子の性質と変化の視点から捉え、身近な物質・現象と結びつけて理解する視点を養う。	メディア
			理科内容演習B I（化学）	化学分野を指導する教員に必要な資質の一つとして、基礎的な知識を応用し、課題を解決する化学的思考力が必要不可欠となる。この演習では、中学校・高等学校の化学分野に含まれる内容（無機化学、物理化学等）に関して、具体的な現象の観察や課題に取り組みながら化学的思考力を養い、教員になるために必要な基礎知識とそれを応用する能力を身につける。	
			理科内容演習B II（化学）	化学分野を指導する教員に必要な資質の一つとして、専門知識を深めることとその知識や情報を自ら獲得できる力を養うことが必要不可欠となる。この演習では、中学校・高等学校の化学分野に関する専門知識や教材について、文献調査を行い、その内容を自ら理解、要約、説明する過程を通して、教員になるために必要な能力を身につける。	
			理科実験B I（化学）	化学分野を指導する教員において、実験を通して物質の性質や反応に関する知識を習得し、技術的・論理的な能力を習得することが必要不可欠となる。この実験では、中学校および高校における化学分野の基本となる実験の指導および安全教育を行うために必要な基礎的能力を習得することを目的として、気体の発生とその性質の確認、滴定実験を行うとともに、実験に関連して、器具操作方法、データの取り扱い、試薬の調製と廃液処理の方法を学ぶ。	
			理科実験B II（化学）	化学分野を指導する教員において、実験を通して物質の性質や反応に関する知識を習得し、技術的・論理的な能力を習得することが必要不可欠となる。この実験では、中学校および高校における無機化学、物理化学、有機化学分野の実験指導および安全教育を行うために必要な基礎的能力を習得することを目的として、金属イオンの分析、分子量の測定、反応エンタルピーの測定、有機化合物の合成実験を行うとともに、実験に関連して、器具操作方法、データの取り扱い、試薬の調製と廃液処理の方法を学ぶ。	
			理科内容C（生物共通性概論と現代理科教育）	生物分野の理科先進的教育科目として、中学校・高等学校の理科教員に必要とされる生物共通性の基礎を身に付ける。具体的には、生命の化学、生物と細胞、細胞分裂と生物の成長、生物の殖え方、遺伝の規則性と遺伝子、遺伝子発現、基礎的な生理学などについての科学的知見に関する理解を深め、現代理科教育の課題となる生命科学の基礎を身に付ける。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	理科教育	理科内容C（ヒトの生物学）	中学校・高等学校の理科生物分野を教える上で必要となるヒトの生物学の各論について学ぶ。具体的には、特にヒトの体の調節機能（神経系による調節、内分泌系による調節、免疫系による調節）や、生物の体内環境の役割、生物と環境・環境応答の関係、生命に関する科学技術の諸問題などについての科学的知見に関する理解を深める。	メディア
			理科内容演習CⅠ（生物学）	中学校・高等学校の理科教員として必要となる多様な生物の構造と機能に関する文献を講読し、理解した内容を発表することにより、生物学分野の専門知識・技能を深める。具体的には、ウイルスとバクテリアの生理学、単細胞生物の生理生態学、陸上植物の形態学と生態学、後生動物の形態学と生態学に関する文献から発表を行い討論する。	
			理科内容演習CⅡ（生物学）	中学校・高等学校の理科教員として必要な生命の連続性および生物と環境の関わりに関する文献を講読し、理解した内容を発表することにより、生物学分野の専門知識・技能を深める。具体的には、生物の成長と殖え方、遺伝の規則性と遺伝子、生物の種類の多様性と進化、生物と環境、および自然環境の保全と科学技術の利用に関する文献から発表を行い討論する。	
			理科実験CⅠ（生物学）	中学校・高等学校の生物学分野に含まれる内容（主に植物）に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。具体的には、植物野外調査と採集、植物実験・観察の方法、植物標本・データ分析（コンピュータの活用を含む）、植物細胞・植物組織・植物器官を用いた実験・観察など、基礎的な生物学実験の知識・技能を身につける。	
			理科実験CⅡ（生物学）	中学校・高等学校の生物学分野に含まれる内容（主に動物）に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。具体的には、動物野外調査と採集、動物実験・観察の方法、動物標本・データ分析（コンピュータの活用を含む）、動物細胞・動物組織・動物器官を用いた実験・観察など、基礎的な生物学実験の知識・技能を身につける。	
			理科内容D（地球環境科学概論と現代理科教育）	本講義では地学の基礎的な学習をとおして、将来学生が中学校・高等学校の教員になったときに、その授業のバックボーンとなる知識を習得することを目指す。具体的な内容として、大気・海洋運動、地表の変化、堆積岩や地層、地質構造、自然災害について、その成り立ちやメカニズム、そこで起った諸現象について理解を深める。	メディア
			理科内容D（地球史学）	本講義では将来学生が中学校・高等学校の理科教員になったときに、それらの地学分野の内容のバックボーンとなる知識の習得を目指す。具体的な内容として、地球の歴史が何を証拠としてどのように科学的に復元されてきたかを詳しく解説することによって、歴史が興味深い科学の対象であることを理解するとともに、46億年にもおよぶ地球史の概要を知り、その中で人類に至る脊椎動物の進化史を学ぶ。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	理科教育	理科内容演習D I (地学)	地形や地質の野外観察や地学に関する演習問題等を解くことにより、中学校・高等学校理科の地学分野の専門知識・技能を深めることを目標とし、中学校・高等学校の地学分野に含まれる内容(地形、地質、プレートテクトニクス等)に関する観察や課題に取り組み、地学的な考え方や見方を養う。具体的には、地形および地質の野外観察、ITCを活用した古地理の推定、ボーリングデータによる地質断面図の作成、地質図からの地球史の推定、プレートの運動速度の推定、練習問題地を使った球史の復元などを行う。	
			理科内容演習D II (地学)	地学に関する課題に取り組むことにより、中学校・高等学校理科の地学分野の専門知識・技能を深め、教員としての能力を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の地学分野に関する単元の内容や教材について研究をする。その上で学生が地学分野に関するテーマを決めて課題設定をし、それらに取り組むことで、地学的な考え方や見方とともに教員としての資質を養う。	
			理科実験D I (地学)	中学校・高等学校の理科教員として必要な基礎的な地学実験の知識・技能を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の地学分野に含まれる内容(地形、地層)に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。具体的には、地形図の基礎と読図(コンピュータの活用を含む)、測量の基礎、地質図の基礎と読図などについて学ぶ。	
			理科実験D II (地学)	中学校・高等学校の理科教員として必要な地学実験の知識・技能を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の地学分野に含まれる内容(気象、化石、岩石)に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。具体的には、身近な気象の観察(作業、データの整理と考察)、コンピュータを活用した自然災害学習、岩石の分類と標本の観察、岩石薄片の観察、化石の分類法、化石の抽出や観察などを行う。	
			理科教育法Ⅲ(富山県の教育実践を含む)	本授業では、中学校・高等学校の理科の学習指導要領における目標と内容構成、指導計画、指導方法について理解し、中学校・高等学校における理科教育の基本的事項を習得することを目的としている。その際、富山県の具体的な授業実践例を学び、その特徴や教育理念を理解するようにする。とくに、中学校・高等学校における理科の目標をもとに、理科において育成を目指す資質能力と生徒の実態、主体的な学習のための課題設定、授業展開についても理解を深める。また、中学校・高等学校のカリキュラムの構成や教材、情報機器の活用について、具体的な授業実践例をもとに理解する。	メディア
			理科教育法Ⅳ(富山県の教育実践を含む)	本授業では、中学校・高等学校の理科の学習指導要領に基づいた授業計画と授業評価について理解するとともに、理科におけるマネジメントを理解し、中学校・高等学校における理科教育の基本的事項を習得することを目的としている。その際、富山県の具体的な授業実践例を学び、理科の教材研究の工夫やSTEAM教育、SDGsと関連付けた学習内容や授業展開の工夫についても学び、単元計画や学習指導案の作成する。作成した学習指導案に基づく模擬授業を実施し、学習の振り返りを行い授業改善にも取り組む。さらに、理科における情報機器の活用や事故防止、理科室の管理運営についても理解を深める。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	理科教育	理科教育法Ⅴ	本授業では、中学校・高等学校の理科の内容を対象に、具体的な理科の授業設計を行い、指導技術について習得することを目的としている。とくに、中学校・高等学校の理科の目標と指導のポイント、優れた理科授業の分析と指導技術、理科の教材研究例と授業実践について具体的な実践例をもとに理解する。また、主体的な理科学習のための課題設定や、情報機器の活用を含めた理科における対話的な学び、教科横断的な理科の授業について具体的な授業実践例から理解する。	
			理科教育法Ⅵ	本授業では、中学校・高等学校の理科の内容を対象に、授業設計と模擬授業の実施を通して理科の指導技術について習得することを目的とする。指導計画については、単元計画、本時の指導案、評価基準、授業において用いるワークシートの作成など、具体的な教材を対象に行う。その際、物理分野、化学分野、生物分野、地学分野の内容を取り上げ、その内容の特徴を生かした模擬授業の実施と模擬授業の評価を行い、模擬授業を振り返ることによって、指導計画の改善案を作成する。	
			理科教育法Ⅶ	本授業では、教育実習をふりかえりながら理科の授業改善を行い、それにもとづく模擬授業を実施することにより理科の教材開発や指導技術を習得することを目的とする。とくに、教育実習の授業と指導案について再検討し、同じ授業について指導案を再度作成し議論する。その議論の結果を踏まえ、教材について検討し授業計画を立てて模擬授業を実施する。その際、単元計画と本時の指導案の作成と教材の検討、ワークシートの作成、情報機器活用を含む教具の準備と板書計画などを考慮するようにする。	
			理科教育法Ⅷ	本授業では、日本の理科カリキュラムの変遷や世界の理科カリキュラムを概観し、カリキュラムが時代的背景によって変化し指導法も変化してきたことを理解し、これからの理科の指導のあり方について検討することを目的とする。とくに、理科カリキュラムの構成要素にもとづき、昭和20年代の生活単元学習、昭和40年代の系統的学習、昭和50年代からのゆとりのカリキュラム、平成中期から令和にかけての現代のカリキュラムを取り上げ、その背景と特徴を理解する。その際、世界の理科カリキュラムとの比較、理科のカリキュラムマネジメントの考慮などについても取り上げる。	
			理科教育演習Ⅰ	本授業では、理科教育に関する研究資料やデータの分析をもとに、理科教育の研究方法について習得することを目的とする。とくに、理科の教材開発の方法について、教材開発の論文をもとに理解する。また、自然認識の調査分析の方法について、定性的分析や統計的手法を用いた定量的分析について研究論文をもとに理解する。さらに、理科授業の質的分析、量的分析の方法について理解するとともに、理科カリキュラムの分析方法について、歴史的分析や国際比較の分析について理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	理科教育	理科教育演習Ⅱ	本授業では、理科教育に関する研究資料の分析とともに、教材開発の課題研究を通して理科教材の開発方法について習得することを目的としている。まず、教材開発の目的と意義の理解のもとに、任意の理科教材に着目し、その教材開発の先行研究について調べ、教材の意義や教材開発の方法について理解する。それをもとに、教材の設計、教材の作成を行い、教材の発表を通して改善し、改善した教材を用いた授業設計と模擬授業を行う。模擬授業を通して教材および教材を用いた授業展開の改善点を明らかにする。	
		アンサンブルⅥ(室内楽)	受講者同士でアンサンブルを組み、西洋古典から近現代による作品の演習を通して、各楽器の特性や楽曲の特徴などを捉え、音楽を多面的に理解する。演習では、他の科目で学習した個人の技能を基盤とし、アンサンブルを通して学校教育において必要とされる「協働」を体験的に学ぶ。同時に、発音等の仕組みが異なる楽器とのアンサンブルに取り組むことで、他の楽器の特性を捉え学校における音楽科授業等の指導につなげることを目指す。	
	アンサンブルⅦ(室内楽)	受講者同士でアンサンブルを組み、室内楽曲の演習を通して音楽を多面的に理解し、合奏体における指導法の習得を目指す。他の合奏科目における学修を基盤とし、さらに高度なアンサンブルの実現を目指す。また、指揮法における基本的な動作を、アンサンブルを指揮することでよりリアルに学び、同時に児童生徒を対象としたより適切な指導言を獲得できるようにする。講義の最後には成果発表を行い、学修成果の対外的な発信につとめる。		
	音楽教育	音楽史Ⅰ(西洋音楽)	西洋の社会の中ではぐくまれてきた音楽文化を地中海世界、中世、近代に向けて概観しつつ、視聴覚資料を利用しながら西洋音楽についての基本的な知識を身につける。資料を通じての分析力・理解力とともに感性・感情といったコミュニケーションや自己理解や他者理解のスキルを発見し解決していくことを目標とする	
	音楽史Ⅱ(西洋音楽)	近代以降のグローバル社会における音楽文化を作品や様式だけにとどまらず社会と歴史観を交えて概観する。視聴覚資料を利用しながら西洋音楽についての基本的な知識を身につけるとともに、資料を通じての分析力・理解力や感性・感情に左右されるコミュニケーションや自己理解や他者理解のスキルを発見し解決していくことを目標とする。		
	音楽科教育法Ⅲ(富山県の教育実践を含む)	音楽科教育法Ⅰ・Ⅱの学修をもとにしたより実践的な指導計画について学習評価の面から考察し、模擬授業の実施につなげる。講義では、音楽科教育における基本的な用語や概念を把握したうえで、実際の授業場面を映像で視聴し、学習評価に関する理論を体験的に把握する。また、実際の学習計画に対応した評価計画を作成し、簡単な模擬授業とその後の省察を通して、評価計画等の妥当性を検証できる素地を身につけることを目指す。	メディア	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	音楽教育	音楽科教育法Ⅳ（富山県の教育実践を含む）	音楽科教育法Ⅰ・Ⅱの学修をもとにしたより実践的な指導計画について学習評価の面から考察し、模擬授業の実施につなげる。講義では、学習指導案を実践する上で必要となる教材や教具の開発を行い、模擬授業の実施とその後の省察によってそれらの有効性を検証と改善を行う。また、授業分析の理論と方法を学び、これからの教師に必要とされる省察のための基礎的な知識と技能を身につける。同時に、今後必要とされる授業改善の視点について、実際の授業を映像で視聴しながら検討する。	メディア
		絵画基礎Ⅱ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）	様々な描画材料を用いた実技課題に取り組みながら、絵画実技に関する基礎的な表現力・造形力を習得することを目的とする。絵画組成（支持体、各種絵具）の特性についても理解を深め、様々な画材を用い9つの提出課題作品の制作に取り組む。各課題提出と併せ、ミニ講評会の機会を持ち、作品分析・作品評論・作品評価についても検討する。	
	美術教育	彫刻基礎Ⅱ（現代美術表現を含む）	彫刻分野での基本である塑造を蠟によって経験し、その成果物である塑像を恒久的形態として残すことの、歴史的・技法的意義を学習する。金属鑄造技法は多岐にわたり、知識を習得すると共に自身の経験するところからの造形意識の再確認を促す。見落とされがちな彫刻作品の鑄造過程を理解し、原形制作、鑄型制作と鑄造、仕上げまでの工程を実体験することでモノのあり方を再確認、再発見する。	
		デザイン基礎Ⅱ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）	目的や機能を踏まえて事象や対象を捉える造形的な視点に基づき、デザインの基礎的表現について理解する。加えて、中学校、高校美術科のデザイン分野の専門知識・技能を深める上で、幅広い学習内容をもとにデザイン表現の可能性を追求する。文献研究や制作課題を通して、デザインの基礎的表現の知識や表現技能を身につけ、演習課題を通して基礎的な造形表現能力を養う。	
		デザインⅠ	「デザイン基礎Ⅱ」までの授業をふまえ、演習課題を通してより実践的にデザインの表現について理解する。また、中学校、高校美術科のデザイン分野の専門知識・技能を深める上で、「デザイン基礎Ⅱ」までの学習内容をもとに学校教育におけるデザイン表現の可能性を追求する。 演習課題のテーマに即して、調査・分析・製作・プレゼンテーションを行い、平面デザインを学習する。	
		デザインⅡ	「デザインⅠ」までの授業をふまえ、演習課題を通してより実践的にデザインの表現について理解する。また、中学校、高校美術科のデザイン分野の専門知識・技能を深める上で、「デザインⅠ」までの学習内容をもとにデザイン表現の可能性を追求する。 演習課題のテーマに即して、調査・分析・製作・プレゼンテーションを行い、立体デザインを学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	美術教育	デザインⅢ	「デザインⅡ」までの授業をふまえ、演習課題を通してより実践的にデザインの表現について理解する。また、中学校、高校美術科のデザイン分野の専門知識・技能を深める上で、「デザインⅡ」までの学習内容をもとに学校教育におけるデザイン表現の可能性を追求する。演習課題のテーマに即して、調査・分析・製作・プレゼンテーションを行い、映像メディアデザインを学習する。	
			デザインⅣ	デザインと社会のかかわりを考え、演習課題を通して実践的にデザインの社会的責任や役割を理解する。また、中学校、高校美術科のデザイン分野の専門知識・技能を深める上で、「デザインⅢ」までの学習内容をもとに学校教育におけるデザイン表現の可能性を追求する。演習課題のテーマに即して、調査・分析・プレゼンテーションを行い、ソーシャルデザインの可能性を研究する。	
			工芸基礎Ⅱ	美術科の工芸分野に関する基礎知識・技能を理解し、木工作品制作を通して材料や技法の理解を深める。伝統的な工芸品から現代の工業製品まで、生活の中にある工芸品について、素材や機能、技法、地域の違いによるそれぞれの価値について考える。陶芸作品や木工作品制作を通じて、素材特性や工芸技法の理解・習得する。	
			日本美術史（美術理論含む）	日本美術史の通史として、先史・古代から中世、すなわち縄文・弥生・古墳・飛鳥・奈良・平安・鎌倉・室町・安土桃山・江戸時代、また近代美術の流れを学ぶ。話の流れの中で適宜、同時代に影響を受けた中国、朝鮮半島など東アジア、またヨーロッパの美術作品も取り上げていく。	
			西洋美術史（美術理論含む）	古代から現代までの西洋美術史の展開を学び、作品鑑賞に必要な知識や見方を身につける。西洋美術の見方の基礎をおさえた上で、日本を含む東洋の美術史や美術作品との比較も取り入れながら、様式や作品のつながりと展開を多角的・有機的に構築していく。同時代の社会状況や政治状況、背景となる思想をふまえながら、社会の中での美術の役割について考える。	
			美術実地研究	実際の美術作品を中心とした文化資源の現地調査を通して、美術科の授業における美術資源を活用した教材について考察する。国内の著名な美術作品を直に鑑賞するとともに事前調査の内容を発表することによって、文化史や美術史の理解と認識を深め、鑑賞領域の授業力の向上を目的とする。 調査する美術館及び作品を学生自らが選択し、現地調査の計画を立てる。2泊3日で実際に調査に出向き、事前調査に基づく作品説明を行う。お互いの説明内容・方法を相互評価するとともに鑑賞した作品について意見交換をおこなう。最終的に事前調査及び現地調査に基づく作品解説の教材を作成する。	
			美術科教育法Ⅲ（富山県の教育実践を含む）	学習指導要領における「表現」において富山県の材料の使用を含む中学校の美術科の授業実践を想定し、必要とされる美術科教育の基礎的な教育原理、教育方法論などについて理解し、知識や技能を習得する。美術科教科書の題材を実際に体験しながら、学習指導要領の内容に沿った「表現」の授業について、学習指導案を立案しミニ模擬授業（ウエアブルカメラ及びタブレット端末等のICT機器を活用した）を行うことで授業方法の専門知識・技術を深める。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	美術教育	美術科教育法Ⅳ（富山県の教育実践を含む）	学習指導要領における「鑑賞」において県内の美術館所蔵作品の活用を含む中学校の美術科の授業実践を想定し、必要とされる美術科教育の基礎的な教育原理、教育方法論などについて理解し、知識や技能を習得する。美術科教科書の題材を実際に体験しながら、学習指導要領の内容に沿った「鑑賞」の授業及び「共通事項」を意識したミニ模擬授業（ウェアラブルカメラ及びタブレット端末等のICT機器を活用した）を行い、「表現」のデータと共に発話を中心に表計算ソフトで分析することで授業方法の専門知識・技術を深める。	メディア
			美術科教育法Ⅴ	<p>3年次教育実習の研究授業を主に取り上げ、その成果と課題を明らかにし、授業方法の専門知識・技術を深める。第1回において授業研究の目的、方法について理解し、第2回～第6回において受講者の附属学校園での研究授業や教壇実習の記録ビデオ再生による授業研究を実施し、第7回において情報機器の効果的な活用を検討し、第8回において受講者に共通・個別の課題を検討し、4年次教育実習にむけた課題を明らかにする。</p> <p>（金沢クラスはオムニバス方式／全8回）</p> <p>（金沢クラス 44 鷺山靖／1回, 8回） 第1回オリエンテーションでは授業研究の目的、方法について解説し、第8回の授業分析まとめにおいて、授業評価をもとに課題整理をおこなう。</p> <p>（金沢クラス 22 大村雅章／2回, 5回, 8回） 第2, 5回授業分析では、受講者の附属学校園での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討する。第8回は同上。</p> <p>（金沢クラス 151 江藤望／3回, 6回, 8回） 第3, 6回授業分析では、受講者の附属学校園での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討する。第8回は同上。</p> <p>（金沢クラス 67 池上貴之／4回, 7回, 8回） 第4回授業分析では、受講者の附属学校園での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討し、第7回では、第2回～第6回までの授業分析にもとづき情報機器の効果的な活用を検討する。第8回は同上。</p>	オムニバス方式 （金沢クラスのみ）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	美術教育	美術科教育法Ⅵ	<p>「中等美術科教育法Ⅴ」で明らかにした成果と課題を意識した基本的教材の模擬授業を実施することにより、授業方法の専門知識・技能を深める。第1回において模擬授業の目的、方法について理解し、第2回～第3回において模擬授業の学習指導案立案、情報機器の効果的な活用の検討をおこない、第4回～第7回において模擬授業を実施し、第8回において模擬授業のまとめをおこない4年次教育実習にむけた課題を明らかにする。</p> <p>(金沢クラスはオムニバス方式/全8回)</p> <p>(金沢クラス 22 大村雅章, 151 江藤望, 67 池上貴之/1回, 2回, 3回)</p> <p>「中等美術科教育法Ⅴ」における授業分析の成果と課題を反映させる図画工作科・美術科題材を選定し、模擬授業の学習指導案を立案する。その後、模擬授業に用いる教具作成、作品試作をおこない、情報機器の効果的な活用を検討するなど学習指導案の修正をおこなう。</p> <p>(金沢クラス 44 鷺山靖/4回, 5回, 6回, 7回, 8回)</p> <p>模擬授業の相互評価、講評をおこない、第8回には模擬授業の評価をもとに4年次教育実習にむけた課題整理をおこなう。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
			美術科教育法Ⅶ	<p>4年次教育実習の研究授業を主に取り上げ、その成果と課題を明らかにすることにより、授業方法の専門知識・技術を深める。第1回において授業研究の目的、方法について理解し、第2回～第6回において受講者の実習協力校での研究授業や教壇実習を模擬授業形式で再現する授業研究を実施し、第7回において情報機器の効果的な活用を検討し、第8回において受講者に共通・個別の課題を検討し、教職にむけた課題を明らかにする。</p> <p>(金沢クラスはオムニバス方式/全8回)</p> <p>(金沢クラス 44 鷺山靖/1回, 8回)</p> <p>第1回オリエンテーションでは授業研究の目的、方法について解説し、第8回の授業分析まとめにおいて、授業評価をもとに課題整理をおこなう。</p> <p>(金沢クラス 22 大村雅章/2回, 5回, 8回)</p> <p>第2,5回授業分析では、受講者の実習協力校での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討する。第8回は同上。</p> <p>(金沢クラス 151 江藤望/3回, 6回, 8回)</p> <p>第3,6回授業分析では、受講者の実習協力校での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討する。第8回は同上。</p> <p>(金沢クラス 67 池上貴之/4回, 7回, 8回)</p> <p>第4回授業分析では、受講者の実習協力校での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討し、第7回では、第2回～第6回までの授業分析にもとづき情報機器の効果的な活用を検討する。第8回は同上。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	美術教育	美術科教育法Ⅷ	<p>「中等美術科教育法Ⅶ」で明らかにした成果と課題を意識した基本的教材の模擬授業を実施することにより、授業方法の専門知識・技能を深める。第1回において模擬授業の目的、方法について理解し、第2回～第3回において模擬授業の学習指導案立案、情報機器の効果的な活用の検討をおこない、第4回～第7回において模擬授業を実施し、第8回において模擬授業のまとめをおこない教職にむけた課題を明らかにする。</p> <p>(金沢クラスはオムニバス方式/全8回)</p> <p>(金沢クラス 22 大村雅章, 151 江藤望, 67 池上貴之/1回, 2回, 3回)</p> <p>「中等美術科教育法Ⅶ」における授業分析の成果と課題を反映させる図画工作科・美術科題材を選定し、模擬授業の学習指導案を立案する。その後、模擬授業に用いる教具作成、作品試作をおこない、情報機器の効果的な活用を検討するなど学習指導案の修正をおこなう。</p> <p>(金沢クラス 44 鷲山靖/4回, 5回, 6回, 7回, 8回)</p> <p>模擬授業の相互評価、講評をおこない、第8回には模擬授業の評価をもとに4年次教育実習にむけた課題整理をおこなう。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
			造形教育演習Ⅰ	<p>本演習は、特に教科としての美術科または図画工作科の位置を見直し、児童生徒に資質・能力をつけることが求められることを踏まえた上で、最終的には学校教育の現場に資する研究論文の作成を目指して構成している。そのために、まず研究テーマを設定し、章立てを構想し、先行研究を調べた上で、研究テーマの認再確をし、研究仮説の設定を行う。</p>	
			造形教育演習Ⅱ	<p>本演習は、特に教科としての美術科または図画工作科の位置を見直し、児童生徒に資質・能力をつけることが求められることを踏まえた上で、最終的には学校教育の現場に資する研究論文の作成を目指して構成している。そのために造形教育演習Ⅰで設定した研究テーマに基づいた研究仮説にしたがって、研究で必要な調査計画を立案して実際に予備調査を行い、結果をまとめる。</p>	
			造形教育演習Ⅲ	<p>本演習は、特に教科としての美術科または図画工作科の位置を見直し、児童生徒に資質・能力をつけることが求められることを踏まえた上で、最終的には学校教育の現場に資する研究論文の作成を目指して構成している。そのために造形教育演習Ⅱで行った予備調査のとりまとめの結果を踏まえて分析方法を確定し、本調査を行った上で分析結果を集約して結果をまとめ考察を行う。</p>	
			造形教育演習Ⅳ	<p>本演習は、特に教科としての美術科または図画工作科の位置を見直し、児童生徒に資質・能力をつけることが求められることを踏まえた上で、最終的には学校教育の現場に資する研究論文の作成を目指して構成している。そのために造形教育演習Ⅲで行った調査結果を分析して導き出した結果に対する考察を踏まえた上で、論文の作成を行い、発表用レジュメやプレゼンテーションの作成を行う。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	保健体育	体操Ⅰ	さまざまな運動の実践を通して各自が体を動かすことの楽しさや面白さを知り、教員として、体づくり運動に必要な基本的運動技能を獲得するとともに、その教材開発や指導法を学ぶことをねらいとする。 体づくり運動（「からだほぐしの運動」と「体力を高める運動」）についての基本的な考え方を学んだあと、体ほぐし運動を中心に実技形式で授業を行う。	
			体操Ⅱ	さまざまな運動の実践を通して各自が体を動かすことの楽しさや面白さを知り、教員として、体づくり運動に必要な基本的運動技能を獲得するとともに、その教材開発や指導法を学ぶことをねらいとする。 体づくり運動（「からだほぐしの運動」と「体力を高める運動」）についての基本的な考え方を学んだあと、用具を用いた運動を中心に実技形式で授業を行う。また、運動プログラムの発表も行う。	
			器械運動Ⅰ	器械運動の基本技能を身につけること、およびマット運動や平均台運動などの指導方法及び補助方法を習得することをねらいとする。 器械運動の基本的な技の習得を目的とし、マット運動（接転技群：前方，接転技群：後方，ほん転技群），平均台運動（歩行，バランス，下り）などを実施する。器械運動の指導に必要な技能の習得と指導方法や補助方法の学習を行う。	
			器械運動Ⅱ	器械運動の基本技能を身につけること。跳び箱運動や鉄棒運動などの指導方法及び補助方法を習得することをねらいとする。 器械運動の基本的な技の習得を目的とし、跳び箱運動（切り返し系，回転系），鉄棒運動（上がり技群，前方支持回転群，後方支持回転群，下り技群）などを実施する。器械運動の指導に必要な技能の習得と指導方法や補助方法の学習を行う。	
			陸上Ⅰ	走・跳躍・投てき種目の記録向上を目的とした運動技能を学習し、技能向上のための指導法、トレーニング方法、ルール、安全性への配慮など、陸上競技に関する基礎理論を実践する。競技現場と研究知見との融合の成果を体系化し、学校体育の現場にフィードバックすることを目指す。そのことで、多くの子どもたちが余すことなく自分の潜在力を発揮できるような指導力を身につける。	
			陸上Ⅱ	走・跳躍・投てき種目の記録向上を目的とした運動技能を学習し、技能向上のための指導法、トレーニング方法、ルール、安全性への配慮など、陸上競技の応用的実践力を高める。競技現場と研究知見との融合の成果を体系化し、学校体育の現場にフィードバックすることを目指す。そのことで、多くの子どもたちが余すことなく自分の潜在力を発揮できるような指導力を身につける。	
			水泳Ⅰ	学習指導要領の体育分野「水泳」の領域におけるクロール、平泳ぎの各泳法に関する手と足の動き及び水中運動の特性について学習するとともに、呼吸と連動した技術の修得を目指す。併せて、水泳によって鍛えられる筋肉や高められる体力について理解する。クロール及び平泳ぎの技能向上を通じて、水泳指導における留意点や安全管理に関する知識も学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 保健体育	水泳Ⅱ	学習指導要領の体育分野「水泳」の領域におけるクロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの各泳法に関する手と足の動き及び水中運動の特性について学習するとともに、呼吸と連動した技術の修得を目指す。併せて、水泳によって鍛えられる筋肉や高められる体力について理解する。クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの技能向上を通じて、水泳指導における留意点や安全管理に関する知識も学ぶ。	
	武道BⅠ（柔道）	本科目では柔道の基本技能を身につけるとともに、柔道の指導法を学ぶことを目的とする。武道BI（柔道）では、柔道の教育的価値や柔道に附随する傷害・事故発生時の対処法を理解することを導入とし、柔道の基本動作や基本的な投げ技、技を用いた攻防をかかり練習、約束練習、自由練習などによって学習する。また、それらの指導法を学ぶことで、安全で楽しい柔道授業の運営能力を身につける。	
	武道BⅡ（柔道）	本科目では柔道の基本技能を身につけるとともに、柔道の指導法を学ぶことを目的とする。武道BII（柔道）では、武道BI（柔道）で学習した基本的な投げ技の連絡技や基本的な抑え技、技を用いた攻防をかかり練習、約束練習、自由練習などによって学習する。また、それらの指導法や試合運営法、審判法についても学び、安全で楽しい柔道授業の運営能力を身につける。	
	ダンスⅠ	ダンス授業に必要な基本的運動技能を獲得するとともに、ダンスの教材開発や指導法を学ぶことをねらいとする。ダンスⅠでは主に、創作ダンスとフォークダンスを中心に学習を行う。現代的課題や指導場面で生じやすい教育的課題など、具体的事例を用いながら説明し、ダンスの教材や指導法について、主体的・対話的で深い学びを通じた学習を行う。	
	ダンスⅡ	ダンス授業に必要な基本的運動技能を獲得するとともに、ダンスの教材開発や指導法を学ぶことをねらいとする。ダンスⅡでは、主に現代的なリズムのダンスと創作ダンスを中心に学習を行う。現代的課題や指導場面で生じやすい教育的課題など、具体的事例を用いながら説明し、ダンスの教材や指導法について、主体的・対話的で深い学びを通じた学習を行う。	
	球技（ゴール型）BⅠ（バスケットボール）	基礎的な個人技術と3対3までの集団的戦術を習得し、その指導法を理解する。グループ学習を通じて、チーム内で助け合いながら協調性を高め、仲間とともに技術を高めていく姿勢、バスケットボールの指導の目的、生徒の発達段階に応じた指導法を理解し、実践できるようになる。また、ゲームの実践を通じて、バスケットボールのルールを理解し、基礎的な審判技術を習得する。さらに3対3のリーグ戦等の実践において、生徒たちが自主的に試合運営ができるようになるための留意事項を理解する。	
	球技（ゴール型）BⅡ（バスケットボール）	応用的な個人技術と5対5までの集団的戦術を習得し、その指導法を理解する。グループ学習を通じて、チーム内で助け合いながら協調性を高め、仲間とともに技術を高めていく姿勢、バスケットボールの指導の目的、生徒の発達段階に応じた指導法を理解し、実践できるようになる。また、ゲームの実践を通じて、バスケットボールのルールを理解し、基礎的な審判技術を習得する。さらに5対5のリーグ戦等の実践において、生徒たちが自主的に試合運営ができるようになるための留意事項を理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	保健体育	球技（ネット型）BⅠ （バレーボール）	バレーボールのゲーム特性の理解を通して、基礎技術の習得やゲームの楽しさを体験することをテーマとする。チームとして戦術を創出し、それを実現しようとする中で、意思の表示、伝達、協力、共感といったコミュニケーションや協働作業の必要性を理解し、バレーボールの楽しみ方を検討する。また、基礎技術は、個別の技術練習とゲーム練習を併せながら学習し、基本技術を連携させた応用技術では、守備からの攻撃や攻撃からの守備への切替えを学習する。バレーボールは、ポジション別にチームにおける役割が異なるため、役割を理解し、守備及び攻撃時におけるそれぞれの動きを学習することを目標とする。	
			球技（ネット型）BⅡ （テニス）	テニスは数多く存在するスポーツ種目の中でも特に、子どもから高齢者まで幅広い年齢層が親しむことができる特性を持ち、その基礎技術を習得し実践することは、個人の生涯スポーツ参加の一助となり得る。よって、本授業では、学習者個々のレベルに応じて、テニス技術を高めることを大きな目的とする。また、テニスの指導・普及という指導者の観点から、テニスの特性にふれ、練習・試合を工夫していく能力を養う。	
			球技（ベースボール型）Ⅰ	「ベースボール型球技」の特性と基礎的知識（ルール・戦術）および技能（個人・集団的技術）について実技を中心に演習形式で学修する。安全かつ効果的なボール運動の実践能力を学修するとともに、基本的なゲーム構造・展開の指導に必要なデモンストレーション能力を修得する。また、体育授業や指導現場で活用できる教授法や指導法の理論と実践を学修する。さらに、チームスポーツに必要な他者とのコミュニケーションを通じた協同学修の価値・認識を深める。	
			球技（ベースボール型）Ⅱ	「ベースボール型球技」の特性と基礎的知識（ルール・戦術）および技能（個人・集団的技術）について実技を中心に演習形式で学修する。安全かつ効果的なボール運動の実践能力を学修するとともに、基本的なゲーム構造・展開の指導に必要な審判法や大会等の企画・運営方法を修得する。また、ベースボール型球技の具体的な教材事例を実践するとともに、指導計画案の作成から模擬授業・指導演習までを実施し、互いの成果と課題について省察を深める。	
			スポーツ文化論Ⅰ	本講義は、スポーツに対して文化論的視点から講義を行う。特に、スポーツ文化論Ⅰでは歴史的視点から近代に誕生したスポーツについて、その文化的背景を中心に講義したい。近代という時代は、それ以前の世界から大きな変容がなされたとされており、スポーツもまたそのような時代的背景のもとで形成された。そして、現代を生きる我々もまた、そのような近代という時代を経たうえで実践されているスポーツに慣れ親しんでいる。本講義では、スポーツが誕生したイギリスを含むヨーロッパと、我々が住む日本の、近代におけるスポーツについて理解を深めることを目指す。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	保健体育	スポーツ文化論Ⅱ	本講義は、スポーツに対して文化論的視点から講義を行う。特に、スポーツ文化論Ⅱでは文化人類学的視点からスポーツやわざ等の身体にまつわる文化を対象に、その文化的背景を中心に講義したい。スポーツとは、近代にイギリスを起点にヨーロッパやアメリカを中心に形成されたものとされる。しかし、当然のことながら世界は西洋社会のみによって形成されるものでなく、様々な文化において、スポーツに類似するような身体文化が存在している。本講義では、そのような身体文化を中心に文化人類学的視点を援用しながら、今日スポーツと呼ばれている実践を相対化するような視点を身につけることを目指す。	メディア
			スポーツ心理学Ⅰ（最新教育課題を含む）	学校教育における体育、競技やレクリエーションとしてのスポーツ、健康・医療領域での運動習慣など、広義の身体活動への動機づけについて心理学の理論的背景から説明し、創造的で質の高い指導ができる運動指導者の育成を目指す。「身体的健康」、「精神的健康」、「社会的健康」の維持・促進に向けてスポーツ心理学がどのように役立つのかを学ぶ。	メディア
			スポーツ心理学Ⅱ（最新教育課題を含む）	運動指導者は、学習者の運動行動を継続させるために、運動技能を効率よく習得させ、運動への有能感を高めさせることが求められる。学習者の「身体で覚える」営みを促進させるためには、運動技能を習得する過程の情報処理について理解を深めなければならない。この「運動学習」について、心理学の理論的背景を学びながら、創造的で質の高い指導ができる運動指導者の育成を目指す。	メディア
			スポーツマネジメント論Ⅰ	スポーツ産業は成長を続け、スポーツから生まれる権益を販売する権利ビジネスも定着する傾向にある。これらの成長は、用品、施設、スポーツクラブ、プロスポーツ、メディア産業など多岐にわたっており、他の産業（健康、福祉、医療、建設業など）と密接に関連している。本授業ではスポーツの種類別経済活動（市場）、官民が進めるスポーツクラブの現状、スポーツと健康・医療、ツーリズムなど、具体例を挙げながら実践的スポーツマネジメントについて学び、地域社会との結び付きについて理解を深める。特に、スポーツ産業の全体構造の把握と接続領域（メディア、IT）など中心に学修する。	メディア
			スポーツマネジメント論Ⅱ	スポーツ産業は成長を続け、スポーツから生まれる権益を販売する権利ビジネスも定着する傾向にある。これらの成長は、用品、施設、スポーツクラブ、プロスポーツ、メディア産業など多岐にわたっており、他の産業（健康、福祉、医療、建設業など）と密接に関連している。本授業ではスポーツの種類別経済活動（市場）、官民が進めるスポーツクラブの現状、スポーツと健康・医療、ツーリズムなど、具体例を挙げながら実践的スポーツマネジメントについて学び、地域社会との結び付きについて理解を深める。特に、消費者行動論や組織経営論を背景にスポーツ事業の立案と展開を学修することを目標とする。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	保健体育	スポーツ社会学Ⅰ	現代社会におけるスポーツの役割は多様化している。政治や経済との関係性が強まるほど、スポーツの社会的意義を読み解く力が必要とされ、地域の実情を理解し、課題の構造を見極めることが求められている。本講義においては、現代社会におけるスポーツのさまざまな現象を社会学的視点からとらえ、これらの特徴や問題点を探りながら、スポーツの社会学的見方と考え方を習得する。また、スポーツプロモーションの観点から自身とスポーツの関わり方、スポーツ集団と社会の望ましい在り方について検討する。	メディア
			スポーツ社会学Ⅱ	現代社会におけるスポーツの役割は多様化している。政治や経済との関係性が強まるほど、スポーツの社会的意義を読み解く力が必要とされ、地域の実情を理解し、課題の構造を見極めることが求められている。本講義においては、現代社会におけるスポーツのさまざまな現象を社会学的視点からとらえ、これらの特徴や問題点を探りながら、スポーツの社会学的見方と考え方を習得する。特に、国や地方公共団体等の政策及び社会的課題を理解し、社会・経済学的視点からスポーツとまちづくりの関係性などを検討する。	メディア
			運動学概論（運動方法学を含む）Ⅰ	運動指導を効果的に行う際には、その前提として運動学習理論を理解しなければならない。運動指導の基本となる運動学習理論である「スポーツ運動学」について学ぶ。本授業では特に、「運動技術」「運動技能」「運動構造」「達成力」「運動モルフロジー」「運動ゲシュタルト」「運動の学習転移」などについての論理的に理解することを目的とする。	メディア
			運動学概論（運動方法学を含む）Ⅱ	運動指導を効果的に行う際には、その前提として運動学習理論を理解しなければならない。運動指導の基本となる運動学習理論である「スポーツ運動学」について学ぶ。本授業では特に、「学習位相論」「運動習熟」「運動の観察」「運動分析」「運動修正」などについての論理的に理解し、実践につながる知識として獲得することを目的とする。	メディア
			バイオメカニクスⅠ	バイオメカニクスの概要を理解し、基本運動を力学的観点から解釈する能力を身に着けることを目的とする。バイオメカニクスの基本的概念を概説し、骨、筋のバイオメカニクス、バイオメカニクスの原則や分析方法についてキネマティクス・キネティクスの観点から学習する。また、バイオメカニクスの観点から各種運動を理解するための基礎を習得する。	
			バイオメカニクスⅡ	バイオメカニクスの観点から各種基礎運動について理解し、解釈する能力を身に着けることを目的とする。各種基礎運動（立位姿勢、歩行動作、走行動作、跳躍動作、投動作、打動作、落下運動、滑る運動、泳動作、回転運動）について概説し、各種運動のバイオメカニクスの観点（キネマティクスの観点、キネティクスの観点、エネジェティクスの観点等）から運動を解釈する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	保健体育	発育発達Ⅰ	幼少期から思春期を経て成人に至るまでの発育発達の過程について、形態や機能、生活習慣や体力、子供を取り巻く環境から検討し、基本的知識・理解の獲得を目標としている。現代的課題や指導場面で生じやすい教育的課題など、具体的事例を用いながら説明し、運動・スポーツによる健康づくりに必要な発育発達の指導・支援方法の専門性の獲得をめざす。	メディア
			発育発達Ⅱ	①発育発達期に多いケガや病気について、②成人以降の加齢に伴う体力の低下をはじめとする人体の老化と運動・スポーツとの関連、③女性の運動・スポーツについて、基本的知識・理解の獲得を目標としている。現代的課題や指導場面で生じやすい教育的課題など、具体的事例を用いながら説明し、運動・スポーツによる健康づくりに必要な発育発達の指導・支援方法の専門性の獲得をめざす。	メディア
			保健体育科教育法Ⅲ (富山県の教育実践を含む)	保健体育科の体育分野のひとつである器械運動の領域を対象として、背景となる学習理論の理解や学問領域との関係の理解、個別の学習内容について指導上の留意点の理解、学習評価の考え方の理解をとおして授業に活用することができるようになる。本授業では、マット運動・鉄棒運動について取り扱う。さらに、発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができるようになる。また、富山県の教育事情を鑑みながら、保健体育科教員となるためにアクティブ・ラーニングの視点に立った授業づくりについて学習する。	メディア
			保健体育科教育法Ⅳ (富山県の教育実践を含む)	保健体育科の体育分野のひとつである器械運動の領域を対象として、背景となる学習理論の理解や学問領域との関係の理解、個別の学習内容について指導上の留意点の理解、学習評価の考え方の理解をとおして授業に活用することができるようになる。本授業では、平均台運動、とび箱運動を取り扱う。さらに、発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができるようになる。また、富山県の教育事情を鑑みながら、保健体育科教員となるためにアクティブ・ラーニングの視点に立った授業づくりについて学習する。	メディア
			保健体育科教育法Ⅶ	本科目は、保健体育科教育法を学習する最終年度の科目である。本科目では、教育課程の観点から、保健体育科教育における重点教材、運動部活動の学習指導、健康教育の授業づくりについて探究することを通して、発展的な学習内容や方法を理解する。上述の観点についての講義をふまえ、各自で授業計画を作成し、相互交流・発表を実施することで、授業づくりの力量形成をめざす。	メディア
			保健体育科教育法Ⅷ	本科目は、保健体育科教育法を学習する最終年度の科目である。本科目では、スポーツ文化を学ぶ体育授業づくりや共生社会にむけた体育授業づくりを探究することを通して、保健体育科教育における教材研究(教科内容研究)の方法や発展的な学習内容や方法を理解する。上述の観点についての講義をふまえ、各自で授業計画を作成し、相互交流・発表を実施することで、授業づくりの力量形成をめざす。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保健体育	コーチング論Ⅰ	<p>(概要)</p> <p>スポーツの価値を高めるための時代をリードするコーチング(プレーヤーの目標達成に向け、プレーヤーの有能さと人間性を高めていく支援を行っていくプロセス)について正しく理解する。特に、コーチの役割やスポーツのインテグリティ、組織運営について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(4 大川信行/1回, 2回)</p> <p>スポーツの意義や価値、スポーツ権について概説する。</p> <p>(50 佐伯聡史/3回, 4回, 5回)</p> <p>コーチングに必要な知識やスキルなどを体系的に説明し、コーチに求められる役割について学ぶ。</p> <p>(48 神野賢治/6回, 7回, 8回)</p> <p>コーチングにおけるインテグリティやスポーツ組織のマネジメントについて説明し、公平性のあるスポーツ環境の構築について学ぶ。</p>	オムニバス方式
		コーチング論Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>スポーツの価値を高めるための時代をリードするコーチング(プレーヤーの目標達成に向け、プレーヤーの有能さと人間性を高めていく支援を行っていくプロセス)について正しく理解する。特に、コーチに求められる医科学的知識について心理学や栄養学、トレーニング論から理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(50 佐伯聡史/1回, 2回)</p> <p>スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系について説明し、理解を深める。</p> <p>(56 福島洋樹/3回, 4回, 5回)</p> <p>体力・スキル・心のトレーニングについて基本的な考え方と方法論を説明し、理解を深める。</p> <p>(92 澤聡美/6回, 7回, 8回)</p> <p>スポーツと栄養、アンチドーピングやスポーツに関する医科学的知識について説明し、理解を深める。</p>	オムニバス方式
	家政教育	食物学概論Ⅰ(栄養学、食品学及び現代の栄養課題を含む)	<p>本授業では、栄養の概念、各栄養素の種類、体内での働き、消化吸収といった栄養学の基本的な事項について講義し、家庭科教員として必要となる栄養に関する基礎知識を習得する。また、このような基礎知識を踏まえたうえ、現代の栄養課題についても解説する。到達目標は、以下の通りである。</p> <p>(1) 各栄養素の栄養学的役割について説明できる。</p> <p>(2) 食べ物の消化吸収の概要について説明できる。</p> <p>(3) 現代の栄養課題を知り、栄養に関する基礎知識の理解を深める。</p>	メディア
		食物学概論Ⅱ(栄養学、食品学を含む)	<p>本授業では、食品の分類や成分の特徴、食品群と栄養学的特徴、調理の際に起こる食品成分変化などについて、身近な植物性・動物性食品を取り上げながら解説し、家庭科教員として必要となる食品に関する基礎知識を習得する。到達目標は、以下の通りである。</p> <p>(1) 食品の機能性と分類について説明できる。</p> <p>(2) 身近な食品の成分とその特徴について説明できる。</p> <p>(3) 調理による成分変化について科学的な視点から捉えることができる。</p>	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	家政教育	食物学	本授業では、中学校・高等学校家庭科の食物領域に関連する内容を、安全面（食に起因する健康被害、食品の安全性確保、食品の表示と選択）、環境面（食生活と環境負荷、社会・家庭環境と食生活）、栄養面（食事計画、主菜・主菜・副菜の揃った食事）といった視点から食生活の営みに関連する事項について解説する。このような視点を踏まえ、自身の食生活を振り返り、望ましい食生活のあり方を主体的に考える態度を養うことを目的とする。	メディア
			調理実習（地域の食文化比較を含む）	本授業では、基本的な調理操作と食品の扱い方について、身近な食材を用いた実験や日常食の調理実習を通して実践的に学び、家庭科教員として必要となる調理と加工に関する基礎的な知識と技術を習得する。また、地域の食文化についても触れる。到達目標は、以下の通りである。 （１）基本的な調理法を理解し、調理による成分変化をふまえた調理操作ができる。 （２）衛生面、安全面、環境面に配慮して食品を扱い、調理することができる。 （３）栄養バランスの良い食事についての理解を深める。	
			食物学演習Ⅰ	本授業では、健康と栄養の歴史を概観した後、日本人の栄養摂取の状況、疾病との関わり、糖質や食物繊維等食品成分の役割など食物栄養領域に関連する事項を取り上げ、それらについての情報（統計資料や文献など）を収集し、収集したデータを客観的に観察し、的確に捉えて発表する能力を養うことを目的とする。発表者は、収集した情報（統計資料や文献など）をもとに内容を整理し、データの意味を考え、発表資料を作成して授業に参加する。	メディア
			食物学演習Ⅱ	本授業は、食物学演習Ⅰを履修していることを踏まえて進める。食物栄養領域の学術論文の講読、発表、討論を通して、この分野の知見を広め、健全な食生活のあり方について多角的な視点から捉え、評価する能力を養うことを目的とする。授業は近年の食物栄養領域の学術論文を題材とし、輪講形式で行う。発表者は事前に学術論文を読み、内容を理解した上で、発表の準備を十分に行い、作成した資料を用いて発表を行う。発表後は受講生全員が積極的に討論に参加する。	メディア
			住居学概論Ⅰ	住居に関する基本的知識や技能を習得することを目標とする。特に、季節の変化に合わせた住環境の制御方法に関する解説を通して、快適な住まいを創造する意義や方法をより具体的に理解することを到達目標とする。授業では気候の変動や都市環境の課題について紹介した上で、熱・空気・音・光の住環境要素と人間の反応を踏まえた環境制御方法について講義する。	メディア
			住居学概論Ⅱ	住居に関する基本的知識や技能を習得することを目標とする。特に、人間工学の知見に基づいた住まいの構成要素と人間との関係や、健康維持のための住まいの維持管理などに関する解説を通して、快適な住まいを創造する意義や方法をより具体的に理解することを到達目標とする。授業では人間の身体的および心理的特徴について紹介した上で、人体寸法と家具の関係、住空間と住生活の関わり、健康で安全な住まいなどについて講義する。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	家政教育	住居学Ⅰ（現代の住環境問題を含む）	住生活文化の継承および安全な住まいなどに関する解説を通して、安全で文化的な住環境を創造する意義や方法および現代の住環境問題をより具体的に理解し、住生活の課題を解決し創造するための実践力を育成することを到達目標とする。授業では住居史や間取りの変遷およびインテリアの歴史などを踏まえた住生活の文化の継承、家庭内事故や火災・自然災害に対して安全な住まいの在り方、景観への配慮も含めた地域との関わり、現代の住環境問題について考察する。	メディア
			住居学Ⅱ（製図及び富山石川の住宅比較を含む）	具体的な住空間の平面計画などに関する解説を通して、豊かな住生活を実現する意義や方法をより具体的に理解し、住生活の課題を解決し創造するための実践力を育成することを到達目標とする。授業では気候や風土と住居との関わりや住空間の構成と計画、インテリアデザインなどについて体系的に講義した上で、平面図をはじめとする表現技術について演習する。また富山と石川の気候・風土・文化の違いを含めた住宅比較を行う。	メディア
			住居学演習Ⅰ	住環境領域の研究論文の読解方法や環境計測・評価・解析方法を習得し、住環境における実態把握と課題解決力を育成することを到達目標とする。授業では住環境における実態や課題について、各種統計データや関連する研究論文の調査を実施し、検討課題の解決方法について議論する。また特に光環境の計測・評価・解析方法について演習を実施し、適切な住空間計画のための物理環境要素の制御の重要性について理解を深める。	メディア
			住居学演習Ⅱ	住環境領域の国内の研究論文の講読を通して、住環境における課題を整理し、多角的に考察する能力を育成することを到達目標とする。授業では住環境領域における国内の研究論文について、担当学生が資料を準備して報告する。このとき、全ての参加者も報告予定論文について事前に読解してくることをとする。なお調査対象とする研究論文については、参加学生の研究内容に合わせて選定する。	メディア
			家庭科教育法Ⅰ（富山県の教育実践を含む）	本授業では、アクティブ・ラーニングを取り入れ、反省的実践家である中学校あるいは高等学校の家庭科教師として、理解しておくことが必要な家庭科教育の基本的・応用的原理についての理解を深めることを主眼としている。 中学校家庭科、高等学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容とその学問的背景や社会的状況、教材研究、指導法（情報機器及び教材の活用を含む）、カリキュラムや授業の構想等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。教育内容論では、主として、食生活、衣生活、住生活について講義する。課題等により予習・復習を促す。その際、富山県に関わる授業実践についても行う。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	家政教育	家庭科教育法Ⅱ（富山県の教育実践を含む）	本授業では、アクティブ・ラーニングを取り入れ、反省的実践家である中学校あるいは高等学校の家庭科教師として、理解しておくことが必要な家庭科教育の基本的・応用的原理についての理解を深めることを主眼としている。 中学校家庭科、高等学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容とその学問的背景や社会的状況、教材研究、指導法（情報機器及び教材の活用を含む）、カリキュラムや授業の構想等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。教育内容論では、主として、家族・家庭生活、消費生活・環境について講義する。課題等により予習・復習を促す。その際、富山県に関わる授業実践についても行う。	メディア
			家庭科教育法Ⅴ	中学校・高等学校家庭科の教育課程及び指導法の知識・技能を身につけ、家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得する。 家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教材研究、指導法（情報機器及び教材の活用を含む）、カリキュラムや授業の構想、指導案の作成などについての学習をふまえ、実際に教材研究を行い授業を計画し模擬授業を行う。食生活、衣生活、住生活分野の教材開発を中心に行う。アクティブ・ラーニングを取り入れ、実験、実習、リサーチ・討論といった学習者が主体となった活動を行う。課題等により予習・復習を促す。	
			家庭科教育法Ⅵ	中学校・高等学校家庭科の教育課程及び指導法の知識・技能を身につけ、家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得する。 家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教材研究、指導法（情報機器及び教材の活用を含む）、カリキュラムや授業の構想、指導案の作成などについての学習をふまえ、実際に教材研究を行い授業を計画し模擬授業を行う。家族・保育分野、消費生活・環境分野、福祉分野の教材開発を中心に行う。アクティブ・ラーニングを取り入れ、実験、実習、リサーチ・討論といった学習者が主体となった活動を行う。課題等により予習・復習を促す。	
			家庭科教育法Ⅶ	授業のテーマおよび到達目標は中学校・高等学校家庭科の教育課程及び指導法の知識・技能を身につけ、家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得する。授業では、3年次の教育実習をふりかえりながら、授業と指導案について再検討し、議論を踏まえて同じ授業について指導案を再度作成して議論する。実験、実習、リサーチ・討論、小・中学校家庭科授業の参与観察、情報機器及び教材の活用、といった学生が主体となった活動を行う。課題等により予習・復習を促す。	
			家庭科教育法Ⅷ	授業のテーマ及び到達目標は中学校・高等学校家庭科の教育課程及び指導法の知識・技能を身につけ、家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得する。授業では、主として今日的教育課題と家庭科について学ぶ。より必要性が高まっている学習内容や学習方法を取り入れた先駆的ですがすぐれた授業実践を分析し、それを活かしながらカリキュラムや学習指導を構想・実践する。実験、実習、リサーチ・討論、情報機器及び教材の活用、小・中学校家庭科授業の参与観察、模擬授業といった学習者が主体となった活動を行う。課題等により予習・復習を促す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	家政教育	家庭科教育演習Ⅰ	<p>家庭科教育についてより深く学びたい学生を対象とし、家庭科を探究的に学ぶ視点や研究方法に関する基礎的な知識やスキルを習得する。また、家庭科教育の理論と実践に関する専門的な理解を獲得する。</p> <p>カリキュラムに関わる文献研究、質問紙や面接などの調査研究、諸外国の家庭科に関する研究、授業の実践的研究などについて、具体的な研究例をもとに検討する。また、授業づくりにかかわる教材研究の一環として実習や実験なども行う。</p>	
			家庭科教育演習Ⅱ	<p>家庭科教育演習Ⅰを履修していることをふまえて授業を行う。家庭科教育に関する研究を行う場合のテーマ設定の仕方や課題へのアプローチの方法について理解し、探究的なアプローチを受講生各自が実際に行うことで研究力を養う。</p> <p>様々なテーマの研究論文を講読し、テーマに応じた研究手法の特徴について理解を深める。また、受講生自身が探究したいテーマについて、資料収集の方法や探究方法を考え、アドバイスを受けながら実践する。</p>	
			住居学演習Ⅲ	<p>住環境領域の海外の統計データや研究論文の講読を通して、住環境における課題を整理し、多角的に考察する能力を育成することを到達目標とする。授業では住環境領域における海外の統計データや既往研究論文を元に、調査や研究の背景および目的、母集団の特性、調査・解析方法、得られた知見や今後の課題などに関して、担当学生が資料を準備して報告する。このとき、全ての参加者も報告予定論文について事前に読解しておくこととする。なお調査対象とする研究論文については、参加学生の研究内容に合わせて選定する。</p>	
			住居学演習Ⅳ	<p>住環境領域における現代の教育課題や研究課題について、環境計測・評価・解析方法を用いながら、実態把握や課題解決を行うことを到達目標とする。授業では住環境における現代の教育課題や研究課題について、既往研究との位置づけを明確にしながら研究計画を立案し、実験やアンケート調査など課題解決のためのデータ収集方法を決定した上で、環境計測やデータ分析・解析を実施しながら、適切な住空間計画のための実態把握や課題解決について論文執筆指導を行う。</p>	
			食物学演習Ⅲ	<p>食物学演習Ⅰ、Ⅱを履修していることを踏まえて授業を進める。現代社会において食をめぐる課題が散見されている。年代によっても課題が異なることについても認識し、栄養や食をめぐる問題に気づき、その問題の所在を既存の調査結果から客観的に把握するとともに、それが食教育においてどのような意味を持つのか考える能力を養うことを目的とする。最新の学術論文の講読と発表から、近年の課題の動向を知り、現状を把握するための調査方法や分析方法について着目した議論を行い、理解を深める。</p>	
			食物学演習Ⅳ	<p>現代社会において食をめぐる問題が散見されている。食物学演習Ⅲでの学習を展開させ、食をめぐる諸問題を客観的に捉えたり解決するための方法をさらに追及する態度を養うことを目的とする。近年の食をめぐるさまざまな課題の中から、受講生各自がテーマを持ち、その問題を的確に捉えるために、またはその問題を解決するために有用と思われる調査・分析方法や食教育について考え、提案する。その提案に対して、参加者全員で討論し、理解を深める。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	家政教育	家庭科教育演習Ⅲ	家庭科教育についてより深く学びたい学生を対象とする。家庭科教育の理論と実践に関する専門的な理解を獲得するとともに、家庭科教育研究の基本的プロセスや調査方法を理解し、教育や研究に探究的に取り組む資質を養う。家庭科教育演習Ⅰ・Ⅱを履修していることをふまえて授業を行う。家庭科教育に関する研究を行う場合の先行研究の分析、研究課題の設定の仕方や課題へのアプローチの方法について理解し、探究的なアプローチを受講生各自が実際に行うことで研究力を養う。受講生自身が探究したい課題について、資料を収集し、アドバイスを受けながら研究枠組・研究計画をたてる。予備調査も行う。	
		家庭科教育演習Ⅳ	家庭科教育についてより深く学びたい学生を対象とする。家庭科教育の理論と実践に関する専門的な理解を獲得するとともに、家庭科教育研究の基本的プロセスや調査方法を理解し、教育や研究に探究的に取り組む資質を養う。家庭科教育演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修していることをふまえて授業を行う。家庭科教育に関する研究を行う場合の先行研究の分析、研究課題の設定の仕方や課題へのアプローチの方法について理解し、探究的なアプローチを受講生各自が実際に行うことで研究力を養う。受講生自身が探究したい課題について、資料を収集したり調査をしたりし、アドバイスを受けながら研究を進める。定期的に報告会を行い、受講生相互に検討し合う。	
	英語教育	英語学概論Ⅰ(文法と現在の英語教育)	英語学の基本的な概念を学び、英語をより深く客観的に理解するための基礎を作る。具体的には英語史、形態論、意味論の各分野における基本的な概念を学んでいく。あわせて、授業において英語史・形態論・意味論のそれぞれの概念が具体的にどのような場面で活用し、深い理解につなげていくかについても学ぶ。学生も活用の仕方について提案する。	メディア
		英語学概論Ⅱ(文法と現在の英語教育)	英語学の基本的な概念を学び、英語をより深く客観的に理解するための基礎を作る。具体的には統語論、語用論の基礎について、平易な英文で書かれたテキストを用いて解説していく。あわせて、授業において統語論・語用論のそれぞれの概念が具体的にどのような場面で活用し、深い理解につなげていくかについても学ぶ。学生も活用の仕方について提案する。	メディア
		英語学概論Ⅲ(応用)	音韻論・社会言語学の各分野における基本的な概念を学び、英語をより深く応用的に理解するための基礎を作る。平易な英文で書かれたテキストを用いて基本的概念を解説していく。適宜最新の学術文献などの資料を配付し、最新の研究動向にも必要に応じて言及し、かつ専門的な英文を読解する訓練も行う。また、音韻論・社会言語学の概念が授業の中でどのように関わるかについても考察する。	
		英語学概論Ⅳ(応用)	心理言語学・応用言語学の各分野における基本的な概念を学び、英語をより深く応用的に理解するための基礎を作る。平易な英文で書かれたテキストを用いて基本的概念を解説していく。適宜最新の学術文献などの資料を配付し、最新の研究動向にも必要に応じて言及し、かつ専門的な英文を読解する訓練も行う。また、心理言語学・応用言語学の概念が授業の中でどのように関わるかについても考察する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	英語教育	英語音声学・文法Ⅰ	英語教員として必要となる学校英文法の体系を身につけると同時にコミュニケーション活動等を行ううえで必要な、英語音声に関する基礎知識を学び、指導力向上につなげる。具体的には完了形、進行形、能動態・受動態など、コミュニケーション活動で用いられることの多い構文および、英語音声の基礎的部分を解説・練習していく。	
			英語音声学・文法Ⅱ	英語教員として必要となる学校英文法の体系を身につけると同時にコミュニケーション活動等を行ううえで必要な、英語音声に関する基礎知識を学び、指導力向上につなげる。動詞・倒置・省略など、コミュニケーション英語で重要となる文法事項および、英語音声の単音レベルの基礎を解説・練習し、授業の中での活用についても考察する。	
			英語学演習Ⅰ（個別理論）	構造言語学および生成文法の基本的な考え方を理解し、英語や日本語の言語現象を観察する手段として用いることができる能力を養っていく。これらの理論の基本的な考え方を、英語や日本語の具体的な言語現象を取り上げながら説明し、受講者自身もこれらの理論の観点から英語や日本語の言語現象を観察し整理するレポートを作成する。	
			英語学演習Ⅱ（個別理論）	認知言語学および言語類型論の基本的な考え方を理解し、英語や日本語の言語現象を観察する手段として用いることができる能力を養っていく。これらの理論の基本的な考え方を、英語や日本語の具体的な言語現象を取り上げながら説明し、受講者自身もこれらの理論の観点から英語や日本語の言語現象を観察し整理する課題を行う。	
			英作文Ⅰ（基礎）	英語で文章を書くための基本的な事項を学ぶ。英語のコミュニケーションに習熟し、受講生は将来自身が英語で授業を行うための英語運用力を積極的に身につける。特にこの授業では簡潔な英語で文章を構成する方法を重点的に学ぶ。パラグラフの書き方を練習することを通じ、英語という言語とそれによる文章の論理的構造に習熟する。教室内のコミュニケーションには必ず英語を使用することで、受講生の英語運用力を多角的に向上させる。	
			英会話Ⅰ（基礎）	日常よく使われる英会話の定型表現を学習する。受講生はいくつかのグループに分かれ、授業計画に示されたトピックに従って、ロールプレイ型の会話練習を行い、実際の場面の中で活用する。教室では日本語での会話は禁止するので、教員の指示、教員への質問、受講生同士の会話もすべて英語で行う。また、毎回、前回の学習の確認クイズを行う。	
			英作文Ⅱ（応用）	英作文Ⅰ（基礎）で修得した、英語で文章を書くための基本的な事項を活用し英語運用の運用能力のさらなる発展を目指す。様々なジャンルの英語に触れることで、目的や場面、状況に応じた適切な英文を書くことができるようになる。明快な英文を用いた複数のパラグラフによる種々の課題の執筆を通じ、英文を構成する時の注意点を実践的に学んでゆく。また教室内のコミュニケーションに英語を使用することで、受講生の英語運用力を多角的に向上させることを同時に行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 英語教育	英会話Ⅱ(応用)	英語を使った中学校の英語授業の模擬演習を行う。受講生はいくつかのグループに分かれ、授業計画に示されたトピックに従って、指導案を組み立てる。作成した指導案を元に、15分程度の模擬授業を実践する。なお、教室では日本語での会話は禁止するので、教員の指示、教員への質問、受講生同士の会話もすべて英語で行っていく。	
	英作文Ⅲ(応用)	英作文Ⅰ、Ⅱで学んだ事項を踏まえ、より高度な文章を英語で書くための発展的な事項を学ぶ。このクラスは特に、論理的な文章を構成する方法の修得を重視する。教室内のコミュニケーションには必ず英語を使用することで、受講生の英語運用力を多角的に向上させる。	
	英会話Ⅲ(応用)	アカデミックスピーチとディスカッションを行う。受講生は、授業計画の内容に沿ったプレゼンテーションを行い、その後全員で質疑応答をする。教室では日本語での会話は禁止するので、教員の指示、教員への質問、受講生同士の会話もすべて英語で行う。なお、語彙力向上のための確認テストを毎回実施し、ディスカッションで用いる語彙の増強もはかる。	
	英作文Ⅳ(応用)	英作文ⅠからⅢにおける習得技術を基礎に、「アカデミック・ライティング」の技法を駆使しての論理的な英文エッセイを学んでいく。各自が設定したテーマに関するリサーチ方法の授業も含め、卒業論文の作成などにも援用できる実践的な授業となる。教室内のコミュニケーションには必ず英語を使用することで、受講生の英語運用力を多角的に向上させる。	
	英会話Ⅳ(応用)	リスニング教材を使用し、留学可能なレベルのコミュニケーション力を養う。上級レベルのリスニング教材を聴き、コミュニケーション力の向上を目指す。授業はディクテーションが中心となる。自分が聞き取った内容がどれだけ書き取れるかを複数回に分けて確認し、語彙・音連結・内容などの観点から課題を分析する。なお、語彙力向上のための確認テストを毎回実施する。	
	異文化理解Ⅰ(英語教育の中の異文化理解)	異文化理解や異文化コミュニケーションに関する英語文献を読んだり、留学生との交流やディスカッションを通して、文化の概念や文化の多様性や関連する諸問題、異文化交流の意義を理解するとともに、様々な英語圏の国の歴史・社会・文化・信念・信条について学ぶ。そして英語教育における異文化理解や異文化コミュニケーションの重要性や役割を理解した上で、関連する知見を身に付けることを目指す。	メディア
	異文化理解Ⅱ(英語教育の中の異文化理解)	異文化理解や異文化コミュニケーションに関する英語文献を読んだり、関連する映像を視聴したり、留学生との交流を通して、現代社会における異文化コミュニケーションに関連する諸問題や課題、(非)言語コミュニケーションと文化との関係性、そして異文化交流の意義を理解するとともに、様々な英語圏の国の歴史・社会・文化について学ぶ。そして英語教育において活かすことができる知見を身に付けることを目指す。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	英語教育	異文化理解Ⅲ(応用)	異文化理解Ⅰ、Ⅱで学んだことを踏まえ、専門的知識を高めることを目指す。具体的には、特に様々な国々の「(非)言語コミュニケーション」に関わる領域と文化の関係性、そして様々なコミュニケーション・スタイルについて、特に英語圏の国々と日本のコミュニケーション・スタイルとの比較に関する英語の専門書の購読を通じて専門的知識を高める。また留学生とのディスカッションなどを通じてコミュニケーション・スタイルの違いや共通点を体験することで、異文化理解や異文化コミュニケーションへの関心を高め、その重要性を認識する。	メディア
			異文化理解Ⅳ(応用)	異文化理解や異文化コミュニケーションに関連する文献を読んだり、映像視聴を通じて、それに関連する様々な問題に気づき、解決法について考える。また英語圏の文化の多様性についての理解を深め、留学生との交流を通してグローバル社会において効果的で適切なコミュニケーションを行うために必要な事柄について考えるとともに必要な知識を身につけることを目指す。	メディア
			異文化理解演習Ⅰ	植民地時代からアメリカ建国期の知識人(ベンジャミン・フランクリン、トマス・ジェファソン)、当時の思想や文化事象に関する英語文献や文学作品を読んだり、映像を視聴したりすることを通して、アメリカの歴史や社会、そしてアメリカ文化、思想、多様性がこれまでどのように育まれ形成されたのか、そのプロセスについて学ぶとともに現状とそれに関連する課題について考える。	メディア
			異文化理解演習Ⅱ	多様な人種が共存する現代のアメリカ社会が抱える問題について、これまで学んできた異文化理解、異文化コミュニケーションの視点および枠組みから考察する。具体的には、人種(問題)やマイノリティに関連する映像を視聴し、異文化やマイノリティの扱われ方、描かれ方についての分析をしたり、グループ・ディスカッションや留学生を交えたディスカッションをしたり、専門英語文献の講読を通じて、さらなる専門的知識を深める。	メディア
			英語科教育法Ⅰ(富山県の教育実践を含む)	本授業では、中学校及び高等学校の英語教育の基軸となる学習指導要領及び教科用図書(教科書)について理解するとともに、学習到達目標及び年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画についての理解を深める。また、富山県での実践を踏まえつつ、小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領並びに教材、教科書について知るとともに、小・中・高等学校の連携の在り方についても学ぶ。	メディア
			英語科教育法Ⅱ(富山県の教育実践を含む)	本授業では、中学校及び高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「話すこと[発表]」及び「書くこと」の指導及び複数の領域を統合した言語活動の指導方法について理解し身に付ける。富山県の実践を踏まえ、生徒の特性や習熟度に応じた指導方法の基礎について理解を深める。学んだことに基づき模擬授業を行い、学生同士で授業研究を経験し省察方法を学ぶ。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	英語科教育法Ⅴ	英語科教育における実践的な授業力の向上を目指し、教授・学習の理論に基づいた効果的な教育実践のあり方について学ぶ。まず、教師の資質や授業運営などの基本的な知識を取り上げ考察する。続いて、聞くこと・読むことの領域について指導の方法・技術の基本を学んだ後、受講生による模擬授業を行い、活動等の考案、実施、省察を行う。	
		英語科教育法Ⅵ	英語科教育における実践的な授業力の向上を目指し、教授・学習の理論に基づいた効果的な教育実践のあり方について学ぶ。話すこと・書くことの領域について指導の方法・技術の基本を学んだ後、受講生による模擬授業を行い、活動等の考案、実施、省察を行う。さらに、学んだ知識・技術を踏まえて、実践の観察・分析、指導計画の立案を行う。	
		英語科教育法Ⅶ	英語科教育における実践的な授業力の向上を目指し、受講者各自が教育実習で行った英語科授業の実践を振り返り、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの領域の指導と評価に焦点を当て、それぞれの実践上課題を見だし、それらを改善するために必要な教授・学習の理論や指導技術を学びつつ、指導案の作成、模擬授業の実施、評価方法の考案、省察等の演習を行う。	
		英語科教育法Ⅷ	英語科教員として必要とされる実践的な指導力の向上を目指す。特に目標を踏まえた、指導と評価に関する知識を身につけるとともに、その知識を授業という場で活用できるための実践力を身につける。各領域の指導と評価に焦点を当て、必要な理論や指導技術を学びつつ、指導案の作成、模擬授業の実施、評価方法の考案、単元計画の作成等の演習を行う。	
		英語学特別演習Ⅲ	英語学の視点から文法現象をつぶさに見つめ、新しい経験的発見を引き出すための観察力を養うことを目的とする。この目的のために、(1) 代表的な先行研究による事実観察を十分に理解する、(2) その事実観察の経験的な妥当性を検討する。(1) に関しては、伝統的な先行研究のなかから受講者の興味に合わせた論文を取り上げる。(2) に関しては、洋画・電子コーパス・ネイティブチェックなど身の回りにある言語資料と照らし合わせながら検証活動を行う。	
		英語学特別演習Ⅳ	英語学の知識を使って文法現象を正しく予測し、新しい理論的分析を提案するための説明力を養うことを目的とする。この目的のために、(1) 比較的最近の英語学における理論的な動向を理解する、(2) 受講者が自分なりの新しい理論的な提案を試みる。(1) に関しては、テーマにもよるができるだけ2000年以降の研究論文を中心に取り上げる。(2) に関しては、受講者が各自の提案内容を発表し、担当教員および他の受講者との意見交換を通じて理解を深める。	
		異文化理解特別演習Ⅰ	この授業では、異文化理解、異文化コミュニケーション、アメリカ及びイギリス文化をキーワードとして、卒業論文執筆のための研究テーマ探しに繋がるよう、先にあげたキーワードに関連する様々な英語の専門書や論文を購読する。また最近の関連する英語論文を精読したり、読んだ論文をまとめたり、ディスカッションをしたりして専門的知識をさらに深めるとともに論文作成に必要な知識と技術を養うことを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	英語教育	異文化理解特別演習Ⅱ	この授業では、「異文化理解特別演習Ⅰ」を踏まえ、各自が異文化理解、異文化コミュニケーション、アメリカ及びイギリス文化などのキーワードにつながる研究テーマを設定し、卒業論文執筆のために各自が選んだ研究テーマにそった先行論文や関連する論文および専門書の精読、そしてそれらの論文をまとめたり、読んだ論文に関する発表およびほかの学生たちとのディスカッションを通じて、専門的知識を深めるとともに論文作成に必要なスキルをさらに高めることを目指す。	
			英語教育学特別演習Ⅲ	本授業では、英語教育の研究とその方法についての基本を学ぶ。前半に英語教育の研究目的、意義、日本の英語教育の現状と課題、研究方法、データ収集方法、考察方法を学ぶ。後半では実際の研究論文や書籍の輪読を通じて英語教育に関連したテーマの概観を理解する。購読した論文に関する要約発表および他の学生とのディスカッションを通じて専門的知識の理解を深め、自己の追求テーマを設定する。	
			英語教育学特別演習Ⅳ	本授業前半では、英語教育学特別演習Ⅲで設定した自己の追求テーマについてその意義や目的を他の学生に紹介発表する。後半では海外及び日本における先行研究を調査する。先行研究の知見を踏まえ、自己のテーマに沿った文献調査や実験、アンケートなどを実施する。実験などから得たデータの分析を行い考察を加え、発表や報告書の作成につなげる。	
			英語科教育実践研究Ⅲ	英語教授法（特にリーディング・語彙指導）や第二言語習得に関する論文・書籍の輪読を通して、英語の指導および習得について、理論と実践の両面から考察する力を養うことを目的とする。授業では、(a) 先行研究を読み、(b) 内容について討論し、(c) 研究の発展可能性を提案するプレゼン・ディスカッションを行う。主体的・積極的に文献研究を行い、各自が問題意識を持って理論・実践上の研究課題を見つけることを目指す。	
			英語科教育実践研究Ⅳ	英語科教育実践研究Ⅲの文献研究を踏まえ、課題解決のために実証的なりサーチを行う。具体的には、英語教育・言語習得の先行研究を基にした仮説（例. ○○は効果的な読解指導法である）を検証するために、量的・質的データを収集し、客観的に分析・考察する。実験計画の立案、データ収集、分析方法、考察と、一連の研究手法を学ぶことで、卒業研究や教員として行うアクションリサーチに汎用できる実践的な教育・研究力を養う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 教育学・心理学に関する科目	教育心理学データ解析法A	<p>教育実践研究においては、それぞれの教育現場で得られた実践的な知見を他の教員と共有し蓄積することが重要視される。この授業では、得られたデータを客観的に評価し、記述するための解析方法について、可能な限り体験的に習得することをねらいとする。教育実践研究から得られたデータをどのように分析すれば良いか、その考え方や適用方法、結果の解釈の仕方について、データを実際に分析しながら学んでいく。</p>	
	教育心理学データ解析法B	<p>教育実践研究においては、それぞれの教育現場で得られた実践的な知見を他の教員と共有し蓄積することが重要視される。この授業では、教育心理学的データ解析法Aの内容をさらに深め、得られたデータを客観的に評価し、記述するための解析方法について、可能な限り体験的に習得する。教育実践研究から得られたデータをどのように分析すれば良いか、その考え方や適用方法、結果の解釈の仕方について、データを実際に分析しながら学んでいく。</p>	
	教育心理学研究法	<p>教育実践においては、ある教育的働きかけが「効果」があるのかどうかを常に検討する必要がある。この講義では、そのような効果を捉えるためにはどのようなことに留意する必要があるのかについて、研究法の観点から解説する。具体的には、実験法、調査法、観察法、面接法の4つを取り上げ、それぞれに必要な思考法を修得する。</p>	
	教育心理学実験法	<p>教育実践研究においては、客観的な知見の蓄積が重要である。この授業では、教育心理学の研究手法の一種である実験法について、演習を通して学んでいくことを目的とする。複数の心理実験を体験し、レポートにまとめることで、客観的なデータの収集方法、結果のまとめ方、報告の仕方について実践的に学習する。この授業を通して、科学的な知見を蓄積することの重要性を理解し、教員のリテラシーを身に着ける。</p>	
	教育臨床心理学A	<p>学校場面では教員が心理や福祉の専門家と多様な協働を通じて子供たちの支援に当たる必要がある。教育臨床心理学Aでは、特に子供たちの心理面のケアについて、教師として支援する方法と、他の専門家や外部機関との連携をより構築していく方法を学ぶための基盤として、教育場面で遭遇する子供に生じうる心理的問題や課題について触れ、どのような対応が考えられるかを事例をもとに理解を深める。</p>	
	教育臨床心理学B	<p>学校場面では教員が、心理や福祉の専門家と多様な協働を通じて子供たちの支援に当たる必要がある。教育臨床心理Bでは、教育相談で扱った内容のより実践的な子供たちへの関わり方についてカウンセリングの理論を参考に解説し、実践的に子供たちの悩みを適切な成長につなげていく方法について実践的に学ぶことを目的とする。</p>	
	教授・学習心理学演習	<p>個別最適化学習に関する教授・学習心理学の理論を踏まえ、どのように個別最適化学習を実践するのかについて演習形式で学習する。学習者一人一人の能力や特性をアセスメントするための理論と方法や、アセスメント内容を踏まえた学習支援計画の立て方、学習支援の実施方法や展開、省察の仕方について学ぶ。学習内容を踏まえ、実際に個別学習支援の演習を実施し、ケース報告とケース検討を通して、実践的に学びを深める。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 教育学・心理学に関する科目	臨床心理実習	<p>富山県教育委員会との連携事業である「心のサポーター」の活動を行う。具体的には、富山県内の小・中学校に学生を派遣し、その中で児童生徒の悩み相談等を行う。本講義では、富山県教育委員会での事前説明会や、ロールプレイなどの実践形式の演習を含めた事前指導、ケースカンファレンスや振り返りを含めた事後指導を含む。</p> <p>なお、本講義は2名の教員が事前説明会や事前事後指導を複数体制で行う。</p>	
	教育心理学ゼミナール	<p>教育心理学的観点から教育現象を捉え、学生自身で問題を発見し、それを解決する手法を学ぶ。具体的には、先行研究の文献購読、先行研究および教育現場での経験から導かれた問題の発見と設定、問題を解決するための方法論の立案、適切なデータ収集の方法と解析の演習、得られた結果についての適切な解釈の修得等を行う。</p> <p>本講義では複数名の教員がそれぞれのゼミナールを担当し、希望する学生がそれぞれのゼミナールを受講する形式で行われる。</p>	
	教育法規A	<p>教職を目指す者として、教育法規に関する必要最低限の知識を習得することを目指す。</p> <p>教育法規の基本原則を学ぶとともに、特に憲法と教育基本法の関係性について理解を深め、学習権や教育の機会均等について検討することで、教育法規を国民の教育を受ける権利を保障する拠り所としてとらえ、教育現場でこれらの法規を活用する方法について考察する。</p>	
	教育法規B	<p>教職を目指す者として、教育法規に関する必要最低限の知識を習得することを目指す。</p> <p>特に、憲法・教育基本法と教育関連法規の関係性について理解を深めた上で、教育裁判と判例の形成について検討し、現代社会の急速な変化の中でおこる様々な教育上の現象と教育法規との関わりについて認識し、教育現場でこれらの法規を活用する方法について考察する。</p>	
	教育臨床学A	<p>現代社会の変容がもたらす学校教育の諸現象を、教師としていかに捉え、熟考し、子どもの豊かな学びを実現するための授業づくりを行うことが重要なのかについて、教育の臨床哲学(教育臨床学)の視点から考察する。主に、デューイの教育論やノディングズのケアリング論、「聴くこと」の哲学やナラティヴ・アプローチ等、教育の臨床哲学に関する基本的な考え方を理解する。</p>	
	教育臨床学B	<p>現代社会の変容がもたらす学校教育の諸現象を、教師としていかに捉え、熟考し、子どもの豊かな学びを実現するための授業づくりを行うことが重要なのかについて、教育の臨床哲学(教育臨床学)の視点から考察する。主に、子どもの貧困問題や外国籍児童生徒の教育、授業における対話の在り方や子ども主体の活動の教師役割等について、具体的事例を通して考察を深める。</p>	
	教育倫理学A	<p>教師としての倫理規範の確立や倫理的判断力の育成が目的である。ハラスメントや体罰をしてはいけないと誰もが「わかっている」にもかかわらず、そうした事例は後を絶たない。本科目では、善悪について知ることと行うことをめぐる古典的議論と接続・往復し、なぜこのようなことが起こってしまうのか考察・議論することで、教師としての倫理規範の確立を目指す。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	教育学・心理学に関する科目	教育倫理学B	教師としての倫理規範の確立や倫理的判断力の育成が目的である。学校の道德教育と政治的・宗教的信念の不適切な教え込みは何が違うのだろうか。本科目では、こうした教育的行為の適切さ／不適切さの境界線やその根拠を考察・議論し、また教育をめぐる倫理的論点を取り上げることで、教師としての倫理的判断力の育成を目指す。	
		教育学ゼミナール	教育学的視点から教育現象を捉え、学生自身で問題を発見し、それを解決する研究手法を学ぶ。先行研究の文献収集の仕方、文献の読み方、研究ノートの作り方等を学び、一次文献の読解・検討、事例の収集・分析・解釈等を行い、自らの研究内容を根拠をもって論理的に書き上げることを目的とする。担当教員の専門分野ごとにクラス分けし、各クラスにおいて、教員や他の履修者との討論を中心に演習を行う。	
	保育士に関する科目	保育原理 I	本科目では、保育の意義及び目的、わが国における保育に関する法令及び制度、保育所保育指針における保育の基本について扱う。保育の意義及び目的として扱うトピックは、保育の意義と目的、保育の理念と概念、子どもの最善の利益と保育、子ども家庭福祉と保育、保育の社会的役割と責任がある。次に、保育に関する法令及び制度としては、子ども家庭福祉の法体系における保育の位置付けと関係法令、子ども・子育て支援新制度、保育の実施体系がある。最後に、保育所保育指針における保育の基本としては、保育所保育指針、保育所保育に関する基本原則、保育における養護、保育の目標、保育の内容、保育の環境・方法、子どもの理解に基づく計画・実践・記録・評価・改善の過程とその循環がある。	
		保育原理 II	本科目では、保育原理 I で扱う、保育の意義及び目的、わが国における保育に関する法令及び制度、保育所保育指針における保育の基本の内容の理解をもとに、それらがどのような歴史の変遷を経て現代に至っているかを理解する。具体的には、国内外の保育の思想と歴史の変遷及び国内外の保育の現状と課題について扱う。まず保育の思想と歴史の変遷において扱うトピックとしては、近代の諸外国の保育の思想と歴史、日本の保育の思想と歴史がある。次に保育の現状と課題としては、最新の諸外国の保育の現状、日本の保育の現状がある。それぞれについて、現状を取り扱いつつ、課題も明確にしたうえで、これからの保育について考察する。	
		乳児保育 I	認定こども園や保育所においては3歳未満児の保育が必要である。また、発達の連続性をふまえた教育や保育を実践するにおいても3歳未満児の発達や保育について学ぶ必要がある。授業では、3歳未満児の保育の意義や目的、役割について扱うとともに、データや資料を用いてディスカッションや調べ学習を行いながら、3歳未満児の保育の現状や課題、保育の内容や運営体制についての基本的な知識を習得する。	
		乳児保育 II	乳児保育 II の授業では、3歳未満児の発達は個人差が大きいことをふまえて、月齢や年齢ごとの身体的な成長や運動発達、言語発達、社会的発達についてDVD等の映像を視聴するなどの方法をとりながら扱う。また、子どもの発育や発達をふまえた保育とその展開について、事例や絵本・玩具等の材料を用いながらの調べ学習、グループディスカッション、乳児模型を用いた実習を行うことで、乳児保育の具体についての理解を促すことを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 保育士に関する科目	乳児保育Ⅲ	3歳未満児の保育に関する実践的態度や技術の習得を目指す。3歳未満児の保育の環境（子どもの生活リズムや動線を考慮したコーナーの設置や配置、玩具や遊具、絵本、安全への配慮など）を、調べ学習を通して理解する活動を行う。また、3歳未満児の保育に関する計画を立案したり、計画に基づいたシミュレーションやロールプレイ、保育実践等の結果を基にして計画の評価を行ったりする活動を通して、3歳未満児の保育への理解を深める。	
	社会的養護Ⅰ	教育者や保育者として社会的養護の過程に携わったり、養護を受ける子どもの教育や援助を行ったりすることができるための知識の習得を目指す。授業では、社会的養護の意義、理念や概念、歴史的変遷、社会的養護を必要とする子どもの現状や課題、現在の施策や制度、実施体系等について扱う。また、虐待その他の環境上の理由や非行、障害などにより社会的養護を必要とする子どもを発見し、その子どもと家庭の現状や課題を把握し、子どもについて福祉的措置を行うの流れとその根拠となる法律についても扱う。	
	社会的養護Ⅱ	社会的養護を受ける子どもたちへの理解が深まることを目指す。授業では、養護の形態には施設養護と家庭養護があること、施設養護の現状と課題、家庭養護の現状と課題、子どもの人権擁護をふまえた近年の養護形態の動向について扱う。また、社会的養護に携わる専門職と彼らに求められる役割についても学ぶ。さらに、福祉的措置として社会的養護を受けることになった子どもの生活やその後の進路について事例や統計資料等を用いながら学ぶとともに、子どもの健全な成長・発達や自立の支援についても学ぶ。	
	保育者論	本科目では、保育者の役割と倫理について、役割・職務内容と倫理について学ぶ。次に保育士の制度的位置付けについて、児童福祉法における保育士の定義と資格・要件、欠格事由、信用失墜行為及び秘密保持義務等について学ぶ。次に、保育士の専門性について、保育士の資質・能力、養護及び教育の一体的展開、家庭との連携と保護者に対する支援、計画に基づく実践と省察・評価、保育の質の向上について学ぶ。次に、保育者の協働について、保育における職員間の協働、専門職間及び専門機関との連携・協働、地域における連携・協働について学び、保育者の資質向上とキャリア形成については、資質向上に関する組織的取組、保育者の専門性の発達とキャリア形成、組織とリーダーシップについて学ぶ。	
	子どもの保健Ⅰ	(概要) 保育において子どもの健康及び安全の確保は、子どもの生命の保持と健やかな生活の基本である。本講義では、子どもの健康状態を把握し、増進するための基礎を理解することを目標とし、乳幼児の発達と成長、子どもの生理機能と子どもたちの健康状態を把握する方法を講義する。 (オムニバス方式／全8回) (18 宮一志／1回～4回, 6回～8回) 子どもの健康に関する現状、乳幼児の発達と生理機能、健康状態の把握について担当する。 (10 小林真／5回) 保育所における発育測定の実際について担当する。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	保育士に関する科目	子どもの保健Ⅱ (概要) 保育において子どもの健康及び安全の確保は、子どもの生命の保持と健やかな生活の基本である。本講義では、子どもの健康状態を把握し、増進するための基礎を理解することを目標とし、子どもの免疫発達や感染症、頻度の高い疾患を概説し、安全を確保する方法を講義する。 (オムニバス方式／全8回) (18 宮一志／1回～2回, 4回～8回) 子どもの免疫発達や感染症、頻度の高い疾患、緊急時対応について担当する。 (10 小林真／3回) 保育所における感染症対策について担当する。	オムニバス方式
			子どもの食と栄養Ⅰ 子どもの健やかな発育・発達のために食事の摂り方は重要である。本授業では、子どもの食生活を考える上で基盤となる栄養の基礎知識を習得すること、妊娠期（胎児期）と授乳期における栄養と食生活の特徴を理解することを到達目標とする。演習を通して、妊娠期（胎児期）から生涯を通した健康における適切な栄養摂取の重要性についての理解を深め、保育者として実践につなげていくための能力を高める。	
			子どもの食と栄養Ⅱ 本授業は、子どもの食と栄養Ⅰを履修していることを踏まえて進める。乳児期、幼児期、学童期、思春期の子どもの身体の発育ならびに心の発達における食生活の特徴について学び、その役割を主体的に考え、保育者として実践につなげていくための能力を高めることを到達目標とする。発達段階別に子どもの栄養や食生活の問題点と対策についてさまざまな資料を活用しながら演習を行い、その支援のあり方について主体的に考える態度を養う。	
			社会的養護Ⅲ 児童福祉施設で生活している子どもたちの施設養護の現状と課題を理解し、支援者による基本的な支援と連携の在り方を理解するために、施設養護の種類、施設養護のプロセス、基本的な養護援助・支援、子どもの心の援助、親子関係への援助、児童福祉施設の運営管理、児童福祉施設における支援者の資質と倫理について概説する。基本的な支援の理解につながるよう、具体的な事例や模擬ケース会議を想定した演習や討論を含めながら概説する。	
			保育実習Ⅰ この授業は保育所実習と施設実習の2つの内容からなっている。まず、保育所または幼保連携型認定こども園の0歳児クラス、1歳児クラス、2歳児クラスにおける乳幼児の発達の様相を体験的に理解する。次に保育の視点及び保育内容の指導や、養護のあり方を、実習体験を通して学ぶ。さらに実習の振り返りや保育士等からの助言指導を踏まえて部分自習・責任実習を行い、乳幼児の理解や保育の指導法への理解を深める。次に、児童福祉施設を中心とした社会福祉施設における児童や障害者に関わることを通して、社会的養護が必要な児童や障害のある児童・青年・成人の個性の理解を深める。さらに実習の振り返りや児童指導員等からの助言指導を踏まえて、福祉施設における専門的な視点のあり方を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	保育士に関する科目	保育実習指導Ⅰ	保育実習Ⅰに対する事前・事後指導である。事前指導においては、まず保育実習の制度や心構えについて全般的な知識を習得したあとで、各自の実習に向けた研究課題を設定する。複数の教員による指導を受けながら、保育所実習における研究課題を決定し、それを実現するための学び方を設置する。施設実習においては、各自が配属される様々な福祉施設（乳児院・養護施設、児童発達支援センター、多機能型障害者支援施設など）の特徴を主体的に学び、各自の実習に向けた研究課題を設定する。事後指導においては、各自の実習体験を振り返り、保育所や福祉施設からの実習評価に基づいて、今後の自らの学びと課題を明確にする。	
			臨床発達心理学Ⅰ	子どもの発達のみならずのうちに、家族関係を中心とした人間関係に起因する心の傷や、不適切な養育によって生じる脳機能の発育不全について学ぶ。また児童虐待を生じやすい4つの危険因子（親の要因・子どもの要因・家族関係の不和・社会的な孤立）について事例を通して学ぶ。これらの知識や、児童福祉論Ⅰ・Ⅱや社会的養護Ⅰ～Ⅲで学んだ知識や技能を合わせて、それぞれの危険因子に対してどのように対応すべきかを立案できるようにする。	
			臨床発達心理学Ⅱ	発達のみならずのうちに、家族関係を中心とした人間関係による心の傷や脳機能の発育不全が早期に解消されなかった場合に、その後の人格形成にどのような悪影響を及ぼすかを学ぶ。具体的にはB群パーソナリティ障害（反社会性パーソナリティ障害、自己愛性パーソナリティ障害、境界性パーソナリティ障害、演技性パーソナリティ障害）の基準と行動特徴、対応の仕方を学ぶ。またいくつかの事例を通して、パーソナリティ障害を抱える人（例えばモンスター・ペアレント）に対する関わり方の基礎的な知識・技能を習得する。	
			発達福祉統計学Ⅰ	社会科学の研究に必要な統計学の基礎知識と、統計解析ソフトウェア（SPSS）の使用方法を習得する。この授業ではまず、社会科学で扱う尺度の4つの水準（名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比率尺度）の特徴と可能なデータ変換について学ぶ。次に記述統計としての代表値・散布度の種類とその利用方法、探索的データ解析（箱ひげ図の活用）によるデータの概略を読み取る方法を学ぶ。また、名義尺度の関連性を検討する方法として χ^2 乗検定の原理と分析方法を学ぶ。	
			発達福祉統計学Ⅱ	この授業ではまず、推測統計である平均値に関する検定を学ぶ。具体的には2種類の平均値を検定するt検定、3種類以上の平均値を検定する分散分析の基本的な原理と、分析結果の読み取り方を学ぶ。さらに相関係数の基本的な考え方・読み取る際の留意点について学び、相関（共分散）関係に基づいた多変量解析の基礎（重回帰分析、因子分析）の基本的な考え方と分析方法を学ぶ。これらの分析について、統計ソフトウェア（SPSS）の使用法についても学び、課題学習を通して実際に分析を行ったり結果を読み取ったりする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	保育士に関する科目	地域子育て支援論演習 I	まず、富山市内の児童館が主宰する子育てサロンの活動に参加し、2歳児とその保護者に実際に関わる体験を積む。こうした体験学習を通して子育て支援に必要な基礎的技術を習得する。また児童館指導員からの助言指導を踏まえて、子育て支援サービスを提供する際の心構えや留意点についても学ぶ。さらに利用者へのインタビューなどを通して、利用者のニーズの把握・サービスの提供・評価のプロセスといった支援の立案と効果測定の基本的な考え方についても学ぶ。	
			地域子育て支援論演習 II	地域子育て支援論演習 I で学んだ知識や技能を踏まえ、利用者のニーズを把握した上で児童館指導員の助言を受けながら子育てサロンの活動を実際に企画・運営する体験を積む。子育てサロンにおける2歳児とその保護者を対象とした部分保育の立案・実施・振り返りを繰り返しながら、福祉サービスを提供する際にPDCAサイクルを円滑に進めていくことの重要性を学ぶ。これらを総括して、幼稚園教諭や保育教諭に求められる保護者支援の基本的な姿勢を主体的に考え続ける力を修得する。	
			保育実習 II	まず保育実習 I ・保育実習指導 I で明らかになった自らの課題を克服するためにはどうすればよいかを実習前に十分に考える。それを踏まえて、保育士・保育教諭としての専門性を高めるために、保育所または幼保連携型認定こども園の0～5歳児クラスにおける保育体験を行う。専門性を向上させるために、どの年齢の乳幼児と関わるかについても主体的に検討する。さらに実習中の体験の振り返りと保育者からの助言指導を踏まえて、各自が課題として設定した乳幼児の理解、保育内容の理解、養護についての理解をよりいっそう深める。	
			保育実習 III	まず保育実習 I ・保育実習指導 I で明らかになった自らの課題を克服するためにはどうすればよいかを実習前に十分に考える。それを踏まえて、保育士・保育教諭としての専門性を高めるために、自分が実習を行う児童福祉施設（乳児院・養護施設、児童発達支援事業所、放課後等デイサービス、障害児入所施設等）の利用者に対する専門的な支援のあり方を体験的に学ぶ。また、実習中の体験と保育士や児童指導員等からの助言指導を踏まえて、社会的に養護が必要な児童や障害のある児童についての理解を深める。	
			保育実習指導 II	保育実習 II に対する事前・事後指導である。事前指導においては、まず保育実習の制度や心構えについて全般的な知識を習得したあとで、保育実習 I ・保育実習指導 I で明らかになった各自の課題を改めて検討する。複数の教員による指導を受けながら、各自の課題を解決するための保育の方法を主体的に考え、実習体験に臨む。事後指導においては、各自の実習体験を振り返るだけでなく、実習施設からの評価を反省的に受け止め、将来に向けた自らの学びの課題を明確にする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	保育実習指導Ⅲ	保育実習Ⅱに対する事前・事後指導である。事前指導においては、まず保育実習の制度や心構えについて全般的な知識を習得したあとで、保育実習Ⅰ・保育実習指導Ⅰで明らかになった各自の課題を改めて検討する。複数の教員による指導を受けながら、各自の課題を解決するための保育の方法を主体的に考え、実習体験に臨む。事後指導においては、各自の実習体験を振り返るだけでなく、実習施設からの評価を反省的に受け止め、将来に向けた自らの学びの課題を明確にする。	

授業科目の概要(共同学科等)				
(金沢大学人間社会学域学校教育学類共同教員養成課程)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	導入科目	大学・社会生活論	<p>本授業では、学生諸君が大学における学習方法・目的や社会的責任を果たす上で必要な常識・知識などを学んで早期に大学生生活のありようを体得すること、さらに大学のなかに自己発見・自己開発の契機が多々存在することに気づき、それらを利用しながら将来イメージをより明確にできるようにすることを目標とする。</p> <p>具体的には、以下を学生の学修目標とする。</p> <p>①できるだけ早く大学に慣れ、大学生らしい学修態度・学習技術・生活態度及び自己管理能力を身につける</p> <p>②これからの人権・共生の時代に必要とされる知識・教養に触れ、その基本を理解する</p> <p>③留学・就職・進学・ボランティア活動などについての知識を身につけ、大学4年間の過ごし方やその後の将来のあり方を自ら設計できるようになる</p>	
		データサイエンス基礎	<p>データサイエンスの産業利用が活発な状況で、データサイエンスに関わる基本的知識の習得は重要である。本授業では、これに加え、データサイエンスの学習に必要な学内ネットワークの適切利用、セキュリティ、コンプライアンス・モラル、および基礎的情報リテラシー等を学修する。</p>	
		地域概論	<p>本授業の目標は、所属する学類(一括入試入学者にとっては該当する学域)の専門分野を社会との繋がり、地域への貢献という視点から理解し、学生としての決意を持って、大学4年間の学修をデザインできるようになること。</p> <p>この授業科目を通じて次の学修成果を獲得する。</p> <p>①学類の専門分野を、地域との繋がりや社会への貢献の視点から理解し、地域の感性を育むこと。</p> <p>②自分の将来の目標を明確化し、専門分野と地域社会への関わり方を見つけること。</p> <p>③将来の働く姿を描きつつ、大学4年間の学修を主体的にデザインできるようになること。</p> <p>④石川県を一例として、地域の自然、文化、歴史、産業等を理解すること。</p>	
GS科目	1群(自己の立ち位置を知る)	現代世界への歴史学的アプローチ	<p>現代世界で発生しているさまざまな問題の多くは、そこに至る歴史的な経緯が大きく関係しており、それを正しく把握できなければ、問題も正しく理解できない。したがって、現代世界の理解のためには、世界史の基本的な知識と歴史的な発想法・分析視角の獲得が必須である。本授業では前提となる知識を再確認しつつ、歴史学的発想法・分析視角を学ぶ。</p> <p>獲得した知識と発想法・分析視角を使って、自己の置かれた歴史的状況を正しく認識し、現代世界の問題を読み解くことができるようになることを学修目標とする。</p>	
		グローバル時代の政治経済学	<p>グローバル化が進行する現代社会において、政治や経済の仕組みも大きく変容しつつある。そうしたなかにあつて、学生はグローバルな政治経済に関する具体的な事例に則しながら、いかにして国際社会に平和を構築していけばいいのかという、人類共通の課題解決に向けた科学的思考を習得する。</p> <p>秩序ある国際社会の構築という、人類共通の課題解決に資する問題発見と問題解決のための科学的思考基盤の習得を学修目標とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	1群（自己の立ち位置を知る）	グローバル時代の社会学	<p>身の回りとその背後にある社会に批判的思考を働かせてみる、社会学という学問的世界に触れる。この講義においては、各回に具体的事例に即しながら、グローバル化する社会や社会学の知識を生かして、社会の中で協働しつつ生きていくあり方を学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会学の重要な語句や視点について説明できる。 社会学の基本的な見方、考え方を理解している。 日常生活の中での経験を、社会学的な視点から分析できる。 新しい社会のできごとについて、自ら探求し様々な可能性を考えることができる。 E89 	
		ケーススタディによる応用倫理学	<p>個人と社会の実践的な倫理的問題を、客観的に分析し道徳的に判断する、という応用倫理学の基本的な考え方を学ぶ。授業では、医療倫理、工学倫理、企業倫理、環境倫理などの領域において、いくつかの事例を手がかりにして、倫理的問題に対するこのような取り組み方を学ぶ。</p> <p>応用倫理学を事例を通して学ぶことによって、自ら直面する倫理的問題に対して、事実認識と価値判断を区別し、自らの道徳的感覚に自覚的になることが期待される。</p>	
		地球生物圏と人間	<p>地球はその内部、表層から気圏に至るまで常に動的であり、私たちを含む生物は、その変動する地球の上に暮らしている。本授業では、地球の一員としてのヒトの立ち位置を理解するのに必要な、地球・生物の成り立ちや生物と地球環境との関わりについての知識を学ぶ。</p> <p>具体的には、以下について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地球システムにおける人類の位置づけ 地球での様々な出来事とプレートテクトニクスの関連 地球のダイナミクスと人間社会への影響（特に災害） 水と大気の動きをと人間社会への影響 地球生命史の概略と生命と地球の相互作用 種の共存と生物群集の成立のしくみ 生物集団の進化の仕組み及び種の形成 遺伝情報学、分子系統学 	
	2群（自己を知り、自己を鍛える）	哲学（自我論）	<p>〈私〉とは何かといった自己をめぐる問いは、日常生活の中で改めて問われることはあまりないが、いざ答えようとしても容易には答えられない難問であり、しかも実は人にとってきわめて切実な問いである。</p> <p>本授業では自己をめぐる形而上学的、存在論的、認識論的な問題を、代表的な哲学者たちの見解を批判的に検討しながら考察し、自己の本質を探究することで、哲学がどのような学問であるかを知ること、自己の存在と様態、自己同一性、独我論、心身問題など自己をめぐるさまざまな哲学的問題の所在を理解すること、哲学文献の批判的な分析と解釈の方法を学ぶことを目的とする。</p>	
		パーソナリティ心理学	<p>パーソナリティ心理学は、人間の性格に関するさまざまな問題を科学的に研究することを目的とする分野で、現代心理学のもっとも重要な研究領域の一つである。本授業ではパーソナリティとは何か、パーソナリティと性格、気質など他の類似概念との違いや、パーソナリティを客観的に測定するために開発されてきた心理学的査定の方法、パーソナリティの機能（はたらき）と構造（しくみ）に関する主要なパーソナリティ理論等について解説するとともに、パーソナリティを記述するために提唱されてきた類型論と特性論の特色について考察する等、パーソナリティ心理学の主要な理論とパーソナリティの研究方法について概観する。</p> <p>本授業では、パーソナリティに対する知識・理解を深め、科学的に考える能力を養うとともに、得た知見を基に、自己理解、他者理解を深め、人間関係の発展を目指す。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	グローバル時代の文学	<p>グローバル時代においては、様々な文学体験をすることで、自己を知り、自己を鍛えることが可能となる。世界各地の文学作品を直に読む文学体験を実践して、批判的な思考を可能にし、豊かな想像力を養うとともに、世界各地の文学作品を読解するための方法や物事を他者の視点で見ること＝自己を相対化することを学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は以下のとおり。</p> <p>①作られた小説を読み、フィクション世界を自らの「心」の内部に構築できる、豊かな想像力を身に着ける。</p> <p>②世界各地の文学作品を読み、それら作品の背後（深層）にある意味（社会・文化・思想）を理解するために必要な知識と能力を獲得する。</p> <p>③文学解釈という行為を通して、物理的な対象ではない人間の「心」についての思索を深め、自己を知り、他者を知るための経験的な基盤を構築する。</p>	
	健康科学	<p>我々を取り巻く環境・生活習慣は、健康にとって危険な要素を含んでいる。健康に生活するためには、これらの危険な要素と対処法を知らねばならない。WHOは、健康は「肉体的、精神的及び社会に完全に良好な状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない」と示し、「計画的な努力によって得られる状態であり、よりバランスの取れた健康的な生活を得ようとする行動そのもの」と定義している。</p> <p>本授業では、健康を守る身体メカニズムと社会の仕組みを学ぶと共に、健康的な生活を送るために必要な知識を身に付け、日常生活の中に取り入れて、実践していくことを目指す。健康を守りさらに積極的に増進するために必要な社会全体としての目標・取組から、個人として実践可能な正しい食事、運動や休養の知識、日常生活、メンタルヘルスに関する知識について学ぶ。</p>	
	細胞・分子生物学	<p>私たち人間は細胞からできている。その細胞内に存在するタンパク質や核酸などの分子レベルの振る舞いや、細胞の構造と機能、その多様性を解説することにより、細胞の構造と機能制御のメカニズムを分子レベルで学習するとともに、生命科学の基礎知識を理解することを目的とする。</p>	共同
	エクササイズ&スポーツ 実技	<p>心身の鍛錬は自律の基本である。本授業では、運動を通して、身体形成の必要性を知り、体力づくりや運動技能習得のための原理・原則を理解し実践することによって、自己を知り自己を鍛えるための能力を高めることを目的とする。</p>	
	クリティカル・シンキング	<p>日本語は、他の言語と同様に、もちろん十分に論理的である。しかし、その論理性は日本語という文法構造によって具体化されているため、＜日本語を用いて＞論理的な表現を行うためには、英語やスワヒリ語とは別の規則を知らなければならない。</p> <p>本授業では、受講者間の文化的背景と価値観の多様性についての相互理解を深めた上で、批判的思考の方法や、関係する新しい概念や理論、方法を身につけ、実践的課題に取り組むことにより各人の問題解決能力の向上をめざし、クリティカル・シンキングの概念だけでなく、それを実践すること、つまり批判的に考えるとはどういうことかを学び、論理的な＜思考・表現＞の能力を高めることを目的とする。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	3 群 (考 え ・ 価 値 観 を 表 現 す る)	<p>価値と情動の認知科学</p> <p>行動や表現を引き起こすのは、最終的には理性というより、行為者の価値観や態度や情動である。しかもそれらは、往々にして非合理的な要素を多く含み、しかも行為者本人からは隠されている。自己の行動や表現を適切にコントロールし、他者の行動や表現を適切に理解するためには、価値や情動に関する<認知・行動>の仕組みに関する理解が必要となる。</p> <p>本授業では、人間の認知能力の様々な観点から、ヒトの認知能力には、私たちが常識的にとらえているのとは異なる意外な側面があるのだということについて、自分で考えながら、整理し、ヒトという動物である自分の認知能力についての、より深い理解を確立すること、さらに、以上のことを自分自身の言葉で説明し、表現できるようになることを目的とする。</p>	
	芸術と自己表現	<p>人間の最も根源的で洗練された自己表現は、絵画、音楽、演劇、舞踏などの芸術であろう。それらは人間の諸能力のシンプルな表出であると同時に、人間存在の繊細で奥深い次元に根ざすものである。芸術においては、鑑賞するにせよ創作するにせよ、自己と表現との愚直な関係が求められる。</p> <p>本授業においては、様々な芸術の実際を体験することによって、自己表現の真摯なあり方を知ることを目的とする。</p>	
	スポーツ科学	<p>本授業では、保健体育の意義や、身体の理（ことわり）と自然・生活様式などとの関係についての理解を深めるとともに、これらの活動を通してコミュニケーション能力を高めることを目的とする。</p>	
	4 群 (世 界 と つ な が る)	<p>金沢・能登と世界の地域文化</p> <p>グローバル化は国家の枠組を超えてローカルな枠組と結びやすく、また現実の国際化は国家総体よりも個々の地域の枠組のなかで進行する。グローバル化に対応するためには、地域とその文化に対する正確な理解は欠かせない。</p> <p>本授業では、私たちの住む金沢・能登および世界の文化を事例に地域文化の豊かさと変容を学ぶとともに、それらの地域について自ら調査する。</p> <p>自らの暮らす地域の文化とその世界との結びつきに対する理解を深め、その内容を情報発信するとともに、それらを相対化する視点を獲得することを目的とする。</p>	
日本史・日本文化	<p>現代社会では、人は必ず国家に帰属することが求められ、海外に出ればその帰属した国家を代表する存在として見られがちである。一方、国家の歴史や文化についての一般的言説には誤りが含まれているものもあり、時としてそれは誤解・トラブルの原因となる。</p> <p>本授業では、日本の古代から近現代に至る歴史と文化について、各時代ごとの重要トピックを取り上げ、それを「世界の中の日本」という視角で考察することを通じて概観することにより、日本の歴史・文化の特色を理解するのみならず、世界の他地域との差異と共通性を理解する。加えて日本の古代から近現代に至る政治・社会・文化の、変化の特徴と普遍性をどのように捉えたらよいかといった課題に対する理解を深めることを目的とする。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	異文化間コミュニケーション	<p>グローバル化した社会では、自らの育った文化を知り、その特徴を自覚した上で、自らの特殊性を認め、さらに、自らと異なる文化、人種、民族への理解を深めることが重要である。</p> <p>本授業では、「①異文化と自文化に関する知識」「②異文化に対する態度」「③コミュニケーション・スキル」の異文化間コミュニケーションで特に重要視される3つの概念についての理解を深める。①の知識については、文化的価値観と非言語行動における異文化と日本文化との類似点と相違点を理解する。②の態度については、偏見や自民族中心主義に陥らないで、異文化に対する寛容で柔軟な姿勢を持つことの重要性について学ぶ。③のスキルについては、傾聴力の必要性について学習する。</p> <p>偏見・差別をなくし文化的差異を認めることの必要性を認識することによって、他者への深い共感に基づいて異文化を受け入れ、異質な他者と共生する能力を身につけることを目的とする。</p>	
	異文化体験A	<p>異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。</p> <p>本授業では、海外における短期のボランティア等を通し、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。</p> <p>45時間相当の留学を対象とする。</p>	
	異文化体験B	<p>異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。</p> <p>本授業では、海外の語学学校等での短期留学を通し、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。</p> <p>90時間相当の留学を対象とする。</p>	
	異文化体験C	<p>異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。</p> <p>本授業では、海外の研究機関等での短期留学を通し、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。</p> <p>135時間相当の留学対象とする。</p>	
	異文化体験D	<p>異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。</p> <p>本授業では、海外の大学等での短期留学を通し、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。</p> <p>180時間相当の留学対象とする。</p>	
	異文化体験E	<p>異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。</p> <p>本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。</p> <p>225時間相当の留学対象とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	4群 (世界とつながる) GS科目	異文化体験F	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 270時間相当の留学対象とする。	
		異文化体験G	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 315時間相当の留学対象とする。	
		異文化体験H	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 360時間相当の留学対象とする。	
		グローバル時代の国際協力	ボーダーレス化が進む国際社会では、ボランティアのネットワークも国境を越えて広がる。 本授業では、貧困や紛争、災害など、国際社会が直面する様々なグローバル・イシューの解決に向けて活動を展開する様々な「ボランティア」の形を知り、その独自性や課題に対する理解を深めることにより、日本を含む世界の各地でどのようなボランティアのニーズがあるのか、国際社会・地域社会における共生のためにボランティアに何ができるのか等を、実践例に基づきながら理解することを目的とする。	
	グローバル社会と地域の課題	学生はいま学生として、あるいは将来地域社会を担っていく者として、グローバルな視野に立ちつつ、地域の様々な課題に取り組んでいかなければならない。そこで求められるのは地域の課題を的確に見抜く力であり、他者と協力しながらそれに取り組む力である。 本授業では、グローバル化が進行する現代社会において、どのような地域課題が発生しているのか、どのように解決をしていくべきか、そして自らどのように関わっていくのかを考え、地域社会の現状と課題を総合的に学びながら、地域の課題解決と活性化の理論と実践について理解を深めることを目的とする。		
5群 (未来の課題に取り組む)	科学技術と科学方法論	人類の未来は、希望も絶望も、科学技術がそのカギを握っている。したがって、科学という「世界の捉え方」、技術という「ものの作り方・使い方」を知らずしては、人類の課題も解決も見えてこない。また、科学は、私達の住む世界を記述・説明する世界共通語のひとつである。この言語を操る能力、すなわち「科学的思考力・科学的表現力」は、私達の自然や社会に対する深い理解をもたらす。 本授業では、科学の方法を構成するコアとなる考え方について、議論や実験など実践的な活動を通して理解し、活用できるスキルを修得することを目的とする。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	G S 科目	統計学から未来を見る	<p>世界の人口問題とそれに伴う食料や資源、エネルギーの問題、また国内における少子高齢化とそれに伴う医療福祉・教育・労働・経済・産業に関する問題など、私たちを取り巻く現状を数値化して分析し、それに基づいて未来を予測するために、統計学はすべての学問分野において必要とされている。</p> <p>本授業では、統計データに基づいて現状・将来を分析し、その分析から浮かび上がる諸課題の解決に向けてアイデアを提案できるようになることを目的とする。</p>	
		環境学とE S D	<p>気候変動等、現代社会が直面する地球環境問題の現状を把握するとともに、その解決方法と「持続可能な社会」のあり方及び実現方法を多角的に学ぶ。</p> <p>本授業では、わが国における公害問題の発生と克服、環境政策の展開について学ぶとともに、近年の地球環境の危機とグローバル・コミュニティの対応、今後取り組むべき対策などを理解することによって、地球環境問題の解決と「持続可能な社会」の実現を達成するために必要な肯定的な未来志向性および環境リテラシー（環境知識、論理的・多面的・総合的思考力、創造的・実践的問題解決能力等）の向上を図ることを目的とする。</p>	
		生活と社会保障	<p>日本を含む世界の少なからぬ国々は今、人口減少、人口分布の地域的偏在、及び高齢化という局面を迎えながら、社会保障の一層の拡充という困難な課題に直面している。</p> <p>本授業では、少子・高齢化など人口変動やグローバル化に伴う社会経済の変動のなかで、社会保障が果たす役割と課題について、国民生活の視点から検討することで、世界・日本・地方という複眼的な視点からこの課題を捉えるとともに、社会保障のあゆみ、制度の概要、直面する問題、少子・高齢化のもとでの社会保障の課題について考えるための基礎知識を身につけることで、有効な解決策に向けた議論を展開することを目的とする。</p>	
		現代社会と人権	<p>未来を平和で豊かな持続可能な社会にしていくうえで、人権の思想とジェンダー学の視点は不可欠とされるが、現実の国際社会・日本社会は未だその理想からは遠い状況にある。</p> <p>本授業では、人権・ジェンダーについての基本的な知識を踏まえつつ、これらの視点から現代社会の問題を分析・考察する。学生は、その理解を通して、未来を構築するうえで必要な視点と問題意識を得ることを目的とする。</p>	
		インテグレートド科学	<p>物質の構成要素となる元素を対象とした科学の世界は、その構造、性質及び反応を究明することで目覚ましい進歩を遂げてきた。では、人類の物質に関する理解はどの様に進歩して、現代化学における物質観につながってきたのか。</p> <p>本授業では、科学的に考えるための基礎として、物質の成り立ちや基本事項について概観し、巨視的な現象と原子・分子・イオンなどの微視的な粒子の挙動との関係や、暮らしの中の色、味、匂いを題材とし、感覚発生のメカニズムや分子構造との関係について学ぶ。化学の世界に関するこうした理解を通して、多種多様な世界観が存在する現代において、客観的かつ科学的な視点で物事を捉えることを目的とする。</p>	
A I 入門	<p>Artificial Intelligence (AI, 人工知能) とは何かをその歴史と実例を調査して学ぶ。AIを支える技術（コンピュータの性能、機械学習・ディープラーニング、パターン認識、自然言語処理）の進歩について理解する。AIを利用することの利点や問題点を理解し、AIの普及により変化する未来社会、AIの限界とシンギュラリティについて考察する。</p>			

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
GS科目 6群 (新しい社会を生きる)	情報の科学	<p>世の中には多くの情報が溢れている。現状を理解し、今後の展望を見極めるためには、情報に踊らされることなく、正しい情報を見極めて、それを収集し発信していくことが必要である。</p> <p>本授業では、情報とは何か、情報収集・発信の有効性と危険性、情報のモラル、セキュリティなどを学ぶことによって、情報を制御するために不可欠の知識と能力を習得し、研究や生活・仕事において問題発見・問題解決に役立てる情報の科学の幅広い知識を身につけることを目的とする。</p>	
	デザイン思考入門	<p>高度化・複雑化する現代社会では、狭い分野の専門知識や技術では解決できない課題に対する有効なアプローチ法が、デザイン思考 (Design Thinking) である。ここでいう「デザイン」とは、絵を描くという意味ではなく、課題解決のプロセスとその設計を意味している。デザイン思考の基本的なプロセス (共感、問題定義、アイデア創造、試作、テスト) について、その概念を理解し、実例を検証しながら修得する。</p>	
	論理学と数学の基礎	<p>数学は多くの学問分野において、その法則を適切に表現するための言葉として用いられ、文系、理系を問わず必要なリテラシーとされている。</p> <p>本授業では、数学を活用する事例を通して、数学の基礎概念のいくつかを学ぶ。具体的には、統計を活用する例として、平均や分散と数ベクトルと内積の関連の基礎を学び、また整数を活用する例として、情報化社会に欠かせない暗号理論の基礎を学ぶ。</p> <p>学生は、数学の基本的技法に加えて応用的方法を学ぶことによって、数学の思考方法を習得し、根拠の確かな判断能力や生活の中で数学を活用する能力を身に付けることを目的とする。</p>	
共通教育科目 GS言語科目 (英語)	TOEIC準備 I	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>TOEICでリスニングセクションで高得点を得るための基本的な聞き取りのテクニックを学び、リスニング能力の向上を図る。</p> <p>TOEICリスニングパート セクション1, 2, 3及び4対応。</p> <p>様々なタイプのTOEICリスニングパートの問題を授業の中で大量に解いていくトレーニングを通じて、対策と解答テクニックを学び、聞き取り能力だけでなく、語彙力、慣用句の理解力等、文法力等の英語力をつけることを、学習目標とする。</p>	
	TOEIC準備 II	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>TOEICでリスニングセクションで高得点を得るための基本的な英文読解のテクニックを学び、読解能力の向上を図る。</p> <p>TOEICリーディングパート セクション5, 6, 及び7対応。</p> <p>読解力を磨くためのトレーニングを通じて、リーディングパートの対策を学び解答テクニックを身に付けるだけでなく、語彙や慣用句を増やすし、英文読解力をつけることを、学習目標とする。</p>	
	TOEIC準備 III	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>TOEIC準備 I, IIで伸ばした「リスニング力」「読解力」「解答テクニック」を生かし、TOEIC L&Rテストに実際に取り組む。</p> <p>TOEIC準備 I, IIで学んだことをさらにブラッシュアップさせ、リスニングとリーディングの力をさらに伸ばし、TOEICハイスコアにつながる対策を学ぶ。特に、集中的なリスニング、穴埋め問題の練習、文法的正確さを獲得し、文章の黙読と音読を実施する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	TOEIC準備 IV	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>TOEIC準備 I～IIIを通して伸ばした「リスニング力」「読解力」「解答テクニック」の更なる開発と、それら能力を生かし、TOEIC L&Rテストに実際に取り組む。</p> <p>TOEIC準備 I～IIIで学んだことをさらにブラッシュアップさせ、リスニングとリーディングの力をさらに伸ばし、TOEICハイスコアにつながる対策を学ぶ。特に、集中的なリスニング、穴埋め問題の練習、文法的正確さを獲得し、文章の黙読と音読を実施。</p>	
	TOEIC準備（演習）	<p>TOEIC L&Rテストにおけるハイスコア獲得のために必要なリスニング能力、リーディング能力、解答テクニック向上を目指し、実際のテストで実践できる力を育てる。基本的な試験対策と、TOEICハイスコアを獲得するために必要な言語能力を開発する。</p> <p>様々なタイプのTOEICリスニングパートの問題を授業の中で大量に解いていくトレーニングを通じて、対策と解答テクニックを学び、聞き取り能力だけでなく、語彙力、慣用語の理解力等、文法力等の英語力を身につけることを、学習目標とする。</p>	
	English for Academic Purposes I	<p>このアクティブラーニングコースでは、自分のアイデアを論理的に書いて表現する方法を学ぶ。具体的には、英語で文章を書き、的確な文章構造と構成を学ぶ。</p> <p>文章の構成要素に焦点を当てることで、文章の形式を考察し、書くための構想を練る。コースの後半では、理由とたとえを用いることに焦点を当て、洗練された文章を作ることを、学習目標とする。</p>	
	English for Academic Purposes II	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>このアクティブラーニングコースでは、プレゼンテーションの計画、実施、評価を学習することで、人前で話す際に必要な自信を育てる。</p> <p>学生に英語で全クラスメイトの前で発表する機会を十分に与え、口頭でのコミュニケーション及び非言語コミュニケーションの両方を学ぶことにより、英語での発表能力を向上させる。</p> <p>有益なプレゼンテーションを計画し発表する能力の開発やプレゼンテーションのカギとなる技術に気づき、評価することができるようになるほか、批判的思考を獲得する。</p>	
	English for Academic Purposes III	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>このアクティブラーニングコースでは、EAP IとEAP IIで学んだスキルを統合し、その統合したスキルを用いて学術的課題や現代の社会問題の分析する。</p> <p>このコースは主にサマリーライティング（要約文章の作成）と、授業内で読んだ教材に対して分析的な反応に焦点を当てる。</p> <p>学術論文の正確な要約ができる能力、評価分析、対照分析または相対分析等の分析手法を学ぶことで、分析的な視点を培う。</p> <p>ディスカッションの質問に対し口頭で答えることで、コミュニケーションにおける相互作用的な能力を伸ばす。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
GS 言語科目 (英語)	English for Academic Purposes IV	授業は英語で行われる。 このアクティブラーニングコースでは、先のEAPの授業で学んだ能力・技術用いながらさらに発展させ、学術的テーマか現代社会の課題について小論文を書く。 与えられたトピック、要約された様々な意見について、批判的立場で議論を交わし、系統立てて自分の意見を表現する。 与えられたトピックについて、論文や要約及び口頭で、詳しい見解を述べるができるようになる。 書かれている文章の内容のみならず、根底にある関心や視点に目を向けるようにする。 アカデミックな環境で英語を使えるようにすることが期待される。	
	English for Academic Purposes (Retake)	授業は英語で行われる。 このアクティブラーニングコースでは、学術的な文章を読む練習と、グループディスカッションや発表という形で、学術文書への対処の仕方を学ぶ。 学術論文を読むことに重点を置き、より難しい論文に取り組んでもらう。グループワークで論文の内容を把握し、ディスカッションをする。題材を探求するための基礎として論文を使い、発表をする。その中で、リスニング・スピーキング能力を伸ばし、自信を得ることが期待され、リサーチ能力を伸ばし、学術的語彙の知識を増やすことを求める。	
共通教育科目 GS 言語科目 (日本語)	アカデミック基礎日本語A	外国人留学生が、日本の大学での学習や研究に必要な日本語力(アカデミック日本語)を獲得するため、ノートの取り方や情報検索等、複合的な能力を養成することを目的とする。	
	アカデミック基礎日本語B	外国人留学生が、日本の大学での学習や研究に必要な日本語力(アカデミック日本語)を獲得するため、論理的な内容の読解を中心に、レジュメの作成やプレゼンテーションなど、さらに高度で複合的な能力を養成することを目的とする。	
	講義の聴解A	大学の講義を日本語で聞き取り可能な聴解ストラテジーを習得するとともに、今まで身につけてきた知識を活性化させて大学での研究・学習生活に支障のない聴解能力を養うことを目的とする。	
	講義の聴解B	「講義の聴解A」に引き続き行うことで、大学の講義を日本語で聞き取り可能な聴解ストラテジーをさらに高いレベルで習得するとともに、今まで身につけてきた知識を活性化させて大学での研究・学習生活に支障のない聴解能力を養うことを目的とする。	
	口頭発表A	本授業では、留学生に向け、日常で使用する可能性のある内容について、実際に自分でスピーチを用意し、発表した後、その内容について共に討議することにより、様々な日本語でのスピーチについてその特徴や作成上のポイントの理解を深めることを目的とする。	
	口頭発表B	本授業では、留学生に向け、大学での発表に関する内容等について、実際に自分でスピーチを用意し、発表した後、その内容について共に討議する。「口頭発表A」からさらにアカデミックなスピーチ内容を検討することで、様々な日本語でのスピーチについてその特徴や作成上のポイントを共に討議しさらに理解を深めることを目的とする。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 GS言語科目（日本語）	上級読解ⅠA	本授業では、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、専門性の高い文章を精読し、考察を深めるとともに、読んだ内容について、わかりやすく説明できるようになることを目的とする。	
	上級読解ⅠB	本授業では、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、専門性の高い文章を精読し、考察を深めるとともに、読んだ内容について、説明できるのみならず、自分の考えや意見を述べたり、他の人の考えや意見を理解する等、アカデミックな場面に必要な能力を高めることを目的とする。	
	上級読解ⅡA	本授業では、日本語テストFクラスの学生に向け、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、読んだ内容について、自分の考えや意見を述べたり、他の人の考えや意見を理解することを目的とする。	
	上級読解ⅡB	本授業では、日本語テストFクラスの学生に向け、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、専門性の高い文章を精読し、考察を深め、読んだ内容について、自分の考えや意見を述べたり、他の人の考えや意見を理解したする等、アカデミックな場面に必要な能力を高めることを目的とする。	
	日本語で学ぶ論理A	本授業では、留学生を対象に、論理的な文章の組み立て方である、論証と演繹の練習を日本語の文章を通じて行う。そして、実際に日本語で書かれた文章の読解を行いながら、論理の展開と構成について学ぶことにより、論理トレーニング（論証と演繹）を通じて、日本の大学での学習や研究に必要となる論理的思考力を日本語で修得することを目的とする。	
	日本語で学ぶ論理B	本授業では、留学生を対象に、論理的な文章の組み立て方である、論証と演繹の練習を日本語の文章を通じて行う。「日本語で学ぶ論理A」の内容を発展させ、否定、条件構造、推論の技術（存在文の扱い方、消去法、背理法）について学び、最後に形式論理学の基礎についても学ぶことにより、日本の大学での学習や研究に必要となる論理的思考力をさらに高度なレベルで日本語で修得することを目的とする。	
	日本事情A	本授業では、留学生を対象に、日本人が常識として持っている様々な日本に関する基礎知識を歴史や地理等を通して学び、それによって日本語読解能力の向上を図ることで、日本の様々な面についての知識を増やし、さらに主体的に、かつ積極的に知識を求めようとする姿勢を養うことを目的とする。	
	日本事情B	本授業では、留学生を対象に、日本人が常識として持っている様々な日本に関する基礎知識を宗教や文化、季節感等特に日本人の内面を形成している部分を通して学び、それによって日本語読解能力の向上を図ることで、日本の様々な面についての知識をより深め、さらに主体的に、かつ積極的に知識を求めようとする姿勢を養うことを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
G S 言語科目 (日本語)	アカデミック・ライティングA	日本の大学や大学院で専門教育を受ける留学生は、レポートや論文など、書く能力、いわゆる「アカデミック・ライティング」に関する能力が求められる。 本授業では、留学生を対象に、レポート作成にかかる適切な資料の引用方法や、図表の説明の仕方を学び、自分の興味関心に従ってレポートを作成することで、資料探索や、図表の適切な説明方法とともに、レポートの基本的な表現と構成を身に付けることを目的とする。	
	アカデミック・ライティングB	日本の大学や大学院で専門教育を受ける留学生は、レポートや論文など、書く能力、いわゆる「アカデミック・ライティング」に関する能力が求められる。 本授業では、留学生を対象に、資料等に対し考察や分析を述べたり、要約を書くことにより、文章の主となる部分を見つけ出す力を身に付けるとともに、文章を適切に引用し、考えと理由をレポートとして論理的に書くことを目的とする。	
共通教育科目 初習言語科目	ドイツ語A1-1	文法を中心としてドイツ語の基礎を学ぶ。 文法に対応した練習問題のほかに、会話文のリスニング、少し長い文章のリーディングをペアワークやグループワークのなかで取り入れ、色々な練習を通じてドイツ語の文や表現に触れることで、ドイツ語初級文法の基本的な枠組みを理解し、平易な文を読んだり書いたりできることを学習目標とする。	
	ドイツ語A1-2	本授業では、ドイツ語の初歩的な文法を学んでいく。 ドイツ語の文法は、英文法に多くの点で類似しているため、英語の知識が活用できるような方式で授業を進めていく。 最終的には、ドイツ語の基礎単語の発音ができ、辞書があれば、ドイツ語で書かれた簡単な新聞や雑誌の文章が読める程度のミニマルな文法知識を習得することを目指す。	
	ドイツ語A2-1	初級文法の授業で学んでいる知識を応用して、現実的な場面で使えるドイツ語会話の基本的な表現を身につける。日常でよく使われる表現を中心に構成されたテキストを用いながら、比較的少数の語彙・文法的知識を駆使して簡単な会話をこなしていくテクニックを身につけていく。あまり細かい規則に拘らずに、取り敢えずドイツ語で“何が”言えるための実用的な表現法を紹介する。 基本的な語彙の範囲内であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができ、ドイツ語圏に出かけた時に、駅、銀行、食堂、百貨店などで最低限の会話ができるようになることを目指す。 授業で取り上げる内容は下記の通り。 ドイツ語のアルファベットと発音、基本構文、自己紹介	
	ドイツ語A2-2	初級文法の授業で学んでいる知識を応用して、現実的な場面で使えるドイツ語会話の基本的な表現を身につける。日常でよく使われる表現を中心に構成されたテキストを用いながら、比較的少数の語彙・文法的知識を駆使して簡単な会話をこなしていくテクニックを身につけていく。あまり細かい規則に拘らずに、取り敢えずドイツ語で“何が”言えるための実用的な表現法を紹介する。 基本的な語彙の範囲内であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができ、ドイツ語圏に出かけた時に、駅、銀行、食堂、百貨店などで最低限の会話ができるようになることを目指す。 本授業で取り上げる内容は下記の通り。 趣味関する表現、将来の目標に関する表現（人称変化、前置詞等）	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	ドイツ語A3-1	ドイツ語初級文法の最初舗段階の修得を目指す。 ドイツ語の発音規則を理解し、単語を正しく発音でき、かつドイツ語初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文を読んだり書いたりできることを学習目標とする。 本授業では、主に以下の内容を学習する。 自己紹介、趣味について（動詞の現在人称変化と語順）／生ツの描写・持ち物について（名詞の性と格変化等）／動詞の活用・格変化／曜日・時間・年齢の表現（前置詞、再帰代名詞、再帰動詞等）／用事・希望・過去のことを話す（過去形、現在完了形、zu不定詞等）	
	ドイツ語A3-2	ドイツ語の発音規則を理解し、単語を正しく発音でき、かつドイツ語初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文を読んだり書いたりできることを学習目標とする。 本授業では、主に以下の内容を学習する。 好みについて話す（形容詞の格変化、比較級、最上級）／部屋にある物について話す（関係代名詞、命令形）／仮定の話をする（接続法）等	
	ドイツ語A4-1	本授業では、発音にはじまり、日常生活の場面で用いる会話表現を学ぶ。ドイツ語の決まり文句、日常表現や旅行で使える会話表現を習得しながら、映像や音声教材を通して、英語圏とは異なるドイツ文化圏の違いを知り、視野を広げる。 主に、趣味、家族、職業、自分にできる事できない事等、自分の身の回りのことを表現することについて学習する。 ペア、グループ、クラスなどさまざまな作業形態で、ドイツ語の話す、聞く、読む、書く能力をバランスよく養成し、ドイツ語の基本語彙や表現を用いて口頭で表現できるようになり、基本語彙の範囲内であれば聞き取れるようになることを学習目標とする。	
	ドイツ語A4-2	本授業では、発音にはじまり、日常生活の場面で用いる会話表現を学ぶ。ドイツ語の決まり文句、日常表現や旅行で使える会話表現を習得しながら、映像や音声教材を通して、英語圏とは異なるドイツ文化圏の違いを知り、視野を広げる。 主に、買い物での場面、欲しいものの表現、気持ちの表現、指示・依頼の表現等、自分の考えを伝える表現について学習する。 ペア、グループ、クラスなどさまざまな作業形態で、ドイツ語の話す、聞く、読む、書く能力をバランスよく養成し、ドイツ語の基本語彙や表現を用いて口頭で表現できるようになり、基本語彙の範囲内であれば聞き取れるようになることを学習目標とする。	
	ドイツ語B-1	ドイツ語の短いテキストを精読しながら、初級文法をしっかりと身につけ、日常生活で使えるドイツ語運用能力を身につける。 主に、挨拶について、バス・駅・鉄道、地図、レストラン、買い物、ホテルなど日常生活や旅行に役立つ表現を学習する。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・会話で自己紹介をしたり、質問に答えたりすることができる。 ・辞書を用いて平易なドイツ語の文章を読むことができる。 ・日常生活の場面での簡単な質問や指示、話、アナウンスや短い会話を理解できる。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	ドイツ語B-2	<p>ドイツ語の短いテキストを精読しながら、初級文法をしっかりと身につけ、日常生活で使えるドイツ語運用能力を身につける。</p> <p>主に、ドイツ語圏に関する文章を読み、旅行計画を立て、プレゼンとディスカッションを実施する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短い広告などから、自分にとって大切な情報を取り出せる。 ・簡単なものであれば、所定の用紙に記入することができる。 ・短い個人的な文章を書くことができる。 	
	ドイツ語C-1	<p>既に持っているドイツ語の知識を、さらに発展させていく。</p> <p>授業は主にオーラルコミュニケーションと、語彙の学習、リーディングとリスニングをします。併せて、日本とドイツの文化について説明する。</p> <p>ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ、個人ワーク、プレゼンテーションなどを通して、日常的なコミュニケーションを簡単なドイツ語でできることを目標とする。</p>	
	ドイツ語C-2	<p>既に持っているドイツ語の知識を、さらに発展させていく。</p> <p>授業は主にオーラルコミュニケーションと、語彙の学習、リーディングとリスニングをします。併せて、日本とドイツの文化について説明する。</p> <p>街での案内や過去の出来事等について、ドイツ語を使用したコミュニケーションを学ぶことで、ドイツ語圏の文化に関心を持ち、ドイツ語のコミュニケーション能力を養成することを目的とする。</p>	
	フランス語A1-1	<p>フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。</p> <p>このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。</p> <p>国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELF/DALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。</p> <p>主に、発音、綴り字と音声の対応、er動詞、etre, avoir, 数字、名詞のジェンダー等基本的な文法事項を学ぶ。</p>	
	フランス語A1-2	<p>フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。ヨーロッパ文化の一番面白いところを正確に理解し、楽しむためにもフランス語は有益なツールとなるだろう。</p> <p>このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。</p> <p>国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELF/DALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。</p> <p>主に、ir動詞、動詞の活用、過去分詞、指示代名詞、単純未来等の文法事項を学ぶ。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	フランス語A2-1	<p>初歩的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に学習する。</p> <p>主に、名前を言う・尋ねる・綴りを言う、職業・身分・国籍について、家族について、年齢の言い方、好みについて等、自分の事を話し、相手について尋ねる方法を学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フランス語の発音ルールを身につけ、文字を見て発音できる。 ・基本語彙、基本表現及び文法を学習し応用することで、フランス語で身近な話題について会話ができる力を養う。 	
	フランス語A2-2	<p>初歩的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に学習する。</p> <p>主に、用紙や服装について、交通手段について、時刻や値段の尋ね方、食習慣について等、コミュニケーションをとるために必要な表現を学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだ初歩的な語彙の範囲であれば、ゆっくり、はっきりと話された内容を聞き取ることができる。 ・フランスとフランス語圏について紹介する。 	
	フランス語A3-1	<p>フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。</p> <p>このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。</p> <p>国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELF/DALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。</p> <p>主に、代名動詞、動詞の活用、強調構文、非人称構文、疑問形容詞、半過去、大過去等の文法事項を習得する。</p>	
	フランス語A3-2	<p>フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。</p> <p>このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。</p> <p>国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELF/DALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。</p> <p>主に、指示代名詞、関係代名詞、現在分詞、比較級・最上級、条件法、接続法等の文法事項を習得する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	フランス語A4-1	<p>基本的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に進める。</p> <p>本授業では主に、習慣、日常の活動について、過去のこと・過去の習慣についてトピックを立て、学習する。</p>	
	フランス語A4-2	<p>基本的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に進める。</p> <p>本授業では主に、許可や禁止について、未来について、願望、比較、条件・仮定についてトピックを立て、学習する。</p>	
共通 教育 科目	フランス語B-1	<p>フランス語による国際コミュニケーションの実践への導入。フランス語による少し高度な日常的表現に挑戦する。</p> <p>本授業では、満潮時のみ島になるモン・サン・ミッシェルに関する論説文や、「よつば」などの日本の漫画のフランス語訳をとりあげ、初級文法を復習しながら、相手の言いたいことを的確に理解し、自分の言いたいことを的確に表現する自然なフランス語が基本的にどういうものか体得することを目指す。</p>	
	フランス語B-2	<p>フランス語による国際コミュニケーションの実践への導入。フランス語による少し高度な日常的表現に挑戦する。</p> <p>本授業では、エッフェル塔やルーブル美術館について書かれた平易な論説文などをとりあげ、フランス語話者の書いていることの真意が実感をもって分かること、こちらからフランス語話者へ効果的に意思を通じさせられるような書き方（話し方）を身につける。</p>	
初 習 言 語 科 目	フランス語C-1	<p>フランス語による国際コミュニケーションの実践への導入。フランス語による少し高度な日常的表現に挑戦する。</p> <p>本授業では、ラグビーにおける国籍や観光地におけるフランス等の論説文などをとりあげ、ネットを使わなくても、ある程度の難易度を持ったフランス語の文章を読み聞きし、理解できるようにすること。フランス語話者とコミュニケーションし、ガイドできることを目指す。また、フランス語と英語の知識を結び付け、両言語でのレベルアップを目指す。</p> <p>将来のフランス語検定試験（仏検）やフランス語圏（フランス、カナダ等）留学時に必要なDELF/DALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	フランス語C-2	<p>総合的なフランス語力の一応の完成を目指す。フランス語でEメールを書き、ホットなラジオ・ニュースを聞き、論説文を読み、必要な文法知識の完成を目標とする。</p> <p>フランス語による国際的コミュニケーション力を磨くため、また大学卒業後も少しずつフランス語力を自力で高めるようにするための体制を整えていく。フランス語と英語の知識が有機的に結びき、両方のレベルが向上することを旨とする。フランス語圏での勉学、仕事に必要な DELF/DALF の上の級に合格する態勢についても考える。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読む、書く、聞く能力を伸ばし、話された言葉、書かれたテキストからできるだけ情報がとれるノウハウを体得する。 ・フランス語の基礎知識をしっかりと固め、生涯のスペインでのフランス語学習の展望を得る。 ・国際的コミュニケーションの言葉としてのフランス語の広がりを知る。 ・フランス語の知識と英語の知識を有機的に結びつけて、両方のレベルを向上させる。 	
	ロシア語A1-1	<p>ロシア語ネイティブの先生が担当するA2-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考える。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリル文字を見て発音することができる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。 <p>本授業では、ロシア語のアルファベットと発音、文法性、ロシア人の名前、簡単な現在形の肯定・否定・疑問文、形容詞、副詞、人称代名詞等、基礎的な知識や文法事項を学ぶ。</p>	
	ロシア語A1-2	<p>ロシア語ネイティブの先生が担当するA2-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考える。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリル文字を見て発音することができる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。 <p>本授業では、名詞の複数形、現在形の動詞の人称変化、重要な不規則動詞、方向の表現、数字等、基礎的な文法事項を学ぶ。</p>	
	ロシア語A2-1	<p>ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア語を発音することができる。 ・日常会話でよく使われる初級ロシア語の表現や言い回しを理解し、使えるようにする。 <p>本授業では、ロシア語の発音とアルファベット、挨拶、自己紹介、「これは何/誰ですか」「誰のものですか」等基本的な知識と表現を学ぶ。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	ロシア語A 2-2	<p>ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下のようなテーマに関し、教師やクラスメートと基本的なロシア語会話ができる。「あいさつと自己紹介」「物や人の場所を聞く／言う」「私の家族」 ・英語以外の外国語に触れることによって、視野を広げる。 <p>本授業では、位置・場所の表現、時間についての表現、好みや能力の表現等基本的な会話表現を学ぶ。</p>	
	ロシア語A 3-1	<p>ロシア語ネイティブの先生が担当するA4-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考えている。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリル文字を見て発音することができる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。 <p>本授業では、下記の文法事項を学ぶ。</p> <p>名詞、人称代名詞の単数・複数、命令形、重要な不規則動詞、形容詞・名詞・代名詞の格変化、順序数詞等</p>	
	ロシア語A 3-2	<p>ロシア語ネイティブの先生が担当するA4-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考えている。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリル文字を見て発音することができる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。 <p>本授業では、下記の文法事項を学ぶ。</p> <p>重要な不規則動詞、再帰動詞、移動の動詞、時間表現、比較級・最上級、無人称文等</p>	
	ロシア語A 4-1	<p>ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学んでいく。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア語を発音することができる。 ・日常会話でよく使われる初級ロシア語の表現や言い回しを理解し、使えるようにする。 ・以下のようなテーマに関し、教師やクラスメートと基本的なロシア語会話ができる。「あいさつと自己紹介」「物や人の場所を聞く／言う」「私の家族」 ・英語以外の外国語に触れることによって、視野を広げる。 <p>本授業では、以下のような表現を学ぶ。</p> <p>金額を尋ねる、数字、好き嫌いについて、色の表現、所有物について等</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	ロシア語A 4-2	<p>ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学んでいく。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア語を発音することができる。 ・日常会話でよく使われる初級ロシア語の表現や言い回しを理解し、使えるようにする。 ・以下のようなテーマに関し、教師やクラスメートと基本的なロシア語会話ができる。「あいさつと自己紹介」「物や人の場所を聞く／言う」「私の家族」 ・英語以外の外国語に触れることによって、視野を広げる。 <p>本授業では、以下のような表現を学ぶ。 好き嫌いについて、方向・道案内、交通手段、天気や行動について過去形、未来形を用いた表現等</p>	
	ロシア語B-1	<p>ロシア語Aで学んだ文法の復習から、中級文法の習得を目指し、より高度な文法・表現の解説、その応用練習を行う。平易な会話の聞き取り能力の向上を目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文法の合間に、短く比較的簡単なテキストを読み、ロシア語の読解にも慣れる。 ・やや複雑な構文を使ったロシア語の文が読解できる。 ・基本語彙と平易な表現を用いてゆっくり話されるロシア語会話を、聞き取ることができる。 <p>本授業では、以下のような表現を学ぶ。 時間の表現、数詞の格変化、仮定法、一般二人称、不定形の用法等</p>	
	ロシア語B-2	<p>実際にロシアに行ったら遭遇するであろうシチュエーションにおいて、ロシア語でどう表現すればよいか、実践的なロシア語の修得を目指す。</p> <p>シチュエーションごとの簡単な会話の聞き取り、ネイティブのナチュラルスピードに耳を慣らす練習をし、会話内容の理解を通して、ロシア語Aの文法の復習・発展的学習を行う。</p> <p>実際にロシアに行った場合に最低限必要なフレーズや語彙を学び、自分の言いたいことを表現するにはどのような言葉を使ったらよいかを学ぶ。またこれを応用して、日本の状況についても説明できるようになる。</p> <p>日本と異なるロシアの生活・文化様式についても解説する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア旅行で最低限必要となる語彙・表現を用いて話すことができる。（空港・ホテル・両替所・ファストフード店等での場面で） ・ごく基本的な語彙・表現の範囲であれば、ナチュラル・スピードで話される内容を把握できる。 ・ロシア語でロシアに関する情報収集を自分で行える。 	
	ロシア語C-1	<p>本授業では、ロシアの社会や文化に関する理解を深め、ロシア語AやBで学んだ内容を復習・応用しながら、読解力・聴解力を高めることを目標とする。</p> <p>短めのロシア語テキストを数回ずつかけて読む。テキストは新聞・雑誌記事、インターネット上の書き込み等を例にジャンル、テーマ等問わずに幅広い種類の文章を読むことで読解力を鍛える等、語学的な訓練を重ね、毎回少しずつ、ロシア語検定試験（ロシア連邦の国家試験TRKIなど）の聞き取り問題にも取り組むことにより、辞書を使えば新聞レベルのロシア語テキストが読解できることを目指す。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	ロシア語C-2	<p>本授業では、ロシアの社会や文化に関する理解を深め、ロシア語AやBで学んだ内容を復習・応用しながら、読解力・聴解力を高めることを目標とする。</p> <p>授業では短めのロシア語テキストを数回ずつかけて読む。テキストは学術論文、文学などから、ジャンル、テーマ、書かれた時期を問わず、幅広く扱う予定である。</p> <p>複雑な構文を把握できるよう、語学的な訓練を重ね、毎回少しずつ、ロシア語検定試験（ロシア連邦の国家試験TRKIなど）の聞き取り問題に取り組む。ナチュラル・スピードのロシア語の聞き取り能力を高め、また聞き取った文を自分で言えるようになることを目指す。</p>	
	中国語A1-1	<p>中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得し、中国語の構文を理解した上で、正確な読解や表現ができる力を養うことを目標とする。</p> <p>まずピンインと呼ばれる発音記号にもとづき、声調を含めて正確な発音の方法を学習する。ついで基本文型に習熟するとともに、語法・文法の基本事項を学習し、平易な会話文や筆記文を理解する能力を身につける。読解力の向上を主眼とするものの、発音ができなければ外国語の勉強はつまらないし、中国語の場合、ピンインがわからないと辞書を引くこともおぼつかない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。 ・基本文型を理解し、500語レベルの基本語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、500語レベルの基本語彙を使って文を作ることができる。 ・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。 <p>本授業の内容は下記の通り。</p> <p>発音練習、常用表現、”是”構文、動詞述語文、完了表現他</p>	
	中国語A1-2	<p>中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得し、中国語の構文を理解した上で、正確な読解や表現ができる力を養うことを目標とする。</p> <p>まずピンインと呼ばれる発音記号にもとづき、声調を含めて正確な発音の方法を学習する。ついで基本文型に習熟するとともに、語法・文法の基本事項を学習し、平易な会話文や筆記文を理解する能力を身につける。読解力の向上を主眼とするものの、発音ができなければ外国語の勉強はつまらないし、中国語の場合、ピンインがわからないと辞書を引くこともおぼつかない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。 ・基本文型を理解し、500語レベルの基本語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、500語レベルの基本語彙を使って文を作ることができる。 ・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。 <p>本授業の内容は下記の通り。</p> <p>疑問視疑問文、形容詞述語文、近未来表現、方位詞、名詞述語文、動量補語等。ディクテーションや作文も行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	中国語A 2-1	<p>正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。</p> <p>自分の発音に自信を持てるように発音練習に力を入れる。ついでさまざまな場面におけるコミュニケーションの方法を学習し、とくに会話能力の養成を図る。語法・文法事項の説明はできるだけ少なくし、スピーキング、リスニングの練習に多くの時間を割きたい。中国語にかぎらず、自分の使う外国語がネイティブ・スピーカーに通じた喜びは学習意欲を増す。習いたての片言の中国語でよいから、発音や文法の誤りを気にせず、積極的に担当教員に話しかけて欲しい。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。 ・身近な話題について、500語レベルの基本語彙を使って話をするすることができる。 ・500語レベルの基本語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 ・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。 <p>本授業で学習する内容は以下の通り。</p> <p>発音練習，常用表現，国籍を尋ねる トピック：「町にはホテルもお店も銀行もあます」 「どこで食事をしますか」</p>	
	中国語A 2-2	<p>正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。</p> <p>自分の発音に自信を持てるように発音練習に力を入れる。ついでさまざまな場面におけるコミュニケーションの方法を学習し、とくに会話能力の養成を図る。語法・文法事項の説明はできるだけ少なくし、スピーキング、リスニングの練習に多くの時間を割きたい。中国語にかぎらず、自分の使う外国語がネイティブ・スピーカーに通じた喜びは学習意欲を増す。習いたての片言の中国語でよいから、発音や文法の誤りを気にせず、積極的に担当教員に話しかけて欲しい。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。 ・身近な話題について、500語レベルの基本語彙を使って話をするすることができる。 ・500語レベルの基本語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 ・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。 <p>本学で学習する内容は以下の通り。</p> <p>交通手段を尋ねる，距離を表現する，日にち・月の表現 「お箸どうぞ」，「疲れたら休もう」，「北京は人も車も多い」</p>	
	中国語A 3-1	<p>中国語の構文を理解した上で、正確な読解と表現ができる力を養い、中国語検定試験4級合格程度の力を養成する。A1-1/A1-2で学んだ語法・文法事項をふまえ、さまざまな補語など、やや複雑な語法・文法事項を学習する。中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。 ・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。 <p>本授業で学習する内容は下記のとおり。</p> <p>結果補語，助動詞，疑問視の応用表現，方向補語，進行表現など。 ディクテーション，作文練習も行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	中国語A 3-2	<p>中国語の構文を理解した上で、正確な読解と表現ができる力を養い、中国語検定試験4級合格程度の力を養成する。A1-1/A1-2で学んだ語法・文法事項をふまえ、さまざまな補語など、やや複雑な語法・文法事項を学習する。中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。 ・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。 <p>授業で学習する内容は下記のとおり。 可能補語、比較表現、受身表現、使役表現など。 ディクテーション、作文練習も行う。</p>	
	中国語A 4-1	<p>正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。</p> <p>A2で学んだ中国語の発音に磨きをかけ、より自然な発音による会話練習を中心に授業を進める。一語一語の発音の正確さはもとより、一文としての発音の仕方にも留意すること。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。 ・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。 <p>本授業で学習するトピックス・内容は以下の通り 「車で来たので飲みません」 「午後病院へ行くつもりです」 「いつから腹痛が始まりましたか」 「彼女は何をしていますか」</p>	
	中国語A 4-2	<p>正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。</p> <p>A2で学んだ中国語の発音に磨きをかけ、より自然な発音による会話練習を中心に授業を進める。一語一語の発音の正確さはもとより、一文としての発音の仕方にも留意すること。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。 ・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。 <p>本授業で学習するトピックス・内容は以下の通り 「財布が見つかりました」 「壁に古い写真が貼ってある」 「このパソコンはあれより重い」 「1月1日を元旦と呼びます」 「私に切符を買わせて」 スピーチ、暗唱などの練習を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	中国語B-1	<p>中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。身近なトピックについて会話練習及びスピーチ発表を行い、中国語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1500語レベルの日常語彙の範囲で、明瞭な発音であれば、話題の主要な内容を聴き取ることができる。 ・具体的な話題について、1500語レベルの日常語彙を使用し、的確に情報を伝え、自分の考えを説明することができる。 ・中国語検定試験3級合格程度の聴解力を身につける。 <p>本授業で取り上げる内容・トピックは下記の通り。 レストランでの会話、買い物時の会話、大学の授業について、個人発表、グループ発表の機会を設ける。</p>	
	中国語B-2	<p>中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。身近なトピックについて会話練習及びスピーチ発表を行い、中国語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1500語レベルの日常語彙の範囲で、明瞭な発音であれば、話題の主要な内容を聴き取ることができる。 ・具体的な話題について、1500語レベルの日常語彙を使用し、的確に情報を伝え、自分の考えを説明することができる。 ・中国語検定試験3級合格程度の聴解力を身につける。 <p>本授業で取り上げる内容・トピックは下記の通り。 インターネットについて、恋人に関して、転職について、日本と中国の文化・習慣比較等 作文、個人発表、グループ発表の機会を設ける。</p>	
	中国語C-1	<p>より高度な中国語コミュニケーション能力を養成する授業です。</p> <p>中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。</p> <p>授業で使用するプリントは中国社会のそれぞれの側面に触れながら、会話力を向上させる内容で、日本にいながら、中国における外国人と同じ題材で学べます。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2000語以上の語彙で、いろいろな話題について高度な内容を理解することができる。 ・2000語以上の語彙を使用し、流暢に、また自然に自己表現ができる。 ・中国語検定試験2級合格程度の聴解力を身につける。 ・日中力国の国際交流がどのように行われるべきかについて、自分の意見を持つことができる。 <p>本授業で取り上げる内容。トピックは以下の通り。 中国国内でのニュース報道に関するHPや、動画を講読・視聴し、ディスカッションを行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	中国語C-2	<p>より高度な中国語コミュニケーション能力を養成する授業です。</p> <p>中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。授業で使用するプリントは中国社会のそれぞれの側面に触れながら、会話力を向上させる内容で、日本にいながら、中国における外国人と同じ題材で学べます。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2000語以上の語彙で、いろいろな話題について高度な内容を理解することができる。 ・2000語以上の語彙を使用し、流暢に、また自然に自己表現ができる。 ・中国語検定試験2級合格程度の聴解力を身につける。 <p>本授業で取り上げる内容・トピックは以下の通り。</p> <p>生活と健康について、男女平等、環境保護と資源節約、ビジネス中国語（財務・国際入札・待遇）</p> <p>中国社会のそれぞれの側面に触れながら、会話力を向上させる内容。一つのトピックについて二週間にわたってトレーニングを行う。</p>	
	朝鮮語A1-1	<p>基礎的な朝鮮語の文法事項を習得し、簡単な文章を理解できる力を養い、簡単な会話ができることを目指す。</p> <p>韓国（朝鮮）の社会、文化、歴史などについて理解する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハングル文字を見て発音することができる。 ・母音と子音の組み合わせ方を理解する。 ・韓国文化について理解することができる。 	
	朝鮮語A1-2	<p>基礎的な朝鮮語の文法事項を習得し、簡単な文章を理解できる力を養い、簡単な会話ができることを目指す。</p> <p>韓国（朝鮮）の社会、文化、歴史などについて理解する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本文型を理解し、400語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、400語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、400語ほどの語彙を使って話をするすることができる。 ・400語ほどの語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 	
	朝鮮語A2-1	<p>韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて理解する。</p> <p>基礎的な文法事項を習得し、簡単な文章を理解できる力を養う同時に、自己紹介等身近な事柄について日常生活の簡単な会話ができることを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な文法事項を理解し、800語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、800語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、800語ほどの語彙を使って話をするすることができる。 ・800語ほどの語彙の範囲であれば、はっきり話される内容を聞き取ることができる。 	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	朝鮮語A 2-2	<p>韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて理解する。</p> <p>基礎的な文法事項を習得し、簡単な文章を理解できる力を養う同時に、道を尋ねる、電話をかける、日付を尋ねる、値段を尋ねるなど日常生活の簡単な会話ができるようになることを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハングル文字を見て発音することができる。 ・基本文型を理解し、400語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、400語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、400語ほどの語彙を使って話をするすることができる。 ・400語ほどの語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 	
	朝鮮語A 3-1	<p>韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて理解する。</p> <p>基礎的な文法事項を習得し、簡単な文章を理解できる力を養う同時に自己紹介など日常生活の簡単な会話から、動詞の活用までを学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本文型を理解し、700語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、700語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、700語ほどの語彙を使って話をするすることができる。 ・700語ほどの語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 	
	朝鮮語A 3-2	<p>韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて理解する。</p> <p>文章を理解できる力を養うと同時に、K-POPや韓国の食べ物などの題材を使用し、形容詞の活用や短文の作成ができるようになることを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本文型を理解し、700語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、700語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、700語ほどの語彙を使って話をするすることができる。 ・700語ほどの語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 	
	朝鮮語A 4-1	<p>韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて学び、</p> <p>基礎的な朝鮮語の文法事項を習得し、簡単な文章を理解でき、挨拶、好き嫌いを尋ねる、電話をかける等様々な日常にある様々トピックの中で簡単な会話ができる力を養う。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハングル文字を見て発音することができる。 ・基本文型を理解し、400語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、400語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、400語ほどの語彙を使って話をするすることができる。 ・400語ほどの語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	朝鮮語A4-2	<p>韓国語を学び、韓国の社会、文化、歴史などについて学び、基礎的な朝鮮語の文法事項を習得し、簡単な文章を理解でき、家族の紹介、食文化比較等様々なトピックの中で簡単な日常会話ができる力を養う。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な文法事項を理解し、800語ほどの語彙を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、800語ほどの語彙を使って文を作ることができる。 ・身近な話題について、800語ほどの語彙を使って話をするができる。 ・800語ほどの語彙の範囲であれば、はっきり話される内容を聞き取ることができる。 	
	朝鮮語B-1	<p>朝鮮語で趣味や友人など身の回りの物事についてスピーチやディスカッションをすることにより、朝鮮語のコミュニケーション能力を高め、韓国文化の理解を深める。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮語のコミュニケーション能力を高める。 ・韓国文化の理解を深める。 ・与えられた主題について会話ができる。 ・読解ができる。 ・「ハングル能力検定試験」3級を目指す。 	
	朝鮮語B-2	<p>朝鮮語で、訪問客に対して観光案内や日本の紹介についてスピーチとディスカッションをすることにより、朝鮮語のコミュニケーション能力を高め、韓国文化の理解を深める。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮語のコミュニケーション能力を高める。 ・韓国文化の理解を深める。 ・与えられた主題について会話ができる。 ・読解ができる。 ・「ハングル能力検定試験」3級を目指す。 	
	朝鮮語C-1	<p>朝鮮語を学び、コミュニケーション能力や文法理解能力の向上を図り、また、韓国の社会、文化、歴史等について理解を深める</p> <p>韓国における日本の大衆文化解禁の歴史的背景、日本や中国における還流ブームの背景や経緯及びその意義について学び、東アジアの文化交流に焦点を当てて、その意義について検討する。</p>	
	朝鮮語C-2	<p>朝鮮語を学び、コミュニケーション能力や文法理解能力の向上を図り、また、韓国の社会、文化、歴史等について理解を深める</p> <p>韓国における日本の大衆文化解禁の歴史的背景、日本や中国における還流ブームの背景及びその意義について学び、還流の国家的戦略、将来像を考える。また、日本が世界に広めようとしている「クールジャパン」とは何か、中国の「華流」の可能性等も考える。</p> <p>東アジアの文化交流に焦点を当て、その意義を検討し、東アジアにおけるソフトパワー競争時代について考える。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	ギリシア語A 1-1	<p>ギリシア語Aは、古典ギリシア語の初級文法を学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットを見て発音することができる。 ・主に文字の読み方、名詞の変化、動詞の変化等の初級文法。 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作ることができる。 	
	ギリシア語A 1-2	<p>ギリシア語Aは、古典ギリシア語の初級文法を学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットを見て発音することができる。 ・形容詞、前置詞の用法、動詞の変化等の初級文法 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作ることができる。 	
	ギリシア語A 2-1	<p>ギリシア語Aは、古典ギリシア語の初級文法を学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットを見て発音することができる。 ・疑問代名詞、不定名詞等の初級文法 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作ることができる。 	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	ギリシア語A 2-2	<p>ギリシア語Aは、古典ギリシア語の初級文法を学ぶ。</p> <p>古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西歐的学問の基礎をなし、西歐文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西歐の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットを見て発音することができる。 ・第三変化名詞、流音幹動詞、接続法能動相、母音交換等の初級文法 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作ることができる。 	
	ギリシア語A 3-1	<p>古典ギリシア語の初等文法の修得を目的とする。</p> <p>古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西歐的学問の基礎をなし、西歐文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西歐の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文単位のまとまりで音読することができる。 ・接続法能動相、予想未来を示す条件文、不定法等初級文法の修得 ・基本的な文法事項を理解し、やさしい文章の解釈をすることができる。 ・辞書の使い方の基本を理解し、目標とする単語を調べることができる。 	
	ギリシア語A 3-2	<p>古典ギリシア語の初等文法の修得を目的とする。</p> <p>古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西歐的学問の基礎をなし、西歐文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西歐の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文単位のまとまりで音読することができる。 ・希求法能動相等、分子の用法等、初級文法の修得 ・基本的な文法事項を理解し、やさしい文章の解釈をすることができる。 ・辞書の使い方の基本を理解し、目標とする単語を調べることができる。 	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	ギリシア語A 4-1	<p>古典ギリシア語の初等文法の修得を目的とする。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとまった文章を正確に音読することができる。 ・命令法、間接話法等、初級文法の修得 ・基本的な文法事項に習熟し、教科書用に編まれた原典を読解することができる。 ・辞書を使って語形変化や語の用法を確認することができる。 	
	ギリシア語A 4-2	<p>古典ギリシア語の初等文法の修得を目的とする。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとまった文章を正確に音読することができる。 ・否定法、動詞の変化、間接話法等、初級文法の修得 ・基本的な文法事項に習熟し、教科書用に編まれた原典を読解することができる。 ・辞書を使って語形変化や語の用法を確認することができる。 	
	ギリシア語B 1	<p>プラトンの対話篇『イオン』を原典で読み、古典ギリシア語の読解力を養うとともに、内容に関する議論をし、そこに描かれているプラトンの芸術論を考察する。</p> <p>学習目標は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典ギリシア語の読解能力の向上 ・古典ギリシア語の文法力を高めること ・プラトンの対話篇に現れている芸術思想を理解すること 	
	ギリシア語B 2	<p>プラトンの対話篇『イオン』を原典で読み、古典ギリシア語の読解力を養うとともに、内容に関する議論をし、そこに描かれているプラトンの芸術論を考察し、芸術思想を理解する。</p> <p>学習目標は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典ギリシア語の読解能力の向上 ・古典ギリシア語の文法力を高めること ・プラトンの対話篇に現れている芸術思想を理解すること 	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	ギリシア語C-1	<p>プラトンの対話篇『クリトン』を原典で読み、古典ギリシア語の読解力を養うとともに、内容に関する議論をし、そこに描かれているソクラテスの行動原理を考察する。</p> <p>主にテキストの読解と内容に関するディスカッションを行う。</p> <p>学習目標は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典ギリシア語の読解能力の向上 ・古典ギリシア語の文法力を高めること ・プラトンの対話篇に現れているソクラテスの思想を理解すること 	
	ギリシア語C-2	<p>プラトンの対話篇『クリトン』を原典で読み、古典ギリシア語の読解力を養うとともに、内容に関する議論をし、そこに描かれているソクラテスの行動原理を考察する。</p> <p>主にテキストの読解と内容に関するディスカッションの後、ソクラテスの思想についてディスカッションを行う。</p> <p>学習目標は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典ギリシア語の読解能力の向上 ・古典ギリシア語の文法力を高めること ・プラトンの対話篇に現れているソクラテスの思想を理解すること 	
	ラテン語A1-1	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学ぶ。</p> <p>古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットを見て発音することができる。 ・動詞変化、形容詞変化、名詞変化等、初級文法の修得 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作ることができる。 	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目 初 習 言 語 科 目	ラテン語A 1-2	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットを見て発音することができる。 ・指示代名詞、疑問代名詞、動詞変化等、初級文法の修得 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作成することができる。 	
	ラテン語A 2-1	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットを見て発音することができる。 ・不定法、数詞、説速報等、初級文法の修得 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作成することができる。 	
	ラテン語A 2-2	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットを見て発音することができる。 ・間接疑問文、条件文、比較文等、初級文法の修得 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作成することができる。 	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	ラテン語A3-1	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・アルファベットを見て発音することができる。 ・数詞・ギリシア系名詞の変化、非人称代名詞等、初級文法の修得 ・語形変化の基本を理解し、簡単な構文を解釈することができる。 ・例文を下敷きにして、簡単な文を正しく作ることができる。</p>	
	ラテン語A3-2	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学ぶ。 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・文単位のまとまりで音読することができる。 ・同形容詞、接続法・完了・過去完了、間接疑問文等、初級文法の修得 ・基本的な文法事項を理解し、やさしい文章の解釈をすることができる ・辞書の使い方の基本を理解し、目標とする単語を調べることができる。</p>	
	ラテン語A4-1	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学び終える。辞書を用いて自学自習を続けるための基礎となる 古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・まとまった文章を正確に音読することができる。 ・比較文、理由文、条件文、譲歩文等、初級文法の修得 ・基本的な文法事項に習熟し、教科書用に編まれた原典を読解することができる。 ・辞書を使って語形変化や語の用法を確認することができる。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育科目	ラテン語A 4-2	<p>古典ラテン語初級文法を一通り学び終える。辞書を用いて自学自習を続けるための基礎となる</p> <p>古典ギリシア語と古典ラテン語を総称して西洋古典語という。古典ギリシア語は主として紀元前6-4世紀に古代ギリシアで用いられた言語で、ギリシア・ラテンの文化はあらゆる西欧的学問の基礎をなし、西欧文化の源流となった。したがってこれら両言語を修得する目的は、これらの言語で書かれた古代の文書を読み解くこと、そして更に、西欧の中世・近代の文学、哲学、歴史を研究する際の、より深い知識と理解を得ることである。特に言語学や、イギリス・フランス・ドイツ文学、医学、薬学、科学史などの研究のためには、西洋古典語の修得は欠かすことができない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとまった文章を正確に音読することができる。 ・関係文、間接話法等、初級文法の修得 ・基本的な文法事項に習熟し、教科書用に編まれた原典を読解することができる。 ・辞書を使って語形変化や語の用法を確認することができる。 	
	ラテン語B-1	<p>比較的易しい、ローマの歴史に関わる文章を読む。ラテン語文法の理解を確実なものにするとともに、ローマノア歴史や文化についても関心をもつことが目標である。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <p>第1回から第7回まで、簡単な散文テキストを読み進めることによりラテン語の文法事項をしっかりと修得する。</p> <p>まとまった長さの簡単な原文が読めるようになる。</p> <p>テキストは以下を使用する。 M. Hammond and A. Amory, Aeneas to Augustus. (Harvard University Press)</p>	
	ラテン語B-2	<p>比較的易しい、ローマの歴史に関わる文章を読む。ラテン語文法の理解を確実なものにするとともに、ローマノア歴史や文化についても関心をもつことが目標である。ラテン詩及び中世ラテン語作品数編を選び学修する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <p>簡単な散文テキストを読み進めることにより、ラテン語の文法事項をしっかりと修得する。</p> <p>まとまった長さの簡単な原文が読めるようになる。</p> <p>使用するテキストは以下のとおり。</p> <p>第1回～第2回 M. Hammond and A. Amory, Aeneas to Augustus. (Harvard University Press) 第3回～第7回 ラテン詩および中世ラテン語作品数編</p>	
	ラテン語C-1	<p>ラテン語のまとまった原文の読解ができるようになることを目指す。</p> <p>カエサル『ガリア戦記』を最初から読み進めながら、これまでの文法学習、易しいラテン語文の読解訓練基礎に、ラテン語散文の原文をきちんと読めるようにすることを旨とする。</p> <p>自分の力でラテン語散文の原文に取り組むことが出来るようになり、同時に辞書も使えるようになることを目標とする。</p> <p>本授業では、ガリア戦記 (Gallic War) 第1巻のチャプター1～15までを読み、解説をする。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	ラテン語C-2	<p>ラテン語のまとまった原文の読解ができるようになることを目指す。</p> <p>カエサル『ガリア戦記』を最初から読み進めながら、これまでの文法学習、易しいラテン語文の読解訓練基礎に、ラテン語散文の原文をきちんと読めるようにすることを旨とする。</p> <p>自分の力でラテン語散文の原文に取り組むことが出来るようになり、同時に辞書も使えるようになることを目標とする。</p> <p>本授業では、ガリア戦記 (Gallic War) 第1巻のチャプター16～30までを読み、解説をする。</p>	
	スペイン語A1-1	<p>スペイン語の大事な最初のステップは動詞の活用にあるため、活用練習を繰り返し行い、ペア練習や小テストで単語や表現を定着させる。</p> <p>基本単語の習得、動詞の活用の原則を理解し基本的な文法事項を身につけ、単語から文章への組み立てを習得することを旨とする。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発音、数字、名詞の性、冠詞、規則動詞、tenen/haverの用法等初級文法の修得 ・日常的表現、基本的な言い回しが理解できる。 ・基本的文型を理解し、出身、家族構成、日常生活などについての文章を理解することができる。 ・簡単な語句や構文を使って短い文を作ることができる。 	
	スペイン語A1-2	<p>スペイン語の大事な最初のステップは動詞の活用にあるため、活用練習を繰り返し行い、ペア練習や小テストで単語や表現を定着させる。</p> <p>基本単語の習得、動詞の活用の原則を理解し基本的な文法事項を身につけ、単語から文章への組み立てを習得することを旨とする。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不規則動詞、前置詞、動詞の変化等初級文法の修得 ・日常的表現、基本的な言い回しが理解できる。 ・基本的文型を理解し、出身、家族構成、日常生活などについての文章を理解することができる。 ・簡単な語句や構文を使って短い文を作ることができる。 	
	スペイン語A2-1	<p>スペイン語の運用能力を養うため、ペアワークやグループワークで練習をし、スペイン語の初級文法と基本語彙の習得を目指す。</p> <p>スペイン語の基礎単語の発音、初級文法の基本的な枠組みを理解し、人物描写、家族についての表現を学び平易な文で話すことができるようになることを目標とする。</p> <p>本授業では下記の文法事項・表現を学習する。</p> <p>スペイン語の発音・数字・スペル、国籍の言い方、程度を表す表現、人の描写、家族・親族、定冠詞・不定冠詞、estar、規則動詞等</p>	
	スペイン語A2-2	<p>スペイン語の運用能力を養うため、ペアワークやグループワークで練習をし、スペイン語の初級文法と基本語彙の習得を目指す。</p> <p>スペイン語の基礎単語の発音、初級文法の基本的な枠組みを理解し、街中の描写や、位置関係、日常生活を表す描写を学び、平易な文で話すことができるようになることを目標とする。</p> <p>本授業では下記の文法事項・表現を学習する。</p> <p>位置関係、Haverの用法、mucho/poco、大学内や周辺の建物・場所を表す動詞、交通機関、街中の描写、月と季節、現在進行形等</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	スペイン語A 3-1	<p>前期スペイン語A1から継続する科目である。引き続き初級文法の基本事項を学習します。動詞の活用の原則を理解し、文法事項を修得し、聞く、話す、書く、読むの四技能をバランスよく習得することを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な個人情報その他に買い物、好み、体調などを表す文章を理解できる。 ・学歴、経験、居住条件を簡単な文を使って説明できる。 ・学習した構文を使い、個人的な手紙を書くことができる。 	
	スペイン語A 3-2	<p>前期スペイン語A1から継続する科目である。引き続き初級文法の基本事項を学習します。動詞の活用の原則を理解し、文法事項を修得し、聞く、話す、書く、読むの四技能をバランスよく習得することを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接的／間接的人称代名詞、比較表現等初級文法の修得。 ・基本的な個人情報その他に買い物、好み、体調などを表す文章を理解できる。 ・学歴、経験、居住条件を簡単な文を使って説明できる。 ・学習した構文を使い、個人的な手紙を書くことができる。 	
	スペイン語A 4-1	<p>スペイン語を学ぶなかで、異文化に触れる。</p> <p>スペイン語の正しい発音及び初歩的な会話の修得を目標とし、ペアワークやグループワークを通じて会話の練習をしながら、単語や表現力を定着させる。</p> <p>スペイン語の文章を正しく発音することを目指す。</p> <p>天気や住居のこと、料理のレシピ、レストランでの会話などについて学び、ゆっくり話される身近な話題についての簡単なことを尋ねたり、答えたりできるようになることを目指す。</p>	
	スペイン語A 4-2	<p>A3での文法の授業の内容とも関連した実践的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>グループによるゲーム、オーラル練習を通して単語を増やし、DVD教材などでスペイン語の表現を学び会話をステップアップしていくことを目標とする。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットを見て正しく発音することができる。 ・自分の背景や身の回りの状況を簡単な言葉で話すことができる。 ・短いはっきりとしたメッセージ、アナウンスの要点を聞き取ることができる。 	
	スペイン語B-1	<p>新しい文法事項を導入し一年時の基本的な文法事項をもっと深く学習し、文法の定着をはかることを目標とする。</p> <p>DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。</p> <p>聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得できることを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再帰動詞、関係詞、直接法現在完了等新しい文法事項の修得。 ・学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。 ・身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。 ・経験や印象を書くことができる。 	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	スペイン語B-2	<p>新しい文法事項を導入し一年時の基本的な文法事項をもっと深く学習し、文法の定着をはかることを目標とする。</p> <p>DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。</p> <p>聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得できることを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接法過去完了、命令形、無人称表現等新しい文法事項の修得。 ・学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。 ・身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。 ・経験や印象を書くことができる。 	
	初習言語科目 スペイン語C-1	<p>DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。</p> <p>聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得できることを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接続法現在、命令形、接続法現在完了等の文法事項の修得。 ・学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。 ・身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。 ・経験や印象を書くことができる。 	
	スペイン語C-2	<p>DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。</p> <p>聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得できることを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接続法過去、条件文、接続法過去完了等の文法事項の修得。 ・学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。 ・身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。 ・経験や印象を書くことができる。 	
自由履修科目	アントレプレナーシップ I	<p>アントレプレナーシップは、事業を新しく創造するため、高い創造意欲を持ち、リスクや困難に挑戦していく姿勢、発想、レジリエンス等を総合的に示す能力（起業家精神）を意味する。学生が入学当初に起業家精神の重要性と必要性を理解し、学生自らがモチベーションを持ちながら、大学時代に様々な機会を利用して、アントレプレナーシップを涵養する必要がある。</p> <p>本授業では、学生がアントレプレナーシップを学ぶ最初のステップとして、様々な観点から、21世紀の社会で生き抜くために、アントレプレナーシップを学ぶ機会を提供することにより、アントレプレナーの社会的意義とそのために必要な素養となるアントレプレナーシップを体得するを目的とする。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	石川県の行政	<p>本授業では、石川県の行政の現場で活躍する関係者の生の声を聞くことにより、地方自治体が取り組む政策課題と、課題に対処するために政策が形成されて実施・評価されるプロセス（政策過程）についての理解を深めることや、地方自治・行政に関連する基礎的および実務的な知識を習得し、自ら地方自治や政策課題について深く考えることができるようになることを目的とする。</p> <p>また公務員志望の学生については、行政の現場で活躍する関係者の生の声を聞くことで、将来のキャリア形成の参考になることを期待する。</p>	
	石川県の市町	<p>本授業では、石川県の市町からのゲストスピーカーの話を聞くことで、石川県の市や町が抱える課題を理解し、その課題解決の方策や、今後の大学や学生と地域との連携のあり方を考え、各市町に提言を出せるようになることを目的とする。</p>	
	健康論実践D	<p>本授業では、調理実習等気づきをもたらすような様々な講義、実習を通して、健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができること、社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神を習得させることを目的とする。</p>	
	健康論実践E	<p>本授業では、角間の里において多彩なゲストスピーカーとの共同作業やグループワークを通して、教育実習や就職活動、日常の人間関係に役立つ内容を学ぶ。健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができることや社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神等を修得することを目的とする。</p>	
	現代社会における保険の制度と役割Ⅰ	<p>さまざまなリスクに対処する保険の役割は、現代社会において不可欠なものとなっている。</p> <p>本授業では、損害保険の仕組みを学び、「保険」というシステムの役割と課題について理解することを目的としている。具体的には、損害保険の種類（火災保険・地震保険・自賠責保険・自動車保険等）とその概要について学ぶ。</p>	
	現代社会における保険の制度と役割Ⅱ	<p>さまざまなリスクに対処する保険の役割は、現代社会において不可欠なものとなっている。</p> <p>本授業では、生命保険や社会保険の仕組みを学び、「保険」というシステムの役割と課題について理解することを目的としている。具体的には、社会保険の種類（医療保険・年金保険・介護保険・雇用保険・労災保険等）とその概要と、生命保険におけるライフプランニング設計について学ぶ。</p>	
	実践アントレプレナー学	<p>アントレプレナーとは、ベンチャー企業を開業する者、また、産業構造の変革を担うベンチャー企業の実践者とも言われ、その育成および起業家精神の醸成は、国の再生と経済活性化に重要な役割をもつものとして位置づけられている。過去のベンチャーブームは、オイルショック、円高不況そしてバブル崩壊などの社会・経済の転換期と大きく関わっている。</p> <p>本授業では、大学生と就職そして起業家精神の育成の一つの方向性示すとともに、大学の勉学と研究への取り組みのあり方を解説することで、「イノベーションとは」から始めて、「産学官連携とは」「知的財産と特許とは」、さらに「ベンチャー育成と企業化とは」までを理解し、大学におけるアントレプレナー精神の育成を目的とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	クラウド時代の「ものグラミング」概論	<p>Society5.0時代を迎えるにあたって、これまで個人が余暇に楽しんでいた「ものづくり」と、仕事や趣味などで行ってきた「パソコン上でのさまざまな操作」、インターネット上で誰かが開発して提供している「さまざまな情報サービス」は別々のものではなくなる。それらは渾然一体となって、相互に連携し、利活用可能となる。このような社会で必要となる技法を、「ものづくり」と「プログラミング」を掛けあわせた「ものグラミング」という言葉で表現している。</p> <p>この「ものグラミング」こそが、Society5.0に向けた人材に必要な技法であると考え、この技法を、講義と実習を通じて学ぶことを本授業の主題に据える。</p> <p>本授業では、手元で動く小さな「モノ」が徐々に発展しクラウドと連携するまでと、クラウド上の大量の情報やサービスが手元の小さな「モノ」に影響を与えるまでを講義と体験を通じて述べ、「ものグラミング」全体の理解を受講者に促すことを目的とする。</p>	
	シェルスクリプト言語論	<p>本授業では、古くから存在し、今もほとんど変わること無く使用できる「POSIX環境におけるシェルスクリプト」を使ったプログラミング手法について学習をしていく。シェルスクリプトは、UNIXやLinuxと呼ばれるOSにおいて、システム操作などにも使用されるもので、多くのコマンドから形成されるものであり、古くから変わらず存在するため、これから先も長く使用可能である。また、シェルスクリプトは、プログラミングに限らず、LinuxやWindows10、macOSなどをコマンドから操作するときに使用可能であり、シェルスクリプトを十全に使用できるようになると、研究活動を始めとする、さまざまな業務処理に、これまでとは違う視点からの作業環境を与えることができる。</p> <p>POSIX環境におけるシェルスクリプトについて新しい視点で学ぶとともに、「Win/Mac/UNIXすべてで25年後も動く普遍的なプログラム」を書く方法について会得し日頃の問題解決に適用できるようになること目的とする。</p>	
	地元学A（地域資源調査）	<p>この授業では、フィールドワークによる体験的学習を通じて、フィールドワークの基礎的な知識や技術について学ぶ。金沢大学門前町をフィールドとした地域の宝探し調査によって、ヨソ者の視点からこの地域の魅力を発見し、地域住民に報告する。</p> <p>地元学調査手法について体験的に学習し、その知識と技術の習得及び地元学調査を通して、金沢大学門前町の地域資源を発見することを目的とする。</p>	
	地元学B（聞き書き）	<p>この授業では、フィールドワークによる体験的学習を通じて、フィールドワークに最も重要である、聞き込みの知識と技術について学ぶ。金沢大学門前町をフィールドとした地域の宝探し調査によって、ヨソ者の視点からこの地域の魅力を発見し、地域住民に報告する。</p> <p>地元学調査手法について体験的に学習し、その知識と技術の習得及び地元学調査を通して、金沢大学門前町の地域資源を発見することを目的とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	シェルスクリプトを用いた「ものグラミング」演習	<p>近年では、インターネット上に大量の情報が集積され、これらを活用するサービスも用意されている。一方、小型のコンピュータ等が安価に普及し、これまでは手軽には手の届かなかった機器が当たり前のように利用できる。このような時代にあつては、従来なら個人が余暇に趣味で楽しんでいた「ものづくり」と、日常の仕事で行ってきた「パソコン上でのさまざまな操作」と、インターネット上で誰かが開発して提供している「さまざまな情報サービス」は別々のものではない。このような世界で必要となる技法を「ものづくり」と「プログラミング」をかけあわせた「ものグラミング」という言葉で表現する。</p> <p>本授業では、「ものグラミング」のもとで、手で動く小さな「モノ」が徐々に発展しクラウドと連携するまでと、クラウド上の大量の情報やサービスが手元の小さな「モノ」に影響を与えるまでを理解し、併せて、POSIX環境におけるシェルスクリプトを用いてプログラミングなどについて学ぶ。</p>	
	イノベーションを起こして、起業家になろう1	<p>「イノベーション」を生み出すメソッドとして世界的に注目を浴びている「デザイン・シンキング」（前例の無い問題や未知の課題に対し、最適な解決を図るための思考法）を中心に、「イノベーション」の核となる「クリエイティビティ」について理解する。</p> <p>本授業では、「デザイン・シンキング」の基本的なプロセスを理解し、複数のワークショップを実施することで、クリエイティブな考えを生み出すということ等を体感的に理解し、習得することを目的とする。</p>	
	イノベーションを起こして、起業家になろう2	<p>本授業では、大学の内外で行われている起業に関連したイベント・研修紹介や起業家との対話を行い、イノベーションや起業、海外経験の重要性について学ぶ。また、身に付けるべきスキルや研修機会について理解した上で、キャリアアップを図ることを目的とする海外留学計画を実際に自身で立案することにより、長期的なキャリアの形成についても学ぶ。</p>	
	イノベーションを起こして、起業家になろう3	<p>情報産業（IT/ICT）は、近年は電子機器（ハードウェア）と密接に関連することで、IoT（モノのインターネット）やAIという形で、新たな産業の核となりつつある。これらの分野では、テクノロジーという理系的な視点だけでなく、価値あるサービスを見出し創造するという文系的な視点も重要になる。</p> <p>本授業では、ハードウェアの試作（プロトタイプング）の習得と、それを用いたアイデア出しと試作による具体化のサイクルを通じたデザイン・シンキングを実践し、その知見を積むことを目的とする。</p>	
	イノベーションを起こして、起業家になろう4	<p>少子高齢社会となった先進諸国において、高齢者の生活を効果的に且つ低コストで支える仕組みづくりが多方面から求められている。中でも高齢者の健康問題は重要課題であり、健康寿命を延ばす医療の制度、技術、サービスの革新が期待されている。</p> <p>本授業では、現代日本における超高齢社会やそれを支える医療の現状と課題を理解し、課題解決方法の1つである医療機器・サービスの技術革新について学ぶことにより、高齢者医療を取り巻く社会的環境や多様な課題を理解し、グループワークを通して、課題解決に向けた新しい手法を主体的且つ具体的に導き出すことを目的とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	香りと日本文化	日本三大芸道の一つである香道。香道は日本独自の香りを楽しむ芸術で、約1500年前にその歴史は始まり、約500年前には現存する形となった。 本授業では、この香道を切り口に、日本文化への理解を深めていくことを目的とする。	
	心と体の健康A	社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神とはそもそも何であるのか。心と体、脳と身体の間わり合いはどうなっているのか、外界を認識している「私」とは何であるのか。 本授業では、一元論と二元論の考え方や認知等をテーマに、体験的に科学的に理解を深めていく。 人の意識と心の捉え方を科学的に再認識し、自分を見つめる力を養うとともに、これからの人間的成長の基盤を形成し、健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができること、社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神を習得させることを目的とする。	
	心と体の健康B	社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神とはそもそも何であるのか。心と体、脳と身体の間わり合いはどうなっているのか、外界を認識している「私」とは何であるのか。 本授業では、音楽や神経経済学等をテーマに、体験的に科学的に理解を深めていく。 人の意識と心の捉え方を科学的に再認識し、自分を見つめる力を養うとともに、これからの人間的成長の基盤を形成し、健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができること、社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神を習得させることを目的とする。	
	地域「超」体験プログラム	本授業では、学長と一緒に「合宿」することで、金沢大学に学ぶ意義を理解する。「プログラム」では、地域の歴史や文化を学び、地域住民との交流や社会活動を通して地域理解や人間力の涵養を図るとともに、地域社会の中に身を置いて考えることを通じて各人の就業観を養うことを目的とする。	
	道徳教育および宗教教育をグローバルに考える	本授業では、日本の「特別の教科 道徳」、イングランドおよびデンマークでの「宗教」科目を対象として、各国の教育過程での位置づけ、教育内容、評価方法を紹介し、類似点、相違点を中心に討論を行うことで、学生の道徳教育、宗教教育の世界におけるあり方についての知識・理解を深め、そのことについて考えるきっかけを与えることを目標とする。	
	金沢の歴史と文化	金沢市内にはその歴史と文化を伝えるさまざまな石川県や金沢市の施設が存在し、観光施設としてだけではないさまざまな役割を担っている。 本授業では、そうした施設を訪ねてその担当者から直接に施設の概要・役割や職員の仕事内容等を聞き、また各施設やその所蔵品などを見たり、触れたり、体験したりすることで、金沢の歴史と文化を多面的に理解するとともに、こうした文化施設の有効性や今後の文化行政のあるべき姿等を考えることを目的とする。	
	日本の伝統芸能	本授業では、日本の伝統芸能の一つである能楽（能と狂言）を通して、日本の伝統文化について学ぶ。具体的には、三味線や篠笛等、伝統楽器の体験や、能や狂言の歴史的背景の学修により、日本文化への理解を深めることを目的とする。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	地域創造学特別講義 C	労働とは何か、労働者はどのような条件の下で働き、どのような権利を有するのか、また働いていくなかで直面する様々な現実的かつ具体的諸問題は何か、そうした諸問題を解決するのに資する労働者の連帯組織としての労働組合とは何であり、現在においてどのような意義と役割を有するのか、そして、こうした人々の労働と労働者の連帯組織である労働組合が、地域社会の創造においていかなる意味を持ちうるのか、などについて講義を通して、理解を深めることを目的とする。 本授業では、適正な労働時間や、行政から見た労働、ブラック企業等について講義する。	
	地域創造学特別講義 D	本授業では、労働とは何か、労働者はどのような条件の下で働き、どのような権利を有するのか、また働いていくなかで直面する様々な現実的かつ具体的諸問題は何か、そうした諸問題を解決するのに資する労働者の連帯組織としての労働組合とは何であり、現在においてどのような意義と役割を有するのか、そして、こうした人々の労働と労働者の連帯組織である労働組合が、地域社会の創造においていかなる意味を持ちうるのか、などについて講義を通して、理解を深めることを目的とする。 本授業では、男女共同参画や労働組合の基礎知識等について講義する。	
	日本国憲法概説	本授業では、人としての基本的な権利や民主政治の講義を通して、日本国憲法の基本的な解釈・考え方を学ぶことにより、憲法の目的や人権、統治機構の基礎を理解することを目的とする。	
	日本史要説	本授業では、日本の歴史を古代から近現代に至るまで、政治・経済・社会・文化・宗教のみならず、民衆史、女性史などを含めて、相互の関連性に基づいて通観し、その過程において、周辺民族の歴史および関連性、東アジアおよび世界各地との関係性についても講義することで、日本の古代から近現代に至る、政治・社会・文化の変化の特徴と普遍性をどのように捉えたらよいか。また、世界史、特に東アジアとの関係における歴史的意義をどのように捉えればよいであろうかといった課題に対する理解を深めることを目的とする。	
	東洋史要説	本授業では、中国を中心にして東アジア文化圏の歴史を古代から現代までを通観し、東アジア文化圏の歴史的特質を明らかにすることにより、「東アジア、とりわけ中国や朝鮮半島における政治・社会・文化の特徴は何処に見いだせるであろうか」や「世界史のなかでの東アジアの歴史的特質と歴史的意義をどのように捉えればよいであろうか」といった課題に対し、本授業を通して理解を深めることを目的とする。	
	異文化理解のための ビデオ会議ディス カッション	本授業では、Skypeによるビデオ会議を通して、海外の大学で日本語を学ぶ大学生と、両国の社会、文化などのテーマについて日本語で深く話し合うことで、互いの国や文化を理解し、自己と自国と世界に関する見識を深めることを目的とする。	
	行政学の基礎	本授業では、行政とは何かや行政の範囲、国や地方の行政の違い等の講義を通じ、行政のしくみやはたらきについて学び、行政現象に関する基本的な事柄を、受講者に認識させ考えさせることを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	ゼミ／角間の里山づくり 春編	本授業は、創立五十周年記念館「角間の里」において行う講義と角間キャンパス内の里山で行う里山づくり体験から構成する。本授業における里山づくり活動は、春の里山を対象とし、里山自然学校が取り組む里山活動のほか、受講学生のアイデアを生かした独自の里山づくり活動を行う。角間の里山自然学校の取り組みについて理解するとともに、里山保全活動や里山づくり活動を体験することによって、我が国における里山の独自性と持続可能な発展における里山の重要性について学習することを目的とする。	
	ゼミ／角間の里山づくり 秋編	本授業は、創立五十周年記念館「角間の里」において行う講義と角間キャンパス内の里山で行う里山づくり体験から構成する。本授業における里山づくり活動は、秋の里山を対象とし、里山自然学校が取り組む里山活動のほか、受講学生のアイデアを生かした独自の里山づくり活動を行う。角間の里山自然学校の取り組みについて理解するとともに、里山保全活動や里山づくり活動を体験することによって、我が国における里山の独自性と持続可能な発展における里山の重要性について学習することを目的とする。	
	コーヒーと社会	嗜好飲料として世界中で消費されているコーヒーを通じた世界の歴史と文化、さらに生産、流通やもとなるコーヒー豆の栽培など、コーヒーに関連する社会的状況を多様な角度で考える。 本授業では、SDGsや社会・文化とのかかわり等について講義する、	
	コーヒーと科学	嗜好飲料として世界中で消費されているコーヒーを通じた世界の歴史と文化、さらに生産、流通やもとなるコーヒー豆の栽培など、コーヒーに関連する社会的状況を多様な角度で考える。 本授業では、コーヒーにかかる抽出や焙煎、化学や健康等について講義する。	
	地学実験	わが国日本海側のほぼ中央に位置する金沢には、約2000万年前に始まる日本海の形成から現在にいたるまでの自然環境のうつりかわりが地層の中に記録として閉じこめられている。 本授業では、金沢の恵まれた地質資産を存分に活かし、これらの地層が分布する場所を実際に野外実習で訪れたり、自分で採集してきた岩石や化石を、実験室の中で顕微鏡を用いてさらに細かく観察したり、分析用試料を作成したりすることで、金沢の自然環境の地質学的なうつりかわりを理解するとともにいまの自然環境について考えることを目的とする。	
	生物学実験	本授業では、現在、生物がどのように分類されているか、それはどのような基準に基づいて行われているか等、細胞や動物・植物などの個体や組織・器官の観察、細胞が行う化学反応の観察、生態系や共生・寄生といった生物間の相互作用などを通して、生物の構造と機能の関係、生物集団の特性等を理解するとともに、さまざまな進化段階にいる生物を材料にすることで、授業で観察している材料が全生物界の中で、どのような進化的位置にいるのかを理解することを目的とする。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	海洋生化学演習	<p>生化学実験では、既存の操作方法を重視し、原理をあまり理解しないで実験を行う学生が多い。しかし卒業論文実験では、既存の方法だけでは成功しない例が多い。</p> <p>本授業では、海藻、海産魚及び海産無脊椎動物を用いて、タンパク質及び遺伝子レベルの両面から実験を行うとともに、特に原理を重視した教育・指導を行い、実験の原理を理解し、実験を進めるといった姿勢を習得させることを目的とする。</p>	
	英国諸島の地史 I	<p>英国諸島は近代地質学の発祥の地として知られる。初期の地質学では英国諸島を舞台に数多くの地質学的な基本概念や用語が提唱され確立されてきた。そのため英国諸島は地史学の基礎を学ぶには絶好の材料を提供してくれる。</p> <p>本授業では、約25億年前から現在にいたるまでの英国諸島の地史を、それぞれの時代の自然環境や生物などを中心に論じるとともに、地球の歴史を包括的に理解し、その延長上に人類の誕生とその進化について考える機会を提供し、英国諸島の地史の学習をおし、地球の歴史を総合的に理解するとともに、人類の誕生や進化についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>「英国諸島の地史 I」では地球の誕生から古生代までをおもに取り扱う。</p>	
	英国諸島の地史 II	<p>英国諸島は近代地質学の発祥の地として知られる。初期の地質学では英国諸島を舞台に数多くの地質学的な基本概念や用語が提唱され確立されてきた。そのため英国諸島は地史学の基礎を学ぶには絶好の材料を提供してくれる。</p> <p>本授業では、約25億年前から現在にいたるまでの英国諸島の地史を、それぞれの時代の自然環境や生物などを中心に論じるとともに、地球の歴史を包括的に理解し、その延長上に人類の誕生とその進化について考える機会を提供し、英国諸島の地史の学習をおし、地球の歴史を総合的に理解するとともに、人類の誕生や進化についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>「英国諸島の地史 II」では、中生代から現代にかけてを取り扱う。</p>	
	環境動態学概説 I	<p>本授業では、地球環境とその動態、すなわち時間と空間のさまざまなスケールにおける地球環境の変動を理解するため、グローバルテクトニクスの基礎とそれに関連する地震、津波、火山噴火などの自然災害についてまず解説する。ひきつづいて地下資源や気候変動といった地球環境にとって喫緊となっている話題に触れる。さらに、人類を現在の地球生物圏を支配する一動物としてとらえ、その誕生から進化の過程を説明することで、プレート・テクトニクス理論とそれともなうさまざまな地学現象や自然災害、地下資源、海洋環境変動、ヒトの進化と本質、などをこの講義をおしてまず理解し、そのうえで、その理解にもとづき、地球上に存在するさまざまな環境の時間と空間の中での動的変化の実態を考えることを目的とする。</p> <p>「環境動態学 I」ではプレートテクトニクスとそれともなう自然災害問題を主に取り扱う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	環境動態学概説Ⅱ	<p>本授業では、地球環境とその動態、すなわち時間と空間のさまざまなスケールにおける地球環境の変動を理解するため、グローバルテクトニクスの基礎とそれに関連する地震、津波、火山噴火などの自然災害についてまず解説する。ひきつづいて地下資源や気候変動といった地球環境にとって喫緊となっている話題に触れる。さらに、人類を現在の地球生物圏を支配する一動物としてとらえ、その誕生から進化の過程を説明することで、プレート・テクトニクス理論とそれにとまなうさまざまな地学現象や自然災害、地下資源、海洋環境変動、ヒトの進化と本質、などをこの講義をおしてまず理解し、そのうえで、その理解にもとづき、地球上に存在するさまざまな環境の時間と空間の中での動的変化の実態を考えることを目的とする。</p> <p>「環境動態学Ⅱ」では地下資源とヒトの問題を主に取り扱う。</p>	
	Pythonデータ分析入門	<p>近年の情報化社会において、人工頭脳の発展もあり、一般社会においてもデータを分析する機会が増えている。日常生活にも、様々なシステムが利用されており、様々な多くのデータが蓄積されている。データ分析を行うことで、集まったデータをもとに推測したり予測を行い、物事の因果関係を分析したり、シミュレーションを行うことが可能になる。</p> <p>解析した内容から、アイデアを生み出したり、ある仮説を立てたり、マーケティング等に利用することで、企業のビジネスに活かせることも多い。それに伴い、多くのデータから何かを導こうとするデータサイエンスの存在感が増してきている。</p> <p>本授業では、プログラム言語としてPython言語を利用して、サンプルデータを用いて、データ分析の実習を行い、データサイエンティストの基礎的な知識を身につけることで、Python言語の基礎的な知識を理解し、データ分析を行うことが可能となり、ビッグデータの扱い方、データ分析手法、データサイエンティストの基礎的な知識を身につけることを目的とする。</p>	
	プレゼンテーション演習A	<p>現代社会では、自分の主張を分かりやすく表明し、人に伝えるプレゼンテーション技術は、必要不可欠なものである、社会全般の普遍的スキルといえる。</p> <p>本授業では、プレゼンテーションを必要とされる様々なシチュエーションを課題として準備し、プレゼンテーションの準備と発表を学ぶことで、プレゼンテーションを行うための基礎的な理論・知識を獲得し、プレゼンテーションの準備・実践が可能となることを目的とする。</p>	
	プレゼンテーション演習B	<p>現代社会では、自分の主張を分かりやすく表明し、人に伝えるプレゼンテーション技術は、必要不可欠なものである、社会全般の普遍的スキルといえる。</p> <p>本授業では、プレゼンテーションを必要とされる様々なシチュエーションを課題として準備し、プレゼンテーションの準備と発表を学ぶことで、プレゼンテーションを行うための基礎的な理論・知識を獲得し、プレゼンテーションの準備・実践が可能となるとともに、PowerPoint等を使用したプレゼンテーション用資料の作成スキルの獲得や様々なシチュエーションに合わせたプレゼンテーションを準備・実践ができることを目的とする。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	コンピュータグラフィックス演習Ⅰ	<p>コンピュータで扱える所謂「画像ファイル」は、図表の形態としてポピュラーなものとなっている。</p> <p>本講義では、コンピュータで扱う画像「コンピュータグラフィックス」についての基礎知識を学習し、その作成・活用について学ぶ。</p> <p>コンピュータグラフィックスの作成実習は、Adobe Illustrator を使用し、テキストに掲載された作例を実際に製作してみることで操作の基本を習得し、その応用により独自の作品を制作する。</p> <p>プレゼンテーション等、図画を使用して他人との意思疎通を図る場面において、見やすく分かりやすく、かつ印象的な資料作成が行えるレベルを目指す。</p> <p>コンピュータグラフィックスの基礎やアピランス、文字とフォント等について講義する。</p>	
	コンピュータグラフィックス演習Ⅱ	<p>コンピュータで扱える所謂「画像ファイル」は、図表の形態としてポピュラーなものとなっている。</p> <p>本講義では、コンピュータで扱う画像「コンピュータグラフィックス」についての基礎知識を学習し、その作成・活用について学ぶ。</p> <p>コンピュータグラフィックスの作成実習は、Adobe Illustrator を使用し、テキストに掲載された作例を実際に製作してみることで操作の基本を習得し、その応用により独自の作品を制作する。</p> <p>プレゼンテーション等、図画を使用して他人との意思疎通を図る場面において、見やすく分かりやすく、かつ印象的な資料作成が行えるレベルを目指す。</p> <p>演習Ⅰで学んだ基礎を基に練習課題を行うほか、3DCADによる作画等を学ぶ。</p>	
	動画配信サービスを用いた情報発信演習A	<p>近年、動画配信サービスを使った様々な番組が作られている。これが情報発信の新しい形として、定着しつつある。</p> <p>動画配信サービスを運営している事業者、情報メディア以外の各種企業、フリーランスの記者、芸能人、個人にいたるまで、このサービスを用いて、様々な情報を配信するようになった。</p> <p>本授業では、この動画配信サービスの仕組みを学び、多くの人に見てもらえる動画を作成、放送する。動画作成では、予め用意された企画書をもとに、コンテンツ作成、実際の撮影・配信をグループ活動で行う。</p> <p>なお、企画段階に視聴者数や評価に数値目標が設けられているので、それを越えることを目指す。</p> <p>この作業を通じて、新しい情報発信の方法とそれによって得られる影響について学ぶ。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	動画配信サービスを用いた情報発信演習 B	<p>近年、動画配信サービスを使った様々な番組が作られている。これが情報発信の新しい形として、定着しつつある。</p> <p>動画配信サービスを運営している事業者、情報メディア以外の各種企業、フリーランスの記者、芸能人、個人にいたるまで、このサービスを用いて、様々な情報を配信するようになった。</p> <p>本授業では、この動画配信サービスの仕組みを学び、多くの人に見てもらえる動画を作成、放送する。動画作成では、予め用意された企画書をもとに、コンテンツ作成、実際の撮影・配信をグループ活動で行う。</p> <p>なお、企画段階に視聴者数や評価に数値目標が設けられているので、それを越えることを目指す。</p> <p>この作業を通じて、新しい情報発信の方法とそれによって得られる影響について学ぶ。さらに、「単に動画を作れば良い」と言うのではなく、作業毎のアウトカムズ作成に重点をおき、社会・企業の中で求められている（であろう）、プロジェクト立案・推進の方法も学びます。</p>	
	プログラミング演習 I	<p>本授業では、Perlを使ったWebプログラミングを中心に、スクリプト言語のプログラミングを実習する。JavaScript等の言語も多少取り扱う。これらにより、スクリプト言語を使ったテキスト処理、ファイル処理などができるようになることやWebプログラミングだけでなく、実験や研究に活用できるレベルを目指す。</p> <p>HTMLやCSS、PerlによるCGIの基本、インタラクティブ処理等について学ぶ。</p>	
	プログラミング演習 II	<p>本授業では、Perlを使ったWebプログラミングを中心に、スクリプト言語のプログラミングを実習する。JavaScript等の言語も多少取り扱う。これらにより、スクリプト言語を使ったテキスト処理、ファイル処理などができるようになることやWebプログラミングだけでなく、実験や研究に活用できるレベルを目指す。</p> <p>サブルーチンや正規表現、JavaScript等について学ぶ。</p>	
	Society5.0 概論	<p>日本政府が謳っているSociety5.0がどのようなものかを理解し、Society5.0に向けた人材になるために必要な知識や技能にどのようなものがあり、どのように身につけていくべきかを考える。</p> <p>授業はSociety5.0に向けた人材に必要とされる、さまざまな知識や技能について、紹介していく。</p>	
	英語セミナー	<p>この授業は、英語の文法や語彙をよく理解し、実生活の中で英語を学ぶことに興味のある学生を対象とし、一般的なトピックについて英語で意見を交換できるようになることと目標とする。</p> <p>授業では、意見を伝えるためだけでなく、他者と同意したり反対したりするためのフレーズや表現を学び、学んだ表現等のテクニックを用いて、導入したトピックについて、ディスカッションする。</p> <p>題材には、配布物、記事、TEDプレゼンテーションを使用し、様々なトピック、例えば、幸せについて、環境、本、映画、健康とフィットネス、社会問題を取り上げる。</p> <p>ディスカッションは少人数のグループで行い、全て英語で進行する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	ゼミ／アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界1	<p>音楽を聞いて楽しみながら、世界のアフリカ系人のありのままの姿に触れ、21世紀の日本の若者に必要な、アフリカについての知識を得、アフリカを総体的に理解する。</p> <p>たとえばアルジェリア西部に起源をもつポップ音楽「ライ」は民俗音楽という枠を遥かに越えて大変モダンな音楽となり、フランスをはじめとするヨーロッパ諸国でも人気を得、アラブの枠を越えた支持を得ている。日本ではフランス語情報を活用できる人が極端に少ないためにほとんど知られていないため、アラブ理解にもヨーロッパ理解にも支障がでている。</p> <p>本授業では音楽学的研究・分析は行わず、世界各地のアフリカ系の音楽を主に、特にワールドミュージックとは何かから始め、カリブ海の歴史・現状とその音楽等の視点から、現時点の世界の実情を多様な角度から観察していくことを目的とする。</p>	
	ゼミ／アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界2	<p>音楽を聞いて楽しみながら、世界のアフリカ系人のありのままの姿に触れ、21世紀の日本の若者に必要な、アフリカについての知識を得、アフリカを総体的に理解する。</p> <p>たとえばアルジェリア西部に起源をもつポップ音楽「ライ」は民俗音楽という枠を遥かに越えて大変モダンな音楽となり、フランスをはじめとするヨーロッパ諸国でも人気を得、アラブの枠を越えた支持を得ている。日本ではフランス語情報を活用できる人が極端に少ないためにほとんど知られていないため、アラブ理解にもヨーロッパ理解にも支障がでている。</p> <p>本授業では音楽学的研究・分析は行わず、世界各地のアフリカ系の音楽を、特にコンゴとリンガラ・ポップやアフリカと日本の世界音楽について、世界音楽の問題等に主点を置き、現時点の世界の実情を多様な角度から観察していくことを目的とする。</p>	
	ドイツ語A（充実クラスⅠ－1）	<p>ドイツ語の初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文章を読み書きできるようになる。また、ドイツ語圏の文化の基礎知識を習得する。</p> <p>本授業では、以下のような文法事項等を学習する。 初級文法の確認、再帰代名詞、zu不定詞、形容詞の格変化、受動態、関係代名詞等</p>	
	ドイツ語A（充実クラスⅠ－2）	<p>ドイツ語の初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文章を読み書きできるようになる。また、ドイツ語圏の文化の基礎知識を習得する。</p> <p>本授業では、主に以下の内容を学習する。 文法事項の確認・練習、ドイツ語テキストの講読・読解</p>	
	ドイツ語A（充実クラスⅡ－1）	<p>話す・聞く練習以外にドイツの生活に関するトピック（趣味、家族、職業、買い物等）を読み進めながら、その内容について（ドイツ語で）話し合い、ドイツ語を話すし、自然なスピードで文章を聞き取る能力の向上を目指す。</p>	
	ドイツ語A（充実クラスⅡ－2）	<p>話す・聞く練習以外にドイツの生活に関するトピック（ほしい物、自分の部屋、家事、好きな食べ物等）を読み進めながら、その内容について（ドイツ語で）話し合い、ドイツ語を話すし、自然なスピードで文章を聞き取る能力の向上を目指す。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	フランス語A（充実クラスⅠ－1）	<p>フランス語の運用能力を養うための、基礎知識の徹底理解と確実な定着を目指す。</p> <p>フランス語を習得するために、初級での学習項目のうち最も重要な点に集中して、フランス語知識の基礎固めのための練習を行う。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。 基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話ができる。 基本的な構文を理解し、それにのっとったフランス語文を作ることができる。 <p>本授業では、以下の文法事項等について学習する。</p> <p>フランス語の文字と発音、基本語彙、冠詞、etreとavoir、第一群規則助動詞とfaire、文型SVAとSVO、形容詞、prendre等</p>	
	フランス語A（充実クラスⅠ－2）	<p>フランス語の運用能力を養うための、基礎知識の徹底理解と確実な定着を目指す。</p> <p>フランス語を習得するために、初級での学習項目のうち最も重要な点に集中して、フランス語知識の基礎固めのための練習を行う。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。 基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話ができる。 基本的な構文を理解し、それにのっとったフランス語文を作ることができる。 <p>本授業では、以下の文法事項等について学習する。</p> <p>第二群規則動詞、direと文型SVOO、代名詞、rendreと文型SVOA、直接他動詞と間接他動詞、複合過去等</p>	
	フランス語A（充実クラスⅡ－1）	<p>フランス語による初歩的なコミュニケーションの練習を行う。</p> <p>フランス語A1/A2の学習内容を復習し定着させることで、初歩的な口頭のコミュニケーション能力をしっかりと身につけることを目指す。授業では、各項目のコミュニケーションパターンや語彙を確認した後に、聞き取りやペアワークによる口頭練習を行う。また、フランスのコミュニケーション文化についても適宜説明する。</p> <p>本授業では、職業・身分・国籍について、住んでいる所、アルバイト、交通手段、ペット、科目や教科等についてトピックとして取り上げる。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。 基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話ができる。 授業で学んだ基礎的な語彙の範囲であれば、ゆっくり、はっきりと話された内容を聞き取ることができる。 	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	フランス語A（充実 クラスⅡ－2）	<p>フランス語による初歩的なコミュニケーションの練習を行う。</p> <p>フランス語A1/A2の学習内容を復習し定着させることで、初歩的な口頭のコミュニケーション能力をしっかりと身につけることを目指す。授業では、各項目のコミュニケーションパターンや語彙を確認した後に、聞き取りやペアワークによる口頭練習を行う。また、フランスのコミュニケーション文化についても適宜説明する。</p> <p>本授業では、家事・余暇・習慣・週末/休暇の予定、地理について、過去について等をトピックとして取り上げる。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。 ・基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話をすることができる。 ・授業で学んだ基礎的な語彙の範囲であれば、ゆっくり、はっきりと話された内容を聞き取ることができる。 	
	中国語A（充実クラ スⅡ－1）	<p>A1/A2で学習した文法事項と語彙と文法を再確認し、確実にその内容を身につける。また、中国語によるコミュニケーションの基礎能力の向上を目指し、中国語の学習を通して、言語運用の知識を身につけると共に、背景にある中国文化についての理解を深める</p> <p>身近なトピックについて会話練習を行い、それぞれのトピックに必要な単語と常用語句の予習を課する。一つのトピックについて二週間にわたってトレーニングを行う。テキスト及び配布資料を学習し、教員及び他の受講生からの質問を受けながら、会話練習を行う。話した内容を文章にまとめ、スピーチにて発表する。</p> <p>具体的な学習目標は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A1/A2で学習した語彙と文法を再確認し、確実にその内容を身につける。 ・1000語レベルの日常語彙の範囲で標準的な話し方であれば、話題の要点を理解できる。 ・身近な話題について、1000語レベルの日常語彙を使用し、情報や考えなど伝えたいことを話すことができる。 ・中国語検定試験4級合格程度の聴解力を身につける。 <p>本授業で取り上げるトピックは以下の通り。</p> <p>中国語の発音、キャンパス・学食での会話、コンビニや喫茶店での会話等</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	自由履修科目 中国語A（充実クラスⅡ－２）	<p>A1/A2で学習した文法事項と語彙を定着させ、中国語によるコミュニケーションの基礎能力の向上を目指し、中国語の学習を通して、言語運用の知識を身につけると共に、背景にある中国文化についての理解を深める身近なトピックについて会話練習を行い、それぞれのトピックに必要な単語と常用語句の予習を課する。一つのトピックについて二週間にわたってトレーニングを行う。テキスト及び配布資料を学習し、教員及び他の受講生からの質問を受けながら、会話練習を行う。話した内容を文章にまとめ、スピーチにて発表する。</p> <p>具体的な学習目標は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A1/A2で学習した語彙と文法を再確認し、確実にその内容を身につける。 ・1000語レベルの日常語彙の範囲で標準的な話し方であれば、話題の要点を理解できる。 ・身近な話題について、1000語レベルの日常語彙を使用し、情報や考えなど伝えたいことを話すことができる。 ・中国語検定試験4級合格程度の聴解力を身につける。 <p>本授業で取り上げるトピックは以下の通り</p> <p>居酒屋・中華料理屋での会話、タクシー乗り場、電車の中での会話、電話をかける、温泉旅行について等</p>	
専門教育科目	学域GS科目 初學者科目	<p>アカデミックスキル</p> <p>大学で学ぶ上で欠かすことのできない主体的・自主的学習を動機づけ、初年時のみならず専門分野においても学習をデザインでき能動的に学習できる能力を育むことを目標とする。</p> <p>本授業では、学校教育が直面する問題をはじめ教員に求められる基礎的知識について講義し、その後、学生と教員および学生同士のディスカッション等を通して、大学生としての自己表現能力や日本語力、論理的な思考方法を育成する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) ※複数クラスで実施 (34 鳥居和代, 25 川幡佳一, 71 大野順子 / 1回) ガイダンス (34 鳥居和代, 66 飯島洋, 37 松原道男 / 2回, 3回)</p> <p>学校教育が直面する問題や教員に求められる基礎的知識について講義する。(テーマ:「学校に行けなかった子どもたち―戦後初期の記録映画に学ぼう」等) (34 鳥居和代, 25 川幡佳一, 71 大野順子 / 4回) 「教師になるためのノート」の活用方法を学ぶ。 (35 長谷川和志, 73 田部絢子, 71 大野順子 / 5回, 6回)</p> <p>学校教育が直面する問題や教員に求められる基礎的知識について講義する。(テーマ:「発達障害と合理的配慮」等) (26 黒田智, 25 川幡佳一, 33 土井妙子 / 7回, 8回)</p> <p>学校教育が直面する問題や教員に求められる基礎的知識について講義する。(テーマ:「教育勅語と教育基本法―教育は誰のためのもの?―」等)</p> <p>プレゼン・ディベート論</p> <p>大学で学ぶ上で欠かすことのできない主体的・自主的学習への動機づけを行い、専門教育を含む大学教育全般に対する能動的学習に導くことを目標とする。さらに、学生と教員及び学生相互のディスカッションおよびプレゼンを通して、大学生としての自己表現能力、学習デザイン能力、及び論理的な思考方法を育成する。</p> <p>本授業では、学校教育が直面する問題、学校教育の今日的課題、教員に求められる基礎的知識などのテーマに基づいたグループに分かれて研究活動を行い、発表を行う。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 学域 G S 科目 学域俯瞰科目	大学・学問論	本授業では、大学における学問の淵源をたどりつつ、大学における学問は全体としてどのように構想されているかという問題について、カリキュラムの面から考え、世界各地における大学がいま直面している諸問題についてアクティブ・ラーニングの手法を活用しながら、さらに人文社会学域の学問について学生一人一人が主体的に考察していく。	
	ジェンダーと教育	ジェンダー研究の成果を紹介すると同時に、ジェンダーの視点をともにこれまでの教育のあり方を問い直すことを目的としている。学校や家族では日常的にどのような「男らしさ」「女らしさ」が生成されており、そのもとでどのような人々（子どもたち）の存在が脅かされ、どのような人々の存在が忘れ去られているのかを検討する。また、性的な抑圧を少しでも少なくしていくために、どのような社会をつくっていけばいいのか、またそのために、学校教育に何ができるのか、について考える。	共同
	異文化理解 1	単一事象的に物事を捉えるのではなく、「異文化」という関係性に視座をおいて、文化・社会を再考する。日本、中国等の各エリアにおける文化事象を「異文化理解」というコンテキストに置いて相対的な視点からとらえ直す。学生は、そのような視点から、具体的な事象をとりあげ多様な観点から観察および考察をする力が求められる。	
	異文化理解 2	単一事象的に物事を捉えるのではなく、「異文化」という関係性に視座をおいて、文化・社会を再考する。アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、ラテンアメリカ等の各エリアにおける文化事象を「異文化理解」というコンテキストに置いて相対的な視点からとらえ直す。学生は、そのような視点から、具体的な事象をとりあげ多様な観点から観察および考察をする力が求められる。	
	文学概論 1	古今の世界文学の重要な作家、作品の概要に触れながら20世紀のフランスで活躍し世界に影響を及ぼした思想家＝文学研究家たちの生涯や考え方にも接し、21世紀の文学の方向性を考えていきます。20世紀までの文学者の試みを知り、文学の歩みをフランス、イギリス、アメリカ、ドイツ、ロシア、日本などいくつかの文学伝統にまとめておさらいし、グローバル化した現代の世界文学のあり方について考察します。文学周辺のジャンル（映画、マンガ、歌詞など）についても適宜考察を行います。	
	文学概論 2	現代世界で広く知られる文学、文学研究のあり方、楽しみ方について理解を深めるために、文学や文学研究の方法について基礎知識を得ます。それは今日世界中のさまざまな文学を研究する際に用いられる方法論の多くが、現代フランスで活躍した人たちがフランスおよび世界の未来について真剣に考えて作り上げた思想から生まれたものだからです。そこから世界全体の未来の文学のあり方について考察します。	
	世界遺産学	日本、中国、南アジア、西アジア、ヨーロッパ、アメリカ大陸と、世界各地の世界遺産を取り上げる。ひとつの文化遺産の背景には、幾重にも折り重なった歴史があり、そのひとつひとつを読み解くことで、文化遺産が生み出され、受け継がれてきた背景を知る。人類が作り出した文化がいかなるものか、そして、人々はそれとどのように関わってきたかを示す文化遺産は、決して「過去の遺物」ではない。現代社会が積極的に文化を活用しようとするときに、はじめて文化遺産としての評価が与えられる。文化遺産を通して人間や社会のあり方を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 学域 G S 科目 学域俯瞰科目	ルールリテラシー	<p>法令（条文）と判例（判決文）を素材として、ルール作り、ルールの改正、ルールの運用、ルールと言語の関係等を明らかにし、ルールの背後にある価値・条文の趣旨に遡ってルールの意味を考える習慣を身につける。</p> <p>なお、この科目は、「学域俯瞰（ふかん）科目」に区分されているので、文系の諸学問と法学・政治学（政策学）との接点についても言及する。例えば、法令や判例は「文字」によって作られており、よく言われるように、法学は「ことば」による説得の学問である点で、日本語（国語）学に関連するほか、中学校の社会科（公民的分野）や高等学校の現代社会、政治・経済といった科目における法関連学習（法教育）との接続とその発展という点で、教育学（社会科教育）にも関連する。</p>	
	人文社会科学における法	<p>基礎法学の概観を提供することを目的とする。基礎法学とは、法学の諸分野のうち、自国の現行法を研究対象とする実定法学（憲法学、民法学、刑法学など）を除く全ての分野を包括する総称であり、法制史学、外国法学、法理学、法社会学などが含まれる。法制史学は過去の自国または他国の法を、外国法学は外国の法を、法理学（法哲学）は国や時代が異なっても変わらない法の本質を、法社会学は社会現象としての法を対象として学ぶ。</p>	
	イメージの比較文化学	<p>世界各地の視覚イメージ、とくに宗教的な美術を中心に、人間が生み出したさまざまな文化を読み解く。イメージの背景にある思想、信仰、社会、美意識などを明らかにし、人間の文化の持つ多様性と普遍性を探る。美術史、文化史、宗教学、哲学、文学、歴史学、神話学など、人文学の複数の領域を学際的に横断しながら学んでいく。</p>	
	防災学入門	<p>地震・津波・台風等の大規模災害が相次ぐ中、災害や防災・減災に関する知識と意識をもつ人材の養成が求められる。当科目は、防災士取得に向けての入り口として、防災活動や災害ボランティアに参加する上で最低限必要な知見・技術を獲得させることを目的とし、集中講義で行う。</p> <p>また、講義だけではなく、災害ボランティア入門講習、救命救急講習、避難所運営机上訓練HUG等も行う。</p>	共同
	現代日本の文化と社会	<p>政治や経済、家族・社会関係、信仰など生活のさまざまな側面における戦後日本の変化を概観的に把握することで、現在の日本で生起しているさまざまな文化社会現象を認識し分析する上での基礎的知識を習得し、説明できるようにする。公式統計や社会調査の集計結果などの図表を読み取り、そこから社会の変化について把握するスキルを身につける。国際比較の着眼点を理解する。</p>	
	地域創造学 1	<p>地域の課題や可能性を、事例を通じて、多面的具体的に紹介し、地域への関心を高める。その際、社会学、経済学、政治学、地理学などの社会科学等にもとづく解説を行い、地域をさまざまな科学にもとづいて理解するための手がかりを提供する。</p> <p>本授業では、①コミュニティをめぐる問題（社会）では、つながりの喪失、排除と包摂、コミュニティの維持困難、共生の課題、②地域経済をめぐる問題（経済）では、グローバル化・東京一極集中と地域、観光業・創造都市の光と影、③働く人をめぐる問題（経済・労働）では、格差と絶望、労働者の人権、④行政運営にかかわる問題（政治・行政）では、広域合併のもたらしたもの、民営化の功罪、自治体と住民参画、⑤地域を襲う環境の危機（環境）では、資源争奪、異常気象の進行、漁業資源の保全、⑥地域を運営すること（政治・自治、社会）では、行政・企業・NPOの協働の意義を学ぶ。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	学域俯瞰科目	地域創造学2	<p>地域とは何か、地域創造とはいかなる意味・意義を持つのかといった問いを考える視点を概観し、地域の構造を生活、行政、経済などとの関連で取り上げ、そのような地域を分析する手法・方法論を紹介する。具体的な目標としては、①地域とは何か、地域創造とは何かを考える視点を学ぶ、②地域の基本構造として、地域の生活構造と自治の範囲を中心に取り上げ、経済や行政等の社会制度を概観する、③地域構造形成に影響を及ぼす諸要因である自然環境、社会的インフラストラクチャー、社会資源などに言及する、④地域分析のための諸統計の活用方法と調査手法に関する基本を紹介する。</p> <p>本授業では、生活構造・生活圏、地域の構造と情報、システムとしての地域、地域コミュニティと自治、地域分析手法（質的調査）、地域解析手法（統計）を学ぶ。</p>	
	学域GS科目 データサイエンス応用系科目	データサイエンスの技術	<p>データサイエンスは機械学習・統計学だけではなく、非常に広い範囲のコンピュータサイエンス諸分野に関連する、取扱範囲が大きな分野である。本授業では初学者がデータサイエンスを理解するうえで必要となる基礎知識全般について考察する。ソフトウェア技術、アルゴリズム、統計学の知識といった基礎的なコンピュータリテラシーのみならず、機械学習やディープラーニング、さらには最近話題となることが多いビッグデータといった話題についても考察する。</p>	
		国際経済の理論とデータ	<p>国際経済学に関するマクロ的な問題についての理論を学び、国際収支、為替レート、財政、金融政策などについての理論を理解する。</p> <p>本授業では、世界貿易概観、国民所得勘定、国際収支、外国為替市場（アセットアプローチ）、外国為替市場における均衡（アセットアプローチ）、貨幣、利子率、為替レートなどについて学修する。</p>	
		国際貿易の理論とデータ	<p>国際貿易の理論を学ぶ。本授業では、主体的な学びを重視し、テキストの割り当て箇所について担当者による口頭発表およびディスカッションを行う。内容については、①データを用いた計量経済学的な実証分析の方法について学ぶ、②データの収集、加工、ソフトウェアを用いた分析について講義を行う、③国際機関が公表している実際のデータを用いて実践的なトレーニングを行う。</p>	
		情報処理	<p>さまざまな不確定現象（経済、経営、工学、自然科学等）を確率現象として捉え、その確率現象の構造を解明し、データ解析、評価、予測の理論とモデルの構築を学修する。その理論をファイナンス、経済学、経営学で用いた応用も行う。基礎からじっくりと学び、統計解析とデータ分析に精通した専門家となる素養を身につけることを目標とする。</p>	
		計量政治分析実習	<p>計量分析とは、例えば世論調査のように、数字で表現された数量データを多くの事例や人について集めて分析することによって、社会現象を明らかにしたり、そのメカニズムを解明しようとする分析方法であり、最近では、民間企業や行政機関においても、社会現象を数量データに基づいて客観的に把握して問題解決に役立てるため、計量分析を用いた報告書の読解や、調査・分析の能力が求められるようになってきている。</p> <p>本授業では、政治関係の数量データをパソコンの表計算ソフトの「Microsoft - Excel」や統計解析ソフトの「SPSS」や「R」を使って分析する実習を通じて、社会現象の計量分析の技法の基礎を修得することを目指す。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 学域 G S 科目 データサイエンス 応用系科目	ビジネス・データ分析（ビジネス・データ・サイエンス）	この授業では、ビジネスに用いられる統計データであるビジネス・データ分析について学習し、ビジネス・データを正しく読み取り、活用できることを目的とする。焦点をあてるテーマは、①ビジネスと設備投資、②ビジネスと販売予測、③ビジネスと市場分析、とする。 さらに、この授業では、統計ソフトRについて実習を通して学ぶ。	
	統計データ分析の基本（多変量解析）	統計学は、大学における文系・理系の双方の専門科目の基礎となる不可欠の素養である。本授業では、調査・観察・実験の際に必要な統計スキル（多変量解析編）を学習し、得られたデータを統計的に正しく推論を行う力を身に付ける。焦点をあてるテーマは、①回帰分析、②主成分分析、③因子分析、④分散分析、⑤クラスター分析、とする。 さらに、この授業では統計ソフトRについて実習を通して学びます。	
	データで考える日本の未来（データサイエンス）	本授業では、地域の人口・観光・産業・農業等について地方創生の様々な取り組みを情報面から支援するために、経済産業省と内閣官房（まち・ひと・しごと創生本部事務局）が提供しているRESASからデータを収集し、地域の現状を分析するとともに、地域の課題解決に向けた政策アイデアを提案できるようになることを目標とする。	
	統計ソフトRによるビッグデータ分析	日米の経済や金融に関する統計データ及びビッグデータの活用方法および分析手法を学習し、国内外のデータを収集、比較、分析を通して、グローバルな経済や金融の動きをデータに基づいて俯瞰することができるようになることを目的とする。 日本の統計データベースについては、RESAS、e-Statを活用し、米国はUSCensus、BEA、IPMUSを活用する。	
	金融リテラシー	個人の金融行動を通じてライフプランニング能力やキャリア開発能力を身に付けることができるための、基礎的な金融に関する知識や実践力を習得し、自立した個人として行動ができるための資質を養うことを目標とする。 本授業では、次の内容について学ぶ。 1. ガイダンスと基本事項Ⅰ（金融リテラシーの基本要素） 2. 基本事項Ⅱ（基本となる生活経済知識） 3. 人生の選択 4. 収入と税・社会保険 5. 購買行動と信用履歴 6. 車の購入とペイメントオプション 7. 為替と海外旅行 8. 住宅購入とローン価値 9. リスクマネジメント（健康と病気） 10. リスクマネジメント（交通事故と損害賠償） 11. 資産管理と運用 12. 失業とセーフティネット 13. リタイアメントプログラム 14. 不確実性の理論 15. 持続可能性とパーソナルファイナンス	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	学域GS科目	白書の講読と議論	本授業では、地域の少子化問題について少子化社会対策白書を中心に現状と課題の理解を深めるとともに、統計データを収集して地域の現状を把握する。さらに、少子化対策に関する定量的な政策評価の事例を通して、EBPM (Evidence-Based Policy Making: 証拠に基づく政策立案) について学ぶ。焦点をあてるテーマは、①総人口と人口構造の推移、②出生数、出生率の推移、③婚姻・出産の状況、④結婚をめぐる意識等、⑤出産・子育てをめぐる意識等、⑥結婚や子育てに関する意識、⑦地域比較、とする。	
		地域課題解決と政策立案のための統計データ分析: EBPM (根拠に基づく政策立案)	本授業では、我が国の経済社会構造が急速に変化する中、限られた資源を有効に活用し、国民により信頼される行政を展開することを目指すための取組であるEBPM (エビデンスに基づく政策立案) について学習する。①EBPMとは何かについて説明できること、②政策評価手法について説明することができること、③データを活用して政策評価を行うことができることを目的とする。	
		統計学技能 I	一般社団法人 統計質保証推進協会が実施している統計に関する知識や活用力を評価する全国統一試験である「統計検定」の3級に合格すること。例えば統計検定3級では、大学基礎統計学の知識として求められる統計活用力を評価するものです。「統計検定」に関する基本的な概要および対策方法については、ガイダンスを行って、主体的に各自で準備が進められるように配慮を行う。	
		統計学技能 II	一般社団法人 統計質保証推進協会が実施している統計に関する知識や活用力を評価する全国統一試験である「統計検定」の2級以上に合格すること。例えば統計検定2級では、大学基礎統計学の知識と問題解決力について大学基礎課程(1・2年次学部共通)で習得すべきことを検定するものです。「統計検定」に関する基本的な概要および対策方法については、ガイダンスを行って、主体的に各自で準備が進められるように配慮を行う	
	学域GS言語科目	学域GS言語科目 I	学域GS言語科目 I では1年次のGS言語科目で培った英語運用能力をさらに伸ばすことを目的としている。さらに、専門とする教育分野で必要となる基本的知識や概念を英語で学び、理解・表現ができるようになることを目的とする。この授業は学域GS言語科目 II と連携しており、特に学問分野の英語による基本的理解に重点を置いている。それに付随して英語の運用練習も行う。	
		学域GS言語科目 II	学域GS言語科目 II では1年次のGS言語科目で培った英語運用能力をさらに伸ばすことを目的としている。さらに、専門とする教育分野で必要となる基本的知識や概念を英語で学び、理解・表現ができるようになることを目的とする。この授業は学域GS言語科目 I と連携しており、特に学問分野に関わる内容を英語によって表現することに重点を。それに付随して分野に関する基本的概念についての英語表現も学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	共通科目	野外体験活動Ⅰ	小学校や中学校で実施されることの多い野外体験活動についてその活動の目的や学習効果につて、実際に自然体験や合宿を通して実践的に学ぶ。また、野外体験活動の指導に必要な知識や技術を、実際に児童・生徒が宿泊に利用する施設において直接活動内容についての指導を受け、子どもの発達段階に対応した活動のあり方を、学生同士のディスカッションも取り入れながら学んでいく。	
		野外体験活動Ⅱ	野外体験活動Ⅰで学んだ知識や技術、活動の在り方を実際の小学校や中学校が実施する宿泊体験活動にアシスタントとして参加することによって活かすことを目的とする。合わせて、集団行動の管理、安全確保の方策、アクシデント発生時の対応といった実際の宿泊体験活動で起こりうる事態に対処する方法論および教室外での児童・生徒たちとの接し方なども実地に学んでいく。	
		卒業研究	履修者が自ら課題を設定し、研究目的や研究方法を明らかにするために研究計画を立てる。この計画に基づき、先行研究等を踏まえた上で、指導教員のもとで研究を進めるが、その際に倫理的な配慮の重要性についても学ぶ。また、このような研究過程を通して、研究の科学的アプローチを理解するとともに、主体的に研究に取り組む態度や問題解決能力を習得することを目的とする。	
	専門基礎科目	教育の思想と歴史（日本）	教育の思想と実践の変化を、日本の教育の歴史の中に位置づけて考える。日本社会における古代から現代にいたるまでの教育の理念や思想・実践を包括的に取り上げながら、教育に関する原理の歴史の変遷を辿る。各時代の教育を日本社会のあり方と関連づけながら考察することによって、「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に関する基礎知識・技能を身につけ、教育の原理的問題にかかわる基礎教養を習得することが目標である。	メディア
		教職と学校	教育学、および、心理学を代表とする隣接諸学の知見を領域横断的に参照しながら教師という存在を対象化して学的にとらえることを第一の目標とする。受講者は、本講義を通じて、これまでの被教育経験からの教師像からいったん自由になり、あらためて「教師とはどういう存在か」という根本的な問いと向き合うことが求められる。 【オムニバス形式/全8回】 (78平石晃樹/1回、2回) 公教育の目的と教師の存在意義 (34鳥居和代/1回、3回) 教職の職業的特徴と教職観の変遷 (70上森さくら/5回) 学校における主権者教育 (74土屋明広/7回) 教員の日、服務上・身分上の義務、身分保障 (77原田克巳/6回) チーム学校の一員としての校外資源 (79本所恵/4回) 国際比較から見る教職 (80森慶恵/8回) 学校保健と学校安全	メディア オムニバス方式
		教育制度概論（就学保障と学校安全）	公教育制度の基本理念と基本的な制度を、就学保障と学校安全を軸に据えて講義していく。公教育は子どもの就学を保障するために教育行政、教育課程、教科書、就学支援など様々な制度を、その基盤として子どもの安全を保障するための法制度を整備している。本講義は就学支援と学校安全に関する法制度を中心に講義することで、教職に就く者が必要とされる視点や知識を修得することを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	教育の基礎的理解に関する科目	発達と教育（自己創出としての発達）	乳幼児期から青年期までの自己創出された発達の特徴を理解するとともに、発達の状態をふまえた指導方法について概説する。前半部分では、教育を行ううえでの発達について学ぶ意義、自己創出としての発達とはどのようなものか、進化の過程でどのような能力や特性を獲得してきたのかを見ていく。後半部分では、乳幼児期、児童期、青年期の発達時期に分けて、それぞれの時期に見られる認知、社会性、人格の特徴について理解を深めていく。	メディア	
		特別支援教育概論	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育の制度と指導・支援について理解するため、本授業では、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒（障害のある子ども及び、障害はないが、特別の教育ニーズのある子ども）に対する教育の理念や特別支援教育の制度（特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、特別支援教育コーディネーター、「チーム学校」による支援等）及び、指導・支援について概説する。	メディア	
		現在をつくる教育課程	本授業は、現在の教育課程がどのような歴史と理念の上に成立しているのか、その教育課程がどのように現在の教育や社会と関わっているのかを学ぶ。そのために、学習指導要領の変遷を、教育実践の具体例および各時代の社会との関わりに触れながら辿り、現在の教育や社会の成り立ちを理解する。また、国内外にある実際の教育課程の具体例を多く取り上げ、その中にある理論を学ぶ。そして実際に教育課程を実施・改善する上での重要事項や留意点など、カリキュラム・マネジメントに関わる基礎知識を具体例から学ぶ。		
	専門基礎科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育論（指導法）	道徳の教科化は、読み物資料の人物の心情読解に傾斜しがちだった従来の指導法の一面性に反省を促すものであった。これを受け、本講義では道徳の多様な指導法を紹介・検討することをベースに、いわゆる定番教材を多く取り上げながら、教材研究の意義と手法、創造的な発問の必要性、指導案作成による授業の構造化の重要性等について解説する。最終的には模擬授業の実施を通じて道徳教育の実践力と授業改善の視点を涵養する。	メディア
		総合的な学習の時間教育論Ⅰ	「総合的な学習（探究）の時間」設置の意義、ねらい、内容構成について理解する。さらに、この総合的な学習（探究）の時間で最も重視すべき点の一つである探究的な学習の在り方について把握した上で、その学習の進め方に関わり、課題設定の方法、追究の方法、整理・分析・課題解決の方法、まとめ・表現の方法等について、それぞれの校種の具体例を取り上げながら、理解を深めていく。また、その際に必要となる教師の指導や支援の方法も検討することにより、実際にこの授業を実施するための基本的な力を身に付ける。		
		総合的な学習の時間教育論Ⅱ	新しい時代にふさわしい総合的な学習（探究）の時間の授業の在り方について、追究にふさわしい新しい時代に向けた課題の設定方法、追究の具体的な方法、課題解決に向けた取り組み等から検討を行い、理解を深める。さらに地域の小中高等学校における授業実践例を知るとともに、年間指導計画・学習指導案の作成方法や、学習活動における評価の考え方や方法について理解することを通して、実際にこの授業を実施するために必要な力を身に付ける。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目	特別活動における評価と指導の実際	学校教育における特別活動の指導の在り様を考察していくために、社会的背景や教育政策との関連をふまえて、その位置と役割を理解しつつ、子どもたちの生きる現実を切り拓いていくための特別活動としての今日的課題を明らかにしていく。さらに、学級活動や学校行事など各活動における具体的な評価と指導の在り様や、学校外の資源の活用について、実践記録を共同で分析し合うことを通して、特別活動の指導原理の理論的・実践的な見識を深める。	
	教育方法探究	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力とは何かを、さまざまな教育論議や教育実践を通して考え、それらの能力を育成するために必要な、教育の方法に関する知識・技能を学ぶ。創造的な教育実践の思想や取り組みを学び、自分の教育実践を評価し改善する視点を持ちながら、実際の教育を計画・実施できるようになることを目指す。	メディア
	学校カウンセリング	学校教育現場において、教職員（スクールカウンセラーを含む）が向き合うこととなる主要な教育的課題の中から、いじめ、不登校、虐待、貧困をテーマとして取り上げる。統計資料から実態を把握し、関係する法令等から国が示す施策の方針と対応の指針を理解する。その上で、諸問題に関わっての児童生徒の心理的苦痛や背景要因について紹介し、教職員として児童生徒および保護者に対する指導と支援を、協働・連携の視点を含めてどのように行えばよいかを考察する。また、指導・支援を考察し、自らの技能とするために、学校カウンセリングの基本的な理論と技法を紹介する。	メディア
	子どもの生活とキャリア教育	学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むキャリア教育のために、若年労働市場の変容、格差・貧困の拡大、消費社会化、家族・地域の変容といった現代社会における諸課題と共にあるキャリア教育の課題を明らかにした上で、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付け、指導の在り方を具体的に構想する。	メディア
専門教育科目 専門基礎科目	教育実践に関する科目	事前指導は、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とし、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、遵守すべき義務等について理解する。教育実習では、実習校で教職員の指導を受けながら、大学で学んだ専門知識に加えて、指導や支援の方法や技術を「教師」の立場で検証するとともに、園児・児童の実態や、学校・学級経営及び幼稚園・小学校における教育活動の特色について理解を進める。事後指導では、教育実習の体験を総括し、学生間で共有することで、今後教師として成長していくためのさらなる課題を自覚することを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	教育実践に関する科目	教育実習A(中・高) (事前事後指導を含む)	事前指導は、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とし、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、遵守すべき義務等について理解する。教育実習では、実習校で教職員の指導を受けながら、大学で学んだ専門知識に加えて、指導や支援の方法や技術を「教師」の立場で検証するとともに、生徒の実態や、学校・学級経営及び中学校・高等学校における教育活動の特色について理解を進める。事後指導では、教育実習の体験を総括し、学生間で共有することで、今後教師として成長していくためのさらなる課題を自覚することを目的とする。	
			教育実習B(小)	小学校における教師の多様な教育実践や教師としての仕事(実務)を体験することを通して、教育の重要性・多様性・困難性を学び取るとともに、大学で学習した理論や技術を実習校での実践を通して具体的、統合的に確認する。また、児童と接することでコミュニケーションの取り方や、学習者を多面的な視点で観察する姿勢を身につけ、さらに、教師としての基礎的力量を育成するとともに、その使命感と責任感を培い、教職の本質を理解するよう努めることを目的とする。	
			教育実習B(中・高)	中学校・高等学校における教師の多様な教育実践や教師としての仕事(実務)を体験することを通して、教育の重要性・多様性・困難性を学び取るとともに、大学で学習した理論や技術を実習校での実践を通して具体的、統合的に確認する。また、生徒と接することでコミュニケーションの取り方や、学習者を多面的な視点で観察する姿勢を身につけ、さらに、教師としての基礎的力量を育成するとともに、その使命感と責任感を培い、教職の本質を理解するよう努めることを目的とする。	
			教育実習B(特別支援)	特別支援学校における教師の多様な教育実践や教師としての仕事(実務)を体験することを通して、教育の重要性・多様性・困難性を学び取るとともに、大学で学習した理論や技術を実習校での実践を通して具体的、統合的に確認する。また、児童・生徒と接することでコミュニケーションの取り方や、学習者を多面的な視点で観察する姿勢を身につけ、さらに、教師としての基礎的力量を育成するとともに、その使命感と責任感を培い、教職の本質を理解するよう努めることを目的とする。	
			教育実習B(幼)	幼稚園における教師の多様な教育実践や教師としての仕事(実務)を体験することを通して、教育の重要性・多様性・困難性を学び取るとともに、大学で学習した理論や技術を実習校での実践を通して具体的、統合的に確認する。また、園児と接することでコミュニケーションの取り方や、学習者を多面的な視点で観察する姿勢を身につけ、さらに、教師としての基礎的力量を育成するとともに、その使命感と責任感を培い、教職の本質を理解するよう努めることを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	教育実践に関する科目	教職実践演習（幼・小・中・高）	<p>「履修カルテ」等を用いてこれまでの学修を振り返り、自己の到達点を確認するとともに、教職についての考えを深めるためのグループワークや模擬授業等を通して、教員として必要な資質・能力を確認し、それらの向上を図る。学生は、この科目を通して以下のことができるようになる。①教職に関する様々な課題についてグループで議論しつつ取り組む。②教育実習等の振り返りを行い、自分自身の資質・能力を評価して、教師になるために適切な目標を設定する。③特定の学年・教科のための指導案を書く。④授業参与観察や現職・退職教員の講義をもとに、学校での教育に関して理解を深める。とりわけ、教員として重要な(1)使命感や責任感、教育的愛情等、(2)社会性や対人関係能力、(3)児童生徒理解や学級経営等、(4)教科等の指導力の4項目に関して自己評価を行い、これらの資質・能力を身につける。</p> <p>(共同・オムニバス方式/全15回) (70 上森さくら：金大クラス/1回～10回, 12回～15回, 96 増田(田中)美奈：富大クラス/1回～10回, 12回～15回)</p> <p>教員の役割や教職に必要とされる社会性、児童生徒理解や学級経営等について講義とグループワークを行い、授業参与観察の指導をする。 (39 守屋哲治：金大クラス/1回, 11回～13回, 15 徳橋曜：富大クラス/1回, 11回～13回)</p> <p>教育実習等を振り返らせた上で、指導案の作成や検討について講義とグループワークを行い、模擬授業の助言指導を行う。</p> <p>※1回, 12回, 13回は共同で実施 1回/当該授業のオリエンテーションを共同で行う。 12回, 13回/指導案の発表に係るグループワーク及び模擬授業の指導助言等を共同で行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
			学校インターンシップⅡ（幼・小）	<p>授業補助、放課後学習、その他校務の手伝いを通して、子ども理解や教師としての指導技術、校務について学び、教師としての実践的な能力を身につける。この授業では幼稚園・小学校においてインターンとして活動し、教師の日常的職務活動を補助することを通して学級経営や子どもの支援について学び、自身の教師としての資質・能力などの向上を図る。</p>	
			学校インターンシップⅡ（中・高）	<p>授業補助、放課後学習、その他校務の手伝いを通して、子ども理解や教師としての指導技術、校務について学び、教師としての実践的な能力を身につける。この授業では中学校・高等学校においてインターンとして活動し、教師の日常的職務活動を補助することを通して学級経営や生徒の学習支援等のあり方を学び、自身の教師としての資質・能力などの向上を図る。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 小学校の教科に関する科目	国語科基礎B（書写を含む）（地域の文学を含む）	<p>小学校国語科を担当するのに必要な国文学・国語学の基礎知識の習得と書写指導の基礎を修得する。日本近代文学・日本古典文学・漢文学についての基礎的な教養を習得し、作品はいかに読むべきなのかという問題を検討する。小学校国語科を担当するのに必要な国文学・国語学の基礎知識の習得と書写指導の基礎を修得する。日本近代文学・日本古典文学・漢文学についての基礎的な教養を習得し、作品はいかに読むべきなのかという問題を検討する。また国語科高学年の書写に関する基礎知識を習得する。北陸出身、あるいはゆかりの文学者の作品についても取り上げ、地域の文学への理解と関心を深めるようにする。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（66 飯島洋／1回、2回、3回、4回） 小説と詩歌を取り上げ、論理的・構造的な読解のありかたについて検討する。北陸にかかわる文学作品についても取り上げ、地域への理解を深めるようにする。</p> <p>（71 大野順子／5回） 古典文学の基礎的な読解について修得する。</p> <p>（76 原田愛／6回） 漢字文化および、日本文化における漢語の影響について修得する。</p> <p>（24 折川司／7回、8回） 国語科書写の位置と役割および国語科書写において指導する内容について理解の深化を図る。また国語科高学年の書写に関する基礎知識を習得する。北陸出身、あるいはゆかりの文学者の作品についても取り上げ、地域の文学への理解と関心を深めるようにする。</p>	メディア オムニバス方式
	社会科基礎B（高学年の社会科と現代の教育課題）	<p>（概要）法学、地理学、哲学、日本史からそれぞれ小学校の社会科を教える上で基礎となるテーマを選び出し、解説する。授業においてはグループによる発表や討論を取り入れ、問題を参加者と協働で探究する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（68 石川多加子／1回、2回） 日本国憲法の制定過程、その基本原理、および各条文について、戦後どのような裁判が争われてきたかの事例を紹介する。</p> <p>（84 吉田国光／3回、4回） 「地理学」の方法から初等教育における社会科地理を学ぶ方法を問い直す。「知らない地域」をどのように学のか、なぜ学ぶ必要があるのかを、教えられる教師となるための方法を習得する。</p> <p>（40 山本英輔／5回、6回） 現代の環境思想を学び、環境教育を問い直す。また環境問題と食の連関を理解し、食を哲学的に考察する。</p> <p>（26 黒田智／7回、8回） 私たちが生きる現在の歴史的位置を相対化しながら、歴史を学ぶ楽しさと意義、多様な史料から構築される歴史研究の基本的な方法を理解する。</p>	メディア オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 小学校の教科に関する科目	算数科基礎B（高学年）	算数科の高学年の内容と、それに関連する事象に関する知識及び技能や考え方を身につけるために、算数科の主に高学年の各領域・内容に関する教育的な分析に取り組む。具体的には、数学的な概念や構造、アイディアと、それらによって説明される、日常生活や社会の事象や数学の事象との関係について、児童の学習過程を踏まえて検討する。	メディア
	理科基礎B（実践）	<p>（概要）小学校の理科授業において必要な知識・技能と実験・観察の方法を、物理・化学・生物・地学の各分野において習得する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（32 辻井宏之／1回，2回） 物理分野の実践について学ぶ。</p> <p>（97 小松田(佐藤)沙也加／3回，4回） 化学分野の実践について学ぶ。</p> <p>（25 川幡佳一／5回，6回） 生物分野の実践について学ぶ。</p> <p>（28 酒寄淳史／7回，8回） 地学分野の実践について学ぶ。</p>	メディア オムニバス方式
	生活科基礎B（実践）	自然体験や栽培などの様々な体験は豊かな学力形成の基盤となるが、近年の子どもたちの体験不足は指摘されて久しい。これも背景となって、とりわけ小学校生活科は体験活動が重視されている。教員になった際に授業で実施する体験活動の実践力を高めることを目的に、生活科で特に重視されている花や野菜等の栽培に関する実践を掘り下げて研究したり、地域学習等としてフィールドワークに出かけたりして、小学校教員としての具体的な授業構想が可能になる力を育成することを目標とする。	
	音楽科基礎B（実践）	<p>（概要）初級者と中級者以上にグループ分けをし、初級者ではバイエル教則本と弾き歌いの個人レッスンをし、中級者以上には、修得しているピアノの演奏技術を前提に、鍵盤和声による小学校歌唱教材のピアノ伴奏編曲法の集団指導をする。</p> <p>（93 多賀秀紀／23 小野隆太、20 安藤常光） 初級者を担当し、バイエル教則本から14番、15番、25番、29番、40番、48番、49番、52番、56番、60番と弾き歌い（茶つみ）の個人レッスンをし。</p> <p>（64 浅井(橋場)暁子） 中級者を担当し、修得しているピアノの演奏技術を前提に、楽典基礎、基本的なカデンツの基礎と応用、借用和音の理解と利用、コードネームの基礎と習得、曲調に合わせた伴奏形のアレンジ基礎と応用、メロディー譜を用いた伴奏づけ実践、オリジナル伴奏による発表などの鍵盤和声による小学校歌唱教材のピアノ伴奏編曲法の集団指導をする。</p>	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	小学校の教科に関する科目	<p>図画工作科基礎B (実践)</p> <p>小学校図画工作科における表現技能の要点理解を目標とし、中学校美術科との連結をねらいに造形遊び的・絵画的・彫刻的・デザインの・工芸工作的な図画工作科題材とその作品制作をおこなうとともに受講者自身の造形表現技能のスキルアップを図る。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(22 大村雅章と151 江藤望/1回, 2回, 3回, 4回) 図画工作科教科書より絵画・彫刻的な題材とその主題・材料・用具・技法を分析する。また、短時間の造形遊び題材を楽しみ、絵画・彫刻的表現に用いる材料・用具の経験の必要性について分析する。その後、絵画・彫刻的な主題の発想・構想とその表現をおこなう。第4回では絵画・彫刻的な作品とその鑑賞・評価をおこない、受講者自身が自分の感覚や行為を通して、形や色、質感、機能などの造形的な特徴を理解することを図る。 (大村雅章) 絵画 (江藤望) 彫刻</p> <p>(67 池上貴之と44 鷺山靖/5回, 6回, 7回, 8回) 図画工作科教科書よりデザイン・工作工芸的な題材とその主題・材料・用具・技法を分析する。また、短時間の造形遊び題材を楽しみ、デザイン・工作工芸的表現に用いる材料・用具の経験の必要性について分析する。その後、デザイン・工作工芸的な主題の発想・構想とその表現をおこなう。第8回ではデザイン・工作工芸的な作品とその鑑賞・評価をおこない、受講者自身が自分の感覚や行為を通して、形や色、質感、機能などの造形的な特徴を理解することを図る。 (池上貴之) デザイン (鷺山靖) 工作</p>	オムニバス方式・共同 (金沢クラスのみ)
			<p>家庭科基礎B (被服・家庭経営と現代の教育課題)</p> <p>(概要) 小学校家庭科において、「家族・家庭生活」、「消費生活・環境」および「衣食住の生活」について扱われている。家族・家庭生活、消費生活および衣生活に関する基礎的な知識を習得し、学校教育において地域・環境へ配慮した生活の送り方を念頭においた授業展開ができるようになることを授業目標とする。本授業では、小学校家庭科における家族・家庭生活、消費生活および衣生活に関する指導目標および指導内容に応じた基礎的な内容を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(75 花輪由樹/1回, 2回, 3回, 4回) 消費生活に関する講義において、家族・家庭と暮し、ものやお金の使い方などを解説し、これからの消費生活や地域での工夫の仕方を検討していく。</p> <p>(81 森島美佳/5回, 6回, 7回, 8回) 衣生活に関する講義において、衣服の種類、役割、素材や取扱い方などを解説し、環境に配慮した衣生活における工夫の仕方を検討していく。</p>	メディア オムニバス方式
			<p>家庭科基礎C (実習)</p> <p>学校教育で被服製作実習を展開していくために必要な基礎知識と技能を習得し、ICTを活用した適切な実習計画、材料や用具の準備および安全性に配慮した授業展開ができるようになることを授業目標とする。本授業の前半では手縫いによる製作と教示用の動画を作成し、後半では不要な布を用いたミシン縫いによる小物製作を行う。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	小学校の教科に関する科目	<p>体育科基礎A</p> <p>(概要) 体育科教育および学校保健の各研究領域の理論を踏まえ、それを活かした授業実践について検討し、学習指導方法に関する理解を深めていく。 (オムニバス方式/全8回)</p> <p>(83 横山剛士/1回, 2回, 3回, 4回) 体育科の指導方法論の「よい体育授業の条件」「運動が苦手な児童への学習指導」等に関して理解を深める。 (21 岩田英樹/5回, 6回, 7回, 8回) 体育科保健領域の「健康な生活」, 「体の発育・発達」, 「心の健康・けがの防止」, 「病気の予防」で取り扱う教材等を取り上げ、保健領域における学習方法に関する理解を深める。</p>	メディア オムニバス方式
			<p>体育科基礎B (実践)</p> <p>(概要) 本科目では体育科教育においてみんながわかり、うまくなることをめざして開発されてきた教材群を体験しながら、多様な教材群を指導する上で必要となる基礎的な戦術・技術の方法や、教材づくりの方法を理解することを目標とする。 (オムニバス方式/全8回)</p> <p>(82 山田哲/1回, 2回, 3回, 4回, 5回, 6回) 「体づくりの運動」, 「器械運動」, 「水泳」の学習指導方法について演習を行う。 (36 増田和実/7回, 8回) 「ボール運動(ゴール型)」や「ボール運動(ネット型)」の学習指導方法について演習を行う。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
			<p>英語科基礎A (理論)</p> <p>(概要) 小学校での授業実践に必要なコミュニケーション力を涵養するとともに、英語の音声・正書法や第二言語習得、児童文学などの事項を学習する。授業においてはグループによる討論などアクティブラーニングを積極的に取り入れる一方で、英語コミュニケーション能力の向上を図るため、適宜英語による発表やディスカッションを行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(30 滝沢雄一/1回, 2回) コミュニケーションの構成要素、及びコミュニケーション能力、第二言語習得について学習し、それを踏まえた授業実践における言語活動のあり方について議論、考察する。 (39 守屋哲治/3回, 4回) 英語の指導の基盤となる英語の音声及び文字について、基礎となる知識、技能について解説や実技を通して学ぶ。 (72 久保拓也/5回, 6回, 7回, 8回) 英語の正書法、絵本や歌・詩などについて学習し、授業での活用について議論、検討する。</p>	メディア オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	小学校の教科に関する科目	英語科基礎B（実践）	<p>小学校での授業実践に必要なコミュニケーション力を涵養するとともに、英語の語彙・文法や第二言語習得、異文化理解などの事項を学習する。授業においてはグループによる討論などアクティブラーニングを積極的に取り入れる一方で、英語コミュニケーション能力の向上を図るため、適宜英語による発表やディスカッションを行う。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（30 滝沢雄一／1回，2回） クラブルーム・イングリッシュや授業で英語を話して聞かせるために必要な知識を学び、演習等を通して活用できる技能を身に付ける。</p> <p>（39 守屋哲治／3回，4回） 英語の指導の基盤となる英語の語彙や文法について、基礎となる知識、技能について解説や実技を通して学ぶ。</p> <p>（41 山本卓／5回，6回，7回，8回） 世界及び日本における英語の役割や位置づけ、異文化理解などについての知識を学び、それらを踏まえた授業について議論、検討する。</p>	メディア オムニバス方式
	専門基礎科目	初等国語科教育法Ⅰ	<p>現行の小学校学習指導要領〔国語〕の内容をベースとして新指導要領の内容にも目配りをしながら国語科の目標、指導内容、指導法等について概説する。領域としては「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」を扱う。それにより、小学校教員として国語科の学習指導を担当する際に必要となる基礎的な知識を得、心構えを身につけることができる。また、毎時間の終盤において、国語科指導の構想や教材開発、個別支援の方法、情報機器及び教材の活用などについて「教師の視点から考え、グループで検討する」という小課題や模擬授業に取り組み、小学校教員としての授業実践力をつける。</p>	
	小学校の教科指導法	初等国語科教育法Ⅱ	<p>現行の小学校学習指導要領〔国語〕の内容をベースとして新指導要領の内容にも目配りをしながら国語科の目標、指導内容、指導法等について概説する。領域としては「読むこと」を扱い、加えて「知識及び技能」の内容や学習評価についても整理する。それにより、小学校教員として国語科の学習指導を担当する際に必要となる基礎的な知識を得、心構えを身につけることができる。また、毎時間の終盤において、国語科指導の構想や教材開発、個別支援の方法、情報機器及び教材の活用などについて「教師の視点から考え、グループで検討する」という小課題や模擬授業に取り組み、小学校教員としての授業実践力をつける。</p>	
		初等社会科教育法Ⅰ	<p>小学校の学習指導要領の「社会科」を解説する。とりわけ小学校3～4年は地域学習、5年生は産業学習、6年生は日本史と憲法学習であることを説明する。日本史は42人の具体的な名前を挙げて「例えばこの人物を教えること」と例示されており、それぞれの人物がどのような業績を上げた人物なのか、具体的な模範授業を通じて示す（例として杉田玄白、ペリー、野口英世）。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 小学校の教科指導法	初等社会科教育法Ⅱ	子どもの心を揺さぶるような社会科の授業はどのようにして設計されるのか、その基本的なノウハウを教授する。社会科の授業の面白さの本質は、アクティブラーニングなどの学習方法以前に、教育内容の「意外性」と「ストーリー性」であることを講義し、意外性を盛り込むためにはどのようなリサーチが必要なのかを説明する。そのうえで、実際に学生にリサーチを行わせ、模擬授業プランをレポートとして提出させる。	
	初等算数科教育法Ⅰ	算数科の目標と内容、指導法についての知識及び技能や考え方を身につけるために、算数科の目標とその特質、内容とその構造についての知見を基に、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域における授業の視聴とその検討を通して、個別の学習内容における児童の認識・思考や、指導上の留意点等、算数科の指導法についての知見を得る。	
	初等算数科教育法Ⅱ	算数科の指導法についての実践的な知識及び技能や考え方を身につけ、算数科の授業を設計することができるようになるために、算数科における教材研究、授業の設計、情報機器及び教材の活用、学習評価についての知見を得て、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を実現する授業を設計し、模擬授業とその振り返りを行い、さらに算数科の実践研究とその課題について学ぶ。 (オムニバス方式／全8回) (69 伊藤伸也／1回、2回、3回、4回、7回、8回) 算数科における教材研究とその方法、授業の設計、情報機器及び教材の活用、学習評価、算数科の実践研究とその課題について講義し、本科目を総括し展望を示す。 (43 米田力生／5回、6回) 算数科授業の構想と学習指導案の作成、模擬授業とその振り返りを行う。	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
	初等理科教育法Ⅰ	本授業は、小学校理科の学習指導要領に基づいた解説や具体的な授業実践例を通して、理科の目標、子どもに育成する能力、指導技術、教材内容について理解し、小学校における理科教育の基本的事項を習得することを目的としている。とくに、小学校理科の目標については、理科を学ぶ意義について、内容については、具体的な教材を例に教材の工夫や内容区分の意義について理解する。また、理科における見方・考え方に基づく思考と問題解決の能力、さらに、主体的な学習のための工夫について授業実践事例を通して理解する。	
	初等理科教育法Ⅱ	本授業は、小学校理科の学習指導要領に基づいた解説や授業実践例を通して、理科の指導計画、指導技術、教材内容、評価方法について理解し、小学校における理科教育の基本的事項を習得することを目的としている。小学校の教材を例に具体的な単元構成と指導案の作成を行い、作成した指導案にもとづく模擬授業と模擬授業の評価を行う。その際、理科における学習評価、学習形態の工夫や学級経営のありかたについて検討する。また、理科における情報機器の活用や、理科における事故防止と理科室の管理運営についても考慮するようにする。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 小学校の教科指導法	初等生活科教育法Ⅰ	小学校の家庭科の授業を担当するために、必要な知識、技能、態度を獲得し育成することを目的とする。小学校の家庭科の授業実践を想定し、そのために必要とされる家庭科教育の基礎的な教育原理、教育方法などについて理解し、知識や技能を習得する。小学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容の学問的背景や社会的状況、教材研究、指導法、情報機器及び教材の活用法、カリキュラムや授業の構想、模擬授業等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。内容論では、主として食生活、衣生活、住生活について講義する。課題等により予習・復習を促す。	
	初等生活科教育法Ⅱ	小学校の家庭科の授業を担当するために、必要な知識、技能、態度を獲得し育成することを目的とする。小学校の家庭科の授業実践を想定し、そのために必要とされる家庭科教育の基礎的な教育原理、教育方法などについて理解し、知識や技能を習得する。小学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容の学問的背景や社会的状況、教材研究、教材開発、指導法、情報機器及び教材の活用法、カリキュラムや授業の構想、模擬授業等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。内容論では、主として家族・家庭生活、消費生活・環境について講義する。課題等により予習・復習を促す。	
	初等音楽科教育法Ⅰ	学習指導要領における小学校音楽科の目標および内容等を総合的に理解し、学習指導案の作成につなげることができる。講義では、音楽科教育に関する理論的内容を中心に扱い、授業を組織するための基礎的な内容を学修する。特に、目標論と評価論、音楽科の授業構成についての歴史の変遷を踏まえ、学習指導要領を相対化し、今後の授業のあり方を展望できるための素地を身につける。講義の期間中にはレポート課題によって、学修内容の定着をはかる。	
	初等音楽科教育法Ⅱ	学習指導要領における小学校音楽科の目標および内容等を総合的に理解し、学習指導案を作成し模擬授業として実践する。講義では、音楽科基礎AB及び初等音楽科教育法Ⅰでの学修をもとに、学習指導要領における教科内容やそれらを踏まえた学習指導計画を、授業構成に関する理論を援用しつつ作成できるようにする。また、模擬授業の実践を通して、授業を省察するための視点を獲得し、自律的な授業改善を実現するための素地も身につける。	
	初等図画工作科教育法Ⅰ	(概要) 小学校図画工作科の教育課程及指導法の基礎知識・技能を身につけるとともに、同教科の意義、目標、内容、方法について理解を深める。 (オムニバス方式/全8回) (44 鷺山靖/1回、2回、3回、4回) 算小学校図画工作科の意義、目的を学ぶ。 (151 江藤望/5回、6回、7回、8回) 学習指導要領を踏まえた教科の内容を習得する	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
	初等図画工作科教育法Ⅱ	(概要) 初等図画工作科教育法Ⅰの学習に基づき、引き続き図画工作科の教育課程及指導法の基礎知識・技能を身につけるとともに、同教科の意義、目標、内容、方法について理解を深める。 (オムニバス方式/全8回) (151 江藤望/1回、2回、3回、4回) 学習指導要領を踏まえた教科の内容を習得する (67 池上貴之/5回、6回、7回、8回) 情報機器及び教材の活用を含む基礎的な授業方法を理解するとともに模擬授業等の演習を通して授業技能を身につける。	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	小学校の教科指導法	初等家庭科教育法Ⅰ	小学校の家庭科の授業を担当するために、必要な知識、技能、態度を獲得し育成することを目的とする。小学校の家庭科の授業実践を想定し、そのために必要とされる家庭科教育の基礎的な教育原理、教育方法などについて理解し、知識や技能を習得する。小学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容の学問的背景や社会的状況、教材研究、指導法、情報機器及び教材の活用法、カリキュラムや授業の構想、模擬授業等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。内容論では、主として食生活、衣生活、住生活について講義する。課題等により予習・復習を促す。	
			初等家庭科教育法Ⅱ	小学校の家庭科の授業を担当するために、必要な知識、技能、態度を獲得し育成することを目的とする。この講義では、小学校の家庭科の授業実践を想定し、そのために必要とされる家庭科教育の基礎的な教育原理、教育方法などについて理解し、知識や技能を習得する。小学校家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教育内容の学問的背景や社会的状況、教材研究、教材開発、指導法、情報機器及び教材の活用法、カリキュラムや授業の構想、模擬授業等について、アクティブ・ラーニングを取り入れながら理論と授業実践の両面から検討する。内容論では、主として家族・家庭生活、消費生活・環境について講義する。課題等により予習・復習を促す。	
			初等体育科教育法Ⅰ	(概要) 本科目では体育科教育における教科目標論、教科内容論、学習指導論、教育課程論の基礎理論を理解し、体育科教育の全体構造を理解する。 (オムニバス方式／全8回) (83 横山剛士／1回, 2回, 3回, 4回, 5回, 6回) 体育科教育に関する基本的事項である目標・内容論、学習指導要領の変遷・特徴、学習指導論等について理解する。 (21 岩田英樹／7回, 8回) 体育科保健領域における授業づくりと、模擬授業と省察を演習形式で行う。	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
			初等体育科教育法Ⅱ	(概要) 体育科教育の各領域における目標・内容・方法・評価について検討することで、各領域における具体的な指導上の留意点について理解する。 (オムニバス方式／全8回) (83 横山剛士／1回, 2回, 3回, 4回, 5回, 6回) 体育科における指導実践に関わる授業計画、学習評価を演習形式、模擬授業・省察で学習する。 (21 岩田英樹／7回, 8回) 中学年、および高学年を対象とした体育科保健領域における具体的な指導上の留意点について取り上げる。	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
			初等英語科教育法Ⅰ	英語科教育における教授・学習の理論や学習指導要領の理念に基づいた効果的な教育実践のあり方について考察する。主にコミュニケーション、第二言語習得理論、学習指導要領、インプットとアウトプット等を中心に引き上げ、理論的・実践的に学ぶ。教員による解説に加え、受講生が各自指導の原理・原則など土台となる考え方を確立していくために、各自の経験や知識を踏まえて議論できる機会を設ける。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	小学校の教科指導	初等英語科教育法Ⅱ	英語科教育における教授・学習の理論や学習指導要領の理念に基づいた効果的な教育実践のあり方について、主に5領域の言語活動及び評価等を中心に取り上げ、実践的に学ぶ。教員による解説に加え、受講生が各自指導の原理・原則を踏まえながら、模擬授業やリフレクションを通して、指導法・指導技術を確立することを目指す。	
		中学校・高等学校の特別支援教育Ⅰ	インクルーシブ教育の理念を含めた特別支援教育に関する制度及び教育課程を踏まえ、中学校・高等学校段階における特別な支援を必要とする生徒の障害等の特性と心身の発達、ならびに支援の方法を理解することを目的として、本講義では中学校・高等学校段階における個別の教育的ニーズを理解するために必要な知識及び支援方法に焦点をあてて講義を行う。	メディア
		中学校・高等学校の特別支援教育Ⅱ	インクルーシブ教育の理念を含めた特別支援教育に関する制度及び教育課程を踏まえ、中学校・高等学校段階における特別な支援を必要とする生徒の障害等の特性と心身の発達、ならびに支援の方法を理解することを目的として、本講義では中学校・高等学校段階における個別の教育的ニーズに対して、他の教員及び家庭や関係者と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識及び支援方法に焦点をあてて講義を行う。	メディア
	先進的教育科目（共通領域）	石川県の教育実践Ⅰ	石川県の魅力ある教育実践を主に各教科の指導法の教員が講義する。石川県は全国的にみて非常に学力の高い県である。一方で、江戸時代・加賀藩による手厚い文化政策の歴史は進取の気性をもって現在まで息づき、能登半島の里山里海は世界農業遺産に指定された豊かな生物資源や農林漁法、歴史ある農耕に関連する文化・祭礼、美しい景観をもつ。「美しい金沢・石川」の教育実践は、こういった稀な地域性を基盤としてあり、地元ならではの特徴ある実践と普遍的な学力形成への取り組みについて講義する。 (オムニバス方式／全8回) (24 折川司／1回) 国語の指導法における石川県の実践的な取組み (69 伊藤伸也／2回) 算数・数学の指導法における石川県の実践的な取組み (37 松原道男／3回) 理科の指導法における石川県の実践的な取組み (38 村井淳志／4回) 社会科の指導法における石川県の実践的な取組み (45 綿引伴子／5回) 家庭科の指導法における石川県の実践的な取組み (29 滝口圭子／6回) 幼児教育の指導法における石川県の実践的な取組み (24 折川司／7回) 県内市町教育委員会取組みや学校現場の最新の実践 (全員／8回 ※まとめ) 各教科の取組みを比較し、教科を超えた多様な視点から取組みを理解する。	メディア オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 先進的教育科目（共通領域）	石川県の教育実践Ⅱ	<p>「石川県の教育実践Ⅰ」に引き続き、石川県の魅力ある教育実践を主に各教科の指導法の教員が講義する。石川県は全国的にみて非常に学力の高い県である。一方で、江戸時代・加賀藩による手厚い文化政策の歴史は進取の気性をもって現在まで息づき、能登半島の里山里海は世界農業遺産に指定された豊かな生物資源や農林漁法、歴史ある農耕に関連する文化・祭礼、美しい景観をもつ。「美しい金沢・石川」の教育実践は、こういった稀な地域性を基盤としてあり、地元ならではの特徴ある実践と普遍的な学力形成への取り組みについて講義する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(44 鷺山靖／1回) 石川県教育委員会の取組や学校現場の最新の実践 (287 篠原秀夫／2回) 音楽教育の指導法における石川県の実践的な取組み (44 鷺山靖／3回) 図画工作・美術の指導法における石川県の実践的な取組み (83 横山剛士／4回) 体育の指導法における石川県の実践的な取組み (33 土井妙子／5回) 生活科の指導法における石川県の実践的な取組み (30 滝沢雄一／6回) 英語の指導法における石川県の実践的な取組み (80 森慶恵／7回) 保健指導や保健学習における石川県の実践的な取組み (全員／8回 ※まとめ) 各教科等の取組みを比較し、教科を超えた多様な視点から取組を理解する。</p>	メディア オムニバス方式
	国際化と学校教育Ⅰ	<p>学校において外国語を教えることの意味を考えるために、国際化との関連から学校教育を概観する。この授業では、海外（アメリカ・台湾・スウェーデン）の小学校における外国語教育と、日本における外国語教育の現状の比較を軸にして、日本における外国人児童に対する日本語教育の現状などとも比較しながら考察する。受講生は地域における非日本語母語話者の就学状況を調査し、学校現場の対応方策についてレポートを作成していく。</p>	メディア
	国際化と学校教育Ⅱ	<p>この授業では、国際化と学校教育の関連という視点から、二言語併用（バイリンガリズム）を軸として日本語母語話者に対する外国語教育、および非日本語母語話者に対する日本語教育について考察する。また、海外では移民の子どもに対してどのような外国語教育が行われているかを受講生はおのおの調査し、日本の現状との比較・分析等を行う。</p>	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	先進的教育科目 (共通領域)	SDGs教育実践演習Ⅰ	2015年に国連サミットで制定された持続可能な開発目標であるSDGsは、学校教育においても実施すべき必須の課題である。本授業ではまず、金沢市におけるSDGsの実践を学ぶことでSDGsへの理解を深める。次に、専攻する教科のメンバーでプロジェクトチームを編成し、その教科の視点から身近なSDGsの課題設定と課題解決に向けた具体的なプランを作成する。最後に提案したSDGsのプランが学校教育の実践にいかに関与できるかを考察する。	メディア
		SDGs教育実践演習Ⅱ	教科を横断したメンバーでグループ(計24グループ)を編成し、さまざまな専門の立場から協働してSDGsの実践に取り組む。まず、各グループで地方自治体が抱えるSDGsの課題を調査する。その課題に対して関係者にインタビュー調査を実施し、課題となっている具体的な問題を浮彫にする。さらに、課題解決に向けた具体的なプロジェクトを計画し、最後に自治体の担当者にその計画を提案する。	メディア
専門教育科目	幼児教育	幼児と健康	(概要) 領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動の発達などの専門的事項についての知識・理解の獲得と指導法を身につけることを目標としている。幼児期の健康に関する現代的課題についての基本的な考え方を講義形式で学んだ後、実際に運動を体験し、幼児の多様な動きを理解し、これらの動きを引き出す環境構成について学ぶ。 (オムニバス方式/全8回) (92 澤聡美/1回, 2回, 3回, 6回, 7回, 8回) 幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、運動の発達について解説・実演する。 (55 西館有沙/4回, 5回) 乳幼児の怪我や病気の特徴やそのリスクについて、ヒヤリハット事例や事故事例、症例等を用いた演習を行う。また、子どもへの安全教育や安全および健康の管理について解説し、環境構成や実際の援助について演習を行う。	オムニバス方式 (富山クラスのみ)
		幼児と人間関係(社会性の発達と現代的課題)	領域「人間関係」の指導の前提となる乳幼児期に発達する社会性に関する専門的事項についての知識を身につけるために、乳幼児期に発達する社会性の能力および特性を取り上げる。特に幼児期に発達が著しい自己と他者の理解、他者への援助といった向社会的行動、自己主張や自己抑制を含むセルフコントロール、対人関係の葛藤場面における社会的問題解決能力の発達について概説する。上記の内容に併せて、仲間や保育者とのような関係を築くのか概説する。	メディア
		幼児と言葉	幼児期の言葉の発達に関する基礎的専門的事項について、次に、幼稚園における言語環境や言葉に関する教材について、さらに、小学校との接続を視野に入れた言葉の指導について講義する。そして、幼児期の言葉の発達を促し支える保育内容、保育における周囲の幼児とのかわり、保育者とのかわりに関する基礎的な知識や態度を伝え、具体的な保育場面を想定しながら検討する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 科目 幼児 教育	<p>保育内容(健康) (健康に関する現代的課題を含む)</p> <p>幼児の身体発育や精神発達、幼児期の疾病や起こりやすい事故を理解し、健康観察、保健管理・安全管理、保護者への指導について説明することができるようになることを目的とする。幼児の心身の健康から「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を具体的に考えることを目指して、乳幼児期の身体発育と生理機能や運動機能、心身の健康状態とその把握、安全に対する配慮と応急処置、乳幼児の疾病の予防と対応などについて学ぶ。</p>	メディア
		<p>保育内容(人間関係)</p> <p>幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解することと、領域「人間関係」が、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことを目指すものであることを理解する。くわえて、遊びの中の人とのかかわり、保育の中の協同的活動、園外での人との関わり、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と領域「人間関係」の関係について概説する。</p>	
		<p>人間関係の指導法</p> <p>初めに領域「人間関係」のねらいと内容を習得する。次に、設定保育における人間関係の指導法(ソーシャルスキル教育・ルールのあるゲーム遊び等)の指導事例を通して、保育の指導法を学ぶ。さらに、人間関係の形成に配慮を要する幼児の特徴や、情報機器を活用した指導法を学ぶ。これらの知識を踏まえて設定保育の指導案を立案し、模擬保育を通して指導上の配慮点・留意点などを体験的に習得する。さらにいくつかの指導事例を通して、自由遊び場面における保育者の言葉かけや指導の方法を習得する。</p>	
		<p>保育内容(環境)(環境に関する現代的課題を含む)</p> <p>幼稚園教育要領の領域「環境」のねらいと内容を踏まえ、現代的課題も考慮しながら、子どもの環境と乳幼児期の発達との関連性を理解し、保育環境のあり方を考察することを授業目標とする。本授業では、領域「環境」のねらいと内容を踏まえた上で、事例検討や体験学習を通して、保育環境を構成する要素を知り、身近な環境を活かした保育の方法や室内外の環境構成について検討する。</p>	メディア
		<p>環境の指導法(現代的課題を踏まえた石川などの地域の保育実践と最新指導事例を含む)</p> <p>幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい、内容、指導上の留意点を理解し、保育を具体的に構想する方法を身に付けることを授業目標とする。本授業では、領域「環境」のねらい、内容、指導上の留意点等を踏まえた上で、石川などの地域の幼稚園教育実習の録画を、保育指導案と照合しながら視聴し、領域「環境」の視点から協議する。その後、保育指導案を作成し、模擬保育に基づいて討論する。</p>	メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 幼児教育	保育内容(言葉) (言葉に関する現代的課題を含む)	幼稚園教育要領に示されている幼稚園教育の基本及び、領域「言葉」のねらい・内容・全体構造・指導上の留意点・評価の考え方、小学校教科等との繋がり、言葉に関する現代的課題として、障害や外国籍等により言葉に遅れや困難がある幼児の配慮や援助について解説する。また、ラーニングマップ作りを通して、領域「言葉」を中心とした幼児教育のねらいや内容、全体構造等について、言葉に関する現代的課題を含め、具体的に検討する。	メディア
	保育内容(表現) (表現に関する現代的課題を含む)	(概要) 幼児期の表現の発達を学び、「表現」の自由さや楽しさを体験的に理解し、互いの「表現」を鑑賞することの喜びを味わう。「表現」の支援、現代的課題、情報機器及び教材の活用を図る保育を考え、指導法の基礎知識・技能を身につけることを授業目標とする。 (オムニバス方式/全8回) (44 鷺山靖/1回, 2回, 3回, 6回, 7回, 8回) 領域「表現」の「ねらい、内容、内容の取扱い」を解説し、合奏指導の実際を説明した後、楽器の指導における情報機器の活用を検討する。また、造形表現の素材・用具、教材の特性と現代的課題を解説し、指導における情報機器及び教材の活用を検討する。 (82 山田哲/4回, 5回) 身体表現と幼児期の発達を解説し、幼児期の身体表現と表現に関する現代的課題とその指導における情報機器及び教材の活用を検討する。	メディア オムニバス方式
	幼児理解の理論と方法	幼児理解の意義、基本的な理論や態度を習得し、具体的な場面で適切な方法を選択するよう努める態度を獲得することを授業目標とする。本授業では、幼児理解の意義、理論及び方法、遊びを通しての総合的な指導、環境を通して行う教育を踏まえて適切な方法を選択することを学ぶ。そして、個と集団の関係や発達につまずきのある幼児の理解、保護者支援についての基礎知識、幼小接続期の実態と課題等について学ぶ。	
	幼児理解と相談支援	初めに幼稚園教育要領等に基づき、幼児理解の意義・必要性を学ぶ。次に、幼児理解に必要な心理学理論を学ぶ。具体的には、気質の理論・愛着の理論・学習理論(行動理論)、集団の中での幼児の関係性の発達のとらえ方を学ぶ。さらに幼児理解の方法(行動観察・チェックリスト等)について学び、こうした情報に基づいた保育カンファレンスの意義についても学ぶ。これらを踏まえて、幼児理解に基づいた保育における支援方針を立案できるようになる。さらにカウンセリングに関する基礎知識と保護者支援に関する基礎知識を習得する。	
発達心理学 I	最新の乳幼児期の発達に関する理論や知見を体系的に理解するとともに、学生自身が調べて発表することを通じて、プレゼンテーションの技術の向上も目指す。乳幼児期の発達として取り上げる内容としては、発育の基盤となる感覚と運動の発達、養育者との安定した関係を意味するアタッチメントの発達、知的な能力を含む認知の発達、人間関係などの社会性の発達、感情と自己の発達、幼児期の活動として最も重要なものとして考えられている遊びの発達をとりあげる。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	幼児教育	発達心理学Ⅱ	最新の児童期以降の発達に関する理論や知見を体系的に理解するとともに、学生自身が調べて発表することを通じて、プレゼンテーションの技術の向上も目指す。児童期の発達として取り上げる内容としては、読み書き算数を含む言語と思考をめぐる発達、アイデンティティの確率に代表される青年期の心身の発達、キャリア形成と中年に聞きを含む成人期の心身の発達、死を迎えるにあたって老年期の発達、発達障が等を含む非定形の発達、発達の生物学的基礎についてとりあげる。	
		乳幼児心理学特講Ⅰ	乳幼児の心身の発達を理解する上で不可欠となる基礎知識ならびに技術を身につけるために、乳幼児の発達をとらえるための具体的な方法を概観する。特に発達には量的側面と質的側面の変化があることや、子どもの発達を理解する上での注意点について理解を深めるとともに、具体的な方法として、子どもを第三者的な視点から捉える観察法、および子どもを取り巻く社会的環境や家庭環境を理解するための調査法を取り上げ、その概要と実際について学ぶ。	
		乳幼児心理学特講Ⅱ	乳幼児の心身の発達を理解する上で不可欠となる基礎知識ならびに技術を身につけるために、乳幼児の発達をとらえるための具体的な方法を概観する。具体的な方法として、直接対面して子どもの言葉を引き出す面接法、および知能検査などの検査道具を用いて子どもの状況や得意不得意をするための診断法を取り上げ、その概要と実際について学ぶ。また、近年では、担任保育士一人で子どもを理解するのではなく、園としてチームで子どもを理解することが推奨されていることから、チームで発達を捉えるための方法についても学ぶ。	
		乳幼児心理学演習Ⅰ	乳幼児の心身の発達を理解したり、子育てや教育・保育を考えたりする上でエビデンスとなる教育・保育の統計データを読み解くことは不可欠であり、そのために必要な統計的基礎知識・技術を身につけ、自身で子どもを取り巻く生活環境と人間関係に関するデータが示す意味を読み取れるようになることを目指す。特に、エビデンスが一体何を指すのか、記述統計や推測統計の意味、教育・保育の量的データの読み解き方について、実際の教育・保育の統計データを参照しながら学んでいく。	
		特別支援教育	特別支援教育基礎論Ⅰ（石川県の教育実践を含む）	障害・疾病・発達困難等の特別な教育的ニーズを有する子どもの教育と発達支援について探求していくための基本的知識・理解や原理的視座の獲得を目標として、本講義では特別支援教育・特別ニーズ教育の歴史的経緯および国内外の動向を視野に入れながら、特別支援教育・特別ニーズ教育に関わる基本的理念・原理・歴史について講義を行う。

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	特別支援教育	病気・障害・不適応の発達支援論Ⅰ	病気・障害・不適応等の特別な教育的ニーズのある子ども・若者の発達の理解を深め、発達支援の必要性に関する理論・知識の習得と理解の深化を目的として、本講義では 病気・障害・不適応の当事者の手記や当事者への調査研究、国内外の動向を視野に入れながら、病気・障害・不適応の子ども・若者が有する発達上の困難と教育的ニーズを理解することに焦点をあてて講義を行う。	
		病気・障害・不適応の発達支援論Ⅱ	病気・障害・不適応等の特別な教育的ニーズのある子ども・若者の発達の理解を深め、発達支援の必要性に関する理論・知識の習得と理解の深化を目的として、本講義では 病気・障害・不適応の当事者の手記や当事者への調査研究、国内外の動向を視野に入れながら、個別の教育的ニーズに対して、他の教員及び関係者と連携しながら組織的に対応していくために必要な理論・知識及び支援方法に焦点をあてて講義を行う。	
		知的障害児の心理・生理・病理Ⅰ	すべての子どもたちが自立し、社会参加するために必要な力を培うためには、子ども一人一人の能力や特性を把握し、適切な指導および支援を行うことが必要である。本講義では知的障害・発達障害のある子どもの心理及び生理・病理面について、発達の観点から理解する。また、知的障害・発達障害のある子どもの心理学的特性及び生理・病理面の特徴に関する評価法を概説し、特性を踏まえた支援や配慮について検討する。	メディア
		知的障害児の心理・生理・病理Ⅱ	すべての子どもたちが自立し、社会参加するために必要な力を培うためには、子ども一人一人の能力や特性を把握し、適切な指導および支援を行うことが必要である。本講義では知的障害・発達障害の原因の背景にある脳の発生、構造、機能について理解するとともに、その障害によって生じる疾患、やその原因・病態および評価法を概説する。	
		聴覚障害の心理・生理・病理Ⅰ（教育・医療・福祉の機関連携を含む）	特別支援教育の聴覚障害者領域の専門知識・技能を深め、聴覚障害の医療的な側面と心理的な側面について理解を深めることを目標として、本講義では音声信号の伝達経路をたどり、聞こえの仕組みと聴覚障害の発生機序およびリハビリテーションについての基本的な知識について講義を行う。また純音聴力検査の実習や簡単な手話についての学習を行う。	メディア
		聴覚障害の心理・生理・病理Ⅱ（教育・医療・福祉の機関連携を含む）	特別支援教育の聴覚障害者領域の専門知識・技能を深め、聴覚障害の医療的な側面と心理的な側面について理解を深めることを目標として、本講義では聴覚障害の心理・生理・病理Ⅰの学習内容をふまえ、語音聴力検査の方法や実習、聴覚障害児の言語や認知の特性やその評価法、手話の獲得とその評価、ろう重複障害の心理的特性について講義を行う。	メディア
		知的障害教育課程・指導論Ⅱ	知的障害のある子どもの発達特性や知的障害に伴う困難性をふまえた教育内容・方法や学校教育として必要な教育実践について理解することを目標として、本講義では国内外の動向を視野に入れながら、知的障害を有する子どもの発達の理解を深め、知的障害を有する子どもが能動的に学べるような教育目標設定や教育課程編成の理論と方法について講義を行う。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 特別支援教育	肢体不自由教育論Ⅰ (教育の現代的課題を含む)	この授業では「生活」と発達に焦点をあて、障害者と自己決定権の育成について考える。肢体不自由のある子どもの発達環境としての生活実態と課題、運動機能に障害がある子どもの認知発達を理解し、自己に対する適正な認識と自他理解に基づく社会的認知発達の視点から、自己決定能力を育成する「生活」のあり方と支援について講義を行う。	メディア
	肢体不自由教育論Ⅱ (教育の現代的課題を含む)	この授業では「学校教育」と発達に焦点をあてる。まずは、障害者と自己決定権について確認する。自己決定には自己認識と生活世界の知識が必要である。その上で、肢体不自由のある子どもの学習・発達環境としての教育の課題を整理する。これらを踏まえ、幼児期・小学部から高等部に至るライフステージに即した教育活動を教育課程と指導法の視点から吟味し、自己決定する力を育成する学校教育について講義を行う。	メディア
	聴覚障害教育課程論Ⅰ	特別支援教育の聴覚障害者領域の教育課程及び指導法の基礎知識・技能を身につけ、知識の獲得だけでなく、背後にある理念や制度と教育実践との関連を具体的にイメージし、自ら洞察を深めていく態度を養うことを目標とし、本講義では聴覚障害児教育における教育課程の歴史の変遷、理念、目的を概説し、聴覚障害児教育のあり方について理解を深める。。	メディア
	聴覚障害教育課程論Ⅱ	特別支援教育の聴覚障害者領域の教育課程及び指導法の基礎知識・技能を身につけ、知識の獲得だけでなく、背後にある理念や制度と教育実践との関連を具体的にイメージし、自ら洞察を深めていく態度を養うことを目標とし、本講義では聴覚障害児教育における教育課程及び指導法を概説し、聴覚障害児教育のあり方について講義を行う。	メディア
	聴覚障害指導法Ⅰ	特別支援教育の聴覚障害者領域の教育課程及び指導法の基礎知識・技能を身につけるため、この授業では教育学的、心理学的な側面から、ろう児の指導方法や心理的側面について扱う。ろう教育の歴史の変遷やろう児の言語獲得について講義を行い、聴覚障害児教育について自ら考えるために必要な基本的な知識を得る。	メディア
	聴覚障害指導法Ⅱ	特別支援教育の聴覚障害者領域の教育課程及び指導法の基礎知識・技能を身につけるため、この授業では教育学的、心理学的な側面から、ろう児の指導方法や心理的側面について扱う。ろう教育の指導方法の実際、補聴器の役割、人工内耳など聴覚障害児の教育と指導法について講義を行い、聴覚障害児教育について自ら考えるために必要な基本的な知識を得る。	メディア
	手話序論Ⅰ	近年、ろう教育の中にも手話が導入され、聴覚障害児を指導する上で教員の手話力が求められている。本講義は手話に関する基本的な知識を習得すると同時に、簡単な手話表現を学習し、以後の手話習得の意欲を高めるための講義である。手話の言語的特徴、手話と手話に関わる諸問題についての理解、自己紹介程度の簡単な手話表現の学習を主な目標とする。	
	手話序論Ⅱ	近年、ろう教育の中にも手話が導入され、聴覚障害児を指導する上で教員の手話力が求められている。本講義では手話序論Ⅰで学んだ内容をふまえ、手話の言語的特徴、手話と手話に関わる諸問題についての理解、自己紹介程度の簡単な手話表現の学習を手話スキットの練習を通して、手話文法の理解を深め、またろう者にかかわる文化や社会についてもあわせて学ぶ。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 特別支援教育	発声発語支援法Ⅰ	発声発語 (speech) の特徴や発声発語産出のメカニズム及び、聴覚障害のある児童生徒の発声発語の特徴や、評価、指導・支援方法の概要を理解するため、本授業では聴覚障害がある児童生徒の多くが困難を示す発声発語 (speech) について、生理学、言語学、心理学等の様々な側面から、その特徴やメカニズムを解説する。さらに、聴覚障害のある児童生徒の発声発語の特徴やその指導・支援の概要を解説する。	メディア
	発声発語支援法Ⅱ	聴覚障害のある児童生徒の評価、指導・支援方法及び、知的障害、言語障害等がある児童生徒の発声発語の特徴や評価、指導・支援方法を理解するため、本授業では聴覚障害のある児童生徒の発声発語 (speech) の評価、指導・支援方法について、具体例を示しながら解説する。さらに、知的障害や言語障害 (構音障害、吃音等) がある児童生徒の発声発語の特徴や評価、指導・支援方法について解説する。	メディア
	障害児教育基礎論Ⅰ	(概要) 障害のある子どもたちの教育について学ぶにあたって、各障害の基礎的な知識やそれぞれの障害児の応じた教育の現状について理解するために、本講義では、聴覚障害、視覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱の各障害について、生理、心理、教育の側面からその特性を講義する。 (オムニバス方式/全8回) 5人の特別支援教育関係教員が各障害の生理・心理・教育的側面から概説する。 (42 吉川一義/1回, 2回, 8回) 肢体不自由、病弱についての概説的な講義を行うとともに、講義の全体的なコーディネートを担当する。 (27 小林宏明/6回) 言語障害についての概説的な講義を行う。 (31 武居渡/3回, 4回) 視覚障害、聴覚障害についての概説的な講義を行う。 (85 吉村優子/7回) 発達障害に関する概説的な講義を行う。 (73 田部絢子/5回) 知的障害に関する概説的な講義を行う。	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 特別支援教育	障害児教育基礎論Ⅱ	<p>(概要) 障害のある子どもたちの教育について学ぶにあたって、子どもたちが学ぶ特別支援学校や特別支援学級の具体的な実践について現場教員から学ぶため、本講義では聴覚障害、視覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱の各障害について、特別支援学校や特別支援学級の具体的な子どもたちの姿と実践を取り上げ、講義する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回) 各障害について、学校現場等で実際に指導にあっている教員や支援者から、各障害に応じた具体的な実践や指導について解説をする。 (42 吉川一義／4回、5回、8回) 病弱児及び肢体不自由児を指導する現場教員とともに、学校現場における実践を取り上げ、解説する。 (27 小林宏明／6回) 言語障害児を指導する現場教員とともに、学校現場における実践を取り上げ、解説する。 (31 武居渡／1回、2回) 視覚障害児、聴覚障害児を指導する現場教員とともに、学校現場における実践を取り上げ、解説する。 (85 吉村優子／第7回) 発達障害児を指導する現場教員とともに、学校現場における実践を取り上げ、解説する。 (73 田部絢子／3回) 知的障害児を指導する現場教員とともに、学校現場における実践を取り上げ、解説する。</p>	オムニバス方式
	ことばの障害とコミュニケーションⅠ	<p>本授業では言語やコミュニケーションに困難のある児童生徒の特徴や困難、その背景にある障害（言語障害、発達障害、知的障害、聴覚障害等）について解説する。さらに、これらの児童生徒との関わりや指導・支援における留意点について、事例を示しながら解説したり、グループディスカッションを通して具体的に検討したりする。</p>	
	ことばの障害とコミュニケーションⅡ	<p>本授業では、言語やコミュニケーションに困難のある児童生徒に対する特別支援教育の制度（通級指導、特別支援学級の弾力的運用、「チーム学校」による指導・支援等）について解説する。さらに、通級指導等で行われる個別の指導・支援の目的や内容、方法について、事例を示しながら解説したり、グループディスカッションを通して具体的に検討したりする。</p>	
	発達障害指導法Ⅰ	<p>発達障害のある子どもへの指導・支援を推進していくためには、個々の特性を理解し、特性から生じる生活上及び学習上の困難さ、支援ニーズをもとに支援を行っていく必要がある。本講義では発達障害のうち、特に自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動性障害の定義や実態（困難さと背景要因）について概説し、発達障害のある子どもの支援の在り方、実践指導法について理解を深める。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 特別支援教育	発達障害指導法Ⅱ	発達障害のある子どもへの指導・支援を推進していくためには、個々の特性を理解し、特性から生じる生活上及び学習上の困難さ、支援ニーズをもとに支援を行っていく必要がある。本講義では、発達障害のうち、主に学習障害、協調運動の障害等の定義や実態（困難さと背景要因）を理解し、発達障害のある子どもの支援の在り方、実践指導法について理解を深める。	
	言語障害指導法	本授業では、吃音、言語発達の遅れを中心とした言語・コミュニケーション障害のある児童生徒に対する指導・支援（在籍学級での支援及び、通級指導や自立活動などの個別の支援）評価、指導・支援の目的や内容、方法について解説する。さらに、個別の指導の実際について、教育相談等の個別の指導場面の参観・参加、言語・コミュニケーション障害のある児童生徒の指導・支援に関する文献購読を通して体験的に学修する。	
	発達障害総論	特別な支援を必要とする子どもへの教育実践には、障害の特性、心身の発達を理解する必要がある。本講義では、発達障害について、その背景となる生物学的要因、発達段階や特性に関するアセスメント法、支援法について、近年の動向を踏まえて概説する。さらに、事例を通して支援の方略を検討するとともに、各発達段階における教育的対応について学ぶ。	
	重複障害児教育Ⅰ	今日、障害者の自己決定権の尊重と生活の質が叫ばれている。自分の意思を表明することが極めて困難な障害の重い子の場合、生活の質の向上とは、どのような内容なのか。誰が何に基づいて決めるのか。この授業では、障害の重い子どもを対象に外的環境の認知を促し、対人関係の成立を援助する取り組みについての基礎を学ぶ。	メディア
	重複障害児教育Ⅱ	今日、障害者の自己決定権の尊重と生活の質が叫ばれている。自分の意思を表明することが極めて困難な重症児の場合、生活の質の向上とは、どのような内容なのか。誰が何に基づいて決めるのか。この授業では、重症児を理解すること（重複障害児教育Ⅰ）に基づき、重症児の外的環境の認知を促し、対人関係の成立を援助する取り組みについて考察する。	
	障害児教育基礎演習Ⅰ	（概要）聴覚特別支援学校、知的障害特別支援学校、肢体不自由特別支援学校での教育実践活動に参加し、上記の障害のある子どもへの教育の各シーンを通して、 （１）子どもの障害と心理について学ぶ、（２）教師から関わり方を学ぶ、（３）教育の問題と課題を見つけ、今後の専門課程での学修への問題意識を得る。 （42 吉川一義） 肢体不自由特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。 （27 小林宏明） 知的障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。 （31 武居渡） 聴覚障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。 （85 吉村優子） 知的障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。 （73 田部絢子） 知的障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目	障害児教育基礎演習Ⅱ	<p>(概要) 聴覚障害特別支援学校、肢体不自由特別支援学校、知的障害特別支援学校での教育実践活動に参加し、上記の障害のある子どもへの教育の各シーンを通して、(1)子どもの障害と心理について学ぶ、(2)教師から関わり方を学ぶ、(3)教育の問題と課題を見つけ、今後の専門課程での学修への問題意識を得る。</p> <p>(42 吉川一義) 肢体不自由特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。</p> <p>(27 小林宏明) 知的障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。</p> <p>(31 武居渡) 聴覚障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。</p> <p>(85 吉村優子) 知的障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。</p> <p>(73 田部絢子) 知的障害特別支援学校における活動参加のリフレクションの指導助言を行う。</p>	共同
	特別支援教育学演習	<p>(概要) 本授業では、一人一人の障害の種類・程度等の困難性をふまえた教育内容・方法を理解したうえで、障害を有する子どもが能動的に学べるような教育方法を模擬的に実践し、協働省察することで特別支援教育に関わるうえでの専門的な力量を身に付ける。</p> <p>(42 吉川一義) 肢体不自由、重複障害の特性及び指導法に関する助言指導。</p> <p>(27 小林宏明) 言語障害の特性及び指導法に関する助言指導。</p> <p>(31 武居渡) 聴覚障害の特性及び指導法に関する助言指導。</p> <p>(85 吉村優子) 発達障害の特性及び指導法に関する助言指導。</p> <p>(73 田部絢子) 知的障害の特性及び指導法に関する助言指導。</p> <p>(18 宮一志) 病弱児の特性及び他機関との連携に関する助言指導。</p> <p>(58 水内豊和) 発達障害の特性及び生活支援に関する助言指導。</p> <p>(63 和田充紀) 知的障害の特性および指導法に関する助言指導。</p>	共同
	日本語学演習Ⅰ	<p>優れた文章を書くためには名文を読むことも大切であるが、児童・生徒をはじめ一般人にとっては名文を書くことよりも、悪文を書かないことの方が大切である。そして、自身が悪文を書かないようにするためには、身の回りの悪文に気づける能力の養成が重要である。この演習では、参考書『悪文 伝わる文章の作法』によって悪文の原因を概観し、その後は受講生が身の回りで見つけた悪文と思われるものを持ち寄って、悪文たる理由を発表し、受講生全員でそれが適切な指摘かを検討し、どのように直せば良いかについてディスカッションする。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	日本語学演習Ⅱ	<p>類義語の意味分析の方法を参考文献等から学び、受講生各自が選択した類義語の意味の違いを明らかにするために、従来の国語辞典の意味記述を批判的に検討するとともに、多くの用例を採集して分析し、レジュメにまとめて発表する。そして発表内容についての他の受講生とのディスカッションを通して、ことばの意味を記述することの面白さ、難しさを知るとともに、児童・生徒にもそのような体験をさせるための基礎知識を習得する。</p>	
	日本語史Ⅰ	<p>古代から現代に至るまでの日本語の歴史に関する基本的知識と、言語史に関する基本的な考え方について学ぶ。本授業では、日本語史に関する客観的な見方、音韻変化の年代および前後の変化との関係に関する知識、文字に関する諸問題を取り扱う。併せて、日本語史の資料となる代表的な文献とその特色を見ていく。日本語史に関する知識は、古典文（文語文）を読解・理解するうえで有益でもあるので、講義ではその点にも留意する。</p>	
	日本語史Ⅱ	<p>古代から現代に至るまでの日本語の歴史に関する基本的知識と、言語史に関する基本的な考え方について学ぶ。この授業では、文法・語法に関する変化、および各事項の相互関係に関する知識、書き言葉と話し言葉に関する諸問題を取り扱う。併せて、日本語史の資料となる代表的な文献とその特色を見ていく。日本語史に関する知識は、古典文（文語文）を読解・理解するうえで有益であることに留意する。</p>	
	日本語学講読Ⅲ	<p>国語科の教員をめざす者には、日本語という言語そのものに対する深い興味と理解が求められる。そこで、本授業では世界の中の一言語としての日本語の言語的特徴について、主として現代日本語の音声・音韻に関する諸問題を概観しながら、日本語の相対的な位置づけを確認した上で、日本語学の知見の応用可能性についても検討する。それによって、国語教育に必要な日本語の基礎知識を身につけることを目的とする。</p>	
	日本語学講読Ⅳ	<p>国語科の教員をめざす者には、日本語という言語そのものに対する深い興味と理解が求められる。そこで、本授業では世界の中の一言語としての日本語の言語的特徴について、主として現代の日本語の文字・表記、そして、語彙・意味に関する諸問題を概観しながら、適宜国語教育に関わるトピックを取り上げ、日本語学の知見の応用可能性についても検討する。それによって、国語教育に必要な日本語の基礎知識を身につけることを目的とする。</p>	
	日本文学演習Ⅰ	<p>中学校・高等学校国語科の国文学分野における知識と技能を身につける。おもに詩歌に関連する作品を対象とし、自分の言葉で作品の読み方をまとめていく。その過程を発表資料やレポートに書くことによって、考えを深めることを目指す。演習形式で授業を行う。それぞれ担当を定め、教員があらかじめ指定したテキストについての発表と討議をすすめていく。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 国語教育	日本文学演習Ⅱ	「日本文学演習Ⅰ」に引き続き、中学校・高等学校国語科の国文学分野における知識と技能を身につけることを目指す。教員が指定したテキスト（詩歌に関連するものを対象とする。）についての発表と討議を行う。担当者の発表を叩き台とし、教室全体で議論を交わし分析を深める。文献の入手・整理法や、立論・分析の方法などについて、模範発表や実際の発表過程で指導する。	
	日本文学演習Ⅲ	明治期から戦前昭和までの文学作品、特に小説をとりあげ、同時代の文化や社会との関係をふまえながら、作品世界の構造を論理的に分析して読解する能力を修得する。作品中の言葉が担う意味を、読み手が各自恣意的に理解するのではなく、作品が書かれた時代において、また作品の文脈においていかに理解するべきかを、客観的・論理的に理解する。各界で担当者が一作品についてレジュメを作成して発表し、教員・履修者と議論をおこなう。	
	日本文学演習Ⅳ	アジア・太平洋戦争終結後の文学作品、特に小説をとりあげ、同時代の文化や社会との関係をふまえながら、作品世界の構造を論理的に分析して読解する能力を修得する。戦後文学はそれ以前の文学と比較して内容の多様性が増し、方法やメタファーも多岐に亘っている。作品の言葉が持つ意味を詳細に検討し、その世界を理解する分析力を修得する。各界で担当者が一作品についてレジュメを作成して発表し、教員・履修者と議論をおこなう。	
	日本近現代文学Ⅰ	日本近現代文学が捉えた人間の生を、精緻な実証的分析と理論的枠組みの双方に目配りしながら分析する能力を修得する。日本近現代文学のテキストを、その根差す時代、社会、文化、場所をめぐる様々な問題に目を向けながら分析し、テキストの持つ世界構造を明らかにし、それが照らし出す問題について考察する。これによって小説や詩歌を精確に読解する能力を修得する。	メディア
	日本近現代文学Ⅱ	日本近現代文学の諸作品を構造や語り、細部の描写に注意しながら解釈し、文学作品が捉えた諸問題を理解し考察する能力を修得する。戦争、大災害、虐待その他個人的体験など、危機的体験の後を生きる人間の生を描いた文学テキストを取り上げ、文学を通じてこそ語られる諸問題について分析する。これによって小説や詩歌を精確に読解する能力を修得する。	
	日本古典文学Ⅰ	和歌を読み解く能力を養うことは、古典文学に対する理解を深める上でも重要なことである。なかでも勅撰集は当代の政治的・文化的潮流と強く関わっている。そこで本授業では、勅撰集成の成立事情や歌風等を起点として中古・中世和歌および各時代の著名な古典文学について学び、中学校・高等学校国語科の国文学分野で役立つ知識を身につける。	メディア
	日本古典文学Ⅱ	本授業では、「日本古典文学Ⅰ」で学んだ古典文学に関する基礎知識を活用しつつ、和歌作品の調査と分析を行う。発表担当者は事前に発表資料を示し、他の受講者はその資料を十分予習した上で発表と討議に取り組む演習形式の授業を行っていく。これらの活動を通じて、問題を自ら発見し、掘り下げ、解決していく力の獲得を目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	国語教育	日本文学史Ⅰ（教育上の現代的課題を含む）	中学校、高等学校の国語科を担当するに必須の、日本文学に関する基本的な知識と読解力を得られるよう、日本文学史と日本文学をめぐる諸問題（古今、話題となっている古典不要論などの現代的な問題を含む）を概観する。本授業では、中学校、高校の古典教材に取りあげられる作品を中心に学び、伝統的言語文化と文学の特質についての理解を深めていく。	メディア
			日本文学史Ⅱ（教育上の現代的課題を含む）	日本近現代文学分野の基礎知識・分析能力を修得し、日本文学をめぐる諸問題について認識を深め、教育上の現代的課題に対応する力を身につける。中学校、高等学校の国語科を担当するに必須の、日本近現代文学に関する基本的な知識と読解力を修得し、日本文学史と日本文学をめぐる諸問題を概観する。その上で、文学史の視点から教育の現代的課題を分析する。	メディア
			日本文学講読Ⅰ	明治から戦前昭和にいたる小説群を、本文の詳細な解析とともに同時代の思潮・言説をおさえて注釈的に理解し、登場人物の性格、作品の構造、その世界観を分析することをとおして、日本近代文学に関する基礎的な理解・読解能力を修得する。一言一句の解釈をゆるがせにせず、テキストを丹念に辿り、同時代の文脈に作品を置いてそのもつ意味を捉え、理解する。講義形式で作品を読解していくが、出席者との議論、意見交換を積極的におこない、主体的な読みの作業を進める。	
			日本文学講読Ⅱ	アジア・太平洋戦争終結後の小説群を、本文の詳細な解析とともに同時代の思潮・言説をおさえて注釈的に理解し、登場人物の性格、作品の構造、その世界観を分析することをとおして、日本近代文学に関する基礎的な理解・読解能力を修得する。一言一句の解釈をゆるがせにせず、テキストを丹念に辿り、同時代の文脈に作品を置いてそのもつ意味を捉え、理解する。講義形式で作品を読解していくが、出席者との議論、意見交換を積極的におこない、主体的な読みの作業を進める。	
			日本文学講読Ⅲ	中学校・高等学校国語科の国文学分野の知識と技能を身につけることを目的としている。本授業では、時代を問わず韻文やそれに関連する作品について適切に把握し、基礎的な知識を得る。また、それらを得ることによって平易な言葉で生徒に説明できること、作品の背景や韻文特有の言い回しなどについて、必要に応じて生徒に解説できることも目指す。	
			日本文学講読Ⅳ	「日本文学講読Ⅲ」に引き続き、中学校・高等学校国語科の国文学分野の知識と技能を身につけることを目的としている。韻文はひとつひとつが短いがゆえに、複数を「集」としてまとめたり、他の作品に組み込まれたりすると、解釈が変化することがある。本授業では、そうしたテキストの構造や享受等に注意をはらいつつ読み解き、韻文やそれに関連する作品への理解を深めていく。	
			漢文学概論Ⅰ（教育上の現代的課題を含む）	漢文の基礎知識である経書全体を概説しつつ、特に『論語』『孟子』『荀子』を取り上げて講読する。訓読・読解を通して各時代の文化・歴史の様相とそこに表れる普遍性を考え、かつ、そこから教育上の現代的課題を見つめ直す。それによって、理論的かつ実践的に漢文を教授する力を養う。また、毎回内容に基づく小テストを実施する。基本的に講義形式だが、事前によりしっかりと準備をする必要がある。	メディア

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 国語教育	漢文学概論Ⅱ（教育上の現代的課題を含む）	<p>経書を学んだことを踏まえ、その対比として老荘思想について講読する。また、『春秋左氏伝』や『史記』などの史書を取り上げる。それぞれの訓読・読解を通して各時代の文化・歴史の様相とそこに表れる普遍性を考え、かつ、そこから教育上の現代的課題を見つめ直す。それによって、理論的かつ実践的に漢文を教授する力を養う。毎回、講義した内容に基づく小テストを実施する。基本的に講義形式だが、事前にしっかりと準備をする必要がある。</p>	メディア
	漢文学演習Ⅰ	<p>中国最古の文学である『詩経』から六朝、そして、唐代の作品のうち、しばしば教科書に教材として取り上げられている作品を演習形式で精読する。それによって、漢詩の修辞法を学び、かつ、影響を受けた後世の詩文にも触れつつ、中学校・高等学校国語科の漢文分野の基礎的な知識・技能を習得する。また、発表後は討論を通じて、漢文を教授する力、その知識の基礎を形成させる。</p>	
	漢文学演習Ⅱ	<p>唐代から宋代にかけて、日本に流伝した詩人の詩文集は多く、大きな影響を及ぼした。そこで、演習形式でそれらの詩を精読し、漢詩の修辞法を学ぶ。また、漢詩に影響を受けて創作を行った日本の詩についても取り上げ、中学校・高等学校国語科の漢文分野の総合的な知識・技能を習得する。発表後は討論を通じて、漢文を教授する力、その知識を深める。</p>	
	漢文学講読Ⅰ	<p>漢王朝のために匈奴に嫁いで両国の架け橋となった王昭君について扱った、漢から宋代までの歴代の作品を取り上げて講義する。基本的な中国古典の修辞法と辞書の使い方などを指導するほか、各作品の鑑賞を通して、それぞれの時代の政治の理想像や、そこに表れる志操や悲哀、普遍性を理解する。基本的に講義形式だが、事前にしっかりと準備をする必要がある。</p>	
	漢文学講読Ⅱ	<p>三国時代の蜀の宰相である諸葛亮について扱った、三国時代から宋代までの歴代の作品を取り上げて講義する。基本的な中国古典の修辞法と辞書の使い方などを指導するほか、各作品の鑑賞を通して、それぞれの時代の政治の理想像や、そこに表れる志操や悲哀、普遍性を理解する。基本的に講義形式だが、事前にしっかりと準備をする必要がある。</p>	
	書写書道基礎Ⅰ	<p>中学校学習指導要領（平成29年告示）を踏まえて、中学校国語科書写に関する基礎知識を得るとともに、硬筆及び毛筆の書字技能と書写指導法を身につけることを目標とする。学校教育における書写の必要性や現在の国語科書写が直面している課題等についても整理・検討する。教育現場におけるカリキュラムの連続性を考えて、小学校国語科書写についての知識とその指導上必要となる技能の習得も重視していく。講義は、実際に小中の各教育現場で教壇に立っている書写指導担当教員を複数迎えて実施する。</p>	
	書写書道基礎Ⅱ	<p>中学校学習指導要領（平成29年告示）を踏まえて、中学校国語科書写に関する基礎知識を得るとともに、硬筆及び毛筆の書字技能と書写指導法を身につけることを目標とする。学校教育における書写の必要性や現在の国語科書写が直面している課題等についても整理・検討する。教育現場におけるカリキュラムの連続性を考え、高等学校芸術科書道についての知識、指導上必要となる技能の習得も重視していく。講義は、実際に高等学校の教育現場で教壇に立っている芸術科書道を担当する教員を迎えて実施する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	国語教育	国語科教育法Ⅰ（石川県の教育実践を含む）	中等教育における学習指導要領〔国語〕の目標及び内容を整理するとともに、小学校から高等学校に至る国語科の内容的繋がりや高等学校の科目編成等について把握する。また、中学校及び高等学校における石川県の国語科指導の実践事例を聞き、内容の解説を通して、中等教育における国語科の実態を理解する。それにより、中学校及び高等学校の教員として国語科学習指導を担当する際に必要となる基礎的な知識を得、心構えを身につける。	メディア
			国語科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）	中等教育における国語科学習指導の動画を視聴し、その分析を通して、授業の展開やそれを推進する教師の言動、用いられた教材教具などの意味や価値を理解し、自らが実践する際に活かせる知識を得る。また、石川県の教育実践を踏まえて国語科の単元を構想し、学習指導案として表現することを通して、国語科教員としての授業実践の基礎力をつける。	メディア
			国語科教育法Ⅴ	中等教育における音声言語指導の問題点を掴み、その改善に向けて学習指導・学習評価の在り方を検討する。中学校と高等学校における音声言語教材を俯瞰するとともに、その中のいくつかを取り上げて教材研究を行い、単元を構想する。その後、模擬授業の実施と授業後の整理会を通して単元の改善点や工夫点を整理していく中で、国語科教師としての実践力を高める。	
			国語科教育法Ⅵ	中等教育における文字言語指導の問題点を掴み、その改善に向けて学習指導・学習評価の在り方を検討する。中学校と高等学校における文字言語教材を俯瞰するとともに、その中のいくつかを取り上げて教材研究を行い、単元を構想する。その後、模擬授業の実施と授業後の整理会を通して単元の改善点や工夫点を整理していく中で、国語科教師としての実践力を高める。	
			国語科教育法Ⅶ	パソコンやタブレット端末といった新しい教具やデジタル教材などを取り入れた国語科学習指導の現状や可能性を知り、指導事項を効率よく効果的に実現するためにどのような場でどのように活用できるかを協議する。また、アナログ教具の進化についても目を向け、特に思考ツールの活用方法について検討する。そして、情報機器や新しいアナログ教具を導入した指導構想を提案し、有効性を協議することを通して国語科教師としての実践力を高める。	
			国語科教育法Ⅷ	中等教育、特に高等学校の国語科学習指導において誤解されやすく、苦手意識をもたれやすい「知識及び技能」の扱い方、古文の学習指導、学習評価について焦点化し、それらを行う際の留意点を理解する。そして、実際に教壇に立ったときに適切に対応できるように指導方法を考えたり、模擬評価を行ったりして国語教師としての実践力をつける。	
			国語科教育演習Ⅰ	『国語教育基本論文集成』等の指定した論文集の中から、小学校国語科の〔思考力、判断力、表現力等〕、特に「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の学習指導・学習評価に関する論文を各自で1編選び、その要約と解説、論文評価、関連情報の提示を行う。その後、発表内容の妥当性、論文に提示されている主張の是非や可能性などについてグループや全体で議論するとともに、各回の発表内容に沿って国語科学習指導・学習評価の在り方を検討する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 国語教育	国語科教育演習Ⅱ	『国語教育基本論文集成』等の指定した論文集の中から、小学校国語科の〔思考力、判断力、表現力等〕、特に「読むこと」と「知識及び技能」の学習指導・学習評価に関する論文を各自で1編選び、その要約と解説、論文評価、関連情報の提示を行う。その後、発表内容の妥当性、論文に提示されている主張の是非や可能性などについてグループや全体で議論するとともに、各回の発表内容に沿って国語科学習指導・学習評価の在り方を検討する。	
	国語科教育演習Ⅲ	『国語教育基本論文集成』等の指定した論文集の中から、中学校国語科の〔思考力、判断力、表現力等〕の3領域、及び〔知識及び技能〕における特に「(3)我が国の言語文化に関する事項」の「読書」に関する論文を各自で1編選び、その要約と解説、論文評価、関連情報の提示を行う。その後、発表内容の妥当性、論文に提示されている主張の是非や可能性などについて検討するとともに、各回の発表内容に沿って国語科学習指導・学習評価の在り方等を検討する。	
	国語科教育演習Ⅳ	『日本語学』（明治書院）や『月刊国語教育研究』（日本国語教育学会）等に掲載された国語科教育学の実践論文の中から、高等学校国語科の〔思考力、判断力、表現力等〕の学習指導・学習評価に関するものを各自で1編選択し、その要約と解説、論文評価、関連情報の提示を行う。その後、発表内容の妥当性、論者の主張の是非や可能性などについて議論するとともに、各回の発表内容に沿って国語科学習指導や学習評価の在り方等を検討する。	
	国語科実践研究Ⅰ	国語科各領域（日本文学・漢文学）専門の教員と国語科教育学の教員が連携し、国語教材を理論的・専門的観点から分析することによって、考える力、読む力、表現する力を育む授業構築を学生が主体的に考察し、授業に生かす基本的能力を修得する。教育実習に向け、小学校国語科の教育課程を理解し、編成するための基礎となる教材研究をおこない、授業実践に生かす能力を修得する。 （オムニバス方式／全8回） （24 折川司／1回、4回、5回、8回） 教育実践研究の課題について理解を深め、現代文及び国語と伝統文化に関する授業実践・授業研究について検討する。 （66 飯島洋／2回、3回） 現代文分野の教材研究について検討する。 （76 原田愛／6回） 漢字文化に関する教材研究と授業実践について検討する。 （71 大野順子／7回） 国語と伝統文化に関する教材研究について検討する。	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育科目 専門 科目 国語 教育	国語科実践研究Ⅱ	<p>国語科各領域（日本文学・漢文学）の教員と国語科教育学の教員が連携し、国語教材を理論的・専門的観点から分析することによって、考える力、読む力、表現する力を育む授業構築を学生が主体的に考察し、授業に生かすとともにあるべき授業について研究する能力を修得する。教育実習に向け、中学校・高等学校の国語科の教育課程を理解し、編成するための基礎となる教材研究をおこない、授業実践に生かす能力を修得する。 （オムニバス方式／全8回）</p> <p>（24 折川司／1回、4回、6回、8回） 教育実践研究の課題について理解を深め、授業実践・授業研究について検討する。</p> <p>（66 飯島洋／2回、3回） 現代文分野の教材研究について検討する。</p> <p>（71 大野順子／5回） 古文分野の教材研究について検討する。</p> <p>（76 原田愛／7回） 漢文分野の教材研究について検討する。</p>	オムニバス方式
	国語科実践研究Ⅲ	<p>国語科各領域（日本文学・漢文学）専門の教員と国語科教育学の教員が連携し、国語教材を理論的・専門的観点から分析することによって、考える力、読む力、表現する力を育む授業構築を学生が主体的に考察し、授業に生かす基本的能力を修得する。教育実習を受け、小学校国語科の教育課程を理解し、編成するための基礎となる教材研究をおこない、授業実践に生かす能力を修得する。 （オムニバス方式／全8回）</p> <p>（24 折川司／1回、4回、5回、8回） 教育実践研究の課題について理解を深め、現代文及び国語と伝統文化に関する授業実践・授業研究について検討する。</p> <p>（66 飯島洋／2回、3回） 現代文分野の教材研究について検討する。</p> <p>（76 原田愛／6回） 漢字文化に関する教材研究と授業実践について検討する。</p> <p>（71 大野順子／7回） 国語と伝統文化に関する教材研究について検討する。</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	国語教育	国語科実践研究Ⅳ	<p>国語科各領域（日本文学・漢文学）の教員と国語科教育学の教員が連携し、国語教材を理論的・専門的観点から分析することによって、考える力、読む力、表現する力を育む授業構築を学生が主体的に考察し、授業に生かすとともにあるべき授業について研究する能力を修得する。教育実習を受け、中学校・高等学校の国語科の教育課程を理解し、編成するための基礎となる教材研究をおこない、授業実践に生かす能力を修得する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（24 折川司／1回、4回、6回、8回） 教育実践研究の課題について理解を深め、授業実践・授業研究について検討する。</p> <p>（66 飯島洋／2回、3回） 現代文分野の教材研究について検討する。</p> <p>（71 大野順子／5回） 古文分野の教材研究について検討する。</p> <p>（76 原田愛／7回） 漢文分野の教材研究について検討する。</p>	オムニバス方式	
		日本史学概論Ⅰ	<p>中学校の社会科、高等学校地理歴史科の日本史分野の基礎知識・技能を身につけることを目標にしている。特に初等・中等教育における日本史のテーマの広がりの魅力、それを授業として実践するための基本的な考え方と方法を習得する。原始から現代まで、日本史上で起こった政治・経済・社会・文化的諸相を切りとり、授業実践の事例を紹介しながら講義をする。あわせて、さまざまな史料を読み解くための基本的な技術や方法を概説する。日本史学概論Ⅱに接続するものであり、両者をもって、日本の通史を扱う。</p>		
		日本史学概論Ⅱ	<p>中学校の社会科、高等学校地理歴史科の日本史分野の基礎知識・技能を身につけることを目標にしている。特に初等・中等教育における日本史のテーマの広がりの魅力、それを授業として実践するための基本的な考え方と方法を習得する。原始から現代まで、日本史上で起こった政治・経済・社会・文化的諸相を切りとり、授業実践の事例を紹介しながら講義をする。あわせて、さまざまな史料を読み解くための基本的な技術や方法を概説する。日本史学概論Ⅰを前提としたものであり、両者をもって、日本の通史を扱う。</p>		
		日本史学各論（古代・中世）Ⅰ	<p>日本古代・中世史について、特に近年の研究で大きな進展がある諸問題をピックアップして学ぶ。学校教育で取り上げられることの多い史料を紹介しながら、それらのテーマを授業として実践するための工夫や方法について習得する。</p>	メディア	
	日本史学各論（古代・中世）Ⅱ	<p>近年の日本史研究は、史料学の時代を迎えている。古文書・古記録や、石造物、木簡・木札・埋蔵文化財・絵画・地名・景観といった古代・中世史を考えるための多様な史料と、それを読み解くための基本的な技術とさまざまな方法について概説する。</p>	メディア		
	社会科教育				

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	社会科学教育	日本史学演習Ⅰ	中学校社会科・高等学校地理歴史科の日本史分野の専門知識・技能を深めることを目標としている。日本史研究を進める上で、初段階にある資料活用に必要な基礎的技術を学ぶことが目的である。合わせて、「歴史」「日本史」で使用する教材研究で必要とされる日本史的技能を習得する。具体的には、日本史の文献（著書・論文）の収集と読解、研究史の整理と批判的検討を行い、日本史学的思考と叙述の方法を学ぶ。	
			日本史学演習Ⅱ	中学校社会科・高等学校地理歴史科の日本史分野の専門知識・技能を深めることを目標としている。日本史研究を進める上で、初段階にある史料読解に必要な基礎的技術を学ぶことが目的である。合わせて、「歴史」「日本史」で使用する教材研究で必要とされる日本史的技能を習得する。具体的には、古文書・古記録を中心にくずし字（変体仮名）の判読を行い、日本史史料を読解するための基礎的技術を習得する。	
			日本史学演習Ⅲ	中学校社会科・高等学校地理歴史科の日本史分野の専門知識・技能を深め、必要な基礎的技術を学ぶことを目標としている。「歴史」「日本史」の基礎となる日本史研究の方法を実践し習得することで、日本史についての理解を深める。史料や先行研究の読解を通して、日本史研究の基本的な知識と技術を身につける。史料・文献を読解し、自ら研究テーマを設定して、史料目録やデータベース作成による分析をした上で、新しい歴史的事実を発見し、それを論理立てて証明し、学術論文の形式で執筆するための準備を行う。日本史学演習Ⅳに接続するものである。	
			日本史学演習Ⅳ	中学校社会科・高等学校地理歴史科の日本史分野の専門知識・技能を深め、必要な基礎的技術を学ぶことを目的としている。「歴史」「日本史」の基礎となる日本史研究の方法を実践し習得することで、日本史についての理解を深める。日本史学演習Ⅲを前提としている。史料の輪読を通して、日本史研究の基本的な知識と技術を身につける。史料・文献を読解し、自ら研究テーマを設定して、史料目録やデータベース作成による分析をした上で、新しい歴史的事実を発見し、それを論理立てて証明し、学術論文の形式で執筆する。	
			歴史学野外実習	地域史研究と授業実践のために、富山県、石川県、福井県を中心とする任意の地域を選定してフィールドワークを実施する。古文書・古記録や絵画・彫刻といった文化財の調査・収集、現地調査と景観復原の方法を学ぶ。合わせて、フィールドワークに関する能力を養い、授業実践に応用できるような能力を涵養する。	
			東洋史学概論Ⅰ	主に政治と社会の歴史を採りあげ、中国史・東アジア史の展開と特質を理解させる。「東洋史」の範囲について講義し、中核は中国であるが、朝鮮半島、東南アジア、南アジアとの関係にも留意すべき点を強調する。その後、中国の政治の展開、歴史の特質、中国社会の特徴などを講義する。中国史は漢民族と周辺民族との攻防が歴史の大きな部分を占め、王朝の交代が続くが、その中にも一貫した文化的技術的特質を維持している。この点を豊富な映像・文書資料を紹介しつつ詳説する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 社会科学教育	東洋史学概論Ⅱ	<p>主に経済と国際関係の歴史を採りあげ、中国史・東アジア史の展開と特質を理解させる。中国は、世界において最も早く文明を生み出した地域の一つであり、それは乾燥地帯であると同時に大河が流れているという独特の地形において、鉄器を持たない技術が濃厚を開始するうえで適した地域であった。鉄器が開発されるとより温暖な南部の開発が始まり、その後も、紙や火薬、印刷といった重要な技術開発が中国でなされた経緯や必然性について講義する。</p>	
	人文地理学概論Ⅰ	<p>本講義では、まず地理学が社会の中でどのように捉えられているのかを示し、その世俗的地理(学)観が育まれてきた背景を考える。続いて現代地理学の学問的体系を示し、初等・中等学校教育における地理学の位置付けを考える。地理学は人文社会科学と自然科学に跨る文理融合的分野であるが、それが人間社会と自然環境の相互作用をどのように捉えてきたのかを学ぶ。そして、人間社会の様々な領域・素材に対して地理学的なパースペクティブを適用する人文地理学研究の見方・考え方・成果について、実際の研究事例を参照しながら示したい。受講者が、本講義を通じ「地理学とは何か?」という問題への一定の解答を得ることができるようにしたい。</p>	
	人文地理学概論Ⅱ	<p>人文地理学概論Ⅰの履修を前提に、人間社会を構成する様々な領域・素材に対して地理学的なパースペクティブをどのように適用し、地理学的な研究を構築してゆくのかについて、具体的な研究を取り上げながら説明する。それによって、「地理学に何ができるのか?」という問題への何らかの解答を得たいと思う。最後に人文地理学と自然地理学を比較対照しながら、地理学の特性について再び考えたい。また、授業の中では講義のみならず、学外のフィールドワークも実施する。地域の実地観察によって、地理学的「知」を得る方法の習得を目指す。</p>	
	地誌学Ⅰ	<p>本講義ではまず、中学校・高等学校の社会科/地理歴史科地理で学ぶ「地誌」と学問としての「地誌学」の違いについて学ぶ。国内地域の研究事例を中心に取り上げながら「地域」を記述することの意味や「地域」の特殊性(＝地域性)を描く方法を学ぶことで、初等・中等教育で学習してきた社会科「地誌」が、どのような学問的理解のもとに成立しているのかを理解する。</p>	
	地誌学Ⅱ	<p>本講義では、社会科(地理歴史科)地理の「地誌」と「地誌学」の違いについて、世界地誌を事例に考え学ぶ。「地域」を記述することの意味や「地域」の特殊性(＝地域性)を描く方法を世界各地の地誌を通じて学ぶことで、暗記科目である物産地理とは異なる科学的な地誌について理解を深める。本講義を通じて、受講生が、地誌的説明の意味と方法を理解し、「ある地域の地誌を描く場合、どのような記述が的確なのか」についての的確に考え判断する能力を向上させることが、本科目の目標である。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	社会科学教育	地理学各論 I	人文地理学・自然地理学・地誌学など地理学の諸分野の研究で、位置を含む空間情報は「地図」によって表現される。地図の無い地理学研究は考えられない。本講義では、地図の歴史・機能・役割を理解し、地図の利用・様々な地図応用の方法を習得する。さらに、地理学の学術研究のみならず行政や企業など社会全般に近年急速に普及し、今や初等・中等教育の学校現場でも地理教育の必須アイテムとなったGIS（地理情報システム）について、その原理や利用方法について学ぶ。	
			地理学各論 II	景観論、環境論、災害論、歴史地理学の各研究領域を取り上げ、それらの内容と意義を学ぶ。 とくに (1) 「地域」や「空間」と並ぶ地理学の基本的概念である「景観」や「環境」についてより明確な理解を得る。(2) 今日の世界で頻発する多様な自然災害の把握や対応策に地理学がどのように関わるのかを理解する。(3) 歴史地理学という歴史的観点をもつ地理学の手法と意義を理解する。	
			自然地理学 I	本講義では、自然地理学の基礎的な内容について、気候分野を中心に解説を行う。その上で、自然環境と人間生活との関わりについても着目しながら、自然地理学的な見方・考え方を身に着けることを目指す。また、高等学校「地理総合」必修化にあわせて、高校地理総合・地理探究における気候学習の取り扱いについても、実際に使用されている教科書を用いながらグループワークで整理し、高校教員として自然地理学の内容をどのように教えるべきかについて考える。	
			自然地理学 II	本講義では、自然地理学の基礎的な内容について、地形分野を中心に解説を行う。その上で、自然地理学 I の学修内容も含めて、防災・減災や人間生活との関わりについても着目しながら理解を深めていく。また、高等学校「地理総合」必修化に伴い、高校地理総合・地理探究における地形・防災学習の取り扱いについても、実際に使用されている教科書を使いながらグループワークで整理し、教員として自然地理学の内容や視点・考え方をどのように教えるかを考える。	
			地理学演習 I	初学者が地理学研究に取り組むうえで、研究テーマの設定を行うために必要な基礎的技術を学修することが、本科目の目的である。とくに、学校科目「地理」の学習内容の基礎を成す学術的な地理学的研究に取り組む際に真先に必要となる地理学固有の初歩的ないくつかの視点と技法が、本演習において習得される。具体的には、文献探索手法と文献読解による地理学的知見の取得の方法などの基礎的な見方・技法を受講者が身につけることが、期待される。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 社会科教育	地理学演習Ⅱ	<p>地理学研究では地域的・空間的事実を明らかにするために、実地調査や文献資料調査などの様々なやり方で定性的・定量的なデータ等を収集する。「データ」は様々な形で存在するが、それを扱うためにはデータ収集の方法、データ分析の方法、データ分析の結果を空間的に表現する方法、そこから地理学的事実を読み解く方法を理解しておく必要がある。本演習では、研究の初段階においてデータを収集・活用するために必要な基礎的見方・技法を学ぶことをその目的とする。こうした地理学の見方・技法に習熟しておくことは、中学校・高等学校で「地理」を教授する教師が授業前に行う教材研究でも有用である。本演習で習得すべき基礎的見方・技法は、具体的には、地域統計や統計分析結果を表現するために用いるベースマップ、文書資料等の収集方法とデータを用いた主題図作成法等である。本演習を修了した際には、これらがある程度習得されていることが期待される。</p>	
	地理学演習Ⅲ	<p>地理学演習Ⅰ・Ⅱから引き続き、地理学的研究を遂行していくうえで必須の見方・技能を習得する。本演習では、各回の授業において、自らの研究を構築する上でさまざまな示唆を得る参考文献を批判的に検討することを学ぶ。さらにフィールド調査やインドア調査等の地理学的な調査方法、地域データを分析して作成する主題図の作成方法等について、一層深く学ぶ。さらに受講者は既往研究を参照して野外調査の実践例を学ぶ。具体的には土地利用調査や聞き取り調査等の定性的調査の実践例を参考に、文献を通じてその見方や手法について理解を深めたい。さらにその内容を各人が学んだうえで、個々の見解を発表し、ディスカッションを経て、受講者間で共有する。こうした中で、受講者は相互に地理学研究の遂行能力を涵養する。</p>	
	地理学演習Ⅳ	<p>地理学演習Ⅰ～Ⅲの学修内容を引き継ぎ、地理学的研究を遂行していくうえで必須の見方・技能を習得する。各回の授業では、自らの研究を構築する上でさまざまな示唆を得る研究論文等の参考文献を批判的に検討すること、地理学的野外調査（フィールドワーク）の方法、既存の地域データや自ら実地収集したデータを分析して作成する主題図作成法等について、一層深く学ぶ。地理学演習Ⅲで学んだ野外調査（フィールドワーク）に関する知識・手法を活かして、本科目では、受講生は、一定の研究課題を定め、野外調査を実践する。野外調査によって得られたデータや事実を基に、受講者はデータ分析・主題図作成等の作業に取り組む。さらに、各受講者が自らの分析結果やそれに関する考察内容を相互に発表・報告し、受講者間でディスカッションを通じて共有する。それにより地理学研究における課題の発見や設定の方法、研究遂行のプロセスや技法に関する理解が涵養される。地理学演習Ⅰ～Ⅳを通じて、地理学研究の出来る・解る学校地理教師の素養を育成したい。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	社会科学教育	地理学野外実習	地理学で不可欠な技能となる野外での観測、観察、調査を実施する。「地域」を地理学的に探求する能力のうち、とくにフィールドワークに関する能力を養う。さらに受講者が教師となった将来、フィールドワークを授業実践に応用できるような能力を涵養する。任意の地域を選定してフィールドワークを実施する。対象地域は富山県、石川県、福井県を中心とする。具体的には景観観察や聞き取り調査、土地利用調査を実施し、初学者に対するフィールドワーク入門実習である。将来、教師として科目横断的に野外観察の授業を立案できるように、現地調査は歴史学野外実習と連続・協働して1泊2日で実施する。	
			法律学概論Ⅰ	法律学入門。法とは何か、法の解釈や、刑法を初めとする主要な法律の概要等、大卒の社会人として最低限必要な法学の基礎知識を修得し、中学校社会・高等学校公民の教員免許状取得に必要な科目でもあり、中学、高校で扱われる法学領域の基礎を学ぶ。法とは何か、法と道徳の違い、法の分類（公法・私法）、国家と憲法、行政と法、裁判制度、法と犯罪という側面から授業を進める。	
			法律学概論Ⅱ	法律学入門。民法の原則、労働法、国際法の原則など、大卒の社会人として最低限必要な法学の基礎知識を修得し、中学校社会・高等学校公民の教員免許状取得に必要な科目でもあり、中学、高校で扱われる法学領域の基礎を学ぶ。契約と法（民法・契約）、財産と法（民法・物権、債権）、損害賠償（民法・不法行為）、家族と法（民法・親族）、経済と法（会社法、知財法、競争法）、仕事と法（労働法）、国際社会と法（国際法）という側面から授業を進める。	
			法律学各論Ⅰ	現代社会が直面する環境問題に関して、法と行政がどのように対応しているか、市民の権利はどのように守られるかを知り、その課題を探り、環境法の基本的概念と骨子を講義する。「環境問題」とは何か、公害・環境保全史概観、環境法の基本的考え方（環境権、持続可能性、予防原則、汚染者負担原則など）、環境汚染を規制する法（大気、水質など）、自然環境の保全のための法（自然公園、生物多様性、野生動物など）、循環型社会形成のための法（廃棄物管理）、環境保護の担い手（行政、市民、NPOの役割（環境アセスメントを例に））、環境問題と訴訟という内容を取り上げる。	
			法律学各論Ⅱ	国の行政組織、国会制度などを行政法の観点から解説していく。「行政」とはどういう行為なのか、それをつかさどる「行政法」とは法体系の中でどのような位置づけなのかを講義する。次に、行政法には、行政組織法、行政作用法、行政救済法などの区別があることを詳説する。さらに、それぞれの方について、具体的に戦後日本でどのような裁判が争われたか、その判例資料に基づき、ディスカッションを行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 社会科学教育	法律学演習Ⅲ	過去の行政法に関する訴訟の具体的事例を取り上げ、判例を検討し、研究者の批判を踏まえ、どのような問題点が残っているかを究明する。行政が国民の権利、学問の自由、基本的人権などの憲法諸原理と衝突した具体例を取り上げ、その判例を精査し、判例に対して研究者がどのような批判を寄せているかも併せて検討する。憲法と行政法がどのような関係にあるかを討論する。	
	法律学演習Ⅳ	地方自治の本旨、条例制定権、首長制等について検討する。憲法が地方自治についてどのように規定しているか。地方財政の悪化が地方自治の内実をどのように空洞化させているのか。その中でも主張の工夫によって注目すべき成果を上げている事例があるのか。こうした点を具体的な事例に即して討論することで、地方自治についてより発展的な理解を促す。	
	経済学概論	経済学とは、家計や企業が合理的に行動するという仮定のもとに、経済活動によってどのような社会的帰結が実現するかを理論的に分析する学問である、ということ的前提として、ミクロ経済学の分野の内容を中心に入門的な経済学を学ぶ。具体的には経済学の基本的な考え方、市場と政府の役割、需要と供給の理論、市場の効率性の理論的説明について学び、また授業内容に関する例題を受講者自身が計算して解くことで、授業内容の理解を深める。こうした学修によって、基本的な経済学の知識を修得し、身の回りの経済現象を経済学の知識を用いて理解できるようになる。	
	哲学概論Ⅰ（哲学と現代的教育状況）	古代ギリシアの哲学思想に触れながら、哲学という学問についての基本的な理解をすすめる。哲学という学問について、科学や芸術とは異なる本質について学習しながら、哲学の特性について基本的な理解を身につける。またソクラテス以前から始まる古代ギリシアの壮大な思想史を概観することによって哲学の起源・元型を学び、かつ現代的教育状況について、古代ギリシア哲学の視点から批判的に把握する。	メディア
	哲学概論Ⅱ（哲学と現代的教育状況）	古代ギリシアの哲学思想に触れながら、哲学という学問についての基本的な理解をすすめる。特にプラトンとアリストテレスの思想に触れながら、哲学という学問についての基本的な理解をすすめる。また、Philosophy for Childrenの実践を知るとともに、哲学的な討論を経験し、現代的教育状況における哲学的問いの可能性を探究する。現代的教育問題をより根本的に分析・思考するための基礎を培う。	メディア
	倫理学Ⅰ（現代応用倫理学を含む）	倫理学という学問についての基本的理解を習得する。とりわけカント倫理学や功利主義などの学説、倫理学の根本諸概念について学ぶ。さらには「人格」「他者」「責任」という概念が今日問いなおされるべきものになっていることに触れ、現代応用倫理学の諸問題を把握する。具体的に、個々人の倫理判断が鋭く問われるようなケーススタディを豊富に取り上げる。	メディア
	倫理学Ⅱ（現代応用倫理学を含む）	生命倫理の諸問題について理解し、その理解をもとに自ら考察し討論する力を養う。現代応用倫理学における生命倫理の諸問題（インフォームド・コンセント、安楽死、脳死と臓器移植、人工妊娠中絶、パーソン論、優生思想）について理解し、自ら考察することができるようにする。またこれらの諸問題に関連するかたちで、研究倫理や企業倫理、工学倫理の問題についても学ぶ。	メディア

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 社会科学教育	宗教学Ⅰ	宗教現象および三大宗教についての基礎理解を固める。グローバル化した現代社会において宗教を理解することをきわめて重要である。この講義では、呪術と宗教との異同、宗教現象の本質性格について学んだ上で、キリスト教（原始キリスト教と宗教改革）、仏教（原始仏教と大乘仏教）、イスラム教についての基礎理解を固める。なぜ宗教対立は激化する一途なのか。それは宗教に内在することなのか、それとも本質的理解が不足しているからなのか。そうしたセンシティブな論点も積極的に取り上げる。	メディア
	宗教学Ⅱ	宗教現象のなかからテーマを選び出し、それについて自ら調べ、発表を行う。グローバル化した現代社会において宗教を理解することをきわめて重要である。宗教学Ⅰでの学習を踏まえて、各自が伝統的な三大宗教に限らず広く宗教現象のなかから関心のあるテーマを選び出し、それについて自ら調べ、発表を行う。そして他の学生の発表と討論を通して、宗教についてのさらなる理解を深める。	メディア
	哲学史Ⅰ	デカルトから19世紀までの哲学の流れを概観する。17世紀から19世紀までの西洋近代哲学の流れを概観する。具体的には、デカルト、大陸合理論、イギリス経験論、カント、ドイツ観念論、ヘーゲル、19世紀の思想潮流を取り扱う。それぞれの哲学が登場する背景及びその必然性、相互の関係などを丁寧に学ぶ。こうした学習を通して、公民の「倫理」の基礎を固めるとともに、私たちの世界観を批判的に吟味することを学ぶ。	
	哲学史Ⅱ	20世紀以降の現代哲学の流れと状況を概観する。具体的には、ニーチェ、生の哲学、分析哲学、マルクス主義、実存主義、フッサールと現象学、ハイデガー、フランス現代思想を取り扱う。それぞれの哲学の搭乗にはどのような必然性があったのか。それぞれの哲学はどのように批判しあい、相互に受容しあって言ったのか。これらの学習を通して、公民の「倫理」の基礎を固めるとともに、私たちの世界観を批判的に吟味することを学ぶ。	
	哲学演習Ⅰ	『存在と時間』の概要をふまえて、2ページから27ページまで精読する。20世紀ドイツのマルティン・ハイデガーの思索を通して、世界や人間の本質について考察することを狙いとする。ハイデガーの主著『存在と時間』とはどのような著作なのか。どのような意味で20世紀哲学の頂点と言えるのか。なぜこれほど多岐にわたって影響を与え続けているのか。こうした学習によって、難解な哲学書を読解する方法を身につけ、自らの思考の幅を広げる。	
	哲学演習Ⅱ	『存在と時間』の概要をふまえて、27ページから59ページまで精読する。20世紀ドイツのマルティン・ハイデガーの思索を通して、世界や人間の本質について考察することを狙いとする。哲学演習Ⅰでの学習内容を踏まえて、ハイデガーの主著『存在と時間』とはどのような著作なのか。どのような意味で20世紀哲学の頂点と言えるのか。なぜこれほど多岐にわたって影響を与え続けているのか。こうした問いをさらに深め、難解な哲学書を読解する方法を身につけ、自らの思考の幅を広げる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	社会科学教育	青年心理学	不登校の事例を紹介しながら、児童生徒がなぜ「学校に居場所がない」と感じるのか、その心理的メカニズムと対処実践例を豊富に紹介しながら、青年のアイデンティティ形成に関する一般的な展望を開示する。「青年」が歴史的概念であり、近代であること、青年期がどのような不安定さを抱えているか、その現象例として不登校を取り上げる。不登校は、児童・生徒が「学校に居場所がない」と感じることに起因している馬、どのようなケースでそのような事例が発生するのか、小学校の場合、中学校の場合、高等学校の場合のケーススタディを検討する。事例とアイデンティティをめぐる学説史と突き合わせることで、その意味を明らかにする。	
			社会科学・地歴科教育法Ⅰ（北陸の教育実践を含む）	日本と世界の歴史について、模範授業を行い、学生による模擬授業の準備を行う。歴史過程を説得的なストーリーとして説明するためには、「技術」「人口」「国際関係」の諸要素であることに留意すると、因果関係が明瞭になることを講義する。律令制の支配が北陸地域ではどのように展開したか（初期荘園の開発）、北陸地域での近世領国制、幕末維新期の北陸地域などについてはとりわけ詳しく概説する。	メディア
			社会科学・地歴科教育法Ⅱ（北陸の教育実践を含む）	日本と世界の地理について、模範授業を行い、学生による模擬授業の準備を行う。単に現状を説明するのではなく、それぞれの地域の営みがなぜ存在するのか、説得的なストーリーとして説明するためには、「技術」「人口」「国際関係」の諸要素であることに留意すると、因果関係が明瞭になることを講義する。日本の諸地域と世界の諸地域について全般的に概説するが、北陸地域の気候や産業動態については豊富な事例とともに詳説する。	メディア
			社会科学・地歴科教育法Ⅲ	各受講生に、日本と世界の歴史について単元ごとに分担し、模擬授業の発表とその検討を中心に授業を進める。縄文時代については、石川県の代表的な縄文遺跡である真脇遺跡、律令制については県内の荘園跡、近世については加賀藩の資料など、生の資料を十分に消化したうえで、全国的な動向と北陸地域の動向を有機的に説明できるような授業プランの作成を求める。	
			社会科学・地歴科教育法Ⅳ	各受講生に、日本と世界の地理について単元ごとに分担し、模擬授業の発表とその検討を中心に授業を進める。とりわけ北陸地域については、日本海側の特徴的な気候、一次産業から第三次産業までを、例えば県の農業試験場やJA、代表的な製造業などへの実地取材や調査に基づき、全国的な動向と北陸地域の動向を有機的に説明できるような授業プランの作成を求める。	
			社会科学・公民科教育法Ⅲ	中学校社会科学及び高等学校公民科の教科としての独自性と目標・内容・方法の特質を理解させ、学習指導案の作成や教材づくり・模擬授業の実施を通して、授業づくりの技能を習得させる。「公民科とは何か」について歴史から学んだり、目標設定の異なる公民科授業類型について考えたり、また教育実習生の授業記録を視聴することによって必要とされる資質・能力を考えたりすることを通して、主体的に学ばせる。その際、授業実践例や学習指導細案をもとに受講生相互の意見交換を図る。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	社会科学教育	社会科・公民科教育 法Ⅳ	中学校社会科及び高等学校公民科の教科としての独自性と目標・内容・方法の特質を理解させ、学習指導案の作成や教材づくり・模擬授業の実施を通して、授業づくりの技能を習得させる。高等学校公民科「公共」「倫理」「政治経済」それぞれの目標と内容の特性を理解させた上で、ロールプレイング教材やディベート教材の効果的な活用法を考えさせながら模擬授業を行わせ、主体的な学びを保障する。その際、授業実践例や学習指導細案をもとに受講生相互の意見交換を図る。	
		幾何学概論Ⅰ（幾何学と現代の数学教育を含む）	高等学校で学んだベクトルの概念を一般化した行列の考え方について深く理解するとともに、幾何学的に捉えることができることを目標とする。具体的には、行列の演算や基本的性質を理解するとともに、小学校の算数科における幾何学の位置づけを講義する。	メディア
		幾何学概論Ⅱ（幾何学と現代の数学教育を含む）	幾何学概論Ⅰで学んだ行列の考え方についてさらに理解するとともに、行列式の基本的性質を理解することを目標とする。具体的には、行列式の定義および基本的な計算方法を理解する。また、基本的な性質を学習し、外積代数的側面の理解を進めるとともにその幾何学的意味についても講義する。さらには、中学・高校数学における幾何学の位置づけについて講義する。	メディア
	数学教育	線形空間論Ⅰ	内積空間の基礎的な性質を理解し、線形空間や線形写像をより視覚的、幾何学的に捉えることを目標とする。具体的には、線形写像の核や像を定義しその次元に関する性質を学ぶことで、連立一次方程式に関する理解を一段進める。内積空間については、ベクトルの長さや2つのベクトルがなす角度が初めから備わっているものではなく、内積に依存する概念であることに留意させる。また、グラム・シュミット直交化法はじめとして諸概念を幾何学的視点に重点をおき講義する。	メディア
		線形空間論Ⅱ	これまで、幾何学概論Ⅰ、Ⅱ、線形代数学Ⅰ、Ⅱおよび線形空間論Ⅰで学習してきたことを踏まえ、行列の固有値と固有ベクトルの計算を自在に行うとともに、線型写像の表現行列に応用することで、線型写像をより視覚的、幾何学的に捉えることができることを目標とする。具体的には、固有値、固有ベクトルの扱いになれ行列の対角化やケーリー・ハミルトン定理を理解できるように講義する。	メディア
		曲線論	平面曲線および空間曲線の基本的な幾何学量である曲率を定義し、それらの幾何学的意味を理解することを目標とする。具体的には、円などの身近な例について曲がり具合を表すための基本的な考え方を学ぶ。それを踏まえ、曲率を定義し様々な曲線の曲率を計算できるようにする。さらに、フレネ・セレの公式を使いこなすとともに、曲線の実在性と一意性定理を通して実社会への応用例も含めて講義をする。	メディア
		曲面論	三次元ユークリッド空間内の曲面の基本的な幾何学量であるガウス曲率や平均曲率が計算でき、それらの幾何学的意味を理解することを目標とする。具体的には、平面や球面などの例を通して、曲面の曲がり具合を表すための基本的な考え方を学習する。それを踏まえ、曲面のガウス曲率や平均曲率を定義し、様々な曲面のガウス曲率と平均曲率を計算できるようにする。その際、曲面の視覚的理解を重視し講義をする。	メディア

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 数学教育	位相空間論	位相空間の基礎を学ぶとともに、このような抽象化された概念を論理的に精密に取り扱えるようになることを目標とする。具体的には、位相空間を定義し具体例を数多く紹介する。その中で、距離空間についてはより詳しく講義する。また、このような一般化や抽象化の必要性についても理解するようにする。また、コンパクト性やハウスドルフ性および連続写像について講義する。	メディア
	可微分多様体論	現代幾何学の重要概念である可微分多様体の基礎を学び、抽象化され概念を論理的に精密に取り扱えるようになることを目標とする。具体的には、可微分多様体を定義し例を数多く与える。これにより、位相空間上で微積分学を展開するための考え方を理解する。また、はめ込み等の多様体間の種々の写像を講義する。また、Lie群も紹介し数学の各分野が独立に存在するものではなく互いに密接に関連していることを学習する。	メディア
	解析学概論Ⅰ	微分積分法は現代数学、特に解析学の基礎をなすものである。この講義では、微分積分法のうち一変数関数に対する微分法の基本を学習する。 最初に、関数の極限という考え方を導入し、それに基づき関数の連続性や微分可能性を定義する。次に、微分法に関するいくつかの公式や初等関数に関する導関数の公式を導く。これらの公式の導出方法を理解すること、および得られる公式を自在に利用し、様々な計算を行えるようになることが目標である。	
	解析学概論Ⅱ	微分積分法は現代数学、特に解析学の基礎をなすものである。この講義では、微分積分法のうち一変数関数に対する微分法の応用を扱う。 微分法の応用は、言い換えれば平均値の定理やそこから派生する定理、あるいは平均値の定理を拡張した定理を応用することである。この講義ではロルの定理を出発点とし、各種の定理を証明し、それらを具体的な問題へ応用する方法を学習する。	
	解析学Ⅰ	微分積分法は現代数学、特に解析学の基礎をなすものである。この講義では、微分積分法のうち一変数関数に対する積分法の基礎を扱う。 最初に解析学概論Ⅰの復習として、いくつかの初等関数に対する不定積分の公式を確認する。次に、部分積分法や置換積分法といった不定積分を計算するための道具を用意する。以上の準備の下で、有理関数の不定積分をシステムティックに求める方法を用意し、得られた方法を三角関数、指数関数、無理関数に応用する。	
	解析学Ⅱ	微分積分法は現代数学、特に解析学の基礎をなすものである。この講義では、微分積分法のうち一変数関数に対する積分法の基礎と応用を扱う。 解析学Ⅰの学習内容を踏まえて、定積分を定義する。定積分を利用することで、図形も面積や曲線の長さを求めることが可能となる。その仕組みを確認し、応用としていくつかの不等式を導く。また、定積分の概念を拡張した広義積分とその応用についても学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	数学教育	確率論概論（確率論と現代の数学教育を含む）	高等学校で学んだ確率をより厳密により深く理解することを到達目標とする。具体的には、確率の定義を厳密に行い、条件付き確率、独立事象、確率変数、分布関数について基本的な性質を講義する。また、データサイエンスの考え方を念頭におき、行列をはじめとする線形代数的な視点も加え中学・高校数学における確率論の位置づけについても講義する。	メディア
			統計学概論（統計学と現代の数学教育を含む）	推定について深く理解することを到達目標とする。特に、近年はビッグデータの利用については必須であるので、それも踏まえ標本調査、各種統計量、正規分布等について基本的性質を講義をする。また、確率論との関係も学習し、データサイエンスの考え方も念頭におき講義する。さらに、中学・高校数学における統計学の位置づけについても講義する。	メディア
			回帰分析	授業のテーマ及び到達目標は、回帰分析、統計学の考え方を理解し、推定と検定の定義を理解し、説明できるようになることである。そして相関係数と回帰直線の定義を理解し、それが説明でき、決定係数の定義を理解し、説明できるようになれば、回帰係数の区間推定と検定の問題を解くことができる。そして本授業では統計学、中でも特に回帰分析の基本を学ぶ。様々なデータを整理、分析し、背後に存在する数学的原理を見抜くことが狙いである。	メディア
			論理学	数学の基礎となる論理について厳密に学びコンピュータ分野の考え方の基礎を捉えることを目標とする。具体的には、命題論理と述語論理についてそれらの基本的な事項を学ぶ。特に、これらの扱いになれることで、対偶法や背理法等の構造を理解することで、実際の学校での授業における留意点も理解できるようにする。また、コンピュータの扱いも念頭におきブール代数や回路図についても説明する。	メディア
			集合論	現代数学の基礎となる集合や写像について厳密に扱えることを目標とする。具体的には、集合の和集合、共通集合、差集合等の基本的な扱いをベン図も使いながら講義し、写像についても単射性や全射性についても詳しく説明する。さらに、同値関係についても講義し、例えば小学校の分数の扱いについての理解が深まるようにする。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	数学教育	数学科教育法Ⅲ（石川県の教育実践を含む）	中学校及び高等学校数学科の目標と内容、指導法についての知識及び技能や考え方を身につけるために、中学校及び高等学校数学科の目標とその特質、内容とその構造についての知見を基に、各領域・内容における石川県の教育実践を含む学習指導の検討を通して、個別の学習内容における生徒の認識・思考や、指導上の留意点等、数学科の指導法についての知見を得る。	メディア
			数学科教育法Ⅳ（石川県の教育実践を含む）	中学校及び高等学校数学科の指導法についての実践的な知識及び技能や考え方を身につけ、数学科の授業を設計することができるようになるために、中学校及び高等学校数学科における教材研究、授業の設計、情報機器及び教材の活用、学習評価について、石川県の教育実践を含む知見を得て、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を実現する授業を設計し、模擬授業とその振り返りを行い、数学科の実践研究とその課題について学ぶ。	メディア
			数学科教育法Ⅴ	数学科の授業を分析するための知識及び技能や考え方を身につけるために、数学科授業の分析のための枠組みを基に、各領域における授業の視聴とその分析を通して、個別の学習内容における生徒の認識・思考や、指導上の留意点についての理解を深め、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の原理と構成要素等の知見を得る。	
			数学科教育法Ⅵ	小学校算数科、中学校高等学校数学科の教材と学習指導を分析するための知識及び技能や考え方を身につけるために、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の原理と構成要素等の知見を基に、教育実習に向けて、受講者が協力して、各領域・内容の教材や学習指導案を検討し、模擬授業を行い、相互評価し振り返る。 (オムニバス方式／全8回) (69 伊藤伸也／1回、2回、3回、4回) 「数と式」及び「図形」関連領域・内容の教材と学習指導案の検討、模擬授業とその振り返りを行う。 (43 米田力生／5回、6回、7回、8回) 「関数」及び「データの活用」関連領域・内容の教材と学習指導案の検討、模擬授業とその振り返りを行う。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	数学教育	数学科教育法Ⅶ	<p>小学校算数科、中学校高等学校数学科の授業を設計し教材を開発するための知識及び技能や考え方を身につけるために、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の原理と構成要素等の知見を基に教育実習における授業の経験振り返り、各領域・内容の学習指導の過程について検討し、そのような授業の設計の枠組みへと洗練させ、各領域・内容における教材開発に取り組む。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(69 伊藤伸也／1回、2回、3回、4回) 「数と式」、「図形」、「関数」及び「データの活用」関連領域・内容の学習指導の過程を検討するとともに、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の設計の枠組みを洗練させる。</p> <p>(43 米田力生／5回、6回、7回、8回) 「数と式」、「図形」、「関数」及び「データの活用」関連領域・内容の学習指導の過程の検討と教材開発に取り組み、数学的活動全般を通して、学生自身が主体的・対話的で深い学びを実現する授業の設計の枠組みを洗練し構築していく。</p>	オムニバス方式
			数学科教育法Ⅷ	<p>小学校算数科、中学校高等学校数学科の授業を設計するための実践的な知識及び技能や考え方を身につけるために、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の設計の枠組みと教材開発による知見を基に、教育実習における授業の経験振り返り、受講者が協力して、授業を構想し学習指導案として再構成し、その模擬授業を行い、相互評価し振り返る。</p>	
			算数・数学科教育論	<p>小学校算数科、中学校高等学校数学科の教育実践とその研究の基盤となる、数学教育に関する知識及び技能や考え方を体系的に身につけ、算数・数学科教育の今日的課題の解決のための展望を得ることを目指す。そのために、小学校算数科、中学校高等学校数学科の教育実践とその研究の基盤となる数学教育論から、算数・数学科教育への視座を得て、その視座から、算数・数学科教育の今日的課題を見出し、その解決のための展望を得る。</p>	メディア
			算数・数学科授業論	<p>算数・数学科の指導法に関する知識や技能を身につけ、活用できる算数科、数学科の目標とその特質、内容とその構造についての知見を基にして、各領域における授業の視聴およびその検討を通して、個別の学習内容における児童、生徒の認識・思考や、指導上の留意点等、算数科・数学科の指導法についての知見を得て、それを実際の授業で活用できるようになることを目指す。</p>	メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 理科教育	理科内容 A (電磁気学概論と現代理科教育)	中学校・高等学校の理科教員として必要な電磁気学の基礎を理解することを目標とし、中学校・高等学校の理科を教える上で必要となる電磁気学の基礎的な概念や、基本的な問題を解く方法について学ぶ。具体的には、電磁気学の基礎的内容として、電荷に働く力、静電場の性質、ガウスの法則、電場と電位の関係、静電エネルギー、電気容量、電流と電気抵抗、電気回路などについて学ぶ。また、現代理科教育の様々な課題について知識を深める。	メディア
	理科内容 A (一般物理学)	中学校・高等学校の理科教員として必要な電磁気学の発展的内容、初等量子力学の基礎、及び波動の性質について理解することを目標とし、中学校・高等学校の理科を教える上で必要となる電磁気学、初等量子力学の概念や、波動の性質を理解し、基本的な問題を解く方法について学ぶ。具体的には、電磁気学の発展的内容として、磁場の発生、磁場によって生じる力、電磁誘導、交流回路について学び、音と光、波動と電磁波の関係などについて学ぶ。	メディア
	理科内容演習 A I (物理学)	中学校・高等学校理科の物理分野の専門知識・技能を深めることを目標とし、中学校・高等学校の物理分野に含まれる内容(力、物体の運動、熱、エネルギー)に関する演習問題に取り組み、その解法をお互いに説明することで、物理的な考え方や見方を養う。具体的には、まず物理数学の基礎を修得した上で、力と運動の関係、力のつり合い、圧力と浮力、力学的エネルギーの保存、熱伝導や熱とエネルギーの関係などについて理解を深める。	
	理科内容演習 A II (物理学)	中学校・高等学校理科の物理分野の専門知識・技能を深め、教員としての能力を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の物理分野に含まれる内容(電気回路、電流と磁界、光と音)に関する演習問題に取り組み、その解法をお互いに説明することで、物理的な考え方や見方を養う。具体的には、電磁気学においては、静電現象、電流と磁界、電気容量、電磁誘導、電磁波について学び、また、光の性質や音と波の関係について理解を深める。	
	理科実験 A I (物理学)	中学校・高等学校の理科教員として必要な基礎的な物理学実験の知識・技能を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の物理分野に含まれる内容(力、物体の運動、熱、エネルギー)に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。まず、測定と誤差についての基礎的な知識を学び、重力加速度、力の合成、摩擦係数などの力学的実験や、気体と液体の圧力、固体の比熱、熱の仕事当量などの熱力学的測定を行うとともに、コンピュータによるデータ処理に関する技術も修得する。	
	理科実験 A II (物理学)	中学校・高等学校の理科教員として必要な物理学実験の知識・技能を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の物理分野に含まれる内容(電気回路、電流と磁界、光と音)に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。まず、電気回路製作の基本的技術を学び、電気抵抗、等電位線と電気力線、静電容量、電磁湯堂などの電磁気学の実験や、音波の共鳴や光に関する波動の測定を行うとともに、コンピュータによる機器の制御に関する技術も修得する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	理科教育	理科内容B（無機化学概論と現代理科教育）	理科教育の1専門分野である化学を指導するうえで、中学校および高等学校における化学分野の基本的で重要な事項を習得すること、また、現代理科教育の様々な課題について知識を深めることが必須となる。この講義では、原子の構造、化学結合、気体の性質の基礎について取り上げ、物質を構成する粒子またはその集合体について化学的性質・現象を学ぶとともに、現代理科教育の様々な課題を理解する視点を養う。	メディア
			理科内容B（物性化学）	理科教育の1専門分野である化学を指導するうえで、中学校および高等学校における化学分野の基本的で重要な事項を習得すること、また、現代の生活と化学とのかかわりを理解する視点を養うことが必須となる。この講義では、無機物質の構造と性質、バンド理論、有機化合物の構造とその反応について取り上げ、具体的な物質の性質や反応を電子状態から捉え、身近な物質・現象と結びつけて理解する視点を養う。	メディア
			理科内容演習B I（化学）	化学分野を指導する教員に必要な資質の一つとして、基礎的な知識を応用し、課題を解決する化学的思考力が必要不可欠となる。この演習では、中学校・高等学校の化学分野に含まれる内容（無機化学、物理化学等）に関して、具体的な現象の観察や課題に取り組みながら化学的思考力を養い、教員になるために必要な基礎知識とそれを応用する能力を身につける。	
			理科内容演習B II（化学）	化学分野を指導する教員に必要な資質の一つとして、専門知識を深めることとその知識や情報を自ら獲得できる力を養うことが必要不可欠となる。この演習では、中学校・高等学校の化学分野に関する専門知識や教材について、文献調査を行い、その内容を自ら理解、要約、説明する過程を通して、教員になるために必要な能力を身につける。	
			理科実験B I（化学）	化学分野を指導する教員において、実験を通して物質の性質や反応に関する知識を習得し、技術的・論理的な能力を習得することが必要不可欠となる。この実験では、中学校および高校における化学分野の基本となる実験の指導および安全教育を行うために必要な基礎的能力を習得することを目的として、気体の発生とその性質の確認、滴定実験を行うとともに、実験に関連して、器具操作方法、データの取り扱い、試薬の調製と廃液処理の方法を学ぶ。	
			理科実験B II（化学）	化学分野を指導する教員において、実験を通して物質の性質や反応に関する知識を習得し、技術的・論理的な能力を習得することが必要不可欠となる。この実験では、中学校および高校における無機化学、物理化学、有機化学分野の実験指導および安全教育を行うために必要な基礎的能力を習得することを目的として、金属イオンの分析、分子量の測定、反応エンタルピーの測定、有機化合物の合成実験を行うとともに、実験に関連して、器具操作方法、データの取り扱い、試薬の調製と廃液処理の方法を学ぶ。	
			理科内容C（生物多様性概論と現代理科教育）	生物分野の理科先進的教育科目として、中学校・高等学校の理科教員に必要とされる生物多様性の基礎を身に付ける。現代理科教育の課題となる生物進化についての基礎的な内容を理解したうえで、生物の構造と機能について学ぶ。具体的には、真核生物の多様性、植物の構造と機能、後生動物の多様性、脊椎動物の構造と機能、生物の生態、生物と環境などについての科学的知見に関する理解を深める。	メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 理科教育	理科内容C（一般生物学）	中学校・高等学校の理科生物分野を教える上で必要となる一般生物学の各論について学ぶ。具体的には、ダーウィンを中心とした進化学説、バクテリア・アーキア・真核生物の3ドメイン説、独立栄養生物の生理生態、陸上植物の系統と生理生態、従属栄養生物の生理生態、旧口動物の系統と生理生態、群集生態学、気候変動と生態系などについての科学的知見に関する理解を深める。	メディア
	理科内容演習C I（生物学）	中学校・高等学校の理科教員として必要となる多様な生物の構造と機能に関する文献を講読し、理解した内容を発表することにより、生物学分野の専門知識・技能を深める。具体的には、ウイルスとバクテリアの生理学、単細胞生物の生理生態学、陸上植物の形態学と生態学、後生動物の形態学と生態学に関する文献から発表を行い討論する。	
	理科内容演習C II（生物学）	中学校・高等学校の理科教員として必要な生命の連続性および生物と環境の関わりに関する文献を講読し、理解した内容を発表することにより、生物学分野の専門知識・技能を深める。具体的には、生物の成長と殖え方、遺伝の規則性と遺伝子、生物の種類の多様性と進化、生物と環境、および自然環境の保全と科学技術の利用に関する文献から発表を行い討論する。	
	理科実験C I（生物学）	中学校・高等学校の生物学分野に含まれる内容（主に植物）に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。具体的には、植物野外調査と採集、植物実験・観察の方法、植物標本・データ分析（コンピュータの活用を含む）、植物細胞・植物組織・植物器官を用いた実験・観察など、基礎的な生物学実験の知識・技能を身につける。	
	理科実験C II（生物学）	中学校・高等学校の生物学分野に含まれる内容（主に動物）に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。具体的には、動物野外調査と採集、動物実験・観察の方法、動物標本・データ分析（コンピュータの活用を含む）、動物細胞・動物組織・動物器官を用いた実験・観察など、基礎的な生物学実験の知識・技能を身につける。	
	理科内容D（地球物質科学概論と現代理科教育）	中学校・高等学校の理科教員として必要な固体地球における物質科学の基礎を理解することを目標とし、中学校・高等学校の理科を教える上で必要となる地球の内部構造や岩石・鉱物、および固体地球の変動メカニズムについての基礎的な内容を理解し、地殻の成因について学ぶ。また、現代理科教育の様々な課題について知識を深める。	メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 理科教育	理科内容D（一般地学）	本講義では中学校・高等学校の理科教員として必要な天文学の基礎について理解することを目標とし、中学校・高等学校の理科を教える上で必要となる現代の宇宙像の概要（太陽系の構造と天体、恒星の特徴と進化、銀河系の構造、さまざまな銀河の存在と分布、宇宙の誕生と進化）や天文学の歴史（天動説と地動説、観測技術の変遷）について学ぶ。	メディア
	理科内容演習D I（地学）	地形や地質の野外観察や地学に関する演習問題等を解くことにより、中学校・高等学校理科の地学分野の専門知識・技能を深めることを目標とし、中学校・高等学校の地学分野に含まれる内容（地形、地質、プレートテクトニクス等）に関する観察や課題に取り組み、地学的な考え方や見方を養う。具体的には、地形および地質の野外観察、ITCを活用した古地理の推定、ボーリングデータによる地質断面図の作成、地質図からの地球史の推定、プレートの運動速度の推定、練習問題地を使った球史の復元などを行う。	
	理科内容演習D II（地学）	地学に関する課題に取り組むことにより、中学校・高等学校理科の地学分野の専門知識・技能を深め、教員としての能力を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の地学分野に関する単元の内容や教材について研究をする。その上で学生が地学分野に関するテーマを決めて課題設定をし、それらに取り組むことで、地学的な考え方や見方とともに教員としての資質を養う。	
	理科実験D I（地学）	中学校・高等学校の理科教員として必要な基礎的な地学実験の知識・技能を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の地学分野に含まれる内容（地形、地層）に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。具体的には、地形図の基礎と読図（コンピュータの活用を含む）、測定の基礎、地質図の基礎と読図などについて学ぶ。	
	理科実験D II（地学）	中学校・高等学校の理科教員として必要な地学実験の知識・技能を身につけることを目標とし、中学校・高等学校の地学分野に含まれる内容（気象、化石、岩石）に関する実験課題に取り組み、結果をレポートにまとめる。具体的には、身近な気象の観察（作業、データの整理と考察）、コンピュータを活用した自然災害学習、岩石の分類と標本の観察、岩石薄片の観察、化石の分類法、化石の抽出や観察などを行う。	
	理科教育法I（石川県の教育実践を含む）	本授業では、中学校・高等学校の理科の学習指導要領に基づいた生徒の自然理解、指導技術、教材内容について理解し、中学校・高等学校における理科教育の基本的事項を習得することを目的としている。その際、石川県の具体的な授業実践例を通して、その特徴や教育理念も理解するようにする。とくに、中学校・高等学校における理科の目標をもとに、基本的な知識・技能と生徒の自然認識の実態、主体的な学習のための課題設定、理科学習展開の工夫について、石川県の理科の教育実践も通しながら理解する。また、中学校・高等学校の理科のカリキュラムの構成や教材、情報機器の活用について具体的な授業実践例をもとに理解する。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	理科教育	理科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）	本授業では、中学校・高等学校の理科の学習指導要領に基づいた授業計画と授業評価について理解するとともに、理科におけるマネジメントを理解し、中学校・高等学校における理科教育の基本的事項を習得することを目的としている。その際、石川県の具体的な授業実践例を通して、理科の教材研究の工夫やSTEAM教育とSDGsに関わる教材の工夫についても理解するようにする。そして、具体的な単元構成と指導案の作成を行い、作成した指導案にもとづく模擬授業と模擬授業の評価を行う。授業計画や模擬授業にあたっては、理科における学習評価、学習形態の工夫や学級経営のあり方、さらに、理科における情報機器の活用や、理科における事故防止と理科室の管理運営についても考慮するようにする。	メディア
			理科教育法Ⅴ	本授業では、中学校・高等学校の理科の内容を対象に、具体的な理科の授業設計を行い、指導技術について習得することを目的としている。とくに、中学校・高等学校の理科の目標と指導のポイント、優れた理科授業の分析と指導技術、理科の教材研究例と授業実践について具体的な実践例をもとに理解する。また、主体的な理科学習のための課題設定や、情報機器の活用を含めた理科における対話的な学び、教科横断的な理科の授業について具体的な授業実践例から理解する。	
			理科教育法Ⅵ	本授業では、中学校・高等学校の理科の内容を対象に、授業設計と模擬授業の実施を通して理科の指導技術について習得することを目的とする。指導計画については、単元計画、本時の指導案、評価基準、授業において用いるワークシートの作成など、具体的な教材を対象に行う。その際、物理分野、化学分野、生物分野、地学分野の内容を取り上げ、その内容の特徴を生かした模擬授業の実施と模擬授業の評価を行い、模擬授業を振り返ることによって、指導計画の改善案を作成する。	
			理科教育法Ⅶ	本授業では、教育実習をふりかえりながら理科の授業改善を行い、それにもとづく模擬授業を実施することにより理科の教材開発や指導技術を習得することを目的とする。とくに、教育実習の授業と指導案について再検討し、同じ授業について指導案を再度作成し議論する。その議論の結果を踏まえ、教材について検討し授業計画を立てて模擬授業を実施する。その際、単元計画と本時の指導案の作成と教材の検討、ワークシートの作成、情報機器活用を含む教具の準備と板書計画などを考慮するようにする。	
			理科教育法Ⅷ	本授業では、日本の理科カリキュラムの変遷や世界の理科カリキュラムを概観し、カリキュラムが時代的背景によって変化し指導法も変化してきたことを理解し、これからの理科の指導のあり方について検討することを目的とする。とくに、理科カリキュラムの構成要素にもとづき、昭和20年代の生活単元学習、昭和40年代の系統的学習、昭和50年代からのゆとりのカリキュラム、平成中期から令和にかけての現代のカリキュラムを取り上げ、その背景と特徴を理解する。その際、世界の理科カリキュラムとの比較、理科のカリキュラムマネジメントの考慮などについても取り上げる。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	理科教育演習 I	本授業では、理科教育に関する研究資料やデータの分析をもとに、理科教育の研究方法について習得することを目的とする。とくに、理科の教材開発の方法について、教材開発の論文をもとに理解する。また、自然認識の調査分析の方法について、定性的分析や統計的手法を用いた定量的分析について研究論文をもとに理解する。さらに、理科授業の質的分析、量的分析の方法について理解するとともに、理科カリキュラムの分析方法について、歴史的 analysis や国際比較の分析について理解する。	
	理科教育演習 II	本授業では、理科教育に関する研究資料の分析とともに、教材開発の課題研究を通して理科教材の開発方法について習得することを目的としている。まず、教材開発の目的と意義の理解のもとに、任意の理科教材に着目し、その教材開発の先行研究について調べ、教材の意義や教材開発の方法について理解する。それをもとに、教材の設計、教材の作成を行い、教材の発表を通して改善し、改善した教材を用いた授業設計と模擬授業を行う。模擬授業を通して教材および教材を用いた授業展開の改善点を明らかにする。	
	理科教育実践研究 I	<p>(概要)</p> <p>理科各領域カリキュラムの概要を知り教材研究を行うことにより、授業実践のための基本的能力を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全 8 回)</p> <p>(37 松原道男／1 回, 2 回) 理科カリキュラムの変遷について解説する。</p> <p>(32 辻井宏之／3 回, 4 回) 理科物理領域カリキュラムの概要を学び、教材研究を行う。</p> <p>(97 小松田(佐藤)沙也加／5 回, 6 回) 理科化学領域カリキュラムの概要を学び、教材研究を行う。</p> <p>(25 川幡佳一／7 回) 理科生物領域カリキュラムの概要を学び、教材研究を行う。</p> <p>(28 酒寄淳史／8 回) 理科地学領域カリキュラムの概要を学び、教材研究を行う。</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	理科教育実践研究Ⅱ	<p>(概要) 理科各領域カリキュラムの概要を知り教材研究を行うことにより、実際にカリキュラム(年間指導計画・単元の指導計画)を作成するときの視点や技術を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(37 松原道男/1回, 2回) 理科指導計画の作成と実践について解説する。</p> <p>(32 辻井宏之/3回) 理科物理領域カリキュラムの実践を学ぶ。</p> <p>(97 小松田(佐藤)沙也加/4回) 理科化学領域カリキュラムの実践を学ぶ。</p> <p>(25 川幡佳一/5回, 6回) 理科生物領域カリキュラムの実践を学ぶ。</p> <p>(28 酒寄淳史/7回, 8回) 理科地学領域カリキュラムの実践を学ぶ。</p>	オムニバス方式
	理科教育実践研究Ⅲ	<p>(概要) 理科各領域カリキュラムの概要を知り教材研究を行うことにより、授業実践のための応用的能力を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(37 松原道男/1回, 2回) 理科カリキュラムの構成要素について解説する。</p> <p>(32 辻井宏之/3回, 4回) 理科物理領域カリキュラムの教材研究を行う。</p> <p>(97 小松田(佐藤)沙也加/5回, 6回) 理科化学領域カリキュラムの教材研究を行う。</p> <p>(25 川幡佳一/7回) 理科生物領域カリキュラムの教材研究を行う。</p> <p>(28 酒寄淳史/8回) 理科地学領域カリキュラムの教材研究を行う。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目	理科教育実践研究Ⅳ	<p>(概要) 理科各領域カリキュラムの概要を知り教材研究を行うことにより、様々な単元における実践的なカリキュラムを作成するときの視点や技術を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(37 松原道男／1回, 2回) 理科カリキュラムマネジメントについて解説する。</p> <p>(32 辻井宏之／3回) 理科物理領域カリキュラム作成における実践的技術を学ぶ。</p> <p>(97 小松田(佐藤)沙也加／4回) 理科化学領域カリキュラム作成における実践的技術を学ぶ。</p> <p>(25 川幡佳一／5回, 6回) 理科生物領域カリキュラム作成における実践的技術を学ぶ。</p> <p>(28 酒寄淳史／7回, 8回) 理科地学領域カリキュラム作成における実践的技術を学ぶ。</p>	オムニバス方式
	ソルフェージュⅠ	<p>課題、宿題を通して初歩的なリズム感、聴音等の実践から始め、和声法学習へ結びつく音感を養う。また指揮法習得への初学段階をも担う。テキストには、Noel-Gallon "Vingt-cinq Lecons de Solfege" (初見視唱・視奏)、Noel-Gallon "Solfege Progressif" (聴音)をはじめ、海外のソルフェージュ教材を中心に扱い、リズムトレーニングやクレフの異なる楽譜を読む練習などを繰り返し行っていく。</p>	
	ソルフェージュⅡ	<p>ソルフェージュⅠで向上させたソルフェージュ能力を実践的に生かしていく練習をする。読譜能力および演奏能力を支える音感、また、自身の不得意なソルフェージュ分野における能力の更なる向上をはかることを目指す。加えて、身につけた能力をコーディネートし、演奏実技に生かしていくことを目標とし、様々な編成(声を使った作品、ボディーパーカッションを用いた作品、打楽器を用いた作品など)のアンサンブル作品の演奏に取り組む。</p>	
歌唱法Ⅰ	<p>声楽的な歌唱技術を身に付ける上での基礎的な知識と技能を習得することを目標とする。具体的にはコンコーネ50番の第1番から順番に取り組み、階名読みによる歌唱を基本として、正しい音程とリズムを保ちながらフレーズ感やアーティキュレーションに留意しながら歌うことができるようにする。歌詞を持たない練習曲をいかに音楽的に且つソルフェージュ的にも正しく歌唱できるように心掛ける。最終回には授業で学んだコンコーネの練習曲の中から任意の曲を課題曲に設定して試験を行い、評価を行う。</p>		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 音楽教育	歌唱法Ⅱ	<p>声楽的な歌唱技術を身に付ける上での基礎的な知識と技能を習得することを目標とする。具体的にはコンコーネ50番の第10番以降の楽曲に取り組み、階名読みによる歌唱を基本として、正しい音程とリズムを保ちながらフレーズ感やアーティキュレーションに留意しながら歌うことができるようにする。歌詞を持たない練習曲をいかに音楽的に且つソルフェージュ的にも正しく歌唱できるように心掛ける。最終回には授業で学んだコンコーネの練習曲の中から任意の曲を課題曲に設定して試験を行い、評価を行う。</p>	
	歌唱法Ⅲ	<p>声楽的な歌唱技術を生かして、古典イタリア歌曲の歌唱に取り組む。イタリア語が持つ言語的な特徴を活かしながら、より遠くに、より多くの人に届く発声技術と、積極的な表現力を身に付けることを目標とする。古典イタリア歌曲は声楽を志す者にとっての初歩的、基礎的な練習曲として日本の音楽教育及び芸術音楽の分野で取り上げられているが、これを声楽的また音楽的に歌うことは実は非常に難しい。上辺だけの習得に留まらず、正確な発音を伴いながら声楽的且つ音楽的に、またソルフェージュ的にも正確に歌えるようにすることを心掛ける。最終回には授業で取り組んだ楽曲の中から任意の曲を課題曲として試験を行い評価する。</p>	
	歌唱法Ⅳ	<p>声楽的な歌唱技術を生かして、古典イタリア歌曲と日本歌曲の歌唱に取り組む。日本語と外国語の発音や表現の違いを考察しながら、あらゆる言語を歌詞に持つ楽曲の歌唱と指導を行うことができるようになることを目標とする。特にイタリア語と日本語の母音の違いに留意しながら指導を行う。殊に「ウ」の母音は日本語と西洋の原語では決定的な深さの違いがあり、これを習得することが、声楽的技術を身に付ける上において最重要課題であることから、この点についてはより留意しながら日本歌曲もイタリア語の母音に近い深さを保ちながら歌えるようにすることを心掛ける。</p>	
	アンサンブルⅠ（声楽）	<p>教科書で取り上げられている合唱教材やその他の邦人作品に加え、バロックからロマン派までの宗教曲を中心とした合唱曲に取り組み、日本語のみならずあらゆる言語に対応できる歌唱力、アンサンブル力、指導法を身に付けることを目標とする。始めに、音楽の教科書で取り上げられている教材を如何に指導するのかという点から出発して、やや難易度の高い邦人作品について、和声的なアンサンブルの構造に着目しながら、音楽的な側面と歌詞の持つ内容との調和を目指す。その上で、ラテン語やドイツ語を歌詞に持つミサ曲やモテットの歌唱にも取り組み、外国語の歌詞による合唱曲の歌い方と指導法も身に付けられるようにする。</p>	
	アンサンブルⅡ（声楽）	<p>教科書で取り上げられている合唱教材やその他の邦人作品に加え、バロックからロマン派までの宗教曲を中心とした合唱曲に取り組み、日本語のみならずあらゆる言語に対応できる歌唱力、アンサンブル力、指導法を身に付けることを目標とする。始めに、音楽の教科書で取り上げられている教材を如何に指導するのかという点から出発して、やや難易度の高い邦人作品について、和声的なアンサンブルの構造に着目しながら、音楽的な側面と歌詞の持つ内容との調和を目指す。その上で、ラテン語やドイツ語を歌詞に持つミサ曲やモテットの歌唱にも取り組み、外国語の歌詞による合唱曲の歌い方と指導法も身に付けられるようにする。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 音楽教育	アンサンブルⅢ（声楽）	教科書で取り上げられている合唱教材やその他の邦人作品に加え、バロックからロマン派までの宗教曲を中心とした合唱曲に取り組み、日本語のみならずあらゆる言語に対応できる歌唱力、アンサンブル力、指導法を身に付けることを目標とする。始めに、音楽の教科書で取り上げられている教材を如何に指導するのかという点から出発して、やや難易度の高い邦人作品について、和声的なアンサンブルの構造に着目しながら、音楽的な側面と歌詞の持つ内容との調和を目指す。その上で、ラテン語やドイツ語を歌詞に持つミサ曲やモテットの歌唱にも取り組み、外国語の歌詞による合唱曲の歌い方と指導法も身に付けられるようにする。	
	日本の伝統的歌唱法	長唄の歌唱を通じて、日本の伝統的な歌唱技術を身に付けるとともに、それに不随する様々な作法を学び、日本古来の形や様式美を知ることによって、西洋音楽との違いや伝統文化の大切さを学ぶことを目標とする。長唄を歌唱する上での立ち居振る舞いや所作を身に付け、伝統的な歌唱を行う上での「形」を知ることによって、所作と歌唱技術の関係性に着眼しながら、日本古来の伝統的な歌唱の歴史的意義と存在意義を学び、それを音楽教育に如何に活かしていくべきかを考察する。	
	歌唱法演習Ⅰ	頭声発声を基調とした歌唱技術を身に付けるために、呼吸法と発声法を重点を置きながら、古典イタリア歌曲やトスティの歌曲を歌うことによって、技術力と表現力が融合された歌唱力を身に付ける。声楽的な発声技術と音楽表現の融合を目指し、声と表現を多くの人に伝えるための技術的・精神的な方向性を導き出し、発展的な歌唱力と、またそれを活かした歌唱指導が可能になることを目標とする。また授業で習得した楽曲を演奏会で発表し、その修学の成果と人前で演奏することの難しさを知ることによって、声楽的歌唱の奥深さを認識する。	
	歌唱法演習Ⅱ	頭声発声を基調とした歌唱技術を身に付けるために、呼吸法と発声法を重点を置きながら、トスティの歌曲やモーツァルトのオペラ・アリアを歌うことによって、技術力と表現力が融合された歌唱力を身に付ける。声楽的な発声技術と音楽表現の融合を目指し、声と表現を多くの人に伝えるための技術的・精神的な方向性を導き出し、発展的な歌唱力と、またそれを活かした歌唱指導が可能になることを目標とする。また授業で習得した楽曲を演奏会で発表し、その修学の成果と人前で演奏することの難しさを知ることによって、声楽的歌唱の奥深さを認識する。	
	歌唱法演習Ⅲ	頭声発声を基調とした歌唱技術をさらに発展させながら、ドイツ語やフランス語の歌曲にも取り組み、あらゆる言語に対応できるディクシオンを身に付ける。声楽的な発声技術と音楽表現の融合を目指し、声と表現を多くの人に伝えるための技術的・精神的な方向性を導き出し、発展的な歌唱力と、またそれを活かした歌唱指導が可能になることを目標とする。また授業で習得した楽曲を演奏会で発表し、その修学の成果と人前で演奏することの難しさを知ることによって、声楽的歌唱の奥深さを認識する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	音楽教育	歌唱法演習Ⅳ	オペラアリアの歌唱に取り組みながら、舞台表現を念頭に置いた歌唱表現、発音、演技が出来るようになることを目指す。声楽的な発声技術と音楽表現の融合を目指し、声と表現を多くの人に伝えるための技術的・精神的な方向性を導き出し、発展的な歌唱力と、またそれを活かした歌唱指導が可能になることを目標とする。また授業で習得した楽曲を演奏会で発表し、その修学の成果と人前で演奏することの難しさを知ることによって、声楽的歌唱の奥深さを認識する。	
			和楽器奏法	三味線の演奏を通じて、日本の伝統的な演奏技術を身に付けるとともに、それに不随する様々な作法を学び、日本古来の形や様式美を知ることによって、西洋音楽との違いや伝統文化の大切さを学ぶことを目標とする。三味線を演奏する上での立ち居振る舞いや所作を身に付け、楽器としての取り扱いや手入れの仕方など、伝統的な演奏を行う上での「形」を知ることによって、所作と演奏技術の関係性に着眼しながら、日本古来の伝統的な奏法の歴史的意義と存在意義を学び、それを音楽教育に如何に活かしていくべきかを考察する。	
			ピアノ奏法Ⅰ	中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の基礎知識・技能の習得。スケール等の基礎的な演奏技術の習得。特に音階特有の運指を身につけ、それぞれのカデンツをスムーズに取れるよう、反復練習する。また、個々の実力に応じた楽曲をテーマに、それぞれの演奏表現に必要な基本的な技術を身につける。特にペダルの機能の知識を学び、その上での効果的なペダリングの使い方や、運指によってどのように弾きやすくなるか、といった効果的な選択方法、また表現技術の基礎を身につける。最終的には、楽曲を暗譜で仕上げ、演奏発表する。	
			ピアノ奏法Ⅱ	ピアノ奏法Ⅰに引き続きピアノ演奏表現の基礎を実践的に学ぶ。中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の基礎知識・技能の応用と発展。ピッシナー、ツェルニー、クラーマービューロー、と言った指の訓練の練習曲、すでにある程度基礎を身につけている受講生にはブラームス、ショパン、リストなどのエチュードを実力に応じて与え、反復練習させる。さらに個々の実力に応じた楽曲をテーマに、それぞれの演奏表現に必要な応用的な技術を身につける。最終的には、楽曲を暗譜で仕上げ、演奏発表する。	
			ピアノ奏法Ⅲ	ピアノ奏法Ⅱに引き続き、中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の専門知識・技能を深める。ピアノ演奏表現の応用を実践的に学ぶ。バッハの平均律などを活用し、フーガの多声体の楽曲に取り組む。運指やペダリングが複雑となる多声体の楽曲の演奏技術を身につけ、表現技術の幅を広げる。基本的には受講生の実力によって、平均律曲集から3声～4声のフーガを選択させ、プレリュードとともに仕上げる。さらに個々の実力に応じた楽曲をテーマに、それぞれの演奏表現に必要な発展的な技術を身につける。最終的には、楽曲を暗譜で仕上げ、演奏発表する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 音楽教育	ピアノ奏法Ⅳ	<p>ピアノ奏法Ⅲに引き続き中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の専門知識・技能を深める。これまで積み上げてきた演奏技術、表現技術を元に、ピアノ演奏表現の応用を発展的に学ぶ。受講生の実力によって、ハイドン、モーツァルト、ベートーベン、と言った古典派の作品、またはショパンやシューマン、ブラームス、リストと言ったロマン派の作品から選択し、多彩な音色を奏するために、どのような運指やペダリングが必要になるかを考察し、最終的には、楽曲を暗譜で仕上げ、演奏発表する。</p>	
	ピアノ奏法演習Ⅰ	<p>ピアノ演奏を卒業研究として学ぶ。中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の専門知識・技能をさらに深める。ハイドン、モーツァルト、ベートーベン、と言った古典派の作品、ショパンやシューマン、ブラームス、リストと言ったロマン派の作品、ドビュッシーやラベル、ラフマニノフ、スクリャービン、プロコフィエフと言った近現代の作品まで、受講者の実力に応じて卒業研究で学ぶために、その準備段階として学ぶ作品を選ぶ。譜読み、運指、ペダリング、と言った演奏技術を段階的に行うのではなく、譜読みの段階から、今後の練習法や表現法といった課題を見据えられるように研究する。特に運指はなるべく初期段階での考察が必須となるため、重点的に行う。</p>	
	ピアノ奏法演習Ⅱ	<p>ピアノ演奏を卒業研究として学ぶ。中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の専門知識・技能を習得する。ピアノ奏法演習Ⅰで選択した作品を、発展的に考察する。運指やペダリングは効果的な練習を積み上げるためにも初期段階にある程度決定する必要があるが、演奏技術の習熟度や、音色の多彩さを感じられるようになる、練習しているうちに変化することは必然である。複数考えられる運指やペダリングからどれを選択するかを見極めるなど、自発的に考えられるように考察する。最終的には、楽曲を暗譜で仕上げ、演奏発表する。</p>	
	ピアノ奏法演習Ⅲ	<p>ピアノ演奏を卒業研究として学ぶ。中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の専門知識・技能を発展的に習得する。ピアノ奏法演習Ⅱで学んだ楽曲の演奏技術、表現技術を踏まえ、受講者の実力に応じて、バロック作品から近現代作品の中から学び、ピアノ作品に対する深い理解と演奏者のより高度な演奏表現を探究する。楽曲を音楽的に仕上げるためには、個々の音楽性だけでは実現できない。その作品に対する想いを表現するために、どのような演奏技術が必要となるかを、初期段階からしかも短時間で考えられるような能力を研く。</p>	
	ピアノ奏法演習Ⅳ	<p>ピアノ演奏を卒業研究として学ぶ。中学校音楽科・高等学校芸術科音楽の器楽分野の専門知識・技能を発展的に習得する。卒業研究に選んだ作品を中心に、時代的様式、作曲家固有の音楽様式を実践的に学び、演奏者固有の表現様式を研く。演奏家が存在する意義は、同じ作品でもそれぞれが、全く違う解釈を与えることにある。個々がそれぞれ異なる表現者であることを自覚し、選択した作品の歴史的な背景を調べ、過去のピアニストの演奏にはどのような特徴や個性的解釈がなされているかを研究し、個性のある演奏を表出することを目指す。最終的には、楽曲を暗譜で仕上げ、演奏発表する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 音楽教育	アンサンブルⅣ（木管）	クラリネットを基礎から学ぶだけではなく、ソロ曲やアンサンブル曲を演奏し、クラリネットの演奏技術や、音楽表現などを学ぶ。そのために、吹奏楽の中心楽器となるクラリネットの楽器について、基本的な奏法から表現方法を段階的に取得していく。最終的にはピアノ伴奏に合わせたソロ演奏と、クラリネット重奏によるアンサンブル演奏を仕上げ、クラス内で発表する。テキストには、アメリカで好評を得ている「ラーン・トゥ・プレイ 最新クラリネット教本Book 1 & 2」の日本語版を使用して進めていく。	
	アンサンブルⅤ（金管）	ハ長調を基準とする鍵盤楽器、弦楽器、声楽等と、変ロ長調、ヘ長調を基準とする金管楽器とを比較し金管楽器の特性と奏法を学ぶ。合わせて金管楽器の発達過程、歴史も学ぶ。大学の保有するトランペット、ホルン、トロンボーン、チューバを用い、それぞれの楽器の特徴や手入れの仕方などを知ることから始め、それぞれの楽器で基本音階を吹けるよう練習する。最後には、金管楽器による合奏にも取り組み、合奏を通してアンサンブルの基礎を学ぶ。	
	指揮法	読譜能力を高め、アンサンブルをまとめていく基礎能力を身につける。「指揮台に立つ前の仕事」と「指揮台の上での仕事」の2つに分類される指揮者の仕事について、初めて出会う作品を楽譜から理解する能力を養うこと、また基本的なバトンテクニックを習得し、演奏家に意図を伝えられる実践力を磨く。授業は、簡単なスコアリーディング訓練、バトンテクニックの基礎練習、そして、ロールプレイングによる指揮実践によって構成される。	
	音楽理論及び和声学（作曲・編曲を含む）Ⅰ	音楽理論を学ぶ上で最低限必要となる音楽能力（楽典、ソルフェージュ）についてはそれらを完成させ、「和声学」の基礎を学ぶ。音楽指導者として必要不可欠な読譜能力を習得するため、和声法の基礎を学び楽曲におけるそれらの機能を理解することを目標とする。授業の内容としては、基本位置3和音の配置、連結から、和音設定の原理、各種の調、3和音の第一・第二転回位置の使い方などを学習していく。テキストには、音楽大学の副科和声の授業などに使われている「総合和声 実技・分析・原理」（音楽之友社）を用いる。	
	音楽理論及び和声学（作曲・編曲を含む）Ⅱ	音楽理論を学ぶ上で最低限必要となる音楽能力（楽典、ソルフェージュ）についてはそれらを完成させ、「和声学」の基礎を学ぶ。音楽指導者として必要不可欠な読譜能力を習得するため、和声法の基礎を学び楽曲におけるそれらの機能を理解することを目標とする。授業の内容としては、V7、V9の和音、D諸和音の総括を学習し、実際の楽曲の和声分析についても学んでいく。テキストには、音楽大学の副科和声の授業などに使われている「総合和声 実技・分析・原理」（音楽之友社）を用いる。	
音楽理論及び和声学（作曲・編曲を含む）Ⅲ	I, IIに引き続き、和声法の基礎を学習する。実際の作品を分析し、学習した理論の実用例について学ぶ。授業の目標としては、理論の基礎を完成させること、楽曲分析などを通して、学んだ理論が実際の作品の中でどのような機能をもつのか理解できる力を養うこととしている。授業内容としては、属九の和音、D諸和音の総括、第2ドミナントの和音の学習をはじめ、ソプラノ課題を通して、借用和音や近親転調の使い方などを学んでいく。		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 音楽教育	音楽理論及び和声学 (作曲・編曲を含む) IV	和声法の基礎を踏まえ、簡単な編曲や創作を行うこと、また実際の作品を分析し、学習した理論の実用例について学ぶことをテーマとする。授業の目標は、理論の基礎を完成させること、楽曲分析などを通して、学んだ理論が実際の作品の中でどのような機能をもつのか理解できる力を養うこととしている。授業内容としては、和声法の総括と二声対位法の基礎学習をはじめ、イタリア歌曲やピアノ・ソナタ、室内楽作品の楽曲分析に取り組む。	
	音楽史Ⅲ (日本及び世界の音楽)	この講義は、日本の音楽についての理解を深め、その歩みを辿ることにより、西洋の音楽とは違う体系を知ることが目標である。雅楽、仏教音楽、能楽、琵琶楽などを主に取り上げながら、講義だけでなく、三味線の実技を取り入れながら進めていく。日本の様々な音楽ジャンルに関する基本的な知識を身に付け、広い視野で「音楽」を捉えることができるようにする。	
	音楽史Ⅳ (日本及び世界の音楽)	この講義は、音楽史Ⅲに引き続き、日本の音楽についての理解を深め、その歩みを辿ることにより、西洋の音楽とは違う体系を知ることが目標である。歌舞伎、文楽、尺八楽を主に取り上げながら、講義だけでなく、三味線や長唄の実技を取り入れながら進めていく。日本の様々な音楽ジャンルに関する基本的な知識を身に付け、広い視野で「音楽」を捉えることができるようにする。	
	作曲 (編曲を含む) 演習Ⅰ	それまでに学習してきた理論を踏まえ、器楽独奏曲の作曲を試みる。既存の楽曲から学習した表現を模倣または引用しながら、自ら表現することの難しさと魅力を実体験することを目標とする。初めは、学生自身に最も馴染みのある楽器を選択し、独奏曲を作曲する。既成曲より、書法を学び取り、自作品の中での応用を試みる。楽器法の学習には、『管弦楽法 ウォルター・ピストン/戸田邦雄訳』など、比較的分かりやすい管弦楽法の教本を用いる。	
	作曲 (編曲を含む) 演習Ⅱ	それまでに学習してきた理論を踏まえ、歌曲の創作を試みる。既存の楽曲から学習した表現を模倣、引用しながら、自ら表現することの難しさと魅力を実体験することを目標とする。歌曲を作曲するにあたり、詩を深く読み解き、その詩の描く世界を音のイメージに置き換えていく作業を行う。完成した楽曲は、学内の発表会において自演により発表する。金田一春彦監修『新明解日本語アクセント辞典』などを用い、日本語の特徴も踏まえた上で日本歌曲の作曲に取り組む。	
	作曲 (編曲を含む) 演習Ⅲ	より高度な作曲 (編曲) 技法を習得する。作曲 (編曲を含む) 演習Ⅰと同様、既成作品の分析より実際の表現法を学び取り、それを自作の表現の中で生かすことを目標にする。作曲 (編曲を含む) 演習Ⅰ～Ⅱをふまえて、二重奏以上の室内楽作品の分析を行い、自身の表現を見つけていく。完成作品は、学内外の発表会において、自演することにより発表する。楽器の特徴については、Samuel Adlerの『THE STUDY OF ORCHESTRATION』を用いて学習する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 音楽教育	作曲（編曲を含む）演習Ⅳ	より高度な作曲（編曲）技法を習得すること、作曲（編曲を含む）演習Ⅰ～Ⅲと同様に、既成作品の分析から実際の表現法を学び取り、それを自作の表現の中で生かしていくことを目標にする。作曲（編曲を含む）演習Ⅰ～Ⅲにおいて行ってきた作曲をふまえ、室内楽作品（ピアノと旋律楽器等の組み合わせ）を作曲する。完成作品は、学内外の発表会において発表することを目的とし、作曲意図を演奏で表現するという側面についても考え、学んでいく。	
	音楽科教育法Ⅰ（石川県の教育実践を含む）	中学校・高等学校の学習指導要領を基に、中学校・高等学校音楽科における教科の目標、指導計画、指導内容、及び評価の方法について基礎的な知識について説明を行う。次に、「歌唱」「器楽」の分野の具体的な指導法を学ぶと共に、学習指導案の書き方について作業手順と評価基準の設定を含めて学ぶ。さらに金沢市内の中学校の授業参観も行い、指導力の基礎を培うことをめざす。	メディア
	音楽科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）	音楽科教育法Ⅰの続きで、「創作」「鑑賞」の領域・分野の具体的な指導法を学ぶと共に、学習指導案を実際に書いてみる。次に、ICTを活用した授業づくり、日本の伝統音楽を扱う授業づくり、「総合的な学習の時間」と関連付けた授業づくりについて学ぶ。さらに金沢市内の県立高等学校の授業参観を行い、指導力の基礎を培うことをめざす。最後に、模擬授業に向けた準備を行う。	メディア
	音楽科教育法Ⅴ	音楽科教育法Ⅰ～Ⅳの内容を踏まえ、経験豊富な教師の授業実践を分析することにより、カリキュラムや授業の構想をしたり、学習指導案を作成する基礎力の養成をめざす。また、歌唱・合唱、器楽、創作、鑑賞、すべての領域・分野をまんべんなく取り上げ、教材研究や指導法の研究のやり方についても学ぶ。	
	音楽科教育法Ⅵ	音楽科教育法Ⅰ～Ⅳの内容を踏まえ、中学校・高等学校の音楽科の内容を対象に模擬授業を計画する。歌唱、合唱、器楽、創作、鑑賞、すべての領域・分野を対象に具体的な学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。学習指導案の作成では、具体的な教授行為まで計画する。その後、分析を行い、音楽科の授業設計や指導技術について考えることにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	音楽教育	音楽科教育法Ⅶ	音楽科教育研究の基本的な研究方法について理解し、その上で各自の研究課題に取り組むことにする。哲学的研究、心理学的研究、歴史学的研究、社会学的研究、民族学的研究、授業研究など、さまざまな研究の論文を講読し、研究討議を行う。それと並行して、各自の研究課題に取り組む準備と資料の収集を行う。	
		音楽科教育法Ⅷ	音楽科教育法Ⅶに引き続き、音楽科教育研究の基本的な研究方法について理解し、その上で各自の研究課題に取り組むようにする。さまざまな研究の論文を講読し、研究討議を行う。それと並行して、各自の研究課題に関する資料の収集を行い、研究論文をまとめる。	
	美術教育	絵画基礎Ⅰ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）	中学校、高校美術科の絵画分野の専門知識・技能を深める上で、「絵画基礎Ⅰ（映像メディア表現含む）」における美術科題材を選定し、絵画制作の課題コンセプトを立案する。映像メディアを用いた課題制作と、現代美術表現における課題制作の実施を行う。映像作品やインスタレーションなどの幅広い学習内容をもとに、絵画表現の可能性を追求する。課題講評会、作品制作のまとめをおこない、美術科にむけた教材に関する課題を明らかにする。	
		絵画Ⅰ	中学校、高校美術科の絵画分野の専門知識・技能を深める上で、絵画実習の目的、方法について理解し、基礎的学習、技法や材料についての理解を深める。絵画実習の課題では、鉛筆や木炭を用いたデッサン、近世の絵画技法である水彩画、中世ヨーロッパに始まる油彩画を行う。デッサンや油彩画作品などの幅広い学習内容をもとに、絵画表現の普遍性を追求する。課題講評会、作品制作のまとめをおこない、美術科にむけた教材に関する課題を明らかにする。	
		絵画Ⅱ	絵画実習の目的、方法について理解し、基礎的学習、技法や材料についての理解を深める。絵画実習の課題では、中世絵画技法である、テンペラ画を学ぶ。また、版画表現では、中世ヨーロッパの銅版画を制作する。テンペラ画や版画などの幅広い学習内容をもとに、絵画表現の多様性を追求する。課題講評会、作品制作のまとめをおこない、美術科にむけた教材に関する課題を明らかにする。	
		絵画Ⅲ	絵画実習の目的、方法について理解し、基礎的学習、技法や材料についての理解を深める。絵画実習の課題では、中世絵画技法である、フレスコ画を学ぶ。また、デッサン・油彩画表現では、人体研究としてヌードモデルとした絵画を制作する。課題講評会、作品制作のまとめをおこない、美術科にむけた教材に関する課題を明らかにする。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 美術教育	絵画Ⅳ	<p>絵画実習の目的、方法について理解し、基礎的学習、技法や材料についての理解を深める。絵画実習の課題では、人体研究の応用として、ヌードモデルとした大作絵画を制作する。また、中世の版画技法である西洋木版画を学ぶことで、版画表現における多様性について考察する。課題講評会、作品制作のまとめをおこない、美術科にむけた教材に関する課題を明らかにする。</p>	
	彫刻基礎Ⅰ（現代美術表現を含む）	<p>彫刻領域における最も基本的である塑造は、美術教師が必ず習得すべき技法と言っても過言ではない。本授業では、彫刻概説として彫刻の種類や技法の観点から、現代の彫刻表現から著名な作品を取り上げ概観する。次に、古代ローマ時代の石膏像の模刻を通して、彫刻の基本的な造形技術と人体の骨格や構造的な成り立ちを学習する。また、各授業の冒頭でテーマ別発表を行い彫刻に関する基本的な知識を習得する。</p>	
	彫刻Ⅰ	<p>テラコッタの技法には数種あるが、それらの技法を紹介した上で実際の学校現場で頻繁に実施されている割り抜き法により作品制作を行う。対象は、彫刻基礎から引き続きモデルを使った頭像の制作を行うが、今回はポーズにわずかな動きを持たせることで、特に頭部と首の動き（ムーブマン）の表現に取り組む。粘土での造形後には、学校現場で生徒達の作品を焼成できるよう焼成窯の使用法と温度管理を学ぶ。焼成後には、テラコッタ特有の彩色法を学習し、作品として完成させる。</p>	
	彫刻Ⅱ	<p>彫刻Ⅰまでの授業では塑造を中心に学習してきたが、本授業では彫塑のもう1つの技法であるカービングの制作を行う。特に我が国では木彫が盛んに制作されてきた。抵抗する物質を克服しその行為を通して表現技術を発見していく制作過程の中に、大きな教育的意義があると考えられる。すぐにリセットできないカービングの技法を現代の生徒達に経験させる必要がある。本授業では、木彫制作を通して同教材に対する理解を深め、具体的な指導・評価の方法を検討する。また、この授業では制作テーマとしてリアリズムを掲げる。学校現場でも本物そっくりにつくる立体教材は頻繁に実施されている。そのためにも、本制作を通して彫刻におけるリアリズムについて知識・理解を深めるとともに、カービングによる表現技能の向上を図る。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 美術教育	彫刻Ⅲ	<p>本授業では、裸婦のモデルを通して塑造による全身像（二分の一等身）の制作を行う。その中で西洋彫刻における人体造形の基本的な構造について知識・理解を深めるとともに、これまで培った塑造技能をさらに高める。モデルのポーズはコントラポストを採用する。片足に重心をかけたこの立像のポーズは、身体全体にS字状の動きを生じさせる。これによって、ほぼ左右対称の人体の構造に、動きや筋肉の緊張、弛緩等の変化が生じるので、同ポーズは全身像を制作する上では最も基本的かつ一般的なものである。この制作を通して、彫刻の造形要素である、動き（ムーブマン）、空間、バランス、量感、テクスチャー等に注目して制作を進める。</p>	
	彫刻Ⅳ	<p>彫刻制作研究Ⅰの授業から引き続き、等身大の裸婦像の制作に取り組む。本授業では、造形要素の中の動き（ムーブマン）、空間、バランス、量感等に注目して制作を進めてきたが、まず第1回と2回の授業で、これらの表現ができているか確認する。次に、ボリュームと粘土のテクスチャーを意識する。そして、最終的に全体のバランスを考慮したディテールの表現にもこだわり、作品を完成させる。</p>	
	デザイン基礎Ⅰ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）	<p>本授業では、目的や機能を踏まえて事象や対象を捉える造形的な視点に基づき、デザインの基礎的表現について理解する。特に、文献研究や制作課題を通して、色彩の基礎的な知識や表現技能を身につけ、演習課題を通して基礎的な造形表現能力を養う。授業では、現代美術表現としてのデザイン領域の作品などの資料収集と発表を通して、デザイン分野の専門知識を深めるために必要な知識の獲得を求める。</p>	
	デザインⅠ	<p>「デザイン基礎Ⅱ」までの授業をふまえ、演習課題を通してより実践的にデザインの表現について理解する。また、中学校、高校美術科のデザイン分野の専門知識・技能を深める上で、「デザイン基礎Ⅱ」までの学習内容をもとに学校教育におけるデザイン表現の可能性を追求する。</p> <p>演習課題のテーマに即して、調査・分析・製作・プレゼンテーションを行い、平面デザインを学習する。</p>	
	デザインⅡ	<p>「デザインⅠ」までの授業をふまえ、演習課題を通してより実践的にデザインの表現について理解する。また、中学校、高校美術科のデザイン分野の専門知識・技能を深める上で、「デザインⅠ」までの学習内容をもとにデザイン表現の可能性を追求する。</p> <p>演習課題のテーマに即して、調査・分析・製作・プレゼンテーションを行い、立体デザインを学習する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 美術教育	デザインⅢ	<p>「デザインⅡ」までの授業をふまえ、演習課題を通してより実践的にデザインの表現について理解する。また、中学校、高校美術科のデザイン分野の専門知識・技能を深める上で、「デザインⅡ」までの学習内容をもとに学校教育におけるデザイン表現の可能性を追求する。演習課題のテーマに即して、調査・分析・製作・プレゼンテーションを行い、映像メディアデザインを学習する。</p>	
	デザインⅣ	<p>デザインと社会のかかわりを考え、演習課題を通して実践的にデザインの社会的責任や役割を理解する。また、中学校、高校美術科のデザイン分野の専門知識・技能を深める上で、「デザインⅢ」までの学習内容をもとに学校教育におけるデザイン表現の可能性を追求する。演習課題のテーマに即して、調査・分析・プレゼンテーションを行い、ソーシャルデザインの可能性を研究する。</p>	
	工芸基礎Ⅰ	<p>美術科の工芸分野に関する基礎知識・技能を理解し、金工（鍛金技法）の体験・作品制作により理解を深める。第1回～第2回において美術科教育における工芸の取扱いとその歴史を知り、美術科学習指導要領と美術科教科書より美術科の工芸分野のスコープとシーケンスを理解する。また、石川県における工芸を概論した後、一枚の鉄板を打出により形成する技法を生み出した山田宗美とその作品を知る。第3回～第13回において工芸技法の理解・習得として金工（鍛金）を取り上げ、銅板打出井鍋を製作し、第14回には制作した銅板打出井鍋を使用して親子丼を調理・試食し、作品評価をおこなう。</p>	
	工芸論Ⅰ	<p>日本の工芸の成り立ちと素材・技法を理解することを到達目標とし、日本の工芸が世界からどのように評価されているのかを知ると共に多種多様な素材と技法の分析と合わせて、作品を鑑賞することの楽しさを通じて、工芸の歴史や素材・技法などの基本的な知識を理解する。また、講義外における美術館や博物館での作品鑑賞やワークショップ参加を通じた手の感触や使い勝手の理解も図る。</p>	
	工芸論Ⅱ	<p>日本の工芸の現況を知り、作品の鑑賞を通して魅力を味わい、教育者としてこれらを伝えることができるようになることを到達目標とし、工芸論Ⅰでの工芸の歴史や素材・技法などの基本的な情報を踏まえて、日本の風土や文化的土壌の中で発展した工芸技術を、貴重な文化財として継承する意義を問うことで、日本の工芸が置かれている現状が、身近な社会的な問題とも、密接に関わっていることを理解する。</p>	
	比較美術史Ⅰ（美術理論含む）	<p>西洋中世のキリスト教美術を軸に、イメージとその典拠となるテキスト、中世美術と近代美術、西洋美術と東洋美術の比較を通じて、美術作品中の人物や場面を描く際の約束事を理解し、図像学の基礎を身につける。また図像の典拠となる聖書の記述と作品そのものを照応し、また同一主題の作品を比較することで、個々の作品の作者が観者に伝えようとしたメッセージを読み解くことができるようになる。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 美術教育	比較美術史Ⅱ（美術理論含む）	西洋中世美術を軸に、中世と近代、西洋と東洋の比較を通じて、美術における時間と視覚性の問題を論じる。作品の典拠となる「物語」には時間の経過が含まれることが常であるが、二次元画面において、物語の時間がいかに処理されるのかを学ぶ。後半では、西洋中世美術と、西洋近世美術、日本・東洋美術、写真などとの比較を通じて、描かれるモチーフが各時代・地域でどのように把握されて来たのかを理解する。	
	美術実地研究	実際の美術作品を中心とした文化資源の現地調査を通して、美術科の授業における美術資源を活用した教材について考察する。国内の著名な美術作品を直に鑑賞するとともに事前調査の内容を発表することによって、文化史や美術史の理解と認識を深め、鑑賞領域の授業力の向上を目的とする。 調査する美術館及び作品を学生自らが選択し、現地調査の計画を立てる。2泊3日で実際に調査に出向き、事前調査に基づく作品説明を行う。お互いの説明内容・方法を相互評価するとともに鑑賞した作品について意見交換をおこなう。最終的に事前調査及び現地調査に基づく作品解説の教材を作成する。	
	美術科教育法Ⅰ（石川県の教育実践を含む）	美術教育理論とその歴史、学習指導要領、生徒の造形表現における発達の理解、石川県の教育実践にもとづき、学習指導モデルと題材タイプを検討し、学習指導における指導言や基本的な情報機器などの教具のポイントを模擬授業（マイクロティーチング）により理解・習得する。第1回～第3回において美術科教育の理念と歴史を学び、美術科を教える信念を持つ。第4回～第6回において学習指導要領に示された美術科教育の基礎知識を学ぶ。そして、第7回～第8回において美術科における主体的・対話的で深い学びの実現にむけた指導言（説明・発問・指示・評価）の在り方や基本的な情報機器の使用方法を模擬授業（マイクロティーチング）も通じて学ぶ。	メディア
	美術科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）	美術科における学習評価の基礎理論・方法を理解した上で、「学習指導モデルと題材タイプ」における「指導と評価の一体化」を図る学習評価の在り方とその方法を石川県の教育実践事例研究と模擬授業（マイクロティーチング）により理解・習得する。第1～第3回において美術科教育における学習評価の理論とその方法、学習評価の改善ポイントを石川県の教育実践事例などの検討により理解する。第4回～第5回ではテキストの事例研究により評価規準の設定とその方法や学習評価・成績評価への基本的な情報機器の活用方法を理解し、第6回～第8回においてはグループワークによって題材の学習目標・評価規準の設定など「指導と評価の計画」に基づく模擬授業（マイクロティーチング）により学びを深める。	メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 美術教育	美術科教育法Ⅴ	<p>3年次教育実習の研究授業を主に取り上げ、その成果と課題を明らかにし、授業方法の専門知識・技術を深める。第1回において授業研究の目的、方法について理解し、第2回～第6回において受講者の附属学校園での研究授業や教壇実習の記録ビデオ再生による授業研究を実施し、第7回において情報機器の効果的な活用を検討し、第8回において受講者に共通・個別の課題を検討し、4年次教育実習にむけた課題を明らかにする。</p> <p>(金沢クラスはオムニバス方式/全8回)</p> <p>(金沢クラス 44 鷲山靖/1回, 8回) 第1回オリエンテーションでは授業研究の目的、方法について解説し、第8回の授業分析まとめにおいて、授業評価をもとに課題整理をおこなう。</p> <p>(金沢クラス 22 大村雅章/2回, 5回, 8回) 第2,5回授業分析では、受講者の附属学校園での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討する。第8回は同上。</p> <p>(金沢クラス 151 江藤望/3回, 6回, 8回) 第3,6回授業分析では、受講者の附属学校園での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討する。第8回は同上。</p> <p>(金沢クラス 67 池上貴之/4回, 7回, 8回) 第4回授業分析では、受講者の附属学校園での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討し、第7回では、第2回～第6回までの授業分析にもとづき情報機器の効果的な活用を検討する。第8回は同上。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
	美術科教育法Ⅵ	<p>「中等美術科教育法Ⅴ」で明らかにした成果と課題を意識した基本的教材の模擬授業を実施することにより、授業方法の専門知識・技能を深める。第1回において模擬授業の目的、方法について理解し、第2回～第3回において模擬授業の学習指導案立案、情報機器の効果的な活用の検討をおこない、第4回～第7回において模擬授業を実施し、第8回において模擬授業のまとめをおこない4年次教育実習にむけた課題を明らかにする。</p> <p>(金沢クラスはオムニバス方式/全8回)</p> <p>(金沢クラス 22 大村雅章, 151 江藤望, 67 池上貴之/1回, 2回, 3回) 「中等美術科教育法Ⅴ」における授業分析の成果と課題を反映させる図画工作科・美術科題材を選定し、模擬授業の学習指導案を立案する。その後、模擬授業に用いる教具作成、作品試作をおこない、情報機器の効果的な活用を検討するなど学習指導案の修正をおこなう。</p> <p>(金沢クラス 44 鷲山靖/4回, 5回, 6回, 7回, 8回) 模擬授業の相互評価、講評をおこない、第8回には模擬授業の評価をもとに4年次教育実習にむけた課題整理をおこなう。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 美術教育	美術科教育法Ⅶ	<p>4年次教育実習の研究授業を主に取り上げ、その成果と課題を明らかにすることにより、授業方法の専門知識・技術を深める。第1回において授業研究の目的、方法について理解し、第2回～第6回において受講者の実習協力校での研究授業や教壇実習を模擬授業形式で再現する授業研究を実施し、第7回において情報機器の効果的な活用を検討し、第8回において受講者に共通・個別の課題を検討し、教職にむけた課題を明らかにする。</p> <p>(金沢クラスはオムニバス方式/全8回)</p> <p>(金沢クラス 44 鷺山靖/1回, 8回) 第1回オリエンテーションでは授業研究の目的、方法について解説し、第8回の授業分析まとめにおいて、授業評価をもとに課題整理をおこなう。</p> <p>(金沢クラス 22 大村雅章/2回, 5回, 8回) 第2,5回授業分析では、受講者の実習協力校での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討する。第8回は同上。</p> <p>(金沢クラス 151 江藤望/3回, 6回, 8回) 第3,6回授業分析では、受講者の実習協力校での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討する。第8回は同上。</p> <p>(金沢クラス 67 池上貴之/4回, 7回, 8回) 第4回授業分析では、受講者の実習協力校での研究授業の問題点とその改良点・方法、授業者の工夫点・努力点について検討し、第7回では、第2回～第6回までの授業分析にもとづき情報機器の効果的な活用を検討する。第8回は同上。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)
	美術科教育法Ⅷ	<p>「中等美術科教育法Ⅶ」で明らかにした成果と課題を意識した基本的教材の模擬授業を実施することにより、授業方法の専門知識・技能を深める。第1回において模擬授業の目的、方法について理解し、第2回～第3回において模擬授業の学習指導案立案、情報機器の効果的な活用の検討をおこない、第4回～第7回において模擬授業を実施し、第8回において模擬授業のまとめをおこない教職にむけた課題を明らかにする。</p> <p>(金沢クラスはオムニバス方式/全8回)</p> <p>(金沢クラス 22 大村雅章, 151 江藤望, 67 池上貴之/1回, 2回, 3回) 「中等美術科教育法Ⅶ」における授業分析の成果と課題を反映させる図画工作科・美術科題材を選定し、模擬授業の学習指導案を立案する。その後、模擬授業に用いる教具作成、作品試作をおこない、情報機器の効果的な活用を検討するなど学習指導案の修正をおこなう。</p> <p>(金沢クラス 44 鷺山靖/4回, 5回, 6回, 7回, 8回) 模擬授業の相互評価、講評をおこない、第8回には模擬授業の評価をもとに4年次教育実習にむけた課題整理をおこなう。</p>	オムニバス方式 (金沢クラスのみ)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 美術教育	造形教育演習Ⅰ	本演習は、特に教科としての美術科または図画工作科の位置を見直し、児童生徒に資質・能力をつけることが求められることを踏まえた上で、最終的には学校教育の現場に資する研究論文の作成を目指して構成している。そのために、まず研究テーマを設定し、章立てを構想し、先行研究を調べた上で、研究テーマの認再確をし、研究仮説の設定を行う。	
	造形教育演習Ⅱ	本演習は、特に教科としての美術科または図画工作科の位置を見直し、児童生徒に資質・能力をつけることが求められることを踏まえた上で、最終的には学校教育の現場に資する研究論文の作成を目指して構成している。そのために造形教育演習Ⅰで設定した研究テーマに基づいた研究仮説にしたがって、研究に必要な調査計画を立案して実際に予備調査を行い、結果をまとめる。	
	造形教育演習Ⅲ	本演習は、特に教科としての美術科または図画工作科の位置を見直し、児童生徒に資質・能力をつけることが求められることを踏まえた上で、最終的には学校教育の現場に資する研究論文の作成を目指して構成している。そのために造形教育演習Ⅱで行った予備調査のとりまとめの結果を踏まえて分析方法を確定し、本調査を行った上で分析結果を集約して結果をまとめ考察を行う。	
	造形教育演習Ⅳ	本演習は、特に教科としての美術科または図画工作科の位置を見直し、児童生徒に資質・能力をつけることが求められることを踏まえた上で、最終的には学校教育の現場に資する研究論文の作成を目指して構成している。そのために造形教育演習Ⅲで行った調査結果を分析して導き出した結果に対する考察を踏まえた上で、論文の作成を行い、発表用レジュメやプレゼンテーションの作成を行う。	
	彫刻制作研究Ⅰ	本授業での制作は、彫刻基礎から学習してきた人体彫刻の集大成となるものである。モデルをじっくり観察して、これまで学んできた彫刻の造形要素を意識した人体表現に、自らの内面的な表現を込めて等身大の全身像に取り組む。本授業では特に造形要素の中の動き（ムーブマン）、空間、バランス、量感等に注視して制作を進める。	
	彫刻制作研究Ⅱ	彫刻制作研究Ⅰの授業から引き続き、等身大の裸婦像の制作に取り組む。本授業では、造形要素の中の動き（ムーブマン）、空間、バランス、量感等に注目して制作を進めてきたが、まず第1回と2回の授業で、これらの表現ができてきているか確認する。次に、ポリウムと粘土のテクスチャーを意識する。そして、最終的に全体のバランスを考慮したディテールの表現にもこだわり、作品を完成させる。	
	彫刻制作研究Ⅲ	第1回目にブロンズ鑄造の真土型、ガス型、蠟型等の技法について概略を学ぶ。第2回では蠟型の原型を制作する上で、蠟素材の加工法について実際に蠟素材を扱いつながらその加工法を理解する。第三回目以降蠟原型の制作をし、鑄造工場でその蠟原型をブロンズに鑄こんでもらう。その後、鑄造工業の見学を兼ねて自作ブロンズ作品の着色を学ぶ。最後に作品に台座を設置し完成させる。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 美術教育	彫刻制作研究Ⅳ	この授業では、これまで学んできた彫刻に関する知識・技能、そして幅広い表現力を最大限に発揮し、卒業制作として作品を完成させることを目標とする。さらに、作品を制作するだけでなく、その作品を公に発表することでアートマネジメントについても理解を深める。さらに、中間発表や展覧会場でのギャラリートークを通して、自身の造形表現を自らの言葉でプレゼンテーションできることを目標とする。また、中学校、高校美術科の彫刻分野の専門知識・技能を深める上で、彫刻制作研究Ⅲまでの幅広い学習内容をもとに彫刻表現のさらなる可能性を追求する。	
	美術史研究Ⅰ	古典古代の美術を通じて、人間と美術との関係を考察するとともに、西洋の美術と文化に対する理解を深めることを目標とする。特に作品記述や様式についての理解を含め、美術作品を鑑賞する基礎的な力を養い、人体表現の変遷について理解する。	
	美術史研究Ⅱ	西欧初期中世とビザンティンの美術を通じて、人間と美術との関係を考察するとともに、西洋の美術と文化に対する理解を深めることを目標とする。キリスト教美術の成立と普及、ビザンティン聖堂装飾プログラムについて理解する。	
	美術史研究Ⅲ	西洋後期中世（ロマネスク・ゴシック）と初期ルネサンスの美術を通じて、人間と美術との関係を考察するとともに、西洋の美術と文化に対する理解を深めることを目標とする。中世とルネサンスの作品を比較して中世から近世にかけて人々の思考様式が変化したことを理解する。	
	美術史研究Ⅳ	盛期・後期ルネサンスと北方ルネサンスの美術を通じて、人間と美術との関係を考察するとともに、西洋の美術と文化に対する理解を深めることを目標とする。三代巨匠の作品を軸に、ルネサンス美術が広大な美術に与えた影響を理解する。	
	絵画制作研究Ⅰ	本授業での制作は、絵画基礎で学習した絵画領域におけるさまざまな造形要素を深化させる、重要な取り組みである。制作研究において、これまで学んできた絵画の造形要素を意識した構図や構成について、ドローイングによるアプローチを行う。本授業では造形における基本的な要素として、特に空間表現に関するコンポジションに重点を置き制作を進める。	
	絵画制作研究Ⅱ	絵画制作研究Ⅰで取り組んだ、構図や構成に基づいたドローイングによるコンポジションに色彩を重ね合わせることで、より具体的な表現における色彩効果について試行する。本制作では、造形要素の色彩表現に取り組むことで、より絵画空間としての表現展開を行う。彩色方法もカラードローイングを用いることで、試行錯誤の中、作品としての表現方法を捉える。	
絵画制作研究Ⅲ	絵画制作研究Ⅱに基づき、大作における本制作を行う。制作自体、支持体や色材媒体の特性に考慮しながら、画面全体や細部のバランスについて、描画によるレイヤーを重ねて進行させる。また、色材媒体のマチエールについても、単調にならないよう配慮し、空間や色彩表現に適合させる重要性についても、学びながら追求する。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	美術教育	絵画制作研究Ⅳ	絵画制作研究Ⅳでは、絵画制作研究Ⅲで行った本制作を卒業制作作品として完成させる。完成後、自身による分析を行うことで、展覧会などの制作発表の場において、作品等のアピールに活かすことを目標とする。絵画領域での知識・技能・表現力を深め、学校教育での絵画分野の専門性を視野に入れた、幅広い学習内容を取得する。	
		デザイン制作研究Ⅰ	本授業では、デザイン基礎から学習してきたデザイン領域における制作を深化させる、重要な取り組みである。制作研究において、これまで学んできたデザインの制作で学んだ思考方法や表現を用いて、個々の課題解決に最適なアプローチを行う。本授業では特に発想や構想に重点を置き授業を進める。	
		デザイン制作研究Ⅱ	本授業では、デザイン制作研究Ⅰで取り組んで得られた発想や構想を精査し、個々の課題解決に最適なアプローチを探る。特に表現方法の研究・実験に重点を置き、資料研究やさまざまな材料を用いて個々の表現のあり方を探る。	
		デザイン制作研究Ⅲ	本授業では、デザイン制作研究Ⅰ・Ⅱで取り組んで得られた発想や構想、個々の課題解決に最適な表現方法を用いて実際に作品の制作を行う。特に展覧会場での最適な発表方法のあり方を探り、見る人に与える印象とそのねらいについて明確にした制作に取り組む。	
		デザイン制作研究Ⅳ	本授業では、デザイン制作研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで取り組んで得られた諸要素を統合し作品を完成させる。完成後、プレゼンテーション、講評会、自己分析を通して、教員として必要となるデザイン領域のさらなる知識・技術・表現力を深める。	
	保健体育	体操Ⅰ	さまざまな運動の実践を通して各自が体を動かすことの楽しさや面白さを知り、教員として、体づくり運動に必要な基本的運動技能を獲得するとともに、その教材開発や指導法を学ぶことをねらいとする。 体づくり運動（「からだほぐしの運動」と「体力を高める運動」）についての基本的な考え方を学んだあと、体ほぐし運動を中心に実技形式で授業を行う。	
		体操Ⅱ	さまざまな運動の実践を通して各自が体を動かすことの楽しさや面白さを知り、教員として、体づくり運動に必要な基本的運動技能を獲得するとともに、その教材開発や指導法を学ぶことをねらいとする。 体づくり運動（「からだほぐしの運動」と「体力を高める運動」）についての基本的な考え方を学んだあと、用具を用いた運動を中心に実技形式で授業を行う。また、運動プログラムの発表も行う。	
		器械運動Ⅰ	器械運動の基本技能を身につけること、およびマット運動や平均台運動などの指導方法及び補助方法を習得することをねらいとする。 器械運動の基本的な技の習得を目的とし、マット運動（接転技群：前方、接転技群：後方、ほん転技群）、平均台運動（歩行、バランス、下り）などを実施する。器械運動の指導に必要な技能の習得と指導方法や補助方法の学習を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	保健体育	器械運動Ⅱ	器械運動の基本技能を身につけること。跳び箱運動や鉄棒運動などの指導方法及び補助方法を習得することをねらいとする。 器械運動の基本的な技の習得を目的とし、跳び箱運動（切り返し系、回転系）、鉄棒運動（上がり技群、前方支持回転群、後方支持回転群、下り技群）などを実施する。器械運動の指導に必要な技能の習得と指導方法や補助方法の学習を行う。	
			陸上Ⅰ	走・跳躍・投てき種目の記録向上を目的とした運動技能を学習し、技能向上のための指導法、トレーニング方法、ルール、安全性への配慮など、陸上競技に関する基礎理論を実践する。競技現場と研究知見との融合の成果を体系化し、学校体育の現場にフィードバックすることを目指す。そのことで、多くの子どもたちが余すことなく自分の潜在力を発揮できるような指導力を身につける。	
			陸上Ⅱ	走・跳躍・投てき種目の記録向上を目的とした運動技能を学習し、技能向上のための指導法、トレーニング方法、ルール、安全性への配慮など、陸上競技の応用的実践力を高める。競技現場と研究知見との融合の成果を体系化し、学校体育の現場にフィードバックすることを目指す。そのことで、多くの子どもたちが余すことなく自分の潜在力を発揮できるような指導力を身につける。	
			水泳Ⅰ	学習指導要領の体育分野「水泳」の領域におけるクロール、平泳ぎの各泳法に関する手と足の動き及び水中運動の特性について学習するとともに、呼吸と連動した技術の修得を目指す。併せて、水泳によって鍛えられる筋肉や高められる体力について理解する。クロール及び平泳ぎの技能向上を通じて、水泳指導における留意点や安全管理に関する知識も学ぶ。	
			水泳Ⅱ	学習指導要領の体育分野「水泳」の領域におけるクロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの各泳法に関する手と足の動き及び水中運動の特性について学習するとともに、呼吸と連動した技術の修得を目指す。併せて、水泳によって鍛えられる筋肉や高められる体力について理解する。クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの技能向上を通じて、水泳指導における留意点や安全管理に関する知識も学ぶ。	
			武道AⅠ（剣道）	剣道の特性を理解し、剣道の基本技能の習得及び指導方法を習得することをねらいとする。 剣道の基本技能習得を目的として、竹刀、防具の特性や構造を理解し、使用や着用方法を学び、剣道の指導に必要な基本的な動作や技（構えと足捌き、素振り、基本動作、基本打突、しかけ技、応じ技、互角稽古）の習得と指導方法について学習する。	
			武道AⅡ（柔道）	柔道の特性を理解し、柔道の基本技能の習得及び指導方法を習得することをねらいとする。 柔道の基本技能習得を目的として、柔道の文化（礼法や柔道着の取り扱い方法）や柔道の指導に必要な基本的な動作や技（受け身、基本動作、体捌き、投げ技（膝車、支釣込足、大腰、背負投）、固め技）の習得と指導方法について学習する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 保健体育	ダンスⅠ	ダンス授業に必要な基本的運動技能を獲得するとともに、ダンスの教材開発や指導法を学ぶことをねらいとする。ダンスⅠでは主に、創作ダンスとフォークダンスを中心に学習を行う。現代的課題や指導場面で生じやすい教育的課題など、具体的事例を用いながら説明し、ダンスの教材や指導法について、主体的・対話的で深い学びを通じた学習を行う。	
	ダンスⅡ	ダンス授業に必要な基本的運動技能を獲得するとともに、ダンスの教材開発や指導法を学ぶことをねらいとする。ダンスⅡでは、主に現代的なリズムのダンスと創作ダンスを中心に学習を行う。現代的課題や指導場面で生じやすい教育的課題など、具体的事例を用いながら説明し、ダンスの教材や指導法について、主体的・対話的で深い学びを通じた学習を行う。	
	球技（ゴール型）AⅠ（サッカー）	ゴール型球技としてサッカーを取り上げる。サッカーは11人（フットサルは5人）が協調的に関わり合うことが要求されるスポーツである。その一方で、試合の各局面では個人技術・戦術が全体の展開に影響を及ぼす競技でもある。本講では、サッカーの基本的な技術力の向上を目指しながら、サッカー競技の本質を理解し、楽しむことができることを目標とする。将来、教職（中学校・高等学校保健体育教員）に就いた際、サッカーという教材を教育現場で活用できる技術や視点の獲得も目指す。	
	球技（ゴール型）AⅡ（サッカー）	ゴール型球技としてサッカーを取り上げる。サッカーは11人（フットサルは5人）が協調的に関わり合うことが要求されるスポーツである。その一方で、試合の各局面では個人技術・戦術が全体の展開に影響を及ぼす競技でもある。本講では、サッカーの基本的な技術力を使いながら、自他の様々な特徴を活かし、コミュニケーションを図りながらゲームを進めていけるような戦術力の理解と向上を目指す。	
	球技（ネット型）AⅠ（バレーボール）	バレーボールを教える側としての力量向上のため、受講者の技能の向上およびルール、戦術の理解を深めることとする。技能面では、パス・サーブ・レシーブ・スパイクの基本的技術を身につける。技術習得に際して多様な練習方法を体験し、技能向上と技能向上のための方法論について学習する。後半は、バレーボールのルール、戦術を理解し、指導に必要な知識を身につける。ルールの理解については、ルールの工夫によるバレーボールの多様な楽しみ方を体験する	
	球技（ネット型）AⅡ（バレーボール）	バレーボールのゲームに必要なパス・サーブ・レシーブ・トス・スパイク・フォーメーションの基本的技術を身につける。バレーボールのゲームを進めるためには、ポジションごとの役割の理解、メンバー間のコミュニケーションが必要なので受講者間の相互作用を重視する。また、バレーボールは攻守の切り替えが早いスポーツで、主体的な判断が求められる。受講者の主体的判断、思考をいかし授業を進める。後半は、バレーボールのトレーニング方法を理解し、指導に必要な知識を身につける。	
	球技（ベースボール型）Ⅰ	「ベースボール型球技」の特性と基礎的知識（ルール・戦術）および技能（個人・集団的技術）について実技を中心に演習形式で学修する。安全かつ効果的なボール運動の実践能力を学修するとともに、基本的なゲーム構造・展開の指導に必要なデモンストレーション能力を修得する。また、体育授業や指導現場で活用できる教授法や指導法の理論と実践を学修する。さらに、チームスポーツに必要な他者とのコミュニケーションを通じた協同学修の価値・認識を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 保健体育	球技（ベースボール型）Ⅱ	「ベースボール型球技」の特性と基礎的知識（ルール・戦術）および技能（個人・集団的技術）について実技を中心に演習形式で学修する。安全かつ効果的なボール運動の実践能力を学修するとともに、基本的なゲーム構造・展開の指導に必要な審判法や大会等の企画・運営方法を修得する。また、ベースボール型球技の具体的な教材事例を実践するとともに、指導計画案の作成からと模擬授業・指導演習までを実施し、互いの成果と課題について省察を深める。	
	バイオメカニクスⅠ	バイオメカニクスの概要を理解し、基本運動を力学的観点から解釈する能力を身に着けることを目的とする。バイオメカニクスの基本的概念を概説し、骨、筋のバイオメカニクス、バイオメカニクスの原則や分析方法についてキネマティクス・キネティクスの観点から学習する。また、バイオメカニクスの観点から各種運動を理解するための基礎を習得する。	
	バイオメカニクスⅡ	バイオメカニクスの観点から各種基礎運動について理解し、解釈する能力を身に着けることを目的とする。各種基礎運動（立位姿勢、歩行動作、走行動作、跳躍動作、投動作、打動作、落下運動、滑る運動、泳動作、回転運動）について概説し、各種運動のバイオメカニクスの観点（キネマティクスの観点、キネティクスの観点、エネジェティクスの観点等）から運動を解釈する。	
	運動生理学Ⅰ（海外の先端事情を含む）	中学校や高等学校の指導要領を考慮しながら、生理学的な基礎知識の学習を通して、日頃のスポーツ活動やトレーニングの場面における身体の反応現象や適応現象について考察できるようになる。さらに、保健体育・スポーツの指導者として身体的安全面に配慮できるような基礎的知識を獲得する。主な内容として、骨や筋の構造、筋の収縮特性、運動と筋ATP代謝、運動時のホルモン分泌の他、海外の先端的研究動向等について講述する。	メディア
	運動生理学Ⅱ（海外の先端事情を含む）	中学校や高等学校の指導要領を考慮しながら、生理学的な基礎知識の学習を通して、日頃のスポーツ活動やトレーニングの場面における身体の反応現象や適応現象について考察できるようになる。さらに、保健体育・スポーツの指導者として身体的安全面に配慮できるような基礎的知識を獲得する。主な内容として、運動と呼吸・心循環、運動時のホルモン分泌、運動と骨代謝、運動による酸化ストレス応答の他、海外の先端的研究動向等について講述する。	メディア
	衛生学及び公衆衛生学Ⅰ	公衆衛生における集団に対する健康の考え方、健康問題に対する疫学的な考え方と公衆衛生学的アプローチ、集団の健康問題を抽出するための資料としての衛生統計（人口生体統計、人口動態統計など）の活用の仕方、生活習慣と病気の関係やその予防について学習する。そのために、悪性新西武ととその予防、循環器系疾患とその予防、公衆衛生的な立場から見た感染症とその予防などについて取り上げる。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	保健体育	衛生学及び公衆衛生学Ⅱ	衛生・公衆衛生学的な観点から、健康を支える社会制度、ライフステージ特有の健康課題（高齢期、小児期、壮年期など）、障害の考え方、食環境や生活環境など様々な環境や環境問題と健康の関係、地球規模での健康問題に対する世界的な取り組み（社会保障制度、医療保障制度、障がい者福祉、および環境保健と国際保健など）など、日常生活や社会と健康の関係について学習する。	メディア
			学校保健Ⅰ（教科横断で取り組む学校保健）	学校における保健活動（すなわち保健教育、保健管理、環境衛生の諸問題）について、教科横断で取り組む視点を踏まえ、児童生徒の健全な発育・発達という観点から総合的に考察する。また、各論として食育の推進（学校給食を含む）、健康観察と健康相談、健康診断、学校で予防すべき感染症、精神の健康、学校環境衛生などを取り上げる。	メディア
			学校保健Ⅱ（教科横断で取り組む学校保健）	学校保健では、学校における保健教育についての基礎的な理解を持つとともに、子どもや教職員の健康を「守り」、「育て」、そして「教える」ための目標設定や内容の検討、実施計画・評価について一定の見通しが持てるようになること、そして学校保健を教科横断的に進めるための基礎的理解を行う。その際、喫煙飲酒、薬物乱用の防止、がん教育、性に関する指導、安全教育などを取り上げ、模擬授業形式も行いながら進める。	メディア
			保健体育科教育法Ⅰ（石川県の教育実践を含む）	保健科教育における目標、内容、方法及び評価について理解すると共に、授業計画のプロセス、授業・教材づくりのポイントと教師の指導性について、石川県の保健体育科の実践も踏まえて学習する。また、学習指導要領で取り扱われる内容について「心身機能の発達と心の健康」「障害の防止」「環境と健康」「疾病の予防」などを取り上げ、それらの指導法について解説する。	メディア
			保健体育科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）	保健科教育の目標、内容、方法を中学校・高等学校学習指導要領、解説編をもとに解説する。また、学習指導要領で取り扱われる内容について、生に関する指導の内容をはじめ、性感染症とその予防、喫煙、飲酒、薬物乱用の防止、などを具体例として、実際の授業づくりでの課題、石川県での実践の現状と課題について理解を深める。	メディア
			保健体育科教育法Ⅴ	保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示されたの学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。中等教育学校の保健体育科教員として学習指導を担当する際に必要となる基礎的な知識を身につける。また、生徒の実態に合わせた効果的な指導の在り方について、グループワークに取り組みながら理解を深める。	メディア
			保健体育科教育法Ⅵ	中等教育学校の保健体育科教員として学習指導を担当する際に必要となる実践的な知識を身につける。保健体育科の計画、学習評価などに関する実践的知識を身につける。具体的には、生徒同士の相互作用の形態（学習形態）と生徒の学びに焦点をあて、体育における対話的な学びについて検討する。異質な他者との相互作用による運動・スポーツの楽しみの享受はいかにして可能になるのか。生徒の実態に合わせた効果的な指導について、グループワークに取り組みながら理解を深めていく。	メディア

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	保健体育	バイオメカニクス演習A	<p>バイオメカニクスの基本概念を理解し、運動を力学的に解釈すること、バイオメカニクスの研究で用いられる力学や数学の基礎を理解し、利用できる能力を身に着けることを目的とする。</p> <p>バイオメカニクスの基本概念を理解することを目的として、基本的な知識の確認と各種運動のバイオメカニクスの解釈を行う。</p> <p>力学や数学の基礎を理解することを目的として、基本的な幾何学や力学を学習し、バイオメカニクスの分析で用いる方法を習得する。</p>	
			バイオメカニクス演習B	<p>バイオメカニクスの研究で用いられる研究方法の基礎を理解し、利用できる能力を身に着けること、バイオメカニクスの研究で用いられる研究方法の基礎を理解し、実際に測定及びデータ処理を実施する能力を身に着けることを目的とする。</p> <p>研究方法の基礎を理解することを目的として、基本的な分析方法やデータ算出方法を学習し、バイオメカニクスの研究での利用方法を習得する。</p> <p>研究方法の基礎を理解することを目的として、基本的な分析やデータ算出を演習を通して実施することで、バイオメカニクスの研究での利用方法を習得する。</p>	
			バイオメカニクス演習C	<p>バイオメカニクスの研究で用いられる三次元動作分析方法の基礎を理解し、利用できる能力を身に着けること、バイオメカニクスに関わる研究論文の作成方法について学習することを目的とする。</p> <p>三次元動作の基礎を理解することを目的として、基本的な分析方法やデータ算出方法を学習し、バイオメカニクスの研究での利用方法を習得する。</p> <p>研究論文作成のために先行研究の収集、整理、解釈、検討し、研究課題を設定する。また、予備実験について準備し、測定方法の妥当性について検討する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 保健体育	バイオメカニクス演習D	<p>各種データ処理、分析、算出を行い、算出データの妥当性の確認し、データを解釈できる能力を身に付けること、論文の構成及びそれぞれの内容、記述方法について理解し、実際に記述する能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>データの処理や解釈する能力を身に付けることを目的として、データ処理、分析、算出を行い、それぞれの段階でのデータを確認し、その後、算出したデータを基に運動を理解する。</p> <p>論文の構成や記述について理解することを目的として、バイオメカニクス領域での研究論文の構成、記述方法について学習する。各構成要素の内容、記述方法について説明し、記述できる能力を身に付ける。</p>	
	運動生理学演習A	<p>運動生理学の基礎知識を基にしながら、子どもから成人、高齢者に関わる健康問題やスポーツ活動に関わる国内外の先進的研究報告を読み解き、運動・スポーツや発育・加齢などが身体の生理機能の変化や適応変化に及ぼす影響などについて理解を深め、専門的知識を高めることを目的とする。国内外の先進的研究報告から未解決な課題を探るとともに、そこで用いられている運動生理学や生化学的手法やそれによる結果の解釈についての議論を通じて、スポーツ科学や健康科学で示される知見を正しく理解できるよう学修する。</p>	
	運動生理学演習B	<p>運動生理学の基礎知識を基にしながら、子どもから成人、高齢者に関わる健康問題やスポーツ活動に関わる国内外の先進的研究報告を読み解き、運動・スポーツや発育・加齢などが身体の生理機能の変化や適応変化に及ぼす影響などについて理解を深め、専門的知識を高めることを目的とする。国内外の先進的研究報告から未解決な課題を探るとともに、そこで用いられている運動生理学や生化学的手法の具体的な方法について詳細に学習・実習する。それらの学習・実習を通じて、スポーツ科学や健康科学に関する様々なデータの取得方法を学修する。</p>	
	運動生理学演習C	<p>運動生理学の基礎知識を基にしながら、子どもから成人、高齢者に関わる健康問題やスポーツ活動に関わる国内外の先進的研究報告を読み解き、運動・スポーツや発育・加齢などが身体の生理機能の変化や適応変化に及ぼす影響などについて理解を深め、専門的知識を高めることを目的とする。国内外の先進的研究報告から未解決な課題を探り、その課題に対する解決の糸口となるデータの取得を試み、その結果の是非について議論する。こうした演習を通じて、仮説検証の実際について学修する。</p>	
	運動生理学演習D	<p>運動生理学の基礎知識を基にしながら、子どもから成人、高齢者に関わる健康問題やスポーツ活動に関わる国内外の先進的研究報告を読み解き、運動・スポーツや発育・加齢などが身体の生理機能の変化や適応変化に及ぼす影響などについて理解を深め、専門的知識を高めることを目的とする。国内外の先進的研究報告から未解決な課題を探り、その課題の解決の糸口となるデータの取得を試みる。仮説検証した結果と解釈（結果の是非）に関して、レポートでのまとめ方やプレゼンテーションによって効果的に伝える技術や方法について学修する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保健体育	学校保健演習 A	学校保健に関する基本概念を理解することを目的として、基本的な知識の確認と学校保健活動の実際について考察を行う。その際、国内外の学校保健分野の研究を取り上げて、その問題設定の方法、研究方法、調査手続き、調査法、分析視点、分析方法、報告の仕方などをレビューする。それと共に、各受講者の興味の高いテーマに沿った内容の文献を講読し、全員で討論を行う。	
		学校保健演習 B	学校保健に関する基礎を理解することを目的として、保健管理や保健教育で用いる指導方法等を考察する。その際、国内外の学校保健分野の研究を取り上げて、その問題設定の方法、研究方法、調査手続き、調査法、分析視点、分析方法、報告の仕方などをレビューする。それと共に、各受講者の興味の高いテーマに沿った内容の文献を講読し、全員で討論を行う。	
		学校保健演習 C	研究方法の基礎を理解することを目的として、基本的な分析方法やデータ算出方法を学習し、学校保健分野での研究での利用方法を習得する。その際、国内外の学校保健分野の研究を取り上げて、その問題設定の方法、研究方法、調査手続き、調査法、分析視点、分析方法、報告の仕方などをレビューする。それと共に、各受講者の興味の高いテーマに沿った内容の文献を講読し、全員で討論を行う。	
		学校保健演習 D	研究方法の基礎を理解することを目的として、基本的な分析やデータ算出を演習を通して実施することで、学校保健分野の研究での利用方法を習得する。その際、国内外の学校保健分野の研究を取り上げて、その問題設定の方法、研究方法、調査手続き、調査法、分析視点、分析方法、報告の仕方などをレビューする。それと共に、各受講者の興味の高いテーマに沿った内容の文献を講読し、全員で討論を行う。	
		保健体育科教育演習 A	保健体育科教育において生徒の豊かなスポーツライフを保証するための資質・能力の育成が喫緊の課題となっている。本科目では、先進的な体育授業実践に関する書籍・論文を講読し、体育科教育学の観点から成果と課題を整理する。具体的には、先進的な体育実践の探索、体育科教育学の文献検索方法、先進実践の成果と課題の整理の仕方について学習する。	
		保健体育科教育演習 B	生徒の豊かなスポーツライフを保証するための資質・能力の育成の場として体育授業がある。体育授業をよりよいものにしていくためには、体育授業を観察し、成果や課題を評価する力量が求められる。本科目は、体育授業の観察・評価法を学習し、体育授業を観察・評価する方法を習得する。これを通じて、体育授業の観察・評価する能力を育成する。	
		保健体育科教育演習 C	体育科教育学の研究領域は、目標論、内容論、指導論、子ども理解、学習集団論、教材づくり論等、多岐にわたる。本科目は、保健体育科教育演習A,Bを基礎に、現代の体育授業を体育科教育学の観点から検討し、受講者自身が体育科教育に関する研究テーマを設定する。これを通じて、体育授業を研究的課題として立論する力量を育成する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保健体育	保健体育科教育演習D	保健体育科教育に関する研究課題を解決する研究手法は、観察やインタビュー、質問紙調査法等、多岐にわたる。研究課題の解明には、適切な研究方法が採用されなければならない。本科目は、体育科教育学に関する先行研究および研究方法論に関する先行研究を講読し、体育科教育研究に関する研究方法を学習する。それを通じて、設定したテーマに即した研究方法について検討する。	
		家政学原論	家庭科教育の学問的基盤である「家政学」について理解し、中学校・高等学校で学ぶ家庭科の位置づけを明確にすることを授業目標とする。本授業では、実際に過去の家政学書を目にしなが、日本やアメリカの家政学について知見を得た上で家政学の学問体系を系統的に理解する。さらに、ディスカッションなども取り入れながら、家庭生活の変化、家政学における「生活」、家政学の独自性、および家政学の社会的役割の理解を深める。	メディア
	家政教育	家庭経営学Ⅰ（家庭経済学と消費者市民社会の形成を含む）	家庭経営（家庭経済学を含む）の基礎理論の習得とともに現代の消費者市民社会の形成を目指し、実践に生かす力を身につけることを授業目標とする。中学校・高等学校の家庭科の教科書で取り上げられている内容を中心に、現代の家庭経営、社会経済情勢や地球環境に関わる諸課題を、具体的・日常的な問題として取り上げ、課題解決型の視点で検討する。	メディア
		家庭経営学Ⅱ	家庭経営分野の基礎理論を実践に生かす力も身につけることが望まれる。中学校・高等学校家庭科の家庭経営学分野の基礎知識・技能を身につけることを授業目標とする。授業では、中学校・高等学校家庭科の家庭経営学領域での学習内容に関する理解を深めるため、家庭経営学の基礎理論を学ぶとともに、現代社会における家庭経営の諸課題を取り上げ検討する。	メディア
		家族関係学（多様な家族と家庭科教育）	中学校・高等学校の家庭科教育で求められる家族関係領域の基礎知識を身につけ、多角的に家族や家庭を捉えながら、地域社会および世界の中での現代家族の多様性についての理解することを授業目標とする。授業では、現代社会の中で課題となっている多様な家族についての問題を取り上げながら、生涯を見通して「家族の在り方」について考え、中学校・高等学校家庭科教育で扱う家族関係領域の学習内容を検討する。	メディア
		家庭経営学演習Ⅰ	中学校・高等学校家庭科における家庭経営学領域を中心とした学習内容・指導方法を検討するために、家庭経営学の研究方法の基礎を習得することを授業目標とする。本授業では、家庭科・家庭経営学領域の知識の習得および指導に関して研究を進めるため、研究課題の設定や、調査の方法など、研究方法の基礎を学ぶ。また、予備調査の実習なども行う。	メディア
		家庭経営学演習Ⅱ	中学校および高等学校家庭科の家庭経営学分野の専門知識・技能を深めることを授業目標とする。本授業では、家庭経営学演習Ⅰの知識・技術を踏まえて家庭科・家庭経営学領域のさらなる知識の習得および指導に関して研究を進める。はじめに、家庭経営学に関する文献を講読し、内容の理解を深めるためのグループディスカッション、プレゼンテーションを行う。その上で検討結果を省察し、家庭科教育における家庭経営学領域への展開について検討する。	メディア

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 家政教育	被服学概論Ⅰ(現代の衣生活の諸問題を含む)	全受講者が衣服の分類およびデザインに関する知識を習得し、衣服の選択方法について多角的に教育現場で展開できるようになることを授業目標とする。本授業では、衣服の分類、形状およびサイズについて映像や様々な型紙を提示して解説する。さらに、衣服の安全性および快適性について説明し、着用目的、健康、安全、環境および現代の衣生活における諸問題に配慮した適切な衣服の選択方法を検討する。	メディア
	被服学概論Ⅱ	衣服素材の特性および汚れの付着と除去に関する基礎知識を修得し、管理の仕方を検討できるようになることを授業目標とする。本授業では、衣服素材の種類、構造、一般物性および製造工程について紹介する。そして、汚れの付着と除去のメカニズム、衣服の劣化に対する修繕法を、映像を用いて解説する。これらの基礎知識を活用し、環境へ配慮した衣生活の送り方を衣服の管理の観点から検討する。	メディア
	被服構成実習	衣服の素材、構成、製作方法と着装方法を理解し、学校教育で被服製作実習に関する授業が展開できるようになることを授業目標とする。被服製作に必要な材料、用具、採寸、製作および評価を系統的に行い、衣服製作に必要とされる知識と技術を獲得する。また、洋服(立体構成)と和服(平面構成)の違いについて、素材、用具、構成、製作方法、着装方法、管理方法を比較しながら理解を深める。	
	被服科学実験	実験を通して衣服とその素材の製造工程および物性評価を行うことにより系統的に理解し、実験結果のまとめ方、見せ方および議論の方法の修得を授業目標とする。衣生活について考える上で、衣服の性能とそれを構成する布、糸、繊維の物性について実験を通して理解することは重要である。本授業では、衣服素材の試作および評価試験を行う。さらに、得られた結果については表計算ソフトを用いてまとめ、グラフ化した上で議論する。	
	被服学演習Ⅰ	衣生活の実態と課題を調査によって明らかにし、衣生活に関する文献、デジタルコンテンツおよびアンケートの調査方法、読解方法および解析方法を修得することを授業目標とする。本授業では、学校教育における衣生活の実態と解決すべき課題について、文献やデジタルコンテンツの調査およびアンケート調査の実施により探求する。そして、調査結果を集計・解析することにより実態と課題を明らかにし、検討課題の解決法を模索する。	メディア
	被服学演習Ⅱ	被服に関する簡易的な実験を展開できるよう、そのための文献調査方法、実験計画、実験装置の試作方法および実験結果のまとめ方を修得することを授業目標とする。本授業では、衣生活に関連する解決すべき課題を調査し、その解決に向けた実験計画や簡易実験装置を工夫しながら作成する。さらに、試作装置を用いて測定を行い、その結果をレポート文書とプレゼンテーション資料としてまとめ、議論する。	メディア

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 家政教育	保育学概論Ⅰ（現代の保育学の諸問題を含む）	保育を含む福祉に関する基本的な理念や背景を学び、種々の現場における心理社会的課題を考察することを通して、保育の意義、目的、制度、内容、方法等を理解することを授業目標とする。本授業では、社会福祉及び保育に関する基礎的な理念や背景を学んだ後に、保育学の観点を踏まえつつ、家庭福祉及び児童福祉の現場において生じる現代的課題を知り、それらの課題に対する具体的な対応や支援を検討する。	メディア
	保育学概論Ⅱ（家庭看護含む）	家庭や種々の福祉施設を含む多様な保育の現場における心理社会的課題を考察し、家庭における看護の現状と課題を検討することを通して、保育の意義、目的、制度、内容、方法等を、より具体的に理解することを授業目標とする。本授業では、障害者福祉、児童虐待及び高齢者福祉のそれぞれの現場において生じる現状と課題を知り、家庭における看護の視点も踏まえながら、それらの課題に対する具体的な対応や支援を検討する。	メディア
	保育学Ⅰ	海外の保育・幼児教育との相対化を踏まえながら日本の保育を理解し、現代の子ども及び子育て家庭を取り巻く現状と課題を知り、具体的な支援につながる知識と態度を身につけることを授業目標とする。本授業では、海外の保育・幼児教育を紹介し、日本の保育を相対化しながら理解する機会を提供する。特に、幼小接続、障害のある子どもの支援に焦点を当て、それぞれの支援について具体的に協議する。	メディア
	保育学Ⅱ（実習を含む）	保育現場で活用される保育技術について、現場におけるそれらの機能も踏まえながら理解し、技術の活用の際に必要とされる知識と態度を身につけることを授業目標とする。本授業では、まず、保育技術を具体的に紹介し、次に、幼稚園参観あるいは保育実践の録画鑑賞を踏まえ、それらの技術が現場において果たす機能を協議しながら考察する。最後に、学生による保育技術の発表の機会を設け、発表内容に基づいて協議する。	メディア
	保育学演習Ⅰ	保育学周辺領域の専門的文献の講読を通して、自身の課題意識と照合しながら、現在の保育学周辺領域の課題を考察する態度を身につけることを授業目標とする。本授業では、保育学周辺領域の専門的文献について、演習担当者が資料を用意して発表する。専門的文献は、全ての参加者が事前に読解してくることとする。各回のテーマについて、授業担当者が簡潔な説明及び講義をした後で、参加者全員で討論する。	メディア
	保育学演習Ⅱ	保育学周辺領域の研究論文の講読を通して、現在の保育学周辺領域の課題を相対的かつ多角的に考察する態度を身につけるとともに、研究の構造を理解することを授業目標とする。本授業では、検討論文について、演習担当者が資料を用意して発表する。検討論文については、全ての参加者が事前に読解してくることとする。各回のテーマについて、授業担当者が簡潔な説明及び講義をした後で、参加者全員で討論する。	メディア

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 家政教育	家庭電気・機械・情報	<p>家庭生活で役立つ情報・電気・機械の工学的な基礎知識を身につけることを授業到達目標とする。本授業では、家庭電気・家庭機械・情報処理に関する基礎知識を習得する。さらに、コンピュータプログラミングの概念をC言語の学習する。授業では、実際にプログラムを作成し、実行結果を確認しながら理解を深める。また、プログラミングの学習とともに、照明、電気コンセントの増設、水栓交換、排水管置換、トイレ便座の交換、エアコン除去と設置について学ぶ。</p>	メディア
	家庭科教育法Ⅲ (石川県の教育実践を含む)	<p>本授業のテーマは反省的实践家として活動できる中学校あるいは高等学校の家庭科教師の在り方について理解することである。本授業の到達目標は、反省的实践家としての家庭科教師として、家庭科教育の応用原理を知り、石川県での教育実践を踏まえつつ家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得することである。家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教材研究、指導法、カリキュラムや授業の構想、指導案の作成などについての学習をふまえ、実際に教材研究を行い授業を計画し模擬授業(情報機器及び教材の活用を含む)を行う。その際、石川県に関わる授業実践についても行う。講義とともにアクティブ・ラーニングを取り入れ、実験、実習、リサーチといった学習者が主体となった活動も行う。課題等により予習・復習を促す。</p>	メディア
	家庭科教育法Ⅳ (石川県の教育実践を含む)	<p>本授業のテーマは反省的实践家として活動できる中学校あるいは高等学校の家庭科教師の在り方について理解することである。本授業の到達目標は、反省的实践家としての家庭科教師として、家庭科教育の応用原理を知り、石川県の教育実践を踏まえつつ家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得することである。家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教材研究、指導法(情報機器及び教材の活用を含む)、カリキュラムや授業の構想、指導案の作成などについての学習をふまえ、実際に教材研究を行い授業を計画し模擬授業を行う。その際、石川県に関わる教育実践についても行う。相互に批評・評価し、それらをもとに指導案や教材を修正する。講義とともにアクティブ・ラーニングを取り入れ、実験、実習、リサーチといった学習者が主体となった活動も行う。課題等により予習・復習を促す。</p>	メディア
	家庭科教育法Ⅴ	<p>中学校・高等学校家庭科の教育課程及び指導法の知識・技能を身につけ、家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得する。 家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教材研究、指導法(情報機器及び教材の活用を含む)、カリキュラムや授業の構想、指導案の作成などについての学習をふまえ、実際に教材研究を行い授業を計画し模擬授業を行う。食生活、衣生活、住生活分野の教材開発を中心に行う。アクティブ・ラーニングを取り入れ、実験、実習、リサーチ・討論といった学習者が主体となった活動を行う。課題等により予習・復習を促す。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 家政教育	家庭科教育法Ⅵ	中学校・高等学校家庭科の教育課程及び指導法の知識・技能を身につけ、家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得する。 家庭科の特徴、教育的意義、教育内容、教材研究、指導法（情報機器及び教材の活用を含む）、カリキュラムや授業の構想、指導案の作成などについての学習をふまえて、実際に教材研究を行い授業を計画し模擬授業を行う。家族・保育分野、消費生活・環境分野、福祉分野の教材開発を中心に行う。アクティブ・ラーニングを取り入れ、実験、実習、リサーチ・討論といった学習者が主体となった活動を行う。課題等により予習・復習を促す。	
	家庭科教育法Ⅶ	授業のテーマおよび到達目標は中学校・高等学校家庭科の教育課程及び指導法の知識・技能を身につけ、家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得する。授業では、3年次の教育実習をふりかえりながら、授業と指導案について再検討し、議論を踏まえて同じ授業について指導案を再度作成して議論する。実験、実習、リサーチ・討論、小・中学校家庭科授業の参与観察、情報機器及び教材の活用、といった学生が主体となった活動を行う。課題等により予習・復習を促す。	
	家庭科教育法Ⅷ	授業のテーマ及び到達目標は中学校・高等学校家庭科の教育課程及び指導法の知識・技能を身につけ、家庭科教師としての実践的な資質・能力を獲得する。授業では、主として今日的教育課題と家庭科について学ぶ。より必要性が高まっている学習内容や学習方法を取り入れた先駆的であった授業実践を分析し、それを活かしながらカリキュラムや学習指導を構想・実践する。実験、実習、リサーチ・討論、情報機器及び教材の活用、小・中学校家庭科授業の参与観察、模擬授業といった学習者が主体となった活動を行う。課題等により予習・復習を促す。	
	家庭科教育演習Ⅰ	家庭科教育についてより深く学びたい学生を対象とし、家庭科を探究的に学ぶ視点や研究方法に関する基礎的な知識やスキルを習得する。また、家庭科教育の理論と実践に関する専門的な理解を獲得する。 カリキュラムに関わる文献研究、質問紙や面接などの調査研究、諸外国の家庭科に関する研究、授業の実践的研究などについて、具体的な研究例をもとに検討する。また、授業づくりにかかわる教材研究の一環として実習や実験なども行う。	
	家庭科教育演習Ⅱ	家庭科教育演習Ⅰを履修していることをふまえて授業を行う。家庭科教育に関する研究を行う場合のテーマ設定の仕方や課題へのアプローチの方法について理解し、探究的なアプローチを受講生各自が実際に行うことで研究力を養う。 様々なテーマの研究論文を講読し、テーマに応じた研究手法の特徴について理解を深める。また、受講生自身が探究したいテーマについて、資料収集の方法や探究方法を考え、アドバイスを受けながら実践する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 家政教育	家庭経営学演習Ⅲ	中学校・高等学校家庭科における家庭経営学領域を中心とした学習内容および指導方法を検討するために、3年次で習得した基礎的な研究方法を展開させ、実践に結び付く考察をすすめることを授業到達目標とする。本授業では、3年次で実施した予備調査や文献講読の結果を踏まえて、研究課題の設定や、調査の方法など研究方法の再検討を行う。さらに、それをもとに家庭科・家庭経営学領域の知識の習得および指導に関する研究を展開する。	
	家庭経営学演習Ⅳ	これまでに学んだ中学校・高等学校家庭科の家庭経営学分野の専門知識・技能を踏まえて、学校現場で実践可能な学習内容・指導方法を提案することを授業目標とする。本授業では、家庭経営学演習Ⅰ～Ⅲの知識・技能を踏まえてさらに研究を展開する。グループディスカッションにより多角的な視点・他者の視点も取り入れながら、より精度の高く実践可能な研究としてまとめていく。	
	被服学演習Ⅲ	多様性社会におけるユニバーサルファッションやエシカルファッション等の検討課題に対して、時代に応じた様々な教材を提案できるようになることを授業目標とする。本授業では、衣生活に関連する解決すべき課題を調査し、その解決に向けた被服デザインの検討、設計、試作および評価を系統的に行う。これらの結果をレポート文書とプレゼンテーション資料としてまとめ、議論する。	
	被服学演習Ⅳ	衣服に関する環境問題の理解と取り組みを検討する授業展開ができるよう、現状に応じた様々な提示教材を提案できるようになることを授業目標とする。本授業では、衣生活に関連する解決すべき課題を調査し、その解決に向けた実験計画や簡易実験装置を工夫しながら作成する。さらに、試作装置を用いて測定を行い、その結果をレポート文書とプレゼンテーション資料としてまとめ、議論する。	
	保育学演習Ⅲ	保育学周辺領域の種々の研究課題について、その課題を追究する方法を具体的且つ批判的に検討し、より適切な方法を見出すことを授業到達目標とする。本授業では、データを収集する研究方法として、観察調査、質問紙調査、インタビュー調査、実験調査、文献調査などをとりあげ、研究課題と照合しながら具体化する過程も含めて協議する。更に、保育の現場においてデータを収集する上での倫理的課題についても講義を踏まえて討論する。	
	保育学演習Ⅳ	保育学周辺領域の種々の研究課題について、適切な方法により収集されたデータを分析し、考察するための知識と態度を身につけることを授業目標とする。本授業では、それぞれの研究方法により収集されたデータの分析と考察について、演習担当者の発表に基づきながら協議する。更に、データを収集した各種現場に対して、どのように還元していくことが望ましいのかについても討論を踏まえて検討する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	家政教育	家庭科教育演習Ⅲ	家庭科教育についてより深く学びたい学生を対象とする。家庭科教育の理論と実践に関する専門的な理解を獲得するとともに、家庭科教育研究の基本的プロセスや調査方法を理解し、教育や研究に探究的に取り組む資質を養う。家庭科教育演習Ⅰ・Ⅱを履修していることをふまえて授業を行う。家庭科教育に関する研究を行う場合の先行研究の分析、研究課題の設定の仕方や課題へのアプローチの方法について理解し、探究的なアプローチを受講生各自が実際に行うことで研究力を養う。受講生自身が探究したい課題について、資料を収集し、アドバイスを受けながら研究枠組・研究計画をたてる。予備調査も行う。	
		家庭科教育演習Ⅳ	家庭科教育についてより深く学びたい学生を対象とする。家庭科教育の理論と実践に関する専門的な理解を獲得するとともに、家庭科教育研究の基本的プロセスや調査方法を理解し、教育や研究に探究的に取り組む資質を養う。家庭科教育演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修していることをふまえて授業を行う。家庭科教育に関する研究を行う場合の先行研究の分析、研究課題の設定の仕方や課題へのアプローチの方法について理解し、探究的なアプローチを受講生各自が実際に行うことで研究力を養う。受講生自身が探究したい課題について、資料を収集したり調査をしたりし、アドバイスを受けながら研究を進める。定期的に報告会を行い、受講生相互に検討し合う。	
	専門科目	英語学概論Ⅲ(応用)	音韻論・社会言語学の各分野における基本的な概念を学び、英語をより深く応用的に理解するための基礎を作る。平易な英文で書かれたテキストを用いて基本的概念を解説していく。適宜最新の学術文献などの資料を配付し、最新の研究動向にも必要に応じて言及し、かつ専門的な英文を読解する訓練も行う。また、音韻論・社会言語学の概念が授業の中でどのように関わるかについても考察する。	
		英語学概論Ⅳ(応用)	心理言語学・応用言語学の各分野における基本的な概念を学び、英語をより深く応用的に理解するための基礎を作る。平易な英文で書かれたテキストを用いて基本的概念を解説していく。適宜最新の学術文献などの資料を配付し、最新の研究動向にも必要に応じて言及し、かつ専門的な英文を読解する訓練も行う。また、心理言語学・応用言語学の概念が授業の中でどのように関わるかについても考察する。	
		英語音声学・文法Ⅰ	英語教員として必要となる学校英文法の体系を身につけると同時にコミュニケーション活動等を行ううえで必要な、英語音声に関する基礎知識を学び、指導力向上につなげる。具体的には完了形、進行形、能動態・受動態など、コミュニケーション活動で用いられることの多い構文および、英語音声の基礎的部分を解説・練習していく。	
		英語音声学・文法Ⅱ	英語教員として必要となる学校英文法の体系を身につけると同時にコミュニケーション活動等を行ううえで必要な、英語音声に関する基礎知識を学び、指導力向上につなげる。動詞・倒置・省略など、コミュニケーション英語で重要となる文法事項および、英語音声の単音レベルの基礎を解説・練習し、授業の中で活用についても考察する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	英語教育	英語学演習Ⅰ（個別理論）	構造言語学および生成文法の基本的な考え方を理解し、英語や日本語の言語現象を観察する手段として用いることができる能力を養っていく。これらの理論の基本的な考え方を、英語や日本語の具体的な言語現象を取り上げながら説明し、受講者自身もこれらの理論の観点から英語や日本語の言語現象を観察し整理するレポートを作成する。	
			英語学演習Ⅱ（個別理論）	認知言語学および言語類型論の基本的な考え方を理解し、英語や日本語の言語現象を観察する手段として用いることができる能力を養っていく。これらの理論の基本的な考え方を、英語や日本語の具体的な言語現象を取り上げながら説明し、受講者自身もこれらの理論の観点から英語や日本語の言語現象を観察し整理する課題を行う。	
			英語文学概論Ⅰ（イギリス文学と現在の英語教育）	イギリス文学の歴史と変遷を扱い、その背後の文化と思想を理解する一方で、文学作品と英語教育との影響関係を論じる。授業ではテキストの他に実際の作品から抜粋したプリントを配布し、英語についての広範な知識の獲得を求める。授業においてはグループによる討論などアクティブラーニングを積極的に取り入れる一方で、英語コミュニケーション能力の向上を図るため、授業の主要言語は英語とする。	メディア
			英語文学概論Ⅱ（アメリカ文学と現在の英語教育）	アメリカの建国から19世紀までをその文学の歴史を中心に概観する。各時代の代表的な作家の功績や作品（の抜粋）に触れることで、アメリカの文学とそれを産出した文化について深く考察する能力を養成する。毎回一人ないし二人の作家を中心に扱い、その周辺の歴史背景や文化思潮とともに講義する。受講生はグループに分かれて作品の解釈や英語教育における利用法について議論を行うことが求められる。	メディア
			英語文学概論Ⅲ（イギリス）	英語文学概説Aの内容を踏まえたイギリス文学の歴史と変遷を扱い、その背後の文化と思想を理解する。授業ではテキストの他に実際の作品から抜粋したプリントを配布し、英語についての広範な知識の獲得を求める。授業においてはグループによる討論などアクティブラーニングを積極的に取り入れる一方で、英語コミュニケーション能力の向上を図るため、授業の主要言語は英語とする。	メディア
			英語文学概論Ⅳ（アメリカ）	アメリカの19世紀後半から20世紀後半までを、その文学の歴史を中心に概観する。各時代の代表的な作家の功績や作品（の抜粋）に触れることで、アメリカの文学とそれを産出した文化について深く考察する能力を養成する。毎回一人ないし二人の作家を中心に扱い、その周辺の歴史背景や文化思潮とともに講義する。受講生はグループに分かれて作品の解釈や英語教育における利用法について議論を行うことが求められる。	メディア
			英語文学演習Ⅰ（イギリス）	イギリス文学の代表的な作品を扱い、物語自体の構成要素、背後にある文化と思想、作品成立の歴史背景などを理解する。併せて、作品の文体も文法的に考察し、英語についての知識を広げる。授業においてはグループによる討論などアクティブラーニングを積極的に取り入れる一方で、英語コミュニケーション能力の向上を図るため、授業の主要言語は英語とする。	メディア

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	英語文学演習Ⅱ（アメリカ）	<p>英語文学（アメリカ）作品の読解を通じて様々な英語の表現に触れると共に、アメリカの文学やそれが背景とする歴史と文化について理解を深めることをテーマとする。作品読解から現れる様々な疑問について議論を重ね、作品を題材とする教材を作成するなどして将来的に受講生が行う授業に文学作品を活用するための方法を習得することを目標とする。受講者は作品を深く読解し、作品自体や作品を生み出した文化についての独自の意見を持って積極的に議論に参加することが期待される。また授業中の意見を深め、LMSへのショートペーパーで表すことが毎時間求められる。</p>	メディア
	英語文学演習Ⅲ（イギリス）	<p>イギリス文学の代表的な作品を扱い、その背後の文化と思想を理解する。併せて、作品の作風も考察し、英語の使われ方についての知識を広げる。テキストは他の英語文学演習で扱われるものよりも難易度の高いものとする。授業においてはグループによる討論などアクティブラーニングを積極的に取り入れる一方で、英語コミュニケーション能力の向上を図るため、授業の主要言語は英語とする。</p>	メディア
	英語文学演習Ⅳ（アメリカ）	<p>英語文学演習Ⅱ（アメリカ）が19世紀から20世紀の短編小説の読解を行うのに対して、この授業はいわゆる“Great American Novel”と呼ばれる作品の読解を中心に行う。様々な観点からの疑問を巡るディスカッションを充実したものでできるよう、受講者は作品を深く読解し、作品自体や作品を生み出した文化についての独自の意見を持って積極的に議論に参加することが期待される。また授業中の意見を深め、LMSへのショートペーパーで表すことが毎時間求められる。</p>	メディア
	英作文Ⅰ（基礎）	<p>英語で文章を書くための基本的な事項を学ぶ。英語のコミュニケーションに習熟し、受講生は将来自身が英語で授業を行うための英語運用力を積極的に身につける。特にこの授業では簡潔な英語で文章を構成する方法を重点的に学ぶ。パラグラフの書き方を練習することを通じ、英語という言葉とそれによる文章の論理的構造に習熟する。教室内のコミュニケーションには必ず英語を使用することで、受講生の英語運用力を多角的に向上させる。</p>	
	英会話Ⅰ（基礎）	<p>日常よく使われる英会話の定型表現を学習する。受講生はいくつかのグループに分かれ、授業計画に示されたトピックに従って、ロールプレイ型の会話練習を行い、実際の場面のなかで活用する。教室では日本語での会話は禁止するので、教員の指示、教員への質問、受講生同士の会話もすべて英語で行う。また、毎回、前回の学習の確認クイズを行う。</p>	
	英作文Ⅱ（応用）	<p>英作文Ⅰ（基礎）で修得した、英語で文章を書くための基本的な事項を活用し英語運用の運用能力のさらなる発展を目指す。様々なジャンルの英語に触れることで、目的や場面、状況に応じた適切な英文を書くことができるようになる。明快な英文を用いた複数のパラグラフによる種々の課題の執筆を通じ、英文を構成する時の注意点を実践的に学んでゆく。また教室内のコミュニケーションに英語を使用することで、受講生の英語運用力を多角的に向上させることを同時に行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 英語教育	英会話Ⅱ(応用)	英語を使った中学校の英語授業の模擬演習を行う。受講生はいくつかのグループに分かれ、授業計画に示されたトピックに従って、指導案を組み立てる。作成した指導案を元に、15分程度の模擬授業を実践する。なお、教室では日本語での会話は禁止するので、教員の指示、教員への質問、受講生同士の会話もすべて英語で行っていく。	
	英作文Ⅲ(応用)	英作文Ⅰ、Ⅱで学んだ事項を踏まえ、より高度な文章を英語で書くための発展的な事項を学ぶ。このクラスは特に、論理的な文章を構成する方法の修得を重視する。教室内のコミュニケーションには必ず英語を使用することで、受講生の英語運用力を多角的に向上させる。	
	英会話Ⅲ(応用)	アカデミックスピーチとディスカッションを行う。受講生は、授業計画の内容に沿ったプレゼンテーションを行い、その後全員で質疑応答をする。教室では日本語での会話は禁止するので、教員の指示、教員への質問、受講生同士の会話もすべて英語で行う。なお、語彙力向上のための確認テストを毎回実施し、ディスカッションで用いる語彙の増強もはかる。	
	英作文Ⅳ(応用)	英作文ⅠからⅢにおける習得技術を基礎に、「アカデミック・ライティング」の技法を駆使しての論理的な英文エッセイを学んでいく。各自が設定したテーマに関するリサーチ方法の授業も含め、卒業論文の作成などにも援用できる実践的な授業となる。教室内のコミュニケーションには必ず英語を使用することで、受講生の英語運用力を多角的に向上させる。	
	英会話Ⅳ(応用)	リスニング教材を使用し、留学可能なレベルのコミュニケーション力を養う。上級レベルのリスニング教材を聴き、コミュニケーション力の向上を目指す。授業はディクテーションが中心となる。自分が聞き取った内容がどれだけ書き取れるかを複数回に分けて確認し、語彙・音連結・内容などの観点から課題を分析する。なお、語彙力向上のための確認テストを毎回実施する。	
	英語科教育法Ⅲ(石川県の教育実践を含む)	英語科教育における教授・学習の理論や学習指導要領に基づいた効果的な教育実践のあり方について考察する。主に第二言語習得、学習指導要領、外国語教授法、学習者要因等を中心に引き上げ、理論的・実践的に学ぶ。教員による解説に加え、受講生が各自指導の原理・原則など土台となる考え方を確立していくために、各自の経験や知識、石川県での実践の現状や課題を踏まえて議論できる機会を設ける。	メディア
	英語科教育法Ⅳ(石川県の教育実践を含む)	英語科教育における教授・学習の理論や学習指導要領に基づいた効果的な教育実践のあり方について考察する。主に学習指導要領、言語形式、5領域の指導等を中心に引き上げ、理論的・実践的に学ぶ。教員による解説に加え、受講生が各自指導の原理・原則など土台となる考え方を確立していくために、模擬授業や各自の経験や知識、石川県での実践の現状や課題を踏まえて議論できる機会を設ける。	メディア
	英語科教育法Ⅴ	英語科教育における実践的な授業力の向上を目指し、教授・学習の理論に基づいた効果的な教育実践のあり方について学ぶ。まず、教師の資質や授業運営などの基本的な知識を取り上げ考察する。続いて、聞くこと・読むことの領域について指導の方法・技術の基本を学んだ後、受講生による模擬授業を行い、活動等の考案、実施、省察を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	英語教育	英語科教育法Ⅵ	英語科教育における実践的な授業力の向上を目指し、教授・学習の理論に基づいた効果的な教育実践のあり方について学ぶ。話すこと・書くことの領域について指導の方法・技術の基本を学んだ後、受講生による模擬授業を行い、活動等の考案、実施、省察を行う。さらに、学んだ知識・技術を踏まえて、実践の観察・分析、指導計画の立案を行う。	
			英語科教育法Ⅶ	英語科教育における実践的な授業力の向上を目指し、受講者各自が教育実習で行った英語科授業の実践を振り返り、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの領域の指導と評価に焦点を当て、それぞれの実践上課題を見だし、それらを改善するために必要な教授・学習の理論や指導技術を学びつつ、指導案の作成、模擬授業の実施、評価方法の考案、省察等の演習を行う。	
			英語科教育法Ⅷ	英語科教員として必要とされる実践的な指導力の向上を目指す。特に目標を踏まえた、指導と評価に関する知識を身につけるとともに、その知識を授業という場で活用できるための実践力を身につける。各領域の指導と評価に焦点を当て、必要な理論や指導技術を学びつつ、指導案の作成、模擬授業の実施、評価方法の考案、単元計画の作成等の演習を行う。	
			英語学特別演習Ⅰ	対照言語学的観点から日本語と英語を対比することにより、日本語、英語の両言語をより客観的にとらえる視点を持つ。日本語と英語の言語類型論的特徴を音声・形態論・統語論・意味論の観点から対照していき、このような面の違いが実際の言語使用にどのような影響をもたらすかについて解説していく。それと並行して各自日英語対照に関するテーマを決めてレポートする。	
			英語学特別演習Ⅱ	日本語と英語の表現構造の違いに焦点を当て、客観的に同じ状況を表すのにどうして日本語と英語では異なった事態の切り取り方をするのかについて、いままで提示されてきた諸説を紹介し、具体的になぜ同じ状況を表現するときの構造が異なるのかについて、参加者同士の意見交換も交えながら掘り下げていく。また、各自表現構造の違いに関する具体的な現象をとりあげてレポートする。	
			英語文学特別演習Ⅰ	英語文学作品を学術的に読むための、伝統的な文学批評理論を学ぶ。文体論や伝記批評、物語の形態論といった伝統的な批評分野の考え方を扱い、英語文学作品の読解に援用する演習を行う。受講学生は各人の興味に合わせて、対象作品と批評方法を選び、自分で作品批評ができることを目指す。難解な英語と高度な内容を扱った、発展的内容となる。	
			英語文学特別演習Ⅱ	英語文学作品を学術的に読むための、ポスト構造主義以降の文学批評理論を学ぶ。ジェンダー論、ポスト植民地主義批評、エコロジー批評といった近年の批評理論を用いて、英語文学作品の読解演習をする。受講学生は各人の興味に合わせて、対象作品と批評方法を選び、自分で作品批評ができることを目指す。難解な英語と高度な内容を扱った、発展的内容となる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 英語教育 教育学・心理学に関する科目	英語教育学特別演習 I	英語科教員として様々な課題について理解したり、解決したりするためにテーマを設定し、追究しながら、研究を行うために必要な知識や技能を学ぶ。具体的には、先行研究や実践などの概観を通して、自分が追究したい研究課題の設定を行う。そして、研究課題を踏まえて、研究を進めるための研究方法やデータ収集方法、分析方法などを学ぶ。	
	英語教育学特別演習 II	英語科教員として様々な課題について理解したり、解決したりするためにテーマを設定し、追究しながら、必要な知識や技能を学ぶ。具体的には、英語科教育特別演習 I で学んだことを踏まえ、実際にその課題を追究することを通して技能を身につけていく。最終的には報告書の作成や発表を行い、そのために必要な知識や技能の習得も目指す。	
	英語科教育実践研究 I	英語教材を理論的・専門的観点から分析することによって、考える力、読む力、表現する力を育む授業構築を学生が主体的に考察し、授業に生かすとともにあるべき授業について研究する能力を修得する。特にこの授業は、これからの英語教育に必要な教材を自ら研究すること、また優れた教育実践に学ぶことを通じて授業案を設計・立案して、発展的な実践力を養うことを目的とする。	
	英語科教育実践研究 II	本授業では、英語教育についての歴史的に交わされてきた論争を検証し、現在の英語教育の在り方についての批判的な視点を養う。英語という言語そのものの独自性、それらを取りまく文化やイデオロギー的背景、第二言語獲得といった抽象的なテーマから、教室でいかに英語を教えるべきかという実際的な問題まで様々な話題を扱う。	
	教育・心理基礎論 A	<p>(概要) 本授業は人間の成長と発達、人間社会の形成と維持、発展に不可欠な「教育」の営みについて教育学と心理学それぞれの専門的な知見から総合的に考察することを通して、教職に就く履修者が幅広い視野と深い洞察力をもって現代の教育課題に応答するための基礎的な力を修得することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全8回) (34 鳥居和代／1回) 教育を多角的に考察する意義 (78 平石晃樹／2回) 道徳教育から見た現代の教育課題 (34 鳥居和代／3回) 教育史から見た現代の教育課題 (74 土屋明広／4回) 教育制度論から見た現代の教育課題 (33 土井妙子／5回) 教育方法学から見た現代の教育課題 (70 上森さくら／6回、7回) 教育実践教論から見た現代の教育課題 (77 原田克巳／8回) 教育臨床心理から見た現代の教育課題</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 教育学・心理学に関する科目	教育・心理基礎論B	<p>(概要) 本授業は人間社会と不可分な教育的営みについて、哲学、歴史学、法律学、方法学、臨床心理学など多様な専門家がそれぞれ専門的な視点から具体的な課題をまじえて議論することで、教職に就く履修者が幅広い視野と深い洞察力をもって現代の教育課題に応答する実践的な力を修得することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(34 鳥居和代／1回) 教育をめぐる現代的課題をどのように論じるか</p> <p>(78 平石晃樹／2回) 教育哲学から見た現代の教育課題に関する議論</p> <p>(34 鳥居和代／3回) 教育史から見た現代の教育課題に関する議論</p> <p>(74 土屋明広／4回) 教育法制度論の見た現代の教育課題に関する議論</p> <p>(33 土井妙子／5回, 6回) 教育方法学(学習指導を含む)から見た現代の教育課題に関する議論</p> <p>(70 上森さくら／7回) 生活指導論のから見た現代の教育課題に関する議論</p> <p>(77 原田克巳／8回) 教育臨床学・学校心理学のから見た現代の教育課題に関する議論</p>	オムニバス方式
	教育学・心理学演習A	本授業は「教育・心理基礎論A」、「教育・心理基礎論B」における学習項目について履修者が、各自の問題関心に基づく深い学習と教員・他の履修者との討論を通して、教育学・心理学諸分野の高度な知識と研究手法を修得することを目的とする。担当教員の専門分野ごとにクラス分けし、各クラスにおいてそれぞれ全8回の演習を行う。	
	教育学・心理学演習B	本授業は「教育・心理基礎論A」、「教育・心理基礎論B」、「教育学・心理学演習A」における学習内容を前提に、履修者が理論的、実践的、臨床的に高い専門性を修得することを目的として、履修者自ら設定した課題の研究発表、教員・他の履修者と討論を中心に進めていく。担当教員の専門分野ごとにクラス分けし、各クラスにおいてそれぞれ全8回の演習を行う。	

(1) 都道府県内における位置関係の図面

キャンパス位置図

石川県・金沢市の位置 Location of Ishikawa Pref. and Kanazawa



※金沢大学(角間キャンパス)と富山大学(五福キャンパス)の距離 / 約46km
 交通手段(移動時間) / 電車・新幹線・バス乗継(約120分)、自動車(約60分)

図面-1

位置図

- 東京 から** 羽田空港から(約1時間)
JR東京駅から(約2時間10分)
高速バス(約6時間30分)
- 大阪 から** JR大阪駅から(約3時間10分)
車で名神高速道路-米原JCT-北陸自動車道-富山
高速バス(約5時間40分)
- 名古屋 から** JR名古屋駅から(約3時間)
車で名神高速道路-一宮JCT-東海北陸自動車道-富山
高速バス(約3時間40分)
- 北海道 から** 新千歳空港から(約1時間30分)



高岡キャンパス

〒933-8588 高岡市二上町180
代表電話: 0766-25-9111

- バス
高岡駅から約20分
JR新高岡駅から約30分
- 市内電車
高岡駅から約20分
「米島口(よねじまぐち)」降車徒歩20分
- タクシー
高岡駅から約15分
JR新高岡駅から約20分
- 車
能越自動車道「高岡北IC」から約10分

杉谷キャンパス

〒930-0194 富山市杉谷2630
代表電話: 076-434-2281

- バス
富山きときと空港から富山駅まで約20分
富山駅[南口側]から約30分
- タクシー
富山きときと空港から約25分
富山駅[南口側]から約25分
- 車
北陸自動車道「富山西IC」から約5分
または「富山IC」から約25分

五福キャンパス

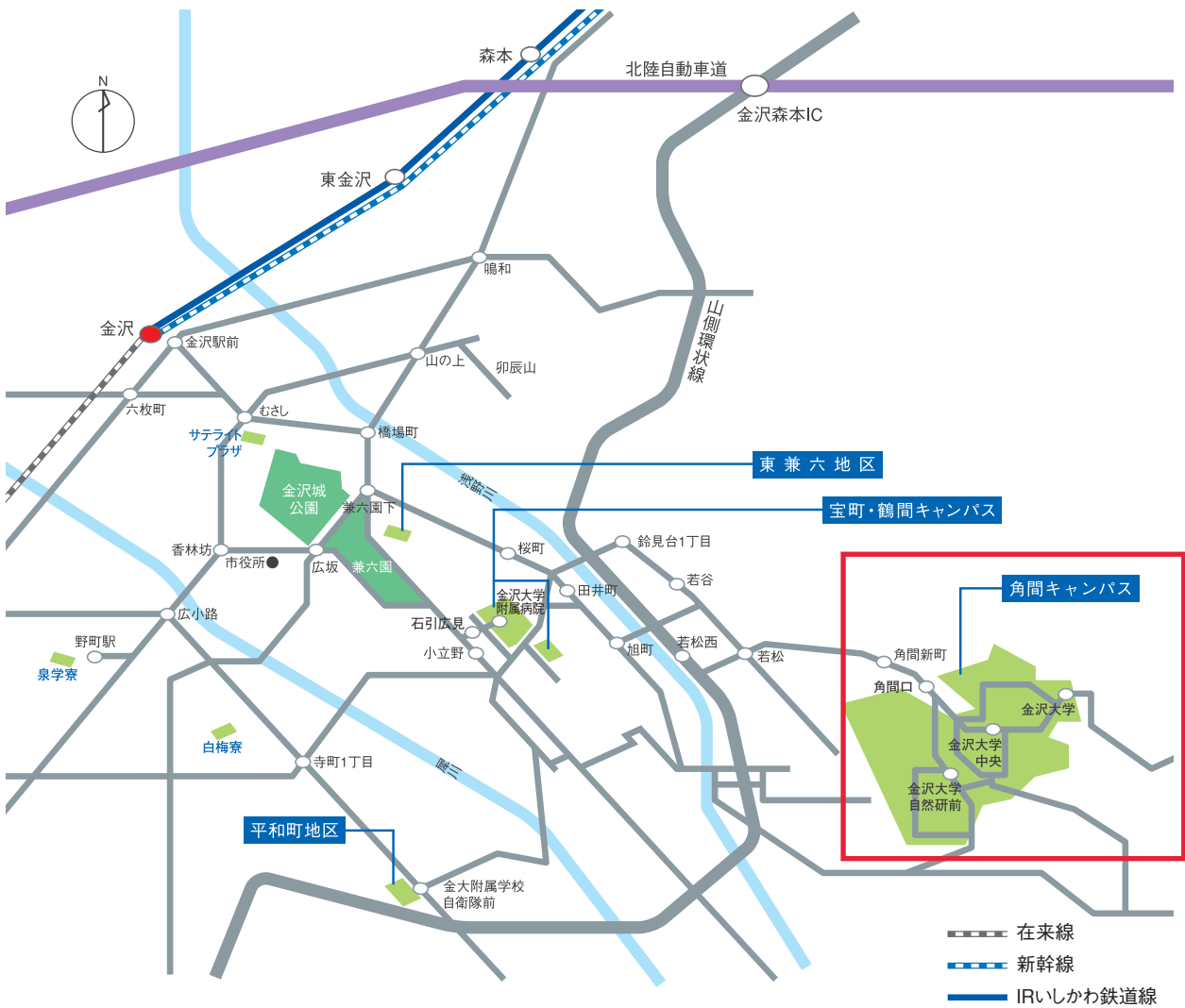
〒930-8555 富山市五福3190
代表電話: 076-445-6011

- バス
富山きときと空港から富山駅まで約20分
富山駅[南口側]から約20分
- 市内電車
富山駅[南口側]から約15分
- タクシー
富山きときと空港から約20分
富山駅[南口側]から約15分
- 車
北陸自動車道「富山西IC」から約15分
または「富山IC」から約20分

(2) 最寄り駅からの距離, 交通機関及び所要時間がわかる図面

キャンパス位置図

金沢市内



東京方面から金沢へのアクセス

- 航空機利用
羽田空港→小松空港 所要約1時間
(小松空港→金沢駅は北陸鉄道バスで約1時間)
- JR利用
東京→金沢 新幹線かがやき 所要約2時間30分
新幹線はくたか 所要約3時間

名古屋方面から金沢へのアクセス

- JR利用
名古屋→金沢 新幹線,特急しらさぎ 所要約2時間40分

大阪・京都方面から金沢へのアクセス

- JR利用
大阪→京都→金沢 特急サンダーバード 所要約2時間40分

金沢駅から主要キャンパスへのアクセス (北陸鉄道バス利用の場合)



- 角間キャンパス
<「金沢大学自然研前」,「金沢大学中央」,「金沢大学(角間)」>まで
所要約35分
金沢駅兼六園口(東口)⑦乗場→93,94,97「金沢大学(角間)」行
- 宝町・鶴間キャンパス<「小立野」バス停下車>まで 所要約20分
金沢駅兼六園口(東口)⑥乗場→11「東部車庫」行など
金沢駅兼六園口(東口)⑦乗場→13「湯谷原・医王山」行など
金沢駅金沢港口(西口)⑤乗場→10「東部車庫」行など

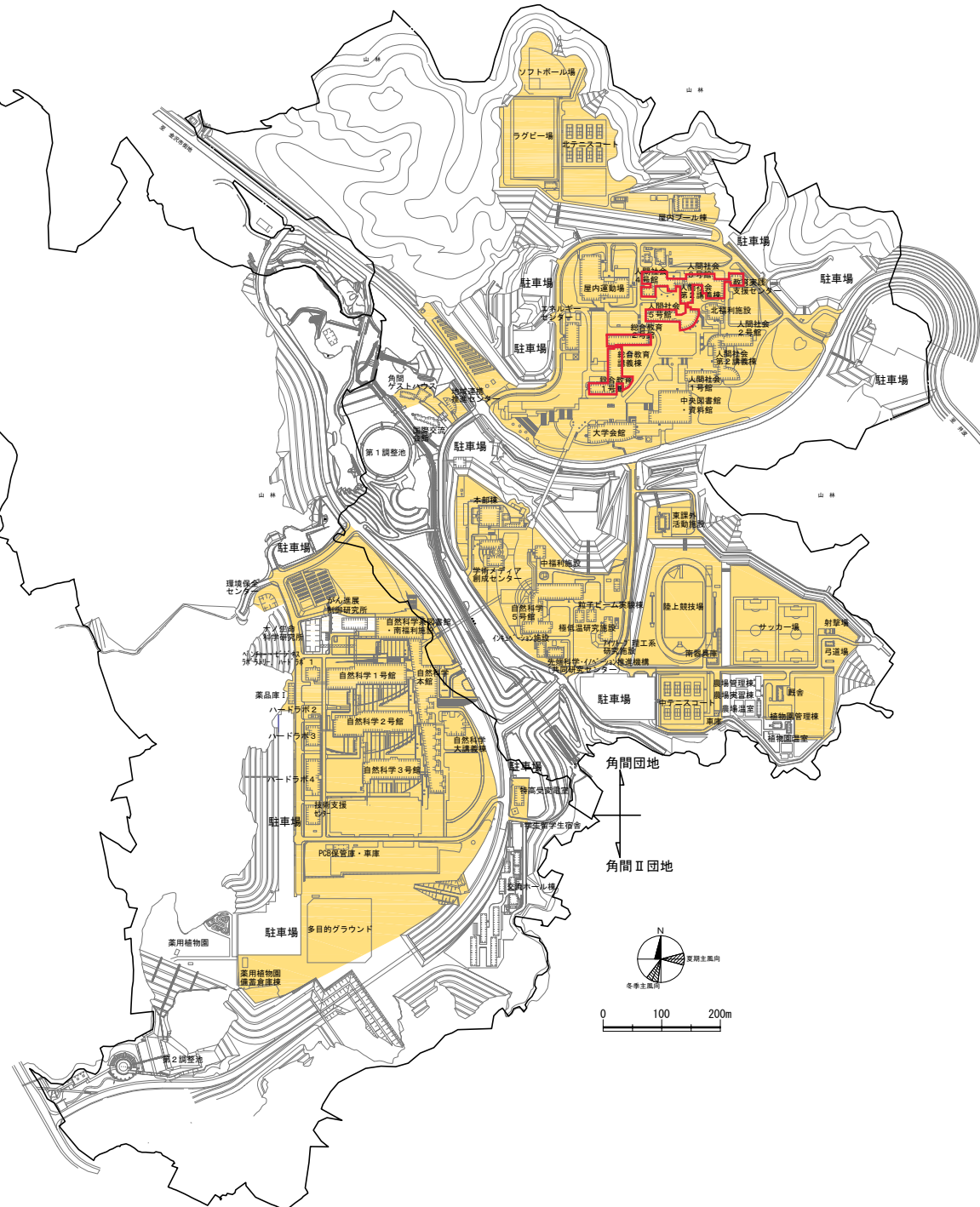


(3) 校舎, 運動場等の配置図

金沢大学角間キャンパス配置図

凡例

	申請建物 校舎面積 : 35,720㎡
	校地面積 : 538,869㎡



図面-4

目次

- 第 1 章 総則(第 1 条－第 4 条)
- 第 2 章 組織
 - 第 1 節 教育研究組織(第 5 条－第 18 条)
 - 第 2 節 職員等(第 19 条－第 26 条)
 - 第 3 節 教授会等(第 27 条－第 34 条)
 - 第 4 節 事務組織(第 35 条)
 - 第 5 節 技術支援組織(第 35 条の 2)
- 第 3 章 学生
 - 第 1 節 学年等及び休業日(第 36 条・第 37 条)
 - 第 2 節 修業年限及び在学年限(第 38 条－第 40 条)
 - 第 3 節 入学(第 41 条－第 47 条)
 - 第 4 節 教育課程，履修方法等(第 48 条－第 58 条)
 - 第 5 節 卒業要件及び学位授与(第 59 条－第 61 条)
 - 第 6 節 休学，復学，転学，留学，退学及び除籍(第 62 条－第 68 条)
 - 第 7 節 賞罰(第 69 条・第 70 条)
 - 第 8 節 検定料，入学料及び授業料(第 71 条－第 82 条)
- 第 4 章 研究生，科目等履修生，特別聴講学生及び外国人留学生(第 83 条－第 87 条)
- 第 5 章 学生寄宿舍(第 88 条)
- 第 6 章 共同教育課程（第 89 条）
- 第 7 章 特別の課程(第 90 条)
- 第 8 章 公開講座(第 91 条)

附則

第 1 章 総則

（目的）

第 1 条 金沢大学(以下「本学」という。)は，教育，研究及び社会貢献に対する国民の要請にこたえるため，総合大学として教育研究活動等を行い，学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

（定義）

第 2 条 この学則において「学域」とは，学校教育法第 85 条ただし書の規定に基づく，教育上の目的を達成するための組織をいう。

- 2 この学則において「学類」とは、学域において学生の受入れと専門教育実施の基本的な単位をいう。
- 3 この学則において「コース」とは、学類において個別の学問領域に基礎を置く専門教育に係るカリキュラムの基本単位及びその履修の体系をいう。
- 4 この学則において「研究域」とは、研究上の目的を達成するための組織をいう。
- 5 この学則において「系」とは、研究域及び第6条の2に定める国際基幹教育院に所属する教員の専門領域に基づいて分類した所属の単位をいう。
- 6 この学則において「附属教育研究施設」とは、特定の学類の教育及び当該分野の研究に必要な施設をいう。
- 7 この学則において「学内共同教育研究施設」とは、教員その他の者が共同して教育若しくは研究を行う施設又は教育若しくは研究のため共用する施設をいう。
- 8 この学則において「学内共同利用施設」とは、教員その他の者が共同して利用する施設をいう。
- 9 この学則において「部局」とは、教員が所属又は関与し、教育、研究、診療その他の大学運営に重要な事項を実施するための組織をいう。

(自己点検評価及び研修等)

第3条 本学は、教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価(以下「自己点検評価」という。)並びに授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を行うものとする。

- 2 自己点検評価及び研修等については、別に定める。

(情報の積極的な提供)

第4条 本学は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他によって、積極的に情報を提供するものとする。

第2章 組織

第1節 教育研究組織

(学域、学類並びにコース、課程及び専攻)

第5条 本学に、次に掲げる学域、学類並びにコース、課程及び専攻を置く。

融合学域

先導学類

人間社会学域

人文学類

法学類 公共法政策コース、企業関係法コース、総合法学コース

経済学類 エコノミクスコース、グローバル・マネジメントコース

学校教育学類 共同教員養成課程

地域創造学類 福祉マネジメントコース，環境共生コース，地域プランニングコース，観光学・文化継承コース

国際学類 国際社会コース，日本・日本語教育コース，アジアコース，米英コース，ヨーロッパコース

理工学域

数物科学類

物質化学類

機械工学類 機械創造コース，機械数理コース，エネルギー機械コース

フロンティア工学類

電子情報通信学類 電気電子コース，情報通信コース

地球社会基盤学類 地球惑星科学コース，土木防災コース，環境都市コース

生命理工学類 生命システムコース，海洋生物資源コース，バイオ工学コース

医薬保健学域

医学類

薬学類

医薬科学類 生命医科学コース，創薬科学コース

保健学類 看護学専攻，放射線技術科学専攻，検査技術科学専攻，理学療法学専攻，作業療法学専攻

- 2 各学域の入学定員及び収容定員は，別表第一のとおりとする。
- 3 学域及び学類の人材の養成に関する目的その他の教育上の目的並びに運営に必要な事項は，別に定める。
- 4 次の学類に，次に掲げる附属教育研究施設を置く。

人間社会学域学校教育学類

附属幼稚園，附属小学校，附属中学校，附属高等学校及び附属特別支援学校(以下「附属学校」という。)並びに附属教育実践支援センター

医薬保健学域薬学類

附属薬用植物園

- 5 附属特別支援学校は，知的障害者に対する教育を行うことを目的とする。
- 6 附属教育研究施設に関し必要な事項は，別に定める。

(大学院)

第6条 本学に，大学院を置く。

- 2 大学院に，次に掲げる研究科及び専攻を置く。

人間社会環境研究科

(前期2年の博士課程)

人文学専攻，経済学専攻，地域創造学専攻，国際学専攻

(後期3年の博士課程)

人間社会環境学専攻

自然科学研究科

(前期2年の博士課程)

数物科学専攻, 物質化学専攻, 機械科学専攻, 電子情報科学専攻, 環境デザイン学専攻, 自然システム学専攻

(後期3年の博士課程)

数物科学専攻, 物質化学専攻, 機械科学専攻, 電子情報科学専攻, 環境デザイン学専攻, 自然システム学専攻

医薬保健学総合研究科

(修士課程)

医科学専攻

(博士課程)

医学専攻, 薬学専攻

(前期2年の博士課程)

創薬科学専攻, 保健学専攻

(後期3年の博士課程)

創薬科学専攻, 保健学専攻

先進予防医学研究科

(博士課程)

先進予防医学共同専攻

新学術創成研究科

(前期2年の博士課程)

融合科学共同専攻, ナノ生命科学専攻

(後期3年の博士課程)

融合科学共同専攻, ナノ生命科学専攻

法学研究科

(修士課程)

法学・政治学専攻

(専門職学位課程)

法務専攻

教職実践研究科

(専門職学位課程)

教職実践高度化専攻

- 3 大学院(連合大学院を含む。)に関し必要な事項は、別に定める。

(国際基幹教育院)

第6条の2 本学に、国際基幹教育院を置く。

- 2 国際基幹教育院に、次に掲げる部及び系を置く。

総合教育部

GS 教育系，外国語教育系

3 第 5 条第 2 項の規定にかかわらず，前項の総合教育部に，文系又は理系の区分のみを定めて行う本学の入学者を選抜するための試験により入学した者を学類へ移行するまでの間，所属させる。

4 国際基幹教育院に関し必要な事項は，別に定める。

(別科)

第 7 条 本学に，養護教諭特別別科を置く。

2 別科に関し必要な事項は，別に定める。

(研究域及び系)

第 8 条 本学に，次に掲げる研究域及び系を置く。

融合研究域

融合科学系

人間社会研究域

人間科学系，歴史言語文化学系，法学系，経済学経営学系，学校教育系

理工研究域

数物科学系，物質化学系，機械工学系，フロンティア工学系，電子情報通信学系，地球社会基盤学系，生命理工学系

医薬保健研究域

医学系，薬学系，保健学系

2 研究域に附属研究センターを置くことができる。

3 研究域，研究域に置く系及び附属研究センターに関し必要な事項は，別に定める。

(附属病院)

第 9 条 本学に，附属病院を置く。

2 附属病院は，医薬保健学域のための教育研究施設とする。

3 附属病院に関し必要な事項は，別に定める。

(附置研究所等)

第 10 条 本学に，次に掲げる附置研究所等を置く。

がん進展制御研究所

ナノ生命科学研究所

ナノマテリアル研究所

設計製造技術研究所

高度モビリティ研究所

2 附置研究所等に関し必要な事項は，別に定める。ただし，ナノ生命科学研究所については，自主独立した拠点形成の推進を図るため，その運営に関して特例措置を適用することができるものとする。

(附属図書館)

第11条 本学に、附属図書館を置く。

2 附属図書館に、中央図書館(自然科学系図書館を含む。)及び医学系分館を置く。

3 附属図書館に関し必要な事項は、別に定める。

(学内共同教育研究施設)

第12条 本学に、次に掲げる学内共同教育研究施設を置く。

学術メディア創成センター

環日本海域環境研究センター

疾患モデル総合研究センター

子どものこころの発達研究センター

先進予防医学研究センター

環境保全センター

2 学内共同教育研究施設に関し必要な事項は、別に定める。

(保健管理センター)

第13条 本学に、保健管理センターを置く。

2 保健管理センターに関し必要な事項は、別に定める。

(グローバル人材育成推進機構、新学術創成研究機構、先端科学・社会共創推進機構及び国際機構)

第14条 本学に、グローバル人材育成推進機構、新学術創成研究機構、先端科学・社会共創推進機構及び国際機構を置く。

2 グローバル人材育成推進機構、新学術創成研究機構、先端科学・社会共創推進機構及び国際機構に関し必要な事項は、別に定める。

(学内共同利用施設)

第15条 本学に、次に掲げる学内共同利用施設を置く。

極低温研究室

資料館

埋蔵文化財調査センター

技術支援センター

2 学内共同利用施設に関し必要な事項は、別に定める。

(その他の組織)

第16条 本学に、前条までに定めるもののほか、別に定めるところによりその他の組織を置くことができる。

(研究プログラム等)

第17条 がん進展制御研究所に、研究プログラムを置く。

2 ナノ生命科学研究所、ナノマテリアル研究所、設計製造技術研究所、高度モビリティ研究所、学内共同教育研究施設、保健管理センター及び先端科学・社会共創推進機構に、研究部門を置くことができる。

- 3 研究プログラム及び研究部門に関し必要な事項は、別に定める。
(連携講座等)

第18条 大学院に、連携講座、寄附講座及び共同研究講座を置くことができる。

- 2 国際基幹教育院，附置研究所等，学内共同教育研究施設，保健管理センター，新学術創成研究機構，先端科学・社会共創推進機構及び国際機構に，寄附研究部門を置くことができる。
- 3 国際基幹教育院，附属病院，附置研究所等，学内共同教育研究施設，保健管理センター，新学術創成研究機構，先端科学・社会共創推進機構及び国際機構に，共同研究部門を置くことができる。
- 4 連携講座，寄附講座及び寄附研究部門並びに共同研究講座及び共同研究部門に関し必要な事項は，別に定める。

第2節 職員等

(学長及び副学長)

第19条 本学に，学長を置く。

- 2 本学に，別に定めるところにより副学長を置く。
(教授，准教授等)

第20条 本学に，教授，准教授，講師，助教及び助手(以下「教員」という。)を置く。

- 2 本学に，事務職員，技術職員，医療職員その他の職員を置く。
- 3 附属学校に，校長，園長，教頭，教諭，養護教諭，栄養教諭その他の職員を置く。
- 4 附属学校に，副校長，副園長，主幹教諭及び指導教諭を置くことができる。
- 5 職員に関し必要な事項は，別に定める。
(顧問，学長特別補佐及び学長補佐)

第21条 本学に，本学の業務の運営に関する事項について，学長の諮問に応じて意見を述べ，又は助言を行うため，別に定めるところにより顧問を若干人置くことができる。

- 2 本学に，学長の職務のうち特に必要と認める事項に関し，学長を補佐するため，別に定めるところにより学長補佐及び学長特別補佐を若干人置くことができる。
(部局及び部局長等)

第22条 学域，研究科，国際基幹教育院，研究域，附属病院，附置研究所等，附属図書館，学内共同教育研究施設，保健管理センター，グローバル人材育成推進機構，新学術創成研究機構，先端科学・社会共創推進機構及び国際機構を部局とし，それぞれ学域長，研究科長，国際基幹教育院長，研究域長，附属病院長，附置研究所等の長，附属図書館長，学内共同教育研究施設の長，保健管理センター長，グローバル人材育成推進機構長，新学術創成研究機構長，先端科学・社会共創推進機構長及び国際機構長(以下「部局長」という。)を置く。

- 2 研究域長は対応する学域の学域長を兼ねるものとする。

- 3 学域に置く学類及び研究域に置く系に、それぞれ学類長及び系長を置き、国際基幹教育院に置く系に系長を置く。ただし、研究域長は学類長又は系長を、国際基幹教育院長は系長を兼ねることができない。
- 4 附属教育実践支援センター及び附属薬用植物園に、それぞれ附属教育実践支援センター長及び附属薬用植物園長を置く。
- 5 附属図書館に置かれる医学系分館に、分館長を置く。
- 6 学内共同利用施設に、学内共同利用施設の長を置く。
- 7 人間社会環境研究科，自然科学研究科，医薬保健学総合研究科，新学術創成研究科及び法学研究科の各専攻に，専攻長を置く。
- 8 第1項に定める部局に，部局長を補佐するため，副部局長を置くことができる。
- 9 第1項から前項までに定める部局長等(以下「部局長等」という。)の任期は，2年とする。ただし，補欠の部局長等の任期は，前任者の残任期間とする。
- 10 部局長等は，再任されることができる。
- 11 部局長等は，教授(常勤の特任教授を含む。以下この項において同じ。)をもって充てる。ただし，グローバル人材育成推進機構長は学長を，ナノマテリアル研究所長，設計製造技術研究所長，高度モビリティ研究所長，附属図書館長，環日本海域環境研究センター長，保健管理センター長，先端科学・社会共創推進機構長及び国際機構長は副学長を，学長が別に定める学内共同利用施設の長は准教授(常勤の特任准教授を含む。)を，副部局長は教授以外の職員をもって充てることができる。
- 12 部局長等の選考に関し必要な事項は，学長又は部局長が別に定める。

(部局長の解任)

第23条 学長は，部局長(学類長及び系長を含み，附属図書館長を除く。以下この条において同じ。)が，次の各号のいずれかに該当するときは，解任することができる。この場合において，学長は，第27条に定める会議(第31条の5に定めるナノマテリアル研究所会議，第31条の6に定める設計製造技術研究所会議，第31条の7に定める高度モビリティ研究所会議，第32条第1項に定める教員会議及び第33条に定めるセンター会議等を含む。)の申出に基づき行うものとする。

- (1) 心身の故障のため職務の遂行に堪えないと認められるとき。
 - (2) 職務上の義務違反があるとき。
 - (3) その他部局長たるに適しないと認められるとき。
- 2 前項に定めるもののほか，学長は，部局長の職務の執行が適当でないため当該部局の業務の実績が悪化した場合であつて，当該部局長に引き続き職務を行わせることが適当でないとき，解任することができる。
 - 3 前項の規定により，研究科長，国際基幹教育院長，研究域長，附属病院長，がん進展制御研究所長，学類長及び系長を解任するときは，第27条に定める会議の申出に基づき行うものとする。

(附属学校統括長)

第24条 本学に、附属学校の運営及び改革を統括するため、附属学校統括長を置く。

- 2 附属学校統括長は、学長が指名する者をもって充てる。
- 3 附属学校統括長の任期は2年とする。ただし、補欠の附属学校統括長の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 附属学校統括長は、再任されることができる。

(名誉教授、客員教授等)

第25条 本学の学長、副学長又は教授として勤務した者に、名誉教授の称号を付与することができる。

- 2 本学の常時勤務の教員以外の職員に、客員教授又は客員准教授の称号を付与することができる。
- 3 名誉教授、客員教授等に関し必要な事項は、別に定める。

第26条 削除

第3節 教授会等

(教育研究会議、学類会議、研究科会議及び系会議並びに教授会議)

第27条 教授会として、融合学域及び融合研究域の教育及び研究に関する重要事項を審議するため、融合系教育研究会議を置き、その下に、学類会議及び系会議を置く。

- 2 教授会として、人間社会学域、人間社会環境研究科、法学研究科、教職実践研究科及び人間社会研究域の教育及び研究に関する重要事項を審議するため、人間社会系教育研究会議を置き、その下に、学類会議、研究科会議、系会議を置く。
- 3 教授会として、理工学域、自然科学研究科及び理工研究域の教育及び研究に関する重要事項を審議するため、理工系教育研究会議を置き、その下に、学類会議、研究科会議、系会議を置く。
- 4 教授会として、医薬保健学域、医薬保健学総合研究科、先進予防医学研究科及び医薬保健研究域の教育及び研究に関する重要事項を審議するため、医薬保健系教育研究会議を置き、その下に、学類会議、研究科会議、系会議を置く。
- 5 教授会として、国際基幹教育院の教育及び研究に関する重要事項を審議するため、国際基幹教育院教授会議を置き、その下に系会議を置く。
- 6 教授会として、がん進展制御研究所の研究に関する重要事項を審議するため、がん進展制御研究所教授会議を置く。
- 7 教授会として、ナノ生命科学研究所の研究に関する重要事項を審議するため、ナノ生命科学研究所教授会議を置く。

(組織)

第28条 教育研究会議、国際基幹教育院教授会議、がん進展制御研究所教授会議及びナノ生命科学研究所教授会議は、当該研究域、国際基幹教育院、がん進展制御研究所及びナノ生命科学研究所の教授をもって組織する。

- 2 教育研究会議，国際基幹教育院教授会議，がん進展制御研究所教授会議及びナノ生命科学研究所教授会議には，当該研究域，国際基幹教育院，がん進展制御研究所及びナノ生命科学研究所の准教授，講師(常時勤務の者に限る。)及び助教並びに常勤の特任教員を加えることができる。
- 3 医薬保健系教育研究会議には，附属病院長(第1項に該当しない者に限る。)，附属病院の教授，准教授，講師(常時勤務の者に限る。)及び助教並びに常勤の特任教員を加えることができる。
- 4 ナノ生命科学研究所教授会議には，ナノ生命科学研究所リサーチプロフェッサー(極めて顕著な研究業績を有する国内外の教育機関から招へいする教員に限る。)を加えることができる。ただし，学長が特に必要と認めた場合，ナノ生命科学研究所以外の教授を加えることができる。

(議長)

第29条 教育研究会議，国際基幹教育院教授会議，がん進展制御研究所教授会議及びナノ生命科学研究所教授会議に議長を置き，当該研究域，国際基幹教育院，がん進展制御研究所及びナノ生命科学研究所の長をもって充てる。

- 2 議長は，会議を主宰する。
- 3 議長に事故があるときは，議長があらかじめ指名する者が，議長の職務を行う。

(審議事項)

第30条 教育研究会議，国際基幹教育院教授会議，がん進展制御研究所教授会議及びナノ生命科学研究所教授会議は，学校教育法第93条第2項及び第3項に基づき，次に掲げる事項を審議し，学長又は教授会を置く組織の長に意見を述べるものとする。

- (1) 当該研究域長，国際基幹教育院長，がん進展制御研究所長及びナノ生命科学研究所長の候補者の選考に関する事項
- (2) 教員の人事及び選考に関する事項
- (3) 中期目標・中期計画及び年度計画(法人の経営に関するものを除く。)に関する事項
- (4) 規程(法人の経営に関する部分を除く。)その他の教育及び研究に係る重要な規則の制定又は改廃に関する事項
- (5) 教育及び研究に係る予算の執行に関する事項
- (6) 教育課程の編成に関する事項
- (7) 学生の円滑な修学等を支援するために必要な助言，指導その他の援助に関する事項
- (8) 学生の入学，卒業又は課程の修了その他学生の在籍に関する事項及び学位の授与に関する事項
- (9) 教育及び研究の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項
- (10) 授業の内容及び方法の改善を図るための研修及び研究の実施に関する事項

(11) その他当該部局の教育及び研究に関する重要事項

- 2 学類会議，研究科会議及び系会議は，前項の事項のうち，教育研究会議が付託した事項を審議する。
- 3 教育研究会議は，学類会議，研究科会議及び系会議の議決をもって，教育研究会議の議決とすることができる。

(代議員会等)

第31条 教育研究会議，国際基幹教育院教授会議，がん進展制御研究所教授会議及びナノ生命科学研究所教授会議は，構成員のうちの一部の者をもって組織する代議員会，専門委員会等(以下「代議員会等」という。)を置くことができる。

- 2 教育研究会議，国際基幹教育院教授会議，がん進展制御研究所教授会議及びナノ生命科学研究所教授会議は，代議員会等の議決をもって，教育研究会議，国際基幹教育院教授会議，がん進展制御研究所教授会議及びナノ生命科学研究所教授会議の議決とすることができる。

(基幹教育管理運営委員会)

第31条の2 本学に，「金沢大学<グローバル>スタンダード」を基軸とした，全学的な基幹教育(学士課程，修士課程及び博士課程それぞれの教育の基盤をなす教養的教育をいう。)について，基本的な方針を審議し決定するため，基幹教育管理運営委員会を置く。

(附属学校運営協議会)

第31条の3 本学に，附属学校の将来構想，学校教育学類及び大学院教職実践研究科との連携について，基本的な方針を審議し決定するため，附属学校運営協議会を置く。

(新学術創成研究科会議)

第31条の4 新学術創成研究科の教育に関する重要事項を審議するため，新学術創成研究科会議を置く。

- 2 新学術創成研究科会議は，学校教育法第93条第2項及び第3項に基づき，教育研究会議に準じて，別に定める事項を審議し，学長に意見を述べるものとする。

(ナノマテリアル研究所会議)

第31条の5 ナノマテリアル研究所に，ナノマテリアル研究所会議を置く。

(設計製造技術研究所会議)

第31条の6 設計製造技術研究所に，設計製造技術研究所会議を置く。

(高度モビリティ研究所会議)

第31条の7 高度モビリティ研究所に，高度モビリティ研究所会議を置く。

(教員会議等)

第32条 学術メディア創成センター，環日本海域環境研究センター，疾患モデル総合研究センター，子どものこころの発達研究センター，保健管理センター及び新学術創成研究機構に，教員会議を置く。

2 前項に定めるもののほか、新学術創成研究機構に運営委員会を置く。

(センター会議等)

第33条 先進予防医学研究センター、環境保全センター、グローバル人材育成推進機構、先端科学・社会共創推進機構及び国際機構に、必要に応じて、センター会議(グローバル人材育成推進機構、先端科学・社会共創推進機構及び国際機構にあつては機構運営会議、以下「センター会議等」という。)を置く。

(組織及び運営等)

第34条 第28条から前条までに定めるもののほか、教育研究会議、国際基幹教育院教授会議、がん進展制御研究所教授会議、ナノ生命科学研究教授会議、学類会議、研究科会議、系会議、基幹教育管理運営委員会、附属学校運営協議会、新学術創成研究科会議、ナノマテリアル研究所会議、設計製造技術研究所会議、高度モビリティ研究所会議、教員会議、運営委員会及びセンター会議等の組織及び運営等に関し必要な事項は別に定める。

第4節 事務組織

(事務局)

第35条 本学に、事務局を置き、その事務を分掌させるため、次に掲げる部を置く。

- (1) 総務部
- (2) 財務部
- (3) 施設部
- (4) 研究・社会共創推進部
- (5) 学務部
- (6) 国際部
- (7) 情報部
- (8) 融合系事務部
- (9) 人間社会系事務部
- (10) 理工系事務部
- (11) 医薬保健系事務部
- (12) 病院部

2 事務局に関し必要な事項は、別に定める。

第5節 技術支援組織

(総合技術部)

第35条の2 本学に、総合技術部を置く。

2 総合技術部に関し必要な事項は、別に定める。

第3章 学生

第1節 学年等及び休業日

(学年等)

第36条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

2 学年を次の2学期4クォーターに分ける。

学期	クォーター	期 間
前期	第1クォーター	4月1日から9月30日までの間で別に定める。
	第2クォーター	
後期	第3クォーター	10月1日から翌年3月31日までの間で別に定める。
	第4クォーター	

3 各学期の授業実施日等は、別に定める。

(休業日)

第37条 休業日は、次のとおりとする。ただし、休業日にも登学を課すことができる。

- (1) 日曜日及び土曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に定める休日
- (3) 別に定める夏季休業、冬季休業及び春季休業

2 前項に定めるもののほか、臨時に休業日を定めることができる。

第2節 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第38条 修業年限は、4年とする。ただし、医薬保健学域の医学類及び薬学類にあつては、6年とする。

(修業年限の通算)

第39条 第84条に定める科目等履修生として、本学において一定の単位(学校教育法(昭和22年法律第26号)第90条の規定により入学資格を有した後、修得したものに限り。)を修得した者が、本学に入学する場合において、当該単位の修得により本学の教育課程の一部を履修したと認められるときは、修得した単位数その他の事項を勘案して、修業年限の2分の1を超えない範囲内の期間を修業年限に通算することができる。

(在学年限)

第40条 在学年限は、8年とする。ただし、医薬保健学域の医学類及び薬学類にあつては、12年の範囲内で医薬保健学域において別に定める。

第3節 入学

(入学時期)

第41条 入学の時期は、学年又は学期の始めとする。

(入学資格)

第42条 本学に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。)

- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程(修学年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)
- (8) 学校教育法第90条第2項の規定により他の大学に入学した者であつて、その後、本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- (9) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの
(入学の出願)

第43条 本学に入学を志願する者は、所定の出願書類に別表第二に定める検定料及び別に定める書類を添えて、願出しなければならない。

(入学者の選抜)

第44条 前条の入学を志願する者については、別に定めるところにより選抜を行う。

(入学手続及び入学許可)

第45条 前条の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、所定の書類を提出するとともに、別表第二に定める入学料を納付しなければならない。ただし、入学料の免除又は徴収猶予を受けようとする者は、入学料に代えてその免除又は徴収猶予の申請書を提出しなければならない。

2 学長は、入学の手続を完了した者(入学料に関しては、その免除又は徴収猶予の申請書を受理された者を含む。)に、入学を許可する。

(再入学、転入学及び編入学)

第46条 次の各号のいずれかに該当する者があるときは、選考の上、相当年次に入学を許可することができる。

- (1) 本学を退学した者(第70条に定める退学者を除く。)又は除籍された者で、再び同一の学域又は国際基幹教育院総合教育部へ再入学を志願するもの
- (2) 他大学に在学している者で、本学(国際基幹教育院総合教育部を除く。以下第3号から第7号において同じ。)へ転入学を志願するもの
- (3) 他大学を卒業した者又は退学した者で、本学へ編入学を志願するもの
- (4) 短期大学、高等専門学校、旧国立工業教員養成所又は国立養護教諭養成所を卒業した者で、本学へ編入学を志願するもの

- (5) 専修学校の専門課程(修業年限が2年以上であることその他文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る。)を修了した者(学校教育法第90条第1項に定めるものに限る。)で、本学へ編入学を志願するもの
 - (6) 高等学校、中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の専攻科の課程(修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)を修了した者(学校教育法第90条第1項に定めるものに限る。)で、本学へ編入学を志願するもの
 - (7) 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)附則第7条に定める従前の規定による高等学校、専門学校又は教員養成諸学校等の課程を修了し、又は卒業した者で、本学へ編入学を志願するもの
- 2 前項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び修得した単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、教育研究会議又は国際基幹教育院教授会議の議を経て、学域長又は国際基幹教育院長が決定する。
 - 3 第1項の規定により入学した者の在学年限は、その者が属する年次に対応する残余の修業年限の2倍の年数を超えることができない。
 - 4 前3条の規定は、第1項の規定により入学する場合に準用する。
 - 5 再入学、転入学及び編入学に関し必要な事項は、学域及び国際基幹教育院において別に定める。

(宣誓)

第47条 入学を許可された者は、別に定めるところにより、宣誓をしなければならない。

第4節 教育課程、履修方法等

(教育課程の編成方針等)

- 第48条 教育課程は、本学、学域、学類並びにコース及び専攻の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に編成するものとする。
- 2 教育課程の編成に当たっては、学域、学類並びにコース及び専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。
 - 3 授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画を学生に対してあらかじめ明示するものとする。
 - 4 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

(教育課程の編成及び履修方法等)

第49条 教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

2 教育課程については、金沢大学共通教育科目に関する規程及び各学域において別に定める。

3 授業科目の履修に関する事項については、金沢大学履修規程において別に定める。

(単位の計算方法)

第50条 授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準によるものとする。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、別に定める時間の授業をもって1単位とすることができる。

(3) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して学域が定める時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を与えることが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。

(授業の方法)

第51条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 第1項の授業は、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

4 第1項の授業の一部は、文部科学大臣が別に定めるところにより、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

(単位の授与)

第52条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。ただし、第50条第2項に定める授業科目については、適切な方法により学修の成果を評価して単位を与えることができる。

(成績の評価)

第53条 成績の評価については、金沢大学履修規程において別に定める。

(履修科目の登録の上限)

第54条 学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として修得すべき単位数について、1学期又は1クォーターに履修科目として登録することができる単位数の上限を学域及び国際基幹教育院において定めるものとする。

(大学院授業科目の履修)

第54条の2 学生は、本学大学院へ入学を希望するときは、所属の学域長及び希望する大学院の研究科長の許可を得て、当該研究科の授業科目を履修することができる。

2 前項に関し必要な事項は、別に定める。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第55条 学生は、学域長又は国際基幹教育院長の許可を得て、本学が定める他の大学又は短期大学において、当該大学又は短期大学の所定の授業科目を履修することができる。

2 前項の規定により履修した授業科目についての修得した単位は、学域又は国際基幹教育院長の定めるところに基づき、合計60単位を超えない範囲で、これを本学の単位として認定する。

3 前項の規定は、第66条の規定による留学及び外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第56条 本学が教育上有益と認めるときは、短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、学域又は国際基幹教育院長の定めるところに基づき、単位を与えることができる。

2 前項により与えることのできる単位数は、前条第2項及び第3項により本学の単位として認定する単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(休学期間中の他の大学若しくは短期大学又は外国の大学若しくは短期大学における学修)

第56条の2 本学が教育上有益と認めるときは、学生が休学期間中に他の大学若しくは短期大学(以下「大学等」という。)又は外国の大学等において学修した成果について、本学における授業科目の履修により修得したものとみなし、学域又は国際基幹教育院長の定めるところに基づき、単位を与えることができる。

2 前項により与えることのできる単位数は、第55条第2項及び第3項並びに前条第1項により本学の単位として認定する単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第57条 本学が教育上有益と認めるときは、本学に入学する前に大学等又は外国の大学等において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 本学が教育上有益と認めるときは、本学に入学する前に行った前条第1項に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、学域又は国際基幹教育院長の定めるところに基づき、単位を与えることができる。

- 3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、再入学、転入学及び編入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第55条第2項及び第3項、第56条第1項並びに前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(長期にわたる教育課程の履修)

第58条 学生が職業を有している等の事情により、当該学生に係る修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を申し出たときは、教育研究会議の議を経て、学長は、その計画的な履修を許可することができる。

- 2 前項に定めるもののほか、長期にわたる教育課程の履修に関し必要な事項は、別に定める。

第5節 卒業要件及び学位授与

(卒業要件)

第59条 本学に4年以上(医薬保健学域の医学類及び薬学類にあつては6年以上)在学し、学域ごとに定める授業科目を履修し、124単位以上(医薬保健学域の医学類にあつては188単位以上、薬学類にあつては186単位以上)で学域の定める単位数を修得し、かつ、本学が別に定める英語能力の基準を満たす者については、当該教育研究会議の議を経て、学長が卒業を認定する。

- 2 前項の規定により卒業要件として修得すべき単位のうち、第51条第2項に定める授業の方法により修得する単位数は、60単位を超えないものとする。

(早期卒業)

第60条 前条の規定にかかわらず、本学に3年以上在学し、卒業要件として修得すべき単位を優秀な成績で修得した学生が、学校教育法第89条に定める卒業を希望する場合は、前条の規定にかかわらず、学長はこれを認定することができる。

- 2 早期卒業に関し必要な事項は、別に定める。

(学位の授与)

第61条 本学を卒業した者には、金沢大学学位規程の定めるところにより学士の学位を授与する。

第6節 休学、復学、転学、留学、退学及び除籍

(休学等)

第62条 疾病又はその他の事由により、1月以上修学を中止しようとする者は、学域長又は国際基幹教育院長に届け出て、休学することができる。

- 2 前項に定める休学のほか、学域長又は国際基幹教育院長は、疾病のため修学に適しないと認められる者に対しては、学長の承認を得て、休学を命じ、又は登学を停止させることができる。

- 3 休学の期間は、休学の開始日から、その年次の各クォーター、各学期又は学年の終わりでまでとする。ただし、前項の休学の期間は、この限りでない。
- 4 休学期間は、在学年限に算入しない。
- 5 休学期間は、通算4年（国際基幹教育院総合教育部に所属する期間においては通算2年とする。）を超えることができない。ただし、第2項の休学の期間は、この限りでない。

（復学）

第63条 休学期間中に復学しようとする者（前条第2項により休学を命じられた者を除く。）は、事由を記し、学域長又は国際基幹教育院長に届け出るものとする。

- 2 復学の時期は、クォーター又は学期の始めとする。

（転学類）

第64条 転学類（学生が所属する学域以外への転学類も含む。）を志願する者があるときは、別に定めるところにより選考の上、転学類を許可することができる。

- 2 転学類を志願する者は、所定の出願書類に志望の学類（保健学類にあつては専攻も含む。）及び志望の事由を記し、所属の学域長に願い出なければならない。

（転学）

第65条 他の大学へ転学を志願する者（懲戒対象行為を行った者は除く。）は、所定の願書に志望の大学、学部、学科及び志望の事由を記し、学域長又は国際基幹教育院長を経て、学長に届け出るものとする。

（留学）

第66条 学生は、外国の大学等で学修するため、学長に届け出て、留学することができる。

- 2 前項の留学期間は、修業年限に含まれるものとする。

（退学）

第67条 退学しようとする者は、事由を記し、学域長又は国際基幹教育院長を経て、学長に届け出るものとする。

- 2 前項の規定にかかわらず、懲戒対象行為を行った者が当該処分の決定前に退学を届け出た場合等、特別の事由がある場合については、別に定めるところにより学長、学域長又は国際基幹教育院長は当該届出を受理しないことがある。

（除籍）

第68条 学生が次の各号のいずれかに該当するときは、学長は、これを除籍する。

- (1) 入学料の免除若しくは徴収猶予を不許可とされた者又は減免若しくは徴収猶予を許可された者（入学料の全額を免除された者を除く。）であつて、納付すべき入学料を納付しない者
- (2) 所定の年限に達して、なお卒業の認定を得られない者
- (3) 授業料納付の義務を怠り督促を受けてもなお納付しない者

- (4) 疾病その他の事由により、成業の見込がないと認められる者
- 2 前項第1号及び第3号の規定により除籍した者については、除籍となった日の属する学期の成績を無効とする。

第7節 賞罰

(表彰)

第69条 学長は、本学在学中の学業の成績、課外活動等の成績に優れた者又は本学の名誉を著しく高めたと認められる者に対して、卒業時又はその都度、表彰を行うことができる。

- 2 表彰については、別に定める。

(懲戒)

第70条 学生が本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した行為をなしたときは、学長は、教育研究評議会の議を経て懲戒する。

- 2 懲戒は、学長の命を受け、学域長又は国際基幹教育院長が行う。
- 3 懲戒は、退学、停学及び訓告とする。

第8節 検定料、入学料及び授業料

(検定料等)

第71条 検定料、入学料及び授業料(以下「検定料等」という。)の額は、別表第二のとおりとする。

(入学料の免除又は徴収猶予)

第72条 学長は、特別の事情により入学料の納付が著しく困難であると認められる者に対しては、別に定めるところにより、入学料を免除し、又は徴収猶予することができる。

- 2 前項に定めるもののほか、学長が特に必要があると認める者に対しては、別に定めるところにより、入学料を免除することができる。

(入学料及び検定料の不返付)

第73条 既納の入学料及び検定料は、返付しない。ただし、大学等における修学の支援に関する法律(令和元年法律第8号。以下「修学支援法」という。)及び関係法令に基づき、別に定めるところにより入学料の全額及び一部を返付することがある。

- 2 前項の規定にかかわらず、検定料について、次の各号のいずれかに該当する者があるときは、その者の申出により次項に定める額を返付する。

- (1) 入学者選抜における第2次の学力検査等を2段階の選抜方法で実施する場合において、第1段階目の選抜に合格しなかった者(推薦入学及びAO入試等において第1次選考として書類選考を行う場合における不合格者を含む。)
- (2) 個別学力検査出願受付後に大学入学共通テスト試験受験科目の不足等による出願無資格者であることが判明した者

- 3 前項の規定により返付する額は、前項第1号の場合における第2段階目の選抜に係る額に相当する額とする。

(授業料の徴収方法等)

第74条 授業料の徴収は、各年度に係る授業料について、第1クォーター、第2クォーター、第3クォーター及び第4クォーターの4クォーターに区分して行うものとし、それぞれのクォーターにおいて徴収する額は、年額の4分の1に相当する額とする。

- 2 前項の授業料は、本学が指定する方法により、第1クォーター及び第2クォーターにあつては5月、第3クォーター及び第4クォーターにあつては11月に徴収するものとし、納付期限はそれぞれ当該月末日とする。
- 3 前2項の規定にかかわらず、学生から申し出があつたときは、第1クォーター及び第2クォーターに係る授業料を徴収するときに、当該年度の第3クォーター及び第4クォーターに係る授業料を併せて徴収するものとする。
- 4 第2項の納付期限後に入学した者は、入学の日の属する月に、そのクォーターに属する授業料を納付しなければならない。

(既納の授業料)

第75条 既納の授業料は返付しない。

- 2 前項の規定にかかわらず、既納の授業料のうち、休学又は退学したクォーターに係るもの並びに修学支援法及び関係法令に基づき減免されたものは、別に定めるところにより、当該授業料の全額又は一部を返付することがある。

(授業料の免除、月割分納及び徴収猶予)

第76条 学長は、学費の支弁が困難な学生に対しては、別に定めるところにより授業料を免除し、又は月割分納若しくは徴収猶予を認めることができる。

- 2 前項に定めるもののほか、学長が特に必要があると認める学生に対しては、別に定めるところにより、授業料を免除することができる。
- 3 授業料の免除又は月割分納若しくは徴収猶予(以下「免除等」という。)は、各期ごとにこれを認める。
- 4 免除等を認められた者が、次の各号のいずれかに該当するときは、別に定めるところにより免除等を取り消すことができる。

(1) 申請に係る事由が消滅したと認められるとき。

(2) 申請について虚偽の事実が判明したとき。

(3) 第70条の規定により懲戒を受けたとき。

(休学中及び復学の場合の授業料)

第77条 休学の場合には、別に定めるところにより、休学中の授業料は、これを徴収しない(第75条第2項に定める既納の授業料の全額又は一部の返付を含む。)ことがある。

2 復学したときは、復学した日の属するクォーターから授業料を徴収する。この場合において、第2クォーター又は第4クォーターから復学したときは、復学日の属する月に当該クォーターに係る授業料を、第3クォーターから復学したときは、11月に第3クォーター及び第4クォーターに係る授業料を、それぞれ徴収する。

(免除等の取消しの場合の授業料)

第78条 第76条第4項第1号の規定に該当し授業料の免除を取り消されたとき、その期の授業料は、その月分から月割額(年額の12分の1)により、免除を取り消された日の属する月に徴収する。

2 第76条第4項第2号及び第3号の規定に該当し免除等を取り消されたときは、免除等に係る授業料の金額をその月に徴収する。

(再入学等の場合の授業料)

第79条 学期の途中において、再入学、転入学又は編入学した場合には、再入学、転入学又は編入学した日の属するクォーターから次の徴収の時期前までの期間に応じた額を本学の指定する月に徴収する。

(退学等の場合の授業料)

第80条 クォーターの途中において、退学又は他大学へ転学した場合には、当該クォーターの授業料はこれを徴収する。

2 停学中の授業料は徴収する。

(死亡等の場合の授業料)

第81条 死亡又は行方不明により除籍した場合には、未納の授業料の全額を免除することができる。

(学年中途の卒業等の場合の授業料)

第82条 学年の中途において、卒業又は修了する場合には、月割計算により在学予定期間に応じた額を徴収する。

第4章 研究生、科目等履修生、特別聴講学生及び外国人留学生

(研究生)

第83条 本学の学生以外の者で、特定の研究課題について研究することを志願する者があるときは、選考の上、研究生として入学を許可することができる。

2 研究生の入学資格、選考方法等については、学域において別に定める。

3 研究生の入学の時期は、月の初めとする。ただし、学長が特別の事情があると判断した場合は、この限りではない。

4 研究生の研究期間は、1年以内とする。ただし、必要があると認められるときは、その期間を更新することができる。

5 研究生の授業料の徴収は、本学が指定する方法により、前期及び後期の2学期に区分して行うものとする。

- 6 前項の授業料は、前期にあつては5月、後期にあつては11月に徴収するものとし、納付期限はそれぞれ当該月末日とする。
- 7 前項の規定にかかわらず、納付期限後に入学した者又は在学期間が2か月未満の者にあつては、入学の日の属する月に、その学期に属する授業料を納付しなければならない。
- 8 既納の授業料は返付しない。
- 9 前項の規定にかかわらず、学期の途中において、退学した場合には、既納の授業料のうち、退学の日の属する月の翌月以降に係る授業料を返付する。
- 10 第37条、第43条、第44条、第45条、第67条、第68条、第70条、第73条及び第81条の規定は、研究生に準用する。

(科目等履修生)

第84条 本学の学生以外の者で、一又は複数の授業科目を選んで履修することを志願する者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することができる。

2 科目等履修生の入学資格、選考方法等については、学域及び国際基幹教育院において別に定める。

3 授業科目を履修し、その試験に合格した科目等履修生に対し単位を与える。

4 第36条、第37条、第41条、第43条、第44条、第45条、第49条第2項、第68条、第70条、第73条、第74条、第75条及び第81条の規定は、科目等履修生に準用する。

(特別聴講学生)

第85条 本学において、特定の授業科目を履修することを希望する他の大学等又は外国の大学等の学生があるときは、学域又は国際基幹教育院の定めるところにより、当該他の大学等又は外国の大学等との協議に基づき、所定の手続を経て特別聴講学生として入学を許可することができる。

2 授業科目を履修し、その試験に合格した特別聴講学生に対し単位を与える。

3 第36条、第37条、第44条、第68条、第70条、第74条、第75条及び第81条の規定は、特別聴講学生に準用する。

4 特別聴講学生の入学の時期は、学期の始めとする。ただし、学域又は国際基幹教育院の定めるところにより、特別の事情があると判断される場合は、この限りでない。

(外国人留学生)

第86条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、特別に選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

2 外国人留学生に関し必要な事項は、別に定める。

(授業料等)

第 87 条 研究生，科目等履修生及び特別聴講学生に係る授業料等の額は，別表第二のとおりとする。

- 2 前項の規定にかかわらず，特別聴講学生が，国立大学の学生，単位互換協定に基づく公立若しくは私立の大学の学生，交流協定に基づく外国人留学生又は教育研究評議会の議を経て学長が特に必要と認める学生であるときは，授業料を徴収しない。
- 3 科目等履修生の授業料等の取扱いに関し必要な事項は，別に定める。

第 5 章 学生寄宿舍

(学生寄宿舍)

第 88 条 本学に，学生寄宿舍として泉学寮，白梅寮，国際交流会館及び学生留学生宿舍を置く。

- 2 学生寄宿舍に関し必要な事項は，別に定める。

第 6 章 共同教育課程

(共同教育課程)

第 89 条 本学及び富山大学を構成大学とする共同教員養成課程の教育の実施について，本学は，富山大学と協力するものとする。

第 7 章 特別の課程

(特別の課程)

第 90 条 本学の学生以外の者を対象として，学校教育法第 105 条に規定する特別の課程を編成し，これを修了した者に対し，修了の事実を証する証明書を交付することができる。

- 2 前項の実施に関し，必要な事項は，別に定める。

第 8 章 公開講座

(公開講座)

第 91 条 本学に，公開講座を設ける。

- 2 公開講座の受講料の額は，別表第三のとおりとする。
- 3 公開講座に関し必要な事項は，別に定める。

附 則

- 1 この学則は，平成 16 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この学則の施行の際現に旧国立学校設置法第 3 条第 1 項の表に掲げる金沢大学の学生である者は，この学則の施行の日に国立大学法人金沢大学が設置する金沢大学の学生の身分を取得するものとする。
- 3 第 4 条第 1 項の規定にかかわらず，旧金沢大学通則による法学部法学科及び公共システム学科，薬学部薬学科及び製薬化学科並びに工学部電気・情報工学科は，平成 16 年

3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

- 4 別表第一の規定にかかわらず、法学部、理学部、薬学部及び工学部並びに合計欄の収容定員については、平成16年度から平成18年度までは、次の表のとおりとする。

学部	学科等		平成16年度	平成17年度	平成18年度
			収容定員(人)	収容定員(人)	収容定員(人)
法学部	法政学科		180	360	540
	従前の学科	法学科	480	320	160
		公共システム学科	165	110	55
	(学科共通)		20	20	20
	計		845	810	775
理学部	数学科		99	98	97
	物理学科		131	130	129
	化学科		154	152	150
	生物学科		98	96	94
	地球学科		110	108	106
	計算科学科		118	116	114
	(学科共通)		20	20	20
	計		730	720	710
薬学部	総合薬学科		235	310	305
	従前の学科	薬学科	40	—	—
		製薬化学科	40	—	—
	計		315	310	305
工学部	土木建設工学科		331	318	313
	機能機械工学科		304	296	292
	物質化学工学科		382	372	366
	電気電子システム工学科		197	194	191
	人間・機械工学科		304	296	292
	情報システム工学科		256	252	248
	(学科共通)		60	60	60
	計		1,834	1,788	1,762
合計			7,454	7,358	7,282

- 5 この規程の施行の日の前日に部局長である者のうち、施行の日以後において任期を有するものは、施行の日に部局長に選任されたものとみなし、その任期については、第20条第7項の規定にかかわらず、施行の日以後において当該部局長の有する任期と同一の期間とする。

- 6 前項に規定する者の次期部局長に係る任期については、第20条第7項の規定にかかわらず、当該部局の定めるところによる。
- 7 平成10年度以前の入学者に係る授業料の額については、第71条の規定にかかわらず、なお、従前の額とする。

附 則

この学則は、平成17年2月3日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 平成10年度以前の入学者に係る授業料の額については、改正後の別表第二の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則

この規則は、平成17年7月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成17年12月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 第5条第1項の規定にかかわらず、薬学部総合薬学科は、平成18年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 別表第一の規定にかかわらず、薬学部の合計欄の収容定員については、平成18年度から平成23年度までは、次の表のとおりとする。

学部	学科等	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
		収容定員 (人)	収容定員 (人)	収容定員 (人)	収容定員 (人)	収容定員 (人)	収容定員 (人)
薬学部	薬学科	35	70	105	140	175	210
	創薬科学科	40	80	120	160	160	160
	従前の 学科	230	150	75			
	総合薬 学科						
	計	305	300	300	300	335	370

附 則

この学則は、平成18年10月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 19 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 5 条第 1 項の規定にかかわらず、次の表に記載する学部、学科等は、平成 20 年 3 月 31 日に在学する者が在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 学域・学類の収容定員、存続する学部及び学科等に係る第 30 条に規定する事項を審議する教授会並びにその収容定員については、第 27 条及び別表第一の規定にかかわらず、次の表のとおりとする。
- 4 存続する学部及び学科(法学部及び経済学部を除く。)の長については、前項に規定する教授会が別に定めるものとする。
- 5 平成 20 年 3 月 31 日に在学する者(平成 20 年 4 月 1 日以降に従前の学部、学科等編入学する者を含む。)については、別表第二の規定を除き、なお、従前の例による。
- 6 前項に規定する者については、別表第二中「学域」とあるのは「学部」とする。

学域・学類の収容定員

学域	学類	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年
		度	度	度	度	度
		収容定員 (人)	収容定員 (人)	収容定員 (人)	収容定員 (人)	収容定員 (人)
人間社会 学域	人文学類	145	290	435	580	580
	法学類	170	340	510	680	680
	(編入学定員 10)			10	20	20
	経済学類	185	370	555	740	740
	学校教育学類	100	200	300	400	400
	地域創造学類	80	160	240	320	320
	国際学類	70	140	210	280	280
	計	750	1500	2260	3020	3020
理工学域	数物科学類	84	168	252	336	336
	物質化学類	81	162	243	324	324
	機械工学類	140	280	420	560	560
	電子情報学類	108	216	324	432	432
	環境デザイン学類	74	148	222	296	296

	自然システム学類	102	204	306	408	408	
	(学域共通編入学定員 40)			40	80	80	
	計	589	1178	1807	2436	2436	
医薬保健 学域	医学類	95	190	285	380	475	
	(編入学定員 5)			5	10	15	
	薬学類	35	70	105	140	175	
	創薬科学類	40	80	120	160	160	
	保健学 類	看護学専攻	80	160	240	320	320
		(編入学定員 1 0)			10	20	20
		放射線技術科 学専攻	40	80	120	160	160
		(編入学定員 5)			5	10	10
		検査技術科学 専攻	40	80	120	160	160
		(編入学定員 5)			5	10	10
		理学療法学専 攻	20	40	60	80	80
		(編入学定員 5)			5	10	10
		作業療法学専 攻	20	40	60	80	80
(編入学定員 5)				5	10	10	
小計	200	400	630	860	860		
計	370	740	1145	1550	1685		
合計		1709	3418	5212	7006	7141	

存続する学部・学科等の収容定員

学部	学科等	教授会	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
			収容定員 (人)	収容定員 (人)	収容定員 (人)	収容定員 (人)	収容定員 (人)
文学 部	人間学科	人間社会系教 育研究会議	165	110	55		
	史学科		150	100	50		
	文学科		195	130	65		
	計		510	340	170		
教育 学部	学校教育教員養成 課程		240	160	80		

	障害児教育教員養成課程		60	40	20			
	人間環境課程		180	120	60			
	スポーツ科学課程		105	70	35			
	計		585	390	195			
法学部	法政学科		540	360	180			
	(編入学定員 10)		20	20	10			
	計		560	380	190			
経済学部	経済学科		615	410	205			
	計		615	410	205			
理学部	数学科	理工系教育研究会議	72	48	24			
	物理学科		96	64	32			
	化学科		111	74	37			
	生物学科		69	46	23			
	地球学科		78	52	26			
	計算科学科		84	56	28			
	(学科共通編入学定員 10)		20	20	10			
	計		530	360	180			
医学部	医学科	医薬保健系教育研究会議	475	380	285	190	95	
	(編入学定員 5)		20	20	15	10	5	
	(小計)		495	400	300	200	100	
	保健学科		看護学専攻	240	160	80		
			(編入学定員 10)	20	20	10		
			放射線技術科学専攻	120	80	40		
			(編入学定員 5)	10	10	5		
			検査技術科学専攻	120	80	40		
			(編入学定員 5)	10	10	5		
			理学療法学専攻	60	40	20		
(編入学定員 5)	10	10	5					

		作業療法学 専攻		60	40	20		
		(編入学定 員 5)		10	10	5		
		(小計)		660	460	230		
	計			1155	860	530	200	100
薬学 部	薬学科			70	70	70	70	35
	創薬科学科			80	80	40		
	従前の	総合薬学科		75				
	学科							
	計			225	150	110	70	35
工学 部	土木建設工学科		理工系教育研 究会議	231	154	77		
	機能機械工学科			216	144	72		
	物質化学工学科			270	180	90		
	電気電子システム 工学科			141	94	47		
	人間・機械工学科			216	144	72		
	情報システム工学 科			183	122	61		
	(学科共通編入学定 員 30)			60	60	30		
	計			1317	898	449		
合計			5497	3788	2029	270	135	

附 則

- この学則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。
- 別表第一の規定にかかわらず、医薬保健学域医学類における、平成 21 年度から平成 29 年度の入学定員については 105 人とし、その収容定員については、平成 21 年度から平成 34 年度までは、次の表のとおりとする。

学域	学類	平成 21 年度		平成 22 年度		平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度	
		入学 定員 (人)	収容 定員 (人)	入学 定員 (人)	収容 定員 (人)	入学 定員 (人)	収容 定員 (人)	入学 定員 (人)	収容 定員 (人)	入学 定員 (人)	収容 定員 (人)	入学 定員 (人)	収容 定員 (人)	入学 定員 (人)	収容 定員 (人)
医薬 保健	医学 類	105	200	105	305	105	410	105	515	105	620	105	630	105	630
	(編 入学)	—		—	5	—	10	—	15	—	20	—	20	—	20

学域	定員 5)														
	計	380	750	380	1165	380	1580	380	1725	380	1870	380	1880	380	1880
	大学 合計	1719	3428	1719	5232	1719	7036	1719	7181	1719	7326	1719	7336	1719	7336

学域	学類	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		平成 31 年度		平成 32 年度		平成 33 年度		平成 34 年度	
		入学 定員 (人)	収容 定員 (人)	入学 定員 (人)	収容 定員 (人)	入学 定員 (人)	収容 定員 (人)	入学 定員 (人)	収容 定員 (人)	入学 定員 (人)	収容 定員 (人)	入学 定員 (人)	収容 定員 (人)	入学 定員 (人)	収容 定員 (人)
医薬 保健 学域	医学類	105	630	105	630	100	625	100	620	100	615	100	610	100	605
	(編入 学定員 5)	—	20	—	20	—	20	—	20	—	20	—	20	—	20
	計	380	1880	380	1880	375	1875	375	1870	375	1865	375	1860	375	1855
	大学 合計	1719	7336	1719	7336	1714	7331	1714	7326	1714	7321	1714	7316	1714	7311

附 則

この学則は、平成 21 年 11 月 20 日から施行する。

附 則

- この学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。
- 別表第一の規定にかかわらず、医薬保健学域医学類における、平成 22 年度から平成 36 年度の入学定員及び収容定員については、次の表のとおりとする。

学域	学類	平成 22 年度		平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度	
		入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)
医薬 保健 学域	医学類	112	312	112	424	112	536	112	648	112	665
	(編入 学定員 5)	—	5	—	10	—	15	—	20	—	20
	計	387	1172	387	1594	387	1746	387	1898	387	1915
	大学 合計	1726	5239	1726	7050	1726	7202	1726	7354	1726	7371

学域	学類	平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		平成 31 年度	
		入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)
医薬保健学域	医学類	112	672	112	672	112	672	107	667	107	662
	(編入学定員5)	—	20	—	20	—	20	—	20	—	20
	計	387	1922	387	1922	387	1922	382	1917	382	1912
	大学合計	1726	7378	1726	7378	1726	7378	1721	7373	1721	7368

学域	学類	平成 32 年度		平成 33 年度		平成 34 年度		平成 35 年度		平成 36 年度	
		入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)
医薬保健学域	医学類	100	650	100	638	100	626	100	614	100	607
	(編入学定員5)	—	20	—	20	—	20	—	20	—	20
	計	375	1900	375	1888	375	1876	375	1864	375	1857
	大学合計	1714	7356	1714	7344	1714	7332	1714	7320	1714	7313

附 則

この学則は、平成 22 年 7 月 16 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成 22 年 10 月 1 日から施行する。
- 2 平成 23 年 4 月 1 日に選任される自然科学研究科長及び自然科学研究科副研究科長の任期は、第 22 条第 9 項の規定にかかわらず、平成 24 年 3 月 31 日までとする。

附 則

この学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

- 2 改正後の別表第一の規定にかかわらず、平成23年度における医薬保健学域医学類の編入学定員は、第2年次編入学5人、第3年次編入学5人とし、平成23年度から令和8年度の入学定員及び収容定員については、次の表のとおりとする。

学域	学類	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)
医薬保健学域	医学類	112	424	112	536	112	648	112	665	112	672
	(編入学)	—	15	—	20	—	25	—	25	—	25
	計	387	1599	387	1751	387	1903	387	1920	387	1927
	大学合計	1726	7055	1726	7207	1726	7359	1726	7376	1726	7383

学域	学類	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)
医薬保健学域	医学類	112	672	112	672	112	672	112	672	112	672
	(編入学)	—	25	—	25	—	25	—	25	—	25
	計	387	1927	387	1927	387	1927	387	1927	387	1927
	大学合計	1726	7383	1726	7383	1726	7383	1726	7383	1726	7383

学域	学類	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
		入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)
医薬保健学域	医学類	112	672	100	660	100	648	100	636
	(編入学)	—	25	—	25	—	25	—	25
	計	384	1924	372	1909	372	1884	372	1859
	大学合計	1726	7383	1714	7371	1714	7369	1714	7367
学域	学類	令和7年度				令和8年度			

		入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)
医薬保健学 域	医学類	100	624	100	612
	(編入 学)	—	25	—	25
	計	372	1877	372	1895
	大学合計	1714	7385	1714	7403

附 則

- この学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 第6条第2項の規定にかかわらず、人間社会環境研究科人間文化専攻、社会システム専攻及び公共経営政策専攻、自然科学研究科電子情報工学専攻、機能機械科学専攻、人間・機械科学専攻、物質工学専攻、地球環境学専攻、社会基盤工学専攻、及び生物科学専攻並びに医学系研究科医科学専攻、脳医科学専攻、がん医科学専攻、循環医科学専攻、環境医科学専攻、創薬科学専攻及び保健学専攻は、平成24年3月31日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 存続する研究科及び専攻に係る第30条に規定する事項を審議する教授会については、第27条の規定にかかわらず、従前のおりとする。
- 存続する研究科及び専攻の長については、前項に規定する教授会が別に定めるものとする。
- 平成24年3月31日に在学する者については、別表第二の規定を除き、なお、従前の例による。

附 則

この学則は、平成24年10月1日から施行する。

附 則

- この学則は、平成25年4月1日から施行する。
- 平成25年3月31日に国際交流会館に入居している者の寄宿料については、別表第三の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この学則は、平成25年7月1日から施行する。

附 則

- この学則は、平成26年4月1日から施行する。

- 2 第6条第2項の規定にかかわらず，自然科学研究科システム創成科学専攻，物質科学専攻，環境科学専攻及び生命科学専攻は，平成26年3月31日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間，存続するものとする。
- 3 存続する専攻に係る第30条に規定する事項を審議する教授会については，第27条の規定にかかわらず，従前のおりとする。
- 4 存続する専攻の長については，前項に規定する教授会が別に定めるものとする。
- 5 平成26年3月31日に在学する者については，別表第二の規定を除き，なお，従前の例による。

附 則

この学則は，平成26年9月25日から施行する。

附 則

この学則は，平成27年4月1日から施行する。

附 則

この学則は，平成27年11月20日から施行する。

附 則

- 1 この学則は，平成28年4月1日から施行する。
- 2 第6条第2項の規定にかかわらず，教育学研究科教育実践高度化専攻並びに医薬保健学総合研究科脳医科学専攻，がん医科学専攻，循環医科学専攻及び環境医科学専攻は，平成28年3月31日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間，存続するものとする。
- 3 存続する専攻に係る第30条に規定する事項を審議する教授会については，第27条の規定にかかわらず，従前のおりとする。
- 4 存続する専攻の長については，前項に規定する教授会が別に定めるものとする。
- 5 平成28年3月31日に在学する者については，第63条第1項，第74条第2項に規定する納付期限及び別表第二の規定を除き，なお，従前の例による。

附 則

この学則は，平成28年8月9日から施行する。

附 則

この学則は，平成28年11月29日から施行する。

附 則

この学則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 29 年 6 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 29 年 10 月 6 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 30 年 1 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 5 条第 1 項の規定にかかわらず、人間社会学域経済学類経済理論・経済政策コース、経営・情報コース及び比較社会経済コース並びに地域創造学類健康スポーツコース並びに理工学域電子情報学類、環境デザイン学類及び自然システム学類は、平成 30 年 3 月 31 日に当該学類に在学する者が当該学類に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 別表第一の規定にかかわらず、人間社会学域及び理工学域における平成 30 年度から令和 2 年度の入学定員及び収容定員については、次の表のとおりとする。

学域	学類	平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度	
		入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)
人間 社会 学域	経済学類	135	690	135	640	135	590
	地域創造学類	90	330	90	340	90	350
	国際学類	85	295	85	310	85	325
	計	725	2995	725	2970	725	2945
理工 学域	数物科学類	84	336	84	336	84	336
	(編入学定員 5)	-		-		-	5
	物質化学類	81	324	81	324	81	324
	(編入学定員 4)	-		-		-	4
	機械工学類	100	100	100	200	100	300
	(編入学定員 1 0)	-		-		-	10
フロンティア工学 類	110	110	110	220	110	330	

	(編入学定員 5)	-		-		-	5
	電子情報通信学類	80	80	80	160	80	240
	(編入学定員 7)	-		-		-	7
	地球社会基盤学類	100	100	100	200	100	300
	(編入学定員 7)	-		-		-	7
	生命理工学類	59	59	59	118	59	177
	(編入学定員 2)	-		-		-	2
従前 の学 類	機械工学類		420		280		140
	電子情報学 類		324		216		108
	環境デザイ ン学類		222		148		74
	自然システ ム学類		306		204		102
	(学域共通 編入学定員 40)	-	80	-	80	-	40
計		614	2461	614	2486	614	2511

- 4 存続する学類に係る第30条に規定する事項を審議する教授会については、第27条の規定にかかわらず、従前のおりとする。
- 5 存続する学類の長については、前項に規定する教授会が別に定める。
- 6 平成30年3月31日に在学する者(平成30年4月1日以降に従前の学類に編入学する者を含む。)については、なお、従前の例による。

附 則

この学則は、平成30年7月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成30年8月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成31年2月1日から施行する。ただし、第12条及び第33条の地域連携推進センターに係る改正規定は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 この学則の施行の際、現に附属学校統括長である者の任期については、第24条第3項の規定にかかわらず、2020年3月31日までとする。

附 則

この学則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、令和元年6月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 第6条第2項の規定にかかわらず、人間社会環境研究科法学・政治学専攻は、令和2年3月31日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 存続する専攻に係る第30条に規定する事項を審議する教授会については、第27条の規定にかかわらず、従前のおりとする。
- 4 存続する専攻の長については、前項に規定する教授会が別に定めるものとする。
- 5 令和2年3月31日に在学する者については、なお、従前の例による。この場合において、「法務研究科」とあるのは「法学研究科」と読み替えるものとする。
- 6 第22条の規定にかかわらず、当分の間、融合研究域長については、学長が指名する理事をもって充て、融合科学系長については、当該系に所属する教授のうち、学長が指名する者をもって充てるものとする。
- 7 前項に定めるもののほか、融合研究域に係る特例については、別に定める。

附 則

- 1 この学則は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 第5条第1項の規定にかかわらず、医薬保健学域創薬科学類は、令和3年3月31日に当該学類に在学する者が当該学類に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 別表第一の規定にかかわらず、学域・学類（医薬保健学域医学類を除く。）における令和3年度から令和8年度の入学定員及び収容定員については、次の表のとおりとする。

学域	学類	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
		入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)
	先導学類	55	55	55	110	55	165

融合学域	(編入学定員 25)	—		—		—	25
	計	55	55	55	110	55	190
人間社会学域	人文学類	141	576	141	572	141	568
	法学類	160	670	160	660	160	650
	(編入学定員 5)	—	20	—	20	—	15
	経済学類	131	536	131	532	131	528
	学校教育学類	85	385	85	370	85	355
	地域創造学類	88	358	88	356	88	354
	国際学類	83	338	83	336	83	334
	計	688	2883	688	2846	688	2804
理工学域	数物科学類	82	334	82	332	82	330
	(編入学定員 5)	—	10	—	10	—	10
	物質化学類	79	322	79	320	79	318
	(編入学定員 4)	—	8	—	8	—	8
	機械工学類	97	397	97	394	97	391
	(編入学定員 10)	—	20	—	20	—	20
	フロンティア工学類	107	437	107	434	107	431
	(編入学定員 5)	—	10	—	10	—	10
	電子情報通信学類	78	318	78	316	78	314
	(編入学定員 7)	—	14	—	14	—	14
	地球社会基盤学類	98	398	98	396	98	394
	(編入学定員 7)	—	14	—	14	—	14
	生命理工学類	58	235	58	234	58	233
	(編入学定員 2)	—	4	—	4	—	4
	計	599	2521	599	2506	599	2491
医薬保健学域	薬学類	65	240	65	270	65	300
	医薬科学類	18	18	18	36	18	54

保健学類	看護学専攻	79	319	79	318	79	317
	(編入学定員 4)	—	20	—	20	—	14
	放射線技術科学専攻	40	160	40	160	40	160
	(編入学定員 3)	—	10	—	10	—	8
	検査技術科学専攻	40	160	40	160	40	160
	(編入学定員 3)	—	10	—	10	—	8
	理学療法学専攻	15	75	15	70	15	65
	(編入学定員 5)	—	10	—	10	—	10
	作業療法学専攻	15	75	15	70	15	65
	(編入学定員 5)	—	10	—	10	—	10
	従前の学類	創薬科学類		120		80	
計		384	1924	372	1909	372	1884
学域	学類	令和 6 年度		令和 7 年度		令和 8 年度	
		入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)
融合学域	先導学類	55	220	55	220	55	220
	(編入学定員 2 5)	—	50	—	50	—	50
	計	55	270	55	270	55	270
人間社会学域	人文学類	141	564	141	564	141	564
	法学類	160	640	160	640	160	640
	(編入学定員 5)	—	10	—	10	—	10
	経済学類	131	524	131	524	131	524
	学校教育学類	85	340	85	340	85	340
	地域創造学類	88	352	88	352	88	352

	国際学類	83	332	83	332	83	332	
	計	688	2762	688	2762	688	2762	
理工学域	数物科学類	82	328	82	328	82	328	
	(編入学定員 5)	—	10	—	10	—	10	
	物質化学類	79	316	79	316	79	316	
	(編入学定員 4)	—	8	—	8	—	8	
	機械工学類	97	388	97	388	97	388	
	(編入学定員 1 0)	—	20	—	20	—	20	
	フロンティア工 学類	107	428	107	428	107	428	
	(編入学定員 5)	—	10	—	10	—	10	
	電子情報通信学 類	78	312	78	312	78	312	
	(編入学定員 7)	—	14	—	14	—	14	
	地球社会基盤学 類	98	392	98	392	98	392	
	(編入学定員 7)	—	14	—	14	—	14	
	生命理工学類	58	232	58	232	58	232	
	(編入学定員 2)	—	4	—	4	—	4	
	計	599	2476	599	2476	599	2476	
医薬保 健学域	薬学類	65	330	65	360	65	390	
	医薬科学類	18	72	18	72	18	72	
	保健 学類	看護学専 攻	79	316	79	316	79	316
		(編入学定 員 4)	—	8	—	8	—	8
		放射線技 術科学専 攻	40	160	40	160	40	160
(編入学定 員 3)	—	6	—	6	—	6		

	検査技術 科学専攻	40	160	40	160	40	160
	(編入学定 員 3)	—	6	—	6	—	6
	理学療法 学専攻	15	60	15	60	15	60
	(編入学定 員 5)	—	10	—	10	—	10
	作業療法 学専攻	15	60	15	60	15	60
	(編入学定 員 5)	—	10	—	10	—	10
従前 の学 類	創薬科学 類						
計		372	1859	372	1877	372	1895

- 4 存続する学類に係る第 30 条に規定する事項を審議する教授会については、第 27 条の規定にかかわらず、従前のおりとする。
- 5 存続する学類の長については、前項に規定する教授会が別に定める。
- 6 令和 3 年 3 月 31 日に在学する者(令和 3 年 4 月 1 日以降に従前の学類に編入学する者を含む。)については、第 68 条第 2 項、第 74 条第 2 項及び第 4 項並びに第 83 条第 5 項から第 10 項までの規定を除き、なお、従前の例による。
- 7 第 22 条の規定にかかわらず、令和 3 年 4 月 1 日に選任される融合学域先導学類長については、当該学類を担当する教授のうち、学長が指名する者をもって充てるものとする。
- 8 令和 3 年 4 月 1 日に選任される融合学域先導学類長及び医薬保健学域医薬科学類長の任期は、第 22 条第 9 項の規定にかかわらず、令和 6 年 3 月 31 日までとし、再任を妨げない。

附 則

- 1 この学則は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 5 条第 1 項の規定にかかわらず、人間社会学域学校教育学類教育科学コース及び教科教育学コースは、令和 4 年 3 月 31 日に当該学類に在学する者が当該学類に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

別表第一

入学定員及び収容定員

学域	学類	入学定員 (人)	第2年次編入学 定員(人)	第3年次編入学 定員(人)	収容定員 (人)	
融合学域	先導学類	55		25	270	
	計	55		25	270	
人間社会 学域	人文学類	141			564	
	法学類	160		5	650	
	経済学類	131			524	
	学校教育学類	85			340	
	地域創造学類	88			352	
	国際学類	83			332	
	計	688		5	2762	
理工学域	数物科学類	82		5	338	
	物質化学類	79		4	324	
	機械工学類	97		10	408	
	フロンティア工学類	107		5	438	
	電子情報通信学類	78		7	326	
	地球社会基盤学類	98		7	406	
	生命理工学類	58		2	236	
	計	599		40	2476	
医薬保健 学域	医学類	100	5		625	
	薬学類	65			390	
	医薬科学類	18			72	
	保健 学類	看護学専攻	79		4	324
		放射線技術科学専攻	40		3	166
		検査技術科学専攻	40		3	166
		理学療法学専攻	15		5	70
		作業療法学専攻	15		5	70
		小計	189		20	796
計	372	5	20	1883		
	合計	1714	5	90	7391	

別表第二

検定料等の額

区分	検定料(円)	入学料(円)	授業料(円)
学域・国際基幹教育院総合教育部	17,000	282,000	年額 535,800
	再入学, 転入学, 編入学に係るもの 30,000		
研究生	9,800	84,600	月額 29,700
科目等履修生	9,800	28,200	1単位 14,800
特別聴講学生	/	/	1単位 14,800

備考 第73条第3項に規定する第1段階目の選抜及び第2段階目の選抜に係る検定料の額は、第1段階目の選抜にあつては4,000円、第2段階目の選抜にあつては13,000円とする。

別表第三

公開講座受講料の額

区分	受講料(円)
一般	1時間 500
高校生以下	1時間 200
別に定める公開講座の受講料については、別に定める額とする。	

○金沢大学教育研究会議規程

(平成 20 年 4 月 1 日規程第 1089 号)

(趣旨)

第 1 条 この規程は、金沢大学学則(以下「学則」という。)第 34 条の規定に基づき、教育研究会議(以下「会議」という。)の組織及び運営等に関し必要な事項を定める。

(組織)

第 2 条 会議は、別表に掲げる各研究域に所属する教授をもって組織する。

2 会議には、当該研究域に所属する准教授、講師(常時勤務の者に限る。以下同じ。)及び助教並びに常勤の特任教員を加えることができる。

3 医薬保健系教育研究会議には、附属病院長(第 1 項に該当しない者に限る。)、附属病院に所属する教授、准教授、講師及び助教並びに常勤の特任教員を加えることができる。

(審議事項)

第 3 条 会議は、学則第 30 条第 1 項に基づき、次の事項について審議し、学長又は研究域長に意見を述べるものとする。

(1) 研究域長の候補者の選考に関する事項

(2) 教授、准教授、講師、助教及び助手(以下「教員」という。)の人事及び選考に関する事項

(3) 中期目標・中期計画及び年度計画(法人の経営に関するものを除く。)に関する事項

(4) 規程(法人の経営に関する部分を除く。)その他の教育及び研究に係る重要な規則の制定又は改廃に関する事項

(5) 教育及び研究に係る予算の執行に関する事項

(6) 教育課程の編成に関する事項

(7) 学生の円滑な修学等を支援するために必要な助言、指導その他の援助に関する事項

(8) 学生の入学、卒業又は課程の修了その他学生の在籍に関する事項及び学位の授与に関する事項

(9) 教育及び研究の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項

(10) 授業の内容及び方法の改善を図るための研修及び研究の実施に関する事項

(11) その他学域、研究科及び研究域の教育及び研究に関する重要事項

(議長)

第 4 条 会議に議長を置き、研究域長をもって充てる。

2 議長は、会議を主宰する。

3 議長に事故又は特別な事由があるときは、議長があらかじめ指名する者が、議長の職務を行う。

(議事及び議決)

第5条 会議は、構成員(海外渡航者及び休職者を除く。)の過半数が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。ただし、特別の必要があると認められるときは、3分の2以上の出席を必要とすることができる。

2 議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。ただし、特別の必要があると認められるときは、3分の2以上の多数をもって議決することができる。

(構成員以外の者の出席)

第6条 会議は、必要があると認めたときは、構成員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(代議員会)

第7条 会議に、第3条第2号から第11号に掲げる事項を審議するため、教育研究会議代議員会(以下「代議員会」という。)を置く。

2 代議員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 研究域長
- (2) 各学類長
- (3) 各研究科長
- (4) 各系長
- (5) その他会議が必要と認めた者

3 会議は、代議員会の議決をもって、会議の議決とすることができる。

4 第4条、第5条及び第6条の規定は、代議員会に準用する。

(学類会議)

第8条 会議の下に、会議が付託した事項その他学類に関する事項について審議するため、別表に掲げる学類にそれぞれ学類会議を置く。

2 学類会議に関し必要な事項は、別に定める。

(研究科会議)

第9条 会議の下に、会議が付託した事項その他研究科に関する事項について審議するため、別表に掲げる研究科にそれぞれ研究科会議を置く。

2 研究科会議に関し必要な事項は、別に定める。

(系会議)

第10条 会議の下に、会議が付託した事項その他系に関する事項について審議するため、別表に掲げる系にそれぞれ系会議を置く。

2 系会議に関し必要な事項は、別に定める。

(学類会議、研究科会議及び系会議の議決)

第11条 会議は、次に掲げる事項を除き、学類会議、研究科会議及び系会議の議決をもって、会議の議決とすることができる。

- (1) 学士課程の入学者選抜に関する事項
- (2) 学生の懲戒に関する事項

(3) 教員の人事に関する事項

(4) その他会議が必要と認めた事項

2 議決は、電子的書面によりできるものとする。

3 学類会議，研究科会議及び系会議は，会議から付託された事項，その他当該学類，研究科及び系に関する重要事項についての議決結果を，会議に報告するものとする。

(委員会)

第12条 会議の下に，専門的事項を審議するため，委員会を置くことができる。

2 委員会に関し必要な事項は，別に定める。

(事務)

第13条 会議に関する事務は，融合系教育研究会議は融合系事務部，人間社会系教育研究会議は人間社会系事務部，理工系教育研究会議は理工系事務部，医薬保健系教育研究会議は医薬保健系事務部において処理する。

(雑則)

第14条 この規程に定めるもののほか，会議に関し必要な事項は，別に定める。

附 則

この規程は，平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は，平成21年11月20日から施行する。

附 則

この規程は，平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は，平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は，平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は，平成27年11月20日から施行する。

附 則

この規程は，平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規程は，平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

別表

会議名	学域・学類名	研究科名	研究域・系名
融合系教育研究会議	融合学域 先導学類		融合研究域 融合科学系
人間社会系教育研究会議	人間社会学域 人文学類 法学類 経済学類 学校教育学類 地域創造学類 国際学類	人間社会環境研究科 法学研究科 教職実践研究科	人間社会研究域 人間科学系 歴史言語文化学系 法学系 経済学経営学系 学校教育系
理工系教育研究会議	理工学域 数物科学類 物質化学類 機械工学類 フロンティア工学類 電子情報通信学類 地球社会基盤学類 生命理工学類	自然科学研究科	理工研究域 数物科学系 物質化学系 機械工学系 フロンティア工学系 電子情報通信学系 地球社会基盤学系 生命理工学系
医薬保健系教育研究会議	医薬保健学域	医薬保健学総合研究科	医薬保健研究域
	医学類 薬学類 医薬科学類 保健学類	先進予防医学研究科	医学系 薬学系 保健学系

○金沢大学学類会議規程

(平成 20 年 4 月 1 日規程第 1096 号)

(趣旨)

第 1 条 この規程は、金沢大学学則第 34 条及び金沢大学教育研究会議規程第 8 条第 2 項の規定に基づき、学類会議(以下「会議」という。)の組織及び運営等に関し必要な事項を定める。

(組織)

第 2 条 会議は、当該学類を担当する教授、准教授、講師(常時勤務の者に限る。以下同じ。)及び助教並びに常勤の特任教員をもって組織する。

2 会議には、前項に掲げる者のほか、他の学類、研究科等を担当する教授、准教授、講師若しくは助教又は常勤の特任教員で、兼ねて当該学類の教育を担当する者を加えることができる。

3 医薬保健学域に置かれている学類の学類会議には、附属病院長(第 1 項に該当しない者に限る。)を加えることができる。

(審議事項)

第 3 条 会議は、教育研究会議から付託された当該学類に係る次の事項について審議する。

(1) 中期目標・中期計画及び年度計画に関する事項

(2) 規程その他の教育に係る重要な規則の制定又は改廃に関する事項

(3) 教育に係る予算の執行に関する事項

(4) 教育課程の編成に関する事項

(5) 学生の円滑な修学等を支援するために必要な助言、指導その他の援助に関する事項

(6) 学生の入学、卒業又は課程の修了その他学生の在籍に関する事項及び学位の授与に関する事項

(7) 教育の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項

(8) 授業の内容及び方法の改善を図るための研修及び研究の実施に関する事項

(9) その他教育に関する重要事項

2 会議は、前項に定めるほか、次の事項について審議する。

(1) 学類長の候補者の選考に関する事項

(2) その他当該学類に関する重要事項

(議長)

第 4 条 会議に議長を置き、当該学類長をもって充てる。

2 議長は、会議を主宰する。

3 議長に事故又は特別な事由があるときは、議長があらかじめ指名する者が、議長の職務を行う。

(議事及び議決)

第5条 会議は、構成員(海外渡航者及び休職者を除く。)の過半数が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。ただし、特別の必要があると認められるときは、3分の2以上の出席を必要とすることができる。

2 議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。ただし、特別の必要があると認められるときは、3分の2以上の多数をもって議決することができる。

(付託及び専決)

第6条 会議は、第3条に定める審議事項のうち、別に定める事項を除き、その議長に付託することができる。

2 議長は、会議から付託された事項については、専決することができる。

(構成員以外の者の出席)

第7条 会議は、必要があると認めたときは、構成員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(代議員会)

第8条 会議に、特定の事項を審議するため、学類会議代議員会(以下「代議員会」という。)を置くことができる。

2 会議は、代議員会の議決をもって、会議の議決とすることができる。

3 代議員会に関し必要な事項は、別に定める。

(委員会)

第9条 会議の下に、専門的事項を審議するため、委員会を置くことができる。

2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、会議に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年11月20日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年11月20日から施行する。

富山大学教育学部共同教員養成課程

金沢大学人間社会学域学校教育学類共同教員養成課程

設置の趣旨等を記載した書類（本文）

目次

1. 設置の趣旨及び必要性	p. 2
2. 共同教員養成課程の特色	p. 6
3. 共同教員養成課程の名称及び学位の名称	p. 8
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	p. 9
5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	p. 13
6. 教育実習の具体的計画	p. 19
7. 取得可能な資格	p. 21
8. 入学者選抜の概要	p. 22
9. 教員組織の編制の考え方及び特色	p. 27
10. 施設、設備等の整備計画	p. 28
11. 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画	p. 30
12. 管理運営	p. 32
13. 自己点検・評価	p. 34
14. 情報の公表	p. 36
15. 教育内容等の改善を図るための組織的な取組	p. 37
16. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	p. 39

1. 設置の趣旨及び必要性

1-1 社会的な背景

新しい時代を生きる次世代の人材の育成においては、社会の大きな変化を見通した教育の在り方を考える必要がある。現在、国立大学を取り巻く我が国の社会と世界の状況は激動の中にあり、中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」や近年の社会状況の変化等にも示されているように、デジタル革命やグローバル化がかつてないスピードで進む中、持続可能でインクルーシブな経済社会システムである Society5.0 の実現に向けた取組が加速している。我が国の社会に目を向ければ少子化による生産年齢人口の減少や高齢化、過度な一極集中などによる地方の活力の低下、加えてポストコロナの「新たな日常」の実現などの課題に直面している。こうした激動の時代を豊かに生き、未来を開拓する子どもたちに必要な力を身に付けさせる教育を適切に行っていかなければならない。教員養成は、新しい学習指導要領において求められる教育を確実に実施していくことはもとより、こうした時代の変化を見据え、近未来社会を支える子どもたちの資質能力を育てるという重要な使命を負っていることを改めて認識する必要がある。

また、地域における課題として、子どもを取り巻く環境の多様化・複雑化に伴い、必要となる教員の資質は、ますます高度な水準で多岐にわたるようになってきている。特に小・中学校教育の接続や義務教育学校の設置が進められる中で、以下に示す現代的な教育課題に対応する能力を持った質の高い教員が求められている。

① 複雑化・多様化する「教育問題」

特別な支援を要する児童・生徒や外国人児童・生徒等の増加、子どもの貧困、いじめの重大化や不登校児童・生徒数の増加、学習障害など、国際化や日本社会の変化により子どもたちの個性や特性、背景が多様化する中で、子どもたちが相互に人格と個性を尊重し支え合う教育環境を作るためには、従来の授業マネジメントだけでは対応不可能な教育現場の状況が生まれつつある。

② 教科横断や新分野など新たな「教育領域」

急激に社会の在り方が変化する中で、子どもたちが豊かな人生を送り、新たな社会の創り手となるために必要な資質・能力を育むために、GIGA スクール構想による ICT 環境の活用やプログラミング教育の導入、外国語学習の拡大、SDGs の観点での教育など、ベテラン教員が大学教育を受けた時代には存在しなかった新たな領域を教育する能力が重要となってきた。

③ 広範な教科に関する深い専門知識の必要性

多様な子どもたちの才能を十分に伸ばす個別最適化された学びを実現するために、系統的な学びを重視する観点から、小学校における教科担任制が導入され、また GIGA スクール構想も進められる中で、初等教育段階においても、教科内容に関する広く深い専門性を備え、小学校と中学校・高校段階との接続をも意識しつつ、かつ、それを学ぶ楽しさを教えられる教員が必要となる。

④ 自主性を促進する教育方法の提供

子どもたちの必要な資質・能力を身に付けるため、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）が教育全体の動向として重視されており、学校教育での実現に向け、子ども一人一人の個性を理解しつつ、探究的な学習や体験活動等を通じて協働的な学びを実践できる力を持った教員が必要となっている。

⑤ 子どもの成長の長期的展望に立ったカリキュラム設計

小中連携や義務教育学校設置の動きの広がりを踏まえ、小1プロブレムや中1ギャップへの対応も射程に入れながら、子どもの成長の長期展望を見据えたカリキュラム設計のできる教員の養成が重要となっている。また、児童・生徒は幼・小・中・高という各段階を経て成長していくものであり、学校種間の円滑な連携・接続の必要性が強く意識されるようになっている。こうした新しい教育環境の中で教員には、子どもの成長段階や学校種間の異同をよく認識しつつ、異校種を含めた教育課程全体に目配りをしながら、子どもの成長の長期的展望に立ったカリキュラム設計や生活指導をすることが求められる。

これらは全国的な課題であり、北陸地域においても同様にその解決が求められるものである。富山県と石川県において、これまでこれらの課題への対応は、富山大学人間発達科学部と金沢大学人間社会学域学校教育学類のそれぞれで個別に検討されてきたが、一大学という単位で全てに効果的に対応することは難しい。そこで隣接する富山県と石川県の二つの大学が連携して、二県にまたがる広域を射程に入れながらそれぞれの大学の教育リソースを持ち寄ることで、より先進的な教員養成体制を構築し、直面する課題へのより効果的な対応を図っていく。（【資料1】参照）

1-2 設置する理由・必要性

前述のように、現代社会の動向を踏まえ、富山県・石川県を中心に学校教員になろうとする強い動機を持った学生を、現代的教育課題に対応できる能力を持った質の高い教員として養成するためには、不登校や発達障害の子どもに対する支援、教科横断的な知識の活用、ICTの活用といった新しい教授方法を身に付けることが不可欠であり、それらの教授には教科の壁を越えた考え方や知識が必要となる。また、当該課題に取り組むためには、一学部、一大学といった単位で全てに対応することは容易ではないことから、広く教育リソースを持ち寄って連携し、さらに効果的で先進的な教員養成体制を構築する必要がある。

富山大学人間発達科学部は、平成17年10月に教育学部から改組し、人間発達に関わる教育研究を通じて地域と協働して豊かな社会を形成し「人間と環境との調和及び国際社会に貢献できる教育人材」を育成することを目的とする学部である。同学部は、教員養成を重要な機能としつつも、それに留まらない教育人材養成を学部の目的としている点が、通常教育学部とは異なる大きな特徴である。しかし、近年、前述した現代的課題に対応できる教員の養成や小学校を主とする教員需要の高まりに対応するためには、学校教員養成機能の強化が必要であるとの認識の下、これまでの「教員養成機能を備えた一般学部」からの改組が検討されてきた。

一方、金沢大学人間社会学域学校教育学類は、これまで教員養成学部として優れた

教員を多数輩出してきた。しかし、学生の指導体制などには、以前の中学校教員養成課程を色濃く残しており、既存の教科の枠の外にある新しい教育問題を扱う科目への対応は後手に回りがちであり、前述した現代的教育課題に対応できる人材を養成するには既存の体制では十分ではないとの認識が持たれるようになった。

このような状況に鑑み、従来にはない強みを持った教育組織を創るという構想の下、教育に関する学部等でありながら、異なる道を歩み、異なる強みを持つこれら二つの組織を、現代的教育課題に対応できる質の高い教員養成を目指す共同教員養成課程として設置し、社会が要請する次世代の児童・生徒を育てる教員を輩出することを目指すとの結論に至った。これは、有識者会議報告書「教員需要の減少期における教員養成・研修機能の強化に向けて」の提言する「共同教育課程の設置による各大学の機能強化と効率化」に沿うものでもある。

当該共同教員養成課程の設置に当たっては、富山大学人間発達科学部が一般学部として培ってきた「教員養成にとどまらない地域社会に広く貢献する教育人材養成の実績」と、金沢大学人間社会学域学校教育学類が培ってきた「教員養成課程における深く豊富な教員養成教育力」を組み合わせることで、教員養成に係る相乗効果が期待できる。即ち、課程認定に制約されず一般学部として培ってきた福祉教育や情報教育の視点・スキル等を生かした広義の教育人材養成に強みを持つ富山大学のカリキュラム・教育方法と、「教師になるためのノート」を活用した学生指導体制の下、基本的に全学生に複数免許を取得させ、充実した教員養成を行ってきた金沢大学のカリキュラム・教育方法を組み合わせることで教育リソースに多様性が生まれ、現代の教育における諸問題を扱った授業科目を含め、これまで以上に多彩な内容の授業が展開可能となる。併せて、各々が持つ地域特性を持ちより、カリキュラムを構築することで、各地域の課題・実情を踏まえた広域的実践教育が可能であり、複雑化する現代の教育問題に応える「比較」する視点の涵養が可能となる。

また、両大学が持つ、高度な知見・優れた指導力を有する多様な教員を配置することで、自大学にはない専門分野を補完し、校種を問わず、現代的教育課題に対応できる実践力の向上を図るための教育体制を構築できる。

このように両大学が協働することで、現代的教育課題に対応できる能力を持った質の高い教員養成を実現し、このような教員を地域に多数輩出することで、将来的に地域教育のリーダーとして地方における教育を牽引し、地域の教育力の充実・強化につながるなど、本共同教員養成課程が担う役割は大きく意義を持つものである。

1-3 教育上の目的及び養成する人材像

本共同教員養成課程においては、一人一人の子どもが相互に人格と個性を尊重し支え合い、変化する時代の中で豊かな人生と新たな社会を創り出すために必要な資質・能力を育むことができる「豊かな人間性と社会性および教育への情熱と使命感を持った教員」の養成を教育上の目的としている。すなわち、教員としての豊かな人間性と社会性、幅広い教養と知性に加え、教科等に関する専門知識や技能、それらを教授する基礎的能力、児童生徒理解に関する知識、学校現場における現代的課題に対応した教育活動を構想する能力を重視し、子どもへの教育的愛情と教員としての使命感、責

任感、倫理観を身に付けるための教育を行い、多様化・複雑化する教育現場の諸課題の解決に向かって行動する学校教員を組織的及び計画的に養成することを目指すものである。

そのためには、教科や教職に関する専門的知識・技能に加え、広い視野を持ち、大きく変わりつつある社会の中で新たな教育的課題に適切に対応できる実践力を教員自身が身に付けていなければならない。これらを踏まえ、養成する人材像を次のとおりとする。

【養成する人材像】

「豊かな人間性と社会性、教育への情熱と使命感を持ち、教科や教職に関する専門的知識と技能を身に付け、新たな教育的課題に適切に対応できる実践力のある者」

そして、こうした人材の養成を想定して、以下のように学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を定める。（【資料2】参照）

【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）】

学校現場の課題に応えられる実践的指導力のある教員を養成するために、次の知識・技能・態度を身に付けた者に学士(教育学)の学位を授与する。

- ① 教員としての豊かな人間性と社会性、幅広い教養と知性を持ち、自己研鑽を積む態度を身に付けている。
- ② 子どもへの教育的愛情と、教員としての使命感、責任感、倫理観を身に付けている。
- ③ 幼児期から児童・青年期における発達や特性を踏まえた児童・生徒への理解に関する知識を身に付けている。
- ④ 教科や教職に関する専門知識と技能を身に付けている。
- ⑤ 教育に関する理論と方法を活用し、教育実践を展開する基礎的能力を身に付けている。
- ⑥ 学校現場における現代的課題に対応した教育活動を構想することができる。
- ⑦ 学校における組織的な取り組みを理解し、学校関係者（保護者・地域住民・同僚教員・管理職など）と連携・協働する態度を身に付けている。

2. 共同教員養成課程の特色

本共同教員養成課程においては、「豊かな人間性と社会性、教育への情熱と使命感を持ち、教科や教職に関する専門的知識と技能を身に付け、新たな教育的課題に適切に対応できる実践力のある者」を養成する人材像として掲げている。その実現に向け、カリキュラム・ポリシーの下、従来の教科を中心としたカリキュラム体制を抜本的に見直し、複雑化する現代的教育課題に応えるべく、「比較」する視点の涵養を目指す教育課程を編成している点に大きな特徴がある。

当該教育課程の特色は後述の「教育課程の編成の考え方及び特色」で記載しているとおりであるが、特に教育課程の中心的カリキュラムとなるのは、「先進的教育科目」である。当該科目は、学生の現代的教育課題に対応できる実践力の向上を図るため、それらの課題を意識した「総合性」、「個別性」、「地域性」、「国際性」の4つの観点のいずれか又は複数の内容を有し、教員養成科目の領域を柔軟に越境し架橋するという特色がある。また、これらの科目は、富山大学及び金沢大学が従来から持っている特色や強みを生かすものであり、自大学にはない分野・特色を相互補完するだけでなく、構成大学の科目を相互履修することで、それぞれの地域性や特色を踏まえた教育の「比較」を通じ、教育課題・教育方法の多様性や変化の理解を促し、多角的な視点から授業のマネジメント力を醸成できるなど、これまでにない新たな教育の相乗効果を生み出すことができる。併せて、富山大学、金沢大学が持つ高度な知見・優れた指導力を有する多様な教員を配置することで、自大学にはない専門分野を補完し、校種を問わず、現代的教育課題に対応できる実践力の向上を図るための教育体制を実現する。

これらに加え、両大学の強み・特色を生かし、「比較」する視点の涵養を踏まえた学生指導体制の構築を図っている点にも大きな特徴がある。

本共同教員養成課程においては、従来の特定の教科の科目集団（専修や教室）による指導体制をとらず、教員組織と学生組織を分離することとしている。教員は「科目グループ」に所属させ、免許科目の安定的な維持を図るとともに、学生は特定の教科への関心によって区分されず、各大学単位でランダムに振り分けた「学生ユニット」を組織した上で、異なる関心・免許種・学年の学生が同じユニットに入る仕組みを構築する。

各ユニットには、専任教員をクラス担任のように正・副のアドバイス教員として配置し、自大学の担当ユニットにおいて4年一貫の学生指導を行うことで、学生の成長や学年に応じた効果的な指導体制を構築する。同時に、一つの学生ユニットに1年生から4年生までが属することを活用して、アドバイス教員はユニットの中での異学年間の密な交流を促す。また、当該ユニットにおける活動・指導は、自大学ユニットにおける対面指導や両大学の学生が交流する合同指導等、基本的に正課外で行われ、指導に当たっては、金沢大学で運用してきた「教師になるためのノート」と富山大学で運用してきた「教育実習ガイドブック」を全学生に配布し、2つの教材を1年次から組み合わせ学生を指導することで、学生自身のスキルや意識を主体的に、かつ1～4年次まで継続的に高めることを可能とする。また、授業でのアクティブ・ラーニング

や教育実習の事前・事後指導にも、学生ユニットを活用する。

このように、希望する免許種・教科の枠組みを超え、さらには所属大学を超え、様々な価値観を持った学生・教員との交流を通じ、多様性への意識、多様な方法論や価値観を「比較」する視点が醸成できる指導体制を構築する。

以上のことから、富山大学人間発達科学部が一般学部として培ってきた「教員養成にとどまらない地域社会に広く貢献する教育人材養成の実績」と金沢大学人間社会学域学校教育学類が培ってきた「教員養成課程における深く豊富な教員養成教育力」を組み合わせることにより、本共同教員養成が掲げる「豊かな人間性と社会性、教育への情熱と使命感を持ち、教科や教職に関する専門的知識と技能を身に付け、新たな教育的課題に適切に対応できる実践力のある者」の養成が可能となる。（【資料3】参照）

3. 共同教員養成課程の名称及び学位の名称

3-1 組織の名称及び理由

本共同教員養成課程の名称及び英語名称は以下のとおりとする。

【富山大学】

教育学部共同教員養成課程

(Joint Institute of Teacher Education, School of Education)

【金沢大学】

人間社会学域学校教育学類共同教員養成課程

(Joint Institute of Teacher Education, School of Teacher Education,
College of Human and Social Sciences)

本共同教員養成課程においては、富山大学人間発達科学部が一般学部として培ってきた「教員養成にとどまらない地域社会に広く貢献する教育人材養成の実績」と金沢大学人間社会学域学校教育学類が培ってきた「教員養成課程における深く豊富な教員養成教育力」というそれぞれの大学が持つ強みを組み合わせ、複雑化する現代的教育課題への対応や子どもの成長の各段階に対応できる教員を養成することを目的としている。併せて、当該目的の達成に向け、「豊かな人間性と社会性、教育への情熱と使命感を持ち、教科や教職に関する専門的知識と技能を身に付け、新たな教育的課題に適切に対応できる実践力のある者」を養成する人材像として掲げている。

このため、富山大学においては、当該組織の名称を従来の人間発達科学部と比較し、より教員養成に特化した明示となる「富山大学教育学部共同教員養成課程」とし、金沢大学においては、既存の学域・学類を共同教員養成課程として設置することとなるが、前述したとおり、両大学の強み・特色を組み合わせた新たな教員養成課程として設置し、より効果的で先進的な教員養成体制を構築することとしていることから、両大学における組織の名称は本共同教育課程の理念・目的を適切に表すものとして明確であり、適切であると考えらる。

3-2 学位の名称及び理由

本共同教員養成課程における学位の名称及び英語名称は以下のとおりとする。

【富山大学・金沢大学】

学士（教育学） / Bachelor of Education

本共同教員養成課程においては、前述したとおり、複雑化する現代的教育課題への対応や子どもの成長の各段階に対応できる教員の養成を目的としており、主たる学問分野は教育学であることから、当該名称は教育内容を適切に表すものである。また、これらの名称は、既に数多くの大学が使用していることから、十分な通用性がある。

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

4-1 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

本共同教員養成課程の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）で掲げた知識・技能・態度を身に付けさせ、教員の養成を実現するため、以下に挙げる指針に基づいてカリキュラムを編成し運用する。（【資料3】参照）

①自己確立した社会人としての教員を養成する学修

知性と良識を備え、自己の判断基準や価値基準に基づいて自律的に行動できる社会人としての教員を養成するため、幅広い基礎的な学識を提供し、仲間との交流を通じて思考力を涵養する科目を主として1年次に配置する。

②学校教育についての理解を深める学修

校種や教科などの個別領域の学びをより効果的にするために、教育制度の概要を理解し、それぞれの学生が目指す校種や教科が教育課程上そのように位置づけられるのか、学校とは何か、子どもとは何かを、幅広い視野をもって考える科目を主として2年次に配置する。

③教員としての専門知識とその実践

学生がより現実的な教員像に到達できるように、1～2年次までに学んだことを土台にして、小学校や中学校などの校種独自の科目についての専門的な知識、その教授方法の修得、さらにはこれら二つを組み合わせた教育実践という三つの段階を効果的に学べる科目を主として3～4年次に配置する。

④現代的教育課題に挑戦する学修

これからの学校教育が必要とする新しい知識や技量の獲得に、的確に対応するための科目を先進的教育科目と総称し、各段階の学習過程に配置する。

⑤俯瞰して「比較」する視点を備えた教員を養成する学修

個人の力では解決が困難な教育問題に、同僚とともに取り組むときに必要な、自己と他者の意見を客観的に比較する態度や、自らの実践を言語化し説明する能力を養う科目を設定する一方で、義務教育全体を俯瞰し検討できるよう、複数の教員免許の取得が可能な科目配置を行う。

4-2 教育課程の構成

教育課程は、大きく教養教育科目等と専門教育科目の2区分から構成する。

①教養教育科目等

知性と良識を備え、自己の判断基準や価値基準に基づいて自律的に行動できる社会人としての教員を養成するための幅広い基礎的な学識を提供する科目を、それぞれの大学の全学共通教育科目であるという性格を踏まえ、主として1年次を中心に、両大学それぞれで実施する。

教養教育科目構成表（富山大学）

	必修科目	選択科目		
人文科学系	—	2単位	合計 10 単位 選択必修	地域志向科目 1 科目 2 単位を必ず含むこと。
社会科学系	—	2単位		
自然科学系	—	2単位		
医療・健康科学系	—			
総合科目系	—	2 単位		
外国語系	4 単位	2 単位		
保健体育系	2 単位	—		
情報処理系	2 単位			
計	8 単位	14 単位		

教養教育科目等構成表（金沢大学）

区 分		修得すべき単位数及び条件	
共通教育科目	導入科目	28 単位以上	大学・社会生活論 1 単位
			データサイエンス基礎 1 単位
			地域概論 1 単位
	GS 科目（6 群）		各群から 2～3 科目 計 15 単位
	GS 言語科目		TOEIC 準備コース 4 単位、EAP コース 4 単位
自由履修科目	2 単位以上		
学域 GS 科目	4 単位以上	初学者科目	アカデミックスキル 1 単位 プレゼン・ディベート論 1 単位
		学域俯瞰的科目	2 単位以上
		データサイエンス応用系科目	
学域 GS 言語科目	2 単位以上	学域 GS 言語科目Ⅰ 1 単位 学域 GS 言語科目Ⅱ 1 単位	

②専門教育科目

専門教育科目は、教員養成に向けた専門的な教育を行うものとして位置づけ、専門基礎科目と専門科目に分かれる。専門基礎科目は、「共通科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」、「小学校の教科に関する専門的事項」、「小学校の教科指導法」、「先進的教育科目（共通領域）」で構成され、専門科目は、幼児教育、特別支援教育、国語教育、社会科教育、数学教育、理科教育、音楽教育、美術教育、保健体育、家政教育、英語教育、教育学・心理学に関する科目、保育士に関する科目

の諸科目群により構成される。

卒業要件を満たすことにより、小学校教諭一種免許状とともに、幼稚園教諭二種免許状・中学校教諭二種免許状・特別支援学校教諭二種免許状のいずれかを取得できる。卒業要件に加えてさらに単位を取得することにより、幼稚園教諭一種免許状、中学校一種免許状、高等学校教諭一種免許状、といった複数の教育職員免許状を取得することが可能である。

4-3 教育課程編成の特色

4-3-1 先進的教育科目の概要

教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）に従って、複雑化する現代的な教育課題に対応できる教員を養成するため、両大学の強みを生かしたプログラムを設ける。教育課程の特色の中心となるのは「先進的教育科目」である。先進的教育科目は延べ149科目を開設し、学生は、選択する免許種に応じて36～46科目の先進的教育科目を「必修科目」として履修する。

先進的教育科目は、不登校や学習障害などの子どもの教育問題、ICT支援やプログラミングといった新しい教育手法、自主的な学びを促進するアクティブ・ラーニングを中心とする学習方法、校種を超えた連携等、複雑化していく教育環境に応える。こうした教育課題は教科横断的かつ領域架橋的であり、従来の教科を中心としたカリキュラムでは十分に対応できない。新しい課程では、この教科横断性、領域架橋性の利点を最大限に生かし、先進的教育科目を通じて学生が「比較」する視点を涵養できるようにする。それによって広い視野と見識を持った教員を養成する。（【資料4】参照）

4-3-2 先進的教育科目の条件

先進的教育科目は「教員養成科目の領域を柔軟に越境し架橋する新しい科目」とし、具体的には、現代的教育課題を意識した以下の4つの観点のいずれか又は複数の内容を有していることを条件とする。

総合性：教科横断的・現代的・複合領域的な課題を扱う科目

個別性：特別支援など個に応じた支援を扱う科目

地域性：各県の教育実践や教育課題を扱う科目

国際性：英語の教材、他国との比較、異文化との接触を扱う科目

それぞれの科目例を挙げると、「総合性」においては「SDGs教育実践演習」、「日本文学概論（教育と文学の関係を含む）」などが該当する。これらは広範な内容を取り扱う科目や、教科専門と教科教育の二つの側面を兼ね備えた科目であり、多くの先進的教育科目がこの範疇に含まれる。

学習についての個別支援や学習心理の最新教育事情を伝える「発達と教育（自己創出としての発達）」などの科目は「個別性」の特色に属する。特別支援関連や心理学関係の科目が中心となる区分である。

「地方性」と「国際性」は、ローカル、グローバルの二つのレベルの最新の教育実

践や教育課題を扱う。「富山県の教育実践」や「国際化と学校教育」などがそれぞれの内容区分に該当する。

これらの科目はいずれも教育に関する事項を取り扱い、教員養成課程においてのみ提供できる独自の科目となる。

4-3-3 先進的教育科目のカテゴリー

先進的教育科目は内容による区分の他に、カリキュラムに対応して二つのカテゴリーに分けられる。一つは免許種にかかわらず全学生が履修する“共通領域”、もう一つが免許種に応じて履修する“個別領域”である。共通領域と個別領域の区分とは、「総合性」「個別性」「地域性」「国際性」という4つの内容の違いではなく、扱うテーマの汎用性の程度である。

共通領域は教育の最新事情や現代的教育課題を扱った科目で、インクルーシブ教育やSDGs教育、国際化などが主なトピックになる。これらは全教員に必要とされる知識や技能であり、全学生を対象とした必修科目に指定する。

他方、個別領域の先進的教育科目は、希望する免許科目に応じて設けられており、特定の教科の教育方法において地域的な特性を扱ったもの（富山県や石川県で行われている教育実践の方法、富山県や石川県が育んだ風土や伝統文化に関連する地域の素材を活かした探究的な教科の内容とそれに絡めた教育方法等）や教科専門分野の知識を義務教育カリキュラムの中に位置づけるような領域横断的な科目を指す。とりわけ個別領域においては、教科の性質の差異によって先進的教育科目が取り上げる内容の力点が異なってくる。たとえば、特別支援教育分野であれば「個別性」を、英語教育分野では「国際性」を扱う先進的教育科目が中心となる一方で、社会科教育分野においては「総合性」「地域性」「国際性」などを網羅的に扱うことになる。

4-3-4 先進的教育科目の履修

先進的教育科目は特定の学年に偏在することのないよう、それぞれの学年の学習段階に応じて配置されている。1年次から2年次にかけては共通領域や教育の基礎的な領域についての先進的教育科目を学生は履修する。これらと併せて小学校の免許に関わる先進的教育科目も主に2年次に学習する。他方、より個別的な知識や技能の獲得が求められる教科別の先進的教育科目は2年次から3年次に開講する。こうして教育実習や教職実践演習などの科目にもスムーズに接続できる仕組みを作っている。

4-3-5 先進的教育科目の授業形態

先進的教育科目の授業形態は原則として探究型である。学生ユニットを活用し、グループごとの議論やプレゼンテーションを通して、授業が扱うテーマを個々の学生が探究し、自らにとっての意味を見つけることに重点を置く。したがって、受講人数の多い科目であっても、教授者による講義型の授業ではなく、アクティブ・ラーニング等を活用した学生主体の授業となる。

5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

5-1 教育方法

主として1年次はそれぞれの大学において、幅広い基礎的な学識を提供するための教養教育科目等を実施する。それと並行して、仲間との交流を通じて思考力や協調性等を涵養する野外体験活動Ⅰや、1年次の後期から教育の基礎的理解に関する科目等の専門基礎科目を開始する。

2年次では、校種や教科などの個別領域の学びをより効果的にするために、教育制度の概要を理解し、それぞれの学生が目指す校種や教科が教育課程上どのように位置づけられるのか、学校とは何か、子どもとは何かを、幅広い視野をもって考える科目である専門教育科目を中心に学ぶ。

3～4年次には、1～2年次までに学んだことを土台にして、小学校や中学校などの校種独自の科目についての専門的な知識、その教授方法の修得、さらにはこれら二つを組み合わせた教育実践（教育実習等）という三つの段階を効果的に学べる科目である専門科目を中心に学ぶことを原則とする。なお、3～4年次の教育実習とは別に、早い段階から教育現場を体験させる学校インターンシップを選択科目として、1～2年次に用意している。

また、1～4年次を通した教育方法として、金沢大学で運用してきた「教師になるためのノート」と富山大学の「教育実習ガイドブック」を1年次に全学生に配付して教育指導を行う。「教師になるためのノート」とは、ポートフォリオとして学生が手元に置き、4年間の個々の学生のきめ細かい指導のためのカルテとして活用し、将来教員となるべき者としての包括的な心構えや姿勢を身につけさせながら、成長を促すことを目的とする冊子である。一方、「教育実習ガイドブック」は教育実習に関する手引き書で、教育実習の目的や意義、公開授業の進め方など、実習の基礎・基本について、より具体的にわかりやすく個別的なスキルや知識、心構えなどを学ばせることを目的とした冊子である。これら二つの教材を1年次から組み合わせて学生を指導していくことによって、学生自身の意識やスキルを主体的に、かつ1～4年次まで継続的に高めさせ、より効果的な実習指導を行うことができる。（【資料5】参照）

授業科目は、両大学のキャンパスが離れていることを踏まえ、4つの開講形態に分類できる。具体的には、一方の大学の教員、教育手法、知見等の教育資源を活用し、教育の先進的な課題等を扱う「先進的教育科目」、一方の大学が有する教育資源の特色を生かした内容を扱う「特色科目」、両大学の教育資源を組み合わせた共通シラバスに基づく内容の「共通科目」、特定科目の実験や実習他、シラバスを共有することが困難なため、各大学が独自に開講する「独自科目」である。必要に応じ、授業担当教員がパートナー大学の講義室で授業を行う場合は、双方向同時配信のオンライン授業を行い、実習などの科目によっては、パートナー大学に授業担当教員が出向いて自大学開講の科目を対面で行うものとする。（【資料6】参照）

5-2 履修指導方法

5-2-1 学生集団（ユニット）を活用した履修指導

学生は入学を許可された大学に本籍を置き、学生生活上の厚生指導その他学生生活に関する指導は、本籍を置く大学において行うものとする。なお、緊急を要するなどの特別の場合には、パートナー大学が措置することができる。

本共同教員養成課程では科目グループ（教員組織）から独立した学生集団（ユニット）を組織する。学生は4年間、同一ユニットに所属する。各ユニットには1年生から4年生までの学生を、免許の校種や教科とは関係なく、ランダムに割り振ることで、ユニット内の多様性を担保する。

各大学で18のユニット（ユニットA～ユニットR）を作り、それぞれのユニットには各学年4～5名の学生が配置される。完成年度には各ユニットに全学年合わせて20名弱の学生が所属することになる。しかし、一定規模の集団を構成できるように、設置2年目までは複数のユニットを組み合わせたユニット群単位で指導する。設置1年目はユニットを3つずつ組み合わせ、6つのユニット群を作る（各ユニット群の学生数は15名弱）。設置2年目は2ユニットを組み合わせて、9つのユニット群を組織する（各ユニット群の所属学生は20名弱）。設置3年目以降は、単独のユニットで15名程度の学生が確保できるため、ユニット群は作らず、ユニット単位で活動する。

各ユニットには2～3名の担当教員が配置され、担当教員は原則として同一ユニットを継続的に指導する。学生とのマッチングや教員の負担の均等化を考慮して、2～4年を目処にユニットごとの担当を一部入れ替えていくことも計画している。

各ユニットは同一大学の学生で構成されるが、富山大学のユニットAと金沢大学のユニットAというように、同一名称のユニットが両大学で対となる。対になっている当該ユニットの担当教員は協働して、両大学の学生の積極的な交流を促すと共に、教員自身もパートナー大学のユニットの学生と関わる機会を持つ。地理的条件の制約から、富山大学と金沢大学の学生が日常的に交流することは現実的でないが、オンラインでの共同活動や懇親の機会を設けることを想定している。また、後述するように1年に1回以上、パートナー大学のユニットと対面で交流することを原則とする。

（【資料7】参照）

5-2-2 課外活動としての学生指導

学生ユニットの目的の一つは4年一貫の学生指導である。指導教員は4年間を通じて同じ学生を指導することで、学生の成長や学年に応じた効果的なアドバイスができるようになる。教員と学生の対面指導は、年に4回程度（第1クォーター及び第2クォーターでそれぞれ1回、教育実習後1回、第4クォーターで1回）を設定し、そのうちの1回は両大学の学生が交流する合同指導とする。合同指導では討論大会やスポーツ大会を企画し、学生たちが自然に交流できる仕掛けを設ける。対面指導の折には教職への希望なども聴取し、IRデータの収集とともに、教員志望の動向を把握できるようにする。さらには近年、不登校などの大学生の学習不適応事例が増加しており、そうした学生にいち早く手を差し伸べるためにも、担任制の指導体制が必要になる。

こうした指導の基本教材として、金沢大学で使用してきた「教師になるためのノート」と富山大学が出版した「教育実習ガイドブック」を使用する。「教師になるための

ノート」は自己学習教材で、そこに用意された今日的な教育課題について学生がレポートを作成し教員に提出することで、思考の記録を伴ったポートフォリオ的な役割を果たす。他方、「教育実習ガイドブック」は学校活動体験や教育実習に至るまで、学校現場での学生の活動の総合的な指標になる。学年に応じて二つの教材の重み付けを変えることで、学生の学年に応じたきめ細やかな指導を行う。ユニットによって課題の軽重が出ることを防ぐために、教員には指導マニュアルを配布し、均質で高い質の指導を保障する。これらは授業外の課外活動として行う。

各ユニットに異学年を配置するのは、学生間の縦のつながりを深めるためである。以前に比べて、クラブ活動やサークル活動に参加する学生の割合が小さくなっており、上下の学年との関係が希薄になってきている。共同教員養成課程の学生は教員という共通の職種を目指すため、身近な先輩の姿は職業の具体的なイメージを掴むためにはきわめて重要である。また、将来のコネクションづくりの場としても、ユニット制は大いに利点がある。

5-2-3 通常の授業と学生ユニット

学生ユニットは授業におけるグループ活動にも活用する。本共同教員養成課程には、「教育の基礎的理解に関する科目」や「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「先進的教育科目（共通領域）」のように、一つの学年の全学生が受講する授業が多数存在する。そうした授業のグループワークやアクティブ・ラーニングにおいて、学生ユニットを積極的に利用する。授業内にユニットを取り入れ、グループで課題に取り組ませることで、学生同士の連帯を深めることができる。こうした必修授業は1年から3年次まで配置されており、その後4年次に開講される教職実践演習に至るまで、継続的にユニットの存在意義が維持される。

教育実習の事前・事後指導も学生ユニットを利用して行う。特にパートナー大学側の県での教育実習を希望する（富山大学の学生が石川県で実習する、あるいは金沢大学の学生が富山県で実習する）場合には、当該学生の所属ユニットと対になったパートナー大学側のユニットの担当教員が実習指導教員に加わることで、「見知らぬ教員に指導される」という不安を解消することができる。

5-2-4 学生ユニットと科目グループ

前述したとおり、本共同教員養成課程においては教員組織と学生組織を分離する。教員は科目グループに属し、その主要目的は免許科目の安定的な維持である。従来、この科目グループに該当する教科・学問領域ごとの単位で学生の指導を行う体制（専修・コース制）が両大学で採用されていたが、学生同士の関わりの密度が専修・コースによって大きく異なるという欠点があった。たとえば、所属学生人数の少ない教科と多い教科では数倍の人数差もめずらしくない。多様性と「比較」の視点の獲得を学生教育の最重要項目の一つに掲げる共同教員養成課程においては、そうした格差を解消する必要があるため、科目グループと学生ユニットを分離する。

学生は希望する免許に応じて、科目グループが提供する授業を履修する。他方、卒

業研究は希望免許とは別の科目グループから選択することもできる。これによって、入学時には、特別支援学校の教育について漠然と考えていたものの、大学の授業をとおして美術の教育方法を学び、特別支援学校の子どもに効果的な美術教育の方法を探究することへの関心が強くなったなどの、「変化する学生」に対応できる。

学生の所属先はユニットであるものの、同一科目グループの授業を履修する学生の間に関連が生まれ、新たなサブユニットを形成することも想定・推奨する。また、卒業研究のテーマを選択する際にも、サブユニットが生まれる可能性がある。こうして学生は同時に多数の集団に身を置くことになる。同じ科目グループの中での学生の価値観やサブユニットでの学生の価値観と、学生ユニットでの学生の価値観とを比較することも、ユニット制の利点である。

5-2-5 学生による複数免許の選択と卒業研究テーマの決定の時期

本共同教員養成課程は卒業要件として、小学校教諭一種免許状に加え、中学校（高等学校）・特別支援・幼稚園のいずれかの二種免許以上の取得（たとえば、小学校教諭一種免許状と中学校英語二種の組み合わせなど）を、全学生に対して求めている。小学校教諭一種免許状に加えて取得する免許を「二枚目の免許」と呼ぶ。二枚目の免許としてどれを選択するかについては、1年次に学生に検討させ、1年次終了時には決定しているように指導する。こうして学生は1年次から二枚目の免許の授業を履修する。なお、金沢大学に KUGS 特別入試の総合型選抜Ⅱ（教科枠）と学校推薦型選抜Ⅱに合格して入学した学生は、入学時点で二枚目の免許が決定しているものとし、当該免許以外の二枚目の免許の取得は認めない（ただし、三枚目の免許としてその他の免許を取得することは可能）。

卒業研究のテーマは学生による経過選択を重視する。教員免許に必要な科目以外に、自由履修科目の履修を促し、3年次末までにテーマを決定させる。本格的な卒業研究指導は4年次4月からとなる。学生は卒業研究のテーマに応じた科目グループを選択し、当該科目グループの教員が単独または共同で卒業研究を指導する。

5-2-6 卒業要件

(1) 教養教育科目又は共通教育科目

富山大学：教養教育科目 22 単位以上

- | | | |
|---------|---|------------------------------|
| ① 人文科学系 | } | 10 単位以上 |
| ② 社会科学系 | | (ただし、人文科学系から 2 単位以上、社会科学系から |
| ③ 自然科学系 | | 2 単位以上、自然科学系から 2 単位以上を含むこと。) |
| ④ 総合科目系 | | 2 単位以上 |
| ⑤ 外国語系 | | 6 単位以上 |
| ⑥ 保健体育系 | | 2 単位 |
| ⑦ 情報処理系 | | 2 単位 |

金沢大学：共通教育科目 28 単位以上

- ① 導入科目 3 単位
- ② G S 科目 15 単位以上
- ③ G S 言語科目 8 単位
- ④ 自由履修科目 2 単位以上

(2) 専門教育科目

[専門科目区分：幼児教育、国語教育、社会科教育、数学教育、理科教育、音楽教育、美術教育、保健体育、家政教育、英語教育]

富山大学：114 単位以上

- ① 共通科目 9 単位以上
- ② 教育の基礎的理解に関する科目 12 単位
- ③ 道徳、総合的な学習の時間等に関する科目 12 単位以上
- ④ 教育実践に関する科目 9 単位以上
- ⑤ 小学校教科 12 単位以上
- ⑥ 小学校教科指導法 20 単位
- ⑦ 先進的教育科目（共通領域） 16 単位
- ⑧ 専門科目 24 単位以上

金沢大学：116 単位以上

- ① 学域 G S 科目 4 単位
- ② 学域 G S 言語科目 2 単位
- ③ 共通科目 5 単位
- ④ 教育の基礎的理解に関する科目 12 単位
- ⑤ 道徳、総合的な学習の時間等に関する科目 12 単位以上
- ⑥ 教育実践に関する科目 9 単位以上

- ⑦ 小学校教科 12 単位以上
- ⑧ 小学校教科指導法 20 単位
- ⑨ 先進的教育科目（共通領域） 16 単位
- ⑩ 専門科目 24 単位以上

[専門科目区分：特別支援教育]

富山大学：114 単位以上

- ① 共通科目 9 単位以上
- ② 教育の基礎的理解に関する科目 12 単位
- ③ 道徳、総合的な学習の時間等に関する科目 12 単位以上
- ④ 教育実践に関する科目 10 単位以上
- ⑤ 小学校教科 12 単位以上
- ⑥ 小学校教科指導法 20 単位
- ⑦ 先進的教育科目（共通領域） 16 単位
- ⑧ 専門科目 23 単位以上

金沢大学：116 単位以上

- ① 学域G S 科目 4 単位
- ② 学域G S 言語科目 2 単位
- ③ 共通科目 5 単位
- ④ 教育の基礎的理解に関する科目 12 単位
- ⑤ 道徳、総合的な学習の時間等に関する科目 12 単位以上
- ⑥ 教育実践に関する科目 10 単位以上
- ⑦ 小学校教科 12 単位以上
- ⑧ 小学校教科指導法 20 単位
- ⑨ 先進的教育科目（共通領域） 16 単位
- ⑩ 専門科目 23 単位以上

(3) 相手大学の開講科目の単位取得

富山大学：上記 1 及び 2 のうち、金沢大学が開講する科目 31 単位以上

金沢大学：上記 1 及び 2 のうち、富山大学が開講する科目 31 単位以上

6. 教育実習の具体的計画

6-1 実習の目的

教育実習を通して、大学で学習している専門知識と並行して、学校教育の実際を「先生」と呼ばれる立場から、子ども達と触れ合う中で教育の可能性を知るとともに、教育現場における自分の課題を発見することで、将来、教員として学校教育現場で必要となる基礎力・実践力を養成することを目的とする。

6-2 教育実習の運営

共同教員養成課程においては、両大学で教育実習指導に差異が生じないように、共通教材である「教育実習ガイドブック」を活用して教育実習の指導にあたるものとする。

また、両大学それぞれに共同教員養成課程の教員及び附属学校園の代表からなる「教育実習運営委員会」を設置し、実習計画の立案、実習校の配当等の教育実習の実務運営を担当する。

両県の教育委員会が別々の業務運営を行っていることに鑑み、教育実習は原則として、富山県（富山大学）及び石川県（金沢大学）それぞれで実施することになる。

ただし、金沢大学生で富山県での就職を希望する場合は富山県で、富山大学生で石川県での就職を希望する場合は石川県で教育実習に参加できるように調整を行う。

教育実習の円滑な運営を行うためには、地域の協力が不可欠なことから、富山県、石川県それぞれにおいて、県教育委員会をはじめ県内の市町村の教育委員会、実習協力校の間に「教育実習運営協議会」を設置し、大学・県教育委員会・市町村教育委員会・実習協力校との連携の下、実習に係る問題について意見交換を行い、実習内容の改善に役立てる。

また、県単位だけでなく、両県との連携も図るため、年1回を目途に、富山県教育委員会・石川県教育委員会・富山大学・金沢大学で構成される四者協議会（仮称）を開催する。

現在、富山大学では富山県内 91 校、金沢大学では石川県内 149 校が実習協力校となっているが、共同教員養成課程でもこれらの協力校を中心に受入校を確保していく。

（【資料 8】 参照）

6-3 教育実習の特色

本共同教員養成課程の教育実習の特色は、富山県・石川県両県の教育委員会の連携と協力の下、両大学の段階的な指導体制を共有することで、より実践的で多角的な視点を持つ教員養成を実現することを目指している点にある。例えば、富山県または石川県での就職を希望する学生には、就職希望県での教育実習の機会を提供し将来のキャリア形成を円滑に行えるようにすること、入学の早い段階から学校の現場を体験させる機会を設けること、両大学の独自共通教材である「教職実習ガイドブック」及び「教師になるためのノート」を活用した学生個々の成長段階に応じたきめ細かな教育指導を行うこと、などにより実現を目指す。

教育実習の前には、1年次における観察参加など、学校現場を知ることによって今後の学びに役立てられる機会を設ける。また、1年次には富山大学で、2年次には金沢大学で学校インターンシップを実施し、希望学生はパートナー大学の学校インターンシップも受講可能とする。さらに富山県教育委員会との連携事業による観察実験アシスタントや英語学習パートナー、石川県内の学校の要請に応じて学生が赴く学校ボランティアなど、学校現場体験（正課外）も提供し、また富山県教育委員会による TOYAMA ていちゃーず’ カレッジ、石川県教育委員会によるいしかわ師範塾も活用する。

教育実習は3年次と4年次の9月に行うが、3年次の教育実習は1年次終了時に決定した免許取得の組み合わせに関する学生の希望に基づき学校種を選択する（小学校、中学校、特別支援学校、幼稚園）。4年次の教育実習では3年次に選択しなかった免許種の学校に赴く。3年次の教育実習はおもに大学附属学校、4年次の教育実習はおもに近隣市内の公立協力校で実施する。また、教育実習の期間は3週間を原則とする。

教育実習では評価シートを使用して最終評価等を行うが、最終評価に到達する前に、評価シートとは別に普段の教育指導において、「教育実習ガイドブック」や「教師になるためのノート」を活用し、教育実習中に教員及び学生が到達度等を確認できるよう計画的にマイルストーンを設けて、学生の教員としての自発的な成長を促す。（【資料9】参照）

教育実習は学生の選択した教科についての大学教員の指導が大きな位置を占めるため、教育実習の指導は当該教科の近接領域の教員が担当する。たとえば、中学校で国語の教育実習学生には国語教育や国文学の教員が実習指導の担当教員となる（小学校の実習生は原則としてすべての教科を教えるため、中学校ほどは担当教員の専門領域を重視しない）。ただし、パートナー大学の地域での教育実習を希望する学生については、原則としてパートナー大学の連携する学生ユニットの担当教員が、教育実習の担当教員となる。

なお、教育実習においても学生ユニットが活用される。異なる校種や教科の実習を行った学生が、同一ユニットの中でお互いの実習経験を交換・共有することで、校種や教科の実践・観点の違いを認識できるようになる。自分とは違った校種、異なった教科で問題になっているのはどのような点か、どのような指導法が取り入れられているのかなどを共有することは、自らの授業を振り返る点でも非常に有効である。

7. 取得可能な資格

7-1 教員免許

A 小学校教諭一種免許状

ア 国家資格

イ 資格取得可能

ウ 卒業要件単位に含まれる科目の単位修得により取得可能

B1 幼稚園教諭一種免許状

B2 中学校教諭一種免許状（国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、家庭、英語）

B3 高等学校教諭一種免許状（国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、保健体育、家庭、英語）

B4 特別支援学校教諭一種免許状（聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者、病弱者）

ア 国家資格

イ 資格取得可能

ウ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、当該免許に係る教職関連科目の単位修得が必要

7-2 その他の資格

C 保育士

ア 国家資格

イ 資格取得可能

ウ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、厚生労働大臣の定める科目の単位修得が必要

※ 令和3年9月現在、富山大学は指定保育士養成施設の指定を受けており、同大学においてのみ保育士資格が取得可能となっている。

8. 入学者選抜の概要

8-1 入学者選抜方針（アドミSSION・ポリシー）

学力の3要素の多面的・総合的評価、特に志願者の主体性や、教職に就くことについての強い意志の有無についての評価に基づいた合否判定を行うことを入学者選抜の基本とし、以下に示す入学者選抜方針（アドミSSION・ポリシー）に則った選抜を行う。

【アドミSSION・ポリシー】

共同教員養成課程では、義務教育段階の諸学校の教師を養成することを目的としており、専門職としての教師を目指す熱意にあふれ、仲間と協力しながら専門的能力・技能を伸ばしていける以下のような学生を求める。

- ① 教育を通じて、地域社会の発展に貢献しようという強い意志を持っている人。
- ② 専門職としての教師を真摯に目指し、人を育てることの大切さと喜びを感じられる人。
- ③ 現代の教育課題を含む幅広い分野に興味・関心を持っている人。
- ④ 自己の考えをはっきりと表現し、他の人の考えをしっかりと受けとめることを通じて、他者と協働ができる人。
- ⑤ 高等学校における履修内容を理解し、教職を目指すために必要な学力がある人。

なお、富山大学及び金沢大学それぞれの個性を残すことが多様な受験生の確保につながり、シナジー効果を発揮できると考えることから、入学者選抜においては各大学独自の選抜方法で実施する。

8-2 入学者選抜方法

8-2-1 富山大学における入学者選抜方法

(1) 一般選抜（前期日程）

入学者の選抜は、大学入学共通テスト、同大学の個別学力検査等及び調査書の結果を総合して行う。

大学入学共通テストでは、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価し、教育学部での学修に関連する科目について理解力と応用力を広く備えた人を選抜する。

個別学力検査では、「国語」、「外国語（英語）」、「数学」を課し、問題の理解力、論理的思考力、表現力等を評価する。

(2) 一般選抜（後期日程）

入学者の選抜は、大学入学共通テスト、面接及び調査書の結果を総合して行う。

大学入学共通テストでは、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価し、教育学部での学修に関連する科目について理解力と応用力を広く備えた人を選抜する。

同大学で課す「面接」により、意欲、理解力、思考の論理性、表現力等を評価し、多様な学生を選抜する。

(3) 総合型選抜

総合型選抜では、入学者選抜の多様化の一環として、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に判定する。

【スポーツ実技型】書類審査、実技（運動技能検査）及び面接を課し、意欲、理解力、思考の論理性、表現力、運動技能等を評価する。

【理数型】大学入学共通テスト、書類審査及び面接を課し、大学入学共通テストでは、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価し、教育学部での学修に関連する科目について理解力と応用力を広く備えた人を選抜する。

「書類審査」及び「面接」により、意欲、理解力、思考の論理性、表現力等を評価する。

(4) 特別選抜（学校推薦型選抜）

入学者の選抜は、大学入学共通テスト、推薦書、調査書、志望理由書、面接及び集団討論の結果を総合して行う。

大学入学共通テストでは、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価し、教育学部での学修に関連する科目について理解力と応用力を広く備えた人を選抜する。

同大学で課す「面接」、「集団討論」により、意欲、理解力、思考の論理性、表現力等を評価し、多様な学生を選抜する。

(5) 特別選抜（帰国生徒選抜、社会人選抜）

入学者の選抜は、書類審査、小論文及び面接の結果を総合して行う。

「小論文」は、課題の理解力、論理的な思考力、文章表現力を評価し、「面接」は、志望動機、学修意欲を評価する。

(6) 私費外国人留学生選抜

入学者の選抜は、日本留学試験、小論文、面接及び最終出身学校等の成績を総合して行う。

日本留学試験では、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価し、教育学部での学修に関連する科目について理解力と応用力を広く備えた人を選抜する。

「小論文」では、課題に関する知識や関心、理解力、分析力、論旨・主張の明確さと説得力（論理性、具体性）等の観点から評価する。

「面接」では本人の意欲及び当該学科との適合度をみる。

8-2-2 金沢大学における入学者選抜方法

(1) 一般選抜

入学者の選抜は、分離・分割方式（前期日程）で行い、大学入学共通テスト並びに同大学が行う個別学力検査等及び調査書の審査の結果を総合して行う。

一般選抜は、配点比率を示した大学入学共通テストと個別学力検査等の結果を総合して合否判定を行い、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価するため調査書を活用する。

大学入学共通テストでは広い知識を備えていることを希望していることから国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語を課す。

個別学力検査は、英語、国語、数学、理科、総合問題の中から、3科目を選択するが、大学入学共通テストで地理歴史・公民の配点が100点・理科の配点が50点のパターンAと地理歴史・公民の配点が50点・理科の配点が100点のパターンBに別れる。

さらに、パターンAとパターンBはさらに以下のように分かれ、受験者を多角的に評価する。

パターンA：

数学選択、理科選択、総合問題選択（左記以外に国語と英語を受験）

パターンB：

国語選択、理科選択、総合問題選択（左記以外に数学と英語を受験）

なお、大学入学共通テストと個別学力検査の配点比率は4：6とし、広い知識を修得していることを前提としつつ、受験者の特性も考慮に入れ、得意科目の深い知識も修得しているかを重視する配点とする。

(2) KUGS特別入試

KUGS特別入試とは「基礎的知識・技能を修得し、それらを活用して自らの課題を発見し、探究する能力を備えている人」、「将来に明確な目標を持っており、主体的に行動し、他者と協働しながら、自身の夢を実現しようとする強い意欲を持っている人」を受け入れて育成するために、志願者の能力・資質・意欲を多面的・総合的に評価する入試である。KUGS特別入試では、金沢大学が提供する「KUGS高大接続プログラム」を受講した高校生などが、当該プログラムで課されるレポートと、高等学校等で探求的な学びや課題意識を持って取り組んだ各種活動に関するレポートを提出し、KUGS（金沢大学が定めた5つの能力からなる金沢大学グローバルスタンダードのこと）に基づく評価基準で評価を受け、基準を満たした場合に出願資格を与えている。KUGS特別入試には総合型選抜と学校推薦型選抜を設ける。

（総合型選抜Ⅱ）

学校長の推薦を求めない総合型選抜にはⅠとⅡがあり、Ⅱは大学入学共通テストを課す入試である。人間社会学域学校教育学類共同教員養成課程は、次のとおり総合型選抜Ⅱのみを行う。

〈石川県教員希望枠〉

大学入学共通テスト及び口述試験により、基礎学力及び勉学意欲ならびに、石川県で教職に就くことへの熱意、資質・適性等を総合的に評価する。

〈教科枠〉

【美術教育】

大学入学共通テスト、口述試験及び実技試験により、基礎学力、課題に対する表現力、美術における基礎知識と論理的思考力、教職及び美術教育に対する熱意と抱負を総合的に評価する。

【保健体育】

大学入学共通テスト及び口述試験により、基礎学力及び高校時代のス

スポーツ活動実績、教育や体育・スポーツに関わる勉学意欲や資質等を総合的に評価する。

【家政教育】

大学入学共通テスト及び口述試験により、基礎学力及び家政教育に対する勉学意欲や資質等を総合的に評価する。

【特別支援教育】

大学入学共通テスト及び口述試験により、基礎学力、課題に対する思考能力と論述能力、勉学意欲や資質等を総合的に評価する。

(学校推薦型選抜Ⅱ)

学校推薦型選抜にはⅠとⅡがあり、Ⅱは大学入学共通テストを課す入試である。人間社会学域学校教育学類共同教員養成課程は学校推薦型Ⅱのみを行う。

〈教科枠〉

【国語・社会科・英語教育】

大学入学共通テスト及び口述試験により、基礎学力及び勉学意欲、人文・社会科学への関心、教職への意欲・資質・適性等を総合的に評価する。

【数学・理科教育】

大学入学共通テスト及び口述試験により、基礎学力及び勉学意欲、自然科学への関心、教職への意欲・資質・適性等を総合的に評価する。

【音楽教育】

大学入学共通テスト、筆記試験、口述試験及び実技試験により、基礎学力及び演奏技術、表現力、ソルフェージュ能力、楽典の基礎的知識、志望動機、教職及び音楽に対する熱意と抱負等を評価する。

(3) 超然特別入試 (A-lympiad選抜、超然文学選抜)

超然特別入試には、A-lympiad選抜と超然文学選抜の2つの選抜方法があり、大学入学共通テストや学校長推薦を課さない総合型選抜である。出願資格に応じて、文学又は数学を介した教育への意欲・資質・適性等を総合的に評価するための口述試験を課して選抜を行う。

(A-lympiad選抜)

数学的に特異な才能を持ち、その才能を活かして将来専門的分野で社会的な課題の解決に取り組む強い意欲を持っている人を受け入れる。高等学校等在学中に金沢大学が主催するコンテスト「日本数学A-lympiad」に応募し、各学類が指定する入賞実績を上げた場合に出願資格を与える。

(超然文学選抜)

文学的に特異な才能を持ち、その才能を活かして将来専門的分野で社会的な課題の解決に取り組む強い意欲を持っている人を受け入れる。高等学校等在学中に金沢大学が主催するコンテスト「超然文学賞」に応募し、各学類が指定する入賞実績を上げた場合に出願資格を与える。

(4) 国際バカロレア入試

国際バカロレア資格証書を授与された者又は授与見込の者を対象に提出書類及

び口述試験により、学習意欲や資質、学校教育に関する課題意識や基礎知識について総合的に評価する。

(5) 私費外国人留学生入試

日本国籍を有しない者のうち、同大学が指定する条件を満たす者に対し、日本留学試験、学力検査等の成績及び書類審査の結果により、基礎学力及び人間社会学域学校教育学類としての適格性を評価する。

(6) 文系一括入試

人間社会学域単位で実施する入試。大学入学共通テストでは、3教科3科目、3教科4科目又は3教科5科目を選択し、個別学力検査では英語と総合問題を課す。

文系一括入試での入学者は一旦総合教育部に所属し、2年次進級時に原則希望する学類に移行する。人間社会学域学校教育学類共同教員養成課程では、2人の受け入れ枠を持つ。

8-3 選抜方法の特色—大枠入試

一つの専攻の学習分野に固執せずに全教科にわたる履修への受験生の意識を醸成するため、入学時には分野を決めず、1年次の学習を通じた後、学生の希望に応じて、2年次に進級する際に専攻分野を決める。

但し、金沢大学へ入学時に所属する専攻（分野）を決めることで学生の学修への意欲の向上が期待される KUGS 特別入試の総合型選抜Ⅱ（教科枠）と学校推薦型選抜Ⅱに合格して入学した学生は、出願した分野の免許を取得しなければならない。

8-4 募集人員、入学定員の計画

本課程の元となる富山大学人間発達科学部及び金沢大学人間社会学域学校教育学類では、出身県内での教員を希望する学生が大半であることを踏まえ、卒業生を安定して小中学校教員として送り出していくためには、富山・石川両県の教員需要の変化を見据えた入学定員規模の設定が必要である。

入学定員の設定の基になるのは、両県の教員需要であり、少子化と定年退職教員の減少という現実を基に、今後の小学校の35人学級の導入、特別支援学級の増加を考慮して、将来的な教員採用枠を推計する。

なお、推計に当たっては、富山大学及び金沢大学による共同教員養成課程であり、双方の大学とも富山県・石川県出身者の学生の比率が高く結びつきが強いことから、分析においては過去の実績から便宜的に各大学単位で行った。

8-5 選抜方法の点検

両大学合同の共同教員養成課程合同教学委員会入学試験検討部会を設置し、選抜方法の点検・見直しを継続的に行い、それぞれの大学での全学的な入学試験実施方法との調整を行う。

9. 教員組織の編制の考え方及び特色

9-1 教員組織の編成の考え方及び特色

本共同教員養成課程における教員組織は、各専任教員のほか、各構成大学の関連組織から兼任で参画する教員（非常勤講師を含む）により構成される。専任教員については、令和4年4月の開設時において、富山大学48名、金沢大学49名（合計97名）にて編成する。

また、共同教員養成課程においては、カリキュラム・ポリシーの下、複雑化する現代的教育課題に対応できる質の高い教員の養成に向け、従来の教科を中心としたカリキュラム体制を抜本的に見直し、教職科目の領域を大幅に拡張した「先進的教育科目」を設け、当該科目を中心とした教育課程を編成している。そのため、「国語科」、「理科」等の各教科の専門分野において十分な教育・研究実績を持つ教員が幅広く参画していることに加え、富山大学、金沢大学の強み・特色を生かし、各大学が持つ高度な知見・優れた指導力を有する多様な教員を配置することで、自大学にはない専門分野を補完し、校種を問わず、現代的教育課題に対応できる実践力の向上を図るための教員組織を編成している。

9-2 教員の年齢構成

本共同教員養成課程における教育課程を担当する専任教員の内訳は、学年進行完成時点で、富山大学においては教授13名、准教授18名、講師11名、金沢大学においては、教授26名、准教授22名、講師1名となっている。

専任教員の年齢構成については、学年進行完成時点で、30歳代が8名、40歳代が24名、50歳代が41名、60歳代が18名となっており、教育研究水準の維持向上及び活性化に相応しい、バランスの取れた構成となっている。

なお、両大学における定年年齢は、各大学の就業規則において65歳と規定されている。（【資料10】参照）

10. 施設・設備等の整備計画

10-1 校地、校舎等

校地・校舎については、両大学の現行の校地・校舎がそのまま共同教員養成課程に引き継がれる。その中には、講義、演習、実習等を実施するための講義室、演習室、実習室と教育研究機材が含まれている。このため、両大学の共同教員養成課程では、引き継いだ施設や設備を利用することで、計画している教育研究の全てを実施することが可能である。そのほか図書館、課外活動用の各種施設、学生が利用できるラウンジスペースとしてラーニングコモンズ等の全学的な学生の学修環境のための施設が確保されており、学生は両大学の施設が利用できる。

富山大学教育学部共同教員養成課程が位置する五福キャンパスには、教育学部共同教員養成課程のほか、人文学部、経済学部、理学部、工学部、都市デザイン学部、附属図書館、総合情報基盤センターなどが設置されており、土地面積 231,456 m²、建物面積 147,058 m²である。

一方、金沢大学人間社会学域学校教育学類共同教員養成課程が位置する角間キャンパスには、人間社会学域学校教育学類共同教員養成課程のほか人間社会学域の他の学類、理工学域、附属図書館、学術メディア創成センター等が設置されており、土地面積 2,008,565 m²、建物面積 250,458 m²である。

それぞれのキャンパスには、体育館、テニスコート、グラウンドなども配置されている。

10-2 附属図書館

両大学の附属図書館とも、大学の教育研究支援を目的とした学術情報の収集と情報発信を進めており、資料の整備・提供に加えて、学生が利用できるラウンジスペースを確保するとともに、地域の学びの場として学外者へのサービスにも努めている。

蔵書の検索には、OPAC (Online Public Access Catalog) が利用でき、所蔵図書とほぼすべての雑誌を書名、著者名、出版社、出版年など多くの項目から検索できるシステムとなっている。また、多数のデータベースを整備しており、タイトル別、分野別、パッケージ別に電子ジャーナルや電子ブックの検索を行うことができる。このようなサービスによって、全学生がオンラインで学修や研究を行うことができる体制が整っている。

富山大学には、附属図書館として、中央図書館（五福キャンパス）、医薬学図書館（杉谷キャンパス）及び芸術文化図書館（高岡キャンパス）の 3 館があり、その蔵書数は以下のとおりとなっている。

特に教育学部共同教員養成課程の教育研究活動拠点は、五福キャンパスであり、学生が主として活用する中央図書館は、最も多くの蔵書数があり、学生の学修活動を行うために十分なリソースが集められている。

富山大学附属図書館蔵書冊数

令和2年3月31日現在

	図 書 (冊)			雑 誌 (種)		
	和書	洋書	計	和書	洋書	計
中央図書館	743,846	317,983	1,061,829	12,794	4,822	17,616
医薬学図書館	119,368	99,343	218,711	2,247	2,214	4,461
芸術文化図書館	57,647	13,375	71,022	822	213	1,035
合 計	920,861	430,701	1,351,562	15,863	7,249	23,112

一方、金沢大学附属図書館は、中央図書館（角間キャンパス北地区）、自然科学系図書館（角間キャンパス南地区）及び医学図書館（宝町キャンパス）の3館があり、その蔵書数は以下のとおりとなっている。人間社会学域学校教育学類共同教員養成課程の教育研究活動拠点は角間キャンパス北地区であり、学生が主として活用する中央図書館は、最も多くの蔵書数があり、学生の学修活動を行うために十分なりソースが集められている。

金沢大学附属図書館蔵書冊数

令和2年3月31日現在

	図 書 (冊)			雑 誌 (種)		
	和書	洋書	計	和書	洋書	計
中央図書館	903,823	303,601	1,207,424	12,993	3,217	16,210
自然科学系図書館	202,656	224,014	426,670	3,916	7,799	11,715
医学図書館	98,920	142,488	241,408	4,515	3,151	7,666
保健学類図書室	31,971	8,155	40,126	601	232	833
合 計	1,237,370	678,258	1,915,628	22,025	14,399	36,424

11. 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

11-1 パートナー大学開設の授業科目の履修

両大学の校地は、直線距離で約 46km の距離にあり、公共交通機関を利用すると片道約 2 時間を要することから、両大学間を往復して毎日授業を履修するのは現実的に無理がある。そのため、それぞれのキャンパスで授業の履修・学修ができるよう、双方向遠隔授業システムの活用によって自大学にいながらパートナー大学開設の授業を履修できるなどの措置を講じる。

11-2 双方向遠隔授業のための施設・設備

実験、実習や実技を伴う授業を行う場合などを除き、先進的教育科目等では基本的に双方向遠隔授業システム（講義科目を中心に構成）によって授業を実施する。それによりパートナー大学の学生にとって無理のない履修を可能とするよう配慮している（双方向遠隔授業システムの採用は、近年進展している遠隔教育への対応という側面も持ち、富山及び石川両県の地域性を考慮すると、僻地の小規模校等への導入も視野に入れて、それに関する授業を先進的教育科目で取り上げる。）。

双方向遠隔授業システムにおいては、双方向でのグループ学習や学生討論の場面を設けるなどアクティブ・ラーニング形式の授業科目の提供、Web Class や Moodle など両大学がこれまで運用してきた LMS (e ラーニングの実施に必要な学習管理システム) の活用による効率的・効果的な授業運営など、将来的には自らが双方向遠隔授業システムの実施者となる学生に、対面ではない新たな教育スタイルを体験させる。さらに、必要に応じて受信側の大学で専門を同じくする教員とチームティーチングを行うことや、TA を配置して双方向の活動を支援するなど、現状以上にきめ細かな指導ができるよう配慮する。また、同システムでは、モニターを通した画一的なテレビ会議的なものではなく、個々人が持つノート PC・タブレット型端末と連動させることで、クリアな映像や音声による双方向での議論や、学生の質疑などにも即座に対応できる LMS を活用したモニタリングが可能であり、よりアクティブな学修環境の実現を可能にしている。こうした最新鋭の環境で、学生が学びを体感し、修得した指導法を深化させることも双方向遠隔授業システムの特質と捉えている。

11-3 遠隔授業に関する両大学の体制

富山大学では、現在の人間発達科学部に、収容人員 210 人が 1 教室、90～150 人が 3 教室、50～70 人が 5 教室、20～40 人が 7 教室あり、Web 会議システム等の利用により、すべての教室において遠隔授業が可能である。また、今後、入学生に対し入学前に大学が推奨するスペックの携帯型 PC (ノート型 PC) を必携するよう事前周知したうえで、授業では学生の個人 PC を活用し、事前・事後学修を促すことにより、質の高い授業の実施を可能とする。通信環境については、令和 3 年度に Wi-Fi6 対応の無線 LAN 環境に改善すると同時に、IPv6 の導入を行い、同時接続台数を 6,500 台から 12,000 台まで増やし、IP アドレスの枯渇に起因する無線 LAN へ繋がりにくい現象を解消し、学生の利便性向上を図る。

遠隔授業の実施に関し、令和 2 年度には COVID-19 の感染拡大により、すべての教員がオンライン授業を実施するとともに、オンライン授業の充実に関する各種 FD を開催し、教員のスキル向上を図った。また、学生に対しては 1 年前期の情報処理の授

業で、PC 操作、オンライン授業の受講方法、LMS 教材の活用方法等を学ばせ、1 年後期からの遠隔授業を円滑に実施するとともに、遠隔授業の受信側の教室において、関係教員や TA を配置し、機器準備や動作確認、メンテナンスなどの人的サポートを実施する。

金沢大学では、人間社会学域学校教育学類が主に使用する講義棟は人間社会第 2 講義棟である。その講義棟には、収容定員 310 人の講義室が 1 教室、180 人の講義室が 1 教室、50～100 人の講義室が 9 教室、18～50 人の講義室が 9 教室設けられており、全ての講義室での学内無線 LAN が整備されている。

また、大学全体の方針として、入学時から携帯型 PC（ノート型 PC）を必携としており、学生一人一人に金沢大学 ID を付与し、共通教育科目の必修科目「データサイエンス基礎」等で情報処理の基礎を教え、学修及び学生生活の両面において、既に日常的にネットワークを通じた活動が可能となっている。

学内のネットワークは学術メディア創成センターが管理しており、Webex 等の Web 会議システムを利用した授業にも、Wi-Fi や通信容量の設定上において、ネットワーク不可による授業への影響が生じないような環境を整備している。

令和 2 年度は COVID-19 の感染拡大により、すべての教員がオンライン授業を実施できるようにするため、オンライン授業に関する FD を開催し、実際の教育の場で教員のスキル向上が飛躍的に図られた。COVID-19 の流行下で実践した経験を元に、今後もノウハウを蓄積していく FD 活動を展開することとしている。

オンライン授業の受信側教室のサポートについては、関係教員及び TA を配置し、機器準備や動作確認、メンテナンスなどの人的サポートを実施する予定である。

12. 管理運営

12-1 共同教員養成課程の管理運営

本共同教員養成課程の管理運営に関し、両大学の専任教員で構成する「共同教員養成課程連絡協議会」、「共同教員養成課程運営会議」及び「共同教員養成課程合同教学委員会」を設置し、共同教員養成課程の編成及び実施等に係る事項を協議する（【資料14】参照）。なお、共同教員養成課程の設置検討に伴い組織した専門部会（「構成・特色検討部会」、「教育課程（カリキュラム）検討部会」及び「教育実施体制検討部会」）の機能を継承するものとし、両大学の各教科等小部会と連携を図りながら、カリキュラムをマネジメントする。

12-2 共同教員養成課程連絡協議会

共同教員養成課程を編成するに当たっては、両大学間での緊密な連携を図るため、両大学の学長、学長が指名する理事や学部長等で構成される連絡協議会を設け、共同教員養成課程の意思決定機関として共同教員養成課程の編成及び実施等に関して必要となる、以下に掲げる基本方針等を協議・決定する。

- ・組織編成に関する事項
- ・教員配置に関する事項
- ・入学定員等に関する事項
- ・予算に関する事項
- ・その他共同教員養成課程の運営に関する事項

この協議会には議長及び副議長を置き、議長が会議の業務を掌理する。協議会は毎年度1回の開催の他、必要に応じて随時開催する。議長、副議長には両大学の協議会委員それぞれが隔年交代で担当する。

12-3 共同教員養成課程運営会議

両大学の共同教員養成課程を運営するため、富山大学教育学部長、同学部副学部長（2人）、事務部の長、及び金沢大学人間社会学域長、学校教育学類長、同学類副学類長（1人）、事務部の長等から構成される運営会議を設け、審議機関として、以下に掲げる共同教員養成課程の運営に係る事項について協議・決定する。

- ・規則等の制定、改正及び廃止に関する事項
- ・教育課程の編成及び実施に関する基本的事項
- ・共同教員養成課程に係る成績評価の方針に関する事項
- ・学生の身分取扱い及び厚生補導に関する事項
- ・学位審査に関する事項
- ・学位の授与及び課程修了の認定に関する事項
- ・その他共同教員養成課程の運営に関する事項。

この運営会議は、共同教員養成課程設置検討時の「構成・特色検討部会」の業務等を継承する。また、本運営会議に議長及び副議長を置き、議長が会議の業務を掌理する。運営会議は毎年度2回の開催の他、必要に応じて随時開催する。議長、副議長に

は両大学の協議会委員それぞれが隔年交代で担当する。

12-4 共同教員養成課程合同教学委員会

共同教員養成課程における教育体制・教育方法等の点検・評価を実施するなど、教育の質保証に係る体制整備を行うため、富山大学教育学部長、同学部副学部長(2人)、教務委員長、及び金沢大学人間社会学域長、学校教育学類長、同学類副学類長(1人)、教務委員長等から構成される合同教学委員会を設け、以下に掲げる事項について審議する。

- ①カリキュラムの編成に関する事項
- ②入学者選抜試験に関する基本的事項
- ③FD活動の方針に関する事項
- ④自己点検・評価に関する事項
- ⑤その他教学マネジメントに関すること。

この教学委員会には、共同教員養成課程設置検討時の組織である「教育課程(カリキュラム)検討部会」及び「教育実施体制検討部会」の業務等を継承する。また、本委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長が会議の業務を掌理する。本委員会には入学試験検討部会、教育課程検討部会、教育方法検討(FD)部会、自己点検評価部会を設置する。

12-5 県教育委員会と大学との連絡協議会

両大学が富山県及び石川県の教育委員会と密接に連携を図るとともに教員養成に係る円滑な運営及び継続的な改善を図るため、富山県教育委員会、石川県教育委員会と富山大学、金沢大学との4者による連絡協議会(4者協議会)を設置する。構成員は、富山県教育委員会教育長、石川県教育委員会教育長、富山大学教育学部長、金沢大学人間社会学域学校教育学類長とする。なお、協議会は年1回の定期開催と、必要に応じての臨時開催を予定している。

12-6 教授会、学類会議

両大学の教育学部教授会又は学校教育学類会議は、それぞれの学部・学類における教育及び研究に関する事項(教育課程の編成・運営、学位の授与、学生の身分審査など)を審議する機関と位置づけられる。両大学それぞれの教授会の下に組織される教務委員会、入学試験委員会、学生支援委員会等の担当組織において、協議会及び運営会議の議を受けて、基本的に毎月1回の開催による審議を基に、それぞれの業務を遂行する。また、定期的に前述の合同教学委員会を開催し、運営方針、年次計画等についての協議を行い、連携・協力して取り組むこととする。(【資料11】参照)

13. 自己点検・評価

13-1 全学的自己点検・自己評価の実施体制

13-1-1 実施方法及び実施体制

富山大学では、国立大学法人富山大学評価規則第4条第3項の規定に基づき、国立大学法人富山大学計画・評価委員会を設置し、自己点検と自己評価を実施している。同委員会は、評価担当理事を委員長とし、各学部、教養教育院、生命融合科学教育部、教職実践開発研究科、附置研究所及び附属病院から選出された教授の構成となっている。学校教育法第109条第1項に基づく組織及び運営等に係る自己点検・評価、学校教育法第109条第2項に基づく大学機関別認証評価、国立大学法人評価委員会が行う中期計画・年度計画の評価に関する事項を審議している。

また、毎年度、前年度に係る自己点検・評価書を作成、公表するとともに、計画・評価委員会と各部局が密接に連携し、PDCA サイクル：Plan（計画）－Do（実施・取組）－Check（点検）－Action（評価・改善の実施）によって実施している。

金沢大学では、学校教育法第109条第1項の規定に基づく自己点検・評価について、「国立大学法人金沢大学自己点検評価規程」及び「国立大学法人金沢大学における全学の自己点検評価実施要項」を定めている。また、この自己点検評価及び認証評価並びに中期目標・中期計画等の企画立案及びそれらの目標・計画に係る評価を担当する組織として、学長が指名する理事及び研究域長並びに各センター長の代表者等から構成する企画評価会議を設置している。更に、自己点検評価等の任務を円滑かつ効率的に行うため、同会議の下に企画部会、評価部会及び認証評価部会を設置している。

13-1-2 評価結果の活用・公表及び評価項目等

富山大学では、中期計画における「自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置」において、「認証評価の結果や大学全体及び部局等の年度計画の自己点検・評価の結果を学内で共有する仕組みを整備し、教育研究の質の向上及び大学運営の改善に活用する」こととしており、自己点検・評価、国立大学法人評価及び認証評価結果について、Web サイトにおいて社会に対して広く公表している。

また、これらの評価を通じて、教育研究の高度化、個性豊かな大学作りや活性化を目指すため、自主的に行う組織・業務全般の見直しや、中期目標・中期計画及び年度計画の改善検討に資することとしている。

金沢大学では、「国立大学法人金沢大学における全学の自己点検評価実施要項」に基づき、「基本データ分析による自己点検評価」及び「年度計画の実施状況に係る自己点検評価」を毎年実施するとともに、平成26年度においては、「機関別認証評価基準による自己点検評価」を実施した。これらの自己点検評価については、企画評価会議において、自己点検評価書（案）を作成し、教育研究評議会の議を経て、Web サイトで公表している。また、自己点検評価の結果、改善すべき事項が認められる場合、企画評価会議議長から当該事項を所掌する理事、部局長に改善計画の提出を求めるとともに、企画評価会議において、次年度にその進捗状況を確認している。

評価の結果、改善すべき事項が認められる場合は、学長から当該事項を所掌する理

事、副学長又は部局長に対し改善点等を指示するとともに、改善報告を求めることにより教育研究の水準及び質の向上に努めている。

人間社会学域学校教育学類における自己点検・評価については、大学に設置する自己点検・評価に係る組織とも連携して実施し、組織活動や教育研究活動の点検と改善に取り組むこととしている。

13-2 共同教員養成課程における自己点検・評価

13-2-1 共同教員養成課程合同教学委員会自己点検評価部会

共同教員養成課程における教育体制・教育方法等の点検・評価を実施するなど、教育の質保証及び教学マネジメントのPDCAサイクルの構築を図るため、両大学の学部長、学類長、副学部長、教務委員長から構成される合同教学委員会を設け、カリキュラムの編成に関する事項や入学者選抜試験に関する基本的事項などについて審議する。

この教学委員会に、自己点検評価部会を設置し、継続的に点検・評価を行い、共同教員養成課程全体の教育の質の向上を図ることとしている。

13-2-2 各大学学部・学類の自己点検評価委員会

共同教員養成課程の教学に関する自己点検・評価を行う協議組織として、授業評価アンケートや各種の満足度調査等の学生の意識調査及び成績分布等の学生の学修達成度のデータの収集・分析等を基に教育方法の自己点検・評価を行う自己点検評価委員会を両大学の共同教員養成課程に設置する。両大学による共同教員養成課程合同教学委員会自己点検評価部会と学部・学類の自己点検評価委員会との連携による点検・評価体制を構築し、共同教育課程全体の改善に繋げていく体制とする。

14. 情報の公表

両大学それぞれの公式 Web サイトにおいて、大学の理念と中期目標・中期計画等の大学が目指している方向性を発信するとともに、カリキュラム、シラバス等の教育情報、学則等の各種規程や定員、学生数、教員数等の大学の基本情報を公表している。具体的には以下のとおりである。

- ① 大学の教育研究上の目的に関する事
- ② 教育研究上の基本組織に関する事
- ③ 教員組織、教員数、各教員が有する学位、業績及び教育研究の専門領域に関する事
- ④ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事
- ⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関する事
- ⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関する事
- ⑦ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関する事
- ⑧ 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関する事
- ⑨ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康などに係る支援に関する事
(上記①～⑨に関する Web サイト)

【富山大学】

<https://www.u-toyama.ac.jp/outline/information/education-act/>

【金沢大学】

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyouhoukoukai/kyoiku>

⑩ その他

- ・ 学則等各種規程

【富山大学】

<http://www3.u-toyama.ac.jp/soumu/kisoku/index.htm>

【金沢大学】

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/kiteishu/aggregate/catalog/index.htm>

- ・ 学部等の設置に係る情報

【富山大学】

<https://www.u-toyama.ac.jp/outline/information/public/establish/>

【金沢大学】

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyouhoukoukai/disclosure/secchi>

- ・ 自己点検・評価等に係る情報

【富山大学】

<https://www.u-toyama.ac.jp/outline/goal-plan/assessment/>

【金沢大学】

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/management/evaluation>

15. 教育内容等の改善を図るための組織的な取組

15-1 全学的な取組状況

富山大学では、教育・学生支援機構の下に教育担当理事をセンター長とした「教育推進センター」を設置し、教育の質保証や教育評価、全学的 FD に関することを審議し、実施している。

また、大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、全学的に職務関連研修を実施するほか、大学職員に必要な知識・技能を習得させ、必要な能力及び資質を向上させるために以下の取組を実施している。

- ① 個人情報保護に関する研修会（役員及び教職員を対象に個人情報保護管理への理解と意識向上を促すために講義形式で研修を実施するもの）
- ② コンプライアンス教育及び研究倫理教育（非常勤職員も含めた全研究者を対象に研究者の倫理観を醸成し、研究活動における不正行為及び研究費の不正使用を事前に防止するために、CITI Japan プロジェクトによる e-ラーニングを実施するもの）
- ③ 情報セキュリティ研修（同大学において情報システム利用ユーザ ID を使用する派遣社員を含めたすべての教職員を対象に、同大学における組織的な情報セキュリティ水準の向上を促すために、e-ラーニングを実施するもの）
- ④ 事務系職員スキルアップ研修（事務系職員を対象に、同大学職員における階層（フレッシュ～マネージャークラス）ごとに求められる必要な知識を学ぶために、e-ラーニングを実施するもの）

金沢大学では、教育企画会議（議長：教育担当理事）の下に、全学の FD 委員会を置き、授業の内容、方法の改善等による教育の質の向上並びに学生の心身の保護とキャリア形成を促進する等の学生支援を組織的に行えるよう体制を整備している。この FD 委員会の下、全学における FD 活動について、年度ごとに報告書を作成・公開し情報の共有にも取り組んでいる。また、令和 3 年度に同大学の教学マネジメントを一元管理する「教学マネジメントセンター」を設置し、大学全体、学域・研究科等における学位プログラム及び授業科目レベルでの内部質保証システムをより強化し、学修者本位の教育の実現を図るための教育改善に取り組むこととしている。このほか、教員評価委員会において教員評価大綱を策定し、毎年、教員の業績評価を実施し、教員が自ら点検・評価を行うとともに、ピアレビュー形式での評価や、部局長・学長等による階層化された評価を行い、教員資質の維持向上を図っている。

職員研修においては、コンプライアンス研修（情報セキュリティ、研究の不正防止を含む。）や職員ビジネス英語研修、職員パソコン研修、ハラスメント防止研修、民間派遣研修、海外派遣研修等のほか、役職に応じて必要な識見を得るための階層別職員研修や、担当職務を円滑に遂行するための実務研修を実施している。また、東海・北陸・近畿地区学生指導研修会や、国立六大学事務職員研修会等に職員が参加する機会を設け、積極的な参加を奨励している。

15-2 共同教員養成課程における取組

共同教員養成課程における教育体制・教育方法等の点検・評価を実施するなど、教育の質保証及び教学マネジメントのPDCAサイクルの構築を図るため、両大学の学部長、学類長、副学部長、教務委員長から構成される合同教学委員会を設け、カリキュラムの編成に関する事項、入学者選抜試験に関する基本的事項及びFD活動の方針に関する事項などについて審議する。

この教学委員会に、教育方法検討（FD）部会を設置し、両大学合同でのFD活動を企画・実施していくことにより、共同教員養成課程全体の教育内容等の改善を図ることとしている。

16. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

16-1 教育課程内の取組について

共同教員養成課程においては、養成する人材像として、一人一人の子どもに、相互に人格と個性を尊重し支え合い、変化する時代の中で豊かな人生と新たな社会を創り出すために必要な資質・能力を育むことができる、「豊かな人間性と社会性および教育への情熱と使命感を持った教員」を目標としている。教員としての豊かな人間性と社会性、幅広い教養と知性に加え、教科等に関する専門知識や技能、それらを教授する基礎的能力、児童生徒理解に関する知識、学校現場における現代的課題に対応した教育活動を構想する能力を重視し、子どもへの教育的愛情と教員としての使命感、責任感、倫理観を身に付けるための教育を行い、多様化・複雑化する教育現場の諸課題の解決に向かって行動する学校教員を組織的及び計画的に養成する。

具体的には、以下のようにカリキュラム全体を通じて、実践力を身に付けた教員を養成するためのプログラムを計画している。

①基礎ゼミナール（富山大）、アカデミックスキル（金沢大）

1年次に履修させ、大学教育や教員を目指す意義について理解させるとともに、授業中やオフィスアワーを通じ、教員と学生の結びつきを深める。なお、後述する課程外の学生ユニット単位の指導と並行して、定期的に双方の大学の間でオンラインによる合同ゼミを開催し、他キャンパスの学生との意見交換により、比較の視点、コミュニケーション力や他者への理解、学生間の交流を図る。

②学校インターンシップⅠ（1年次）（教育実習とも関連する）

富山県教育委員会と緊密に連携を行いながら実施するプログラムで、富山県内の小学校現場を体験し、教職の心構えを醸成する。学生は実際に学校現場を補助する役割を担い、教員としての立場や仕事を実践的に学べる。富山大学と富山県教育委員会の長年の連携の成果によるものであり、富山大学が開講し、両大学の学生が選択して履修する。

③学校インターンシップⅡ（2年次）（教育実習とも関連する）

石川県教育委員会との連携により、石川県内において、学生の希望に応じた校種で、実践的な学校現場体験を実施する。金沢大学と石川県教育委員会との協力体制によるものであり、金沢大学が開講し、両大学の学生が選択して履修する。

学生は1年次に富山でのインターンシップを体験し、2年次に金沢でのインターンシップを体験することが可能で、異なる地域や校種での学びを通じて「比較」の視点が養われる。また、1、2年次にこうした形で学校現場に入り、子どもとの触れ合いや学校の実務を体験することは、3、4年次の教育実習においても極めて重要な効果がある。

④教育実習（富山県と石川県を選択可能）

小学校、中学校、特別支援学校、幼稚園における教育実習を各大学で実施す

る。実習校で教職員の指導を受けながら、大学で学んだ専門知識・技能に加えて、指導や支援の方法や技術を「教師」の立場で検証するとともに、園児・児童の実態や、学校・学級経営及び幼稚園・小学校における教育活動の特色について理解を深化させる。また、学生の希望により就職を予定する県（富山県・石川県に限る）での教育実習を選択可能とすることにより、学生のモチベーションを高め、実習現場でのより主体的な教育実習を目指す。

⑤教職実践演習

「教師になるためのノート」等を用いてこれまでの学修を振り返り、自己の到達点を確認するとともに、教職についての考えを深めるためのグループワークや模擬授業等を通して、教員として必要な資質・能力を確認し、それらの向上を図る。教育学の専門教員が教員の役割や教職に必要とされる社会性、児童・生徒理解や学級経営等について講義とグループワークを行い、授業参与観察の方法を指導する。また、教科専門の教員が指導案の作成や検討について講義とグループワークを実施し、模擬授業の助言指導を行う。教科教育法と教科内容の融合による指導効果を狙った科目である。

16-2 教育課程外の取組について

16-2-1 学生集団（ユニット）を活用した履修指導

本共同教員養成課程における学生指導は、「5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件」でも述べたように、これまでの両大学の長所を生かしながらも、学生の選択の自由を尊重した全く新しいユニット単位による学生指導体制を構築する。

16-2-2 ユニット単位による学生指導

教科ごとに括られた集団（専修や教室）による学生指導体制はとらず、教員組織から独立した学生集団（ユニット）を組織する。学生は4年間、同一ユニットに所属し、各ユニットには1年生から4年生までの学生が混在することになる。希望校種や免許とは関係なく、1年次で学生をランダムにユニットに割り振ることで、ユニット内の多様性を担保する

各大学で18のユニット（ユニットA～ユニットR）を作り、それぞれのユニットには各学年4～5名の学生が配置される。完成年度には各ユニットに全学年合わせて20名弱の学生が所属することになる。しかし、一定規模の集団を構成できるように、設置2年目までは複数のユニットを組み合わせたユニット群単位で指導する。設置1年目はユニットを3つずつ組み合わせ、6つのユニット群を作る（各ユニット群の学生数は15名弱）。設置2年目は2ユニットを組み合わせ、9つのユニット群を組織する（各ユニット群の所属学生は20名弱）。設置3年目以降は、単独のユニットで15名程度の学生が確保できるため、ユニット群は作らず、ユニット単位で活動する。

各ユニットには2～3名の担当教員が配置され、担当教員は原則として同一ユニットを継続的に指導する。学生とのマッチングや教員の負担の均等化を考慮して、2～4年を目処にユニットごとの担当を一部入れ替えていくことも計画している。

さらに、富山大学のユニットAと金沢大学のユニットAというように、同一名称の

ユニットを両大学で一对とする。対になっている当該ユニットの担当教員は協働して、両大学の学生の積極的な交流を促すと共に、教員自身もパートナー大学のユニットの学生と関わる機会を持つ。地理的条件の制約から、富山大学と金沢大学の学生が日常的に交流することは現実的でないが、オンラインでの共同活動や懇親の機会を設けることを想定している。また、1年に1回以上、パートナー大学のユニットと対面で交流することを原則とする。

この学生ユニットの目的の一つは4年間一貫の学生指導である。指導教員は4年間を通じて同じ学生を指導することで、学生の成長や学年に応じた効果的なアドバイスができるようになる。教員と学生の対面指導は、年に4回程度（第1クォーター及び第2クォーターでそれぞれ1回、教育実習後1回、第4クォーターで1回）を設定し、そのうちの1回は両大学の学生が交流する合同指導とする。合同指導では討論大会やスポーツ大会を企画し、学生たちが自然に交流できる仕掛けを設ける。対面指導の折には教職への希望なども聴取し、IRデータの収集とともに、教員志望の動向を把握できるようにする。さらには近年、不登校などの大学生の学習不適応事例が増加しており、そうした学生にいち早く手を差し伸べるためにも、担任制の指導体制が必要になる。

各ユニットに異学年を配置するのは、学生間の縦のつながりを深めるためである。以前に比べて、クラブ活動やサークル活動に参加する学生の割合が小さくなっており、上下の学年との関係が希薄になってきている。共同教員養成課程の学生は教員という共通の職種を目指すため、身近な先輩の姿は職業の具体的イメージを掴むためにはきわめて重要である。また、将来のコネクションづくりの場としても、ユニット制は大いに利点がある。

16-2-3 学生指導の方法（教材と授業での活用）

ユニットを通じた学生指導の基本教材として、金沢大学で使用してきた「教師になるためのノート」と富山大学が出版した「教育実習ガイドブック」を使用する。「教師になるためのノート」は自己学習教材で、そこに用意された今日的な教育課題について学生がレポートを作成し教員に提出することで、思考の記録を伴ったポートフォリオ的な役割を果たす。他方、「教育実習ガイドブック」は学校活動体験や教育実習に至るまで、学校現場での学生の活動の総合的な指標になる。学年に応じて二つの教材の重み付けを変えることで、学生の学年に応じたきめ細やかな指導を行う。グループによって課題の軽重が出ることを防ぐために、教員には詳細な指導マニュアルを配布し、均質で高い質の指導を保証する。これらは授業外の課外活動として行う。

学生ユニットは授業におけるグループ活動にも活用できる。本共同教員養成課程には、「教育の基礎的理解に関する科目」や「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「先進的教育科目（共通領域）」のように、一つの学年の全学生が受講する授業が多数存在する。そうした授業のグループワークやアクティブ・ラーニングにおいて、学生ユニットを積極的に利用する。授業内にユニットを取り入れ、グループで課題に取り組みせることで、学生同士の連帯を深めることができる。こうした必修授業は1年から3年次まで配置されており、その後4年次に

開講される教職実践演習に至るまで、継続的にユニットの存在意義が維持される。

教育実習の事前事後指導も学生ユニットを利用して行う。特にパートナー大学側の県での教育実習を希望する（富山大学の学生が石川県で実習する、あるいは金沢大学の学生が富山県で実習する）場合には、当該学生の所属ユニットと対になったパートナー大学側のユニットの担当教員が実習指導教員に加わることで、「見知らぬ教員に指導される」という不安を解消することができる。さらに、卒業研究の発表会なども、本ユニット単位で行うことが考えられる。

16-2-4 学生ユニットと科目グループ

前述したとおり、本共同教員養成課程においては教員組織と学生組織を分離する。教員は教科・免許種ないし学問領域で分けられた科目グループに属し、その主要目的は免許科目の安定的な維持である。従来、この科目グループに該当する教科・学問領域ごとの単位で学生の指導を行う体制（専修・コース制）が両大学で採用されていたが、学生同士の関わりの密度が専修・コースによって大きく異なるという欠点があった。たとえば、所属学生人数の少ない教科と多い教科では数倍の人数差もめずらしくない。多様性と「比較」の視点の獲得を学生教育の最重要項目の一つに掲げる共同教員養成課程においては、そうした格差を解消する必要があるため、科目グループと学生ユニットを分離する。

学生は希望する免許に応じて、科目グループが提供する授業を履修する。他方、卒業研究は希望免許とは別の科目グループから選択することもできる。これによって、入学時には、特別支援学校の教育について漠然と考えていたものの、大学の授業をとおして美術の教育方法を学び、特別支援学校の子どもに効果的な美術教育の方法を探究することへの関心が強くなったなどの、「変化する学生」に対応できる。

学生の所属先はユニットであるものの、同一科目グループの授業を履修する学生の間に連帯が生まれ、新たなサブユニットを形成することも想定・推奨する。また、卒業研究のテーマを選択する際にも、サブユニットが生まれる可能性がある。こうして学生は同時に多数の集団に身を置くことになる。同じ科目グループの中での学生の価値観やサブユニットでの学生の価値観と、学生ユニットでの学生の価値観とを比較できることも、ユニット制の利点である。

さらに富山大学では、就職・キャリア支援センター、金沢大学では就職支援室を中心に、就職ガイダンス、キャリア支援イベント、企業説明会、官公庁説明会など学生の幅広い体験・学修の機会を設けて社会的・職業的自立を支援している。また、インターンシップも職場体験型インターンシップと企業の技術者が講師を行うタイプのインターンシップを実施しており、専門的な学びだけではなく、人として、また社会人としての総合的な力量の向上を図っている。更に同センターでは、1年間を通じて多様な就職セミナー・ガイダンスを実施しており、これらは単に就職活動を支援するだけでなく、これから社会を生き抜くための人間力の形成に結びついている。

16-3 適切な体制の整備について

本共同教員養成課程の管理運営に関し、両大学の専任教員で構成する「共同教員養

成課程連絡協議会」「共同教員養成課程運営会議」「共同教員養成課程合同教学委員会」を設置し、共同教員養成課程の編成及び実施等に係る事項を協議する。なお、共同教員養成課程の設置検討に伴い組織した専門部会（「構成・特色検討部会」「教育課程（カリキュラム）検討部会」「教育実施体制検討部会」）の機能を継承するものとし、両大学の各教科等小部会と連携を図りながら、カリキュラムをマネジメントする。

また、富山大学では、就職・キャリア支援センターにおけるセンター会議の委員には、各学部から1名の教員等が参加し、センターと学部との連携の下で社会的・職業的自立に向けた取組を推進している。新学部からも同センター会議に委員を選出し、全学との連携の下で多様なニーズに対応する。金沢大学では、全学的な体制として教育企画会議の下に「金沢大学キャリア形成支援委員会」が設置されているほか、実際の支援体制として、金沢大学就職支援室が設置されており、キャリアカウンセラーによる就職・進路相談が行われている。

富山大学教育学部共同教員養成課程

金沢大学人間社会学域学校教育学類共同教員養成課程

設置の趣旨等を記載した書類（別添資料）

目次

資料 1	共同教育課程における方針	p. 2
資料 2	共同教員養成課程カリキュラムマップ	p. 3
資料 3	共同教員養成課程の教育の特色	p. 4
資料 4-1	先進的教育科目の条件	p. 5
資料 4-2	先進的教育科目のカテゴリー	p. 6
資料 4-3	先進的教育科目の具体例	p. 7
資料 4-4	先進的教育科目一覧	p. 8
資料 5-1	共同教員養成課程の入学から卒業まで	p. 12
資料 5-2	共同教員養成課程履修モデル	p. 13
資料 5-3	小学校教諭一種免許状取得に係る科目の履修	p. 14
資料 6	パートナー大学開設科目の履修	p. 15
資料 7	共同教員養成課程における履修指導	p. 16
資料 8-1	教育実習受入承諾書	p. 17
資料 8-2	実習施設一覧	p. 29
資料 9	共同教員養成課程における教育実習・学校現場体験・学習サポート	p. 34
資料 10-1	国立大学法人富山大学職員就業規則	p. 35
資料 10-2	国立大学法人金沢大学職員就業規則	p. 48
資料 11	共同教員養成課程組織図（案）	p. 75

共同教育課程における方針

【教員養成学部が対応すべき現代の教育課題】

- 複雑化・多様化する教育問題
(不登校、学習障害、外国籍の子どもに対する支援)
- 教科横断や新分野などの新たな教育領域
(国際化、ICT支援、プログラミング教育)
- 広範な教科の専門知識の必要性
(小学校における教科担任制の導入)
- 自主性を促進する教育方法の提供
(アクティブラーニング、個に応じた支援)
- 長期的展望に立ったカリキュラム設計
(複数校種免許の取得の必要性)

その解決へ向けて

多彩な教員による現在の教育課題を見据えた

先進的な教育内容 の提供

および、きめこまやかな学生指導

複数の大学が共同運営することで
可能になる多様性のあるカリキュラム

これからの

教員養成

多彩な教員による多岐にわたる
先進的教育科目を開設することで

複雑化する教育問題に応える
「比較」する視点の涵養

先進的教育科目を中心とした新しい教員養成課程へ

- 先進的教育科目を
すべての科目区分に開設
- 先進的教育科目は
すべて「必修」

共同教員養成課程カリキュラムマップ

養成する人材像

豊かな人間性と社会性、教育への情熱と使命感を持ち、教科や教職に関する専門知識と技能を身に付け、新たな教育的課題に適切に対応できる実践力のある者

学位

学士
(教育学)

ディプロマ・ポリシー

1. 教員としての豊かな人間性と社会性、幅広い教養と知性を持ち、自己研鑽を積む態度を身に付けている。
2. 子どもへの教育的愛情と教員としての使命感、責任感、倫理観を身に付けている。
3. 幼児期から児童・青年期における発達や特性をふまえた児童生徒理解に関する知識を身に付けている。
4. 教科や教職に関する専門知識と技能を身に付けている。
5. 教育に関する理論と方法を活用し、教育実践を展開する基礎的能力を身に付けている。
6. 学校現場における現代的課題に対応した教育活動を構想することができる。
7. 学校における組織的な取り組みを理解し、学校関係者（保護者・地域住民・同僚教員・管理職など）と連携・協働する態度を身に付けている。

カリキュラム・ポリシー

1. 自己確立した社会人としての教員を養成する学修
知性と良識を備え、自己の判断基準や価値基準に基づいて自律的に行動できる社会人としての教員を養成するため、幅広い基礎的な学識を提供し、仲間との交流を通じて思考力を涵養する科目を主として1年次に配置
2. 学校教育についての理解を深める学修
校種や教科などの個別領域の学びをより効果的にするために、教育制度の概要を理解し、それぞれの学生が目指す校種や教科が教育課程上どのように位置づけられるのか、学校とは何か、子どもとは何かを、幅広い視野をもって考える科目を主として2年次に配置
3. 教員としての専門知識とその実践
学生がより現実的な教員像に到達できるように、1～2年次までに学んだことを土台にして、小学校や中学校などの校種独自の科目についての専門的な知識、その教授方法の修得、さらにはこれら二つを組み合わせた教育実践という三つの段階を効果的に学べる科目を主として3～4年次に配置
4. 現代的教育課題に挑戦する学修
これからの学校教育が必要とする新しい知識や技量の獲得に、的確に対応するための科目を先進的教育科目と総称し、各段階の学習過程に配置
5. 俯瞰して「比較」する視点を備えた教員を養成する学修
個人之力では解決が困難な教育問題に、同僚とともに取り組むときに必要な、自己と他者の意見を客観的に比較する態度や、自らの実践を言語化し説明する能力を養う科目を設定する一方で、義務教育全体を俯瞰し検討できるよう、複数の教員免許の取得が可能な科目を配置

主要な科目

教養教育科目 (富山)
共通教育科目 (金沢)

先進的教育科目
(共通領域)

教職に関する科目(旧教職)
(先進的教育科目を含む)

小学校教科指導法
(先進的教育科目を含む)

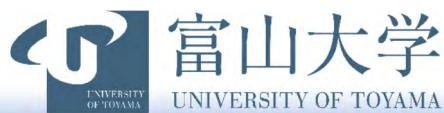
小学校教科専門
(先進的教育科目を含む)

中学校等教科指導法
(先進的教育科目を含む)

中学校等教科専門
(先進的教育科目を含む)

教育実習
学校インターンシップ等

共同教員養成課程の教育の特色



養成する人材像

豊かな人間性と社会性、教育への情熱と使命感を持ち、
教科や教職に関する専門知識と技能を身に付け、
新たな教育的課題に適切に対応できる実践力のある者



広範囲にわたる教育人材養成の
実績（富大）

広い教育的視野を備えた
社会人としての教員の養成

長年の複数免許取得カリキュラム
の実績（金大）

富山県の地域特性

- ・ 僻地とオンライン教育
- ・ 環境に関する教育

地域性と国際性を両立する
カリキュラムの展開

石川県の地域特性

- ・ 伝統文化についての教育
- ・ 国際理解のための教育

地域教育のリーダーの育成

（長期的な目標）

高い倫理観と社会性

教育への情熱・使命感

「比較」する視点の涵養

（カリキュラムの目標）

実体験を伴う豊富な知識・高い技能

様々な教育方法の探究と実践

複数の校種についての理解

一般学部として培った多様性に
富んだテーマの授業（富大）

多様化する現在の教育テーマ
を扱う先進的教育科目

よりよい教員養成を探究して生
まれた大学独自科目群（金大）

「教育実習ガイドブック」に基
づく体系的な実習指導体制

学生ユニットによる
4年間一貫の指導体制

「教師になるためのノート」を
中心に展開する学生指導体制

富山県教育委員会との連携事業

広域的な教員養成

石川県教育委員会との連携事業

先進的教育科目の条件

総合性

教科横断的・現代的・
複合領域的な課題を扱う科目



- 「SDGs教育実践演習」
- 「未来をつくる教育課程」
- 「日本文学概論（教育と文学の関係を含む）」

個別性

特別支援など
個に応じた支援を扱う科目



- 「インクルーシブ教育基礎演習」
- 「発達と教育（自己創出としての発達）」
- 「教授・学習心理学（個別最適化学習の理論と実践）」

“先進的教育科目”

教員養成科目の領域を
柔軟に越境し架橋する新しい科目

地方性

各県の教育実践や
教育課題を扱う科目



- 「富山県の教育実践」
- 「石川県の教育実践」
- 「国語科基礎（書写を含む）（地域の文学を含む）」

国際性

英語の教材、他国との比較、
異文化との接触を扱う科目



- 「国際化と学校教育」
- 「教職と学校」
- 「異文化理解（英語教育の中の異文化理解）」

先進的教育科目のカテゴリー

先進的教育科目のカテゴリー	内容	テーマ例
共通領域	<ul style="list-style-type: none"> □ 免許種に関わらず、教員を目指すすべての学生が学んでおくべき領域を扱ったもの。 	<ul style="list-style-type: none"> □ インクルーシブ教育、プログラミング教育、SDGs教育、国際理解教育
個別領域	教育の基礎的理解や生徒指導法等に関する科目（旧教職科目） <ul style="list-style-type: none"> □ 教育の基礎的理解に関する科目で、とりわけ現代の課題に焦点を当てたもの。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 現代の教育問題と教育史、現代の学級経営と司法制度
	小学校 教科指導法 <ul style="list-style-type: none"> □ 両県の小学校の教育実践に焦点を当て、共同課程の学生が、地域の教育の特性を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 石川県の教育実践、富山県の教育実践
	小学校 教科専門 <ul style="list-style-type: none"> □ 小学校教科の中でも現代的な課題に焦点を当てた内容のもの。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 国語教材の比較研究、算数教材と教育方法の考え方
	中学校等 教科指導法 <ul style="list-style-type: none"> □ 両県の中学校の教育実践に焦点を当て、共同課程の学生が、地域の教育の特性を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 石川県の教育実践、富山県の教育実践
	中学校等 教科専門 <ul style="list-style-type: none"> □ 中学校教科専門の中でも現代的な課題に焦点を当てた内容のもの。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 英語文学と現代の教科書、英語教育の中の異文化理解
	特別支援教育 <ul style="list-style-type: none"> □ 特別支援教育領域科目の中でも現代的な課題に焦点を当てた内容のもの。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 特別支援教育と教育・医療・福祉の機関連携



“共通領域”



免許種類に応じた
“個別領域”



**現代的な教育課題に
対応できる教員の養成**

先進的教育科目の具体例



富山大学が開設する先進的教育科目

のべ149科目

選択する免許種に応じて全て必修科目



金沢大学が開設する先進的教育科目

先進的教育科目（共通領域）

- インクルーシブ教育基礎演習 I
- 遠隔教育実践論
- 小学校プログラミング教育の理論と実践 I
- 富山県の教育実践 I

全学生必修

- 中学校・高等学校の特別支援教育 I
- 国際化と学校教育 I
- SDGs教育実践演習 I
- 石川県の教育実践 I

教育の基礎的理解に関する科目等

- 教職とこれからの教育
- 教授・学習心理学（個別最適化学習の理論と実践）
- 未来をつくる教育課程

全学生必修

- 教育制度概論（就学保障と学校安全）
- 発達と教育（自己創出としての発達）
- 現在をつくる教育課程

小学校 教科指導法

- 「富山県の教育実践」として共通領域で設定

全学生必修

- 「石川県の教育実践」として共通領域で設定

小学校 教科専門

- 国語科基礎 A（書写を含む）（低・中学年の国語科と現代の教育課題）
- 社会科基礎 A（中学年の社会科と現代の教育課題）
- 家庭科基礎 A（住居・食物と現代の教育課題）

全学生必修

- 国語科基礎 B（書写を含む）（地域の文学を含む）
- 社会科基礎 B（高学年の社会科と現代の教育課題）
- 家庭科基礎 B（被服・家庭経営と現代の教育課題）

中学校等 教科指導法

- 数学科教育法 I（富山県の教育実践を含む）
- 英語科教育法 I（富山県の教育実践を含む）

免許種に応じて必修

- 数学科教育法 III（石川県の教育実践含む）
- 英語科教育法 III（石川県の教育実践含む）

中学校等 教科専門

- 理科内容 C（生物共通性概論と現代理科教育）
- 保育内容総論（保育実践を巡る最新動向を含む）

免許種に応じて必修

- 理科内容 B（無機化学概論と現代理科教育）
- 保育内容(表現)（表現に関する現代的課題を含む）

特別支援教育

- 肢体不自由児の心理・生理・病理 I（教育・医療・福祉の機関連携を含む）

免許種に応じて必修

- 聴覚障害の心理・生理・病理 I（教育・医療・福祉の機関連携を含む）

先進的教育科目一覧

先進的教育科目はすべて、以下の4つの観点のいずれか又は複数の内容を有している。

総合性：教科横断的・現代的・複合領域的な課題を扱う科目

個別性：特別支援など個に応じた支援を扱う科目

地域性：各県の教育実践や教育課題を扱う科目

国際性：英語の教材、他国との比較、異文化との接触を扱う科目

履修対象	科目区分	授業科目の名称	開設大学	先進性の分類			
				総合性	個別性	地域性	国際性
全学生	共通領域	インクルーシブ教育基礎演習Ⅰ	富山大学		○		
		インクルーシブ教育基礎演習Ⅱ	富山大学		○		
		中学校・高等学校の特別支援教育Ⅰ	金沢大学		○		
		中学校・高等学校の特別支援教育Ⅱ	金沢大学		○		
		遠隔教育実践論	富山大学	○			
		遠隔教育実践演習	富山大学	○			
		小学校プログラミング教育の理論と実践Ⅰ	富山大学	○			
		小学校プログラミング教育の理論と実践Ⅱ	富山大学	○			
		石川県の教育実践Ⅰ	金沢大学			○	
		石川県の教育実践Ⅱ	金沢大学			○	
		富山県の教育実践Ⅰ	富山大学			○	
		富山県の教育実践Ⅱ	富山大学			○	
		国際化と学校教育Ⅰ	金沢大学				○
		国際化と学校教育Ⅱ	金沢大学				○
		SDGs教育実践演習Ⅰ	金沢大学	○		○	
		SDGs教育実践演習Ⅱ	金沢大学	○		○	
	教育に関する基礎的科目理解に	教職とこれからの教育	富山大学	○		○	
		教職と学校	金沢大学	○			
		教育経営概論（教育改革と学校経営）	富山大学	○		○	
		教育制度概論（就学保障と学校安全）	金沢大学	○			○
		教授・学習心理学（個別最適化学習の理論と実践）	富山大学		○		
		発達と教育（自己創出としての発達）	金沢大学		○		
		未来をつくる教育課程	富山大学	○			
		現在をつくる教育課程	金沢大学	○			○
		教育技術学	富山大学	○			
		教育方法探究	金沢大学	○			
	小学校の専門的科事に	国語科基礎A（書写を含む）（低・中学年の国語科と現代の教育課題）	富山大学			○	
		国語科基礎B（書写を含む）（地域の文学を含む）	金沢大学			○	
		社会科基礎A（中学年の社会科と現代の教育課題）	富山大学	○		○	
		社会科基礎B（高学年の社会科と現代の教育課題）	金沢大学	○		○	
		家庭科基礎A（住居・食物と現代の教育課題）	富山大学	○			
		家庭科基礎B（被服・家庭経営と現代の教育課題）	金沢大学	○			
	幼稚園免許選択者	幼児教育	幼児と人間関係（社会性のつまずきと支援の現代的課題）	富山大学	○	○	
幼児と人間関係（社会性の発達と現代的課題）			金沢大学	○	○		
保育内容総論（保育実践を巡る最新動向を含む）			富山大学	○			
保育内容（健康）（健康に関する現代的課題を含む）			金沢大学	○			
健康の指導法（現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例を含む）			富山大学			○	
保育内容（環境）（環境に関する現代的課題を含む）			金沢大学	○			
環境の指導法（現代的課題を踏まえた石川などの地域の保育実践と最新指導事例を含む）			金沢大学	○		○	
保育内容（言葉）（言葉に関する現代的課題を含む）			金沢大学	○			
言葉の指導法（現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例を含む）			富山大学	○		○	
保育内容（表現）（表現に関する現代的課題を含む）			金沢大学	○			
表現の指導法（現代的課題を踏まえた富山などの地域の保育実践と最新指導事例を含む）			富山大学	○		○	

履修対象	科目区分	授業科目の名称	開設大学	先進性の分類			
				総合性	個別性	地域性	国際性
特別支援学校免許選択者	特別支援教育	特別支援教育基礎論Ⅰ（石川県の教育実践を含む）	金沢大学		○	○	
		特別支援教育基礎論Ⅱ（富山県の教育実践を含む）	富山大学		○	○	
		肢体不自由児の心理・生理・病理Ⅰ（教育・医療・福祉の機関連携を含む）	富山大学	○	○		
		肢体不自由児の心理・生理・病理Ⅱ（教育・医療・福祉の機関連携を含む）	富山大学	○	○		
		病弱児の心理・生理・病理Ⅰ（教育・医療・福祉の機関連携を含む）	富山大学	○	○		
		病弱児の心理・生理・病理Ⅱ（教育・医療・福祉の機関連携を含む）	富山大学	○	○		
		聴覚障害の心理・生理・病理Ⅰ（教育・医療・福祉の機関連携を含む）	金沢大学	○	○		
		聴覚障害の心理・生理・病理Ⅱ（教育・医療・福祉の機関連携を含む）	金沢大学	○	○		
		肢体不自由教育論Ⅰ（教育の現代的課題を含む）	金沢大学	○	○		
		肢体不自由教育論Ⅱ（教育の現代的課題を含む）	金沢大学	○	○		
中学国語免許選択者	国語教育	日本語表現Ⅰ（言語指導におけるデータと理論の融合）	富山大学	○			
		日本語表現Ⅱ（言語指導におけるデータと理論の融合）	富山大学	○			
		日本文学概論Ⅰ（教育と文学の関係を含む）	富山大学	○			
		日本文学概論Ⅱ（国語教科書と文学理論）	富山大学	○			
		日本文学史Ⅰ（教育上の現代的課題を含む）	金沢大学	○			
		日本文学史Ⅱ（教育上の現代的課題を含む）	金沢大学	○			
		漢文学概論Ⅰ（教育上の現代的課題を含む）	金沢大学	○			
		漢文学概論Ⅱ（教育上の現代的課題を含む）	金沢大学	○			
		国語科教育法Ⅰ（石川県の教育実践を含む）	金沢大学			○	
		国語科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）	金沢大学			○	
		国語科教育法Ⅲ（富山県の教育実践を含む）	富山大学			○	
		国語科教育法Ⅳ（富山県の教育実践を含む）	富山大学			○	
中学社会免許選択者	社会科教育	西洋史学概論Ⅰ（現代的課題を踏まえて）	富山大学	○			○
		西洋史学概論Ⅱ（現代的課題を踏まえて）	富山大学	○			○
		政治学概論Ⅰ（現代的課題を含む）	富山大学	○			
		政治学概論Ⅱ（現代的課題を含む）	富山大学	○			
		社会学概論Ⅰ（現代的課題を含む）	富山大学	○			
		社会学概論Ⅱ（現代的課題を含む）	富山大学	○			
		哲学概論Ⅰ（哲学と現代的教育状況）	金沢大学	○			○
		哲学概論Ⅱ（哲学と現代的教育状況）	金沢大学	○			○
		倫理学Ⅰ（現代応用倫理学を含む）	金沢大学	○			○
		倫理学Ⅱ（現代応用倫理学を含む）	金沢大学	○			○
		社会科・地歴科教育法Ⅰ（北陸の教育実践を含む）	金沢大学			○	
		社会科・地歴科教育法Ⅱ（北陸の教育実践を含む）	金沢大学			○	
		社会科・公民科教育法Ⅰ（北陸の教育実践を含む）	富山大学			○	
		社会科・公民科教育法Ⅱ（北陸の教育実践を含む）	富山大学			○	
中学数学免許選択者	数学教育	線形代数学概論Ⅰ（代数と現代の数学教育を含む）	富山大学	○			
		線形代数学概論Ⅱ（代数と現代の数学教育を含む）	富山大学	○			
		幾何学概論Ⅰ（幾何学と現代の数学教育を含む）	金沢大学	○			
		幾何学概論Ⅱ（幾何学と現代の数学教育を含む）	金沢大学	○			
		確率論概論（確率論と現代の数学教育を含む）	金沢大学	○			
		統計学概論（統計学と現代の数学教育を含む）	金沢大学	○			
		コンピュータ概論Ⅰ（授業への応用を含む）	富山大学	○			
		コンピュータ概論Ⅱ（授業への応用を含む）	富山大学	○			
		数学科教育法Ⅰ（富山県の教育実践を含む）	富山大学			○	
		数学科教育法Ⅱ（富山県の教育実践を含む）	富山大学			○	
		数学科教育法Ⅲ（石川県の教育実践を含む）	金沢大学			○	
		数学科教育法Ⅳ（石川県の教育実践を含む）	金沢大学			○	

履修対象	科目区分	授業科目の名称	開設大学	先進性の分類			
				総合性	個別性	地域性	国際性
中学理科免許選択者	理科教育	理科内容A（力学概論と現代理科教育）	富山大学	○			
		理科内容A（電磁気学概論と現代理科教育）	金沢大学	○			
		理科内容B（無機化学概論と現代理科教育）	金沢大学	○			
		理科内容B（物理化学概論と現代理科教育）	富山大学	○			
		理科内容C（生物共通性概論と現代理科教育）	富山大学	○			
		理科内容C（生物多様性概論と現代理科教育）	金沢大学	○			
		理科内容D（地球環境科学概論と現代理科教育）	富山大学	○			
		理科内容D（地球物質科学概論と現代理科教育）	金沢大学	○			
		理科教育法Ⅰ（石川県の教育実践を含む）	金沢大学			○	
		理科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）	金沢大学			○	
		理科教育法Ⅲ（富山県の教育実践を含む）	富山大学			○	
		理科教育法Ⅳ（富山県の教育実践を含む）	富山大学			○	
中学音楽免許選択者	音楽教育	音楽科教育法Ⅰ（石川県の教育実践を含む）	金沢大学			○	
		音楽科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）	金沢大学			○	
		音楽科教育法Ⅲ（富山県の教育実践を含む）	富山大学			○	
		音楽科教育法Ⅳ（富山県の教育実践を含む）	富山大学			○	
中学美術免許選択者	美術教育	絵画基礎Ⅰ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）	金沢大学	○			
		絵画基礎Ⅱ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）	富山大学	○			○
		彫刻基礎Ⅰ（現代美術表現を含む）	金沢大学	○			
		彫刻基礎Ⅱ（現代美術表現を含む）	富山大学	○			
		デザイン基礎Ⅰ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）	金沢大学	○			
		デザイン基礎Ⅱ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）	富山大学	○			
		美術科教育法Ⅰ（石川県の教育実践を含む）	金沢大学			○	
		美術科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）	金沢大学			○	
		美術科教育法Ⅲ（富山県の教育実践を含む）	富山大学			○	
美術科教育法Ⅳ（富山県の教育実践を含む）	富山大学			○			
中学保健体育免許選択者	保健体育	スポーツ心理学Ⅰ（最新教育課題を含む）	富山大学	○			
		スポーツ心理学Ⅱ（最新教育課題を含む）	富山大学	○			
		運動生理学Ⅰ（海外の先端事情を含む）	金沢大学				○
		運動生理学Ⅱ（海外の先端事情を含む）	金沢大学				○
		学校保健Ⅰ（教科横断で取り組む学校保健）	金沢大学	○			
		学校保健Ⅱ（教科横断で取り組む学校保健）	金沢大学	○			
		保健体育科教育法Ⅰ（石川県の教育実践を含む）	金沢大学			○	
		保健体育科教育法Ⅱ（石川県の教育実践を含む）	金沢大学			○	
		保健体育科教育法Ⅲ（富山県の教育実践を含む）	富山大学			○	
		保健体育科教育法Ⅳ（富山県の教育実践を含む）	富山大学			○	
中学家庭免許選択者	家政教育	家庭経営学Ⅰ（家庭経済学と消費者市民社会の形成を含む）	金沢大学	○			
		家族関係学（多様な家族と家庭科教育）	金沢大学	○			
		被服学概論Ⅰ（現代の衣生活の諸問題を含む）	金沢大学	○			
		食物学概論Ⅰ（栄養学、食品学及び現代の栄養課題を含む）	富山大学	○			
		食物学概論Ⅱ（栄養学、食品学を含む）	富山大学	○			
		調理実習（地域の食文化比較を含む）	富山大学			○	
		住居学Ⅱ（製図及び富山石川の住宅比較を含む）	富山大学			○	
		保育学概論Ⅰ（現代の保育学の諸問題を含む）	金沢大学	○			
		家庭科教育法Ⅰ（富山県の教育実践を含む）	富山大学			○	
		家庭科教育法Ⅱ（富山県の教育実践を含む）	富山大学			○	
		家庭科教育法Ⅲ（石川県の教育実践を含む）	金沢大学			○	
		家庭科教育法Ⅳ（石川県の教育実践を含む）	金沢大学			○	

履修対象	科目区分	授業科目の名称	開設大学	先進性の分類			
				総合性	個別性	地域性	国際性
中学英語免許選択者	英語教育	英語学概論Ⅰ(文法と現在の英語教育)	富山大学	○			○
		英語学概論Ⅱ(文法と現在の英語教育)	富山大学	○			○
		英語文学概論Ⅰ(イギリス文学と現在の英語教育)	金沢大学	○			○
		英語文学概論Ⅱ(アメリカ文学と現在の英語教育)	金沢大学	○			○
		異文化理解Ⅰ(英語教育の中の異文化理解)	富山大学				○
		異文化理解Ⅱ(英語教育の中の異文化理解)	富山大学				○
		英語科教育法Ⅰ(富山県の教育実践を含む)	富山大学			○	
		英語科教育法Ⅱ(富山県の教育実践を含む)	富山大学			○	
		英語科教育法Ⅲ(石川県の教育実践を含む)	金沢大学			○	
		英語科教育法Ⅳ(石川県の教育実践を含む)	金沢大学			○	

共同教員養成課程の入学から卒業まで



所属大学のキャンパスで、卒業に必要なすべての授業が受講可能*

特徴

教員による両キャンパスでの同一内容の対面講義や、
双方向遠隔授業システムの活用によって、
自大学にいながら、パートナー大学開設の授業を履修

* ただし、合同合宿など、一部の授業を除く

【取得できる免許】

- 小学校教諭免許
- 幼稚園教諭免許
- 中学校教諭免許

国語、数学、社会、理科、音楽*、
美術、保健体育、家庭、英語

*音楽科免許科目はおもに金沢キャンパスで開講

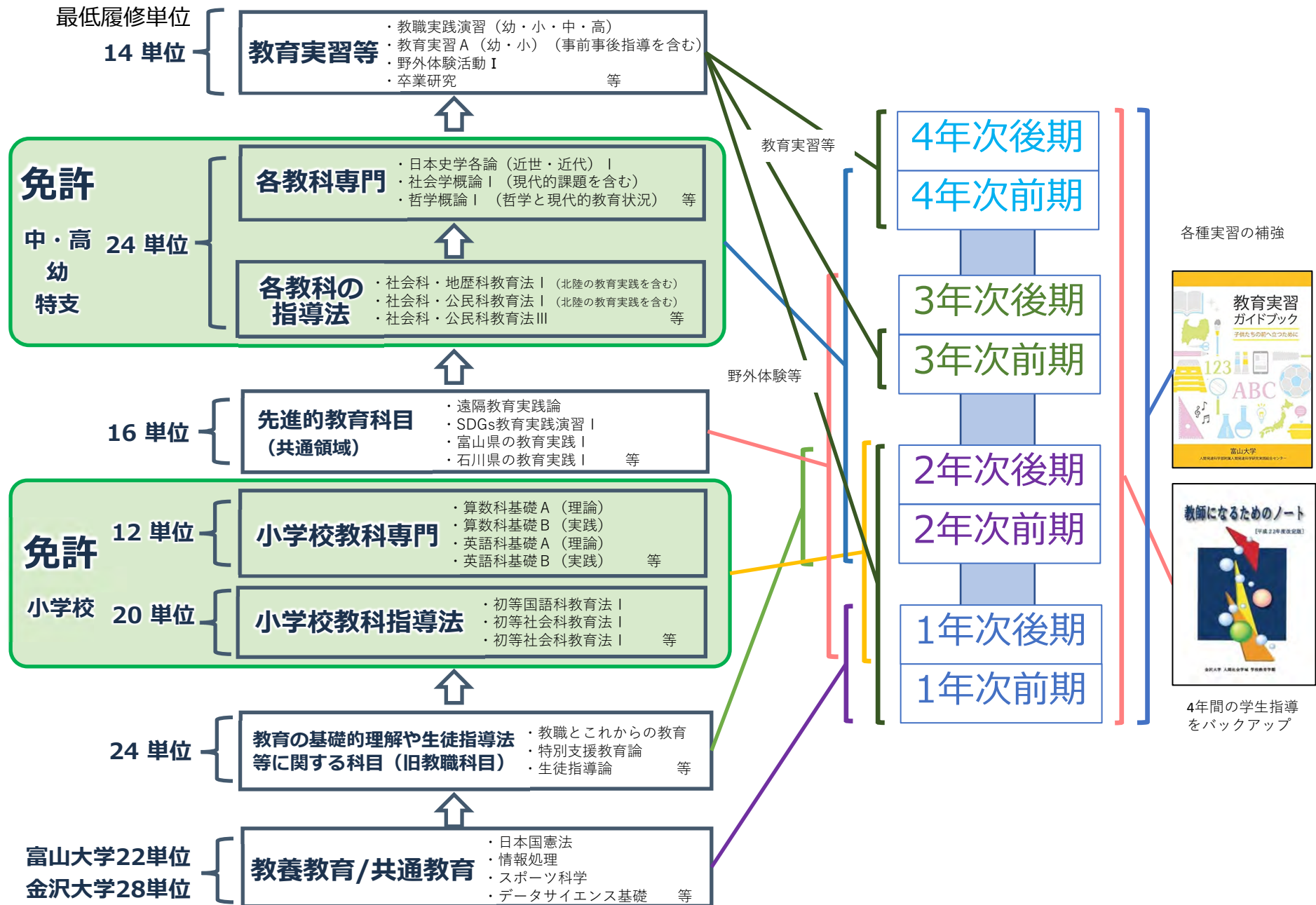
- 高等学校教諭免許
国語、数学、地理歴史、公民、理科、
音楽*、美術、保健体育、家庭、英語

- 特別支援学校教諭免許

・保育士資格**

**保育士資格科目は富山キャンパスのみで開講

履修モデル



(注) 赤字の授業科目は先進的教育科目、青字は教育実習ガイドブックに関連する教育、緑字は教師になるためのノートに関連する教育を示す。

履修年次		具体的な科目名称							
年次	時期	各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目			
		科目名称							
1年次	前期				情報処理	野外体験活動		定期面談1	
					ESP I			定期面談2	
	後期	教育の思想と歴史(西洋)	国語科基礎A(書写を含む)(低・中学年の国語科と現代の教育課題)	インクルーシブ教育基礎演習 I	ESP II				定期面談3
		教育の思想と歴史(日本)	国語科基礎B(書写を含む)(地域の文学を含む)	インクルーシブ教育基礎演習 II	健康・スポーツ/講義				
		教職と学校	家庭科基礎A(住居・食物と現代の教育課題)		日本国憲法				定期面談4
		教職とこれからの教育	家庭科基礎B(被服・家庭経営と現代の教育課題)						
	通年	学校インターンシップ I (小)	体育科基礎A						
2年次	前期	発達と教育(自己創出としての発達)	社会科基礎A(中学年の社会科と現代の教育課題)			基礎ゼミナール		定期面談5	
		特別活動とカリキュラムマネジメント	社会科基礎B(高学年の社会科と現代の教育課題)			介護等体験			
		特別活動における評価と指導の実際	算数科基礎A(低・中学年)						
		教育相談の理論	算数科基礎B(高学年)						
		教授・学習心理学(個別最適化学習の理論と実践)	理科基礎A(理論)						定期面談6
		学校カウンセリング							
	後期	初等国語科教育法 I							
		初等国語科教育法 II							
		初等家庭科教育法 I							
		初等家庭科教育法 II							
		初等体育科教育法 I							
		初等体育科教育法 II							
		特別な支援を要する子どもの理解	生活科基礎A(講義)			小学校プログラミング教育の理論と実践 I			定期面談7
		未来をつくる教育課程	英語科基礎A(理論)			小学校プログラミング教育の理論と実践 II			
		生徒指導論	図画工作科基礎A			国際化と学校教育 I			
		特別支援教育概論				国際化と学校教育 II			
		現在をつくる教育課程							
		子どもの生活とキャリア教育							定期面談8
		初等社会科教育法 I							
初等社会科教育法 II									
初等算数科教育法 I									
初等算数科教育法 II									
初等理科教育法 I									
初等理科教育法 II									
初等音楽科教育法 I									
初等音楽科教育法 II									
3年次	前期	教育実習A(幼・小)(事前事後指導を含む)				SDGs教育実践演習 I		定期面談9	
		教育経営概論(教育改革と学校経営)				SDGs教育実践演習 II			
		教育制度概論(就学保障と学校安全)							
		道徳教育論(理論)							
		道徳教育論(指導法)							
		総合的な学習の時間教育論 I							定期面談10
	後期	教育技術学							
		教育方法探究							
		初等生活科教育法 I							
		初等生活科教育法 II							
		初等図画工作科教育法 I							
		初等図画工作科教育法 II							
		初等英語科教育法 I							
初等英語科教育法 II									
4年次	前期			遠隔教育実践論		富山県の教育実践 I		定期面談11	
				遠隔教育実践演習		富山県の教育実践 II			
	後期			中学校・高等学校の特別支援教育 I		石川県の教育実践 I		定期面談12	
				中学校・高等学校の特別支援教育 II		石川県の教育実践 II			
4年次	前期							定期面談13 定期面談14	
	後期	教職実践演習(幼・小・中・高)				卒業研究		定期面談15 定期面談16	

パートナー大学開設科目の履修

開設形態に基づく分類

先進的教育科目

一方の大学の教育資源を活用し、教育の先進的な課題等を扱う科目

特色科目

一方の大学が有する教育資源の特色を生かした内容の科目

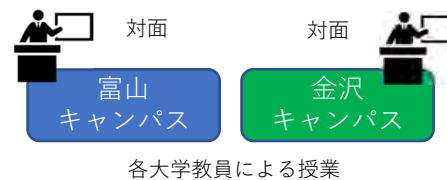
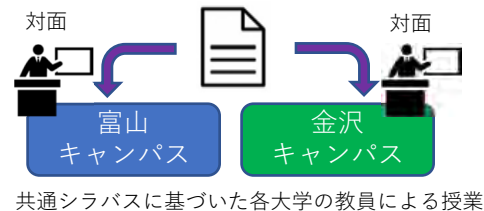
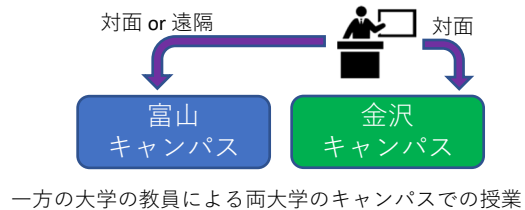
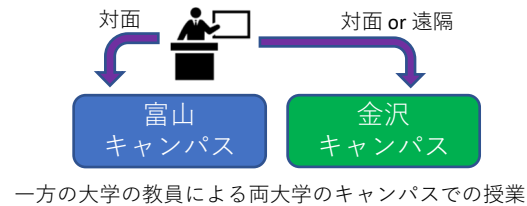
共通科目

両大学の教育資源を組み合わせた共通シラバスに基づく内容の科目

独自科目

特定科目の実験や実習他、シラバスを共有することが困難なため、各大学が独自に開講する科目

授業実施形態

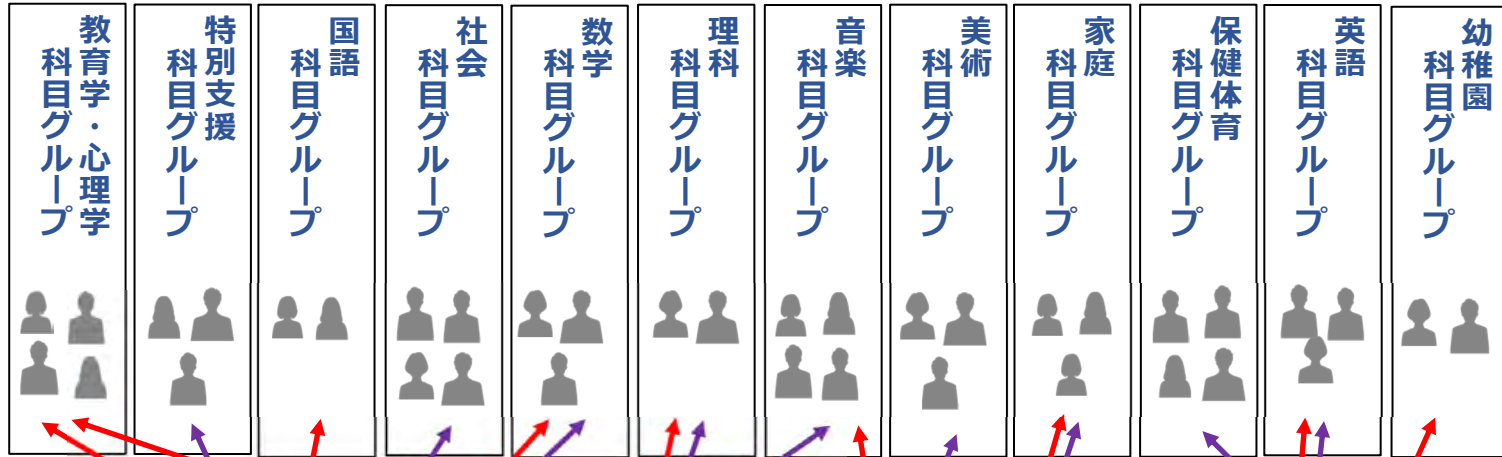


この二つのカテゴリーから、パートナー大学が開設する授業を31単位以上を修得することが卒業要件の一つになる。

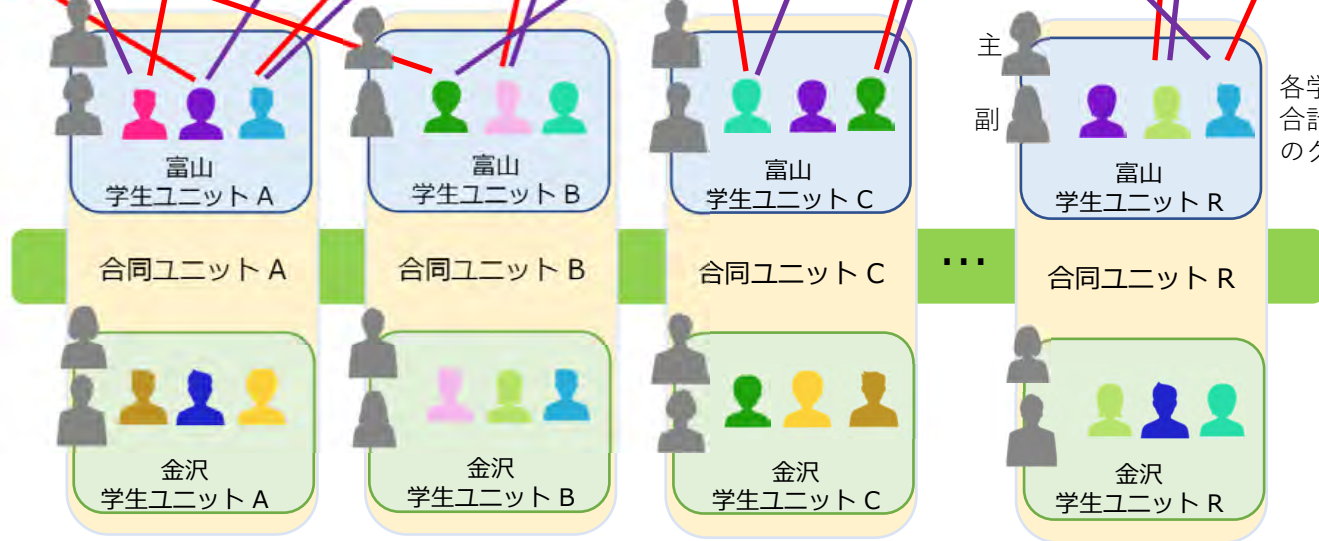


共同教員養成課程における履修指導

【教員所属】科目グループ



【学生所属】学生ユニット



アドバイス教員

主
副

各学年4~5名、
合計20名程度
のグループ



教員
グレーシルエット



学生
カラーシルエット

→ 二枚目の免許の選択

→ 卒業研究のテーマ選択

(本図では金沢学生グループの矢印は省略)

領域横断的な
探究テーマの
支援を強化

【資料7】

実習施設一覧

授業科目名	実習施設名	所在地	受入可能人数
教育実習 A (幼・小) (事前事後指導を含む)	富山大学人間発達科学部附属幼稚園	富山県富山市五艘1300	20
教育実習 A (幼・小) (事前事後指導を含む)	富山大学人間発達科学部附属小学校	富山県富山市五艘1300	55
教育実習 A (幼・小) (事前事後指導を含む)	富山市立堀川小学校	富山県富山市堀川小泉1-13-10	55
教育実習 A (中・高) (事前事後指導を含む)	富山大学人間発達科学部附属中学校	富山県富山市五艘1300	100
教育実習 A (中・高) (事前事後指導を含む)	富山市立芝園中学校	富山県富山市芝園町三丁目1-26	4
教育実習 A (中・高) (事前事後指導を含む)	富山市立堀川中学校	富山県富山市堀川小泉町一丁目21-15	2
教育実習 A (中・高) (事前事後指導を含む)	富山市立東部中学校	富山県富山市長江新町四丁目4-60	1
教育実習 A (中・高) (事前事後指導を含む)	富山市立西部中学校	富山県富山市五福130	1
教育実習 A (中・高) (事前事後指導を含む)	富山市立南部中学校	富山県富山市西田地方町二丁目10-10	2
教育実習 A (中・高) (事前事後指導を含む)	富山市立北部中学校	富山県富山市東富山寿町二丁目4-52	2
教育実習 A (中・高) (事前事後指導を含む)	富山市立新庄中学校	富山県富山市荒川五丁目4-18	1
教育実習 A (中・高) (事前事後指導を含む)	富山市立岩瀬中学校	富山県富山市連町四丁目3-10	1
教育実習 A (中・高) (事前事後指導を含む)	富山市立山室中学校	富山県富山市山室30-1	2
教育実習 A (中・高) (事前事後指導を含む)	富山市立奥田中学校	富山県富山市奥井町25-10	3
教育実習 A (中・高) (事前事後指導を含む)	富山市立大泉中学校	富山県富山市大泉東町二丁目11-26	1
教育実習 A (中・高) (事前事後指導を含む)	富山市立月岡中学校	富山県富山市中布目156	1
教育実習 A (中・高) (事前事後指導を含む)	富山市立呉羽中学校	富山県富山市呉羽町6662	1
教育実習 A (中・高) (事前事後指導を含む)	富山市立水橋中学校	富山県富山市水橋館町443	1
教育実習 A (中・高) (事前事後指導を含む)	富山市立三成中学校	富山県富山市水橋石割70	1
教育実習 A (中・高) (事前事後指導を含む)	富山市立和合中学校	富山県富山市布目3967	1
教育実習 A (中・高) (事前事後指導を含む)	富山市立興南中学校	富山県富山市下熊野728	2
教育実習 A (中・高) (事前事後指導を含む)	富山市立藤ノ木中学校	富山県富山市日俣222	2
教育実習 A (中・高) (事前事後指導を含む)	富山市立大沢野中学校	富山県富山市八木山550	2
教育実習 A (中・高) (事前事後指導を含む)	富山市立上滝中学校	富山県富山市中滝160	1
教育実習 A (中・高) (事前事後指導を含む)	富山市立八尾中学校	富山県富山市八尾町福島上野250	1
教育実習 A (中・高) (事前事後指導を含む)	富山市立杉原中学校	富山県富山市八尾町大杉84	1
教育実習 A (中・高) (事前事後指導を含む)	富山市立速星中学校	富山県富山市婦中町板倉345-1	3
教育実習 A (中・高) (事前事後指導を含む)	富山市立城山中学校	富山県富山市婦中町河原町561-5	1
教育実習 A (中・高) (事前事後指導を含む)	富山市立山田中学校	富山県富山市山田北山41	2
教育実習 A (中・高) (事前事後指導を含む)	富山市立楡原中学校	富山県富山市楡原405	1
教育実習 B (小)	富山大学人間発達科学部附属小学校	富山県富山市五艘1300	55
教育実習 B (小)	富山市立堀川小学校	富山県富山市堀川小泉1-13-10	55
教育実習 B (中・高)	富山大学人間発達科学部附属中学校	富山県富山市五艘1300	100
教育実習 B (中・高)	富山市立芝園中学校	富山県富山市芝園町三丁目1-26	4
教育実習 B (中・高)	富山市立堀川中学校	富山県富山市堀川小泉町一丁目21-15	2
教育実習 B (中・高)	富山市立東部中学校	富山県富山市長江新町四丁目4-60	1
教育実習 B (中・高)	富山市立西部中学校	富山県富山市五福130	1
教育実習 B (中・高)	富山市立南部中学校	富山県富山市西田地方町二丁目10-10	2
教育実習 B (中・高)	富山市立北部中学校	富山県富山市東富山寿町二丁目4-52	2
教育実習 B (中・高)	富山市立新庄中学校	富山県富山市荒川五丁目4-18	1
教育実習 B (中・高)	富山市立岩瀬中学校	富山県富山市連町四丁目3-10	1
教育実習 B (中・高)	富山市立山室中学校	富山県富山市山室30-1	2
教育実習 B (中・高)	富山市立奥田中学校	富山県富山市奥井町25-10	3
教育実習 B (中・高)	富山市立大泉中学校	富山県富山市大泉東町二丁目11-26	1
教育実習 B (中・高)	富山市立月岡中学校	富山県富山市中布目156	1
教育実習 B (中・高)	富山市立呉羽中学校	富山県富山市呉羽町6662	1
教育実習 B (中・高)	富山市立水橋中学校	富山県富山市水橋館町443	1
教育実習 B (中・高)	富山市立三成中学校	富山県富山市水橋石割70	1
教育実習 B (中・高)	富山市立和合中学校	富山県富山市布目3967	1
教育実習 B (中・高)	富山市立興南中学校	富山県富山市下熊野728	2
教育実習 B (中・高)	富山市立藤ノ木中学校	富山県富山市日俣222	2
教育実習 B (中・高)	富山市立大沢野中学校	富山県富山市八木山550	2
教育実習 B (中・高)	富山市立上滝中学校	富山県富山市中滝160	1
教育実習 B (中・高)	富山市立八尾中学校	富山県富山市八尾町福島上野250	1
教育実習 B (中・高)	富山市立杉原中学校	富山県富山市八尾町大杉84	1
教育実習 B (中・高)	富山市立速星中学校	富山県富山市婦中町板倉345-1	3
教育実習 B (中・高)	富山市立城山中学校	富山県富山市婦中町河原町561-5	1
教育実習 B (中・高)	富山市立山田中学校	富山県富山市山田北山41	2
教育実習 B (中・高)	富山市立楡原中学校	富山県富山市楡原405	1
教育実習 B (特別支援)	富山大学人間発達科学部附属特別支援学校	富山県富山市五艘1300	20
教育実習 B (幼)	富山大学人間発達科学部附属幼稚園	富山県富山市五艘1300	20

授業科目名	実習施設名	所在地	受入可能人数
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢大学人間社会学域学校教育学類附属幼稚園	石川県金沢市平和町1-1-15	10
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校	石川県金沢市平和町1-1-15	55
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立泉小学校	石川県金沢市弥生1-26-1	1
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立中村町小学校	石川県金沢市中村町26-12	1
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立十一屋小学校	石川県金沢市十一屋町3番45号	2
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立泉野小学校	石川県金沢市緑が丘4番64号	3
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立犀桜小学校	石川県金沢市新野町3丁目25	2
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立小立野小学校	石川県金沢市小立野4丁目7番7号	2
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立兼六小学校	石川県金沢市兼六元町7-15	2
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立中央小学校	石川県金沢市長町1丁目10番35号	3
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立中央小学校芳齋分校	石川県金沢市長町1丁目10番35号	
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立長田町小学校	石川県金沢市長田1-5-40	2
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立明成小学校	石川県金沢市瓢箪町5-48	2
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立諸江町小学校	石川県金沢市北安江2-25-1	3
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立馬場小学校	石川県金沢市東山3-9-30	1
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立森山町小学校	石川県金沢市森山2丁目13-50	2
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立浅野町小学校	石川県金沢市京町35-1	2
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立小坂小学校	石川県金沢市小坂中142	2
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立千坂小学校	石川県金沢市千木1丁目125番地	3
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立夕日寺小学校	石川県金沢市東長江町に17番地	2
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立大浦小学校	石川県金沢市大浦町又87番地	2
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立浅野川小学校	石川県金沢市須崎町42番地	2
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立鞍月小学校	石川県金沢市南新保町リ27-1	2
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立粟崎小学校	石川県金沢市粟崎町へ78番地	2
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立大野町小学校	石川県金沢市大野町1-15	1
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立金石町小学校	石川県金沢市金石北4丁目1番1号	1
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立大徳小学校	石川県金沢市松村6丁目200	2
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立戸板小学校	石川県金沢市戸板1丁目1番地	3
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立緑小学校	石川県金沢市みどり1丁目166	2
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立押野小学校	石川県金沢市八日市1丁目176番地	1
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立米丸小学校	石川県金沢市東力町=155番地	3
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立三馬小学校	石川県金沢市久安6丁目154番地	3
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立富樫小学校	石川県金沢市山科3丁目6番60号	2
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立額小学校	石川県金沢市額乙丸町イ41	2
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立内川小学校	石川県金沢市別所町甲18	1
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立犀川小学校	石川県金沢市末町2の148	2
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立湯涌小学校	石川県金沢市湯涌荒屋町23	1
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立田上小学校	石川県金沢市田上の里2丁目1	4
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立医王山小学校	石川県金沢市二俣町さ21番地	1
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立森本小学校	石川県金沢市南森本町イ111	2
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立花園小学校	石川県金沢市今町又34	1
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立不動寺小学校	石川県金沢市不動寺町イ33	1
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立三谷小学校	石川県金沢市宮野町=277	1
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立南小立野小学校	石川県金沢市涌波2丁目5番1号	2
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立伏見台小学校	石川県金沢市窪5丁目335	4
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立扇台小学校	石川県金沢市馬替1-34	2
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立木曳野小学校	石川県金沢市木曳野1丁目1番地	3
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立三和小学校	石川県金沢市矢木1丁目74番地	2
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立長坂台小学校	石川県金沢市長坂3-14-1	2
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立新神田小学校	石川県金沢市新神田1-10-58	2
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立西南部小学校	石川県金沢市八日市出町304番地	2
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立米泉小学校	石川県金沢市米泉町4丁目133番地2号	2
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立四十万小学校	石川県金沢市四十万3丁目186	3
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立西小学校	石川県金沢市駅西新町3-15-1	2
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立安原小学校	石川県金沢市福増町北1087番地	1
教育実習 A(幼・小) (事前事後指導を含む)	金沢市立杜の里小学校	石川県金沢市若松町3-282	2
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	金沢大学人間社会学域学校教育学類附属中学校	石川県金沢市平和町1-1-15	55
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	金沢市立泉中学校	石川県金沢市弥生1丁目26番1号	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	金沢市立野田中学校	石川県金沢市若草町1-23	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	金沢市立城南中学校	石川県金沢市城南1丁目24番1号	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	金沢市立紫錦台中学校	石川県金沢市飛梅町3番30号	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	金沢市立兼六中学校	石川県金沢市田井町12-12	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	金沢市立小将町中学校・小将町中学校特学分校	石川県金沢市小将町1番15号	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	金沢市立高岡中学校	石川県金沢市新神田1丁目10番1号	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	金沢市立鳴和中学校	石川県金沢市鳴和2丁目10番60号	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	金沢市立長田中学校	石川県金沢市二宮町1-1	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	金沢市立浅野川中学校	石川県金沢市諸江町下2388番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	金沢市立金石中学校	石川県金沢市金石東1-13-1	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	金沢市立芝原中学校	石川県金沢市湯涌荒屋町23	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	金沢市立西南部中学校	石川県金沢市新保本1丁目149番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	金沢市立内川中学校	石川県金沢市別所町甲18	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	金沢市立犀生中学校	石川県金沢市末町10-4	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	金沢市立医王山中学校	石川県金沢市二俣町さ21番地	1

授業科目名	実習施設名	所在地	受入可能人数
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	金沢市立森本中学校	石川県金沢市弥勒町ヨ 2 2 番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	金沢市立額中学校	石川県金沢市額乙丸町イ7番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	金沢市立高尾台中学校	石川県金沢市高尾台1丁目128番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	金沢市立緑中学校	石川県金沢市みどり2丁目3番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	金沢市立港中学校	石川県金沢市近岡町217	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	金沢市立北鳴中学校	石川県金沢市小坂町北95番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	金沢市立大徳中学校	石川県金沢市観音堂町ト-35番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	金沢市立清泉中学校	石川県金沢市泉本町3-3	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校	石川県金沢市平和町1-1-15	3
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立大聖寺実業高等学校	石川県加賀市熊坂町ヲ77番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立大聖寺高等学校	石川県加賀市大聖寺永町33番地1	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立加賀高等学校	石川県立加賀市動橋町ム53番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立小松商業高等学校	石川県小松市希望丘10番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立小松工業高等学校	石川県立小松市打越町丙67番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立小松高等学校	石川県小松市丸内町ニノ丸15番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立小松明峰高等学校	石川県小松市平面町ヘ72番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立寺井高等学校	石川県能美市吉光町ト90番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県鶴来高等学校	石川県白山市月橋町710番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立松任高等学校	石川県白山市馬場1丁目100番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立翠星高等学校	石川県白山市三浦町500番地1	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立野々市明倫高等学校	石川県野々市市下林3丁目309番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立金沢錦丘高等学校	石川県金沢市窪6丁目218番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立金沢泉丘高等学校	石川県金沢市泉野出町3丁目10番10号	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立金沢二水高等学校	石川県金沢市緑が丘20番15号	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立金沢伏見高等学校	石川県金沢市米泉町5丁目85番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立金沢辰巳丘高等学校	石川県金沢市末町ニ18番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立金沢商業高等学校	石川県金沢市小立野5丁目4番1号	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立工業高等学校	石川県金沢市本多町2丁目3番6号	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立金沢桜丘高等学校	石川県金沢市大樋町16番1号	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立金沢西高等学校	石川県金沢市畝田東3丁目526番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立金沢北陵高等学校	石川県金沢市吉原町ワ21番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立金沢向陽高等学校	石川県金沢市大場町東590番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立内灘高等学校	石川県河北郡内灘町宇千鳥台3丁目1番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立津幡高等学校	石川県河北郡津幡町字加賀爪745番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立羽咋高等学校	石川県羽咋市柳橋町柳橋1番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立羽咋工業高等学校	石川県羽咋市西金屋町ク21番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立宝達高等学校	石川県羽咋郡宝達志水町今浜ト80番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立志賀高等学校	石川県羽咋郡志賀町高浜町の170番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立七尾東雲高等学校	石川県七尾市下町戊部12の1	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立七尾高等学校	石川県七尾市西藤橋町エ1番地1	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立田鶴浜高等学校	石川県七尾市上野ヶ丘町59番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立鹿西高等学校	石川県鹿島郡中能登町能登部上ヲ部1番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立穴水高等学校	石川県鳳珠郡穴水町宇由比ヶ丘いの33番地	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立能登高等学校	石川県鳳珠郡能登町宇津マ字106番地の7	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立門前高等学校	石川県輪島市門前町広岡5の3	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立輪島高等学校	石川県輪島市河井町18部42の2	1
教育実習 A(中・高) (事前事後指導を含む)	石川県立飯田高等学校	石川県珠洲市野々江町1字1番地	1
教育実習 B(小)	金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校	石川県金沢市平和町1-1-15	55
教育実習 B(小)	金沢市立泉小学校	石川県金沢市弥生1-26-1	1
教育実習 B(小)	金沢市立中村町小学校	石川県金沢市中村町26-12	1
教育実習 B(小)	金沢市立十一屋小学校	石川県金沢市十一屋町3番45号	2
教育実習 B(小)	金沢市立泉野小学校	石川県金沢市緑が丘4番64号	3
教育実習 B(小)	金沢市立犀桜小学校	石川県金沢市新野町3丁目25	2
教育実習 B(小)	金沢市立小立野小学校	石川県金沢市小立野4丁目7番7号	2
教育実習 B(小)	金沢市立兼六小学校	石川県金沢市兼六元町7-15	2
教育実習 B(小)	金沢市立中央小学校	石川県金沢市長町1丁目10番35号	3
教育実習 B(小)	金沢市立中央小学校芳齋分校	石川県金沢市長町1丁目10番35号	3
教育実習 B(小)	金沢市立長田町小学校	石川県金沢市長田1-5-40	2
教育実習 B(小)	金沢市立明成小学校	石川県金沢市瓢箪町5-48	2
教育実習 B(小)	金沢市立諸江町小学校	石川県金沢市北安江2-25-1	3
教育実習 B(小)	金沢市立馬場小学校	石川県金沢市東山3-9-30	1
教育実習 B(小)	金沢市立森山町小学校	石川県金沢市森山2丁目13-50	2
教育実習 B(小)	金沢市立浅野町小学校	石川県金沢市京町35-1	2
教育実習 B(小)	金沢市立小坂小学校	石川県金沢市小坂中142	2
教育実習 B(小)	金沢市立千坂小学校	石川県金沢市千木1丁目125番地	3
教育実習 B(小)	金沢市立夕日寺小学校	石川県金沢市東長江町に17番地	2
教育実習 B(小)	金沢市立大浦小学校	石川県金沢市大浦町ヌ87番地	2
教育実習 B(小)	金沢市立浅野川小学校	石川県金沢市須崎町チ42番地	2
教育実習 B(小)	金沢市立鞍月小学校	石川県金沢市南新保町リ27-1	2
教育実習 B(小)	金沢市立粟崎小学校	石川県金沢市粟崎町ヘ78番地	2
教育実習 B(小)	金沢市立大野町小学校	石川県金沢市大野町1-15	1
教育実習 B(小)	金沢市立金石町小学校	石川県金沢市金石北4丁目1番1号	1
教育実習 B(小)	金沢市立大徳小学校	石川県金沢市松村6丁目200	2

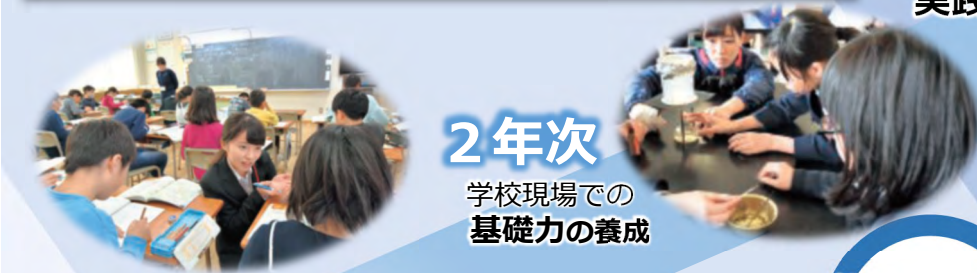
授業科目名	実習施設名	所在地	受入可能人数
教育実習B(小)	金沢市立戸板小学校	石川県金沢市戸板1丁目1番地	3
教育実習B(小)	金沢市立緑小学校	石川県金沢市みどり1丁目166	2
教育実習B(小)	金沢市立押野小学校	石川県金沢市八日市1丁目176番地	1
教育実習B(小)	金沢市立米丸小学校	石川県金沢市東力町-155番地	3
教育実習B(小)	金沢市立三馬小学校	石川県金沢市久安6丁目154番地	3
教育実習B(小)	金沢市立富樫小学校	石川県金沢市山科3丁目6番60号	2
教育実習B(小)	金沢市立額小学校	石川県金沢市額乙丸町イ41	2
教育実習B(小)	金沢市立内川小学校	石川県金沢市別所町キ18	1
教育実習B(小)	金沢市立犀川小学校	石川県金沢市末町2の148	2
教育実習B(小)	金沢市立湯涌小学校	石川県金沢市湯涌荒屋町23	1
教育実習B(小)	金沢市立田上小学校	石川県金沢市田上の里2丁目1	4
教育実習B(小)	金沢市立医王山小学校	石川県金沢市二俣町キ21番地	1
教育実習B(小)	金沢市立森本小学校	石川県金沢市南森本町イ111	2
教育実習B(小)	金沢市立花園小学校	石川県金沢市今町ヌ34	1
教育実習B(小)	金沢市立不動寺小学校	石川県金沢市不動寺町イ33	1
教育実習B(小)	金沢市立三谷小学校	石川県石川県金沢市宮野町-277	1
教育実習B(小)	金沢市立南小立野小学校	石川県金沢市涌波2丁目5番1号	2
教育実習B(小)	金沢市立伏見台小学校	石川県金沢市窪5丁目335	4
教育実習B(小)	金沢市立扇台小学校	石川県金沢市馬替1-34	2
教育実習B(小)	金沢市立木曳野小学校	石川県金沢市木曳野1丁目1番地	3
教育実習B(小)	金沢市立三和小学校	石川県金沢市矢木1丁目74番地	2
教育実習B(小)	金沢市立長坂台小学校	石川県金沢市長坂3-14-1	2
教育実習B(小)	金沢市立新神田小学校	石川県金沢市新神田1-10-58	2
教育実習B(小)	金沢市立西南部小学校	石川県金沢市八日市出町304番地	2
教育実習B(小)	金沢市立米泉小学校	石川県金沢市米泉町4丁目133番地2号	2
教育実習B(小)	金沢市立四十万小学校	石川県金沢市四十万3丁目186	3
教育実習B(小)	金沢市立西小学校	石川県金沢市駅西新町3-15-1	2
教育実習B(小)	金沢市立安原小学校	石川県金沢市福増町北1087番地	1
教育実習B(小)	金沢市立杜の里小学校	石川県金沢市若松町3-282	2
教育実習B(中・高)	金沢大学人間社会学域学校教育学類附属中学校	石川県金沢市平和町1-1-15	55
教育実習B(中・高)	金沢市立泉中学校	石川県金沢市弥生1丁目26番1号	1
教育実習B(中・高)	金沢市立野田中学校	石川県金沢市若草町1-23	1
教育実習B(中・高)	金沢市立城南中学校	石川県金沢市城南1丁目24番1号	1
教育実習B(中・高)	金沢市立紫錦台中学校	石川県金沢市飛梅町3番30号	1
教育実習B(中・高)	金沢市立兼六中学校	石川県金沢市田井町12-12	1
教育実習B(中・高)	金沢市立小将町中学校・小将町中学校特学分校	石川県金沢市小将町1番15号	1
教育実習B(中・高)	金沢市立高岡中学校	石川県金沢市新神田1丁目10番1号	1
教育実習B(中・高)	金沢市立鳴和中学校	石川県金沢市鳴和2丁目10番60号	1
教育実習B(中・高)	金沢市立長田中学校	石川県金沢市二宮町1-1	1
教育実習B(中・高)	金沢市立浅野川中学校	石川県金沢市諸江町下丁388番地	1
教育実習B(中・高)	金沢市立金石中学校	石川県金沢市金石東1-13-1	1
教育実習B(中・高)	金沢市立芝原中学校	石川県金沢市湯涌荒屋町23	1
教育実習B(中・高)	金沢市立西南部中学校	石川県金沢市新保本1丁目149番地	1
教育実習B(中・高)	金沢市立内川中学校	石川県金沢市別所町キ18	1
教育実習B(中・高)	金沢市立犀生中学校	石川県金沢市末町10-4	1
教育実習B(中・高)	金沢市立医王山中学校	石川県金沢市二俣町キ21番地	1
教育実習B(中・高)	金沢市立森本中学校	石川県金沢市弥勒町キ22番地	1
教育実習B(中・高)	金沢市立額中学校	石川県金沢市額乙丸町イ7番地	1
教育実習B(中・高)	金沢市立高尾台中学校	石川県金沢市高尾台1丁目128番地	1
教育実習B(中・高)	金沢市立緑中学校	石川県金沢市みどり2丁目3番地	1
教育実習B(中・高)	金沢市立港中学校	石川県金沢市近岡町217	1
教育実習B(中・高)	金沢市立北鳴中学校	石川県金沢市小坂町北95番地	1
教育実習B(中・高)	金沢市立大徳中学校	石川県金沢市観音堂町ト-35番地	1
教育実習B(中・高)	金沢市立清泉中学校	石川県金沢市泉本町3-3	1
教育実習B(中・高)	金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校	石川県金沢市平和町1-1-15	3
教育実習B(中・高)	石川県立大聖寺実業高等学校	石川県加賀市熊坂町ヲ77番地	1
教育実習B(中・高)	石川県立大聖寺高等学校	石川県加賀市大聖寺永町33番地1	1
教育実習B(中・高)	石川県立加賀高等学校	石川県立加賀市動橋町ム53番地	1
教育実習B(中・高)	石川県立小松商業高等学校	石川県小松市希望丘10番地	1
教育実習B(中・高)	石川県立小松工業高等学校	石川県立小松市打越町丙67番地	1
教育実習B(中・高)	石川県立小松高等学校	石川県小松市丸内町二ノ丸15番地	1
教育実習B(中・高)	石川県立小松明峰高等学校	石川県小松市平面町ヘ72番地	1
教育実習B(中・高)	石川県立寺井高等学校	石川県能美市吉光町ト90番地	1
教育実習B(中・高)	石川県鶴来高等学校	石川県白山市市橋町710番地	1
教育実習B(中・高)	石川県立松任高等学校	石川県白山市馬場1丁目100番地	1
教育実習B(中・高)	石川県立翠星高等学校	石川県白山市三浦町500番地1	1
教育実習B(中・高)	石川県立野々市明倫高等学校	石川県野々市市下林3丁目309番地	1
教育実習B(中・高)	石川県立金沢錦丘高等学校	石川県金沢市窪6丁目218番地	1
教育実習B(中・高)	石川県立金沢泉丘高等学校	石川県金沢市泉野出町3丁目10番10号	1
教育実習B(中・高)	石川県立金沢二水高等学校	石川県金沢市緑が丘20番15号	1
教育実習B(中・高)	石川県立金沢伏見高等学校	石川県金沢市米泉町5丁目85番地	1
教育実習B(中・高)	石川県立金沢辰巳丘高等学校	石川県金沢市末町-18番地	1
教育実習B(中・高)	石川県立金沢商業高等学校	石川県金沢市小立野5丁目4番1号	1

授業科目名	実習施設名	所在地	受入可能人数
教育実習B(中・高)	石川県立工業高等学校	石川県金沢市本多町2丁目3番6号	1
教育実習B(中・高)	石川県立金沢桜丘高等学校	石川県金沢市大樋町16番1号	1
教育実習B(中・高)	石川県立金沢西高等学校	石川県金沢市畝田東3丁目526番地	1
教育実習B(中・高)	石川県立金沢北陵高等学校	石川県金沢市吉原町721番地	1
教育実習B(中・高)	石川県立金沢向陽高等学校	石川県金沢市大場町東590番地	1
教育実習B(中・高)	石川県立内灘高等学校	石川県河北郡内灘町字千鳥台3丁目1番地	1
教育実習B(中・高)	石川県立津幡高等学校	石川県河北郡津幡町字加賀爪745番地	1
教育実習B(中・高)	石川県立羽咋高等学校	石川県羽咋市柳橋町柳橋1番地	1
教育実習B(中・高)	石川県立羽咋工業高等学校	石川県羽咋市西釜屋町21番地	1
教育実習B(中・高)	石川県立宝達高等学校	石川県羽咋郡宝達志水町今浜180番地	1
教育実習B(中・高)	石川県立志賀高等学校	石川県羽咋郡志賀町高浜町ノの170番地	1
教育実習B(中・高)	石川県立七尾東雲高等学校	石川県七尾市下町戌部12の1	1
教育実習B(中・高)	石川県立七尾高等学校	石川県七尾市西藤橋町エ1番地1	1
教育実習B(中・高)	石川県立田鶴浜高等学校	石川県七尾市上野ヶ丘町59番地	1
教育実習B(中・高)	石川県立鹿西高等学校	石川県鹿島郡中能登町能登部上7部1番地	1
教育実習B(中・高)	石川県立穴水高等学校	石川県鳳珠郡穴水町字由比ヶ丘いの33番地	1
教育実習B(中・高)	石川県立能登高等学校	石川県鳳珠郡能登町字宇津マ字106番地の7	1
教育実習B(中・高)	石川県立門前高等学校	石川県輪島市門前町広岡5の3	1
教育実習B(中・高)	石川県立輪島高等学校	石川県輪島市河井町18部42の2	1
教育実習B(中・高)	石川県立飯田高等学校	石川県珠洲市野々江町1字1番地	1
教育実習B(特別支援)	金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校	石川県金沢市東兼六町2-10	6
教育実習B(特別支援)	石川県立盲学校	石川県金沢市小立野5丁目3-1	2
教育実習B(特別支援)	石川県立ろう学校	石川県金沢市窪6丁目218	2
教育実習B(特別支援)	石川県立明和特別支援学校	石川県野々市市中林4丁目70	2
教育実習B(特別支援)	石川療育センター 分教室	石川県金沢市上中町イ67-2	1
教育実習B(特別支援)	石川県立いしかわ特別支援学校	石川県金沢市南森本町リ1-1	2
教育実習B(特別支援)	石川県立小松瀬領特別支援学校	石川県小松市瀬領町138-1	1
教育実習B(特別支援)	石川県立錦城特別支援学校	石川県加賀市豊町イ120-1	1
教育実習B(特別支援)	石川病院分教室	石川県加賀市手塚町サ150	1
教育実習B(特別支援)	石川県立小松特別支援学校	石川県小松市金平町丁76	1
教育実習B(特別支援)	石川県立七尾特別支援学校	石川県七尾市下町己部54	1
教育実習B(特別支援)	七尾病院分教室	石川県七尾市松百町ハ3-1	
教育実習B(特別支援)	輪島分校	石川県輪島市門前町広岡5-3	
教育実習B(特別支援)	珠洲分校	石川県珠洲市宝立町鶴岡6-20	1
教育実習B(特別支援)	石川県立医王特別支援学校	石川県金沢市岩出町ホ1	
教育実習B(特別支援)	医王病院病棟訪問教育	石川県金沢市岩出町ホ1	1
教育実習B(特別支援)	小松みどり分校	石川県小松市向本折町ヘ14-1	1
教育実習B(幼)	金沢大学人間社会学域学校教育学類附属幼稚園	石川県金沢市平和町1-1-15	10

共同教員養成課程における教育実習・学校現場体験・学習サポート

共同教員養成課程が養成する人物像

豊かな人間性と社会性、教育への情熱と使命感を持ち、
教科や教職に関する専門知識と技能を身に付け、
新たな教育的課題に適切に対応できる実践力のある人物。



2年次

学校現場での
基礎力の養成

1年次

初年次からの
学校現場体験

金沢大学2年次 学校インターンシップ

石川県内において、学生
の希望に応じた校種で、
実践的な学校現場
体験を実施

富山大学1年次 学校インターンシップ

富山県教育委員会との
緊密な連携の下、富山県内
の小学校現場を体験し、
教職の心構えを醸成

介護等体験

特別支援学校、社会
福祉施設での実習を
各大学ごとに実施

観察参加実習

各大学ごとに、
教育実習を観察参加

3年次

学校現場での
実践力の養成

3年次教育実習

小学校または
中学校・特別支援学校・
幼稚園

4年次

学校現場での
実践力の深化

4年次教育実習

中学校・特別支援学校・
幼稚園または小学校

教職実践演習

4年間の総仕上げと
なる演習形式の授業等
を各大学ごとに実施

希望学生には、就職希望県での 教育実習の機会を提供

金沢大学は富山県出身の学生、富山大学は石川県出身の学生が多く在籍しており、卒業後は出身県の教員となることも多い。教育実習を出身県の学校で行うことで、卒業後の教員としてのキャリアを円滑に進めることが可能となる。また、自県で就職する学生を受け入れたいという実習協力校の要望が強い。

希望学生は、相手大学の 学校インターンシップを受講可能

両県教育委員会と連携し、両大学の段階的
な指導体制を共有することで、より実践的
な多角的な視点を持つ教員養成を実現



国立大学法人富山大学職員就業規則

平成17年10月1日制定	平成18年4月1日改正
平成19年4月1日改正	平成19年10月1日改正
平成20年4月1日改正	平成20年7月8日改正
平成21年4月1日改正	平成22年4月1日改正
平成24年10月1日改正	平成26年9月9日改正
平成27年3月25日改正	平成28年2月9日改正
平成29年3月14日改正	平成29年6月27日改正
平成30年3月27日改正	平成30年11月13日改正
平成31年1月29日改正	令和元年6月25日改正
令和元年12月24日改正	令和2年1月28日改正
令和2年10月27日改正	令和3年3月9日改正

目次

第1章 総則（第1条～第4条）
第2章 任免（第5条～第24条）
第1節 採用（第5条～第7条）
第2節 昇任及び降任（第8条，第9条）
第3節 異動（第10条）
第4節 休職（第11条～第14条）
第5節 退職及び解雇（第15条～第24条）
第3章 給与（第25条）
第4章 服務（第26条～第30条）
第5章 知的財産権（第31条）
第6章 労働時間，休日，休暇等（第32条～第34条）
第7章 研修（第35条）
第8章 勤務評定（第36条）
第9章 賞罰（第37条～第42条）
第10章 安全衛生（第43条）
第11章 出張（第44条，第45条）
第12章 福利・厚生（第46条）
第13章 災害補償（第47条～第49条）
第14章 退職手当（第50条）
附則

第1章 総則

(目的)

第1条 この就業規則（以下「規則」という。）は、「労働基準法」（昭和22年法律第49号。以下「労基法」という。）第89条の規定により，国立大学法人富山大学（以下「大学」という。）に勤務する職員の就業に関して，必要な事項を定めることを目的とする。

(適用範囲等)

第2条 この規則は、常勤の職員に適用する。

- 2 職員のうち、教授、准教授、講師、助教、助手、特命教授、特命准教授、特命講師、特命助教、特別研究教授、寄附講座教員、寄附研究部門教員、共同研究講座教員、副校長、副園長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭、及び栄養教諭の職にある者を教育職員という
- 3 契約職員、パートタイム職員、特任再雇用職員、フルタイム再雇用職員、短時間再雇用職員、外国人研究員、診療助手、医員、大学院医員及び臨床研修医の就業については、別に定める。

(法令との関係)

第3条 この規則に定めのない事項については、労基法その他の関係法令及び諸規則の定めるところによる。

(遵守遂行)

第4条 大学及び職員は、ともに法令及びこの規則を守り、相協力して業務の運営に当たらなければならない。

第2章 任免

第1節 採用

(採用)

第5条 職員の採用は、選考による。

- 2 職員の選考について必要な事項は、別に定める「国立大学法人富山大学職員任免規則」による。

(労働条件の明示)

第6条 大学は、職員として採用しようとする者に対し、あらかじめ、次の事項を記載した文書を交付する。

- (1) 労働契約の期間に関する事項
- (2) 就業の場所及び従事する業務に関する事項
- (3) 始業及び終業の時刻、所定労働時間を超える労働の有無、休憩時間、休日及び休暇に関する事項
- (4) 交替制勤務をさせる場合は就業時転換に関する事項
- (5) 給与に関する事項
- (6) 退職に関する事項（解雇の事由を含む。）

(試用期間)

第7条 職員として採用された者は、採用の日から6か月間（教諭については1年間）を試用期間とする。ただし、国、地方自治体又はこれらに準ずる機関の職員から引き続き大学の職員となった者については、この限りでない。

- 2 大学は、試用期間中に職員として不適格と認めたときは、解雇することがある。
- 3 試用期間は勤続年数に通算する。

第2節 昇任及び降任

(昇任)

第8条 職員の昇任は、総合的な能力の評価により行う。

(降任)

第9条 大学は、職員が次の各号の一に該当する場合には、降任させることがある。

- (1) 勤務実績が悪い場合
- (2) 心身の故障のため職務の遂行に支障があり、又はこれに堪えない場合
- (3) その他職務に必要な適性を欠く場合
- (4) 職員自ら降任を希望して学長が承認した場合

2 前項第4号に規定する希望降任に関し、必要な事項は別に定める。

第3節 異動

(配置換・出向等)

第10条 大学は、業務上必要がある場合は、職員に対して配置換、併任又は出向（以下「配置換等」という。）を命ずることがある。ただし、教育職員については、専門の異なる配置換等は本人の同意を得るものとする。

2 前項に規定する配置換等を命ぜられた職員は、正当な理由がない限り拒むことができない。

3 職員の出向について必要な事項は、別に定める「国立大学法人富山大学出向規則」による。

第4節 休職

(休職)

第11条 職員が次の各号の一に該当するときは、休職とすることがある。

- (1) 負傷又は疾病により、病気休暇の期間が引き続き90日（結核性疾患の場合は1年）を超える場合
- (2) 刑事事件に関し起訴された場合
- (3) 学校、研究所、病院その他大学が指定する公共的施設において、その職員の職務に関連があると認められる学術に関する事項の調査、研究若しくは指導に従事し、又は大学が指定する国際事情の調査等の業務に従事する場合
- (4) 国又は独立行政法人と共同して、若しくはこれらからの委託を受けて行われる科学技術に関する研究に係る業務であって、その職員の職務に関連があると認められるものに、前号に掲げる施設又は大学が当該研究に関し指定する施設において従事する場合
- (5) 研究成果活用企業の役員（監査役を除く。）、顧問又は評議員（以下「役員等」という。）の職を兼ねる場合において、主として当該役員等の職務に従事する必要がある、大学の職務に従事することができないと認められる場合
- (6) 日本国が加盟している国際機関、外国政府の機関等からの要請に基づいて職員を派遣する場合
- (7) 教諭、養護教諭又は栄養教諭が、学長の許可を受けて、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）に規定する専修免許状の取得を目的として、大学（短期大学を除く。）

の大学院の課程若しくは専攻科の課程又はこれらの課程に相当する外国の大学の課程に在学してその課程を履修する場合において、職務に従事することができないと認められる場合。

(8) 労働組合業務に専従する場合

(9) 水難、火災その他の災害により、生死不明又は所在不明となった場合

(10) その他特別の事由により休職にすることが適当と認められる場合

2 試用期間中の職員については、前項の規定を適用しない。

3 休職について必要な事項は、別に定める「国立大学法人富山大学職員任免規則」による。

(休職の期間)

第12条 前条第1項第1号、第3号から第5号まで、第7号、第9号及び第10号の休職の期間は必要に応じ、いずれも3年を超えない範囲内で大学が定める。この休職の期間が3年に満たない場合においては、休職した日から引き続き3年を超えない範囲内においてこれを更新することがある。

2 前条第1項第2号の休職の期間は、その事件が裁判所に係属する期間とする。

3 前条第1項第6号及び第8号の休職の期間は必要に応じ、5年を超えない範囲内で大学が定める。前条第1項第6号の休職の期間が5年に満たない場合においては、休職した日から引き続き5年を超えない範囲内において、これを更新することがある。

4 前条第1項第3号から第5号までの休職の期間が引き続き3年に達する際特に必要があると大学が認めたときは、2年を超えない範囲内において休職の期間を更新することがある。この更新した休職の期間が2年に満たない場合においては、大学は、必要に応じ、その期間の初日から起算して2年を超えない範囲内において、再度これを更新することがある。

5 大学は、特に必要があると認めたときは、第1項の規定にかかわらず、前条第1項第4号の休職の期間を3年を超え5年を超えない範囲内において定めることがある。この休職の期間が5年に満たない場合においては、大学は、必要に応じ、休職した日から引き続き5年を超えない範囲内において、これを更新することがある。

6 前2項の規定による前条第1項第4号の休職及び第4項の規定による前条第1項第5号の休職の期間が引き続き5年に達する際、やむを得ない事情があると大学が認めたときは、必要に応じ、これを更新することがある。

(復職)

第13条 大学は、前条の休職の期間を満了するまでに休職事由が消滅したと認めた場合には、復職を命ずる。ただし、第11条第1項第1号の休職については、職員が休職の期間の満了までに復職を願い出て、医師が休職事由が消滅したと認めた場合に限り、復職を命ずる。

2 前項の場合、大学は、原則として休職前の職務に復帰させる。ただし、心身の条件その他を考慮し、他の職務に就かせることがある。

(休職中の身分)

第14条 休職者は、職員としての身分を保有するが、職務に従事しない。

第5節 退職及び解雇

(退職)

第 15 条 職員は、次の各号の一に該当するときは、退職とする。

- (1) 自己都合により退職を願い出て大学から承認されたとき。
- (2) 定年に達したとき。
- (3) 期間を定めて雇用されている場合、その期間を満了したとき。
- (4) 第 12 条に定める休職期間が満了し、休職事由がなお消滅しないとき。
- (5) 死亡したとき。

(自己都合による退職手続)

第 16 条 職員は、自己都合により退職しようとするときは、退職を予定する日の 30 日前までに、大学に退職願を提出しなければならない。ただし、やむを得ない事由により 30 日前までに退職願を提出できない場合は、14 日前までにこれを提出しなければならない。

2 職員は、退職願を提出しても、退職するまでは、従来の職務に従事しなければならない。

(定年)

第 17 条 職員（特別研究教授、寄附講座教員、寄附研究部門教員及び共同研究講座教員を除く。）は、定年に達したときは、定年に達した日以後における最初の 3 月 31 日（以下「定年退職日」という。）に退職するものとする。

2 前項の定年は、年齢 60 年とする。ただし、教育職員（副校長、副園長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭及び栄養教諭は除く。）の定年は、年齢 65 年とする。

3 労働契約法（平成 19 年法律第 128 号）第 18 条、研究開発システムの改革の推進等による研究開発能力の強化及び研究開発等の効率的推進等に関する法律（平成 20 年法律第 63 号）第 15 条の 2 及び大学の教員等の任期に関する法律（平成 9 年法律第 82 号）第 7 条の規定に基づき、期間の定めのある労働契約から期間の定めのない労働契約に転換した特別研究教授、寄附講座教員、寄附研究部門教員及び共同研究講座教員の定年は、年齢 70 年とし、定年退職日に退職するものとする。

(定年の特例)

第 18 条 大学は、前条の規定にかかわらず、定年に達した職員の職務の遂行上の特別の事情からみて、その退職により業務の運営に著しい支障が生ずると認められる十分な理由があると学長が認める場合は、定年退職日を延長することができる。

2 前項による定年退職日の延長は、1 年を超えない範囲内で行うものとし、当初の定年退職日から 3 年を超えない範囲内で更新することができる。

3 前項の規定にかかわらず、学長が特に必要と認めた場合は、3 年を超えて更新することができる。

4 教育職員の定年の特例について必要な事項は、別に定める「国立大学法人富山大学教育職員の定年の特例に関する規則」による。

(再雇用)

第 19 条 第 17 条の規定により退職した職員（定年年齢が 60 歳の者に限る。）で再雇用を希望する職員は、別に定める「国立大学法人富山大学フルタイム再雇用職員就業規則」又

は「国立大学法人富山大学短時間再雇用職員就業規則」により再雇用する。ただし、特に重要な職を任じた職員は、別に定める「国立大学法人富山大学特任再雇用職員就業規則」に基づき再雇用する。

(解雇)

第 20 条 大学は、職員が禁錮以上の刑（執行猶予が付された場合を除く。）に処せられた場合には、解雇する。

2 大学は、前項のほか、職員が次の各号の一に該当する場合には、解雇することがある。

(1) 勤務実績が著しく悪い場合

(2) 心身の故障のため職務の遂行に著しく支障があり、又はこれに堪えない場合

(3) 前 2 号に規定する場合のほか、その職務に必要な適格性を著しく欠く場合

(4) 事業の縮小その他事業の運営上やむを得ない事由により、職員の減員等が必要となった場合

(5) 天災事変その他やむを得ない事由により本学の事業継続が不可能となった場合

(6) 公職選挙法（昭和 25 年法律第 100 号）第 3 条に規定する公職に在職し、業務の遂行が著しく阻害されるおそれのある場合

(7) 執行猶予が付された禁錮以上の刑に処せられた場合

(8) その他前各号に準ずるやむを得ない事情があった場合

3 解雇について必要な事項は、別に定める「国立大学法人富山大学職員任免規則」による。

(解雇制限)

第 21 条 前条第 1 項の規定にかかわらず、次の各号の一に該当する期間は解雇しない。ただし、第 1 号の場合において療養開始後 3 年を経過しても負傷又は疾病がなおらず「労働者災害補償保険法」（昭和 22 年法律第 50 号。以下「労災法」という。）に基づく傷害補償年金の給付がなされ、労基法第 81 条の規定によって打切補償を支払ったものとみなされる場合又は労基法第 19 条第 2 項の規定により行政官庁の認定を受けた場合は、この限りでない。

(1) 業務上負傷し、又は疾病にかかり療養のため休業する期間及びその後 30 日間

(2) 産前産後の女性職員が、別に定める「国立大学法人富山大学に勤務する職員の労働時間、休暇等に関する規則」第 22 条第 6 号及び第 7 号の規定による休暇を取得している期間及びその後 30 日間

(解雇予告)

第 22 条 第 20 条の規定により職員を解雇する場合は、少なくとも 30 日前に本人に予告をするか、又は平均賃金の 30 日分以上の解雇予告手当を支払う。ただし、試用期間中の職員（14 日を超えて引き続き雇用された者を除く。）を解雇する場合又は所轄労働基準監督署の認定を受けて第 39 条第 5 号に定める懲戒解雇をする場合はこの限りではない。

2 前項の予告の日数は、1 日について平均賃金を支払った場合においては、その日数を短縮することができる。

(退職後の責務)

第 23 条 退職した者又は解雇された者は、在職中に知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

(退職証明書)

第 24 条 大学は、退職した者又は解雇された者が、退職証明書の交付を請求した場合は、遅滞なくこれを交付する。

2 前項の証明書に記載する事項は次のとおりとする。

- (1) 雇用期間
- (2) 業務の種類
- (3) その事業における地位
- (4) 給与
- (5) 退職の事由（解雇の場合は、その理由）

3 職員が、第 22 条の解雇の予告がなされた日から解雇の日までの間において、当該解雇の理由について証明書を請求した場合は、大学は遅滞なくこれを交付する。ただし、解雇の予告がなされた日以後に職員が当該解雇以外の事由により退職した場合においてはこの限りでない。

4 証明書には退職若しくは解雇された者又は解雇を予告された者が請求した事項のみを証明するものとする。

第 3 章 給与

(諸手当)

第 25 条 職員の給与は、本給及び諸手当とする。

2 前項の諸手当は、扶養手当、管理職手当、地域手当、広域異動手当、住居手当、通勤手当、単身赴任生活手当、特殊勤務手当、大学入学共通テスト手当、時間外労働手当、休日給、夜勤手当、管理職員特別勤務手当、本給の調整額、初任給調整手当、義務教育等教員特別手当、教職調整額、期末手当、勤勉手当、期末特別手当、安全衛生管理手当、認定看護師等手当、医師指導手当、教員特別業務手当及び外部資金獲得手当とする。ただし「国立大学法人富山大学年俸制(一)適用教員給与規則」、「国立大学法人富山大学年俸制(二)適用教員給与規則」及び「国立大学法人富山大学特命教員等給与規則」の適用者にあつては別に定める。

3 給与（期末手当、勤勉手当、期末特別手当及び外部資金獲得手当を除く。）は、その月の全額を毎月 17 日に支給するものとし、特殊勤務手当、大学入学共通テスト手当、時間外労働手当、休日給及び管理職員特別勤務手当は、その月の分を翌月 17 日に支給する。ただし、支給日（この項において毎月 17 日を「支給日」という。）が日曜日に当たるときは、15 日に、支給日が土曜日に当たるときは、16 日に、支給日が月曜日で、かつ、休日に当たるときは、18 日に支給する。

4 期末手当、勤勉手当及び期末特別手当は、6 月 30 日及び 12 月 10 日に支給する。ただし、支給日（この項において、6 月 30 日及び 12 月 10 日を「支給日」という。）が日曜日に当たるときは、支給日の前々日に、支給日が土曜日に当たるときは、支給日の前日に支給する。

5 外部資金獲得手当は、3 月 10 日に支給する。ただし、支給日（3 月 10 日をいう。以下この項において同じ。）が日曜日に当たるときは、支給日の前々日に、支給日が土曜日に当たるときは、支給日の前日に支給する。

- 6 職員の給与について必要な事項は、別に定める「国立大学法人富山大学職員給与規則」、
「国立大学法人富山大学年俸制（一）適用教員給与規則」、
「国立大学法人富山大学年俸制（二）適用教員給与規則」及び「国立大学法人富山大学特命教員等給与規則」による。

第4章 服務

（誠実義務）

第26条 職員は、職務上の責任を自覚し、大学の指示命令に従い、誠実に職務に専念するとともに、職場の秩序の維持に努めなければならない。

（遵守事項）

第27条 職員は、次の事項を守らなければならない。

- (1) 業務上の指示命令に従い、職場の秩序を保持し、互いに協力してその職務を遂行しなければならない。
- (2) 職場の内外を問わず、大学の信用を傷つけ、その利益を害し、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。
- (3) 職務上知ることのできた秘密及び個人情報を正当な理由なく他に漏らしてはならない。
- (4) 常に公私の別を明らかにし、その職務や地位を私的利用のために用いてはならない。
- (5) 大学の敷地及び施設内（以下「大学内」という。）で、喧騒、その他の秩序・風紀を乱す行為をしてはならない。
- (6) 大学の許可なく、大学内で営利を目的とする金品の貸借をし、物品の売買を行ってはならない。

（職員の倫理）

第28条 職員の倫理について、遵守すべき職務に係る倫理原則及び倫理の保持を図るために必要な事項については、別に定める「国立大学法人富山大学役職員倫理規則」による。

（ハラスメントに関する措置）

第29条 ハラスメントの防止に関する措置は、別に定める「国立大学法人富山大学ハラスメントの防止等に関する規則」による。

（兼業）

第30条 職員は、次に掲げるもので大学の許可を受けた場合は、兼業を行うことができる。

- (1) 職員の専門分野に関し、有用な知見が得られるもの
- (2) 地域社会へ貢献するもの
- (3) 産学官連携を推進するもの
- (4) 学術の発展に寄与するもの
- (5) その他前各号に準ずるもの

- 2 職員の兼業について必要な事項は、別に定める「国立大学法人富山大学役職員兼業規則」による。

第5章 知的財産権

（知的財産権）

第31条 職員の知的財産権について必要な事項は、別に定める「国立大学法人富山大学職

務発明規則」及び「国立大学法人富山大学研究成果有体物等取扱規則」による。

第6章 労働時間、休日、休暇等

(労働時間等)

第32条 職員の労働時間、休日、休暇等について必要な事項は、別に定める「国立大学法人富山大学に勤務する職員の労働時間、休暇等に関する規則」による。

(育児休業等)

第33条 職員のうち、3歳に満たない子の養育を必要とする者は、大学に申し出て育児休業の適用を受けることができる。

2 職員のうち、小学校就学の始期に達するまでの子の養育を必要とする者は、大学に申し出て育児短時間勤務又は育児部分休業の適用を受けることができる。

3 育児休業、育児短時間勤務及び育児部分休業について必要な事項は、別に定める「国立大学法人富山大学職員の育児休業等に関する規則」による。

(介護休業等)

第34条 職員の家族で傷病のため介護を要する者がいる場合は、大学に申し出て介護休業又は介護部分休業の適用を受けることができる。

2 介護休業等について必要な事項は、別に定める「国立大学法人富山大学職員の介護休業等に関する規則」による。

第7章 研修

(研修)

第35条 大学は、職員の研修機会の提供に努めるものとし、職員は、その機会を活用し、研究と修養に努めなければならない。

2 職員は、職務の遂行に必要な研修を命ぜられた場合は、これを受けなければならない。

3 職員の研修について必要な事項は、別に定める「国立大学法人富山大学職員の研修に関する規則」による。

第8章 勤務評定

(勤務評定)

第36条 大学は、職員の勤務成績について公正な手続きにより評定を実施する。

第9章 賞罰

(表彰)

第37条 大学は、職員が大学の業務に関し、特に功労があつて他の模範とするに足りると認められるときは、別に定める「国立大学法人富山大学職員表彰規則」により、これを表彰する。

(懲戒)

第38条 大学は、職員が、次の各号の一に該当する場合は、所定の手続きの上、懲戒処分を行う。

(1) この規則その他大学の定める諸規則に違反したとき。

- (2) 職務上の義務に違反したとき。
- (3) 故意又は重大な過失により大学に損害を与えたとき。
- (4) 承認を受けずに遅刻，早退，欠勤する等勤務を怠ったとき。
- (5) 刑法上の犯罪に該当する行為があったとき。
- (6) 重大な経歴詐称をしたとき。
- (7) 前各号に準ずる行為があったとき。

2 職員の懲戒について必要な事項は，別に定める「国立大学法人富山大学職員懲戒規則」による。

(懲戒の種類・内容)

第 39 条 懲戒の種類及び内容は次のとおりとする。

- (1) 譴責 始末書を提出させ，将来を戒める。
- (2) 減給 始末書を提出させるほか，給与を減額する。この場合において，減額は，1 回の額は平均賃金の 1 日分の 2 分の 1，1 か月の額は当該月の給与総額の 10 分の 1 の範囲内とする。
- (3) 出勤停止 始末書を提出させるほか，1 日以上 3 月以内の期間を定めて出勤を停止し，職務に従事させず，その間の給与は支給しない。
- (4) 諭旨解雇 退職を勧告して解雇する。ただし，勧告に応じない場合は，懲戒解雇する。
- (5) 懲戒解雇 即時に解雇する。この場合において，所轄労働基準監督署の認定を受けたときは労基法第 20 条に規定する手当を支給しない。

2 前項第 1 号から第 3 号までの始末書の提出期限は次のとおりとする。

- (1) 再審査の請求がない場合 懲戒処分書の交付を受けた日の翌日から起算して 60 日以内
- (2) 再審査の請求がある場合で，当該請求が却下された場合 却下の通知を受理した日の翌日から起算して 14 日以内
- (3) 再審査の請求がある場合で，当該請求が受理され，再審査の結果，最初の処分が妥当と認められた場合 最初の処分が妥当と認められた旨の通知を受理した日の翌日から起算して 14 日以内
- (4) 再審査の請求がある場合で，当該請求が受理され，再審査の結果，最初の処分決定の修正又はこれに代わる新たな処分決定により，譴責，減給又は出勤停止となった場合 新たに懲戒処分書の交付を受けた日の翌日から起算して 14 日以内

(管理監督責任)

第 40 条 管理監督下にある職員が第 38 条第 1 項各号のいずれかに該当する行為を行った場合は，当該管理職員を管理監督責任により懲戒することがある。ただし，管理職員がこれを防止する方法を講じていた場合においては，情状により懲戒を免ずることがある。

(厳重注意)

第 41 条 大学は，第 38 条第 1 項各号に準ずる者についても，服務を厳正にし，規律を保持する必要があるときは，厳重注意を文書等により行う。

(損害賠償)

第 42 条 職員が故意又は重大な過失によって大学に損害を与えた場合は，第 38 条，第 39 条又は第 40 条の規定による懲戒処分等を行うほか，その損害の全部又は一部を賠償させ

るものとする。

第10章 安全衛生

(安全・衛生管理)

第43条 職員は、安全、衛生及び健康確保について、労働安全衛生法（昭和47年法律第57号）及びその他の関係法令のほか、大学の指示を守るとともに、大学が行う安全、衛生に関する措置に協力しなければならない。

2 大学は、職員の健康増進と危険防止のために必要な措置をとらなければならない。

3 職員の安全・衛生管理について必要な事項は、別に定める「国立大学法人富山大学安全衛生管理規則」による。

第11章 出張

(出張)

第44条 職員は、業務上必要がある場合は、出張を命ぜられることがある。

2 出張を命ぜられた職員が帰任したときは、速やかに、大学に報告しなければならない。

(旅費)

第45条 前条の出張に要する旅費に関して必要な事項は、別に定める「国立大学法人富山大学旅費規則」による。

第12章 福利・厚生

(宿舎利用基準)

第46条 職員の宿舎の利用については、別に定める「国立大学法人富山大学宿舎規則」による。

第13章 災害補償

(業務上の災害補償)

第47条 職員の業務上の災害については、労基法及び労災法の定めるところにより、同法の各補償給付を受けるものとする。

(通勤途上災害)

第48条 職員の通勤途上における災害については、労災法の定めるところにより、同法の各給付を受けるものとする。

(災害補償に関する事項)

第49条 前2条に定めるもののほか、職員の労働災害等の補償について必要な事項は、別に定める「国立大学法人富山大学職員災害補償規則」による。

第14章 退職手当

(退職手当)

第50条 職員の退職手当について必要な事項は、別に定める「国立大学法人富山大学職員退職手当規則」による。

附 則
この規則は、平成 17 年 10 月 1 日から施行する。

附 則
この規則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則
この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則
この規則は、平成 19 年 10 月 1 日から施行する。

附 則
この規則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則
この規則は、平成 20 年 7 月 8 日から施行する。

附 則
この規則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則
この規則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則
この規則は、平成 24 年 10 月 1 日から施行する。

附 則
この規則は、平成 26 年 10 月 1 日から施行する。

附 則
この規則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則
この規則は、平成 28 年 2 月 9 日から施行する。

附 則
この規則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則
この規則は、平成 29 年 7 月 1 日から施行する。

附 則
この規則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則
この規則は、平成 30 年 11 月 13 日から施行し、平成 30 年 11 月 1 日から適用する。

附 則
この規則は、平成 31 年 1 月 29 日から施行する。

附 則
この規則は、令和元年 6 月 25 日から施行する。

附 則
この規則は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。(令和元年 12 月 24 日改正附則)

附 則
この規則は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、令和2年10月27日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、令和3年3月9日から施行する。ただし、医学系所属（ただし、附属病院に診療科及び中央診療施設等をもつ講座に限る）の教育職員の特殊勤務手当、大学入学共通テスト手当、時間外労働手当、休日給及び管理職特別勤務手当については、第25条第3項の規定にかかわらず、その月の初日から20日分までを翌月17日に支給し、21日から末日分までを翌々月17日に支給する。
- 2 前項ただし書きの適用については、令和4年3月31日までとする。

○国立大学法人金沢大学職員就業規則

(平成16年4月1日規則第4号)

目次

- 第1章 総則(第1条-第3条)
- 第2章 人事
 - 第1節 教育職員の人事(第4条)
 - 第2節 採用(第5条-第7条)
 - 第3節 昇任・降任(第8条・第9条)
 - 第4節 人事異動等(第10条-第11条)
 - 第5節 休職(第12条-第15条)
 - 第6節 退職及び解雇(第16条-第24条)
- 第3章 服務
 - 第1節 職員の責務・遵守事項(第25条-第28条)
 - 第2節 兼業(第29条-第32条)
- 第4章 給与
 - 第1節 給与(第33条-第42条)
 - 第2節 退職手当(第43条-第45条)
- 第5章 勤務時間, 休日・休暇, 休業等
 - 第1節 勤務時間(第46条-第58条)
 - 第2節 休暇等(第59条-第64条)
 - 第3節 休業(第65条-第66条の2)
- 第6章 研修・出張, 知的財産権(第67条-第70条)
- 第7章 表彰及び懲戒(第71条-第74条)
- 第8章 安全衛生及び災害補償等(第75条-第78条)
- 第9章 雑則(第79条-第81条)
- 附則

第1章 総則

(目的)

第1条 この規則は、金沢大学(以下「本学」という。)の自主・自律的な運営を旨として職員の人事、労働条件、服務等について定め、もって本学における学術研究、教育、医療及び大学経営の諸活動が秩序をもって、闊達に展開されることを目的とする。

(定義)

第2条 この規則において「職員」とは、試験又は選考により採用された者をいい、日給又は時間給で雇用された職員を除く。

2 この規則において「教育職員」とは、職員のうち、教授、准教授、講師(常時勤務する者に限る。)、助教、助手、校長、園長、教頭、主幹教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭及び外国人研究員の職にある者をいう。

3 任期を付して雇用する職員について、別段の定めを置くときは、それによる。

(適用範囲)

第3条 この規則は、前条の職員を適用対象とする。

第2章 人事

第1節 教育職員の人事

第4条 教育職員の人事に関し必要な事項は、この規則に定めるもののほか、国立大学法人金沢大学教育職員人事規程による。

第2節 採用

(職員の採用)

第5条 職員の採用は、試験又は選考による。

2 職員の採用について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員採用規程に定める。

(労働条件の通知)

第6条 学長は、職員の採用に際して、採用をしようとする職員に対し、あらかじめ次の事項を記載した文書を交付する。

(1) 給与に関する事項

(2) 就業の場所及び従事する業務に関する事項

(3) 労働契約の期間に関する事項

(4) 始業及び終業の時刻、所定労働時間を超える労働の有無、休憩時間、休日及び休暇に関する事項

(5) 交替制勤務をさせる場合は、就業時転換に関する事項

(6) 退職及び解雇に関する事項

(試用期間)

第7条 職員として採用された者は、採用の日から6か月の試用期間(外国人研究員を除く。)を設ける。ただし、国、地方自治体又はこれに準ずる関係機関の職員から引き続き本学の職員となった者については、この限りでない。

2 試用期間中又は試用期間満了時に職員として不適格と学長が認めたときは、解雇する。

3 試用期間は、勤続年数に通算する。

第3節 昇任・降任

(昇任)

第8条 職員の昇任は、選考による。

2 前項の選考は、職員の勤務成績等に基づいて行う。

(降任)

第9条 職員が次の各号のいずれかに該当する場合には、降任することがある。

- (1) 勤務実績がよくない場合
- (2) 心身の故障のため職務の遂行に支障があり、又はこれに堪えられない場合
- (3) その他必要な適格性を欠く場合

第4節 人事異動等

(配置換)

第10条 職員は、業務上の都合により職場の異動又は職務の変更等の配置換を命ぜられることがある。

- 2 前項の配置換は、原則として発令日の7日前までに内示し、本人事情等を十分勘案して実施する。

(在宅勤務)

第10条の2 職員は、業務その他の都合上必要と認められる場合には、一定期間、通常の勤務場所を離れて当該職員の自宅又はこれに準ずる場所における勤務（以下「在宅勤務」という。）を命ぜられることがある。

- 2 在宅勤務により発生する水道光熱費、情報通信機器を利用することに伴う通信費その他の経費については、原則として在宅勤務を行う職員の負担とする。
- 3 在宅勤務の実施方法等については、必要に応じて学長が定める。

(出向)

第11条 学長は、業務上必要な場合、職員に対して他の国立大学法人等において、一定の期間、勤務させることができる。

- 2 出向する職員は、発令の日から、次に掲げる期間内に出向先に赴任しなければならない。ただし、やむを得ない理由により定められた期間内に出向先に赴任できないときは、出向先の承認を得なければならない。

(1) 住居移転を伴わない赴任の場合 発令日

(2) 住居移転を伴う赴任の場合 7日以内

- 3 職員の出向について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員出向規程に定める。

第5節 休職

(休職)

第12条 職員(試用期間中の職員を除く。)が次の各号のいずれかに該当する場合は、休職とする。

- (1) 傷病により、病気休暇の期間が引き続き90日を超える場合
- (2) 刑事事件に関し起訴された場合
- (3) 他の国立大学法人等に出向する場合
- (4) 学校、研究所、病院その他本学が指定する公共的施設において、職員の職務に関連があると認められる学術に関する事項の調査、研究若しくは指導に従事し、又は本学が指定する国際事情の調査等の業務に従事する場合

- (5) 科学技術に関する、国(独立行政法人を含む。以下同じ。)と共同して行われる研究又は国の委託を受けて行われる研究に係る業務であつて、その職員の職務に関連があると認められるものに、前号に掲げる施設又は本学が当該研究に関し指定する施設において従事する場合
 - (6) 研究成果活用企業の役員(監査役を除く。)、顧問又は評議員(以下「役員等」という。)の職を兼ねる場合において、主として当該役員等の職務に従事する必要があり、本学の職務に従事することができない場合
 - (7) 日本が加盟している国際機関、外国政府の機関等からの要請に基づいて職員を派遣する場合
 - (8) 労働組合業務に専従する場合
 - (9) 水難、火災その他の災害により、生死不明又は所在不明となった場合
 - (10) その他特別の事由により休職にすることが適当と認められる場合
- 2 前項第4号から第10号の休職は、職員(第9号の場合はその家族)の申出により行うものとする。
 - 3 第1項第1号に定める病気休暇の期間は、職員の事情等を考慮し、特に必要があると認める場合は延長することがある。
 - 4 国立大学法人金沢大学安全衛生管理規程(以下「安全衛生管理規程」という。)第28条の規定により同規程別表第3に定める生活規制の面の区分においてBの指導区分の決定を受けた場合に、当該指導区分に応じた事後措置の基準で、休暇(日単位のものを除く。)の方法により勤務を軽減する期間が6か月を超える場合は、休職とすることができる。

(休職期間)

第13条 休職の期間は、休職事由に応じて別表第1に定める期間の範囲内とする。

- 2 前条第1項第1号の規定により休職となった職員が、第15条の規定により復職し、復職可能となった日から起算して1年に達するまでの間に、当該休職の原因となった傷病と同一若しくは類似の傷病(産業医が同一又は類似の傷病と認めるものに限る。)又は同一若しくは類似の傷病に起因すると認められる傷病(産業医が同一又は類似の傷病に起因すると認めるものに限る。)(以下「同一傷病」という。)により再度休職するときは、当該傷病に係る休職の期間は通算するものとする。
- 3 前項に規定する「1年」の計算においては、次の各号に掲げる期間を除くものとする。
 - (1) 安全衛生管理規程第28条の規定により同規程別表第3に定める生活規制の面の区分においてAの指導区分の決定を受けた期間及びBの指導区分の決定を受け、当該指導区分に応じた事後措置の基準で、休暇(日単位のものを除く。)の方法により勤務を軽減された期間
 - (2) 第59条による休暇及び第50条から第52条による休日等により、連続30日以上勤務実績がない期間

(3) 前条第1項第1号(同一傷病によるものを除く。)から第10号までの規定による
休職期間

(休職中の給与等)

第14条 休職中の給与, 在職期間調整等については, 第12条第1項各号の事由に応じて
別表第1及び国立大学法人金沢大学職員給与規程の定めるところによる。

2 休職者は, 職員としての身分を保有し, 職員として遵守すべき事項を守らなければなら
ない。

(復職)

第15条 学長は, 休職期間が満了するまでの間に休職事由が消滅したと認めた場合には,
復職を命じる。この場合において, 病気を理由とした休職については, 職員が復職を
申し出て, 産業医が休職事由の消滅を認めた場合に限るものとする。

2 前項の場合において, 学長は, 原則として休職前の職務に復帰させる。ただし, 心身
の条件その他を考慮し, 他の職務に就かせることがある。

第6節 退職及び解雇

(退職)

第16条 職員は, 次の各号のいずれかに該当する場合は, 退職となり, 職員としての身
分を失う。

(1) 自己都合により期日を定めて退職を申し出た場合

(2) 定年に達した場合

(3) 期間を定めて雇用されている場合は, その期間が満了したとき。

(4) 休職期間が満了した後も, 休職事由がなお消滅しない場合

(5) 死亡した場合

2 職員は, 自己都合により退職する場合は, 退職予定日の30日前までに, 学長に退職届
を提出しなければならない。やむを得ない事由により30日前までに退職届を提出でき
ない場合は, 14日前までにこれを提出しなければならない。

3 職員は, 退職届を提出しても, 退職するまでは, 職務に従事しなければならない。

(定年)

第17条 職員は, 定年に達した日以後における最初の3月31日(以下「定年退職日」と
いう。)に退職する。

2 定年は, 年齢60年とする。ただし, 教育職員(校長, 園長, 教頭, 主幹教諭, 教諭,
養護教諭及び栄養教諭を除く。)は, 年齢65年とする。

3 労働契約法(平成19年法律第128号)第18条の規定に基づき, 期間の定めのある労
働契約から期間の定めのない労働契約に転換した職員については, 前2項の規定を適
用する。

(特例による定年の延長)

第 18 条 学長は、定年に達した職員(教育職員のうち、教授、准教授、講師(常時勤務の者に限る。)、助教及び助手を除く。)の職務の遂行上の特別の事情がある場合で、かつ、その退職により業務の運営に著しい支障が生ずると認められる十分な理由がある場合は、当該職員の意向を尊重の上、1年を超えない範囲で定年退職日を延長することができる。

2 前項による定年退職日の延長は、当初の定年退職日から3年を超えない範囲で更新することができる。

(再雇用)

第 19 条 定年退職者又は定年延長後退職した者が再雇用を希望するときは、高年齢者等の雇用の安定等に関する法律(昭和46年法律第68号)第9条の規定に基づき、選考により雇用期間を定め採用することができる。

2 前項の規定による雇用期間の末日は、その者が年齢65年に達する日以後における最初の3月31日以前とする。

3 非常勤職員としての再雇用を希望する者は、国立大学法人金沢大学非常勤職員採用規程の定めるところによる。

(解雇)

第 20 条 職員が次の各号のいずれかに該当する場合には、解雇する。

(1) 勤務実績が著しくよくない場合

(2) 心身の故障のため職務の遂行に著しい支障がある場合、又はこれに堪えられない場合

(3) 前2号に規定する場合のほか、その職務に必要な適格性を欠く場合

(4) 試用期間中の者について、職員として不適格と認めた場合

(5) 禁錮以上の刑に処せられた場合

(6) 業務上の災害により、職場復帰できない場合で、傷病補償年金の給付を受けるに至り、療養開始3年以上を経過した場合

(7) その他前各号に準ずる事由が生じた場合

2 天災事変その他やむを得ない事由により本学の事業継続が困難となった場合には、解雇する。

(解雇制限)

第 21 条 次の各号のいずれかに該当する期間及び事由では解雇しない。ただし、労働基準法(以下「労基法」という。)第81条の規定により打切補償を支払う場合は、この限りでない。

(1) 業務上負傷し、又は疾病にかかり療養のため休業する期間及びその後30日間

(2) 産前産後の女性職員が、その特別休暇の期間及びその後30日間

(解雇予告)

第22条 職員を解雇する場合は、少なくとも30日前に本人に予告をするか、平均賃金の30日以上分の解雇予告手当を支払う。ただし、所轄労働基準監督署の認定を受けて第72条第2項第5号に定める懲戒解雇をする場合は、この限りでない。

2 予告日数は、平均賃金を支払った日数だけ短縮する。

3 次に該当する者は、前二項の規定は適用しない。

(1) 2か月以内の期間を定めて雇用する者

(2) 試用期間中の者で14日以内の者

(退職後の守秘義務)

第23条 退職又は解雇された者は、在職中に知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

(退職証明書)

第24条 学長は、退職又は解雇された者が、退職証明書の交付を請求した場合は、遅滞なくこれを交付する。

2 前項の証明書に記載する事項は、次のとおりとする。

(1) 雇用期間

(2) 業務の種類

(3) その事業における地位

(4) 給与

(5) 退職の事由(解雇の場合は、その理由)

3 証明書には前項の事項のうち、退職又は解雇された者が請求した事項のみを証明するものとする。

第3章 服務

第1節 職員の責務・遵守事項

(職員の責務)

第25条 職員は、職務上の責任を自覚して、勤務中は職務に専念し、本学がなすべき責を有する職務を誠実に遂行するとともに、職場の秩序の維持に努めなければならない。

2 役職者は、職員がその能力を十分に発揮して本学の教育・研究・医療等に専念できるよう、良好な職場環境の形成に努めなければならない。

(遵守事項)

第26条 職員は、次の事項を遵守しなければならない。

(1) 上司の指示に従い、職場の秩序を保持し、互いに協力してその職務を遂行すること。

(2) 職場の内外を問わず、本学の信用を傷つけ、その利益を害し、又は職員全体の不名誉となるような行為をしないこと。

(3) 職務上知ることのできた秘密を他に漏らさないこと。

(4) その職権を濫用して、専らその職務の用以外の用に供する目的で個人の秘密に属する事項が記録された文書等を収集しないこと。

- (5) 常に公私の別を明らかにし、その職務や地位を私的に利用しないこと。
- (6) 本学の敷地及び施設内(以下「大学内」という。)で、喧騒その他の秩序及び風紀を乱す行為をしないこと。
- (7) 学長の許可なく、大学内で営利を目的とする金品の貸借をし、又は物品等の売買を行わないこと。

(倫理)

第27条 職員の倫理について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員倫理規程に定める。

(ハラスメント防止)

第28条 ハラスメントの防止等について必要な事項は、国立大学法人金沢大学ハラスメント防止等に関する規程及び国立大学法人金沢大学ハラスメントの防止・対策に関する指針に定める。

第2節 兼業

(兼業の許可)

第29条 職員は、学長の許可を受けた場合でなければ、報酬を得て本学以外の法人又は団体の役職員の職を兼ねること、及び営利事業を営むことはできない。

2 無報酬であっても営利事業の役員を兼ねる場合は、同様とする。

(時間内兼業)

第30条 学長は、職員の本務と密接な関係があり、社会貢献上有益と判断される場合は、本学が委託された業務を遂行するため、職員をその勤務時間中に他の事業主の下で委託業務に従事させることがある。

2 職員が当該業務に従事したことに対する報酬は、本学に帰属するものとし、従事した職員に対してはその一定割合を手当、研究費等として還元する。

(時間外兼業)

第31条 学長は、本学の事業と競合することなく、かつ本務に支障がない場合は、職員が勤務時間外に本学以外の法人又は団体の役職員として業務に従事することを認める。

2 前項の業務に従事する場合における勤務時間の割振り変更の手続等は、申請者自らの負担において行うものとする。

(規程への委任)

第32条 職員の兼業について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員兼業規程に定める。

第4章 給与

第1節 給与

(給与の種類)

第33条 職員の給与については、国立大学法人金沢大学職員給与規程に定める。

第34条から第42条まで 削除

第2節 退職手当

(退職手当の支給)

第43条 職員が退職し、又は解雇された場合は、職員の勤続年数、退職事由及び解雇事由に応じて、退職手当を支給する。

2 勤続年数が6か月未満の職員及び第19条に基づき再雇用された職員には退職手当は支給しない。

(退職手当の減額・不支給)

第44条 職員が懲戒解雇された場合は、退職手当は支給しない。ただし、勤続年数が長期に及ぶ職員については、その懲戒事由によっては減額支給する場合がある。

(規程への委任)

第45条 職員の退職手当について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員退職手当規程に定める。

第5章 勤務時間、休日・休暇、休業等

第1節 勤務時間

(1週間の勤務時間)

第46条 勤務時間は、休憩時間を除き、1週間当たり38時間45分とする。

(勤務時間の割振り)

第47条 勤務時間は、原則として、月曜日から金曜日までの5日間において、1日につき7時間45分を割り振るものとする。

(始業、終業)

第48条 始業時刻及び終業時刻は、次のとおりとする。

(1) 始業時刻 午前8時30分 終業時刻 午後5時00分

(2) 始業時刻 午前9時30分 終業時刻 午後6時00分

2 前項に定める始業時刻及び終業時刻は、勤務条件の特殊性、季節的事情等により変更することがある。

3 職員は、育児・介護等の家族的事情により第1項に定める始業時刻及び終業時刻の変更を請求することができる。

4 勤務を要する日に、通常の勤務場所を離れて勤務する場合で、勤務時間を算定しがたいときは、割り振られた勤務時間を勤務したものとみなす。

(休憩)

第49条 休憩時間は、次のとおりとする。

(1) 前条第1項第1号の時間帯に勤務する者 正午から午後0時45分まで

(2) 前条第1項第2号の時間帯に勤務する者 午後1時15分から午後2時00分まで

2 業務のため必要なときは、休憩時間の時間帯を変更することがある。

(休日)

第50条 次の各号に掲げる日は、休日とし、勤務時間を割り振らない日とする。

- (1) 土曜日及び日曜日
 - (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
 - (3) 12月29日から翌年の1月3日までの日(前号の休日は除く。)
- (休日の振替)

第51条 休日とされた日において、職員に、業務の都合上勤務することを命ずる必要がある場合には、当該勤務を行う日を起算日とする4週間前の日から当該勤務を行う日を起算日とする8週間後の日までの期間内にある勤務時間が割り振られた日(以下「勤務日」という。)を休日として割り振ることがある。

- 2 前項によるもののほか、当該期間内にある勤務日の勤務時間のうち、4時間を当該勤務日に割り振ることをやめて当該4時間の勤務時間を当該勤務命令日に割り振ることがある。

(代休日)

第52条 職員に休日に勤務することを命じ、前条第1項の規定による振替を行うことができない場合には、事後に当該休日に代わる日(以下「代休日」という。)として、当該休日後の勤務日等(休日を除く。)を指定することがある。

(専門業務型裁量労働制)

第53条 労基法第38条の3の規定に基づく協定が締結された場合、教育職員(附属学校に勤務する者を除く。)のうち主として研究に従事する者は、労使協定に基づき、職務の遂行の手段及び労働時間の配分等を本人の裁量により行うことができる。

- 2 前項の規定の実施につき対象となる職員の範囲、みなし労働時間など必要な事項は、前項に規定する協定において定める。
- 3 前項の規定にかかわらず、金沢大学学則第22条に規定する研究域長及び附属病院長については、これを適用しない。

(フレックスタイム制勤務)

第54条 労基法第32条の3の規定に基づく協定が締結された場合、職員は、第46条に規定する勤務時間について、1日7時間45分を標準として、当番日を除き、本人の選択する時間帯において勤務することができる。ただし、始業時間については午前8時00分から午前11時00分までの間に、終業時間は午後4時00分から午後8時00分までの間に設定するものとする。

- 2 前項の規定の実施につき対象となる職員の範囲、コアタイム、当番日の設定など必要な事項は、前項に規定する協定において定める。

(特別の形態による勤務・変形労働時間制度)

第54条の2 附属病院その他事業運営上の必要から、交替制勤務、変形労働時間制等特別の形態によって勤務する必要がある部局等における職員の休日及び勤務時間の割振りについては、別に定める。

(災害等臨時の必要がある場合の時間外・休日の勤務)

第 55 条 職員は、災害その他避けることのできない事由によって、臨時の必要がある場合においては、労基法第 33 条第 1 項の規定に基づきその必要の限度において、時間外又は休日に勤務することを命じられることがある。

(時間外、休日労働)

第 56 条 労基法第 36 条の規定に基づく協定が締結された場合において、本学は、業務上必要があるときは、関係する職員に対してその勤務時間を延長し、又は休日において職務に従事させることがある。

(妊産婦である職員の特例)

第 57 条 学長は、妊娠中及び産後 1 年を経過しない職員(以下「妊産婦」という。)が請求したときは、午後 10 時から翌日の午前 5 時までの間における勤務(以下「深夜勤務」という。)又は勤務時間外若しくは休日に勤務をさせてはならない。

(育児・介護を行う職員の特例)

第 58 条 学長は、3 歳に満たない子を養育する職員又は負傷、疾病若しくは身体上若しくは精神上の障害により 2 週間以上の期間にわたり常時介護を必要とする家族を介護する職員から請求があったときは、当該職員の業務を処理するための措置を講ずることが著しく困難である場合を除き、勤務時間外に勤務をさせてはならない。

2 学長は、小学校就学の始期に達するまでの子を養育する職員又は負傷、疾病若しくは身体上若しくは精神上の障害により 2 週間以上の期間にわたり常時介護を必要とする家族を介護する職員が請求したときは、本学の運営に支障がある場合を除き、深夜勤務をさせてはならない。

3 学長は、前項に掲げる職員から請求があったときは、当該職員の業務を処理するための措置を講ずることが著しく困難である場合を除き、1 か月について 24 時間、1 年について 150 時間を超えて勤務時間外に勤務をさせてはならない。

第 2 節 休暇等

(有給休暇)

第 59 条 有給休暇は、年次有給休暇、病気休暇及び特別休暇とする。

(年次有給休暇)

第 60 条 職員は、一の年ごとに 20 日の年次有給休暇を取得することができる。ただし、当該年の中途において新たに職員となった者(第 3 項から第 5 項までで定める者を除く。)又は任期が満了することにより退職する者については、別表第 2 の左欄に掲げる在職期間に応じ、それぞれ同表の右欄に掲げる日数(以下この条において「基本日数」という。)とする。

2 年次有給休暇は、40 日を限度として当該年の翌年に繰り越すことができる。

3 国家公務員、地方公務員等(以下「国家公務員等」という。)から引き続き本学の職員となった者(次項に掲げる者を除く。)については、20 日に当該前年の年次有給休暇の残り(当該日数が 40 日を超える場合は 40 日)を加えた日数から、職員となった日の前日

までに使用した年次有給休暇に相当する休暇の日数を減じた日数とする。ただし、当該日数が基本日数に満たない場合にあつては、基本日数とする。

- 4 当該年の中途において国家公務員等となり、その後引き続き本学の職員となった者については、国家公務員等となった日において新たに職員となったものとみなした場合におけるその者の在職期間に応じた基本日数から、引き続き職員となった日の前日までに使用した年次有給休暇に相当する休暇の日数を減じて得た日数とする。
- 5 非常勤職員(国立大学法人金沢大学非常勤就業規則の適用を受けていた者に限る。)から引き続き職員となった者の非常勤職員として付与された年次有給休暇の取扱いについては別に定める。
- 6 第65条第2項の育児短時間勤務の適用を受ける職員の年次有給休暇については一の年ごとに、当該年の在職期間及び1週間の勤務日数に応じ、別表第2の2に掲げる日数とする。
- 7 年次有給休暇は、原則として、日を単位として付与する。職員は、法定付与日数を超える年次有給休暇及び繰越分については、時間を単位として取得することができる。
- 8 第1項及び第3項から第6項までの規定に基づき、年次有給休暇が10日以上与えられた職員に対しては、付与日から1年以内に、当該職員の有する年次有給休暇日数のうち5日について、あらかじめ時季を指定して取得させるものとする。ただし、職員自らが日を単位として年次有給休暇を取得した場合においては、当該取得した日数分を時季を指定して取得させる年次有給休暇(以下「時季指定対象年次有給休暇」という。)の5日から控除するものとする。
- 9 当該年の中途において新たに職員となった者又は任期が満了することにより退職する者に係る時季指定対象年次有給休暇の日数等については、別に定める。

(病気休暇)

第61条 職員は、傷病のため療養する必要がある、勤務しないことがやむを得ないと認められる場合には、病気休暇を請求することができる。

- 2 病気休暇の期間は、療養のため勤務しないことがやむを得ないと認められる必要最小限度の期間とし、1日、1時間又は1分を単位として取り扱う。
- 3 病気休暇は、あらかじめ学長の承認を受けなければならない。ただし、やむを得ない事由によりあらかじめ請求できなかつた場合には、その事由を付して事後において承認を求めることができる。
- 4 連続する8日以上(当該期間における休日、代休日以外の日数が4日以上である期間に限る。)の病気休暇(次の各号に掲げる事由による病気休暇を除く。以下「特定病気休暇」という。)を取得した職員が通常勤務可能となり、可能となった日から起算して6か月に達するまでの間(以下「同一通算期間」という。)に、同一傷病により再度特定病気休暇を取得した場合は、当該傷病に係る特定病気休暇の期間は連続しているものとみなす。

- (1) 第 63 条の定めによるもの
 - (2) 業務上負傷し若しくは疾病にかかり又は通勤により負傷し若しくは疾病にかかったことによるもの
 - (3) 安全衛生管理規程第 28 条の規定により同規程別表第 3 に定める生活規制の面の区分における A 又は B の指導区分の決定に応じた事後措置によるもの
- 5 前項に規定する「6 か月」の計算においては、次の各号に掲げる期間を除くものとする。
- (1) 安全衛生管理規程第 28 条の規定により同規程別表第 3 に定める生活規制の面の区分において A の指導区分の決定を受けた期間及び B の指導区分の決定を受け、当該指導区分に応じた事後措置の基準で、休暇(日単位のものを除く。)の方法により勤務を軽減された期間
 - (2) 第 59 条による休暇及び第 50 条から第 52 条による休日等により、連続 30 日以上勤務実績がない期間
 - (3) 第 12 条第 1 項第 1 号から第 10 号までの規定による休職期間
- 6 第 4 項に規定する同一通算期間に再度特定病気休暇を取得した場合は、当該再度の特定病気休暇から通常勤務可能となった日を当該特定病気休暇に係る同一通算期間の新たな起算日とする。
- 7 療養期間中の休日等(第 50 条から第 52 条に定める休日等をいう。)及びその他の病気休暇の日以外の勤務しない日は、第 4 項及び前項の規定の適用については、特定病気休暇を使用した日とみなす。
- 8 第 4 項から前項までの規定は、試用期間中の職員には適用しない。
(特別休暇)

第 62 条 職員は、別表第 3 の左欄に掲げる項目に該当する特別の事由により、勤務しないことが相当であると認められるときは、それぞれ同表右欄に掲げる期間を特別休暇として請求することができる。

- 2 特別休暇は、必要に応じて 1 日、1 時間又は 1 分を単位とする。
- 3 特別休暇(別表第 3 第 11 号、第 12 号、第 15 号及び第 16 号に掲げるものを除く。)は、あらかじめ学長の承認を受けなければならない。ただし、やむを得ない事由によりあらかじめ請求できなかった場合には、その事由を付して事後において承認を求めることができる。
- 4 特別休暇(別表第 3 第 11 号、第 12 号、第 15 号及び第 16 号に掲げるものに限る。)の請求手続は別に定める。
(生理日の就業が著しく困難な場合)

第 63 条 生理日の就業が著しく困難な職員が休暇を請求した場合は、学長は、その者を勤務させない。

- 2 前項の休暇は、病気休暇とする。

(規程への委任)

第64条 勤務時間及び休暇等について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員勤務時間規程に定める。

第3節 休業

(育児休業)

第65条 職員のうち、3歳に満たない子の養育を必要とする者は、学長に申し出て育児休業の適用を受けることができる。

2 職員のうち、小学校就学の始期に達するまでの子の養育を必要とする者は、学長に申し出て育児短時間勤務又は部分休業の適用を受けることができる。

3 前2項に規定する休業等について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員の育児休業等に関する規程に定める。

(介護休業)

第66条 傷病のため介護を要する家族を有する職員は、学長に申し出て介護休業又は介護部分休業(以下「介護休業等」という。)の適用を受けることができる。

2 介護休業等について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員の介護休業等に関する規程に定める。

(自己啓発等休業)

第66条の2 職員のうち、自発的な大学等における修学又は国際貢献活動のための休業を希望する者は、学長に申し出て自己啓発等休業をすることができる。

2 自己啓発等休業について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員の自己啓発等休業に関する規程に定める。

第6章 研修・出張、知的財産権

(研修)

第67条 職員は、その職責を遂行するため、絶えず研究と修養に努めなければならない。

2 職員には、業務に関する必要な知識及び技能を向上させるため、研修を受ける機会が与えられなければならない。

3 学長は、職員の研修について、研修を奨励するための方策その他研修に関する計画を樹立し、その実施に努めなければならない。

4 教育職員は、本務に支障のない限り、所属長の承認を得て、勤務場所を離れて研修を行うことができる。

5 教育職員以外の職員は、業務に関連し、国・学協会等の主催する講習会等に参加する場合、本務に支障がない限り、所属長の承認を得て、勤務場所を離れて研修を行うことができる。

6 職員の研修について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員研修規程に定める。

(出張と研修)

第 68 条 職員は、業務上必要がある場合は、出張を命ぜられる。出張を命ぜられた職員が帰任したときは、速やかに、復命しなければならない。

- 2 旅費に関する必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員旅費規程に定める。
- 3 前条第 4 項の研修にあつて、旅費が支給されない旅行は、研修出張として扱う。
- 4 前条第 5 項の研修にあつて、旅費が支給されない旅行は、自己啓発研修として扱う。
(サバティカル研修)

第 68 条の 2 教育職員は、学長の承認を得て、研究専念期間(以下「サバティカル研修」という。)を取得することができる。

- 2 サバティカル研修中に、研修場所を離れて調査研究をする場合は、必要に応じて出張又は研修の手続きを経るものとする。
- 3 サバティカル研修に関し必要な事項は、国立大学法人金沢大学サバティカル研修規程に定める。
(知的財産権)

第 69 条 本学は、職員がその性質上本学の業務範囲に属し、かつ、その発明をするに至った行為が本学における職員の現在又は過去の職務に属する発明について、特許を受ける権利を職員(以下「発明者」という。)から承継する。

- 2 本学は、前項の発明者の貢献を評価するとともに、利益を得たときは、発明者に対し相当の補償を行う。
- 3 その他知的財産権について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職務発明取扱規程に定める。
(研究成果有体物)

第 70 条 職員によって本学において職務上得られた研究成果有体物は、別段の定めがない限り、本学に帰属する。

- 2 本学は、前項の研究成果有体物について、有償で譲渡がなされた場合、開発した職員の貢献を評価するとともに、当該職員に対し相当の補償を行う。
- 3 その他研究成果有体物について必要な事項は、金沢大学研究成果有体物取扱規程に定める。

第 7 章 表彰及び懲戒

(表彰)

第 71 条 職員が、本学の業務等に関し特に功労があつて他の模範とするに足りると認められる場合又はこれに相当すると認められる場合は、表彰する。

- 2 表彰について必要な事項は、国立大学法人金沢大学表彰規程に定める。

(懲戒)

第 72 条 職員が、次の各号のいずれかに該当する場合は、所定の手続きの上、懲戒処分を行う。

- (1) この規則その他本学の定める諸規程に違反した場合

- (2) 職務上の義務に違反した場合
- (3) 故意又は重大な過失により本学に損害を与えた場合
- (4) 承認を受けずに遅刻，早退，欠勤する等勤務を怠った場合
- (5) 刑法上の犯罪に該当する行為があった場合
- (6) 重大な経歴詐称をした場合
- (7) 本学の信用を失墜する行為を行った場合
- (8) 職務上の地位を利用して，外部の者から金品等のもてなしを受けた場合
- (9) 前各号に準ずる行為があった場合

2 懲戒の種類及び内容は，次のとおりとする。

- (1) 譴(けん)責 始末書を提出させ，将来を戒める。
- (2) 減給 始末書を提出させるほか，一定の期間給与を減額する。この場合において，減額は，1回の額が平均賃金の1日分の2分の1以内を，処分が2回以上にわたる場合においても，その総額が一給与支払期における10分の1以内で行う。
- (3) 出勤停止 始末書を提出させるほか，一定の期間を定めて出勤を停止し，職務に従事させず，その間の給与は支給しない。
- (4) 諭旨解雇 退職を勧告して解雇する。勧告に応じない場合は，懲戒解雇する。
- (5) 懲戒解雇 即時に解雇する。この場合，所轄労働基準監督署の認定を受けたときは労基法第20条に規定する手当を支給しない。

3 管理監督下にある職員が懲戒に該当する行為があったときは，当該管理監督者は，監督責任により懲戒を受けることがある。

4 職員の懲戒について必要な事項は，国立大学法人金沢大学職員懲戒規程に定める。
(訓告等)

第73条 懲戒処分の必要がない職員についても，サービスを厳正にし，規律を保持する必要があるときは，訓告，嚴重注意又は注意を文書等により行う。

(損害賠償)

第74条 職員が故意又は重大な過失によって本学に損害を与えたときは，本学は，懲戒処分等を行うほか，その損害の全部又は一部を賠償させる。

第8章 安全衛生及び災害補償等

(安全衛生)

第75条 職員は，安全，衛生及び健康確保について，労働安全衛生法及びその他の関係法令のほか，学長の指示を守るとともに，本学が行う安全，衛生に関する措置に協力しなければならない。

2 学長は，職員の健康増進と危険防止のために必要な措置をとらなければならない。

3 角間地区事業場，宝町・鶴間地区事業場，宝町地区事業場(附属病院)，平和町地区事業場に安全衛生委員会を設置する。

4 職員の安全衛生管理について必要な事項は、国立大学法人金沢大学安全衛生管理規程に定める。

(災害補償)

第76条 職員の業務上の災害については、労基法及び労働者災害補償保険法(以下「労災保険法」という。)の定めるところにより、これらの各補償給付を受ける。

(通勤災害)

第77条 通勤途上における災害については、労災保険法の定めるところにより、同法の各給付を受ける。

(健康診断)

第78条 職員に対して採用時の健康診断及び毎年1回(労働安全衛生法等に定められた者については毎年2回以上)の定期健康診断を行う。

2 前項の健康診断のほか、法令で定められた有害業務に従事する職員に対しては、特別の項目について健康診断を行う。

3 職員は、正当な理由がなく本学が行う健康診断を拒んではならない。ただし、他の医師の健康診断を受け、その結果を証明する書類を提出した場合は、この限りでない。

4 健康診断の結果については、各職員に通知する。学長は、健康診断の結果により、必要があると認めるときは、職員に対し、就業時間の短縮、職務の変更その他健康保持上必要とする措置を命ずることがある。

第9章 雑則

(宿舎の利用)

第79条 職員の宿舎の利用については、国立大学法人法附則第13条及び関連する規定の定めるところによる。

(法令との関係)

第80条 この規則の定める労働条件等が法令の定める労働条件等の基準に達しない場合、この規則の当該部分は適用されず、法令の定めるところによる。

(労働協約との関係)

第81条 この規則と異なる労働協約の適用を受ける職員については、この規則の当該部分は適用せず、労働協約の定めるところによる。

附 則

1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

2 この規則に基づく規程については、当該規程が整備されるまでの間、平成16年4月1日以前に本学に適用された、相当する規程の例による。

3 第17条第2項の規定にかかわらず、施行日の前日に行政職俸給表(二)の適用を受ける職員のうち、用務員の地位にあるものの定年は、63歳とする。

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、平成 16 年 12 月 2 日から施行する。
(寒冷地手当の廃止に伴う経過措置)
- 2 平成 16 年 12 月 1 日から引き続き在職する職員(第 2 条に定める職員をいい、外国人研究員及び第 19 条により再雇用された職員を除く。)のうち、平成 16 年から平成 19 年までの毎年 11 月から翌年 3 月までの各月の初日(以下「基準日」という。)において在職する者については、改正後の第 33 条の規定にかかわらず、国立大学法人金沢大学職員給与規程の一部を改正する規程(平成 16 年規程第 155 号)附則第 2 項の定めるところにより、寒冷地手当を支給する。
- 3 前項の規定にかかわらず、平成 16 年 10 月 29 日に在職する者及び平成 16 年 10 月 29 日の翌日から平成 16 年 12 月 1 日までに採用された者の平成 16 年度における寒冷地手当の支給は、従前のおりとする。
(支給日及び支給方法)
- 4 第 2 項による寒冷地手当は、基準日の属する月の給与支給日(第 34 条に定める給与の支給日をいう。)に支給する。ただし、前項が適用される職員の平成 16 年度の支給日は、12 月の給与支給日とする。

附 則

この規則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 22 年 6 月 30 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規則の施行の際、現に本学の職員である者については、改正後の第 60 条第 2 項の規定は平成 25 年 1 月 1 日から適用する。
- 3 この規則による改正後の規則の適用を受ける職員が、労働契約法(平成 19 年法律第 12 8 号)第 18 条第 1 項の規定に基づき労務が提供される期間の定めのない労働契約の締結の申込みをしたときは、当該申込に係る期間の定めのない労働契約の内容である労働条件は、当該労働契約の締結の申込みを行った際に現に締結している有期労働契約の内容である労働条件(契約期間を除く。)と同一の労働条件(当該労働条件(契約期間を除く。))について別段の定めがある部分を除く。)とする。

附 則

この規則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 27 年 11 月 20 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 29 年 1 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 29 年 3 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

- 2 第12条第4項の規定は、この規則の施行日の前日に、安全衛生管理規程第28条の規定により同規程別表第3に定める生活規制の面の区分においてBの指導区分の決定を受け、当該指導区分に応じた事後措置の基準により勤務時間を軽減されている職員の引き続き勤務時間を軽減する期間並びに第12条第1項第1号により休職とされた職員の当該休職及び病気休暇中である職員の当該病気休暇又は当該病気休暇に引き続き休職に伴う事後措置として勤務時間を軽減する期間について、同項中、「6か月を超える場合」とあるのは、「1年を超える場合」と読み替えるものとする。
- 3 第13条第2項の規定は、この規則の施行日の前日に、第12条第1項第1号により休職となっている職員及び特定病気休暇中である職員(引き続き病気休職の期間を含む。)の引き続き当該休職期間については、適用しない。
- 4 第61条第4項の規定は、この規則の施行日の前日に、特定病気休暇中である職員の引き続き当該休暇期間については、適用しない。

附 則

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 第7条の規定にかかわらず、教育職員以外の職員のうち、この規則の施行日の前日に在職する者及び規則の施行日から2020年3月31日までに採用された者の試用期間は、従前のおりとする。
- 3 第60条第8項及び第9項の規定は、平成31年4月1日以降に付与された年次有給休暇について適用する。

附 則

- 1 この規則は、令和元年7月1日から施行する。
- 2 令和元年において、改正後の別表第3(特別休暇)の規定のうち16「職員が夏季における盆等の諸行事、心身の健康の維持及び増進又は家庭生活の充実のため勤務しないことが相当であると認められる場合」の「特別休暇付与日数」欄ただし書き中「一の年における」とあるのは、「一の年の6月から12月までの期間内における」と読み替えるものとする。

附 則

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和2年6月1日から施行する。ただし、第10条の2の改正規定は令和2年4月20日から適用する。

附 則

この規則は、令和3年1月1日から施行する。

別表第1(規則第13条, 14条関係)

(休職)

休職事由	期間	給与支給率	在職期間調整
第12条第1項第1号 (傷病)	3年以内	業務上の場合 休職期間中 100/100以内 私傷病 1年間 80/100以 内 上記以外の期間 支給しな い	3/3 1/3
第12条第1項第2号 (刑事事件)	事件が裁判所に係 属する期間	60/100以内	無罪判決の場合 3/3
第12条第1項第3号 (出向)	個別に応じて	100/100以内	3/3
第12条第1項第4号 (研究)	3年以内 2年の更 新が可能	支給しない	3/3
第12条第1項第5号 (共同)	5年以内	70/100以内	3/3
第12条第1項第6号 (役員等)	3年以内 2年の更 新が可能	支給しない	3/3
第12条第1項第7号 (派遣)	5年以内	70/100以内	3/3
第12条第1項第8号 (専従)	5年以内	支給しない	2/3
第12条第1項第9号 (行方不明)	3年以内	業務上の場合 100/100以 内 上記以外の場合 70/100 以内	3/3 1/3
第12条第1項第10号 (特別事情)	事例に応じて個別 に決定	事例に応じて個別に決定	事例に応じて個 別に決定

別表第2(規則第60条関係)

(年次有給休暇)

在職期間	日数
1月に達するまでの期間	2日
1月を超え2月に達するまでの期間	3日
2月を超え3月に達するまでの期間	5日
3月を超え4月に達するまでの期間	7日
4月を超え5月に達するまでの期間	8日
5月を超え6月に達するまでの期間	10日
6月を超え7月に達するまでの期間	12日
7月を超え8月に達するまでの期間	13日
8月を超え9月に達するまでの期間	15日
9月を超え10月に達するまでの期間	17日
10月を超え11月に達するまでの期間	18日
11月を超え1年未満の期間	20日

別表第2の2(規則第60条関係)

(育児短時間勤務者の年次有給休暇)

在職期間	1週間の勤務日数	日数
1月に達するまでの期間	5日	2日
	3日	1日
1月を超え2月に達するまでの期間	5日	3日
	3日	2日
2月を超え3月に達するまでの期間	5日	5日
	3日	3日
3月を超え4月に達するまでの期間	5日	7日
	3日	4日
4月を超え5月に達するまでの期間	5日	8日
	3日	5日
5月を超え6月に達するまでの期間	5日	10日
	3日	6日
6月を超え7月に達するまでの期間	5日	12日
	3日	7日
7月を超え8月に達するまでの期間	5日	13日
	3日	8日
8月を超え9月に達するまでの期間	5日	15日
	3日	9日
9月を超え10月に達するまでの期間	5日	17日
	3日	10日

10月を超え11月に達するまでの期間	5日	18日
	3日	11日
11月を超える期間	5日	20日
	3日	12日

別表第3(規則第62条関係)

(特別休暇)

特別休暇の事由・期間	特別休暇付与日数
1 職員が公職選挙法(昭和25年法律第100号)に規定する選挙権のほか、最高裁判所の裁判官の国民審査及び普通地方公共団体の議会の議員又は長の解職の投票に係る権利等を行行使する場合で、勤務しないことがやむを得ないと認められるとき。	必要と認められる期間
2 職員が裁判員、証人、鑑定人、参考人等として国会、裁判所、地方公共団体の議会その他官公署へ出頭する場合で、その勤務しないことがやむを得ないと認められるとき。	必要と認められる期間
3 職員が骨髄移植のための提供希望者としてその登録を実施する者に対して登録の申出を行い、又は骨髄移植のため配偶者、父母、子及び兄弟姉妹以外の者に骨髄液を提供する場合で、当該申出又は提供に伴い必要な検査、入院等のため勤務しないことがやむを得ないと認められるとき。	必要と認められる期間
4 職員が自発的に、かつ、報酬を得ないで次に掲げる社会に貢献する活動(専ら親族に対する支援となる活動を除く。)を行う場合で、その勤務しないことが相当であると認められるとき。 (1) 地震、暴風雨、噴火等により災害救助法(昭和22年法律第118号)による救助が行われる程度の規模の災害が発生した市町村(特別区を含む。)又はその属する都道府県若しくはこれに隣接する都道府県における生活関連物資の配布、居宅の損壊、水道、電気、ガスの遮断等により日常生活を営むのに支障が生じている者に対して行う炊出し、避難場所での世話、がれきの撤去	一の年において5日の範囲内の期間

<p>その他必要な援助作業等の被災者を支援する活動</p> <p>(2) 身体障害者療養施設，特別養護老人ホームその他主として身体上若しくは精神上の障害がある者又は負傷し，若しくは疾病にかかった者に対して必要な措置を講ずることを目的とする施設における活動で学長が認める施設における活動</p> <p>(3) (1)及び(2)に掲げる活動のほか，身体上若しくは精神上の障害，負傷又は疾病により常態として日常生活を営むのに支障がある者に対して行う調理，衣類の洗濯及び補修，慰問その他直接的な援助を行う活動</p>	
<p>5 職員が結婚の日の5日前から当該結婚の日後1年を経過するまでに，結婚式，旅行その他結婚に伴い必要と認められる行事等のために勤務しないことが相当であると認められるとき。</p>	<p>連続する5日の範囲内の期間</p>
<p>6 分娩予定日から起算して8週間(多胎妊娠の場合にあっては，14週間)以内に出産する予定である女性職員が申し出た場合</p>	<p>出産の日までの申し出た期間</p>
<p>7 女性職員が出産(妊娠満12週以後の分娩をいう。以下同じ。)した場合</p>	<p>出産の日の翌日から8週間を経過するまでの期間(産後6週間を経過した女性職員が就業を申し出た場合において医師が支障がないと認めた業務に就く期間を除く。)</p>
<p>8 生後1年に達しない子を育てる職員が，その子の保育のために必要と認められる授乳，託児所への送迎等を行う場合</p>	<p>1日2回それぞれ30分以内の期間(その子の当該職員以外の親が当該職員がこの号の休暇を使用しようとする日におけるこの号の休暇(これに相当する休暇を含む。)を承認され，又は労基法第67条の規定により同日における育児時間を請求した場合は，1日2回それぞれ30分から当該承認又は請求に係る各回ごとの期間を差し引いた期間を超えない期間)</p>
<p>9 職員の妻(届出をしないが事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含む。次号において同じ。)が出産するために病院に入院する等の日から当該出産の日後2週間を経過する日までに，その出産に伴い勤務しないことが相当であると認められる場合</p>	<p>2日の範囲内の期間(1日又は1時間単位で取得可能)</p>

<p>10 職員の妻が出産する場合であって、その出産予定日の8週間(多胎妊娠の場合にあっては、14週間)前の日から当該出産の日後8週間を経過する日までの期間において、当該出産に係る子又は小学校就学の始期に達するまでの子(妻の子を含む。)を養育する職員が、これらの子の養育のため勤務しないことが相当であると認められる場合</p>	<p>当該期間における5日の範囲内の期間(1日又は1時間単位で取得可能)</p>
<p>11 小学校就学の始期に達するまでの子(配偶者の子を含む。)を養育する職員が、その子の看護(負傷し、若しくは疾病にかかったその子の世話又は疾病の予防を図るためにその子の世話をを行うことをいう。)のため申し出た場合</p>	<p>一の年において5日(その養育する小学校就学の始期に達するまでの子が2人以上の場合にあっては、10日)の範囲内の期間(1日又は1時間単位で取得可能)</p>
<p>12 負傷、疾病若しくは老齢により2週間以上の期間にわたり日常生活を営むのに支障がある家族(以下この号において「要介護家族」という。)の介護、要介護家族の付添い、要介護家族が介護サービスを受けるために必要な手続きの代行その他の要介護家族の必要な世話をを行う職員が、当該世話をを行うため申し出た場合</p>	<p>一の年において5日(要介護家族が2人以上の場合にあっては、10日)の範囲内の期間(1日又は1時間単位で取得可能)</p>
<p>13 職員の親族(別表[1]の親族欄に掲げる親族に限る。)が死亡した場合で、職員が葬儀、服喪その他の親族の死亡に伴い必要と認められる行事等のため勤務しないことが相当であると認められるとき。</p>	<p>親族に応じ同表の日数欄に掲げる連続する日数(葬儀のため遠隔の地に赴く場合にあっては、往復に要する日数を加えた日数)の範囲内の期間</p>
<p>14 職員が父母の追悼のための特別な行事(父母の死亡後15年以内のものに限る。)のため勤務しないことが相当であると認められる場合</p>	<p>1日の範囲内の期間</p>
<p>15 職員の勤務する部局で夏季一斉休業が実施される場合</p>	<p>一の年の8月14日から8月16日までの期間(8月14日から8月16日のいずれかが休日と重なる場合にあっては、その重なる日数分を13日以前で直近の休日以外の日に振り替えるものとし、8月14日が火曜日となる場合にあっては、8月13日から8月15日までの期間とする。)。ただし、学長が本学の運営上特に必要と認めた場合は、この期間を変更することができる。</p>
<p>16 職員が夏季における盆等の諸行事、心</p>	<p>一の年の7月から9月までの期間内にお</p>

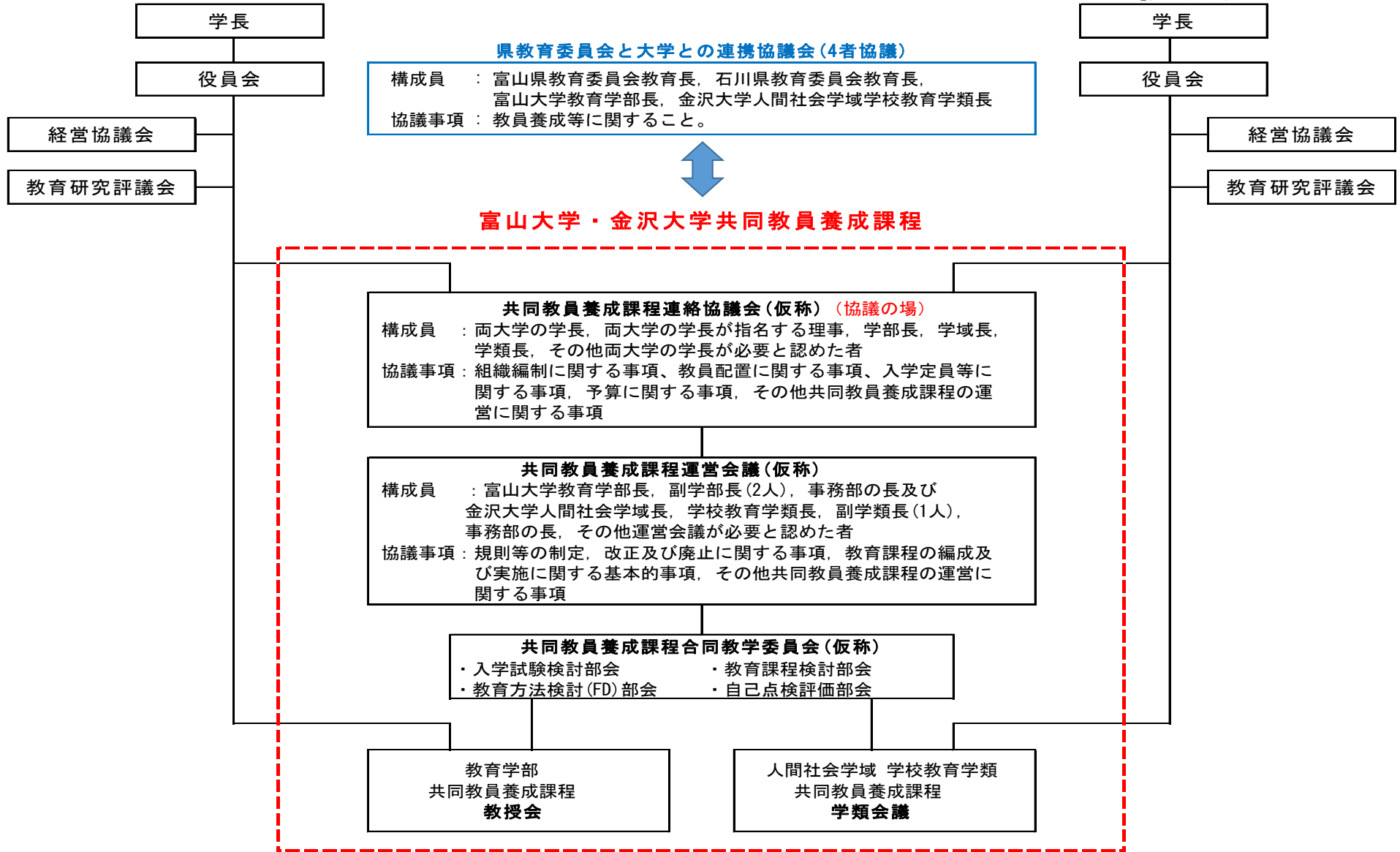
身の健康の維持及び増進又は家庭生活の充実のため勤務しないことが相当であると認められる場合	ける休日及び代休日を除く3日の範囲内の期間。ただし前号の夏季一斉休業の実施されない部局においては、一の年における休日及び代休日を除く6日の範囲内の期間（いずれも1日単位で取得可能）
17 地震、水害、火災その他の災害により職員の現住居等が滅失し、又は損壊した場合で、職員が当該住居等の復旧作業等のため勤務しないことが相当であると認められるとき。	5日の範囲内の期間(1日単位で取得可能)
18 地震、水害、火災その他の災害又は交通機関の事故等により出勤することが著しく困難であると認められる場合	必要と認められる期間
19 地震、水害、火災その他の災害時において、職員が通勤途上における身体の危険を回避するため勤務しないことがやむを得ないと認められる場合	必要と認められる期間
20 国立大学法人金沢大学表彰規程（以下、「表彰規程」という。）第6条に該当する職員で、心身のリフレッシュを図るため勤務しないことが相当であると認められる場合	表彰規程第6条に規定する勤労感謝の日の翌日から翌年の勤労感謝の日の前日までの間の休日を除く連続する3暦日の範囲内の期間

別表 [1]

親族	日数
配偶者	7日
父母	
子	5日
祖父母	3日(職員が代襲相続し、かつ、祭具等の承継を受ける場合にあっては7日)
孫	1日
兄弟姉妹	3日
おじ又はおば	1日(職員が代襲相続し、かつ、祭具等の承継を受ける場合にあっては7日)
父母の配偶者又は配偶者の父母	3日(職員と生計を一にしていた場合にあっては7日)
子の配偶者又は配偶者の子	1日(職員と生計を一にしていた場合にあっては5日)
祖父母の配偶者又は配偶者の祖父母	1日(職員と生計を一にしていた場合にあっては3日)

兄弟姉妹の配偶者又は配偶者の兄弟姉妹	
おじ又はおばの配偶者	1 日

共同教員養成課程組織図 (案)



富山大学教育学部共同教員養成課程
金沢大学人間社会学域学校教育学類共同教員養成課程

学生の確保の見通し等を記載した書類（本文）

目 次

(1) 学生確保の見通し	p. 2
① 入学定員の設定の考え方	p. 2
② 定員充足の見込み	p. 7
③ 教員需要について	p. 11
(2) 学生納付金の設定の考え方	p. 12
(3) 学生確保に向けた具体的な取り組み状況	p. 13
(4) 人材需要の動向等社会の要請	p. 13

(1) 学生確保の見通し

① 入学定員の設定の考え方

本課程の元となる富山大学人間発達科学部及び金沢大学人間社会学域学校教育学類では、出身県内での教員を希望する学生が大半であることを踏まえ、卒業生を安定して小中学校教員として送り出していくためには、富山・石川両県の教員需要の変化を見据えた入学定員規模の設定が必要である。

入学定員の設定の基になるのは、両県の教員需要であり、少子化と定年退職教員の減少という現実を基に、今後の小学校の 35 人学級の導入、特別支援学級の増加を考慮して、将来的な教員採用枠を推計する。

なお、推計に当たっては、富山大学及び金沢大学による共同教員養成課程であり、双方の大学とも富山県・石川県出身者の学生の比率が高く結びつきが強いことから、分析においては過去の実績から便宜的に各大学単位で行った。

●富山大学側の入学定員について

少子化による必要教員数の減少という流れはあるものの、少人数学級の増加、特別支援学級の増加といった要素もあり、一概に少子化に比例して教員採用数が減少するとは言い難い（資料 A1-1）ことから、各県の教員退職者数を教員需要ととらえ算定する。

令和元年度の富山県教育委員会の資料によると、令和 4 年度入学者が卒業する令和 7 年度末の富山県公立学校の退職者数は、小学校 83 名、中学校 46 名、特別支援学校 20 名の計 149 名と、高等学校 69 名であり、国立大学法人の第 4・5 期中期目標（令和 4～15 年度）期間中の教員退職者数が最も少なくなる令和 12 年度は、小学校 41 名、中学校 37 名、特別支援学校 19 名の計 97 名と、高等学校 26 名である（資料 A1-2）。

東海北陸地区の総合大学における教員養成学部のミッションの再定義では、各県の小学校教員占有率が 21～47%となっており、共同教育課程を設置し、高度な教育を展開することにより、富山県の教員採用での占有率を 40%と設定する。これにより富山県内においては、今まで富山大学人間発達科学部の教員養成の中心であった小学校、中学校、特別支援学校において 39 名の教員需要があると考えた（資料 A1-3）。これまで、保育士就職者数の平均が 9 名程度であることから、幼稚園教諭免許を取得して就職する者は、少子化の影響を考慮しても半数程度の 4 名を見込む（資料 A1-4）。

過去 5 年間（平成 27 年度～令和元年度）に富山県で教員となることを希望して富山県公立学校教員採用試験を受験した者は平均 34.8 名であり（資料 A1-5）、主に富山県出身者となっている。この人数は富山県の教員採用での想定占有率 40%から算定した小学校、中学校、特別支援学校において 39 名の教員需要と同程度となる。今後の 18 歳人口の減少から教員を志望する志願者の絶対数の減少も考えられるが、後述

するように北陸地域では高卒者の県外、域外への進学が非常に多く、特に富山県や福井県においては大学進学者の収容力が50%程度と低いため、共同教員養成課程（仮称）を設置し、その魅力をアピールすることで富山県や北陸地域で教員を志望する学生の入学を促すことができ、富山県や北陸地域で小学校・中学校・特別支援学校の教員となることを希望する学生の数を従来と同程度に維持できると考える。また、過去5年間の高等学校への就職者数は5年間の平均値が1.8名となっており、教員養成機能を強化することで3名程度の就職者数を見込んでいる。

富山大学人間発達科学部は教員養成機能を有した一般学部であるため、入学定員170名のすべての学生が教員を志望しているわけではない。過去の卒業生全体に占める教員就職率（幼稚園、小学校、中学校、高等学校）は、平成21年度～令和元年度の平均で約34.8%であった。その他は、一般企業、官公庁、保育士、社会福祉士への就職や大学院進学者であった（資料A1-4）。しかしながら、過去5年間（平成27年度～令和元年度）で毎年度97～119名の学生が教員免許を取得しており、教員採用試験実受験者数は5年間の平均値が63.4名で、その合格率は約62.5%であった。そのうち富山県公立学校教員採用試験実受験者数は5年間の平均値が34.8名で、その合格率は約71.8%となっており、特に地元である富山県での公立学校教員採用試験の合格率は非常に高いと言える（資料A1-5）。これは、富山県教育委員会との連携の下、地元富山県での実情に合わせた教員養成が実現できているからであると考えられる。一方で、富山県以外での教員採用試験の合格率が富山県に比してやや低いことは、これまでの学部の課題であった。そこで、金沢大学とともに現代的教育課題に対応できる質の高い教員養成を目指す共同教員養成課程（仮称）を設置し、次世代の児童・生徒を育てる、社会が要請する教員を輩出する体制を構築することで、入学時から教員志望の強い優秀な学生を確保し、入学者全員を石川県も含めた他県においても十分に通用する資質・能力を備えた教員として養成することが可能になると考えている。

県外の教員需要を検討するにあたって、富山大学人間発達科学部における入学者の都道府県別割合を見てみると、過去5年の平均で、1位富山県40%、2位石川県25%、3位福井県6%、4位長野県5%、5位新潟県4%となっており、上位3県で約71%（教員養成の中心となっている発達教育学科では76%）を占めている（資料A1-6）。また、富山大学人間発達科学部の過去5年の教員採用試験合格者の実績では、全国の公立学校への教員就職者数の5年間の平均値が37.6名であるのに対し、富山県の公立学校への教員就職者数の5年間の平均値が23.6名、同じく石川県で10.8名、福井県で1.0名となっている。富山県、石川県、福井県での教員就職者数が全体の9割以上を占めていることから（資料A1-5）、富山大学人間発達科学部に教員を志望して入学してくる優秀な学生は、この3県に集中していることがわかる。

この富山、石川、福井の3県での教員需要の見通しとして、先程の富山県教育委員会提供の資料では比較が困難であるため、令和元年度 学校教員統計調査 都道府県別 年齢別 本務教員数の資料から推計すると、令和4年度入学者が卒業する令和7

年度の富山県公立学校の退職者数が316名（小学校113名、中学校80名、高等学校92名、特別支援学校31名）であり、国立大学法人の第4・5期中期目標（令和4～15年度）期間中の教員退職者数が最も少なくなる令和14年度で143名（小学校47名、中学校47名、高等学校27名、特別支援学校22名）である。そして、令和7年度から第5期中期目標期間終了時の令和15年度までの退職者数の平均は、約182.8名（小学校62.9名、中学校48.9名、高等学校44.9名、特別支援学校26.1名）となっている。石川県では、令和7年度の石川県公立学校の退職者数が251名（小学校95名、中学校51名、高等学校77名、特別支援学校28名）であり、令和4～15年度の教員退職者数が最も少なくなる令和9年度で120名（小学校46名、中学校32名、高等学校28名、特別支援学校14名）である。福井県では、令和7年度の福井県公立学校の退職者数が251名（小学校113名、中学校69名、高等学校44名、特別支援学校25名）であり、令和4～15年度の教員退職者数が最も少なくなる令和15年度で144名（小学校60名、中学校35名、高等学校32名、特別支援学校17名）である（資料A1-7、C2）。そして、令和4～15年度の富山、石川、福井の3県の教員退職者数の合計が最小となるのは令和15年度で、449名と想定される。

過去5年間（平成27年度～令和元年度）の富山大学人間発達科学部の石川県での教員採用試験の受験者数は5年間の平均値が20.0名、福井県での教員採用試験の受験者数は5年間の平均値が3.6名であり、共同教員養成課程により石川県、福井県の学生に魅力をアピールすることにより、石川県での教員志望学生25名、福井県での教員志望学生5名となることを見込んでいる。また、教員を志望して入学してくる学生は富山県、石川県、福井県が中心であったことから、共同教員養成課程になることで、それ以外の都道府県から入学を志望する学生が減少することが想定される。現在、富山大学人間発達科学部の志願者、入学者の都道府県別割合から、入学者に占める富山県出身者の割合は約40%であるが、50%程度になることを見込み、富山県、石川県、福井県以外の出身者は9名程度と想定する。

この石川県出身者の25名が石川県で教員として採用された場合、令和7年度の石川県の教員退職者数251名の10.0%、令和7年度から令和15年度の石川県の教員退職者数の平均159.6名の15.7%となることが想定される。また、福井県出身者の5名は、令和7年度の福井県の教員退職者数251名の2.0%、令和7年度から令和15年度の福井県の教員退職者数の平均181.2名の2.8%となることが想定される。このことから、共同教育課程の富山大学としての石川県での25名、福井県での5名の教員養成数は、適切な規模と考えられる。

さて、富山大学人間発達科学部では、過去5年間の一般選抜前期の富山県出身の志願者数の平均は103.4名、入学者は43.8名で倍率2.4倍、石川県出身の志願者数は平均62.8名、入学者は24.8名で倍率2.5倍、福井県出身の志願者数は平均15.6名、入学者は7.6名で倍率2.1倍となっている（資料A1-8）。

共同教員養成課程（仮称）の富山大学側の定員を現在の富山大学人間発達科学部の定員 170 名の 1/2 の 85 名とすることで、3 県の出身学生の志願倍率は 4.0 倍以上となり、教員志望の強い優秀な学生を選抜し、入学させることができる。これまでも富山大学人間発達科学部の学生は、前述したように教員採用試験の合格率が高い。また、その能力も、富山大学人間発達科学部・人間発達科学研究科卒業（修了）生の就職先調査（小学校教員採用者対象）によれば、本学の卒業（修了）生の社会人としての資質・能力（総合評価）の平均は 2.9（4 段階評価）、教員としての資質・能力（総合評価）の平均は 2.9（4 段階評価）であり、すべての項目において平均 2.5 以上と評価が高い（資料 A2）。

富山大学人間発達科学部が新たに教員養成学部生まれかわり、定員が従来の半分になって志願倍率が高くなることを考慮にいと、上で述べた富山県出身の予想入学者数約 46 名（小・中・特支 39 名、幼 4 名、高 3 名）、石川県出身の予想入学者数約 25 名、福井県出身の予想入学者数約 5 名のレベルの高い学生たちが全員教員となることは、占有率の点を考慮しても十分に可能である。さらに、長野と新潟など他県から 9 名の入学者が、過去の入学者の都道府県別割合に照らして見込まれるが、北陸三県同様に質の高い学生がより高い倍率をくぐりぬけて入ってくることで、これらの県からの入学者は各県数名程度であることから、共同教員養成課程の高いレベルの教育を通じて、全員を教員として就職させることが十分に可能である。については、計 85 名を養成数と想定した。

以上より、入学定員を 85 名と設定することが妥当であると判断した。

●金沢大学側の入学定員について

共同教員養成課程設置予定の令和 4 年度前の令和 3 年度末の石川県公立学校教員退職者数は約 329 名の見込みである（資料 C2）。

令和 4 年度入学者が卒業する令和 7 年度末の退職者は 251 名であり、令和 3 年度末の退職者数を 100 とすると令和 7 年度末の退職者数は 76.3%であり 23.7%退職者数が減少する。すなわち、児童・生徒数が現状のままならば 23.7%分の採用者数が計算上減少する。一方の生徒数について、『石川県 年齢（各歳）別、男女別推計人口（令和元年 10 月 1 日現在）』より算出（推計）した令和 4 年度の石川県小学校・中学校生徒数推計数は 85,333 名であるが、4 年後の令和 7 年度の推計数は 81,589 名となり、3,744 名（4.4%）減少する。特に小学生は令和 4 年度 55,224 名から令和 7 年度 53,259 名と 1,965 名減少（3.6%）する。小学校の 35 人学級は徐々に進行していくうえ、小学校の配置や学級数も一律ではないためあくまで参考に留まるが、1 クラス 35 名学級とすると、1,965 名は約 56 クラス分となり、その分の教員数が不要となる計算である。

児童・生徒数が令和 4 年度のままならば、令和 7 年度末の退職者数 251 名の採用を

維持となるが、56 クラス分の減少となると、令和 8 年度採用者数は計算上 195 名（令和 3 年度末退職者数 329 名の約 59.3%）で済むことになるため、その分共同教員養成課程の定員も削減する必要があるのではないかと見込まれる。

従来、金沢大学人間社会学域学校教育学類においては、定員を 100 名としていた。これは、石川県における教員のうち、小学校教員の占有率が 3 割としたミッションの再定義での記載や、石川県内における小学校の幹部職員の約 3 割が本学の卒業生（ミッションの再定義での明示）であり本学卒業生の質が高い状況にあるため採用者数が減少しても県内採用者の占有率は約 3 割程度になると推察し、教員需要が減少しても石川県内においては、約 58 名の教員採用が見込めると考えたためである。さらに、同学校教育学類では、今後、県外における教員需要も減少すると考え、令和 3 年度入試で定員を 100 名から 85 名に削減した。

隣県である富山県と福井県には、過去 5 年の実績では、両県合わせて年平均 16.8 名が小・中学校教員として正規採用されている（資料 A3）。また、富山県と福井県について入学者が多い新潟県には過去 5 年の実績で年平均 3 名弱が正規採用されている。福井県、富山県の公立学校の教員退職者数の推移は前述のとおりであるが、金沢大学出身者の教員占有率が変わらないと仮定すると、富山・福井両県への小・中学校教員就職者数は両県合わせて 10 名程度と見込まれる。一方、新潟県の小・中学校の教員退職者数は、令和 7 年末で令和 3 年末比の 22%減、その後も 20%程度の減少の時期が続くが（資料 C2）、金沢大学からの教員就職者数が多くないことからそれほど大きな変化はないと見込まれる。

以上は石川県、富山県、福井県、新潟県の、小・中学校の教員需要の動向に基づいた見込みであるが、金沢大学学校教育学類からは県内外の高校教員としてここ 5 年間、毎年 6 名から 8 名の就職がある。また、上記 4 県以外においても、毎年 6 名前後が教員として就職している。高校教員および上記 4 県以外の教員需要も変動があるものの、各県 1 から 2 名程度の数であり、金沢大学に集う学生のレベルの高さを考慮に入れると、共同教員養成課程の充実した教育内容によって教員志望者を育てることで、高校教員 7 名、上記 4 県以外の公立小・中学校教員 7 名の 14 名分を定員に見込むことは十分可能である。

今後、少人数学級の増加、特別支援学級の増加があり、少子化に比例して教員採用数が減少するとは言い難い（資料 A1-1）ことも考慮すると、今後、一定期間、本学が考察した教員需要が推移すると見込み、現在の定員である 85 名が妥当であると考えられる。

富山大学、金沢大学 85 名ずつの定員は、単に教員需要の点から妥当性があるだけでなく、下記(4)で述べているような高い資質能力を持ち、地域の中核となる教員を育て、地域の教育を支えていくという点からも妥当であると考えられる。

このことを踏まえての共同教員養成課程の完成年度までの富山大学、金沢大学の募集人員（入学定員）、各系の入学定員の計画を以下のとおりとする。

富山大学

選抜区分	一般選抜		総合型選抜		特別選抜	帰国生徒選抜	社会人選抜	合計
	前期日程	後期日程	総合型選抜Ⅰ	総合型選抜Ⅱ	学校推薦型選抜Ⅱ			
入学年度(令和)								
4	62	10	5	3	5	若干名	若干名	85
5	62	10	5	3	5	若干名	若干名	85
6	62	10	5	3	5	若干名	若干名	85
7	62	10	5	3	5	若干名	若干名	85

金沢大学人間社会学域学校教育学類

選抜区分	一般選抜	KUGS特別入試 (総合型選抜Ⅱ)					KUGS特別入試 (学校推薦型選抜Ⅱ)			文系 一括入試	合計
		石川県枠	美術	保健体育	家政	特別支援	国語 社会 英語	数理	音楽		
選考年度(令和)											
4	58	3	3	5	3	4	2	1	4	2	85
5	58	3	3	5	3	4	2	1	4	2	85
6	58	3	3	5	3	4	2	1	4	2	85
7	58	3	3	5	3	4	2	1	4	2	85

以上より、両大学共同教員養成課程の完成年度までの各年度の入学定員の合計数を170人とする。

② 定員充足の見込み

(志願状況)

富山大学人間発達科学部は、平成17年10月に教育学部から改組し、教員養成機能を持つ一般学部として、発達教育学科と人間環境システム学科の2つの学科で構成されている。平成28年度以降の発達教育学科及び人間環境システム学科の入学試験の競争倍率は、資料B1-1に見られるように、入試全体では2.1～2.9倍であるが、前期日程と後期日程を合わせた一般入試では2.0～2.9倍である。一方、推薦入試においては、2.1～3.3倍と2倍を上回っており、平成29年度と令和2年度は3倍を超えている。

平成28年度以降の金沢大学人間社会学域学校教育学類の入学試験の競争倍率は、資料B1-2に見られるように、入試全体では1.8～2.3倍であるが、前期日程では1.8～2.3倍である。一方、推薦入試においては、専修により1.0倍台から4.0倍までと増減がある。

周辺大学の教育学部の志願状況と比べると、両大学とも志願倍率は少し低いがおおむね 2 倍の安定した倍率であり、富山大学側の定員を 85 名減員することを考慮すると、両大学の入学定員の合計数 170 名は、受験生の学力を評価し、入学者を選抜できるだけの志願状況を維持できると考えられる（資料 B2）。

（地元からの志願状況）

最近 5 ヶ年（平成 28 年～令和 2 年）の富山県内の高校等出身者の内訳を示したものが資料 B3-1 である。富山大学人間発達科学部の場合、全志願者のうち地元からの志願率は約 40～42%程度で、合格者・入学者での富山県内の高校等出身者の比率は、年度により増減はあるものの、ともに平均 40%程度であるが、石川県の高校等出身者を加えた場合、志願率は 65～67%で、合格者・入学者での同比率は、年度により増減はあるものの、60～75%と高い数値を示しており、両県の高校生からの期待度がうかがえる。

この傾向は金沢大学学校教育学類の場合も同様であり、最近 5 ヶ年（平成 28 年～令和 2 年）の石川県内の高校等出身者の内訳を示したものが資料 B3-2 である。金沢大学の場合、地元からの志願率は 45～54%で、合格者・入学者での石川県内の高校等出身者の比率は、年度により増減はあるものの、ともに平均 45%程度であるが、富山県の高校等出身者を加えた場合、志願率は 60～68%で、合格者・入学者での同比率についても、年度により多少増減はあるものの、60～65%と高い数値を示していることから富山県、石川県の高校生の地元志向の高さがうかがえる。

この両大学の状況は、他県（富山県・石川県以外）出身者に比べ学力レベルの高い県内出身者が多数受験し、合格・入学していることを示している。実際、高校の進路指導教員との面談でも、「学年の成績の良好な生徒に受験を薦めている」との声がある。

富山県及び石川県以外の入学者の構成としては、同じ北陸地区の福井県が多く、そのほかは隣県の新潟県、長野県、岐阜県であり、全体的には北陸地区又は隣接県からの学生が多い。他県出身の入学者の構成としては、金沢大学では隣接県の福井県、富山県が、また、富山大学では近隣の北陸地区の石川県、福井県は多いが、そのほかは最大でも 5%以下である。（資料 B4）

実際、令和 2 年度の富山大学人間発達科学部志願者数のベスト 30(31校)をみると、14 校が富山県の高校、12 校が石川県の高校であり、さらにベスト 20(21校)に絞ると、11 校が富山県の高校、9 校が石川県の高校である。

また、令和 2 年度の金沢大学人間社会学域学校教育学類の志願者数のベスト 25(25校)をみると、6 校が富山県の高校、13 校が石川県の高校であり、さらにベスト 15(17校)に絞ると、4 校が富山県の高校、10 校が石川県の高校である。

このように両大学とも、入学志願者は富山県と石川県出身者でほぼ占められている。それぞれ大学所在県からの志願者が多いのは、学部・学類と県内高校・県教育委員会との間で培われた強い連携・信頼関係が、進路指導の先生などからのアドバイスなど

を通して、受験生の志願動向にも反映しているためと考えられる。また石川県の高校生が富山大学を、富山県の高校生が金沢大学を志願することも多いのは、両県が隣接し、かつ、大学所在地の距離も近いという理由にとどまらず、学部・学類が隣県の高校と個別に連携関係を築くことに努めてきた成果でもある。このような条件の下で、高校生の強い地元志向の傾向が今後大きく変わるということは考えられない。つまり、両大学にとって両県内からの志願者の確保が、定員充足ということだけでなく、入学者の学力レベルの確保という点でも極めて重要なものであることが分かる。

(富山県、石川県内高校生に対する共同教員養成課程についての意識調査)

富山大学人間発達科学部では、共同教員養成課程設置構想に対する現役高校生の意見を聞くことを目的として、令和3年3月から5月にかけてアンケート調査を実施した。アンケートは、富山大学人間発達科学部への進学者が多い富山県内の高校9校の生徒（令和3年度現在3年生）に対して、共同教員養成課程設置構想のパンフレットを読んだうえでアンケートに回答してもらった。以下にアンケートの集計結果について述べる。（資料 B5-1）。

回答者は9校合計で844名であった。

共同教員養成課程を作ることによって期待される特徴については、資料 B5-1 の①から⑤のような回答が得られた。これを見ると、①から⑤の項目全てにおいて、肯定的な回答が85%を超えており、高校生が共同教員養成課程に対して非常に肯定的に受け止めていることが分かる。特に、取得免許の選択肢が広がる、金沢大学の教員が専門とする分野の教育が受けられること、遠隔メディアシステムにより金沢大学の授業を富山大学で受講できることに対しては90%以上の高校生が魅力と感じていると回答している。また、メディアを使うことにより、ほとんどの講義を自大学で受講できることにメリットを感じつつ、相手大学の学生との交流にも高い期待を持っていることが分かる。

総合的に見て、共同教員養成課程に入学したいかという問いに対しては46%の高校生が「入学したい」、「できれば入学したい」と回答している。その理由を聞いたところ、「地元の大学だから」と、「教員になりたいから」が大きな理由であるものの、「共同教員養成課程に魅力を感じたから」という回答も多くあった。今後広報活動に積極的に取り組むことにより、高校生の理解を得ることは十分に可能であると考えられる。

共同教員養成課程に対する感想について自由記述で書いてもらった典型的な意見をみると、総体として、2つの大学が共同で教員を養成することで視野が広がってよい、選択の幅が広がる、教員を目指すにはとても魅力的であり、是非受験したいと思っている高校生が多く、期待感が高いことがわかった。

同様に、金沢大学人間社会学域学校教育学類においても、石川県内の高校を中心に、

金沢大学人間社会学域学校教育学類への志願者数の多い高校の生徒（令和3年度現在3年生402名）に対して、令和3年3月から5月にかけて共同教員養成課程の構想についてのアンケート調査を実施した。実施に当たっては、事前に進路指導の教員に連絡して、関心のある生徒に集ってもらい、本設置構想の概要（設置の背景・必要性、目的・趣旨、共同教員養成学部の特徴、教育課程の概要・特色、入学試験の概要等）を説明した文書を配布し、その上で、本設置構想に関する意見および入学意思などの設問についての回答を得た。（資料 B5-2）

回答者総数 402 名のうち、総合的に見て富山大学・金沢大学共同教員養成課程に「入学したい」と回答した高校生は75名であり、「入学したい」と回答した9割の学生が入学すると仮定すると、67名となり、「①入学定員設定の考え方」で示した石川県の教員採用見込み数である58名をカバーできることとなる。さらに「できれば入学したい」という生徒まで含めると228名となり、そのうちの8割が受験すると仮定すると定員に対する倍率が2倍以上となり、入学者の質の保証も可能である。

「入学したい」、「できれば入学したい」と答えた高校生にその理由を複数回答で尋ねたところ、「地元の大学だから」と答えた生徒が112名、「教員になりたいから」が139名であるのに対し「共同教員養成課程（仮称）に魅力を感じたから」も94名の回答があった。この数字から、共同教員養成課程が設置されたとしても、従来教員を目指すために金沢大学に入学してきた生徒たちの大学選択が大きく変わることがないということがうかがわれる。

自由記述欄の意見では両大学の連携によって教育や学生の交流の幅が広がることに期待が寄せられる一方で、共同教員養成課程の具体的な内容についての質問も多く、今後しっかりと広報活動をしていく必要がある。

（人口動態及び大学等進学率の動向）

富山県、石川県、福井県の人口動態調査（資料 B6）を見ると、18歳人口は令和元年度では富山県9,966人、石川県11,512人であり、福井県は7,633人となっている。大学受験年齢の18歳となる人口の将来推計で考えると、社会増・減を考えに入れないと、富山県では5年後に約89%、10年後に約80%、石川県では5年後に約87%、10年後に約82%と大きく減少している。福井県は5年後に約92%、10年後に約87%と少し緩やかな減少となっている。富山県及び石川県では急速に少子化が進行することが想定される。

大学等への進学率については、過去5年間では、富山県は平均で52%程度、石川県は54~55%、福井県は平均56%程度でほぼ安定している。（資料 B7）

北陸地域では高卒者の県外、域外への進学が非常に多く、2017年度では富山県は79.5%、石川県では55.3%、福井県では68.6%が県外に流出している。また大学進学者の収容力は2017年度で富山県は53.7%、石川県は104%、福井県は55.6%と富山県、福井県で低くなっている。2040年度の大学進学者数推計でも富山県は収容率77.6%、福井県69.9%と推計されている（H29文科省データ）（資料 B8）。

以上のことをまとめると、少子化に伴う教員需要の減及びそれを加速させる退職教員の減(後述)という現実を踏まえ、地元志向の強い高校生に対し質の高い教員養成教育を基礎にして、教員就職に確実に繋がる定員管理を行うことが大切であり、富山大学側の入学定員を 85 名減員することで、両大学の共同教員養成課程ともに定員を十分充足できる状況にあるといえる。

③ 教員需要について

(県内・近隣大学の中学校教科免許状況)

富山県・石川県内の大学の幼稚園、小学校及び中学校教科の免許状況を資料 C1 に示している。令和 3 年 4 月時点で、富山大学人間発達科学部は、中学校教科の国語、音楽、美術、家庭、技術を除く 5 教科、また、金沢大学人間社会学域学校教育学類は、中学校教科の技術を除く全ての教科について教員免許は取得可能である。富山県・石川県内の他大学では、中学校教科のうち、社会、英語、保健体育等については複数の大学で免許取得が可能となっているが、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校までの教員免許の取得が可能な大学は限られており、両県の幼稚園及び義務教育課程等の運営にとって、富山大学と金沢大学はその基幹的な位置を占めていることがわかる。

(年齢別教員数)

富山、石川、福井の 3 県の教員需要の見通しは、令和元年度 学校教員統計調査 都道府県別 年齢別 本務教員数の資料から推計すると、令和 4 年度入学者が卒業する令和 7 年度の富山県公立学校の退職者数が 316 名(小学校 113 名、中学校 80 名、高等学校 92 名、特別支援学校 31 名)であり、国立大学法人の第 4・5 期中期目標(令和 4~15 年度)期間中の教員退職者数が最も少なくなる令和 14 年度で 143 名(小学校 47 名、中学校 47 名、高等学校 27 名、特別支援学校 22 名)である。そして、令和 7 年度から第 5 期中期目標期間終了時の令和 15 年度までの退職者数の平均は、約 182.8 名(小学校 62.9 名、中学校 48.9 名、高等学校 44.9 名、特別支援学校 26.1 名)となっている。石川県では、令和 7 年度の石川県公立学校の退職者数が 251 名(小学校 95 名、中学校 51 名、高等学校 77 名、特別支援学校 28 名)であり、令和 4~15 年度の教員退職者数が最も少なくなる令和 9 年度で 120 名(小学校 46 名、中学校 32 名、高等学校 28 名、特別支援学校 14 名)である。福井県では、令和 7 年度の福井県公立学校の退職者数が 251 名(小学校 113 名、中学校 69 名、高等学校 44 名、特別支援学校 25 名)であり、令和 4~15 年度の教員退職者数が最も少なくなる令和 15 年度で 144 名(小学校 60 名、中学校 35 名、高等学校 32 名、特別支援学校 17 名)である(資料 A1-7、C2)。そして、令和 4~15 年度の富山、石川、福井の 3 県の教員退職者数の合計が最小となるのは令和 15 年度で、449 名と想定される。

(教員養成課程の大学別就職状況)

文科省提供の教員養成課程の大学別就職状況(資料 C3)によると、金沢大学の教員就職率は、平成 31 年 3 月は 54.9%であるが、令和 2 年 3 月では全国平均を上回る 61.5%となっている。平成 29 年～令和 2 年での石川県内での教員採用試験における採用合格者数は新卒で 25～27 名であり、教員採用試験合格者数のおよそ半数が石川県での合格者となっている(資料 C3、C4)。金沢大学の教員養成は十分に機能しているが、教員の多忙化等が社会問題として大きく報道されるようになり、学生は教員として将来展望に不安を持ち、やりがいを見出しにくい傾向が見られるようになったこと、さらに、民間企業等の就職もしやすくなっていることから、現状に満足することなく教員養成課程の不断の改善を行うことが必要と考えている。

一方、既に述べたように、富山大学人間発達科学部は教員養成機能を有した一般学部であるため、入学定員 170 名のすべての学生が教員を志望しているわけではない。過去の卒業生全体に占める教員就職率(幼稚園、小学校、中学校、高等学校)は、平成 21 年度～令和元年度の平均で約 34.8%であった。その他は、一般企業、官公庁、保育士、社会福祉士への就職や大学院進学者であった(資料 A1-4)。しかしながら、過去 5 年間(平成 27 年度～令和元年度)で毎年度 97～119 名の学生が教員免許を取得しており、教員採用試験実受験者数は 5 年間の平均値が 63.4 名で、その合格率は約 62.5%であった。そのうち富山県公立学校教員採用試験実受験者数は 5 年間の平均値が 34.8 名で、その合格率は約 71.8%となっており、特に地元である富山県での公立学校教員採用試験の合格率が非常に高くなっている(資料 A1-5)。人間発達科学部の就職状況をみると、一般企業、公務員、学校教員、社会福祉士などバランスよく職種がわかれて就職しており、教員以外の分野への就職率の高さは、「多様な教育人材の育成」を教育理念、ディプロマポリシー等として掲げている結果であり、多様な分野での本学部卒業生の評価の高さを示すものでもあるが、富山県の教育委員会や高校生が期待している教員養成の方向性が弱まってしまったことは、学部としての課題である。この課題への対応として人間発達科学部では、この数年、学生の教員志望の意欲を刺激し、また教員免許取得を促進するためのカリキュラムの改善を図っている。

(2) 学生納付金の設定の考え方

学生納付金は、「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令(平成 16 年文部科学省令第 16 号)に定める「標準額」と同様であり、授業料年額 535,800 円、入学料 282,000 円である。学生の確保の見通しを考える上で設定する周辺競合校(福井大学、上越教育大学)と同一の条件である。

(3) 学生確保に向けた具体的な取り組み状況

(学部オープンキャンパスへの高校生の参加状況等)

学部の広報活動の重要な柱となっている富山大学のオープンキャンパス（OC）での人間発達科学部プログラム及び金沢大学の OC 及びキャンパスビジット・スタディプログラムの参加状況についてみると、おおむね入学定員を大きく上回る高校生が参加している（資料 D1）。直近の令和 2 年度は、新型コロナウイルス対応の関係でオンライン開催となったが、定員を大きく超える参加があり、これは、両大学の教員養成教育に対する高校生の関心が非常に強いものがあり、入学意欲も強いものがある証明と考えられる。OC への参加者は地理的な制約から県内の参加者が大半ではあるが、両大学の教員養成教育が高く評価されていることは、県内の教育学部入学希望者を確保するという観点から、OC が非常に有効に機能しているといえる。

(高校との意見交換等)

高校の進路指導教員との意見交換の参加高校の状況を資料 D2 に示す。毎年、多くの高校と意見交換会を行っている。出張授業については、学部・学類の教員全員の協力を得て、県内高校を中心に受験者の多い高校などで数多くの出張授業を行っている（資料 D3）。模擬授業と同時に学部・学類の紹介・広報も行い、志願者増につなげている。

石川県・富山県の教育委員会とは、資料 D4 に示すように各種多数の連携事業、共同研究を展開している。金沢大学では、「学校指導アドバイザー事業」や「学校教育学類研究員制度」を整備し、これらを通して、県内の小中高校から要請のある課題を発掘して、それへの指導・助言活動を行い、また「連携講座」を開催し、県内現職教員の研修にも参画している。富山大学では、「富山県主催の教育事業への学生派遣」を実施し、学生の現場経験の機会を得ると同時に、学校現場への貢献を図って、県教育委員会が実施している「11 年次教職員研修」の一部において、講師として教員を派遣し、現場教員の研修に寄与している。これらを基に、県内高校に対して両大学の共同教員養成課程の認知度を高め、各高校の在校生への周知・宣伝に活用している。

(4) 人材需要の動向等社会の要請

新学習指導要領では、新時代に要請される能力を育てるとして、小学校からの英語の教科化、情報・プログラミング教育の導入、理科教育の充実など新たな学びの方向性が指摘されており、今後の小中学校教員にとって必須となる課題が提起されている。小学校では令和 2 年から、中学校では令和 3 年から、新しい学習指導要領が始まる。新学習指導要領の開始に際して、新たな学びには教員の指導力の向上が不可欠となることから教育公務員特例法の一部改正が行われ、教員に求める資質能力、教員育成指標の策定が各県教育委員会に義務付けられた。そこでは県が求める教員像を規定し、教職課程修了時あるいは教員採用時に身につけている資質能力のほか、採用後のキャ

リアパスの各段階における種々の指標を示し、これに従った教員の育成を進めることとされている。

石川県、富山県が必要としている、教職課程修了時に身につけているべき資質能力については資料 E1 に示しているが、これに応える教員養成教育を着実に遂行していくことが両大学には求められている。教職課程修了時に身につけている資質能力と共同教員養成課程での達成目標・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)との整合性、それを実現する教育プログラムの提供などは、大学での学習計画等の高校側との意見交換の際の鍵となる事項であり、様々な意見交換の機会を捉えて説明を行っている。

資料 E2 には富山、石川両県の教育委員会教育長及び高等学校長協会会長からの要望書を示している。両県ともに急速な技術革新、グローバル化、SDGs 教育の推進、GIGA スクール構想、義務教育学校の設置など現代的な教育課題に対応できる質の高い教員の確保が急務である中で、両大学の特色を生かした共同教員養成課程の設置構想、現代的な教育課題に対応した先進的教育科目を含めたカリキュラムに大きな期待が寄せられている。そして、両県ともに教員志望の高校生が多くが両大学を志望し、両県の教員になっていくことから、児童生徒数の減少による教員需要の減少が予想される中で、両県の教育水準の維持・向上のために長期的に、安定的に質の高い小学校教諭、中学校・高等学校の各教科及び特別支援学校教諭の養成を維持できる共同教員養成課程の設置構想に大きな期待を持っていることがわかる。

富山大学教育学部共同教員養成課程
金沢大学人間社会学域学校教育学類共同教員養成課程

学生の確保の見通し等を記載した書類（別添資料）

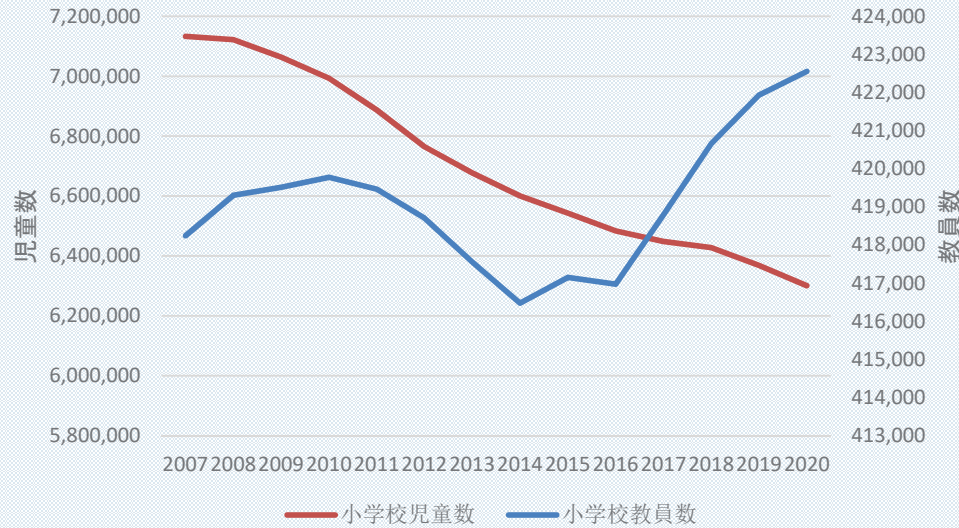
目 次

A. 入学定員算定関係資料	
A 1. 児童生徒数と教員数の推移等	p. 2
A 2. 富山大学卒業生・修了生の就職先アンケート	p. 10
A 3. 金沢大学学校教育学類の出身県別分布及び就職者分布（過去5年間）	p. 23
B. 入学志願状況等	
B 1. 志願倍率等（平成28年度～令和2年度）	p. 24
B 2. 周辺大学教育学部の入学試験倍率	p. 28
B 3. 最近5カ年における県内高校等出身者の割合	p. 29
B 4. 周辺大学教育学部の入学者の構成（出身県別）	p. 31
B 5. 共同教育課程設置構想についてのアンケート結果	p. 32
B 6. 北陸3県の年齢別人口	p. 38
B 7. 北陸3県の大学等進学率	p. 39
B 8. 大学への進学者数の将来推計について	p. 40
C. 教員就職状況、教員需要をふまえた入学定員計画	
C 1. 県内大学の免許状況	p. 57
C 2. 北陸3県及び新潟県の公立小・中学校教員の年齢構成	p. 58
C 3. 教員養成課程の大学別就職状況	p. 59
C 4. 富山県・石川県教員採用試験における富山大学・金沢大学の学生の状況	p. 60
C 5. 富山大学の教員採用試験状況	p. 61
D. 学生確保に向けた具体的な取り組み	
D 1. オープンキャンパスの参加者数	p. 63
D 2. 高校の進路指導教員との意見交換、入試に関する説明会の参加状況	p. 64
D 3. 出前講義等の状況	p. 65
D 4. 県教育委員会との連携事業	p. 66
E. 人材需要の動向等社会の要請	
E 1. 富山県・石川県教員育成指標	p. 68
E 2. 富山県・石川県の教育関係機関（教育長、高校長協会長）からの要望書	p. 73

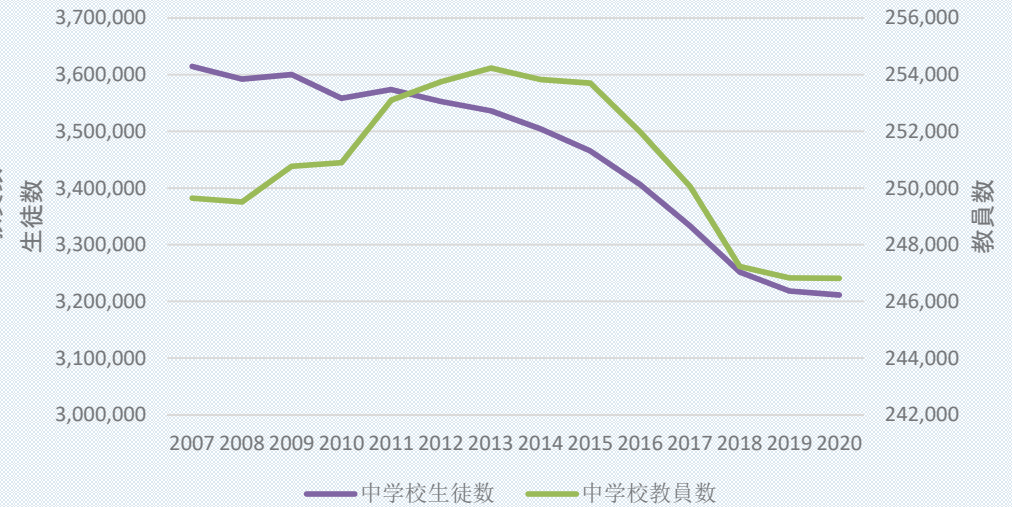
A1-1.児童生徒数と教員数の推移

出典: 学校基本調査

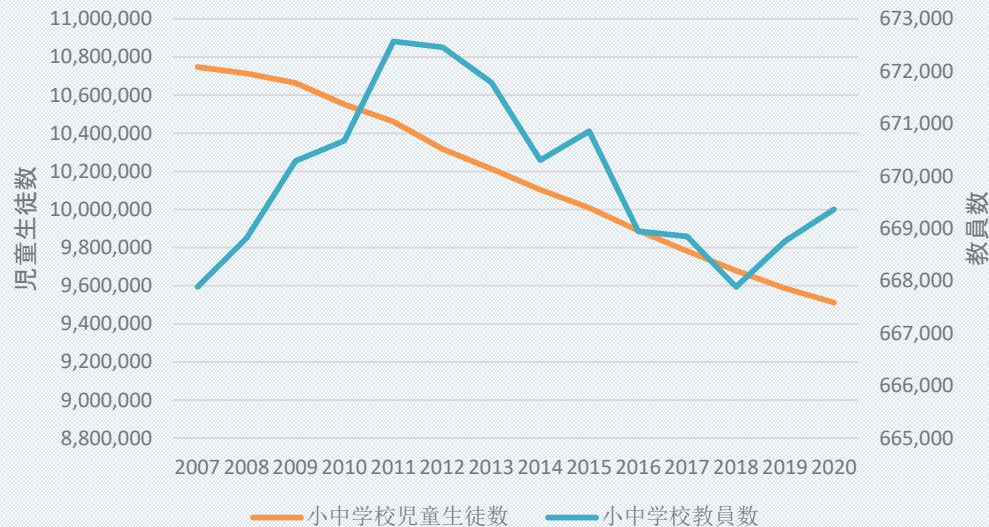
小学校児童数と教員数の推移



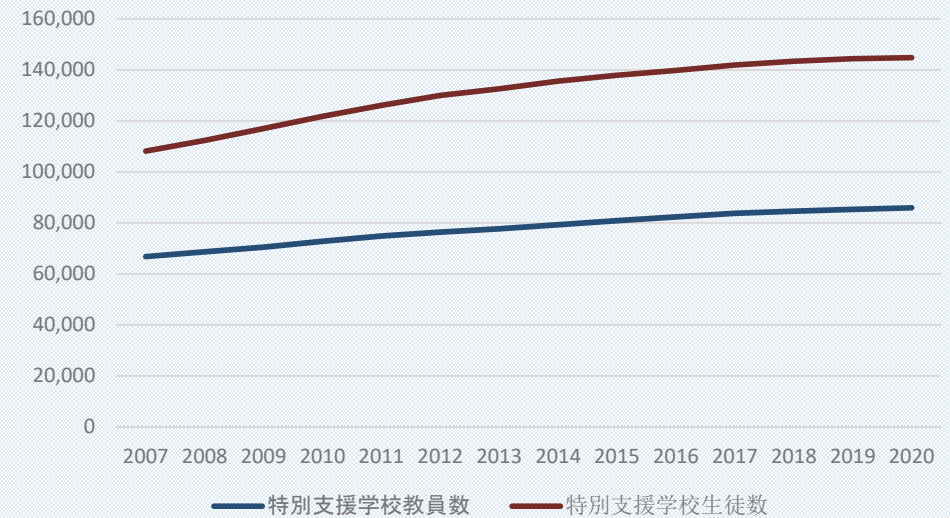
中学校生徒数と教員数の推移



小中学校児童生徒数と教員数の推移



特別支援学校児童・生徒数と教員数の推移



1 (書類等の題名)

富山県における今後の教員退職者数見込み (【A1-2】 3 ページ)

2 (出典)

富山県教育委員会提供データ

3 (引用範囲)

富山県における平成 24 年～平成 44 年度の校種・教科別教員退職者見込み数

なお、本資料は富山県教育委員会において、公表していないデータであるため、公表しないものとする。

1 (書類等の題名)

今後の教員需要に基づく人間発達科学部における教員養成規模

(【A1-3】 4 ページ)

2 (出典)

富山県教育委員会提供データ

3 (引用範囲)

富山県における平成 24 年～平成 44 年度の校種・教科別教員退職者見込み数

4 (その他の説明)

本資料では、以下の試算方法で、今後の教員需要に基づく人間発達科学部における教員養成規模を算出した。その際、教員退職予定者数のうち、教員需要計算の基準となる、平成 42 年度末を赤枠で囲んだ。

- ・「文部科学省が求める第 5 期中期計画期間中（平成 40～45 年度）」の地元（富山県）の教員需要（退職者数）を基に、教員養成規模を試算する。
- ・その際、第 5 期中期計画期間のうち、富山県の教員退職者数が最も少なくなる平成 42 年度末を教員需要計算の基準とする。
- ・人間発達科学部の養成規模は、富山県の公立学校教員採用における目標占有率を設定した上で、基礎となる数値を計算し、更に教員就職状況の富山県内：県外の比率に基づき、全体の数値を計算する。

なお、本資料は富山県教育委員会において、公表していないデータを含んでいるため、公表しないものとする。

A1-4.人間発達科学部の教育理念等と就職状況について

<教育理念>

人間発達科学部は、人間発達を広義の教育と位置づけ、人間の豊かな発達と環境との調和をめざすとともに、**生涯にわたって学習を支援できる教育人材**を育成しています。「人を教えるヒトを育てる学部」をキーワードに、教育学部で培われた教育技法の拡充と複雑化した人間環境の学際的追究を組合せることを通じ、地域社会において、**教員養成とともに人間の生涯学習を促進する教育人材の養成**を目的としています。

<ディプロマ・ポリシー>

[発達教育学科]

乳幼児期から高齢期に至るまでの、障害を含めた発達上の諸問題について専門的な知識を習得し、発達を促す保育、教育、福祉支援を立案・遂行する実践力を備えているか。

[人間環境システム学科]

自然科学から人文社会科学までの専門的知識を学際的アプローチを通じて習得し、健康、環境、国際、情報など人間環境に関わる複合的な問題を解決する実践力を備えているか。

<大学ホームページでの学部紹介>

「発達教育学科」と「人間環境システム学科」の2学科6コースを設けて、学校教員の養成にとどまらず、生涯教育時代にふさわしい教育人材を育てる先進的な教育カリキュラムを提供します。**学校教育・生涯教育・社会教育から企業内教育まで、広義の教育**の場面で活躍できる持続可能な自己教育力を持った人材の育成を目指しています。

人間発達科学部における職種別の推移

	H21年度卒	H22年度卒	H23年度卒	H24年度卒	H25年度卒	H26年度卒	H27年度卒	H28年度卒	H29年度卒	H30年度卒	R01年度卒	平均
一般企業・官公庁・その他就職	42.8%	38.5%	37.1%	34.2%	37.8%	43.4%	41.5%	48.5%	45.9%	52.9%	49.1%	42.9%
学校教員	36.9%	35.2%	31.7%	40.4%	35.4%	39.4%	38.0%	28.7%	38.2%	24.1%	33.9%	34.8%
保育士	5.3%	5.6%	7.8%	7.5%	4.9%	7.4%	4.1%	4.2%	5.3%	5.9%	6.4%	5.8%
医療福祉(社会福祉士等)	3.2%	4.5%	5.4%	2.5%	3.0%	1.1%	2.9%	3.6%	1.2%	2.9%	1.2%	2.9%
進学・その他	10.2%	15.1%	13.8%	14.3%	17.7%	8.6%	11.7%	15.0%	7.6%	12.4%	8.2%	12.2%
未就職	1.6%	1.1%	4.2%	1.2%	1.2%	0.0%	1.8%	0.0%	1.8%	1.8%	1.2%	1.4%
合計	98.4%	98.9%	95.8%	98.8%	98.8%	100%	98.2%	100%	98.2%	98.2%	98.8%	98.6%

・人間発達科学部の就職状況をみると、一般企業、公務員、学校教員、社会福祉士などバランスよく職種がわかれて就職している。また、平成26・28年度の就職率(進学・その他を含む)が100%と高水準であることは特筆すべきことである。**教員以外の分野への就職率の高さは、「多様な教育人材の育成」を教育理念、ディプロマポリシー等として掲げている結果であり、多様な分野での本学部卒業生の評価の高さを示すもの**でもある。

A1-5.富山大学人間発達科学部の教員採用試験の実績

教員採用試験受験状況

全国の公立学校	H28採用 H27卒業						H29採用 H28卒業						H30採用 H29卒業						H31採用 H30卒業						R02採用 R01卒業						5年間平均					
	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計
	免許状取得者数	36	84	95	90	10	119	35	68	73	66	4	100	30	84	85	82	8	115	28	75	73	69	9	106	23	59	70	69	7	97	30.4	74.0	79.2	75.2	7.6
延べ受験者数		46	28		1	75		37	17	2	3	59		49	14	3	2	68		41	18	2	2	63		33	28	3	3	67		41.2	21.0	2.0	2.2	66.4
実受験者数		44	25		1	70		35	16	2	3	56		49	13	3	2	67		41	17	2	2	62		31	27	1	3	62		40.0	19.6	1.6	2.2	63.4
延べ合格者数		32	14		1	47		24	5		1	30		39	4	1	2	46		26	8		2	36		22	18		3	43		28.6	9.8	0.2	1.8	40.4
実合格者数		31	13		1	45		24	5		1	30		39	4	1	2	46		26	8		2	36		20	18		3	41		28.0	9.6	0.2	1.8	39.6
延べ受験者合格率		70%	50%		100%	62%		65%	29%	0%	33%	51%		80%	29%	33%	100%	68%		63%	44%	0%	100%	57%		67%	64%	0%	100%	64%		69.4%	46.7%	10.0%	81.8%	60.8%
実受験者合格率		71%	52%		100%	64%		69%	31%	0%	33%	54%		80%	31%	33%	100%	69%		63%	47%	0%	100%	58%		65%	67%	0%	100%	66%		70.0%	49.0%	12.5%	81.8%	62.5%
就職者数		30	8	2	3	43		24	4	1	1	30		39	3	2	2	46		21	6	2	3	32		20	9	2	6	37		26.8	6.0	1.8	3.0	37.6

※受験区分が中学校・高等学校一括の場合は、中学校に計上している

※免許状取得者数の計は、取得した実人数である。

※受験・合格時の学校種に関わらず、有する教員免許状に応じて、就職時の学校種が変更になることがある。

富山県	H28採用 H27卒業						H29採用 H28卒業						H30採用 H29卒業						H31採用 H30卒業						R02採用 R01卒業						5年間平均					
	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計
	免許状取得者数	36	84	95	90	10	119	35	68	73	66	4	100	30	84	85	82	16	115	28	75	73	69	9	106	23	59	70	69	7	97	30.4	74.0	79.2	75.2	9.2
受験者数		23	19			42		22	7		2	31		24	7		2	33		22	9		1	32		16	17		3	36		21.4	11.8		1.6	34.8
合格者数		17	12			29		15	2		1	18		22	2		2	26		15	6		1	22		15	12		3	30		16.8	6.8		1.4	25.0
受験者合格率		74%	63%			69%		68%			50%	58%		92%	29%		100%	79%		68%	67%		100%	69%		94%	71%		100%	83%		78.5%	57.6%		87.5%	71.8%
就職者数		16	8	2	2	28		15	2		1	18		22	1	1	2	26		12	5	1	2	20		17	3	1	5	26		16.4	3.8	1.0	2.4	23.6

石川県	H28採用 H27卒業						H29採用 H28卒業						H30採用 H29卒業						H31採用 H30卒業						R02採用 R01卒業						5年間平均					
	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計
	受験者数		15	5			20		9	7			16		24	6			30		12	4		1	17		7	10			17		13.4	6.4		0.2
合格者数		12	1			13		6	2			8		15	2			17		7	2		1	10		1	6			7		8.2	2.6		0.2	11.0
受験者合格率		80%	20%			65%		67%	29%			50%		63%	33%			57%		58%	50%		100%	59%		14%	60%			41%		61.2%	40.6%		100.0%	55.0%
就職者数		12				12		6	1	1		8		15	2			17		7	1	1	1	10		1	5	1		7		8.2	1.8	0.6	0.2	10.8

福井県	H28採用 H27卒業						H29採用 H28卒業						H30採用 H29卒業						H31採用 H30卒業						R02採用 R01卒業						5年間平均					
	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計
	受験者数		4			2	6		1	1			2						0		5	1			6		3	1			4		2.6	0.6		0.4
合格者数		2			1	3														2				2		1				1		1.0			0.2	1.2
受験者合格率		50%			50%	50%		0%	0%			0%								40%	0%			33%		33%	0%			25%		38.5%			50.0%	33.3%
就職者数		2			1	3														2				2						0.8				0.2	1.0	

3県合計	H28採用 H27卒業						H29採用 H28卒業						H30採用 H29卒業						H31採用 H30卒業						R02採用 R01卒業						5年間平均					
	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計
	免許状取得者数	36	84	95	90	10	119	35	68	73	66	4	100	30	84	85	82	16	115	28	75	73	69	9	106	23	59	70	69	7	97	30.4	74.0	79.2	75.2	9.2
受験者数		42	24		2	68		32	15		2	49		48	13		2	63		39	14		2	55		26	28		3	57		37.4	18.8		2.2	58.4
合格者数		31	13		1	45		21	4		1	26		37	4		2	43		24	8		2	34		17	18		3	38		26.0	9.4		1.8	37.2
受験者合格率		74%	54%		50%	66%		66%	27%		50%	53%		77%	31%		100%	68%		62%	57%		100%	62%		65%	64%		100%	67%		69.5%	50.0%		81.8%	63.7%
就職者数		30	8	2	3	43		21	3	1	1	26		37	3	1	2	43		21	6	2	3	32		18	8	2	5	33		25.4	5.6	1.6	2.8	35.4

※免許状取得者数の計は、当該学科において当該年度に教員免許状を取得した実人数である。

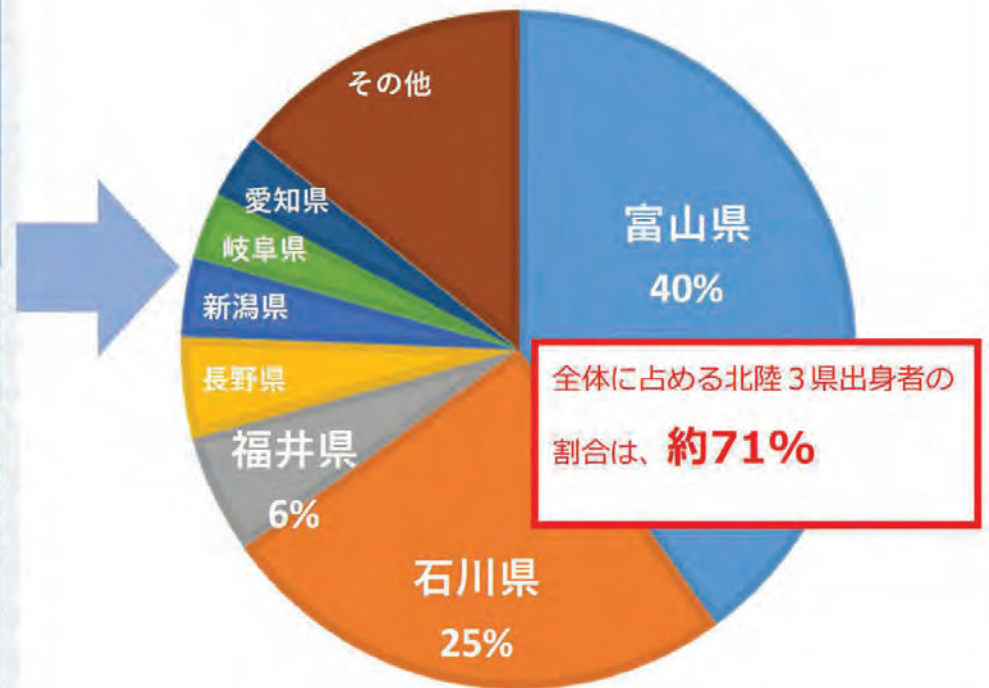
※受験・合格時の学校種に関わらず、有する教員免許状に応じて、就職時の学校種が変更になることがある。

A1-6.富山大学人間発達科学部における都道府県別入学者状況

◆富山大学人間発達科学部における都道府県別入学者状況

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
発達教育学科 (入学定員80)	81	85	84	82	85
富山県	37	27	39	39	33
石川県	21	23	24	27	20
福井県	3	9	4	2	8
長野県	4	5	2	2	4
新潟県	3	4	4	3	2
岐阜県	2	4	2	2	2
愛知県	4	1	3	1	
その他	7	12	6	6	16
人間環境システム学科 (入学定員90)	95	96	95	89	90
富山県	36	39	24	42	37
石川県	25	21	20	21	19
福井県	4	6	9	2	4
長野県	6	5	7	4	3
新潟県	5	0	8	2	2
岐阜県	1	5	7	3	1
愛知県	3	4	7	1	3
その他	15	16	13	14	21
総計	176	181	179	171	175

人間発達科学部における入学者の
都道府県別割合
(平成28年度から令和2年度までの5カ年実績)



A1-7.北陸3県の公立学校教員の年齢構成(令和7年度～令和15年度)

	60歳定年	R7定	R8定	R9定	R10定	R11定	R12定	R13定	R14定	R15定	
	西暦年	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	平均
富山県	小学校	113	81	46	52	57	46	58	47	66	62.9
	中学校	80	54	40	38	43	49	41	47	48	48.9
	高等学校	92	62	56	52	32	32	30	27	21	44.9
	特別支援	31	29	39	29	25	23	19	22	18	26.1
	計	316	226	181	171	157	150	148	143	153	182.8
	対今年度	100	71.5	57.3	54.1	49.7	47.5	46.8	45.3	48.4	
石川県	西暦年	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	平均
	小学校	95	78	46	64	54	62	61	68	68	66.2
	中学校	51	55	32	32	28	28	46	37	33	38.0
	高等学校	77	52	28	25	37	29	41	39	37	40.6
	特別支援	28	19	14	8	15	17	9	9	14	14.8
	計	251	204	120	129	134	136	157	153	152	159.6
	対今年度	100	81.3	47.8	51.4	53.4	54.2	62.5	61.0	60.6	63.6
福井県	西暦年	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	平均
	小学校	113	97	62	50	64	64	58	89	60	73.0
	中学校	69	49	55	45	49	37	41	31	35	45.7
	高等学校	44	38	39	41	49	42	36	33	32	39.3
	特別支援	25	21	22	19	17	31	28	29	17	23.2
	計	251	205	178	155	179	174	163	182	144	181.2
	対今年度	100	81.7	70.9	61.8	71.3	69.3	64.9	72.5	57.4	72.2

令和元年度 学校教員統計調査より作成

A1-8. 富山大学人間発達科学部における都道府県別志願状況

◆富山大学人間発達科学部における都道府県別入学試験前期日程志願者状況

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平均
志願者数	289	284	225	256	213	253.4
(募集人員102)						
富山県	111	118	92	109	87	103.4
石川県	82	69	50	65	48	62.8
福井県	16	20	23	7	12	15.6
その他	80	77	60	75	66	71.6
入学者数	99	106	107	106	104	
富山県	45	41	39	52	42	43.8
志願倍率 (富山県)	2.5	2.9	2.4	2.1	2.1	2.4
石川県	22	28	20	31	23	24.8
志願倍率 (石川県)	3.7	2.5	2.5	2.1	2.1	2.6
福井県	5	10	11	6	6	7.6
志願倍率 (福井県)	3.2	2.0	2.1	1.2	2.0	2.1
その他	27	27	37	17	33	28.2

富山大学人間発達科学部・人間発達科学研究科 卒業（修了）生の就職先調査の報告
（小学校教員採用者対象）

令和2年1月29日
評価委員会 宮一志

本学部の教員養成に関する教育のあり方を改善検討するために、本学部・研究科卒業（修了）生の評価、求める能力、学部・研究科への要望を採用先の小学校校長よりアンケート形式により調査した。

・調査対象者

平成28年度～平成30年度に小学校教員として採用された本学部・研究科卒業（修了）生

・調査方法

調査時点（令和元年11月）で調査対象者が在籍している小学校校長にアンケート用紙を令和元年11月に送付し、調査対象者に関して回答していただき、返信用封筒にて回収した。

対象となる本学部・研究科卒業（修了）生は33名であり、32名分（回収率97.0%）の回答があった。回答していただいた小学校校長は23名であった。

調査内容は

- (1) 調査対象者の基本情報（性別、卒業・修了の学部・研究科、卒業年度）
- (2) 調査対象者の社会人としての資質・能力（4段階評価）
（4：とても充足している，3：やや充足している，2：やや不足している，1：とても不足している）
- (3) 調査対象者の小学校教員としての資質・能力（4段階評価）
（4：とても充足している，3：やや充足している，2：やや不足している，1：とても不足している）

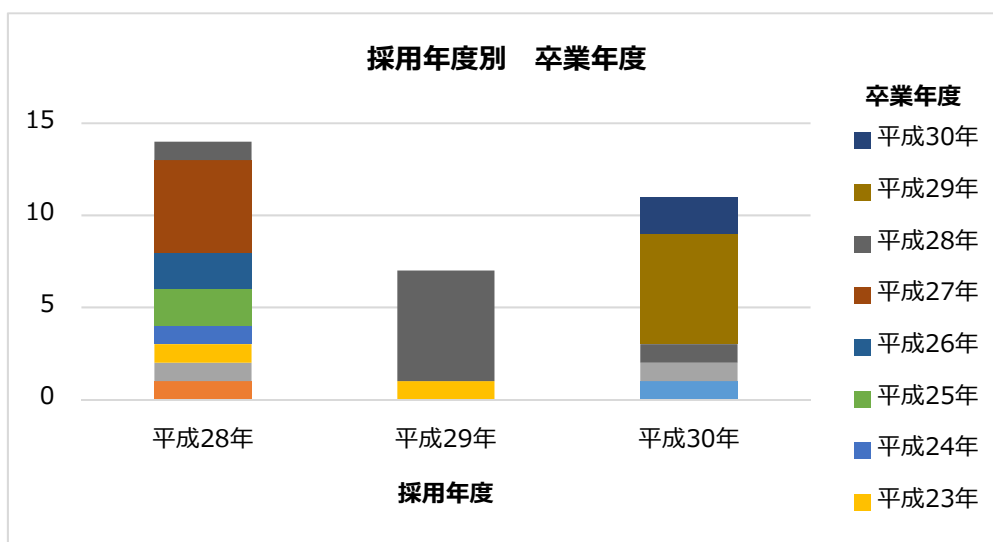
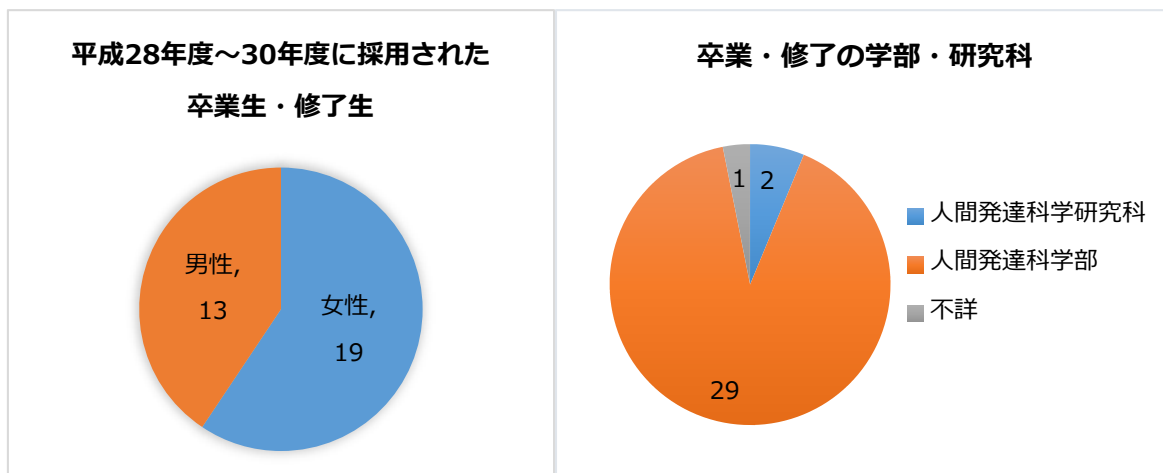
また、採用先の小学校校長に

- (1) 社会人として、学生時代に身につけておいて欲しい能力や資質、経験しておいて欲しいこと
- (2) 小学校教員として、学生時代に身につけておいて欲しい能力や資質、経験しておいて欲しいこと
- (3) 富山大学人間発達科学部の教育プログラムに対する評価
- (4) 富山大学人間発達科学部の小学校教員養成に対する期待

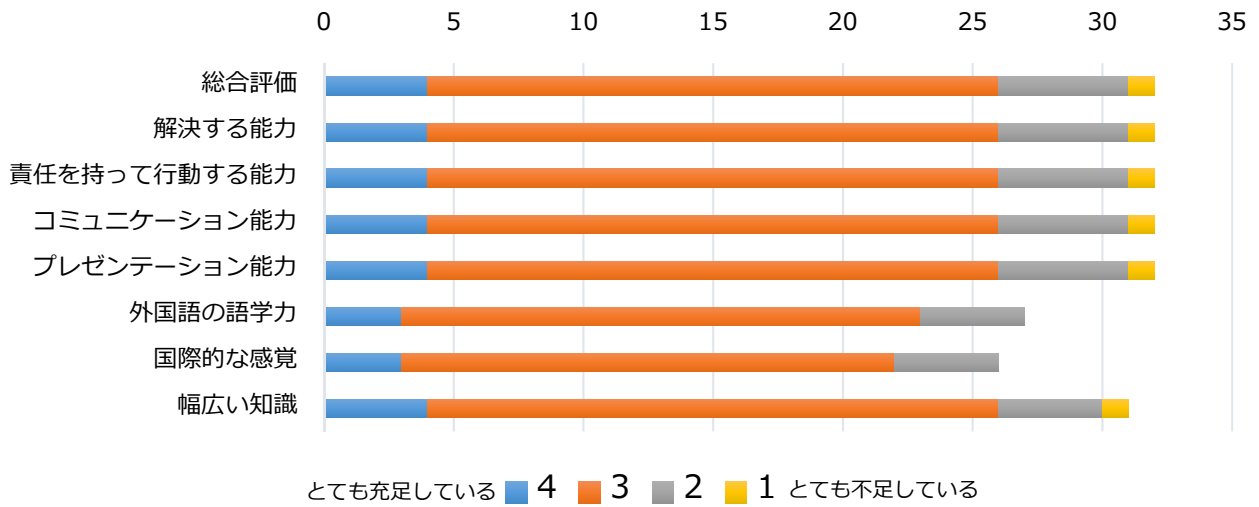
に関して、自由記述で記載してもらった。

・結果

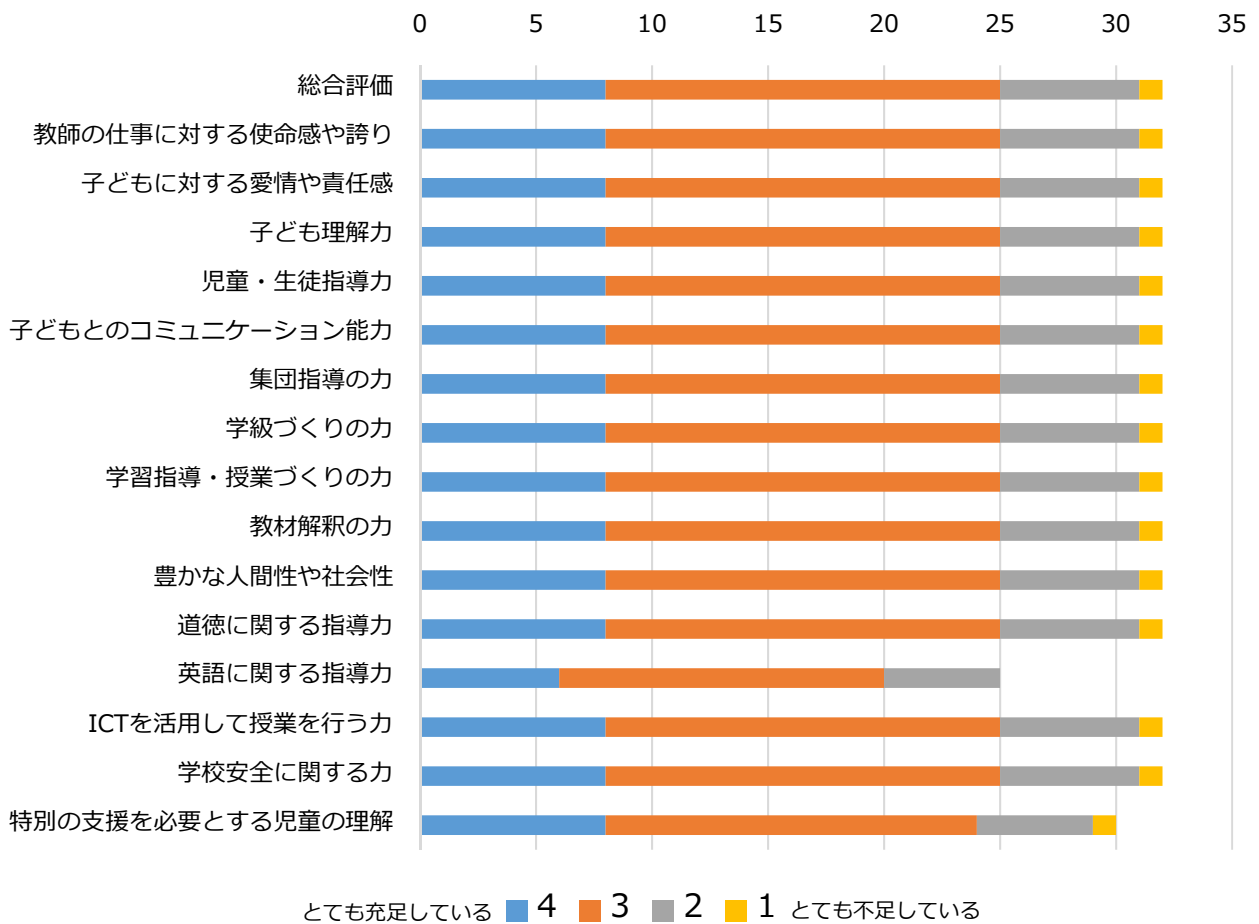
<卒業生・修了生の資質・能力に関するアンケート調査>



卒業生・修了生の社会人としての資質・能力



卒業生・修了生の教員としての資質・能力



卒業生・修了生の社会人としての資質・能力に関する項目間の相関

	総合評価（社会人）	解決する能力	責任を持って行動する能力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	外国語の語学力	国際的な感覚	幅広い知識
総合評価（社会人）	1	0.7412*	0.8629*	0.6916*	0.3824*	0.7027*	0.5908*	0.4425*

Pearson の積率相関係数を示しました。

また、無相関検定の結果に応じて、以下の凡例を付しました。*: $p < 0.05$

卒業生・修了生の教員としての資質・能力に関する項目間の相関

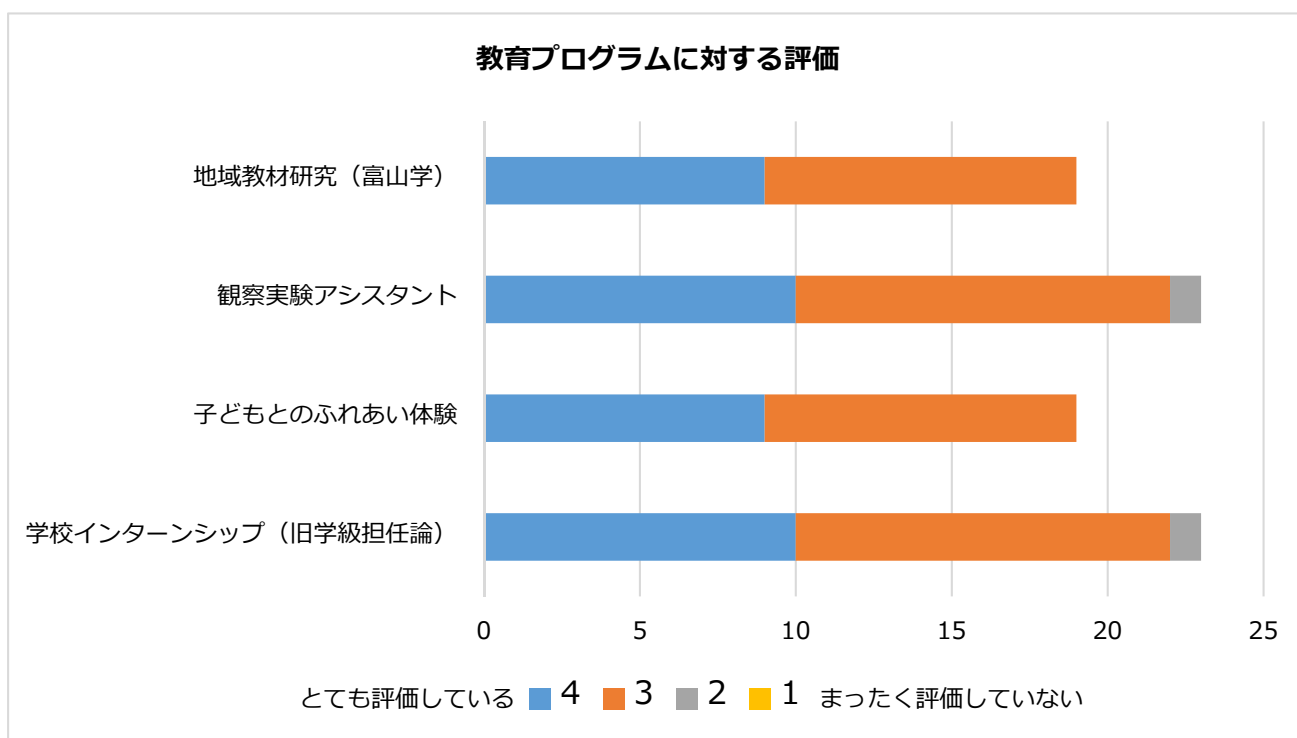
	総合評価（教員）	教師の仕事に対する使命感や誇り	子どもに対する愛情や責任感	子ども理解力	児童・生徒指導力	子どもとのコミュニケーション能力	集団指導の力	学級づくりの力
総合評価（教員）	1	0.8931*	0.7494*	0.7728*	0.7613*	0.7663*	0.8056*	0.8479*

	学習指導・授業づくりの力	教材解釈の力	豊かな人間性や社会性	道徳に関する指導力	英語に関する指導力	ICTを活用して授業を行う力	学校安全に関する力	特別の支援を必要とする児童の理解
総合評価（教員）	0.6549*	0.4958*	0.7114*	0.7463*	0.5828*	0.1209	0.5455*	0.4865*

Pearson の積率相関係数を示しました。

また、無相関検定の結果に応じて、以下の凡例を付しました。*: $p < 0.05$

<教育プログラムに関するアンケート調査>



① 社会人として、学生時代に身につけておいて欲しい能力や資質、経験しておいて欲しいこと（自由記述）

- 対人（特に大人と接する際）マナーの基本。ある程度正しい敬語を使うこと
- 時と場に応じた挨拶をしっかりと行い、人とのコミュニケーションが図れるようにしておいて欲しいです。
- 他者と協力し合うコミュニケーション力。自分の考えを持って前向きに取り組む力。困難なことがあっても、簡単にあきらめない粘り強さ"
- コミュニケーション能力
- コミュニケーション能力。失敗してもへこたれない忍耐力。意見交換し、考えを作り上げ、何かを実行する力
- コミュニケーション能力。協働性。福祉経験（老人、介護施設）。ボランティア体験（施設など）
- 相手に正確に伝わる文章を書く力や、相手の立場に立って物事を考えられる力、自分の行動が及ぼす影響を考えることができる力など
- コミュニケーション能力。自己を改善していこうとする力
- 挨拶、時間を守る、提出物を出す、上司、先輩から言われたことに耳を傾けるなどの基本的マナー
- 様々な考えを持つ人々とのコミュニケーション能力、規範意識。子どもと直接かかわる以外に海外や海、山などに出かけ、見聞を広め、様々な体験をしてほしい。
- 様々な価値観を持つ人とも折り合いをつけたり協調したりして、共に取り組もうとする態度、自分の考えを伝えあい、理解し合おうとするコミュニケーション力を育てていただきたい。
- 周囲を気遣うことができる（お客さんや電話対応を含めて）
- 忍耐強さや自己抑制力、そして何よりもやる気を持って物事にあたる気持ち
- 自分が困ったりわからないことがあった時に、他社に尋ねたり助けを求めたりする関わる力を持っている初任者は伸びます。
- 先を見通して問題を解決していく能力。幅広い視野に立って物事を考える能力
- 他者と協力し合うコミュニケーション能力
- コミュニケーション能力の育成。社会貢献活動や文化的事業への参画など広い視野を持つ経験
- 良いこと悪いことをすべて含んだ幅広い経験。一般教養、しなやかなコミュニケーション能力
- 一般的な社会人としてのマナー、接遇など
- 他者とかかあり合うことやいろいろな人と語り合うこと（特に年上や知らない人と関わり合うことや自分の考えを語り合うこと）が必要と考える。また、飲み会や旅行など、どんなことでもよいが集団を扱った企画・運営の経験をしてきてほしいと思っている。
- 目標に向かって頑張り続ける力、コミュニケーション力、素直さや吸収力、明るく前向きな態度、協調性、視野の広さ、礼儀の常識。
- 相手の立場に立って考えようとする態度を身につけて欲しいです

② 小学校教員として、学生時代に身につけておいて欲しい能力や資質、経験しておいて欲しいこと（自由記述）

- 子どもたちの発達段階に応じた言葉かけ
- 子どもたちに対して愛情をもって積極的に関わっていけるような力をつけて欲しいと願っています。
- 個別に支援を要する子どもへの温かい愛情。子ども一人一人を大切な存在として認める心。子どもの可能性を信じ続ける心の広さ
- ユーモアのセンス（教壇では役者）。カウンセリングマインド。自己開示できる力（強さ）
- 子どもを大切に思う資質（多様な面を見せる子どもを受け止める）。失敗してもへこたれない我慢強さ
- コミュニケーションスキル。ボランティア体験（異業種）
- 正しい鉛筆の持ちから、整理整頓の仕方、時間を見通した行動、正確に文字を書くことなど、児童生徒の手本となる基本的なふるまい
- コミュニケーション能力，人間を尊重する姿勢，基礎学力
- 板書の漢字を間違わないなど基本的知識。同僚とのコミュニケーションをとれること。プリントやノートをため込まない責任感など"
- 読書をたくさんしてほしい。
- できるだけ多く現場に出て、実際に様々な子供と触れる機会を持ち、子供を理解しようとする態度，進んで子供に関わろうとする態度を育てていただけるとありがたい。
- 保護者への丁寧な対応の仕方
- まずはコミュニケーション能力，そして協調性，誠実さや思いやり，素直さのない教員は成長しない。
- 現在の現場でのフィールドワークはかけがえのない経験になっていると思います。相手の困り感に寄り添い，協働的に物事に取り組む力は大切だと思います。
- 子供とのコミュニケーション能力。「報告・連絡・相談」がしっかりできること
- 課題や問題を自ら解決する能力，解決しようとする熱意
- 自ら学ぶ姿勢，旺盛なチャレンジ精神。児童理解につながる体験活動
- 子供の心のとらえ方，洞察力。雑学を含んだ幅広い知識，積極的な行動力。スケールの大きな人間性
- 話し方，子供の動かし方，チョークを使った文字の書き方など
- 人の思いや気持ち（特にできない人，弱い立場の人）を理解できる，人としての資質を身に付けてきてほしい。また，いろいろなことに積極的に挑戦したり，歯を食いしばって最後までやり遂げる経験をしてきてほしい。
- 子供理解力，聴く力，全体把握力，様々な異なった考えに耳を傾ける力，様々な年代，職種の人たちと十分会話すること。
- あきらめずに頑張り続けようとする力があるとよいです

③ 富山大学人間発達科学部の小学校教員養成に対する期待（自由記述）

- 貴大学に対する期待は今でも大きく、富山教育の良さを感じた（体験した）人材の育成をお願いしたい
- 学びのアシストや観察実験アシスタントで学校現場に来る学生さんは、子供たちにとっては「先生」です。現場で助けてもらうことも多いのですが、「先生」という自覚をしっかりとってきていただきたいです。
- アンケートもよいと思いますが、勤務校を訪問され、実際の指導をご覧になる方が大学の教育改革に有効だと思います。
- 教員志望者が減少している現状の中、仕事は少し大変かもしれないが、やりがいのある仕事であることをこれまで以上に教えていただければ幸いです。
- 県の教育界を引っ張っていく人材の育成を期待しています。
- 富山県小学校の中核となって活躍できる人材育成
- 元気に明るく子供や保護者とコミュニケーションをとることができる人材を今後も多く輩出していただきますよう切に祈念し、気持のみになるかもしれませんが心より応援しております
- 基礎学力は大切だと思いますし、仲間とともにプロジェクトを進める力も大切だと思います。
- 若手育成には学校現場ももちろん力を入れていかなければならないし、それを怠るつもりもありません。しかし、資質がとてもしもかけ離れた人が現場に来た時、そこにかかる労力をはかり知れず、犠牲にしたものも多かったです。「給料をもらって働く」「責任」が認識でき、子供のために頑張れる思いと最低限の資質を持った人が教員として来てもらえたら現場は助かります。大学の方も大変なのは十分承知ですが、どうぞよろしくお願いいたします。
- 初任者でもベテランも、今の保護者は同じような指導力を求めがちです。学校は初任者を長い目で大切に育てたいと考えています。いろいろな体験を重ねて、ちょっとやそっとじゃ折れない心と、くじけそうになった時の対処法も学ばせていただければ幸いです。よろしくお願いいたします。
- 学校に学びのアシストなど来られた学生の方々には、子供の良さ、子供とのかかわり、教育に携わることのやりがいについて話している。ぜひ、多くの若者が教員を志し、情熱を持った多くの教員が誕生すれば頼もしいと思っている。よろしくお願いいたします。
- ぜひ富山県で教員を目指してほしい
- 教員採用試験の倍率が低迷の一途をたどっている現在、富大の教員養成にかかる期待は大変大きい。地元の私立大学出身の学生がどんどん教員に採用されてくることに多少なりとも危機感を抱いているのは私だけではないと思う。富大には本当に頑張してほしい。
- 子供の成長をはぐくむことのできる教師という職業のやりがいを感じられるような学びの場を体験してほしいです。
- 教員採用試験を受験する学生が減っているので、教員を志望する学生を増やしてほしい。
- 小学校教員は、子供たちの夢を引き出し、やり遂げる力を見守り育て、やがて未来を創っていく素晴らしい仕事です。免許を必ず取得し、若い力を現場で生かしてください。子供たちが待っています。
- よりしなやかな人間性のある学生を今まで以上に輩出していただくことを希望します。
- 音楽科、図工科において専門性を持った小学校教諭がどんどん少なくなってきました。これから専科の教員の需要も増えていくと思われます。教育学部時代に合った音楽科、図工科の代替になるよう

な課程を復活できないものだろうか。(専門課程がなくなったことから、小学校における音楽教育、図工教育を担うものが減っているのが現状です。

- 教職への夢と希望，熱い思いを持った人材を育成してほしい。
- よりよい社会人としての資質を高め，その上に立って専門的な知識・技能を身に付け，教員としての思考・判断ができるように育てていただきたく存じます。
- 子供を大切に思う心情に厚い教員を養成いただければと思います

・考察

富山大学人間発達科学部・人間発達科学研究科 卒業（修了）生（小学校教員採用者対象）の就職先調査より、本学の卒業（修了）生の社会人としての資質・能力（総合評価）の平均は 2.9（4 段階評価）、教員としての資質・能力（総合評価）の平均は 2.9（4 段階評価）であり、すべての項目において平均 2.5 以上と社会人、教員としての能力はおおむね充足していると評価された。社会人として、および教員としての資質・能力（総合評価）でともに 1；とても不足している、と評価された卒業生が 1 名おり、今後の検討課題と考えられた。社会人としての資質・能力（総合評価）は、「解決する能力」、「責任を持って行動する能力」、「外国語の語学力」と強い相関があった。また、教員としての資質・能力（総合評価）は、「教師の仕事に対する使命感や誇り」、「子どもに対する愛情や責任感」、「こども理解力」、「子どもとのコミュニケーション能力」、「集団指導の力」、「学級づくりの力」、「豊かな人間性や社会性」、「道徳に関する指導力」と強い相関があった。

富山大学人間発達科学部・人間発達科学研究科の教育プログラムに対しては、4；とても評価している、3；やや評価している、がほとんどであり、高評価であることが分かった。

「社会人として、学生時代に身につけておいて欲しい能力や資質、経験しておいて欲しいこと」に対する自由記述では、基本的なマナー、およびコミュニケーション能力に関する意見が多くみられた。「小学校教員として、学生時代に身につけておいて欲しい能力や資質、経験しておいて欲しいこと」に対する自由記述では、子どもへの愛情を持った関りや子どもを理解しようとする姿勢、そしてコミュニケーション能力に関する意見が多くみられた。「富山大学人間発達科学部の小学校教員養成に対する期待」に対する自由記述では、さまざまな意見が記載されていたが、富山大学での教員養成に対する強い期待が多くみられた。

本調査は、富山大学人間発達科学部・人間発達科学研究科 卒業（修了）生（小学校教員採用者対象）の就職先調査として初めての調査であり、今後はこの調査結果を基礎資料として、教委養成の向上のための対策を検討していくことが望まれる。

富山大学人間発達科学部の教育改善に向けた大学教育の成果に関する

アンケート調査のお願い

平素、富山大学人間発達科学部卒業生の教員採用に関しまして、一方ならぬご支援をいただき誠にありがとうございます。

さて、昨今の大学改革の流れを受けて、本学部でも学生の進路先の期待により応える教育の実施に向けて検討を進めております。このたび、学部における教育の方向性を確認するため、本学部卒業生を小学校教員として採用された学校を対象に本学部卒業生の評価、および大学教育に期待することを調査させていただくこととなりました。ご多忙中とは存じますが、趣旨をご理解いただきご協力のほどよろしくお願いいたします。

【調査に関する留意事項など】

1. いただいた回答は統計的に処理を行い、個別の回答結果を外部に公開することはありません。
2. 回答に迷う場合は最も近いものを選んで回答してください。回答しづらい、もしくは回答したくない設問に関しては空欄で結構です。
3. 本アンケートは令和元年 11 月末日までに同封の返信用封筒でお送り願います。

富山大学人間発達科学部の教育改善に向けた卒業生・修了生の資質・能力に関する アンケート調査

本調査は平成 28 年度～平成 30 年度に富山県小学校教員に採用された富山大学人間発達科学部卒業生・人間発達科学研究科修了生を対象として、調査時に在籍している小学校の校長先生に記入をお願いしております。

項目（1）～（3）は対象となる卒業生・修了生ごとに 1 人 1 枚ご記入してください。

次の項目で、該当する数字に○をつけるか、語句をご記入のうえ、御回答ください。

(1) 評価対象者の基本情報

① 性別

1. 男性 2. 女性

② 卒業年度

- 平成（ ）年度 富山大学（ 1. 人間発達科学部卒業 2. 人間発達科学研究科修了）

③ 採用年度

1. 平成 28 年度 2. 平成 29 年度 3. 平成 30 年度

(2) 当該卒業生・修了生の社会人としての資質・能力

		とても充足 している	やや充足 している	やや不足 している	とても不足 している
①	総合評価	4	3	2	1
②	課題や問題を自ら解決する能力	4	3	2	1
③	組織や社会の一員として 責任を持って行動する能力	4	3	2	1
④	他者と協力し合うコミュニケーション能力	4	3	2	1
⑤	口頭発表、説明、討論などの プレゼンテーション能力	4	3	2	1
⑥	母語以外の外国語(英語など)の語学力 (聞く、話す、読む、書く)	4	3	2	1
⑦	国際的な視点で考えることや国際的な感覚	4	3	2	1
⑧	教養教育などによる幅広い知識	4	3	2	1

(3) 当該卒業生・修了生の小学校教員としての資質・能力

		とても充足 している	やや充足 している	やや不足 している	とても不足 している
①	総合評価	4	3	2	1
②	教師の仕事に対する使命感や誇り	4	3	2	1
③	子どもに対する愛情や責任感	4	3	2	1
④	子ども理解力	4	3	2	1
⑤	児童・生徒指導力	4	3	2	1
⑥	子どもとのコミュニケーション能力	4	3	2	1
⑦	集団指導の力	4	3	2	1
⑧	学級づくりの力	4	3	2	1
⑨	学習指導・授業づくりの力	4	3	2	1
⑩	教材解釈の力	4	3	2	1
⑪	豊かな人間性や社会性	4	3	2	1
⑫	道徳に関する指導力	4	3	2	1
⑬	英語に関する指導力	4	3	2	1
⑭	ICT を活用して授業を行う力	4	3	2	1
⑮	学校安全に関する知識	4	3	2	1
⑯	発達障害、外国籍児童など 特別の支援を必要とする児童の理解	4	3	2	1

富山大学人間発達科学部の教育改善に向けた教育プログラムに関するアンケート調査

本調査は小学校の校長先生からの人間発達科学部の学生に対する期待、および教育プログラムが教員養成にどの程度貢献しているかに関する記入をお願いしております。

次の項目で、該当する数字に○をつけるか、語句をご記入のうえ、御回答ください。

- (1) 社会人として、学生時代に身につけておいて欲しい能力や資質、経験しておいて欲しいことなどを自由にご記入ください。

- (2) 小学校教員として、学生時代に身につけておいて欲しい能力や資質、経験しておいて欲しいことなどを自由にご記入ください。

- (3) 富山大学人間発達科学部の教育プログラムに対する評価 (別紙資料)

		とても評価 している	やや評価 している	あまり評価 していない	まったく評価 していない
①	学校インターンシップ (旧学級担任論) 「学びのアシスト」および 「スタディ・メイト・ジュニア」 (県教育委員会との連携事業)	4	3	2	1
②	子どもとのふれあい体験	4	3	2	1
③	観察実験アシスタント (県教育委員会との連携事業)	4	3	2	1
④	地域教材研究(富山学)	4	3	2	1

- (4) 富山大学人間発達科学部の小学校教員養成に対する期待などを自由にご記入ください。

学校教育学類進学者主な出身県別分布

		石川	富山	福井	新潟	長野	滋賀	岐阜	群馬	入学者数	4県占有率
2017	平成29年度	49	21	16	6	2	3	2	1	107	86%
2018	平成30年度	45	18	10	4	5	3	3	0	102	75%
2019	令和元年度	43	17	14	2	1	2	2	3	105	72%
2020	令和2年度	47	18	21	1	4	1	1	1	105	83%
2021	令和3年度	46	5	11	9	2	1	1	1	85	84%
		230	79	72	22	14	10	9	6		

根拠資料 | 学務課の高校別入学者数

就職者分布（高校除く）

		富山	福井	新潟
2015	平成27年度	10	10	2
2016	平成28年度	12	6	3
2017	平成29年度	5	10	4
2018	平成30年度	10	3	0
2019	令和元年度	11	7	3
		48	36	12
	年平均	9.6	7.2	2.4

根拠資料 | [卒業・修了者進路状況 | 金沢大学 \(kanazawa-u.ac.jp\)](https://www.kanazawa-u.ac.jp/)

B1-1 富山大学人間発達科学部入試 志願倍率等（平成28年度～令和2年度）

選抜区分	学科等	令和2年度							平成31年度							平成30年度							
		募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	競争倍率	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	競争倍率	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	競争倍率	
一般入試 (前期日程)	発達教育学科	52	105	2.0	99	1.9	55	1.8	52	119	2.3	111	2.1	55	2.0	52	119	2.3	111	2.1	56	2.0	
	人間環境システム学科	文系	20	48	2.4	48	2.4	22	2.2	20	49	2.5	49	2.5	23	2.1	20	42	2.1	41	2.1	22	1.9
		理系	20	40	2.0	38	1.9	21	1.8	20	45	2.3	44	2.2	22	2.0	20	42	2.1	40	2.0	24	1.7
		実技系	10	20	2.0	19	1.9	11	1.7	10	43	4.3	42	4.2	10	4.2	10	22	2.2	22	2.2	10	2.2
	学科計	52	108	2.1	105	2.0	54	1.9	51	137	2.7	135	2.6	55	2.5	50	106	2.1	103	2.1	56	1.8	
小計		104	213	2.0	204	2.0	109	1.9	103	256	2.5	246	2.4	110	2.2	102	225	2.2	214	2.1	112	1.9	
一般入試 (後期日程)	発達教育学科	20	177	8.9	68	3.4	24	2.8	20	266	13.3	114	5.7	22	5.2	20	230	11.5	90	4.5	26	3.5	
	人間環境システム学科	25	196	7.8	59	2.4	33	1.8	25	227	9.1	92	3.7	26	3.5	25	206	8.2	81	3.2	32	2.5	
	小計	45	373	8.3	127	2.8	57	2.2	45	493	11.0	206	4.6	48	4.3	45	436	9.7	171	3.8	58	2.9	
一般入試 計	発達教育学科	72	282	3.9	167	2.3	79	2.1	72	385	5.3	225	3.1	77	2.9	72	349	4.8	201	2.8	82	2.5	
	人間環境システム学科	77	304	3.9	164	2.1	87	1.9	76	364	4.8	227	3.0	81	2.8	75	312	4.2	184	2.5	88	2.1	
	小計	149	586	3.9	331	2.2	166	2.0	148	749	5.1	452	3.1	158	2.9	147	661	4.5	385	2.6	170	2.3	
推薦入試	発達教育学科	8	25	3.1	25	3.1	8	3.1	8	20	2.5	20	2.5	8	2.5	8	22	2.8	22	2.8	8	2.8	
	人間環境システム学科	発達福祉コース	10	29	2.9	29	2.9	10	2.9	10	18	1.8	18	1.8	10	1.8	10	22	2.2	22	2.2	11	2.0
		地域スポーツコース	5	9	1.8	9	1.8	3	3.0	5	8	1.6	8	1.6	4	2.0	5	9	1.8	9	1.8	3	3.0
		人間情報コミュニケーションコース	15	38	2.5	38	2.5	13	2.9	15	26	1.7	26	1.7	14	1.9	15	31	2.1	31	2.1	14	2.2
	学科計	23	63	2.7	63	2.7	21	3.0	23	46	2.0	46	2.0	22	2.1	23	53	2.3	53	2.3	22	2.4	
帰国生徒入試	発達教育学科	若干名	0	-	-	-	-	-	若干名	1	-	1	-	0	-	若干名	0	-	-	-	-	-	
	人間環境システム学科	若干名	0	-	-	-	-	-	若干名	1	-	1	-	1	-	若干名	0	-	-	-	-	-	
	小計	若干名	0	-	-	-	-	-	若干名	2	-	2	-	1	2.0	若干名	0	-	0	-	0	-	
社会人入試	発達教育学科	若干名	1	-	1	-	1	-	若干名	3	-	2	-	1	-	若干名	1	-	1	-	0	-	
	人間環境システム学科	若干名	0	-	-	-	-	-	若干名	2	-	2	-	1	-	若干名	1	-	1	-	0	-	
	小計	若干名	1	-	1	-	1	1.0	若干名	5	-	4	-	2	2.0	若干名	2	-	2	-	0	-	
私費外国人留学生入試	発達教育学科	若干名	2	-	1	-	0	-	若干名	0	-	-	-	-	若干名	1	-	1	-	1	-		
	人間環境システム学科	若干名	6	-	5	-	2	-	若干名	3	-	3	-	1	-	若干名	1	-	1	-	0	-	
	小計	若干名	8	-	6	-	2	3.0	若干名	3	-	3	-	1	3.0	若干名	2	-	2	-	1	2.0	
合計	発達教育学科	80	310	3.9	194	2.4	88	2.2	80	409	5.1	248	3.1	86	2.9	80	373	4.7	225	2.8	91	2.5	
	人間環境システム学科	90	348	3.9	207	2.3	102	2.0	90	396	4.4	259	2.9	98	2.6	90	345	3.8	217	2.4	102	2.1	
	小計	170	658	3.9	401	2.4	190	2.1	170	805	4.7	507	3.0	184	2.8	170	718	4.2	442	2.6	193	2.3	

選抜区分	学科等	平成29年度							平成28年度							
		募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	競争倍率	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	競争倍率	
一般入試 (前期日程)	発達教育学科	52	169	3.3	151	2.9	57	2.6	44	116	2.6	101	2.3	48	2.1	
	人間環境システム学科	文系	20	48	2.4	46	2.3	24	1.9	20	68	3.4	66	3.3	25	2.6
		理系	20	39	2.0	37	1.9	20	1.9	20	61	3.1	55	2.8	20	2.8
		実技系	10	28	2.8	26	2.6	11	2.4	10	44	4.4	43	4.3	10	4.3
	学科計	50	115	2.3	109	2.2	55	2.0	50	173	3.5	164	3.3	55	3.0	
小計	102	284	2.8	260	2.5	112	2.3	94	289	3.1	265	2.8	103	2.6		
一般入試 (後期日程)	発達教育学科	20	231	11.6	119	6.0	26	4.6	20	230	11.5	86	4.3	26	3.3	
	人間環境システム学科	25	181	7.2	67	2.7	32	2.1	25	275	11.0	108	4.3	28	3.9	
	小計	45	412	9.2	186	4.1	58	3.2	45	505	11.2	194	4.3	54	3.6	
一般入試 計	発達教育学科	72	400	5.6	270	3.8	83	3.3	64	346	5.4	187	2.9	74	2.5	
	人間環境システム学科	75	296	3.9	176	2.3	87	2.0	75	448	6.0	272	3.6	83	3.3	
	小計	147	696	4.7	446	3.0	170	2.6	139	794	5.7	459	3.3	157	2.9	
推薦入試	発達教育学科	発達福祉コース	8	36	4.5	35	4.4	8	4.4	8	21	2.6	21	2.6	8	2.6
		学校教育コース								8	29	3.6	29	3.6	8	3.6
		学科計	8	36	4.5	35	4.4	8	4.4	16	50	3.1	50	3.1	16	3.1
	人間環境システム学科	地域スポーツコース	10	31	3.1	31	3.1	10	3.1	10	29	2.9	29	2.9	10	2.9
		人間情報コミュニケーションコース	5	11	2.2	11	2.2	5	2.2	5	5	1.0	5	1.0	5	1.0
		学科計	15	42	2.8	42	2.8	15	2.8	15	34	2.3	34	2.3	15	2.3
小計	23	78	3.4	77	3.3	23	3.3	23	55	2.4	55	2.4	23	2.4		
帰国生徒入試	発達教育学科	若干名	2	-	2	-	0	-	若干名	1	-	1	-	0	-	
	人間環境システム学科	若干名	1	-	1	-	1	-	若干名	0	-	-	-	-		
	小計	若干名	3	-	3	-	1	3.0	若干名	1	-	1	-	0	-	
社会人入試	発達教育学科	若干名	1	-	1	-	0	-	若干名	4	-	4	-	0	-	
	人間環境システム学科	若干名	1	-	1	-	1	-	若干名	1	-	1	-	1	-	
	小計	若干名	2	-	2	-	1	2.0	若干名	5	-	5	-	1	5.0	
私費外国人留学生入試	発達教育学科	若干名	3	-	3	-	0	-	若干名	0	-	0	-	0	-	
	人間環境システム学科	若干名	5	-	4	-	1	-	若干名	1	-	1	-	1	-	
	小計	若干名	8	-	7	-	1	7.0	若干名	1	-	1	-	1	1.0	
合計	発達教育学科	80	442	5.5	311	3.9	91	3.4	80	401	5.0	242	3.0	90	2.7	
	人間環境システム学科	90	345	3.8	224	2.5	105	2.1	90	484	5.4	308	3.4	100	3.1	
	小計	170	787	4.6	535	3.1	196	2.7	170	885	5.2	550	3.2	190	2.9	

B1-2 金沢大学人間社会学域学校教育学類入試 志願倍率等（平成28年度～令和2年度）

年度	選抜区分	専修名	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	競争倍率
平成28年度	一般入試（前期日程）	全専修	64	172	2.7	156	2.4	71	2.2
	推薦入試	特別支援教育専修	5	17	3.4	17	3.4	5	3.4
		美術教育専修	3	4	1.3	4	1.3	3	1.3
		国語教育専修	3	8	2.7	8	2.7	3	2.7
		社会科教育専修	3	7	2.3	6	2.0	3	2.0
		数学教育専修	3	10	3.3	10	3.3	3	3.3
		理科教育専修	4	9	2.3	9	2.3	3	3.0
		音楽教育専修	4	7	1.8	7	1.8	4	1.8
		保健体育専修	5	9	1.8	9	1.8	5	1.8
		家政教育専修	3	5	1.7	5	1.7	3	1.7
	英語教育専修	3	3	1.0	3	1.0	2	1.5	
外国人留学生入試	全専修	若干名	1	—	1	—	0	—	
合計		100	252	2.5	235	2.4	105	2.2	
平成29年度	一般入試（前期日程）	全専修	64	140	2.2	131	2.0	71	1.8
	推薦入試	特別支援教育専修	5	13	2.6	13	2.6	5	2.6
		美術教育専修	3	2	0.7	2	0.7	2	1.0
		国語教育専修	3	7	2.3	7	2.3	3	2.3
		社会科教育専修	3	4	1.3	4	1.3	2	2.0
		数学教育専修	3	6	2.0	6	2.0	3	2.0
		理科教育専修	4	6	1.5	6	1.5	4	1.5
		音楽教育専修	4	7	1.8	7	1.8	5	1.4
		保健体育専修	5	9	1.8	9	1.8	5	1.8
		家政教育専修	3	4	1.3	4	1.3	3	1.3
	英語教育専修	3	6	2.0	6	2.0	3	2.0	
外国人留学生入試	全専修	若干名	2	—	1	—	0	—	
合計		100	206	2.1	196	2.0	106	1.8	
平成30年度	一般入試（前期日程）	全専修	64	171	2.7	162	2.5	73	2.2
	推薦入試	石川県教員希望枠	8	10	1.3	10	1.3	2	5.0
		国語・社会・英語教育専修	3	9	3.0	9	3.0	3	3.0
		数学・理科教育専修	3	7	2.3	7	2.3	3	2.3
		音楽教育専修	4	8	2.0	8	2.0	5	1.6
		美術教育専修	3	6	2.0	6	2.0	3	2.0
		保健体育専修	5	11	2.2	11	2.2	5	2.2
		家政教育専修	3	5	1.7	5	1.7	3	1.7
	特別支援教育専修	5	6	1.2	6	1.2	5	1.2	
	合計		100	233	2.3	224	2.2	102	2.2
平成31年度	一般入試（前期日程）	全専修	64	186	2.9	173	2.7	74	2.3
	推薦入試	石川県教員希望枠	8	10	1.3	10	1.3	2	5.0
		国語・社会・英語教育専修	3	16	5.3	16	5.3	4	4.0
		数学・理科教育専修	3	8	2.7	8	2.7	4	2.0
		音楽教育専修	4	5	1.3	5	1.3	4	1.3
		美術教育専修	3	5	1.7	5	1.7	3	1.7
		保健体育専修	5	2	0.4	2	0.4	2	1.0
		家政教育専修	3	6	2.0	6	2.0	3	2.0
	特別支援教育専修	5	8	1.6	8	1.6	5	1.6	
	国際バカロレア入試	全専修	若干名	1	—	1	—	1	—
合計		100	247	2.5	234	2.3	102	2.3	

令和2年度	一般入試（前期日程）	全専修	64	149	2.3	134	2.1	75	1.8
	推薦入試	石川県教員希望枠	8	10	1.3	10	1.3	2	5.0
		国語・社会・英語教育専修	3	7	2.3	7	2.3	3	2.3
		数学・理科教育専修	3	7	2.3	7	2.3	3	2.3
		音楽教育専修	4	6	1.5	6	1.5	4	1.5
		美術教育専修	3	1	0.3	1	0.3	1	1.0
		保健体育専修	5	7	1.4	7	1.4	5	1.4
		家政教育専修	3	4	1.3	4	1.3	3	1.3
		特別支援教育専修	5	9	1.8	9	1.8	5	1.8
	国際バカロレア入試	全専修	若干名	2	—	2	—	2	—
	外国人留学生入試	全専修	若干名	1	—	1	—	0	—
	合計		100	203	2.0	188	1.9	103	1.8

周辺大学教育学部の入学試験倍率

富山大学 人間発達科学部

	2020	2019	2018	2017	募集定員
入試全体	2.1	2.8	2.3	2.7	170
一般入試	2.0	2.9	2.3	2.6	147
推薦入試	3.0	2.1	2.4	3.3	23

金沢大学 人間社会学域学校教育学類

	2020	2019	2018	2017	募集定員
入試全体	1.8	2.3	2.2	1.8	100
一般入試	1.8	2.3	2.2	1.8	64
推薦入試等	1.9	2.2	2.1	1.9	36

福井大学 教育学部

	2020	2019	2018	2017	募集定員
入試全体	2.5	3.0	2.4	2.2	100
一般入試	2.6	3.5	2.5	2.3	72
推薦入試	2.3	1.5	2.2	1.9	28

上越教育大学 学校教育学部

	2020	2019	2018	2017	募集定員
入試全体	2.7	2.2	2.7	2.6	160
一般入試	2.7	2.0	2.9	2.5	110
推薦入試	2.6	2.7	2.2	3.0	50

「大学受験パスナビ」より

B3-1 最近5カ年における県内高校等出身者の割合（富山大学）

学類 年度	人間発達科学部											
	志願者				合格者				入学者			
	% 富山県	% 石川県	% 県外他	計	% 富山県	% 石川県	% 県外他	計	% 富山県	% 石川県	% 県外他	計
平成28	41.47% 367	26.44% 234	32.09% 284	885	42.63% 81	24.21% 46	33.16% 63	190	41.24% 73	25.99% 46	32.77% 58	177
平成29	39.77% 313	25.79% 203	34.43% 271	787	36.22% 71	23.98% 47	39.80% 78	196	36.26% 66	24.18% 44	39.56% 72	182
平成30	42.48% 305	23.68% 170	33.84% 243	718	36.27% 70	24.87% 48	38.86% 75	193	35% 63	24% 44	41% 73	180
平成31	41.37% 333	25.47% 205	33.17% 267	805	45.65% 84	26.63% 49	27.72% 51	184	47% 81	28% 48	25% 44	173
令和2	40.73% 268	24.62% 162	34.65% 228	658	38.42% 73	21.58% 41	40.00% 76	190	39.55% 70	22.03% 39	38.42% 68	177
5年平均	41.16% 317.2	25.28% 194.8	33.56% 258.6	770.6	39.77% 75.8	24.24% 46.2	35.99% 68.6	190.6	39.71% 70.6	24.86% 44.2	35.43% 63	177.8

注：端数が出るため、%の合計は必ずしも100%とならない。

B3-2 最近5年における県内高校等出身者の割合（金沢大学）

学類 年度	人間社会学域学校教育学類											
	志願者				合格者				入学者			
	% 富山県	% 石川県	% 県外他	計	% 富山県	% 石川県	% 県外他	計	% 富山県	% 石川県	% 県外他	計
平成28	12.30% 31	49.60% 125	38.10% 96	252	18.10% 19	43.81% 46	38.10% 40	105	16.67% 17	44.12% 45	39.22% 40	102
平成29	13.59% 28	44.66% 92	41.75% 86	206	18.87% 20	46.23% 49	34.91% 37	106	18.87% 20	46.23% 49	34.91% 37	106
平成30	11.16% 26	54.08% 126	34.76% 81	233	17.65% 18	44.12% 45	38.24% 39	102	18% 18	45% 45	37% 37	100
平成31	14.57% 36	53.85% 133	31.58% 78	247	16.67% 17	42.16% 43	41.18% 42	102	17% 17	43% 43	40% 40	100
令和2	11.33% 23	49.26% 100	39.41% 80	203	16.50% 17	45.63% 47	37.86% 39	103	16.67% 17	46.08% 47	37.25% 38	102
5年平均	12.62% 28.8	50.48% 115.2	36.90% 84.2	228.2	17.57% 18.2	44.40% 46	38.03% 39.4	103.6	17.45% 17.8	44.90% 45.8	37.65% 38.4	102

注：端数が出るため、%の合計は必ずしも100%とならない。

B4 周辺大学を含めた教育学部の入学者の構成※(2018～2020年度)

※出身高校所在地別

金沢大学 人間社会学域 学校教育学類

2020 年度		2019 年度		2018 年度	
都道府県	学生数	都道府県	学生数	都道府県	学生数
石川県	48人	石川県	43人	石川県	46人
福井県	21人	富山県	17人	富山県	18人
富山県	17人	福井県	14人	福井県	10人
長野県	4人	群馬県	3人	長野県	5人
静岡県	2人	新潟県	2人	新潟県	4人
総数	102人		100人		100人

県内入学率 47.1% 43.0% 46.0%

北陸3県 84.3% 74.0% 74.0%

福井大学 教育学部

2020 年度		2019 年度		2018 年度	
都道府県	学生数	都道府県	都道府県	学生数	都道府県
福井県	85人	福井県	76人	福井県	89人
富山県	2人	愛知県	5人	京都府	2人
石川県	2人	石川県	4人	大阪府	2人
岐阜県	2人	静岡県	3人	北海道	1人
静岡県	2人	三重県	3人	群馬県	1人
総数	100人		102人		102人

県内入学率 85.0% 74.5% 87.3%

富山県	0人	富山県	0人
		石川県	0人

富山大学 人間発達科学部

2020 年度		2019 年度		2018 年度	
都道府県	学生数	都道府県	学生数	都道府県	学生数
富山県	70人	富山県	81人	富山県	63人
石川県	39人	石川県	48人	石川県	44人
福井県	12人	長野県	6人	福井県	13人
長野県	7人	新潟県	5人	新潟県	12人
兵庫県	4人	岐阜県	5人	愛知県	10人
総数	177人		173人		180人

県内入学率 39.5% 46.8% 35.0%

北陸3県 68.4% 76.9% 66.7%

福井県 4人

上越教育大学 学校教育学部

2020 年度		2019 年度		2018 年度	
都道府県	学生数	都道府県	都道府県	学生数	都道府県
新潟県	48人	新潟県	56人	新潟県	39人
長野県	26人	長野県	29人	長野県	26人
富山県	22人	富山県	17人	石川県	24人
石川県	22人	石川県	17人	富山県	22人
静岡県	11人	静岡県	8人	福井県	8人
総数	168人		168人		167人

県内入学率 28.6% 33.3% 23.4%

B5-1 富山大学・金沢大学共同教育課程設置構想についての
アンケート

令和3年3月～5月
各高校にて実施

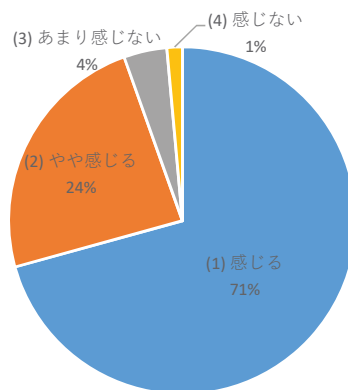
回答者

高校名	富山	魚津	高岡南	富山東	砺波
人数	18人	155人	156人	32人	99人
高校名	富山南	呉羽	南砺福野	高岡	計
人数	30人	48人	263人	43人	844人

1. 富山大学と金沢大学との共同教員養成課程（仮称）の設立によってできるようになる、以下の特徴に魅力を感じますか。

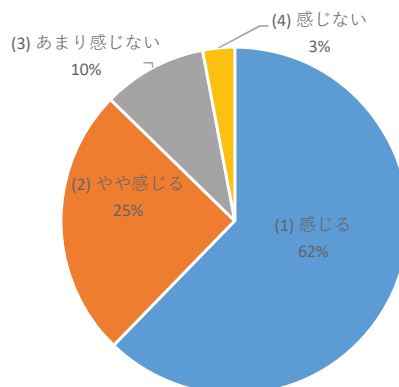
①取得免許の選択肢が広がる。

(1) 感じる	(2) やや感じる	(3) あまり感じない	(4) 感じない
596	201	34	12



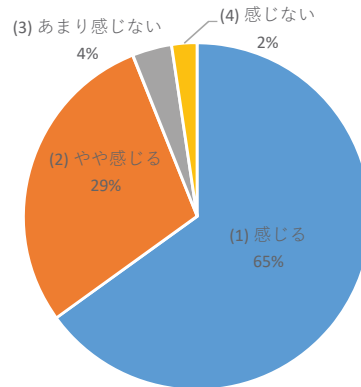
② 小学校と中学校（または、特別支援か幼稚園）の二つの教員免許を取得することができる。

(1) 感じる	(2) やや感じる	(3) あまり感じない	(4) 感じない
525	211	82	25



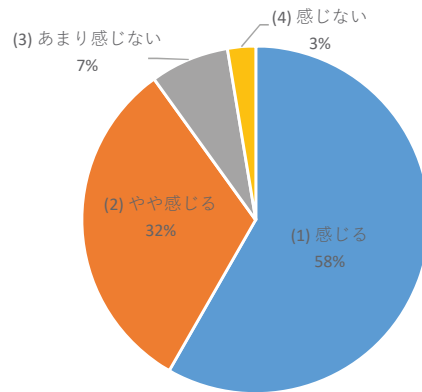
③大学の教員が充実することで、相手先大学の教員（富山大学生であれば金沢大学の教員）が専門とする分野を含めた幅広い教育を受けられる。

(1) 感じる	(2) やや感じる	(3) あまり感じない	(4) 感じない
549	244	31	20



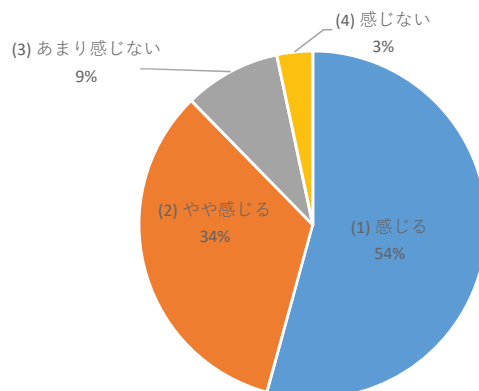
④双方向遠隔授業システムを用いることで、所属大学でもう一方の大学の授業を受けることができる。

(1) 感じる	(2) やや感じる	(3) あまり感じない	(4) 感じない
492	268	62	22



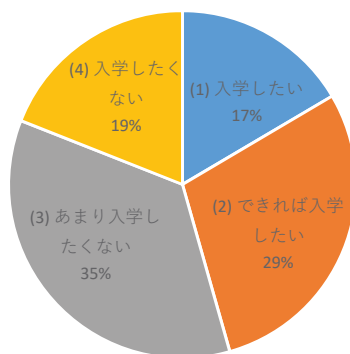
⑤合同の合宿授業などで、相手大学の学生と交流することができる。

(1) 感じる	(2) やや感じる	(3) あまり感じない	(4) 感じない
458	282	76	28



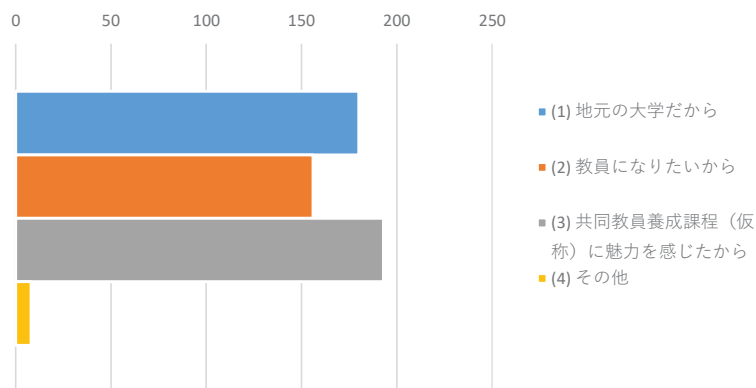
2.総合的に見て富山大学・金沢大学共同教員養成課程（仮称）に入学したいですか。

(1) 入学したい	(2) できれば入学したい	(3) あまり入学したくない	(4) 入学したくない
139	245	298	160



3.前項で「入学したい」、「できれば入学したい」と答えた方は、入学したいと思った理由を教えてください。（複数回答可）

(1) 地元の大学だから	(2) 教員になりたいから	(3) 共同教員養成課程（仮称）に魅力を感じたから	(4) その他
180	156	193	8



4. 共同教員養成課程（仮称）についての意見をお聞かせください。（回答抜粋）

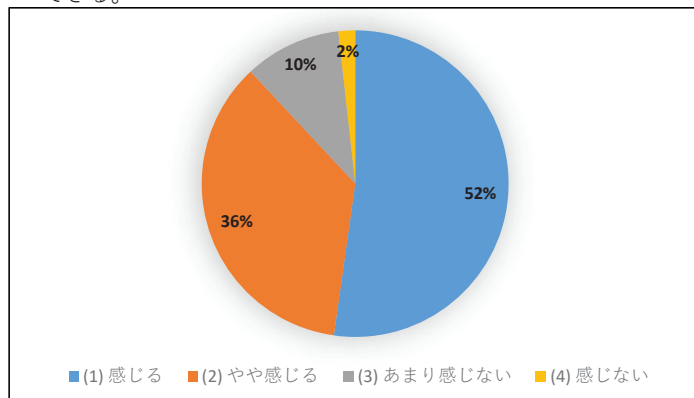
<p>とても魅力的で実現すればより多くの経験を積むことができると感じました。1つの学科で授業を受け続けるよりも、他県の授業を受けることで自分の受けてきた授業と合わせてさらに理解を深めることができると思うので、ぜひ実現してほしいです。</p>
<p>とても良いと思う。もともと入学したいと思っていたが、さらに入学したいと思うようになった。</p>
<p>共同で学習ができるだけでなく、様々なことが新たに可能になっており、画期的なシステムだと思った。</p>
<p>教員となるためには授業で教える技術だけでなく、人とかかわり方や生きていく上での知識なども必要になってくると思うので、このように幅広い知識を得る機会があるとすごくためになると思います。</p>
<p>教員になりたいと考えている学生にとっては、取得免許の選択肢が広がったり、幅広い教育を受けることができるようになるのでとてもいいシステムだと思う。</p>
<p>主要な教員免許のほとんどを取得できるというところに魅力を感じます。また、2つの大学それぞれの特性をいかした授業や、学生の交流を通して深く学べるところがいいと思いました。</p>
<p>取得できる免許が増えるのはすごいことだと思ったし、選択の幅が広がり良いと思いました。富山大学と金沢大学とでは距離があるので、遠隔で授業を受けられるのはとても便利だと思いました。</p>
<p>中学校教諭も将来の視野に入れていたので、選択の幅が広がって嬉しかった。</p>
<p>両大学の特色を生かした専門科目を授業を受けるために他の大学に行かずにとることができるのはすごく興味深くいいなと思いました。</p>
<p>教員を目指している方にとってはさまざまな教員との関りをもつことで自分自身がなりたい教員の理想像が見えてきてとても効果のあるものなのだと考え、良い取り組みだと思います。</p>
<p>質の高い活動ができ、望む教員としてのスキルが身に付きそうで魅力を感じた。</p>
<p>共同教員養成課程のおかげで、学べるが増えるのは、とても良いことだと思いました。私も教育系を目指すので興味があります。</p>

富山大学・金沢大学 共同教員養成課程（仮称）の設置構想についてのアンケート結果(共通設問抽出)

（実施校：金沢錦丘高校，金沢桜丘高校，七尾高校，小松高校，金沢泉丘高校，
金沢二水高校，羽咋高校，金沢西高校，小松明峰高校，小松大谷高校，金沢辰巳丘高校，金沢大学附属高校，飯田
高校，北陸学院高校，金沢伏見高校，大聖寺高校，鹿西高校）

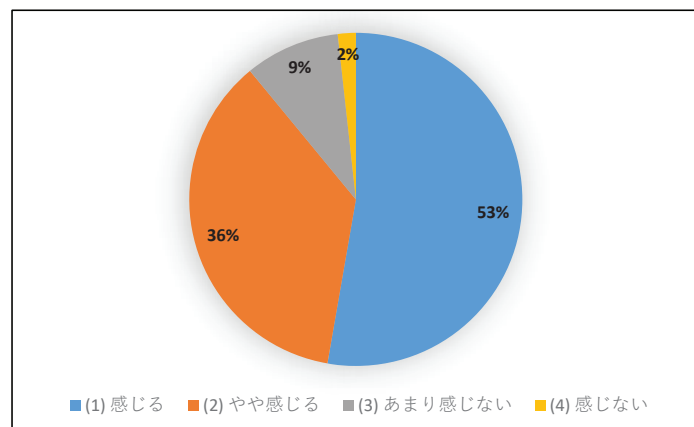
1 富山大学と金沢大学との共同教員養成課程（仮称）の設立によってできるようになる、以下の特
徴に魅力を感じますか。

双方向遠隔授業システムを用いることで，所属大学でもう一方の大学の授業を受けることが
できる。



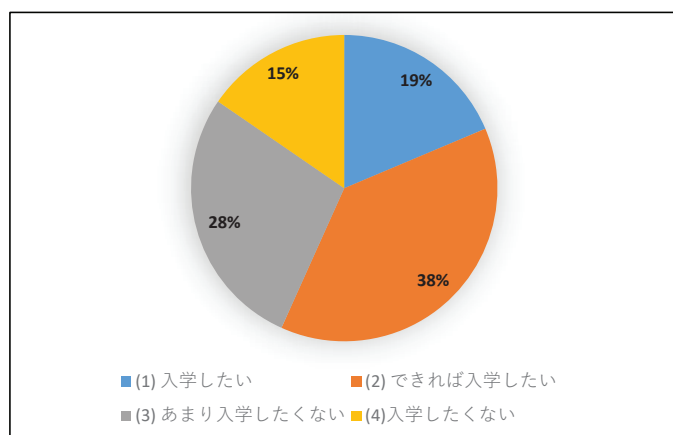
(1) 感じる	210
(2) やや感じる	144
(3) あまり感じない	41
(4) 感じない	7
	402

共同の合宿授業などで，相手大学の学生と交流することができる。



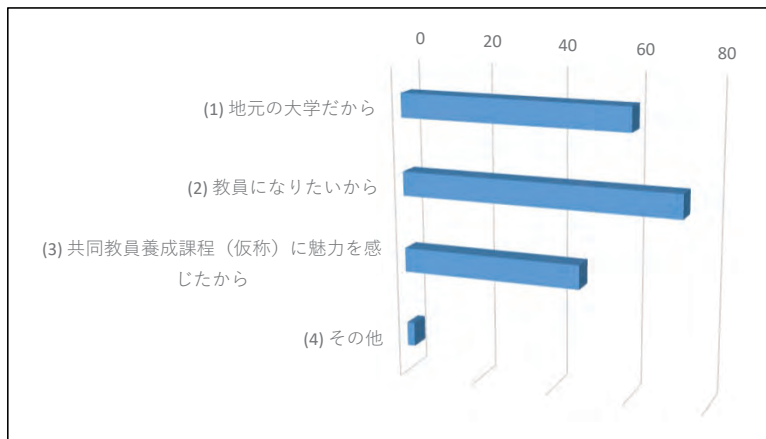
(1) 感じる	212
(2) やや感じる	146
(3) あまり感じない	37
(4) 感じない	7
	402

2. 総合的に見て富山大学・金沢大学共同教員養成課程（仮称）に入学したいですか。



(1) 入学したい	75
(2) できれば入学したい	153
(3) あまり入学したくない	112
(4) 入学したくない	62
	402

3. 前項で「入学したい」、「できれば入学したい」と答えた方は、入学したいと思った理由を教えてください



(1) 地元の大学だから	112
(2) 教員になりたいから	139
(3) 共同教員養成課程（仮称）に魅力を感じたから	94
(4) その他	4

349

(4) その他（回答抜粋）

- ・教育する場の選択肢が増えて興味が湧いた。
- ・どちらにするか決めかねていたので小学校と中学校の二つの教員免許を取得できることに魅力を感じた。
- ・連携して取り組むことで、色々なことを経験できるので、幅が広がるし、教員になったときに役立つこともたくさんあると思うので、とてもいいと思います。新鮮なことなので、わくわくすると思うし、楽しく学べそうでいいと思いました。
- ・様々な免許を取得できるということがいいと思いました。
- ・免許を取る時に受けられる専門的な科目の幅が増えるのはありがたいので、是非やって欲しい。
- ・取得できる免許の選択肢が広がったことはとても魅力的に感じました。
また、遠隔授業システムを使う事は効率が良いと感じた。もし、その課程があったら本当に入りたいと思った。
- ・自分は教育を目指しており、将来、社会で活躍できる人材を育成できるような人間になりたいと思っています。そのため、他校の生徒と意見を交換する機会が与えられることで、より物事を多角的に見られる自身の育成にも役立つのではないかと思います、是非、参加したいと思いました。
- ・高度化・複雑化する教育課題、プログラミング教員について学べるのがすごくいい。

B6 富山県、石川県、福井県の年齢別人口

富山県

年齢	男女計	男	女
0-4	35,966	18,516	17,450
0	6,752	3,498	3,254
1	7,083	3,648	3,435
2	7,290	3,766	3,524
3	7,631	3,913	3,718
4	7,210	3,691	3,519
5-9	39,114	20,122	18,992
5	7,423	3,809	3,614
6	7,699	3,930	3,769
7	7,877	4,032	3,845
8	7,948	4,185	3,763
9	8,167	4,166	4,001
10-14	43,718	22,527	21,191
10	8,460	4,359	4,101
11	8,738	4,436	4,302
12	8,709	4,472	4,237
13	8,814	4,575	4,239
14	8,997	4,685	4,312
15-19	49,136	25,224	23,912
15	9,442	4,827	4,615
16	9,425	4,825	4,600
17	10,070	5,153	4,917
18	9,966	5,121	4,845
19	10,233	5,298	4,935
20-24	45,305	24,345	20,960
20	10,223	5,199	5,024
21	10,245	5,362	4,883
22	8,951	4,818	4,133
23	7,740	4,373	3,367
24	8,146	4,593	3,553
25-29	41,190	22,124	19,066
25	7,631	4,181	3,450
26	7,870	4,232	3,638
27	8,431	4,582	3,849
28	8,408	4,406	4,002
29	8,850	4,723	4,127

資料：富山県、年齢（各歳）別、男女別人口（令和元年10月1日現在）

石川県

年齢	男女計	男	女
0-4	43,177	22,210	20,967
0	8,031	4,136	3,895
1	8,506	4,418	4,088
2	8,753	4,485	4,268
3	9,106	4,693	4,413
4	8,781	4,478	4,303
5-9	46,443	23,724	22,719
5	8,850	4,526	4,324
6	9,263	4,777	4,486
7	9,447	4,781	4,666
8	9,419	4,849	4,570
9	9,464	4,791	4,673
10-14	50,156	25,389	24,767
10	9,808	5,019	4,789
11	10,133	5,035	5,098
12	10,168	5,185	4,983
13	9,968	5,050	4,918
14	10,079	5,100	4,979
15-19	56,163	29,229	26,934
15	10,332	5,299	5,033
16	10,888	5,689	5,199
17	10,995	5,622	5,373
18	11,512	6,055	5,457
19	12,436	6,564	5,872
20-24	57,009	30,735	26,274
20	12,174	6,481	5,693
21	12,541	6,712	5,829
22	11,454	6,172	5,282
23	10,598	5,760	4,838
24	10,242	5,610	4,632
25-29	49,651	25,654	23,997
25	10,052	5,345	4,707
26	9,608	5,051	4,557
27	9,844	5,086	4,758
28	9,980	4,976	5,004
29	10,167	5,196	4,971

資料：年齢（各歳）別、男女別推計人口（令和元年10月1日現在）

福井県

年齢	男女計	男	女
0-4	29,407	15,108	14,299
0	5,554	2,870	2,684
1	5,830	2,972	2,858
2	6,003	3,075	2,928
3	6,171	3,188	2,983
4	5,849	3,003	2,846
5-9	31,952	16,399	15,553
5	5,991	3,092	2,899
6	6,272	3,169	3,103
7	6,390	3,303	3,087
8	6,633	3,407	3,226
9	6,666	3,428	3,238
10-14	35,048	17,971	17,077
10	6,938	3,571	3,367
11	7,017	3,580	3,437
12	7,066	3,623	3,443
13	7,009	3,598	3,411
14	7,018	3,599	3,419
15-19	37,821	19,263	18,558
15	7,112	3,637	3,475
16	7,520	3,894	3,626
17	7,589	3,851	3,738
18	7,633	3,864	3,769
19	7,967	4,017	3,950
20-24	34,184	18,130	16,054
20	8,014	4,089	3,925
21	7,894	4,106	3,788
22	6,784	3,597	3,187
23	5,640	3,131	2,509
24	5,852	3,207	2,645
25-29	31,239	16,430	14,809
25	5,778	2,993	2,785
26	5,896	3,184	2,712
27	6,312	3,339	2,973
28	6,581	3,490	3,091
29	6,672	3,424	3,248

資料：年齢別・男女別人口

令和元年10月1日

B7 大学等進学率

(大学, 短期大学, 大学・短期大学の通信教育部等)

年度	富山県		石川県		福井県		全国平均 大学等 進学率
	卒業生 総数	大学等 進学率	卒業生 総数	大学等 進学率	卒業生 総数	大学等 進学率	
平成28年度	9,161	52.0	10,203	54.7	7,348	56.1	54.7
平成29年度	9,115	52.2	10,550	54.4	7,564	55.9	54.7
平成30年度	9,195	51.9	10,357	55.1	7,365	56.8	54.7
令和元年度	9,142	52.7	10,439	54.9	7,167	56.0	54.7
令和2年度	9,192	55.3	10,418	56.4	7,260	56.9	55.8

※卒業生総数：全日制・定時制高校卒業生数

学校基本調査より

大学への進学者数の将来推計について

過去の進学率の伸び率を参考に、将来の進学率及び進学者数を推計。進学率については、都道府県別、男女別に推計。

推計の考え方

2014年度～2017年度における都道府県別、男女別の大学進学率の伸び率によって、今後2040年度まで大学進学率が上昇したと仮定して推計

- 男性の進学率が2017年度と比較して5 p t 以上上回った場合、+5 p t を上限として以降据え置き [12県]
- 女性の進学率が男性の進学率を上回った場合、以降を男性の進学率と同値と仮定 [25県]
- 進学率伸び率がマイナスの場合、2017年度の大学進学率が今後維持されると仮定 [26県]

<進学率及び進学者数の推計>

	進学率(男女計)			進学者数(男女計)	
		男子	女子		増減
2017年	52.6%	55.9%	49.1%	629,733人	
2033年	56.7%	57.8%	55.5%	569,789人	▲59,944人
2040年	57.4%	58.4%	56.3%	506,005人	▲123,728人

出典:

文部科学省 将来構想部会(第13回) 資料2「大学への進学者数の将来推計について」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/042/siryu/_icsFiles/afiefile/2018/03/08/1401754_03.pdf

推計の考え方

■大学進学者数推計

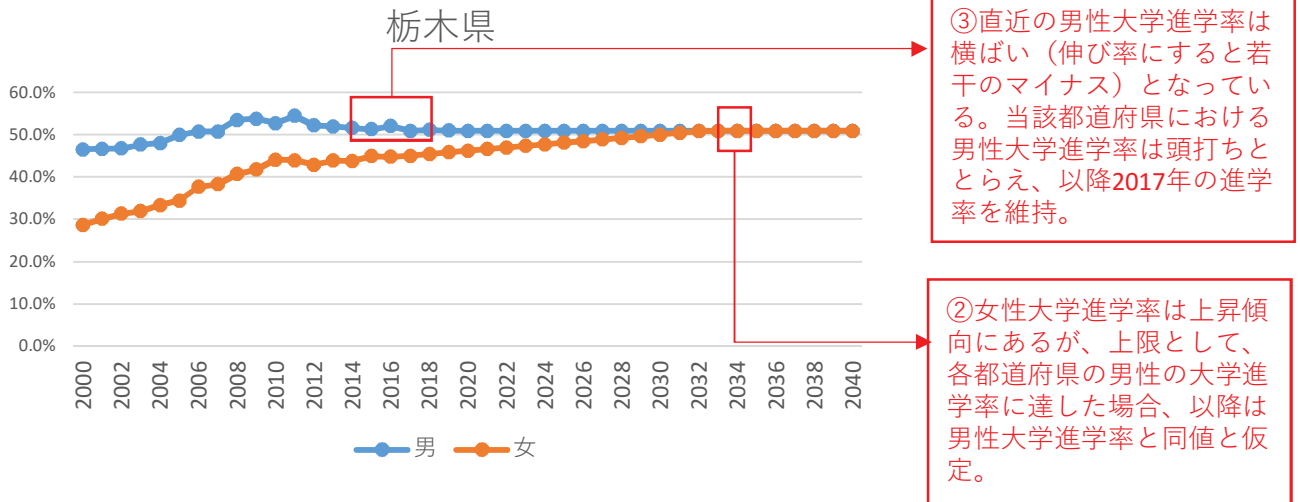
2040年度までの推計大学進学率 × 推計18歳人口

■進学率推計

2014年度～2017年度における都道府県別、男女別の大学進学率の伸び率によって今後2040年まで大学進学率が上昇したと仮定して推計。

※例外

- ①男性の進学率が2017年度と比較して5pt以上上回った場合、+5ptを上限として以降据置き。
- ②女性の進学率が男性の進学率を上回った場合、以降を男性の進学率と同値と仮定。
- ③進学率伸び率がマイナスの場合、2017年度の大学進学率が今後維持されると仮定。



■18歳人口推計（2018～2040年）

①2018～2029年・・・文部科学省「学校基本統計」を元に推計

- 2018年：2015年度 中学校卒業生数及び中等教育学校前期課程修了者数
- 2019年：2016年度 中学校卒業生数及び中等教育学校前期課程修了者数
- 2020年：2017年度 中学校及び義務教育学校卒業生数並びに中等教育学校前期課程修了者数
- 2021年：2017年度 中学校及び中等教育学校前期課程の3年生並びに義務教育学校の9学年の数
- 2022年：2017年度 中学校及び中等教育学校前期課程の2年生並びに義務教育学校の8学年の数
- 2023年：2017年度 中学校及び中等教育学校前期課程の1年生並びに義務教育学校の7学年の数
- 2024年：2017年度 小学校及び義務教育学校の6年生の数
- 2025年：2017年度 小学校及び義務教育学校の5年生の数
- 2026年：2017年度 小学校及び義務教育学校の4年生の数
- 2027年：2017年度 小学校及び義務教育学校の3年生の数
- 2028年：2017年度 小学校及び義務教育学校の2年生の数
- 2029年：2017年度 小学校及び義務教育学校の1年生の数

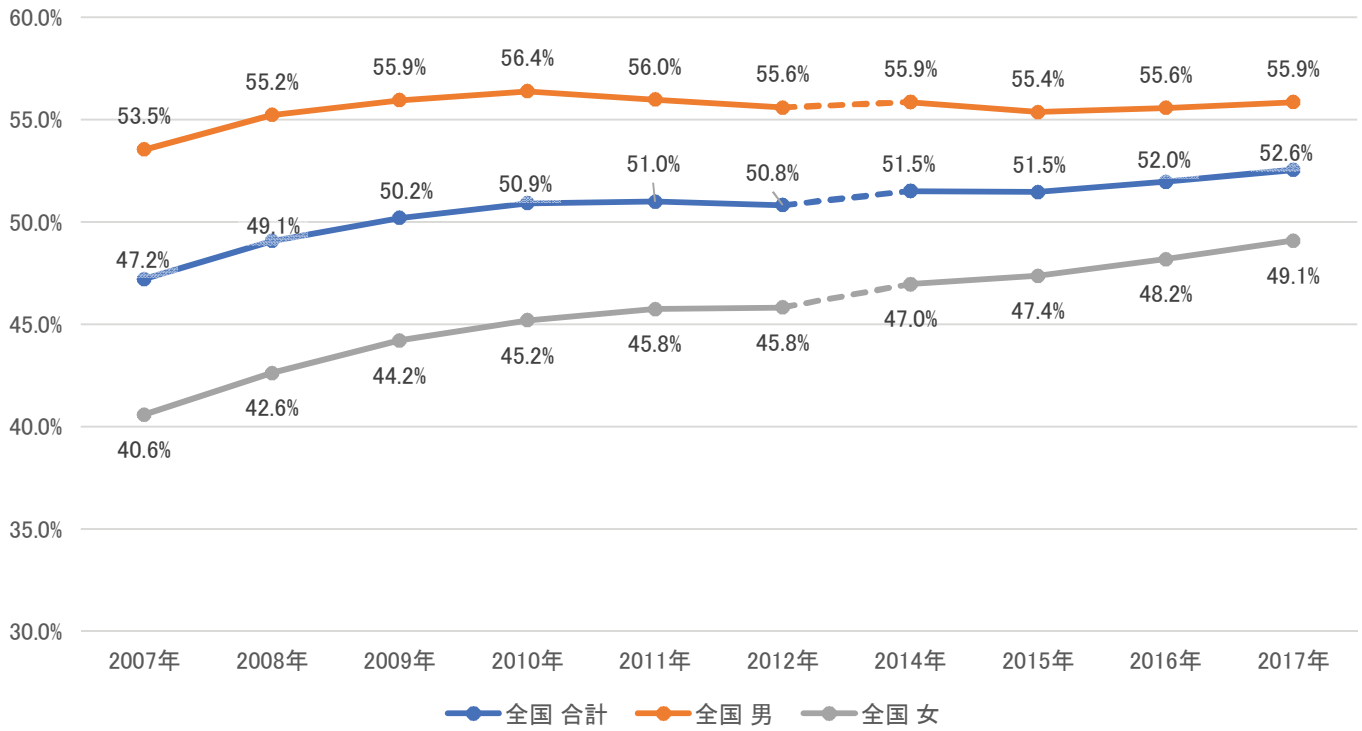
②2030～2034年・・・厚生労働省「人口動態統計」の出生数に生存率を乗じて推計

- 2030年：2011年度に生まれた者の数に生存率を乗じた数
- 2031年：2012年度に生まれた者の数に生存率を乗じた数
- 2032年：2013年度に生まれた者の数に生存率を乗じた数
- 2033年：2014年度に生まれた者の数に生存率を乗じた数
- 2034年：2015年度に生まれた者の数に生存率を乗じた数

③2035～2040年・・・国立社会保障・人口問題研究所による日本の将来推計人口
(2034年の都道府県比率で案分)

直近の大学進学率の推移（男女別）

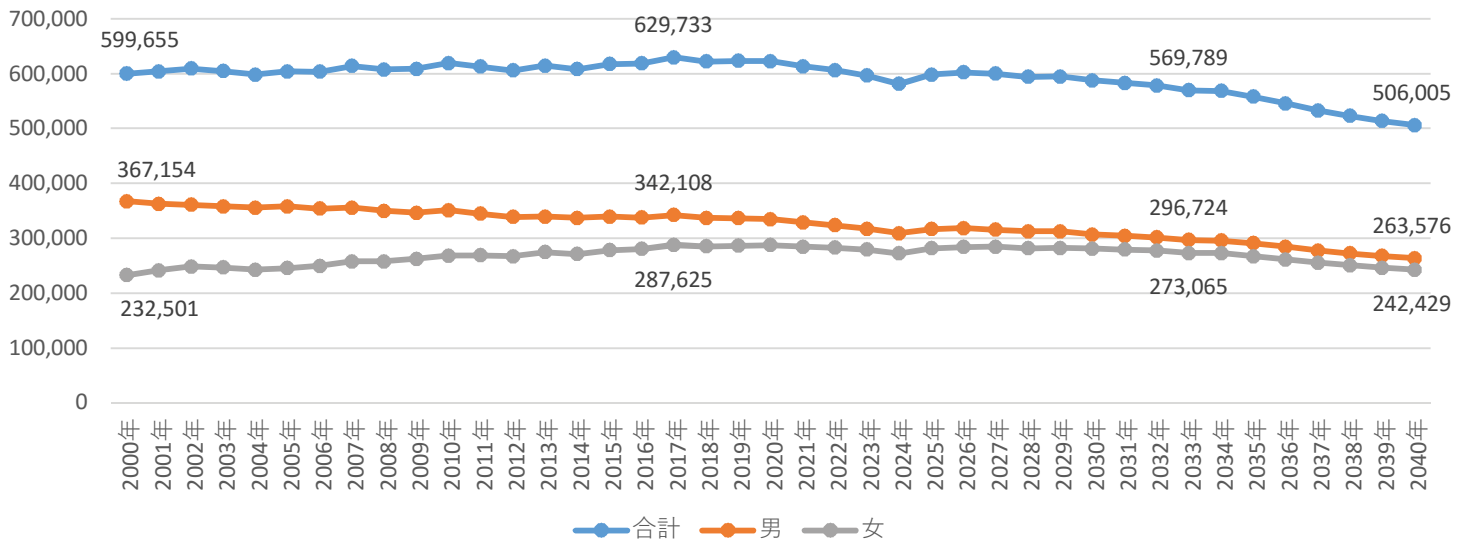
大学進学率推移(男女別)



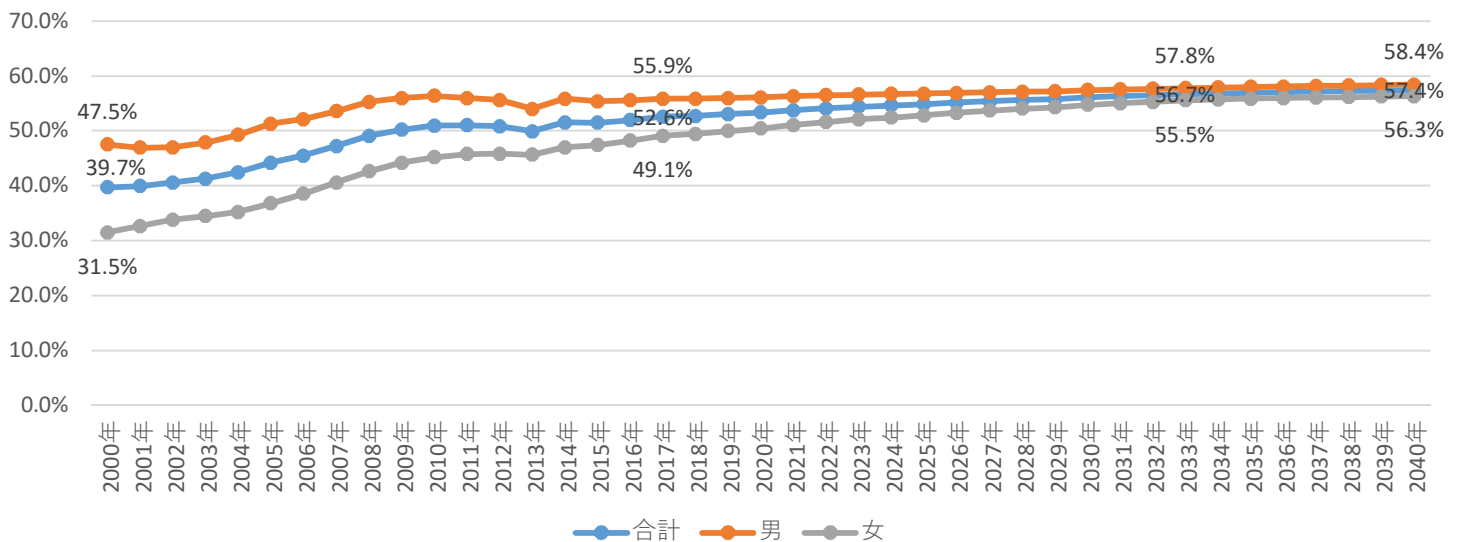
2000年度～2040年度の進学者数・進学率・18歳人口

※2018年度以降は推計値

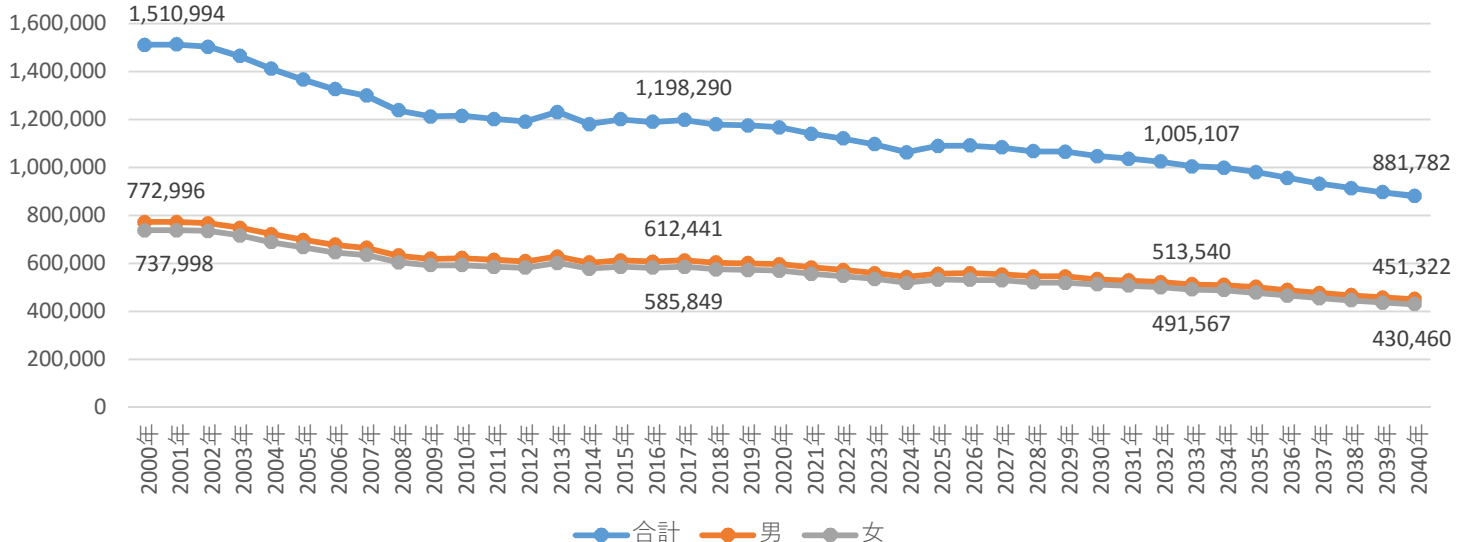
■進学者数



■進学率



■18歳人口

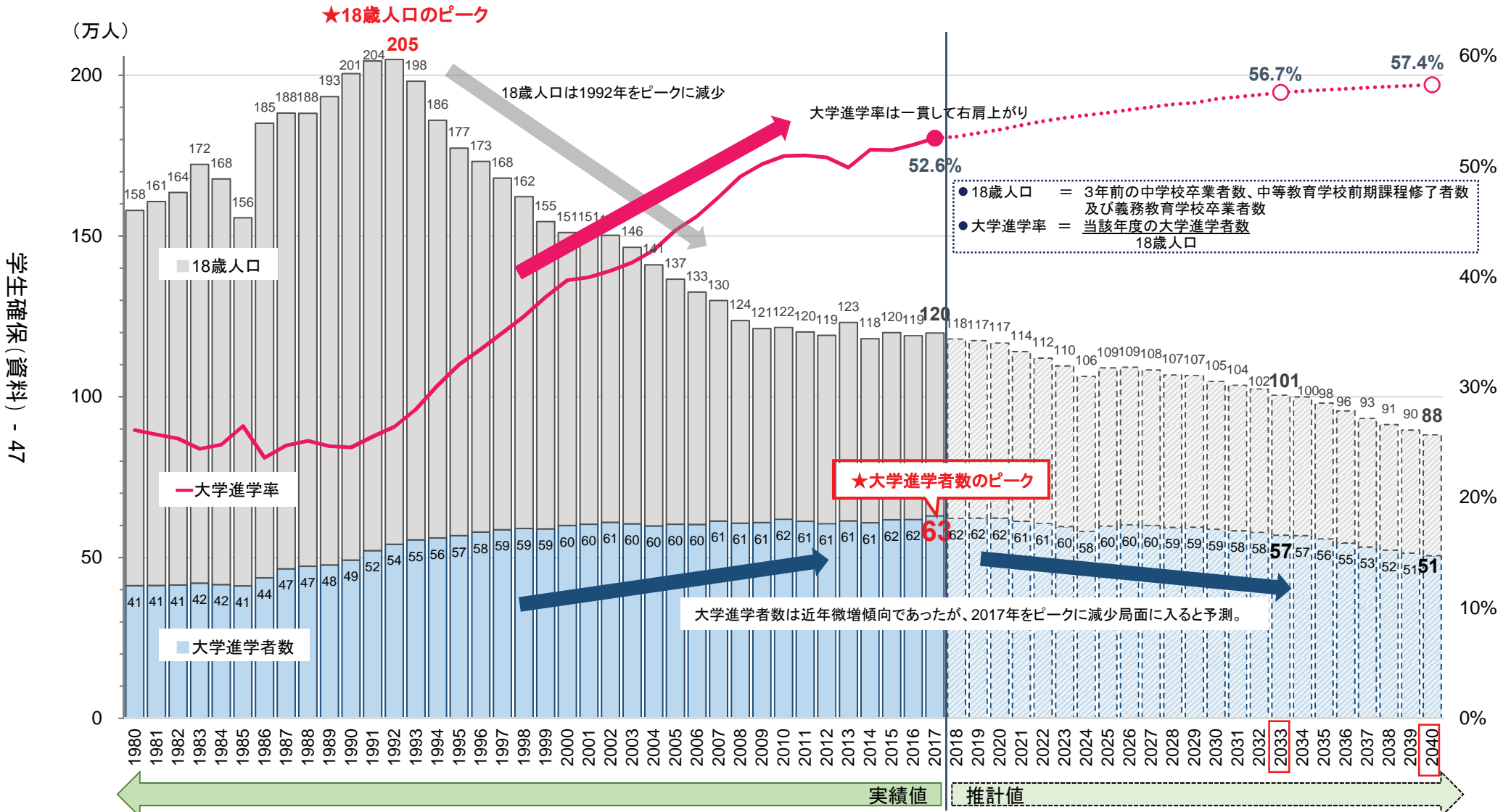


■都道府県別男女別大学進学率（実績・推計値）

		進学率の伸び率を採用										推計値																							
		2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年	2036年	2037年	2038年	2039年	2040年			
徳島	合計	46.5%	48.2%	45.1%	44.9%	45.2%	43.2%	46.2%	46.3%	46.3%	46.4%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.4%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%
	男	48.1%	47.9%	45.3%	45.7%	45.3%	43.0%	45.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%
	女	44.8%	48.5%	44.8%	44.0%	45.1%	43.3%	47.3%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%
香川	合計	48.7%	48.2%	47.5%	45.7%	49.5%	47.7%	47.3%	49.0%	49.0%	49.0%	49.0%	49.0%	49.0%	49.0%	49.0%	49.0%	49.0%	49.0%	49.0%	49.1%	49.1%	49.2%	49.2%	49.3%	49.3%	49.3%	49.4%	49.4%	49.5%	49.5%	49.6%	49.6%	49.6%	
	男	52.3%	51.8%	49.7%	49.7%	52.3%	50.1%	49.3%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	
	女	44.8%	44.3%	45.1%	41.6%	46.7%	45.2%	45.1%	47.1%	47.1%	47.1%	47.1%	47.1%	47.1%	47.1%	47.1%	47.1%	47.1%	47.1%	47.1%	47.1%	47.2%	47.3%	47.4%	47.5%	47.6%	47.7%	47.8%	47.8%	47.9%	48.0%	48.1%	48.1%	48.2%	
愛媛	合計	44.7%	46.0%	44.4%	43.8%	45.0%	44.7%	45.5%	46.9%	47.1%	48.0%	48.6%	49.3%	50.0%	50.7%	51.4%	52.0%	52.4%	52.7%	53.1%	53.6%	54.0%	54.4%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	
	男	48.9%	49.9%	47.8%	47.2%	48.1%	47.1%	49.3%	49.6%	50.2%	50.8%	51.5%	52.2%	52.9%	53.6%	54.3%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	
	女	40.3%	41.8%	40.9%	40.1%	41.6%	42.1%	41.6%	44.1%	44.1%	44.8%	45.5%	46.2%	47.0%	47.7%	48.5%	49.3%	50.1%	50.9%	51.7%	52.5%	53.3%	54.2%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	
高知	合計	38.1%	39.7%	38.3%	40.2%	39.2%	40.8%	40.8%	40.5%	41.4%	41.8%	42.3%	42.7%	43.1%	43.6%	44.0%	44.5%	45.0%	45.3%	45.5%	45.6%	45.8%	46.0%	46.2%	46.4%	46.6%	46.8%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	
	男	40.0%	40.6%	40.3%	40.9%	40.2%	41.6%	41.3%	41.9%	42.5%	43.0%	43.5%	44.0%	44.6%	45.1%	45.6%	46.2%	46.7%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	
	女	36.1%	38.8%	36.3%	39.5%	38.1%	39.9%	40.3%	39.1%	40.2%	40.6%	40.9%	41.3%	41.6%	42.0%	42.4%	42.8%	43.1%	43.5%	43.9%	44.3%	44.7%	45.1%	45.5%	45.9%	46.3%	46.7%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	
福岡	合計	46.2%	46.8%	46.1%	45.5%	47.4%	47.4%	47.4%	48.2%	48.3%	48.5%	48.7%	48.9%	49.1%	49.4%	49.6%	49.9%	50.1%	50.4%	50.6%	50.9%	51.1%	51.4%	51.6%	51.9%	52.2%	52.4%	52.7%	53.0%	53.2%	53.4%	53.4%	53.5%		
	男	51.6%	51.0%	50.7%	49.4%	51.1%	51.5%	50.8%	51.6%	51.6%	51.6%	51.7%	51.7%	51.8%	51.9%	52.0%	52.1%	52.2%	52.3%	52.4%	52.5%	52.6%	52.6%	52.7%	52.8%	52.9%	53.0%	53.1%	53.2%	53.3%	53.4%	53.4%	53.5%		
	女	40.5%	42.3%	41.4%	41.5%	43.7%	43.2%	43.9%	44.7%	44.8%	45.2%	45.6%	46.0%	46.4%	46.8%	47.2%	47.6%	48.0%	48.4%	48.8%	49.2%	49.6%	50.1%	50.5%	50.9%	51.4%	51.8%	52.3%	52.7%	53.2%	53.4%	53.4%	53.5%		
佐賀	合計	39.3%	38.0%	36.7%	37.1%	38.2%	39.1%	38.5%	39.4%	39.5%	39.9%	40.1%	40.4%	40.7%	41.0%	41.3%	41.7%	42.0%	42.2%	42.6%	43.0%	43.3%	43.6%	43.9%	44.3%	44.6%	45.0%	45.3%	45.7%	46.0%	46.4%	46.7%	46.7%		
	男	43.4%	41.0%	40.1%	40.2%	41.5%	42.4%	41.9%	42.3%	42.5%	42.7%	43.0%	43.2%	43.4%	43.6%	43.8%	44.0%	44.2%	44.4%	44.7%	44.9%	45.1%	45.3%	45.5%	45.8%	46.0%	46.2%	46.4%	46.6%	46.9%	47.1%	47.3%			
	女	35.0%	34.5%	33.0%	33.8%	34.6%	35.8%	34.9%	36.2%	36.3%	36.7%	37.1%	37.5%	38.0%	38.4%	38.8%	39.2%	39.6%	40.1%	40.5%	40.9%	41.4%	41.8%	42.3%	42.7%	43.2%	43.7%	44.2%	44.6%	45.1%	45.6%	46.1%			
長崎	合計	37.1%	37.4%	37.3%	37.0%	38.3%	36.9%	39.0%	38.3%	38.6%	38.9%	39.1%	39.3%	39.5%	39.8%	40.0%	40.2%	40.4%	40.6%	40.6%	40.7%	40.7%	40.7%	40.8%	40.8%	40.8%	40.9%	40.9%	40.9%	41.0%	41.0%	41.1%			
	男	39.6%	39.5%	39.7%	38.8%	40.4%	39.0%	41.5%	39.7%	40.2%	40.3%	40.3%	40.4%	40.4%	40.4%	40.5%	40.5%	40.5%	40.6%	40.6%	40.7%	40.7%	40.7%	40.8%	40.8%	40.8%	40.9%	40.9%	40.9%	41.0%	41.0%	41.1%			
	女	34.4%	35.0%	34.9%	35.1%	36.1%	34.7%	36.3%	36.9%	37.0%	37.4%	37.8%	38.2%	38.6%	39.1%	39.5%	39.9%	40.4%	40.6%	40.6%	40.7%	40.7%	40.7%	40.8%	40.8%	40.8%	40.9%	40.9%	40.9%	41.0%	41.0%	41.1%			
熊本	合計	37.9%	39.2%	38.1%	38.8%	41.1%	40.6%	41.5%	42.3%	42.4%	42.9%	43.3%	43.8%	44.2%	44.7%	45.1%	45.6%	46.1%	46.5%	47.0%	47.5%	48.0%	48.5%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%		
	男	39.1%	41.2%	39.8%	40.4%	43.0%	42.7%	43.8%	43.8%	44.1%	44.5%	44.8%	45.2%	45.5%	45.9%	46.2%	46.6%	46.9%	47.3%	47.7%	48.0%	48.4%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%		
	女	36.6%	37.0%	36.3%	37.0%	39.2%	38.3%	39.1%	40.6%	40.6%	41.2%	41.7%	42.3%	42.8%	43.4%	44.0%	44.6%	45.2%	45.8%	46.4%	47.0%	47.6%	48.3%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%		
大分	合計	36.8%	38.4%	36.8%	36.4%	36.9%	36.8%	36.6%	36.9%	36.9%	37.0%	36.9%	37.0%	37.0%	37.0%	37.0%	37.0%	37.1%	37.1%	37.2%	37.2%	37.2%	37.3%	37.3%	37.3%	37.4%	37.4%	37.4%	37.5%	37.5%	37.5%	37.5%			
	男	42.6%	42.5%	40.3%	39.4%	40.9%	40.4%	40.5%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%			
	女	30.9%	34.3%	32.9%	33.3%	32.8%	33.0%	32.4%	33.2%	33.2%	33.2%	33.2%	33.2%	33.3%	33.3%	33.4%	33.5%	33.5%	33.6%	33.7%	33.7%	33.8%	33.9%	33.9%	34.0%	34.1%	34.1%	34.2%	34.3%	34.3%	34.4%	34.4%			
宮崎	合計	36.4%	35.7%	35.3%	35.0%	36.5%	36.4%	38.2%	37.8%	38.6%	39.2%	39.8%	40.4%	40.8%	40.9%	40.9%	41.0%	41.1%	41.1%	41.2%	41.3%	41.3%	41.4%	41.5%	41.5%	41.6%	41.7%	41.7%	41.8%	41.8%	41.9%	42.0%			
	男	40.0%	39.6%	38.5%	38.4%	40.9%	38.8%	42.0%	40.0%	40.6%	40.6%	40.7%	40.7%	40.8%	40.9%	40.9%	41.0%	41.1%	41.1%	41.2%	41.3%	41.3%	41.4%	41.5%	41.5%	41.6%	41.7%	41.7%	41.8%	41.8%	41.9%	42.0%			
	女	32.6%	31.5%	31.9%	31.4%	32.1%	33.8%	34.4%	35.3%	36.6%	37.7%	38.9%	40.1%	40.8%	40.9%	41.0%	41.1%	41.1%	41.2%	41.3%	41.3%	41.4%	41.5%	41.5%	41.6%	41.7%	41.7%	41.8%	41.8%	41.9%	42.0%				
鹿児島	合計	34.9%	35.1%	34.5%	34.2%	35.0%	35.1%	35.8%	37.7%	38.2%	39.2%	40.2%	41.1%	42.0%	42.3%	42.8%	43.3%	43.8%	44.2%	44.7%	45.2%	45.7%	46.3%	46.8%	47.4%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%		
	男	41.4%	40.9%	39.6%	39.5%	39.5%	40.8%	41.4%	42.7%	43.7%	44.8%	45.9%	47.0%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%			
	女	28.0%	29.0%	29.1%	28.7%	30.2%	29.2%	30.1%	32.5%	32.5%	33.3%	34.1%	35.0%	35.8%	36.7%	37.7%	38.6%	39.6%	40.6%	41.6%	42.6%	43.7%	44.8%	45.9%	47.1%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%		
沖縄	合計	34.3%	34.3%	34.5%	35.7%	36.8%	37.3%	36.7%	37.1%	37.2%	37.3%	37.4%	37.6%	37.7%	37.8%	38.0%	38.1%	38.2%	38.4%	38.5%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%			
	男	35.6%	36.0%	36.4%	37.3%	38.7%	39.3%	38.3%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%			
	女	32.9%	32.5%	32.5%	34.0%	34.7%	35.1%	34.9%	35.6%	35.7%	36.0%	36.3%	36.5%	36.8%	37.0%	37.3%	37.6%	37.9%	38.1%	38.4%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%			

大学進学者数等の将来推計について

- 18歳人口が減少し続ける中でも、大学進学率は一貫して上昇し、大学進学者数も増加傾向にあったが、2018年以降は18歳人口の減少に伴い、大学進学率が上昇しても大学進学者数は減少局面に突入すると予測される。



【出典】○18歳人口：①1980年～2017年…文部科学省「学校基本統計」、②2018年～2029年…文部科学省「学校基本統計」を元に推計、③2030～2034年…厚生労働省「人口動態統計」の出生数に生存率を乗じて推計、④2035～2040年については国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)(出生中位・死亡中位)」を元に作成(2034年の都道府県比率で案分)
 ○大学進学者数及び大学進学率：①1980～2017年…文部科学省「学校基本統計」、②2018年～2040年…文部科学省による推計

高等教育に関する基礎データ(2017年基準+2040年推計)①

	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉
18歳人口【2017】	47,624	13,256	12,530	22,026	9,303	10,850	19,782	28,661	18,920	19,530	65,774	55,647
高校等卒業生数【2017】	42,484	12,094	11,558	19,806	8,524	10,073	17,607	25,284	17,493	17,056	57,262	49,330
大学進学者数【2017】	20,912	5,056	4,735	10,132	3,592	4,240	7,785	14,793	9,085	9,139	34,585	29,574
大学進学率【2017】	43.9%	38.1%	37.8%	46.0%	38.6%	39.1%	39.4%	51.6%	48.0%	46.8%	52.6%	53.1%
(国公私別)【2017】	9.8% 2.6% 31.5%	10.4% 4.3% 23.4%	10.4% 5.1% 22.3%	8.5% 2.4% 35.1%	12.6% 4.1% 21.9%	10.6% 2.8% 25.7%	7.5% 2.4% 29.5%	8.1% 1.8% 41.7%	8.1% 1.8% 38.1%	7.6% 3.7% 35.5%	3.8% 0.8% 48.0%	4.3% 0.5% 48.3%
短大進学率【2017】	5.3%	5.6%	4.5%	3.8%	6.5%	5.9%	5.4%	3.3%	4.6%	4.9%	4.1%	3.5%
専門学校進学率(現役)【2017】	21.9%	15.1%	17.4%	15.7%	17.0%	18.5%	18.8%	17.9%	17.3%	18.4%	16.7%	17.8%
大学数【2017】	38	10	6	14	7	6	8	9	9	13	28	27
(国公私別)【2017】	7 5 26	1 2 7	1 1 4	2 1 11	1 3 3	1 2 3	1 2 5	3 1 5	1 0 8	1 4 8	1 1 26	1 1 25
入学定員【2017】	18,917	3,472	2,826	11,374	2,090	2,624	3,389	6,948	4,703	6,381	29,340	26,060
入学定員(国公私別)【2017】	5,617 1,095 12,205	1,322 510 1,640	1,030 440 1,356	2,741 415 8,218	955 665 470	1,675 143 806	945 454 1,990	3,737 170 3,041	910 0 3,793	1,098 1,482 3,801	1,535 395 27,410	2,598 180 23,282
大学入学者数【2017】	19,053	3,421	2,625	11,845	2,059	2,794	3,351	7,261	4,597	6,720	30,804	26,505
(国公私別)【2017】	5,846 1,157 12,050	1,352 548 1,521	1,091 463 1,071	2,825 438 8,582	1,000 666 393	1,731 151 912	993 461 1,897	3,901 170 3,190	951 0 3,646	1,141 1,696 3,883	1,594 405 28,805	2,701 183 23,621
県外から流入【2017】	5,000	1,473	1,266	5,957	1,195	1,906	1,774	4,298	2,543	4,086	20,387	16,772
県内から流出【2017】	6,859	3,108	3,376	4,244	2,728	3,352	6,208	11,830	7,031	6,505	24,168	19,841
流出入差(流入-流出)【2017】	-1,859	-1,635	-2,110	1,713	-1,533	-1,446	-4,434	-7,532	-4,488	-2,419	-3,781	-3,069
自県進学率【2017】	67.2%	38.5%	28.7%	58.1%	24.1%	20.9%	20.3%	20.0%	22.6%	28.8%	30.1%	32.9%
18歳人口推計【2040】	31,499	7,499	7,607	15,601	5,135	6,755	11,794	19,251	13,491	12,581	47,985	41,481
大学進学者数推計【2040】	17,121	3,397	3,340	7,409	2,098	2,639	5,598	10,305	6,868	6,172	28,770	23,873
大学進学率推計【2040】	54.4%	45.3%	43.9%	47.5%	40.9%	39.1%	47.5%	53.5%	50.9%	49.1%	60.0%	57.6%
大学入学者数推計【2040】	15,389	2,408	1,866	8,533	1,391	1,947	2,422	5,507	3,432	4,951	25,630	21,767
(国公私別)【2040】(※注)	4,722 935 9,733	952 386 1,071	775 329 761	2,035 316 6,182	675 450 265	1,206 105 636	718 333 1,371	2,959 129 2,420	710 0 2,722	841 1,250 2,861	1,326 337 23,966	2,218 150 19,398
入学定員充足率推計【2040】	81.4%	69.4%	66.0%	75.0%	66.5%	74.2%	71.5%	79.3%	73.0%	77.6%	87.4%	83.5%
(国公私別)【2040】(※注)	84.1% 85.3% 79.7%	72.0% 75.6% 65.3%	75.3% 74.8% 56.1%	74.2% 76.0% 75.2%	70.7% 67.6% 56.5%	72.0% 73.6% 78.9%	75.9% 73.4% 68.9%	79.2% 75.8% 79.6%	78.0%	71.8% 76.6% 84.3%	75.3% 86.4% 85.3%	87.4% 85.4% 83.5%

(※注)2017年の国公私の割合(実績値)のまま機械的に試算したもの。

高等教育に関する基礎データ(2017年基準+2040年推計)②

	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重
18歳人口【2017】	105,971	80,472	22,252	10,063	11,393	8,156	8,325	21,297	20,795	35,989	74,550	18,382
高校等卒業者数【2017】	102,326	66,400	19,427	9,115	10,550	7,564	8,229	18,898	18,379	32,825	65,204	16,212
大学進学者数【2017】	77,103	43,758	9,169	4,559	5,658	4,092	5,041	8,980	9,725	17,323	38,905	8,299
大学進学率【2017】	72.8%	54.4%	41.2%	45.3%	49.7%	50.2%	60.6%	42.2%	46.8%	48.1%	52.2%	45.1%
(国公私別)【2017】	6.2% 0.9% 65.7%	3.4% 1.1% 49.9%	8.6% 3.0% 29.7%	14.9% 4.1% 26.3%	13.8% 3.6% 32.3%	13.1% 5.6% 31.4%	8.9% 5.0% 46.7%	8.2% 3.3% 30.7%	9.1% 2.8% 34.9%	7.8% 3.5% 36.8%	9.1% 2.8% 40.3%	8.6% 2.3% 34.2%
短大進学率【2017】	2.5%	3.5%	4.3%	6.7%	6.9%	5.3%	5.6%	8.7%	6.9%	4.1%	3.8%	4.9%
専門学校進学率(現役)【2017】	11.7%	15.7%	26.0%	17.0%	13.5%	14.8%	17.5%	20.8%	13.2%	17.2%	12.6%	15.0%
大学数【2017】	138	32	18	5	12	6	7	9	12	12	51	7
(国公私別)【2017】	12 2 124	2 2 28	3 3 12	1 1 3	2 3 7	1 2 3	1 2 4	1 2 6	1 3 8	2 2 8	4 4 43	1 1 5
入学定員【2017】	142,722	45,971	5,907	2,450	5,901	2,275	3,835	3,428	4,820	8,001	40,877	3,110
入学定員(国公私別)【2017】	9,740 1,570 131,412	1,662 1,070 43,239	2,482 585 2,840	1,800 330 320	1,726 350 3,825	855 425 995	825 990 2,020	1,978 380 1,070	1,240 200 3,380	2,145 890 4,966	3,982 1,708 35,187	1,310 100 1,700
大学入学者数【2017】	153,113	49,011	5,972	2,480	6,063	2,418	3,829	3,621	4,649	8,157	43,163	3,299
(国公私別)【2017】	10,180 1,641 141,292	1,713 1,188 46,110	2,588 620 2,764	1,853 356 271	1,779 376 3,908	875 476 1,067	854 1,148 1,827	2,074 448 1,099	1,271 212 3,166	2,193 988 4,976	4,177 1,787 37,199	1,370 100 1,829
県外から流入【2017】	102,137	31,242	2,711	1,547	3,534	1,135	2,622	2,173	2,730	3,255	15,170	1,595
県内から流出【2017】	26,127	25,989	5,908	3,626	3,129	2,809	3,834	7,532	7,806	12,421	10,912	6,595
流出入差(流入-流出)【2017】	76,010	5,253	-3,197	-2,079	405	-1,674	-1,212	-5,359	-5,076	-9,166	4,258	-5,000
自県進学率【2017】	66.1%	40.6%	35.6%	20.5%	44.7%	31.4%	23.9%	16.1%	19.7%	28.3%	72.0%	20.5%
18歳人口推計【2040】	106,569	61,879	14,216	6,610	7,819	5,414	5,195	13,687	13,839	24,828	57,157	12,497
大学進学者数推計【2040】	77,539	34,848	5,863	3,157	4,179	3,255	3,721	5,770	6,949	12,762	31,099	5,804
大学進学率推計【2040】	72.8%	56.3%	41.2%	47.8%	53.4%	60.1%	71.6%	42.2%	50.2%	51.4%	54.4%	46.4%
大学入学者数推計【2040】	131,389	40,573	4,032	1,804	4,469	1,883	2,942	2,610	3,516	6,168	33,550	2,442
(国公私別)【2040】(※注)	8,736 1,408 121,246	1,418 983 38,171	1,747 419 1,866	1,348 259 197	1,311 277 2,881	681 371 831	656 882 1,404	1,495 323 792	961 160 2,395	1,658 747 3,762	3,247 1,389 28,914	1,014 74 1,354
入学定員充足率推計【2040】	92.1%	88.3%	68.3%	73.6%	75.7%	82.8%	76.7%	76.2%	73.0%	77.1%	82.1%	78.5%
(国公私別)【2040】(※注)	89.7% 89.7% 92.3%	85.3% 91.9% 88.3%	70.4% 71.6% 65.7%	74.9% 78.5% 61.6%	76.0% 79.2% 75.3%	79.7% 87.2% 83.5%	79.5% 89.1% 69.5%	75.6% 85.0% 74.0%	77.5% 80.2% 70.8%	77.3% 83.9% 75.8%	81.5% 81.3% 82.2%	77.4% 74.0% 79.6%

(※注)2017年の国公私の割合(実績値)のまま機械的に試算したもの。

高等教育に関する基礎データ(2017年基準+2040年推計)③

	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島
18歳人口【2017】	14,537	24,543	85,687	54,774	14,072	9,998	5,427	6,517	19,189	27,297	13,098	7,159
高校等卒業生数【2017】	12,884	23,480	75,858	47,201	12,061	8,986	4,881	6,045	17,762	23,780	11,321	6,443
大学進学者数【2017】	7,182	15,884	47,347	30,147	8,016	4,324	2,115	2,650	9,183	14,995	5,069	3,318
大学進学率【2017】	49.4%	64.7%	55.3%	55.0%	57.0%	43.2%	39.0%	40.7%	47.9%	54.9%	38.7%	46.3%
(国公私別)【2017】	7.1% 2.9% 39.4%	8.4% 3.9% 52.4%	5.4% 2.7% 47.2%	8.5% 3.8% 42.7%	9.6% 3.9% 43.4%	9.5% 4.0% 29.7%	13.3% 3.1% 22.6%	13.9% 4.3% 22.5%	12.7% 3.4% 31.8%	11.6% 5.1% 38.2%	9.9% 4.1% 24.7%	14.5% 2.7% 29.1%
短大進学率【2017】	5.7%	5.4%	5.5%	4.4%	5.4%	5.6%	7.3%	6.9%	4.1%	3.8%	5.0%	4.9%
専門学校進学率(現役)【2017】	16.9%	13.7%	15.0%	13.9%	14.1%	16.7%	19.3%	22.0%	17.1%	11.8%	16.5%	16.6%
大学数【2017】	8	34	55	37	11	3	3	2	17	20	10	4
(国公私別)【2017】	2 1 5	3 4 27	2 2 51	2 3 32	3 2 6	1 1 1	1 1 1	1 1 0	1 2 14	1 4 15	1 3 6	2 0 2
入学定員【2017】	7,098	32,736	51,582	26,955	4,813	1,605	1,496	1,457	9,670	13,531	4,226	2,983
入学定員(国公私別)【2017】	950 600 5,548	3,706 920 28,110	4,155 2,776 44,651	2,690 1,792 22,473	730 348 3,735	890 180 535	1,140 276 80	1,157 300 0	2,198 430 7,042	2,338 1,515 9,678	1,917 959 1,350	1,388 0 1,595
大学入学者数【2017】	7,498	33,783	54,891	28,060	4,993	1,640	1,591	1,516	9,330	13,547	4,290	2,769
(国公私別)【2017】	1,023 641 5,834	3,837 979 28,967	4,276 2,916 47,699	2,792 1,873 23,395	786 362 3,845	936 181 523	1,181 320 90	1,195 321 0	2,278 472 6,580	2,466 1,689 9,392	1,997 1,019 1,274	1,447 0 1,322
県外から流入【2017】	5,968	25,789	27,862	14,270	3,799	1,148	1,275	1,125	5,279	5,726	3,098	1,506
県内から流出【2017】	5,652	7,890	20,318	16,357	6,822	3,832	1,799	2,259	5,132	7,174	3,877	2,055
流出入差(流入-流出)【2017】	316	17,899	7,544	-2,087	-3,023	-2,684	-524	-1,134	147	-1,448	-779	-549
自県進学率【2017】	21.3%	50.3%	57.1%	45.7%	14.9%	11.4%	14.9%	14.8%	44.1%	52.2%	23.5%	38.1%
18歳人口推計【2040】	11,375	17,431	58,280	39,050	8,874	6,224	3,994	4,887	13,744	20,268	8,972	4,789
大学進学者数推計【2040】	6,233	12,868	34,683	22,294	5,452	2,914	1,821	2,127	7,436	11,564	3,623	2,216
大学進学率推計【2040】	54.8%	73.8%	59.5%	57.1%	61.4%	46.8%	45.6%	43.5%	54.1%	57.1%	40.4%	46.3%
大学入学者数推計【2040】	5,919	26,287	41,083	21,098	3,691	1,186	1,256	1,201	7,358	10,519	3,419	1,997
(国公私別)【2040】(※注)	808 506 4,606	2,986 762 22,540	3,200 2,182 35,700	2,099 1,408 17,590	581 268 2,842	677 131 378	932 253 71	946 254 0	1,796 372 5,189	1,915 1,312 7,293	1,592 812 1,015	1,044 0 953
入学定員充足率推計【2040】	83.4%	80.3%	79.6%	78.3%	76.7%	73.9%	84.0%	82.4%	76.1%	77.7%	80.9%	66.9%
(国公私別)【2040】(※注)	85.0% 84.3% 83.0%	80.6% 82.8% 80.2%	77.0% 78.6% 80.0%	78.0% 78.6% 78.3%	79.6% 76.9% 76.1%	76.1% 72.7% 70.7%	81.8% 91.5% 88.8%	81.8% 84.7%	81.7% 86.6% 73.7%	81.9% 86.6% 75.4%	83.0% 84.7% 75.2%	75.2% 59.8%

(※注)2017年の国公私の割合(実績値)のまま機械的に試算したもの。

高等教育に関する基礎データ(2017年基準+2040年推計)④

	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	その他	
18歳人口【2017】	9,652	13,586	6,626	48,031	9,058	14,269	17,635	10,921	11,299	16,389	16,978		
高校等卒業生数【2017】	8,662	11,480	6,081	42,435	8,106	12,977	15,622	10,102	10,329	14,765	14,607		
大学進学者数【2017】	4,733	6,373	2,685	23,157	3,566	5,471	7,453	4,029	4,267	6,184	6,304	19,041	
大学進学率【2017】	49.0%	46.9%	40.5%	48.2%	39.4%	38.3%	42.3%	36.9%	37.8%	37.7%	37.1%		
(国公私別)【2017】	12.5% 3.0% 33.5%	13.9% 3.6% 29.5%	8.7% 5.7% 26.1%	10.0% 3.0% 35.2%	12.5% 2.4% 24.5%	13.1% 4.5% 20.8%	9.6% 3.8% 28.9%	12.5% 3.7% 20.7%	12.0% 3.9% 21.9%	12.1% 2.7% 22.9%	9.7% 3.0% 24.5%		
短大進学率【2017】	5.2%	5.7%	6.0%	5.1%	5.2%	4.6%	3.5%	7.9%	5.6%	7.8%	3.8%		
専門学校進学率(現役)【2017】	15.5%	18.5%	17.6%	16.2%	15.1%	17.2%	17.7%	20.5%	16.0%	20.1%	25.0%		
大学数【2017】	4	5	3	35	2	8	9	5	7	6	8		
(国公私別)【2017】	1 1 2	1 1 3	1 2 0	3 4 28	1 0 1	1 1 6	1 1 7	1 1 3	1 2 4	2 0 4	1 3 4		
入学定員【2017】	2,184	3,630	1,935	24,675	1,741	4,021	5,902	3,520	2,510	3,700	3,912		
入学定員(国公私別)【2017】	1,239 90 855	1,770 100 1,760	1,075 860 0	4,111 1,970 18,594	1,291 0 450	1,641 690 1,690	1,672 480 3,750	1,070 80 2,370	1,035 300 1,175	2,075 0 1,625	1,547 640 1,725		
大学入学者数【2017】	2,077	3,789	2,045	26,320	1,772	3,921	5,851	3,097	2,329	3,570	4,244		
(国公私別)【2017】	1,279 90 708	1,866 100 1,823	1,131 914 0	4,234 2,083 20,003	1,339 0 433	1,687 747 1,487	1,737 525 3,589	1,105 83 1,909	1,064 310 955	2,164 0 1,406	1,589 676 1,979		
県外から流入【2017】	1,256	1,694	1,501	11,191	1,230	2,064	2,503	2,100	1,217	1,490	817		
県内から流出【2017】	3,912	4,278	2,141	8,028	3,024	3,614	4,105	3,032	3,155	4,104	2,877		
流出入差(流入-流出)【2017】	-2,656	-2,584	-640	3,163	-1,794	-1,550	-1,602	-932	-1,938	-2,614	-2,060		
自県進学率【2017】	17.3%	32.9%	20.3%	65.3%	15.2%	33.9%	44.9%	24.7%	26.1%	33.6%	54.4%		
18歳人口推計【2040】	6,712	8,981	4,366	39,997	6,371	9,514	13,828	8,020	8,133	12,605	14,974		
大学進学者数推計【2040】	3,330	4,901	2,049	21,390	2,978	3,907	6,743	3,013	3,414	6,010	5,778	16,724	
大学進学率推計【2040】	49.6%	54.6%	46.9%	53.5%	46.7%	41.1%	48.8%	37.6%	42.0%	47.7%	38.6%		
大学入学者数推計【2040】	1,549	2,907	1,562	23,092	1,519	3,088	5,149	2,512	1,917	3,268	3,807		
(国公私別)【2040】(※注)	954 67 528	1,432 77 1,399	864 698 0	3,715 1,827 17,549	1,148 0 371	1,329 588 1,171	1,529 462 3,158	896 67 1,548	876 255 786	1,981 0 1,287	1,425 606 1,775		
入学定員充足率推計【2040】	70.9%	80.1%	80.7%	93.6%	87.3%	76.8%	87.2%	71.4%	76.4%	88.3%	97.3%		
(国公私別)【2040】(※注)	77.0% 74.6% 61.7%	80.9% 76.7% 79.5%	80.4% 81.2%	90.4% 92.8% 94.4%	88.9%	82.5% 81.0% 85.3%	69.3% 91.4% 96.3%	84.2% 83.8% 84.2%	65.3% 84.6% 85.0%	66.9% 95.5%	79.2% 92.1% 94.8%	102.9%	

※「その他」とは「外国において、学校教育における12年の課程を修了した者」「専修学校高等課程の修了者」及び「高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)により文部科学大臣が行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者」等である。(学校教育法施行規則第150条)

(※注)2017年の国公私の割合(実績値)のまま機械的に試算したもの。

高等教育に関する基礎データ(2017年基準+2040年推計)について

《注》

● 本資料では、これまで基準としていた2016年を最新の2017年に更新するとともに、国立教育政策研究所による推計(2015年の大学進学率が一定のまま推移すると仮定した場合の2033年の大学進学者数等の推計)ではなく、過去3年間の都道府県別・男女別の進学率の伸び率等を勘案した大学進学率の新たな推計に基づく2040年の大学進学者数等の推計を示している。

- **18歳人口**:各県における3年前の中学校卒業者及び中等教育学校前期課程修了者
- **高校等卒業者数**:各県における当該年度の高等学校卒業者数及び中等教育学校後期課程修了者数
- **大学進学者数**:各県に所在する高校等を卒業した者で当該年度に全国いずれかの大学に進学した者の数(過年度卒業者等を含む)
- **大学進学率**:各県における18歳人口に占める大学進学者数の割合(過年度卒業者等を含む)
- **大学進学率(国公私別)**:各県における国公私別の「大学進学率」
- **短大進学率**:各県における18歳人口に占める短大進学者数の割合(過年度卒業者等を含む)
- **専門学校進学率(現役)**:各県における高校等卒業者数のうち、直ちに専門学校へ進学した者の割合(現役進学者のみ)
- **大学数**:各県に所在する大学の数(※大学本部の所在地による。大学院大学を含む。)
- **大学数(国公私別)**:各県に所在する国公私別の「大学数」
- **入学定員★**:各県に所在する大学(学部)の入学定員(※入学時の学部の所在地による。学部内の学科が複数の県にまたがる場合は、入学定員数が最も多い県に集計するなど補正している。)
【例:北里大学獣医学部の所在地は青森県十和田市であるが、1年次(入学時)は神奈川県相模原市のキャンパスで学ぶため、獣医学部の定員340名は青森県ではなく、神奈川県にカウントしている。】
- **入学定員(国公私別)★**:各県に所在する国公私別の大学(学部)の「入学定員」
- **大学入学者数★**:当該年度に、各県に所在する大学(※入学時の学部の所在地による。)に入学した者の数(過年度卒業者等を含む)
- **大学入学者数(国公私別)★**:各県に所在する国公私別の「大学入学者数」
- **県外から流入★**:当該大学の所在する県以外的高校等卒業者で当該大学へ入学した者(過年度卒業者等を含む)
- **県内から流出★**:当該大学の所在する県内の高校等卒業者で当該県(自県)以外の大学へ入学した者(過年度卒業者等を含む)
- **流出入差(流入-流出)★**:「県外から流入」-「県内から流出」
- **自県進学率★**:各県における「大学進学者数」のうち、自県に所在する大学に進学した者の数(過年度卒業者数を含む)
- **18歳人口推計【2040】**:国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)(出生中位・死亡中位)」を元に都道府県別18歳人口比率で案分
- **大学進学者数推計【2040】**:2040年の都道府県別18歳人口推計×都道府県別大学進学率推計
- **大学進学率推計【2040】**:過去3年間(2014~2017年度)の都道府県別の大学進学率の伸び率を延長(※男性は進学率の上昇が著しい県は+5ptを上限とし、女性は同県の男性の進学率の同値を上限)して推計。
- **大学入学者数推計【2040】★**:2040年の都道府県別大学進学者数推計を2017年現在の都道府県別大学入学者比率で案分
- **大学入学者数推計(国公私別)【2040】★**:2040年の都道府県別大学進学者数推計を2017年現在の都道府県別・国公私別大学入学者比率で案分
- **入学定員充足率推計【2040】★**:大学入学者数推計【2040】÷入学定員【2017】×100(入学定員が2017年と同じと仮定した場合の2040年の入学定員充足率推計)
- **入学定員充足率推計(国公私別)【2040】★**:各県に所在する国公私別の大学入学定員充足率推計(2040年)

《出典》上記のうち、入学定員以外:文部科学省「学校基本統計(平成29年度)」を元に作成、★印は二次利用により得たデータを元に作成。
入学定員:文部科学省調べ(※「学校基本統計」二次利用により得たデータに合わせ、入学時の学部の所在地に再集計。)

外国人留学生の状況について

1 「留学生 30 万人計画」について

○ 「留学生 30 万人計画」は平成 20 年 1 月 8 日の第 169 回国会における福田内閣総理大臣の施政方針演説において発表された。

平成 25 年 6 月 14 日に閣議決定された「日本再興戦略」及び「第 2 期教育振興基本計画」において、平成 32 (2020) 年までに受け入れる外国人留学生を 30 万人に倍増することが明記された。

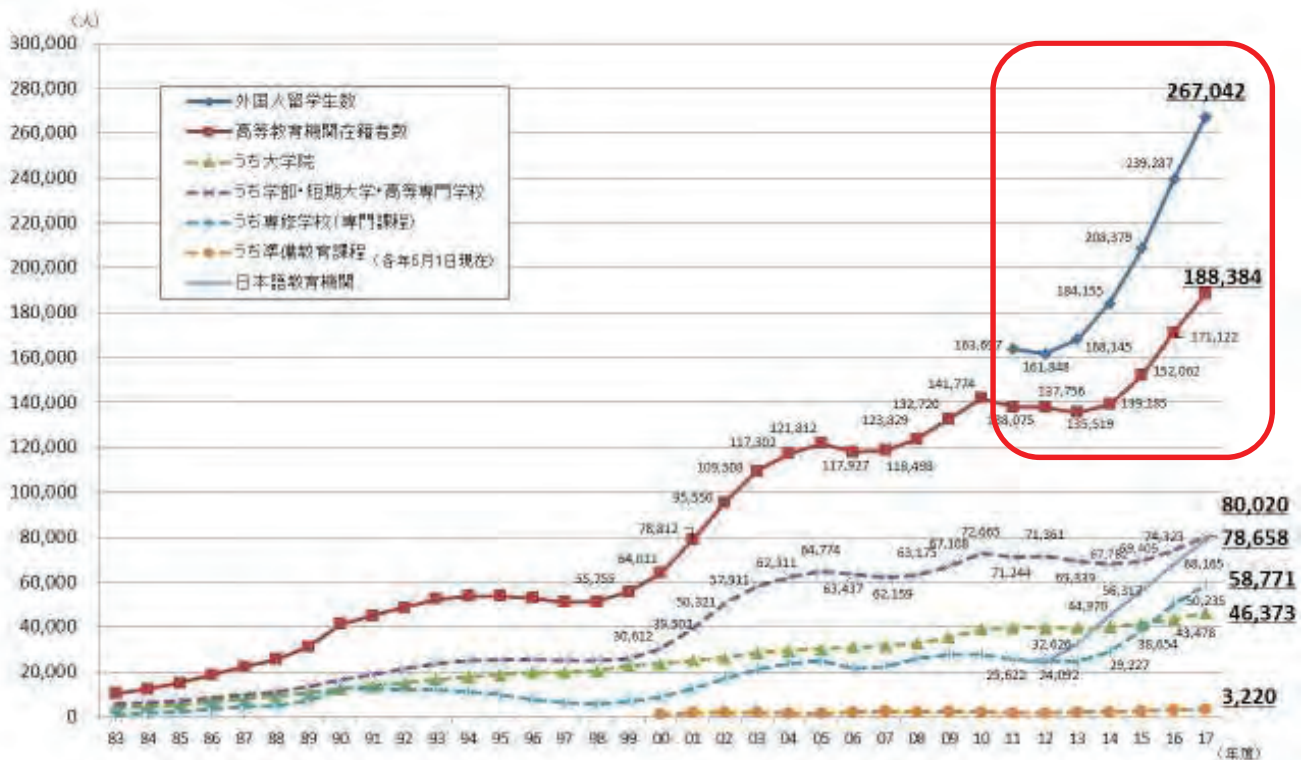
2 外国人留学生について

(1) 現状

平成 25 年度に約 16 万 8 千人であった外国人留学生は、平成 29 年度には 26 万人に達している。そのうち学部の正規生 1 年は 16,445 人である。

日本語教育機関だけでなく、学部生や専修学校（専門課程）でも着実に外国人留学生が増加しているところである。

○学校種別・外国人留学生在籍者数の推移



【出典】(独) 日本学生支援機構「外国人留学生在籍状況調査」

「出入国管理及び難民認定法」別表第 1 に定める「留学」の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)、我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設及び日本語教育機関において教育を受ける外国人学生数(各年 5 月 1 日現在)

出入国管理及び難民認定法の改正(平成 21 年 7 月 15 日公布)により、平成 22 年 7 月 1 日付で在留資格「留学」「就学」が一本化されたことから、平成 23 年 5 月以降は日本語教育機関に在籍する留学生も含めた留学生数も計上

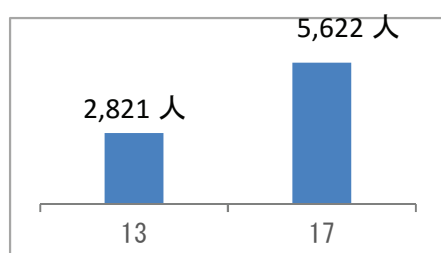
○外国人留学生正規生（1年生、高専のみ4年）（平成25～29年度）（単位：人）

	H25	H26	H27	H28	H29
大学院	14,227	14,445	15,390	16,210	17,578
学部	11,437	11,338	12,040	13,960	16,445
短期大学	560	511	577	664	907
高等専門学校（4年）	113	112	164	162	166
専修学校（専門課程）	12,512	17,514	23,805	28,452	34,069

【出典】（独）日本学生支援機構「留学生調査」の結果による。

留学コーディネーターを配置し、日本留学の魅力に関する情報発信の強化を図っている。

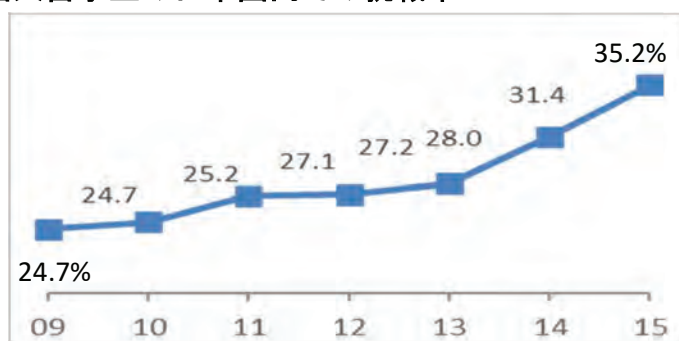
○留学コーディネーター配置国・地域からの外国人留学生数（高等教育機関）



内訳	2013年度	2017年度
インド	560人	964人
ミャンマー	1,193人	2,686人
サブサハラ	793人	1,587人
ブラジル	275人	385人

「留学生就職促進プログラム」による外国人留学生の国内企業への就職促進や奨学金等の支援など、受入環境の充実により、日本留学の魅力向上を図っている。

○外国人留学生の日本国内での就職率



（2）外国人留学生に係る試算 ※（独）日本学生支援機構「留学生調査」の結果に基づき試算

<2020年に外国人留学生が30万人となると仮定した場合>

外国人留学生における学部正規生1年生は

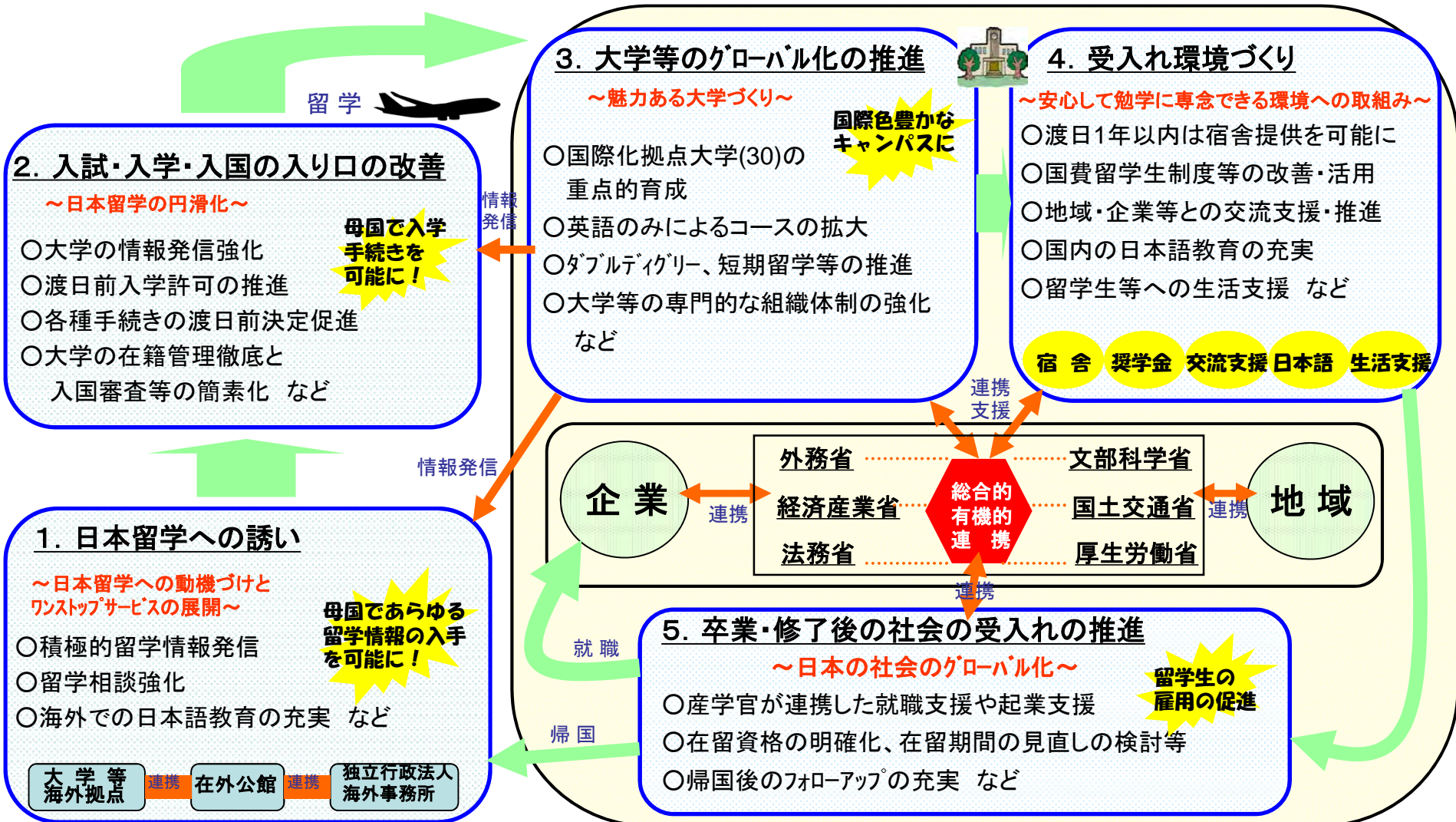
（2017年）16,445人 → （2020年）18,475人

【2,030人増加】

「留学生30万人計画」骨子の概要

ポイント

- ☆ 「グローバル戦略」展開の一環として2020年を目途に留学生受入れ30万人を目指す。
- ☆ 大学等の教育研究の国際競争力を高め、優れた留学生を戦略的に獲得。
- ☆ 関係省庁・機関等が総合的・有機的に連携して計画を推進



社会人受講者・大学入学者の状況について

1 大学・専門学校等の社会人受講者数に係る KPI について

未来投資戦略 2017（平成 29 年 6 月 9 日閣議決定）において、2022 年までに大学・専門学校等の社会人受講者数を約 49 万人から 100 万人にするとの KPI が設定されている。

○「未来投資戦略 2017 II-A-3. 人材の育成・活用力の強化」（抜粋）

＜KPI＞2022 年までに大学・専門学校等の社会人受講者数*を約 49 万人から 100 万人にする。⇒2015 年：約 49 万人

※ 正規課程と短期プログラムの受講者数を合計した値。

正規課程 約 30 万人（61.7%）		短期プログラム 約 19 万人（38.3%）	
短期大学	受講者数 （通学・通信を含む）	短期大学	履修証明制度 科目等履修生制度 聴講生 の受講者数 （通学・通信を含む）
大学		大学	
大学院		大学院	
専修学校	受講者数	専修学校	科目等履修生制度 附帯事業 の受講者数

*一部推計値を含む。

2 社会人入学者数について

(1) 現状（平成 27～29 年度）

（単位：人）

	H27	H28	H29
短期大学（通学）入学者（25 歳以上）	1,358	1,185	1,166
大学（通学）入学者（25 歳以上）	3,999	3,876	3,888
大学院（通学）入学者（30 歳以上）	15,554	15,878	15,740
専修学校（専門課程）	11,139	10,319	9,760

【出典】学校基本調査

(2) 未来投資戦略 2017 の KPI に係る試算

＜2022 年に社会人受講者数が 100 万人となると仮定した場合＞

大学（通学）における 25 歳以上の入学者数は

(2017 年) 3,888 人 → (2022 年) 8,196 人

【4,308 人増加】

C1 富山・石川両県内大学の幼稚園・小学校・中学校教科・特別支援免許状況

富山県

	幼稚園	小学校	中学校										特別支援
			国語	数学	理科	社会	英語	保体	音楽	美術	家庭	技術	
富山大学	○	○		○	○	○	○	○	○				○
A大学	○	○											

石川県

	幼稚園	小学校	中学校										特別支援
			国語	数学	理科	社会	英語	保体	音楽	美術	家庭	技術	
金沢大学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
A大学	○	○				○	○	○					○
B大学	○	○	○			○	○	○		○			
C大学	○	○					○						
D大学							○	○					
E大学	○					○							○
F大学				○	○								
G大学					○								
H大学										○			

北陸3県及び新潟県の公立小・中学校教員の年齢構成

令和元年度 学校教員統計調査より作成

区分	出生年	S34生	S35生	S36生	S37生	S38生	S39生	S40生	S41生	S42生	S43生	S44生	S45生	S46生	S47生	S48生
	H29年齢	現58歳	現57歳	現56歳	現55歳	現54歳	現53歳	現52歳	現51歳	現50歳	現49歳	現48歳	現47歳	現46歳	現45歳	現44歳
	H29年の	2年後	3年後	4年後	5年後	6年後	7年後	8年後	9年後	10年後	11年後	12年後	13年後	14年後	15年後	16年後
	60歳定年	H31定	H32定	H33定	H34定	H35定	H36定	H37定	H38定	H39定	H40定	H41定	H42定	H43定	H44定	H45定
西暦年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	
富山県	小学校	158	129	134	118	112	92	113	81	46	52	57	46	58	47	66
	中学校	79	76	81	73	59	55	80	54	40	38	43	49	41	47	48
	高等学校	100	92	126	112	98	67	92	62	56	52	32	32	30	27	21
	特別支援	24	40	32	32	29	26	31	29	39	29	25	23	19	22	18
	計	361	337	373	335	298	240	316	226	181	171	157	150	148	143	153
	対今年度	100%	93%	103%	93%	83%	66%	88%	63%	50%	47%	43%	42%	41%	40%	42%
石川県	小学校	144	144	119	114	106	83	95	78	46	64	54	62	61	68	68
	中学校	104	95	97	71	66	50	51	55	32	32	28	28	46	37	33
	高等学校	94	90	91	80	79	70	77	52	28	25	37	29	41	39	37
	特別支援	40	22	22	29	29	17	28	19	14	8	15	17	9	9	14
	計	382	351	329	294	280	220	251	204	120	129	134	136	157	153	152
	対今年度	100%	92%	86%	77%	73%	58%	66%	53%	31%	34%	35%	36%	41%	40%	40%
福井県	小学校	134	142	146	114	114	82	113	97	62	50	64	64	58	89	60
	中学校	47	60	55	69	57	38	69	49	55	45	49	37	41	31	35
	高等学校	66	54	73	53	66	41	44	38	39	41	49	42	36	33	32
	特別支援	19	23	24	27	32	16	25	21	22	19	17	31	28	29	17
	計	266	279	298	263	269	177	251	205	178	155	179	174	163	182	144
	対今年度	100%	105%	112%	99%	101%	67%	94%	77%	67%	58%	67%	65%	61%	68%	54%
北陸3県	小学校	436	415	399	346	332	257	321	256	154	166	175	172	177	204	194
	中学校	230	231	233	213	182	143	200	158	127	115	120	114	128	115	116
	高等学校	260	236	290	245	243	178	213	152	123	118	118	103	107	99	90
	特別支援	83	85	78	88	90	59	84	69	75	56	57	71	56	60	49
	計	1009	967	1000	892	847	637	818	635	479	455	470	460	468	478	449
	対今年度	100%	96%	99%	88%	84%	63%	81%	63%	47%	45%	47%	46%	46%	47%	44%
新潟県	小学校	323	335	294	278	272	228	277	260	225	214	217	212	201	211	149
	中学校	160	181	158	205	186	128	184	139	161	142	156	130	145	143	97
	高等学校	156	156	142	160	167	135	147	134	132	125	162	139	164	140	125
	特別支援	54	59	74	76	67	58	65	59	74	60	51	59	54	52	53
	計	693	731	668	719	692	549	673	592	592	541	586	540	564	546	424
	対今年度	100%	105%	96%	104%	100%	79%	97%	85%	85%	78%	85%	78%	81%	79%	61%
区分	出生年	S49生	S50生	S51生	S52生	S53生	S54生	S55生	S56生	S57生	S58生	S59生	S60生	S61生	S62生	S63生
	H29年齢	現43歳	現42歳	現41歳	現40歳	現39歳	現38歳	現37歳	現36歳	現35歳	現34歳	現33歳	現32歳	現31歳	現30歳	現29歳
	H29年の	17年後	18年後	19年後	20年後	21年後	22年後	23年後	24年後	25年後	26年後	27年後	28年後	29年後	30年後	31年後
	60歳定年	H46定	H47定	H48定	H49定	H50定	H51定	H52定	H53定	H54定	H55定	H56定	H57定	H58定	H59定	H60定
西暦年	2034年	2035年	2036年	2037年	2038年	2039年	2040年	2041年	2042年	2043年	2044年	2045年	2046年	2047年	2048年	
富山県	小学校	66	68	57	63	59	52	52	65	72	70	68	76	83	93	112
	中学校	39	32	34	33	35	43	44	39	42	38	49	48	60	53	60
	高等学校	31	33	22	18	27	30	28	19	26	28	31	26	38	28	31
	特別支援	20	16	8	10	19	10	15	12	11	15	9	9	12	12	16
	計	156	149	121	124	140	135	139	135	151	151	157	159	193	186	219
	対今年度	43%	41%	34%	34%	39%	37%	39%	37%	42%	42%	43%	44%	53%	52%	61%
石川県	小学校	64	72	78	82	73	96	96	110	98	94	76	104	100	95	103
	中学校	52	39	44	45	40	48	40	50	39	31	42	53	64	58	54
	高等学校	36	29	32	34	37	42	28	35	30	22	48	37	48	41	44
	特別支援	11	10	10	12	12	14	7	16	18	15	13	14	13	14	11
	計	163	150	164	173	162	200	171	211	185	162	179	208	225	208	212
	対今年度	43%	39%	43%	45%	42%	52%	45%	55%	48%	42%	47%	54%	59%	54%	55%
福井県	小学校	74	72	64	70	68	43	47	52	51	62	63	61	71	68	57
	中学校	36	52	41	54	47	39	39	38	43	46	48	38	59	46	48
	高等学校	32	33	26	27	28	16	26	24	19	22	32	30	16	21	28
	特別支援	17	15	12	18	13	5	13	14	15	12	12	13	12	9	5
	計	159	172	143	169	156	103	125	128	128	142	155	142	158	144	138
	対今年度	60%	65%	54%	64%	59%	39%	47%	48%	48%	53%	58%	53%	59%	54%	52%
北陸3県	小学校	204	212	199	215	200	191	195	227	221	226	207	241	254	256	272
	中学校	127	123	119	132	122	130	123	127	124	115	139	139	183	157	162
	高等学校	99	95	80	79	92	88	82	78	75	72	111	93	102	90	103
	特別支援	48	41	30	40	44	29	35	42	44	42	34	36	37	35	32
	計	478	471	428	466	458	438	435	474	464	455	491	509	576	538	569
	対今年度	47%	47%	42%	46%	45%	43%	43%	47%	46%	45%	49%	50%	57%	53%	56%
新潟県	小学校	156	160	151	175	141	136	160	146	144	165	165	157	190	184	160
	中学校	94	95	94	110	94	90	100	100	80	78	70	87	90	84	78
	高等学校	106	84	83	62	61	42	34	28	25	31	25	26	22	33	28
	特別支援	41	39	38	35	23	22	31	22	21	24	19	21	19	17	16
	計	397	378	366	382	319	290	325	296	270	298	279	291	321	318	282
	対今年度	57%	55%	53%	55%	46%	42%	47%	43%	39%	43%	40%	42%	46%	46%	41%

令和2年3月卒業者の大学別就職状況〔教員養成課程〕

大 学 名	卒業者数 (A)	正規採用 (B)	臨時的任用 (C)	合計 (D)=(B+C)	令和2年3月 教員就職率 (正規+臨時) (D/A)	平成31年3月 教員就職率 (正規+臨時)	保育士への 就職率	大学院等 進学率	令和2年3月 教員就職率 (正規+臨時) (進学者・保育士除 く)	平成31年3月 教員就職率 (正規+臨時) (進学者・保育士除 く)	教員・保育士 以外への 就職率	その他 未就職率
北海道教育	686 (708)	284 (322)	112 (102)	396 (424)	57.7%	59.9%	0.3% (0.3%)	8.3% (7.5%)	63.2%	64.9%	29.0% (27.8%)	4.7% (4.5%)
弘 前	162 (165)	57 (59)	33 (30)	90 (89)	55.6%	53.9%	0.6% (2.4%)	4.3% (12.1%)	58.4%	63.1%	31.5% (27.3%)	8.0% (4.2%)
岩 手	164 (162)	77 (54)	18 (18)	95 (72)	57.9%	44.4%	0.6% (0.0%)	6.1% (8.0%)	62.1%	48.3%	30.5% (43.2%)	4.9% (4.3%)
宮 城 教 育	360 (357)	148 (151)	70 (63)	218 (214)	60.6%	59.9%	3.3% (1.4%)	8.9% (9.0%)	69.0%	66.9%	23.1% (26.3%)	4.2% (3.4%)
秋 田	127 (114)	53 (36)	23 (39)	76 (75)	59.8%	65.8%	8.7% (9.6%)	7.9% (4.4%)	71.7%	76.5%	21.3% (12.3%)	2.4% (7.9%)
茨 城	262 (263)	113 (131)	40 (47)	153 (178)	58.4%	67.7%	0.4% (0.4%)	13.7% (11.4%)	68.0%	76.7%	23.7% (14.8%)	3.8% (5.7%)
宇 都 宮	165 (149)	75 (65)	16 (30)	91 (95)	55.2%	63.8%	4.2% (2.0%)	9.1% (7.4%)	63.6%	70.4%	27.3% (26.2%)	4.2% (0.7%)
群 馬	226 (223)	126 (123)	26 (23)	152 (146)	67.3%	65.5%	0.0% (0.0%)	5.8% (11.2%)	71.4%	73.7%	22.1% (18.8%)	4.9% (4.5%)
埼 玉	433 (439)	170 (165)	35 (46)	205 (211)	47.3%	48.1%	3.2% (3.6%)	6.5% (10.0%)	52.4%	55.7%	35.6% (30.8%)	7.4% (7.5%)
千 葉	396 (423)	122 (171)	60 (66)	182 (237)	46.0%	56.0%	3.0% (2.1%)	6.8% (6.9%)	51.0%	61.6%	39.1% (29.8%)	5.1% (5.2%)
東 京 学 芸	848 (841)	289 (328)	112 (124)	401 (452)	47.3%	53.7%	0.7% (0.5%)	14.4% (15.6%)	55.7%	64.0%	31.7% (25.3%)	5.9% (4.9%)
横 浜 国 立	237 (222)	86 (89)	16 (13)	102 (102)	43.0%	45.9%	0.0% (0.0%)	11.8% (8.6%)	48.8%	50.2%	40.1% (38.7%)	5.1% (6.8%)
新 潟	229 (213)	106 (92)	24 (21)	130 (113)	56.8%	53.1%	0.0% (0.0%)	7.9% (6.1%)	61.6%	56.5%	28.8% (34.7%)	6.6% (6.1%)
上 越 教 育	163 (163)	77 (88)	31 (19)	108 (107)	66.3%	65.6%	4.3% (4.9%)	12.9% (13.5%)	80.0%	80.5%	16.6% (15.3%)	0.0% (0.6%)
金 沢	104 (102)	51 (45)	13 (11)	64 (56)	61.5%	54.9%	0.0% (0.0%)	4.8% (2.9%)	64.6%	56.6%	30.8% (35.3%)	2.9% (6.9%)
福 井	100 (101)	41 (33)	17 (18)	58 (51)	58.0%	50.5%	2.0% (0.0%)	8.0% (14.9%)	64.4%	59.3%	31.0% (34.7%)	1.0% (0.0%)
山 梨	124 (138)	53 (47)	10 (16)	63 (63)	50.8%	45.7%	4.0% (5.1%)	11.3% (15.2%)	60.0%	57.3%	28.2% (29.7%)	5.6% (4.3%)
信 州	249 (219)	99 (81)	47 (56)	146 (137)	58.6%	62.6%	0.0% (0.0%)	9.6% (8.7%)	64.9%	68.5%	28.9% (25.1%)	2.8% (3.7%)
岐 阜	246 (250)	102 (101)	29 (25)	131 (126)	53.3%	50.4%	0.0% (0.0%)	16.3% (15.6%)	63.6%	59.7%	28.9% (32.0%)	1.6% (2.0%)
静 岡	302 (288)	133 (115)	32 (40)	165 (155)	54.6%	53.8%	0.3% (0.3%)	8.3% (6.6%)	59.8%	57.8%	34.1% (34.4%)	2.6% (4.9%)
愛 知 教 育	696 (659)	310 (257)	131 (140)	441 (397)	63.4%	60.2%	2.2% (2.1%)	4.3% (7.4%)	67.7%	66.6%	28.3% (25.8%)	1.9% (4.4%)
三 重	204 (191)	89 (71)	20 (45)	109 (116)	53.4%	60.7%	3.9% (6.8%)	8.3% (7.9%)	60.9%	71.2%	32.4% (21.5%)	2.0% (3.1%)
滋 賀	245 (248)	122 (120)	31 (39)	153 (159)	62.4%	64.1%	3.3% (0.8%)	5.7% (6.5%)	68.6%	69.1%	26.1% (24.2%)	2.4% (4.4%)
京 都 教 育	326 (306)	107 (98)	59 (81)	166 (179)	50.9%	58.5%	3.4% (2.6%)	12.0% (14.4%)	60.1%	70.5%	29.1% (22.2%)	4.6% (2.3%)
大 阪 教 育	563 (564)	229 (216)	113 (129)	342 (345)	60.7%	61.2%	0.0% (1.1%)	6.0% (8.2%)	64.7%	67.4%	29.7% (24.3%)	3.6% (5.3%)
兵 庫 教 育	163 (167)	80 (64)	32 (52)	112 (116)	68.7%	69.5%	6.1% (3.0%)	6.7% (12.6%)	78.9%	82.3%	17.2% (13.8%)	1.2% (1.2%)
奈 良 教 育	254 (247)	97 (77)	62 (64)	159 (141)	62.6%	57.1%	1.6% (1.2%)	7.1% (8.1%)	68.5%	62.9%	25.2% (26.7%)	3.5% (6.9%)
和 歌 山	162 (141)	59 (52)	33 (37)	92 (89)	56.8%	63.1%	0.0% (0.0%)	8.0% (4.3%)	61.7%	65.9%	30.2% (30.5%)	4.9% (2.1%)
島 根	166 (168)	53 (46)	37 (58)	90 (104)	54.2%	61.9%	0.0% (1.2%)	12.0% (6.0%)	61.6%	66.7%	31.9% (23.2%)	1.8% (7.7%)
岡 山	281 (278)	109 (100)	36 (47)	145 (147)	51.6%	52.9%	2.8% (2.9%)	12.5% (11.2%)	60.9%	61.5%	31.0% (28.8%)	2.1% (4.3%)
広 島	160 (183)	72 (99)	9 (9)	81 (108)	50.6%	59.0%	0.0% (0.5%)	20.6% (13.1%)	63.8%	68.4%	21.3% (18.6%)	7.5% (8.7%)
山 口	186 (182)	92 (90)	15 (11)	107 (101)	57.5%	55.5%	0.5% (0.5%)	10.8% (8.2%)	64.8%	60.8%	25.3% (28.6%)	5.9% (7.1%)
鳴 門 教 育	111 (117)	58 (55)	22 (30)	80 (85)	72.1%	72.6%	0.9% (2.6%)	17.1% (9.4%)	87.9%	82.5%	6.3% (15.4%)	3.6% (0.0%)
香 川	164 (160)	82 (76)	24 (22)	106 (98)	64.6%	61.3%	1.8% (3.8%)	1.2% (5.6%)	66.7%	67.6%	28.7% (25.6%)	3.7% (3.8%)
愛 媛	168 (126)	84 (58)	17 (13)	101 (71)	60.1%	56.3%	3.6% (1.6%)	10.7% (13.5%)	70.1%	66.4%	21.4% (23.0%)	4.2% (5.6%)
高 知	126 (137)	55 (57)	23 (41)	78 (98)	61.9%	71.5%	9.5% (3.6%)	5.6% (2.9%)	72.9%	76.6%	17.5% (20.4%)	5.6% (1.5%)
福 岡 教 育	597 (515)	335 (224)	113 (131)	448 (355)	75.0%	68.9%	1.3% (0.8%)	6.5% (7.4%)	81.5%	75.1%	12.4% (18.3%)	4.7% (4.7%)
佐 賀	120 (96)	58 (43)	19 (14)	77 (57)	64.2%	59.4%	2.5% (0.0%)	5.8% (10.4%)	70.0%	66.3%	20.8% (24.0%)	6.7% (6.3%)
長 崎	228 (235)	112 (112)	31 (38)	143 (150)	62.7%	63.8%	6.6% (8.5%)	4.4% (7.7%)	70.4%	76.1%	21.1% (14.9%)	5.3% (5.1%)
熊 本	248 (243)	91 (94)	35 (39)	126 (133)	50.8%	54.7%	0.4% (0.0%)	8.1% (15.2%)	55.5%	64.6%	33.5% (25.9%)	7.3% (4.1%)
大 分	139 (112)	93 (58)	13 (13)	106 (71)	76.3%	63.4%	0.0% (5.4%)	7.9% (8.9%)	82.8%	74.0%	12.2% (17.0%)	3.6% (5.4%)
宮 崎	120 (145)	57 (55)	10 (32)	67 (87)	55.8%	60.0%	0.8% (0.0%)	17.5% (12.4%)	68.4%	68.5%	20.8% (18.6%)	5.0% (9.0%)
鹿 児 島	242 (235)	78 (68)	43 (47)	121 (115)	50.0%	48.9%	0.8% (0.0%)	7.4% (8.1%)	54.5%	53.2%	38.0% (34.0%)	3.7% (8.9%)
琉 球	98 (94)	32 (28)	25 (23)	57 (51)	58.2%	54.3%	0.0% (0.0%)	4.1% (7.4%)	60.6%	58.6%	31.6% (26.6%)	6.1% (11.7%)
計	11,350 (11,089)	4,816 (4,514)	1,717 (1,962)	6,533 (6,476)	57.6%	58.4%	1.8% (1.6%)	8.8% (9.5%)	64.4%	65.7%	27.6% (25.6%)	4.3% (4.8%)

(注1) 令和2年3月卒業者(令和2年9月30日現在)の数とし、()内は、平成31年3月卒業者(令和元年9月30日現在)の数である。
(注2) 「教員就職者」は、国公私立の幼稚園、幼保連携型認定こども園、小・中・義務教育・高等・中等教育・特別支援学校の教員(養護教諭及び栄養教諭を含む)として就職した者を指す。
(注3) 「臨時的任用」は、臨時的に病休、産休、育児休業などの代替教員等として任用された者を指す。
(注4) 「令和2年3月教員就職率(進学者・保育士除く)」は、卒業者数から大学院等への進学者と保育士への就職者を除いた数を母数とした場合の教員就職率(%)である。
(注5) 保育士とは、保育所および認定こども園(幼保連携型を除く)への就職者である。
※パーセントの表記は、小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合もある。

富山県・石川県教員採用試験における富山大学・金沢大学の学生の状況

金沢大学

試験区分	県内採用合格者数				採用合格者数（金沢大学）								配属先（新卒者のみ）			
	採用年度				H29		H30		H31		R2					
	H29	H30	H31	R2	新卒	既卒	新卒	既卒	新卒	既卒	新卒	既卒	H29	H30	H31	R2
小学校	155	152	140	141	19	9	17	4	18	9	15	6	18	13	18	12
中学校	150	148	130	129	8	6	8	4	8	2	11	4	5	4	4	6
高等学校													2	4	3	3
特別支援学校	—	—	30	30	—	—	—	—	0	4	1	3	—	—	0	1
計	305	300	300	300	27	15	25	8	26	15	27	13	25	21	25	22

石川県では、中学校・高等学校の単位で採用が行われ、配属で中学校と高等学校に分かれる。

富山大学

試験区分	県内採用合格者数				採用合格者数（富山大学）								配属先（新卒者のみ）			
	採用年度				H29		H30		H31		R2					
	H29	H30	H31	R2	新卒		新卒		新卒		新卒		H29	H30	H31	R2
小学校		154	150	155	15		22		15		15		15	22	13	16
中学校		123	132	141	2		2		6		12		2	1	5	4
高等学校	0												1	1	1	
特別支援学校		15	14	22	1		2		1		3		1	2	1	5
計	0	292	296	318	18		26		22		30		18	26	20	26

富山県では、中学校・高等学校の単位で採用が行われ、配属で中学校と高等学校に分かれる。

※受験・合格時の学校種に関わらず、有する免許状等に応じて、配属時の学校種が変更になる場合がある。

C5-1.人間発達科学部の教育理念等と就職状況について

<教育理念>

人間発達科学部は、人間発達を広義の教育と位置づけ、人間の豊かな発達と環境との調和をめざすとともに、**生涯にわたって学習を支援できる教育人材**を育成しています。「人を教えるヒトを育てる学部」をキーワードに、教育学部で培われた教育技法の拡充と複雑化した人間環境の学際的追究を組合せることを通じ、地域社会において、**教員養成とともに人間の生涯学習を促進する教育人材の養成**を目的としています。

<ディプロマ・ポリシー>

[発達教育学科]

乳幼児期から高齢期に至るまでの、障害を含めた発達上の諸問題について専門的な知識を習得し、発達を促す保育、教育、福祉支援を立案・遂行する実践力を備えているか。

[人間環境システム学科]

自然科学から人文社会科学までの専門的知識を学際的アプローチを通じて習得し、健康、環境、国際、情報など人間環境に関わる複合的な問題を解決する実践力を備えているか。

<大学ホームページでの学部紹介>

「発達教育学科」と「人間環境システム学科」の2学科6コースを設けて、学校教員の養成にとどまらず、生涯教育時代にふさわしい教育人材を育てる先進的な教育カリキュラムを提供します。**学校教育・生涯教育・社会教育から企業内教育まで、広義の教育**の場面で活躍できる持続可能な自己教育力を持った人材の育成を目指しています。

人間発達科学部における職種別の推移

	H21年度卒	H22年度卒	H23年度卒	H24年度卒	H25年度卒	H26年度卒	H27年度卒	H28年度卒	H29年度卒	H30年度卒	R01年度卒	平均
一般企業・官公庁・その他就職	42.8%	38.5%	37.1%	34.2%	37.8%	43.4%	41.5%	48.5%	45.9%	52.9%	49.1%	42.9%
学校教員	36.9%	35.2%	31.7%	40.4%	35.4%	39.4%	38.0%	28.7%	38.2%	24.1%	33.9%	34.8%
保育士	5.3%	5.6%	7.8%	7.5%	4.9%	7.4%	4.1%	4.2%	5.3%	5.9%	6.4%	5.8%
医療福祉(社会福祉士等)	3.2%	4.5%	5.4%	2.5%	3.0%	1.1%	2.9%	3.6%	1.2%	2.9%	1.2%	2.9%
進学・その他	10.2%	15.1%	13.8%	14.3%	17.7%	8.6%	11.7%	15.0%	7.6%	12.4%	8.2%	12.2%
未就職	1.6%	1.1%	4.2%	1.2%	1.2%	0.0%	1.8%	0.0%	1.8%	1.8%	1.2%	1.4%
合計	98.4%	98.9%	95.8%	98.8%	98.8%	100%	98.2%	100%	98.2%	98.2%	98.8%	98.6%

・人間発達科学部の就職状況を見ると、一般企業、公務員、学校教員、社会福祉士などバランスよく職種がわかれて就職している。また、平成26・28年度の就職率(進学・その他を含む)が100%と高水準であることは特筆すべきことである。**教員以外の分野への就職率の高さは、「多様な教育人材の育成」を教育理念、ディプロマポリシー等として掲げている結果であり、多様な分野での本学部卒業生の評価の高さを示すもの**でもある。

C5-2.人間発達科学部の教員採用試験状況

公立学校教員採用試験等の受験・合格状況

1. 全国公立学校教員採用試験等受験・合格状況

	H29採用 H28卒業						H30採用 H29卒業						H31採用 H30卒業						R02採用 R01卒業						
	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	
免許状取得者数	35	68	73	66	4	100	30	84	85	82	8	115	28	75	73	69	9	106	23	59	70	60	7	219	
延べ受験者数		37	17	2	3	59		49	14	3	2	68		41	18	2	2	63		33	28	3	3	67	
実受験者数		35	16	2	3	56		49	13	3	2	67		41	17	2	2	62		31	27	1	3	62	
延べ合格者数		24	5		1	30		39	4	1	2	46		26	8		2	36		22	18		3	43	
実合格者数		24	5		1	30		39	4	1	2	46		26	8		2	36		20	18		3	41	
延べ受験者合格率			65%	29%	0%	33%	51%		80%	29%	33%	100%	68%		63%	44%	0%	100%	57%		67%	64%	0%	100%	64%
実受験者合格率			69%	31%	0%	33%	54%		80%	31%	33%	100%	69%		63%	47%	0%	100%	58%		65%	67%	0%	100%	66%
就職者数		24	4	1	1	30		39	3	2	2	46		22	7	1	2	32		20	9	2	6	37	

※受験区分が中学校・高等学校一括の場合は、中学校に計上している

※免許状取得者数の計は、取得した実人数である。

※受験・合格時の学校種に関わらず、有する教員免許状に応じて、就職時の学校種が変更になることがある。

2. 富山県公立学校教員採用検査受験・合格状況

	H29採用 H28卒業						H30採用 H29卒業						H31採用 H30卒業						R02採用 R01卒業					
	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計
免許状取得者数	35	68	73	66	4	100	30	84	85	82	16	115	28	75	73	69	9	106	23	59	70	69	7	228
受験者数		22	7		2	31		24	7		2	33		22	9		1	32		16	17		3	36
合格者数		15	2		1	18		22	2		2	26		15	6		1	22		15	12		3	30
受験者合格率			68%			58%		92%	29%		100%	79%		68%	67%		100%	69%		94%	71%		100%	83%
就職者数		15	2		1	18		22	1	1	2	26		13	5	1	1	20		16	4	1	5	26

※中学校・高等学校は一括で採用検査を実施しており、中学校に計上している。

※受験・合格時の学校種に関わらず、有する教員免許状に応じて、就職時の学校種が変更になることがある。

D1 オープンキャンパス等参加者数推移

富山大学（人間発達科学部）

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
開催日	8/9（火）	8/4（金）	8/8（水）	8/3（土）	8/4～16 （web開催）
参加者数	661	923	713	710	427

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大を受け、オンデマンド型によるWEB配信により実施した。

金沢大学（人間社会学域学校教育学類）

	平成28年度
	オープンキャンパス
開催日	8/9(火)・10(水)
参加者	1,139

	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度
	キャンパス・ビジット	スタディプログラム	キャンパス・ビジット	スタディプログラム	キャンパス・ビジット	スタディプログラム	WEB CAMPUS VISIT
開催日	8/7(月)	8/8(火)	8/9(木)	8/10(金)	8/8(木)	8/9(金)	8/9(日)・10(月)
参加者	254	19	313	69	280	61	993

- ・平成29年度から従来のオープンキャンパスからキャンパスビジット・スタディプログラムへと開催形態を変更し、対象を絞った。
 キャンパスビジット：高校2年生以上（個人予約のみ・団体予約は不可）対象の従来のオープンキャンパス。
 スタディプログラム：高校1年生以上を対象とした各学類の講義を実際に体験し、大学での学びへの興味関心を深めてもらうプログラム
- ・平成29年度以降のキャンパスビジットは個人申込で2～3年のみ参加可
- ・平成29年度スタディプログラムは、台風による荒天のため、団体申込（60名：午前午後各30）がキャンセルがあり参加人数が少ない。
- ・平成30年度以降のスタディプログラムは個人申込のみ。
- ・令和2年度は新型コロナウイルス感染症流行拡大を受け、対面による開催からオンラインによる方法をとった。
- ・令和2年度WEB CAMPUS VISITの参加者数は、8/9・8/10配信のコンテンツ及び8/10のリアルタイムイベントの総アクセス数

富山大学

県内高校の進路相談教員との意見交換

「高等学校と富山大学との入学試験に関する懇談会」参加者数

(人間発達科学部の個別相談に参加した教員数)

参加者：人

高等学校所在地	H28	H29	H30	R1	R2
富山県	3	3	1	1	9
石川県	2	0	2	1	4
福井県	0	0	0	1	3
不明	0	3	2	2	0
合計	5	6	5	5	16

(参考：富山大学全体参加者数)

高等学校所在地	H28	H29	H30	R1	R2
富山県	42校 58名	47校 55名	45校 52名	45校 53名	—
石川県	34校 41名	38校 41名	34校 36名	28校 29名	—
福井県	6校 6名	8校 9名	4校 4名	6校 6名	—
新潟県	1校 1名	3校 3名	2校 2名	1校 1名	—
岐阜県	3校 3名	4校 4名	3校 3名	1校 1名	—
長野県	0	3校 3名	2校 2名	0	—
合計	86校 109名	103校 115名	90校 99名	81校 90名	—

※令和2年度は、学部ごとの個別相談のみ実施

金沢大学

「高校進路指導教諭と金沢大学との懇談会」参加者数

(人間社会学域学校教育学類の説明に参加した高校教員数)

参加者：人

高等学校所在地	H27	H28	H29	H30	R1	R2
石川県	39	38	34	28	36	3
富山県	3	8	5	12	3	1
福井県	8	7	5	10	4	0
長野県	0	0	1	1	2	0
合計	50	53	45	51	45	4

※R2は、対面とオンラインの併用開催のため、実施方法を変更しています。

D3 出前講義等の回数

富山大学人間発達科学部

(数字は学校数)

年度	大学見学	出張模擬授業	出張進学説明会
平成27年度	13	8	2
平成28年度	15	8	1
平成29年度	15	9	0
平成30年度	20	10	1
令和元年度	18	10	2
令和2年度*	12	3	2

*令和2年度は、9/15時点で受け付けているもの

金沢大学人間社会学域学校教育学類

(数字は学校数)

年度	キャンパスツアー ー (大学見学会)	出張講義	出張進学説明会
平成27年度	9	16	1
平成28年度	7	13	2
平成29年度	3	6	1
平成30年度	1	8	0
令和元年度	1	8	1
令和2年度*	0	0	0

*令和2年度は、新型コロナウイルス感染症流行のため、中止。

D4-1 富山県教育委員会と富山大学との連携事業

○連携協議会の設置

「富山県教育委員会・富山大学人間発達科学部連絡協議会」を設置し、毎年1回定期的に開催され、連携事業の実施報告や教員養成のあり方について意見交換を行っている。

○富山県主催の教育事業への学生派遣

富山県教育委員会と連携して、学生が地域の学校でボランティアとして実習活動を行っている。この派遣事業により、学生は多種多様な現場経験を積むことができるとともに、富山県内の学校現場に対して貢献している。

【連携事業例】

事業名	事業内容	H27	H28	H29	H30	R元
学びのアシスト	学生をアシスタントティーチャーとして派遣し、小学校現場で学級担任の補助を行う事業	65人	52人	45人	49人	57人
スタディ・メイト ジュニア	学生が学生支援員として派遣し、学修や友達とのかわり方につまづいている児童（発達障害等）のサポートをする事業	25人	16人	20人	14人	13人
観察実験アシスタント	小・中学校における理科の実験・観察に使用する設備の準備、授業補助、理科準備室の環境整備等を行う補助員として学生を派遣する事業	57人	44人	30人	33人	32人
英語学習パートナー派遣事業	学生を小学校現場に派遣し、小学校英語教育の補助を行う事業（H30～）				10人	10人
心のサポーター	心理系の大学生や大学院生を小中学校に派遣し、教員のもとで児童生徒の話し相手や悩み相談に応じることによって、学校の教育相談機能の充実を図る事業	14人	7人	11人	18人	11人

○富山県教員を対象にした教員免許更新講習の実施

富山大学で教員免許更新講習を実施しているが、その中で半数程度の講習について、人間発達科学部の教員が行っている。

○11年次教職員研修の実施

富山県教育委員会で実施している「11年次教職員研修」の一部において、人間発達科学部と富山県教育委員会の連携協定に基づいて教員が行っている。

○富山県総合教育センターへの大学教員派遣

本学部教員は「客員教員」としてセンターの事業内容について指導助言を行ったり、所員研修会において講演を行ったりしている。総合教育センターからも「教員採用セミナー」の講師や本学部附属研究実践総合センター客員教授として研究員の派遣を受け入れている。

○富山県教育委員会と連携した教職科目の開設

富山県教育委員会と連携した教職科目（地域教材研究（富山学））を開設している。この授業では、富山県教育委員会から派遣された各教育事務所等の指導主事を講師として構成され、富山県に関する歴史・自然・産業・文化など特色ある内容を取り上げ、地域に対する理解を深めることを通して、教材開発などの実践的指導力の向上を図っている。

D4-2 石川県教育委員会と金沢大学との連携事業

金沢大学では、平成16年度に、石川県教育委員会と連携に係る協定（「金沢大学と石川県教育委員会の連携に関する基本協定書」及び「職員の派遣に関する協定書」）を締結し、以下のような事業を行っている。

事業名	事業内容	実績	
		年度	派遣実績(のべ人数)
学校指導アドバイザー事業	本事業は、学校研究の質的向上を図ることを目的として、金沢大学人間社会学域学校教育学類が、石川県教育委員会との連携協定のもと、石川県内の学校における研究について学校教育学類教員をアドバイザーとして派遣している。	平成 28	15
		平成 29	13
		平成 30	17
		令和元	16
		令和 2	15

事業名	事業内容	実績	
		年度	受入実績(人)
学校教育学類研究員制度	学校教育学類研究員の制度は、金沢大学人間社会学域学校教育学類が、石川県教育委員会との連携協定のもと、県内の教員を研究員として受け入れ、個人研究に対する支援を行い、教員の資質向上を図ることを目的としている。	平成 28	8
		平成 29	6
		平成 30	4
		令和元	3
		令和 2	2

事業名	事業内容	実績	
		年度	派遣実績(人)
連携講座	金沢大学と石川県教育委員会との連携協定により、石川県内の教員を対象に学校教育学類および他学類の教員とともに連携講座の指導教員を行っている。	平成 28	10
		平成 29	11
		平成 30	7
		令和元	17
		令和 2	26

教諭の資質向上のための指標

< >:各成長に関する段階のキーワード

成長に関する段階 (教職経験年数の目安)		資質能力				
		着任時に求める姿<理解>	基礎期<実践> 概ね教職経験 5年程度までの教員	向上期<伸長> 概ね教職経験 10年程度までの教員	充実・発展期<助言> 概ね教職経験 10年以上の教員	
教職としての素養	社会人として求められる基礎的な能力	・社会人としての一般常識や人権意識が身に付いており、豊かな人間性をもっている。 ・自分の考えを適切に伝えるなど、円滑なコミュニケーションを行っている。 ・他人の意見に謙虚に耳を傾けている。	・法令を遵守し、日常のサービスを誠実かつ公正に遂行する。 ・周囲の状況や相手の思いや考えを汲み取るとともに、自分の考えを適切に伝えるなど円滑なコミュニケーションを行う。		・法令を遵守し、日常のサービスを誠実かつ公正に遂行できるように助言する。 ・円滑なコミュニケーションにより、互いに助け合い支え合う雰囲気醸成する。	
	教育公務員の職責	・児童生徒への愛情と、教職に対する使命感や情熱をもっている。 ・探究心をもって学び続ける土台ができています。 ・守秘義務を理解している。	・富山を愛し、教職への誇りと強い情熱、児童生徒への愛情をもっている。 ・危機管理意識をもち、教育活動を実践している。 ・教育公務員としての使命を自覚している。 ・常に自己研鑽に努め、探究心をもって自主的に学び続ける。			
教職の実践	学習指導	授業の設計・展開	・学習指導要領を踏まえ、目標を明確にした指導計画の作成について理解している。 ・基本的な指導技術を身に付けている。	・学習指導要領の趣旨を踏まえ、ねらいに迫るための指導計画の作成及び学習指導を行う。 ・学び合い等の場面を取り入れた授業展開を計画する。	・自校の特色を踏まえ、目指す児童生徒の姿を想定して目標を明確にし、指導と評価の計画を立てる。 ・身に付けた指導技術を生かし、児童生徒の思考力・判断力・表現力等や意欲をさらに高める工夫をする。	・自校や地域の特色に応じたカリキュラムを編成する。 ・個や集団に応じた効果的な指導方法を工夫して実践する。 ・若手教員等の指導上の課題に対して、提案したり助言したりする。
		授業の評価・改善	・学習評価の意義について理解し、実践しようとしている。	・児童生徒一人一人の学習状況を的確に把握し、児童生徒の指導に生かす。	・適切な授業評価を行い、継続的な授業改善に取り組む。 ・児童生徒の学習状況に応じて、適切な補充的、発展的指導を行う。	・授業力向上に向けた自校の取組の課題を明らかにし、不断の授業改善を推進する。 ・自らの実践や研修会で得た情報を基に教職員に助言するなど、自らの知見を自校の教育活動に生かす。
	生徒指導	児童生徒理解	・児童生徒理解の意義を理解し、一人一人に向き合おうとしている。	・家庭環境等を意識して、児童生徒一人一人に向き合う。	・児童生徒を取り巻く環境を的確に捉え、児童生徒一人一人の理解を図る。	・児童生徒理解について、教職員相互で共通理解を図ることができるように、組織の環境を整える。
		児童生徒指導	・児童生徒指導の手立てを理解し、実践しようとしている。	・児童生徒と信頼関係を構築して、学習や生活の規律を確立する。 ・生徒指導上の問題を察知し、必要に応じて他の教員と連携しながら解決する。	・担当する学級や学年以外の生徒指導上の問題についても、共に対応したり、効果的な指導方法について考えたりする。	・児童生徒の観察や他の教職員からの情報を基に、自校の生徒指導上の課題を捉え改善策を提案し、組織的な対応を推進する。
	特別支援教育 インクルーシブ教育		・特別支援教育の理念を理解している。 ・特別支援教育に関わる指導・支援の計画や合理的配慮について理解している。	・合理的配慮について理解し、教育活動を実践する。 ・特別な支援を必要とする児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行う。	・特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり、学級経営等を行い、学年においても推進する。	・学校全体の視点から教育活動や基礎的環境の改善を推進する。 ・特別支援教育に係る関係機関との連携を推進する。
	チーム学校を支えるマネジメント	学級経営・学校運営	・学校組織及び学級担任の役割と職務内容を理解している。	・学校教育目標を理解し、学年・学級経営等の方針を立て、実践する。	・学年経営等に積極的に関わり、学校教育目標の実現に向けて、実践する。	・学校教育目標の実現に向けて、創意工夫を生かした特色ある学校づくりに参画する。
保護者、地域等との連携・協働		・保護者や地域等との連携・協働に前向きである。	・保護者、地域等と積極的に関わり、連携の土台となる信頼関係をつくる。	・保護者、地域等との信頼関係を基に関わりを深め、連携して活動する。	・保護者、地域、関係機関との連携・協働のネットワークを形成する。 ・保護者等への対応について、教職員に助言する。	
他の教職員との連携・協働		・組織の一員として自分の役割を理解し、同僚と協力して対応しようとしている。	・研修や同僚から積極的に学び、校内の課題に対して当事者意識をもって対応する。	・若手教職員のリーダー的役割を果たし、他の教職員と共に指導力の向上に努める。	・特色ある学校づくりに向けて、OJTを実践するとともに、企画・調整の力を発揮して、組織としての教育力を高める。	

石川県教員育成指標【教諭等】

資質・能力		ステージ	0：養成期 (養成段階)	1：基礎形成期 (若手教員)	2：充実発展期 (中堅教員)	3：学校全体への貢献期 (ベテラン教員)	4：後進の育成期 (再任用教員)
社会人に求められる基礎的な能力			<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としてふさわしいルールやマナーを身に付けている。 ・平日頃から、教養を高めるための努力をしている。 ・心身の健康を良好に保つための自己管理をすることができる。 				
教職としての 素養	倫理観・使命感・ 責任感・教育的 愛情		<ul style="list-style-type: none"> ・法令を遵守するとともに、公平・公正に職務を行うための高い倫理観と規範意識を持っている。 ・教育公務員としての崇高な使命を自覚し、その職責を果たすことの重要性を理解している。 ・人権尊重の理念を認識し、多様な児童生徒を受容する姿勢を身に付けている。 ・児童生徒に対する教育的愛情を持っている。 				
	コミュニケーション 能力		<ul style="list-style-type: none"> ・適切なコミュニケーションにより、他者と信頼関係を築くことができる。 ・相手の思いや考えをよく汲み取るとともに、自分の考えを適切に伝え、意思の疎通を図ることができる。 				
	向上心・創造力・ イノベーション 力		<ul style="list-style-type: none"> ・向上心と探究心を持ち、常に専門性の向上に努めている。 ・論理的・批判的に思考・判断し、行動することができる。 ・社会の変化を敏感に感じ取り、新しいことにチャレンジしようとする意欲を持っている。 ・創造力を発揮して課題の解決を図ることができる。 				
学習指導	構想する力 (P)		<ul style="list-style-type: none"> ・教科等の専門性や学習指導要領に関する基礎的な知識をもとに指導計画を立てることができる。 ・児童生徒の発達段階に関する基礎的な知識をもとに学習の手立てを講じることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科等の専門性に関する知識を深め、学習指導要領に基づいた指導計画を立てることができる。 ・学級や学年の実態から課題を把握し、児童生徒の発達段階に応じた学習の手立てを講じることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科等の確かな専門性を生かして指導計画を立てるとともに、若手教員等に指導・助言をすることができる。 ・学校全体の实態から課題を把握し、自校のカリキュラムマネジメントに対して適切な提案をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科等の高度な専門性や経験を生かして、若手教員等に指導・助言をすることができる。 ・自校のカリキュラムマネジメントについて、若手教員等に指導・助言をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科等の高度な専門性や豊かな経験を生かして、自校の学習指導力の向上について、後進に対する指導・助言及び支援を行うことができる。
	実践する力 (D)		<ul style="list-style-type: none"> ・板書・発問・机間指導等、学習指導に関する基礎的な技術を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導に関する技術を高め、ねらいに応じた授業を展開することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導に関する確かな技術を生かして授業を展開するとともに、若手教員等に指導・助言をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導に関する高度な技術や経験を生かして、若手教員等に指導・助言をすることができる。 	
	評価する力 (C)		<ul style="list-style-type: none"> ・評価に関する基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価に関する知識を深め、学習状況を適切に評価し、授業を検証することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価に関する確かな知識を生かして、学習状況を適切に評価し、授業を検証するとともに、若手教員等に指導・助言をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価に関する高度な知識や経験を生かして、若手教員等に指導・助言をすることができる。 	
	改善する力 (A)		<ul style="list-style-type: none"> ・他者からの助言をもとに、授業改善を進めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題を自覚し、他者からの助言を生かして授業改善を進めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら授業改善を進めるとともに、若手教員等に指導・助言をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善を推進するため、若手教員等に積極的に関わり、指導・助言をすることができる。 	
生徒指導	児童生徒理解		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒理解に関する基礎的な知識を身に付けている。 ・特別な配慮を必要とする児童生徒に関する基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒理解に関する知識を深め、個々の児童生徒の背景を理解することができる。 ・特別な配慮を必要とする児童生徒の支援のために、組織の一員として連携・協働することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童生徒や学年の状況を的確に把握することができる。 ・特別な配慮を必要とする児童生徒の支援のための組織的な取組を主導することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体の状況を的確に把握することができる。 ・特別な配慮を必要とする児童生徒の支援のために、専門家や外部機関との組織的な連携・協働を推進することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな経験を生かして、自校の生徒指導力の向上について、後進に対する指導・助言及び支援を行うことができる。
	児童生徒指導		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒指導に関する基礎的な知識を身に付け、児童生徒と信頼関係を築くことの重要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒指導に関する知識を深め、児童生徒との信頼関係を築くことができる。 ・児童生徒の課題解決に向けて、組織の一員として連携・協働することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の自己を律する力を育成するための組織的な取組を主導することができる。 ・児童生徒の課題解決に向けて、専門家や外部機関と連携・協働して指導することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒指導について、若手教員等に指導・助言をすることができる。 ・学校全体の課題解決に向けて、専門家や外部機関との組織的な連携・協働を推進することができる。 	
	集団づくり		<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい集団づくりに関する基礎的な知識を身に付け、児童生徒間の共感的な人間関係を育てることの重要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい集団づくりに関する知識を深め、児童生徒間の共感的な人間関係を育てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい集団づくりのための組織的な取組を主導することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい集団づくりについて、若手教員等に指導・助言をすることができる。 	
学校組織 マネジメント	学校組織への 参画		<ul style="list-style-type: none"> ・学校における組織的な取組の重要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の一員としての自覚を持って自己の役割を果たすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自校の課題を的確に把握し、組織的な対応策を企画し、実行することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな経験を生かして、自校の課題解決について、後進に対する指導・助言及び支援を行うことができる。 	
	OJT・人材育成		<ul style="list-style-type: none"> ・OJTの重要性を理解し、積極的に経験を積み視野を広げている。 ・他者からの助言を生かし、自己の成長に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・OJTの重要性を理解し、若手教員等に手本を示すことができる。 ・若手教員等のメンターとして、指導・助言をすることができる。 			
	危機管理		<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理に関する基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理に関する基礎的な知識を深め、リスクを想定した行動ができる。 ・問題が発生したときに、速やかに報告・連絡・相談することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクを想定し、未然に防止するための対策を実施することができる。 ・問題が発生したときに、組織の一員として迅速かつ適切に対応することができる。 		
	保護者や地域・外部 機関との連携		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域等との信頼関係の重要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域等との信頼関係の重要性を理解し、連携・協働することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域等との連携・協働について、若手教員等に指導・助言をすることができる。 		

石川県教員育成指標【養護教諭】

資質・能力		ステージ	0：養成期 (養成段階)	1：基礎形成期 (若手教員)	2：充実発展期 (中堅教員)	3：学校全体への貢献期 (ベテラン教員)	4：後進の育成期 (再任用教員)
社会人に求められる基礎的な能力			<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としてふさわしいルールやマナーを身に付けている。 ・平日頃から、教養を高めるための努力をしている。 ・心身の健康を良好に保つための自己管理をすることができる。 				
教職としての 素養	倫理観・使命感・ 責任感・教育的 愛情		<ul style="list-style-type: none"> ・法令を遵守するとともに、公平・公正に職務を行うための高い倫理観と規範意識を持っている。 ・教育公務員としての崇高な使命を自覚し、その職責を果たすことの重要性を理解している。 ・人権尊重の理念を認識し、多様な児童生徒を受容する姿勢を身に付けている。 ・児童生徒に対する教育的愛情を持っている。 				
	コミュニケーション 能力		<ul style="list-style-type: none"> ・適切なコミュニケーションにより、他者と信頼関係を築くことができる。 ・相手の思いや考えをよく汲み取るとともに、自分の考えを適切に伝え、意思の疎通を図ることができる。 				
	向上心・創造力・ イノベーション 力		<ul style="list-style-type: none"> ・向上心と探究心を持ち、常に専門性の向上に努めている。 ・論理的・批判的に思考・判断し、行動することができる。 ・社会の変化を敏感に感じ取り、新しいことにチャレンジしようとする意欲を持っている。 ・創造力を発揮して課題の解決を図ることができる。 				
養護教諭の 専門領域	保健管理		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康状態等の把握と保健管理に関する基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の心身の疾病や障害を把握し、適切に対応することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健管理の組織的対応について教職員を指導することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健管理の組織的対応ができるように、校内の連携・協働を推進することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな経験を生かして、養護教諭の専門領域について、後進に対する指導・助言及び支援を行うことができる。
	保健教育	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭の専門性や学習指導要領に関する基礎的な知識・技術を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自校の保健学習、保健指導の計画立案に参画し、児童生徒に指導をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態に基づいた保健教育を実践することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体の実態から課題を把握し、自校のカリキュラムマネジメントに対して適切な提案をすることができる。 		
	健康相談	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の発達段階に伴う疾患及び健康相談に関する基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康相談のプロセスを理解し、児童生徒の健康課題について教職員と連携し、早期に対応することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康課題について、保護者や専門家と連携し、校内相談体制を整備することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員全体の専門性を高める校内研修を企画、運営し、校内相談体制の充実を図ることができる。 		
	保健組織活動	<ul style="list-style-type: none"> ・保健組織活動に関する基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員及び学校三師と連携し、保健組織活動の企画、運営に参画することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な保健組織活動を実践し、適切に評価、改善を図ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の学校や関係機関と情報交換を行い、地域レベルで保健組織活動を推進することができる。 		
	保健室経営	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭の役割及び保健室の機能に関する基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康課題に応じた保健室経営計画を立案し、実践することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康課題に応じた組織的な保健室経営計画を立案し、実践することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康課題の分析方法や保健マネジメントについて若手教員等に指導・助言をすることができる。 		
生徒指導	児童生徒理解	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒理解に関する基礎的な知識を身に付けている。 ・特別な配慮を必要とする児童生徒に関する基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒理解に関する知識を深め、個々の児童生徒の背景を理解することができる。 ・特別な配慮を必要とする児童生徒の支援のために、組織の一員として連携・協働することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童生徒や学年の状況を的確に把握することができる。 ・特別な配慮を必要とする児童生徒の支援のための組織的な取組を主導することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体の状況を的確に把握することができる。 ・特別な配慮を必要とする児童生徒の支援のために、専門家や外部機関との組織的な連携・協働を推進することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな経験を生かして、自校の生徒指導力の向上について、後進に対する指導・助言及び支援を行うことができる。 	
	児童生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒指導に関する基礎的な知識を身に付け、児童生徒と信頼関係を築くことの重要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒指導に関する知識を深め、児童生徒との信頼関係を築くことができる。 ・児童生徒の課題解決に向けて、組織の一員として連携・協働することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の自己を律する力を育成するための組織的な取組を主導することができる。 ・児童生徒の課題解決に向けて、専門家や外部機関と連携・協働して指導することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒指導について、若手教員等に指導・助言をすることができる。 ・学校全体の課題解決に向けて、専門家や外部機関との組織的な連携・協働を推進することができる。 		
	集団づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい集団づくりに関する基礎的な知識を身に付け、児童生徒間の共感的な人間関係を育てることの重要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい集団づくりに関する知識を深め、児童生徒間の共感的な人間関係を育てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい集団づくりのための組織的な取組を主導することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい集団づくりについて、若手教員等に指導・助言をすることができる。 		
学校組織 マネジメント	学校組織への 参画	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における組織的な取組の重要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の一員としての自覚を持って自己の役割を果たすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自校の課題を的確に把握し、組織的な対応策を企画し、実行することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな経験を生かして、自校の課題解決について、後進に対する指導・助言及び支援を行うことができる。 		
	OJT・人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・OJTの重要性を理解し、積極的に経験を積み視野を広げている。 ・他者からの助言を生かし、自己の成長に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・OJTの重要性を理解し、若手教員等に手本を示すことができる。 ・若手教員等のメンターとして、指導・助言をすることができる。 				
	危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理に関する基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理に関する基礎的な知識を深め、リスクを想定した行動ができる。 ・問題が発生したときに、速やかに報告・連絡・相談することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクを想定し、未然に防止するための対策を実施することができる。 ・問題が発生したときに、組織の一員として迅速かつ適切に対応することができる。 			
	保護者や地域・外部 機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域等との信頼関係の重要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域等との信頼関係の重要性を理解し、連携・協働することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域等との連携・協働について、若手教員等に指導・助言をすることができる。 			

石川県教員育成指標【栄養教諭等】

資質・能力		ステージ	0：養成期 (養成段階)	1：基礎形成期 (若手教員)	2：充実発展期 (中堅教員)	3：学校全体への貢献期 (ベテラン教員)	4：後進の育成期 (再任用教員)	
社会人に求められる基礎的な能力			<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としてふさわしいルールやマナーを身に付けている。 ・常日頃から、教養を高めるための努力をしている。 ・心身の健康を良好に保つための自己管理をすることができる。 					
教職としての 素養	倫理観・使命感・ 責任感・教育的 愛情		<ul style="list-style-type: none"> ・法令を遵守するとともに、公平・公正に職務を行うための高い倫理観と規範意識を持っている。 ・教育公務員としての崇高な使命を自覚し、その職責を果たすことの重要性を理解している。 ・人権尊重の理念を認識し、多様な児童生徒を受容する姿勢を身に付けている。 ・児童生徒に対する教育的愛情を持っている。 					
	コミュニケーション 能力		<ul style="list-style-type: none"> ・適切なコミュニケーションにより、他者と信頼関係を築くことができる。 ・相手の思いや考えをよく汲み取るとともに、自分の考えを適切に伝え、意思の疎通を図ることができる。 					
	向上心・創造力・ イノベーション 力		<ul style="list-style-type: none"> ・向上心と探究心を持ち、常に専門性の向上に努めている。 ・論理的・批判的に思考・判断し、行動することができる。 ・社会の変化を敏感に感じ取り、新しいことにチャレンジしようとする意欲を持っている。 ・創造力を発揮して課題の解決を図ることができる。 					
栄養教諭の 専門領域	学校給食の栄養 管理		<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食の役割に関する基礎的な知識を身に付けている。 ・学校給食摂取基準に基づき、食品構成を考慮した献立を作成することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・栄養管理について、教職員、調理従事者等に指導・助言を行うことができる。 ・児童生徒の食に関する実態を把握し、適切な栄養管理のもとで地域や学校の特色に応じた献立を作成することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな経験を生かして、栄養教諭の専門領域について、後進に対する指導・助言及び支援を行うことができる。 	
	学校給食の衛生 管理		<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食における施設設備、調理従事者、食品保管等の衛生管理に関する基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食衛生管理基準に基づいた日常点検等について、調理従事者等に指導・助言をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食施設に応じた衛生管理の改善について、教職員、調理従事者等に指導・助言をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食における衛生管理に関して、地域レベルで指導的役割を果たすことができる。 		
	食に関する指導		<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づいた学校における食育に関する基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の食に関する実態を把握し、食育全体計画の立案に参画するとともに、指導や情報提供をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態に基づいた食育を組織的に推進することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の食に関する課題、地域の実情等をもとに、食育の成果と課題を把握し、地域レベルで食育を推進することができる。 		
	栄養相談		<ul style="list-style-type: none"> ・栄養相談の基本的なプロセスに関する基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員、保護者と連携し、食物アレルギー等、児童生徒の食に関する健康課題に応じた指導をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員、保護者と連携し、児童生徒の食に関する健康課題に応じた個別取組プランを作成することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の食に関する健康課題について、若手教員等に指導・助言をすることができる。 		
生徒指導	児童生徒理解		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒理解に関する基礎的な知識を身に付けている。 ・特別な配慮を必要とする児童生徒に関する基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒理解に関する知識を深め、個々の児童生徒の背景を理解することができる。 ・特別な配慮を必要とする児童生徒の支援のために、組織の一員として連携・協働することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童生徒や学年の状況を的確に把握することができる。 ・特別な配慮を必要とする児童生徒の支援のための組織的な取組を主導することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体の状況を的確に把握することができる。 ・特別な配慮を必要とする児童生徒の支援のために、専門家や外部機関との組織的な連携・協働を推進することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな経験を生かして、自校の生徒指導力の向上について、後進に対する指導・助言及び支援を行うことができる。 	
	児童生徒指導		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒指導に関する基礎的な知識を身に付け、児童生徒と信頼関係を築くことの重要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒指導に関する知識を深め、児童生徒との信頼関係を築くことができる。 ・児童生徒の課題解決に向けて、組織の一員として連携・協働することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の自己を律する力を育成するための組織的な取組を主導することができる。 ・児童生徒の課題解決に向けて、専門家や外部機関と連携・協働して指導することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒指導について、若手教員等に指導・助言をすることができる。 ・学校全体の課題解決に向けて、専門家や外部機関との組織的な連携・協働を推進することができる。 		
	集団づくり		<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい集団づくりに関する基礎的な知識を身に付け、児童生徒間の共感的な人間関係を育てることの重要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい集団づくりに関する知識を深め、児童生徒間の共感的な人間関係を育てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい集団づくりのための組織的な取組を主導することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい集団づくりについて、若手教員等に指導・助言をすることができる。 		
学校組織 マネジメント	学校組織への 参画		<ul style="list-style-type: none"> ・学校における組織的な取組の重要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の一員としての自覚を持って自己の役割を果たすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自校の課題を的確に把握し、組織的な対応策を企画し、実行することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな経験を生かして、自校の課題解決について、後進に対する指導・助言及び支援を行うことができる。 	
	OJT・人材育成		<ul style="list-style-type: none"> ・OJTの重要性を理解し、積極的に経験を積み視野を広げている。 ・他者からの助言を生かし、自己の成長に努めている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・OJTの重要性を理解し、若手教員等に手本を示すことができる。 ・若手教員等のメンターとして、指導・助言をすることができる。 			
	危機管理		<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理に関する基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理に関する基礎的な知識を深め、リスクを想定した行動ができる。 ・問題が発生したときに、速やかに報告・連絡・相談することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクを想定し、未然に防止するための対策を実施することができる。 ・問題が発生したときに、組織の一員として迅速かつ適切に対応することができる。 			
	保護者や地域・外部 機関との連携		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域等との信頼関係の重要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域等との信頼関係の重要性を理解し、連携・協働することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域等との連携・協働について、若手教員等に指導・助言をすることができる。 			

石川県教員育成指標【管理職】

資質・能力		ステージ	校長
社会人に求められる基礎的な能力			<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としてふさわしいルールやマナーを身に付けている。 ・平日頃から、教養を高めるための努力をしている。 ・心身の健康を良好に保つための自己管理をすることができる。
教職としての素養	倫理観・使命感・責任感・教育的愛情		<ul style="list-style-type: none"> ・法令を遵守するとともに、公平・公正に職務を行うための高い倫理観と規範意識を持っている。 ・教育公務員としての崇高な使命を自覚し、その職責を果たすことの重要性を理解している。 ・人権尊重の理念を認識し、多様な児童生徒を受容する姿勢を身に付けている。 ・児童生徒に対する教育的愛情を持っている。
	コミュニケーション能力		<ul style="list-style-type: none"> ・適切なコミュニケーションにより、他者と信頼関係を築くことができる。 ・相手の思いや考えをよく汲み取るとともに、自分の考えを適切に伝え、意思の疎通を図ることができる。
	向上心・創造力・イノベーション力		<ul style="list-style-type: none"> ・向上心と探究心を持ち、常に専門性の向上に努めている。 ・論理的・批判的に思考・判断し、行動することができる。 ・社会の変化を敏感に感じ取り、新しいことにチャレンジしようとする意欲を持っている。 ・創造力を発揮して課題の解決を図ることができる。
学校組織マネジメント	学校経営		<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営ビジョン及び学校経営計画を明確に示し、その実現に向けてリーダーシップを発揮することができる。 ・教育目標の実現のために、適切にカリキュラム・マネジメントを行うことができる。 ・学校評価を活用して学校経営の改善を図ることができる。
	人事管理・人材育成		<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の服務管理・健康管理を適切に行うことができる。 ・適切な人事評価を通して人材育成を行うことができる。 ・教職員の資質・能力の向上のために、効果的な校内研修体制を構築することができる。
	危機管理		<ul style="list-style-type: none"> ・様々なリスクを想定し、平日頃から学校安全・事故防止、教職員の法令遵守のための対策を講じている。 ・緊急時に迅速に状況を把握し、教職員に的確な指示を行うとともに、関係機関と連携して組織的に対応することができる。
	保護者や地域・外部機関との連携		<ul style="list-style-type: none"> ・学校の方針や取組について積極的に情報発信するとともに、保護者や地域のニーズを的確に把握し、外部機関等と連携・協働する体制を構築することができる。

資質・能力		ステージ	副校長・教頭	部主事
社会人に求められる基礎的な能力			<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としてふさわしいルールやマナーを身に付けている。 ・平日頃から、教養を高めるための努力をしている。 ・心身の健康を良好に保つための自己管理をすることができる。 	
教職としての素養	倫理観・使命感・責任感・教育的愛情		<ul style="list-style-type: none"> ・法令を遵守するとともに、公平・公正に職務を行うための高い倫理観と規範意識を持っている。 ・教育公務員としての崇高な使命を自覚し、その職責を果たすことの重要性を理解している。 ・人権尊重の理念を認識し、多様な児童生徒を受容する姿勢を身に付けている。 ・児童生徒に対する教育的愛情を持っている。 	
	コミュニケーション能力		<ul style="list-style-type: none"> ・適切なコミュニケーションにより、他者と信頼関係を築くことができる。 ・相手の思いや考えをよく汲み取るとともに、自分の考えを適切に伝え、意思の疎通を図ることができる。 	
	向上心・創造力・イノベーション力		<ul style="list-style-type: none"> ・向上心と探究心を持ち、常に専門性の向上に努めている。 ・論理的・批判的に思考・判断し、行動することができる。 ・社会の変化を敏感に感じ取り、新しいことにチャレンジしようとする意欲を持っている。 ・創造力を発揮して課題の解決を図ることができる。 	
学校組織マネジメント	学校経営		<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営ビジョン及び学校経営計画の実現のために、校長（及び副校長）を補佐し、主任等に対して適切な指示・指導・助言を行うことができる。 ・校長（及び副校長）を補佐し、適切なカリキュラムマネジメントを行うための組織的・体系的な取組を推進することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営ビジョン及び学校経営計画に基づいた学部運営を実施するために、校長及び教頭を補佐し、主任等に対して適切な指示・指導・助言を行うことができる。 ・校長及び教頭を補佐し、学部において適切なカリキュラムマネジメントを行うための組織的・体系的な取組を推進することができる。
	人事管理・人材育成		<ul style="list-style-type: none"> ・校長（及び副校長）を補佐し、教職員の服務管理・健康管理を適切に行うことができる。 ・適切な人事評価を通して人材育成を行うことができる。 ・校長（及び副校長）を補佐し、教職員の資質・能力の向上のために、組織的・体系的な取組を推進することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校長及び教頭を補佐し、学部所属する教職員の服務管理・健康管理を適切に行うことができる。 ・校長及び教頭を補佐し、学部所属する教職員の資質・能力の向上のために、組織的・体系的な取組を推進することができる。
	危機管理		<ul style="list-style-type: none"> ・様々なリスクを想定し、平日頃から学校安全・事故防止、教職員の法令遵守のための情報収集に努めている。 ・緊急時に迅速に状況を把握し、校長（及び副校長）の指示のもと、的確に対応することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なリスクを想定し、平日頃から学校安全・事故防止、教職員の法令遵守のための情報収集に努めている。 ・緊急時に迅速に状況を把握し、校長及び教頭の指示のもと、的確に対応することができる。
	保護者や地域・外部機関との連携		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域のニーズを的確に把握し、校長（及び副校長）の指示のもと、外部機関等との連携・協働を推進することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域のニーズを的確に把握し、校長及び教頭の指示のもと、外部機関等との連携・協働を推進することができる。

令和3年5月18日

富山大学長
齋藤 滋 様富山県教育委員会
教育長 萩布 佳子

富山大学・金沢大学共同教員養成課程設置構想に関する要望書

日頃より、本県教育の充実・発展及び教員の養成にご尽力いただき、厚くお礼申し上げます。

これまで貴学人間発達科学部には、多くの優位な人材を本県教育界に輩出していただいております。今般、金沢大学との連携による新たな共同教員養成課程の設置構想については、当教育委員会としても期待を寄せているところであり、積極的に連携を図っていきたくと考えております。

近年、人口減少の加速化と人口構成の変化に加え、急速な技術革新やグローバル化・情報化の進展など、教育を取り巻く環境は大きく変化しています。本県においても新学習指導要領への対応、いじめや不登校の問題、特別支援教育の充実に加えてポストコロナの「新たな日常」の実現など、課題が山積しています。このような課題の解決のため、より高い専門性と実践力を備えた教員の養成が重要と考えます。

つきましては、現在、貴学が金沢大学と進めている共同教員養成課程の設置について、下記のことにご配慮いただきますようお願い申し上げます。

記

1. 小学校・中学校両方の免許状を所有する教員の養成について

本県では、義務教育9年間の継続性及び小学校と中学校の接続を意識した教育活動の展開が重要と考えており、学校課題の解決や教員の資質向上に向けて、小・中連携を意識した教育活動や、小・中学校間の交流の取り組みが行われています。また、近年、少子化を見据え、地域において義務教育学校等の設置の動きも出ています。

これらのことから新規に採用する教員について、小・中学校両方の免許状を取得していることは望ましいと考え、新たに設置される共同教員養成課程において両校種の免許状が取得できる体制を要望します。

2. 中学校9教科及び高等学校10教科の教員免許が取得できる教育課程の設置について

本県の教育水準の維持・向上のためには、より多くの教科等において安定的に教員を配置できることが非常に重要であることから、新たに設置される共同教員養成課程により、中学校9教科及び高等学校10教科の教員養成を長期的かつ安定的に実施していただくことを要望します。また、本県における教員養成の一層の充実のため、技術科、情報科の教員免許が取得できる体制の将来的な整備も要望します。

3. 特別支援学校教員養成の充実等について

全国における特別支援学校の教員の特別支援学校教諭免許保有率は84.9%（令和2年度）であり、特別支援学校教員免許を保有する教員の養成が急務となっています。また、近年は少子化が進行している中で発達障害を含む特別な支援を必要とする子供たちは増加している一方で、これを支援する教育的専門性を持った教員の養成は追いついていない状況です。インクルーシブ教育システムの充実の必要性が高まっている現在、今回、新たに設置される共同教員養成課程において、特別支援教育の専門基礎的内容を教員養成課程全体に拡大することにより、特別支援教育の理解とスキルを持った教員を養成し、さらに4領域の特別支援学校教諭免許を取得した学生を特別支援学校だけでなく、小・中学校に輩出していくことの意義は大きなものであり、大いに期待しています。加えて、将来的には5領域の免許が取得できる体制の整備も要望します。

令和3年4月14日

富山大学長
齋藤 滋 様

富山県高等学校長協会
会長 本江 孝



富山大学・金沢大学共同教員養成課程設置構想に関する要望書

日頃より、本県の高等学校等の教育活動等に対してご支援・ご指導いただき誠にありがとうございます。

さて、今般、貴学と金沢大学との連携による共同教員養成課程の設置構想については、高度化・複雑化する学校現場における現代的な教育課題に対応した先進的教育科目の設置、小・中学校の接続や発達支援の充実に対応する教育免許の取得体制の構築、両大学の人的リソースを合わせることによる質の高い教育の提供など、両大学の特色を活かした共同教育のシナジー効果が期待できます。こうした構想によって、現代的な教育課題に対応できる教員養成課程において、幅広い専門分野の指導を地元の大学で受けられることは、教員を目指す高校生にとって大変魅力的なものであり、また当協会としても大いに期待しております。

つきましては、新たな共同教員養成課程の設置の際には、下記の点にご配慮いただきますようお願い申し上げます。

記

1. 中学校(高校)9教科の教員免許が取得できる教育課程の設置について

中学校学習指導要領を実施していく上で必要となる中学校(高校)9教科の教員免許の取得が可能となる体制ができるようお願いします。本県における教員養成の拠点である貴学において、より多くの教科の教員養成が長期的にかつ安定的に維持できるよう要望します。

2. 特別支援学校教諭免許の5領域取得可能な教育課程の設置について

本県の特別支援学校では、障害のある児童・生徒への指導力向上のためにも、教員の特別支援学校免許状保有率をあげるべく努めているところです。特別支援学校により多くの専門性の高い教員を確保するためにも、より多くの領域免許が取得できる課程の設置を要望します。今般の設置構想では従来よりも取得できる領域が増え、4領域の取得が可能になるとのことで、本県の特別支援教育のために是非ともこの設置を進めていただくことを希望しますが、加えて将来的には5領域の免許が取得できる体制の整備も要望します。

3. 現代的な教育課題に対応できる先駆的教員の養成について

我が国の人口減少は深刻であり、少子化による生産年齢人口の減少や高齢化が大きな問題となっています。特に教育の観点からは、少子化と18歳人口の減少への対応が必須であり、そうした中での地方における教員養成課程の維持が課題となっています。

また、デジタル革命やグローバル化がかつてないスピードで進む中、持続可能なインクルーシブ社会経済システムとして、Society5.0の実現に向けた取り組みも加速している一方、過度な一極集中などによる地方の活力の低下、加えてポストコロナの「新たな日常」の実現などの課題も山積しています。教育現場は、こうした社会の変化と課題に対応していかなければなりません。

このような課題に対応できる、より高い専門性と実践力を備えた教員を養成できる課程の設置を要望します。

教学第727号
令和3年7月30日

金 沢 大 学
学 長 山 崎 光 悦 様

石 川 県 教 育 委 員 会
教 育 長 徳 田 博



金沢大学と富山大学との共同教員養成課程設置に係る意見書

日頃より、本県の児童生徒の学力向上及び教員の指導力向上に御尽力いただいているとともに、これまで多年にわたり有為な人材を本県の教員として学校現場に輩出いただいていることに厚く御礼申し上げます。

今般の金沢大学と富山大学との共同教員養成課程につきましては、貴大学からの趣旨説明を受け、県教育委員会として、金沢大学への進学指導を行っている高等学校長からの意見聴取を行ってきました。高等学校長からは、「金沢大学については富山大学に比べメリットが少ないこと」「オンライン授業が現状より増加すること」「学位記の表記が富山大学・金沢大学の順で併記となること」などから、金沢大学の魅力が低下するのではないかと懸念する多くの声や「高校生や保護者に対して共同教員養成課程設置の具体的なメリットをわかりやすく発信して欲しい」との要望もありました。

県教育委員会としては、こうした学校現場が抱える懸念が払拭されるとともに、金沢大学の魅力が向上し、金沢大学から本県の教員として優秀な人材をこれまで以上に多く輩出していただきたいと考えており、以下3点について意見を申し述べます。

- 1 学校教育学類の募集定員及び各校種・科目・領域における教員免許状取得体制の維持について
今後の児童生徒数の減少により教員需要の減少が予想される中、今後も長期にわたり金沢大学学校教育学類の募集定員を維持していただくとともに、小学校教諭、中学校・高等学校教諭の各教科及び特別支援学校教諭の各領域の教員免許状の取得が可能である体制を維持していただきたい。
- 2 教員になることを目指し金沢大学を志望する地元高校生にとっての魅力の向上について
今般の共同教員養成課程の設置により、金沢大学の魅力が低下することなく、設置の相乗効果により、金沢大学の魅力の一層の向上につなげていただきたい。学校現場では、SDGs教育の推進、GIGAスクール構想の実現など、現代的な教育課題に対応できる質の高い教員が求められており、金沢大学においては、これらに対応できるカリキュラムの開発と充実に取り組み、教員を目指す地元高校生に対して、学校現場で役立つ実践力を身につけることができることをわかりやすく丁寧に説明いただきたい。
- 3 本県の教育力を維持向上するための質の高い教員の養成及び安定した輩出について
本県では、教員採用試験の受験者、採用候補者ともに金沢大学出身者が最も多く、本県の教育力は、金沢大学卒業の教員の資質能力に負うところが極めて大きい状況にあります。共同教員養成課程の設置により、学校現場でリーダーとして活躍できる質の高い教員を養成し、これまで以上に本県の学校現場に安定して輩出いただきたい。

石高長第25号
令和3年7月14日

金沢大学
学長 山崎 光悦 様

石川県高等学校長協会
会長 中村 義治



金沢大学と富山大学との教員養成における
共同教員養成課程設置に係る意見書

現在、検討が進められている金沢大学と富山大学との共同教員養成課程につきましては、これまでに、本県の高等学校長協会大学入試対策特別委員会及び高等学校進路指導協議会総会の場合において、金沢大学より説明をいただいたところです。説明をお聞きした学校長及び進路指導担当教諭からは、「富山大学の大きな変更 비해、金沢大学については現状とそれほどの変更はなくメリットが少ないこと」、「現在行われている対面授業のうち 31 単位分を、オンラインを含め富山大学から取得しなければならないこと」、「学位記が金沢大学単独表記から富山大学・金沢大学の順で併記になること」などから、金沢大学の魅力が低下するのではないかと心配の声が寄せられています。石川県高等学校長協会としては、今般の設置にあたっては、そうした懸念が払拭され金沢大学の魅力が向上するよう、以下2点について意見を申し述べます。

1. 各校種・科目・領域に係る教員免許状取得可能性の維持

金沢大学は、これまで、本県の学校教育を担う教員の養成と輩出に大きな役割を果たしてきておられますが、現在少子化が進んでおり、今後の児童生徒数の減少によって教員需要の減少が予想され、ひいては、学校教育学類の縮小が懸念されます。そのような中であっても、今後も長年にわたり、金沢大学において、小学校教諭、中学校・高等学校教諭の各教科及び特別支援学校教諭の各領域の教員免許状の取得が可能であることを、是非とも維持していただきたい。

2. 金沢大学の魅力の向上

今般の共同教員養成課程の設置により、金沢大学の魅力が低下することなく、設置の相乗効果により金沢大学の魅力の一層の向上につなげていただきたい。具体的には、新学習指導要領が既に小中学校でスタートし、高校では来年度より学年進行でスタートする中、探究的な学びの充実、SDGs教育の推進、GIGAスクール構想の実現など、現代的な教育課題にも対応できる質の高い教員の育成が求められており、これまでの取組の一層の充実に加え、こうした教育課題にも対応できるカリキュラムの開発とその充実にしっかりと取り組んでいただきたい。

また、本県には、教員を目指すために地元にある金沢大学を志望する高校生が多くおります。しかし、現時点での金沢大学及び富山大学には、入学に必要な学力には明らかな差があり、今般の共同教員養成課程設置による変更は来春の受験を控える高校生の進路決定に影響を与えることから、設置に係る変更点やそのメリット等について、高校生及び保護者に対し、早い時期に、具体的にわかりやすいメッセージを出し、広報していただきたい。

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	ヤマザキ コウエツ 山崎 光悦 <平成26年4月>		工学 博士		金沢大学 学長 (平成26.4～令和4.3)

教 員 の 氏 名 等													
(富山大学教育学部共同教員養成課程, 金沢大学人間社会学域学校教育学類共同教員養成課程)													
調書 番号	専任等 区分	所属大学	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に 大の に する 等 務 事 週 り 日 数
1	専	富山大学	教授	アキツキ ユウキ 秋月 有紀 <令和4年4月>		博士(学術) 博士(工学)		家庭科基礎A(住居・食物と現代の教育課題)※ 住居学概論I 住居学概論II 住居学I(現代の環境問題を含む) 住居学II(製図及び富山石川の住宅比較を含む) 住居学演習I 住居学演習II 住居学演習III 住居学演習IV 卒業研究	1③ 2① 2② 2③ 2④ 3② 3③ 3④ 4① 4② 4通	0.5 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 教授 (平19.4)	5日
2	専	富山大学	教授	インカワ ヒデアキ 石川 秀明 <令和4年4月>		博士(理学)		算数科基礎A(低・中学年) 線形代数学概論I(代数と現代の数学教育を含む) 線形代数学概論II(代数と現代の数学教育を含む) 代数学I 代数学II 教論I 教論II 確率論 統計学 卒業研究	2① 2③ 2④ 3③ 3④ 3① 3② 3③ 3④ 4通	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 教授 (平29.10)	5日
3	専	富山大学	教授	インザキ タカコ 磯崎 尚子 <令和4年4月>		博士(教育学)		初等家庭科教育法I 初等家庭科教育法II 家庭科教育法I(富山県の教育実践を含む) 家庭科教育法II(富山県の教育実践を含む) 家庭科教育法V 家庭科教育法VI 家庭科教育法VII 家庭科教育法VIII 家庭科教育演習I 家庭科教育演習II 家庭科教育演習III 家庭科教育演習IV 卒業研究	2① 2② 2① 2② 3① 3② 3③ 3④ 4① 4② 4① 4② 4通	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 教授 (平10.4)	5日
4	専	富山大学	教授	オオカワ ノブユキ 大川 信行 <令和4年4月>		博士(体育 科学)		球技(ゴール型)BI(バスケットボール) 球技(ゴール型)BII(バスケットボール) コーチング論I※ 卒業研究 野外体験活動I	3① 3② 3③ 4通 1②	0.5 0.5 0.2 4 1	1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 教授 (昭61.4)	5日
5	専	富山大学	教授	オカザキ セイジ 岡崎 誠司 <令和4年4月>		博士(教育学)		初等社会科教育法I 初等社会科教育法II 社会科・公民科教育法I(北陸の教育実践を含む) 社会科・公民科教育法II(北陸の教育実践を含む) 社会科・公民科教育法III 社会科・公民科教育法IV 卒業研究	2③ 2④ 2③ 2④ 3③ 3④ 4通	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 教授 (平17.4)	5日
6	専	富山大学	教授	カタオカ ヒロシ 片岡 弘 <令和4年4月>		博士(理学)		理科基礎A(理論)※ 理科内容B(物理化学概論と現代理科教育) 理科内容B(一般化学) 理科内容演習B I(化学) 理科内容演習B II(化学) 理科実験B I(化学) 理科実験B II(化学) 卒業研究	2① 2③ 2④ 3③ 3④ 3① 3② 4通	0.3 1 1 1 1 0.5 0.5 4	1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 教授 (平15.6)	5日
7	専	富山大学	教授	カミヤマ アキラ 上山 輝 <令和4年4月>		修士(デザ イン学)		小学校プログラミング教育の理論と実践I 小学校プログラミング教育の理論と実践II デザイン基礎II(映像メディア表現・現代美術表現 を含む) デザインI デザインII デザインIII デザインIV 美術実地研究 美術科教育法V 美術科教育法VI 美術科教育法VII 美術科教育法VIII プログラミング入門 卒業研究	2③ 2④ 2④ 3① 3② 3③ 3④ 3②集中 3① 3② 3③ 3④ 2① 4通	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 教授 (平13.4)	5日
8	専	富山大学	教授	キシモト タダユキ 岸本 忠之 <令和4年4月>		博士(学校 教育学)		初等算数科教育法I 初等算数科教育法II 数学科教育法I(富山県の教育実践を含む) 数学科教育法II(富山県の教育実践を含む) 数学科教育法V 数学科教育法VI 数学科教育法VII 数学科教育法VIII 算数・数学科教材開発研究 卒業研究	2③ 2④ 2① 2② 3① 3② 4③ 4④ 4① 4通	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 教授 (平12.4)	5日
9	専	富山大学	教授	クロダ タカシ 黒田 卓 <令和4年4月>		修士(人間科 学)		教育技術学 遠隔教育実践論 遠隔教育実践演習 卒業研究	3① 3③ 3④ 4通	1 1 1 4	1 1 1 1	富山大学 大学院教職実践開発 研究科 教授 (平8.4)	5日

調書 番号	専任等 区分	所属大学	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	甲請 る等 務事 週り 日数 に大 のに す当 平数
30	専	金沢大学	教授	カサノ ユキ 滝沢 雄一 <令和4年4月>		修士 (教育学)		卒業研究 英語科基礎A(理論)※ 英語科基礎B(実践)※ 初等英語科教育法Ⅰ 初等英語科教育法Ⅱ 石川県の教育実践Ⅱ※ 英語科教育法Ⅲ(石川県の教育実践を含む) 英語科教育法Ⅳ(石川県の教育実践を含む) 英語科教育法Ⅴ 英語科教育法Ⅵ 英語科教育法Ⅶ 英語科教育法Ⅷ 英語科教育法ⅧⅠ 英語教育学特別演習Ⅰ 英語教育学特別演習Ⅱ	4通 2③ 2④ 3① 3② 2④ 2③ 2④ 3① 3② 3③ 3④ 4③ 4④	4 0.3 0.3 1 1 0.2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平24.4)	5日
31	専	金沢大学	教授	タケワケル 武居 渡 <令和4年4月>		博士 (心身障害 学)		卒業研究 聴覚障害の心理・生理・病理Ⅰ(教育・医療・福祉の 機関連携を含む) 聴覚障害の心理・生理・病理Ⅱ(教育・医療・福祉の 機関連携を含む) 聴覚障害教育課程論Ⅰ 聴覚障害教育課程論Ⅱ 聴覚障害指導法Ⅰ 聴覚障害指導法Ⅱ 手話序論Ⅰ 手話序論Ⅱ 障害児教育基礎論Ⅰ※ 障害児教育基礎論Ⅱ※ 障害児教育基礎演習Ⅰ 障害児教育基礎演習Ⅱ 特別支援教育学演習	4通 2③ 2④ 3① 3② 3③ 3④ 2① 2② 2① 2② 2③ 2④ 3	4 1 1 1 1 1 1 1 1 0.3 0.3 1 1 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平11.10)	5日
32	専	金沢大学	教授	ツブイ ヒロキ 辻井 宏之 <令和4年4月>		博士 (理学)		卒業研究 理科基礎B(実践)※ 理科内容A(電磁気学概論と現代理科教育) 理科内容A(一般物理学) 理科内容演習AⅠ(物理学) 理科内容演習AⅡ(物理学) 理科実験AⅠ(物理学) 理科実験AⅡ(物理学) 理科教育実践研究Ⅰ※ 理科教育実践研究Ⅱ※ 理科教育実践研究Ⅲ※ 理科教育実践研究Ⅳ※	4通 2② 2③ 2④ 3③ 3④ 3① 3② 3① 3② 4① 4②	0.2 1 1 1 1 0.5 0.5 0.2 0.2 0.2 0.2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平21.4)	5日
33	専	金沢大学	教授	トイ タコ 土井 妙子 <令和4年4月>		修士 (教育学)		アカデミックスキル※ 卒業研究 総合的な学習の時間教育論Ⅰ 総合的な学習の時間教育論Ⅱ 生活科基礎B(実践) 初等生活科教育法Ⅰ 初等生活科教育法Ⅱ 石川県の教育実践Ⅱ※ 教育・心理基礎論A※ 教育・心理基礎論B※ 教育学・心理学演習A 教育学・心理学演習B	1① 4通 3① 3② 3① 3① 3② 2④ 3① 3② 3③ 3④	0.2 4 1 1 1 1 1 0.2 0.1 0.3 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平18.10)	5日
34	専	金沢大学	教授	トリイ(かづ) カズヨ 鳥居(梶野) 和 代 <令和4年4月>		博士 (社会科 学)		アカデミックスキル※ 卒業研究 教育の思想と歴史(日本) 教職と学校※ 教育・心理基礎論A※ 教育・心理基礎論B※ 教育学・心理学演習A 教育学・心理学演習B	1① 4通 1④ 1④ 3① 3② 3③ 3④	0.6 4 1 0.2 0.3 0.3 1	1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平19.10)	5日
35	専	金沢大学	教授	ハセガワ カズキ 長谷川 和志 <令和4年4月>		博士 (理学)		大学・社会生活論 データサイエンス基礎 アカデミックスキル※ 卒業研究 幾何学概論Ⅰ(幾何学と現代の数学教育を含む) 幾何学概論Ⅱ(幾何学と現代の数学教育を含む) 線形空間論Ⅰ 線形空間論Ⅱ 曲線論 曲面論 位相空間論 可微分多様体論 確率論概論(確率論と現代の数学教育を含む) 統計学概論(統計学と現代の数学教育を含む) 論理学 集合論	1① 1① 1① 4通 2① 2② 3① 3② 3③ 3④ 4③ 4④ 2③ 2④ 3① 3②	1 0.2 1 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 人間科学系 教授 (平21.4)	5日
36	専	金沢大学	教授	マサダ カズミ 増田 和実 <令和4年4月>		博士 (体育科 学)		卒業研究 体育科基礎B(実践)※ 球技(ゴール型)AⅠ(サッカー) 球技(ゴール型)AⅡ(サッカー) 運動生理学Ⅰ(海外の先端事情を含む) 運動生理学Ⅱ(海外の先端事情を含む) 運動生理学演習A 運動生理学演習B 運動生理学演習C 運動生理学演習D	4通 2③ 3① 3② 2④ 2③ 3① 3② 3③ 3④	4 0.2 0.5 0.5 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 人間科学系 教授 (平14.1)	5日

調書 番号	専任等 区分	所属大学	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	甲 請 保る る等 務事 務に 従事 する 日数 に大 のに す 当 平 数
37	専	金沢大学	教授	マツハラ ミチオ 松原 道男 <令和4年4月>		博士 (教育学)		アカデミックスキル※ 卒業研究 初等理科教育法Ⅰ 初等理科教育法Ⅱ 石川県の教育実践Ⅰ※ 理科教育法Ⅰ(石川県の教育実践を含む) 理科教育法Ⅱ(石川県の教育実践を含む) 理科教育法Ⅴ 理科教育法Ⅵ 理科教育法Ⅶ 理科教育法Ⅷ 理科教育演習Ⅰ 理科教育演習Ⅱ 理科教育実践研究Ⅰ※ 理科教育実践研究Ⅱ※ 理科教育実践研究Ⅲ※ 理科教育実践研究Ⅳ※	1① 4通 2③ 2④ 2③ 2① 2② 3① 3② 3③ 3④ 4① 4② 3① 3② 4① 4②	0.2 4 1 1 0.2 1 1 1 1 1 1 0.2 0.2 0.2 0.2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (昭62.4)	5日
38	専	金沢大学	教授	ムライ アツシ 村井 淳志 <令和4年4月>		文学修士※		卒業研究 初等社会科教育法Ⅰ 初等社会科教育法Ⅱ 石川県の教育実践Ⅰ※ 社会科・地歴科教育法Ⅰ(北陸の教育実践を含む) 社会科・地歴科教育法Ⅱ(北陸の教育実践を含む) 社会科・地歴科教育法Ⅲ 社会科・地歴科教育法Ⅳ 社会科・公民科教育法Ⅲ 社会科・公民科教育法Ⅳ	4通 2③ 2④ 2③ 2① 2② 3① 3② 3③ 3④	4 1 1 0.3 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平1.10)	5日
39	専	金沢大学	教授	モリヤ テツハル 守屋 哲治 <令和4年4月>		文学修士		学域GS言語科目Ⅰ 学域GS言語科目Ⅱ 卒業研究 教職実践演習(幼・小・中・高)※ 英語科基礎A(理論)※ 英語科基礎B(実践)※ 国際化と学校教育Ⅰ 国際化と学校教育Ⅱ 英語学概論ⅠⅠ(応用) 英語学概論Ⅳ(応用) 英語音声学・文法Ⅰ 英語音声学・文法Ⅱ 英語学演習Ⅰ(個別理論) 英語学演習Ⅱ(個別理論) 英会話Ⅰ(基礎) 英会話Ⅱ(応用) 英会話ⅢⅠ(応用) 英会話Ⅳ(応用) 英語学特別演習Ⅰ 英語学特別演習Ⅱ	2① 2② 4通 4③・④ 2③ 2④ 2③ 3① 3② 2③ 2④ 3③ 3④ 2③ 2④ 3③ 3④ 3③ 3④	1 1 4 0.4 0.2 0.2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平5.4)	5日
40	専	金沢大学	教授	ヤマモト エイスケ 山本 英輔 <令和4年4月>		博士 (哲学)		卒業研究 社会科基礎B(高学年の社会科と現代の教育課題)※ 哲学概論Ⅰ(哲学と現代的教育状況) 哲学概論Ⅱ(哲学と現代的教育状況) 倫理学Ⅰ(現代応用倫理学を含む) 倫理学Ⅱ(現代応用倫理学を含む) 宗教学Ⅰ 宗教学Ⅱ 哲学史Ⅰ 哲学史Ⅱ 哲学演習Ⅰ 哲学演習Ⅱ	4通 2② 2① 2② 3③ 3④ 3① 3② 3① 3② 3③ 3④	4 0.2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平23.4)	5日
41	専	金沢大学	教授	ヤマモト タク 山本 卓 <令和4年4月>		修士 (文学)		学域GS言語科目Ⅰ 学域GS言語科目Ⅱ 卒業研究 英語科基礎B(実践)※ 英語文学概論Ⅰ(イギリス文学と現在の英語教育) 英語文学概論ⅢⅠ(イギリス) 英語文学演習Ⅰ(イギリス) 英語文学演習ⅠⅠⅠ(イギリス) 英語文学特別演習Ⅰ 英語文学特別演習Ⅱ 英語科教育実践研究Ⅱ	2① 2② 4通 2④ 2① 2② 3① 3② 4③ 4④ 4①	1 1 4 0.5 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平9.4)	5日
42	専	金沢大学	教授	ヨシカワ カズヨシ 吉川 一義 <令和4年4月>		博士 (教育学)		卒業研究 肢体不自由教育論Ⅰ(教育の現代的課題を含む) 肢体不自由教育論Ⅱ(教育の現代的課題を含む) 障害児教育基礎論Ⅰ※ 障害児教育基礎論Ⅱ※ 重複障害児教育Ⅰ 重複障害児教育Ⅱ 障害児教育基礎演習Ⅰ 障害児教育基礎演習Ⅱ 特別支援教育学演習	4通 3③ 3④ 2① 2② 3① 3② 2③ 2④ 3	4 1 1 0.4 0.4 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平14.4)	5日
43	専	金沢大学	教授	ヨシダ リキオ 米田 力生 <令和4年4月>		博士 (理学)		卒業研究 初等算数科教育法Ⅱ※ 解析学概論Ⅰ 解析学概論Ⅱ 解析学Ⅰ 解析学Ⅱ 回帰分析 数学科教育法Ⅵ※ 数学科教育法Ⅶ※ 数学科教育法Ⅷ 算数・数学科授業論	4通 2④ 2① 2② 2③ 2④ 4③ 3② 4③ 4④ 4②	4 0.2 1 1 1 1 1 0.5 0.5 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平28.4)	5日

調書 番号	専任等 区分	所属大学	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	甲 請 保 大 学 大 職 大 従 大 る 大 た 大 均 大 日 大 数 大
44	専	金沢大学	教授	リヤマ ヤス 鷺山 靖 <令和4年4月>		教育学修士		卒業研究 図画工作科基礎B(実践)※ 初等図画工作科教育法I※ 石川県の教育実践II※ 保育内容(表現)(表現に関する現代的課題を含む)※ 工芸基礎I 美術実地研究 美術科教育法I(石川県の教育実践を含む) 美術科教育法II(石川県の教育実践を含む) 美術科教育法V※ 美術科教育法VI※ 美術科教育法VII※ 美術科教育法VIII※ 造形教育演習I 造形教育演習II 造形教育演習III 造形教育演習IV	4通 2④ 3① 2④ 2④ 2① 3② 2① 2② 3① 3② 3③ 3④ 4① 4② 4③ 4④	4 0.5 0.5 0.3 0.8 1 1 1 1 1 0.2 0.6 0.2 0.6 1 1 1 1	1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平11.4)	5日
45	専	金沢大学	教授	ワヒト トモ 綿引 伴子 <令和4年4月>		教育学修士		ジェンダーと教育 卒業研究 初等家庭科教育法I 初等家庭科教育法II 石川県の教育実践I※ 家庭科教育法III(石川県の教育実践を含む) 家庭科教育法IV(石川県の教育実践を含む) 家庭科教育法V 家庭科教育法VI 家庭科教育法VII 家庭科教育法VIII 家庭科教育演習I 家庭科教育演習II 家庭科教育演習III 家庭科教育演習IV	1③・④ 4通 2① 2② 2③ 2③ 2④ 3① 3② 3③ 3④ 4① 4② 4① 4②	1 4 1 1 1 0.2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平6.7)	5日
46	専	富山大学	准教授	イケダ ジョウスケ 池田 丈佑 <令和4年4月>		国際公共政策博士		社会科基礎A(中学年の社会科と現代的教育課題)※ 政治学概論I(現代的課題を含む) 政治学概論II(現代的課題を含む) 人間安全保障論I 人間安全保障論II 平和学I 平和学II 地球市民社会論I 地球市民社会論II 政治学演習I 政治学演習II 政治学演習III 政治学演習IV 平和学入門 卒業研究	2① 2① 2② 3③ 3④ 2① 2② 2③ 2④ 3① 3② 3③ 3④ 1前・後 4通	0.3 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 准教授 (平26.4)	5日
47	専	富山大学	准教授	イシヅ ケンイチロウ 石津 憲一郎 <令和4年4月>		博士(教育学)		生徒指導論※ 教育相談の理論※ 教育臨床心理学A 教育臨床心理学B 臨床心理実習 教育心理学ゼミナール 卒業研究	2③ 2① 2② 2③ 3通 3通 4通	0.5 0.5 1 1 2 2 4	2 1 1 1 1 1 1	富山大学 大学院教職実践開発 研究科 准教授 (平21.4)	5日
48	専	富山大学	准教授	カミノ ケンジ 神野 賢治 <令和4年4月>		修士教育学		球技(ネット型)BI(バレーボール) 球技(ネット型)BII(テニス) スポーツマネジメント論I スポーツマネジメント論II スポーツ社会学I スポーツ社会学II コーチング論I※ 卒業研究	3① 3② 3① 3② 2③ 2④ 3③ 4通	0.5 0.5 1 1 1 1 0.4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 准教授 (平26.4)	5日
49	専	富山大学	准教授	ゲッツウ ヒデヤ 月僧 秀弥 <令和4年4月>		博士(学術)		生活科基礎A(講義) 生活科基礎B(実践) 初等理科教育法I 初等理科教育法II 初等生活科教育法I 初等生活科教育法II 理科教育法III(富山県の教育実践を含む) 理科教育法IV(富山県の教育実践を含む) 理科教育法V 理科教育法VI 理科教育法VII 理科教育法VIII 理科教育演習I 理科教育演習II 幼児と環境※ 卒業研究	2⑤ 3① 2③ 2④ 3① 3② 2③ 2④ 3① 3② 3③ 3④ 4① 4② 2② 4通	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 0.3 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 准教授 (令3.4)	5日
50	専	富山大学	准教授	サエキ サトシ 佐伯 聡史 <令和4年4月>		修士(体育学)		体操I 体操II 器械運動I 器械運動II 運動学概論(運動方法を含む)I 運動学概論(運動方法を含む)II 保健体育科教育法III(富山県の教育実践を含む) 保健体育科教育法IV(富山県の教育実践を含む) コーチング論I※ コーチング論II※ 卒業研究	2① 2② 2① 2② 2③ 2④ 2⑤ 2④ 3③ 3④ 4通	0.5 0.5 0.5 0.5 1 1 1 1 0.4 0.2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 准教授 (平15.4)	5日

調書番号	専任等区分	所属大学	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	甲保に大の請る等務事週り日均
51	専	富山大学	准教授	シガ フミヤ 志賀 文哉 <令和4年4月>		修士国際学		社会科学基礎A(中学年の社会科学と現代の教育課題)※ 社会学概論I(現代的課題を含む) 社会学概論II(現代的課題を含む) 地域社会学I 地域社会学II 社会学演習I 社会学演習II 社会学演習III 社会学演習IV 社会福祉概論I 社会福祉概論II 異文化理解 災害救援ボランティア論 卒業研究	2① 3① 3② 4① 4② 3① 3② 3③ 3④ 2③ 2④ 1前・後 1前・後 4通	0.3 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 4	1 1 1 1 1 2 2 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 准教授 (平19.10)	5日
52	専	富山大学	准教授	タケゴシ カヨコ 竹腰 佳誉子 <令和4年4月>		修士(文学)		異文化理解I(英語教育の中の異文化理解) 異文化理解II(英語教育の中の異文化理解) 異文化理解III(応用) 異文化理解IV(応用) 異文化理解演習I 異文化理解演習II 異文化理解特別演習I 異文化理解特別演習II 卒業研究	2③ 2④ 3① 3② 3③ 3④ 3③ 3④ 1 1 4通	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 准教授 (平15.10)	5日
53	専	富山大学	准教授	ナカムラ シンゴ 中村 只吾 <令和4年4月>		博士(社会学)		社会科学基礎A(中学年の社会科学と現代の教育課題)※ 日本史概論I 日本史概論II 日本史各論(近世・近代)I 日本史各論(近世・近代)II 日本史演習I 日本史演習II 日本史演習III 日本史演習IV 卒業研究	2① 2① 2② 2③ 2④ 3① 3② 3③ 3④ 4通	0.2 1 1 1 1 1 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 准教授 (平28.4)	5日
54	専	富山大学	准教授	ナリユキ ヤスヒロ 成行 泰裕 <令和4年4月>		博士(理学)		理科基礎A(理論)※ 理科内容A(力学概論と現代理科教育) 理科内容A(熱力学) 理科内容演習A I(物理学) 理科内容演習A II(物理学) 理科実験A I(物理学) 理科実験A II(物理学) 卒業研究	2① 2① 2② 3③ 3④ 3① 3② 4通	0.3 1 1 1 1 0.5 0.5 4	1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 准教授 (平24.4)	5日
55	専	富山大学	准教授	ニシダテ アリサ 西館 有沙 <令和4年4月>		博士(学術)		幼児と健康※ 保育内容総論(保育実践を巡る最新動向を含む)※ 子育てネットワーク論I 子育てネットワーク論II 子育て支援 障害児保育 児童福祉論I 児童福祉論II 乳児保育I 乳児保育II 乳児保育III 社会的養護I 社会的養護II 保育実習I 保育実習指導I 保育実習II 保育実習III 保育実習指導II 保育実習指導III 卒業研究	2⑤ 2① 2② 2③ 2④ 2④ 2① 2② 2③ 2④ 3① 3① 3② 2④, 3④ 2・3 3④ 3④ 3 3 4通	0.7 0.5 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 准教授 (平18.10)	5日
56	専	富山大学	准教授	フクシマ ヒロキ 福島 洋樹 <令和4年4月>		修士体育学		陸上I 陸上II スポーツ心理学I(最新教育課題を含む) スポーツ心理学II(最新教育課題を含む) コーチング論II※ 卒業研究	2① 2② 3① 3② 3④ 4通	0.5 0.5 1 1 0.4 4	1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 准教授 (平19.4)	5日
57	専	富山大学	准教授	フジモト タカコ 藤本 孝子 <令和4年4月>		博士(医学)		家庭科基礎A(住居・食物と現代の教育課題)※ 食物学概論I(栄養学、食品学及び現代の栄養課題を含む) 食物学概論II(栄養学、食品学を含む) 食物学 調理実習(地域の食文化比較を含む) 食物学演習I 食物学演習II 食物学演習III 食物学演習IV 子どもの食と栄養I 子どもの食と栄養II 卒業研究	1③ 2① 2② 3① 3② 3③ 3④ 4① 4② 3③ 3④ 4通	0.5 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 4	1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 准教授 (平16.4)	5日
58	専	富山大学	准教授	ミズウチ トヨカズ 水内 豊和 <令和4年4月>		博士(教育情報学)		インクルーシブ教育基礎演習I 特別支援教育基礎論II(富山県の教育実践を含む) 障害児者支援論 特別支援教育実地演習 発達障害児者支援論I 発達障害児者支援論II 障害児の教育診断臨床I※ 障害児支援演習I 障害児支援演習II 障害児支援演習III 障害児支援演習IV 特別支援教育演習 卒業研究	1③ 2② 2集中 2集中 3③ 3④ 3① 3① 3② 3③ 3④ 3集中 4通	1 1 1 2 1 1 0.4 1 1 1 1 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 准教授 (平15.10)	5日

調書 番号	専任等 区分	所属大学	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	甲請に 大の 係る 等務 職に 従事 する 日数 の 平均
65	専	金沢大学	准教授	アサヒ アツシ 浅川 淳司 <令和4年4月>		博士(心理学)		卒業研究 発達と教育(自己創出としての発達) 幼児と健康 幼児と人間関係(社会性の発達と現代的課題) 保育内容(人間関係) 人間関係の指導法 発達心理学Ⅰ 発達心理学Ⅱ 乳幼児心理学特講Ⅰ 乳幼児心理学特講Ⅱ 乳幼児心理学演習Ⅰ 乳幼児心理学演習Ⅱ	4通 2① 2③ 2④ 2⑤ 3③ 3④ 3① 3② 3③ 3④	4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平26.4)	5日
66	専	金沢大学	准教授	イシノマ ヒロシ 飯島 洋 <令和4年4月>		修士(文学)		アカデミックスキル※ 卒業研究 国語科基礎B(書写を含む)(地域の文学を含む)※ 日本文学演習Ⅲ 日本文学演習Ⅳ 日本近現代文学Ⅰ 日本近現代文学Ⅱ 日本文学史Ⅱ(教育上の現代的課題を含む) 日本文学講読Ⅰ 日本文学講読Ⅱ 国語科実践研究Ⅰ※ 国語科実践研究Ⅱ※ 国語科実践研究Ⅲ※ 国語科実践研究Ⅳ※	1① 4通 1④ 3③ 3④ 2① 2② 2② 3① 3② 3① 3② 4① 4②	0.2 4 0.5 1 1 1 1 1 1 0.3 0.3 0.3 0.3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平23.10)	5日
67	専	金沢大学	准教授	イノカミ カズキ 池上 貴之 <令和4年4月>		修士(教育学) ・ Magisterexamen(Degree of Master of Fine Arts in Design)(瑞国)		卒業研究 図画工作科基礎B(実践)※ 初等図画工作科教育法Ⅱ※ デザイン基礎Ⅰ(映像メディア表現・現代美術表現を含む) デザインⅠ デザインⅡ デザインⅢ デザインⅣ 美術実地研究 美術科教育法Ⅴ※ 美術科教育法Ⅵ※ 美術科教育法Ⅶ※ 美術科教育法Ⅷ※ デザイン制作研究Ⅰ デザイン制作研究Ⅱ デザイン制作研究Ⅲ デザイン制作研究Ⅳ	4通 2④ 3② 2③ 3① 3② 3③ 3④ 3② 3① 3② 3③ 3④ 4① 4② 4③ 4④	4 0.5 0.5 1 1 1 1 1 1 0.3 0.4 0.3 0.4 1 1 1 1	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平25.4)	5日
68	専	金沢大学	准教授	イシノカミ カコ 石川 多加子 <令和4年4月>		法学修士※		卒業研究 社会科基礎B(高学年の社会科と現代の教育課題)※ 法律学概論Ⅰ 法律学概論Ⅱ 法律学各論Ⅰ 法律学各論Ⅱ 法律学演習Ⅲ 法律学演習Ⅳ	4通 2② 2③ 2④ 3① 3② 3③ 3④	4 0.2 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 2 2 2	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平17.10)	5日
69	専	金沢大学	准教授	イトリ シヤ 伊藤 伸也 <令和4年4月>		修士(理学) ・ 修士(教育学)		卒業研究 算数科基礎B(高学年) 初等算数科教育法Ⅰ 初等算数科教育法Ⅱ※ 石川県の教育実践Ⅰ※ 数学科教育法Ⅲ(石川県の教育実践を含む) 数学科教育法Ⅳ(石川県の教育実践を含む) 数学科教育法Ⅴ 数学科教育法Ⅵ※ 数学科教育法Ⅶ※ 算数・数学科教育論	4通 2② 2③ 2④ 2③ 2④ 3① 3② 4③ 4④	4 1 1 0.8 0.2 1 1 1 0.5 0.5 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平21.10)	5日
70	専	金沢大学	准教授	ウエモリ サクラ 上森 さくら <令和4年4月>		博士(文学)		卒業研究 教職と学校※ 特別活動における評価と指導の実際 子どもの生活とキャリア教育 教育実習A(幼・小)(事前事後指導を含む) 教育実習A(中・高)(事前事後指導を含む) 教育実習B(小) 教育実習B(中・高) 教育実習B(特別支援) 教育実習B(幼) 教職実践演習(幼・小・中・高)※ 教育・心理基礎論A※ 教育・心理基礎論B※ 教育学・心理学演習A 教育学・心理学演習B	4通 1④ 2①・② 2④ 3②・④② 3②・④② 3②・④② 3②・④② 3②・④② 3②・④② 4③・④④ 3① 3② 3③ 3④	4 0.1 1 1 5 5 2 2 2 2 1.9 0.3 0.1 1 1 1	1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平29.4)	5日
71	専	金沢大学	准教授	オノ ジュンコ 大野 順子 <令和4年4月>		博士(文学)		アカデミックスキル※ プレゼン・ディベート論 卒業研究 国語科基礎B(書写を含む)(地域の文学を含む)※ 日本文学演習Ⅰ 日本文学演習Ⅱ 日本古典文学Ⅰ 日本古典文学Ⅱ 日本文学史Ⅰ(教育上の現代的課題を含む) 日本文学講読Ⅲ 日本文学講読Ⅳ 国語科実践研究Ⅰ※ 国語科実践研究Ⅱ※ 国語科実践研究Ⅲ※ 国語科実践研究Ⅳ※	1① 1③ 4通 1④ 3① 3② 2③ 2④ 2① 4① 4② 3① 3② 4① 4②	0.6 1 4 0.1 1 1 1 1 1 1 1 0.1 0.1 0.1 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (令1.10)	5日

調書番号	専任等区分	所属大学	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	甲請るに大のにす当平数 保る等務事週り日 職従るた均
72	専	金沢大学	准教授	久保 拓也 <令和4年4月>		修士(文学) ※		ジェンダーと教育 学域GS言語科目Ⅰ 学域GS言語科目Ⅱ 卒業研究 英語科基礎A(理論) ※ 英語文学概論Ⅰ(アメリカ文学と現在の英語教育) 英語文学概論Ⅳ(アメリカ) 英語文学演習Ⅱ(アメリカ) 英語文学演習Ⅳ(アメリカ) 英語文学特別演習Ⅰ 英語文学特別演習Ⅱ 英語科教育実践研究Ⅰ 英作文Ⅰ(基礎) 英作文Ⅱ(応用) 英作文Ⅲ(応用) 英作文Ⅳ(応用)	1③・④ 2① 2② 4通 2③ 2④ 3③ 3④ 4③ 4④ 3② 2① 2② 3① 3②	1 1 1 1 0.5 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平10.4)	5日
73	専	金沢大学	准教授	田部 絢子 <令和4年4月>		博士(教育学)		アカデミックスキル ※ 卒業研究 中学校・高等学校の特別支援教育Ⅰ 中学校・高等学校の特別支援教育Ⅱ 特別支援教育基礎論Ⅰ(石川県の教育実践を含む) 病気・障害・不応の発達支援論Ⅰ 病気・障害・不応の発達支援論Ⅱ 知的障害教育課程・指導論Ⅱ 障害児教育基礎論Ⅰ ※ 障害児教育基礎論Ⅱ ※ 障害児教育基礎演習Ⅰ 障害児教育基礎演習Ⅱ 特別支援教育学演習	1① 4通 3③ 3④ 2① 4① 4② 2④ 2① 2② 2③ 2④ 3	0.2 4 1 1 1 1 1 1 0.1 0.1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (令2.4)	5日
74	専	金沢大学	准教授	土屋 明広 <令和4年4月>		博士(法学)		ジェンダーと教育 野外体験活動Ⅰ 野外体験活動Ⅱ 卒業研究 教職と学校 ※ 教育制度概論(就学保障と学校安全) 統計学技能Ⅰ 統計学技能Ⅱ 教育・心理基礎論A ※ 教育・心理基礎論B ※ 教育学・心理学演習A 教育学・心理学演習B	1③・④ 1② 1③ 4通 1④ 2①・② 1~4集中 1~4集中 3① 3② 3③ 3④	1 1 1 1 0.1 2 2 3 0.1 0.1 1 1 1 1	2 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平28.4)	5日
75	専	金沢大学	准教授	花輪 由樹 <令和4年4月>		博士(人間・環境学)		卒業研究 家庭科基礎B(被服・家庭経営と現代の教育課題) ※ 家政学原論 家庭経営学Ⅰ(家庭経済学と消費者市民社会の形成を含む) 家庭経営学Ⅱ 家族関係学(多様な家族と家庭教育) 家庭経営学演習Ⅰ 家庭経営学演習Ⅱ 家庭経営学演習Ⅲ 家庭経営学演習Ⅳ	4通 1④ 2① 2② 2③ 2④ 3① 3② 4① 4②	1 0.5 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (令3.4)	5日
76	専	金沢大学	准教授	原田 愛 <令和4年4月>		博士(文学)		卒業研究 国語科基礎B(書写を含む)(地域の文学を含む) ※ 漢文学概論Ⅰ(教育上の現代的課題を含む) 漢文学概論Ⅱ(教育上の現代的課題を含む) 漢文学演習Ⅰ 漢文学演習Ⅱ 漢文学講読Ⅰ 漢文学講読Ⅱ 国語科実践研究Ⅰ ※ 国語科実践研究Ⅱ ※ 国語科実践研究Ⅲ ※ 国語科実践研究Ⅳ ※	4通 1④ 2③ 2④ 3③ 3④ 4① 4② 3① 3② 4① 4②	4 0.1 1 1 1 1 1 1 0.1 0.1 0.1 0.1 0.1 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平27.4)	5日
77	専	金沢大学	准教授	原田 克巳 <令和4年4月>		修士(教育学) ※		卒業研究 教職と学校 ※ 学校カウンセリング 青年心理学 教育・心理基礎論A ※ 教育・心理基礎論B ※ 教育学・心理学演習A 教育学・心理学演習B	4通 1④ 2② 3③ 3① 3② 3③ 3④	4 0.1 1 1 0.1 0.1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平15.8)	5日
78	専	金沢大学	准教授	平石 晃樹 <令和4年4月>		Docteur en Philosophie(仏国)		卒業研究 教職と学校 ※ 道徳教育論(指導法) 教育・心理基礎論A ※ 教育・心理基礎論B ※ 教育学・心理学演習A 教育学・心理学演習B	4通 1④ 3② 3① 3② 3③ 3④	4 0.3 1 0.1 0.1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平28.4)	5日
79	専	金沢大学	准教授	本所(遠藤) 恵 <令和4年4月>		博士(教育学)		学域GS言語科目Ⅰ 学域GS言語科目Ⅱ 卒業研究 教職と学校 ※ 現在をつくる教育課程 教育方法探究 学校インターンシップⅡ(幼・小) 学校インターンシップⅡ(中・高)	2① 2② 4通 1④ 2③・④ 3② 2①~④ 2①~④	1 1 1 0.1 1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平24.4)	5日
80	専	金沢大学	准教授	森 慶恵 <令和4年4月>		博士(教育学)		卒業研究 教職と学校 ※ 石川県の教育実践Ⅱ ※ 保育内容(健康)(健康に関する現代的課題を含む)	4通 1④ 2④ 2④	4 0.1 0.2 1	1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (令2.4)	5日

調書番号	専任等区分	所属大学	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	甲請るに大のにす当平教 保学職従るたり日数
81	専	金沢大学	准教授	モリシマ ミカ 森島 美佳 <令和4年4月>		博士(工学)		卒業研究 家庭科基礎B(被服・家庭経営と現代の教育課題)※ 家庭科基礎C(実習) 被服学概論I(現代の衣生活の諸問題を含む) 被服学概論II 被服構成実習 被服科学実験 被服学演習I 被服学演習II 被服学演習III 被服学演習IV	4通 1④ 2① 2③ 2④ 3① 3② 3③ 3④ 4① 4②	4 0.5 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 2 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平27.4)	5日
82	専	金沢大学	准教授	ヤマダ テツ 山田 哲 <令和4年4月>		博士(体育科学)		卒業研究 体育科基礎B(実践)※ 保育内容(表現)(表現に関する現代的課題を含む)※ 体操I 体操II 器械運動I 器械運動II バイオメカニクスI バイオメカニクスII バイオメカニクス演習A バイオメカニクス演習B バイオメカニクス演習C バイオメカニクス演習D	4通 2③ 2④ 2① 2② 2② 2① 2② 2③ 2④ 3① 3② 3③ 3④	4 0.8 0.2 0.5 0.5 0.5 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平25.4)	5日
83	専	金沢大学	准教授	ヨコヤマ タツ 横山 剛士 <令和4年4月>		博士(教育学)		卒業研究 体育科基礎A※ 初等体育科教育法I※ 初等体育科教育法II※ 石川県の教育実践II※ 球技(ネット型)AI(バレーボール) 球技(ネット型)AII(バレーボール) 保健体育科教育法VI 保健体育科教育法VII 保健体育科教育演習A 保健体育科教育演習B 保健体育科教育演習C 保健体育科教育演習D	4通 1③ 2① 2② 2④ 3① 3② 3① 3② 3③ 3③ 3④	4 0.5 0.8 0.8 0.2 0.5 0.5 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平25.10)	5日
84	専	金沢大学	准教授	ヨシダ くにつ 吉田 国光 <令和4年4月>		博士(理学)		地域概論 卒業研究 社会科基礎B(高学年の社会科と現代の教育課題)※ 人文地理学概論I 人文地理学概論II 地誌学I 地誌学II 地理学各論I 地理学各論II 地理学演習I 地理学演習II 地理学演習III 地理学演習IV 地理学野外実習	1① 4通 2② 2① 2② 2③ 2④ 2③ 2④ 2③ 3① 3② 3③ 3④ 2①・②	1 4 0.2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平24.1)	5日
85	専	金沢大学	准教授	ヨシムラ ユウコ 吉村 優子 <令和4年4月>		博士(小児発達学)		卒業研究 知的障害児の心理・生理・病理I 知的障害児の心理・生理・病理II 障害児教育基礎論I※ 障害児教育基礎論II※ 発達障害指導法I 発達障害指導法II 発達障害総論 障害児教育基礎演習I 障害児教育基礎演習II 特別支援教育学演習	4通 2① 2② 2① 2② 3③ 3④ 4① 2③ 2④ 3	4 1 1 0.1 0.1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平27.4)	5日
86	専	富山大学	講師	オギノ トモコ 小木曾 智子 <令和4年4月>		修士(言語学)		初等英語科教育法I 初等英語科教育法II 英語科教育法VI 英語科教育法VII 英語科教育法VIII 英語科教育実践研究III 英語科教育実践研究IV 卒業研究	3① 3② 3① 3② 3③ 3④ 3③ 3④ 4通	1 1 1 1 1 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1	日本学術振興会 特別研究員(DC2) (令2.4)	5日
87	専	富山大学	講師	オザワ イクミ 小澤 郁美 <令和4年4月>		博士(心理学)		教授・学習心理学(個別最適化学習の理論と実践) 教育心理学データ解析法A 教育心理学データ解析法B 教育心理学実験法 教授・学習心理学演習 教育心理学ゼミナール 卒業研究	2② 2① 2② 2④ 3③ 3通 4通	1 1 1 1 1 2 4	1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 講師 (令3.4)	5日
88	専	富山大学	講師	カワムラ アイ 河村 愛 <令和4年4月>		博士(理学)		理科基礎A(理論)※ 理科内容D(地球環境科学概論と現代理科教育) 理科内容D(地球史学) 理科内容演習D I(地学) 理科内容演習D II(地学) 理科実験D I(地学) 理科実験D II(地学) 卒業研究	2① 2② 2④ 3③ 3④ 3① 3② 4通	0.3 1 1 1 1 0.5 0.5 4	1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 講師 (平30.2)	5日
89	専	富山大学	講師	コイケ コウジ 小池 晃次 <令和4年4月>		博士(文学)		英語学概論I(文法と現在の英語教育) 英語学概論II(文法と現在の英語教育) 英語学概論III(応用) 英語学概論IV(応用) 英語音声学・文法I 英語音声学・文法II 英語学演習I(個別理論) 英語学演習II(個別理論) 英語学特別演習III 英語学特別演習IV 卒業研究	2① 2② 3① 3② 2③ 2④ 3③ 3④ 3① 3② 4通	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	愛知淑徳大学 外国語教育部門 講師 (平29.4)	5日

調書 番号	専任等 区分	所属大学	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	甲 請 保 大 学 大 職 大 従 大 る 大 た 大 均 大 に 大 す 大 当 大 平 大 数 大
90	専	富山大学	講師	コジマ ヒロノリ 児島 博紀 <令和4年4月>		博士(教育学)		教育の思想と歴史(西洋) 道徳教育論(理論) 教育倫理学A 教育倫理学B 教育学ゼミナール 卒業研究	1③ 3① 2・3・4 2・3・4 1 3通 4通	1 1 1 1 2 1	1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 講師 (平30.2)	5日
91	専	富山大学	講師	コンドウ タツアキ 近藤 龍彰 <令和4年4月>		博士(学術)		生徒指導論※ 教育相談の理論※ 障害児の教育診断臨床Ⅱ 教育心理学研究法 臨床心理実習 教育心理学ゼミナール 卒業研究	2③ 2① 3集中 2③ 3通 3通 4通	0.5 0.5 1 1 2 2 1	2 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 講師 (平28.4)	5日
92	専	富山大学	講師	サワ サトミ 澤 聡美 <令和4年4月>		博士(医学)		ダンスⅠ ダンスⅡ 発育発達Ⅰ 発育発達Ⅱ 幼児と健康※ 幼児と表現※ 健康の指導法(現代的課題を踏まえた富山などの地域の 保育実践と最新指導事例を含む) 表現の指導法(現代的課題を踏まえた富山などの地域の 保育実践と最新指導事例を含む)※ コーチング論Ⅱ※ 卒業研究	3① 3② 2① 2② 2③ 2③ 3①集中 3④ 4通	0.5 0.5 1 1 0.7 0.4 1 0.4 4	1 1 1 1 2 2 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 講師 (平15.4)	5日
93	専	富山大学	講師	タガ ヒデノリ 多賀 秀紀 <令和4年4月>		修士(教育学)		音楽科基礎A(講義) 音楽科基礎B(実践) 初等音楽科教育法Ⅰ 初等音楽科教育法Ⅱ アンサンブルⅥ(室内楽) アンサンブルⅦ(室内楽) 音楽科教育法Ⅲ(富山県の教育実践を含む) 音楽科教育法Ⅳ(富山県の教育実践を含む) 幼児と表現※ 卒業研究	2④ 2② 2③ 2④ 3集中 3集中 2③ 2④ 2③ 4通	1 1 1 1 1 1 1 1 0.5 4	2 1 1 1 1 1 1 1 2 1	富山大学 人間発達科学部 講師 (平30.4)	5日
94	専	富山大学	講師	タケダ ニュウジ 武田 裕司 <令和4年4月>		博士(教育学)		国語科基礎A(書写を含む)(低・中学年の国語科と 現代的教育課題)※ 初等国語科教育法Ⅰ 初等国語科教育法Ⅱ 国語科教育法Ⅲ(富山県の教育実践を含む) 国語科教育法Ⅳ(富山県の教育実践を含む) 国語科教育法Ⅴ 国語科教育法Ⅵ 国語科教育法Ⅶ 国語科教育法Ⅷ 国語科教育演習 卒業研究	1③ 2① 2② 2③ 2④ 3① 3② 3③ 3④ 4① 4通	0.2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 講師 (平30.2)	5日
95	専	富山大学	講師	タマコシ(ウチウミ) カズノリ 玉腰(内海)和典 <令和4年4月>		博士(人間 発達学)		体育科基礎B(実践) 初等体育科教育法Ⅰ 初等体育科教育法Ⅱ 保健体育科教育法Ⅶ 保健体育科教育法Ⅷ 卒業研究	2③ 2① 2② 3③ 3④ 4通	1 1 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 講師 (令3.4)	5日
96	専	富山大学	講師	マスタ(タナカ)ミナ 増田(田中)美奈 <令和4年4月>		修士(教育学)		未来をつくる教育課程 特別活動とカリキュラムマネジメント 教育実習A(幼・小)(事前事後指導を含む) 教育実習A(中・高)(事前事後指導を含む) 教育実習B(小) 教育実習B(中・高) 教育実習B(特別支援) 教育実習B(幼) 教職実践演習(幼・小・中・高)※ 教育臨床学A 教育臨床学B 教育学ゼミナール 卒業研究	2③・④ 2①・② 3②,④② 3②,④② 3②,④② 3②,④② 3②,④② 4③・④ 2・3・4 2・3・4 3通 4通	1 1 5 5 2 2 3 2 0.9 1 1 2 4	2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 講師 (平26.4)	5日
97	専	金沢大学	講師	コマツガ(オトカ)オチ 小松田(佐藤)沙 也加 <令和4年4月>		博士 (理学)		卒業研究 理科基礎B(実践)※ 理科内容B(無機化学概論と現代理科教育) 理科内容B(物性化学) 理科内容演習BⅠ(化学) 理科内容演習BⅡ(化学) 理科実験BⅠ(化学) 理科実験BⅡ(化学) 理科教育実践研究Ⅰ※ 理科教育実践研究Ⅱ※ 理科教育実践研究Ⅲ※ 理科教育実践研究Ⅳ※	4通 2② 2① 2② 3③ 3④ 3① 3② 3① 3② 4① 4②	0.2 1 1 1 1 1 0.5 0.5 0.2 0.2 0.2 0.2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 講師 (平31.4)	5日
98	兼任	富山大学	教授	アオキ カズマス 青木 一益 <令和4年4月>		修士(法学)		現代社会論	1前・後	2	1	富山大学 経済学部 教授 (平16.10)	
99	兼任	富山大学	教授	アオキ キョウコ 青木 恭子 <令和4年4月>		博士(社会 学)		西洋の歴史と社会 ロシア語コミュニケーションⅠ ロシア語コミュニケーションⅡ	1前・後 1前 1後	2 1 1	1 1 1	富山大学 人文学部 教授 (平10.10)	
100	兼任	富山大学	教授	アキバ エツコ 秋葉 悦子 <令和4年4月>		法学修士		国家と市民	1前・後	2	1	富山大学 経済学部 教授 (平7.11)	
101	兼任	富山大学	教授	アベ ヒトン 阿部 仁 <令和4年4月>		博士(薬学)		科学と社会	1前・後	2	1	富山大学 工学部 教授 (平20.2)	
102	兼任	富山大学	教授	イシイ ヒロシ 石井 博 <令和4年4月>		博士(理学)		生命の世界	1前・後	2	1	富山大学 理学部 教授 (平20.4)	

調書番号	専任等区分	所属大学	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	に大のにす当平教 甲保学職従るた均 請る等務事週り日
103	兼任	富山大学	教授	イトウ トモキ 伊藤 智樹 <令和4年4月>		社会学博士		医療と地域社会	1前・後	2	1	富山大学 人文学部 教授 (平13.4)	
104	兼任	富山大学	教授	ウエダ リエコ 上田 理恵子 <令和4年4月>		博士(法学)		日本国憲法 市民生活と法	1前・後 1前・後	2 2	1 1	富山大学 教養教育院 教授 (合2.3)	
105	兼任	富山大学	教授	オオノ ケイスケ 大野 圭介 <令和4年4月>		修士(文学) ※		漢文学演習 I	3③	1	1	富山大学 人文学部 教授 (平9.4)	
106	兼任	富山大学	教授	オオモリ キョウト 大森 清人 <令和4年4月>		農学士		ビジネス思考	1前・後	2	1	富山大学 産学連携推進 センター 教授 (平29.4)	
107	兼任	富山大学	教授	オカザキ ヒロユキ 岡崎 浩幸 <令和4年4月>		修士(教育学)		英語科教育法I(富山県の教育実践を含む) 英語科教育法II(富山県の教育実践を含む) 英語教育学特別演習III 英語教育学特別演習IV	2① 2② 4③ 4④	1 1 1 1	1 1 1 1	富山大学 大学院教職実践開発 研究科 教授 (平18.4)	
108	兼任	富山大学	教授	オク ヒロカズ 奥 敬一 <令和4年4月>		農学博士		富山学	1前・後	2	1	富山大学 芸術文化学部 教授 (平26.4)	
109	兼任	富山大学	教授	オヤイズ ヒデトモ 小柳津 英知 <令和4年4月>		経済学修士		産業と経済を学ぶ 東アジア共同体論-政治・経済・文化-	1前・後 1前・後	2 2	1 1	富山大学 経済学部 教授 (平13.4)	
110	兼任	富山大学	教授	キシモト トシオ 岸本 壽生 <令和4年4月>		商学修士		環日本海 地域ライフプラン 産業観光学 富山のものづくり概論 富山の地域づくり	1前・後 1前・後 1前・後 1前・後 1前・後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	富山大学 経済学部 教授 (平20.1)	
111	兼任	富山大学	教授	キムラ ユウゾウ 木村 裕三 <令和4年4月>		修士(教育学)		ESP I (Level-based) ESP II (Interest-based) 基盤英語 I 基盤英語 II	1前 1後 1前 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	富山大学 医学部 教授 (平20.1)	
112	兼任	富山大学	教授	クリモト タケシ 栗本 猛 <令和4年4月>		理学博士		データサイエンスの世界 データサイエンスの実践 情報処理 応用情報処理	1前・後 1前・後 1前 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	富山大学 教養教育院 教授 (平7.4)	
113	兼任	富山大学	教授	サイトウ ヒロキ 齋藤 大紀 <令和4年4月>		博士(文学)		中国語コミュニケーション I 中国語コミュニケーション II	1前 1後	1 1	1 1	富山大学 人文学部 教授 (平15.4)	
114	兼任	富山大学	教授	サカイ ヒデキ 酒井 秀紀 <令和4年4月>		博士(薬学)		薬都とやま学	1前・後	2	1	富山大学 薬学部 教授 (平4.8)	
115	兼任	富山大学	教授	サカタ ヒロミ 坂田 博美 <令和4年4月>		博士(商学)		市場と企業の関係	1前・後	2	1	富山大学 経済学部 教授 (平2.4)	
116	兼任	富山大学	教授	ジェラルド タラン デイス ジュニア Gerald Talandis Jr <令和4年4月>		修士(理学・TESOL)		英会話 I (基礎) 英会話 II (応用) 英会話III (応用) 英会話IV (応用)	2⑤ 2⑥ 3③ 3④	1 1 1 1	1 1 1 1	富山大学 教養教育院 教授 (平24.4)	
117	兼任	富山大学	教授	シライシ シュンスケ 白石 俊輔 <令和4年4月>		博士(教理学)		社会と情報の数理	1前・後	2	1	富山大学 経済学部 教授 (平2.4)	
118	兼任	富山大学	教授	スズキ ケイジ 鈴木 景二 <令和4年4月>		文学修士		日本の歴史と社会	1前・後	2	1	富山大学 人文学部 教授 (平8.9)	
119	兼任	富山大学	教授	タカヤマ リュウタロウ 高山 龍太郎 <令和4年4月>		修士(文学)		時事的問題	1前・後	2	1	富山大学 経済学部 教授 (平11.4)	
120	兼任	富山大学	教授	タケダ アキフミ 武田 昭文 <令和4年4月>		文学修士		ロシア語基礎 I ロシア語基礎 II	1前 1後	1 1	1 1	富山大学 人文学部 教授 (平19.4)	
121	兼任	富山大学	教授	タニイ イチロウ 谷井 一郎 <令和4年4月>		理学博士		生命科学入門	1前・後	2	1	富山大学 教養教育院 教授 (平18.10)	
122	兼任	富山大学	教授	タバタ マミ 田畑 真美 <令和4年4月>		博士(文学)		人間と倫理	1前・後	2	1	富山大学 人文学部 教授 (平10.4)	
123	兼任	富山大学	教授	タムラ シュンスケ 田村 俊介 <令和4年4月>		修士(文学)		日本文学	1前・後	2	1	富山大学 人文学部 教授 (平3.4)	
124	兼任	富山大学	教授	ツギヤマ ジュン 次山 淳 <令和4年4月>		文学修士		日本の歴史と社会 東洋の歴史と社会 美術	1前・後 1前・後 1前・後	2 2 2	1 1 1	富山大学 人文学部 教授 (平23.4)	
125	兼任	富山大学	教授	トオダ コウジ 遠田 浩司 <令和4年4月>		工学博士		環境	1前・後	2	1	富山大学 工学部 教授 (平18.10)	

調査 番号	専任等 区分	所属大学	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申 保 学 職 従 る た 日 均	に 大 の に す 当 平 敷
126	兼任	富山大学	教授	トリウミ キヨシ 島海 清司 <令和4年4月>		博士(工学)		バイオメカニクスⅠ バイオメカニクスⅡ 健康・スポーツ／講義 健康・スポーツ／実技	2③ 2④ 1前・後 1前	1 1 1 1	1 1 1 1	富山大学 教養教育院 教授 (平2.4)		
127	兼任	富山大学	教授	ナカジマ トシエ 中島 淑恵 <令和4年4月>		Mai treeslett res (仏国)		フランス語基礎Ⅰ フランス語基礎Ⅱ フランス語コミュニケーションⅠ フランス語コミュニケーションⅡ	1前 1後 1前 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	富山大学 人文学部 教授 (平9.4.1)		
128	兼任	富山大学	教授	ナカムラ カズユキ 中村 和之 <令和4年4月>		修士(経済 学)		はじめての経済学 学士力・人間力基礎	1前・後 1前・後	2 2	1 1	富山大学 経済学部 教授 (平6.4)		
129	兼任	富山大学	教授	ナトリ モトキ 名執 基樹 <令和4年4月>		文学修士		ドイツ語基礎Ⅰ ドイツ語基礎Ⅱ ドイツ語コミュニケーションⅠ ドイツ語コミュニケーションⅡ 発展多言語演習ドイツ語	1前 1後 1前 1後 2前	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	富山大学 教養教育院 教授 (平6.10)		
130	兼任	富山大学	教授	ナルセ ヨシノリ 成瀬 喜則 <令和4年4月>		博士(学術)		教育技術学	3①	1	1	富山大学 大学院教職実践開発 研究科 教授 (平28.4)		
131	兼任	富山大学	教授	ニシジマ タケシ 西島 健史 <令和4年4月>		学士(文学)		教職とこれからの教育※	1③	0.5	2	富山大学 大学院教職実践開発 研究科 教授 (合3.4)		
132	兼任	富山大学	教授	ハマダ ミワ 濱田 美和 <令和4年4月>		修士(言 語・文化 学)		日本事情／芸術文化 日本事情／自然社会 日本語リテラシーⅠ 日本語リテラシーⅡ 日本語コミュニケーションⅢ	1前・後 1前・後 1前 1後 2前	2 2 1 1 1	1 1 1 1 1	富山大学 国際機構 准教授 (平8.4)		
133	兼任	富山大学	教授	ハヤシ セイイチ 林 誠一 <令和4年4月>		理学士		教職とこれからの教育※	1③	0.5	2	富山大学 大学院教職実践開発 研究科 教授 (合2.4)		
134	兼任	富山大学	教授	ヒノ ユキオ 樋野 幸男 <令和4年4月>		文学修士		言語と文化	1前・後	2	1	富山大学 人文学部 教授 (平7.4)		
135	兼任	富山大学	教授	ホリ エツロウ 堀 悦郎 <令和4年4月>		博士(医学)		医療心理学 概説医療心理学 脳科学入門 身近な医学	1前・後 1前・後 1前・後 1前・後	2 1 2 2	1 1 1 1	富山大学 医学部 教授 (平11.4)		
136	兼任	富山大学	教授	ホリタ ユウウ 堀田 裕弘 <令和4年4月>		博士(工学)		科学技術への扉-A 科学技術への扉-B 教養としての都市デザイン学	1前・後 1前・後 1前・後	2 2 2	1 1 1	富山大学 都市デザイン学部 教授 (平5.10)		
137	兼任	富山大学	教授	マ ジュン 馬 駿 <令和4年4月>		博士(経済 学)		経営資源のとらえ方	1前・後	2	1	富山大学 経済学部 教授 (平10.10)		
138	兼任	富山大学	教授	マツイ タカユキ 松井 隆幸 <令和4年4月>		経済学修士		現代文化 アカデミック・デザイン 万葉学	1前・後 1前・後 1前・後	2 2 2	1 1 1	富山大学 経済学部 教授 (平元.4)		
139	兼任	富山大学	教授	マツダ ケンジ 松田 健二 <令和4年4月>		博士(工学)		技術と社会	1前・後	2	1	富山大学 都市デザイン学部 教授 (平7.4)		
140	兼任	富山大学	教授	ミヤジマ ミツシ 富島 光志 <令和4年4月>		文学修士		医療と地域社会	1前・後	2	1	富山大学 薬学部 教授 (平26.4)		
141	兼任	富山大学	教授	モロズミ リョウウ 両角 良子 <令和4年4月>		博士(経済 学)		言語表現	1前・後	2	1	富山大学 経済学部 教授 (平18.4)		
142	兼任	富山大学	教授	ヤマザキ ケイコ 山崎 けい子 <令和4年4月>		Master of Science in Education (M. S. Ed.) degree.) (米国)		日本語リテラシーⅠ 日本語リテラシーⅡ 日本語／専門研究	1前 1後 2後	1 1 1	1 1 1	富山大学 人文学部 教授 (平10.10)		
143	兼任	富山大学	教授	ヨフコバシイ エレオ ノラ ヨフコバ四位 エレオノラ <令和4年4月>		博士(学術)		日本語コミュニケーションⅠ 日本語コミュニケーションⅡ	1前 1後	1 1	1 1	富山大学 教養教育院 教授 (平27.9)		
144	兼任	富山大学	教授	ワダ ナオヤ 和田 直也 <令和4年4月>		博士(環境 科学)		日本海学	1前・後	2	1	富山大学 極東地域研究 センター 教授 (平7.8)		
145	兼任	金沢大学	教授	アキ ジュンイチ 秋田 純一 <令和4年4月>		博士 (工学)		イノベーションを起こして、起業家になろう1 イノベーションを起こして、起業家になろう3	1① 1③	1 1	1 1	金沢大学 理工研究域 電子情報通信学系 教授 (平10.4)		
146	兼任	金沢大学	教授	アガチ ヒデヒコ 足立 英彦 <令和4年4月>		Doctor dre Rechte(独 国)		人文社会科学における法	1④	1	1	金沢大学 人間社会研究域 法学系 教授 (平23.4)		

調査番号	専任等区分	所属大学	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請する等に 大に 事務 事 週 日 均 平 数
147	兼担	金沢大学	教授	アタチ ユミ 足立 由美 <令和4年4月>		博士 (医学)		健康論実践E	1④	1	1	金沢大学 保健管理センター 教授 (平18.10)	
148	兼担	金沢大学	教授	イハラ (シバタ) アサ 市原 (柴田) あさね <令和4年4月>		農学博士		地域創造学1	2①	1	1	金沢大学 人間社会研究域 経済学経営学系 教授 (平17.6)	
149	兼担	金沢大学	教授	イェ コウジ 入江 浩司 <令和4年4月>		修士 (文学) ※		ギリシア語A1-1 ギリシア語A1-2 ギリシア語A2-1 ギリシア語A2-2 ギリシア語A3-1 ギリシア語A3-2 ギリシア語A4-1 ギリシア語A4-2	1① 1② 1③ 1④ 2① 2② 2③ 2④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平11.4)	
150	兼担	金沢大学	教授	ウエダ ノブム 上田 望 <令和4年4月>		博士 (文学)		グローバル時代の文学	1①・②・③・④	14	14	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平9.7)	
151	兼担	金沢大学	教授	エドモ ノブム 江藤 望 <令和4年4月>		修士 (教育学)		図画工作科基礎B(実践)※ 初等図画工作科教育法I※ 初等図画工作科教育法II※ SDGs教育実践演習I SDGs教育実践演習II 彫刻基礎I(現代美術表現を含む) 彫刻I 彫刻II 彫刻III 彫刻IV 美術実地研究 美術科教育法V※ 美術科教育法VI※ 美術科教育法VII※ 美術科教育法VIII※ 彫刻制作研究I 彫刻制作研究II 彫刻制作研究III 彫刻制作研究IV	2④ 3① 3② 3① 3② 2① 3① 3② 3③ 3④ 3② 3① 3② 3③ 3④ 3② 3① 3② 3③ 3④ 4① 4② 4③ 4④	0.5 0.5 0.5 1 1 1 1 1 1 1 1 0.3 0.4 0.3 0.4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平13.10)	
152	兼担	金沢大学	教授	オホタ アキラ 太田 亨 <令和4年4月>		修士 (文学)		講義の聴解A 講義の聴解B 日本語で学ぶ論理A 日本語で学ぶ論理B 異文化理解のためのビデオ会議ディスカッション	1①・③ 1②・④ 1①・③ 1②・④ 1③	2 2 1 1 1	2 2 1 1 1	金沢大学 国際機構 教授 (平10.4)	
153	兼担	金沢大学	教授	オヤブ カナ 大蔵 加奈 <令和4年4月>		Ph.D. (英国)		English for Academic Purposes I English for Academic Purposes II English for Academic Purposes III English for Academic Purposes IV English for Academic Purposes (Retake)	1① 1② 1③ 1④ 2①・②・③・④	2 4 4 4 4	2 4 4 4 4	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 教授 (平8.3)	
154	兼担	金沢大学	教授	オカダ ヒロシ 岡田 浩 <令和4年4月>		修士 (政治学)		計量政治分析実習	3③	2	1	金沢大学 人間社会研究域 法学系 教授 (平20.4)	
155	兼担	金沢大学	教授	カキチ ヤスカ 垣内 康孝 <令和4年4月>		博士 (学術)		科学技術と科学方法論	1①・②・③・④	11	11	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平27.11)	
156	兼担	金沢大学	教授	カサ コウイ 粕谷 雄一 <令和4年4月>		文学修士		フランス語B-1 フランス語B-2 フランス語C-1 フランス語C-2 ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界1 ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界2	2①・③ 2②・④ 2③ 2④ 1③ 1④	3 3 4 4 1 1	3 3 4 4 1 1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平3.4)	
157	兼担	金沢大学	教授	コバヤシ (ホリイ) エミ 小林 (堀井) 恵 美子 <令和4年4月>		Ph.D. (米国)		異文化間コミュニケーション	1①・②・③・④	13	13	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平17.10)	
158	兼担	金沢大学	教授	サカエ マサヒコ 寒河江 雅彦 <令和4年4月>		博士 (理学)		情報処理	2④	1	1	金沢大学 人間社会研究域 経済学経営学系 教授 (平20.9)	
159	兼担	金沢大学	教授	サカモト ジョウ 坂本 二郎 <令和4年4月>		博士 (学術)		デザイン思考入門	1①・②・③・④	4	4	金沢大学 設計製造技術研究所 教授 (昭63.4)	
160	兼担	金沢大学	教授	サカミ ムネコ 阪上 るり子 <令和4年4月>		Docteur de l'universi te de paris- sorbonne (仏国)		フランス語A(充実クラスI-1) フランス語A(充実クラスI-2)	1③ 1④	1 1	1 1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平14.4)	
161	兼担	金沢大学	教授	サカヅキ テツヤ 佐川 哲也 <令和4年4月>		教育学修士		地元学A(地域資源調査) 地元学B(聞き書き) ゼミ/角間の里山づくり 春編 ゼミ/角間の里山づくり 秋編	1① 1② 1① 1③	1 1 1 1	1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 人間科学系 教授 (平5.4)	

調書番号	専任等区分	所属大学	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請するに 大の に 等 務 事 週 り 日 均
162	兼任	金沢大学	教授	シカタ シゲユキ 澤田 茂保 <令和4年4月>		博士 (情報科学)		TOEIC準備(演習)	2①・②・③・④	4	4	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 教授 (平8.2)	
163	兼任	金沢大学	教授	スズキ ノブオ 鈴木 信雄 <令和4年4月>		博士 (理学)		海洋生化学演習	1①	2	1	金沢大学 環日本海地域環境 研究センター 教授 (平7.4)	
164	兼任	金沢大学	教授	タカヤマ トモキ 高山 知明 <令和4年4月>		博士 (言語学)		クリティカル・シンキング 日本語Ⅰ 日本語Ⅱ	1①・②・③・④ 2③ 2④	4 1 1	4 1 1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平成11.4)	
165	兼任	金沢大学	教授	ヲノ リカヒサ 滝野 隆久 <令和4年4月>		博士 (医学)		細胞・分子生物学	1①・②・③・④	10	10	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平11.10)	
166	兼任	金沢大学	教授	タケノ キミコ 武田 公子 <令和4年4月>		博士 (経済学)		防災学入門	1集中	2	1	金沢大学 人間社会研究域 経済学経営学系 教授 (平17.10)	
167	兼任	金沢大学	教授	タナベ ヒロシ 田邊 浩 <令和4年4月>		文学修士		地域創造学特別講義C 地域創造学特別講義D	1③ 1④	1 1	1 1	金沢大学 人間社会研究域 人間科学系 教授 (平9.4)	
168	兼任	金沢大学	教授	タニ イクミ 玉井 郁巳 <令和4年4月>		薬学博士		アントレプレナーシップⅠ 実践アントレプレナー学 コーヒーと社会 コーヒーと科学	1③ 1③ 1③ 1④	1 1 1 1	1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 教授 (昭和57.9)	
169	兼任	金沢大学	教授	ツカサキ シンジ 塚脇 真二 <令和4年4月>		理学博士		地学実験 英国諸島の地史Ⅰ 英国諸島の地史Ⅱ 環境動態学概説Ⅰ 環境動態学概説Ⅱ	1②～③ 1② 1③ 1③ 1④	4 1 1 1 1	2 1 1 1 1	金沢大学 環日本海地域環境 研究センター 教授 (平6.4)	
170	兼任	金沢大学	教授	トノキ マコト 轟 亮 <令和4年4月>		人間科学修 士		現代日本の文化と社会	2①	1	1	金沢大学 人間社会研究域 人間科学系 教授 (平23.1)	
171	兼任	金沢大学	教授	ナム キンヨン 南 相璽 <令和4年4月>		文学修士 ※		金沢・能登と世界の地域文化 朝鮮語A1-1 朝鮮語A1-2 朝鮮語A2-1 朝鮮語A2-2 朝鮮語A3-1 朝鮮語A3-2 朝鮮語A4-1 朝鮮語A4-2 朝鮮語B-1 朝鮮語B-2 朝鮮語C-1 朝鮮語C-2	1②・③・④ 1① 1② 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④ 2①・③ 2②・④ 2①・③ 2②・④	8 3 3 3 3 3 3 3 3 2 2 2 2	8 3 3 3 3 3 3 3 3 2 2 2 2	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平4.4)	
172	兼任	金沢大学	教授	ヒラノ ナオキ 平瀬 直樹 <令和4年4月>		博士 (文学)		日本史要説	2①～②	2	1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平8.7)	
173	兼任	金沢大学	教授	フカシロ ノブミ 深澤 のぞみ <令和4年4月>		博士 (学術)		アカデミック基礎日本語A アカデミック基礎日本語B	1① 1②	1 1	1 1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平20.4)	
174	兼任	金沢大学	教授	フルイチ ダイスケ 古市 大輔 <令和4年4月>		博士 (文学)		東洋史学概論Ⅰ 東洋史学概論Ⅱ	3③ 3④	1 1	1 1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平25.12)	
175	兼任	金沢大学	教授	フルハタ トオル 古畑 徹 <令和4年4月>		文学修士 ※		石川県の市町 金沢の歴史と文化 東洋史要説	1①～② 1③～④ 2③～④	2 2 2	1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平2.4)	
176	兼任	金沢大学	教授	ツノイ ユウスケ 堀井 祐介 <令和4年4月>		博士 (言語文化学)		道徳教育および宗教教育をグローバルに考える 大学・学問論	1④ 1④	1 1	1 1	金沢大学 教学マネジメントセ ンター 教授 (平3.4)	
177	兼任	金沢大学	教授	マツイ ミエ 松井 三枝 <令和4年4月>		博士 (医学)		価値と情動の認知科学	1①・②・③・④	8	8	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平28.9)	
178	兼任	金沢大学	教授	シラハ ナカミ 三浦 要 <令和4年4月>		博士 (文学)		哲学(自我論) ギリシア語B-1 ギリシア語B-2 ギリシア語C-1 ギリシア語C-2	1①・②・③・④ 3① 3② 3③ 3④	11 1 1 1 1	11 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 人間科学系 教授 (平13.4)	

調査 番号	専任等 区分	所属大学	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	に大の に 請る 等 務 事 週 り 日 均 に 大 の に 請 る 等 務 事 週 り 日 均
179	兼担	金沢大学	教授	ミネ マサシ 峯 正志 <令和4年4月>		文学修士 ※		口頭発表A 口頭発表B 日本事情A 日本事情B	1①・③ 1②・④ 1①・③ 1②・④	2 2 2 2	2 2 2 2	金沢大学 国際機構 教授 (平8.12)	
180	兼担	金沢大学	教授	モリ マサヒコ 森 雅秀 <令和4年4月>		Ph.D (英国)		世界遺産学 イメージの比較文化学	1④ 1③	1 1	1 1	金沢大学 人間社会研究域 人間科学系 教授 (平19.4)	
181	兼担	金沢大学	教授	ヤマギキ トモヤ 山崎 友也 <令和4年4月>		法学修士 ※		日本国憲法概説	1③	2	1	金沢大学 人間社会研究域 法学系 教授 (平21.4)	
182	兼担	金沢大学	教授	ヨシカワ ヒロアキ 吉川 弘明 <令和4年4月>		医学博士		健康論実践D 心と体の健康A 心と体の健康B	1④ 1③ 1④	1 1 1	1 1 1	金沢大学 保健管理センター 教授 (平7.4)	
183	兼担	金沢大学	教授	ヨネダ カン 米田 隆 <令和4年4月>		博士 (医学)		健康科学 イノベーションを起こして、起業家になろう2 イノベーションを起こして、起業家になろう4	1①・②・③・④ 1② 1④	15 1 1	15 1 1	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平29.10)	
184	兼担	富山大学	准教授	イケダ シンジ 池田 真治 <令和4年4月>		博士(文学)		哲学のすすめ	1前・後	2	1	富山大学 人文学部 准教授 (平24.4)	
185	兼担	富山大学	准教授	イシダ マコト 石田 眞 <令和4年4月>		修士(法学)		経済生活と法	1前・後	2	1	富山大学 経済学部 准教授 (平19.10)	
186	兼担	富山大学	准教授	イリエ コウジ 入江 幸二 <令和4年4月>		博士(文学)		富山大学学	1前・後	2	1	富山大学 人文学部 准教授 (平25.10)	
187	兼担	富山大学	准教授	オオサカ ヒロシ 大坂 洋 <令和4年4月>		修士(経済 学)		富山から考える震災・復興学	1前・後	2	1	富山大学 経済学部 准教授 (平17.10)	
188	兼担	富山大学	准教授	オキノ コウジ 沖野 浩二 <令和4年4月>		修士(工学)		情報処理	1前	2	1	富山大学 総合情報基盤 センター 准教授 (平17.10)	
189	兼担	富山大学	准教授	オノヤスシ 小野 恭史 <令和4年4月>		博士(工学)		技術と社会	1前・後	2	1	富山大学 機器分析センター 准教授 (平21.4)	
190	兼担	富山大学	准教授	オビタ タカユキ 帯田 孝之 <令和4年4月>		博士(薬学)		生命の世界	1前・後	2	1	富山大学 薬学部 准教授 (平22.3)	
191	兼担	富山大学	准教授	カンワキ ケンジ 柏木 健司 <令和4年4月>		博士(理学)		デザインと生物	1前・後	2	1	富山大学 理学部 准教授 (平17.9)	
192	兼担	富山大学	准教授	カタギリ タツオ 片桐 達雄 <令和4年4月>		医学博士		免疫学入門	1前・後	2	1	富山大学 教養教育院 准教授 (平13.9)	
193	兼担	富山大学	准教授	カワサキ カズオ 川崎 一雄 <令和4年4月>		Ph.D. (Earth Sciences) (加国)		自然科学への扉-A	1前・後	2	1	富山大学 都市デザイン学部 准教授 (平23.10)	
194	兼担	富山大学	准教授	サンノミヤ チカ 三宮 千佳 <令和4年4月>		博士(文学)		日本美術史(美術理論含む) 美術表現A 美術表現B	2集中 1前・後 1前・後 2	2 2 2	1 1 1	富山大学 芸術文化学部 准教授 (平24.10)	
195	兼担	富山大学	准教授	シマノエ キミコ 島添 貴美子 <令和4年4月>		博士(音楽 学)		音楽	1前・後	2	1	富山大学 芸術文化学部 准教授 (令3.4)	
196	兼担	富山大学	准教授	ジョウホ サトシ 上保 敏 <令和4年4月>		博士(学術)		朝鮮語基礎 I	1前	1	1	富山大学 人文学部 准教授 (平20.4)	
197	兼担	富山大学	准教授	スギモリ タモツ 杉森 保 <令和4年4月>		博士(理学)		自然科学への扉-C SDGs入門	1前・後 1前・後	2 2	1 1	富山大学 教養教育院 准教授 (平16.10)	
198	兼担	富山大学	准教授	スズキ コウシロウ 鈴木 晃志郎 <令和4年4月>		博士(理学)		地域の経済と社会・文化	1前・後	2	1	富山大学 人文学部 准教授 (平22.9)	
199	兼担	富山大学	准教授	セロン ムラー Theron Muller <令和4年4月>		Ph.D. (Applied Linguistic s) (英国)		英作文I(基礎) 英作文II(応用) 英作文III(応用) 英作文IV(応用)	2① 2② 3① 3②	1 1 1 1	1 1 1 1	富山大学 教養教育院 准教授 (平23.10)	
200	兼担	富山大学	准教授	タナカ ノブユキ 田中 信之 <令和4年4月>		博士(学術)		日本語コミュニケーションI 日本語コミュニケーションII	1前 1後	1 1	1 1	富山大学 国際機構 准教授 (平25.4)	

調査番号	専任等区分	所属大学	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	甲保学職従るた均	に大のにす当平教
201	兼任	富山大学	准教授	クニグチ ミキ 谷口 美樹 <令和4年4月>		博士(文学)		治療の文化史 ジェンダー	1前・後 1前・後	2 2	1 1	富山大学 教養教育院 准教授 (平12.8)		
202	兼任	富山大学	准教授	ツボミ ヒロユキ 坪見 博之 <令和4年4月>		博士(文学)		こころの科学	1前・後	2	1	富山大学 人文学部 准教授 (平24.10)		
203	兼任	富山大学	准教授	ノダ ヒデタカ 野田 秀孝 <令和4年4月>		修士福祉マ ネジメント		地域共生(福祉)論Ⅰ 地域共生(福祉)論Ⅱ スクールソーシャルワーク論Ⅰ スクールソーシャルワーク論Ⅱ	3① 3② 3③ 3④	1 1 1 1	1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 准教授 (平4.4)		
204	兼任	富山大学	准教授	ハセガワ ハルオ 長谷川 春生 <令和4年4月>		博士(学校 教育学)		小学校プログラミング教育の理論と実践Ⅰ 小学校プログラミング教育の理論と実践Ⅱ 総合的な学習の時間教育論Ⅰ 総合的な学習の時間教育論Ⅱ	2③ 2④ 3① 3②	1 1 1 1	1 1 1 1	富山大学 大学院教職実践開発 研究科 准教授 (平24.4)		
205	兼任	富山大学	准教授	ハヤシ ナツオ 林 夏生 <令和4年4月>		修士(学術)		人権と福祉	1前・後	2	1	富山大学 人文学部 准教授 (平10.10)		
206	兼任	富山大学	准教授	ハヤシ マモル 林 衛 <令和4年4月>		修士理学		主権者教育のための批判的思考力・メディアリテラ シー 事例で学ぶ減災・防災教育論	2③ 3①	1 1	1 1	富山大学 人間発達科学部 准教授 (平4.4)		
207	兼任	富山大学	准教授	フクダ ショウ 福田 翔 <令和4年4月>		博士(学術)		中国語基礎Ⅰ 中国語基礎Ⅱ 発展多言語演習中国語	1前 1後 2前	1 1 1	1 1 1	富山大学 教養教育院 准教授 (平27.4)		
208	兼任	富山大学	准教授	マツヤマ ジュン 松山 淳 <令和4年4月>		博士(経済 学)		経済学概論	3①	1	1	富山大学 経済学部 准教授 (平27.4)		
209	兼任	富山大学	准教授	ミズノ マリコ 水野 真理子 <令和4年4月>		博士(人 間・環境 学)		異文化間コミュニケーション とやま地域学	1前・後 1前・後	2 2	1 1	富山大学 教養教育院 准教授 (平26.4)		
210	兼任	富山大学	准教授	ミヤタケ リュウタ 宮武 滝大 <令和4年4月>		博士(理学)		環境と安全管理	1前・後	2	1	富山大学 環境安全推進セン ター 准教授 (平7.10)		
211	兼任	富山大学	准教授	ヨシダ ショウイチ 吉田 勝一 <令和4年4月>		博士(理学)		自然科学への扉-B	1前・後	2	1	富山大学 教養教育院 准教授 (平8.1)		
212	兼任	富山大学	准教授	ワタナベ マナシ 渡邊 雅志 <令和4年4月>		芸術工学修 士		感性をはぐくむ	1前・後	2	1	富山大学 芸術文化学部 准教授 (平22.4)		
213	兼任	富山大学	准教授	ワダ トモミ 和田 とも美 <令和4年4月>		문학박사 (韓国)		朝鮮語基礎Ⅱ 朝鮮語コミュニケーションⅠ 朝鮮語コミュニケーションⅡ	1後 1前 1後	1 1 1	1 1 1	富山大学 人文学部 准教授 (平11.4)		
214	兼任	金沢大学	准教授	アベ クト 青木 賢人 <令和4年4月>		博士 (理学)		防災学入門	1集中	2	1	金沢大学 人間社会研究域 人間科学系 准教授 (平14.5)		
215	兼任	金沢大学	准教授	アベ ヨウイチ 安部 聡一郎 <令和4年4月>		博士 (文学)		東洋史学概論Ⅰ 東洋史学概論Ⅱ	3③ 3④	1 1	1 1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平31.4)		
216	兼任	金沢大学	准教授	アベ アキラ 井出 明 <令和4年4月>		博士 (情報学)		グローバル社会と地域の課題	1①・②・③・④	11	11	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平30.4)		
217	兼任	金沢大学	准教授	イナベ トモヒコ 井町 智彦 <令和4年4月>		博士 (工学)		コンピュータグラフィクス演習Ⅰ コンピュータグラフィクス演習Ⅱ プログラミング演習Ⅰ プログラミング演習Ⅱ	1③ 1④ 1③ 1④	1 1 1 1	1 1 1 1	金沢大学 学術メディア 創成センター 准教授 (平15.10)		
218	兼任	金沢大学	准教授	ウエダ ヒサ 上田 長生 <令和4年4月>		博士 (文学)		日本史・日本文化	1②・③・④	3	3	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 准教授 (平成25.7)		
219	兼任	金沢大学	准教授	ウエダ モトキ 大江 元貴 <令和4年4月>		博士 (言語学)		日本語学講読Ⅲ 日本語学講読Ⅳ	3① 3②	1 1	1 1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 准教授 (平28.3)		
220	兼任	金沢大学	准教授	オガタ ヨシコ 小田 佳子 <令和4年4月>		博士 (体育学)		エクササイズ&スポーツ 実技	1①・②・③・④	8	14	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平31.4)		
221	兼任	金沢大学	准教授	オガタ タカヒロ 小高 敬寛 <令和4年4月>		博士 (文学)		現代世界への歴史学的アプローチ	1①・②・③・④	18	18	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (令1.11)		

調書 番号	専任等 区分	所属大学	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	甲 請 保 大 学 大 職 大 従 大 る 大 た 大 均 大 に 大 す 大 当 大 平 大 数 大
222	兼担	金沢大学	准教授	オガキリ タツ 小田桐 拓志 <令和4年4月>		Ph. D. (米国)		ケーススタディによる応用倫理学	1①・②・③・④	12	12	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平30.5)	
223	兼担	金沢大学	准教授	カハ アツキ 加藤 篤行 <令和4年4月>		Doctor of Philosophy (英国)		国際経済の理論とデータ 国際貿易の理論とデータ	2① 2①	1 1	1 1	金沢大学 人間社会研究域 経済学経営学系 准教授 (平28.4)	
224	兼担	金沢大学	准教授	カイ コウイ 河合 晃一 <令和4年4月>		博士 (公共経 営)		石川県の行政	1③～④	2	1	金沢大学 人間社会研究域 法学系 准教授 (平28.4)	
225	兼担	金沢大学	准教授	キタニ マリコ 菊谷 まり子 <令和4年4月>		Ph. D. (Psycholo gy) (英国)		パーソナリティ心理学	1①・②・③・④	12	12	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平31.4)	
226	兼担	金沢大学	准教授	キムラ ヒロユキ 木村 岳裕 <令和4年4月>		博士 (医学)		エクササイズ&スポーツ 実技	1①・②・③・④	8	14	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平30.4)	
227	兼担	金沢大学	准教授	キヤ ケイジ 木矢 剛智 <令和4年4月>		博士 (理学)		生物学実験	1①～②	2	1	金沢大学 理工研究域 生命理工学系 准教授 (平27.4)	
228	兼担	金沢大学	准教授	コウチ イホ 河内 幾帆 <令和4年4月>		Ph. D. (米国)		環境学とESD	1①・②・③・④	17	17	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平30.6)	
229	兼担	金沢大学	准教授	コジマ ツバサ 小島 莊一 <令和4年4月>		博士 (学術)		上級読解ⅡA 上級読解ⅡB アカデミック・ライティングA アカデミック・ライティングB	1③ 1④ 1①・③ 1②・④	1 1 2 2	1 1 2 2	金沢大学 国際機構 特任准教授 (平27.4)	
230	兼担	金沢大学	准教授	サトウ トモコ 佐藤 朋子 <令和4年4月>		DOCTORAT (psychose s et etats limites) (仏国)		フランス語A 1-1 フランス語A 1-2 フランス語A 2-1 フランス語A 2-2 フランス語A 3-1 フランス語A 3-2 フランス語A 4-1 フランス語A 4-2 フランス語A (充実クラスⅡ-1) フランス語A (充実クラスⅡ-2)	1① 1② 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④ 1③ 1④	2 2 3 3 2 2 4 4 1 1	2 2 3 3 2 2 4 4 1 1	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 准教授 (平30.4)	
231	兼担	金沢大学	准教授	シガラ ヒロフミ 菅原 裕文 <令和4年4月>		博士 (文学)		比較美術史Ⅰ (美術理論含む) 比較美術史Ⅱ (美術理論含む) 美術史研究Ⅰ 美術史研究Ⅱ 美術史研究Ⅲ 美術史研究Ⅳ	3① 3② 4① 4② 4③ 4④	1 1 1 1 1 1	2 2 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 准教授 (平27.4)	
232	兼担	金沢大学	准教授	タカ ヨシヒロ 高田 良宏 <令和4年4月>		博士 (工学)		AI入門 情報の科学	1①・②・③・④ 1①・②・③・④	4 18	4 18	金沢大学 学術メディア 創成センター 准教授 (昭和59.3)	
233	兼担	金沢大学	准教授	チノ セイ 趙 菁 <令和4年4月>		博士 (文学)		中国語A 1-1 中国語A 1-2 中国語A 2-1 中国語A 2-2 中国語A 3-1 中国語A 3-2 中国語A 4-1 中国語A 4-2 中国語B-1 中国語B-2 中国語C-1 中国語C-2 中国語A (充実クラスⅡ-1) 中国語A (充実クラスⅡ-2)	1① 1② 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④ 2①・③ 2②・④ 2③ 2④ 1③ 1④	2 2 2 2 2 2 2 2 3 2 1 1 1 1	2 2 2 2 2 2 2 2 3 2 1 1 1 1	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 准教授 (平14.4)	
234	兼担	金沢大学	准教授	ニシヅマ ユイチ 西嶋 愉一 <令和4年4月>		工学修士		TOEIC準備Ⅰ TOEIC準備Ⅱ TOEIC準備Ⅲ TOEIC準備Ⅳ 英語セミナー	1① 1② 1③ 1④ 1①・②・③・④	4 4 4 4 4	4 4 4 4 4	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 准教授 (平10.2)	
235	兼担	金沢大学	准教授	ハヤカワ フミト 早川 文人 <令和4年4月>		博士 (文学)		ドイツ語A 1-1 ドイツ語A 1-2 ドイツ語A 3-1 ドイツ語A 3-2 ドイツ語A (充実クラスⅠ-1) ドイツ語A (充実クラスⅠ-2)	1①・③ 1②・④ 1①・③ 1②・④ 1③ 1④	3 3 3 3 1 1	3 3 3 3 1 1	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 准教授 (平25.10)	

調査 番号	専任等 区分	所属大学	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	甲 保 学 職 従 る た 日	に 大 の に す 当 平 敷
236	兼担	金沢大学	准教授	ヒラマツ(リマツ)ジユナ 平松(乗松)潤 奈 <令和4年4月>		博士 (文学)		ロシア語A1-1 ロシア語A1-2 ロシア語A2-1 ロシア語A2-2 ロシア語A3-1 ロシア語A3-2 ロシア語A4-1 ロシア語A4-2 ロシア語B-1 ロシア語B-2 ロシア語C-1 ロシア語C-2	1① 1② 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④ 2①・③ 2②・④ 2①・③ 2②・④	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 准教授 (平24.4)		
237	兼担	金沢大学	准教授	カガリミ 深川 美帆 <令和4年4月>		博士 (文学)		上級読解I A 上級読解I B 日本の伝統芸能	1① 1② 1②	1 1 1	1 1 1	金沢大学 国際機構 准教授 (平25.4)		
238	兼担	金沢大学	准教授	フクモト トモキ 福本 知行 <令和4年4月>		法学 (修士)		ルールリテラシー	1③	1	1	金沢大学 人間社会研究域 法学系 准教授 (平15.4)		
239	兼担	金沢大学	准教授	ムカミ ヒロシ 村上 裕 <令和4年4月>		修士 (地域政 策)		現代社会における保険の制度と役割 I 現代社会における保険の制度と役割 II	1③ 1④	1 1	1 1	金沢大学 人間社会研究域 法学系 准教授 (平16.4)		
240	兼担	金沢大学	准教授	ムラヤマ タカキ 村山 孝之 <令和4年4月>		博士 (学術)		スポーツ科学	1①・②・③・④	4	4	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平20.9)		
241	兼担	金沢大学	准教授	ヤマシタ ハルカ 山下 治和 <令和4年4月>		法学修士		行政学の基礎	1①	2	1	金沢大学 医薬保健研究域 保健学系 准教授 (平2.5)		
242	兼担	金沢大学	准教授	ヤマモト ヒロシ 山本 洋 <令和4年4月>		博士 (学術)		香りと日本文化	1③	1	1	金沢大学 国際機構 准教授 (平22.4)		
243	兼担	金沢大学	准教授	ヨシナガ マサミ 吉永 匡史 <令和4年4月>		博士 (文学)		日本史・日本文化	1②・③・④	3	3	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 准教授 (平成26.10)		
244	兼担	金沢大学	准教授	ワタナベ アツコ 渡辺 敦子 <令和4年4月>		Doctor of Philosophy (英国)		グローバル時代の国際協力	1①・②・③・④	20	20	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (令3.4)		
245	兼担	富山大学	講師	ウエキ サキコ 上木 佐季子 <令和4年4月>		教育学修士		情報処理	1前	2	1	富山大学 総合情報基盤 センター 講師 (平元.4)		
246	兼担	富山大学	講師	オオハシ ハヤト 大橋 隼人 <令和4年4月>		博士(理学)		情報処理	1前	2	1	富山大学 教養教育院 講師 (平26.4)		
247	兼担	富山大学	講師	オダ ユカリ 小田 夕香理 <令和4年4月>		Degree of Doctor of Philosophy (英国) 博士(英文 学)		外国文学	1前・後	2	1	富山大学 芸術文化学部 講師 (令3.4)		
248	兼担	富山大学	講師	シノミ イサオ 塩見 一三男 <令和4年4月>		博士(工学)		地域ライフブラン 産業観光学 富山のものづくり概論 富山の地域づくり	1前・後 1前・後 1前・後 1前・後	2 2 2 2	1 1 1 1	富山大学 地域連携推進機構 講師 (平31.3)		
249	兼担	富山大学	講師	タナベ ゲン 田邊 元 <令和4年4月>		博士(ス ポーツ科 学)		スポーツ文化論 I スポーツ文化論 II	3① 3②	1 1	1 1	富山大学 芸術文化学部 講師 (平29.10)		
250	兼担	富山大学	講師	マツダ アイ 松田 愛 <令和4年4月>		文学修士		西洋美術史(美術理論含む)	2集中	2	1	富山大学 芸術文化学部 講師 (平25.9)		
251	兼担	金沢大学	講師	イダ レイ 飯田 玲子 <令和4年4月>		博士 (地域研 究)		現代社会と人権	1①・②・③・④	20	20	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 講師 (令3.4)		
252	兼担	金沢大学	講師	カワエ ケン 川越 謙一 <令和4年4月>		博士 (数理学)		論理学と数学の基礎	1①・②・③・④	6	6	金沢大学 理工研究域 数物科学系 講師 (平9.6)		

調書 番号	専任等 区分	所属大学	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	甲 請 保 大 係 大 学 大 職 大 従 大 る 大 た 大 均 大 日 大
253	兼任	金沢大学	講師	ササキ ノブキ 佐々木 葉月 <令和4年4月>		博士 (国際公共 政策)		グローバル時代の政治経済学	1①・②・③・④	20	20	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 講師 (令2.3)	
254	兼任	金沢大学	講師	マズミ ユウジ 眞住 優助 <令和4年4月>		Ph. D. (米国)		グローバル時代の社会学	1①・②・③・④	15	15	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 講師 (平29.10)	
255	兼任	金沢大学	講師	マツウラ ヨシキ 松浦 義昭 <令和4年4月>		修士 (経営科 学)		統計学から未来を見る ビジネス・データ分析(ビジネス・データ・サイエンス) 統計データ分析の基本(多変量解析) データで考える日本の未来(データサイエンス) 統計ソフトRによるビッグデータ解析 金融リテラシー 白書の講読と議論 地域課題解決と政策立案のための統計データ:EBPM (根拠に基づく政策立案)	1①・②・③・④ 1① 1② 1③ 1④ 1④ 1④	20 1 1 1 1 1 1	20 1 1 1 1 1 1	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 講師 (平16.4)	
256	兼任	金沢大学	講師	ムカミ シンジ 村上 慎司 <令和4年4月>		博士 (学術)		地域創造学2	2②	1	1	金沢大学 人間社会研究域 経済学経営学系 講師 (平29.4)	
257	兼任	金沢大学	助教	オホノリ トモコ 小笠原 知子 <令和4年4月>		Master of Science (米国)		異文化体験A 異文化体験B 異文化体験C 異文化体験D 異文化体験E 異文化体験F 異文化体験G 異文化体験H	1②・④ 1②・④ 1②・④ 1②・④ 1②・④ 1②・④ 1②・④ 1②・④	2 4 6 8 10 12 14 16	2 2 2 2 2 2 2 2	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 助教 (令2.11)	
258	兼任	金沢大学	助教	キノタ タツシ 木下 健 <令和4年4月>		博士 (医学)		細胞・分子生物学	1①・②・③・④	10	10	金沢大学 がん進展制御研究所 助教 (平10.10)	
259	兼任	金沢大学	助教	クラチヤンカ ヤ KLACANSKA JANA <令和4年4月>		Master of Arts (独国)		ドイツ語A 2-1 ドイツ語A 2-2 ドイツ語A 4-1 ドイツ語A 4-2 ドイツ語B-1 ドイツ語B-2 ドイツ語C-1 ドイツ語C-2 ドイツ語A(充実クラスII-1) ドイツ語A(充実クラスII-2)	1①・③ 1②・④ 1①・③ 1②・④ 2① 2② 2①・③ 2②・④ 1③ 1④	4 4 4 4 2 2 3 3 1 1	4 4 4 4 2 2 3 3 1 1	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 助教 (令1.10)	
260	兼任	金沢大学	助教	サトウ トモヤ 佐藤 智哉 <令和4年4月>		Ph. D. (米国)		地域「超」体験プログラム	1①・②・④	4	4	金沢大学 先端科学・社会共創 推進機構 特任助教 (平31.4)	
261	兼任	金沢大学	助教	チハラ タカノ 茅原 崇徳 <令和4年4月>		博士 (工学)		デザイン思考入門	1①・②・③・④	4	4	金沢大学 理工研究域 フロンティア工学系 助教 (平29.4)	
262	兼任	金沢大学	助教	ヒカシ アキラ 東 昭孝 <令和4年4月>		博士 (工学)		Pythonデータ分析入門	1②	1	1	金沢大学 学術メディア 創成センター 助教 (平27.5)	
263	兼任	金沢大学	助教	フィリップス ジェレミー PHILLIPPS JEREMY DAVID <令和4年4月>		博士 (文学)		日本史・日本文化	1②・③・④	4	4	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 特任助教 (平28.1)	
264	兼任	金沢大学	助教	ミツノ リョウジ 三橋 了爾 <令和4年4月>		博士 (理学)		インテグレートド科学	1①・②・③・④	8	8	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 助教 (平31.4)	
265	兼任	金沢大学	助教	モリ ヨシヒロ 森 祥寛 <令和4年4月>		博士 (理学)		クラウド時代の「ものグラミング」概論 シェルスクリプト言語論 シェルスクリプトを用いた「ものグラミング」演習 プレゼンテーション演習A プレゼンテーション演習B 動画配信サービスを用いた情報発信演習A 動画配信サービスを用いた情報発信演習B Society 5.0概論	1③~④ 1③~④ 1① 1③ 1④ 1① 1② 1③~④	2 2 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 学術メディア 創成センター 助教 (平19.4)	
266	兼任	金沢大学	助教	ムシイ ヒロ 尹 一喜 <令和4年4月>		博士 (社会福祉 学)		生活と社会保障	1①・②・③・④	12	12	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 助教 (平29.10)	
267	兼任	富山大学	講師	アガリオ シンヤ 上尾 信也 <令和4年4月>		学術博士		音楽史Ⅰ(西洋音楽) 音楽史Ⅱ(西洋音楽)	3①集中 3②集中	1 1	1 1	上野学園大学 音楽学部 教授 (平25.4)	
268	兼任	富山大学	講師	イデ ケイスケ 井戸 啓介 <令和4年4月>		博士(人間・ 環境学)		認知科学	1前・後	2	1	富山県立大学 工学部 講師 (平13.4)	

調査番号	専任等区分	所属大学	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に大のにす平均 に係る等務事選り日 職従るた均	
269	兼任	富山大学	講師	オグラ タクロウ 小倉 拓郎 <令和4年4月>		修士(学術)		自然地理学Ⅰ 自然地理学Ⅱ	3① 3②	1 1	1 1	北海道大学大学院 地球環境科学研究 院 博士研究員 (令3.4)		
	兼任	金沢大学	講師	オグラ タクロウ 小倉 拓郎 <令和4年4月>		修士(学術)		自然地理学Ⅰ 自然地理学Ⅱ	3① 3②	1 1	1 1	北海道大学大学院 地球環境科学研究 院 博士研究員 (令3.4)		
270	兼任	富山大学	講師	カジタ カズヒロ 梶田 和宏 <令和4年4月>		博士(スポーツ学)		球技(ベースボール型)Ⅰ 球技(ベースボール型)Ⅱ	3① 3②	0.5 0.5	1 1	京都先端科学大 学 教育開発センター 講師(嘱託) (令3.4)		
	兼任	金沢大学	講師	カジタ カズヒロ 梶田 和宏 <令和4年4月>		博士(スポーツ学)		球技(ベースボール型)Ⅰ 球技(ベースボール型)Ⅱ	3① 3②	0.5 0.5	1 1	京都先端科学大 学 教育開発センター 講師(嘱託) (令3.4)		
271	兼任	富山大学	講師	カワバタ ケンジ 川端 健司 <令和4年4月>		教育学修士		武道BI(柔道) 武道BII(柔道)	2③ 2④	0.5 0.5	2 2	北陸大学 経済経営学部 准教授 (平23.4)		
272	兼任	富山大学	講師	サカイ アサミ 酒井 麻見 (立田 麻美) <令和4年4月>		専門学校卒		書写書道基礎Ⅰ 書写書道基礎Ⅱ	3③ 3④	1 1	1 1	富山大学 非常勤講師 (平4.4)		
273	兼任	富山大学	講師	サカモト タロウ 坂本 太郎 <令和4年4月>		修士(芸術)		彫刻基礎Ⅱ(現代美術表現を含む)	2②集中		1	1	福井大学 教育学部 准教授 (平21.4)	
274	兼任	富山大学	講師	ハヤセ ダイスケ 集瀬 大輔 <令和4年4月>		修士(教育学)		工芸基礎Ⅱ	2②		1	1	岐阜大学大学院 教育学研究科 准教授 (平30.4)	
275	兼任	富山大学	講師	ヒラガ ケンタロウ 平賀 健太郎 <令和4年4月>		心理学博士		病弱児の教育	3集中		2	1	大阪教育大学 教育学部 准教授 (平16.4)	
276	兼任	富山大学	講師	ミナト シチオ 湊 七雄 <令和4年4月>		芸術修士		絵画基礎Ⅱ(映像メディア表現・現代美術表現を含む)	2④集中		1	1	福井大学 教育学部 教授 (平18.4)	
277	兼任	富山大学	講師	ヤマワキ(クチョウ) アユミ 山脇(九町) あゆみ <令和4年4月>		学術博士		水泳Ⅰ 水泳Ⅱ	3① 3②	0.5 0.5	1 1	金沢学院大学 人間健康学部 講師 (平23.4)		
	兼任	金沢大学	講師	ヤマワキ(クチョウ) アユミ 山脇(九町) あゆみ <令和4年4月>		学術博士		水泳Ⅰ 水泳Ⅱ	3① 3②	0.5 0.5	1 1	金沢学院大学 人間健康学部 講師 (平23.4)		
278	兼任	金沢大学	講師	アマノ サチ 天野 佐知子 <令和4年4月>		修士(教育学)		保育内容(環境)(環境に関する現代的課題を含む)	2③		1	1	金沢星稜大学 人間科学部 助教 (平29.4)	
279	兼任	金沢大学	講師	イカワ シゲキ 池川 茂樹 <令和4年4月>		博士(医学)		武道AI(剣道)	2③		0.5	2	上越教育大学 大学院学校教育研究 科 准教授 (平29.4)	
280	兼任	金沢大学	講師	マヤ ソニア ケイ 雄谷 ソニア 啓子 <令和4年4月>		マドリード 工芸大学大 学院建築学 専攻修了		スペイン語A1-1 スペイン語A1-2 スペイン語A2-1 スペイン語A2-2 スペイン語A3-1 スペイン語A3-2 スペイン語A4-1 スペイン語A4-2 スペイン語B-1 スペイン語B-2 スペイン語C-1 スペイン語C-2	1① 1② 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④ 1③ 1④ 2① 2② 2③ 2④	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	北国新聞文化セン ター 講師(スペイン語) (平17.10)		
281	兼任	金沢大学	講師	マモリ シゲノブ 大森 重宜 <令和4年4月>		スポーツ科 学博士		陸上Ⅰ 陸上Ⅱ	2① 2②	0.5 0.5	1 1	1 1	金沢星稜大学 人間科学部 教授 (平20.4)	
282	兼任	金沢大学	講師	カサキ ヨウイチ 粕谷 雄一 <令和4年4月>		文学修士		異文化理解1 異文化理解2 文学概論1 文学概論2	1③ 1④ 1③ 1④	1 1 1 1	1 1 1 1	元 金沢大学 人間社会研究 城 歴史言語文化学系 教授		
283	兼任	金沢大学	講師	カトリ カズオ 加藤 和夫 <令和4年4月>		文学修士		日本語学演習Ⅰ 日本語学演習Ⅱ	3③ 3④	1 1	1 1	1 1	金沢大学 名誉教授(令2.4) 元 金沢大学 人間社会研究 城 歴史言語文化学系 教授(令2.3まで)	
284	兼任	金沢大学	講師	キムラ ヨシコ 木村 陽子 <令和4年4月>		高校卒		日本の伝統的歌唱法 和楽器奏法	3①② 3①②	1 1	1 1	1 1	石川県邦楽舞踊協 会 常務理事 (平26.4)	

調書 番号	専任等 区分	所属大学	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	に大の にす 甲保 請る 等務 職事 従る た日 均
285	兼任	金沢大学	講師	コハヤカリ ユウゴ 小早川裕悟 <令和4年4月>		博士 (経済学)		経済学概論	3①	1	1	国立 岐阜工業高等専門学 校 講師 (平31.10)	
286	兼任	金沢大学	講師	キクライ マサキ 櫻井 勝 <令和4年4月>		博士 (医学)		衛生学及び公衆衛生学Ⅰ 衛生学及び公衆衛生学Ⅱ	3① 3②	1 1	1 1	金沢医科大学 衛生学 准教授 (平28.4)	
287	兼任	金沢大学	講師	シハラ ヒデオ 篠原 秀夫 <令和4年4月>		文学修士		初等音楽科教育法Ⅰ 初等音楽科教育法Ⅱ 石川県の教育実践Ⅱ※ 音楽科教育法Ⅰ(石川県の教育実践を含む) 音楽科教育法Ⅱ(石川県の教育実践を含む) 音楽科教育法Ⅴ 音楽科教育法Ⅵ 音楽科教育法Ⅶ 音楽科教育法Ⅷ	2③ 2④ 2④ 2④ 2① 2② 3① 3② 3③ 3④	1 1 0.2 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 名誉教授(合3.4) 元 金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授(合3.3まで)	
288	兼任	金沢大学	講師	タカキ カヨ 高木 香代子 <令和4年4月>		教育学修士		ダンスⅠ ダンスⅡ	3① 3②	0.5 0.5	1 1	金沢学院短期大学 幼児教育学科 准教授 (平25.4)	
289	兼任	金沢大学	講師	タナカ ゲンゴ 田中 源吾 <令和4年4月>		博士 (理学)		地球生物圏と人間	1①・②・③・④	16	16	元 金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 助教 (合3.3まで)	
290	兼任	金沢大学	講師	テラカワ カズコ 寺川 和子 <令和4年4月>		学士		工芸論Ⅰ 工芸論Ⅱ	2① 2②	1 1	2 2	石川県立美術館 学芸員 (平5.4)	
291	兼任	金沢大学	講師	ナンブ マサエ 南 匡恵 <令和4年4月>		音楽学士		アンサンブルⅣ(木管)	2④	1	1	永平寺町立上志比中 学校 講師 (平23.4)	
292	兼任	金沢大学	講師	ヒロセ ダイゴ 廣瀬 大悟 <令和4年4月>		学士 (音楽)		アンサンブルⅤ(金管)	3②	1	1	小松市立高等学校 非常勤講師 (平27.4)	
293	兼任	金沢大学	講師	ホミ ヒロシ 細見 博志 <令和4年4月>		文学修士		ラテン語A 1-1 ラテン語A 1-2 ラテン語A 2-1 ラテン語A 2-2 ラテン語A 3-1 ラテン語A 3-2 ラテン語A 4-1 ラテン語A 4-2 ラテン語B-1 ラテン語B-2 ラテン語C-1 ラテン語C-2	1① 1② 1③ 1④ 2① 2② 2③ 2④ 3① 3② 3③ 3④	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	元 金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系特任 教授 (平30.3まで)	
294	兼任	金沢大学	講師	マエシマ ミホ 前島 美保 <令和4年4月>		博士 (音楽学)		音楽史Ⅲ(日本及び世界の音楽) 音楽史Ⅳ(日本及び世界の音楽)	3③ 3④	1 1	1 1	東京藝術大学 音楽学部 非常勤講師 (平26.4)	
295	兼任	金沢大学	講師	モリ トシヤ 森 俊也 <令和4年4月>		博士 (工学)		家庭電気・機械・情報 データサイエンスの技術	3② 1③	1 1	1 1	金沢星稜大学 情報基盤センター 嘱託 (平17.4)	
296	兼任	金沢大学	講師	ワタナベ ナオキ 渡辺 直勇 <令和4年4月>		体育学修士		武道AII(柔道)	2④	0.5	2	金沢学院大学 人間健康学部 教授 (平18.4)	

教 員 の 氏 名 等												
(富山大学教育学部共同教員養成課程)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申 請 に 大 の に す 当 平 均 日 数
1	専	教授	アキツキ ユウキ 秋月 有紀 <令和4年4月>		博士(学術) 博士(工学)		家庭科基礎A(住居・食物と現代の教育課題)※ 住居学概論Ⅰ 住居学概論Ⅱ 住居学Ⅰ(現代の住環境問題を含む) 住居学Ⅱ(製図及び富山石川の住宅比較を含む) 住居学演習Ⅰ 住居学演習Ⅱ 住居学演習ⅢⅠ 住居学演習Ⅳ 卒業研究	1③ 2① 2② 2③ 2④ 3③ 3④ 4① 4② 4通	0.5 1 1 1 1 1 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 教授 (平19.4)	5日
2	専	教授	イシカワ ヒデアキ 石川 秀明 <令和4年4月>		博士(理学)		算数科基礎A(低・中学年) 線形代数学概論Ⅰ(代数と現代の数学教育を含む) 線形代数学概論Ⅱ(代数と現代の数学教育を含む) 代数学Ⅰ 代数学Ⅱ 数論Ⅰ 数論Ⅱ 確率論 統計学 卒業研究	2① 2③ 2④ 3③ 3④ 3① 3② 3③ 3④ 4通	1 1 1 1 1 1 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 教授 (平29.10)	5日
3	専	教授	インザキ タカコ 磯崎 尚子 <令和4年4月>		博士(教育学)		初等家庭科教育法Ⅰ 初等家庭科教育法Ⅱ 家庭科教育法Ⅰ(富山県の教育実践を含む) 家庭科教育法Ⅱ(富山県の教育実践を含む) 家庭科教育法Ⅴ 家庭科教育法Ⅵ 家庭科教育法Ⅶ 家庭科教育法Ⅷ 家庭科教育演習Ⅰ 家庭科教育演習Ⅱ 家庭科教育演習Ⅲ 家庭科教育演習Ⅳ 卒業研究	2① 2② 2① 2② 3① 3② 3③ 3④ 4① 4② 4① 4② 4通	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 教授 (平10.4)	5日
4	専	教授	オオカワ ノブユキ 大川 信行 <令和4年4月>		博士(体育科学)		球技(ゴール型)BI(バスケットボール) 球技(ゴール型)BII(バスケットボール) コーチング論Ⅰ※ 卒業研究 野外体験活動Ⅰ	3① 3② 3③ 4通 1②	0.5 0.5 0.2 4 1	1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 教授 (昭61.4)	5日
5	専	教授	オカザキ セイジ 岡崎 誠司 <令和4年4月>		博士(教育学)		初等社会科教育法Ⅰ 初等社会科教育法Ⅱ 社会科・公民科教育法Ⅰ(北陸の教育実践を含む) 社会科・公民科教育法Ⅱ(北陸の教育実践を含む) 社会科・公民科教育法Ⅲ 社会科・公民科教育法Ⅳ 卒業研究	2③ 2④ 2③ 2④ 3③ 3④ 4通	1 1 1 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 教授 (平17.4)	5日
6	専	教授	カタオカ ヒロシ 片岡 弘 <令和4年4月>		博士(理学)		理科基礎A(理論)※ 理科内容B(物理化学概論と現代理科教育) 理科内容B(一般化学) 理科内容演習BⅠ(化学) 理科内容演習BⅡ(化学) 理科実験BⅠ(化学) 理科実験BⅡ(化学) 卒業研究	2① 2③ 2④ 3③ 3④ 3① 3② 4通	0.3 1 1 1 1 0.5 0.5 4	1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 教授 (平15.6)	5日
7	専	教授	カミヤマ アキラ 上山 耀 <令和4年4月>		修士(デザイン学)		小学校プログラミング教育の理論と実践Ⅰ 小学校プログラミング教育の理論と実践Ⅱ デザイン基礎Ⅱ(映像メディア表現・現代美術表現を含む) デザインⅠ デザインⅡ デザインⅢ デザインⅣ 美術実地研究 美術科教育法Ⅴ 美術科教育法Ⅵ 美術科教育法Ⅶ 美術科教育法Ⅷ プログラミング入門 卒業研究	2③ 2④ 2④ 3① 3② 3③ 3④ 3②集中 3① 3② 3③ 3④ 2① 4通	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 教授 (平13.4)	5日
8	専	教授	キシモト タダユキ 岸本 忠之 <令和4年4月>		博士(学校教育学)		初等算数科教育法Ⅰ 初等算数科教育法Ⅱ 数学科教育法Ⅰ(富山県の教育実践を含む) 数学科教育法Ⅱ(富山県の教育実践を含む) 数学科教育法Ⅴ 数学科教育法Ⅵ 数学科教育法Ⅶ 数学科教育法Ⅷ 算数・数学科教材開発研究 卒業研究	2③ 2④ 2① 2② 3① 3② 4③ 4④ 4① 4通	1 1 1 1 1 1 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 教授 (平12.4)	5日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請するに 係る等務事 職従るた日 に大のに す当平数
15	専	教授 (学部長・研究科長)	トクハン ヨウ 徳橋 曜 <令和4年4月>		文学修士		就職実践演習(幼・小・中・高)※ 富山県の教育実践Ⅰ 富山県の教育実践Ⅱ 西洋史学概論Ⅰ(現代的課題を踏まえて) 西洋史学概論Ⅱ(現代的課題を踏まえて) 西洋史学各論Ⅰ 西洋史学各論Ⅱ 西洋史学演習Ⅰ 西洋史学演習Ⅱ 西洋史学演習Ⅲ 西洋史学演習Ⅳ 基礎ゼミナール 卒業研究	4③・④ 2③ 2④ 2③ 2④ 3① 3② 3① 3② 3③ 3④ 1①〜③ 4通	0.2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 教授 (平4.4)	5日
16	専	教授	ナイトウ リョウイチ 内藤 亮一 <令和4年4月>		修士文学		異文化理解特別演習Ⅰ 異文化理解特別演習Ⅱ 卒業研究	3③ 3④ 4通	1 1 4	1 1 1	富山大学 人間発達科学部 教授 (平4.4)	5日
17	専	教授	ニシタヤ ヒロシ 西田谷 洋 <令和4年4月>		博士(文学)		国語科基礎A(書写を含む)(低・中学年の国語科と現代的教育課題)※ 日本文学概論Ⅰ(教育と文学の関係を含む) 日本文学概論Ⅱ(国語教科書と文学理論) 日本文学演習Ⅰ 日本文学演習Ⅱ 日本文学演習Ⅲ 日本文学演習Ⅳ 日本児童文学Ⅰ 日本児童文学Ⅱ 日本文学講読Ⅰ 日本文学講読Ⅱ 日本文学講読Ⅲ 日本文学講読Ⅳ 「読むこと」指導実践演習 メディア・地域教材開発指導演習 卒業研究	1③ 2① 2② 3① 3② 3③ 3④ 2③ 2④ 3① 3② 4① 4② 3③ 3④ 4通	0.4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 教授 (平26.10)	5日
18	専	教授	ミヤ カズシ 宮 一志 <令和4年4月>		博士(医学)		特別な支援を要する子どもの理解 知的障害児の心理・生理・病理Ⅱ 肢体不自由児の心理・生理・病理Ⅰ(教育・医療・福祉の機関連携を含む) 肢体不自由児の心理・生理・病理Ⅱ(教育・医療・福祉の機関連携を含む) 病弱児の心理・生理・病理Ⅰ(教育・医療・福祉の機関連携を含む) 病弱児の心理・生理・病理Ⅱ(教育・医療・福祉の機関連携を含む) 特別支援教育実地演習 障害児の教育診断臨床Ⅰ※ 障害児支援学演習Ⅰ 障害児支援学演習Ⅱ 障害児支援学演習Ⅲ 障害児支援学演習Ⅳ 特別支援教育演習 子どもの保健Ⅰ※ 子どもの保健Ⅱ※ 障害とアクセシビリティ 卒業研究	1③ 2② 3① 3② 3③ 3④ 2集中 3① 3① 3② 3③ 3④ 3集中 3③ 3④ 1前・後 4通	1 1 1 1 1 1 2 0.6 1 1 1 1 1 2 0.9 0.9 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 教授 (平25.4)	5日
19	専	教授	ヤマネ ヒロシ 山根 拓 <令和4年4月>		文学修士		社会科基礎A(中学年の社会科と現代的教育課題)※ 人文地理学概論Ⅰ 人文地理学概論Ⅱ 地誌学Ⅰ 地誌学Ⅱ 地理学各論Ⅰ 地理学各論Ⅱ 地理学演習Ⅰ 地理学演習Ⅱ 地理学演習Ⅲ 地理学演習Ⅳ 地理学巡検 卒業研究	2① 2① 2② 2③ 2④ 2③ 2④ 3① 3② 3③ 3④ 3②集中 4通	0.4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 教授 (平7.4)	5日
46	専	准教授	イケダ ジョウスケ 池田 丈佑 <令和4年4月>		国際公共政策博士		社会科基礎A(中学年の社会科と現代的教育課題)※ 政治学概論Ⅰ(現代的課題を含む) 政治学概論Ⅱ(現代的課題を含む) 人間安全保障論Ⅰ 人間安全保障論Ⅱ 平和学Ⅰ 平和学Ⅱ 地球市民社会論Ⅰ 地球市民社会論Ⅱ 政治学演習Ⅰ 政治学演習Ⅱ 政治学演習Ⅲ 政治学演習Ⅳ 平和学入門 卒業研究	2① 2① 2② 3③ 3④ 2① 2② 2③ 2④ 3① 3② 3③ 3④ 1前・後 4通	0.3 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 准教授 (平26.4)	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申 請 に 大 の に す 当 平 均
47	専	准教授	イシヅ ケンイチロウ 石津 憲一郎 <令和4年4月>		博士(教育学)		生徒指導論※ 教育相談の理論※ 教育臨床心理学A 教育臨床心理学B 臨床心理実習 教育心理学ゼミナール 卒業研究	2③ 2① 2② 2③ 3通 3通 4通	0.5 0.5 1 1 2 2 1	2 1 1 1 1 1 1	富山大学 大学院教職実践開発 研究科 准教授 (平21.4)	5日
48	専	准教授	カミノ ケンジ 神野 賢治 <令和4年4月>		修士教育学		球技(ネット型)BI(バレーボール) 球技(ネット型)BII(テニス) スポーツマネジメント論I スポーツマネジメント論II スポーツ社会学I スポーツ社会学II コーチング論I※ 卒業研究	3① 3② 3① 3② 2③ 2④ 3③ 4通	0.5 0.5 1 1 1 1 0.4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 准教授 (平26.4)	5日
49	専	准教授	ゲッソウ ヒデヤ 月僧 秀弥 <令和4年4月>		博士(学術)		生活科基礎A(講義) 生活科基礎B(実践) 初等理科教育法I 初等理科教育法II 初等生活科教育法I 初等生活科教育法II 理科教育法III(富山県の教育実践を含む) 理科教育法IV(富山県の教育実践を含む) 理科教育法V 理科教育法VI 理科教育法VII 理科教育法VIII 理科教育演習I 理科教育演習II 幼児と環境※ 卒業研究	2③ 3① 2③ 2④ 3① 3② 3③ 3④ 4① 4② 2② 4通	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 0.3 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 准教授 (令3.4)	5日
50	専	准教授	サエキ サトシ 佐伯 聡史 <令和4年4月>		修士(体育学)		体操I 体操II 器械運動I 器械運動II 運動学概論(運動方法学を含む)I 運動学概論(運動方法学を含む)II 保健体育科教育法III(富山県の教育実践を含む) 保健体育科教育法IV(富山県の教育実践を含む) コーチング論I※ コーチング論II※ 卒業研究	2① 2② 2① 2② 2③ 2④ 2③ 2④ 3③ 3④ 4通	0.5 0.5 0.5 0.5 1 1 1 1 0.4 0.2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 准教授 (平15.4)	5日
51	専	准教授	シガ フミヤ 志賀 文哉 <令和4年4月>		修士国際学		社会科基礎A(中学年の社会科と現代の教育課題)※ 社会学概論I(現代的課題を含む) 社会学概論II(現代的課題を含む) 地域社会論I 地域社会論II 社会学演習I 社会学演習II 社会学演習III 社会学演習IV 社会福祉概論I 社会福祉概論II 異文化理解 災害救援ボランティア論 卒業研究	2① 3① 3② 4① 4② 3① 3② 3③ 3④ 2③ 2④ 1前・後 1前・後 4通	0.3 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 4	1 1 1 1 1 2 2 2 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 准教授 (平19.10)	5日
52	専	准教授	タケゴシ カヨコ 竹腰 佳誉子 <令和4年4月>		修士(文学)		異文化理解I(英語教育の中の異文化理解) 異文化理解II(英語教育の中の異文化理解) 異文化理解III(応用) 異文化理解IV(応用) 異文化理解演習I 異文化理解演習II 異文化理解特別演習I 異文化理解特別演習II 卒業研究	2③ 2④ 3① 3② 3③ 3④ 3③ 3④ 4通	1 1 1 1 1 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 准教授 (平15.10)	5日
53	専	准教授	ナカムラ シンゴ 中村 只吾 <令和4年4月>		博士(社会学)		社会科基礎A(中学年の社会科と現代の教育課題)※ 日本史学概論I 日本史学概論II 日本史学各論(近世・近代)I 日本史学各論(近世・近代)II 日本史学演習I 日本史学演習II 日本史学演習III 日本史学演習IV 卒業研究	2① 2① 2② 2③ 2④ 3① 3② 3③ 3④ 4通	0.2 1 1 1 1 1 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 准教授 (平28.4)	5日
54	専	准教授	ナリユキ ヤスヒロ 成行 泰裕 <令和4年4月>		博士(理学)		理科基礎A(理論)※ 理科内容A(力学概論と現代理科教育) 理科内容A(熱力学) 理科内容演習A I(物理学) 理科内容演習A II(物理学) 理科実験A I(物理学) 理科実験A II(物理学) 卒業研究	2① 2① 2② 3③ 3④ 3① 3② 4通	0.3 1 1 1 1 0.5 0.5 4	1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 准教授 (平24.4)	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申 請 に 大 の に す 当 平 均
60	専	准教授	ヤスモト(ワダ)フミエ 安本(和田)史恵 <令和4年4月>		博士(獣医学)		理科基礎A(理論)※ 理科内容C(生物共通性概論と現代理科教育) 理科内容C(ヒトの生物学) 理科内容演習CⅠ(生物学) 理科内容演習CⅡ(生物学) 理科実験CⅠ(生物学) 理科実験CⅡ(生物学) 卒業研究	2① 2① 2③ 3③ 3④ 3① 3② 4通	0.3 1 1 1 1 0.5 0.5 4	1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 准教授 (平20.6)	5日
61	専	准教授	ヤマグチ ノリカズ 山口 範和 <令和4年4月>		博士(理学)		解析学概論Ⅰ 解析学概論Ⅱ 解析学Ⅰ 解析学Ⅱ 解析学Ⅲ 解析学Ⅳ 微分方程式Ⅰ 微分方程式Ⅱ コンピュータ概論Ⅰ(授業への応用を含む) コンピュータ概論Ⅱ(授業への応用を含む) プログラミング入門 卒業研究	2① 2② 2③ 2④ 3③ 3④ 4① 4② 3① 3② 2① 4通	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 准教授 (平19.10)	5日
62	専	准教授	ワカヤマ イクヨ 若山 育代 <令和4年4月>		博士(教育学)		幼児と表現※ 保育内容総論(保育実践を巡る最新動向を含む)※ 言葉の指導法(現代的課題を踏まえた富山などの地域の 保育実践と最新指導事例を含む) 表現の指導法(現代的課題を踏まえた富山などの地域の 保育実践と最新指導事例を含む)※ 幼児教育カリキュラム論Ⅰ 幼児教育カリキュラム論Ⅱ 保育原理Ⅰ 保育原理Ⅱ 保育者論 保育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅰ 保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅱ 保育実習指導Ⅲ 卒業研究	2③ 2① 2③ 3① 3③ 3④ 1③ 1④ 1④ 2④, 3④ 2・3 3④ 3 3 4通	0.4 0.5 1 0.4 1 1 1 1 1 2 2 2 1 1 1 4	2 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 准教授 (平21.4)	5日
63	専	准教授	ワダ ミキ 和田 充紀 <令和4年4月>		教育学修士		インクルーシブ教育基礎演習Ⅱ 知的障害教育課程・指導論Ⅰ 知的障害教育課程・指導論Ⅱ 知的障害児の教育Ⅰ 知的障害児の教育Ⅱ 知的障害教育実地演習Ⅰ 知的障害教育実地演習Ⅱ 特別支援教育実地演習 障害児支援学演習Ⅰ 障害児支援学演習Ⅱ 障害児支援学演習Ⅲ 障害児支援学演習Ⅳ 特別支援教育演習 社会的養護Ⅲ 卒業研究	1④ 2③ 2④ 3① 3① 3② 3② 2集中 3① 3② 3③ 3④ 3集中 3③ 4通	1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 2 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 准教授 (平27.4)	5日
86	専	講師	オギソ トモコ 小木曾 智子 <令和4年4月>		修士(言語学)		初等英語科教育法Ⅰ 初等英語科教育法Ⅱ 英語科教育法Ⅴ 英語科教育法Ⅵ 英語科教育法ⅦⅠ 英語科教育法ⅦⅡ 英語科教育法ⅦⅢ 英語科教育法ⅦⅣ 英語科教育実践研究ⅢⅠ 英語科教育実践研究Ⅳ 卒業研究	3① 3② 3① 3② 3③ 3④ 3③ 3④ 3③ 4通	1 1 1 1 1 1 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	日本学術振興会 特別研究員(DC2) (令2.4)	5日
87	専	講師	オザワ イクミ 小澤 郁美 <令和4年4月>		博士(心理学)		教授・学習心理学(個別最適化学習の理論と実践) 教育心理学データ解析法A 教育心理学データ解析法B 教育心理学実験法 教授・学習心理学演習 教育心理学ゼミナール 卒業研究	2② 2① 2② 2④ 3③ 3通 4通	1 1 1 1 1 2 4	1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 講師 (令3.4)	5日
88	専	講師	カワムラ アイ 河村 愛 <令和4年4月>		博士(理学)		理科基礎A(理論)※ 理科内容D(地球環境科学概論と現代理科教育) 理科内容D(地球史学) 理科内容演習DⅠ(地学) 理科内容演習DⅡ(地学) 理科実験DⅠ(地学) 理科実験DⅡ(地学) 卒業研究	2① 2② 2④ 3③ 3④ 3① 3② 4通	0.3 1 1 1 1 0.5 0.5 4	1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 講師 (平30.2)	5日
89	専	講師	コイケ コウジ 小池 晃次 <令和4年4月>		博士(文学)		英語学概論Ⅰ(文法と現在の英語教育) 英語学概論Ⅱ(文法と現在の英語教育) 英語学概論Ⅲ(応用) 英語学概論Ⅳ(応用) 英語音声学・文法Ⅰ 英語音声学・文法Ⅱ 英語学演習Ⅰ(個別理論) 英語学演習Ⅱ(個別理論) 英語学特別演習ⅢⅠ 英語学特別演習Ⅳ 卒業研究	2① 2② 3① 3② 2③ 2④ 3③ 3④ 3① 3② 4通	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	愛知淑徳大学 外国語教育部門 講師 (平29.4)	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申 請 等 務 事 週 り 日 に 大 の に す 当 平 敷
90	専	講師	コジマ ヒロノリ 児島 博紀 <令和4年4月>		博士(教育学)		教育の思想と歴史(西洋) 道徳教育論(理論) 教育倫理学A 教育倫理学B 教育学ゼミナール 卒業研究	1③ 3① 2・3・4 2・3・4 3通 4通	1 1 1 1 2 4	1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 講師 (平30.2)	5日
91	専	講師	コンドウ タツアキ 近藤 龍彰 <令和4年4月>		博士(学術)		生徒指導論※ 教育相談の理論※ 障害児の教育診断臨床Ⅱ 教育心理学研究法 臨床心理実習 教育心理学ゼミナール 卒業研究	2③ 2① 3集中 2③ 3通 3通 4通	0.5 0.5 1 1 2 2 4	2 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 講師 (平28.4)	5日
92	専	講師	サワ サトミ 澤 聡美 <令和4年4月>		博士(医学)		ダンスⅠ ダンスⅡ 発育発達Ⅰ 発育発達Ⅱ 幼児と健康※ 幼児と表現※ 健康の指導法(現代的課題を踏まえた富山などの地域の 保育実践と最新指導事例を含む) 表現の指導法(現代的課題を踏まえた富山などの地域の 保育実践と最新指導事例を含む)※ コーチング論Ⅱ※ 卒業研究	3① 3② 2① 2② 2③ 2③ 3①集中 3① 3④ 4通	0.5 0.5 1 1 0.7 0.4 1 0.4 4	1 1 1 1 2 2 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 講師 (平15.4)	5日
93	専	講師	タガ ヒデノリ 多賀 秀紀 <令和4年4月>		修士(教育学)		音楽科基礎A(講義) 音楽科基礎B(実践) 初等音楽科教育法Ⅰ 初等音楽科教育法Ⅱ アンサンブルⅥ(室内楽) アンサンブルⅦ(室内楽) 音楽科教育法Ⅲ(富山県の教育実践を含む) 音楽科教育法Ⅳ(富山県の教育実践を含む) 幼児と表現※ 卒業研究	2④ 2② 2③ 2④ 3集中 3集中 2③ 2④ 2③ 4通	1 1 1 1 1 1 1 1 0.5 4	2 1 1 1 1 1 1 1 2 1	富山大学 人間発達科学部 講師 (平30.4)	5日
94	専	講師	タケダ ユウジ 武田 裕司 <令和4年4月>		博士(教育学)		国語科基礎A(書写を含む)(低・中学年の国語科と 現代的教育課題)※ 初等国語科教育法Ⅰ 初等国語科教育法Ⅱ 国語科教育法Ⅲ(富山県の教育実践を含む) 国語科教育法Ⅳ(富山県の教育実践を含む) 国語科教育法Ⅴ 国語科教育法Ⅵ 国語科教育法Ⅶ 国語科教育法Ⅷ 国語科教育演習 卒業研究	1③ 2① 2② 2③ 2④ 3① 3② 3③ 3④ 4① 4通	0.2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 講師 (平30.2)	5日
95	専	講師	タマコシ(ウチウミ) カズノリ 玉腰(内海)和典 <令和4年4月>		博士(人間 発達学)		体育科基礎B(実践) 初等体育科教育法Ⅰ 初等体育科教育法Ⅱ 保健体育科教育法Ⅶ 保健体育科教育法Ⅷ 卒業研究	2③ 2① 2② 3③ 3④ 4通	1 1 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 講師 (令3.4)	5日
96	専	講師	マサダ(タナカ)ミナ 増田(田中)美奈 <令和4年4月>		修士(教育学)		未来をつくる教育課程 特別活動とカリキュラムマネジメント 教育実習A(幼・小)(事前事後指導を含む) 教育実習A(中・高)(事前事後指導を含む) 教育実習B(小) 教育実習B(中・高) 教育実習B(特別支援) 教育実習B(幼) 教職実践演習(幼・小・中・高)※ 教育臨床学A 教育臨床学B 教育学ゼミナール 卒業研究	2③・④ 2①・② 3②・4② 3②・4② 3②・4② 3②・4② 3②・4② 3②・4② 4③・④ 2・3・4 2・3・4 3通 4通	1 1 5 5 2 2 3 2 0.9 1 1 1 2 4	2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 講師 (平26.4)	5日
98	兼任	教授	アオキ カズマス 青木 一益 <令和4年4月>		修士(法学)		現代社会論	1前・後	2	1	富山大学 経済学部 教授 (平16.10)	
99	兼任	教授	アオキ キョウコ 青木 恭子 <令和4年4月>		博士(社会 学)		西洋の歴史と社会 ロシア語コミュニケーションⅠ ロシア語コミュニケーションⅡ	1前・後 1前 1後	2 1 1	1 1 1	富山大学 人文学部 教授 (平10.10)	
100	兼任	教授	アキバ エツコ 秋葉 悦子 <令和4年4月>		法学修士		国家と市民	1前・後	2	1	富山大学 経済学部 教授 (平7.11)	
101	兼任	教授	アベ ヒトン 阿部 仁 <令和4年4月>		博士(薬学)		科学と社会	1前・後	2	1	富山大学 工学部 教授 (平20.2)	
102	兼任	教授	イシイ ヒロシ 石井 博 <令和4年4月>		博士(理学)		生命の世界	1前・後	2	1	富山大学 理学部 教授 (平20.4)	
103	兼任	教授	イトウ トモキ 伊藤 智樹 <令和4年4月>		社会学博士		医療と地域社会	1前・後	2	1	富山大学 人文学部 教授 (平13.4)	

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	に大の にす に 請る 等 務 事 週 り 日 均
125	兼任	教授	トオダ コウジ 遠田 浩司 <令和4年4月>		工学博士		環境	1前・後	2	1	富山大学 工学部 教授 (平18.10)	
126	兼任	教授	トリウミ キヨシ 鳥海 清司 <令和4年4月>		博士(工学)		バイオメカニクスⅠ バイオメカニクスⅡ 健康・スポーツ/講義 健康・スポーツ/実技	2③ 2④ 1前・後 1前	1 1 1 1	1 1 1 1	富山大学 教養教育院 教授 (平2.4)	
127	兼任	教授	ナカジマ トシエ 中島 淑恵 <令和4年4月>		Mai treeslett res(仏国)		フランス語基礎Ⅰ フランス語基礎Ⅱ フランス語コミュニケーションⅠ フランス語コミュニケーションⅡ	1前 1後 1前 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	富山大学 人文学部 教授 (平9.4.1)	
128	兼任	教授	ナカムラ カズユキ 中村 和之 <令和4年4月>		修士(経済 学)		はじめての経済学 学士力・人間力基礎	1前・後 1前・後	2 2	1 1	富山大学 経済学部 教授 (平6.4)	
129	兼任	教授	ナトリ モトキ 名執 基樹 <令和4年4月>		文学修士		ドイツ語基礎Ⅰ ドイツ語基礎Ⅱ ドイツ語コミュニケーションⅠ ドイツ語コミュニケーションⅡ 発展多言語演習ドイツ語	1前 1後 1前 1後 2前	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	富山大学 教養教育院 教授 (平6.10)	
130	兼任	教授	ナルセ ヨシノリ 成瀬 喜則 <令和4年4月>		博士(学術)		教育技術学	3①	1	1	富山大学 大学院教職実践開発 研究科 教授 (平28.4)	
131	兼任	教授	ニシジマ タケシ 西島 健史 <令和4年4月>		学士(文学)		教職とこれからの教育※	1③	0.5	2	富山大学 大学院教職実践開発 研究科 教授 (令3.4)	
132	兼任	教授	ハマダ ミフ 濱田 美和 <令和4年4月>		修士(言 語・文化 学)		日本事情/芸術文化 日本事情/自然社会 日本語リテラシーⅠ 日本語リテラシーⅡ 日本語コミュニケーションⅢ	1前・後 1前・後 1前 1後 2前	2 2 1 1 1	1 1 1 1 1	富山大学 国際機構 教授 (平8.4)	
133	兼任	教授	ハヤシ セイイチ 林 誠一 <令和4年4月>		理学士		教職とこれからの教育※	1③	0.5	2	富山大学 大学院教職実践開発 研究科 教授 (令2.4)	
134	兼任	教授	ヒノ ユキオ 樋野 幸男 <令和4年4月>		文学修士		言語と文化	1前・後	2	1	富山大学 人文学部 教授 (平7.4)	
135	兼任	教授	ホリ エツロウ 堀 悦朗 <令和4年4月>		博士(医学)		医療心理学 概説医療心理学 脳科学入門 身近な医学	1前・後 1前・後 1前・後 1前・後	2 1 2 2	1 1 1 1	富山大学 医学部 教授 (平11.4)	
136	兼任	教授	ホリタ ユウコウ 堀田 裕弘 <令和4年4月>		博士(工学)		科学技術への扉-A 科学技術への扉-B 教養としての都市デザイン学	1前・後 1前・後 1前・後	2 2 2	1 1 1	富山大学 都市デザイン学部 教授 (平5.10)	
137	兼任	教授	マ ジュン 馬 駿 <令和4年4月>		博士(経済 学)		経営資源のとらえ方	1前・後	2	1	富山大学 経済学部 教授 (平10.10)	
138	兼任	教授	マツイ タカユキ 松井 隆幸 <令和4年4月>		経済学修士		現代文化 アカデミック・デザイン 万葉学	1前・後 1前・後 1前・後	2 2 2	1 1 1	富山大学 経済学部 教授 (平元.4)	
139	兼任	教授	マツダ ケンジ 松田 健二 <令和4年4月>		博士(工学)		技術と社会	1前・後	2	1	富山大学 都市デザイン学部 教授 (平7.4)	
140	兼任	教授	ミヤジマ ミツシ 宮島 光志 <令和4年4月>		文学修士		医療と地域社会	1前・後	2	1	富山大学 薬学部 教授 (平26.4)	
141	兼任	教授	モロズミ リョウコ 両角 良子 <令和4年4月>		博士(経済 学)		言語表現	1前・後	2	1	富山大学 経済学部 教授 (平18.4)	
142	兼任	教授	ヤマザキ ケイコ 山崎 けい子 <令和4年4月>		Master of Science in Education (M. S. Ed.) degree. (米 国)		日本語リテラシーⅠ 日本語リテラシーⅡ 日本語/専門研究	1前 1後 2後	1 1 1	1 1 1	富山大学 人文学部 教授 (平10.10)	
143	兼任	教授	ヨフコバシイ エレオ ノラ ヨフコバ四位 エレオノラ <令和4年4月>		博士(学術)		日本語コミュニケーションⅠ 日本語コミュニケーションⅡ	1前 1後	1 1	1 1	富山大学 教養教育院 教授 (平27.9)	
144	兼任	教授	ワダ ナオヤ 和田 直也 <令和4年4月>		博士(環境 科学)		日本海学	1前・後	2	1	富山大学 極東地域研究 センター 教授 (平7.8)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請 する 職務 従事 する 日数	に大 のに す 当 平 数
184	兼任	准教授	イケダ シンジ 池田 真治 <令和4年4月>		博士(文学)		哲学のすすめ	1前・後	2	1	富山大学 人文学部 准教授 (平24.4)		
185	兼任	准教授	イシダ マコト 石田 眞 <令和4年4月>		修士(法学)		経済生活と法	1前・後	2	1	富山大学 経済学部 准教授 (平19.10)		
186	兼任	准教授	イリエ コウジ 入江 幸二 <令和4年4月>		博士(文学)		富山大学学	1前・後	2	1	富山大学 人文学部 准教授 (平25.10)		
187	兼任	准教授	オオサカ ヒロシ 大坂 洋 <令和4年4月>		修士(経済 学)		富山から考える震災・復興学	1前・後	2	1	富山大学 経済学部 准教授 (平17.10)		
188	兼任	准教授	オキノ コウジ 沖野 浩二 <令和4年4月>		修士(工学)		情報処理	1前	2	1	富山大学 総合情報基盤 センター 准教授 (平17.10)		
189	兼任	准教授	オノヤスシ 小野 恭史 <令和4年4月>		博士(工学)		技術と社会	1前・後	2	1	富山大学 機器分析センター 准教授 (平21.4)		
190	兼任	准教授	オビタ タカユキ 帯田 孝之 <令和4年4月>		博士(薬学)		生命の世界	1前・後	2	1	富山大学 薬学部 准教授 (平22.3)		
191	兼任	准教授	カンワギ ケンジ 柏木 健司 <令和4年4月>		博士(理学)		デザインと生物	1前・後	2	1	富山大学 理学部 准教授 (平17.9)		
192	兼任	准教授	カタダリ タツオ 片桐 達雄 <令和4年4月>		医学博士		免疫学入門	1前・後	2	1	富山大学 教養教育院 准教授 (平13.9)		
193	兼任	准教授	カワサキ カズオ 川崎 一雄 <令和4年4月>		Ph. D. (Earth Sciences) (加国)		自然科学への扉-A	1前・後	2	1	富山大学 都市デザイン学部 准教授 (平23.10)		
194	兼任	准教授	サンノミヤ チカ 三宮 千佳 <令和4年4月>		博士(文学)		日本美術史 (美術理論含む) 美術表現A 美術表現B	2集中 1前・後 1前・後	2 2 2	1 1 1	富山大学 芸術文化学部 准教授 (平24.10)		
195	兼任	准教授	シマゾエ キミコ 島添 貴美子 <令和4年4月>		博士(音楽 学)		音楽	1前・後	2	1	富山大学 芸術文化学部 准教授 (令3.4)		
196	兼任	准教授	ジョウホ サトシ 上保 敏 <令和4年4月>		博士(学術)		朝鮮語基礎 I	1前	1	1	富山大学 人文学部 准教授 (平20.4)		
197	兼任	准教授	スキモリ タモツ 杉森 保 <令和4年4月>		博士(理学)		自然科学への扉-C SDGs入門	1前・後 1前・後	2 2	1 1	富山大学 教養教育院 准教授 (平16.10)		
198	兼任	准教授	スズキ コウシロウ 鈴木 晃志郎 <令和4年4月>		博士(理学)		地域の経済と社会・文化	1前・後	2	1	富山大学 人文学部 准教授 (平22.9)		
199	兼任	准教授	セロン ムラー Theron Muller <令和4年4月>		Ph. D. (Applied Linguistic s) (英国)		英作文 I (基礎) 英作文 II (応用) 英作文 III (応用) 英作文 IV (応用)	2① 2② 3① 3②	1 1 1 1	1 1 1 1	富山大学 教養教育院 准教授 (平23.10)		
200	兼任	准教授	タナカ ノブユキ 田中 信之 <令和4年4月>		博士(学術)		日本語コミュニケーション I 日本語コミュニケーション II	1前 1後	1 1	1 1	富山大学 国際機構 准教授 (平25.4)		
201	兼任	准教授	タニグチ ミキ 谷口 美樹 <令和4年4月>		博士(文学)		治療の文化史 ジェンダー	1前・後 1前・後	2 2	1 1	富山大学 教養教育院 准教授 (平12.8)		
202	兼任	准教授	ツボミ ヒロユキ 坪見 博之 <令和4年4月>		博士(文学)		こころの科学	1前・後	2	1	富山大学 人文学部 准教授 (平24.10)		
203	兼任	准教授	ノダ ヒデタカ 野田 秀孝 <令和4年4月>		修士福祉マ ネジメント		地域共生 (福祉) 論 I 地域共生 (福祉) 論 II スクールソーシャルワーク 論 I スクールソーシャルワーク 論 II	3① 3② 3③ 3④	1 1 1 1	1 1 1 1	富山大学 人間発達科学部 准教授 (平4.4)		
204	兼任	准教授	ハセガワ ハルオ 長谷川 春生 <令和4年4月>		博士(学校 教育学)		小学校プログラミング教育の理論と実践 I 小学校プログラミング教育の理論と実践 II 総合的な学習の時間教育論 I 総合的な学習の時間教育論 II	2③ 2④ 3① 3②	1 1 1 1	1 1 1 1	富山大学 大学院教職実践開発 研究科 准教授 (平24.4)		

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申 請 に 大 の に す 当 平 敷 る 等 務 事 週 り 日 均
205	兼任	准教授	ハヤシ ナツオ 林 夏生 <令和4年4月>		修士(学術)		人権と福祉	1前・後	2	1	富山大学 人文学部 准教授 (平10.10)	
206	兼任	准教授	ハヤシ マモル 林 衛 <令和4年4月>		修士理学		主権者教育のための批判的思考力・メディアリテラ シー 事例で学ぶ減災・防災教育論	2③ 3①	1 1	1 1	富山大学 人間発達科学部 准教授 (平4.4)	
207	兼任	准教授	フクダ ショウ 福田 翔 <令和4年4月>		博士(学術)		中国語基礎Ⅰ 中国語基礎Ⅱ 発展多言語演習中国語	1前 1後 2前	1 1 1	1 1 1	富山大学 教養教育院 准教授 (平27.4)	
208	兼任	准教授	マツヤマ ジュン 松山 淳 <令和4年4月>		博士(経済 学)		経済学概論	3①	1	1	富山大学 経済学部 准教授 (平27.4)	
209	兼任	准教授	ミズノ マリコ 水野 真理子 <令和4年4月>		博士(人 間・環境 学)		異文化間コミュニケーション とやま地域学	1前・後 1前・後	2 2	1 1	富山大学 教養教育院 准教授 (平26.4)	
210	兼任	准教授	ミヤタケ リュウタ 宮武 滝太 <令和4年4月>		博士(理学)		環境と安全管理	1前・後	2	1	富山大学 環境安全推進セン ター 准教授 (平7.10)	
211	兼任	准教授	ヨシダ ショウイチ 吉田 勝一 <令和4年4月>		博士(理学)		自然科学への扉-B	1前・後	2	1	富山大学 教養教育院 准教授 (平8.1)	
212	兼任	准教授	ワタナベ マサシ 渡邊 雅志 <令和4年4月>		芸術工学修 士		感性をほぐくむ	1前・後	2	1	富山大学 芸術文化学部 准教授 (平22.4)	
213	兼任	准教授	ワダ トモミ 和田 とも美 <令和4年4月>		문학박사 (韓国)		朝鮮語基礎Ⅱ 朝鮮語コミュニケーションⅠ 朝鮮語コミュニケーションⅡ	1後 1前 1後	1 1 1	1 1 1	富山大学 人文学部 准教授 (平11.4)	
245	兼任	講師	ウエキ サキコ 上木 佐季子 <令和4年4月>		教育学修士		情報処理	1前	2	1	富山大学 総合情報基盤 センター 講師 (平元.4)	
246	兼任	講師	オオハシ ハヤト 大橋 隼人 <令和4年4月>		博士(理学)		情報処理	1前	2	1	富山大学 教養教育院 講師 (平26.4)	
247	兼任	講師	オダ ユカリ 小田 夕香理 <令和4年4月>		Degree of Doctor of Philosophy (英国) 博士(英文 学)		外国文学	1前・後	2	1	富山大学 芸術文化学部 講師 (令3.4)	
248	兼任	講師	シオミ イサオ 塩見 一三男 <令和4年4月>		博士(工学)		地域ライフプラン 産業観光学 富山のものづくり概論 富山の地域づくり	1前・後 1前・後 1前・後 1前・後	2 2 2 2	1 1 1 1	富山大学 地域連携推進機構 講師 (平31.3)	
249	兼任	講師	タナベ ゲン 田邊 元 <令和4年4月>		博士(ス ポーツ科 学)		スポーツ文化論Ⅰ スポーツ文化論Ⅱ	3① 3②	1 1	1 1	富山大学 芸術文化学部 講師 (平29.10)	
250	兼任	講師	マツダ アイ 松田 愛 <令和4年4月>		文学修士		西洋美術史(美術理論含む)	2集中	2	1	富山大学 芸術文化学部 講師 (平25.9)	
267	兼任	講師	アガリオ シンヤ 上尾 信也 <令和4年4月>		学術博士		音楽史Ⅰ(西洋音楽) 音楽史Ⅱ(西洋音楽)	3①集中 3②集中	1 1	1 1	上野学園大学 音楽学部 教授 (平25.4)	
268	兼任	講師	イド ケイスケ 井戸 啓介 <令和4年4月>		博士(人間・ 環境学)		認知科学	1前・後	2	1	富山県立大学 工学部 講師 (平13.4)	
269	兼任	講師	オグラ タクロウ 小倉 拓郎 <令和4年4月>		修士(学術)		自然地理学Ⅰ 自然地理学Ⅱ	3① 3②	1 1	1 1	北海道大学大学院 地球環境科学研究 院 博士研究員 (令3.4.)	
270	兼任	講師	カジタ カズヒロ 梶田 和宏 <令和4年4月>		博士(ス ポーツ学)		球技(ベースボール型)Ⅰ 球技(ベースボール型)Ⅱ	3① 3②	0.5 0.5	1 1	京都先端科学大 学 教育開発セン ター 講師(嘱託) (令3.4)	
271	兼任	講師	カワバタ ケンジ 川端 健司 <令和4年4月>		教育学修士		武道BI(柔道) 武道BII(柔道)	2③ 2④	0.5 0.5	2 2	北陸大学 経済経営学部 准教授 (平23.4)	

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 (就任年月)	に大のにす当平数 申請する等務事週り日 に係学職従るた均
272	兼任	講師	サカイ アサミ 酒井 麻見 (立田 麻美) <令和4年4月>		専門学校卒		書写書道基礎Ⅰ 書写書道基礎Ⅱ	3③ 3④	1 1	1 1	富山大学 非常勤講師 (平4.4)	
273	兼任	講師	サカモト タロウ 坂本 太郎 <令和4年4月>		修士(芸術)		彫刻基礎Ⅱ (現代美術表現を含む)	2②集中	1	1	福井大学 教育学部 准教授 (平21.4)	
274	兼任	講師	ハヤセ ダイスケ 集瀬 大輔 <令和4年4月>		修士(教育学)		工芸基礎Ⅱ	2②	1	1	岐阜大学大学院 教育学研究科 准教授 (平30.4)	
275	兼任	講師	ヒラガ ケンタロウ 平賀 健太郎 <令和4年4月>		心理学博士		病弱児の教育	3集中	2	1	大阪教育大学 教育学部 准教授 (平16.4)	
276	兼任	講師	ミナト シチオ 湊 七雄 <令和4年4月>		芸術修士		絵画基礎Ⅱ (映像メディア表現・現代美術表現を含む)	2④集中	1	1	福井大学 教育学部 教授 (平18.4)	
277	兼任	講師	ヤマワキ(クチョウ) アユミ 山脇(九町) あゆみ <令和4年4月>		学術博士		水泳Ⅰ 水泳Ⅱ	3① 3②	0.5 0.5	1 1	金沢学院大学 人間健康学部 講師 (平23.4)	

教 員 の 氏 名 等												
(金沢大学人間社会学域学校教育学類共同教員養成課程)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申 請 に 係 属 する 職 務 の 従 事 日 数 (平 均)
20	専	教授	アンドウ ショウコウ 安藤 常光 <令和4年4月>		学士 (音楽)		卒業研究 音楽科基礎B(実践) 歌唱法I 歌唱法II 歌唱法III 歌唱法IV アンサンブルI(声楽) アンサンブルII(声楽) アンサンブルIII(声楽) 歌唱法演習I 歌唱法演習II 歌唱法演習III 歌唱法演習IV	4通 2② 2③ 2④ 3① 3② 2③ 3① 3③ 4① 4② 4③ 4④	4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平17.4)	5日
21	専	教授	イワ ヒデキ 岩田 英樹 <令和4年4月>		修士 (体育学)		卒業研究 体育科基礎A※ 初等体育科教育法I※ 初等体育科教育法II※ 学校保健I(教科横断で取り組む学校保健) 学校保健II(教科横断で取り組む学校保健) 保健体育科教育法I(石川県の教育実践を含む) 保健体育科教育法II(石川県の教育実践を含む) 学校保健演習A 学校保健演習B 学校保健演習C 学校保健演習D	4通 1③ 2① 2② 3① 3② 2① 2② 3① 3② 3③ 3④	4 0.5 0.2 0.2 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 人間科学系 教授 (平11.10)	5日
22	専	教授	オムラ マサキ 大村 雅章 <令和4年4月>		芸術学修士		卒業研究 図画工作科基礎B(実践)※ 絵画基礎I(映像メディア表現・現代美術表現を含む) 絵画I 絵画II 絵画III 絵画IV 美術実地研究 美術科教育法V※ 美術科教育法VI※ 美術科教育法VII※ 美術科教育法VIII※ 絵画制作研究I 絵画制作研究II 絵画制作研究III 絵画制作研究IV	4通 2④ 2③ 3① 3② 3③ 3④ 3② 3① 3② 3③ 3④ 4① 4② 4③ 4④	4 0.5 1 1 1 1 1 1 1 0.3 0.4 0.3 0.4 1 1 1 1	1 1 1 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平12.4)	5日
23	専	教授	オノ リュウタ 小野 隆太 <令和4年4月>		芸術学修士		卒業研究 音楽科基礎B(実践) ピアノ奏法I ピアノ奏法II ピアノ奏法III ピアノ奏法IV ピアノ奏法演習I ピアノ奏法演習II ピアノ奏法演習III ピアノ奏法演習IV	4通 2② 2③ 2④ 3③ 3④ 4① 4② 4③ 4④	4 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平11.9)	5日
24	専	教授	オリカワ ヲサ 折川 司 <令和4年4月>		修士 (学校教育学)		卒業研究 国語科基礎B(書写を含む)(地域の文学を含む)※ 初等国語科教育法I 初等国語科教育法II 石川県の教育実践I※ 書写書道基礎I 書写書道基礎II 国語科教育法I(石川県の教育実践を含む) 国語科教育法II(石川県の教育実践を含む) 国語科教育法V 国語科教育法VI 国語科教育法VII 国語科教育法VIII 国語科教育演習I 国語科教育演習II 国語科教育演習III 国語科教育演習IV 国語科実践研究I※ 国語科実践研究II※ 国語科実践研究III※ 国語科実践研究IV※	4通 1④ 2① 2② 2③ 3③ 3④ 2① 2② 3① 3② 3③ 3④ 3③ 3④ 4① 4② 4③ 4④ 3① 3② 4① 4②	4 0.3 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 0.5 0.5 0.5 0.5	1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平17.4)	5日

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請する等務事週り日 に大のにす当平敷
25	専	教授	カバタ ケイ子 川幡 佳一 <令和4年4月>		理学博士		アカデミックスキル※ 卒業研究 理科基礎B(実践)※ 理科内容C(生物多様性概論と現代理科教育) 理科内容C(一般生物学) 理科内容演習CⅠ(生物学) 理科内容演習CⅡ(生物学) 理科実験CⅠ(生物学) 理科実験CⅡ(生物学) 理科教育実践研究Ⅰ※ 理科教育実践研究Ⅱ※ 理科教育実践研究Ⅲ※ 理科教育実践研究Ⅳ※	1① 4通 2② 2② 2④ 3③ 3④ 3① 3② 3① 3② 4① 4②	0.6 4 0.2 1 1 1 1 0.5 0.5 0.2 0.2 0.2 0.2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平2.4)	5日
26	専	教授	クダガ 智 黒田 智 <令和4年4月>		博士(文学)		アカデミックスキル※ 卒業研究 社会科基礎B(高学年の社会科と現代の教育課題)※ 日本史学概論Ⅰ 日本史学概論Ⅱ 日本史学各論(古代・中世)Ⅰ 日本史学各論(古代・中世)Ⅱ 日本史学演習Ⅰ 日本史学演習Ⅱ 日本史学演習Ⅲ 日本史学演習Ⅳ 歴史学野外実習	1① 4通 2② 2① 2② 2③ 2④ 3① 3② 3③ 3④ 2通	0.2 4 0.4 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平22.10)	5日
27	専	教授	コバヤシ ヒロアキ 小林 宏明 <令和4年4月>		博士(心身障害学)		卒業研究 特別支援教育概論 保育内容(言葉)(言葉に関する現代的課題を含む) 発声発語支援法Ⅰ 発声発語支援法Ⅱ 障害児教育基礎論Ⅰ※ 障害児教育基礎論Ⅱ※ ことばの障害とコミュニケーションⅠ ことばの障害とコミュニケーションⅡ 言語障害指導法 障害児教育基礎演習Ⅰ 障害児教育基礎演習Ⅱ 特別支援教育演習	4通 1④ 2② 3① 3② 2① 2② 2③ 2④ 4② 2③ 2④ 3	4 1 1 1 1 0.1 0.1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平14.4)	5日
28	専	教授	サカヨリ アツシ 酒寄 淳史 <令和4年4月>		理学博士		卒業研究 理科基礎B(実践)※ 理科内容D(地球物質科学概論と現代理科教育) 理科内容D(一般地学) 理科内容演習DⅠ(地学) 理科内容演習DⅡ(地学) 理科実験DⅠ(地学) 理科実験DⅡ(地学) 理科教育実践研究Ⅰ※ 理科教育実践研究Ⅱ※ 理科教育実践研究Ⅲ※ 理科教育実践研究Ⅳ※	4通 2② 2① 2③ 3③ 3④ 3① 3② 3① 3② 4① 4②	4 0.4 1 1 1 1 0.5 0.5 0.2 0.2 0.2 0.2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (昭60.4)	5日
29	専	教授	カキガチ ケイコ 滝口 圭子 <令和4年4月>		博士(心理学)		卒業研究 石川県の教育実践Ⅰ※ 幼児と言葉 環境の指導法(現代的課題を踏まえた石川などの地域の保育実践と最新指導事例を含む) 幼児理解の理論と方法 幼児理解と相談支援 保育学概論Ⅰ(現代の保育学の諸問題を含む) 保育学概論Ⅱ(家庭看護含む) 保育学Ⅰ 保育学Ⅱ(実習を含む) 保育学演習Ⅰ 保育学演習Ⅱ 保育学演習Ⅲ 保育学演習Ⅳ	4通 2③ 2① 2① 2④ 2② 2① 2② 2③ 2④ 3③ 3④ 4① 4②	4 0.2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平23.10)	5日
30	専	教授	タシガリ コウイチ 滝沢 雄一 <令和4年4月>		修士(教育学)		卒業研究 英語科基礎A(理論)※ 英語科基礎B(実践)※ 初等英語科教育法Ⅰ 初等英語科教育法Ⅱ 石川県の教育実践Ⅱ※ 英語科教育法Ⅲ(石川県の教育実践を含む) 英語科教育法Ⅳ(石川県の教育実践を含む) 英語科教育法Ⅴ 英語科教育法Ⅵ 英語科教育法Ⅶ 英語科教育法Ⅷ 英語科教育法ⅧⅠ 英語教育学特別演習Ⅰ 英語教育学特別演習Ⅱ	4通 2③ 2④ 3① 3② 2④ 2③ 2④ 3① 3② 3③ 3④ 4③ 4④	4 0.3 0.3 1 1 0.2 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平24.4)	5日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請する職務従事日数 に大のにす平均
31	専	教授	タイリタル 武居 渡 <令和4年4月>		博士 (心身障害学)		卒業研究 聴覚障害の心理・生理・病理Ⅰ(教育・医療・福祉の 機関連携を含む) 聴覚障害の心理・生理・病理Ⅱ(教育・医療・福祉の 機関連携を含む) 聴覚障害教育課程論Ⅰ 聴覚障害教育課程論Ⅱ 聴覚障害指導法Ⅰ 聴覚障害指導法Ⅱ 手話序論Ⅰ 手話序論Ⅱ 障害児教育基礎論Ⅰ※ 障害児教育基礎論Ⅱ※ 障害児教育基礎演習Ⅰ 障害児教育基礎演習Ⅱ 特別支援教育学演習	4通 2③ 2④ 3① 3② 3③ 3④ 2① 2② 2① 2② 2③ 2④ 3	4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平11.10)	5日
32	専	教授	ツノイヒロキ 辻井 宏之 <令和4年4月>		博士 (理学)		卒業研究 理科基礎B(実践)※ 理科内容A(電磁気学概論と現代理科教育) 理科内容A(一般物理学) 理科内容演習AⅠ(物理学) 理科内容演習AⅡ(物理学) 理科実験AⅠ(物理学) 理科実験AⅡ(物理学) 理科教育実践研究Ⅰ※ 理科教育実践研究Ⅱ※ 理科教育実践研究Ⅲ※ 理科教育実践研究Ⅳ※	4通 2② 2③ 2④ 3③ 3④ 3① 3② 3① 4① 4②	4 0.2 1 1 1 0.5 0.5 0.2 0.2 0.2 0.2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平21.4)	5日
33	専	教授	トイタコ 土井 妙子 <令和4年4月>		修士 (教育学)		アカデミックスキル※ 卒業研究 総合的な学習の時間教育論Ⅰ 総合的な学習の時間教育論Ⅱ 生活科基礎B(実践) 初等生活科教育法Ⅰ 初等生活科教育法Ⅱ 石川県の教育実践Ⅱ※ 教育・心理基礎論A※ 教育・心理基礎論B※ 教育学・心理学演習A 教育学・心理学演習B	1① 4通 3① 3② 3① 3① 3② 2④ 3① 3② 3③ 3④	0.2 4 1 1 1 1 1 0.2 0.1 0.3 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平18.10)	5日
34	専	教授	トイ(カノ)カズヨ 鳥居(梶野)和代 <令和4年4月>		博士 (社会科学)		アカデミックスキル※ 卒業研究 教育の思想と歴史(日本) 教職と学校※ 教育・心理基礎論A※ 教育・心理基礎論B※ 教育学・心理学演習A 教育学・心理学演習B	1① 4通 1④ 1④ 3① 3② 3③ 3④	0.6 4 1 0.2 0.3 0.3 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平19.10)	5日
35	専	教授	ハカガリカズキ 長谷川 和志 <令和4年4月>		博士 (理学)		大学・社会生活論 データサイエンス基礎 アカデミックスキル※ 卒業研究 幾何学概論Ⅰ(幾何学と現代の数学教育を含む) 幾何学概論Ⅱ(幾何学と現代の数学教育を含む) 線形空間論Ⅰ 線形空間論Ⅱ 曲線論 曲面論 位相空間論 可微分多様体論 確率論概論(確率論と現代の数学教育を含む) 統計学概論(統計学と現代の数学教育を含む) 論理学 集合論	1① 1① 1① 4通 2① 2② 3① 3② 3③ 3④ 2③ 2④ 3① 3②	1 1 0.2 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平21.4)	5日
36	専	教授	マサカズミ 増田 和実 <令和4年4月>		博士 (体育科学)		卒業研究 体育科基礎B(実践)※ 球技(ゴール型)AⅠ(サッカー) 球技(ゴール型)AⅡ(サッカー) 運動生理学Ⅰ(海外の先端事情を含む) 運動生理学Ⅱ(海外の先端事情を含む) 運動生理学演習A 運動生理学演習B 運動生理学演習C 運動生理学演習D	4通 2③ 3① 3② 2③ 2④ 3① 3② 3③ 3④	4 0.2 0.5 0.5 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 人間科学系 教授 (平14.1)	5日
37	専	教授	マツハラミチ 松原 道男 <令和4年4月>		博士 (教育学)		アカデミックスキル※ 卒業研究 初等理科教育法Ⅰ 初等理科教育法Ⅱ 石川県の教育実践Ⅰ※ 理科教育法Ⅰ(石川県の教育実践を含む) 理科教育法Ⅱ(石川県の教育実践を含む) 理科教育法Ⅴ 理科教育法Ⅵ 理科教育法Ⅶ 理科教育法Ⅷ 理科教育演習Ⅰ 理科教育演習Ⅱ 理科教育実践研究Ⅰ※ 理科教育実践研究Ⅱ※ 理科教育実践研究Ⅲ※ 理科教育実践研究Ⅳ※	1① 4通 2③ 2④ 2③ 2① 2② 3① 3② 3③ 3④ 4① 4② 3① 3② 4① 4②	0.2 4 1 1 0.2 1 1 1 1 1 1 1 1 0.2 0.2 0.2 0.2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (昭62.4)	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申 請 に 大 の に す 当 平 均
38	専	教授	ムライ アツシ 村井 淳志 <令和4年4月>		文学修士※		卒業研究 初等社会科教育法Ⅰ 初等社会科教育法Ⅱ 石川県の教育実践Ⅰ※ 社会科・地歴科教育法Ⅰ(北陸の教育実践を含む) 社会科・地歴科教育法Ⅱ(北陸の教育実践を含む) 社会科・地歴科教育法Ⅲ 社会科・地歴科教育法Ⅳ 社会科・公民科教育法Ⅲ 社会科・公民科教育法Ⅳ	4通 2③ 2④ 2③ 2① 2② 3① 3② 3③ 3④	4 1 1 0.3 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平1.10)	5日
39	専	教授	モリヤ テツハル 守屋 哲治 <令和4年4月>		文学修士		学域GS言語科目Ⅰ 学域GS言語科目Ⅱ 卒業研究 教職実践演習(幼・小・中・高)※ 英語科基礎A(理論)※ 英語科基礎B(実践)※ 国際化と学校教育Ⅰ 国際化と学校教育Ⅱ 英語学概論III(応用) 英語学概論IV(応用) 英語音声学・文法Ⅰ 英語音声学・文法Ⅱ 英語学演習Ⅰ(個別理論) 英語学演習Ⅱ(個別理論) 英会話Ⅰ(基礎) 英会話Ⅱ(応用) 英会話III(応用) 英会話Ⅳ(応用) 英語学特別演習Ⅰ 英語学特別演習Ⅱ	2① 2② 4通 4③・④ 2③ 2④ 2③ 2④ 3① 3② 2③ 2④ 3③ 3④ 2③ 2④ 3③ 3④ 3③ 3④	1 1 4 0.4 0.2 0.2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平5.4)	5日
40	専	教授	ヤマモト エイスケ 山本 英輔 <令和4年4月>		博士 (哲学)		卒業研究 社会科基礎B(高学年の社会科と現代的教育課題)※ 哲学概論Ⅰ(哲学と現代的教育状況) 哲学概論Ⅱ(哲学と現代的教育状況) 倫理学Ⅰ(現代応用倫理学を含む) 倫理学Ⅱ(現代応用倫理学を含む) 宗教学Ⅰ 宗教学Ⅱ 哲学史Ⅰ 哲学史Ⅱ 哲学演習Ⅰ 哲学演習Ⅱ	4通 2② 2① 2② 3③ 3④ 3① 3② 3① 3② 3③ 3④	4 0.2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平23.4)	5日
41	専	教授	ヤマモト タカ 山本 卓 <令和4年4月>		修士 (文学)		学域GS言語科目Ⅰ 学域GS言語科目Ⅱ 卒業研究 英語科基礎B(実践)※ 英語文学概論I(イギリス文学と現在の英語教育) 英語文学概論III(イギリス) 英語文学演習Ⅰ(イギリス) 英語文学演習Ⅲ(イギリス) 英語文学特別演習Ⅰ 英語文学特別演習Ⅱ 英語科教育実践研究Ⅱ	2① 2② 4通 2④ 2① 2② 3① 3② 4③ 4④ 4①	1 1 4 0.5 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平9.4)	5日
42	専	教授	ヨシカワ カズヨシ 吉川 一義 <令和4年4月>		博士 (教育学)		卒業研究 肢体不自由教育論Ⅰ(教育の現代的課題を含む) 肢体不自由教育論Ⅱ(教育の現代的課題を含む) 障害児教育基礎論Ⅰ※ 障害児教育基礎論Ⅱ※ 重複障害児教育Ⅰ 重複障害児教育Ⅱ 障害児教育基礎演習Ⅰ 障害児教育基礎演習Ⅱ 特別支援教育演習	4通 3③ 3④ 2① 2② 3① 3② 2③ 2④ 3	4 1 1 0.4 0.4 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平14.4)	5日
43	専	教授	ヨシダ リキオ 米田 力生 <令和4年4月>		博士 (理学)		卒業研究 初等算数科教育法Ⅱ※ 解析学概論Ⅰ 解析学概論Ⅱ 解析学Ⅰ 解析学Ⅱ 回帰分析 数学科教育法VI※ 数学科教育法VII※ 数学科教育法VIII 算数・数学科授業論	4通 2④ 2① 2② 2③ 2④ 4③ 3② 4③ 4④ 4②	4 0.2 1 1 1 1 1 0.5 0.5 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平28.4)	5日
44	専	教授	ワヤマ ヤスシ 鷺山 靖 <令和4年4月>		教育学修士		卒業研究 図画工作科基礎B(実践)※ 初等図画工作科教育法Ⅰ※ 石川県の教育実践Ⅱ※ 保育内容(表現)(表現に関する現代的課題を含む)※ 工芸基礎Ⅰ 美術実地研究 美術科教育法Ⅰ(石川県の教育実践を含む) 美術科教育法Ⅱ(石川県の教育実践を含む) 美術科教育法V※ 美術科教育法VI※ 美術科教育法VII※ 美術科教育法VIII※ 造形教育演習Ⅰ 造形教育演習Ⅱ 造形教育演習Ⅲ 造形教育演習Ⅳ	4通 2④ 3① 2④ 2④ 2① 3② 2① 2② 3① 3② 3③ 3④ 4① 4② 4③ 4④	4 0.5 0.5 0.3 0.8 1 1 1 1 0.2 0.6 0.2 0.6 1 1 1 1	1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平11.4)	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申 請 の 大 に す る 等 務 事 週 り 日 均
45	専	教授	ワカヒネ トモ 綿引 伴子 <令和4年4月>		教育学修士		ジェンダーと教育 卒業研究 初等家庭科教育法Ⅰ 初等家庭科教育法Ⅱ 石川県の教育実践Ⅰ※ 家庭科教育法Ⅲ(石川県の教育実践を含む) 家庭科教育法Ⅳ(石川県の教育実践を含む) 家庭科教育法Ⅴ 家庭科教育法Ⅵ 家庭科教育法Ⅶ 家庭科教育法Ⅷ 家庭科教育演習Ⅰ 家庭科教育演習Ⅱ 家庭科教育演習Ⅲ 家庭科教育演習Ⅳ	1③・④ 4通 2① 2② 2③ 2④ 3① 3② 3③ 3④ 4① 4② 4③ 4④	1 4 1 1 0.2 1 1 1 1 1 1 1 1	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 (平6.7)	5日
64	専	准教授	アサヒ(ハバ)アキコ 浅井(橋場)暁子 <令和4年4月>		Master of Arts (米国)		芸術と自己表現 卒業研究 音楽科基礎B(実践) ソルフェージュⅠ ソルフェージュⅡ 指揮法 音楽理論及び和声学(作曲・編曲を含む)Ⅰ 音楽理論及び和声学(作曲・編曲を含む)Ⅱ 音楽理論及び和声学(作曲・編曲を含む)Ⅲ 音楽理論及び和声学(作曲・編曲を含む)Ⅳ 作曲(編曲を含む)演習Ⅰ 作曲(編曲を含む)演習Ⅱ 作曲(編曲を含む)演習Ⅲ 作曲(編曲を含む)演習Ⅳ	1①・②・③・④ 4通 2② 2① 2② 4①・② 2① 2② 2③ 2④ 4① 4② 4③ 4④	2 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平19.5)	5日
65	専	准教授	アサヒ アツシ 浅川 淳司 <令和4年4月>		博士(心理 学)		卒業研究 発達と教育(自己創出としての発達) 幼児と健康 幼児と人間関係(社会性の発達と現代的課題) 保育内容(人間関係) 人間関係の指導法 発達心理学Ⅰ 発達心理学Ⅱ 乳幼児心理学特講Ⅰ 乳幼児心理学特講Ⅱ 乳幼児心理学演習Ⅰ 乳幼児心理学演習Ⅱ	4通 2① 2③ 2① 2③ 2④ 3③ 3④ 3① 3② 3③ 3④	4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平26.4)	5日
66	専	准教授	イノマエ マコト 飯島 洋 <令和4年4月>		修士 (文学)		アカデミックスキル※ 卒業研究 国語科基礎B(書写を含む)(地域の文学を含む)※ 日本文学演習Ⅲ 日本文学演習Ⅳ 日本近現代文学Ⅰ 日本近現代文学Ⅱ 日本文学史Ⅱ(教育上の現代的課題を含む) 日本文学講読Ⅰ 日本文学講読Ⅱ 国語科実践研究Ⅰ※ 国語科実践研究Ⅱ※ 国語科実践研究Ⅲ※ 国語科実践研究Ⅳ※	1① 4通 1④ 3③ 3④ 2① 2② 2② 3① 3② 3① 3② 4① 4②	0.2 4 0.5 1 1 1 1 1 1 0.3 0.3 0.3 0.3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平23.10)	5日
67	専	准教授	イカミ カズキ 池上 貴之 <令和4年4月>		修士 (教育学) ・ Magisterex amen(Degre e of Master of Fine Arts in Design) (瑞国)		卒業研究 図画工作科基礎B(実践)※ 初等図画工作科教育法Ⅱ※ デザイン基礎Ⅰ(映像メディア表現・現代美術表現を含む) デザインⅠ デザインⅡ デザインⅢ デザインⅣ 美術実地研究 美術科教育法Ⅴ※ 美術科教育法Ⅵ※ 美術科教育法Ⅶ※ 美術科教育法Ⅷ※ デザイン制作研究Ⅰ デザイン制作研究Ⅱ デザイン制作研究Ⅲ デザイン制作研究Ⅳ	4通 2④ 3② 2③ 3① 3② 3③ 3④ 3② 3① 3② 3③ 3④ 4① 4② 4③ 4④	4 0.5 0.5 1 1 1 1 1 0.3 0.4 0.3 0.4 1 1 1 1	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平25.4)	5日
68	専	准教授	イシカワ カコ 石川 多加子 <令和4年4月>		法学修士※		卒業研究 社会科基礎B(高学年の社会科と現代的教育課題)※ 法律学概論Ⅰ 法律学概論Ⅱ 法律学各論Ⅰ 法律学各論Ⅱ 法律学演習Ⅲ 法律学演習Ⅳ	4通 2② 2③ 2④ 3① 3② 3③ 3④	4 0.2 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 2 2 2	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平17.10)	5日
69	専	准教授	イトウ シンヤ 伊藤 伸也 <令和4年4月>		修士 (理学) ・ 修士 (教育学)		卒業研究 算数科基礎B(高学年) 初等算数科教育法Ⅰ 初等算数科教育法Ⅱ※ 石川県の教育実践Ⅰ※ 数学科教育法Ⅲ(石川県の教育実践を含む) 数学科教育法Ⅳ(石川県の教育実践を含む) 数学科教育法Ⅴ 数学科教育法Ⅵ※ 数学科教育法Ⅶ※ 算数・数学科教育論	4通 2② 2③ 2④ 2③ 2③ 2④ 3① 3② 3③ 3④ 4①	4 1 1 0.8 0.2 1 1 1 0.5 0.5 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平21.10)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申 請 に 大 の に す 当 平 均
76	専	准教授	ハラダ アイ 原田 愛 <令和4年4月>		博士 (文学)		卒業研究 国語科基礎B(書写を含む)(地域の文学を含む)※ 漢文学概論I(教育上の現代的課題を含む) 漢文学概論II(教育上の現代的課題を含む) 漢文学演習I 漢文学演習II 漢文学演習III 漢文学講義I 漢文学講義II 国語科実践研究I※ 国語科実践研究II※ 国語科実践研究III※ 国語科実践研究IV※	4通 14 2③ 2④ 3③ 3④ 4① 4② 3① 3② 4① 4②	4 0.1 1 1 1 1 1 1 0.1 0.1 0.1 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平27.4)	5日
77	専	准教授	ハラダ カミ 原田 克巳 <令和4年4月>		修士 (教育学) ※		卒業研究 教職と学校※ 学校カウンセリング 青年心理学 教育・心理基礎論A※ 教育・心理基礎論B※ 教育学・心理学演習A 教育学・心理学演習B	4通 14 2② 3③ 3① 3② 3③ 3④	4 0.1 1 1 0.1 0.1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平15.8)	5日
78	専	准教授	ヒラシ コウキ 平石 晃樹 <令和4年4月>		Docteur en Philosophie (仏国)		卒業研究 教職と学校※ 道徳教育論(指導法) 教育・心理基礎論A※ 教育・心理基礎論B※ 教育学・心理学演習A 教育学・心理学演習B	4通 14 3② 3① 3② 3③ 3④	4 0.3 1 0.1 0.1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平28.4)	5日
79	専	准教授	ホンジ ヨ(エンドウ)ミ 本所(遠藤) 恵 <令和4年4月>		博士 (教育学)		学域GS言語科目I 学域GS言語科目II 卒業研究 教職と学校※ 現在をつくる教育課程 教育方法探究 学校インターンシップII(幼・小) 学校インターンシップII(中・高)	2① 2② 4通 14 2③・④ 3② 2①~④ 2①~④	1 1 4 0.1 1 1 2 2	1 1 1 1 2 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平24.4)	5日
80	専	准教授	モリ ヨシエ 森 慶恵 <令和4年4月>		博士 (教育学)		卒業研究 教職と学校※ 石川県の教育実践II※ 保育内容(健康)(健康に関する現代的課題を含む)	4通 14 2④ 2④	4 0.1 0.2 1	1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (令2.4)	5日
81	専	准教授	モリシマ ミチ 森島 美佳 <令和4年4月>		博士 (工学)		卒業研究 家庭科基礎B(被服・家庭経営と現代の教育課題)※ 家庭科基礎C(実習) 被服学概論I(現代の女生活の諸問題を含む) 被服学概論II 被服構成実習 被服科学実験 被服学演習I 被服学演習II 被服学演習III 被服学演習IV	4通 14 2① 2③ 2④ 3① 3② 3③ 3④ 4① 4②	4 0.5 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 2 2 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平27.4)	5日
82	専	准教授	ヤマダ テツ 山田 哲 <令和4年4月>		博士 (体育科学)		卒業研究 体育科基礎B(実践)※ 保育内容(表現)(表現に関する現代的課題を含む)※ 体操I 体操II 器械運動I 器械運動II バイオメカニクスI バイオメカニクスII バイオメカニクス演習A バイオメカニクス演習B バイオメカニクス演習C バイオメカニクス演習D	4通 2③ 2④ 2① 2② 2① 2② 2③ 2④ 3① 3② 3③ 3④	4 0.8 0.2 0.5 0.5 0.5 1 1 1 1 1 1	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平25.4)	5日
83	専	准教授	ヨコヤマ タケシ 横山 剛士 <令和4年4月>		博士 (教育学)		卒業研究 体育科基礎A※ 初等体育科教育法I※ 初等体育科教育法II※ 石川県の教育実践II※ 球技(ネット型)A I(バレーボール) 球技(ネット型)A II(バレーボール) 保健体育科教育法V 保健体育科教育法VI 保健体育科教育演習A 保健体育科教育演習B 保健体育科教育演習C 保健体育科教育演習D	4通 1③ 2① 2② 2④ 3① 3② 3① 3② 3③ 3④	4 0.5 0.8 0.8 0.2 0.5 0.5 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平25.10)	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請 に係る 職務 従事 した 日数	に大 のに す 当 平 均
84	専	准教授	ヨシタ ケミツ 吉田 国光 <令和4年4月>		博士 (理学)		地域概論 卒業研究 社会科基礎B (高学年の社会科と現代の教育課題) ※ 人文地理学概論Ⅰ 人文地理学概論Ⅱ 地誌学Ⅰ 地誌学Ⅱ 地理学各論Ⅰ 地理学各論Ⅱ 地理学演習Ⅰ 地理学演習Ⅱ 地理学演習Ⅲ 地理学演習Ⅳ 地理学野外実習	1① 4通 2② 2① 2② 2③ 2④ 2③ 2④ 3① 3② 3③ 3④ 2①・②	1 4 0.2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平24.1)	5日	
85	専	准教授	ヨシムラ ユウコ 吉村 優子 <令和4年4月>		博士 (小児発達 学)		卒業研究 知的障害児の心理・生理・病理Ⅰ 知的障害児の心理・生理・病理Ⅱ 障害児教育基礎論Ⅰ※ 障害児教育基礎論Ⅱ※ 発達障害指導法Ⅰ 発達障害指導法Ⅱ 発達障害総論 障害児教育基礎演習Ⅰ 障害児教育基礎演習Ⅱ 特別支援教育学演習	4通 2① 2② 2① 2② 3③ 3④ 4① 2③ 2④ 3	4 1 1 0.1 0.1 1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平27.4)	5日	
97	専	講師	コマツカ (チロ) サカ 小松田(佐藤)沙 也加 <令和4年4月>		博士 (理学)		卒業研究 理科基礎B (実践) ※ 理科内容B (無機化学概論と現代理科教育) 理科内容B (物性化学) 理科内容演習BⅠ (化学) 理科内容演習BⅡ (化学) 理科実験BⅠ (化学) 理科実験BⅡ (化学) 理科教育実践研究Ⅰ※ 理科教育実践研究Ⅱ※ 理科教育実践研究Ⅲ※ 理科教育実践研究Ⅳ※	4通 2② 2① 2② 3③ 3④ 3① 3② 3① 3② 4① 4②	4 0.2 1 1 1 1 0.5 0.5 0.2 0.2 0.2 0.2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 講師 (平31.4)	5日	
145	兼任	教授	アキタ ジュンイチ 秋田 純一 <令和4年4月>		博士 (工学)		イノベーションを起こして、起業家になろう1 イノベーションを起こして、起業家になろう3	1① 1③	1 1	1 1	金沢大学 理工研究域 電子情報通信学系 教授 (平10.4)		
146	兼任	教授	アサヒ ヒロヒコ 足立 英彦 <令和4年4月>		Doctor dre Rechte(独 国)		人文社会科学における法	1④	1	1	金沢大学 人間社会研究域 法学系 教授 (平23.4)		
147	兼任	教授	アサヒ ユミ 足立 由美 <令和4年4月>		博士 (医学)		健康論実践E	1④	1	1	金沢大学 保健管理センター 教授 (平18.10)		
148	兼任	教授	イハラ (シバタ) アカネ 市原(柴田) あかね <令和4年4月>		農学博士		地域創造学1	2①	1	1	金沢大学 人間社会研究域 経済学経営学系 教授 (平17.6)		
149	兼任	教授	イノエ コウジ 入江 浩司 <令和4年4月>		修士 (文学) ※		ギリシア語A1-1 ギリシア語A1-2 ギリシア語A2-1 ギリシア語A2-2 ギリシア語A3-1 ギリシア語A3-2 ギリシア語A4-1 ギリシア語A4-2	1① 1② 1③ 1④ 2① 2② 2③ 2④	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平11.4)		
150	兼任	教授	ウエダ ノブム 上田 望 <令和4年4月>		博士 (文学)		グローバル時代の文学	1①・②・③・④	14	14	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平9.7)		
151	兼任	教授	エノキ ノブム 江藤 望 <令和4年4月>		修士 (教育学)		図画工作科基礎B (実践) ※ 初等図画工作科教育法Ⅰ ※ 初等図画工作科教育法Ⅱ ※ SDGs教育実践演習Ⅰ SDGs教育実践演習Ⅱ 彫刻基礎Ⅰ (現代美術表現を含む) 彫刻Ⅰ 彫刻Ⅱ 彫刻Ⅲ 彫刻Ⅳ 美術実地研究 美術科教育法Ⅴ ※ 美術科教育法Ⅵ ※ 美術科教育法Ⅶ ※ 美術科教育法Ⅷ ※ 彫刻制作研究Ⅰ 彫刻制作研究Ⅱ 彫刻制作研究Ⅲ 彫刻制作研究Ⅳ	2④ 3① 3② 3① 3② 2① 3① 3② 3③ 3④ 3② 3① 3② 3③ 3④ 3② 3① 3② 3③ 3④ 3② 4① 4② 4③ 4④	0.5 0.5 0.5 1 1 1 1 1 1 1 1 0.3 0.4 0.3 0.4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 1 1 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平13.10)		

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請 に係る 職務 に 関する 日
152	兼任	教授	オカダ アキラ 太田 亨 <令和4年4月>		修士 (文学)		講義の聴解A 講義の聴解B 日本語で学ぶ論理A 日本語で学ぶ論理B 異文化理解のためのビデオ会議ディスカッション	1①・③ 1②・④ 1①・③ 1②・④ 1③	2 2 1 1 1	2 2 1 1 1	金沢大学 国際機構 教授 (平10.4)	
153	兼任	教授	オオバ カナ 大畷 加奈 <令和4年4月>		Ph. D. (英国)		English for Academic Purposes I English for Academic Purposes II English for Academic Purposes III English for Academic Purposes IV English for Academic Purposes (Retake)	1① 1② 1③ 1④ 2①・②・③・④	2 4 4 4 4	2 4 4 4 4	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 教授 (平8.3)	
154	兼任	教授	オカガ ヒロシ 岡田 浩 <令和4年4月>		修士 (政治学)		計量政治分析実習	3③	2	1	金沢大学 人間社会研究域 法学系 教授 (平20.4)	
155	兼任	教授	カネチ ヤスカ 垣内 康孝 <令和4年4月>		博士 (学術)		科学技術と科学方法論	1①・②・③・④	11	11	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平27.11)	
156	兼任	教授	カヤ コウイチ 粕谷 雄一 <令和4年4月>		文学修士		フランス語B-1 フランス語B-2 フランス語C-1 フランス語C-2 ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界1 ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界2	2①・③ 2②・④ 2③ 2④ 1③ 1④	3 3 4 4 1 1	3 3 4 4 1 1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平3.4)	
157	兼任	教授	コハヤシ(利)エミコ 小林(堀井) 恵 美子 <令和4年4月>		Ph. D. (米国)		異文化間コミュニケーション	1①・②・③・④	13	13	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平17.10)	
158	兼任	教授	サカエ マチコ 寒河江 雅彦 <令和4年4月>		博士 (理学)		情報処理	2④	1	1	金沢大学 人間社会研究域 経済学経営学系 教授 (平20.9)	
159	兼任	教授	サカモト ジロウ 坂本 二郎 <令和4年4月>		博士 (学術)		デザイン思考入門	1①・②・③・④	4	4	金沢大学 設計製造技術研究所 教授 (昭63.4)	
160	兼任	教授	サカミ りり子 阪上 りり子 <令和4年4月>		Docteur de l'universi te de paris- sorbonne (仏国)		フランス語A(充実クラスI-1) フランス語A(充実クラスI-2)	1③ 1④	1 1	1 1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平14.4)	
161	兼任	教授	サカワ テツヤ 佐川 哲也 <令和4年4月>		教育学修士		地元学A(地域資源調査) 地元学B(聞き書き) ゼミ/角間の里山づくり 春編 ゼミ/角間の里山づくり 秋編	1① 1② 1① 1③	1 1 1 1	1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 人間科学系 教授 (平5.4)	
162	兼任	教授	サカタ シノブ 澤田 茂保 <令和4年4月>		博士 (情報科学)		TOEIC準備(演習)	2①・②・③・④	4	4	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 教授 (平8.2)	
163	兼任	教授	スズキ ノブオ 鈴木 信雄 <令和4年4月>		博士 (理学)		海洋生化学演習	1①	2	1	金沢大学 環日本海域環境 研究センター 教授 (平7.4)	
164	兼任	教授	タカヤマ トモキ 高山 知明 <令和4年4月>		博士 (言語学)		クリティカル・シンキング 日本語史I 日本語史II	1①・②・③・④ 2③ 2④	4 1 1	4 1 1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平成11.4)	
165	兼任	教授	タノ カキヒ 滝野 隆久 <令和4年4月>		博士 (医学)		細胞・分子生物学	1①・②・③・④	10	10	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平11.10)	
166	兼任	教授	タケノ キミコ 武田 公子 <令和4年4月>		博士 (経済学)		防災学入門	1集中	2	1	金沢大学 人間社会研究域 経済学経営学系 教授 (平17.10)	
167	兼任	教授	タベ ヒロシ 田邊 浩 <令和4年4月>		文学修士		地域創造学特別講義C 地域創造学特別講義D	1③ 1④	1 1	1 1	金沢大学 人間社会研究域 人間科学系 教授 (平9.4)	
168	兼任	教授	タニ イミ 玉井 郁巳 <令和4年4月>		薬学博士		アントレプレナーシップI 実践アントレプレナー学 コーヒーと社会 コーヒーと科学	1③ 1③ 1③ 1④	1 1 1 1	1 1 1 1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 教授 (昭和57.9)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	に大の にす 請る 等務 事週 り日 均
169	兼任	教授	ワカキ シンジ 塚脇 真二 <令和4年4月>		理学博士		地学実験 英国諸島の地史Ⅰ 英国諸島の地史Ⅱ 環境動態学概説Ⅰ 環境動態学概説Ⅱ	1②～③ 1② 1③ 1③ 1④	4 1 1 1 1	2 1 1 1 1	金沢大学 環日本海域環境 研究センター 教授 (平6.4)	
170	兼任	教授	トノキ マコト 轟 亮 <令和4年4月>		人間科学修 士		現代日本の文化と社会	2①	1	1	金沢大学 人間社会研究域 人間科学系 教授 (平23.1)	
171	兼任	教授	ナム シンニョン 南 相穂 <令和4年4月>		文学修士 ※		金沢・能登と世界の地域文化 朝鮮語A1-1 朝鮮語A1-2 朝鮮語A2-1 朝鮮語A2-2 朝鮮語A3-1 朝鮮語A3-2 朝鮮語A4-1 朝鮮語A4-2 朝鮮語B-1 朝鮮語B-2 朝鮮語C-1 朝鮮語C-2	1②・③・④ 1① 1② 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④ 2①・③ 2②・④ 2①・③ 2②・④	8 3 3 3 3 3 3 3 3 2 2 2 2	8 3 3 3 3 3 3 3 3 2 2 2 2	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平4.4)	
172	兼任	教授	ヒラノ ナギ 平瀬 直樹 <令和4年4月>		博士 (文学)		日本史要説	2①～②	2	1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平8.7)	
173	兼任	教授	フカチ ノブミ 深澤 のぞみ <令和4年4月>		博士 (学術)		アカデミック基礎日本語A アカデミック基礎日本語B	1① 1②	1 1	1 1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平20.4)	
174	兼任	教授	フルイ ダイスケ 古市 大輔 <令和4年4月>		博士 (文学)		東洋史学概論Ⅰ 東洋史学概論Ⅱ	3③ 3④	1 1	1 1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平25.12)	
175	兼任	教授	フルハツ トオル 古畑 徹 <令和4年4月>		文学修士 ※		石川県の市町 金沢の歴史と文化 東洋史要説	1①～② 1③～④ 2③～④	2 2 2	1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平2.4)	
176	兼任	教授	ホイ ユウスケ 堀井 祐介 <令和4年4月>		博士 (言語文化 学)		道徳教育および宗教教育をグローバルに考える 大学・学問論	1④ 1④	1 1	1 1	金沢大学 教学マネジメントセ ンター 教授 (平3.4)	
177	兼任	教授	マツイ ミチ 松井 三枝 <令和4年4月>		博士 (医学)		価値と情動の認知科学	1①・②・③・④	8	8	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平28.9)	
178	兼任	教授	シラ ナメ 三浦 要 <令和4年4月>		博士 (文学)		哲学(自我論) ギリシア語B-1 ギリシア語B-2 ギリシア語C-1 ギリシア語C-2	1①・②・③・④ 3① 3② 3③ 3④	11 1 1 1 1	11 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 人間科学系 教授 (平13.4)	
179	兼任	教授	ミネ マサシ 峯 正志 <令和4年4月>		文学修士 ※		口頭発表A 口頭発表B 日本事情A 日本事情B	1①・③ 1②・④ 1①・③ 1②・④	2 2 2 2	2 2 2 2	金沢大学 国際機構 教授 (平8.12)	
180	兼任	教授	モリ マサヒデ 森 雅秀 <令和4年4月>		Ph.D (英国)		世界遺産学 イメージの比較文化学	1④ 1③	1 1	1 1	金沢大学 人間社会研究域 人間科学系 教授 (平19.4)	
181	兼任	教授	ヤマザキ トモヤ 山崎 友也 <令和4年4月>		法学修士 ※		日本国憲法概説	1③	2	1	金沢大学 人間社会研究域 法学系 教授 (平21.4)	
182	兼任	教授	ヨシカキ ヒロキ 吉川 弘明 <令和4年4月>		医学博士		健康論実践D 心と体の健康A 心と体の健康B	1④ 1③ 1④	1 1 1	1 1 1	金沢大学 保健管理センター 教授 (平7.4)	
183	兼任	教授	ヨネダ タカシ 米田 隆 <令和4年4月>		博士 (医学)		健康科学 イノベーションを起こして、起業家になろう2 イノベーションを起こして、起業家になろう4	1①・②・③・④ 1② 1④	15 1 1	15 1 1	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平29.10)	
214	兼任	准教授	アオキ タクト 青木 賢人 <令和4年4月>		博士 (理学)		防災学入門	1集中	2	1	金沢大学 人間社会研究域 人間科学系 准教授 (平14.5)	

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請 する 職務 従事 する 平均 日数
215	兼任	准教授	アベ ヨウイチロウ 安部 聡一郎 <令和4年4月>		博士 (文学)		東洋史学概論Ⅰ 東洋史学概論Ⅱ	3③ 3④	1 1	1 1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平31.4)	
216	兼任	准教授	イノ アキラ 井出 明 <令和4年4月>		博士 (情報学)		グローバル社会と地域の課題	1①・②・③・④	11	11	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平30.4)	
217	兼任	准教授	イマ トモヒコ 井町 智彦 <令和4年4月>		博士 (工学)		コンピュータグラフィクス演習Ⅰ コンピュータグラフィクス演習Ⅱ プログラミング演習Ⅰ プログラミング演習Ⅱ	1③ 1④ 1③ 1④	1 1 1 1	1 1 1 1	金沢大学 学術メディア 創成センター 准教授 (平15.10)	
218	兼任	准教授	ウエダ ヒサオ 上田 長生 <令和4年4月>		博士 (文学)		日本史・日本文化	1②・③・④	3	3	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 准教授 (平成25.7)	
219	兼任	准教授	オホ モトキ 大江 元貴 <令和4年4月>		博士 (言語学)		日本語学講読Ⅲ 日本語学講読Ⅳ	3① 3②	1 1	1 1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 准教授 (平28.3)	
220	兼任	准教授	オホ ヨシコ 小田 佳子 <令和4年4月>		博士 (体育学)		エクササイズ&スポーツ 実技	1①・②・③・④	8	14	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平31.4)	
221	兼任	准教授	オホ カヲヒロ 小高 敬寛 <令和4年4月>		博士 (文学)		現代世界への歴史学的アプローチ	1①・②・③・④	18	18	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (令1.11)	
222	兼任	准教授	オホキリ タカシ 小田桐 拓志 <令和4年4月>		Ph. D. (米国)		ケーススタディによる応用倫理学	1①・②・③・④	12	12	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平30.5)	
223	兼任	准教授	カト アツキ 加藤 篤行 <令和4年4月>		Doctor of Philosophy (英国)		国際経済の理論とデータ 国際貿易の理論とデータ	2① 2①	1 1	1 1	金沢大学 人間社会研究域 経済学経営学系 准教授 (平28.4)	
224	兼任	准教授	カワイ コウイチ 河合 晃一 <令和4年4月>		博士 (公共経営)		石川県の行政	1③～④	2	1	金沢大学 人間社会研究域 法学系 准教授 (平28.4)	
225	兼任	准教授	キタニ マリコ 菊谷 まり子 <令和4年4月>		Ph. D. (Psychology) (英国)		パーソナリティ心理学	1①・②・③・④	12	12	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平31.4)	
226	兼任	准教授	キムラ カヒロ 木村 岳裕 <令和4年4月>		博士 (医学)		エクササイズ&スポーツ 実技	1①・②・③・④	8	14	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平30.4)	
227	兼任	准教授	キタ タカシ 木矢 剛智 <令和4年4月>		博士 (理学)		生物学実験	1①～②	2	1	金沢大学 理工研究域 生命理工学系 准教授 (平27.4)	
228	兼任	准教授	コウチ イホ 河内 幾帆 <令和4年4月>		Ph. D. (米国)		環境学とESD	1①・②・③・④	17	17	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平30.6)	
229	兼任	准教授	コジマ ヲウイチ 小島 莊一 <令和4年4月>		博士 (学術)		上級読解ⅡA 上級読解ⅡB アカデミック・ライティングA アカデミック・ライティングB	1③ 1④ 1①・③ 1②・④	1 1 2 2	1 1 2 2	金沢大学 国際機構 特任准教授 (平27.4)	
230	兼任	准教授	サトリ トモコ 佐藤 朋子 <令和4年4月>		DOCTORAT (psychoses et etats limites) (仏国)		フランス語A1-1 フランス語A1-2 フランス語A2-1 フランス語A2-2 フランス語A3-1 フランス語A3-2 フランス語A4-1 フランス語A4-2 フランス語A(充実クラスⅡ-1) フランス語A(充実クラスⅡ-2)	1① 1② 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④ 1③ 1④	2 2 3 3 2 2 4 4 1 1	2 2 3 2 2 2 4 4 1 1	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 准教授 (平30.4)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申 請 に 大 の に す 当 平 数 に 大 の に す 当 平 数 に 大 の に す 当 平 数
231	兼任	准教授	スガワ ヒロミ 菅原 裕文 <令和4年4月>		博士 (文学)		比較美術史Ⅰ (美術理論含む) 比較美術史Ⅱ (美術理論含む) 美術史研究Ⅰ 美術史研究Ⅱ 美術史研究Ⅲ 美術史研究Ⅳ	3① 3② 4① 4② 4③ 4④	1 1 1 1 1 1	2 2 1 1 1 1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 准教授 (平27.4)	
232	兼任	准教授	タカ ヨシヒロ 高田 良宏 <令和4年4月>		博士 (工学)		AⅠ入門 情報の科学	1①・②・③・④ 1①・②・③・④	4 18	4 18	金沢大学 学術メディア 創成センター 准教授 (昭和59.3)	
233	兼任	准教授	チヨウ セイ 趙 青 <令和4年4月>		博士 (文学)		中国語AⅠ-1 中国語AⅠ-2 中国語AⅡ-1 中国語AⅡ-2 中国語AⅢ-1 中国語AⅢ-2 中国語AⅣ-1 中国語AⅣ-2 中国語B-1 中国語B-2 中国語C-1 中国語C-2 中国語A (充実クラスⅡ-1) 中国語A (充実クラスⅡ-2)	1① 1② 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④ 2①・③ 2②・④ 2③ 2④ 1③ 1④	2 2 2 2 2 2 2 2 3 2 1 1 1 1	2 2 2 2 2 2 2 2 3 2 1 1 1 1	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 准教授 (平14.4)	
234	兼任	准教授	ニシガ ムコイ 西嶋 倫一 <令和4年4月>		工学修士		TOEIC準備Ⅰ TOEIC準備Ⅱ TOEIC準備Ⅲ TOEIC準備Ⅳ 英語セミナー	1① 1② 1③ 1④ 1①・②・③・④	4 4 4 4 4	4 4 4 4 4	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 准教授 (平10.2)	
235	兼任	准教授	ハカリ フミト 早川 文人 <令和4年4月>		博士 (文学)		ドイツ語AⅠ-1 ドイツ語AⅠ-2 ドイツ語AⅢ-1 ドイツ語AⅢ-2 ドイツ語A (充実クラスⅠ-1) ドイツ語A (充実クラスⅠ-2)	1①・③ 1②・④ 1①・③ 1②・④ 1③ 1④	3 3 3 3 1 1	3 3 3 3 1 1	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 准教授 (平25.10)	
236	兼任	准教授	ヒラマツ (リマツ) ジュンナ 平松 (乗松) 潤 奈 <令和4年4月>		博士 (文学)		ロシア語AⅠ-1 ロシア語AⅠ-2 ロシア語AⅡ-1 ロシア語AⅡ-2 ロシア語AⅢ-1 ロシア語AⅢ-2 ロシア語AⅣ-1 ロシア語AⅣ-2 ロシア語B-1 ロシア語B-2 ロシア語C-1 ロシア語C-2	1① 1② 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④ 2①・③ 2②・④ 2①・③ 2②・④	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 准教授 (平24.4)	
237	兼任	准教授	フカガリ ミホ 深川 美帆 <令和4年4月>		博士 (文学)		上級読解ⅠA 上級読解ⅠB 日本の伝統芸能	1① 1② 1②	1 1 1	1 1 1	金沢大学 国際機構 准教授 (平25.4)	
238	兼任	准教授	フクモト トモキ 福本 知行 <令和4年4月>		法学 (修士)		ルールリテラシー	1③	1	1	金沢大学 人間社会研究域 法学系 准教授 (平15.4)	
239	兼任	准教授	ムラカミ ヒロシ 村上 裕 <令和4年4月>		修士 (地域政策)		現代社会における保険の制度と役割Ⅰ 現代社会における保険の制度と役割Ⅱ	1③ 1④	1 1	1 1	金沢大学 人間社会研究域 法学系 准教授 (平16.4)	
240	兼任	准教授	ムラヤマ タカキ 村山 孝之 <令和4年4月>		博士 (学術)		スポーツ科学	1①・②・③・④	4	4	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平20.9)	
241	兼任	准教授	ヤマシタ ハルカズ 山下 治和 <令和4年4月>		法学修士		行政学の基礎	1①	2	1	金沢大学 医薬保健研究域 保健学系 准教授 (平2.5)	
242	兼任	准教授	ヤマモト ヒロシ 山本 洋 <令和4年4月>		博士 (学術)		香りと日本文化	1③	1	1	金沢大学 国際機構 准教授 (平22.4)	
243	兼任	准教授	ヨシナガ マサヒ 吉永 匡史 <令和4年4月>		博士 (文学)		日本史・日本文化	1②・③・④	3	3	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 准教授 (平成26.10)	
244	兼任	准教授	ワタナベ アツコ 渡辺 敦子 <令和4年4月>		Doctor of Philosophy (英国)		グローバル時代の国際協力	1①・②・③・④	20	20	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (令3.4)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申 請 に 大 の に す 当 平 敷 る 等 務 事 週 り 日 均
251	兼任	講師	イガ レコ 飯田 玲子 <令和4年4月>		博士 (地域研究)		現代社会と人権	1①・②・③・④	20	20	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 講師 (令3.4)	
252	兼任	講師	カコエ ケイ 川越 謙一 <令和4年4月>		博士 (数理学)		論理学と数学の基礎	1①・②・③・④	6	6	金沢大学 理工研究域 数物科学系 講師 (平9.6)	
253	兼任	講師	ササキ ハツキ 佐々木 葉月 <令和4年4月>		博士 (国際公共政策)		グローバル時代の政治経済学	1①・②・③・④	20	20	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 講師 (令2.3)	
254	兼任	講師	マズミ ユウカ 眞住 優助 <令和4年4月>		Ph. D. (米国)		グローバル時代の社会学	1①・②・③・④	15	15	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 講師 (平29.10)	
255	兼任	講師	マウラ ショウキ 松浦 義昭 <令和4年4月>		修士 (経営科学)		統計学から未来を見る ビジネス・データ分析 (ビジネス・データ・サイエンス) 統計データ分析の基本 (多変量解析) データで考える日本の未来 (データサイエンス) 統計ソフトRによるビッグデータ解析 金融リテラシー 白書の講読と議論 地域課題解決と政策立案のための統計データ:EBPM (根拠に基づく政策立案)	1①・②・③・④ 1① 1② 1③ 1③ 1④ 1④ 1④	20 1 1 1 1 1 1	20 1 1 1 1 1 1	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 講師 (平16.4)	
256	兼任	講師	ムラカミ シンジ 村上 慎司 <令和4年4月>		博士 (学術)		地域創造学2	2②	1	1	金沢大学 人間社会研究域 経済学経営学系 講師 (平29.4)	
257	兼任	助教	カサハラ トモコ 小笠原 知子 <令和4年4月>		Master of Science (米国)		異文化体験A 異文化体験B 異文化体験C 異文化体験D 異文化体験E 異文化体験F 異文化体験G 異文化体験H	1②・④ 1②・④ 1②・④ 1②・④ 1②・④ 1②・④ 1②・④ 1②・④	2 4 6 8 10 12 14 16	2 2 2 2 2 2 2 2	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 助教 (令2.11)	
258	兼任	助教	キシタ タケ 木下 健 <令和4年4月>		博士 (医学)		細胞・分子生物学	1①・②・③・④	10	10	金沢大学 がん進展制御研究所 助教 (平10.10)	
259	兼任	助教	クラチンスカ ヤナ KLACANSKA JANA <令和4年4月>		Master of Arts (独国)		ドイツ語A2-1 ドイツ語A2-2 ドイツ語A4-1 ドイツ語A4-2 ドイツ語B-1 ドイツ語B-2 ドイツ語C-1 ドイツ語C-2 ドイツ語A (充実クラスII-1) ドイツ語A (充実クラスII-2)	1①・③ 1②・④ 1①・③ 1②・④ 2① 2② 2①・③ 2②・④ 1③ 1④	4 4 4 4 2 2 3 3 1 1	4 4 4 4 2 2 3 3 1 1	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 助教 (令1.10)	
260	兼任	助教	サトリ トモヤ 佐藤 智哉 <令和4年4月>		Ph. D. (米国)		地域「超」体験プログラム	1①・②・④	4	4	金沢大学 先端科学・社会共創 推進機構 特任助教 (平31.4)	
261	兼任	助教	チハラ カナリ 茅原 崇徳 <令和4年4月>		博士 (工学)		デザイン思考入門	1①・②・③・④	4	4	金沢大学 理工研究域 フロンティア工学系 助教 (平29.4)	
262	兼任	助教	ヒガシ アキラ 東 昭孝 <令和4年4月>		博士 (工学)		Pythonデータ分析入門	1②	1	1	金沢大学 学術メディア 創成センター 助教 (平27.5)	
263	兼任	助教	フライツプス ジェレミー PHILLIPPS JEREMY DAVID <令和4年4月>		博士 (文学)		日本史・日本文化	1②・③・④	4	4	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 特任助教 (平28.1)	
264	兼任	助教	ミツシ リョウジ 三橋 了爾 <令和4年4月>		博士 (理学)		インテグレートド科学	1①・②・③・④	8	8	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 助教 (平31.4)	
265	兼任	助教	モリ ヨシヒロ 森 祥寛 <令和4年4月>		博士 (理学)		クラウド時代の「ものグラミング」概論 シェルスクリプト言語論 シェルスクリプトを用いた「ものグラミング」演習 プレゼンテーション演習A プレゼンテーション演習B 動画配信サービスを用いた情報発信演習A 動画配信サービスを用いた情報発信演習B Society 5.0概論	1③~④ 1③~④ 1① 1③ 1④ 1① 1② 1③~④	2 2 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 学術メディア 創成センター 助教 (平19.4)	

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申 係 学 職 従 る た 均	に 大 の に す 当 平 数
266	兼任	助教	ユイ 伊一喜 <令和4年4月>		博士 (社会福祉学)		生活と社会保障	1①・②・③・④	12	12	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 助教 (平29.10)		
269	兼任	講師	オグラタクロウ 小倉 拓郎 <令和4年4月>		修士(学術)		自然地理学Ⅰ 自然地理学Ⅱ	3① 3②	1 1	1 1	北海道大学大学院 地球環境科学研究 院 博士研究員 (令3.4.)		
270	兼任	講師	カジタ カズヒロ 梶田 和宏 <令和4年4月>		博士(ス ポーツ学)		球技(ベースボール型)Ⅰ 球技(ベースボール型)Ⅱ	3① 3②	0.5 0.5	1 1	京都先端科学大 学 教育開発センター 講師(嘱託) (令3.4)		
277	兼任	講師	ヤマワキ(クテウウ) アユミ 山脇(九町) あゆみ <令和4年4月>		学術博士		水泳Ⅰ 水泳Ⅱ	3① 3②	0.5 0.5	1 1	金沢学院大 学 人間健康学 部 講師 (平23.4)		
278	兼任	講師	アノ サチ 天野 佐知子 <令和4年4月>		修士 (教育学)		保育内容(環境)(環境に関する現代的課題を含む)	2③	1	1	金沢星稜大 学 人間科学 部 助教 (平29.4)		
279	兼任	講師	イカリ シゲキ 池川 茂樹 <令和4年4月>		博士 (医学)		武道AI(剣道)	2③	0.5	2	上越教育大 学 大学院学 校教育 研究 科 准教授 (平29.4)		
280	兼任	講師	オヤ ソニア 雄谷 ソニア 啓子 <令和4年4月>		マドリード 工芸大 学 学 院 建 築 学 専 攻 修 了		スペイン語A1-1 スペイン語A1-2 スペイン語A2-1 スペイン語A2-2 スペイン語A3-1 スペイン語A3-2 スペイン語A4-1 スペイン語A4-2 スペイン語B-1 スペイン語B-2 スペイン語C-1 スペイン語C-2	1① 1② 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④ 2① 2② 2③ 2④	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	北國新聞文化セ ン ター 講 師 (ス ペ イ ン 語) (平17.10)		
281	兼任	講師	オモリ シノブ 大森 重宜 <令和4年4月>		スポーツ科 学博士		陸上Ⅰ 陸上Ⅱ	2① 2②	0.5 0.5	1 1	金沢星稜大 学 人間科学 部 教 授 (平20.4)		
282	兼任	講師	カサ ユイ 粕谷 雄一 <令和4年4月>		文学修士		異文化理解1 異文化理解2 文学概論1 文学概論2	1③ 1④ 1③ 1④	1 1 1 1	1 1 1 1	元 星が 大 学 人 間 社 会 研 究 域 歴 史 言 語 文 化 学 系 教 授 (令4.2まで)		
283	兼任	講師	カキ カズオ 加藤 和夫 <令和4年4月>		文学修士		日本語学演習Ⅰ 日本語学演習Ⅱ	3③ 3④	1 1	1 1	金沢大 学 名 譽 教 授 (令2.4) 元 金沢大 学 人 間 社 会 研 究 域 歴 史 言 語 文 化 学 系 教 授 (令2.3まで)		
284	兼任	講師	キタ ヨコ 木村 陽子 <令和4年4月>		高校卒		日本の伝統的歌唱法 和楽器奏法	3①② 3①②	1 1	1 1	石川県邦楽舞踊協 会 常 務 理 事 (平26.4)		
285	兼任	講師	コバヤリ ユウゴ 小早川裕悟 <令和4年4月>		博士 (経済学)		経済学概論	3①	1	1	国立 岐 阜 工 業 高 等 専 門 学 校 講 師 (平31.10)		
286	兼任	講師	サライ マサル 櫻井 勝 <令和4年4月>		博士 (医学)		衛生学及び公衆衛生学Ⅰ 衛生学及び公衆衛生学Ⅱ	3① 3②	1 1	1 1	金沢医科大 学 衛 生 学 准 教 授 (平28.4)		
287	兼任	講師	シハラ ヒデア 篠原 秀夫 <令和4年4月>		文学修士		初等音楽科教育法Ⅰ 初等音楽科教育法Ⅱ 石川県の教育実践Ⅱ※ 音楽科教育法Ⅰ(石川県の教育実践を含む) 音楽科教育法Ⅱ(石川県の教育実践を含む) 音楽科教育法Ⅴ 音楽科教育法Ⅵ 音楽科教育法Ⅶ 音楽科教育法Ⅷ	2③ 2④ 2④ 2① 2② 3① 3② 3③ 3④	1 1 0.2 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大 学 名 譽 教 授 (令3.4) 元 金沢大 学 人 間 社 会 研 究 域 学 校 教 育 系 教 授 (令3.3まで)		
288	兼任	講師	タカキ カコ 高木 香代子 <令和4年4月>		教育学修士		ダンスⅠ ダンスⅡ	3① 3②	0.5 0.5	1 1	金沢学院短期大 学 幼 児 教 育 学 科 准 教 授 (平25.4)		
289	兼任	講師	タカノ 源吾 田中 源吾 <令和4年4月>		博士 (理学)		地球生物圏と人間	1①・②・③・④	16	16	元 金沢大 学 国 際 基 幹 教 育 院 GS 教 育 系 助 教 (令3.3まで)		
290	兼任	講師	テカキ カズコ 寺川 和子 <令和4年4月>		学士		工芸論Ⅰ 工芸論Ⅱ	2① 2②	1 1	2 2	石川県立美術館 学 芸 員 (平5.4)		

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 (就任年月)	に大のにす当平数 申請る等務事週り日 係学職従るた均
291	兼任	講師	ナブ マサエ 南部 匡恵 <令和4年4月>		音楽学士		アンサンブルⅣ (木管)	2④	1	1	永平寺町立上志比中学校 講師 (平23.4)	
292	兼任	講師	ヒロシ タケウ 廣瀬 大悟 <令和4年4月>		学士 (音楽)		アンサンブルⅤ (金管)	3②	1	1	小松市立高等学校 非常勤講師 (平27.4)	
293	兼任	講師	ホミ ヒロシ 細見 博志 <令和4年4月>		文学修士		ラテン語A1-1 ラテン語A1-2 ラテン語A2-1 ラテン語A2-2 ラテン語A3-1 ラテン語A3-2 ラテン語A4-1 ラテン語A4-2 ラテン語B-1 ラテン語B-2 ラテン語C-1 ラテン語C-2	1① 1② 1③ 1④ 2① 2② 2③ 2④ 3① 3② 3③ 3④	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	元 金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系特任 教授 (平30.3まで)	
294	兼任	講師	マシマ ミホ 前島 美保 <令和4年4月>		博士 (音楽学)		音楽史Ⅲ (日本及び世界の音楽) 音楽史Ⅳ (日本及び世界の音楽)	3③ 3④	1 1	1 1	東京藝術大学 音楽学部 非常勤講師 (平26.4)	
295	兼任	講師	モリ トシヤ 森 俊也 <令和4年4月>		博士 (工学)		家庭電気・機械・情報 データサイエンスの技術	3② 1③	1 1	1 1	金沢星稜大学 情報基盤センター 嘱託 (平17.4)	
296	兼任	講師	ワカバ オオタ 渡辺 直男 <令和4年4月>		体育学修士		武道ⅡⅡ (柔道)	2④	0.5	2	金沢学院大学 人間健康学部 教授 (平18.4)	

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	9人	2人	3人	人	14人	
	修 士	人	人	人	5人	4人	2人	人	11人	
	学 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	10人	4人	1人	人	人	15人	
	修 士	人	人	2人	4人	1人	人	人	7人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	1人	人	人	人	人	人	1人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	1人	10人	13人	3人	3人	人	30人	
	修 士	人	人	2人	9人	5人	2人	人	18人	
	学 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	

(注)

- この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
- 専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。